

2024年度 文学部 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

〔発行日：2024/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【A2000】 卒業論文 (哲学科) [西塚 俊太] 年間授業/Yearly	1
【A2000】 卒業論文 (地理学科) [地理学科教員] 年間授業/Yearly	2
【A2000】 卒業論文 (史学科) [史学科教員] 年間授業/Yearly	3
【A2000】 卒業論文 (日本文学科) [日本文学科教員] 年間授業/Yearly	4
【A2000】 卒業論文 (英文学科) [英文学科教員] 年間授業/Yearly	5
【A2000】 卒業論文 (心理学科) [渡辺 弥生] 年間授業/Yearly	6
【A2206】 基礎演習 1 [佐藤 真人] 春学期授業/Spring	8
【A2207】 基礎演習 1 [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	10
【A2209】 基礎演習 2 [西塚 俊太] 秋学期授業/Fall	11
【A2210】 基礎演習 2 [佐藤 真人] 秋学期授業/Fall	12
【A2212】 哲学特講 (1) - 1 [奥田 和夫] 春学期授業/Spring	14
【A2213】 哲学特講 (1) - 2 [山下 真] 秋学期授業/Fall	15
【A2216】 哲学特講 (3) - 1 [佐藤 真人] 春学期授業/Spring	16
【A2217】 哲学特講 (3) - 2 [古屋 俊彦] 秋学期授業/Fall	17
【A2218】 哲学特講 (4) - 1 [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	18
【A2219】 哲学特講 (4) - 2 [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	19
【A2220】 哲学特講 (5) - 1 [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	20
【A2221】 哲学特講 (5) - 2 [相原 博] 秋学期授業/Fall	21
【A2222】 哲学特講 (6) - 1 [大橋 基] 春学期授業/Spring	22
【A2223】 哲学特講 (6) - 2 [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	23
【A2224】 哲学特講 (7) - 1 [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	24
【A2225】 哲学特講 (7) - 2 [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	25
【A2226】 哲学特講 (8) - 1 [木島 泰三] 春学期授業/Spring	27
【A2227】 哲学特講 (8) - 2 [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	28
【A2230】 哲学演習 (1) [佐藤 真人] 年間授業/Yearly	29
【A2231】 哲学演習 (2) [奥田 和夫] 年間授業/Yearly	31
【A2232】 哲学演習 (3) [菅沢 龍文] 年間授業/Yearly	32
【A2233】 哲学演習 (4) [酒井 健] 年間授業/Yearly	33
【A2234】 哲学演習 (5) [吉田 敬介] 年間授業/Yearly	35
【A2235】 哲学演習 (6) [君嶋 泰明] 年間授業/Yearly	36
【A2236】 哲学演習 (7) [西塚 俊太] 年間授業/Yearly	37
【A2237】 哲学演習 (8) [安東 祐希] 年間授業/Yearly	39
【A2238】 哲学演習 (9) [中釜 浩一] 年間授業/Yearly	40
【A2239】 哲学演習 (10) [内山 真莉子] 年間授業/Yearly	41
【A2240】 哲学演習 (11) [内藤 淳] 年間授業/Yearly	42
【A2241】 科学哲学 1 [中釜 浩一] 春学期授業/Spring	43
【A2242】 科学哲学 2 [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	44
【A2245】 現代思想 2 (フランスの思想) 1 [大池 惣太郎] 春学期授業/Spring	45
【A2246】 現代思想 2 (フランスの思想) 2 [大池 惣太郎] 秋学期授業/Fall	46
【A2247】 美学・芸術学 1 [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	47
【A2248】 美学・芸術学 2 [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	48
【A2249】 東洋哲学史 1 [計良 隆世] 春学期授業/Spring	49
【A2250】 東洋哲学史 2 [山本 伸裕] 秋学期授業/Fall	50
【A2251】 宗教学 1 (伝統宗教) 1 [松本 力] 春学期授業/Spring	52

【A2252】宗教学1(伝統宗教)2 [松本 力] 秋学期授業/Fall.....	53
【A2254】心理学1(心理学概論)1 [福田 由紀] 春学期授業/Spring.....	54
【A2255】心理学1(心理学史)2 [矢口 幸康] 秋学期授業/Fall.....	55
【A2256】心理学2(社会心理学)1 [入山 茂] 春学期授業/Spring.....	56
【A2258】心理学3(臨床心理学)1 [杉山 崇] 秋学期授業/Fall.....	57
【A2259】心理学3(犯罪心理学)2 [桐生 正幸] 秋学期授業/Fall.....	58
【A2260】日本思想史1 [西塚 俊太] 春学期授業/Spring.....	59
【A2261】日本思想史2 [西塚 俊太] 秋学期授業/Fall.....	60
【A2262】文化史1 [伊藤 直樹] 春学期授業/Spring.....	61
【A2263】文化史2 [伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall.....	62
【A2264】社会思想1(社会学概論)1 [岩野 卓司] 春学期授業/Spring.....	63
【A2265】社会思想1(社会学概論)2 [岩野 卓司] 秋学期授業/Fall.....	64
【A2266】社会思想2(社会思想史)1 [政井 啓子] 春学期授業/Spring.....	65
【A2267】社会思想2(社会思想史)2 [鈴木 由加里] 秋学期授業/Fall.....	66
【A2268】ラテン語1 [金子 佳司] 春学期授業/Spring.....	67
【A2269】ラテン語2 [金子 佳司] 秋学期授業/Fall.....	68
【A2270】ギリシア語1 [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring.....	69
【A2271】ギリシア語2 [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall.....	70
【A2274】歴史思想(史学概論) [齋藤 勝] 春学期授業/Spring.....	71
【A2301】国際哲学特講 [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall.....	72
【A2303】心理学2(集団社会心理学)2 [入山 茂] 秋学期授業/Fall.....	73
【A2304】哲学概論1 [中釜 浩一] 春学期授業/Spring.....	74
【A2305】哲学概論2 [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall.....	75
【A2306】論理学概論1 [安東 祐希] 春学期授業/Spring.....	76
【A2307】論理学概論2 [安東 祐希] 秋学期授業/Fall.....	77
【A2308】倫理学概論1 [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring.....	78
【A2309】倫理学概論2 [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall.....	79
【A2310】西洋哲学史Ⅰ-1 [奥田 和夫] 春学期授業/Spring.....	80
【A2311】西洋哲学史Ⅰ-2 [奥田 和夫] 秋学期授業/Fall.....	81
【A2312】西洋哲学史Ⅱ-1 [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring.....	82
【A2313】西洋哲学史Ⅱ-2 [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall.....	83
【A2314】現代思想1(ドイツの思想A)1 [吉田 敬介] 春学期授業/Spring.....	84
【A2315】現代思想1(ドイツの思想B)2 [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall.....	85
【A2316】宗教学2(キリスト教思想史)A [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring.....	86
【A2317】宗教学2(キリスト教思想史)B [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall.....	87
【A2318】宗教学3(仏教思想論)A [計良 隆世] 春学期授業/Spring.....	88
【A2319】宗教学3(仏教思想論)B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall.....	89
【A2320】フランス語(第三外国語としてのフランス語A)1 [廣松 勲] 春学期授業/Spring.....	91
【A2321】フランス語(第三外国語としてのフランス語B)2 [廣松 勲] 秋学期授業/Fall.....	92
【A2322】人間学1(環境倫理学)A [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall.....	93
【A2323】人間学1(環境倫理学)B [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall.....	94
【A2326】言語と論理1(言語学講義ⅠA) [石川 潔] 春学期授業/Spring.....	95
【A2327】言語と論理1(言語学講義ⅠB) [石川 潔] 秋学期授業/Fall.....	96
【A2330】言語と論理3(集合論)A [安東 祐希] 春学期授業/Spring.....	97
【A2331】言語と論理3(集合論)B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall.....	98
【A2332】基礎ゼミⅠ(文・哲) [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring.....	99
【A2333】基礎ゼミⅡ(文・哲) [内山 真莉子] 秋学期授業/Fall.....	100
【A2334】基礎ゼミⅠ(文・哲) [奥田 和夫] 春学期授業/Spring.....	101
【A2335】基礎ゼミⅡ(文・哲) [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall.....	102
【A2336】ドイツ語(第三外国語としてのドイツ語A)1 [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring.....	104
【A2337】ドイツ語(第三外国語としてのドイツ語B)2 [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall.....	105
【A2338】哲学フランス語文献講読1 [酒井 健] 春学期授業/Spring.....	106
【A2339】哲学フランス語文献講読2 [酒井 健] 秋学期授業/Fall.....	107
【A2340】人間学2(徳と倫理)A [内山 真莉子] 春学期授業/Spring.....	108
【A2341】人間学2(徳と倫理)B [内山 真莉子] 秋学期授業/Fall.....	109
【A2401】日本文芸学概論A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring.....	110
【A2402】日本文芸学概論A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring.....	111

[A2403]	日本文芸学概論B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	112
[A2404]	日本文芸学概論B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	113
[A2405]	日本文芸史 I A [坂本 勝] 春学期授業/Spring	114
[A2406]	日本文芸史 I A [加藤 昌嘉] 春学期授業/Spring	115
[A2407]	日本文芸史 I B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	116
[A2408]	日本文芸史 I B [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	117
[A2409]	日本語学概論A [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	118
[A2410]	日本語学概論A [古牧 久典] 春学期授業/Spring	119
[A2411]	日本語学概論B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	120
[A2412]	日本語学概論B [古牧 久典] 秋学期授業/Fall	121
[A2413]	大学での国語力 [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	122
[A2414]	大学での国語力 [佐藤 未央子] 春学期授業/Spring	123
[A2415]	大学での国語力 [坂本 勝] 春学期授業/Spring	124
[A2416]	大学での国語力 [中丸 宣明] 春学期授業/Spring	125
[A2417]	大学での国語力 [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	126
[A2418]	大学での国語力 [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	127
[A2419]	大学での国語力 [田中 和生] 春学期授業/Spring	128
[A2420]	大学での国語力 [加藤 昌嘉] 春学期授業/Spring	129
[A2421]	大学での国語力 [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	130
[A2422]	大学での国語力 [佐藤 未央子] 春学期授業/Spring	131
[A2423]	大学での国語力 [中丸 宣明] 春学期授業/Spring	132
[A2425]	文学概論A [中丸 宣明] 春学期授業/Spring	133
[A2426]	文学概論A [山田 稔] 春学期授業/Spring	134
[A2427]	文学概論B [中丸 宣明] 秋学期授業/Fall	135
[A2428]	文学概論B [山田 稔] 秋学期授業/Fall	136
[A2429]	日本文芸史 II A [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	137
[A2431]	日本文芸史 II B [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	138
[A2433]	日本語史A [松浦 光] 春学期授業/Spring	139
[A2434]	日本語史A [松永 明] 春学期授業/Spring	140
[A2435]	日本語史B [松浦 光] 秋学期授業/Fall	141
[A2436]	日本語史B [松永 明] 秋学期授業/Fall	142
[A2437]	日本文法論A [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	143
[A2439]	日本文法論B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	144
[A2441]	日本文章史A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	145
[A2442]	日本文章史A [藤谷 治] 春学期授業/Spring	146
[A2443]	日本文章史B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	147
[A2444]	日本文章史B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall	148
[A2445]	文章表現論A [田中 和生] 春学期授業/Spring	149
[A2447]	文章表現論B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	150
[A2553]	日本文芸批評史A [伊東 祐吏] 春学期授業/Spring	151
[A2555]	日本文芸批評史B [伊東 祐吏] 秋学期授業/Fall	152
[A2557]	日本語学特殊研究A [田嶋 圭一] 春学期授業/Spring	153
[A2559]	日本語学特殊研究B [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall	154
[A2561]	中国文芸史A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	155
[A2563]	中国文芸史B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	156
[A2566]	書誌学 [山口 恭子] 春学期授業/Spring	157
[A2568]	メディアと社会 [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	158
[A2569]	音楽芸能史特殊研究A [野川 美穂子] 春学期授業/Spring	159
[A2571]	音楽芸能史特殊研究B [野川 美穂子] 秋学期授業/Fall	160
[A2574]	編集実務A [谷村 順一] 春学期授業/Spring	161
[A2576]	編集実務B [谷村 順一] 秋学期授業/Fall	162
[A2577]	美術史 (西洋) A [安藤 智子] 春学期授業/Spring	163
[A2578]	美術史 (西洋) B [安藤 智子] 秋学期授業/Fall	164
[A2581]	文化史 1 [安原 眞琴] 春学期授業/Spring	165
[A2582]	文化史 2 [山口 恭子] 秋学期授業/Fall	166
[A2584]	表現と著作権A [平井 彰司] 春学期授業/Spring	167
[A2586]	表現と著作権B [平井 彰司] 秋学期授業/Fall	168

【A2604】	古文・漢文の基礎 [栗山 元子] 秋学期授業/Fall	169
【A2605】	ゼミナール入門 [坂本 勝] 秋学期授業/Fall	170
【A2606】	ゼミナール入門 [中丸 宣明] 秋学期授業/Fall	171
【A2607】	ゼミナール入門 [佐藤 未央子] 秋学期授業/Fall	172
【A2608】	ゼミナール入門 [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	173
【A2609】	ゼミナール入門 [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	174
【A2610】	ゼミナール入門 [田中 和生] 秋学期授業/Fall	175
【A2611】	ゼミナール入門 [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	176
【A2612】	ゼミナール入門 [佐藤 未央子] 秋学期授業/Fall	177
【A2613】	ゼミナール入門 [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	178
【A2614】	ゼミナール入門 [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	179
【A2615】	ゼミナール1 A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	180
【A2616】	ゼミナール1 B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	181
【A2617】	ゼミナール2 A [坂本 勝] 春学期授業/Spring	182
【A2618】	ゼミナール2 B [坂本 勝] 秋学期授業/Fall	183
【A2619】	ゼミナール3 A [加藤 昌嘉] 春学期授業/Spring	184
【A2620】	ゼミナール3 B [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	185
【A2621】	ゼミナール4 A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	186
【A2622】	ゼミナール4 B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	187
【A2623】	ゼミナール5 A [小秋元 段] 春学期授業/Spring	188
【A2624】	ゼミナール5 B [小秋元 段] 秋学期授業/Fall	189
【A2625】	ゼミナール6 A [神林 尚子] 春学期授業/Spring	190
【A2626】	ゼミナール6 B [神林 尚子] 秋学期授業/Fall	191
【A2627】	ゼミナール7 A [スティーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	192
【A2628】	ゼミナール7 B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	193
【A2629】	ゼミナール8 A [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	194
【A2630】	ゼミナール8 B [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	195
【A2631】	ゼミナール9 A [中丸 宣明] 春学期授業/Spring	196
【A2632】	ゼミナール9 B [中丸 宣明] 秋学期授業/Fall	197
【A2635】	ゼミナール1 1 A [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	198
【A2636】	ゼミナール1 1 B [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	199
【A2637】	ゼミナール1 2 A [渋谷 百合絵] 春学期授業/Spring	200
【A2638】	ゼミナール1 2 B [渋谷 百合絵] 秋学期授業/Fall	201
【A2639】	ゼミナール1 3 A [久保田 篤] 春学期授業/Spring	202
【A2640】	ゼミナール1 3 B [久保田 篤] 秋学期授業/Fall	203
【A2641】	ゼミナール1 4 A [竹林 一志] 春学期授業/Spring	204
【A2642】	ゼミナール1 4 B [竹林 一志] 秋学期授業/Fall	205
【A2643】	ゼミナール1 5 A [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	206
【A2644】	ゼミナール1 5 B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	207
【A2645】	ゼミナール1 6 A [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	208
【A2646】	ゼミナール1 6 B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	209
【A2647】	ゼミナール1 7 A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	210
【A2648】	ゼミナール1 7 B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	211
【A2649】	ゼミナール1 8 A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	212
【A2650】	ゼミナール1 8 B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	213
【A2651】	ゼミナール1 9 A [田中 和生] 春学期授業/Spring	214
【A2652】	ゼミナール1 9 B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	215
【A2653】	ゼミナール2 0 A [田中 和生] 春学期授業/Spring	216
【A2654】	ゼミナール2 0 B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	217
【A2655】	ゼミナール2 1 A [山口 和人] 春学期授業/Spring	218
【A2656】	ゼミナール2 1 B [山口 和人] 秋学期授業/Fall	219
【A2657】	日本文芸研究特講 (1) 上代A [坂本 勝] 春学期授業/Spring	220
【A2658】	日本文芸研究特講 (1) 上代B [坂本 勝] 秋学期授業/Fall	221
【A2661】	日本文芸研究特講 (2) 中古A [栗山 元子] 春学期授業/Spring	222
【A2662】	日本文芸研究特講 (2) 中古B [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	223
【A2663】	日本文芸研究特講 (2) 中古C [萩野 了子] 春学期授業/Spring	224
【A2664】	日本文芸研究特講 (2) 中古D [萩野 了子] 秋学期授業/Fall	225

【A2665】	日本文芸研究特講 (3) 中世A [阿部 真弓]	春学期授業/Spring	226
【A2666】	日本文芸研究特講 (3) 中世B [阿部 真弓]	秋学期授業/Fall	227
【A2669】	日本文芸研究特講 (4) 近世A [齊藤 千恵]	春学期授業/Spring	228
【A2670】	日本文芸研究特講 (4) 近世B [齊藤 千恵]	秋学期授業/Fall	229
【A2673】	日本文芸研究特講 (5) 近代A [佐藤 未央子]	春学期授業/Spring	230
【A2674】	日本文芸研究特講 (5) 近代B [佐藤 未央子]	秋学期授業/Fall	231
【A2675】	日本文芸研究特講 (5) 近代C [高口 智史]	春学期授業/Spring	232
【A2676】	日本文芸研究特講 (5) 近代D [梅澤 亜由美]	秋学期授業/Fall	234
【A2677】	日本文芸研究特講 (6) 現代A [藤木 直実]	春学期授業/Spring	235
【A2678】	日本文芸研究特講 (6) 現代B [藤木 直実]	秋学期授業/Fall	236
【A2681】	日本文芸研究特講 (7) 漢文A [遠藤 星希]	春学期授業/Spring	237
【A2682】	日本文芸研究特講 (7) 漢文B [遠藤 星希]	秋学期授業/Fall	238
【A2683】	日本文芸研究特講 (7) 漢文C [吉井 涼子]	春学期授業/Spring	239
【A2684】	日本文芸研究特講 (7) 漢文D [吉井 涼子]	秋学期授業/Fall	241
【A2685】	日本文芸研究特講 (8) 言語A [塩田 雄大]	春学期授業/Spring	243
【A2686】	日本文芸研究特講 (8) 言語B [塩田 雄大]	秋学期授業/Fall	244
【A2687】	日本文芸研究特講 (9) 表現A [藤谷 治]	春学期授業/Spring	245
【A2688】	日本文芸研究特講 (9) 表現B [藤谷 治]	秋学期授業/Fall	246
【A2689】	日本文芸研究特講 (10) 演劇A [伊海 孝充]	春学期授業/Spring	247
【A2690】	日本文芸研究特講 (10) 演劇B [伊海 孝充]	秋学期授業/Fall	248
【A2693】	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史A [本塚 亘]	春学期授業/Spring	249
【A2694】	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史B [本塚 亘]	秋学期授業/Fall	250
【A2695】	日本文芸研究特講 (12) 詩歌A [四元 康祐]	春学期授業/Spring	251
【A2696】	日本文芸研究特講 (12) 詩歌B [四元 康祐]	秋学期授業/Fall	252
【A2697】	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸A [渋谷 百合絵]	春学期授業/Spring	253
【A2698】	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸B [渋谷 百合絵]	秋学期授業/Fall	254
【A2699】	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸A [福 寛美]	春学期授業/Spring	255
【A2700】	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸B [福 寛美]	秋学期授業/Fall	256
【A2701】	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸C [松永 明]	春学期授業/Spring	257
【A2702】	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸D [松永 明]	秋学期授業/Fall	258
【A2703】	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A [スティーヴン ネルソン]	春学期授業/Spring	259
【A2704】	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B [スティーヴン ネルソン]	秋学期授業/Fall	260
【A2705】	日本文芸研究特講 (16) 特域A [日原 傳]	春学期授業/Spring	261
【A2706】	日本文芸研究特講 (16) 特域B [日原 傳]	秋学期授業/Fall	262
【A2707】	日本文芸研究特講 (16) 特域C [安原 眞琴]	春学期授業/Spring	263
【A2708】	日本文芸研究特講 (16) 特域D [山口 恭子]	秋学期授業/Fall	264
【A2709】	編集理論A [福江 泰太]	春学期授業/Spring	265
【A2710】	編集理論B [福江 泰太]	秋学期授業/Fall	266
【A2713】	教養ゼミⅠ (文芸創作の実践A) [藤村 耕治]	春学期授業/Spring	267
【A2714】	教養ゼミⅡ (文芸創作の実践B) [藤村 耕治]	秋学期授業/Fall	268
【A2715】	情報リテラシー実習A [谷村 順一]	春学期授業/Spring	269
【A2716】	情報リテラシー実習B [谷村 順一]	秋学期授業/Fall	270
【A2717】	情報メディア演習A [武田 俊]	春学期授業/Spring	271
【A2718】	情報メディア演習B [武田 俊]	秋学期授業/Fall	272
【A2719】	書道A(書写を中心とする) [橋本 匡朗]	春学期授業/Spring	273
【A2720】	書道B(書写を中心とする) [橋本 匡朗]	秋学期授業/Fall	274
【A2721】	書道A(書写を中心とする) [橋本 匡朗]	春学期授業/Spring	275
【A2722】	書道B(書写を中心とする) [橋本 匡朗]	秋学期授業/Fall	276
【A2724】	国語科教育法 (1) [今藤 晃裕]	春学期授業/Spring	277
【A2725】	国語科教育法 (2) [今藤 晃裕]	秋学期授業/Fall	278
【A2727】	国語科教育法 (3) [小清水 裕子]	春学期授業/Spring	279
【A2728】	国語科教育法 (4) [小清水 裕子]	秋学期授業/Fall	280
【A2735】	ゼミナール22A [王 安]	春学期授業/Spring	281
【A2736】	ゼミナール22B [王 安]	秋学期授業/Fall	283
【A2737】	日本文芸研究特講 (8) 言語C [王 安]	春学期授業/Spring	285
【A2738】	日本文芸研究特講 (8) 言語D [王 安]	秋学期授業/Fall	287
【A2739】	くずし字入門A [中司 由起子]	春学期授業/Spring	289

【A2740】	くずし字入門B [中司 由起子] 秋学期授業/Fall	290
【A2804】	英語学概論A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	291
【A2805】	英語学概論B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	292
【A2806】	言語学概論A [石川 潔] 春学期授業/Spring	293
【A2807】	言語学概論B [石井 創] 秋学期授業/Fall	294
【A2808】	英語・言語学講義A [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	296
【A2809】	英語・言語学講義B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	297
【A2810】	社会言語学 [椎名 美智] 春学期授業/Spring	298
【A2811】	応用言語学 [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	299
【A2824】	比較文学A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	300
【A2825】	比較文学B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	301
【A2826】	英語表現演習(Writing)(1)A [畑 和樹] 春学期授業/Spring	302
【A2827】	英語表現演習(Writing)(1)B [畑 和樹] 秋学期授業/Fall	303
【A2828】	英語表現演習(Writing)(2)A [安藤 和弘] 春学期授業/Spring	304
【A2829】	英語表現演習(Writing)(2)B [安藤 和弘] 秋学期授業/Fall	305
【A2830】	英語表現演習(Writing)(3)A [JAMES O ESSEX] 春学期授業/Spring	306
【A2831】	英語表現演習(Writing)(3)B [JAMES O ESSEX] 秋学期授業/Fall	308
【A2834】	英語表現演習(Writing)(5)A [杉 亜希子] 春学期授業/Spring	309
【A2835】	英語表現演習(Writing)(5)B [杉 亜希子] 秋学期授業/Fall	311
【A2836】	英語表現演習(Writing)(6)A [高村 遼] 春学期授業/Spring	312
【A2837】	英語表現演習(Writing)(6)B [高村 遼] 秋学期授業/Fall	313
【A2838】	英語表現演習(Writing)(7)A [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	314
【A2839】	英語表現演習(Writing)(7)B [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	316
【A2840】	英語表現演習(Writing)(8)A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	318
【A2841】	英語表現演習(Writing)(8)B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	319
【A2844】	英語表現演習(翻訳) (1)A [吉川 純子] 春学期授業/Spring	320
【A2845】	英語表現演習(翻訳) (1)B [吉川 純子] 秋学期授業/Fall	321
【A2846】	英語表現演習(Speaking)(1)A [杉 亜希子] 春学期授業/Spring	322
【A2847】	英語表現演習(Speaking)(1)B [杉 亜希子] 秋学期授業/Fall	324
【A2848】	英語表現演習(Speaking)(2)A [Niall Murtagh] 春学期授業/Spring	326
【A2849】	英語表現演習(Speaking)(2)B [Niall Murtagh] 秋学期授業/Fall	327
【A2850】	英語表現演習(Speaking)(3)A [岸山 健] 春学期授業/Spring	328
【A2851】	英語表現演習(Speaking)(3)B [岸山 健] 秋学期授業/Fall	329
【A2854】	英語表現演習(Speaking)(5)A [Niall Murtagh] 春学期授業/Spring	330
【A2855】	英語表現演習(Speaking)(5)B [Niall Murtagh] 秋学期授業/Fall	331
【A2856】	英語表現演習(Speaking)(6)A [JAMES O ESSEX] 春学期授業/Spring	332
【A2857】	英語表現演習(Speaking)(6)B [JAMES O ESSEX] 秋学期授業/Fall	334
【A2858】	英語表現演習(Speaking)(7)A [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	336
【A2859】	英語表現演習(Speaking)(7)B [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	337
【A2860】	英語表現演習(Speaking)(8)A [高村 遼] 春学期授業/Spring	339
【A2861】	英語表現演習(Speaking)(8)B [高村 遼] 秋学期授業/Fall	340
【A2866】	英語表現演習(翻訳) (2)A [安藤 和弘] 春学期授業/Spring	341
【A2867】	英語表現演習(翻訳) (2)B [安藤 和弘] 秋学期授業/Fall	342
【A2889】	海外英語演習 [田中 裕希] 集中・その他/intensive・other courses	343
【A2901】	英語史A [福元 広二] 春学期授業/Spring	344
【A2902】	英語史B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	345
【A2903】	英文学史A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	346
【A2904】	英文学史B [小澤 央] 秋学期授業/Fall	347
【A2905】	米文学史A [小島 尚人] 春学期授業/Spring	348
【A2906】	米文学史B [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	349
【A2907】	英米文学講義I A [波戸岡 景太] 春学期授業/Spring	350
【A2908】	英米文学講義I B [波戸岡 景太] 秋学期授業/Fall	351
【A2909】	英米文学講義II A [小澤 央] 春学期授業/Spring	352
【A2910】	英米文学講義II B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	353
【A2911】	英語学講義A [福元 広二] 春学期授業/Spring	354
【A2912】	英語学講義B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	355
【A2913】	言語学講義I A [石川 潔] 春学期授業/Spring	356

[A2914]	言語学講義 I B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	357
[A2915]	言語学講義 II A [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	358
[A2916]	言語学講義 II B [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	359
[A2919]	英語音声学 A [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	360
[A2920]	英語音声学 B [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	361
[A2923]	英語・言語学特殊講義 A [塩田 雄大] 春学期授業/Spring	362
[A2924]	英語・言語学特殊講義 B [塩田 雄大] 秋学期授業/Fall	363
[A2935]	英語学演習 (1) A [福元 広二] 春学期授業/Spring	364
[A2936]	英語学演習 (1) B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	365
[A2937]	英語学演習 (2) A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	366
[A2938]	英語学演習 (2) B [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	367
[A2939]	言語学演習 (1) A [石川 潔] 春学期授業/Spring	368
[A2940]	言語学演習 (1) B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	369
[A2941]	言語学演習 (2) A [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	370
[A2942]	言語学演習 (2) B [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	371
[A2943]	英米文学演習 (1) A [波戸岡 景太] 春学期授業/Spring	372
[A2944]	英米文学演習 (1) B [波戸岡 景太] 秋学期授業/Fall	373
[A2951]	英米文学演習 (5) A [小島 尚人] 春学期授業/Spring	374
[A2952]	英米文学演習 (5) B [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	375
[A2953]	英米文学演習 (6) A [小澤 央] 春学期授業/Spring	376
[A2954]	英米文学演習 (6) B [小澤 央] 秋学期授業/Fall	377
[A2957]	英米文学演習 (8) A [山崎 暁子] 春学期授業/Spring	378
[A2958]	英米文学演習 (8) B [山崎 暁子] 秋学期授業/Fall	379
[A2959]	英米文学演習 (9) A [利根川 真紀] 春学期授業/Spring	380
[A2960]	英米文学演習 (9) B [利根川 真紀] 秋学期授業/Fall	381
[A2961]	英語教育学演習 A [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring	382
[A2962]	英語教育学演習 B [ブライアン ウィスナー] 秋学期授業/Fall	383
[A2969]	文学研究方法論 A [小島 尚人] 春学期授業/Spring	384
[A2970]	文学研究方法論 B [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	385
[A2971]	2 年次演習 (1) [波戸岡 景太] 春学期授業/Spring	386
[A2972]	2 年次演習 (2) [山崎 暁子] 春学期授業/Spring	387
[A2973]	2 年次演習 (3) [小島 尚人] 春学期授業/Spring	388
[A2974]	2 年次演習 (4) [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring	389
[A2975]	2 年次演習 (5) [福元 広二] 春学期授業/Spring	390
[A2976]	2 年次演習 (6) [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	391
[A2977]	英語の文法力 I [椎名 美智] 春学期授業/Spring	392
[A2978]	英語の文法力 II [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	393
[A2979]	メディア・リテラシー I [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	394
[A2980]	メディア・リテラシー II [吉川 純子] 秋学期授業/Fall	395
[A2981]	比較文化論 (1) [波戸岡 景太] 秋学期授業/Fall	396
[A2982]	英米文化概論 A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	397
[A2983]	英米文化概論 B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	398
[A2984]	Academic Writing A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	399
[A2985]	Academic Writing B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	400
[A2986]	Seminar in Cross-cultural Studies A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	401
[A2987]	Seminar in Cross-cultural Studies B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	402
[A2989]	Comparative Culture(3) [波戸岡 景太] 秋学期授業/Fall	403
[A2990]	Second Language Learning and Teaching [ブライアン ウィスナー] 秋学期授業/Fall	404
[A2991]	Public Speaking [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	405
[A2993]	英語表現演習 (総合) [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring	406
[A2994]	英語表現演習 (総合) [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring	407
[A2995]	英語表現演習 (総合) [ブライアン ウィスナー] 秋学期授業/Fall	408
[A2996]	英語表現演習 (総合) [ブライアン ウィスナー] 秋学期授業/Fall	409
[A3001]	言語習得論演習 A [近藤 隆子] 春学期授業/Spring	410
[A3002]	言語習得論演習 B [近藤 隆子] 秋学期授業/Fall	411
[A3003]	世界文学講義 III [小澤 央] 春学期授業/Spring	412
[A3004]	世界文学講義 IV [小澤 央] 秋学期授業/Fall	413

【A3005】	世界文学講義Ⅰ [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	414
【A3006】	世界文学講義Ⅱ [柳橋 大輔] 秋学期授業/Fall	415
【A3007】	英語圏文学研究A [小島 尚人] 春学期授業/Spring	417
【A3008】	英語圏文学研究B [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	418
【A3009】	英語圏文学演習A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	419
【A3010】	英語圏文学演習B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	420
【A3011】	Introduction to Film Studies [KUKHEE CHOO] 秋学期授業/Fall	421
【A3087】	Sociolinguistics [渡辺 宥泰] 春学期授業/Spring	422
【A3088】	FilmTheoryandAnalysis [KUKHEE CHOO] 秋学期授業/Fall	423
【A3092】	Sociolinguistics [渡辺 宥泰] 秋学期授業/Fall	424
【A3093】	教養ゼミⅠ [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	425
【A3094】	教養ゼミⅡ [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	427
【A3095】	Psycholinguistics [石田 真子] 秋学期授業/Fall	429
【A3096】	基礎ゼミⅠ (文・英文) [福元 広二] 春学期授業/Spring	430
【A3097】	基礎ゼミⅠ (文・英文) [小澤 央] 春学期授業/Spring	431
【A3098】	基礎ゼミⅠ (文・英文) [波戸岡 景太] 春学期授業/Spring	432
【A3099】	基礎ゼミⅠ (文・英文) [田中 裕希] 春学期授業/Spring	433
【A3101】	日本史概説Ⅰ [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	434
【A3102】	日本史概説Ⅱ [大塚 紀弘] 秋学期授業/Fall	435
【A3103】	日本史概説Ⅲ [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring	436
【A3104】	日本史概説Ⅳ [内藤 一成] 秋学期授業/Fall	437
【A3105】	東洋史概説Ⅰ [山元 貴尚] 春学期授業/Spring	438
【A3106】	東洋史概説Ⅱ [山元 貴尚] 秋学期授業/Fall	439
【A3107】	東洋史概説Ⅲ [宇都宮 美生] 春学期授業/Spring	440
【A3108】	東洋史概説Ⅳ [宇都宮 美生] 秋学期授業/Fall	441
【A3109】	西洋史概説Ⅰ [内田 康太] 春学期授業/Spring	442
【A3110】	西洋史概説Ⅱ [内田 康太] 秋学期授業/Fall	443
【A3111】	西洋史概説Ⅲ [皆川 卓] 春学期授業/Spring	444
【A3112】	西洋史概説Ⅳ [皆川 卓] 秋学期授業/Fall	446
【A3113】	日本考古学 [小倉 淳一] 秋学期授業/Fall	448
【A3114】	日本古代史 [春名 宏昭] 春学期授業/Spring	449
【A3115】	日本中世史 [及川 亘] 秋学期授業/Fall	450
【A3116】	日本近世史 [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall	451
【A3117】	日本近代史 [内藤 一成] 春学期授業/Spring	452
【A3118】	日本現代史 [劉 傑] 春学期授業/Spring	453
【A3119】	日本考古資料学Ⅰ [阿部 朝衛] 春学期授業/Spring	454
【A3120】	日本考古資料学Ⅱ [阿部 朝衛] 秋学期授業/Fall	455
【A3121】	日本古代史科学Ⅰ [春名 宏昭] 秋学期授業/Fall	456
【A3124】	日本近世史科学Ⅰ [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring	457
【A3125】	日本近世史科学Ⅱ [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall	458
【A3126】	日本近代史科学 [内藤 一成] 秋学期授業/Fall	459
【A3127】	日本現代史科学 [劉 傑] 秋学期授業/Fall	460
【A3128】	日本考古学演習 [小倉 淳一] 年間授業/Yearly	461
【A3129】	日本古代史演習 [小口 雅史] 年間授業/Yearly	462
【A3130】	日本中世史演習 [大塚 紀弘] 年間授業/Yearly	463
【A3131】	日本近世史演習 [松本 剣志郎] 年間授業/Yearly	464
【A3134】	日本現代史演習 [柏木 一朗] 年間授業/Yearly	465
【A3135】	東洋古代史 [飯尾 秀幸] 春学期授業/Spring	466
【A3136】	東洋中世史 [宇都宮 美生] 秋学期授業/Fall	467
【A3139】	東洋史外書講読Ⅰ [宇都宮 美生] 春学期授業/Spring	468
【A3140】	東洋史外書講読Ⅱ [宇佐美 久美子] 秋学期授業/Fall	469
【A3143】	西洋古代史 [内田 康太] 春学期授業/Spring	470
【A3144】	西洋中世史 [大貫 俊夫] 春学期授業/Spring	471
【A3145】	西洋近代史 [中嶋 毅] 春学期授業/Spring	472
【A3146】	西洋現代史 [古川 高子] 秋学期授業/Fall	473
【A3147】	西洋史外書講読Ⅰ [内田 康太] 秋学期授業/Fall	474
【A3148】	西洋史外書講読Ⅱ [古川 高子] 春学期授業/Spring	475

【A3149】	西洋現代史演習 [大澤 広晃] 年間授業/Yearly	476
【A3150】	西洋前近代史演習 [内田 康太] 年間授業/Yearly	477
【A3151】	西洋近代史演習 [皆川 卓] 年間授業/Yearly	478
【A3152】	考古学概論 [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	480
【A3153】	史学概論 [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	481
【A3154】	日本史特講 I [中山 学] 春学期授業/Spring	482
【A3155】	日本史特講 II [大塚 紀弘] 春学期授業/Spring	483
【A3156】	日本史特講 III [稲田 奈津子] 秋学期授業/Fall	484
【A3157】	日本史特講 IV [中山 学] 秋学期授業/Fall	485
【A3158】	日本史特講 V [宮間 純一] 秋学期授業/Fall	487
【A3159】	日本史特講 VI [米崎 清実] 春学期授業/Spring	488
【A3160】	日本史特講 VII [山田 康弘] 春学期授業/Spring	489
【A3162】	東洋史特講 I [飯尾 秀幸] 秋学期授業/Fall	491
【A3163】	東洋史特講 II [澁谷 由紀] 春学期授業/Spring	492
【A3164】	東洋史特講 III [芦沢 知絵] 秋学期授業/Fall	493
【A3165】	東洋史特講 IV [大島 誠二] 秋学期授業/Fall	494
【A3166】	東洋史特講 V [宇佐美 久美子] 春学期授業/Spring	495
【A3168】	西洋史特講 I [内田 康太] 秋学期授業/Fall	496
【A3169】	西洋史特講 II [大貫 俊夫] 秋学期授業/Fall	497
【A3170】	西洋史特講 III [吉岡 潤] 秋学期授業/Fall	498
【A3171】	西洋史特講 IV [皆川 卓] 春学期授業/Spring	499
【A3172】	西洋史特講 V [皆川 卓] 秋学期授業/Fall	501
【A3173】	西洋史特講 VI [遠藤 泰生] 春学期授業/Spring	503
【A3174】	西洋史特講 VII [遠藤 泰生] 秋学期授業/Fall	505
【A3176】	美術史 (日本) A [稲本 万里子] 春学期授業/Spring	507
【A3177】	美術史 (日本) B [稲本 万里子] 秋学期授業/Fall	508
【A3201】	日本史特講 IX [内藤 一成] 春学期授業/Spring	509
【A3202】	日本史特講 X [森田 貴子] 秋学期授業/Fall	510
【A3203】	日本近代史演習 [内藤 一成] 年間授業/Yearly	511
【A3205】	日本古代史科学 II b [武井 紀子] 春学期授業/Spring	512
【A3206】	日本古文書学 I [大塚 紀弘] 春学期授業/Spring	513
【A3207】	日本古文書学 II [大塚 紀弘] 秋学期授業/Fall	514
【A3208】	東洋近現代史 [芦沢 知絵] 春学期授業/Spring	515
【A3209】	東洋考古・美術史 [大島 誠二] 春学期授業/Spring	516
【A3210】	東洋史物質資料演習 [徳留 大輔] 年間授業/Yearly	517
【A3211】	東洋史文献史料演習 [齋藤 勝] 年間授業/Yearly	518
【A3214】	東洋史序説 [宇都宮 美生] 春学期授業/Spring	519
【A3215】	西洋史序説 [阿部 衛] 春学期授業/Spring	520
【A3216】	日本史特講 XI [小倉 慈司] 秋学期授業/Fall	521
【A3217】	東洋史特講 VII [久野 美樹] 春学期授業/Spring	522
【A3218】	東洋史特講 VIII [松本 隆志] 春学期授業/Spring	523
【A3219】	西洋史特講 IX [福士 純] 秋学期授業/Fall	524
【A3220】	日本史特講 VIII A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	525
【A3221】	日本史特講 VIII B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	526
【A3222】	東洋史特講 VI A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	527
【A3223】	東洋史特講 VI B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	528
【A3224】	西洋史特講 VIII A [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	529
【A3225】	西洋史特講 VIII B [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	530
【A3226】	日本史序説 [齋藤 智志] 春学期授業/Spring	531
【A3227】	歴史特講 [宇都宮 美生、大澤 広晃、内田 康太、柏木 一朗、赤松 道子] 秋学期授業/Fall	532
【A3228】	基礎ゼミ I (文・史) [内藤 一成] 春学期授業/Spring	533
【A3229】	基礎ゼミ I (文・史) [宇都宮 美生] 春学期授業/Spring	534
【A3230】	基礎ゼミ I (文・史) [皆川 卓] 春学期授業/Spring	535
【A3231】	基礎ゼミ I (文・史) [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring	536
【A3232】	東洋史特講 IX [水上 香織] 春学期授業/Spring	537
【A3233】	東洋史特講 X [水上 香織] 秋学期授業/Fall	538
【A3234】	東洋史特講 XI [長谷部 圭彦] 春学期授業/Spring	539

【A3235】	東洋史特講Ⅱ [長谷部 圭彦] 秋学期授業/Fall	540
【A3401】	地理学概論(1) [前杵 英明] 春学期授業/Spring	541
【A3402】	地理学概論(2) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	542
【A3403】	地理実習(1) [前杵 英明] 秋学期授業/Fall	543
【A3404】	地理実習(1) [前杵 英明] 春学期授業/Spring	544
【A3405】	地理実習(2) [小原 丈明] 春学期授業/Spring	545
【A3406】	地理実習(2) [小原 丈明] 秋学期授業/Fall	546
【A3407】	現地研究 [地理学科専任教員] 年間授業/Yearly	547
【A3408】	地誌学概論(1) [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	548
【A3412】	地球科学概論Ⅰ [宍倉 正展] 春学期授業/Spring	549
【A3413】	地球科学概論Ⅱ [宍倉 正展] 秋学期授業/Fall	550
【A3416】	地質・岩石学及び実験 [宇津川 喬子] 秋学期授業/Fall	551
【A3417】	自然環境論 [宇津川 喬子] 春学期授業/Spring	552
【A3418】	地形学及び実験Ⅰ [前杵 英明] 春学期授業/Spring	553
【A3419】	地形学及び実験Ⅱ [前杵 英明] 秋学期授業/Fall	554
【A3420】	生物・土壌地理学及び実験Ⅰ [小川 滋之] 春学期授業/Spring	555
【A3421】	生物・土壌地理学及び実験Ⅱ [小川 滋之] 秋学期授業/Fall	556
【A3422】	気候・気象学及び実験Ⅰ [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	557
【A3423】	気候・気象学及び実験Ⅱ [丸本 美紀] 秋学期授業/Fall	558
【A3424】	海洋・陸水学及び実験Ⅰ [飯泉 佳子] 春学期授業/Spring	559
【A3425】	海洋・陸水学及び実験Ⅱ [飯泉 佳子] 秋学期授業/Fall	560
【A3434】	自然地理学演習(1) [丸本 美紀] 年間授業/Yearly	561
【A3435】	自然地理学演習(2) [小川 滋之] 年間授業/Yearly	562
【A3436】	自然地理学演習(3) [前杵 英明] 年間授業/Yearly	563
【A3437】	人文地理学演習(1) [佐々木 達] 年間授業/Yearly	564
【A3438】	人文地理学演習(2) [増淵 敏之] 年間授業/Yearly	565
【A3439】	人文地理学演習(3) [小原 丈明] 年間授業/Yearly	566
【A3440】	人文地理学演習(4) [伊藤 達也] 年間授業/Yearly	568
【A3441】	人文地理学演習(5) [米家 志乃布] 年間授業/Yearly	569
【A3446】	世界地誌(4) [浦部 浩之] 春学期授業/Spring	570
【A3447】	世界地誌(5) [吉村 郊子] 春学期授業/Spring	571
【A3448】	世界地誌(6) [呉羽 正昭] 秋学期授業/Fall	572
【A3449】	地理学読図演習(1) [宇津川 喬子] 春学期授業/Spring	573
【A3450】	地理学読図演習(2) [宇津川 喬子] 秋学期授業/Fall	574
【A3452】	自然地理学特講(2) [鈴木 秀和] 春学期授業/Spring	575
【A3456】	人文地理学特講(2) [久保 倫子] 春学期授業/Spring	576
【A3459】	地図学Ⅰ [若林 芳樹] 春学期授業/Spring	577
【A3460】	地図学Ⅱ [宇津川 喬子] 秋学期授業/Fall	578
【A3461】	測量学及び測量実習Ⅰ [菅 富美男] 春学期授業/Spring	579
【A3462】	測量学及び測量実習Ⅱ [菅 富美男] 春学期授業/Spring	580
【A3463】	写真判読Ⅰ [八木 浩司] 春学期授業/Spring	581
【A3464】	写真判読Ⅱ [郭 榮珠] 秋学期授業/Fall	582
【A3469】	外書講読(1) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	583
【A3471】	地理情報システム(GIS)Ⅰ [中山 大地] 春学期授業/Spring	584
【A3472】	地理情報システム(GIS)Ⅱ [中山 大地] 春学期授業/Spring	585
【A3482】	文化地理学(1) [吉野 裕] 秋学期授業/Fall	586
【A3488】	自然地理学特講(4) [近藤 博史] 秋学期授業/Fall	587
【A3489】	人文地理学特講(4) [加藤 幸治] 春学期授業/Spring	588
【A3510】	地学実験(1) (コンピュータ活用含む) [吉岡 美紀] 春学期授業/Spring	589
【A3511】	地学実験(2) (コンピュータ活用含む) [丸本 美紀] 秋学期授業/Fall	590
【A3514】	物理学概論Ⅰ [石川 壮一] 春学期授業/Spring	591
【A3515】	物理学概論Ⅱ [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	592
【A3516】	化学概論Ⅰ [田中 雅人] 春学期授業/Spring	593
【A3517】	化学概論Ⅱ [田中 雅人] 秋学期授業/Fall	594
【A3518】	生物学概論Ⅰ [植木 紀子] 春学期授業/Spring	595
【A3519】	生物学概論Ⅱ [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	596
【A3520】	物理学実験Ⅰ (コンピュータ活用含) [吉田 智] 春学期授業/Spring	597

【A3521】	物理学実験Ⅱ(コンピュータ活用含) [吉田 智] 秋学期授業/Fall.....	598
【A3522】	化学実験Ⅰ(コンピュータ活用含) [向井 知大] 春学期授業/Spring	599
【A3523】	化学実験Ⅱ(コンピュータ活用含) [向井 知大] 秋学期授業/Fall.....	600
【A3524】	生物学実験Ⅰ(コンピュータ活用含) [島野 智之] 春学期授業/Spring.....	601
【A3525】	生物学実験Ⅱ(コンピュータ活用含) [島野 智之] 秋学期授業/Fall	602
【A3527】	理科教育法(1) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	603
【A3528】	理科教育法(2) [狩野 真規] 秋学期授業/Fall.....	604
【A3530】	理科教育法(3) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	605
【A3531】	理科教育法(4) [狩野 真規] 秋学期授業/Fall.....	606
【A3601】	心理学概論 [福田 由紀] 春学期授業/Spring	607
【A3602】	心理学史 [矢口 幸康] 秋学期授業/Fall	608
【A3611】	心理学測定法Ⅰ [押尾 恵吾] 春学期授業/Spring	609
【A3612】	心理学測定法Ⅰ [押尾 恵吾] 春学期授業/Spring	610
【A3613】	心理学測定法Ⅱ [押尾 恵吾] 秋学期授業/Fall	611
【A3614】	心理学測定法Ⅱ [押尾 恵吾] 秋学期授業/Fall	612
【A3615】	心理検査法Ⅰ [宮田 昌明] 春学期授業/Spring	613
【A3616】	心理検査法Ⅰ [宮田 昌明] 春学期授業/Spring	614
【A3617】	心理検査法Ⅱ [宮田 昌明] 秋学期授業/Fall.....	615
【A3618】	心理検査法Ⅱ [宮田 昌明] 秋学期授業/Fall.....	616
【A3619】	脳の科学 [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall	617
【A3620】	認知心理学 [竹島 康博] 秋学期授業/Fall.....	618
【A3621】	認知科学入門 [田嶋 圭一] 春学期授業/Spring	619
【A3622】	発達心理学 [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring	620
【A3623】	教育心理学 [菊池 理紗] 秋学期授業/Fall	621
【A3624】	学習心理学 [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	622
【A3625】	社会心理学 [入山 茂] 春学期授業/Spring.....	623
【A3626】	学校心理学 [原田 恵理子] 秋学期授業/Fall	624
【A3627】	演習Ⅰ(1) [高橋 敏治] 春学期授業/Spring	625
【A3628】	演習Ⅰ(2) [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring	626
【A3629】	演習Ⅰ(3) [三浦 大志] 春学期授業/Spring	627
【A3630】	演習Ⅰ(4) [下山 晃司] 春学期授業/Spring	628
【A3631】	演習Ⅰ(5) [太田 碧] 春学期授業/Spring.....	629
【A3643】	研究法Ⅰ(1) [高橋 敏治] 春学期授業/Spring.....	630
【A3644】	研究法Ⅰ(2) [竹島 康博] 春学期授業/Spring.....	631
【A3645】	研究法Ⅰ(3) [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring.....	632
【A3646】	研究法Ⅰ(4) [福田 由紀] 春学期授業/Spring.....	633
【A3647】	研究法Ⅰ(5) [田嶋 圭一] 春学期授業/Spring.....	634
【A3648】	研究法Ⅰ(6) [藤田 哲也] 春学期授業/Spring.....	635
【A3649】	研究法Ⅰ(7) [島宗 理] 春学期授業/Spring	636
【A3651】	研究法Ⅱ(1) [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall	637
【A3652】	研究法Ⅱ(2) [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	638
【A3653】	研究法Ⅱ(3) [渡辺 弥生] 秋学期授業/Fall	639
【A3654】	研究法Ⅱ(4) [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	640
【A3655】	研究法Ⅱ(5) [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall	641
【A3656】	研究法Ⅱ(6) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	642
【A3657】	研究法Ⅱ(7) [島宗 理] 秋学期授業/Fall.....	643
【A3659】	精神生理学特講 [高橋 敏治] 春学期授業/Spring	645
【A3660】	言語学特講Ⅰ [田嶋 圭一] 春学期授業/Spring	646
【A3661】	言語学特講Ⅱ [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall.....	647
【A3662】	認知科学特講 [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall	648
【A3663】	認知心理学特講 [竹島 康博] 春学期授業/Spring.....	649
【A3664】	スポーツ心理学特講 [荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	650
【A3665】	生理心理学 [成澤 元] サマーセッション/Summer Session	651
【A3666】	生理心理学実習 [成澤 元] オータムセッション/Autumn Session	652
【A3667】	言語心理学 [福田 由紀] 秋学期授業/Fall.....	653
【A3668】	感情心理学 [足立 にか] 秋学期授業/Fall	654
【A3669】	行動分析学特講 [島宗 理] 秋学期授業/Fall	655

【A3670】	行動分析学 [島宗 理] 春学期授業/Spring	656
【A3671】	対人認知論 [太田 碧] 春学期授業/Spring	657
【A3672】	科学哲学Ⅰ [木島 泰三] 春学期授業/Spring	658
【A3673】	科学哲学Ⅱ [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	659
【A3674】	人工知能 [市瀬 龍太郎] 春学期授業/Spring	660
【A3675】	情報処理技法Ⅰ [山口 剛] 春学期授業/Spring	661
【A3676】	情報処理技法Ⅰ [山口 剛] 春学期授業/Spring	662
【A3677】	情報処理技法Ⅱ [山口 剛] 秋学期授業/Fall	663
【A3678】	情報処理技法Ⅱ [山口 剛] 秋学期授業/Fall	664
【A3680】	発達心理学特講 [渡辺 弥生] 秋学期授業/Fall	665
【A3682】	学習心理学特講 [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	666
【A3683】	発達臨床心理学Ⅰ [桜井 美加] 春学期授業/Spring	667
【A3684】	発達臨床心理学Ⅱ [桜井 美加] 秋学期授業/Fall	668
【A3685】	精神保健学Ⅰ [高橋 敏治] 春学期授業/Spring	669
【A3686】	精神保健学Ⅱ [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall	670
【A3690】	臨床心理学 [杉山 崇] 秋学期授業/Fall	671
【A3691】	犯罪心理学 [桐生 正幸] 秋学期授業/Fall	672
【A3701】	心理統計法Ⅰ [三浦 大志] 春学期授業/Spring	673
【A3702】	心理統計法Ⅱ [三浦 大志] 秋学期授業/Fall	674
【A3703】	心理統計法実習Ⅰ [伊藤 尚枝] 春学期授業/Spring	675
【A3704】	心理統計法実習Ⅰ [伊藤 尚枝] 春学期授業/Spring	676
【A3705】	心理統計法実習Ⅱ [伊藤 尚枝] 秋学期授業/Fall	677
【A3706】	心理統計法実習Ⅱ [伊藤 尚枝] 秋学期授業/Fall	678
【A3707】	心理学基礎実験Ⅰ [島宗 理] 春学期授業/Spring	679
【A3708】	心理学基礎実験Ⅰ [島宗 理] 春学期授業/Spring	680
【A3709】	心理学基礎実験Ⅱ [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	681
【A3710】	心理学基礎実験Ⅱ [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	682
【A3711】	演習Ⅱ (1) [押尾 恵吾] 秋学期授業/Fall	683
【A3712】	演習Ⅱ (2) [井上 晴菜] 秋学期授業/Fall	684
【A3713】	演習Ⅱ (3) [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	685
【A3714】	演習Ⅱ (4) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	686
【A3715】	演習Ⅱ (5) [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall	687
【A3716】	研究法Ⅰ (9) [荒井 弘和] 春学期授業/Spring	688
【A3717】	研究法Ⅰ (10) [林 容市] 春学期授業/Spring	689
【A3718】	研究法Ⅱ (9) [荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	690
【A3719】	研究法Ⅱ (10) [林 容市] 秋学期授業/Fall	691
【A3720】	心理学英語Ⅰ [常深 浩平] 春学期授業/Spring	692
【A3721】	産業組織心理学 [島宗 理] 秋学期授業/Fall	693
【A3722】	心理学特殊講義Ⅰ [島宗 理] 秋学期授業/Fall	695
【A3723】	言語心理学特講 [菊池 理紗] 春学期授業/Spring	696
【A3724】	人格心理学 [杉山 崇] 春学期授業/Spring	697
【A3725】	集団社会心理学 [入山 茂] 秋学期授業/Fall	698
【A3726】	カウンセリング心理学 [下山 晃司] 秋学期授業/Fall	699
【A3727】	心理学特殊講義Ⅱ [門本 泉] 秋学期授業/Fall	700
【A3728】	心理学特殊講義Ⅲ [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	701
【A3730】	心理学英語Ⅱ [常深 浩平] 秋学期授業/Fall	702
【A3738】	身体運動の心理と生理 [林 容市] 春学期授業/Spring	703
【A3739】	基礎ゼミⅠ (文・心理) [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	704
【A3740】	基礎ゼミⅡ (文・心理) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	706
【A3741】	基礎ゼミⅠ (文・心理) [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	708
【A3742】	基礎ゼミⅡ (文・心理) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	710
【A3803】	マス・メディア論 [君塚 洋一] 春学期授業/Spring	712
【A3805】	言語文化論Ⅰ [粟飯原 文子] 春学期授業/Spring	714
【A3806】	言語文化論Ⅱ [大野 ロベルト] 春学期授業/Spring	715
【A3809】	民俗学Ⅰ [室井 康成] 春学期授業/Spring	716
【A3810】	民俗学Ⅱ [室井 康成] 秋学期授業/Fall	717
【A3811】	イスラム世界論Ⅰ [松本 隆志] 春学期授業/Spring	718

【A3812】	イスラム世界論Ⅱ [松本 隆志] 秋学期授業/Fall	719
【A3813】	文学部生のキャリア形成 [小寺 浩二、利根川 真紀、渡辺 弥生] 春学期授業/Spring	720
【A3814】	現代のコモンセンス [内藤 一成、西塚 俊太、王 安] 秋学期授業/Fall	721
【A3819】	歴史地理学 (1) [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	722
【A3820】	歴史地理学 (2) [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	723
【A3821】	福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	724
【A3851】	文化史 1 (資格) [伊藤 直樹] 春学期授業/Spring	725
【A3852】	文化史 2 (資格) [伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall	726
【A3853】	美術史 (西洋) A (資格) [安藤 智子] 春学期授業/Spring	727
【A3854】	美術史 (西洋) B (資格) [安藤 智子] 秋学期授業/Fall	728
【A3855】	考古学概論 (資格) [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	729
【A3856】	日本考古学 (資格) [小倉 淳一] 秋学期授業/Fall	730
【A3857】	美術史 (日本) A (資格) [稲本 万里子] 春学期授業/Spring	731
【A3858】	美術史 (日本) B (資格) [稲本 万里子] 秋学期授業/Fall	732
【A3859】	民俗学Ⅰ (資格) [室井 康成] 春学期授業/Spring	733
【A3860】	民俗学Ⅱ (資格) [室井 康成] 秋学期授業/Fall	734
【A3861】	文化史 1 (資格) [安原 眞琴] 春学期授業/Spring	735
【A3862】	文化史 2 (資格) [山口 恭子] 秋学期授業/Fall	736
【A3901】	地誌学概論 [南 春英] 秋学期授業/Fall	737
【A3903】	地理情報システム (GIS)Ⅰ [中山 大地] 秋学期授業/Fall	738
【A3904】	地理情報システム (GIS)Ⅱ [中山 大地] 秋学期授業/Fall	739
【A3905】	社会経済地理学A (1) [小原 文明] 春学期授業/Spring	740
【A3906】	社会経済地理学A (2) [小原 文明] 秋学期授業/Fall	741
【A3907】	社会経済地理学B (1) [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	742
【A3908】	社会経済地理学B (2) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	743
【A3909】	社会経済地理学C (1) [佐々木 達] 春学期授業/Spring	744
【A3910】	社会経済地理学C (2) [佐々木 達] 秋学期授業/Fall	745
【A3927】	基礎ゼミⅠ (文・地理) [小原 文明] 春学期授業/Spring	746
【A3929】	基礎ゼミⅠ (文・地理) [佐々木 達] 春学期授業/Spring	747
【A3930】	基礎ゼミⅠ (文・地理) [宇津川 喬子] 春学期授業/Spring	748
【A3931】	地理学研究法基礎 (1) [前空 英明、小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	749
【A3932】	地理学研究法基礎 (2) [米家 志乃布、小原 文明] 春学期授業/Spring	750
【A3933】	基礎統計学 [矢部 直人] 春学期授業/Spring	751
【A3934】	観光地理学 [呉羽 正昭] 春学期授業/Spring	752
【A3935】	政治地理学 [加賀美 雅弘] 春学期授業/Spring	753
【A9017】	身体の測定と評価 [鈴木 康弘] 春学期授業/Spring	754
【Q6101】	漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	755
【Q6102】	漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	756
【Q6106】	文芸創作講座B [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	757
【Q6107】	日本芸能論A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	758
【Q6108】	日本芸能論B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	759
【Q6209】	人文地理学セミナーA [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	760
【Q6210】	人文地理学セミナーB [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	761
【Q6211】	文化人類学方法論A [菊池 真理] 春学期授業/Spring	762
【Q6212】	文化人類学方法論B [菊池 真理] 秋学期授業/Fall	763
【Q6335】	人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	764

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

卒業論文 (哲学科)

西塚 俊太

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことに付いて必要な指導を行なう (3週間に1回程度)。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によってはZoomによる面談を行なうこともある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成
第2回	補 足	論文の提出に関する諸注意の確認 テーマの設定 (どのような問題があるか) 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定 (暫定)	論文の構成模索、考察、 資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、 議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成 (随時、補正する) 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも 参照、確認
第12回	本文執筆継続	注のメモ作成 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも 参照、確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか確認 テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文完成に向けて勉学、資料調査に励む。

【テキスト (教科書)】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文 (内容と結論) を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students write a paper for taking a BA degree.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of a good paper of students.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to practice the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination(100%).

GEO400BF (地理学 / Geography 400)

卒業論文 (地理学科)

地理学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：**集中・その他/intensive・other courses**

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学部地理学科では卒業論文を必修としています。卒業論文はこれまで学んできた専門知識に加え、思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成されるべき4年間の学業の集大成です。

【到達目標】

地理学科では、以下に示す水準に達した学生に対して、「学士 (文学)」の授与を認めています。

- (1) 人間の生活の舞台である地球表面の自然環境や人文・社会環境について基礎的な知識を身に付け、地理的諸事象の基本的メカニズムを理解しているとともに、幅広い教養も身に付けている。
- (2) 地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができる。
- (3) 地理学の知をもって社会の諸問題に関心を持ち、他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に発信することができる能力、地域社会のニーズに応えられる能力、および諸問題を解決する能力を身に付けている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文ガイダンスは3年次の秋に行なわれ、履修登録は4年次に行なわれますが、卒業論文は1年間で作成できるものではありません。3年次から履修可能な「演習 (いわゆるゼミ)」等に参加し、担当教員の指導を受けながら、主体的に卒業論文についての意識を高め、自分の研究テーマ (卒業論文の論題に直結します) を探していってください。ここで重要なのは「主体的」ということです。各自で研究テーマを見いだしていくには、「主体的」に学ぶことが必要になってきます。基本的には、3年次秋に提出してもらった「卒業論文申請書」に記載されている研究予定テーマ、さらに履修している演習等によって、卒業論文の指導教員は決定されます。しかし教員側が「研究テーマ」を一方向的に与えるという事は無く、あくまでも「主体的」にテーマを選定し、そのテーマを研究成果として結実させるための指導を各指導教員が担当するのです。個別の論題 (テーマ) に即した指導は、基本的には演習の授業時での口頭発表、それに対する質疑応答を通して行なわれます。

1月上旬の卒業論文提出後は、1月末頃に卒業論文面接試験が実施されます。この面接試験は一般の授業の「定期試験」に該当します。卒業論文は「主体的」に取り組むことが要求され、したがってレポートとは異なり、方法論も含めて学び、執筆・作成することが求められる科目であることを再確認してください。卒業論文に対するフィードバックは、主に面接試験時に行われます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1~27	指導・成果報告	卒業論文作成に向け、指導を受ける。
28回	提出・面接	卒業論文を提出し、面接試験を受ける。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文には独創性が求められます。これまでの研究成果を踏まえるために、研究論文を多く読むことが必要です。また、論題に応じて、地域調査や実験・観測も必要となります。但し、卒業論文作成の時間には限りがあります。従って、効率良く実施できるように、予め研究計画を練っておくことも必要となります。毎回の演習 (ゼミ) の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書の指定はありません。卒業論文作成に必要な参考文献・資料を使用してください。

【参考書】

参考書の指定はありません。必要があれば、卒業論文作成の指導を受ける教員に問い合わせてください。

【成績評価の方法と基準】

地理学科では、卒業論文の評価は以下のような項目に留意して、総合的に決められます。

①研究課題設定の妥当性、②研究対象地域選定の妥当性、③既往研究上での位置づけ、④調査方法や分析・解析手順の妥当性、⑤適切な分量、⑥論文構成の妥当性、⑦論旨の展開、⑧適切な文章表現、⑨文献等の適切な引用、⑩図表の体裁と正確さ、⑪分析・解析や考察と結果導出の妥当性、⑫論文全体の独創性 (オリジナリティ) 等。

卒業論文の内容と面接審査の内容を総合的に勘案して以下の基準で成績の判定を行います。

- ・ S : 評価項目の要件を十分に満たし、特に優れた論文と認められる場合
- ・ A+, A, A- : 評価項目の要件を満たし、優れた論文と認められる場合
- ・ B+, B, B- : 評価項目のほとんどの要件を満たしていると認められる場合
- ・ C+, C, C- : 評価項目の要件をある程度満たし、論文作成の努力が認められる場合
- ・ D : 多くの点で評価項目の要件を満たさず、卒業に合わないと評価される場合
- ・ E : 未提出

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

- (1) 卒業論文については、『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」の記事をよく読み、Hoppii内の「学科からのお知らせ」に常に注意してください。
- (2) 3年次の秋に開催される卒業論文ガイダンスで配布される卒業論文申請書を、所定の期日までに提出しなければなりません。
- (3) Hoppii内の「学科からのお知らせ」や地理学科HPに掲載されている『卒業論文について』をよく読んでください。そこには執筆要領 (まとめ方やワープロ使用の際の形式等) が掲載されています。
- (4) 卒業論文作成上のルールについても、上述の『卒業論文について』に記載されています。特に剽窃には留意してください。

【Outline (in English)】

Course outline

For writing a graduation thesis, it is needed that in addition to specialized knowledge you learned, thinking ability, writing ability, research ability, criticism ability, and judgment ability.

Learning Objectives

The Department of Geography allows students who have reached the following standards to receive a "Bachelor's Degree (Literature)".

- (1) Acquire basic knowledge about the natural environment, humanities and social environment of the earth's surface, which is the stage of human life, understand the basic mechanism of geographical events, and acquire a wide range of education. It is attached.
- (2) To be able to acquire geographical thinking ability and perspectives, and to consider using research methods based on them.
- (3) With the knowledge of geography, we are interested in social issues, listen to the voices of others, and have the ability to accurately express our thoughts through oral and written expressions, and the needs of the local community. Acquire the ability to respond and solve various problems.

Learning activities outside of classroom

The graduation thesis requires originality. It is necessary to read a lot of research papers in order to take into account the research results so far. In addition, depending on the subject, regional surveys and experiments / observations are also required. However, the time to write a graduation thesis is limited. Therefore, it is also necessary to formulate a research plan in advance so that it can be carried out efficiently. The standard preparation and review time for each seminar is 4 hours each.

Grading Criteria / Policy

In the Department of Geography, the evaluation of a graduation thesis is comprehensively decided by paying attention to the following items.

- (1) Validity of research theme setting, (2) Validity of selection of research target area, (3) Positioning in past research, (4) Validity of research method and analysis / analysis procedure, (5) Appropriate amount, (6) Validity of paper structure, (7) Development of thesis, (8) Appropriate sentence expression, (9) Appropriate citation of documents, (10) Format and accuracy of figures and tables, (11) Validity of analysis / analysis and consideration and result derivation, (12) Originality of the entire paper.

Grades will be judged based on the following criteria, taking into consideration the content of the graduation thesis and the content of the interview examination.

- ・ S: When the requirements of the evaluation items are fully satisfied and the paper is recognized as a particularly excellent paper.
- ・ A +, A, A-: When the requirements of the evaluation items are met and the paper is recognized as excellent.
- ・ B +, B, B-: When it is recognized that most of the requirements of the evaluation items are satisfied.
- ・ C +, C, C-: When the requirements for evaluation items are met to some extent and efforts to write a dissertation are recognized.
- ・ D: When it is evaluated that it is not suitable for graduation because it does not meet the requirements of the evaluation items in many respects.
- ・ E: Not submitted

HUM400BE (その他の人文学 / humanities 400)

卒業論文 (史学科)**史学科教員**

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことについて必要な指導を行なう (3週間に1回程度)。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によって Zoom による面談を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成 論文の提出に関する諸注意の確認
第2回	補 足	テーマの設定 (どのような問題があるか) 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定 (暫定)	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成 (随時、補正する) 資料収集と読解、考察、再考 論文の提出に関する諸注意の再確認
第 11 回	本文執筆開始	研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 注のメモ作成
第 12 回	本文執筆継続	研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 テーマと本文の議論にズレがないか確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第 14 回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第 15 回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認

第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第 19 回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文完成に向けて勉学、資料調査に励む。

【テキスト (教科書)】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文 (内容と結論) を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今のところない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具

【その他の重要事項】

提出締切に絶対に遅れないこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students write a paper for taking a BA degree.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of a good paper of students.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to practice the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination(100%).

LIT400BC/LIN400BC/ART400BC

卒業論文（日本文学科）

日本文学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことにについて必要な指導を行なう（3週間に1回程度）。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によって Zoom による面談を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成
第2回	補 足	論文の提出に関する諸注意の確認 テーマの設定（どのような問題があるか） 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定（暫定）	論文の構成模索、考察、 資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、 議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成（随時、補正する） 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも 参照、確認
第12回	本文執筆継続	注のメモ作成 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも 参照、確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか確認 テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けて勉学・資料調査に励む。指導教員の助言のもと、自身の研究テーマに関連する論文・研究書等を収集し、熟読して内容を把握する。また、テーマと関連する作品を精読して内容を分析する。論文の構想が決まったり、ある程度の分量が執筆できたら、指導教員に提出して指導を受け、指示に従って構想を変更したり、論文の文章を修正したりする等、対応する。毎回の演習（ゼミ）の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文（内容と結論）を【到達目標】の基準に照らして評価する。配分は、完成した論文全体の出来50%、卒業論文面接試験の結果50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

今のところない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具

【その他の重要事項】

提出締切に絶対に遅れないこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: This is a year-long course for the preparation and completion of BA theses.

Learning Objectives: The goal of this course is the completion of a thesis worthy of the award of a BA degree.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to undertake research activities required by their supervisor for the preparation and completion of their theses.

Grading Criteria/Policy: The final grade is determined according to the contents of the thesis and a year-end oral examination (100%).

HUM400BD (その他の人文学 / humanities 400)

卒業論文 (英文学科)

英文学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学部英文学科では、卒業論文を必修としています。論文の分量としては、タイトルページと目次、そして謝辞がある場合はそれものぞいて、400字詰め原稿用紙に換算して35枚以上、英語の場合は5000語以上とします。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成される、4年間の学業の集大成です。

【到達目標】

学科の教育目標へのつと、① 批判的思考能力の涵養、② 英語・日本語能力の養成を基準に置き、これらを充足させた卒業論文を作成することを目標とします。また、あわせて、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章で他者に伝える営みに徹底的に携わることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「卒業論文計画書」によって学科の決定した指導教員の指導のもとで、指定されたプロセスを踏みながら論文を完成させます。卒業論文ガイダンスは3年次の秋に行われますが、3年次の春から、「ゼミ」などの授業に参加しながら卒業論文について各自意識を高め、自主的に研究書や論文、また原典を読み進めて、自分のテーマを探ることが大切です (登録は4年次の科目ですが、1年間だけで完成できるものではありません)。英文学科全体では11月に「第一稿提出」をすることになっています (教員によっては10月締め切りもあります)。卒業論文提出後に、面接審査をおこないますが、この、一般の授業でいえば定期試験に相当する口頭試問までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導は原則的に個別の指導教員による個人指導となります。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、テーマの設定や方法論も含めて主体的に選択し執筆・作成することが求められます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1~28	成果報告	研究 → 報告 → 執筆 → 指導 → 推敲 → 提出 → 面接審査

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、テーマや方法を主体的に選び、研究や執筆を自発的に進めていくことが必須となります。

【テキスト (教科書)】

各自

【参考書】

各自

【成績評価の方法と基準】

以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、成績の判定をおこないません。

- ① 論文研究の目的が明瞭で、先行研究を踏まえた独創性を含むか。
- ② 論理の展開が、飛躍や不整合がなく、明快であるか。
- ③ 十分な調査がなされ、根拠・論証や分析が示されているか。
- ④ 文章が明瞭で、誤字脱字がなく、指定された書式で書かれているか。
- ⑤ 指導教員の指導をきちんと受け、まじめに取り組んだか。

【学生の意見等からの気づき】

執筆の過程で、専門知識だけでなく、社会人として今後必要とされるタイムマネジメントの力や文章力も身についたという声が多かったです。

【その他の重要事項】

- ・3年次秋の卒業論文ガイダンスに始まる一連の卒業論文関係の行事や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文の個別手続きについて」の当学科の記載をよく読むとともに、掲示に注意すること。
- ・卒論「第一稿提出」手続きを経ること。
- ・「卒業論文計画書」「卒業論文指導願」を所定の期日までに提出しないと卒業論文の提出が認められなくなるので注意すること。
- ・卒業論文ガイダンスの際に配布される「英文学科卒業論文作成・提出上の注意事項」をよく読み、作成のルールに従うこと。とくに剽窃 (plagiarism) についてはくれぐれも留意すること。
- ・優秀論文が英文学科 Links の雑誌『Smile』に掲載される。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students write their graduation thesis, which is the culmination of their undergraduate studies.

(Learning objectives)

At the end of this course, students are expected to complete their graduation thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to work on their graduation thesis.

(Grading criteria /Policy)

Grading will be decided based on the following:

1. Thesis and originality
2. Organization and logic
3. Research and support
4. Sentence craft and style
5. Commitment

PSY400BG (心理学 / Psychology 400)

卒業論文 (心理学科)

渡辺 弥生

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学部心理学科では、卒業論文を必修としています。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・実証力・批判力・判断力などを傾注して作成する、4年間の学業の集大成です。

【到達目標】

学科の教育目標である、①実証的論理構成能力の養成、②批判的思考力の涵養を目指し、これらを充足させた卒業論文を作成することができる。また、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章やデータで他者に伝える作業に徹底的に携わることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次に提出する卒業論文指導希望調査票によって学科で決定した教員の指導のもとで論文を完成させます。卒業論文指導願の提出は4年生になってから行ないますが、2年次からの演習などの授業に参加しながら卒業論文に対する意識を高め、自主的に専門書や論文を読み進めて、自分のテーマを探ることが大切です (卒業論文の登録は4年次に行いますが、1年間でできるものではありません)。1月の卒業論文提出後に、面接審査に代わる研究発表会を行います。一般の授業で言えば定期試験に相当するその発表会での質疑応答までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、方法論も含めて主体的に選択し、執筆・作成することが求められます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	指導・成果報告 提出・面接	構想 1
2	指導・成果報告 提出・面接	構想 2
3	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 1
4	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 2
5	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 3
6	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 4
7	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 5
8	指導・成果報告 提出・面接	文献のまとめ
9	指導・成果報告 提出・面接	問題点の抽出
10	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の策定 1
11	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の策定 2
12	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の発表 1
13	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の発表 2
14	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の修正等
15	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 1
16	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 2
17	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 3
18	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 4
19	指導・成果報告 提出・面接	分析 1
20	指導・成果報告 提出・面接	分析 2

21	指導・成果報告 提出・面接	考察 1
22	指導・成果報告 提出・面接	考察 2
23	指導・成果報告 提出・面接	研究のまとめと議論
24	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション準備 1
25	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション準備 2
26	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション練習 1
27	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション練習 2
28	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回指導教員の指示に従って課題を行う。課題には実験、分析、プレゼンテーション準備、卒業論文の執筆などが含まれる。

【テキスト (教科書)】

その都度、担当教員が指示する。

【参考書】

各自の卒業論文内容に従って、担当教員が個別に紹介する

【成績評価の方法と基準】

心理学科では、提出された論文について、以下の10項目について評価し、面接審査 (発表会) での質疑に対する応答を総合的に勘案し、S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、D、Eの判定を行ないます。
①タイトルの適切さ、②問題の適切さ、③研究方法の適切さ、④データ分析法の適切さ、⑤図表表現の完成度、⑥考察における文献の検討と問題との対応、⑦論文の独創性、⑧全体構成の論理性・明快さ、⑨文章表現の明快さ・分かりやすさ、段落構成の適切さ、⑩誤字・脱字、表現の不統一のなさ。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、公開での卒論発表を行い、活発な議論が行われる。学生の評価は概して高いので、従来通りの方法で継続して行っていく予定である。

【その他の重要事項】

- ・実験・調査・検査などを行なうにあたっては、法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会が作成する「人を対象とした研究倫理ガイドライン」を遵守し、実施に先立ち同委員会に「研究計画申請書」を提出し承認を得なければなりません。また、卒論本文の「方法」には、研究倫理審査を受け、承認を得ている旨と、付与される承認番号を明記してください。
- ・一連の卒業論文関係の説明会や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文」の当学科の記事をよく読むとともに、心理学実習室前の掲示や『法政心理ネット』の記事に注意してください。
- ・卒業論文の要旨は『法政心理学会年報』に掲載されます。
- ・研究のオリジナル性を満たすため、文献の引用は適切に行い、剽窃の疑いが生じることのないよう注意してください。
- ・法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会への申請や卒業論文作成の詳細については、webページ『法政心理ネット』の「卒論・修論・博論」のページに記載されているので、注意深く読んでおいてください。
- ・卒業論文の形式：原稿サイズはA4判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。1ページあたりの字詰めは40字×30行=1,200字、文字サイズは11ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください (上下 20mm、左 30mm、右 20mm)。本文 (内表紙、目次、引用文献の後に付録として付ける資料を除く。ただし本文中に含めるべき図表は本文ページ内に含む) と引用文献一覧を合わせて、この書式で17ページ目の最終行 (30行目) まで埋めるか超えることが必要条件です。
- ・「卒業論文要旨」の形式：原稿サイズはA4判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。レイアウトは二段組み、文字サイズは9ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください (上下 20mm、左 30mm、右 20mm)。氏名、クラス、学生証番号、指導教員名、キーワードを明記してください。この書式で図表や引用文献一覧などを合わせて1ページに収めることが必要条件です。書式は「卒論要旨チェックリスト」で確認をしてください。
- ・心理学科全体としては、提出する卒論に、内表紙、目次、要旨を含めることを必須とはしませんが、指導教員から卒論に含めるよう指示があれば、その指示に従ってください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Department of Psychology, Faculty of Letters requires a graduation thesis. It is the culmination of four years of academic work.

(Learning objectives)

The educational objectives of the department aim to cultivate (1) demonstrative logical construction abilities and (2) foster critical thinking skills, enabling students to create graduation theses that satisfy these criteria. Furthermore, students will be able to delve deeply into research within their specialized field and actively engage in the task of conveying the results of intellectual inquiries to others through written work and data.

(Learning activities outside of classroom)

Students will perform tasks according to the guidance of their supervisor. These tasks encompass activities such as experiments, analysis, preparation for presentations, and the writing of graduation theses.

(Grading criteria / Policy)

The Department of Psychology, Faculty of Letters evaluates the graduation thesis based on the following 10 criteria and the responses to questioning during the interview examination (presentation). The overall grading includes S, A+, A, A-, B+, B, B-, C+, C, C-, D, and E determinations.

- (1) Appropriateness of the title
- (2) Appropriateness of the research question
- (3) Appropriateness of the research methods
- (4) Appropriateness of the data analysis method
- (5) Completeness of figure and table representation
- (6) Examination of literature in the discussion and its correspondence to the research question
- (7) Originality of the paper
- (8) Logical and clear overall structure
- (9) Clarity and readability of writing expression, appropriateness of paragraph structure
- (10) Absence of typos, misspellings, and inconsistency in expression

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

基礎演習 1

[2年A組]

佐藤 真人

授業コード：A2206 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

セネカのテキストの精読を通し、後期ストア派の到達点である倫理学を学びます。

セネカの文章は平易でありながら、鋭い洞察と知恵の力に満ちており、その思索は古代ギリシアと初期ストア派の伝統の上に築かれています。われわれはいかに生きるべきかという、古来の最も普遍的・哲学的な問題に対するセネカの考察の読解を通して、哲学者の思索を自らの論理的な議論の構築のために活かす力を養うこと、そして翌年のゼミへ向けた哲学的基盤を実践を通して築くことがこの授業の目的です。

【到達目標】

- ① セネカとストア派の思想について理解し、説明することができる。
- ② 自身で問い(テーマ)を見つけ、答えを探しつつ、他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ③ 必要な文献を読解し、自身の言葉で論理的に議論を組み立て、レポートとして論述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、教員が前回課題の解説・コメントを通して、講読箇所の概説を行います。授業後半では、発表担当班が予め作成したレジュメに基づいて発表をし、それについての質疑応答を受講者全員で行います。

具体的な手順は以下の通り。

- ① 発表担当班によるレジュメ作成と発表
- ② 全体での質疑応答を通じた考察の深化
- ③ 毎回の講読内容について各自で考察した小レポート(リアクション・ペーパー)を提出。

これらを通じ、哲学への学問的な取り組み方と実践(文献の読解、問題設定、議論の組み立て)の訓練を重ねます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入部	授業の概要や今後の進め方、グループ分け等
第2回	初期ストア派の哲学の概要	論理学、自然学、倫理学の体系とは
第3回	『摂理について』	すべて、発表と議論
第4回	『賢者の恒心について』①	第一章～第九章、発表と議論
第5回	『賢者の恒心について』②	第一〇章～第十一章、発表と議論
第6回	『怒りにについて』①	第一巻第一章～第十一章、発表と議論
第7回	『怒りにについて』②	第一巻第二章～第二十一章、発表と議論
第8回	『怒りにについて』③	第一巻第二十二章～第二十一章、発表と議論
第9回	『怒りにについて』④	第二巻第一章～第一十四章、発表と議論
第10回	『怒りにについて』⑤	第二巻第十五章～第二十九章、発表と議論

- 第11回 『怒りにについて』⑥ 第二巻第三〇章～第三巻第五章、発表と議論
- 第12回 『怒りにについて』⑦ 第三巻第六章～第一六章、発表と議論
- 第13回 『怒りにについて』⑧ 第三巻第一七章～第二章二七章、発表と議論
- 第14回 『怒りにについて』⑨ 第三巻第二八章～第四三章、発表と議論

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。この作業はグループ発表時のレジュメ作成や、個人での小レポートの作成に役立ちます。

発表担当のグループは、各メンバーが内容を調べ、話し合いながら、発表用のレジュメを作成してください。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

セネカ、『怒りにについて 他二篇』(大西英文訳)、岩波文庫、2008年。

【参考書】

まずはセネカとストア派の著述を丁寧に読み取ることから始めてください。以下の一次文献は、授業全般を通してきわめて有益なので、一つ以上は必ず読んでください。

- ・セネカ、『生の短さについて 他二篇』、岩波文庫、2010年。
- ・『セネカ哲学全集』、全六巻、岩波書店、2005年～2006年。
- ・『初期ストア派断片集』、全五巻、京都大学学術出版会、2000年～2006年。
- ・『キケロー選集』、全一六巻(とりわけ第八巻～第十二巻)、岩波書店、1999年～2002年

そのうえで、参考書を各自で探してみてください(授業内でも参考書については言及しますが、参考書を自身で探すことは大学で必要な作業です)。

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題や参加姿勢など)40%、発表20%、期末試験/レポート40%の割合とし、到達目標①～③の達成度合いに応じて成績評価します。

なお、欠席4回で不可としますので注意してください(事情がある場合は要相談)。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な読解と考察を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

・進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

・パソコン・携帯電話等は使用禁止とします。必ず手でノートを取ってください。

・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop basic skills to read philosophical writings through Seneca's texts and understand the ethics of the late stoics.

Seneca's writings are plain and simple, yet full of the power of acute insight and wisdom, and his thoughts are built on the ancient Greek and early Stoic tradition. By reading Seneca's reflections on the most ancient and philosophical question of how we should live, this course aims to develop the ability to read philosophical writings carefully and construct logical arguments, and build the foundations for the philosophical seminars of the following year.

Students are expected by the end of the course to understand the thoughts of Seneca, to construct their arguments logically through readings and discussions, and to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 40%, Presentation: 20%, Term-end examination or report: 40%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

基礎演習 1

[2年B組]

西塚 俊太

授業コード：A2207 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

三木清の著作『パスカルにおける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】

- ・ 哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
- ・ 哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語る事が出来る。
- ・ 議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ※初回のみオンラインで実施し、2回目以降は対面式で実施する予定。
※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。
- (1) 受講者全員に三木清の『パスカルにおける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
 - (2) 担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し発表をする。
 - (3) その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。
 - (4) 討論の中で見出された重要な論点をまとめるレポートを毎回課し、そのレポートについて次回の講義の冒頭で講評しフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の基礎の伝達と三木清に関する概説	三木清『パスカルにおける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第2回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第3回	三木清『パスカルにおける人間の研究』「第一 人間の分析」の一	三木清『パスカルにおける人間の研究』「第一 人間の分析」の一の発表と検討
第4回	「第一 人間の分析」の二	「第一 人間の分析」の二の発表と検討
第5回	「第一 人間の分析」の三	「第一 人間の分析」の三の発表と検討
第6回	「第二 賭」の一	「第二 賭」の一の発表と検討
第7回	「第二 賭」の二	「第二 賭」の二の発表と検討
第8回	「第三 愛の情念に関する説」の前半 (p.107の五行目まで)	「第三 愛の情念に関する説」の前半部分 (p.107の五行目まで)の発表と検討
第9回	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一の発表と検討
第10回	「第四 三つの秩序」の二	「第四 三つの秩序」の二の発表と検討
第11回	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一の発表と検討
第12回	「第五 方法」の二	「第五 方法」の二の発表と検討
第13回	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一の発表と検討
第14回	「第六 宗教における生の解釈」の二 総まとめ	「第六 宗教における生の解釈」の二 および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。
特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。
本授業の準備・復習時間はそれぞれ3時間、計6時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

三木清『パスカルにおける人間の研究』(岩波文庫)

教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルにおける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。
参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容 (レジュメの水準を含む) (40%) と、講義内での発言や講義への参加姿勢 (38%) と学期末レポート (22%) の合算によって評価する。
講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したもとは見なさないで、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

学生の討論時間を長く確保できるように、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】

※重要
学習支援システム **hoppii** を毎週欠かさず確認することが不可欠である。
※初回のみオンラインで実施し、2回目以降は対面式で実施する予定。
※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域> 日本近代哲学・日本思想史
<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史 (神・儒・仏・物語・武士道など) の研究
<主要研究業績>
① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」(『日本倫理思想論 第2号』、2014)
② 『科学技術の倫理学Ⅱ』(勢力尚雅 編共著、2015)
③ 「『曾我物語』における敵討の動因—「実の父」の欠如と希求という観点から—」(『倫理学紀要第26輯』、2019)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.
Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class.
Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab 40%, in-class contribution 38%, and term-end reports 22%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

基礎演習 2

[2年A組]

西塚 俊太

授業コード：A2209 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

三木清の著作『パスカルにおける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】

- ・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語る事が出来る。
- ・議論を通じて、自身の思考内容を深める事が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

※初回のみオンラインで実施し、2回目以降は対面式で実施する予定。

※初回到担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

- (1) 受講者全員に三木清の『パスカルにおける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
- (2) 担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し発表をする。
- (3) その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。
- (4) 討論の中で見出された重要な論点をまとめるレポートを毎回課し、そのレポートについて次回の講義の冒頭で講評しフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の基礎の伝達と三木清に関する概説	三木清『パスカルにおける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第2回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第3回	三木清『パスカルにおける人間の研究』「第一 人間の分析」の一	三木清『パスカルにおける人間の研究』「第一 人間の分析」の一の発表と検討
第4回	「第一 人間の分析」の二	「第一 人間の分析」の二の発表と検討
第5回	「第一 人間の分析」の三	「第一 人間の分析」の三の発表と検討
第6回	「第二 賭」の一	「第二 賭」の一の発表と検討
第7回	「第二 賭」の二	「第二 賭」の二の発表と検討
第8回	「第三 愛の情念に関する説」の前半 (p.107の五行目まで)	「第三 愛の情念に関する説」の前半部分 (p.107の五行目まで)の発表と検討
第9回	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一の発表と検討
第10回	「第四 三つの秩序」の二	「第四 三つの秩序」の二の発表と検討
第11回	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一の発表と検討
第12回	「第五 方法」の二	「第五 方法」の二の発表と検討
第13回	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一の発表と検討
第14回	「第六 宗教における生の解釈」の二 総まとめ	「第六 宗教における生の解釈」の二 および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。

特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。

本授業の準備・復習時間はそれぞれ3時間、計6時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

三木清『パスカルにおける人間の研究』(岩波文庫)

教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルにおける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。

参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容 (レジュメの水準を含む) (40%) と、講義内での発言や講義への参加姿勢 (38%) と学期末レポート (22%) の合算によって評価する。

講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したもとは見なさないので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

学生の討論時間を長く確保できるように、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。

紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。

パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】

※重要

学習支援システム **hoppii** を毎週欠かさず確認することが不可欠である。

※初回のみオンラインで実施し、2回目以降は対面式で実施する予定。

※初回到担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史

<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史 (神・儒・仏・物語・武士道など) の研究

<主要研究業績>

- ① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」(『日本倫理思想論 第2号』、2014)
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』(勢力尚雅 編共著、2015)
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因—「実の父」の欠如と希求という観点から—」(『倫理学紀要第26輯』、2019)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class.

Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab 40%, in-class contribution 38%, and term-end reports 22%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

基礎演習 2

[2年B組]

佐藤 真人

授業コード：A2210 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

セネカのテキストの精読を通し、後期ストア派の到達点である倫理学を学びます。

セネカの文章は平易でありながら、鋭い洞察と知恵の力に満ちており、その思索は古代ギリシアと初期ストア派の伝統の上に築かれています。われわれはいかに生きるべきかという、古来の最も普遍的・哲学的な問題に対するセネカの考察の読解を通して、哲学者の思索を自らの論理的な議論の構築のために活かす力を養うこと、そして翌年のゼミへ向けた哲学的基盤を実践を通して築くことがこの授業の目的です。

【到達目標】

- ① セネカとストア派の思想について理解し、説明することができる。
- ② 自身で問い(テーマ)を見つけ、答えを探しつつ、他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ③ 必要な文献を読解し、自身の言葉で論理的に議論を組み立て、レポートとして論述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、教員が前回課題の解説・コメントを通して、講読箇所の概説を行います。授業後半では、発表担当班が予め作成したレジュメに基づいて発表をし、それについての質疑応答を受講者全員で行います。

具体的な手順は以下の通り。

- ① 発表担当班によるレジュメ作成と発表
- ② 全体での質疑応答を通じた考察の深化
- ③ 毎回の講読内容について各自で考察した小レポート(リアクション・ペーパー)を提出。

これらを通じ、哲学への学問的な取り組み方と実践(文献の読解、問題設定、議論の組み立て)の訓練を重ねます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入部	授業の概要や今後の進め方、グループ分け等
第2回	初期ストア派の哲学の概要	論理学、自然学、倫理学の体系とは
第3回	『摂理について』	すべて、発表と議論
第4回	『賢者の恒心について』①	第一章～第九章、発表と議論
第5回	『賢者の恒心について』②	第一〇章～第十一章、発表と議論
第6回	『怒りにについて』①	第一巻第一章～第十一章、発表と議論
第7回	『怒りにについて』②	第一巻第二章～第二十一章、発表と議論
第8回	『怒りにについて』③	第一巻第二十二章～第二十一章、発表と議論
第9回	『怒りにについて』④	第二巻第一章～第一十四章、発表と議論
第10回	『怒りにについて』⑤	第二巻第十五章～第二十九章、発表と議論

- 第11回 『怒りにについて』⑥ 第二巻第三〇章～第三巻第五章、発表と議論
- 第12回 『怒りにについて』⑦ 第三巻第六章～第一十六章、発表と議論
- 第13回 『怒りにについて』⑧ 第三巻第十七章～第二章七章、発表と議論
- 第14回 『怒りにについて』⑨ 第三巻第二十八章～第四三章、発表と議論

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。この作業はグループ発表時のレジュメ作成や、個人での小レポートの作成に役立ちます。

発表担当のグループは、各メンバーが内容を調べ、話し合いながら、発表用のレジュメを作成してください。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

セネカ、『怒りにについて 他二篇』(大西英文訳)、岩波文庫、2008年。

【参考書】

まずはセネカとストア派の著述を丁寧に読み取ることから始めてください。以下の一次文献は、授業全般を通してきわめて有益なので、少なくとも一つ以上は必ず読んでください。

- ・セネカ、『生の短さについて 他二篇』、岩波文庫、2010年。
- ・『セネカ哲学全集』、全六巻、岩波書店、2005年～2006年。
- ・『初期ストア派断片集』、全五巻、京都大学学術出版会、2000年～2006年。
- ・『キケロー選集』、全一六巻(とりわけ第八巻～第十二巻)、岩波書店、1999年～2002年

そのうえで、参考書を各自で探してみてください(授業内でも参考書については言及しますが、参考書を自身で探すことは大学で必要な作業です)。

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題や参加姿勢など)40%、発表20%、期末試験/レポート40%の割合とし、到達目標①～③の達成度合いに応じて成績評価します。

なお、欠席4回で不可としますので注意してください(事情がある場合は要相談)。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な読解と考察を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

・進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

・パソコン・携帯電話等は使用禁止とします。必ず手でノートを取ってください。

・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop basic skills to read philosophical writings through Seneca's texts and understand the ethics of the late stoics.

Seneca's writings are plain and simple, yet full of the power of acute insight and wisdom, and his thoughts are built on the ancient Greek and early Stoic tradition. By reading Seneca's reflections on the most ancient and philosophical question of how we should live, this course aims to develop the ability to read philosophical writings carefully and construct logical arguments, and build the foundations for the philosophical seminars of the following year.

Students are expected by the end of the course to understand the thoughts of Seneca, to construct their arguments logically through readings and discussions, and to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 40%, Presentation: 20%, Term-end examination or report: 40%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (1) - 1

奥田 和夫

授業コード：A2212 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

昨年度に扱ったアリストテレス『ニコマコス倫理学』に続いてアリストテレス『政治学』を取り上げる。

アリストテレスの考えでは倫理学は政治学を背景に成立する。ここでいう「政治学」はポリスの学のことであり、「人間は本性上、ポリス的動物である」からである。アリストテレスはこの問題領域においてどのような思想を展開しているのか、関連箇所を読み解き、今日における意義を考察する。

【到達目標】

アリストテレス『政治学』の正確な理解にもとづいたうえでこれを公正に評価することを目標とする。同時に、現代社会を考察する上で参考となる観点を構築することを望む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要と資料をもとに講義する。履修生は毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回に回答する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アリストテレスの学問体系と『政治学』の特徴
2	ポリスとは何か	ポリスとその起源の考察 市民の位置づけ
3	ポリスと市民 (国民) ポリスの目的	ポリスの同一性 よき人とよき市民 ポリスの目的、国制の諸形態
4	国制と最高権力	正しい国制と不正な国制 寡頭制と民主制 徳と最高権力
5	民主制と最善の国制	民主の主張 正義と平等 最善の国制とその統治者
6	王制と法	王制と王制に関する難問 法の支配
7	王制と正しい国制	絶対王制 政治学の対象 諸国制の優劣と検討課題
8	さまざまな国制	国制の数とその原因、その分類法
9	民主制と寡頭制	民主制と寡頭制 国内の階層 寡頭制と民主制の種類 それらの社会経済状況
10	貴族制、共和制、独裁制	貴族制の種類 共和制と貴族制の関係 共和制の混合法 独裁制の種類
11	最善の国制 国制の維持 審議制度	最善の国制 国家の階層と国制の関係 国制の存続条件 寡頭制と民主制の国制維持法 国制内の審議制度
12	統治の役職 裁判制度 内乱	国家統治の役職 裁判 内乱と国制の変革の原因
13	内乱と国制変革	内乱と国制の変革の原因 (一般論と個別論) 民主制、寡頭制、貴族制の変革と内乱の原因
14	最善の生活 まとめ	最善の生活とはどのようなものか 教育の問題 まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自『政治学』の日本語訳書を読む。

【テキスト (教科書)】

授業では毎回、授業概要のプリントと必要な資料を配布する。『政治学』の日本語訳書について初回の授業で紹介、説明する。

【参考書】

必要時応じて、適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」を基準とし、内容理解度を確認するための中間試験、期末試験により評価する (各50%ずつ)。

【学生の意見等からの気づき】

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】の項を参照してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソクラテス、プラトンを中心とする古代ギリシア哲学

<研究テーマ> 現在の持続的テーマはプラトンの政治哲学である。

<主要研究業績>

「正しい人の快楽—プラトン『国家』第九巻における快樂論の意味—」(『法政大学文学部紀要』第48号 2003年)

「プラトンの人間観—『国家』における国家と人間の類型論を中心に—」(『プラトニズムにおける人間観の変遷』平成14~17年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))研究成果報告書2006年)「自然と人間—プラトンの自然思想から」(共編著『自然と人間』梓出版社2006年)「哲人王の行方」(日本西洋古典学会編『西洋古典学研究』第59号 岩波書店 2011年)「哲人王の行方」補説」(『西洋古典研究会論集』第21号 2012年)「最善の国家と次善の国家—プラトン『法律』708E-712B,739A-E,875-C-D-」(『法政大学文学部紀要』第80号2020年)

【Outline (in English)】

(Course outline) In this class we study Aristotle's "Politics".

(Learning Objectives) The Objectives of this course are study of the book, understanding of the way the author thinks and estimation of his thoughts on the problems of philosophy and politics.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy) Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end examination (50%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (1) - 2

山下 真

授業コード：A2213 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義のテーマは、「パースペクティヴィズムの哲学史」です。「パースペクティヴ」という言葉は、一般的には「視点・観点」、絵画の技法としては「遠近法・透視図法」と訳されます。例えば、私たちが物を見る時、近くの物は大きく、遠くの物は小さく見えます。また、表面は見えても裏面は見えず、一度に見える範囲も限られます。主体にとって物の見え方は、常に特定の「視点」や「角度」に縛られているからです。この「パースペクティヴ」が哲学において比喩として用いられると、人間の知の構造を意味します。誰もが、自分の生きる「今・ここ」に固有の「視点」を持ち、他人とは取り換えの利かない独自の「個体」として世界を経験しています。そして、こうした有限な生の構造から生じる制約や意義に着目するのが、「パースペクティヴィズム (遠近法主義)」の思想です。「パースペクティヴィズム」はニーチェが用いた概念として有名ですが、哲学史上には、その源流や発展の諸形態が見られます。本講義では、近世から現代に至る西洋主体主義の系譜の中に、パースペクティヴ的な問題を読み取っていきます。

主体は、自己のパースペクティヴの独自性に気づく時、異質な他者のパースペクティヴとも衝突することになります。受講者は、パースペクティヴィズムの本質と展開を学ぶことで、そうした多元性の思考への理解を深めることとなるでしょう。

【到達目標】

受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。
① 哲学的パースペクティヴィズムの基本的な問題設定を学ぶ。
② 取り上げる個々の哲学者たちの課題や諸概念を的確に捉え、パースペクティヴィズムの具体的展開として理解する。
③ 現代に生きる自分たちにとって、パースペクティヴの思考が持つ意義と限界を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、テーマとなる哲学者の中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えていきます。受講者には、出席票を兼ねたコメントカードで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次回の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要と導入	パースペクティヴ概念の由来と問題構成
第2回	プラトン	イデア論の反パースペクティヴ性
第3回	クザヌス	「神を観る」と「神が観る」の神秘思想
第4回	ライプニッツ	モナドとしての個性
第5回	カント (1)	パースペクティヴのコペルニクス的転回
第6回	カント (2)	批判哲学における視点の二重性
第7回	ニーチェ (1)	神の死とパースペクティヴィズム
第8回	ニーチェ (2)	力への意志と解釈一元論
第9回	ハイデガー (1)	世界内存在と解釈
第10回	ハイデガー (2)	視点の根源的な受動性と能動性：被投と企投
第11回	ヤスパース (1)	実存というパースペクティヴ
第12回	ヤスパース (2)	他者の実存との交わり
第13回	アレント	真理の語りと政治
第14回	講義全体の総括	パースペクティヴィズムは相対主義を超え得るか

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること (大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回4時間以上が標準とされています)。

各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

多岐に渡るので、各回の授業内で配布資料に掲載して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびコメントカードでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点 (50%) と、学期末の課題レポート (50%) で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な事例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学的知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。コメントカードへの応答は参考になるとの声が多いので、各回時間を取って対応しています。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with the philosophy of perspectivism. The concept of "perspective" originally means the painting technique that expresses three-dimensional space on a two-dimensional plane, and generally "point of view". But "perspective" as a philosophical metaphor means the structure of human cognition. Human existence as the finite individual experiences the world in its unique "now and here" in which it lives. Perspectivism is well known as a central concept in Nietzsche's thought, but in this class we will discover its origins and forms of development in the genealogy of western subjectivism. The student will acquire basic knowledge about the philosophical perspectivism and its pluralistic character.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to

- (1) learn basic knowledge about the history and development of philosophical perspectivism.
- (2) understand as contemporary problems and its meaning of the perspective thinking.

[Learning activities outside of classroom]

Before/ after each class meeting, students will be expected to have read the teaching materials and reference books. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria]

Grading will be decided based on usual performance score (50%), and final paper (50%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (3) - 1

佐藤 真人

授業コード：A2216 | 曜日・時限：木3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デカルトの自由意志論は、西洋哲学史において革新性をなすと同時に、伝統的な自由意志概念の上に確立されたものでもあると言えます。その伝統性とはいかなる内容であり、その革新性はいかなる点にあるのか。「理性の哲学者」と言われるデカルトは、自らの自由意志論をいかにして確立し、それは何に対する批判と超克をめざしていたのか。後進の哲学者たちは、デカルトの自由意志論の何を受け継ぎ、何を容認しなかったのか。

こういった論点についてデカルトを中心に、西洋近世までの自由意志論が織りなす一つの流れを読み解くことが本講義の目的です。

【到達目標】

- ① 近世までの西洋哲学史における自由意志論の流れを正確に理解する。
- ② デカルトの自由意志論を正確に理解し、説明できる。
- ③ 十七世紀哲学における決定論と自由論を正確に理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で、哲学者の思想や配布した著述について、スライド資料を用いつつ説明します。授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー (各自の考察を論述) を毎回提出してもらいます。その幾つかを次回授業で共有し、コメントします。

また、人数次第で中間の小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古代ギリシアの自由意志論	プラトン、アリストテレス等
第2回	ストア派の自由意志論	運命と自由、種子的ロゴス
第3回	新プラトン主義の自由意志論	摂理と悪
第4回	罪と悪①	アウグスティヌスの自由意志論
第5回	罪と悪②	トマス・アクィナスとドゥッソ・スコトゥスの自由意志論
第6回	近世スコラ学における自由意志概念	モリナ、スアレスの自由意志論
第7回	初期デカルトにおける理性、知性、自由意志	数学研究、『精神指導の規則』、『永遠真理創造説』
第8回	『方法序説』の理性主義と『省察』第四部の転回	理性から「神の似像」としての自由意志へ
第9回	『哲学原理』の転回	自由意志の非決定性
第10回	デカルトへの反論 I	ガッサンディとホップズの唯物論
第11回	デカルトへの反論 II :スピノザ①	『エチカ』の決定論
第12回	デカルトへの反論 II :スピノザ②	『エチカ』の自由論
第13回	ライブニッツによる自由論と摂理の調和①	『形而上学叙説』その他

第14回 ライブニッツによる『モノドロジー』『弁神論』その他自由論と摂理の調和②

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がもっと深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、もっと知りたいという思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

重要な箇所はHoppii上で配布します。近世ではデカルト『省察』、スピノザ『エチカ』、ライブニッツ『形而上学叙説』『モノドロジー』の関連箇所を中心に考察予定 (購入は任意)。

【参考書】

G・ロディス・レヴィス、『デカルトの著作と体系』、紀伊国屋書店、1990年

野田又夫、『デカルト』、岩波新書、1966年

小林道夫、『デカルト入門』、ちくま新書、2006年

同、『デカルト哲学の体系』、勁草書房、1995年

上野修、『スピノザの世界』、講談社現代新書、2005年

大西克智、『意志と自由 —一つの系譜学—』、知泉書館、2014年

金子晴勇、『近代自由思想の源流』、創文社、1987年

村治能就、『摂理と運命と自由意志』、東海大学出版会、1973年

その他は授業で適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクション・ペーパーの内容や参加姿勢) 約40%、期末試験 (またはレポート) 約60%の割合で、到達目標の達成度合いに応じて成績評価します。

なお、欠席4回で不可としますので注意してください (事情がある場合は要相談)。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

・進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

・パソコン・携帯電話等は使用禁止とします。必ず手でノートを取ってください。

・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

Descartes' theory of free will is an innovation in the history of Western philosophy, but at the same time, it builds on the traditional concept of free will. What is the meaning and significance of this innovation, how was it formulated and what was it aimed in criticizing traditional theory? And what did later philosophers inherit from Descartes' theory of free will, what did they criticize and try to transcend it?

The purpose of this lecture is to decipher one stream of free will theory, from the ancient Greek philosophy until the Early Modern philosophy, centered on Descartes.

Students are expected by the end of the course 1) to understand precisely the contents of the theories of Descartes, Spinoza and Leibniz of free will in comparison with Scholastic philosophy, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through discussions with others, 3) to construct their arguments logically through readings and discussions, and 4) to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 40%, Term-end examination or report: 60%.

PHL300BB (哲学/Philosophy 300)

哲学特講 (3) - 2

古屋 俊彦

授業コード：A2217 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。ソシュール自身が書いた草稿も合わせて読む。

構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。更に構造主義思想の具体的な展開を知るためにデュルケムとモースとレヴィ=ストロースの著書を参照する。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトで提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点を検討して次の日に返答する。受講報告についても同様に次の日に詳しく返答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して講義と同時に開示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第2回	まえおき その1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第3回	まえおき その2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係、比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第4回	まえおき その3	デュルケム、モース、レヴィ=ストロースなどの構造主義思想の展開
第5回	前年度までの内容 その1	序論
第6回	前年度までの内容 その2	第1部 一般原理
第7回	前年度までの内容 その3	第2部 共時言語学
第8回	前年度までの内容 その4	第3部 通時言語学
第9回	前年度までの内容 その5	第3部と第4部への付録
第10回	前年度までの内容 その6	第4部 言語地理学
第11回	第4部 言語地理学	第1章から第2章 第3章 地理的多様性の原因 第4章 言語的な波の伝搬
第12回	第5部 回顧的言語学の諸問題	2つの観点 第2章 最古の言語と原型 第3章 再建
第13回	第5部 回顧的言語学の諸問題	第4章 人類学と先史学での言語の証拠 第5章 語族と言語類型
第14回	ソシュール自身の草稿	一般言語学講義メモなど

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直ししながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『一般言語学講義』フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、3500円

【参考書】

フェルディナン・ド・ソシュール『一般言語学』著作集、岩波書店
エミール・デュルケム『社会学的方法の規準』、岩波文庫
マルセル・モース『贈与論』、岩波文庫
それ以外は、授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文60%

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。

平常点40%

毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline (in English)】

(Course outline)

Reading of the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure in Japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.

(Learning Objectives)

Understanding the fundamental concept concerning essence of language in the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure, and as a background knowledge, the history of linguistics of 19 and 20 century, and the influences to the contemporary thinking especially the structuralism. On the assumption of that, the continuous exercise is writing and polishing of the essay on the own thinking about the language.

(Learning activities outside of classroom)

Reading of the concerned text in advance of each lecture, and extracting the phrases that is obscure. At the same time, try to write and polish of the essay continuously.

(Grading Criteria /Policies)

writing and polishing of the essay concerning language: 60%
short reports to each lecture: 40%

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (4) - 1

菅沢 龍文

授業コード：A2218 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カント『道徳形而上学の基礎づけ』の内容についてテキストに沿って順次学び、考えます。毎回のテーマの内容について考えることにより、全体としては、カント倫理学に独特の考え方についての理解を深め、良心に従って道徳的に生きるとはどういうことかを考えます。

【到達目標】

- (1) カント倫理学の基本知識を身につける。[知識]
- (2) 行為の道徳的価値について考えて振る舞う態度を身につける。[態度]
- (4) 哲学的・論理的な文章の意味を読み解き、論理的な文章で自分の考えを伝えることができる。[技能]

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) プロジェクターおよびプリントを用いて説明し、質問を受け付けます。
- (2) 毎回考察のための課題を課します。この課題について作文をして授業支援システム (Hoppii) に提出します。
- (3) 授業の初めに、前回に提出された課題作文についての気づきを、フィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(1)オリエンテーション (2)道徳哲学 ※1-9段落	(1)本授業について (2)なぜ道徳哲学は純粋でなければならないのか
第2回	善い意志 ※15-20段落	なぜ善い意志は無制限に善いのか
第3回	理性 ※18-27段落	なぜ人間に理性が与えられているのか
第4回	道徳的価値 ※23-27段落	なぜ「義務に合う」と「義務に基づく」とを区別するのか
第5回	行為の格率 (格律) ※28-32段落	なぜ行為の意図ではなく格率 (格律)が問題なのか
第6回	自己 ※38-41段落	なぜ愛しい自己を抑制しなければならないのか
第7回	意志 ※45-51段落	なぜ意志は実践理性に他ならないのか
第8回	幸福追求の行方 ※52-74段落	なぜ仮言命法ではなく定言命法なのか
第9回	人格 ※75-84段落	なぜ物件と人格を区別するのか
第10回	目的自体 ※85-87段落	人格は手段か目的か
第11回	目的自体と自己立法 ※88-91段落	なぜ素質を伸ばすことと親切であることは義務であるのか
第12回	意志の自律 ※92-95, 116段落	なぜ意志は自分で自分を律するべきなのか
第13回	目的の国 ※98-110段落	なぜ国が道徳的でなければならないのか
第14回	全体を振り返っての考察	カント倫理学で良心に従って道徳的に生きるとはどういうことか、に関する考察をレポートする

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

(予習) 授業で取り上げる段落をしっかりと読み込んでおく。

(復習) 授業で出た課題作文を学習支援システム (Hoppii) に提出する。授業でよく理解できなかった点について、テキストやプリントを繰り返し読み返し、参考書や哲学事典を調べるなどして理解に努める。

【テキスト (教科書)】

カント『道徳形而上学の基礎づけ』中山元 訳、光文社古典新訳文庫 (段落番号付き)

【参考書】

カント『道徳形而上学の基礎づけ』御子柴善之訳 人文書院 (最新訳)
カント『道徳形而上学の基礎づけ』宇都宮芳明訳、以文社 (段落番号付き)
カント『プロレゴメナ 人倫の形而上学の基礎づけ』(『基礎づけ』は野田又夫 訳)、中公クラシックス

カント『人倫の形而上学』(カント全集：岩波版・第11巻、理想社版・第十一巻)

カント『実践理性批判』(岩波文庫、他)

ペイトン『定言命法』(行路社)

高峯一愚『カント講義』(論創社)

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準

- (1) 出席および参加態度と、毎回の課題作文への取り組み
 - (2) セメスター末 (第14回) の期末レポート
- (1) を7割、(2) を3割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

課題作文を作成して提出するために学習支援システム (Hoppii) を用いるので、インターネットに接続可能なパソコン (推奨) または、タブレットやスマホが必要となります。

【Outline (in English)】

We learn and think about the contents of Kant's "Groundwork for the Metaphysics of Morals" along the text one after another. On the whole we learn Kant's way of thinking which is peculiar to his ethics and we study what it means to live morally along our conscience.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (4) - 2

近堂 秀

授業コード：A2219 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イマヌエル・カントの哲学思想の現代的意義をマルティン・ハイデガーの『純粋理性批判』解釈に注目して検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

カントの主要著作を読み、関連文献を参照しながら、カントと現代の哲学思想の関係を考察する。授業は講義形式で進め、課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第2回	カントの哲学思想(1)	カント哲学の概要
第3回	カントの哲学思想(2)	『純粋理性批判』の内容
第4回	カントの哲学思想(3)	超越論的感性論
第5回	カントの哲学思想(4)	空間概念の形而上学的究明—第一、第二の議論
第6回	カントの哲学思想(5)	空間概念の形而上学的究明—第三、第四の議論
第7回	カントの哲学思想(6)	空間概念の超越論的究明
第8回	カントの哲学思想(7)	時間概念の形而上学的究明
第9回	カントの哲学思想(8)	時間概念の超越論手究明
第10回	カントとハイデガー(1)	新カント派とハイデガー
第11回	カントとハイデガー(2)	ハイデガーの『純粋理性批判』解釈
第12回	カントとハイデガー(3)	ハイデガーの超越論的感性論解釈
第13回	カントとハイデガー(4)	ハイデガーの解釈以後の展開
第14回	カントの哲学思想の現代的意義	カントと現象学、分析哲学、プラグマティズム

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業内で指示する。

【参考書】

牧野英二編『新・カント読本』、法政大学出版局、2018年。
 近堂秀『『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈——カントにおける知の非還元主義』、晃洋書房、2018年。
 トム・ロックモア『カントの航跡のなかで——二十世紀の哲学』牧野英二監訳、法政大学出版局、2008年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ30%と70%の割合で評価する。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容と学生の内容理解度とのバランスを調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the philosophical problems of Kant and Heidegger.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamental problems of Kant's philosophy and modern philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (5) - 1

西塚 俊太

授業コード：A2220 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、日本の近代哲学・倫理学を代表する和辻哲郎の著作を読み解くことを通じて、日本近代思想の一端の把握を目指す。講義形式ではあるが、原典の読解を軸にすることで、最終的に自身で哲学書を読み進めていく力を養成することを目的としている。

【到達目標】

- ・日本近代の哲学書を読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の始めに、前回の講義で提出された課題の講評を行いフィードバックをする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本近代思想を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明 日本近代哲学の特徴はいかなる点に存在するのか
第2回	「倫理」という言葉の意味	和辻哲郎『人間の学としての倫理学』(岩波文庫) pp.9-18 以下の回のページ数はすべて岩波文庫版による
第3回	「人間」という言葉の意味 「世間」あるいは「世の中」の意義	『人間の学としての倫理学』 pp.18-38の解説
第4回	「存在」という言葉の意味 人間の学としての倫理学の構想	『人間の学としての倫理学』第一章の出だしのまとめ pp.38-52
第5回	アリストテレス論	個々の思想家の解説の開始、アリストテレス論 pp.52-69
第6回	カントのアントロポロジー	カントの人間学の考察 pp.69-83
第7回	コーヘン論	コーヘンの人間の「概念」化についての検討 pp.83-102
第8回	ヘーゲルの人倫の学	ヘーゲルの人倫の検討の開始 pp.102-126
第9回	ヘーゲルと和辻哲郎	ヘーゲルの人倫の思想と和辻哲郎の人間の学の対比 pp.126-152
第10回	フォイエルバッハの人間学	フォイエルバッハによる近代的な思考の登場 pp.152-165
第11回	マルクスの人間存在	哲学思想としてのマルクス pp.165-180
第12回	人間の問い 問われている人間	『人間の学としての倫理学』の方法論の検討の開始 pp.181-198
第13回	学としての目標 人間存在への通路	和辻倫理学の方向性の確定へ向けての検討 pp.198-233
第14回	和辻倫理学の解釈学的 方法	和辻倫理学の方法論の確認 pp.233-258

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。

また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。

本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書として和辻哲郎『人間の学としての倫理学』(岩波文庫)の2007年以降の版を指定する。毎回の講義において必ず使用することになるため、受講に際して必須の教科書となる。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価 (45%) と、学期末レポート (55%) によって評価する。

講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応をより厳密することで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

講義終了後に質問を受け付けているが、時間の余裕がない場合はhoppiiの掲示板機能などを利用しての質問を随時受け付けている。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本近代哲学・日本思想史
<研究テーマ>京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史(神・儒・仏・物語・武士道など)の研究

<主要研究業績>

- ① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」(『日本倫理思想論究 第2号』、2014)
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』(勢力尚雅 編共著、2015)
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」(『倫理学紀要第26輯』、2019)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading the writings of Tetsuro Watsuji. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (5) - 2

相原 博

授業コード：A2221 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業の内容は、「考えながら学ぶ哲学」の基礎編です。授業では毎回、私たちに身近なテーマを取り上げて、そのテーマにかんする哲学の基本的な考えを学びます。身近なテーマとは、授業計画にあるように、愛や美、動物愛護や環境保護、運命との付き合い方や悪の存在などです。これらのテーマについて、過去の哲学者の考えを紹介することで、受講生が「自分で考える」ためのヒントを提供する予定です。また哲学を学ぶことは、たんに過去の哲学者の考えを理解すること、暗記することではありません。自分で考えることにこそ、哲学の哲学たるゆえんがあります。そのため、授業では実際に問題を考えてもらうことで、自ら「哲学する」訓練をしてもらいます。具体的には、哲学の問題について、他の受講生たちと対話してもらいます。それによって、自分で考える力、哲学的に考える能力を得ることを目的とします。

【到達目標】

第一に、哲学にかんする知識を身につけながら、自分で説明することができる。第二に、日常の様々な出来事について、哲学的に問題を立てて考えるときともに、論じることができる。第三に、議論を通して、多様な意見の存在を知り、自分の考えを深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、毎回の授業ではグループで議論し、その結論を発表してもらいます。受講にあたって、自分自身で考えること、他の受講生と議論すること、また授業で発言できることが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・哲学とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第2回	愛とは何か	フロムとプラトンの考えを説明する
第3回	美しさとは何か	ヒュームとカントの考えを説明する
第4回	芸術とは何か	ルソーとニーチェの考えを説明する
第5回	嘘をつくのは悪いことか	ベンサムとカントの考えを説明する
第6回	医療技術はどう利用すべきか	エンハンスメントの本質とハーバマースの考えを説明する
第7回	差別とは何か	差別の本質とホルクハイマーおよびアドルノの考えを説明する
第8回	なぜ動物虐待はいけなのか	シュヴァイツァーとシンガーの考えを説明する
第9回	なぜ環境に配慮すべきなのか	レオポルドとヨナスの考えを説明する
第10回	国家は何のためにあるか	ホッブズとヘーゲルの考えを説明する
第11回	運命とどう向き合うべきか	セネカとショーペンハウアーの考えを説明する
第12回	なぜ悪いことが起こるのか	アウグスティヌスとヨナスの考えを説明する
第13回	どう生きればよいのか	ニーチェとサルトルの考えを説明する
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

貫成人『哲学マップ』、ちくま新書、2004年。
熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ』、岩波新書、2006年。
熊野純彦『西洋哲学史—近代から現代へ』、岩波新書、2006年。
伊藤邦武『物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために』、中公新書、2012年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度と授業後のレポートによって、哲学者の考えを理解しているかどうか、また自分の考えを表現できるかどうか評価します(40%)。また学期末試験によって、哲学者の考えを正しく理解しているかどうか、また哲学的に問題を立てて考え、論じることができるかどうか評価します(60%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline (in English)】

The content of this course is the basic part of "Learning Philosophy While Thinking". In each class, we will take up a theme that is familiar to us and learn the basic philosophical ideas related to that theme. Familiar themes include love and beauty, animal welfare and environmental protection, how to deal with fate, and the existence of evil, as described in the lesson plan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. While acquiring knowledge of philosophy, students will be able to give their explanations.

B. Students will be able to formulate, think about, and discuss philosophical issues regarding various everyday events.

C. Through discussion, students can learn about the existence of diverse opinions and deepen their thinking.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%、Short reports and in class contribution: 40%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (6) - 1

大橋 基

授業コード：A2222 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教とドイツ近代哲学に対するニーチェの批判を学び、「神なき時代」において「理性」が直面する課題を考える。

【到達目標】

キリスト教を世俗化したドイツ近代哲学の功罪両面を説明できる。
ニーチェの批判的思考の意義と難点を具体的な事例に即して説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」(学生各自が学習支援システムからプリントアウト・持参する、または、授業時にPCで参照する)を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する(教員からの回答は、次回授業時とする)。

期末レポートの評価に関しては、「学習支援システム」の「お知らせ」を用いて、提出者全体の回答傾向に応じた「総評」を示す。また希望者には、同システムの「課題」から、各自のレポートに対する「コメント」を返却する(ただし、得点は開示しない)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要・授業方法・成績評価の説明
2	「狂人ニーチェ」の悲痛な箴言	「死」を宣告された「神」とは何か？
3	「市民社会」と「教養俗物」	19世紀ドイツの近代化とその文化的反動
4	「ニヒリズム」の三つの形態	ニーチェの批判的思考を辿るための見取り図
5	ショーペンハウアーの哲学とワグナーの楽劇	「世界」に対する悲嘆と「芸術」に期待しうる役割
6	「大衆向けのプラトン主義」としてのキリスト教	ナザレのイエスを「キリスト(救世主)」へと変貌させた仕組み
7	「ルサンチマン」の産物としての「道徳」	人工物である「道徳」を神聖視させる仕組み
8	善悪を定める「理性」に対するニーチェの批判	「定言命法」というカントの道徳原理とその問題点
9	「ドイツ・ナショナリズム」に対するニーチェの批判	フィヒテの普遍主義的な「民族」概念とその問題点
10	社会化された「自由」に対するニーチェの批判	ヘーゲルにおける「相互承認」に基づく「自由」とその問題点
11	「ニヒリズムの極限」としての「永遠回帰」	過酷な「運命」を愛する「超人」の境地
12	「善悪の彼岸」における「価値の創造」	ニーチェの思想に忍び寄る「神殺しのパラドクス」
13	ドイツ現代哲学へのニーチェの影響	ハイデガーの「存在論」とフランクフルト学派の「批判理論」
14	期末レポート	現代社会で「理性」に求めうるのは何か？

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学習支援システムにアップされている該当回の「講義用資料」を参照して、その要点や疑問点を整理し、授業のさいに確認・質問できるようにしておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

指定しない。

【参考書】

授業内に、適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(小論文形式)70%、平常点30%の比率で、成績評価を行い、60点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする(そのさい学生の個人名は伏せる)。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやzoomを利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the problems of German philosophy has its origin in Christianity from the viewpoint of Nietzsche's critical thoughts that tried to release human life from religious restraint. It deals with four themes as follows: 1. Nietzsche's "Nihilism" to be opposed to re-Christianization in the German society, 2. Christianity as "Platonism suitable for the populace" and Morality as the product of the "ressentiment", 3. Limits of the human reason in the German philosophical theories such as following: Kant's moral principle called categorical imperative, Fichte's universalistic concept of nation, and Hegel's interpretation of freedom as mutual recognition, 4. The thought experiment called "eternal return" in order to reach the state of the "super-human". By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the possibility and limit of our reason. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (6) - 2

内藤 淳

授業コード：A2223 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メタ倫理学における「道徳の認識論」に関する講義を行う。メタ倫理学とは、「努力するのは善いことだ」「泥棒は悪い」などというときの「善い」「悪い」とは正確にはどういう意味なのかという「善悪の分析」をする学問で、その中の「道徳の認識論」とは、道徳的な問いに「答える」とはいったいどういうことなのか、その意味を分析する議論を指す。こうした議論に関する基本的な学説や理論を解説し、そこでの論点や問題点を検討するのが講義の内容である。これらを学ぶことにより、受講生が、物事の善悪を判断する意味について通常よりも一段階踏み込んだ次元で理解し、自分や他者の考えをメタレベルの視点で分析できるようになることが授業の目的である。

【到達目標】

- ①メタ倫理学における認識論の基本的な論点を把握する。
- ②それに関する主要な学説と理論の内容、それらの間の対立点などを理解する。
- ③それぞれの学説・理論に対する賛成／反対を含めた自分の考えを形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施し、授業の中で重要論点についてのディスカッションやコメント提出などを適宜行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説をする。

授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースに応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方とメタ倫理学の概要について
第2回	道徳的な問いに「答える」とは？	認知主義と非認知主義について
第3回	表出主義	表出主義の基本的な考え方と特徴について
第4回	情緒主義 (1)	情緒主義の代表的論者であるエイヤーの基本的な考え方と特徴について
第5回	情緒主義 (2)	情緒主義の代表的論者であるステイーブソンの基本的な考え方と特徴について
第6回	指令主義 (1)	指令主義の代表的論者であるヘアの基本的な考え方と特徴について
第7回	指令主義 (2)	指令主義の問題点について
第8回	規範表出主義 (1)	規範表出主義の代表的論者であるギバードの基本的な考え方と特徴について
第9回	規範表出主義 (2)	規範表出主義の問題点について
第10回	認知主義	認知主義の基本的な考え方と特徴について
第11回	内在主義と外在主義 (1)	動機づけに関する内在主義と外在主義の違いについて
第12回	内在主義と外在主義 (2)	内在主義と外在主義の対立をめぐる問題点と考察ポイントについて
第13回	動機づけに関するヒューム主義	信念と欲求との区別、およびそれと行為との関係について
第14回	全体のまとめ	道徳に関する認知と動機づけの関係について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 事前にテキストの該当箇所を読み、記載されている参考文献を適宜読んでおく。
 2. 復習として、各回の授業で解説された内容を見直し、特に理論の筋道を整理して理解する。
 3. コメントや小論文の課題などが出された場合は、テキストと参考文献の内容を踏まえて自分の考えをまとめてそれらを作成する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

佐藤岳詩『メタ倫理学入門：道徳のそもそもを考える』勁草書房、2017年

【参考書】

佐藤岳詩『「倫理の問題」とは何か：メタ倫理学から考える』光文社新書、2021年
永井均『倫理とは何か：猫のインジヒトの挑戦』ちくま学芸文庫、2011年
安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか：要説・倫理学言論』世界思想社、2013年

【成績評価の方法と基準】

期末課題により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末課題ではなく期末試験もしくは授業内試験にする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する (要素配分は、期末課題80% + 授業内課題20%の予定)。

【学生の意見等からの気づき】

理論的な内容が多く含まれるため、受講生とのコメント等のやりとりを重視しつつ、なるべく具体的に平易な説明を心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the epistemology of morality in meta-ethics.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to understand basic theories of the epistemology of morality in meta-ethics and to be able to analyze their own ideas about the meaning of moral judgements.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 80%, Short reports in class: 20%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (7) - 1

君嶋 泰明

授業コード：A2224 | 曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

Before each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

20世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガーが独自に生み出した哲学的アイデアのうち、とりわけ重要なものを毎回一つずつ取り上げ、その意味することを、ときにはハイデガー自身の不十分さを乗り越えてわれわれの満足のいくまで押し広げ、理解することを目指します。これにより、受講生はハイデガー哲学の勘所をつかむとともに、彼の思考の展開する次元に親しむことができます。

【到達目標】

①授業で取り上げるハイデガーの哲学的アイデアを理解する。

②ハイデガーの哲学的思考の展開する次元に親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていきます。毎回のリアクションペーパーの提出を求めます。質問への回答は次回授業の冒頭に行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業でいう「哲学的アイデア」とは何か
第2回	方法としての現象学	なぜ「現象学」という方法が採用されるのか
第3回	実存の有限性	実存が有限なものとなるのはいかにしてか
第4回	存在と時間	なぜ存在は時間的性格をもつか
第5回	一なる全体	存在しているものの全体をいかにして捉えるか
第6回	真理の構造	真理とは何であり、どのような構造をもっているか
第7回	アприオリなもの	アприオリとは何の謂いか
第8回	西洋哲学史観	ハイデガーは西洋哲学史をどのように理解したか
第9回	技術の呪術的性格	どうして人間は技術を発展させてきたか
第10回	人間の頹落する傾向	どうして人間は何事においても「ありあわせ」で済ませようとするのか
第11回	存在と言葉	存在と言葉はどのような関係にあるのか
第12回	起源の反復=案出	起源について語ることはどのような意味をもつか
第13回	価値の源泉としての自然	自然が価値の源泉だといえらば、それはどのような意味か
第14回	まとめ	授業で扱った「哲学的アイデア」の地図を描く

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問してください。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません

【参考書】

適宜授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が50%、期末レポートが50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with some of the most important Martin Heidegger's philosophical ideas.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to fundamentally understand Heidegger's philosophical ideas.

(Learning activities outside of classroom)

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (7) - 2

編澤 和彦

授業コード：A2225 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カントの理論哲学を学ぶ

わたしたちは、数学や自然科学において、その事柄を普遍的かつ必然的に認識することができます。しかし、このようなア・プリオリな認識は、どのようにして成り立つのでしょうか。カントは、わたしたちの感性と悟性、そして、それらを媒介する構想力のはたらきによって、この認識(知識)の問題に答えます。本授業は『純粹理性批判』の感性論と分析論を通して、カントの理論哲学を分かりやすく解説していきます。

【到達目標】

- ①カント認識論の学習を通して、より容易に彼の批判哲学に入っていくことができる。
- ②事実問題(ある事柄が現に成り立っていること)と権利問題(その事柄の可能性の条件を問うこと)を使い分けて、哲学的な考え方を身につけることができる。
- ③論拠に基づいて、筋道を立てて文章を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行われ、3回から4回に1度の割合でグループワーク(ディスカッションを含む)の時間を取ります。グループワークの目的は、授業内容が理解されているかを確認すること、ならびに、ディスカッションを通じて内容理解の深化を図ることです。課題の出題・提出、評価は、学習支援システムHoppiiを通じて行います。出席・質問・感想は、各授業の教材欄にあるGoogle Formに記入してください。各授業の最後に、その認証コードをお伝えします。質問に対する解答は、次回授業時の冒頭で行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員の自己紹介、授業の到達目標、教育内容と方法、参考書、成績評価の方法と基準、受講上の注意について説明します。
第2回	カント哲学の出発点	形而上学の根本問題、ライプニッツ・ヴォルフ哲学との対決、存在論と認識論などの概念を解説します。
第3回	コペルニクスの転回の意味	客観と主観、思考法の革命、理性の自己反省について学びます。
第4回	超越論的主観性の概念	現象と物自体、超越論的と超越的、主観性、数学および代数学の命題の構成を解説します。
第5回	第1回グループワーク	第1回から第3回の課題の内容についてグループワークを行います。
第6回	ア・プリオリな総合	ア・プリオリとア・ポステリオリ、分析判断と総合判断、ア・プリオリな総合、純粹直感、投企(投げ入れ)の概念を説明します。
第7回	経験の可能性の条件	直観形式としての空間と時間、純粹悟性概念としてのカテゴリー、演繹および図式概念について説明します。

第8回	分析論：カテゴリーの体系	アリストテレスのカテゴリー論に対する批判、カテゴリーの導出原理(判断表)、量・質・関係・様相のカテゴリーの体系を解説します。
第9回	分析論：直観の公理の原則	外延量(空間的大小さ、幾何学的形象)の産出、構想力の形成的総合と現象における把握の総合について説明します。
第10回	第2回グループワーク	第5回から第8回までの課題の内容についてグループワークを行います。
第11回	分析論：知覚の先取の原則	感覚、現象的実在性、内包量(質)の概念、物理的変化の連続性を解説します。
第12回	分析論：経験の類推の原則	類比と比例、時間の三つの根本規定としての持続性、継起、同時存在、そして、実体、因果性、相互性のカテゴリーについて説明します。
第13回	分析論：経験的思考一般の要請の原則	認識主体と客体との関係、可能性、現実性、必然性の概念を説明します。
第14回	第3回グループワークと授業全体のまとめ	第11回から第13回までの課題の内容についてグループワークと授業全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定した箇所のテキストを読み、理解できない点をまとめる。また、それに関連する哲学の諸概念を調べる。(2時間)
復習：再度テキストを読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認する。さらに質問があれば、Google Formに質問を記入してください。(2時間)

【テキスト(教科書)】

牧野英二編『新・カント読本』(法政大学出版局)

【参考書】

原佑/渡辺二郎[訳]『純粹理性批判』上、中、下(平凡社ライブラリー)

【成績評価の方法と基準】

①平常点と毎回の課題プリント(到達目標の知識と態度の習得)、②セメスター末の期末レポート(到達目標の技術の習得)。①と②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、カントの理論哲学の概念とその議論を的確に理解しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が確かかどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで休んでも、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされてありますので、Hoppiiから教材をダウンロードして、自習なさってください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システムHoppiiとGoogle Formを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

Google Formに入力する出席は必須ですが、質問と感想の入力は任意です。授業終了後に出席だけ先に出して、後で質問と感想を書くこともできます。また、授業時間内に、Google Formを入力する時間も設けます。

【Outline (in English)】

In mathematics and natural science, we can universally and necessarily recognize objects and events. But how does this recognition come about? Kant gives an answer to this problem through the workings of our cognitive faculties - sensibility, understanding, and imagination. This class will explain Kant's theoretical philosophy through the aesthetic and analytic of the *Critique of Pure Reason*.

The following are the goals of studying Kant's epistemology:

1. To understand his critical philosophy. 2. To develop a philosophical way of thinking by analyzing the question of fact (the truth behind a matter) and the question of right (the conditions needed for that matter to be possible). 3. To improve writing skills by constructing well-reasoned arguments.

Homework: Read the textbook and the handouts in Hoppii to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of epistemology (2 hours).

Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward lecture, evaluation of assignments, etc.) and (2) Spring semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (8) - 1

木島 泰三

授業コード：A2226 | 曜日・時限：月2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

備考 (履修条件等)：心理学科生は「科学哲学 I」として履修。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「機械論的自然観と感覚的性質の問題」というテーマで、近代科学の成立に伴う世界観の変動の一端を考察する。「17世紀科学革命」において成立した「機械論的自然観」において、色や音のような「感覚的性質」あるいは「第二性質」の位置づけは大きく変動した。つまりこれらの性質はそれまで、日常的な世界認識の延長線上で、世界そのものを特徴づけるリアルな性質と見られていたのだが、それが我々認識主体の内部にしか存在しない性質であると見なされるようになったのである。本講義ではこの主題を、近代における自然観の変化や、日常的世界像と科学的世界像のギャップ、といった問題と結びつけて考えていく。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史的事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、上記の事項および諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後Hoppiiの課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、Hoppiiの課題提出機能から受け付ける (最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など
第2回	ソクラテス以前の自然哲学における感覚と理性の問題	近代科学の淵源となった、古代ギリシャの自然哲学の始まりを、それに先立つ宗教思想との関連からたどり、またその発展過程で生じた「感覚と理性」をめぐる問題を概観する
第3回	プラトンにおける感覚的認識とイデア論/アリストテレスの自然学	感覚的認識の不確かさを強調し、「イデア論」を提起したプラトンの思想を概観し、続いてプラトンのイデア論を批判し、感覚的認識と自然哲学を改めて重視したアリストテレスの自然学について概観する
第4回	アリストテレス自然学と古代原子論	引き続きアリストテレスの自然学について、「四元素説」と感覚的認識の問題を中心に、古代原子論との対比において見ていく
第5回	古代後期の思想	古代後期の思想として、ストア派、エピクロス派、懐疑主義、新プラトン主義を今期のテーマに関連する観点から概観
第6回	中世の思想と17世紀科学革命	中世思想のいくつかの重要なトピックを概観する
第7回	近代力学の成立/デカルトによる機械論的自然観の哲学的基礎づけ	自然観の転換としての17世紀科学革命についての概観を行い、機械論的自然観を哲学的に基礎づけた哲学者としてのデカルトの思想について概観する
第8回	初期近代における第一性質と第二性質	デカルトやホブズのような哲学者以外にガリレオやボイルのような科学者たちにも共有されていた、「第一性質」と「第二性質」相当する諸性質の区別について概観する
第9回	ロックとバークリにおける第二性質の観念の問題 (その1)	ロックにおける第一性質と第二性質の観念、およびそれを物質否定論の論拠に転じたバークリの思想を概観する

第10回	ロックとバークリにおける第二性質の観念の問題 (その2) / ヒュームの懐疑論とリードの直接実在論 (その1)	引き続きロックとバークリの観念の理論を概観し、続いて、彼らの思想を懐疑論へと徹底させたヒューム、およびヒュームの懐疑論を批判したリードの認識論を見ていく
第11回	ヒュームの懐疑論とリードの直接実在論 (その2)	引き続き、「直接実在論」と呼ばれるリードの認識論を概観する
第12回	近代における感覚と感情の問題	18世紀以降には、従来「理性」の下位に置かれていた感覚的認識や感情の地位が見直される動きが始まる。その動向を概観する
第13回	現代の議論1：意識と「クオリア」の問題	これまでの講義内容の現代的な視点からの捉え直しとして、現代の心身問題における「意識の現象的質」としての「クオリア」をめぐる議論を概観する
第14回	現代の議論2：メタ倫理学における道徳実在論と第二性質	現代のメタ倫理学における「第二性質」を道徳実在論と関連付ける議論を概観する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Hoppiiの課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題 (ごく簡単な回答で済むものにする予定) によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと (質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい)。講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

近世初期の宇宙論の転換と哲学思想の関連を論じた古典として、アレクサンデル・コイレ『閉じた世界から無限宇宙へ』(横山雅彦訳、みすず書房) / 『コスモスの崩壊：閉ざされた世界から無限の宇宙へ』(野沢協訳、白水社) [同一の原著の別の訳] を挙げておく。近世初期の天文学の転回を幅広い視野で論じた古典として、トマス・クーン『コペルニクス革命』(常石敬一訳、講談社学術文庫) を挙げておく。17世紀科学革命全般については、『一七世紀科学革命』(東慎一郎訳、岩波書店) が概観を提供している。その他、各回講義に関連する参考書は講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1)の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う(40%)。加えて、期末レポートによる(2)の到達度の評価を行う(60%)。

【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、Hoppiiにアクセス可能な端末が必要となる。講義資料をPDFファイルで配布する場合があります、pdf閲覧できる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じる。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

Our theme is "On the sensible qualities in the modern mechanistic worldview". Sensible qualities or the "secondary qualities", such as colors, sounds, tastes had seen as real ingredients of the natural world in the pre-modern age, but have seen merely subjective since the Scientific Revolution of the 17th century. You can learn about philosophical problems about the change of worldview in the early modern age and its consequences through considering this status-shifting of such qualities.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on philosophy and history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class and from other extra-class studies.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (60%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(40%) .

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (8) - 2

中釜 浩一

授業コード：A2227 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

備考 (履修条件等)：心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「懐疑」は過去や現代の哲学の中で、重大な役割を果たしてきた。一見してネガティブな役割しか持たないように思える「懐疑」が、なぜまたどのような仕方でも哲学の中で役割を果たしているのかを、古代懐疑論・デカルト・ヒューム・現代の種々の懐疑論を検討することで考察する。

【到達目標】

哲学の中で懐疑論が果たした様々な役割を検討し、哲学的方法としての懐疑論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回授業内容に関する小課題を課する。課題の解説・補足や質問への解答は、次回の冒頭で全員に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学と懐疑論	懐疑と哲学的懐疑
第2回	古代の懐疑論 (その1)	ピュロニズムに関する解説と検討 (その1)
第3回	古代の懐疑論 (その2)	ピュロニズムに関する解説と検討 (その2)
第4回	デカルトの方法的懐疑 (その1)	デカルトの企図と懐疑論
第5回	デカルトの方法的懐疑 (その2)	デカルト「第一省察」の検討 (その1)
第6回	デカルトの方法的懐疑 (その3)	デカルト「第一省察」の検討 (その2)
第7回	デカルトの方法的懐疑 (その4)	デカルトの方法論的懐疑の意味
第8回	ヒューム「人間の学」と懐疑 (その1)	ヒューム哲学の特徴
第9回	ヒューム「人間の学」と懐疑 (その2)	ヒュームの懐疑論の目的
第10回	ヒューム「人間の学」と懐疑 (その3)	因果に関する懐疑
第11回	ヒューム「人間の学」と懐疑 (その4)	理性に関する懐疑
第12回	ヒューム「人間の学」と懐疑 (その5)	自己に関する懐疑
第13回	現代の懐疑的議論 (その1)	パトナムと樽の中の脳
第14回	現代の懐疑的議論 (その2)	ワイトゲンシュタインのパラドクス

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容を復習し、デカルト、ヒューム、ワイトゲンシュタイン等の著作の該当箇所を確認しておく。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

デカルト「省察」(中公クラシクス)
ヒューム「人間本性論第一巻」(法政大学出版会)
クリプキ「ワイトゲンシュタインのパラドクス」(ちくま学芸文庫)
ストラウド「君は今夢を見ていないとどうして言えるのか」(春秋社)

【成績評価の方法と基準】

各回の小課題の提出内容：70%

期末のレポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

課題の補足解説をより丁寧に行う。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims at deepening students' understanding of philosophical scepticism, especially why it has played so important a roll in philosophy by examining ancient scepticism, Descartes, Hume and modern sceptical argument.

Learning Objectives: To understand the motives and arguments of philosophical scepticism and to get a sense of finding philosophical problems in daily life.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students should carefully read the assigned part of the text and construct their opinions and after each meeting students should write a short paper concerning the topic of the day. Students are expected to spend four hours for each class meeting.

Grading Criteria: In-class activities: 70%, term-end test: 30%

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (1)

佐藤 真人

授業コード：A2230 | 曜日・時限：火4/Tue.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デカルト『省察』の精読を通し、①西洋近世哲学の幕開けを告げるデカルト形而上学がいかにして樹立されたか、②その狙いは何であったか、③その革新性と伝統性が那邊にあるか、といった点について考察するのがこの授業の目的です。

『省察』は間違いなく哲学史上の不朽の名著であり、何度読んでも汲み尽くせない味わいと新たな発見をもたらしてくれる西洋哲学の精華ですが、読解には多少のコツが必要です。自身の見解に囚われず、虚心坦懐に理解することが必要な点では他の哲学者の著述と同様ですが、『省察』は、デカルトの「推論の連鎖と結合」を理解しつつ、一切の「感覚と先入見から精神を引き離」し、デカルトと「共に真剣に省察」することが求められます。

つまり、著述の一人称をデカルトとしてではなく、皆さん自身のこととして読み、デカルトの思索の道を自身のものとして歩むことが、『省察』読解の鍵です。

【到達目標】

- ① デカルトの形而上学を正確に理解する。
- ② デカルト哲学がいかなる意味で革新的だったのかを、スコラ哲学と対比して理解する。
- ③ 自身で問いを見つけ、答えを探しつつ、他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ④ 議論を組み立て、自分の言葉で論理的に表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

以下の手順で進めます。

- ① 発表担当者によるレジュメ作成と発表
- ② それに基づく質疑応答や全体での議論 (特定の質問・コメント担当者を毎回割り当てることも考えますが、基本は全員での議論です)
- ③ 教員による補足説明。

授業後にはリアクション・ペーパーを提出し、そのうちの幾つかを次回授業で共有し、さらなる考察と議論のための材料とします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要や今後の進め方、デカルト哲学とその中の『省察』の位置づけ
第2回	「ソルボンヌ宛書簡」、「助言」、「概要」	デカルトが『省察』を書いた狙いとは
第3回	「第一省察」	懐疑 — 疑わしいものとは何か①
第4回	「第一省察」	懐疑 — 疑わしいものとは何か②
第5回	「第一省察」	「欺く神」と「悪霊」①
第6回	「第一省察」	「欺く神」と「悪霊」②
第7回	「第二省察」	「私」の発見とその本質①
第8回	「第二省察」	「私」の発見とその本質②
第9回	「第二省察」	蜜蠟の分析①
第10回	「第二省察」	蜜蠟の分析②と精神の洞見
第11回	「第三省察」	「私」以外のものの探究
第12回	「第三省察」	デカルト観念論の意義と独創性①
第13回	「第三省察」	デカルト観念論の意義と独創性②、因果律

第14回	「第三省察」	神の「宇宙論的証明」①
第15回	「第三省察」	神の「宇宙論的証明」②と連続創造説
第16回	「第四省察」	虚偽の原因①
第17回	「第四省察」	虚偽の原因②
第18回	「第四省察」	自由意志と知性①
第19回	「第四省察」	自由意志と知性②
第20回	「第五省察」	物体の本質と想像力①
第21回	「第五省察」	物体の本質と想像力②
第22回	「第五省察」	神の「存在論的証明」①
第23回	「第五省察」	神の「存在論的証明」②
第24回	「第六省察」	物体の存在
第25回	「第六省察」	感覚の意義と役割
第26回	「第六省察」	心身合一と自然の教え①
第27回	「第六省察」	心身合一と自然の教え②
第28回	「第六省察」	感覚の欺きと人間本性の弱さ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

発表担当者は、発表用のレジュメを作成することになりますが、必ず自分の言葉で書き、参考書の文言をそのまま引き写さないこと (これは厳禁です)。この点は、論文・レポートと同様です。本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

デカルト『省察』の邦訳は複数ありますが、中公クラシックス (か『世界の名著』、どちらも同じ訳)、または白水社イデー選書、のどちらの版でも可です。

前者のほうが日本語として読みやすく、入手も容易。後者のほうが原文に忠実な訳文ですが、日本語として多少読みにくく、入手も困難です。

フランス語・ラテン語を読める方・学習中の方は以下の版を強く推奨します。

Descartes, *Méditations métaphysiques*, (tr. Michelle Beyssade), Le Livre de Poche, 1990 (軽快に理解したい人にお勧め)。

または Descartes, *Œuvres Complètes IV-1&2* (dir. Jean-Marie Beyssade & Denis Kambouchner), Gallimard, collection "tel", 2018 (重厚に理解したい人にお勧め)。

英訳版は以下がよいと思います。Descartes, *Meditations on First Philosophy*, (ed. John Cottingham), Cambridge University Press, 2017

【参考書】

デカルト哲学の参考書は数多くありますが、まずは参考書に頼らず、先入見を排して『省察』を丁寧に読むことから始めてください。そのうえで、テーマに関連する参考書を各自で探してみてください (授業内でも参考書について言及しますが、まずは以下のみ掲げます)。G・ロディス・レヴィス、『デカルトの著作と体系』、紀伊国屋書店、1990年

野田又夫、『デカルト』、岩波新書、1966年

小林道夫、『デカルト入門』、ちくま新書、2006年

同、『デカルト哲学の体系』、勁草書房、1995年

所雄章、『人類の知的遺産 (32) デカルト』、講談社、1981年

同、『デカルト』全二巻、勁草書房、1967/1971年

デカルト研究会 (編)『現代デカルト論集』全三巻、勁草書房、1996年
また、ネット上の哲学辞典としては「スタンフォード哲学百科事典」を推奨します。

<https://plato.stanford.edu/index.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクション・ペーパーや議論への参加など) 40%、発表 20%、期末試験・レポート 40%の割合で、到達目標の達成度合いに応じて成績評価します。

なお、欠席4回 (半期) で不可としますので注意してください (事情がある場合は要相談)。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な探究を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

・最後まで読むことより、丁寧な読解と議論を重視したいので、年度中に読了しない可能性もあります。

・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

Through a close reading of Descartes's *Meditations*, the purpose of this course is to examine (1) how Descartes's metaphysics, which marks the dawn of early modern Western philosophy, was established, (2) what its aims were, and (3) where its innovation and tradition lie.

The *Meditations* is undoubtedly an immortal and sublime work in the history of Western philosophy which, no matter how many times you read it, will always bring you new discoveries and an inexhaustible profundity, but it does require some skill to read and understand. Like the writings of other philosophers, it is necessary to understand Descartes' writings with an open mind and not be bound by one's own views, but in *Meditations* it is necessary to understand Descartes' "chain of reasoning and combination", to "withdraw the mind from all sensations and preconceptions" and to "meditate seriously together" with Descartes. In other words, the key to reading *Meditations* is to read it in the first person, not as Descartes, but as yourself, and to walk Descartes' path of speculation as your own.

Students are expected by the end of the course 1) to understand precisely contents of the Cartesian metaphysics in comparison with Scholastic philosophy, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through discussions with others, 3) to construct their arguments logically through readings and discussions, and 4) to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 40%, Presentation: 20%, Term-end examination or report: 40%.

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (2)

奥田 和夫

授業コード：A2231 | 曜日・時限：金2/Fri.2

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

プラトンの初期作品『ゴルギアス』を読み、プラトン哲学の出発点においてプラトンはソクラテスの生死のうちどのような問題を見出したのかを考察する。換言すれば、ソクラテスの課題である徳・愛知=哲学と生活・人生・政治との関わりを理解することが目的である。

【到達目標】

プラトンの初期作品『ゴルギアス』を精読することにより、ソクラテスから受け継いだプラトンの政治哲学の出発点を確認、理解することが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

『ゴルギアス』本文については日本語訳により読みすすめる。必要に応じて、英訳等を参照する。

また、履修者による「担当箇所の内容要旨・問題点・考察」の発表および発表者と参加者との討議によりすすめる。履修者の意見や質問へのフィードバックを含む。

発表者は発表にあたり、次の点に留意すること。1. 内容要旨の作成にあたっては正確さを旨とする。2. 問題点の指摘については、不明な点の調査、関連情報の収集をおこなう。3. うえの1. 2. を基礎に、担当箇所の内容に関する考察をのべる。その考察は、まず自分でよく考え、自分の言葉で説明することに留意する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	プラトン著作、思想における『ゴルギアス』の位置づけと関連事項
第2回	『ゴルギアス』第1-4章の検討・理解	対話篇のプロローグ ゴルギアスとの対話の開始
第3回	第5-8章の検討・理解	弁論術と技術
第4回	第9-12章の検討・理解	弁論術と正義
第5回	第13-16章の検討・理解	承前 ポロスとの対話の開始
第6回	第17-20章の検討・理解	弁論術と技術と快楽
第7回	第21-24章の検討・理解	弁論術と権力
第8回	第25-28章の検討・理解	不正をなすことと不正を被ること
第9回	第29-32章の検討・理解	承前 美と有益さ
第10回	第33-36章の検討・理解	正義と罰と善
第11回	第37-40章の検討・理解	カリクレスとの対話の開始 自然の正義
第12回	第41-44章の検討・理解	政治的生活と哲学的生活
第13回	第45-48章の検討・理解	カリクレス反駁 欲望と節制
第14回	第49-52章の検討・理解	快楽主義
第15回	春学期の復習 第53-56章の検討・理解 前期のまとめ	快楽主義反駁
第16回	前期までの確認 第57-60章の検討・理解	承前 政治家
第17回	第61-64章の検討・理解	正義と弁論術
第18回	第65-68章の検討・理解	承前
第19回	第69-72章の検討・理解	再度、政治家について
第20回	第73-76章の検討・理解	承前

第21回	第77-80章の検討・理解	ソクラテスの主張
第22回	第81-83章の検討・理解	死後のミュートス(神話)
第23回	『ゴルギアス』全体のとめ	『ゴルギアス』の構成、目指すもの
第24回	承前	『ゴルギアス』の問題点、達成されたもの
第25回	学術論文読解1	学術論文読解1
第26回	学術論文読解2	学術論文読解2
第27回	学術論文読解3	学術論文読解3
第28回	学術論文読解4	学術論文読解4

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

まず『ゴルギアス』全体を通読、熟読する。気づいた問題点(疑問点)について必要な調査、情報収集を積極的におこなう。問題点についてよく考える。

【テキスト(教科書)】

プラトン『ゴルギアス』の日本語訳を各自用意すること。
今回は三嶋輝夫訳(講談社文庫)をメインにする。可能であれば、加来彰俊訳(岩波文庫)、藤沢令夫訳(中公クラシックス)、中沢務訳(光文社古典新訳文庫)のいずれか、またはすべてと比較すること。英訳等は奥田が用意する。

【参考書】

田中美知太郎『プラトン』I-IV(岩波書店)

同『ソクラテス』(岩波新書)

藤沢令夫『プラトンの哲学』(岩波新書)

加来彰俊『プラトンの弁明』(岩波書店)など。

その他は随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表(25%)、討議への貢献度(25%)、2回の期末レポート(25%+25%)に見られる『ゴルギアス』の内容理解度を【授業の目的】および【到達目標】を基準として評価する。全授業時間の4分の3未満の出席者には単位取得は認められない(哲学科「演習」履修の共通前提)。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な読解が完了したのち、学術論文を読解して専門研究にふれる。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we peruse Plato's "Gorgias". (Learning Objectives) The goals of this course are perusal of the book, understanding of the way Socrates and Plato think and estimation of their thoughts on the problems of philosophy and politics. (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (50%), and in-class contribution (50%).

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (3)

菅沢 龍文

授業コード：A2232 | 曜日・時限：月4/Mon.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カントの哲学思想は人類の持続可能性について何を語るだろうか。ゼミではこのような関心から、カントの次の小作品群を読んで検討する。『啓蒙とは何か』、『世界市民という視点から見た普遍史の理念』、『人類の歴史の憶測的な起源』、『万物の終焉』、『永遠平和のために』。現代は地球温暖化、地球規模での人口爆発、相次ぐ戦争、感染症などが引き起こす諸現象が、人類の持続可能性に大きな脅威となっている。そこで、このような脅威への処方箋はないのか、そもそも人類の存続の意味は何なのか、についてカントが提示する理念の観点で考察する。

【到達目標】

[知識] 人類史や道徳、政治、宗教についてカント哲学の観点で知識を深めて、現代の諸事象について哲学的・批判的に広く深く考察できる。
[態度] 広く知識を求め、さまざまな視点から哲学的、論理的にものごとを深く考えて、他人と意見交換するなかで、課題を解決する態度を身につける。
[能力] 思想書を読んでその内容について理解し、整理し、考察し、意見交換でき、自分や他人の考えを深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 授業の初めに、前回の復習として提出された課題作文についての気づき、フィードバックされます。
- (2) 複数人の担当者が分担してテキストのレポートをし、これについて質疑応答して、テキストの理解を深めます。
- (3) 課題作文の課題について、他人の考えを聞き、自分の考えを述べ、質疑応答するなかで、自分の考えを深め、その考えを書いて提出します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの内容についての紹介
第2回	『啓蒙とは何か』前半 (10-18頁)	◇啓蒙の定義 ◇未成年状態 ◇理性の公的な利用と私的な利用 (使用)
第3回	『啓蒙とは何か』後半 (19-27頁)	◇人間性の根本的規定 (人類の根本的使命) ◇君主と啓蒙
第4回	『世界市民という視点から見た普遍史の理念』上 (32-43頁)	◇自由な意志と自然の意図 ◇自然の意図 ◇非社会的な社交性
第5回	『世界市民という視点から見た普遍史の理念』中 (43-52頁)	◇市民社会と支配者 ◇国際的な連合 (連盟)
第6回	『世界市民という視点から見た普遍史の理念』下 (53-65頁)	◇永遠平和と自然の目的 ◇世界市民状態と人類の道徳化 ◇自然の計画 ◇啓蒙と人類の歴史
第7回	『人類の歴史の憶測的な起源』上 (70-80頁)	◇憶測による歴史 ◇エデンの園 ◇想像力・理性・不安
第8回	『人類の歴史の憶測的な起源』中 (81-90頁)	◇自然の目的そのものとしての人間 ◇自然の歴史と自由の歴史 ◇文化と自然
第9回	『人類の歴史の憶測的な起源』下 (91-103頁)	◇狩猟、農耕・牧畜 ◇統治機構と都市 ◇摂理そして戦争・寿命・永遠の平和
第10回	『万物の終焉』上 (110-118頁)	◇永遠 ◇最後の審判 ◇救い
第11回	『万物の終焉』中 (118-129頁)	◇世界の終焉 ◇終焉の理念と三つの終焉 ◇反自然的な万物の終焉
第12回	『万物の終焉』下 (129-140頁)	◇神秘的な万物の終焉 ◇摂理 ◇キリスト教そして愛・自由・報い
第13回	振り返って考えを深める (期末レポート発表会 I)	(1)『啓蒙とは何か』 (2)『世界市民という視点から見た普遍史の理念』

第14回	振り返って考えを深める (期末レポート発表会 II)	(3)『人類の歴史の憶測的な起源』 (4)『万物の終焉』 ◇政治家と学者 ◇停戦条約と平和条約 ◇国家・常備軍・軍事国際・内政干渉 ◇劣劣な戦略・懲罰戦争・絶滅戦争 ◇許容法則 ◇平和状態 ◇共和的な体制と自由・法の支配・平等 ◇共和制と戦争 ◇共和制と専制 ◇国際的な連合 ◇平和連盟 ◇国際国家
第15回	『永遠平和のために』 (148-156頁)	◇訪問の権利 ◇訪問と征服 ◇世界市民法 ◇永遠平和の保証 ◇摂理 ◇自然の配慮 ◇戦争 ◇自然の意図 ◇天使の国と悪魔の国 ◇世界王国 ◇商業の精神 ◇法律家と哲学者
第16回	『永遠平和のために』 (156-164頁)	◇政治と道徳 ◇道徳的な政治家 ◇実務的な法律家 ◇実務家の詭弁的な原則 ◇政治的な道徳家 ◇国家戦略と国家政策 ◇道徳と政治の争い ◇公開性と正義 ◇暴君への反乱 ◇国際法における公開性 ◇政治の策略、二枚舌 ◇永遠平和という課題
第17回	『永遠平和のために』 (164 - 175頁)	(1)共和制 (2)国際連合 (連盟) (3)永遠平和の保証 (4)道徳と政治 (5)永遠平和
第18回	『永遠平和のために』 (175-185頁)	
第19回	『永遠平和のために』 (185-191頁)	
第20回	『永遠平和のために』 (191-198頁)	
第21回	『永遠平和のために』 (199-207頁)	
第22回	『永遠平和のために』 (207 - 213頁)	
第23回	『永遠平和のために』 (214-224頁)	
第24回	『永遠平和のために』 (224-234頁)	
第25回	『永遠平和のために』 (234-244頁)	
第26回	『永遠平和のために』 (244-253頁)	
第27回	振り返って考えを深める (期末レポート発表会 I)	
第28回	振り返って考えを深める (期末レポート発表会 II)	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
[予習] ゼミで取り上げるテキストの該当箇所を読み込んでおく。レポート・プレゼン担当者は該当箇所の内容を整理して考察を加えたプリント (PDFファイルやワープロファイル) を学習支援システム (Hoppii) 上に配布しておく。
[復習] ゼミの課題作文を作成して、学習支援システム (Hoppii) で提出する。テキストを読み返して、不消化であった点について考えてよく消化しておく。

【テキスト (教科書)】

カント『永遠平和のために』／啓蒙とは何か 他3編 中山元 訳、光文社古典新訳文庫

【参考書】

- カント『啓蒙とは何か 他四篇』篠田英雄 訳、岩波文庫
 - カント『永遠平和のために』宇都宮芳明 訳、岩波文庫
 - 中島義道『晩年のカント』講談社現代新書
- ※その他必要に応じてゼミで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準】

- (1) 出席および参加態度と、毎回の課題作文
 - (2) セメスター末の期末レポート
- (1)を7割、(2)を3割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、聞き取りやすい発声を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題作文提出用に学習支援システム (Hoppii) を利用するので、インターネットに接続したパソコン (推奨) または、タブレットやスマホが必要となります。

【Outline (in English)】

What would Kant's philosophical thoughts tell us about the sustainability of humankind? In this regard we read and discuss the following small works of Kant: *What is Enlightenment? Idea for a Universal History from a Cosmopolitan Point of View, Conjectural beginning of human history, The End of All Things, Toward Perpetual Peace*. In the present age global warming, global population explosion, successive wars and pandemics of infectious diseases, and other phenomena pose a serious threat to the sustainability of the human race. Therefore we will examine whether there is any prescription for these threats and what the meaning of human existence is in the first place, from the perspective of the philosophy presented by Kant.

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (4)

酒井 健

授業コード：A2233 | 曜日・時限：金3/Fri.3

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- 1) 哲学と芸術の交わりを大きな課題に掲げる。
- 2) フランス現代思想の広さと深さを学ぶ。
- 3) 共同体、実存、芸術、宗教、政治、歴史、友愛などがキーワード。これらアクチュアルな問題相互のつながりを学んでいく。とくに今年度は共同体と実存と芸術の関係性を学びの対象にする。
- 4) 書く実力、プレゼンテーションの実力をつける。
- 5) 勉強したいと心より思っている人に最適なゼミ。

【到達目標】

▶今年度は春学期にジャン＝リュック・ナンシー (1940-2021) のバタイユ論『無為の共同体』(1986) を中心にして、共同体と実存と芸術の関係について哲学的視点から考察を進める (テキストは邦訳を使用)。

▶秋学期にはナンシーの「無為」の概念に重要な影響を与えたモーリス・ブランショ (1907-2003) のカフカ論「カフカと作品の要請」(『文学空間』(1955) 所収、のちに『カフカからカフカへ』(1981) にも所収) を取り上げる (テキストは邦訳を使用)。

▶共同体とは何か。すでに今現在この文章を読んでいるあなたと書き手の私は共同体の関係にある。制度や組織となって形を有する共同体から、形の定まらない今このときの他者との語りや共存まで、共同体の問題は広い。そして私たちの今ある存在、つまり実存の在り方に共同体の問題は関係している。さらに芸術表現は先史時代から他者との交わりを前提にしており、共生の問題と深く関わって今日に至っている。芸術は共同体抜きには考えられないのだ。

▶ナンシーはフランス現代思想の第三世代の代表格であり、そのデビュー作の『無為の共同体』はフランス現代思想を通じて評価の高い論文である。ブランショが『明かしえぬ共同体』ですぐさま応答したのが証左だと言っている。そのナンシーによれば、フランス現代思想の第一世代の代表格たるジョルジュ・バタイユは、共同体の問題をその果てまで追いかけて20世紀の限界にまで達してさまよったとなる。国家、極左サークル、社会学研究会、宗教秘密結社、雑誌編集、書物の出版、講演、新たなメディアへの登場など、積極的に他者との交わりを求めていき、ついには「不定形の共同体」さらには「共同体を持たない人々の共同体」とまで唱えだしたのがバタイユなのである。

▶ブランショもまたフランス現代思想の第一世代に属するが、とりわけ文学論に優れた業績を残した。1955年出版の『文学空間』はその頂点にあり、所収のカフカ論は、フランス現代思想系文学論の白眉と言われている。その内容を簡単に紹介しておく。

作品は理想や夢の目標のごとく魅力的であり作者を作品制作へ駆り立てる。カフカもこの作品からの要請につねに駆られていたが、しかしわずかにしか作品を残せなかった。なぜなのか。作品の奥に広がる語りえない世界に魅惑されていう仮面を被って作者を誘惑する。カフカはこの誘惑にのって、作品の奥へさまよっていき、その音信を日記や書簡に残していった。さながら雪原を橇(そり)でさまよつかのような彼の最晩年の文章は、無為のまま、つまり何も作品として成果をあげられないまま、芸術の奥義を伝達している。エクリチュールに優れた鑑識眼を示すブランショは死期の迫る最後のカフカの伝言をしっかりと聞き取り、現代の我々に共同体・実存・芸術の核心を届けようとした。カフカ、ブランショ、彼らの読者、共同体は不定形に広がる。カフカを引くブランショの文章は、かなり難解だが読みごたえがある。授業でゆっくり読み解いていきたい。

▶フランス現代思想の第二世代 (フーコー、デリダ、ドゥルーズ) も第一世代の発言に深く関わっており、ナンシーも第二世代とくにデリダから影響を受けた。授業ではこの点にも留意していく。

▶授業の大きな到達目標として以下の三点をあげておく。

1. フランス現代思想の本質を理解する。その本質とは、人間中心主義、理性偏重、有用性重視のこの近代社会が忘却した人間の可能性を掘り起こして、実存の問題として、つまり、今を生きている自分の問題として引き受けるということである。
2. 芸術作品をとおして、無為 (非生産的な在り方)、無益、無用性といった現代社会ではまったく評価されない様相に人間と世界の生の本質があることを理解していく。
3. 参加者各人の実存を表現化できるように、発表とレポートで自らの可能性を研磨する。「無為」とは生の本質へ迫る姿勢であり、怠惰な対応のことではない。授業には真剣に出席してほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 学生の発表が中心になる。適宜、教員が重要な点を口頭で、あるいは板書して指摘していく。毎回、授業の最後に論述式のリアクションペーパーを書いて提出する。返却は次回の授業はじめるに行う。
- 2) 今年度の開校日は4月12日金曜日 (3時限) とする。初回はオン・ラインでのズーム授業になる予定。hoppiiの「お知らせ」からズームアドレスを通知します。

3) その後の授業は教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオン・ラインでのズーム授業に転じる場合もある。

4) 昨年度からの新たな試みとして、4年生が卒論計画と作成中の原稿を発表して質疑応答の場を設ける。卒論作成の進捗とテーマの共有化をはかるためである。

5) さらに昨年度はゼミの卒業生にゲスト出演を依頼し、授業の指針となる発表をしてもらった。今年度も社会人あるいは院生となった先輩諸氏の招待発表を予定している。

6) 期末レポートの課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

7) また、春学期と秋学期に一度ずつ美術館見学を予定している。夏休みにはカフカの短編小説を読むサブゼミを開く予定。また合宿において哲学と芸術について学びを深めたいと思っている。

8) さらに今年度の新たなフィールドワークとして、学会発表の聴講を考えている。6月初めに明治大学のお茶の水校舎で開催される日本フランス語フランス文学会の春季大会に赴いて当ゼミ出身の院生によるバタイユ論の発表を開く予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介。	この演習の特色について。共同体・実存・芸術に対するフランス現代思想の考え方について。過去の優秀卒業論文の紹介。
第2回	受講生の自己紹介。テキストの概要。	選抜後の最初の授業となる。受講生の自己紹介とナンシーの『無為の共同体』の紹介。
第3回	ナンシー『無為の共同体』①	5-8頁。
第4回	『無為の共同体』②	8-14頁。
第5回	『無為の共同体』③	14-23頁。
第6回	『無為の共同体』④	23-30頁。
第7回	『無為の共同体』⑤	30-36頁。
第8回	『無為の共同体』⑥	36-42頁。
第9回	『無為の共同体』⑦	42-48頁。
第10回	『無為の共同体』⑧	49-57頁。
第11回	『無為の共同体』⑨	57-62頁。
第12回	『無為の共同体』⑩	62-68頁。
第13回	『無為の共同体』⑪	68-76頁。
第14回	前期のまとめ。	期末課題の提示とゲスト卒業生の発表。
第15回	卒論発表会	卒論の第1章を開示して、検討しあう。
第16回	ブランショ「カフカと作品の要請」①	103-104頁。
第17回	ブランショ「カフカと作品の要請」②	104-106頁。
第18回	ブランショ「カフカと作品の要請」③	106-111頁。
第19回	ブランショ「カフカと作品の要請」④	111-115頁。
第20回	ブランショ「カフカと作品の要請」⑤	115-117頁。
第21回	ブランショ「カフカと作品の要請」⑥	117-120頁。
第22回	ブランショ「カフカと作品の要請」⑦	120-124頁。
第23回	ブランショ「カフカと作品の要請」⑧	124-127頁。
第24回	ブランショ「カフカと作品の要請」⑨	127-130頁。
第25回	ブランショ「カフカと作品の要請」⑩	130-134頁。
第26回	ブランショ「カフカと作品の要請」⑪	134-137頁。
第27回	ブランショ「カフカと作品の要請」⑫	137-142頁。
第28回	まとめ	秋学期の復習をかねた課題の呈示。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. バタイユの入門書および授業で言及されるテキストを読んでおくこと。
2. レスポンス・ペーパーの優秀回答を毎回公表するので、それを参考に各自、書き方から思想内容までしっかり確認しておくこと。
3. 本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

上記の授業形態のテーマ欄に紹介した文献の邦訳を教科書とする。授業内においてコピーを配布する予定。

【参考書】

- 1) 拙論「神々の到来と創造的ニヒリズム - ナンシーとともに」、拙著『夜の哲学-バタイユから生の深淵へ』所収。2016年、青土社。
- 2) 拙論「神話の二つの相 - ニーチェ、バタイユ、ナンシーとともに」『多様体』第2号所収、2020年10月。
- 3) 拙著『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
- 4) ブランショ『明かしえぬ共同体』西谷修訳、ちくま学芸文庫、1997年。

- 5) 沢田直『ジャン＝リュック・ナンシー - 分有のためのエチュード』白水社、2013年。
- 6) 郷原佳以『文学のミニマル・イメージ - モーリス・ブランショ論』左右社、2021年。
- 7) カフカ『カフカ傑作短篇集』長谷川四郎訳、福武文庫、1888年。
- 8) カフカ『夢・アフォルイズム・詩』吉田仙太郎編訳、平凡社ライブラリー、1996年。
- 9) カフカ『カフカ短篇集』池内紀編訳、岩波文庫、1987年。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 上記「到達目標」に記した3つの目標をどれだけ達成しているかに基準をおく。
- 2) 授業での発表(30%)、毎回のレスポンス・ペーパー(30%)、期末のレポート(40%)によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

卒論制作をゼミに組み込んでほしいとの要望があったので昨年度から対応した。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

- 1) ILACの授業「外国文学と文化」(月曜日2時限)はパリの歴史、ルーヴル美術館所蔵の絵画をボードレールの美術評論、ベンヤミンのボードレール論、パッサージュ論などを参考にして考察する授業であり、当ゼミと関係が深い。履修を勧める。
- 2) ゼミの先達たちのレポートや卒論について紹介されているので、次の拙著を紹介しておく。
[私にとって文学部とは何か] (景文館書店、2021年)
- 3) バタイユと芸術に関しては次の拙著も参考にしていきたい。
[モーツァルトの至高性 - 音楽に架かるバタイユの思想] (青土社、2022年)
- 4) 授業には熱心に参加してほしい。やむなく欠席する場合はメールで連絡すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the fundamental of French contemporary thought.

【Learning Objectives】

Especially at the end of this course, students are expected to a good comprehension of Jean-Luc Nancy's thought on concept of Georges Bataille's community, and Maurice Blanchot's thought on "écriture" of Franz Kafka. That is mainly by learning of his text.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be based on the following.

Response paper:30%, presentation in the class meeting:30 % and term-examination :40%.

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (5)

吉田 敬介

授業コード：A2234 | 曜日・時限：月3/Mon.3
 年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、キルケゴールの『キリスト教の修練』(1850年)の読解を通して、社会と衝突しながら生きる個人のあり方について考察します。

キルケゴールは同書において、キリスト教思想から出発して、信仰の実践者が現実社会の中でどのように生きることになるのかを描き出しています。その際、一方では苦しみの中で既存の現実を超えていこうとする宗教的な個人のあり方が提示されており、他方では自らを神格化してしまう社会の病理が問題視されています。

授業では、『キリスト教の修練』第一部・第三部を読解・検討することで、キルケゴールの宗教思想の理解を深めながら、同時に現実における社会と個人の関係についても考察したいと思います。

【到達目標】

- (A) キルケゴールのテキストの内容を理解できる。
 (B) テキスト読解から、宗教思想や社会思想について考察できる。
 (C) 理解・考察した内容を他者に提示し、議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめにキルケゴールの生涯や思想、著作について導入をした後、基本的には『キリスト教の修練』の第一部・第三部を(教科書で挙げた井上良雄訳に沿って)講読します。その際、適宜デンマーク語原文やドイツ語訳・英語訳も参照しながら、また必要に応じてキリスト教の聖書の記述や教義内容を確認しながら、テキストの内容を丁寧に検討し、そこに見出される諸問題を考察していきます。

講読に際しては、各回に報告者と質問者を設定します。担当箇所について、報告者は内容のまとめや考察、質問者は疑問点や確認したい点を、それぞれレジュメにまとめて発表してください。またそれ以外の受講者も、テキストを事前に読み疑問点やコメントを覚えておいてください。報告者・発表者を中心に、テキストについて議論をするので、受講する皆さんには積極的な参加を望みます。また、受講者の希望に応じて、グループディスカッションの機会や、卒業論文に関する発表の機会も作るつもりです。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、授業の内容に関連するレポート課題を提出してもらう予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。レポート課題の内容・評価基準・提出時期については、授業内で説明します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	キルケゴールの人と思 想について導入	生涯や思想、著作活動の特徴について 導入
第3回	『キリスト教の修練』に ついて導入	成立事情や著作の性格、『死に至る病』 との関係、講読箇所について導入
第4回	『キリスト教の修練』講 読(1)	第一部、3頁
第5回	『キリスト教の修練』講 読(2)	第一部、7-16頁
第6回	『キリスト教の修練』講 読(3)	第一部、16-25頁
第7回	『キリスト教の修練』講 読(4)	第一部、26-38頁
第8回	『キリスト教の修練』講 読(5)	第一部、38-46頁
第9回	『キリスト教の修練』講 読(6)	第一部、46-54頁
第10回	『キリスト教の修練』講 読(7)	第一部、54-64頁
第11回	『キリスト教の修練』講 読(8)	第一部、64-74頁
第12回	『キリスト教の修練』講 読(9)	第一部、74-81頁
第13回	『キリスト教の修練』講 読(10)	第一部、81-90頁
第14回	春学期のまとめ	春学期の講読内容の整理・検討

第15回	春学期の振り返りと秋 学期の展望	春学期の講読内容の振り返り 秋学期の進め方について展望
第16回	『キリスト教の修練』講 読(11)	第三部、186-194頁
第17回	『キリスト教の修練』講 読(12)	第三部、195-209頁
第18回	『キリスト教の修練』講 読(13)	第三部、209-224頁
第19回	『キリスト教の修練』講 読(14)	第三部、225-235頁
第20回	『キリスト教の修練』講 読(15)	第三部、235-249頁
第21回	『キリスト教の修練』講 読(16)	第三部、249-261頁
第22回	『キリスト教の修練』講 読(17)	第三部、261-274頁
第23回	『キリスト教の修練』講 読(18)	第三部、274-292頁
第24回	『キリスト教の修練』講 読(19)	第三部、292-309頁
第25回	『キリスト教の修練』講 読(20)	第三部、309-326頁
第26回	『キリスト教の修練』講 読(21)	第三部、326-331頁
第27回	秋学期のまとめ	秋学期の講読内容の整理・検討
第28回	一年間のまとめ・展望	一年間の講読内容の整理・検討

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

S・キルケゴール『キリスト教の修練』井上良雄(訳)、新教出版社

【参考書】

- ・Søren Kierkegaard, *Indøvelse i Christendom* (Søren Kierkegaards Skrifter, vol.12), [デンマーク語原文]
 - ・Einübung im Christentum, Eugen Diederichs Verlag [E. Hirschによるドイツ語訳]
 - ・Practice in Christianity, Princeton University Press [H. V. Hong / E. H. Hongによる英語訳]
 - ・『キルケゴール著作集』白水社〔第17巻：『キリスト教の修練』杉山好(訳)〕
 - ・鈴木祐丞『キルケゴール 生の苦悩に向き合う哲学』筑摩書房〔ちくま新書〕
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点(予習した上での授業参加、リアクションペーパーの提出、報告者・質問者としての発表、議論への参加、その他の授業への取り組みなどの総合評価)60%、レポート課題の評価40%です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・リアクションペーパーを活用しながら、受講者相互の意見交換や議論が活発になされるよう努めます。
- ・わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について、原文やドイツ語訳・英語訳、二次文献などを紹介しながら丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Kierkegaard's religious and social thought by reading Practice in Christianity.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand Kierkegaard's texts, (B) examine his religious and social thought, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report (40%).

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (6)

君嶋 泰明

授業コード：A2235 | 曜日・時限：木4/Thu.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

20世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガーの1929/30年の講義『形而上学の根本諸概念』から、彼の「退屈」論、「動物」論を取り上げ、精読します。人間のありようを根本的に規定するとハイデガーのいう「深い退屈」とは何か、動物は人間に比べて「世界貧乏的である」とハイデガーがいうのどのような意味かを考察し、最終的には人間とはどのような存在かについての理解を深めることを目指します。卒論の書き方の指導も随時行います。秋学期には卒論の中間発表会を行います。

【到達目標】

- ①ハイデガーの「退屈」論と「動物」論の読解を通じて、彼の人間観を理解する。
- ②哲学文献を読み解くのに必要な態度とスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを教員の指摘するポイントを押さえつつ作成し、授業で報告します。授業ではそれに基づいて全員で議論し、内容の理解を深めます。授業後には全員にリアクションペーパーを提出してもらいます。なお以下の授業計画に記した頁数はあくまで目安であり、進度に応じて適宜変更します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	概要の説明
第2回	『形而上学の根本諸概念』の思想	踏まえておくべき予備知識を解説する
第3回	ハイデガーの「退屈」論①	報告と討議：退屈の第一形式について(124-133頁)
第4回	ハイデガーの「退屈」論②	報告と討議：退屈の第一形式について(134-143頁)
第5回	ハイデガーの「退屈」論③	報告と討議：退屈の第一形式について(144-153頁)
第6回	ハイデガーの「退屈」論④	報告と討議：退屈の第一形式について(154-163頁)
第7回	ハイデガーの「退屈」論⑤	報告と討議：退屈の第一形式について(164-176頁)
第8回	ハイデガーの「退屈」論⑥	報告と討議：退屈の第二形式について(177-186頁)
第9回	ハイデガーの「退屈」論⑦	報告と討議：退屈の第二形式について(187-196頁)
第10回	ハイデガーの「退屈」論⑧	報告と討議：退屈の第二形式について(197-206頁)
第11回	ハイデガーの「退屈」論⑨	報告と討議：退屈の第二形式について(207-220頁)
第12回	ハイデガーの「退屈」論⑩	報告と討議：退屈の第三形式(深い退屈)について(221-230頁)
第13回	ハイデガーの「退屈」論⑪	報告と討議：退屈の第三形式(深い退屈)について(231-240頁)
第14回	ハイデガーの「退屈」論⑫	報告と討議：退屈の第三形式(深い退屈)について(241-250頁)
第15回	ハイデガーの「退屈」論⑬	報告と討議：退屈の第三形式(深い退屈)について(251-260頁)
第16回	ハイデガーの「退屈」論⑭	報告と討議：退屈の第三形式(深い退屈)について(261-274頁)
第17回	ハイデガーの「動物」論①	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(303-312頁)
第18回	ハイデガーの「動物」論②	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(313-322頁)
第19回	ハイデガーの「動物」論③	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(323-332頁)
第20回	ハイデガーの「動物」論④	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(333-342頁)
第21回	ハイデガーの「動物」論⑤	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(343-352頁)
第22回	ハイデガーの「動物」論⑥	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(353-362頁)

第23回	卒論中間発表会	卒論提出予定者の第1のグループによる卒論の中間報告
第24回	卒論中間発表会	卒論提出予定者の第2のグループによる卒論の中間報告
第25回	ハイデガーの「動物」論⑦	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(363-372頁)
第26回	ハイデガーの「動物」論⑧	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(373-382頁)
第27回	ハイデガーの「動物」論⑨	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(383-392頁)
第28回	ハイデガーの「動物」論⑩	報告と討議：動物は世界貧乏的であるというテーゼ(403-412頁)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを教員の指示に従って作成します。参加者は該当箇所を熟読してください。

【テキスト(教科書)】

M. ハイデガー著、川原栄峰、セヴェリン・ミュラー訳、1998、『ハイデッガー全集29/30巻 形而上学の根本諸概念：世界・有限性・孤独』、東京大学出版局 ※高額なので、希望者にはコピーを配ります。

【参考書】

國分功一郎、2021、『暇と退屈の倫理学』、新潮文庫
 串田純一、2017、『ハイデガーと生き物の問題』、法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

担当者としての評価が50%、議論への参加度の評価が50%。上記の到達目標がどれだけ達成されているかが主な評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度を配慮しながら適宜解説を加えつつ授業を進めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with Martin Heidegger's theory of boredom and that of animals from *The Fundamental Concepts of Metaphysics*. (Learning Objectives)

The goal of this course is to understand Heidegger's understanding of human beings in *The Fundamental Concepts of Metaphysics*. (Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and short reports (50%).

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (7)

西塚 俊太

授業コード：A2236 | 曜日・時限：木3/Thu.3

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

『古事記』(春学期)と三木清『構想力の論理 (一)』(秋学期)を読み進めることを通じて、日本思想の一端を把握していく。特に、日本思想史学において一体何が問われていたのか、日本の近代性とは一体いかなるものであったのか、などの点に関する理解を目指していく。

【到達目標】

- ・日本古典と日本近代のテキストの双方を読み解くことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
- ・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 受講者全員に『古事記』(春学期)と三木清『構想力の論理 (一)』(秋学期)の担当箇所を割り当てる。
- (2) 担当者は担当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
- (3) その発表に基づいて、テキスト解釈について参加者全員で議論する。
- (4) 演習の開始時に、前回の討論の論点を講評することを通じてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の実施方法	原典を読む技法の伝達 演習の実施方法についての説明
第2回	参考文献の検索方法 論文形式の文章の作成 技法	哲学的な論文を作成する際の技法の伝達
第3回	『古事記』「上つ巻」の 「神生み」まで	『古事記』(新潮日本古典集成)の「神生み」まで pp.17-33 (以下、ページ数は新潮日本古典集成版)
第4回	「上つ巻」火の神生みから 三貴子の誕生まで	火の神の誕生から三貴子の誕生までの 範囲 pp.34-44の一行目まで
第5回	須佐之男命について	須佐之男命について言及されている箇所の考察 pp.44-58の4行目まで
第6回	大国主神について	大国主神の事績についての検討 pp.58-77の5行目まで
第7回	中つ国へのことむけ	高天原から中つ国へのことむけの開始の際の出来事の確認 pp.77-88の5行目まで
第8回	「上つ巻」のまとめ 天孫降臨神話	「上つ巻」のまとめとしての天孫降臨神話の考察 pp.88-107
第9回	「中つ巻」の開始 東征の開始から崇神天皇 まで	「中つ巻」の開始にまつわる戦の数々の検討 pp.108-140の後ろから2行目まで
第10回	垂仁天皇・景行天皇	天皇として「求められる」存在であること、 倭建命の死と「英雄」であること pp.140-173の7行目まで
第11回	「中つ巻」のまとめ 成務天皇・仲哀天皇・応 神天皇	「中つ巻」のまとめ 「聖」性とは何かという点についての考察 pp.173-203
第12回	「下つ巻」の開始 仁徳天皇から反正天皇 まで	「聖帝」と呼ばれることの意味について pp.204-225の後ろから6行目まで
第13回	允恭天皇・安康天皇	天皇と「ならない」こと、殺害される 天皇 pp.225-239の後ろから3行目まで
第14回	「下つ巻」のまとめ 雄略天皇から推古天皇 まで	一言主神とはいかなる神か 語られない天皇とはいかなる天皇か (継体天皇) pp.239-271

第1回	三木清『構想力の論理 (一)』の「序」	三木清『構想力の論理』の執筆意図の確認 pp.9-19 (以下、ページ数は三木清『構想力の論理 (一)』(岩波文庫)による)
第2回	『第一章 神話』(一) (二)	神話論の検討の開始 pp.23-38
第3回	『神話』(三)(四)	三木が活躍した当時の神話学の確認 pp.38-59
第4回	『神話』(五)(六)	三木が活躍した当時の文化人類学の知見の検討 pp.59-78
第5回	『神話』(七)	神話と人間学との関係についての考察 pp.78-90
第6回	『神話』(八)(九)	三木の神話論のまとめ pp.90-116
第7回	『第二章 制度』(一) (二)	三木の思想の中心をなす「制度」論の検討を開始 pp.119-141
第8回	『制度』(三)(四)	制度論の本格的検討 pp.142-160
第9回	『制度』(五)	慣習の制度化についての考察 pp.160-175
第10回	『制度』(六)(七)	制度の拘束性について pp.176-190
第11回	『制度』(八)(九)	三木の制度論のまとめ pp.191-212
第12回	『第三章 技術』(一) (二)	三木が得意とする「技術」論の検討 pp.215-234
第13回	『技術』(三)(四)(五)	「自然の技術」という問題の検討 pp.234-263
第14回	『技術』(六)(七)(八)	三木の『構想力の論理』にオリジナリティは含まれていたか検討する pp.264-294

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。本演習の準備・復習時間は、各3時間合計6時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

春学期：『古事記』(新潮日本古典集成)
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で演習に参加すること。
秋学期：三木清『構想力の論理 (一)』(岩波文庫)
教科書として指定してあるので、参加者は春学期の教科書販売の段階で各自必ず入手した上で参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、原典そのものにあたって入念に読み込むことが先決である。そこで理解しきれなかった点を、講義内の議論を通じて深めていくことになる。参考文献は講義内で適宜指示していくことになるが、まずは図書館を積極的に利用し文献検索に慣れることが重要である。論文の検索については、この演習を通じてCiNiiの利用に慣れていくこと。

【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容(レジュメの水準を含む)(50%)と、演習内での発言や演習への参加姿勢(50%)によって評価する。この科目においては毎回の発言・質問を「必須」として求めるので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

発表時間と討論時間の配分がうまく機能するように調整を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本近代哲学・日本思想史
<研究テーマ>京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史(神・儒・仏・物語・武士道など)の研究
<主要研究業績>
①「[ひと]であること、[私]であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」(『日本倫理思想論究 第2号』、2014)
②『科学技術の倫理学Ⅱ』(勢力尚雅 編共著、2015)
③「『三河物語』における譜代意識の根底—「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から—」(『倫理学紀要第24輯』、2017)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese philosophy through reading thoroughly "Kojiki" and "The Logic of Imagination" by Kiyoshi Miki. By the end of this course, students should be able to fully grasp the background of Japanese thought in modern times.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than six hours for a class.

Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab 50%, in-class contribution 30%, and term-end reports 20%.

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (8)

安東 祐希

授業コード：A2237 | 曜日・時限：火2/Tue.2

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

形式言語について学ぶ。そこの「言語」とは、文字を並べてできる列の、集まりのことである。どの文字列が入り、どの文字列が入らない、という範囲が定められた集まりである。これを、日常言語を用いた例えで述べてみよう。「わたしはうなぎをたべたことがある」という文字の並びは、日本語として認識できる。一方、「ことあるがたべうなぎわたしはを」では、いたずら書きにしか見えない。これら二つの文字列を、先頭の一字目からゆっくりと読んで、あるいは聞いていったとき、われわれの頭はどのように働いてゆくのであろうか。何らかの思い、いわば頭の「状態」が一文字ごとによってゆき、最終的に文字列を日本語として認めるか、あるいはどこかの段階でそうではないと棄却する。読み返しながらかえ続けるかもしれない。この頭の働きの類似物が、形式言語の理論において活躍する「オートマトン」と呼ばれる機械 (的な仕組み) である。

この授業では、いくつかの種類形式言語と、それらに対応するオートマトンや「文法」について考察する。なお、使用する教科書 (1) の本文は、「偉大な魔法使いに弟子入りした平凡な少年」(序文より) の冒険物語として語られている。物語に現れる理論の詳細については、同時に用いる教科書 (2) を用いて随時補いながら学んでゆく。

【到達目標】

次のような概念を理解し、具体例とともに説明できる。

- ・形式言語を受理する機械
- ・形式言語を生成する文法
- ・正則言語、文脈自由言語および文脈依存言語
- ・チューリングマシン

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に従い、省略されている詳細部分も含め、内容説明や問題解答を履修者が分担して発表し、それに対して教員および他の参加者により質疑応答を行う。(発表が「課題」であり、質疑応答において「フィードバック」する。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	概要説明、教(1):第1章
第2回	正則言語	教(1):第2章前半
第3回	有限オートマトン	教(1):第2章後半、教(2):3.1
第4回	決定性	教(1):第3章前半、教(2):3.2-3
第5回	正則表現	教(1):第3章後半、教(2):3.4
第6回	機械の例	教(1):第4章前半
第7回	機械	教(1):第4章後半
第8回	言語のクラス	教(1):第5章前半
第9回	文脈自由言語	教(1):第5章後半、教(2):4.1
第10回	スタック	教(1):第6章前半、教(2):5.1
第11回	pd オートマトン	教(1):第6章後半
第12回	「省き」と「延ばし」	教(1):第7章
第13回	反復補題	教(1):第8章前半
第14回	正則言語でないこと	教(1):第8章後半、教(2):3.5
第15回	文法	教(1):第9章前半
第16回	文脈自由文法	教(1):第9章後半
第17回	cfg と pda	教(1):第10章前半
第18回	等価性証明	教(1):第10章後半、教(2):5.2
第19回	文脈自由言語再考	教(1):第11章前半
第20回	生成規則	教(1):第11章後半
第21回	導出木	教(1):第12章前半
第22回	統語解析	教(1):第12章後半
第23回	文脈依存言語	教(1):第13章前半、教(2):4.4
第24回	チューリングマシン	教(1):第13章後半、教(2):6.1
第25回	万能 Turing 機械	教(1):第14章、教(2):7.1
第26回	対角線言語	教(1):第15章前半
第27回	決定不能性	教(1):第15章後半、教(2):7.2
第28回	まとめ	教(1):第16章

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の問題について、紙に書きながら試行錯誤して自ら解くことを目指し、十分な演習を行うこと。また、発表に際しては、内容を整理して、説明する項目の取捨選択を含めて準備しておくこと。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト (教科書)】

- (1) 川添愛『白と黒のとびら オートマトンと形式言語をめぐる冒険』(東京大学出版会) 2013年
- (2) 丸岡章『計算理論とオートマトン言語理論 [第2版]』(サンエンス社) 2021年

【参考書】

ホップクロフト/モトワニ/ウルマン (野崎/高橋/町田/山崎 訳)『オートマトン 言語理論 計算論 I・II [第2版]』(サイエンス社) 2003年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の提示・解題能力を担当箇所の発表内容 (60%) において、さらに、目標の問題全般にわたる理解度を他者担当時の質疑応答 (40%) において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加者間の議論に使える時間をより多く確保できるよう、工夫したい。

【その他の重要事項】

ゼミの一環として、夏に合宿を行う予定 (詳細は年度初めに相談)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the theory of formal languages.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

- What is the families of formal languages in Chomsky hierarchy?
- What type of automaton corresponds with each family of formal language?

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process: Presentation as the person in charge for some parts of the text (60%) and contribution in question-and-answer sections (40%).

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (9)

中釜 浩一

授業コード：A2238 | 曜日・時限：火3/Tue.3
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：ジョン・サールの「行為と合理性」を精読し、合理的行為・脳と心の関係・理由と原因・道徳と倫理・意志の弱さ・自由といった人間の思考と行為にかかわるテーマについて検討することで、「世界の中の人間の独特な位置」を理解する。

【到達目標】

「人間の合理性」の種々のあり方を検討し、テキストの読解やディスカッションを通して現代哲学の議論の「方法」を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回テキストの分担部分に関して、発表者・反論者・司会者を指名し、担当学生およびフロア側学生による発表・反論・討論によって授業を進める。学生間のディスカッションやディベートを主体とし、教員による解説を適宜挿入する。

本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本ゼミの目的・方法・テキストの説明	教員によるゼミの目的・方法の説明
第2回	第1章 合理性の古典的モデルとその欠点 (1)	合理性の問題
第3回	第1章 合理性の古典的モデルとその欠点 (2)	合理性の古典的モデル
第4回	第2章 志向性・行為および意味の基本構造 (1)	志向性の検討
第5回	第2章 志向性・行為および意味的基本的構造 (2)	行為の検討
第6回	第2章 志向性・行為および意味の基本構造 (3)	意味の検討
第7回	第3章 時間と自我の飛躍 (1)	飛躍の概念
第8回	第3章 時間と自我の飛躍 (2)	因果の概念
第9回	第3章 時間と自我の飛躍 (3)	ヒュームの懐疑論
第10回	第4章 理由の論理構造 (1)	理由とは何か
第11回	第4章 理由の論理構造 (2)	意思決定
第12回	第4章 理由の論理構造 (3)	行為の理由
第13回	第5章 実践理性に固有の諸特徴 (1)	行為の理由
第14回	第5章 実践理性に固有の諸特徴 (2)	利己性と利他性
第15回	第5章 実践理性に固有の諸特徴 (3)	言語と利他性
第16回	第6章 欲求と理由 (1)	行為の動機
第17回	第6章 欲求と理由	カントと動機
第18回	第6章 欲求と理由	約束
第19回	第7章 意志の弱さ	意志の弱さとはどのような現象か
第20回	第7章 意志の弱さ	意志の弱さの説明
第21回	第8章 実践の論理 (1)	実践理性の論理学
第22回	第8章 実践の論理 (2)	欲求の構造
第23回	第8章 実践の論理 (3)	意図の特徴
第24回	第9章 意識・自由・脳 (1)	意識と脳

第25回 第9章 意識・自由・脳 意識と自発性 (2)

第26回 第9章 意識・自由・脳 自由意志

第27回 第9章 意識・自由・脳 自由意志と神経生物学

第28回 全体のまとめ まとめのディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表者とコメントータは分担部分に関するレジュメを作成する。司会者は発表者・コメントータのレジュメをあらかじめ読んだ上で、議論をどう進めていくかのプランを立てる。フロア側の学生はテキストを精読し、発表者とコメントータのレジュメを読んだ上で、疑問点や反論をまとめておく。本講義の予習復習時間は、テキストの読解・授業ノートの整理・コメントの執筆を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

ジョン・サール「行為と合理性」(勁草書房)

【参考書】

アリストテレス「ニコマコス倫理学」、デカルト「省察」、ヒューム「人間本性論」、カント「実践理性批判」、その他、サール・ドレツキ・デネット・ネーゲルらの現代の心の哲学の諸著作

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業コメント：40%

発表と討論への参加：40%

期末レポート：20%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの者が毎回の議論に加われるように、グループディスカッションを工夫する。

【Outline (in English)】

Course outline: 'This course aims at deepening students' ability to understand and modern philosophy of mind and action by reading Searle's book 'Rationality in action'

Learning Objectives: To understand human mind and rationality more deeply and to acquire modern ways of discussion on some philosophical topics.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students should carefully read the assigned part of the text and construct their opinions and after each meeting students should write a short paper concerning the topic of the day. Students are expected to spend four hours for each class meeting.

Grading Criteria: In-class activities: 40%, assignments 40% term-end test: 20%

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (10)

内山 真莉子

授業コード：A2239 | 曜日・時限：木2/Thu.2

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

トマス・アクィナスの『神学大全』の中から、人間の魂と知性認識に関する箇所を抜粋し読解する。西洋中世の神学者であるトマス・アクィナスは、古代ギリシャ哲学の理論・概念を用いながらこの世界についてのみならず、神についても理性的に説明することを試みた。『神学大全』はその説明を体系的にまとめた書物であり、主題は多岐にわたる。その中から、人間が有するとされる知性認識能力について扱っている箇所を読み進めることで、有神論の世界観における人間とはどのような存在者であり、どのように世界と関わるのかを理解することを目指す。

【到達目標】

- ・トマスのテキストの読解を通じて、スコラ哲学の基本的な思想について理解する。
- ・テキストの内容について、自分なりの言葉で説明し直し、他者に共有できる。
- ・他者との議論の中で、自分自身の問題意識を深めることができる。
- ・古典作品を現代的な視点で読み解き、自身の考察に役立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①全受講者にそれぞれ担当箇所を割り当て、その箇所について担当者はレジュメを作成し、発表する。
- ②発表内容を元に、受講者全員で質疑応答・議論を行う。
- ③質疑・議論の内容について、適宜教員が補足説明・フィードバックを行う。
- ④授業内での発表や議論の内容に関するリアクションペーパーを各自提出し、次回授業時に共有することで理解を深める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と今後の進め方について
第2回	トマスとスコラ哲学について	予備知識の導入
第3回	第1部第75問題第1項	魂は物体か
第4回	第1部第75問題第2項	人間の魂は自存するか
第5回	第1部第75問題第3項	動物の魂は自存するか
第6回	第1部第75問題第4項	魂が人間か
第7回	第1部第75問題第5項	魂は質料と形相の複合体か
第8回	第1部第75問題第6項	人間の魂は可滅的か
第9回	第1部第75問題第7項	魂と天使は一つの種か
第10回	第1部第79問題第1項	知性は魂の能力か
第11回	第1部第79問題第2項	知性は受動的な能力か
第12回	第1部第79問題第3項	人間と能動知性
第13回	第1部第79問題第4項	能動知性は魂に属するか
第14回	第1部第79問題第5項	能動知性は万人にとって単一か
第15回	人間の魂と能力について	今までの振り返りと今後の内容について
第16回	第1部第79問題第6項	知性と記憶
第17回	第1部第79問題第7項	知性的な記憶と知性は別の能力か
第18回	第1部第79問題第8項	理性と知性
第19回	第1部第79問題第9項	上位の理性と下位の理性
第20回	第1部第79問題第10項	覚知と知性
第21回	第1部第79問題第11項	観照的知性と実践的知性
第22回	第1部第79問題第12項	良知について
第23回	第1部第79問題第13項	良心について
第24回	第1部第80問題第1項	欲求は魂の能力か
第25回	第1部第80問題第2項	感覚的欲求と知性的欲求
第26回	第1部第81問題第1項	感能は欲求的か
第27回	第1部第81問題第2項	感能は怒りと欲情に区別されるか
第28回	第1部第81問題第3項	怒りや欲情は理性に服するか

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前に各授業回の該当箇所を熟読し、疑問点をまとめておく。
各授業回の担当者は、該当箇所を熟読した上でレジュメを作成する。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

トマス・アクィナス『神学大全』高田三郎・日下昭夫・大鹿一正ほか訳、創文社、1960年。

※図書館にて利用可能であるが、授業内での使用箇所についてコピーを配布する予定。

【参考書】

トマス・アクィナス『神学大全Ⅰ・Ⅱ』山田晶訳、中央公論新社、2014年。
『トマス・アクィナス』稲垣良典著、講談社、1999年。
『トマス・アクィナス『神学大全』』稲垣良典著、講談社、2019年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テキスト内容についての理解と、自分なりの疑問点をもつことができているか、論理的に考察することができるか、他者の意見を尊重しつつ自身の考察を深めることができているか、といった観点から、以下の3項目にて評価する。

- ①発表担当時の発表内容：30%
- ②質疑応答・議論への参加、リアクションペーパーの記入：30%
- ③期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study parts of Thomas Aquinas's book, "Summa Theologiae," which discusses the human soul and intellectual cognition. Our main goal is to help students better understand what it means to be human in a theistic worldview and how humans interact with the world around them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should comprehend the fundamental concepts of medieval philosophy and be able to articulate them in their own words. Additionally, they should deepen their awareness of their own issues through discussions with others.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, it is expected that students will have read the pertinent chapter from the textbook. The individual in charge will create a summary of the chapter after reading it carefully. You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%, Contents of presentation as person in charge: 30%, in-class contribution: 30%

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (11)

内藤 淳

授業コード：A2240 | 曜日・時限：金4/Fri.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マイケル・E・マカロー『親切の人類史：ヒトはいかにして利他の心を獲得したか』を精読する。人間はなぜ他人を思いやったり「他人のため」の行動をとったりするのかを考えるのがこの本のテーマである。生物は、進化の中で、自分が生き残って子孫を残すための身体や内面の仕組みを発達させてきたが、人間は、自分以外の他人の利益のために行動することがしばしばある。そうした「利他的」な性質を人間が持つようになったのはなぜか、それはすべての人間に生物学的に備わった性質なのか、それとも環境や教育の影響によって後天的に生じるものなのか。利他的な性質や行動が生じる「原因」を探ることで、人間とはどういう存在なのか、人間の本性とは何なのかという人間理解を深めるのがこの授業の目的である。あわせて、卒業論文に関する構想報告と書き方の指導を随時行う。

【到達目標】

- (1)人間の心理や行動を進化の観点に立って分析する進化心理学の視点と方法が分かるようになる。
- (2)そうした視点に立ちつつ、心理学や人類学などの科学的な研究・調査結果を活用して「人間の姿」を実証的に把握するやり方が分かるようになる。
- (3)人間についての科学的な研究や考察を踏まえて、人間とはどういう存在なのかに関する自分なりの「人間観」を持てるようになる。
- (4)論理的な文章を正確に理解する読解力と、その内容をレジュメや図表を使って他の人に分かりやすく説明する力を身に付ける。
- (5)自分の意見を合理的・説得的に説明する力を習得すると共に、他人の意見を聞いてその趣旨を正しく理解する力、それに対して合理的に批判・反論する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回あらかじめ報告者と応答者、小論文担当者を定め、報告者による担当箇所の内容報告と応答者による質問・意見、小論文担当者による自説の主張を中心に、参加者間での討論を行う。それらを通じて、受講生各人の思考力や分析力の鍛錬を図るので、受講生には主体的な授業参加と議論、その前提となる事前の十分な準備・予習を求める。

また、期間中に4年生の卒業論文の構想報告とそれについての議論・検討も行う予定である。

なお、ここでの内容は、「人間の性質や行動」に関する学問的な分析と考察がねらいであって、政治的・宗教的な主張やイデオロギーを唱えたり戦わせたりすることはしないので十分注意すること。

授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。開講後の議論・検討状況等に応じて、進度や検討箇所は随時柔軟に設定していく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要・やり方の説明
第2回	進行準備	担当箇所の割り当てや役割分担の説明、授業進行に関する説明・協議など
第3回	「共感」という心の作用の形成についての考察	『親切の人類史』第2章の講読と検討
第4回	自然淘汰における生物の性質形成についての考察	『親切の人類史』第3章の講読と検討
第5回	利他行動の進化についての考察	『親切の人類史』第4章の講読と検討
第6回	群淘汰作用による利他行動の進化についての考察	『親切の人類史』第5章の講読と検討
第7回	間接互恵による利他行動の進化についての考察	『親切の人類史』第6章の講読と検討
第8回	農耕の開始が人間心理に与えた影響についての考察	『親切の人類史』第7章の講読と検討
第9回	枢軸時代の人間社会の変化についての考察	『親切の人類史』第8章の講読と検討
第10回	貧困が人間社会に与える影響についての考察	『親切の人類史』第9章の講読と検討
第11回	卒業論文構想報告：1回目(1)	卒業論文のテーマについての報告：4年生の第1グループ
第12回	卒業論文構想報告：1回目(2)	卒業論文のテーマについての報告：4年生の第2グループ

第13回	卒業論文構想報告：1回目(3)	卒業論文のテーマについての報告：4年生の第3グループ
第14回	卒業論文構想報告：1回目(4)	卒業論文のテーマについての報告：4年生の第4グループ
第15回	啓蒙時代の社会作用についての考察	『親切の人類史』第10章の講読と検討
第16回	近代の人道主義の発展についての考察	『親切の人類史』第11章の講読と検討
第17回	卒業論文構想報告：2回目(1)	卒論の内容構成の報告と検討：4年生の第1グループ
第18回	卒業論文構想報告：2回目(2)	卒論の内容構成の報告と検討：4年生の第2グループ
第19回	卒業論文構想報告：2回目(3)	卒論の内容構成の報告と検討：4年生の第3グループ
第20回	卒業論文構想報告：2回目(4)	卒論の内容構成の報告と検討：4年生の第4グループ
第21回	20世紀の国家間貧困支援についての考察	『親切の人類史』第12章の講読と検討
第22回	利他主義の社会的効果についての考察	『親切の人類史』第13章の講読と検討
第23回	卒業論文構想報告：3回目(1)	卒論の中心主張の報告と検討：4年生の第1グループ
第24回	卒業論文構想報告：3回目(2)	卒論の中心主張の報告と検討：4年生の第2グループ
第25回	卒業論文構想報告：3回目(3)	卒論の中心主張の報告と検討：4年生の第3グループ
第26回	卒業論文構想報告：3回目(4)	卒論の中心主張の報告と検討：4年生の第4グループ
第27回	理性と倫理についての考察	『親切の人類史』第13章の講読と検討
第28回	利他性の進化についてのまとめ	『親切の人類史』全体の主張についての検討

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

報告者は、担当回の授業までに担当箇所の内容を整理し、レジュメを作成する。応答者は担当箇所に関する疑問点・問題点をまとめておく。

小論文担当者は、担当箇所を読み、その内容について自分の考えを論じた小論文を書く。

その他の参加者は、テキストを予習すると共に、指示した参考書などを読んで内容を把握しておく。

報告者をはじめいずれの立場においても、テキストの内容について「分かったところ」「分からないところ」を正確且つ具体的に特定できるよう求めるので、中途半端でない十分な読解を予習として行うこと。詳細は授業の中で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

マイケル・E・マカロー『親切の人類史：ヒトはいかにして利他の心を獲得したか』みすず書房、2022年

【参考書】

長谷川寿一・長谷川真理子・大槻久『進化と人間行動(第2版)』東京大学出版会、2022年

小田亮『利他学』新潮選書、2011年

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①担当回の報告内容、②執筆小論文の内容、③討論への参加状況・議論内容により、「到達目標」で示した(1)~(5)の達成度を評価する。評価割合は①②の点数が80% (①②のいずれか自身が担当したもの)、③が20%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見やコメントを積極的に取り上げて、討論での検討の材料にしたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with "human altruism" in the perspective of evolutionary psychology. The main content of this class is to examine why humans have the propensity to "care for others." (Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the characteristics of human altruism and human nature. At the end of the course, students are expected to form their own opinions about human nature, relying on the findings of human science.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content including writing short essays on the content of each class.

(Grading Criteria /Policy)

Final Grade will be decided based on assigned essays, presentations at seminars (80% each in charge of either) and contribution in class discussion (20%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

科学哲学 1

中釜 浩一

授業コード：A2241 | 曜日・時限：木3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

[Outline (in English)]

Course outline: This course deals with the first order logic in terms of the tableau method.

Learning Objectives: To acquire skills to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the day's content and to solve problems of exercise.

Grading Criteria: 40%, mid-term examination, 30% term-end examination: 30%

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

正しく論証を組み立て、間違った議論を見分ける技能は、あらゆる分野において重要だが、現代論理学のシステムを実際の議論に応用することは必ずしも容易ではない。科学哲学1では、直観的な理解が容易で、議論への応用に最も適していると思われる「タブロー法」の技法を習得し、論理的な議論を組み立て反論するための技法に熟達することを目指す。

【到達目標】

タブロー法を用いた論証の妥当性の判定や証明のテクニックに習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回練習問題を課する。
 授業の冒頭で、前回の練習問題の解答を解説し、補足説明を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論理と言語	論理の目的
第2回	命題論理とタブロー法 (その1)	命題論理と記号言語
第3回	命題論理とタブロー法 (その2)	記号化のポイント
第4回	命題論理とタブロー法 (その3)	タブロー法と推理規則
第5回	命題論理とタブロー法 (その4)	タブロー法による妥当性の判定
第6回	命題論理とタブロー法 (その5)	タブロー法の補助規則
第7回	命題論理とタブロー法 (その6)	中間テストと解説
第8回	述語論理とタブロー法 (その1)	述語論理とは何か
第9回	述語論理とタブロー法 (その2)	記号化とモデル
第10回	述語論理とタブロー法 (その3)	述語タブロー
第11回	述語論理とタブロー法 (その4)	述語タブローと論証の妥当性
第12回	述語論理とタブロー法 (その5)	タブローも用いた証明の方法
第13回	述語論理とタブロー法 (その6)	述語論理の完全性
第14回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容を整理し、課題として出される練習問題を解く。
 論理学の参考文献を自分で読み進める。
 本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

Wilfrid Hodges, Logic (penguin books)
 リチャードジェフリー 「形式的論理学」(産業図書)
 中釜他「論理学の初歩」(梓出版)

【成績評価の方法と基準】

課題の提出 40 %
 中間試験 30 %
 期末の試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学2は科学哲学1の発展なので科学哲学1と合わせて年間受講することが望ましい。

ILAC科目として受講する学生には定員があるので、初回の授業に必ず出席し教員の説明を聞くこと。

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

科学哲学2

中釜 浩一

授業コード：A2242 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

様相の概念 (必然、偶然、可能、不可能) は、言語の意味理解、原因結果の概念、責任や義務の分析等々、現代の重要な諸問題を展開する上で必須の概念的装置である。科学哲学2では、科学哲学1に引き続いて、様相概念の意味と、それに関わる論理に習熟することを目指し、様相体系K、T、S4、S5への展開を扱う。

【到達目標】

科学哲学1の十分な理解を前提とした上で、タブローの方法の様相論理の体系K、T、S4、S5への拡張してその技法に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回練習問題を課する。
各回の授業の冒頭で前回の課題の解答と補足解説を与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	タブロー法に関する復習	タブロー法のポイント
第2回	様相とは何か (その1)	様相概念の説明
第3回	様相とは何か (その2)	可能世界の概念
第4回	体系K (その1)	Kの説明
第5回	体系K (その2)	Kタブロー
第6回	体系K (その3)	Kタブローによる証明
第7回	中間まとめ	中間テストと解説
第8回	体系T (その1)	KとTの違い
第9回	体系T (その2)	Tタブローと証明
第10回	体系S4 (その1)	S4の説明
第11回	体系S4 (その2)	S4タブローと証明
第12回	体系S5 (その1)	S5の説明
第13回	体系S5 (その2)	S5タブローと証明
第14回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業ノートを整理し、練習問題を解く。
論理学の参考文献を読み進める。
本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」(産業図書)
中釜他「論理学の初歩」(粹出版) Pries
Priest, An Introduction to Non-Classical Logic

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題：40 %
中間試験：30 %
期末の試験：30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学1の内容の理解を前提とするので、科学哲学1を受講しておくか、参考文献によってタブロー法に習熟しておくこと。

ILAC科目として受講する学生には定員があるので、初回の授業には必ず出席すること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with some systems of modal logic in terms of the tableau method.

Learning Objectives: To acquire the skill to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected spend four hours to understand the content and to solve problems of exercise.

Grading Criteria: 40%, mid-term examination, 30% term-end examination: 30%

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

現代思想2 (フランスの思想) 1

大池 惣太郎

授業コード：A2245 | 曜日・時限：金5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

J.-P.サルトルの著『存在と無』(L'Être et le néant, 1943)を通年で講読します。難著であり、かつ大著なので、毎回かなりの分量を自力で考えながら読み進めることが求められます。講読を通じて、『存在と無』の主要な論点について基本的な理解を得ると同時に、フランス実存主義の争点や問題点について、一定程度の水準で考察、議論、論述できるようになることが授業の目的です。

【到達目標】

・サルトルの実存哲学の主要な論点、争点、問題点について、基本的な理解を得る。
 ・また、レポートや発表を通じて、学んだ知見を一定程度の水準で哲学的に考察、議論、論述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
 ・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「実存主義とは何か」	ガイダンス
第2回	「新実存主義」の論点(1)	自然主義との違い
第3回	「新実存主義」の論点(2)	心脳問題との関係
第4回	サルトルの実存主義	サルトル実存哲学の概説
第5回	『存在と無』講読 1	「反省以前の Cogito」という仮説
第6回	『存在と無』講読 2	「即自存在」について
第7回	『存在と無』講読 3	否定の起源とは何か
第8回	『存在と無』講読 4	「無」について
第9回	『存在と無』講読 5	「自己欺瞞」について
第10回	『存在と無』講読 6	「対自」の事実性
第11回	『存在と無』講読 7	「対自」と自己性の関係について
第12回	『存在と無』講読 8	時間の現象学的解釈
第13回	『存在と無』講読 9	根源的時間性と心的時間性
第14回	『存在と無』講読 10	「超越」について

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加(担当者はレジュメを作成、事前に論点や疑問点を整理する)。
 ・本授業の準備学習3時間、復習時間1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

ジャン＝ポール・サルトル『存在と無 現象学的全論の試みI、II、III』(ちくま学芸文庫、2008年、各1800円)

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(議論への参加度、発表)70%とレポート30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to reconsider Sartre's existential philosophy, compared to recent "new existentialism". We read mainly Sartre's monumental work, Being and Nothingness: An Essay on Phenomenological Ontology (1943), to examine some possibilities and problems of sartrian existentialism from the point of view of today's philosophical discourses concerning the "existence", human or not.

At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the main issues in Sartre's "Being and Nothingness", as well as to be able to discuss the contentious points and problems of existentialism at some level.

Before each class meeting, students will be expected to have read the designated texts. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Evaluation is based on class presentation and participation (70%) and end-of-term reports (30%)

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

現代思想2 (フランスの思想) 2

大池 惣太郎

授業コード：A2246 | 曜日・時限：金5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

J.-P.サルトルの名著『存在と無』(L'Être et le néant, 1943)を通年で講読します。難著であり、かつ大著なので、毎回かなりの分量を自力で考えながら読み進めることが求められます。講読を通じて、『存在と無』の主要な論点について基本的な理解を得ると同時に、フランス実存主義の争点や問題点について、一定程度の水準で考察、議論、論述できるようになることが授業の目的です。

【到達目標】

- ・サルトルの実存哲学の主要な論点、争点、問題点について、基本的な理解を得る。
- ・また、レポートや発表を通じて、学んだ知見を一定程度の水準で哲学的に考察、議論、論述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
- ・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前学期の復習	実存主義を捉え直す
第2回	『存在と無』講読 1 1	他者の存在の現象学的理解
第3回	『存在と無』講読 1 2	「まなざし」について
第4回	『存在と無』講読 1 3	身体の中の次元
第5回	『存在と無』講読 1 4	実存論とエロティシズム
第6回	『存在と無』講読 1 5	「われわれ」の存在論
第7回	『存在と無』講読 1 6	「自由」の条件
第8回	『存在と無』講読 1 7	「在る」と自由
第9回	『存在と無』講読 1 8	「為す」と自由
第10回	『存在と無』講読 1 9	自由と死の関係について
第11回	『存在と無』講読 2 0	「実存的な精神分析」について
第12回	『存在と無』講読 2 1	「為す」と「持つ」
第13回	『存在と無』講読 2 2	実存論と形而上学
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加(担当者はレジュメを作成、事前に論点や疑問点を整理する)。
- ・本授業の準備学習3時間、復習時間1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

ジャン＝ポール・サルトル『存在と無 現象学的実存論の試みI、II、III』(ちくま学芸文庫、2008年、各1800円)

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(議論への参加度、発表)70%とレポート30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to reconsider Sartre's existential philosophy, compared to recent "new existentialism". We read mainly Sartre's monumental work, Being and Nothingness: An Essay on Phenomenological Ontology (1943), to examine some possibilities and problems of sartrian existentialism from the point of view of today's philosophical discourses concerning the "existence", human or not.

At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the main issues in Sartre's "Being and Nothingness", as well as to be able to discuss the contentious points and problems of existentialism at some level.

Before each class meeting, students will be expected to have read the designated texts. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Evaluation is based on class presentation and participation (70%) and end-of-term reports (30%)

ART200BB (芸術学 / Art studies 200)

美学・芸術学 1

吉田 敬介

授業コード：A2247 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、哲学の一分野としての「美学」の成立と展開を概観します。「美学」(aesthetica)は、西洋近代哲学の歴史と共に、「感性的認識の学」かつ「芸術の理論」かつ「美しいものの学」として、独自の展開を遂げました。授業ではまず、古代ギリシア以来の芸術論を踏まえた上で、特に近世・近代の哲学者たち（デカルト、ライプニッツ、バウムガルテン、ヘルダーら）の議論の中で「美学」が成立するプロセスを確認します。その上で、カント、シラー、ヘーゲルらにおいて、「美学」が体系化し独自の重要性を帯びていくその諸相を見ていきます。なお扱う内容に応じて実際の芸術作品にも言及しますが、芸術作品（やその歴史）それ自体はこの授業の主題でないことには注意してください。春学期の授業では、あくまでも哲学の一分野としての「美学」について基本的な知識を獲得することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 近代哲学における美学の展開を、理解できる。
(B) 美学の内容を、哲学の一分野として考察できる。
(C) 美学について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	そもそも「美学」とは？	「美的なものの学」としての「美学」への問い
第3回	「美学」前史 (1)	プラトンの美の哲学と詩人追放論
第4回	「美学」前史 (2)	アリストテレス『詩学』と「ミメーシス」論
第5回	「美学」の背景 (1)	近代化における「芸術」と「美」の変化
第6回	「美学」の背景 (2)	デカルトと否定的感性論
第7回	「美学」の誕生 (1)	ライプニッツと「混然たる認識」の肯定
第8回	「美学」の誕生 (2)	バウムガルテンと「感性的認識の学」としての美学
第9回	「美学」の誕生 (3)	ヘルダーの「触覚の美学」と力の表現
第10回	「美学」の展開 (1)	カントの「美的判断力」論と「天才」概念
第11回	「美学」の展開 (2)	カントの「崇高」論とシラーの「美的教育」綱領
第12回	「美学」の展開 (3)	ヘーゲルの芸術の哲学
第13回	「美学」の誕生と展開	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版会
 - ・井奥陽子『近代美学入門』筑摩書房〔ちくま新書〕
 - ・クリストフ・メンケ『力 美的人間学の根本概念』杉山卓史／中村徳仁／吉田敬介（訳）、人文書院
 - ・ウード・クルターマン『芸術論の歴史』神林恒道／太田喬夫（訳）、勁草書房
 - ・『美学の事典』美学会（編）、丸善出版
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
- ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介いたします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of aesthetics in the context of modern philosophy.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of aesthetics, (B) examine it philosophically, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on inclass contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

ART200BB (芸術学 / Art studies 200)

美学・芸術学 2

吉田 敬介

授業コード：A2248 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、19世紀から20世紀にかけての芸術や美的経験をめぐる議論を概観します。

近代における「美学」の確立以来、芸術における美的経験は、きわめて重要な意義を持つものと見なされるようになりました。芸術や美的経験は、一方で現実社会からの解放をもたらす自律したものとして賞賛されるようになり、他方で歴史的・社会的状況に応じた独特の機能を果たすものとして注目されるようになったのです。秋学期の授業では、19世紀から20世紀にかけてのこうした議論の諸相を参照しつつ、時に作品そのものに目を向けながら、「社会に対する社会的アンチテーゼ」としての芸術のあり方について考察していきます。そこからさらに、芸術や美的経験のポテンシャルについて検討したいと思います。

【到達目標】

- (A) 19世紀・20世紀の芸術論の展開を、理解できる。
- (B) 授業で扱った芸術論の内容を、実際の作品や現実の社会と関連させて考察できる。
- (C) 授業で扱った芸術論について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示 (必要に応じて配布) します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	近代美学の成立と芸術論	近代美学史の確認と、19-20世紀の議論の導入
第3回	芸術と美的経験 (1)	ショーペンハウアーと美的「観照」
第4回	芸術と美的経験 (2)	キルケゴールと美的な生への批判
第5回	美的経験の両義性 (1)	ニーチェ『悲劇の誕生』における芸術論
第6回	美的経験の両義性 (2)	ニーチェのヴァーグナー批判と「芸術家」論
第7回	大衆文化と美的経験 (1)	20世紀における芸術の変化と批判理論
第8回	大衆文化と美的経験 (2)	ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』と大衆文化の両義性
第9回	大衆文化と美的経験 (3)	『啓蒙の弁証法』における「文化産業」批判
第10回	社会的なものとしての芸術 (1)	アドルノの美学とモダニズム
第11回	社会的なものとしての芸術 (2)	「アウシュヴィッツ以後」の芸術への問い
第12回	社会的なものとしての芸術 (3)	クラカウアーの映画論とボイスの「社会彫刻」
第13回	19-20世紀の芸術論と美的経験	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」(『ベンヤミン・コレクション① 近代の意味』浅井健二郎 (編訳) / 久保哲司 (訳)、筑摩書房 [ちくま学芸文庫] 所収)

・テオドール・W・アドルノ『模範像なしに 美学小論集』竹峰義和 (訳)、みすず書房

・伊藤守 (編)『メディア論の冒険者たち』東京大学出版会

・ウッド・クルターマン『芸術論の歴史』神林恒道 / 太田喬夫 (訳)、勁草書房

・『美学の事典』美学会 (編)、丸善出版

その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点 (リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価) 40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。

・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介いたします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of art theory in the 19th and 20th centuries.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of art theory, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on inclass contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

東洋哲学史 1

計良 隆世

授業コード：A2249 | 曜日・時限：火4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インド大乘仏教思想展開史
 この授業では、インド大乘仏教思想、特に徹底的な空思想を説く中観思想の展開史を扱います。中観思想展開史を中心軸として扱いながら、中観派という学派とその学説の成立に大きな影響を与えた、大乘仏教の瑜伽行唯識学派と仏教論理学派の思想と思想史についても説明します。

【到達目標】

・初期・中期・後期中観思想のそれぞれの思想的特徴を理解する。
 ・仏教の認識論において、認識するとはどのような行為なのかを理解する。
 ・後期中観思想が企てた、仏教諸思想の序列化 (哲学階梯) とその方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式。毎回、教科書と資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (3~4回実施予定)。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教の成立と展開 仏教思想の多様性・多様化
第2回	大乘仏教思想を理解するための予備知識 (1)	縁起・此縁性
第3回	大乘仏教思想を理解するための予備知識 (2)	修行論上の目標と実践方法 「空」とは何か? 人無我と法無我
第4回	初期中観思想	ナーガールジュナの歴史的 position 付け 『中論』により果たした役割
第5回	瑜伽行唯識学派 (1)	学派展開史: 論師と論書 三性・三無性説
第6回	瑜伽行唯識学派 (2)	唯識説 心・心作用
第7回	仏教論理学派 (1)	学派展開史: 論師と論書 正しい認識手段の理論 直接知覚: 定義と分類
第8回	仏教論理学派 (2)	自己認識説 因果効力 認識とはどのような行為か?
第9回	中期中観思想 (1)	瑜伽行派との対立: 「唯心」の解釈 バーヴィヴェーカ
第10回	中期中観思想 (2)	チャンドラキールティ
第11回	後期中観思想 (1)	ジュニャーナガルバ
第12回	後期中観思想 (2)	シャントラクシタ カマラシラ 三性・三無性解釈
第13回	後期中観思想 (3)	唯心解釈 道・瞑想の階梯
第14回	授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読、小テストへの回答

【テキスト (教科書)】

計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、2023年、¥2200 + 税
 その他の文献資料はプリントで配布します。

【参考書】

桂紹隆・斎藤明・下田正弘・末木文美士編『シリーズ大乘仏教6 空と中観』、春秋社、2012年

桂紹隆・斎藤明・下田正弘・末木文美士編『シリーズ大乘仏教7 唯識と瑜伽行』、春秋社、2012年

桂紹隆・斎藤明・下田正弘・末木文美士編『シリーズ大乘仏教9 認識論と論理学』、春秋社、2012年

その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末授業内筆記試験の成績 (60%) と授業内容確認小テストの成績 (30%) と平常点 (10%) により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教専門用語の意味を正確に理解しているか、問題とする思想・学説を正しく理解し丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史における意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか (恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当なし。

殆どの学生にとって、インド大乘仏教の思想と思想展開史を授業で学ぶのは初めてのことでしょう。説明・解説は丁寧にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)。

【Outline (in English)】

This is a course to learn the history of Mahayana Buddhist philosophy in India. This course mainly deals with the historical development of Madhyamaka philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The characteristics of early, middle, and later Madhyamaka philosophy.
2. Cognition being an act of desiring to obtain practical efficacy (arthakriyā).
3. The ordering or hierarchization of Buddhist philosophies established by the later Mādhyamika school in order to attain the wisdom of truth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

東洋哲学史 2

山本 伸裕

授業コード：A2250 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本社会に身を置きながら、共時的な思想課題に向き合うには、まずもって自らが拠って立つ思想的足場となる東洋哲学について知っておくことは、不可欠な前提と言える。この講義では、インドや中国の思想哲学、およびそれらの影響下に形成された日本の諸思想を広く学んでいく。

【到達目標】

◎古代インドや古代中国を源流とし、日本の思想文化に影響を与えた諸思想について知識を深めることができる。

◎日本に根付いた諸思想のエッセンスを、古代から近代まで幅広く学ぶことができる。

◎思想史の観点から、東洋の哲学を概観することのできる野をもつことができる。

◎近現代の社会が直面している思想的課題が何であるかかについて、自分なりの思索を展開できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

◎対面による講義形式で行います。

◎単元が終了するごとに、リアクションペーパーを提出してもらいます（3回～4回を予定しています）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	バラモン教（古代インドの哲学）	1. なぜ「東洋哲学」か 2. ヴェーダ聖典 3. ウパニシャッドの哲学 4. 六派哲学
第2回	原始仏教	1. 自由思想家 2. シッタールタの出家 3. 仏陀のさとり 4. 四諦八正道
第3回	部派仏教から大乘仏教へ	1. 根本分裂 2. 部派仏教の成立 3. 『俱舍論』のコスモロジー 4. 初期大乘仏典の成立
第4回	大乘仏教の思想の滅亡	1. 龍樹の「空」の哲学 2. 世親の「唯識」哲学 3. 如来蔵思想 4. 密教の隆盛と仏教
第5回	儒家の哲学	1. 百家争鳴の時代 2. 孔子の思想 3. 孟子の思想 4. 朱子学の成立
第6回	道家の哲学	1. 天道思想 2. 老子の思想 3. 荘子の思想 4. 道教の成立
第7回	中国仏教	1. 天台教学 2. 華嚴教学 3. 禪仏教 4. 真言密教

第8回 記紀の世界

1. 天地開闢
2. 神道の死生観
3. 神道の罪悪観
4. 日本人と神道

第9回 日本仏教（I）

1. 仏教伝来と南都六宗
2. 最澄（天台宗）の仏教
3. 空海（真言宗）の仏教
4. 修験道

第10回 第日本仏教（II）

1. 源信と末法思想
2. 浄土教（法然・親鸞・一遍）の思想
3. 禅宗（道元・栄西）の思想
4. 日蓮の思想

第11回 儒学と国学

1. 京学派（藤原惺窩・林羅山）
2. 古学派（伊藤仁斎・荻生徂徠）
3. 陽明学（中江藤樹・熊沢蕃山）
4. 国学（賀茂真淵・本居宣長）

第12回 民衆の思想

1. 武の思想（山鹿素行・山本常朝）
2. 町人の思想（石田梅岩・近松門左衛門）
3. 農の思想（安藤昌益・二宮尊徳）
4. 神道の展開（山崎闇斎・平田篤胤）

第13回 近代日本の哲学課題

1. 「蘭学（洋学）」への関心
2. 啓蒙思想（明六社）
3. 仏教の近代化
4. 近代日本哲学界の思想課題

第14回 期末試験

実質的にはまとめのレポートに近い。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◎事前：参考文献などに目を通すなどして基本的知識を確認する
事前学習時間の目安：約2時間

◎事後：配布されたレジュメに沿って、講義の内容を復習する。

◎事後：単元ごとにリアクションペーパーを作成する。
事後学習時間の目安：約2時間

【テキスト（教科書）】

◎特になし。

【参考書】

◎早島鏡正『インド思想史』（東京大学出版会、1982年）

◎平川彰『仏教通史—インド・中国・日本』（春秋社、2006年）

◎木村清孝『中国仏教思想史（パープル叢書）』（世界聖典刊行協会、1979年）

◎中島隆博『中国哲学史—諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで（中公新書）』（中央公論新社、2022年）

◎大野達之助『新稿日本仏教思想史』（吉川弘文館、1973年）

◎末木文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ（新潮文庫）』（新潮社、1996年）

◎和辻哲郎『日本倫理思想史（岩波文庫、全4巻）』（岩波書店、2011～2012年）

◎清水正之『日本思想全史（ちくま新書）』（筑摩書房、2014年）

◎藤田正勝『日本哲学入門（講談社現代新書）』（講談社、2024年）

【成績評価の方法と基準】

◎期末試験：75%

※第13回目の講義終了後にテーマを提示するので、あらかじめ考えをまとめて、教室で授業時間内に各自レポートを作成する。持ち込み不可。

◎リアクションペーパー：25%

【学生の意見等からの気づき】

◎本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the Philosophy of India, China and Japan. It also enhances the development of student's skill in Western Philosophy.

【Learnig Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge in Asian thought and to learn how to think for myself.

[Learnig activities outside of classroom]

Students will be expected to submit a short report after finishing each section. Your study time will be more than four hours for writing a paper.

[Grading Criteria/Policy]

Your overall grade in this class will be calculated according to the following process: Short reports 25%, Term-end report 75%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

宗教学 1 (伝統宗教) 1

松本 力

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

宗教学の準備として、三大宗教 (仏教、キリスト教、イスラーム) を学ぶ。

【到達目標】

学生は、この授業を通して、宗教についての基本的な知識を獲得し、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を受け、Hoppii上での「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんの答えた解答に対して個別にコメントすることはありませんが、次回の授業開始時までに「お知らせ」に書き込みますので、確認しておいてください。特に伝えておきたいことがあった場合には、授業内でも解説することになります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	宗教学を学ぶために、予備作業としての宗教の知識を獲得する。
第2回	仏教①	仏陀について
第3回	仏教②	仏陀の教えについて
第4回	仏教③	仏教が目指したもの
第5回	キリスト教①	旧約聖書について
第6回	キリスト教②	キリスト教の受容と変化
第7回	キリスト教③	キリスト教の神について
第8回	キリスト教④	イエス・キリストについて
第9回	キリスト教⑤	キリスト教的人間像
第10回	キリスト教⑥	キリスト教の終末観
第11回	イスラーム①	ムハンマドについて
第12回	イスラーム②	クルアーンについて
第13回	イスラーム③	イスラーム共同体について
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の復習時間は、各2時間を標準とします、

【テキスト (教科書)】

資料を配布して授業を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島菌進『宗教学の名著30』、ちくま新書。

渡辺照宏『仏教 第二版』、岩波新書。

エルンスト・ベント『キリスト教 その本質とあらわれ』、平凡社。

小杉泰『イスラームとは何か』、講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容についての学生の意見を求める課題 (30%) と、授業内容全体についての理解度を確かめる試験 (70%) によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

最終的には資料の内容について十分に理解できていることが求められます。課題に取り組みながら、資料の内容を読み込んでください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

宗教学 1 (伝統宗教) 2**松本 力**

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

宗教学で取り上げられるさまざまな著作について学ぶ。

【到達目標】

学生は、宗教に関するさまざまな著作を読むことで、宗教とは何かを説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を受け、Hoppii上の「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんが答えた解答に対して個別にコメントすることはしませんが、次回の授業開始時までに「お知らせ」に書き込みますので、確認しておいてください。特に伝えておきたいことがあった場合には、授業内でも解説することになります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	この授業で紹介する著作についての概容。
第2回	デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	ヒュームの信仰について。
第3回	フリードリヒ・ニーチェ『反キリスト者』	ニーチェにとってのキリスト教について。
第4回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』①	キリスト教における経済的・社会的要因の考察。
第5回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』②	教会と福音との乖離について。
第6回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』①	スミノーゼについて。
第7回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』②	スミノーゼの諸要因。
第8回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』①	宗教的経験の特徴。
第9回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』②	トルストイの信仰の考察。
第10回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』①	道徳的責務について。
第11回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』②	動的宗教。
第12回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』①	宗教の次元。
第13回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』②	神について。
第14回	試験	まとめと解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

この授業では配布資料を使うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島田進『宗教学の名著30』、ちくま新書。

デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』、岩波文庫。

フリードリヒ・ニーチェ『ニーチェ全集 偶像の黄昏 反キリスト者』、ちくま学芸文庫。

H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』、ヨルダン社。

ルドルフ・オットー『聖なるもの』、岩波文庫。

ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相 下巻』、岩波文庫。

アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』、岩波文庫。

ヴィクトール・フランクル、ピンハス・ラビーデ『人生の意味と神 信仰をめぐる対話』、新教出版社。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容について学生に意見を求める課題 (30%) と、授業全体の内容の理解度を確認する試験 (70%) によって、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の内容から、それぞれの著者の考え方について、自分なりに言葉でまとめられるようになることが求められます。課題を通して資料を読み込んでください。

【Outline (in English)】**Course outline**

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

心理学 1 (心理学概論) 1

福田 由紀

授業コード：A2254 | 曜日・時限：火2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します!」ので持参してください。また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

また、COVID-19感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppiiからのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、心理学的な見方	授業の進め方の説明、心理学的な見方とは
第2回	感覚・知覚	知覚の特性、視覚システムの特徴
第3回	行動の形成	遺伝-環境論争、人間の行動の特徴
第4回	学習理論とその応用	古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第5回	記憶とその変容	ワーキングメモリ、記憶の変容
第6回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第7回	思考	問題解決、人の思考のクセ
第8回	自他のこころの理解	自己意識の発達、心の理論
第9回	動機づけ	動機づけの機能と種類、ストレス
第10回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー-情報処理論的な考え方
第11回	集団の中の個人	集団の圧力、研究の倫理的な問題
第12回	帰属過程	帰属理論、帰属のバイアス
第13回	性格	性格の記述の考え方、性格測定法
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

* 次週の授業内容にあわせて、短い宿題が出ます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 錯視を体験する。
- 第2回 ヒトの行動の形成に影響する要因を考え、書く。
- 第3回 自動的にしている日々の行動を省察する。
- 第4回 自分の記憶術を振り返る。
- 第5回 行間を理解することを体験する。
- 第6回 覆面算と水がめ問題を体験する。
- 第7回 中間テストの準備を行い、自己評価する。
- 第8回 日常のストレス状態を省察する。
- 第9回 保存課題を体験する。
- 第10回 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
- 第11回 他者の行動の帰属を推測する。
- 第12回 性格テストを体験する。
- 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

* 受講した授業の内容に関して、小テストをHoppiiを通じて行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

「心理学要論-こころの世界を探る- 改訂版」福田由紀編 培風館 2010年

【参考書】

適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20% (宿題と小テスト) と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度は国内研究のために授業を担当しませんでした。以下に22年度の気づきを再掲します。

「工夫していた」約8割、「授業を受けてよかった」が約9割と回答してくれました。ありがとうございます! 対面授業と変わりませんね! 例年と異なるところは、自由記述の件数が多いことです。ZoomやHoppiiなどで質問のやり取りなどをした結果、ハードルが下がったかな。さて、自由記述を見ると以下の通りでした。

- * オンデマンド授業の短所
 - ・通常は集中が続かないけど、10分から20分くらいの短い動画を数本だったのよかった
 - ・(オンデマンドだとできないと思っていた) 実験もできた・・・などなど
- * オンデマンド授業の長所
 - ・何度も見直せる
 - ・わかりやすかった・・・などなど

です。また、宿題のFBが好評でした。そして、宿題と小テストの分量もちょうど良いとのこと。このまま続けませぬ。

最後に、話し方のスピードについて、ちょっと遅い、というコメントも。動画の設定を変えると速くも遅くもできます。それもオンデマンド授業の良いところですね。 ということで、昨年よりパワーアップしたかな。

【その他の重要事項】

大学の授業では、高校までの授業とは異なり、科目担当者の専門性に反映した内容が取り上げられます。そのため、類似した科目名であっても重点が置かれている内容が異なります。例えば、ILAC科目には「心理学I/II (100番台)」、「心理学LA/LB (200番台)」、総合科目「人間行動学A/B (300番台)」、教養ゼミ「心理的ウェルビーイングを考えるA/B (300番台)」などがあります。それぞれの科目担当者の先生は、以下の通りです。

- * 宇野カオリ先生担当：ポジティブ心理学
 - * 櫻井登世子先生担当：発達心理学 (特に児童心理学)
 - * 浅川希洋志先生担当：フロー理論、臨床心理学、文化心理学
- シラバスの内容をよく読んで、履修可能性年次も考慮しつつ、自分の興味にあった科目を選択して下さい。

また、本授業は、様々な分野を抱えている心理学全般に関する入門的内容になっています。そのため、授業の中で、心理学科に置かれている2年次以降に履修できる基礎科目や専門科目を紹介しします。特定の授業回で興味を持った場合には、それらの科目を受講して下さい。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology
- B. broaden their perspectives form psychology
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

心理学 1 (心理学史) 2

矢口 幸康

授業コード：A2255 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ120年ほど前のことであり、それからもさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず19世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における20世紀の3大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた20世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。パワーポイントの資料はhoppiiに事前に掲載するので、授業を欠席した人も内容を事後に確認することができます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第2回	心理学誕生前史	19世紀哲学・医学・生物学が心理学へ与えた影響について
第3回	近代心理学の始まり・展開	ドイツにおける心理学の誕生と展開について
第4回	アメリカにおける心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第5回	日本における心理学の展開	日本における大学心理学の展開について
第6回	社会における心理学の展開	20世紀初頭の社会において心理学が果たした役割について
第7回	20世紀の3大潮流(1)行動主義	行動主義の誕生と展開について
第8回	20世紀の3大潮流(2)精神分析	精神分析の誕生と展開について
第9回	20世紀の3大潮流(3)ゲシュタルト心理学	ゲシュタルト心理学の誕生と展開について
第10回	第3勢力の台頭(1)認知心理学	認知心理学の誕生と展開について
第11回	第3勢力の台頭(1)人間性心理学	人間性心理学の誕生と展開について
第12回	戦争が心理学に与えた影響	第一次・第二次世界大戦が心理学研究に与えた影響について
第13回	臨床心理学の展開	心理学研究成果の社会還元について
第14回	まとめ	授業内容の再確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使いません。各回資料PDFはHoppiiで閲覧可能です。

【参考書】

サトウタツヤ・高砂美樹 2022 流れを読む心理学史【補訂版】 有斐閣アルマ
高砂美樹 2021 心理学史はじめての一步 (改訂電子版) アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

1年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料 (PDF) はHoppiiにあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline (in English)】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures. The slides to be used in the lectures can be obtained through Hoppii to prepare for better understanding. The grading criteria: 80% final exam, 20% attendance with small tasks.

By taking this course in the history of psychology, you can understand the flow of psychology. It was not until the late 19th century that it became possible to study psychology at universities in the West, but in order to understand why it could not be studied until that era, we first learn the prehistory up to the 19th century. After that, we learn about the three major trends in psychology in the 20th century and the development of the 20th century, which was called the “century of psychology”. From this knowledge, you can understand why current psychology uses statistics and experimental methods, while also utilizing individual subjective discourse as data.

This course assumes that you understand the content of “Introduction to Psychology.” Even so, if unfamiliar concepts emerged during the course, please review and understand them. The standard time for the preparatory study and review for this course was 2 h each.

The grade of this subject was determined by the final examination (100%).

PSY200BG (心理学/ Psychology 200)

心理学2 (社会心理学) 1

入山 茂

授業コード：A2256 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要：この授業では、私たちが、生活する中で、他者や社会的場面からどのような影響を受け、またその他者や社会的場面をどのように認識しているのかについて解説する。

授業の目的・意義：社会心理学の概念と研究方法について基礎的な知識を習得し、日常生活で遭遇する社会的事象について心理学的観点から分析できるようにする。

【到達目標】

(1) 社会心理学の基本的な概念 (理論や専門用語) および関連する研究について説明できる。

(2) 社会心理学の基本的な概念および関連する研究を自らの日常生活と関連づけ、実際に起きた社会的事象について、心理学的に考察をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業形態：講義形式とする。

授業の受講方法：各自で授業支援システムから資料をダウンロードし、授業を受講する。

授業の進め方：授業計画に記載したテーマについて、理論、先行研究、応用や問題点などを紹介する。授業の終了後、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。指定した授業については、授業の終了後に小レポート等の課題を行ってもらう。

フィードバック方法：リアクションペーパーについては、次回の授業以降に講評および追加の解説を行う。小レポート等の課題については、課題提出後に、講評および追加の解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：	授業の進め方、評価基準の説明、社会心理学とは
第2回	対人認知	心理学の概要、社会心理学の研究方法
第3回	ステレオタイプ・偏見・差別	印象形成、対人記憶、対人認知
第4回	社会的推論	ステレオタイプ、偏見・差別
第5回	感情	原因帰属、基本的な帰属のエラー、社会的推論、ヒューリスティック
第6回	態度と説得	情動、気分、好み、情動二要因理論、気分一致効果
第7回	自己概念と自己評価	態度の3要素、認知的不協和理論、態度と行動の関連性、説得的コミュニケーション、精緻化見込みモデル
第8回	自己過程	自己概念、社会的アイデンティティ、自尊感情、社会的比較
第9回	対人関係	自己呈示、自己開示、自己制御
第10回	友人関係・恋愛関係	対人コミュニケーション、対人関係の成立・発展・維持・崩壊、対人葛藤
第11回	非言語的コミュニケーション	親密な関係、対人魅力、好意・恋愛
第12回	向社会的行動	表情、動作、対人距離、座席行動、対人接触行動
第13回	反社会的行動	ソーシャルサポート、援助行動、社会的スキル
第14回	まとめ	攻撃行動、犯罪、社会的排斥
		授業のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習：予め授業支援システムから授業で解説する資料をダウンロードし、読んでくる。準備学習時間は、2時間を標準とする。

復習：資料やノートを読み返し、授業で学んだことについて振り返る。復習時間は、2時間を標準とする。

課題対応：指定した授業について、小レポート等の課題を行う。課題対応時間は、1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

越智啓太 (編) (2022) 『私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科社会心理学編』 創元社

池上知子・遠藤由美 (2008) 『グラフィック社会心理学 (第2版)』 サイエンス社

松井豊・宮本聡介 (編) (2020) 『新しい社会心理学のエッセンス：心が解き明かす個人と社会・集団・家族のかかわり』 福村出版
齊藤勇 (2023) 『イラストレート 社会心理学』 誠信書房
谷口淳一・西村太志・相馬敏彦・金政祐司 (編著) (2017) 『新版 エピソードでわかる社会心理学—恋愛・友人・家族関係から学ぶ』 北樹出版
笹山郁生 (編) (2023) 『ライブラリ 心理学を学ぶ=7 集団と社会の心理学』 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業のリアクションペーパー (30%)：授業で学んだ社会心理学の基本的な概念 (理論や専門用語) や先行研究について、①自らの日常生活における経験と関連づけ、②感想、疑問点や興味・関心を、③積極的に述べられているかどうかを評価する。

小レポート等の課題 (30%)：課題内容に対して、①授業内容を踏まえ、②理論や先行研究を引用し、③自らの考えや必要な事項を述べられているかどうかを評価する。

試験 (40%)：試験を通じて、理論や専門用語を正しく理解しているかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業の前日までに、授業の資料を授業支援システムにアップする。各自で授業支援システムから資料をダウンロードし、授業を受講する。

【その他の重要事項】

「集団社会心理学」の授業と合わせて社会心理学全体を概観する。そのため、「集団社会心理学」も同時に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will explain how we are influenced by others and social situations in our lives and how we perceive others and social situations.

【Learning Objectives】

(1) To be able to explain basic concepts (theories and technical terms) and summary of relevant preceding research in social psychology.

(2) To be able to relate basic concepts and preceding research in social psychology to real-life and to psychologically consider social events that actually occur.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are required to download and read the handouts from the class support system prior to the class. The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Comments and discussion about the class (30%):Participants will be evaluated on whether they (1) relate the basic concepts (theories and terminology) and preceding research in social psychology that they have learned in class to their real-life experiences, (2) express their thoughts, questions, interests, and concerns, and (3) actively discuss them.

Assignments such as short reports (30%):Participants will be evaluated on whether they (1) reflect on the contents of the class, (2) cite theories and preceding studies, and (3) express their own ideas and other necessary matters in response to the assigned content.

Examinations (40%):Participants will be evaluated on their correct understanding of theories and terminology through examinations.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

心理学3 (臨床心理学) 1

杉山 崇

授業コード：A2258 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代臨床心理学の体系的な理解を通して、現代社会における心理学の応用について一つの視野を形成することを目指す。

【到達目標】

臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。また、人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

臨床心理学は人間の十全な人生の展開を心理-社会的に支えるために発展した応用心理学である。臨床心理学の対象は非常に広く、医学的な診断名のあるうつ病、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害などの各種精神疾患から、不登校、NEET、家族不和、子育て、職場の人間関係、キャリア開発、各種福祉サービスなど実社会的問題まで扱う。

そのため社会心理学、認知心理学、神経-生理心理学、行動心理学などいわゆる心理科学から、精神医学、精神分析、分析心理学まで幅広く統合して今日の臨床心理学は構成されている。

ここでは講義を中心に体験的なワークも交えて、現代社会に比較的多い症状の理解、その心理的支援の理解、そして心理科学と臨床心理学アプローチを学ぶ。なお担当教員は臨床心理学の幅広いフィールドで心理的な支援の実際に関わっているが、この10数年の社会変動の中で臨床心理学とその実践が大きく変化するのを目の当たりにしてきた。実社会における心理学の応用・活用の諸問題について学生諸君とともに考えたい気持ちである。心理学の連続性について体系的な理解を目指す。

なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出 (またはそれに代わるオンライン上での記入) を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	臨床心理学総論①	歴史とガイダンス
第2回	臨床心理学総論②	目的と対象
第3回	力動的アプローチ	精神分析とユング心理学
第4回	人間性と欲求	欲求とパーソナリティ
第5回	生物・心理・社会モデル	効果的なカウンセリングのためのアセスメント
第6回	関係構築と願望	カウンセリングの3stepsモデル
第7回	心を整える方法	認知再構成法とマインドフルネス
第8回	行動を整える方法	セリフモニタリングと活動記録
第9回	対人関係療法①	社会脳と対人関係
第10回	対人関係療法②	社会的感情と社会的欲求
第11回	対人関係療法③	人間関係の最適化
第12回	事例研究①	適正に悩む女性の事例
第13回	事例研究②	不安、強迫観念、抑うつ
第14回	事例研究③	うつ病からの復職支援

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定した専門用語について2時間ほど調べてくること。

復習：2時間程度の復習レポートを書き下ろす。

【テキスト (教科書)】

『事例でわかる、働く人へのカウンセリングと認知行動療法・対人関係療法』金子書房

【参考書】

『カウンセリングの援助と実際』北樹出版

臨床心理学の「現場」を実態を通して紹介した画期的な良書。事例を学ぶのに最適。

<http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=821&Tfile=Data>

『事例でわかる、基礎心理学のうまい活かし方』金剛出版

心理学がどのように心理療法に活かされているか、事例を通して学ぶ画期的な図書。

<https://7net.omni7.jp/detail/1106063973>

【成績評価の方法と基準】

平常点 (復習課題+授業態度) 30%とレポート (到達目標の達成度) 70%

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見に基づきオンライン参加のサポート、プロジェクトの適正な起動手など、学習環境の円滑な整備を試みたい。今年度もみなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布し課題を出すためPC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合があります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【Outline (in English)】

Through systematic understanding of modern clinical psychology, we aim to form a viewpoint of application of psychology in contemporary society.

Goal : Ability to express self-understanding, understanding of others, and understanding of modern society based on clinical psychology in one's own words.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) : Preparation: Look up the specified specialized terminology for about 2 hours.

Review: Write a review report for about 2 hours.

Grading Criteria /Policy : Normal score (review assignment + class attitude) 30% and report (achieving target) 70%

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

心理学3 (犯罪心理学) 2

桐生 正幸

授業コード：A2259 | 曜日・時限：水5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一般的に、犯罪心理学という「凶悪で猟奇的な殺人事件の犯人心理」を学ぶものと誤解されがちです。しかしながら、現在の犯罪心理学では、犯罪捜査・科学捜査、被害者の心理、少年犯罪、目撃証言、取り調べ技術、防犯活動、裁判員裁判など多岐にわたり、その心理学的な切り口も、傍観者効果などの社会心理学、記憶や生理反応などの基礎心理学、行動分析のための計量心理学など、多様なものとなっています。本講義では、実際の犯罪捜査現場の情報、各種研究の成果などを用いた講義を設計しています。また、TVドラマやニュース報道などの身近な題材を加えながら、講義を進めていく予定です。

【到達目標】

- 1 犯罪心理学とは、どのような学問なのかを学ぶことができる。
- ① 犯罪心理学の上位学問である犯罪学の主要な理論を説明することができる。
- ② 犯罪心理学が明らかにしようとしている犯罪事象を説明することができる。
- 2 講義にて扱うテーマについて、どのような問題があるのかを説明することができる。
- 3 各テーマについて、それに関する理論、研究があるのかを説明することができる。
- 4 犯罪心理学の課題と問題点を指摘することができる。
- 5 実社会の中でイメージされている犯罪心理学や犯罪事象に対し、どのような問題があるかわかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

指定のテキストを用いながら講義形式で授業を進めます。全ての講義にて、パワーポイント等を用いますが、事前学習ができるように予め各講義前にて、そのスライドを「学習支援システム」などにアップしておきます。また適宜、リアクションペーパーから疑問や質問、意見などを取り上げ、授業中にフィードバックを「学習支援システム」などで行います。加えて、授業中に特定のテーマについてグループディスカッションを行ってもらい、その討議内容を発表していただきます。なお、対面方式と一部オンライン方式との併用授業となります。また、最終講義では、それまでの振り返りを実施した後に、総括試験を実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、序論、現代社会と犯罪との関わり	犯罪心理学が現代社会にどのような関わりを持っているのかを学びます。
第2回	犯罪学の歴史：ロンブローゾやデュルケムから始まる犯罪学の概観について	犯罪生物学からシカゴ学派など犯罪社会学の概観を学びます。
第3回	犯罪心理学の始まり	犯罪心理学の歴史と各研究者について学びます。
第4回	犯罪心理学にかかわる心理学の諸理論。	逸脱行動や対人行動などの心理学理論から犯罪事象を学びます。

第5回	日本における司法・犯罪心理学の制度、法律、職種について	少年鑑別所、家庭裁判所などの司法・犯罪心理学の実際について学びます。
第6回	捜査心理学① 記憶：目撃証言とポリグラフ検査について	犯罪捜査場面における目撃証言とポリグラフ検査について学びます。
第7回	捜査心理学③ 犯罪者プロファイリングについて	FBIの手法と統計的プロファイリングを学びます。
第8回	捜査心理学④ 地理プロファイリングについて	地理情報を用いたプロファイリング手法と具体例を学びます。
第9回	犯罪・非行への心理学的支援、被害者支援、保護観察、倫理について	家事、高齢者犯罪、地域社会における支援について学びます。
第10回	地域防犯について	環境犯罪学などの理論と実際の地域防犯活動などについて学びます。
第11回	日本の凶悪事件と犯罪報道について	マスメディアの特質と犯罪報道との関連を検討します。
第12回	的犯罪とそれを取り巻く社会状況	近年の性的犯罪の事例を分析しながら心理的、社会的な要因を検討します。
第13回	高齢者を取り巻く犯罪	ストーカー、特殊詐欺、カスタマーハラスメントなどの側面から検討します。
第14回	試験・まとめと解説	これまでの授業を振り返った後に、総括試験を実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習は、直近の授業スライドを確認し、テキストや提示した動画資料などを視聴しながら行います。復習学習は、授業時に指定された小レポートの作成などを行います。例えば、犯罪者プロファイリングについて準備学習を行いたい時は、下記の動画を視聴することになります。

【プロファイリング-PROFILING-】

https://www.youtube.com/playlist?list=PLi3T7_zsw4UXb79HMO76C5u1TgHPvvnqQ

【テキスト (教科書)】

桐生正幸 「悪いやつらは何を考えているのか：ゼロからわかる犯罪心理学入門」SB ビジュアル新書 本体1,000 + 税

【参考書】

太田信夫 (監修)・桐生正幸 (編)「シリーズ心理学と仕事16 司法・犯罪心理学」北大路書房 本体2,100 + 税

【成績評価の方法と基準】

最終回に実施する総括試験 (50%)、小レポート (30%)、平常点 (20%) です。なお評価は、法制大学の成績評価の基準に準拠して行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックができません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 Lectures on psychological research and practice in the field of crime.

【到達目標 (Learning Objectives)】 You can find out more about criminal psychology.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Two 60-minute study sessions (one before and one after the lesson) are required in addition to each lesson.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Final summative examination (50%), short report (30%) and general marks (20%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

日本思想史 1

西塚 俊太

授業コード：A2260 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。その際、「やさしさ」「かなしみ」「愛」「別れ」「祈り」「祀り」「道」などの様々なテーマのもとで考察することで、現代にも受け継がれている日本思想・日本文化の特徴を把握することを目的とする。

【到達目標】

- ・日本の古代から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において対面式で実施する予定。

- (1) 講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の開始時に、前週に提出されたレポートからいくつかを取り上げ講評し、課題のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本思想史を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第2回	日本思想と「自然」	日本思想における理想としての「自然」についての考察
第3回	別離の思想的意義	喪失と別離についての日本思想的考察
第4回	「祀り」の思想	他なる世界と関係を結ぶことに関する思想的考察
第5回	日本思想史における「仏教」	仏教の受容と日本化の過程についての検討
第6回	古の物語に見る思想	神々の世界と人間の世界とを結ぶ思想のあり方について
第7回	「物」語りとは	日本語の端々に現れる「物」とは一体何であるのか
第8回	「武」の思想	「武」の社会の人間関係のあり方についての検討
第9回	「決断」の思想	武の世界に生きる者たちが示した「思い切ること」の意義の考察
第10回	集団が生み出す論理	集団の中に生まれてくる思想のあり方について
第11回	国際社会と日本の伝統	映像資料を用いて、日本の伝統思想と国際化との関係を考察する
第12回	「型」と「道」の思想史	日本の思想史の中に現れる「型」と「道」の思想の確認と検討
第13回	「愛」と「粋」	「愛すること」の中に見る思想のあり方の考察
第14回	「糸」と「ナイルの一滴」	人と人が出会うことの奇蹟についての考察

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価 (45%) と、学期末試験 (55%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由のない遅刻者に対する対応をより厳密にして、講義が途中入室者への対応で中断しないよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

※すべての回において対面式で実施する予定。

※ hoppii を毎週 (出来る限り毎日) 確認する習慣が重要。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史

＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史 (神・儒・仏・物語・武士道など) の研究

＜主要研究業績＞

- ① 「「ひと」であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」 (『日本倫理思想論究 第2号』、2014)
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』 (勢力尚雅 編共著、2015)
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」 (『倫理学紀要 第26輯』、2019)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 45%, term-end reports 55%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

日本思想史 2

西塚 俊太

授業コード：A2261 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・恐れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。春学期開講の「日本思想史1」よりもいっそう「原典」の読解力の養成を重視する。

【到達目標】

- ・日本の古代から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において対面式で実施する予定。

- (1) 「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の開始時に、前週の講義で課した要約課題のいくつかを取り上げ講評し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本思想史の原典を読むことの意義	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第2回	日本思想と神話世界①	『古事記』に表現されている世界像について
第3回	日本思想と神話世界②	『古事記』の神代と人代の世界像の相違について
第4回	近世世界における神話の受容と変容	本居宣長と平田篤胤における神話世界観の検討
第5回	近代的な「記紀神話」読解	丸山真男の記紀神話読解に関する考察
第6回	厭離穢土と欣求浄土	求められる「浄土」とは何か、なぜ「浄土」は求められるのか、『往生要集』を通じて考察する
第7回	『歎異抄』の思想①	現代人は唯円の語る「悪人」を理解出来ているのだろうか
第8回	『歎異抄』の思想②	騙されているとしても「信じる」とはいかなる事態か
第9回	王朝文化とは何か	現世で到達し得る最高のあり方とはいかなるあり様か
第10回	『曾我物語』の思想①	武士社会の形成の原像についての検討
第11回	『曾我物語』の思想②	「敵討ち」で実現された「武士」像の研究
第12回	『三河物語』の思想②	戦闘者としての武士の社会から官僚としての侍の社会への変容を検討する
第13回	『三河物語』の思想②	大久保彦左衛門はなぜ「詞がけ」を希求したのか
第14回	『葉隠』の思想	『葉隠』の思想を、世間に流布しているイメージを排して一から読み直していく

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価 (42%) と、学期末レポート (58%) によって評価する。

講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。講義後に直接質問するだけではなく、Hoppiiの掲示板機能などを通じて行うことも可能である。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応を厳密にすることで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

※すべての回において対面式で実施する予定。

※毎週 (出来る限り毎日) hoppiiを確認する習慣が重要。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史

<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史 (神・儒・仏・物語・武士道など) の研究

<主要研究業績>

- ① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」(『日本倫理想論究 第2号』、2014)
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』(勢力尚雅 編共著、2015)
- ③ 「『三河物語』における譜代意識の根底—「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から—」(『倫理学紀要第24輯』、2017)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 42%, term-end reports 58%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

文化史 1

伊藤 直樹

授業コード：A2262 | 曜日・時限：火1/Tue.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

備考(履修条件等)：文学部以外の学生は資格科目として履修する(A3851)

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義は、縦軸に古代ギリシア文化をとり、横軸に演劇をとって講義をすすめる、アリストテレスの詩学、ギリシア悲劇、ニーチェ『悲劇の誕生』などを扱います。

かつて自然は、人間の文化を制約していました。しかし、人間はその制約を一つずつ取り払って行き、現代は、その制約をなきものにしようとする勢いです。その結果のひとつがAIでしょう。では、科学によって取り払われてきた、その「制約」とはどんなものなのでしょうか。古代ギリシアの場合、それは「神の秩序」です。人間はその秩序に支配され、受け入れ、しかし反抗し、そして人間自身の秩序を生み出そうとします。ギリシア悲劇が描こうとするのは、そうしたつばぜり合いであり、それが「ドラマ」のひとつの原型となるのです。

本講義では、このつばぜり合いとしてのドラマであるギリシア悲劇を中心に据えて講義を進めます。

本講義を受講することによって、受講生は、ギリシア悲劇の理解とドラマの本質についての理解を得ることができます。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらおう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前提として、ギリシア神話についての知識が必要なので、学習支援システムで、マンガ形式の『ギリシア神話』を資料として示します。目を通しておいてください。

はじめは、アリストテレスの『詩学』から入ります。『詩学』——と聞くと、なんだか難しそうな作品ですが、光文社古典新訳文庫の帯が、その特徴を的確に述べています。「2000年間、クリエイターたちの必読書である。『ストーリー創作』の原点。」そのとおり、どうすればよいドラマ(悲劇)が出来るのか、を論じている作品です。次に、ギリシア悲劇の全体像にふれます。三大悲劇作家、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスです。とくに、ソフォクレス『オイディプス王』をていねいに解説します。〈オイディプス〉は、フロイトのエディプス・コンプレックスの元になった話ですね。ここでは神と人間が抜き差しならないしかたで対峙しています。そのうえで、この舞台の映像を観ます。さらに、ニーチェによるギリシア悲劇の解釈である『悲劇の誕生』を扱います。この著作のキーワードは「ディオニュソスとアポロン」ですね。アリストテレスや『オイディプス王』を知った目からすると、この解釈がよりよくわかるでしょう。そして最後に、ドイツの哲学者H-G・ガダマーの『真理と方法』での芸術論を扱います。ガダマーの芸術論が念頭に置いているのは演劇です。ギリシア悲劇も射程に入っています。毎回、リアクションペーパーを書いてもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うようにします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	下記の【その他の重要事項】の部分を参照してください。
第2回	ギリシア神話について	ギリシア神話の魅力について
第3回	アリストテレスの『詩学』(1)	アリストテレス思想の全体像
第4回	アリストテレスの『詩学』(2)	アリストテレスの『詩学』について；ミメシス、歴史との違いなど
第5回	アリストテレスの『詩学』(3)	アリストテレスの『詩学』続き；カタルシスなど
第6回	ギリシア悲劇について(1)	ソフォクレス『オイディプス王』について
第7回	ギリシア悲劇について(2)	『オイディプス王』を観る
第8回	ニーチェ『悲劇の誕生』について(1)	ニーチェ思想の全体像
第9回	ニーチェ『悲劇の誕生』について(2)	ディオニュソスとアポロン

第10回 ニーチェ『悲劇の誕生』 ソクラテス主義と悲劇の死について(3)

第11回 ガダマーの芸術論(1) ガダマー思想の全体像

第12回 ガダマーの芸術論(2) 芸術と遊び

第13回 ガダマーの芸術論(3) 形態化への変貌、ミメシスの本質

第14回 まとめ 授業全体を回顧してまとめる

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業内容を自分なりに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業ごとに、資料を配布する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート70%、授業への積極的な貢献度(コメントカードの記述など)30%、となります。

【学生の意見等からの気づき】

マンガや映像などを取り入れ、かつディスカッションなども行った点が、受講生の理解に資することになったようである。今年度も、そうした方法を取り入れたい。

【Outline (in English)】

This course deals with Greek tragedy, Aristotle's Poetics, Nietzsche's The Birth of Tragedy, etc. By taking this course, students acquire an understanding of Greek tragedy and the nature of drama. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

文化史 2

伊藤 直樹

授業コード：A2263 | 曜日・時限：火1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

備考 (履修条件等)：文学部以外の学生は資格科目として履修する (A3852)

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

まず自伝の本質とは何かということについて解説する。自分が自分について語る自伝には固有の真実がある。客観的な事実が書かれてあるわけでもなく、かといって虚構が書かれているのでもない。その中間にある。ここに自伝の魅力がある。作品として、アウグスティヌス『告白』、ルソー『告白』、ゲーテ『詩と真実』、フランクリン『フランクリン自伝』、福沢諭吉『福翁自伝』をとりあげ、その時代状況のなかで読み解いてゆく。その上で、受講者全員が、任意の自伝を選びそれについて発表する。最後に、レポートで、上記の自伝を読み、その内容から得たものを報告する。さらに、自分で短い自分史を書く。昨年度、受講生が自ら取り上げた自伝には、次のようなものがあった。ダニエル・タメット『はくには数字が風景に見える』、アガサ・クリステイ『アガサ・クリステイ自伝』、伊沢拓司『東大生クイズ王』、柳田國男『故郷七十年』、坂本龍一『はくはあと何回、満月を見るだろう』、乙武洋匡『五体不満足』、いろいろありました。この授業を受講することによって、自伝の本質を理解することができます。

【到達目標】

この授業では、「自伝」とはなにか、また著名な自伝はどのようなものであるかを、それぞれの作品が置かれている歴史的、地理的状況を踏まえつつ解説してゆく。受講生の大半は、「自伝」という言葉を知ってはいるが、実際に「自伝」にふれたことがない。しかし、受講生は、この講義を通して、「自伝」についての確実な知識を得て、かつ複数の「自伝」に目を通したことがあることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて、自伝一般について、また重要な自伝について講義をする。毎回、リアクション・ペーパーを配布し、それに応答しつつ理解を深める。そのうえで、受講生に、任意の一つの作品をとりあげて紹介してもらう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自伝の定義：ルジュヌヌなどを手がかりに、「学生に対する評価」を中心とした、シラバスの内容説明：自伝とはなにか (1)
第2回	自伝とはなにか (2)	自伝において、自己を語るということについて解説します。
第3回	アウグスティヌス『告白』 (1)	アウグスティヌスという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第4回	アウグスティヌス『告白』 (2)	アウグスティヌスの『告白』の構造を説明します。
第5回	ルソー『告白』 (1)	ルソーという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第6回	ルソー『告白』 (2)	ルソーの『告白』の構造を説明します。
第7回	ゲーテ『詩と真実』 (1)	ゲーテという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第8回	ゲーテ『詩と真実』 (2)	ゲーテの『詩と真実』の構造を説明します。
第9回	『フランクリン自伝』	ベンジャミン・フランクリンという人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第10回	『福翁自伝』	福沢諭吉という人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第11回	ボーヴォワールの自伝を読む	ボーヴォワールの、『娘時代』『女ざかり』などをとりあげ、紹介します。
第12回	自分史について	「自分史」について紹介します。
第13回	自伝紹介 1	受講生に、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。
第14回	まとめ	全体を振り返り、クラス全体で自伝についての意見交換をします。そしてレポート提出をしてもらいます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

11月末に、自伝紹介レポートを提出してもらうので、それまでの講義を受けながら、自分なりに自伝とはなにかを問い、紹介すべき自伝を探す。そのうえで、紹介文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書となるような特定のテキストは用いません。

【参考書】

取り上げる自伝は、次のものです。アウグスティヌス『告白』岩波文庫ほか、ルソー『告白』岩波文庫ほか、ゲーテ『詩と真実』岩波文庫ほか、ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫、福澤諭吉『福翁自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

自伝紹介レポートの提出および発表。(自分自身で、任意の自伝を選び、それを読んで授業内で発表する。)

課題レポート。(授業内で取り扱った自伝作品についてのレポート。)

授業への積極的な貢献度 (コメントカードの記述など) 30% レポート70%

自伝紹介レポートでは、講義された内容を踏まえつつ、受講生自らが自伝を選定し、読んで報告する。これが課題レポート提出の必要条件となる。次いで、課題レポートでは、講義内容、自分で自伝紹介を踏まえて、さらに、講義内容で扱われたテキストに自らあたることによって、自伝の理解を確認してもらう。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

次の受講生に向けて、コメントを書いてもらいました。

「時代や歴史・時の流れを横軸にとりつつ、いかに自分の生き様を描くか、普遍的な歴史の中でどうやって個を表すか、この交点が自伝なのだ学びました。伝記や評論と異なるのは、自分自身が語り手となることでしょう。自分の視点が入るからこそ、たんなる歴史書や日記、エッセイを超えた別物になるのではないかと思います」。

「自伝について「その人の考えを知る」というより、「その人をそうさせている背景を知る」ことができるのが面白く感じました。時代や立場など、そのひとがそう思考する背景は、個人の性格などと同じくらい行動や考えに影響を与えているのだと、複数の自伝を比べるなかで理解できました。私の書いた、また他の方の書いた自分史は、50年後、100年後にどのように受けとられるのだろうか、無自覚に私の思考に影響している「背景」について考えるきっかけになりました」。

【Outline (in English)】

This course deals with the autobiography. By taking this course, students acquire an understanding of Essence of Autobiography. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

社会思想 1 (社会学概論) 1**岩野 卓司**授業コード：A2264 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】

今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っているとともに、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。また、家族の制度が崩壊しつつある昨今、無縁社会が問題となっている。そういう状況を考えてみると、共同体や人間の共同性について模索する必要があるのではないのか。

授業ではこの共同性を贈与との関係から考えていく。まず資本主義の功罪を説明したあと、講義ではポスト資本主義における贈与の重要性を次の二つのテーマから検討していく。

(1) 社会保障：『贈与論』の著書であるマルセル・モースは、社会保険の制度を贈与交換の理論で根拠づけようとした。古代人の贈与の知恵は、現代の資本主義に抵抗するために有効な考え方なおである。将来導入が議論されているベーシック・インカムやますます重要性を増している脱成長の思想も、贈与の考え方をベースにして考えることができるのだ。

(2) 臓器移植と再生医療：現代医学の重要な一角を占めている臓器移植は贈与として法制化されている。臓器売買とならないために、臓器を受け取った者はそのドナーに謝礼してはいけないのだ。この点で臓器移植は商業的交換の論理には取まらない。しかし、この贈与は同時にカニバリズムとも見なされることもある。臓器移植というかたちで他人の肉体の一部を延命のために我有化することで、人肉食と同じことをしているからである。ここでは他者の臓器と贈与とカニバリズムの問題を考えていく。

授業では、これらのテーマを通して、贈与と共同体についての理解を深め、ポスト資本主義社会における贈与の役割を理解することを到達目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

毎回、前回の授業の復習をしたうえで、授業をすすめていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	共同体とは何か？ 贈与とは何か？
第2回	資本主義とは何か？	商業的交換と資本の蓄積
第3回	資本主義とは何か？	新自由主義
	(2)	
第4回	資本主義とは何か？	金融と負債
	(3)？	
第5回	モース『贈与論』(1)	贈与とお返し
第6回	モース『贈与論』(2)	ハウヤボトラッチ
第7回	社会保障制度	贈与交換による社会主義
第8回	ベーシック・インカム	国家による贈与
第9回	脱成長	蓄積と成長とは別の考え方
第10回	臓器移植	臓器移植の現在
第11回	臓器移植とカニバリズム	レヴィ・ストロースの思想
第12回	臓器移植と他者	他者を取り込むこと
第13回	アフリカの段階と再生医療	人類の起源に遡ること
第14回	まとめと試験	復習と解説、そして試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で配布したプリント、教科書、参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との関係に照らし合わせて、よく考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業でプリントを配布

岩野卓司『贈与をめぐる冒険 新しい社会をつくるには』(ヘウレカ)を読むのが望ましい。

【参考書】

岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』(青土社)

岩野卓司『贈与をめぐる冒険 新しい社会をつくるには』(ヘウレカ)

岩野卓司『野生の教養』(法政大学出版)

マルセル・モース『贈与論』(岩波文庫)

クロボトキン『相互扶助論』(同時代社)

モーリス・ブランショ『無為の共同体』(ちくま文庫)

ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』(以文社)

斎藤幸平『人新世の資本論』(集英社新書)

デヴィッド・グレーバー『負債論』

セルジュ・ラトゥーシュ『脱成長』(白水社)

原田泰『ベーシック・インカム』(中公新書)

アラン・カイエ『功利的理性批判』(以文社)

山崎吾郎『臓器移植の人類学』(世界思想社)

レヴィ・ストロース『われらみな食人種 (カニバル)』(創元社)

吉本隆明『アフリカの段階について』(試行社)

中沢新一『カイエ・ソバージュ』(講談社)

勝島次郎・出河雅彦『移植治療』(岩波新書)

京都大学iPS研究所上廣倫理研究部門編/山中伸弥監修『科学知と人文知の接点』(弘文堂)

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と学期末の試験(70%)

到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の規準となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

外国語の能力は必要とされない。社会思想の予備知識もいらない。

【Outline (in English)】

In modern times the relationship between people and society is becoming thin. The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e-mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure. Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves. "Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this.

【Learning activities outside of classroom】

Review based on the handouts, textbooks, and reference materials distributed in class, and think carefully about what you learned in light of your daily life and your relationship with the society around you. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score (30%) and final exam (70%)

The criteria for grade evaluation is how well the achievement goals are reflected.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

社会思想 1 (社会学概論) 2

岩野 卓司

授業コード：A2265 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものにしていく。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】

今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っているとともに、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。また、家族の制度が崩壊しつつある昨今、無縁社会が問題となっている。そういう状況を考えてみると、共同体や人間の共同性について模索する必要があるのではないのか。

授業ではこの共同性を贈与との関係から考えていく。まず資本主義の功罪を説明したあと、講義ではポスト資本主義における贈与の重要性を次の二つのテーマから検討していく。

(1) ケア：ケアは商業的交換に馴染まない人間の行為である。そこには相手にサービスするという利他的な面があるからである。これは贈与の考えと深く結びついている。

(2) ボランティアと相互扶助：資本主義は商品の交換による利益の追求を人間関係に強いるが、ボランティアは原則経済的な利益を得ることなく活動をする。この活動の根本には相互扶助の考えがある。9.11のニューヨークのような危機に際して、人は人種や主義主張の壁を越えて相互扶助によってつながる。そしてこの相互扶助は相互贈与し合うことでもある。

授業では、ケア、ボランティア、相互扶助のテーマを通して、贈与と共同体についての理解を深め、ポスト資本主義社会における贈与の役割を理解することを到達目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

毎回、前回の授業の復習をしたうえで、授業をすすめていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	共同体と贈与
第2回	資本主義	市場と交換
第3回	資本主義 (2)	成長の幻想と搾取の構造
第4回	ケアの共同性	人間の共同体は健全者どうしの関係だけでは足りないのではないのだろうか。人にサービスしたくなる感情
第5回	ケアの倫理	人にサービスしたくなる感情
第6回	ケアの暴力性	介護暴力、介護殺人
第7回	ケアにおける贈与の相互性	嫉妬幻想、泥棒幻想
第8回	ケアにおける応答責任	根源的贈与
第9回	ボランティア	自己贈与の可能性
第10回	相互扶助	相互に贈与し合うこと
第11回	災害ユートピア	9.11のニューヨーク、コロナ禍のロンドン
第12回	基盤的コミュニズムの可能性	互酬性にとらわれない贈与
第13回	クリナメン：全体主義への抵抗	エラーの可能性
第14回	まとめと試験	復習と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で配布したプリントや参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との関係に照らし合わせて、よく考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業でプリントを配布

岩野卓司『贈与をめぐる冒険 新しい社会をつくるには』(ヘウレーカ)を読むことを推奨する。

【参考書】

岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』(青土社)

岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』(書肆心水)

モーリス・ブランショ『明かすえぬ共同体』(ちくま文庫)

ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』(以文社)

NHKスペシャル取材班『無縁社会』(文春文庫)

齊藤幸平『人新世の資本論』(集英社新書)

マルセル・モース『贈与論』(岩波文庫)

平川克美『21世紀の精肉幻想論』(ミシマ社)

最首悟『「星子が居る」』(世織書房)

広井良典『ケアの学』(白水社)

三好春樹『関係障害論』(医学書院)

村上靖彦『ケアとは何か』中公新書

クロボトキン『相互扶助論』(同時代社)

森元斎『アナキズム入門』(ちくま新書)

栗原康『現代暴力論』(角川新書)

デヴィッド・グレーバー『負債論』(以文社)

仁平典宏『「ボランティア」の誕生と終焉』(名古屋大学出版会)

レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』(亜紀書房)

プレイティミカ子『他者の靴を履く』(文藝春秋)

吉本隆明『母型論』(思潮社)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と学期末の試験 (70%)

到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

外国語の能力は必要とされない。哲学や社会思想の予備知識もいらない。

【Outline (in English)】

In modern times the relationship between people and society is becoming thin. The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e-mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure. Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves. "Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this. Your overall will be decided based on the following Term-end examination 70% and in class contributions 30%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

社会思想2 (社会思想史) 1

政井 啓子

授業コード：A2266 | 曜日・時限：水4/Wed.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「社会思想史」は、「人間と社会共同体との関係はどうあるべきか」という問題についての人類の探求の歴史です。

春学期では、ヨーロッパ社会思想史における、古代ギリシャから18世紀までの基本的な諸思想を学びます。

古代ギリシャから近世まで、哲学者たちは「自然本来の不変な秩序」を探求していました。この「不変な秩序」とは、人間にとって変更不可能なものであり、そして人間社会での、真偽・正不正・美醜善悪などを区別するための基盤となるものでもあります。探究の仕方は、知性主義あるいは感覚経験重視など、哲学者によって異なり、また「人間に認識可能な不変な秩序というものは無い」という懐疑的思想もあります。このような探究に基づいて、哲学者たちは多様な世界観と人間観を提示し、様々な望ましい社会のあり方を考察しました。

本授業では古典にふれながら、順序正しく考えることの大切さ、常識や教科書的な通説とされる事柄を疑ってみることの重要性など、学生が人間の思考活動の豊かさを実感して、さらに自分の考えを具体的な表現で論理的に説明できるようにすることを目指します。

【到達目標】

- (1) 学生が、古典思想を学ぶことを通して、論理的な思考法と、「理想的な社会」についての基本的な諸研究を理解する。
- (2) 学生が、現代社会の諸問題についての冷静な分析力や判断力を養い、自分の考えをできるだけ明確にし、文章として表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式でおこない、毎回、授業のレジュメと資料を配布します (学習支援システムを使用)。受講生には、授業の後リアクションペーパー (質問・感想・意見) を提出してもらい、次回の授業で、質問に答え、感想や意見の中からいくつか選んで紹介します (学習支援システムを使用)。オンライン授業は、Zoom使用 (リアルタイム) でおこないます。☆学習支援システムの「お知らせ」を毎回確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の概説	古代から近代までの社会思想の概観。 レポートに関する説明。
第2回	古代ギリシャの民主制 社会における思想	「自然本来の不変な秩序」と「人間社会 の道徳や法律」の関係
第3回	プロタゴラスの思想 (人 間は万物の尺度である)	道徳的相対主義と民主制
第4回	ソクラテスの思想	愛知の精神
第5回	プラトンの思想1	イデア論
第6回	プラトンの思想2	理想の「国家」と民主制
第7回	アリストテレスの思想	人間の幸福
第8回	ヘレニズム時代の思想	政治的自由の喪失と個人主義思想
第9回	ルネサンスの思想と科 学革命	古代哲学の復興。「自然」の探究
第10回	デカルトの思想	「私は考える、ゆえに私は在る」、自然科 学の基礎付け
第11回	科学の制度化	「自然科学研究」と「技術研究」と「社 会制度」
第12回	近代の自然法思想	社会契約説
第13回	道徳哲学の2潮流	利己主義と利他主義
第14回	モラルセンス説の展開	ヒュームとアダム・スミスの思想

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回授業で配布する資料および授業内で紹介する文献を読んで、予習と復習をしてください。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

『社会思想史』(法政大学通信教育部 発行)。プラトンやアリストテレスなどの哲学者の著作。その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポートと、数回の小レポートを提出。大体の目安としては、期末レポート 35%、小レポート 25%、毎授業後のリアクションペーパー 40%。

詳しいことは、最初の授業の時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を工夫し、授業内容をより理解しやすく伝えるよう努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces some fundamental thoughts in the history of European social thought from ancient Greece to the 18th century, to students taking this course.

From ancient Greece to the 18th century, philosophers sought "the constant and unchanging order of nature." This unchangeable order of nature is also the basis for discriminating between right and wrong, good and evil, etc. in human society. Through such quests, philosophers expressed diverse opinions about the world and human beings, and devised various ideal social systems.

(Learning Objectives)

(1) The goals of this course are for students to understand logical thinking, and recognize researches on "ideal society", by learning classical philosophy.

(2) At the end of this course, students are expected to be able to calmly analyze various problems in modern society, clarify their thoughts and express them in logical sentences.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (35%), Short reports (25%), and Reaction papers (40%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

社会思想2 (社会思想史) 2

鈴木 由加里

授業コード：A2267 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義の目的は、社会思想としての「フェミニズム」について考察することである。現代の日本社会において、ジェンダー格差が問題にされることは多い。メディアの報道で世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数のランキングなどを目にすることもある。「フェミニズム」は女性解放とジェンダー平等の実現を課題にしてきた社会運動であり、社会思想の一つである。本講義では、「フェミニズム」の歴史的意義と現代的価値について学び、現代社会に存在する具体的な問題、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどに対する考察と分析、対象方法などを考えることを目的としている。また、ジェンダー概念によって開かれた問題、性的マイノリティの権利問題などについても考察研究する予定である。

【到達目標】

社会思想に関する基本的な歴史を踏まえつつ、社会思想としての「フェミニズム」について論じられるようになることが本授業の目的である。歴史的な事象や現在世界および日本社会で起こっていることについての確かな情報の把握、学問的分析を行い、感情論ではない自分なりの見解を正しい知識の基づいて文章化できるようにすることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、PowerPointを使った講義と映像資料などを活用し、ディスカッションとレポート(リアクションペーパー)作成によって構成される。レポートは、大学の「課題」提出システムを使ったデジタルでの提出を予定している。リアクションペーパーについては、講義内で講評し特に優れたものについては、授業中に匿名で紹介する予定である。資料などはプリントアウトしたものを教室で配布予定。

また、コロナ禍が収束せず、対面授業が不可能な場合は、以下のような形式での講義形式になる。

【遠隔授業の場合】

PowerPointファイルに動画を載せた動画やインターネット上の動画視聴と課題によって、構成される。質問などについては、授業時間中に文字チャットで対応。Googleのシステム、ハンガアウトを利用。課題は、Hoppiiのシステムを利用し個別に採点して返却。こちらへの参加は、大学から与えられているメールアドレスでの参加をすること。

「学習支援システムガイド」の「お知らせ」から、授業動画、参照動画へのリンク先を指示する。教材のところから、各自レジュメ、資料などをダウンロードして学習に役立てること。

動画の視聴可能期間は、1週間。課題提出も1週間後に設定予定。オンデマンドなので、動画は何度でも視聴可能。質問や文字チャットによる意見交換(自由参加)は、水曜日4限の授業時間中に行う。課題提出をもって、出席とする。

なお、授業計画内容は学生の理解度などによって前後したり別のものに差し替えられる可能性がある。「学習支援システム」のお知らせを毎回確認して欲しい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明及び社会思想とフェミニズムの関係について。	課題提出の方法、成績評価の認定、レポートのレベルや採点基準の説明。簡単に講義全体のテーマについての説明を行う。課題の出題あり。
第2回	社会思想とはどのような学問か？(概論)	社会思想史という学問の歴史と対象領域についての基礎的なことについての講義を行う。
第3回	フェミニズムの歴史①	フェミニズム前史から第一波フェミニズムの成立まで。フランス革命から婦人参政権運動。
第4回	フェミニズムの歴史②	社会運動としての「フェミニズム」から第二波フェミニズム成立について歴史的経緯を学ぶ。
第5回	第二波フェミニズムの問題射程と現代社会	婦人参政権獲得後の「フェミニズム」の課題について学ぶ。アメリカとフランスの事例について。
第6回	日本におけるフェミニズム	「ウーマンリブ」とは何であったのか？第二波フェミニズムの日本への影響について。

第7回	フェミニズムとジェンダー概念	ジェンダー概念の意味と歴史的経緯を学ぶ
第8回	ジェンダーに対する社会的理解と誤解	日本の社会において「ジェンダー」という言葉がどのように使われてきたかを学ぶ。
第9回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題①	ジェンダー・アイデンティティについて学ぶ
第10回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題②	性的指向について学ぶ。いわゆる「LGBT」問題について考察する。
第11回	ジェンダー差別という問題設定	社会的不平等論と現代の日本社会について学ぶ
第12回	性暴力について	性暴力被害とはどのような「被害」であるのかを分析する。可能ならば動画の紹介をする。
第13回	社会問題としてのセクシュアル・ハラスメント	セクハラ問題の現状と分析
第14回	ジェンダー論とフェミニズムについて	フェミニズムは過去の社会思想なのかを問い直す。参考資料としての動画視聴と最終課題の提示。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

参考文献、資料などを読み、どの知識が不足しているのかを確認し、各自補足すること。参考文献、参考資料などを読み込んでおいてほしい。

授業後については、授業時間内では十分な形で各種の資料を紹介出来ない。できる範囲で映像資料を視聴したり、配布された文章資料などの読解をすすめる努力をしてもらいたい。授業内で配布された参考文献リストなどに目を通し、学習を深めておこう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した授業レジュメ、デジタルデータは学習支援システム「教材」フォルダにPDFファイルもしくはjpgファイルの形でアップロードする。

【参考書】

『フェミニズム ワードマップ』江原由美子(編集)、金井淑子(編集) 新曜社(1997/09)
 『フェミニズムの歴史』ジャン・ラボー著 加藤康子訳新評論(1987/10)
 『現代日本女性史—フェミニズムを軸として』鹿野政直 有斐閣(2004/07)
 『女性解放思想史 ちくま学芸文庫』水田珠枝 筑摩書房(1994/05)
 『フェミニズム(思考のフロンティア)』竹村和子 岩波書店(2000/10/20)
 その他授業時、レジュメなどで参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」で出題されるレポート課題をすべてを提出することが必須である。提出されたレポート課題の内容から到達目標の達成度合いを判断して成績を評価をする。

レポートの評価は、課題提出の回数×取得点数/10=総合点数→100点換算として点数化

レポートもしくはテストは各回10点満点

*課題の回数は学生の理解度と授業進度によって変わる。課題については授業時に詳細を発表するので、欠席した場合は各自情報を集めること。

レポート80% 平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

定員未満の人数での教場利用だったが、多少息苦しさを感じた。人数が多いため細部に目が行き届かず、いねむりやサボりに対する配慮が難しかった。まじめに授業に取り組めるように環境面やコミュニケーションにあり方に配慮したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出に「学習支援システム」を利用するのでレポート提出、文字チャットに耐えうる情報機器及び通信環境が必要。

【その他の重要事項】

この講義では、セクシュアリティについて語ることが多い。特に、第十二講、第十三講では、「性暴力」がテーマになる。PTSD、フラッシュバックなどを引き起こす可能性がある。心身の健康を考えて、受講を検討して欲しい。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider "feminism" as social thought. "Feminism" is a social movement, a social movement that has been a subject of the realization of liberation of women and gender equality. This lecture aims to learn about the historical importance and contemporary value of "feminism", to consider and analyze concrete problems existing in contemporary society.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to be able to gain knowledge about feminism as a social thought and write essays on modern gender issues.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read references and materials to see what knowledge they lack and supplement themselves.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports : 80%、in class contribution: 20%

LIN200BB (言語学 / Linguistics 200)

ラテン語 1

金子 佳司

授業コード：A2268 | 曜日・時限：火4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語1では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。

古典ラテン語は紀元前1世紀から紀元後1世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語1では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2～3課分の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1課・第2課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第2回	練習問題1,2の解説 第3課～第5課の説明 引用句1	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第3回	練習問題3,5,7の解説 第6課～第8課の説明 引用句2,3	名詞第二活用(1) 形容詞第一、第二活用(1) 動詞未完了過去形
第4回	練習問題9,11,13の解説 第9課～第11課の説明 引用句4,5	名詞第二活用(2) 形容詞第一、第二活用(2) 動詞未来形
第5回	練習問題15,17,19の解説 第12課～第14課の説明 引用句6,7	前置詞、所格(locative)、eoの変化 不定詞、sum, possumの変化 i音幹名詞
第6回	練習問題21,23,25の解説 第15課～第17課の説明 引用句8,9	i音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第7回	練習問題27,29,31の解説 第18課・第19課の説明 引用句10	黙音幹名詞、混合幹名詞
第8回	練習問題33,35の解説 第20課・第21課の説明 引用句11,12	動詞受動相(受動態) 流音幹鼻音幹名詞
第9回	練習問題37,39の解説 第22課・第23課の説明 引用句13,14	s音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第10回	練習問題41,43の解説 第24課・第25課の説明 引用句15	動詞完了、過去完了、未来完了受動相(受動態) 動詞の主要部分、volo nolo, maloの変化
第11回	練習問題45,47の解説 第26課・第27課の説明 引用句16	名詞第四、第五活用 能動相(能動態)欠如動詞、fio, feroの変化
第12回	練習問題49,51の解説 第28課・第29課の説明 引用句17,18	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第13回	練習問題53,55の解説 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第14回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材をHoppii上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト (教科書)】

田中利光著『ラテン語初歩 (改訂版)』(岩波書店)

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典 (改訂版)』(研究社)があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なってもらう練習問題 (=ラテン文の和訳) (50%) と期末試験 (50%) の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語 (特に英語) との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようようにしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn Latin nouns, adjectives, and verbs, and to be able to read simple Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 2 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%).

LIN200BB (言語学 / Linguistics 200)

ラテン語2

金子 佳司

授業コード：A2269 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語2では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語2はラテン語1とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1も受講してください。

古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語2では、ラテン語1で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2課分（または1課分）の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習 第30課・第31課の説明 引用句 19,20	動詞接続法現在形、未完了過去形、目的節で使われる接続法 人称代名詞
第2回	練習問題57,59の解説 第32課・第33課の説明 引用句 21	所有形容詞、強意代名詞 動詞接続法完了形、過去完了過去形、間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題61,63の解説 第34課・第35課の説明 引用句 22,23	事実と反する仮定を表す条件文 仮想を表す条件文と予想を表す条件文
第4回	練習問題65,67の解説 第36課・第37課の説明 引用句 24	動詞完了不定詞、対格不定詞節 動詞未来不定詞
第5回	練習問題67,69の解説 第38課・第39課の説明	関係代名詞 非人称動詞
第6回	練習問題73,75の解説 第40課・第41課の説明 文例 1	動詞現在分詞 動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す分詞 バエドルスの寓話「人の欠点」を読む。
第7回	練習問題77,79の解説 第42課・第43課の説明 引用句 25,26 文例 2	奪格の独立的用法 形容詞の比較級、最上級 バエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。
第8回	練習問題81,83の解説 第44課・第45課の説明	形容詞の不規則な比較級、最上級 数詞
第9回	練習問題85,87の解説 第46課・第47課の説明 引用句 27	動名詞 動形容詞
第10回	練習問題89,91の解説 第48課の説明 文例 3 文例 4	動名詞の代わりに用いられる動形容詞 カエサル『ガリア戦記』を読む。 キケロ『善と悪の究極について』を読む。
第11回	練習問題93,95の解説 第49課・第50課の説明 引用句 28	命令法 能動相欠如動詞の命令法、主文における接続法
第12回	練習問題97,99の解説 第51課の説明 引用句 29 文例 5	目的分詞 デカルト『省察』を読む。
第13回	文例 6	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第14回	理解度の確認	秋学期に学んだ文法事項が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材をHoppii上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようようにしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn the basic Latin grammar, and to be able to read standard Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 2 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%).

LIN200BB (言語学 / Linguistics 200)

ギリシア語 1

白根 裕里枝

授業コード：A2270 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主としてB.C. 5世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の Σ π γ β θ μ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道999のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいです。また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度は隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回1～2課ずつ進んで、できるだけ最後まで進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字を知る	1. 字母、発音、音韻の分類、氣息記号
第2回	文字の読み方	2. 音節、アクセント、句読点、語末音
第3回	動詞変化1, 名詞変化1	3. 動詞現在形 4. 名詞A変化1
第4回	名詞変化2	5. 名詞A変化2
第5回	動詞変化2, 名詞変化3	6. 動詞未来形 7. 名詞A変化3
第6回	名詞変化4	8. 名詞A変化4
第7回	動詞変化3	9. 動詞、未完了過去

第8回	名詞変化5	10. 名詞O変化
第9回	形容詞変化	11. 形容詞変化 (第一・第二変化)
第10回	前置詞	12. 前置詞
第11回	動詞変化4	13. 動詞アオリスト
第12回	動詞変化5	14. 動詞完了形
第13回	代名詞変化	15. 指示代名詞、強意代名詞
第14回	人称語尾1,2	16. 本時称の人称語尾 17. 副時称の人称語尾

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各3～4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、岩波書店、2012、¥2640

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』堀川宏著、ベレ出版、2021、¥2750

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席 (課題の提出) による、練習問題の解答を重視します。出席と課題の提出70%、毎回の解答の出来具合30%。対面授業の場合は、前に出て解答を書いてもらったり、手元を写して解答を発表してもらいます。オンラインでも解答を毎週、期日までに提出すること。練習問題を訳せるように毎回準備して出席し、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの回は「学習支援」を通じて課題を配布したり、提出してもらったりするので、パソコンで課題を印刷してそれに記入し、写メを撮って提出したり、PDFを添付できたりすることが望ましい。スマートフォンやタブレットだけだと、しっかり取り組めないと感じる。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にしましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on the following. In-class exercises: 30%, Assignments: 70%.

LIN200BB (言語学 / Linguistics 200)

ギリシア語2

白根 裕里枝

授業コード：A2271 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主としてB.C. 5世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン(ソクラテス)の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道999のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度は隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回1~2課ずつ進んで、できるだけ最後まで進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	動詞、名詞変化の基本復習
第2回	動詞変化6	18.mi 動詞
第3回	代名詞2	19. 疑問代名詞、不定代名詞
第4回	動詞変化7	20. 動詞, 中動相
第5回	代名詞3, 動詞変化8	21. 人称代名詞 22. 動詞, 中動相2
第6回	代名詞4	23. 再帰代名詞その他
第7回	動詞変化9	24. 動詞, 第2アオリスト
第8回	動詞変化10	25. 動詞受動形

第9回	名詞変化6, 第三変化	26. 第三変化の名詞1
第10回	動詞変化11	27. 約音動詞1
第11回	名詞変化7	28. 第三変化の名詞2
第12回	動詞変化12	29. 約音動詞2
第13回	動詞変化13	30. 動詞完了形2、中動相
第14回	第三変化の形容詞	31. 第三変化の形容詞

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各3～4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、岩波書店、2012、¥2640

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシア語』堀川宏著、ベレ出版、2021、¥2750

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席(課題の提出)による、練習問題の解答を重視します。出席と課題の提出70%、毎回の解答の出来具合30%。対面授業の場合は、前に出て解答を書いてもらったり、手元を写して解答を発表してもらいます。オンラインでも解答を毎週、期日までに提出すること。練習問題を訳せるように毎回準備して出席し、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの回は「学習支援」を通じて課題を配布したり、提出してもらったりするので、パソコンで課題を印刷してそれに記入し、写メを撮って提出したり、PDFを添付できたりすることが望ましい。スマートフォンやタブレットだけだと、しっかり取り組めないと感じる。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にしましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on the following. In-class exercises: 30%, Assignments: 70%.

HIS200BE (史学 / History 200)

歴史思想 (史学概論)

齋藤 勝

授業コード：A2274 | 曜日・時限：木1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

歴史学という学問の特性について認識を深める。
 自らの歴史研究のあり方や位置づけを省みるために、歴史学という学問の持つ特性を多角的に学ぶ。

【到達目標】

歴史学という学問の性質、方法、潮流、他の学問との関係等についての理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。質問等は原則として授業の前後に行ってください。課題等に対するフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。なお、授業の進度等により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	史学概論と歴史学	史学概論という授業の位置づけと歴史学の特性
第2回	歴史学の目的①	歴史学の目的の三分区
第3回	歴史学の目的②	歴史学の目的の相互関係
第4回	歴史学の対象	歴史学の対象の設定
第5回	歴史学と事実①	事実の位置づけと種類
第6回	歴史学と事実②	事実の認識
第7回	歴史認識①	主観性と客観性
第8回	歴史認識②	蓋然性・因果関係・相互連関
第9回	史料①	史料の種類と史料批判
第10回	史料②	史料の解釈と総合
第11回	歴史学の潮流	近代歴史学と「新しい歴史学」
第12回	歴史学と他の学問分野①	事例：歴史学と経済学
第13回	歴史学と他の学問分野②	事例：歴史学と災禍
第14回	まとめ	歴史学の特性と研究の関係

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 予習・復習として指定された関連文献を読むことが求められます。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験もしくはレポート100%。
 試験かレポートかは授業の進展に応じて決めていきます。
 講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とする予定です。
 決定や変更については、試験実施もしくはレポート提出期限の二週間前までに告知します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

今年度からの新規の担当なので、変更が生ずることがあるかもしれません。その点は事前にご承知おき下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with characteristics of the study of history.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider characteristics, methods and history of the study of history and relations with other academic fields.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or examination(100%)

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

国際哲学特講

君嶋 泰明

授業コード：A2301 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

異文化理解の問題を教室だけではなく、学期末に海外に出かけ、実際に異文化との接触の中で学びます。

海外研修ではストラスブール大学 (フランス) とハイデルベルク大学 (ドイツ) の日本学科の学生と合同ゼミを行います。交流は日本語で行います。また合同ゼミの合間をぬって、滞在地フランス、ドイツの文化遺産を見学し、生活文化に触れます。

【到達目標】

- ①合同ゼミで取り上げるテキストを通じて日本文化を学び直します。
- ②海外研修では、フランス、ドイツの風物とともに、交流する学生たちの考え方に直接触れて、両文化をいわば肌で学びます。
- ③日本文化理解に打ち込むフランス、ドイツの学生たちとの交流を通して、自分自身の学ぶべきこととあるべき姿を見つめ直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

■国内での授業

9月からの授業期間には、教室で通常のゼミ形式の授業を行います。ただそれは、学期末に行う海外研修に備えてのもので、合同ゼミで取り上げられる問題に応じたテーマが取り扱われます。扱うテーマはハイデルベルク大学、ストラスブール大学との協議の上で、夏休み明けに決定します (下の「授業計画」は過年度のもので、あくまでも一つの先例として見て下さい)。

ストラスブール大学との間では、秋学期の通常授業期間中にも、Zoomで合同ゼミを数回行います。

■海外での研修

2月初旬に1週間、フランス、アルザス地方にあるアルザス欧州日本学研究所 (CEEJA) の協力でハイデルベルクとコルマルに滞在し、そこを拠点として、両大学の学生と合同ゼミを行う予定です。その他の時間には、アルザスの歴史と現在に触れる多面的見学を行います。

■注意事項

この特講での単位取得には海外研修参加が必要です。ですから、長時間の飛行機での移動が健康上可能であること、また航空券代金を含む参加費の負担が可能であることが受講の条件となります。

参加費は旅費・滞在費すべてを含めて30万円ほどを予定しています (この数字はあくまでも目安です。為替レートや航空運賃の変動等に左右されます)。なおその一部 (上限5万円) については大学から一人一人に補助が出ます。これは特講ですので2年生～4年生まで受講可能です。また他の特講とは違って、原則的に複数回の受講はできません。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業の意義と流れの説明
第2回	中井正一『美学入門』(1)——ストラスブール大との合同ゼミ準備	第1部第1-2章の検討
第3回	中井正一『美学入門』(2)——ストラスブール大との合同ゼミ準備	第1部第3-4章の検討
第4回	中井正一『美学入門』(3)——ストラスブール大との合同ゼミ準備	第1部第5章の検討
第5回	中井正一『美学入門』(4)——ストラスブール大との合同ゼミ準備	第1部第6-7章の検討
第6回	中井正一『美学入門』(5)——ストラスブール大との合同ゼミ準備	第2部第1章の検討
第7回	中井正一『美学入門』(6)——ストラスブール大との合同ゼミ準備	第2部第2-3章の検討
第8回	中井正一『美学入門』(7)——ストラスブール大との合同ゼミ準備	第2部第4章の検討
第9回	中井正一『美学入門』(8)——ストラスブール大との合同ゼミ準備	第2部第5章の検討

第10回	中井正一『美学入門』(9)——ストラスブール大との合同ゼミ準備	第2部第6-7章の検討
第11回	慰安婦問題(1)——ハイデルベルク大との合同ゼミ準備	基本文献の調査・収集
第12回	慰安婦問題(2)——ハイデルベルク大との合同ゼミ準備	基本文献の内容についての報告
第13回	慰安婦問題(3)——ハイデルベルク大との合同ゼミ準備	問題点の整理
第14回	慰安婦問題(4)——ハイデルベルク大との合同ゼミ準備	発表準備の仕上げ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・扱うテキストに事前に目を通す。
 - ・当番の各回で発表準備を行う。
 - ・海外合同ゼミでの発表準備を行う。
- ※本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業計画中に上げたものは、昨年度の合同ゼミでの共通テキストです。今年度のものについては、今後、ハイデルベルク大学およびストラスブール大学との協議で、合同ゼミテーマと同時に決定されます。

【参考書】

滞在するアルザスについては次のようなものがあります。
 新田俊三『アルザスからヨーロッパの文化を考える』(東京書籍)
 内田日出美『物語ストラスブールの歴史』(中公新書)
 内村卓彦『アルザス文化史』(人文書院)

【成績評価の方法と基準】

学期内の通常の教室授業での平常点が5割、海外研修の合同ゼミでの平常点が5割。各々到達目標がどの程度達成されているかによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

国内・国外のプログラムの充実を図りつつも、過密・過重にならない工夫を行っていきます。

【その他の重要事項】

この特講についての説明会を4月新学期時に開催します。受講希望者は必ず参加して下さい (説明会の詳細については別途掲示します)。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will learn about cultural understanding problems not only in the classroom but also abroad at the end of the term, actually in contact with different cultures. Concretely speaking, we will hold a joint seminar at Strasbourg University (France) and Heidelberg University (Germany), and visit the cultural heritage of France and Germany, and touch life and culture.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to learn about cultural understanding problems.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the texts. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and contribution to the joint seminar (50%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

心理学 2 (集団社会心理学) 2

入山 茂

授業コード：A2303 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要：この授業では、私たちが、家族、組織、経済・社会や国・地域などの集団で生活する中で、それらの集団からどのような影響を受けるのかについて解説する。また、それらの集団と他の集団の相互作用により、どのような心理学的問題が生じるのかについても解説する。

授業の目的・意義：社会心理学および集団心理学の概念と研究法について基礎的な知識を習得し、日常生活で遭遇する社会的現象について心理学的観点から分析できるようにする。

【到達目標】

- (1) 社会心理学とグループ・ダイナミクスの基本的な概念(理論や専門用語)および関連する研究について説明できる。
- (2) 社会心理学とグループ・ダイナミクスの基本的な概念および関連する研究を自らの日常生活と関連づけ、実際に起きた社会的現象について、心理学的に考察をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業形態：講義形式とする。

授業の受講方法：各自で授業支援システムから資料をダウンロードし、授業を受講する。

授業の進め方：授業計画に記載したテーマについて、理論、先行研究、応用や問題点などを紹介する。授業の終了後、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。指定した授業については、授業の終了後に小レポート等の課題を行う。また、小レポート等の課題を行う。

フィードバック方法：リアクションペーパーについては、次回の授業以降に講評および追加の解説を行う。小レポート等の課題については、課題提出後に、講評および追加の解説を行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：	授業の進め方、評価基準の説明、集団心理学の概要
第2回	集団と個人 社会的影響	社会的促進と社会的抑制、社会的手抜きと社会的補償
第3回	グループ・ダイナミクス	集団規範、同調、少数者の影響、服従
第4回	集団の意思決定	集団浅慮、集団極性化、心理的拘泥現象
第5回	リーダーシップ	リーダーシップのスタイル、PM理論、リーダーシップを規定する要因
第6回	社会的葛藤	社会的ジレンマ、集団間葛藤、外集団に対する認知バイアス
第7回	集合現象	うわさ・流言、流行、社会的ネットワーク、避難行動、パニック
第8回	組織と個人	チームワーク、組織規範と組織文化、集団凝集性、心理的安全性
第9回	経済と個人	消費者行動、プロスペクト理論、ヘーリスティック、カスタマーハラスメント
第10回	社会と個人	社会問題・社会現象、群集心理、没個性化、傍観者効果、多元的無知、社会的妥当化、敵意帰属バイアス
第11回	家族と個人	家族の機能、夫婦関係、親子関係、家庭内暴力、夫婦間暴力、虐待、家族療法
第12回	インターネット・マスメディアと個人	インターネット上での人間関係、インターネット依存、マスメディアの影響、世論、プロパガンダ
第13回	文化と個人	心の普遍性、文化的自己観、個人主義と集団主義
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習：予め授業支援システムから授業で解説する資料をダウンロードし、読んでくる。準備学習時間は、2時間を標準とする。

復習：資料やノートを読み返し、授業で学んだことについて振り返る。復習時間は、2時間を標準とする。

課題対応：指定した授業について、小レポート等の課題を行う。課題対応時間は、1時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

越智啓太(編)(2022)『私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科社会心理学編』創元社

池上知子・遠藤由美(2008)『グラフィック社会心理学(第2版)』サイエンス社

松井豊・宮本聡介(編)(2020)『新しい社会心理学のエッセンス：心が解き明かす個人と社会・集団・家族のかかわり』福村出版

齊藤勇(2023)『イラストレート社会心理学』誠信書房

谷口淳一・西村太志・相馬敏彦・金政祐司(編著)(2017)『新版 エピソードでわかる社会心理学—恋愛・友人・家族関係から学ぶ』北樹出版

山口裕幸(2008)『チームワークの心理学—よりよい集団づくりをめざして』サイエンス社

笹山郁生(編)(2023)『ライブラリ 心理学を学ぶ=7 集団と社会の心理学』サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業のリアクションペーパー(30%)：授業で学んだ社会心理学とグループ・ダイナミクスの基本的な概念(理論や専門用語)や先行研究について、①自らの日常生活における経験と関連づけ、②感想、疑問点や興味・関心を、③積極的に述べられているかどうかを評価する。

小レポート等の課題(30%)：課題内容に対して、①授業内容を踏まえ、②理論や先行研究を引用し、③自らの考えや必要な事項を述べられているかどうかを評価する。

試験(40%)：試験を通じて、理論や専門用語を正しく理解しているかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業の前日までに、授業の資料を授業支援システムにアップする。各自で授業支援システムから資料をダウンロードし、授業を受講する。

【その他の重要事項】

「社会心理学」の授業と合わせて社会心理学全体を概観する。そのため、「社会心理学」も同時に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this class, we will explain how we are influenced by groups as we live in groups such as families, organizations, economies/societies and countries//regions. We will also explain what psychological problems arise from the interaction of those groups with other groups.

【Learning Objectives】

(1) To be able to explain basic concepts (theories and technical terms) and summary of relevant preceding research in social psychology and group dynamics.

(2) To be able to relate basic concepts and preceding research in social psychology and group dynamics to real-life and to psychologically consider social events that actually occur.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are required to download and read the handouts from the class support system prior to the class. The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Comments and discussion about the class (30%):Participants will be evaluated on whether they (1) relate the basic concepts (theories and terminology) and preceding research in social psychology and group dynamics that they have learned in class to their real-life experiences, (2) express their thoughts, questions, interests, and concerns, and (3) actively discuss them.

Assignments such as short reports (30%):Participants will be evaluated on whether they (1) reflect on the contents of the class, (2) cite theories and preceding studies, and (3) express their own ideas and other necessary matters in response to the assigned content.

Examinations (40%):Participants will be evaluated on their correct understanding of theories and terminology through examinations.

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

哲学概論 1

中釜 浩一

授業コード：A2304 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、哲学や哲学史の詳しい知識を前提とすることなく、「哲学的問が現実の生活の中でどのような仕方で生じてくるか」を直接検討することで、各自が「哲学的に思考する」感覚と能力の基礎を身につけることを目指す。哲学概論Iでは、より基本的なトピックを扱う。

【到達目標】

- ①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
- ②科学・宗教・芸術などの思考と区別される「哲学的思考法」が、どんな方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
- ③「哲学すること」の現代的役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	常識の批判としての哲学
第2回	知識の問題 (1)	自分は一体何を知っているのか
第3回	知識の問題 (2)	夢と現実 (フェイクとリアル)
第4回	知識の問題 (3)	懐疑論 (われわれは何も知りえない) とその批判
第5回	他者問題 (1)	「他人の心を知る」とはどういうことか？
第6回	他者問題 (2)	他人が「ゾンビ」でないと考える理由はあるのか
第7回	他者問題 (3)	ロボットに心を認めてならない理由はあるのか
第8回	心の正体 (1)	心身二元論と唯物論 (心とは脳のことか)
第9回	心の正体 (2)	二元論の致命的弱点
第10回	心の正体 (3)	唯物論は勝利したのか
第11回	決定論と自由 (1)	因果の根本原理
第12回	決定論と自由 (2)	決定論 (すべては決定されている) の証明
第13回	決定論と自由 (3)	それでもなお「自由」は可能なのか
第14回	まとめ	まとめの議論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に出される小課題の解答を提出する。
指定された図書やプリント等を読んでおく。
本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

トマス・ネーゲル「哲学ってどんなこと」(昭和堂)

【参考書】

プラトン「ゴルギアス」、デカルト「省察」、ヒューム「人間本性論」、カント「プロレゴメナ」、ラッセル「哲学の諸問題」

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーの内容：70%
期末のレポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回の課題の解説をさらに充実させる。

【Outline (in English)】

Course outline: This course will introduce some of the basic philosophical problems without presupposing any detailed knowledge of history of philosophy.

Learning Objectives: To acquire ability to think and argue philosophically.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: short papers:70%, term-end examination:30%

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

Grading Criteria: short papers: 70%, term-end examination : 30%

哲学概論 2

中釜 浩一

授業コード：A2305 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

哲学概論1に引き続き、いくつかの「哲学的パラドクス」を検討することで、自ら哲学的に思考する能力を身につけることを目指す。哲学概論2では、哲学概論1よりもさらに進んだトピックを扱う。

【到達目標】

- ①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
- ②他の思考法とは区別される「哲学的思考法」が、いかなる方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
- ③「哲学すること」の現代的意味を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	パラドクスと哲学
第2回	バルメニデスと否定のパラドクス (1)	「ないもの」はあるのか
第3回	バルメニデスと否定のパラドクス (2)	「ないもの」についてどうして語れるのか
第4回	バルメニデスと否定のパラドクス (3)	「ないものがある」とは何を意味するか
第5回	ゼノンと運動のパラドクス (1)	飛ばない矢とアキレス
第6回	ゼノンと運動のパラドクス (2)	数学的解決と「無限」の概念
第7回	ゼノンと運動のパラドクス (3)	パラドクスは解決したのか? 数学と哲学の関係
第8回	時間のパラドクス (1)	「本当の今」は存在するのか?
第9回	時間のパラドクス (2)	宿命論 (未来は変えられない) の議論
第10回	時間のパラドクス (3)	ニューカムの問題 (過去は変えられる) の検討
第11回	道徳の逆説 (1)	道徳の不自然さ
第12回	道徳の逆説 (2)	罪と罰 (道徳的運の問題)
第13回	道徳の逆説 (3)	幸福と道徳 (幸せに生きることと正しく生きることが本当に両立できるのか?)
第14回	まとめ	哲学的に思考するとはどういうことか。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に課される小課題の解答を提出する。
指定された図書やプリント等を読んでおく。
本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

セインズブリー「パラドクスの哲学」(勁草書房)。
サンデル「これからの「正義」の話をしよう」(ハヤカワ文庫)
山川偉也「ゼノン 4つの逆理」(講談社学術文庫)

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出内容：70%
期末のレポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

課題の解説をより充実させる。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with some of the famous philosophical paradoxes and representative arguments concerning them.

Learning Objectives: To deepen the ability to think and argue philosophically.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

論理学概論 1

安東 祐希

授業コード：A2306 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのだろうか。春期「論理学概論1」と秋期「論理学概論2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、春期科目では、命題の形式化の方法と、命題論理・述語論理における意味論を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・命題はどのように表すことができるのか。
- ・命題が「正しい」とはどういうことか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。(「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論理的な言明	日常言語における例
第2回	命題と論証	真偽と妥当性
第3回	命題の組み立て	論理結合子
第4回	主語と述語	変数と述語記号
第5回	「全て」と「存在」	量量子
第6回	形式的表現の整理	括弧の省略
第7回	多義性の分析	量量子の順序
第8回	命題論理の意味論	付値と真理値関数
第9回	命題の比較	論理式の同値
第10回	命題とは (再考)	同値による分類
第11回	論理的とは (再考)	恒真式と妥当な論証
第12回	述語の取り扱い	1変数述語記号の解釈
第13回	述語論理の意味論	量量子と解釈
第14回	関係の取り扱い	2変数述語記号の解釈

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト (教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。

- ・松本和夫『復刊 数理論理学』(共立出版) 2001年 (初版 1970)
- ・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験 (60%) において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート (40%) において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に対応する時間を授業内でも増やしたい。

【その他の重要事項】

単位取得後は、期間を空けずに秋期科目「論理学概論2」を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the way of the formalization for propositions and the semantics for propositional and predicate logic.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

- How can we express propositions?
- What is the meaning of the word "valid"?

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

論理学概論 2

安東 祐希

授業コード：A2307 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのだろうか。春期「論理学概論1」と秋期「論理学概論2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、秋期科目では、論証の妥当性の分析と、健全で完全な形式的演繹体系の定義を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・ 論証の妥当性を判定することは可能か。
- ・ 妥当な論証をすべて作り出す方法はあるか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前提と結論の表現	推件式の定義
第2回	論理式との関係	推件式の意味論
第3回	妥当性の表現	恒真な推件式
第4回	判定機の組立て	木構造の表現
第5回	「かつ」の分析	連言の恒真分解
第6回	「または」の分析	選言の恒真分解
第7回	「ならば」の分析	含意の恒真分解
第8回	「でない」の分析	否定の恒真分解
第9回	「すべて」の分析	全称量化の恒真分解
第10回	「ある」の分析	存在量化の恒真分解
第11回	演繹体系の定義	LK証明図の推論規則
第12回	構造規則の役割	LK証明図(命題論理)
第13回	変数の選択	LK証明図(述語論理)
第14回	演繹体系の性質	健全性と完全性

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト (教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。

- ・ 松本和夫『復刊 数理論理学』(共立出版) 2001年 (初版 1970)
- ・ Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験 (60%) において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート (40%) において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に対応する時間を授業内でも増やしたい。

【その他の重要事項】

履修にあたり、春期科目「論理学概論1」の内容を理解していることが求められる。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course deals with basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the analysis for the validity of sequents and the definition of one of the sound and complete logical systems.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

- Is the validity of arguments decidable?
- Are there any algorithms generating all of the valid arguments?

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

倫理学概論 1

君嶋 泰明

授業コード：A2308 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

倫理学とはどのような学問かを、関連するいくつかの基本概念の概観を通じて学ぶ。

【到達目標】

- ①倫理学の基本概念を理解する。
- ②倫理学とは何を明らかにしようとする学問かを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	倫理学とはどのような学問か
第2回	善	さまざまな「よさ」について
第3回	自律性	自分を律するとは
第4回	自由	自由とは何か
第5回	行為	行為の構造
第6回	責任	責任の条件
第7回	死	死について考える
第8回	自己①	自己とは何か
第9回	自己②	自己の一貫性
第10回	正義	正義についての諸理論
第11回	愛	愛の種類
第12回	悪	悪とは何か
第13回	神	神の視点
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点が50%、期末試験が50%。前者は授業への参加度とリアクションペーパーの内容や質問、後者は上記「到達目標」の①②がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの参考文献を挙げるなどして、学生のさらなる学習を後押しできるような心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the basic concepts of western ethics.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand what ethics is by way of an overview of some relevant basic concepts.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

倫理学概論 2

君嶋 泰明

授業コード：A2309 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代から現代にかけて登場した西洋のいくつかの倫理思想を概観することを通じて、倫理学が歴史的にどのように展開してきたかを学ぶ。

【到達目標】

- ①西洋哲学史における主要な倫理思想の基本的主張を理解する。
- ②倫理学にはさまざまな立脚点がありうることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	倫理思想史を学ぶということ
第2回	古代①	ソクラテス、プラトン
第3回	古代②	アリストテレス
第4回	古代③	エピクロス、ストア派
第5回	中世	アウグスティヌス、トマス・アクィナス
第6回	ライブニッツ	神学と倫理
第7回	ホッブズ	社会契約①
第8回	ロック	社会契約②
第9回	ヒューム	共感に基づく倫理
第10回	カント	義務論
第11回	ベンタム	功利主義
第12回	ニーチェ	習俗の倫理
第13回	ハイデガー	実存と倫理
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点が50%、期末レポートが50%。前者は授業への参加度とリアクションペーパーの内容や質問、後者は上記「到達目標」の①②がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの参考文献を挙げるなどして、学生のさらなる学習を後押しできるような心がける。

【Outline (in English)】**(Course outline)**

This course deals with the historical development of western ethics.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand the historical development of western ethics.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

西洋哲学史 I - 1

奥田 和夫

授業コード：A2310 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史 I - 2」(秋学期)とともに履修すること。

【到達目標】

各哲学者の思想の重要点を正確に理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開し成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要と資料をもとに講義する。毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回に回答する。また、適宜、小レポートをHoppiiを利用して提出する。小レポートは小試験に代えることもある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	哲学史を学ぶ意義 古代哲学史研究の対象と時間的・地理的範囲、研究上の制限
第2回	ミレトス学派	哲学の始まり
第3回	ピュタゴラスとその学派	輪廻転生と教的世界観
第4回	ヘラクレイトス	対立するものの調和、ロゴスの哲学
第5回	パルメニデス	有ると有らぬ
第6回	ゼノン、メリッソス	運動と多のパラドクス 空虚など
第7回	エンペドクレス	多元論 1
第8回	アナクサゴラス	多元論 2
第9回	レウキッポス、デモクリトス	多元論 3 (原子論)
第10回	ソフィストたち	プロタゴラス、ゴルギアス、ヒッピアス、プロティコス、「ノモスとピュシス」
第11回	ソクラテス 1	生涯、善美なるものについての無知の自覚
第12回	ソクラテス 2	魂の配慮、エレンコス
第13回	ソクラテス 3	哲学と政治
第14回	小ソクラテス学派 春学期のまとめ	キュレネ学派、キュニコス学派、メガラ学派 ミレトス学派から小ソクラテス学派までの展開

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

春学期用：広川洋一『ソクラテス以前の哲学者』(講談社学術文庫)

【参考書】

配布する授業内容のレジュメにおいて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

適宜提出する小レポートまたは小テストの内容と期末試験の内容によって評価する。小レポートまたは小試験の評価30% 期末試験の評価70% 計100%の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

Hoppiiの「お知らせ」などに注意すること。
「西洋哲学史 I - 2」(秋学期)とともに履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Thales to the Minor Socratics in the term.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand essences of each thoughts and to summarize the overview of the historical development.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy) Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

西洋哲学史 I - 2

奥田 和夫

授業コード：A2311 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

(Grading Criteria/Policy) Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史 I - 1」(春学期)とともに履修すること。

【到達目標】

各哲学者の思想の重要点を正確に理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開・成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要と資料をもとに講義する。毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回に回答する。また、履修生は適宜、小レポートを Hoppii を利用して提出する。小レポートは小試験に代えることもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期イントロダクション	小ソクラテス学派までの哲学史の概観 生涯、著作
第2回	プラトン 1	ソクラテス哲学の継承
第3回	プラトン 2	『国家』等の著作に見られるイデア論
第4回	プラトン 3	哲人統治説と政治哲学
第5回	プラトン 4	生涯、著作
第6回	アリストテレス 1	哲学体系、形而上学
第7回	アリストテレス 2	自然学、倫理学
第8回	アリストテレス 3	政治学
第9回	アリストテレス 4	生涯、著作、認識論、自然学、倫理学
第10回	エピクロス	主要人物、認識論、自然学、倫理学
第11回	ストア学派	主要人物、認識論、倫理学
第12回	懐疑派	生涯、著作、形而上学 三つの原理的なもの
第13回	プロティノス 1	一者からの発出と一者への帰還
第14回	プロティノス 2	古代哲学の思考世界
第15回	古代哲学の終焉	古代哲学の思考世界
第16回	秋学期のまとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

秋学期：教科書は使用しない (配布プリント、資料を使用)。

【参考書】

配布する授業内容のレジュメにおいて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

適宜提出する小レポートまたは小テストの内容と期末試験の内容によって評価する。小レポートまたは小テストの評価30% 期末試験の評価70% 計100%の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。ただし、Hoppii を利用する場合は、PC 等が必要となる。

【その他の重要事項】

Hoppii の「お知らせ」などに注意すること。
「西洋哲学史 I - 1」(春学期)とともに履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Plato to Plotinus in the term.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand essences of each thoughts and to summarize the overview of the historical development.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

西洋哲学史Ⅱ－1

菅沢 龍文

授業コード：A2312 | 曜日・時限：金1/Fri.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。春学期は、西洋のルネサンスから始めて、カント以前の18世紀啓蒙思想に至る主要な思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、その問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の哲学思想史を視野に入れて、現代にいたる西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、現代思想の中でこれまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

ルネサンスから啓蒙思想へ至る主要な西洋思想に関して
(1) 主要な思想家の思想について適切に文章で表現できる。
(2) 諸思想の全体の流れ、関係を適切に文章で表現できる。
(3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などの哲学的テーマについて考察できる。
(4) 近・現代文明がかかえる諸問題と関係づけて、考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は授業プリントと課題プリントのPDFを事前に「学習支援システム」で配布し、プロジェクターを用いて行う講義です。(※講義後に「学習支援システム」により、理解度チェックの選択問題の解答と、毎回の課題小作文の提出が課せられ、小作文集のPDF (パスワード付) が復習用に提供されます。フィードバックとして授業冒頭に前回の選択問題と課題に関して説明します。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	(1) 授業について、(2) 哲学史、(3) ルネサンス、(4) プラトン哲学の復興、など
第2回	ピコ・デッラ・ミランドラ	(1) 二重真理説、(2) カバラ、(3) 自由意志、など
第3回	ジョルダノ・ブルーノ	(1) 宇宙の無限性、(2) 汎神論、(3) 近代宇宙論の展開、など
第4回	デカルト (1)	(1) 永遠真理の創造説、(2) 哲学の第一原理、(3) 神の存在、など
第5回	デカルト (2)	(1) 物体の存在、(2) 心身関係、(3) 高邁の精神、など
第6回	スピノザ	(1) 神学と理性、(2) 汎神論と決定論、(3) 神の知的愛、など
第7回	ライプニッツ	(1) モナドロジー、(2) 予定調和、(3) オプティミズム、など
第8回	ベーコン、ホブズ	(1) 帰納法、(2) ホブズの自然主義、(3) 社会契約と政教分離、など
第9回	ジョン・ロック	(1) 観念、(2) 知識、(3) 社会契約と宗教的寛容、など
第10回	バークリ、ヒューム	(1) 唯心論、(2) ヒュームの自然主義、(3) 道徳感情、など
第11回	パスカル	(1) 科学者パスカル、(2) 繊細の精神、(3) 気晴らしと信仰、など
第12回	ジャン・ジャック・ルソー	(1) フランス啓蒙思想、(2) 文明批判、(3) 社会契約と一般意志、など
第13回	トマジウス、ヴォルフ	(1) 近代自然法、(2) 倫理と法、(3) 完全性の原理、など
第14回	15～18世紀半ばの西洋思想	(1) 近代前半の思想の流れ、(2) 対決する思想家たち、(3) 近代前半の思想の諸テーマ、など

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《準備学習》事前に「学習支援システム」で配布される授業プリントのPDFや参考書によって授業内容を把握しておく。
《授業後》「学習支援システム」で、授業課題を行い、その後に提供される課題小作文集 (パスワード付PDF) を使って復習する。また、参考書の関連箇所を読み、必要に応じて思想家の原典も読んで、理解を深める。

【テキスト (教科書)】

授業時には授業用プリントを用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』(ミネルヴァ書房)、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史 (再訂版)』(有斐閣)があります。詳しいものは『哲学の歴史』7～9巻(中央公論新社)や宗像恵/中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』(ミネルヴァ書房)、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』(昭和堂)などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』(粹出版社)があります。その他にも入手しやすい新書や文庫本をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

ルネサンスから啓蒙思想へ至る主要な西洋思想に関する、諸思想の理解、そして思想の潮流、諸思想の関係、哲学的テーマに関する理解、さらに現代への視点、といった到達目標に関して、次の2つの方面から成績評価する。

- (1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
 - (2) 学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
- これらのうち (1) を70% (2) を30%の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。
各回の主要なポイントが分かるように、メリハリを付けて解説する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の課題を学習支援システム (Hoppii) で行うことになるので、インターネットに接続して作業することのできるパソコン (推奨)、タブレット、スマホなどが必要となります。

【Outline (in English)】

We study the elementary history of modern European philosophical thought. What we learn during the spring semester is the thoughts of the major philosophers who worked from the Renaissance to the Enlightenment of the 18th century before philosopher Kant. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. With a view to the history of modern Western philosophical thought our aim is to examine the meaning of modern Western civilization up to the present day and the problems it faces in the context of modern thought.

【Goal】

In terms of the Western thoughts of the great philosophers from the Renaissance to the Enlightenment of 18th century we acquire the abilities:

- (1) to write appropriately about the ideas of the great philosophers.
- (2) to write appropriately about the streams and relations of the ideas of the great philosophers.
- (3) to consider the philosophical topics: human being, society, world, nature, cosmos and God.
- (4) to consider the ideas of the great philosophers in association with the problems of our modern civilization.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To grasp the contents of the next lecture with the delivered materials and books for reference.

The brush-up (2 hours): To do the assignments on "Hoppii", review the lesson with the assigned essays returned and read the books for reference. To read the text of the great philosophers when needed.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in terms of 1. the understanding of the thoughts of great philosophers, 2. the understanding of the streams and relations of ideas, 3. the understanding of the philosophical subjects, 4. the points of view from the modern civilization. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the assignments on "Hoppii", the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

西洋哲学史Ⅱ－2

菅沢 龍文

授業コード：A2313 | 曜日・時限：金1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。秋学期は、西洋の18世紀末のカントから19世紀末のニーチェに至るまでの主要な思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、そしてその問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の思想史を視野に入れて、現代にいたる西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、現代思想の中でこれまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

18世紀末のカントから19世紀末の主要な西洋思想に関して

- (1) 主要な思想家の思想について適切に文章で表現できる。
- (2) 諸思想の全体の流れ、関係を適切に文章で表現できる。
- (3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などの哲学的テーマについて考察できる。
- (4) 近・現代文明がかかえる諸問題と関係づけて、哲学思想を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は授業プリントと課題プリントのPDFを事前に「学習支援システム」で配布し、プロジェクターを用いて行う講義です。(※講義後に「学習支援システム」により、理解度チェックの選択問題の解答と、毎回の課題小作文の提出が課せられ、小作文集のPDF (パスワード付) が復習用に提供されます。授業冒頭にフィードバックとして前回の選択問題と課題に関して説明します。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	カント (1)	(1)コペルニクスの転回、(2)アプリオリな総合判断、(3)現象と物自体、など
第2回	カント (2)	(1)仮象、(2)アンチノミー、(3)理念の統制的使用、など
第3回	カント (3)	(1)定言命法、(2)目的の国、(3)最高善、など
第4回	フィヒテ	(1)カント哲学の発展的継承、(2)自我と非我、(3)無神論論争、など
第5回	シェリング	(1)自然哲学、(2)同一哲学、(3)神の実存、など
第6回	ヘーゲル (1)	(1)カントからの自立、(2)フィヒテ、シェリングからの自立、(3)弁証法、など
第7回	ヘーゲル (2)	(1)精神の現象学、(2)論理学、(3)法哲学、など
第8回	ショーペンハウアー	(1)根拠律、(2)意志と表象としての世界、(3)ペシミズムと解脱、など
第9回	キルケゴール	(1)アイロニー、(2)実存の三段階、(3)絶望と信仰
第10回	ニーチェ	(1)主知主義の批判、(2)超人、(3)ニヒリズム、など
第11回	フォイエルバッハ、マルクス	(1)神学の本質は人間学、(2)マルクスの近代市民社会批判、(3)史的唯物論、など
第12回	ベンサム、ミル	(1)功利主義、(2)ミルの功利主義と経験主義、(3)自由論、など
第13回	コント、スペンサー	(1)実証哲学、(2)社会有機体説、(3)社会進化論、など
第14回	18世紀末～19世紀末の西洋思想	(1)カント以降の哲学者たち (2)人間の生、社会と歴史、神と宗教 (3)対立する諸思想

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《準備学習》事前に「学習支援システム」で配布される授業プリントのPDFや参考書によって授業内容を把握しておく。
《授業後》「学習支援システム」で、授業の理解度チェックの選択問題の解答をして、授業で示された課題の小作文を提出し、その後に提供される小作文集 (パスワード付PDF) を使って復習する。また、参考書の関連箇所を読み、必要に応じて思想家の原典も読んで、理解を深める。

【テキスト (教科書)】

授業時には授業用プリントを用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』(ミネルヴァ書房)、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史 (再訂版)』(有斐閣)があります。詳しいものは『哲学の歴史』7～9巻 (中央公論新社) や宗像恵/中岡成文編著『西洋哲学史 [近代編]』(ミネルヴァ書房)、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』(昭和堂) などが、またテーマ的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』(粹出版社) があります。その他にも入手しやすい新書や文庫をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

18世紀末のカントから19世紀末までの主要な西洋思想に関する、基礎知識、諸思想の関係の理解、哲学的テーマへの哲学的理解、現代への視点、といった到達目標に関して、次の2つの方面から成績評価する。

- (1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
 - (2) 学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
- これらのうち (1) を70% (2) を30%の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。
各回の主要なポイントが分かるように、メリハリを付けて解説する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の課題を学習支援システム (Hoppii) で行うことになるので、インターネットに接続して作業することのできるパソコン (推奨)、タブレット、スマホなどが必要となります。

【Outline (in English)】

We study the elementary history of modern European philosophical thought. What we learn during the autumn semester is the thoughts of the major philosophers from Kant to Nietzsche who worked from the end of the 18th century to the end of the 19th century. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. In the context of the history of modern Western thought our aim is to examine the meaning of modern Western civilization and the problems it faces up to the present day.

【Goal】

In terms of the Western thoughts of the great philosophers from the end of the 18th century to the end of the 19th century we acquire the abilities:

- (1) to write appropriately about the ideas of great philosophers.
- (2) to write appropriately about the streams and relations of the ideas of great philosophers.
- (3) to consider the philosophical topics: human being, society, world, nature, cosmos and God.
- (4) to consider the ideas of great philosophers in association with the problems of our modern civilization.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To grasp the contents of the next lecture with the delivered materials and books for reference.

The brush-up (2 hours): To do the assignments on "Hoppii", review the lesson with the assigned essays returned and read the books for reference. To read the text of the great philosopher when needed.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in terms of 1. the understanding of the thoughts of great philosophers, 2. the understanding of the streams and relations of ideas, 3. the understanding of the philosophical subjects, 4. the points of view from the modern civilization. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the assignments on "Hoppii", the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想 1 (ドイツの思想A) 1

吉田 敬介

授業コード：A2314 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、20世紀前半という「危機」の時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。

20世紀前半のドイツ語圏では、観念論(理想主義)への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」(あるいは「フランクフルト学派」といった思想潮流が展開されました。授業においては、こうした歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 20世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
- (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
- (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示(必要に応じて配布)します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムHoppiiを確認するようお願いいたします。

授業の定員は30名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第2回	そもそも「ドイツ哲学」とは?	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第3回	19世紀のドイツ哲学(1)	ドイツ観念論とその挫折
第4回	19世紀のドイツ哲学(2)	キルケゴール、マルクス、ニーチェの思想とその影響
第5回	20世紀前半の思想的状況(1)	ヨーロッパのニヒリズムと『西洋の没落』
第6回	20世紀前半の思想的状況(2)	時代の「危機」意識と現象学
第7回	実存哲学の生成と展開(1)	ヤスパース『時代の精神的状況』と実存哲学
第8回	実存哲学の生成と展開(2)	ハイデッガー『存在と時間』の存在論
第9回	実存哲学の生成と展開(3)	ナチス政権下の哲学者たち 政治的決断主義

第10回	批判理論の生成と展開(1)	社会研究所の設立と亡命ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」
第11回	批判理論の生成と展開(2)	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』と「進歩」への問い
第12回	批判理論の生成と展開(3)	ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第13回	「危機」の時代のドイツの思想	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社
 ・『哲学の歴史 第10巻 危機の時代の哲学【20世紀I】』中央公論新社
 ・フッサール/ハイデッガー/ホルクハイマー『30年代の危機と哲学』清水多吉/手川誠士郎(訳)、平凡社〔平凡社ライブラリー〕
 その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点(リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価)40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
- ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想 1 (ドイツの思想 B) 2

吉田 敬介

授業コード：A2315 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、20世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。

20世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際の問題と対峙しなければなりません。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関する文脈を踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

(A) 20世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示 (必要に応じて配布) します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムHoppiiを確認するようお願いいたします。

授業の定員は30名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第2回	「危機」の時代から戦後へ	20世紀前半のドイツの哲学と戦後の課題
第3回	哲学者たちと「過去の克服」(1)	ニュルンベルク裁判と「過去の忘却」
第4回	哲学者たちと「過去の克服」(2)	ヤスパーズの戦争責任論
第5回	哲学者たちと「過去の克服」(3)	亡命知識人たちの帰還とファシズムへの問い
第6回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (1)	アウシュヴィッツ裁判と1968年運動
第7回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (2)	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い
第8回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (3)	アーレント『エルサレムのアイヒマン』
第9回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (1)	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」

第10回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (2)	ハーバーマスと憲法パトリオティズム
第11回	ヨーロッパの中のドイツ (1)	東西ドイツの再統一と「ポスト伝統的アイデンティティ」
第12回	ヨーロッパの中のドイツ (2)	ヨーロッパ統合と、ハーバーマスとデリダのヨーロッパ論
第13回	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティ再考	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
 ・ヤスパーズ『われわれの戦争責任について』橋本文夫 (訳)、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕2015年
 ・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』三島憲一 (訳)、岩波書店〔岩波現代文庫〕
 その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点 (リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価) 40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
 ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

宗教学2 (キリスト教思想史) A

鵜澤 和彦

授業コード：A2316 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰 (信じること) と理性 (知ること) の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。春期授業 (キリスト教思想史A) は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化 (芸術など) に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章 教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第7回	第5章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。
第8回	第6章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。

第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルドの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどについて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2時間)
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2時間)

【テキスト (教科書)】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、ISBN-13 : 978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13 : 978-4163909455、2019年、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート (到達目標の技術の習得)。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. The classes scheduled for the spring semester will cover the early church and the formation of the Bible, as well as mystical thought in the late medieval period.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).

Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

宗教学2 (キリスト教思想史) B

編澤 和彦

授業コード：A2317 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰 (信じること) と理性 (知ること) の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業 (キリスト教思想史B) は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化 (芸術など) に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Form を通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトルルカの文学を学びます。
第3回	第11章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的霊性の定義などについて説明します。
第6回	第13章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。
第7回	第14章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き パスカルと信仰	パスカルの生涯、決定的回心 (メモリアル)、イエズス会との論争などについて学びます。

第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第11回	第16章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章 近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り返った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2時間) 復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2時間)

【テキスト (教科書)】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、2021年、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13：978-4163909455、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート (到達目標の技術の習得)。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).

Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

宗教学3 (仏教思想論) A

計良 隆世

授業コード：A2318 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インド初期仏教思想・仏教史
 釈迦(仏陀)自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。
 この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察(西洋哲学思想との比較)を試みます。
 (初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。)

【到達目標】

・釈迦(仏陀)自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
 ・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察(西洋哲学思想との比較)を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5回実施予定)。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯 (1)	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯 (2)	ヴェーダ文明 プラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法 (説法)	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想 (1)	五蘊・十二処・十八界 三つの真理(三法印) 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想 (2)	「一切皆苦」 4つの真理(四諦説) 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』
第7回	仏教の基本思想 (3)	仏陀のさとり得た真理とその特徴 『梵天勧請』 『縁』経、他 比較思想的考察

第8回	仏教の基本思想 (4)	「諸法無我」 人無我と法無我 ミリンダ王経
第9回	仏教教団と教団運営	律蔵文献 戒・波羅提木叉
第10回	初期仏典講読 (1)	『ダンマパダ』
第11回	初期仏典講読 (2)	『スッタニパータ』 「慈しみ」他
第12回	初期仏典講読 (3)	『スッタニパータ』 「田を耕すバーラドヴァーージャ」他
第13回	初期仏典講読 (4)	『スッタニパータ』 真理についての争い
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。
 授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
 授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、2013年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは、多くの学生にとって、初めてのことと思います。先入見を持たずに、原典(和訳)資料を読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてください。解説は丁寧にいきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン(学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論A」だけでは、仏教思想の本質の理解、特に仏教の人生観・世界観の理解が不十分となります。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy. The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

宗教学3 (仏教思想論) B

計良 隆世

授業コード：A2319 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化してきたのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

(本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化してきたのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観の持つ思想的・思想的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(3～4回実施予定)。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第2回	部派仏教 (説一切有部) の思想 (1)	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系 (1) : 五位七十五法
第3回	部派仏教 (説一切有部) の思想 (2)	ダルマの体系 (2) : 有為ダルマの二性質
第4回	部派仏教 (説一切有部) の思想 (3)	物質論 原子 (極微) 論
第5回	部派仏教 (説一切有部) の思想 (4)	仏教がとらえる内的世界 (心・心作用) 心作用の区分け (6心所)
第6回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第7回	大乘仏教 (1)	大乘仏教の教理的特徴
第8回	大乘仏教 (2)	大乘諸経典 『般若経』の空思想
第9回	大乘仏教 (3)	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中

第10回	大乘仏教 (4)	縁起の思想 (1) 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苜経』
第11回	大乘仏教 (5)	縁起の思想 (2) 縁起二種観察法 『稲苜経』・『稲苜経註』
第12回	大乘仏教 (6)	大乘仏教・後期中観思想の人生観1 到達目標・理想的境地・中道
第13回	大乘仏教 (7)	大乘仏教・後期中観思想の人生観2 仏陀・経典の権威について
第14回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
 授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的
 世界観』、Dojin 選書、2013年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想2 存在の分析<アビダルマ>』、
 角川ソフィア文庫、1996年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績 (60%) と授業内容確認小テストの成績 (30%) と平常点 (10%) により評価します。
 学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか (恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

「興味深い授業内容だった」という感想をもらいました。インド本来の
 大乘仏教思想、特に東アジアには殆ど伝わっていない後期中観思想
 を初めて学び、その思想 (人生観等) に新鮮な驚きを感じる学生
 が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、わか
 りやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。
 また、第1回授業は仏教思想展開史上とても重要な事柄を扱います
 ので、履修を考えている方は、第1回授業から参加にしてください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (Shrāvākayāna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayāna) Buddhism. The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. Sarvāstivādin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Madhyamaka philosophy consisting in dependent arising, emptiness, middle way and nonabiding nirvana.
3. Dharmakīrti's and later Mādhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語 (第三外国語としてのフランス語A) 1

廣松 勲

授業コード：A2320 | 曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験(仏検)4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも(フランス共和国を含めた)現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整

9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞 (aller, venir, vouloir)
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる(いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズイ！(改訂二版)』、駿河台出版社、2023年。

(*自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。)

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点(ミニ課題など)：30%

②期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会(特に発音と筆記)を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語 (第三外国語としてのフランス語B) 2

廣松 勲

授業コード：A2321 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験(仏検)4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも(フランス共和国を含めた)現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心に、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる(いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR動詞(つづき) ・形容詞 ・動詞savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞+à+不定詞 ・動詞mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字21～69 ・動詞faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現(つづき)
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞

9	中間まとめ	・これまでの学習事項を総復習 ・進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う(1) ・数字70～100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う(1) ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞en
12	Leçon 12	過去のことを言う(2)、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う(2)、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞yとle ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！(改訂二版)』、駿河台出版社、2023年。

(*自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。)

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点(ミニ課題など)：30%

②期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会(特に発音・筆記)を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

人間学 1 (環境倫理学) A

吉永 明弘

授業コード：A2322 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。メールで質問を募り、授業に反映させる。チェックテストとレポートについては個別にメールで講評を行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と倫理学論	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	環境問題と現代社会	環境問題が「現代社会」の仕組みに由来する問題であることを示す
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理と自然の権利	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」と「自然の権利」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
7	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
8	公害の環境倫理	公害に関する映画を見て意見交換する
9	環境正義	環境正義について議論する
10	リスク論	リスク論の概要を紹介する
11	中間チェックテスト	ここまでの内容を理解しているかを確認する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年 (序章、第4章～第10章)

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年 (第1章と第2章の内容が関連します)

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト (40点) と書評レポート (60点)。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

人間学 1 (環境倫理学) B

吉永 明弘

授業コード：A2323 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「都市の環境倫理」について学ぶ。その中で、哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論などを紹介する。さらに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけれられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二と桑子敏雄の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する
10	環境と観光:白川郷と妻籠	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
11	環境と観光:湯布院の地域づくり	湯布院のドキュメンタリーを見て議論する
12	アメニティマップの発表 (1)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表 (2)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップの発表 (3) 全体の講評	アメニティマップについて講評する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年 (第11章～第14章)

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

(第3章と第6章の内容を扱います)

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (40%) とマップ作成 (60%)。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with urban environmental ethics. At the end of the course, students are expected to understand human environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, amenity map:50%, term-end examination:50%.

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

言語と論理 1 (言語学講義 I A)

石川 潔

授業コード：A2326 | 曜日・時限：月3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(英語学習者または英語教師になる人のための) 音声知覚、単語の聞き取りや文理解に関する心理言語学の入門

【到達目標】

(英語学習/教育にも役立つはずの) 人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得

言語研究にも役立つけど、**社会人一般にも役立つ、データ分析の基礎**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、実習(やグループ・ディスカッション?)を行う回もある予定です。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です(フィードバック方法は内容/分量によります)。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業全体の説明
第2回	<i>Olympic</i> を片仮名表記するとしたら、「オリンピック」と「オリムピック」の、どっちにすべき?	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その1)
第3回	<i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れないで発音できる?	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その2)
第4回	「しおり」は可愛い……のかな? 比較対象は?	実験と統計分析の必要性: 統制条件、仮説と予測
第5回	強形と弱形	syllable の概念が必要な理由、英語の stress の物理的実体
第6回	英語のリズム	知識を得た上で、聞き取り実習
第7回	英語のLとR、聞き分けられる?	フォルマント(遷移)の概念
第8回	英語その他での「有声・無声」の違い	VOTの概念
第9回	音響情報のままには聞き取れない場合	語彙効果など
第10回	「発音できたら聞き取れるようになる」って本当?	Motor Theory が解決してくれる/くれないこと
第11回	その単語、どういう意味?(その1)	意味プライミング(その1): 単語検索
第12回	その単語、どういう意味?(その2)	意味プライミング(その2): ambiguity resolution
第13回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください(理由は授業を受ければわかる…はず)。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

構造化を心掛け、「全体の中のどこを今やっているか」が常に意識できるようにしたいと思っています。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception, auditory word recognition and sentence processing (for English learners as well as prospective teachers of English).

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing on the other.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English! (Why sing? Well, join the class to find out!)

(Grading Criteria / Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

言語と論理 1 (言語学講義 I B)

石川 潔

授業コード：A2327 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語と日本語を「文法」の面から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

主として講義の予定です。
リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。
学生の理解度や要望などに応じて、計画は柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語の「助動詞」って何なのか、改めて考える	統語論的な規則性と意味的な「直感」とのズレ
第2回	英語の「主語」、日本語の「主語」	「主語」は、「行為をする人」という意味では、ないです。
第3回	英語の時制とアスペクト1	述語の2分類
第4回	英語の時制とアスペクト2	英語の進行形の基本
第5回	英語の時制とアスペクト3	英語の進行形の応用
第6回	英語の時制とアスペクト4	英語に「未来形」ってあるのか？
第7回	英語の時制とアスペクト5	英語の完了形の基本
第8回	英語の時制とアスペクト6	英語の完了形の応用
第9回	日本語の時制とアスペクト1	日本語に「現在形・過去形」はない？
第10回	日本語の時制とアスペクト2	telicity
第11回	日本語の時制とアスペクト3	主観 対 客観
第12回	日本語の時制とアスペクト4	絶対テンス 対 相対テンス
第13回	日本語の時制とアスペクト5	テイルの意味 (基本編)
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日英語の文法比較のうち授業でカバーできるのは、ごく一部ですが、授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、見つけてください (きっと見つかるはず)。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ (有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります)。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

構造化を心掛け、「全体の中のどこを今やっているか」が常に意識できるようにしたいと思っています。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese "grammars." (Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills. (Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom. (Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

言語と論理3 (集合論) A

安東 祐希

授業コード：A2330 | 曜日・時限：火1/Tue.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**無限とは何か ~~~ 無限の個数**

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限の「大きさ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例を一つ以下に挙げよう。
~~~~

普通のサッカーは1チーム11人であり、反則により退場者が出た側は不利になるが、自然数と同じ数だけ選手がいる2つのチームが試合をした場合はどうであろうか。赤組と白組それぞれ背番号1、2、3、…の選手全員で試合をしていたところ、赤組は奇数番号の選手が皆退場してしまい、背番号2、4、6、…の選手だけ残った。そのとき赤組の選手が自分と同じ背番号の白組の選手に付けば、白組の奇数番号の選手が動き回るので大変不利である。しかし赤組の選手が自分の半分の番号をつけた白組の選手に付けば、つまり赤2が白1、赤4が白2という具合に対応したら、互角に戦うことができる。さらにこの考えを進めれば、赤組のほうが逆に有利になる戦略を見つけ出すことさえ可能である。どのようにすればよいか。

**【到達目標】**

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・無限集合が持つ、有限集合とは異なる性質とは？
- ・無限にも大小はあるか。1個、2個、…の先は？

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。(「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。)

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ    | 内容     |
|------|--------|--------|
| 第1回  | 無限の不思議 | 概要説明   |
| 第2回  | 集合の表記  | 外延と内包  |
| 第3回  | 部分の全体  | 冪集合    |
| 第4回  | 対応関係   | 写像の定義  |
| 第5回  | 特別な対応  | 全射と単射  |
| 第6回  | 「3」とは  | 全単射    |
| 第7回  | 無限の大きさ | 濃度の定義  |
| 第8回  | 最小の無限  | 可算集合   |
| 第9回  | 真に大きい？ | 有理数全体  |
| 第10回 | 色々な単語  | 可算な文字列 |
| 第11回 | 真に大きい！ | 対角線論法  |
| 第12回 | 小数表記   | 実数全体   |
| 第13回 | 無限に大きく | 冪集合再考  |
| 第14回 | 半期のまとめ | 総復習の問題 |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

**【テキスト (教科書)】**

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

**【参考書】**

- ・志賀浩二『集合への30講』(朝倉書店) 1988年
- ・上江洲忠弘『集合論・入門』(遊星社) 2004年、増訂版2013年
- ・松坂和夫『集合・位相入門』(岩波書店) 1968年、新装版2018年

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

**【その他の重要事項】**

- (1) 秋期科目「集合論B」の予備知識となる内容を含む。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理3 (集合論) A」。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite cardinal numbers.

**【Learning Objectives】**

By the end of the course, students should understand the difference between countable sets and uncountable sets,

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

**【Grading Criteria/Policies】**

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).



MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

## 言語と論理3 (集合論) B

安東 祐希

授業コード：A2331 | 曜日・時限：火1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

#### 無限とは何か ～～ 無限の順序

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限列の「長さ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例の一つ以下に挙げよう。  
～～

長男一郎、次男二郎、三男三郎の三人兄弟を一行に並べるとき、並べ方は全部で6通りある。そこで、先頭になった者を改めて長男、中央を次男、末尾を三男と呼ぶことにすると、6通りのいずれも、長男、次男、三男という兄弟構成ができることに変わりはない。さて、同じような並べ替えを、長男一郎、次男二郎、三男三郎、…と、各自然数  $n$  に対して  $n$  男の  $n$  郎がいるような無限の兄弟で行うとどういうことが起こり得るであろうか。例えば、長男を二郎、次男を三郎、三男を四郎、…とし、さらに一郎は他の誰と比べても弟として全員を並べてみよう。このとき、元々の長男、次男、三男、…よりも「長く」伸びた兄弟構成ができる。人の集合としては同じであるが。では、もっと長い構成とするには、どうすればよいか。

#### 【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・物を並べる、つまり物の間に順番を与える、とは？
- ・無限の物を並べられるか。1番、2番、…の先は？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。(「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ    | 内容      |
|------|--------|---------|
| 第1回  | 二種類の数  | 基数と序数   |
| 第2回  | 派閥分け   | 同値関係    |
| 第3回  | 順序とは   | 順序集合    |
| 第4回  | 順序の練習  | 有限順序集合  |
| 第5回  | 順序の形   | 同型写像    |
| 第6回  | 比較可能性  | 線形順序    |
| 第7回  | 無限に降下？ | 整列順序    |
| 第8回  | 順序の順序  | 順序数     |
| 第9回  | 直線上の表現 | 実数の部分順序 |
| 第10回 | 順序をつなぐ | 順序数の和   |
| 第11回 | 順序上の順序 | 順序数の積   |
| 第12回 | 順序と写像  | 順序数の冪   |
| 第13回 | 日常の順序  | 順序数の実例  |
| 第14回 | 半期のまとめ | 総復習の問題  |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

#### 【テキスト (教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

#### 【参考書】

- ・志賀浩二『集合への30講』(朝倉書店) 1988年
- ・上江洲忠弘『集合論・入門』(遊星社) 2004年、増訂版2013年
- ・松坂和夫『集合・位相入門』(岩波書店) 1968年、新装版2018年

#### 【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験 (60%) において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート (40%) において評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

#### 【その他の重要事項】

- (1) 春期科目「集合論A」で扱う内容を既知として授業を進める。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理3 (集合論) B」。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite ordinal numbers.

##### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to generate "longer" orders on the set of natural numbers.

##### 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

##### 【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

BSP100BB (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・哲)

君嶋 泰明

授業コード：A2332 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年  
 備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学での学びにおいて必須となる、レポートや論文を書くための基本的なスキルを身につける。

### 【到達目標】

- ①必要文献を適切な方法で収集できる。
- ②文献を適切に要約できる。
- ③文献の主張にたいして自説を適切に展開できる。
- ④従うべき形式に従い、レポートや論文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義の回とグループワークの回がある。ほぼ毎回課題が出る。受講者がその課題をやっていることが授業の前提となる。適宜下記の教科書を使用するが、必ずしも教科書に沿って授業を進めるわけではない。課題へのフィードバックは授業内で行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                      |
|------|--------------|-------------------------|
| 第1回  | イントロダクション    | 授業の概要の説明                |
| 第2回  | 文献収集         | 図書館ガイダンスを利用してやり方を学ぶ     |
| 第3回  | 文献要約と問題提起①   | やり方を学ぶ                  |
| 第4回  | 文献要約と問題提起②   | 実際にやってみる                |
| 第5回  | 文献収集と自説の強化①  | やり方を学ぶ                  |
| 第6回  | 文献収集と自説の強化②  | 実際にやってみる                |
| 第7回  | レポートや論文の基本①  | レポートや論文の構成を学ぶ           |
| 第8回  | レポートや論文の基本②  | 引用や文献表の書き方、執筆上の倫理について学ぶ |
| 第9回  | レポートや論文の書き方① | 第一稿の検討                  |
| 第10回 | レポートや論文の書き方② | 第一稿の検討の続き               |
| 第11回 | レポートや論文の書き方③ | 第一稿についての講評              |
| 第12回 | レポートや論文の書き方④ | 第二稿の検討                  |
| 第13回 | レポートや論文の書き方⑤ | 第二稿の検討の続き               |
| 第14回 | レポートや論文の書き方⑥ | 第二稿についての講評              |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業で指示される課題を必ずこなして授業に参加すること。

### 【テキスト (教科書)】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第4版』慶應義塾大学出版会、2018年

### 【参考書】

必要に応じて授業で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業での取り組みが60%、最終的に提出するレポートが40%。上記の「到達目標」がどれだけ達成されているかに応じて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

議論の深まりと授業の進行速度のバランスを取るように心がける。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with how to write a term/research paper.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to learn how to write a term/research paper.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

BSP100BB (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミⅡ (文・哲)

内山 真莉子

授業コード：A2333 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、大学で学ぶに際して必要となる基本的な態度やスキルを身に付けることを目的とする。とりわけ、哲学的な文章を読み解き、自分なりの観点で考察することや、資料を作成し議論の場で発表すること、またレポートを作成するために必要な事柄を習得することを旨とする。

### 【到達目標】

- ・ 哲学的な文章を根気強く読み解き、一定の理解を得ることができる。
- ・ 自分なりの問題意識を抱き、それを論理的に構成し他者へ示すことができる。
- ・ 他者との議論の中で、自他相互に問題意識を深めることができる。
- ・ 哲学に関するレポートの基本的な書き方を理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

(発表・議論)

・ 全受講者にテキストを配布し担当箇所を割り当て、その箇所について担当者はレジュメを作成し、発表する。

・ 発表内容を元に、受講者全員で質疑応答・議論を行う。

・ 授業内での発表や議論の内容に関するリアクションペーパーを提出する。

(レポート作成)

授業内で扱った事柄の中からいくつかをテーマとしてピックアップし、それに関するレポートを作成する。

(フィードバックに関して)

議論の際には適宜、教員がフィードバックを行う。またリアクションペーパーは、授業時に匿名でいくつか紹介し、授業内容の理解を深めることに用いる。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                |
|------|------------|-------------------|
| 第1回  | 導入         | 授業の概要と今後の進め方について  |
| 第2回  | 発表・議論 (1)  | 哲学的思考とは           |
| 第3回  | 発表・議論 (2)  | 科学について①           |
| 第4回  | 発表・議論 (3)  | 科学について②           |
| 第5回  | 発表・議論 (4)  | 哲学的懐疑①            |
| 第6回  | 発表・議論 (5)  | 哲学的懐疑②            |
| 第7回  | 発表・議論 (6)  | 価値について①           |
| 第8回  | 発表・議論 (7)  | 価値について②           |
| 第9回  | 発表・議論 (8)  | 『哲学のなぐさめ』第3巻1～3   |
| 第10回 | 発表・議論 (9)  | 『哲学のなぐさめ』第3巻4～6   |
| 第11回 | 発表・議論 (10) | 『哲学のなぐさめ』第3巻7～9   |
| 第12回 | 発表・議論 (11) | 『哲学のなぐさめ』第3巻10～12 |
| 第13回 | レポート作成 (1) | レポートの書き方について      |
| 第14回 | レポート作成 (2) | 期末レポート作成          |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に各授業回の該当箇所を熟読し、疑問点をまとめておく。

各授業回の担当者は、該当箇所を熟読した上でレジュメを作成する。

レポート作成に当たり、自分が関心を抱いたテーマについて資料・レジュメを見直す。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

『哲学思考トレーニング』伊勢田哲治著、筑摩書房、2005年。

ポエティウス『哲学のなぐさめ』松崎一平訳、京都大学学術出版会、2023年。

※授業内での使用箇所についてコピーを配布する。

### 【参考書】

『レポート・論文の書き方入門 第4版』河野哲也著、慶應義塾大学出版会、2018年。

その他、授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

テキスト内容についての理解と、自分なりの疑問点をもつことができているか、論理的に考察することができるか、他者の意見を尊重しつつ自身の考察を深めることができているか、といった観点から、以下の3項目にて評価する。

①発表担当時の発表内容：30%

②質疑応答・議論への参加、リアクションペーパーの記入：30%

③期末レポート：40%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course aims to equip students with the fundamental attitudes and abilities needed to succeed in university studies. Specifically, students will learn how to comprehend philosophical texts and interpret them from their viewpoints, develop materials and present them effectively in class discussions, and write reports.

#### 【Learning Objectives】

This course aims to help students become familiar with philosophical concepts, develop logical thinking skills, engage in useful discussions, and learn the basics of writing a philosophy report.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, it is expected that students will have read the pertinent chapter from the textbook. The individual in charge will create a summary of the chapter after reading it carefully. To prepare a report, you should review materials and resumes on a topic that interests you. You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end report: 40%, Contents of presentation as person in charge: 30%, in-class contribution: 30%

BSP100BB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## 基礎ゼミ I（文・哲）

奥田 和夫

授業コード：A2334 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年  
 備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、大学での授業の接し方・勉強方法、とくにレポートや論文の書き方・心得ておかなければならない情報・知識・技術・能力について学び、その練習をします。

### 【到達目標】

大学での授業の接し方、とくにレポート、論文の書き方、資料収集の方法等を習得し、自分で実践することができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

【到達目標】に記した目標を念頭において、授業で修得すべきことを説明します。そして授業の回ごとに、学んだことを実際に練習します。授業内の練習をとおして履修生に必要なフィードバックを行ないます。提出物によるものは次回の授業でその問題点等を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                  | 内容                                                      |
|------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション<br>大学と社会、大学生活、<br>大学の授業と研究 | 大学で何をどのように学ぶか<br>高校までの授業と何が違うか<br>社会人としての注意事項など         |
| 第2回  | 研究倫理<br>授業の理解、ノートとメモ                 | 研究倫理の理解<br>何を学んでいるのか<br>ノートとメモ                          |
| 第3回  | 読む技術<br>要約1（練習あり）                    | 要約する能力の重要性<br>要約のコツ                                     |
| 第4回  | 読んで振り返る<br>要約2（練習あり）                 | 読んでみて、何を読み取ったのか確認<br>し理解する<br>メモまたはノートを書く 必要に応じて調査する    |
| 第5回  | 要約3（練習あり）                            | 上の事項の反復練習                                               |
| 第6回  | 要約4（練習あり）<br>読んだことをまとめる              | 読んでみて、何を読んだのか書く<br>事実（or 書かれているコトガラ）は何か、または著者の主張は何か、を探る |
| 第7回  | 資料の探し方                               | 図書館と図書館の利用法                                             |
| 第8回  | 事実または他者の意見<br>に対する自分の意見1<br>（練習あり）   | ことがらに対する考察<br>自分が考えることは何か                               |
| 第9回  | 事実または他者の意見<br>に対する自分の意見2<br>（練習あり）   | 上の事項の反復練習                                               |
| 第10回 | テーマの発見1<br>（練習あり）                    | 「何を論じるのか」、「何が論じられるのか」の自覚<br>知識、情報の蓄積                    |
| 第11回 | テーマの発見2<br>（練習あり）                    | 上の事項の反復練習                                               |
| 第12回 | レポートと論文1<br>（練習あり）                   | 論文・レポートの要件と構成<br>出発点と到着点                                |
| 第13回 | レポートと論文2<br>（練習あり）                   | 上の事項の反復練習<br>引用、注、文献表などの必要性とその意味                        |
| 第14回 | まとめ                                  | 期末レポート<br>修得した技術を活用して提出レポートを作成する                        |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。  
 自分で読み書きの練習をし、課題に対する提出物を準備すること。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、プリントを配布します。

### 【参考書】

授業の中で適宜、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の課題提出物の内容 (40%) ② 期末レポートの内容 (60%) により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度はなし。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし。

### 【その他の重要事項】

第7回の授業で図書館の利用法を扱う。実際に図書館の館員に図書館の説明、利用法などの説明を受ける。ただし、図書館の事情により日程は変更になる可能性もある。日にちの変更は授業内、またはHoppiiの「お知らせ」欄で知らせます。

### 【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students acquire literacy and technique of reading, writing and gathering material.

(Learning Objectives) The goals of this course are to acquire literacy and technique of reading, writing and gathering material.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (50%), and in-class contribution(50%).

BSP100BB (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

基礎ゼミⅡ (文・哲)

菅沢 龍文

授業コード：A2335 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年  
 備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理的に考え、哲学を学び、論文・レポートを書くための基礎的な事柄を学ぶ。大きくは(1)論理(2)知識(3)自我(4)行為、に関する哲学的に基本的な事柄を取り上げ、毎回グループワークを実践する。そして最後に論文・レポートの書き方について学び、レポート作成を実践する。これにより、大学で論理的・哲学的に考えるための基礎力をつける。

【到達目標】

- (1)「矛盾」と「反対」とを区別でき、「矛盾」が理解できる。
- (2)「分析判断」と「総合判断」の特性を理解できる。
- (3)「必要条件」と「十分条件」が理解できる。
- (4)「思想」と「事実」と「言語」の関係について理解できる。
- (5)「唯名論」対「實在論」、「唯物論」対「観念論」が理解できる。
- (6)物や人格の「同一性」の諸相について理解できる。
- (7)「物体」の性質の諸相について理解できる。
- (8)自我の「明証性」について理解できる。
- (9)「人格」や「主観」、「客観」について理解できる。
- (10)「道徳的価値」について理解できる。
- (11)「黄金律」と「定言命法」について理解できる。
- (12)「決定論」と「自由」について理解できる。
- (13)論文・レポートの作成について心得る。
- (14)実際に問題や課題を立てて、適切なレポートが書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 授業の始めに前回の課題についての復習。  
(小作文集によるフィードバックをする。)
- (2) 次にプリント教材の内容と課題についての解説。
- (3) その後に授業の課題についてグループワークを行う。  
(※授業後に「授業支援システム」で課題についての小作文を提出。小作文集(パスワード付PDF)をゼミ内で共有する。)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                      | 内容                                                                               |
|-----|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション                | (1) 授業の進め方<br>(2) 真・善・美<br>(3) 自我<br>テキスト：16, 27 頁                               |
| 第2回 | 矛盾                       | (1) 「矛盾」の由来<br>(2) 矛盾と同一性<br>(3) 「矛盾」の定義<br>テキスト：29, 33, 37 頁                    |
| 第3回 | 分析判断、総合判断<br>(※矛盾律、必要条件) | (1) 矛盾律<br>(2) 分析判断・総合判断<br>(3) 必要条件<br>テキスト：42-44, 83 頁                         |
| 第4回 | 思想・事実・言語<br>(※矛盾と反対)     | (1) 事実と概念<br>(2) 概念と言語<br>(3) 反対対当<br>テキスト：46-50, 53-56 頁                        |
| 第5回 | 唯名論 vs. 實在論<br>(※必要十分条件) | (1) 必要十分条件<br>(2) 唯名論 (ノミナリズム)<br>(3) 総体および皆無の原理<br>テキスト：76-81, 83-86, 93, 236 頁 |
| 第6回 | 同一性の諸相                   | (1) 感覚<br>(2) 判断・推理<br>(3) 物の同一性<br>テキスト：98, 102-115 頁                           |
| 第7回 | 物体と懐疑                    | (1) 一次性質と二次性質<br>(2) 感覚知覚への疑い<br>(3) 算術・幾何学への疑い<br>テキスト：118-120, 126-130 頁       |
| 第8回 | 自我の明証性                   | (1) 私は存在する<br>(2) 私は考える<br>(3) 明証的な知覚<br>テキスト：132-136, 141-142 頁                 |

|      |            |                                                                             |
|------|------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 第9回  | 人格および主観、客観 | (1) 私はあるが、誰でもない?<br>(2) 人格 (ペルソナ)<br>(3) 主観的と客観的<br>テキスト：157-172 頁          |
| 第10回 | 行為の道徳的価値   | (1) 善意志<br>(2) 意図の選択<br>(3) 道徳的価値<br>テキスト：177-181 頁                         |
| 第11回 | 黄金律と定言命法   | (1) 隣人愛<br>(2) 無制限に善い意志<br>(3) 定言命法と黄金律<br>テキスト：182-183, 186-187, 190-191 頁 |
| 第12回 | 決定論と自由     | (1) 「である」と「べきである」<br>(2) 決定論<br>(3) 心情と結果<br>テキスト：215-219, 223-228 頁        |
| 第13回 | レポートの心得    | (1) 主題<br>(2) 資料収集<br>(3) 導入部を書く<br>(4) アウトライン<br>(5) 文章マナー                 |
| 第14回 | レポートの実践    | 課題を設定し、レポートを書く                                                              |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 準備：「学習支援システム」で事前に配布された教材プリントPDFによって授業内容を把握しておく。(ゼミでは、さらに理解や考えを深める。)  
 復習：授業後に「学習支援システム」で課題の小作文を提出する。その後に「学習支援システム」に掲載されるゼミ小作文集 (パスワード付PDF) により復習する。

【テキスト (教科書)】

ラインハルト・ブランド著『哲学 ひとつの入門』(理想社)

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に掲げられている各回の課題に関して次の観点から評価する。

- (1) 毎回のゼミへの参加態度と課題小作文の評価 (70%)
- (2) セメスター末のレポート作文の評価 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

授業では、聞き取りやすい発声を心がける。  
 授業で課題となるポイントを的確に伝える。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システム (Hoppii) にインターネット接続して、課題作文を提出するためのパソコン (推奨) やタブレット、スマホが必要です。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

Students will learn the fundamentals of thinking logically, studying philosophy, and writing papers and reports. We will cover the basic philosophical issues of (1) logic, (2) knowledge, (3) ego, and (4) action, and group work will be conducted each time. Finally, we will learn how to write papers and reports, and practice writing them. In this way, students will acquire the basic skills to think logically and philosophically at university.

【Learning Objectives】

- (1) To be able to distinguish between "contradiction" and "opposition" and understand "contradiction".
- (2) To understand the characteristics of "analytical judgment" and "synthetic judgment".
- (3) To be able to understand "necessary conditions" and "sufficient conditions".
- (4) To understand the relationship between "thought", "fact" and "language".
- (5) To understand "nominalism" versus "realism" and "materialism" versus "idealism".
- (6) To understand the various aspects of the "identity" of objects and of personalities.
- (7) To be able to understand the various aspects of properties of "objects".
- (8) To understand the "evidentiality" of the ego.
- (9) To understand "personality", "subjectivity" and "objectivity".
- (10) To understand "moral value".
- (11) To be able to understand the "Golden Rule" and "Categorical Imperative".
- (12) To be able to understand "determinism" and "freedom".
- (13) To be able to understand how to write papers and reports.
- (14) To be able to actually formulate a problem or issue and write an appropriate report.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is each 2 hours. Preparation: Understand the content of the class in the printed PDF materials distributed in advance via the "Learning Support System". (In the seminar, we will further deepen our understanding and ideas.)

Review: After the class, submit the assigned small essay on the "Learning Support System" and review it using the collection of the seminar small essays (PDF with password) posted on the "Learning Support System".

[Grading Criteria / Policy]

Depending on the achievement of the objectives, the following will be graded.

- (1) Attitude toward each seminar and evaluation of small essays (70%)
- (2) Evaluation of the essay or report at the end of the semester (30%)

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

## ドイツ語 (第三外国語としてのドイツ語A) 1

日中 鎮朗

授業コード：A2336 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。  
ドイツ語文法の基礎を学びます。  
日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を理解するために学びます。

### 【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。  
日常的によく使われる表現、ドイツ語で簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します (講義形式)。  
担当を決めて練習問題を行います (演習形式)。  
ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化します。  
適宜、確認小テストを行います。  
課題、また確認小テストのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                                 | 内容                                              |
|-----|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション<br>発音とアクセント                               | 発音の仕方<br>綴りの基本<br>ドイツ語の主語について<br>du,ihr,Sieについて |
| 第2回 | ドイツ語の動詞について                                         | 疑問詞<br>動詞の現在人称変化                                |
| 第3回 | Lektion2<br>ドイツ語の名詞について                             | 名詞の性と格                                          |
| 第4回 | Lektion2<br>ドイツ語の複数形について<br>Lektion3<br>ドイツ語の冠詞について | 複数形と冠詞の使い方<br>所有冠詞                              |
| 第5回 | Lektion3<br>ドイツ語の否定冠詞について                           | 否定冠詞と人称代名詞の格変化                                  |
| 第6回 | 人称代名詞の使い方について                                       | 第5回までの学習理解・文法知識をチェックしつつ、人称代名詞の用法について学ぶ          |
| 第7回 | Lektion4<br>ドイツ語の前置詞について                            | 前置詞の格支配                                         |
| 第8回 | Lektion4<br>ドイツ語のesについて                             | 非人称のesを用いた表現                                    |
| 第9回 | Lektion5<br>過去形について                                 | 動詞の3基本形<br>過去形について                              |

第10回 Lektion5  
ドイツ語の過去人称  
変化について

Lektion6  
ドイツ語の現在完了  
形について

第11回 Lektion 6  
ドイツ語のzu不定詞  
について

第12回 春学期ドイツ語学習  
の振り返り

第13回 理解の難しい文法項  
目を例文とともに、  
総復習を行う

第14回 春学期期末試験、解  
説とまとめ

人称による過去形の動詞の形  
現在完了形と接続詞

不定詞の用法

Plus 文法にふれつつ、文法の確認  
の振り返り

第12回までの学習理解・文法知  
識をチェックしつつ、全体的な質  
問を受ける

春学期期末試験、解説とまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき、合わせて4時間以上を  
標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。  
次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試  
みます。

宿題・課題については自分の担当ではないところも行い、授業でポ  
イントを確認し、正確な理解に努めます。

### 【テキスト (教科書)】

『ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』著者： 木  
下直也等 朝日出版社

### 【参考書】

独和辞書は必要です。(電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない)  
参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要  
があれば授業中に適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価手法について  
成績配分は期末試験50%、平常点(確認テストの点数の累計、課題、  
授業への積極的取り組みを含む)50%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解に合わせて進めていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業となった場合の必要な機器としてZoomで接続可能  
なデバイスを準備してください。

### 【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

### 【Outline (in English)】

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center  
Program.

This course provides elementary German grammar for  
beginners.

Learning Objectives: By the end of the course, students should  
be able to:

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Learning activities outside of classroom: Before each class  
meeting, students will be expected to have read the relevant  
chapter(s) from the text. Your required study time is at least  
four hours for each class meeting.

Grading criteria: Your overall grade in the class will be  
decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and  
in-class contribution: 50%

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

## ドイツ語 (第三外国語としてのドイツ語B) 2

日中 鎮朗

授業コード：A2337 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。  
春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。  
日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を理解できるように学びます。

## 【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。  
日常的によく使われる表現、ドイツ語での簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します (講義形式)。  
担当を決めて練習問題を行います (演習形式)。  
ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化できるようにします。  
適宜、確認小テストを行います。  
課題、また確認小テストのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                               |
|------|-------------------------------|----------------------------------|
| 第1回  | Lektion 7<br>ドイツ語の語法の助動詞について  | 語法の助動詞の現在人称変化と構文                 |
| 第2回  | Lektion 7<br>ドイツ語の未来形について     | 未来形の用法と文                         |
| 第3回  | Lektion 8<br>ドイツ語の分離動詞について    | 分離・非分離動詞                         |
| 第4回  | Lektion 8<br>ドイツ語の受動文について     | 受動文の用法と形式                        |
| 第5回  | Lektion 9<br>ドイツ語の命令形について     | 命令形とその用法                         |
| 第6回  | ドイツ語の不規則動詞の用法                 | 第5回までの知識の定着を確認しつつ、不規則動詞の特徴について学ぶ |
| 第7回  | Lektion10<br>ドイツ語の接続法について     | 接続法第2式の用法と形式                     |
| 第8回  | Lektion10<br>ドイツ語の婉曲語法について    | 婉曲語法と接続法第2式の用法                   |
| 第9回  | Lektion11<br>ドイツ語の再帰代名詞について   | 再帰代名詞の人称変化                       |
| 第10回 | Lektion11<br>ドイツ語の比較級・最上級について | 比較級・最上級の用法と形態                    |

|      |                             |                                     |
|------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 第11回 | Lektion12<br>ドイツ語の関係代名詞について | 定関係代名詞                              |
| 第12回 | Lektion12<br>ドイツ語の関係副詞について  | 関係副詞と不定関係代名詞                        |
| 第13回 | Plus文法と振り返り                 | Plus文法に触れつつ、これまでの学習についての確認と総合的な質問応答 |
| 第14回 | 期末試験、まとめと解説                 | 期末試験、文法事項を中心としたまとめと解説               |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき合わせて4時間以上を標準とします。  
授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。  
次回に行く章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。  
自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

## 【テキスト (教科書)】

『ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』著者：木下直也等 朝日出版社

## 【参考書】

独和辞書は必要です。(電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない) 参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。  
期末試験 50 %  
平常点 (訳読などの課題発表・確認テストの成績累計、授業への積極的取組・参加) 50 %

## 【学生の意見等からの気づき】

履修者の理解度に合わせて、弾力的に進めて、理解をより確実なものにします。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器としてZoomで接続可能なデバイスを準備してください。

## 【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

## 【Outline (in English)】

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.  
This course provides elementary German grammar for beginners.  
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to:  
- confirm German elementary grammar.  
- learn expressions of daily German conversation.  
Learning activities outside of class: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.  
Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following.  
Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%



LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

## 哲学フランス語文献講読1

酒井 健

授業コード：A2338 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

0) 今年度より新しく始まる授業です。2024年4月8日月曜日4時限に教室にて対面で開講します。

- 1) フランス哲学の文献を講読します。
- 2) 今年度はシモーヌ・ヴェイユ (1909-1943) の遺稿断章集『重力と恩寵』をフランス語の原文で読みます (教科書用のダイジェスト版を使用します)。愛、不幸、暴力、美などがテーマです。1947年に実存主義作家アルベール・カミュによって出版され、大きな反響を呼びました。
- 3) ヴェイユは1930年代から40年代にかけて近代社会と戦う闘争的な文筆と活動に向かった女性の哲学者です。極左の政治サークルに属し、労働者の実態を知るために工場で働き、スペイン内戦では共和政側の義勇兵に志願し銃を持って前線に立ちました。1939年に第二次世界大戦が始まりナチスの軍勢がフランスを占領しだすと、ユダヤ系の彼女は逃避を余儀なくされますが、フランス国民との連帯を欲してロンドンの臨時フランス政権 (いわゆるフランス・レジスタンスの本部) の近くに住み、本土に向け女性だけのパラシュート部隊の編成を提言したほどです。しかし当時のフランス国民の厳しい食糧事情に合わせての節食がたまって病に沈み、34歳の若さで客死しました。
- 4) 今回読むテキストは彼女の最晩年の思索の跡です。あらゆるイデオロギーに絶望した後には到達した思想の境地、すなわち彼女独自のキリスト教神秘思想が断章で綴られています。
- 5) 「重力」とは人とその世の避けがたい欠点のこと、「恩寵」とはそこに差し込むわずかな希望の光のことです。
- 6) ヴェイユのフランス語は美しく、かつ難しくはありませんが、じっくり考えるのが好きな人、丁寧にフランス語を勉強したい人に最適な授業です。1年生のときのフランス語の成績がA以上であることが望ましいです。
- 7) 冒頭の文章を引用しておきます。選択の目安にしてください。

"Tous les mouvements naturels de l'âme sont régis par des lois analogues à celles de la pesanteur matérielle. La grâce seule fait exception."

▶この二つの文章はそれぞれ構文が異なります。能動態か受動態か。主語は何か。cellesはどの単語を受けているのか。自分の実力をチェックしてみてください。

### 【到達目標】

- 1) 1年生のときに学んだ文法の知識から出発して、フランス語の基本的な文章をしっかりと読めるようにしていきます。
- 2) イエス・キリストの時代から続くキリスト教神秘思想の歴史を理解します。
- 3) 哲学的なテーマ (実存、神、悪、偶然性など) について学んで哲学への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

- 1) 教室での対面授業を基本にします。初回は2024年4月8日月曜日4時限です。
- 2) 1回にテキストの1~2頁を読みます。しっかり予習してきてください。
- 3) 全員が訳読を発表します。
- 4) キリスト教思想および哲学の基本テーマに関して、授業内で調べてきたことを発表します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容                                |
|------|----------|-----------------------------------|
| 第1回  | 授業の紹介。   | 授業の進め方およびシモーヌ・ヴェイユ、テキストについて紹介します。 |
| 第2回  | 『重力と恩寵』① | 教科書2頁 (最初のページ)                    |
| 第3回  | 『重力と恩寵』② | 教科書3頁                             |
| 第4回  | 『重力と恩寵』③ | 教科書4頁                             |
| 第5回  | 『重力と恩寵』④ | 教科書5頁                             |
| 第6回  | 『重力と恩寵』⑤ | 教科書6頁                             |
| 第7回  | 『重力と恩寵』⑥ | 教科書7頁                             |
| 第8回  | 『重力と恩寵』⑦ | 教科書8頁                             |
| 第9回  | 『重力と恩寵』⑧ | 教科書9-10頁                          |
| 第10回 | 『重力と恩寵』⑨ | 教科書11-12頁                         |
| 第11回 | 『重力と恩寵』⑩ | 教科書13-14頁                         |
| 第12回 | 『重力と恩寵』⑪ | 教科書15-16頁                         |
| 第13回 | 『重力と恩寵』⑫ | 教科書17頁                            |
| 第14回 | 期末試験     | まとめの総合問題 (筆記試験)。                  |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、下読み、復習等、あわせて2時間以上を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業内にコピーにて配布します。

### 【参考書】

- 1) シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』田辺保訳、ちくま学芸文庫、1995年。
- 2) シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』富原真弓訳、岩波文庫、2017年。
- 3) シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』渡辺義愛訳、春秋社、2020年。
- 4) シモーヌ・ヴェイユ『シモーヌ・ヴェイユ アンソロジー』今村純子訳、河出文庫、2018年。
- 5) ミクロス・ヴェトー『シモーヌ・ヴェイユの哲学—その形而上学的転回』今村純子訳、慶應義塾大学出版会、2006年。
- 6) シモーヌ・ペトルマン『評伝シモーヌ・ヴェイユ1および2』杉山毅訳、勁草書房、2002年。
- 7) 酒井健『聖なるコミュニケーション—ヴェイユとバタイユの場合』、酒井健『バタイユ 聖性の探求者』人文書院、2001年。
- 8) 酒井健『根源からの思索—ブランシヨのヴェイユ論』、酒井健『バタイユ 聖性の探求者』人文書院、2001年。

### 【成績評価の方法と基準】

- 1) 【到達目標】の上記3点を成績評価の基準にします。
- 2) 毎回の授業での訳読 (30%)、授業内での発表 (30%)、期末のテスト (40%) を総合して全体の成績を出します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし (今年度新設科目)。

### 【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書 (紙媒体でも電子媒体でも可。『ディコ (Dico)』(白水社) を推奨)

### 【Outline (in English)】

0) This is a new class starting this year.

- 1) Read French philosophical literature.
- 2) This year, we will read Simone Weil's (1909-1943) posthumous manuscript collection "Gravity and Grace" in its original French.
- 3) Then your study time will be more than two hours for a class.
- 4) Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (40%) and in-class contribution (60%).

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

## 哲学フランス語文献講読2

酒井 健

授業コード：A2339 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

0) 今年度より新しく始まる授業です。2024年9月23日月曜日4時限に教室にて対面で開講します。

- 1) フランス哲学の文献を講読します。
- 2) 今年度春学期からの継続です。シモーヌ・ヴェイユ (1909-1943) の遺稿断章集『重力と恩寵』をフランス語の原文で読みます (教科書用のダイジェスト版を使用します)。愛、不幸、暴力、美などがテーマです。1947年に実存主義作家アルベール・カミュによって出版され、大きな反響を呼びました。
- 3) ヴェイユは1930年代から40年代にかけて近代社会と戦う闘争的な文筆と活動に向かった女性の哲学者です。極左の政治サークルに属し、労働者の実態を知るために工場で働き、スペイン内戦では共和政側の義勇兵に志願し銃を持って前線に立ちました。1939年に第二次世界大戦が始まりナチスの軍勢がフランスを占領しだすと、ユダヤ系の彼女は逃避を余儀なくされますが、フランス国民との連帯を欲してロンドンの臨時フランス政権 (いわゆるフランス・レジスタンスの本部) の近くに住み、本土に向け女性だけのパラシュート部隊の編成を提言したほどです。しかし当時のフランス国民の厳しい食糧事情に合わせての節食がたまって病に沈み、34歳の若さで客死しました。
- 4) 今回読むテキストは彼女の最晩年の思索の跡です。あらゆるイデオロギーに絶望した後に到達した思想の境地、すなわち彼女独自のキリスト教神秘思想が断章で綴られています。
- 5) 「重力」とは人とその世の避けがたい欠点のこと、「恩寵」とはそこに差し込むわずかな希望の光のことです。
- 6) ヴェイユのフランス語は美しく、かつ難しくはありませんが、じっくり考えるのが好きな人、丁寧にフランス語を勉強したい人に最適の授業です。1年生のときのフランス語の成績がA以上であることが望ましいです。
- 7) 冒頭の文章を引用しておきます。選択の目安にしてください。  
"Tous les mouvements naturels de l'âme sont régis par des lois analogues à celles de la pesanteur matérielle. La grâce seule fait exception."

▶この二つの文章はそれぞれ構文が異なります。能動態か受動態か。主語は何か。cellesはどの単語を受けているのか。自分の実力をチェックしてみてください。

### 【到達目標】

- 1) 1年生のときに学んだ文法の知識から出発して、フランス語の基本的な文章をしっかりと読めるようにしていきます。
- 2) イエス・キリストの時代から続くキリスト教神秘思想の歴史を理解します。
- 3) 哲学的なテーマ (実存、神、悪、偶然性など) について学んで哲学への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

- 1) 教室での対面授業を基本にします。初回は2024年4月8日月曜日4時限です。
- 2) 1回にテキストの1～2頁を読みます。しっかり予習してきてください。
- 3) 全員が訳読を発表します。
- 4) キリスト教思想および哲学の基本テーマに関して、授業内で調べてきたことを発表します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容                                |
|------|----------|-----------------------------------|
| 第1回  | 授業の紹介。   | 授業の進め方およびシモーヌ・ヴェイユ、テキストについて紹介します。 |
| 第2回  | 『重力と恩寵』① | 教科書18頁                            |
| 第3回  | 『重力と恩寵』② | 教科書19頁                            |
| 第4回  | 『重力と恩寵』③ | 教科書20頁                            |
| 第5回  | 『重力と恩寵』④ | 教科書21-22頁                         |
| 第6回  | 『重力と恩寵』⑤ | 教科書23-24頁                         |
| 第7回  | 『重力と恩寵』⑥ | 教科書25-26頁                         |
| 第8回  | 『重力と恩寵』⑦ | 教科書27-28頁                         |
| 第9回  | 『重力と恩寵』⑧ | 教科書29-30頁                         |
| 第10回 | 『重力と恩寵』⑨ | 教科書31-32頁                         |
| 第11回 | 『重力と恩寵』⑩ | 教科書33-34頁                         |
| 第12回 | 『重力と恩寵』⑪ | 教科書35-36頁                         |
| 第13回 | 『重力と恩寵』⑫ | 教科書36-37頁                         |
| 第14回 | 期末試験     | まとめの総合問題 (筆記試験)。                  |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、下読み、復習等、あわせて2時間以上を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業内にコピーにて配布します。

### 【参考書】

- 1) シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』田辺保訳、ちくま学芸文庫、1995年。
- 2) シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』富原真弓訳、岩波文庫、2017年。
- 3) シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』渡辺義愛訳、春秋社、2020年。
- 4) シモーヌ・ヴェイユ『シモーヌ・ヴェイユ アンソロジー』今村純子訳、河出文庫、2018年。
- 5) ミクロス・ヴェトー『シモーヌ・ヴェイユの哲学—その形而上学的転回』今村純子訳、慶應義塾大学出版会、2006年。
- 6) シモーヌ・ペトルマン『評伝シモーヌ・ヴェイユ1および2』杉山毅訳、勁草書房、2002年。
- 7) 酒井健『聖なるコミュニケーション—ヴェイユとバタイユの場合』、酒井健『バタイユ 聖性の探求者』人文書院、2001年。
- 8) 酒井健『根源からの思索—ブランシヨのヴェイユ論』、酒井健『バタイユ 聖性の探求者』人文書院、2001年。

### 【成績評価の方法と基準】

- 1) 【到達目標】の上記3点を成績評価の基準にします。
- 2) 毎回の授業での訳読 (30%)、授業内での発表 (30%)、期末のテスト (40%) を総合して全体の成績を出します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし (今年度新設科目)。

### 【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書 (紙媒体でも電子媒体でも可。『ディコ (Dico)』(白水社) を推奨)

### 【Outline (in English)】

0) This is a new class starting this year.

- 1) Read French philosophical literature.
- 2) This year, we will read Simone Weil's (1909-1943) posthumous manuscript collection "Gravity and Grace" in its original French.
- 3) Then your study time will be more than two hours for a class.
- 4) Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (40%) and in-class contribution (60%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

## 人間学2 (徳と倫理) A

内山 真莉子

授業コード：A2340 | 曜日・時限：金5/Fri.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。春学期は其中でも古代・中世に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていく。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

### 【到達目標】

- ・古代・中世における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容       |
|------|---------------|----------|
| 第1回  | 授業の進め方と導入     | 倫理学とは    |
| 第2回  | ソクラテスとプラトン①   | 徳と知      |
| 第3回  | ソクラテスとプラトン②   | 善とイデア    |
| 第4回  | アリストテレス①      | 徳と善と幸福   |
| 第5回  | アリストテレス②      | 善と社会     |
| 第6回  | エピクロス         | 快と幸福     |
| 第7回  | ストア派          | 自然本性と懐疑  |
| 第8回  | アウグスティヌス①     | 善く生きること  |
| 第9回  | アウグスティヌス②     | 罪と自由 (1) |
| 第10回 | ボエティウス・アンセルムス | 罪と自由 (2) |
| 第11回 | トマス・アクィナス①    | 知性と徳と神   |
| 第12回 | トマス・アクィナス②    | 善と幸福     |
| 第13回 | ウィリアム・オッカム    | 理性と信仰    |
| 第14回 | 倫理学的考察の実践     | 授業内試験と解説 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。  
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

### 【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。  
『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編、ミネルヴァ書房、1996年。  
その他、授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concepts to focus on are "virtue" and "goodness."

#### 【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought in ancient and medieval times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections. You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

#### 【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%. Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

## 人間学2 (徳と倫理) B

内山 真莉子

授業コード：A2341 | 曜日・時限：金5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。

西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。秋学期は中でも近世～現代に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていくのだが、とりわけ「徳倫理学」について重点的に扱う。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

## 【到達目標】

- ・近世～現代における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容              |
|------|------------------|-----------------|
| 第1回  | 授業の進め方と導入        | 徳倫理学とは (1)<br>① |
| 第2回  | 導入②              | 徳倫理学とは (2)      |
| 第3回  | ルターと信仰           | 自由意志と奴隷的意志      |
| 第4回  | ヒュームと徳①          | 人間本性と徳          |
| 第5回  | ヒュームと徳②          | 道徳原理とは          |
| 第6回  | 義務倫理             | カントの「自律」        |
| 第7回  | 功利主義             | 幸福と利益           |
| 第8回  | アンスコムと徳①         | 道徳哲学の有益性について    |
| 第9回  | アンスコムと徳②         | 行為と意図           |
| 第10回 | マッキンタイアと徳<br>①   | 倫理思想の歴史         |
| 第11回 | マッキンタイアと徳<br>②   | 共同体と倫理          |
| 第12回 | 徳倫理学と現代の諸<br>問題① | 生命倫理について        |
| 第13回 | 徳倫理学と現代の諸<br>問題② | 環境倫理について        |
| 第14回 | 倫理的考察の実践         | 授業内試験と解説        |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。  
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

## 【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。  
ダニエル・C・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』立花幸司監訳、春秋社、2015年。  
その他、授業内で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concept to focus on is virtue ethics.

## 【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought from early modern to modern times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.  
You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

LIT100BC (文学 / Literature 100)

## 日本文芸学概論A

遠藤 星希

### 昼間時間帯

授業コード：A2401 | 曜日・時限：土2/Sat.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

### 【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★春学期は、6名の教員が担当します。

★各回、学習支援システムの「課題」欄から、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してもらいます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容                  |
|----|-------|---------------------|
| 1  | ガイダンス | 遠藤星希「ガイダンス」         |
| 2  | 近現代文学 | 中沢けい「アジアの中の日本現代文学」  |
| 3  | 近現代文学 | 中沢けい「活版印刷からデジタル技術へ」 |
| 4  | 近現代文学 | 田中和生「近代批評——批評とはなにか」 |
| 5  | 近現代文学 | 田中和生「現代批評——現代文学の条件」 |
| 6  | 近現代文学 | 藤村耕治「作品論の実践」        |
| 7  | 近現代文学 | 藤村耕治「研究と批評」         |
| 8  | 近現代文学 | 中丸宣明「近代文学の形成（1）」    |
| 9  | 近現代文学 | 中丸宣明「近代文学の形成（2）」    |
| 10 | 能楽    | 伊海孝充「能が描く空間（1）」     |
| 11 | 能楽    | 伊海孝充「能が描く空間（2）」     |
| 12 | 中古文学  | 阿部真弓「日記文学の魅力」       |
| 13 | 中古文学  | 阿部真弓「本歌取り・物語取りの面白さ」 |
| 14 | まとめ   | 遠藤星希「春学期のまとめ」       |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の各回の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムの「課題」欄から、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

### 【参考書】

随時、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

6名の教員が、それぞれ、毎回の授業で課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出を求めます。定められた期限内に提出してください。

1. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出状況（20%）
2. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の出来（80%）

### 【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

**Learning Objectives:** The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIT100BC (文学 / Literature 100)

## 日本文学概論A

遠藤 星希

## 夜間時間帯

授業コード：A2402 | 曜日・時限：水6/Wed.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

## 【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★春学期は、6名の教員が担当します。

★各回、学習支援システムの「課題」欄から、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してもらいます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容                  |
|----|-------|---------------------|
| 1  | ガイダンス | 遠藤星希「ガイダンス」         |
| 2  | 近現代文学 | 中沢けい「アジアの中の日本現代文学」  |
| 3  | 近現代文学 | 中沢けい「活版印刷からデジタル技術へ」 |
| 4  | 近現代文学 | 田中和生「近代批評——批評とはなにか」 |
| 5  | 近現代文学 | 田中和生「現代批評——現代文学の条件」 |
| 6  | 近現代文学 | 藤村耕治「作品論の実践」        |
| 7  | 近現代文学 | 藤村耕治「研究と批評」         |
| 8  | 近現代文学 | 中丸宣明「近代文学の形成（1）」    |
| 9  | 近現代文学 | 中丸宣明「近代文学の形成（2）」    |
| 10 | 能楽    | 伊海孝充「能が描く空間（1）」     |
| 11 | 能楽    | 伊海孝充「能が描く空間（2）」     |
| 12 | 中古文学  | 阿部真弓「日記文学の魅力」       |
| 13 | 中古文学  | 阿部真弓「本歌取り・物語取りの面白さ」 |
| 14 | まとめ   | 遠藤星希「春学期のまとめ」       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の各回の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムの「課題」欄から、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

## 【参考書】

随時、紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

6名の教員が、それぞれ、毎回の授業で課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出を求めます。定められた期限内に提出してください。

1. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出状況（20%）
2. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の出来（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

**Learning Objectives:** The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

## 日本文芸学概論B

遠藤 星希

### 昼間時間帯

授業コード：A2403 | 曜日・時限：土2/Sat.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

### 【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★秋学期は、7名の教員が担当します。

★各回、学習支援システムの「課題」欄から、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してもらいます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容                      |
|----|-------|-------------------------|
| 1  | 対照言語学 | 王安「外国語から日本語を考える（1）」     |
| 2  | 対照言語学 | 王安「外国語から日本語を考える（2）」     |
| 3  | 中古文学  | 加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（1）」       |
| 4  | 中古文学  | 加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（2）」       |
| 5  | 中世文学  | 小秋元段「大学で学ぶ古典文学—『平家物語』—」 |
| 6  | 中世文学  | 小秋元段「古典文学の常識を疑う—『徒然草』—」 |
| 7  | 中国文学  | 遠藤星希「李白「静夜思」を読む」        |
| 8  | 中国文学  | 遠藤星希「白居易「長恨歌」を読む」       |
| 9  | 日本音楽史 | S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器（1）」   |
| 10 | 日本音楽史 | S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器（2）」   |
| 11 | 上代文学  | 坂本勝「上代文学の世界（1）」         |
| 12 | 上代文学  | 坂本勝「上代文学の世界（2）」         |
| 13 | 近現代文学 | 佐藤未央子「近代文学と映画の交流」       |
| 14 | まとめ   | 遠藤星希「秋学期のまとめ」           |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の各回の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムの「課題」欄から、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

### 【参考書】

随時、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

7名の教員が、それぞれ、毎回の授業で課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出を求めます。定められた期限内に提出してください。

1. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出状況（20%）
2. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の出来（80%）

### 【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

**Learning Objectives:** The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

## 日本文芸学概論B

遠藤 星希

夜間時間帯

授業コード：A2404 | 曜日・時限：水6/Wed.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

## 【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★秋学期は、7名の教員が担当します。

★各回、学習支援システムの「課題」欄から、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してもらいます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容                      |
|----|-------|-------------------------|
| 1  | 対照言語学 | 王安「外国語から日本語を考える（1）」     |
| 2  | 対照言語学 | 王安「外国語から日本語を考える（2）」     |
| 3  | 中古文学  | 加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（1）」       |
| 4  | 中古文学  | 加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（2）」       |
| 5  | 中世文学  | 小秋元段「大学で学ぶ古典文学—『平家物語』—」 |
| 6  | 中世文学  | 小秋元段「古典文学の常識を疑う—『徒然草』—」 |
| 7  | 中国文学  | 遠藤星希「李白「静夜思」を読む」        |
| 8  | 中国文学  | 遠藤星希「白居易「長恨歌」を読む」       |
| 9  | 日本音楽史 | S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器（1）」   |
| 10 | 日本音楽史 | S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器（2）」   |
| 11 | 上代文学  | 坂本勝「上代文学の世界（1）」         |
| 12 | 上代文学  | 坂本勝「上代文学の世界（2）」         |
| 13 | 近現代文学 | 佐藤未央子「近代文学と映画の交流」       |
| 14 | まとめ   | 遠藤星希「秋学期のまとめ」           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の各回の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムの「課題」欄から、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

## 【参考書】

随時、紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

7名の教員が、それぞれ、毎回の授業で課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出を求めます。定められた期限内に提出してください。

1. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出状況（20%）
2. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の出来（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

**Learning Objectives:** The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).



LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学史 I A

坂本 勝

### 昼間時間帯

授業コード：A2405 | 曜日・時限：水2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。

### 【到達目標】

(A) 古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。(B) 古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。(C) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。リアクションペーパーや課題に対するフィードバックは授業中に適宜行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                    |
|------|-------------------|-----------------------|
| 第1回  | 概説                | 授業概説                  |
| 第2回  | 『古事記』             | 文学史における『古事記』の意義を学ぶ。   |
| 第3回  | 『日本書紀』            | 文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。  |
| 第4回  | 『萬葉集』             | 文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。   |
| 第5回  | 『竹取物語』            | 文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。  |
| 第6回  | 『古今和歌集』           | 文学史における『古今和歌集』の意義を学ぶ。 |
| 第7回  | 『土左日記』            | 文学史における『土左日記』の意義を学ぶ。  |
| 第8回  | 『蜻蛉日記』            | 文学史における『蜻蛉日記』の意義を学ぶ。  |
| 第9回  | 『伊勢物語』            | 文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。  |
| 第10回 | 『源氏物語』            | 文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。  |
| 第11回 | 『更級日記』            | 文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。  |
| 第12回 | 『枕草子』             | 文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。   |
| 第13回 | 『大鏡』              | 文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。    |
| 第14回 | 春学期総括、レポート試験、まとめ。 | 春学期の学習理解度を確認する。       |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

国語教育プロジェクト『ビジュアル資料 原色シグマ新国語便覧 増補三訂版』（文英堂）

### 【参考書】

授業時に提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60%）、各回のリアクションペーパーなど、授業への参加度（40%）により、評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

個々の作品について理解することだけでなく、文学史全体を視野に入れて理解することの重要性。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This is a lecture course on the history of Japanese literature from the Nara period (710-794) to the Heian period (794-1185). Students will read histories, poetry anthologies, diaries, and stories of these periods, and learn various research methods for approaching classical literature.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are: 1. to learn about the formation, structure, expression, and background of classical literature; 2. to learn about perspectives and methods for researching classical literature; and 3. to understand classical literature in its historical and cultural context.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are expected to read the listed textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Evaluation will be based on a report exam (60%) and participation in class (40%), including reaction papers for each session.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸史 I A

加藤 昌嘉

## 夜間時間帯

授業コード：A2406 | 曜日・時限：火6/Tue.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆上代・中古・中世（奈良～平安～鎌倉時代）に成った、歌集や日記や物語を読み、文学の多様なありようを俯瞰します。同時に、今も議論が続き、定説が更新されつつある、『研究上の論争点・未解決問題』を考察してゆきます。

※「日本文芸史 I A・B」は、日文学科2～3年次、全コースの“必修科目”です。火曜6限（加藤&伊海）クラスか、水曜2限（坂本&阿部）クラス、いずれかを選んで受講してください。

## 【到達目標】

◆以下の3点を目標とします。

- (A) 古典文学の作られ方、組み立て、表現などを学ぶ。
- (B) 古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。
- (C) 古典文学を、歴史の流れの中で捉える目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

◆プリントを配布し、講義形式で進めます。

◆受講者からの疑問やアイディアは、授業内でフィードバック（フォローアップ）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ             | 内容           |
|----|-----------------|--------------|
| 1  | 概説              | 定説はアップデートされる |
| 2  | 『竹取物語』          | 複数種類の竹取説話    |
| 3  | 『伊勢物語』          | 和歌から物語を作る    |
| 4  | 『古今和歌集』         | 配列とレトリック     |
| 5  | ブックデザイン         | 写本・版本の形      |
| 6  | 『源氏物語』          | フィクションの技法    |
| 7  | 『紫式部日記』『紫式部集』   | 女の悪口、女どうしの友愛 |
| 8  | 『蜻蛉日記』『更級日記』    | 夢と輪廻転生       |
| 9  | 『枕草子』           | 類聚と回想        |
| 10 | 『大鏡』『栄花物語』      | 天皇・貴族の、裏話    |
| 11 | 『日本霊異記』         | 生まれ変わりと愛欲    |
| 12 | 『今昔物語集』『宇治拾遺物語』 | 不思議な話、滑稽な話   |
| 13 | 『新古今和歌集』        | 前衛的な言語実験     |
| 14 | 『百人秀歌』『百人一首』    | 藤原定家が編纂した？   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆授業内で取り上げられた本を、図書館や書店で手に取り、（部分的でもよいので）読んでみることを。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

◆以下の国語便覧を教科書とします。歴史や文化を知るためのビジュアルハンドブックです。高校で教えられている内容が、最新の研究成果とどれくらい違うのか、この本で確認します。

◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧 改訂版』（数研出版）

## 【参考書】

◆以下のシリーズには、授業で取り挙げる作品の、原文+現代語訳+注釈が収められています。

◎角川ソフィア文庫（KADOKAWA）

◎講談社学術文庫（講談社）

◎ちくま学芸文庫（筑摩書房）

◎岩波文庫【黄帯】（岩波書店）

◎笠間文庫（笠間書院）

◎新編日本古典文学全集（小学館）

◎新潮日本古典集成（新潮社）

◎新日本古典文学大系（岩波書店）

◆以下のシリーズには、小説家や詩人による、古典文学の現代語訳が収められています。

◎古典新訳コレクション（河出文庫）

◆以下のデータベースで、新編日本古典文学全集（小学館）全巻を読むことができます。

◎法政大学図書館ホームページ「オンラインデータベース」→自宅の場合はVPN接続→ログイン→「ジャパンナレッジLib」を選び、ログイン→「本棚」の中の「新編日本古典文学全集」

## 【成績評価の方法と基準】

◆期末レポート（72%）、各回のリアクションペーパー（28%）。

※期末レポートは、複数の課題の中から1つを選択し、2000字～3000字程度の小論文を書くものです。

※毎回、リアクションペーパーに、疑問・アイディア・創作文などを書いて、提出してもらいます。

## 【学生の意見等からの気づき】

◆文学コースの受講者だけでなく言語コースや文芸コースの受講者にも有益な考え方や調べ方を紹介してゆきます。

◆日本の古典だけでなく現代の文学や海外の文学も積極的に取り挙げます。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course provides an overview of the varieties of literature by reading poetry anthologies, diaries, and stories produced during the Nara (8th century), Heian (8th-12th centuries), and Kamakura (12th-14th centuries) periods. At the same time, we will examine "unresolved issues in the history of research" that are still being debated and the theories that are still being updated.

**Learning Objectives:** The goals of the course are the following three points:

- To understand the formation, composition, expression, etc. of classical literature.
- To understand the viewpoints and methods for studying classical literature.
- To learn to view classical literature in the context of historical trends.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on a final report (72%), and reaction papers for each session (28%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸史 I B

阿部 真弓

### 昼間時間帯

授業コード：A2407 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世（院政期～戦国時代）～近世（桃山時代～江戸時代）の文学史を考察します。

時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、芸能も含むさまざまなジャンルの特徴、その主要な作品について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のざわりを読解してゆきます。

### 【到達目標】

- (A) 古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
- (B) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ   | 内容          |
|------|-------|-------------|
| 第1回  | ガイダンス | 授業概要の説明     |
| 第2回  | 中世1   | 和歌・連歌       |
| 第3回  | 中世2   | 説話          |
| 第4回  | 中世3   | 日記文学・紀行文    |
| 第5回  | 中世4   | 随筆          |
| 第6回  | 中世5   | 軍記物語        |
| 第7回  | 中世6   | 中世王朝物語・お伽草子 |
| 第8回  | 近世1   | 和歌・狂歌       |
| 第9回  | 近世2   | 俳諧          |
| 第10回 | 近世3   | 仮名草子        |
| 第11回 | 近世4   | 浮世草子        |
| 第12回 | 近世5   | 近世中期の小説     |
| 第13回 | 近世6   | 近世後期的小説     |
| 第14回 | 近世7   | 演劇          |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を覚えているうちに復習して課題に取り組み、次の授業およびレポート執筆に備えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

各回、資料を配付します。

### 【参考書】

作品・ジャンルごとに、授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（35%）、学期末レポート（35%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】(A)(B)に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

### 【学生の意見等からの気づき】

中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないように内容を厳選して構成し、理解を確認しながら進めるようにします。

文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることは不可欠だからです。前向きに履修しましょう。

受講生からの質問をできるだけ取り上げ、疑問点を解消できるように努めます。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course deals with the history of Japanese literature from medieval (late12th-16th c.) to early modern (17th-early 19th c.) times.

**Learning Objectives:** The goals of this course are to understand Japanese classical literary works in their historical and cultural context.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term report (35%); Term-end report: (35%); Short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸史 I B

伊海 孝充

## 夜間時間帯

授業コード：A2408 | 曜日・時限：火6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆秋学期は中世（院政期～室町時代）と近世（安土桃山時代～江戸時代）の文学史・芸能史を学ぶ。

◆芸能史の展開を辿ることを中心としながら、主要な文学作品についても解説していく。

## 【到達目標】

◆古典文学・古典芸能の特色・表現を知る。

◆古典文学・古典芸能の歴史的展開を知り、日本文化の大枠を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は対面で行うが、状況見てオンラインも用いる。基本的に講義形式で進め、適宜発言を求める。質問と意見はリアクションペーパーで募る。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容             |
|------|-------------|----------------|
| 第1回  | 中世・近世の文学と芸能 | 概説             |
| 第2回  | 古代から中世      | 『平家物語』等        |
| 第3回  | 平家（平家語り）    | 『徒然草』・『無名抄』等   |
| 第4回  | 猿楽          | 『宇治拾遺物語』等      |
| 第5回  | 田楽          | 『太平記』等         |
| 第6回  | 連歌          | 「座」の文芸略史       |
| 第7回  | 能・狂言        | 『風姿花伝』等        |
| 第8回  | 古今伝授        | 中世和歌略史         |
| 第9回  | 幸若舞曲        | 『信長公記』・奈良絵本等   |
| 第10回 | 風流踊         | 芸能を描く絵画        |
| 第11回 | 人形浄瑠璃       | 「曾根崎心中」等       |
| 第12回 | 歌舞伎         | 狂言と役者          |
| 第13回 | 舌耕芸能        | 『醒睡笑』等         |
| 第14回 | まとめ         | 中近世の文学史・芸能史の流れ |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。中世・近世の文芸は14回で取まりきれないほどの多様性がある。授業で紹介する参考文献をもとに、自身で興味を広げる研究をしてほしい。

## 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧』（数研出版）

## 【参考書】

ジャンルごとに授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

◆期末レポート(70%)、各回のリアクションペーパー(30%)。

## 【学生の意見等からの気づき】

教室・ハイフレックス・完全オンラインの授業形態に併せて、動画・スライドの見え方を工夫する。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the history of literature and performing arts in the medieval and early modern periods.**Learning Objectives:** The goals of this course are to acquire an overview of classical literature and the classical performing arts.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students will be expected to use this class as an opportunity to expand their own interests. Your study time will be more than four hours for a class.**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on assignments (80%), and reaction papers (20%).

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

## 日本語学概論A

尾谷 昌則

### 昼間時間帯

授業コード：A2409 | 曜日・時限：水2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本語に関する諸問題を取り上げ、それらの問題において押さえておくべき基礎的な知識を学ぶとともに、その問題に対してどのように向き合い、どのように解決すべきかを考える。具体的には、敬語、方言、比喩、ことばの変化、新語、若者言葉、コミュニケーションにおける言語の役割などを取り上げる。

### 【到達目標】

この授業では、(1) 日本語学に関する知識を幅広く修得することと、(2) 応用のきく考える力を養うことを到達目的とします。また、日本語を様々な角度から観察し、客観的に分析する方法を学ぶことにより、(3) 日本語学への理解を深め、その魅力を知ることも到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業はスライドを用いて、講義形式で進めます。プリントも配布しますが、最低限のこののみ記載したものであり、受講者が授業を聴きながらメモをとることで完成するプリントです。

リアクションペーパーに「質問・コメント・感想等」を書いてもらいます。良い指摘があれば、次回の授業でそれを紹介し、皆さんにフィードバックします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                        |
|------|------------------|---------------------------|
| 第1回  | 日本語の特徴           | 外国人から見た日本語の特徴について         |
| 第2回  | ことばの役割           | カテゴリー化と存在化について            |
| 第3回  | ことばの多様性          | 地域方言や世代方言について             |
| 第4回  | ことばのイメージ         | 方言のイメージや、ことばとアイデンティティについて |
| 第5回  | ことばの変化(2)        | ことばの変化と誤用について             |
| 第6回  | ことばの変化(2)        | 新語、若者ことばについて              |
| 第7回  | ことばの変化(3)        | ことばの意味の変化について（=意味論入門）     |
| 第8回  | ことばとコミュニケーション(1) | 敬語や待遇表現について               |
| 第9回  | ことばとコミュニケーション(2) | ポライトネス理論                  |
| 第10回 | ことばとコミュニケーション(3) | 語用論入門                     |
| 第11回 | ことばと創造性(1)       | 比喩について                    |
| 第12回 | ことばと創造性(2)       | 文学作品を文法的に味わう              |
| 第13回 | ことばと創造性(3)       | 再び、新語や若者ことばについて           |
| 第14回 | まとめ              | 定期試験の説明と注意事項              |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システム(Hoppi)で毎回配付されるプリントや参考書を事前に読み、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

自作のプリントを毎回配付します。

### 【参考書】

『新こころはじまる日本語学』（伊坂淳一著、2016年、ひつじ書房）  
『ことばの科学 — 学びのエクササイズ』（加藤重広著、2007年、ひつじ書房）  
『日本語学のしくみ』（加藤重広著、2001年、ひつじ書房）

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (40%), term-end exam (60%).

リアクションペーパー：40%

期末試験：60%

### 【学生の意見等からの気づき】

考えながら学べるのが楽しいというコメントをもらいましたので、なるべく皆さんに考えてもらう機会を増やしたいと思います。また、動画や画像などのメディア教材についても好感色を示すコメントが多いことから、それらもなるべく多く取り扱うようにしますが、例年の学生を見てみると、そちらの印象しか残らない（=本当に身につけてほしい知識が記憶に残らない）場合が散見されますので、バランスを考えながら授業を構成します。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, we will address various issues related to Japanese, learn the basic knowledge that should be understood in these issues, and consider how to confront and resolve these issues. Specifically, we will cover honorifics, dialects, metaphors, language change, neologisms, teen slangs, and the role of language in communication.

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

## 日本語学概論A

古牧 久典

## 夜間時間帯

授業コード：A2410 | 曜日・時限：火6/Tue.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

## 【到達目標】

- ・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
- ・多角的な視点からことばを観察することができる。
- ・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに関連する現象について、事例を収集・整理する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容          |
|------|--------------------|-------------|
| 第1回  | ガイダンス              | 「日本語学概論」の概要 |
| 第2回  | ことばの常識を疑う          | 言語についての常識   |
| 第3回  | 「言語」とは？            | 言語・ことばの本質   |
| 第4回  | 従来の言語学とは？          | 比較・歴史言語学    |
| 第5回  | 言語の科学とは？           | 共時・汎時言語学    |
| 第6回  | ことばが異なれば思考も違うのか？   | 人類言語学       |
| 第7回  | 心とことばの関係は？         | 心理言語学       |
| 第8回  | ことばはどう習得される(する)のか？ | 言語習得論       |
| 第9回  | 社会とことばの関係は？        | 社会言語学       |
| 第10回 | 「方言」とは？            | 地域方言学       |
| 第11回 | ことばの世代差とは？         | 年齢差の社会方言学   |
| 第12回 | ことばのジェンダーとは？       | ジェンダーの社会方言学 |
| 第13回 | 対人関係を築くことばの違いとは？   | ポライトネス理論    |
| 第14回 | まとめ                | 全体総括        |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業は事前の予備知識は必要としないが、ことばに日頃から興味を持つ姿勢を身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。毎回簡単な課題が出るので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、(質問も歓迎するが)図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

配布資料

## 【参考書】

加藤 重広 著 『ことばの科学 (学びのエクササイズ)』(ひつじ書房)  
 斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』(三省堂)  
 その他、講義内で適時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題 (70%)、期末レポート (30%)  
 (ただし、提出物の遅延提出や未提出があった場合には、合格評価とはならない。)

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

## 【その他の重要事項】

質問がある場合には、授業終了後に受け付ける。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields, such as the areas of approaches to language as a sign system (general linguistics), the study of the historical relationships of languages (comparative linguistics), anthropology of language (ethnolinguistics), psychology of language (psycholinguistics), and sociology of language (sociolinguistics).

**Learning Objectives:** The goals of this course are to introduce students to different perspectives on language issues.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports (70%); term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

## 日本語学概論B

尾谷 昌則

### 昼間時間帯

授業コード：A2411 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

We will survey some major linguistic areas such as syntax, semantics, and pragmatics.

言語学には様々な領域があるが、本講義では主要な領域となる音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論といった分野を概観する。

### 【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the basic terms of each area, and (2) to acquire the ability to explain them with proper examples to other people.

①言語学の各領域における基礎概念・用語を理解する。

②その概念について具体例を挙げながら分かりやすく説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

▼パワーポイントのスライドを用いて、様々なことばの問題・具体例を示しながら、それが言語学でどのように分析されているのかを紹介する。見解が分かれるような問題も取り上げるので、受講生にも意見を述べてもらう機会が多くなると思われる。その際は遠慮無く発言してほしい。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を併用する。その場合は、学習支援システムを通じて「お知らせ」でURLや事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼リアクションペーパー等における良いコメントは次回の授業内で紹介してフィードバックする。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ    | 内容              |
|------|--------|-----------------|
| 第1回  | 導入     | 外国語としてみた日本語     |
| 第2回  | 音韻論    | 音素、異音、音脱落、音添加など |
| 第3回  | 形態論(1) | 形態素と語構成         |
| 第4回  | 形態論(2) | 連濁と複合語の意味       |
| 第5回  | 統語論(1) | 品詞と活用           |
| 第6回  | 統語論(2) | 文の要素と文法         |
| 第7回  | 統語論(3) | 4つの文法カテゴリー      |
| 第8回  | 意味論(1) | 語彙の意味           |
| 第9回  | 意味論(2) | 品詞の意味と文法        |
| 第10回 | 意味論(3) | 意味と認知           |
| 第11回 | 語用論(1) | 意味論から語用論へ       |
| 第12回 | 語用論(2) | 会話の含意           |
| 第13回 | 語用論(3) | 敬語と待遇表現         |
| 第14回 | まとめ    | 半期の講義を総括する      |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

毎回独自のプリントを配布する。

### 【参考書】

『日本語学キーワード事典』(小池清治ほか、朝倉書店)

『言語学大辞典』(三省堂)

『日本語文法大辞典』(山口明徳・秋本守英編著、明治書院)

『日本語学研究事典』(飛田良文ほか、明治書院)

『日本語語用論のしくみ』(加藤重広、研究社)

『日本語音声学のしくみ』(猪塚元・猪塚恵美子、研究社)

『認知意味論のしくみ』(初山洋介、研究社)

『日本語文法のしくみ』(井上優、研究社)

『日本語学のしくみ』(加藤重広、研究社)

『言語学のしくみ』(町田健、研究社)

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (40%), term-end exam (60%).

リアクションペーパー：40%

期末試験：60%

### 【学生の意見等からの気づき】

具体例が多く分かりやすいとの意見が多いが、スライドの進行が早いとの苦情もあった。しかし、スライドを全て丸写しするのではなく、要領良くまとめてノートをとる練習もしてほしいので、早すぎず遅すぎずというスピード感を保てるよう注意したい。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will survey some major linguistic areas such as syntax, semantics, and pragmatics.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to understand the basic terms of each area, and (2) to acquire the ability to explain them with proper examples to other people.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (40%), term-end exam (60%).

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

## 日本語学概論B

古牧 久典

夜間時間帯

授業コード：A2412 | 曜日・時限：火6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

## 【到達目標】

- ・言語学の基礎知識を習得する。
- ・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
- ・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考える。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容              |
|------|-----------------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス           | 概要と目的、授業の方法について |
| 第2回  | 「ことば」を考えると      | ことばの学問は？        |
| 第3回  | ことばの様々な側面とは？    | 言語学の射程          |
| 第4回  | 言語学の隣接領域とは？     | 学際分野としての言語学     |
| 第5回  | コミュニケーションとは？    | 語用論・コミュニケーション論  |
| 第6回  | ことばの意味とは？       | 意味論             |
| 第7回  | ことばの比喩とは？       | レトリック論          |
| 第8回  | 文法とは？           | 文法論             |
| 第9回  | 文の構造とは？         | 統語論             |
| 第10回 | 単語とは？           | 形態論             |
| 第11回 | 言語音には何種類あるのか？   | 音声学             |
| 第12回 | 同じ発音とは？ 違う発音とは？ | 音韻論             |
| 第13回 | ことばの相同性をどう考えるか？ | 言語類型論           |
| 第14回 | まとめ             | 全体総括            |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で登場する用語・概念について、正確な定義と的確な具体例を提示できるかを確認するための課題が毎回出る。その課題に取り組む中で、疑問が生じた場合には、(質問も歓迎するが) 図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

配布資料

## 【参考書】

黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』 (講談社現代新書)

斎藤 純男 著 『言語学入門』 (三省堂)

斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』 (三省堂) その他、講義内で適時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題 (70%)、期末レポート (30%) (ただし、提出物の遅延提出や未提出があった場合には、合格評価とはならない。)

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

## 【その他の重要事項】

同科目Aを履修済みであることが望ましい。(必須ではない。)

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics).

**Learning Objectives:** At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports (70%); Term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)



BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

伊海 孝充

授業コード：A2413 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学では、「自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力」が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ (フィードバック) は、授業内および学習支援システム内で行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                                |
|----|--------|-----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                              |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                           |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                           |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む (見出しを付ける)                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む (要約)                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む (疑問点を挙げる)                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                          |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                            |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方 (盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる) |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く (根拠を挙げる)                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                      |
| 12 | 発展編②   | 章立て (目次) を検討する                    |
| 13 | 発展編③   | レポート完成/相互採点                       |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                         |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版 (下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加 (課題提出も含む) : 60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来 : 40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

佐藤 未央子

授業コード：A2414 | 曜日・時限：月3/Mon.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                               |
|----|--------|----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                             |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                          |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                          |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む(見出しを付ける)                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む(要約)                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む(疑問点を挙げる)                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                         |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                           |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方(盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる) |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く(根拠を挙げる)                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                     |
| 12 | 発展編②   | 章立て(目次)を検討する                     |
| 13 | 発展編③   | レポート完成/相互採点                      |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                        |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加(課題提出も含む)：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

坂本 勝

授業コード：A2415 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学では、「自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力」が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ (フィードバック) は、授業内および学習支援システム内で行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                                |
|----|--------|-----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                              |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                           |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                           |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む (見出しを付ける)                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む (要約)                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む (疑問点を挙げる)                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                          |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                            |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方 (盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる) |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く (根拠を挙げる)                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                      |
| 12 | 発展編②   | 章立て (目次) を検討する                    |
| 13 | 発展編③   | レポート完成 / 相互採点                     |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                         |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版 (下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加 (課題提出も含む) : 60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来 : 40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

## 大学での国語力

### 中丸 宣明

授業コード：A2416 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、「自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力」が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

#### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                               |
|----|--------|----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                             |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                          |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                          |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む（見出しを付ける）                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む（要約）                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む（疑問点を挙げる）                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                         |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                           |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる） |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く（根拠を挙げる）                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                     |
| 12 | 発展編②   | 章立て（目次）を検討する                     |
| 13 | 発展編③   | レポート完成／相互採点                      |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                        |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

#### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

#### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

#### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

藤村 耕治

授業コード：A2417 | 曜日・時限：月3/Mon.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ (フィードバック) は、授業内および学習支援システム内で行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                                |
|----|--------|-----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                              |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                           |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                           |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む (見出しを付ける)                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む (要約)                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む (疑問点を挙げる)                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                          |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                            |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方 (盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる) |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く (根拠を挙げる)                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                      |
| 12 | 発展編②   | 章立て (目次) を検討する                    |
| 13 | 発展編③   | レポート完成 / 相互採点                     |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                         |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版 (下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加 (課題提出も含む) : 60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来 : 40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

遠藤 星希

授業コード：A2418 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を探す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                               |
|----|--------|----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                             |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                          |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                          |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む（見出しを付ける）                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む（要約）                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む（疑問点を挙げる）                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                         |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                           |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる） |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く（根拠を挙げる）                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                     |
| 12 | 発展編②   | 章立て（目次）を検討する                     |
| 13 | 発展編③   | レポート完成／相互採点                      |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                        |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

田中 和生

授業コード：A2419 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学では、「自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力」が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ (フィードバック) は、授業内および学習支援システム内で行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                                |
|----|--------|-----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                              |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                           |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                           |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む (見出しを付ける)                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む (要約)                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む (疑問点を挙げる)                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                          |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                            |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方 (盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる) |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く (根拠を挙げる)                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                      |
| 12 | 発展編②   | 章立て (目次) を検討する                    |
| 13 | 発展編③   | レポート完成 / 相互採点                     |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                         |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版 (下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加 (課題提出も含む) : 60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来 : 40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

加藤 昌嘉

授業コード：A2420 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学では、「自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力」が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を探す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                               |
|----|--------|----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                             |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                          |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                          |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む(見出しを付ける)                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む(要約)                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む(疑問点を挙げる)                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                         |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                           |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方(盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる) |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く(根拠を挙げる)                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                     |
| 12 | 発展編②   | 章立て(目次)を検討する                     |
| 13 | 発展編③   | レポート完成/相互採点                      |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                        |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加(課題提出も含む)：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).



BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

### 阿部 真弓

授業コード：A2421 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

#### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を探す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ (フィードバック) は、授業内および学習支援システム内で行います。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                                |
|----|--------|-----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                              |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                           |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                           |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む (見出しを付ける)                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む (要約)                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む (疑問点を挙げる)                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                          |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                            |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方 (盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる) |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く (根拠を挙げる)                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                      |
| 12 | 発展編②   | 章立て (目次) を検討する                    |
| 13 | 発展編③   | レポート完成/相互採点                       |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                         |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

#### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版 (下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

#### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加 (課題提出も含む) : 60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来 : 40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

#### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

佐藤 未央子

授業コード：A2422 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を探す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                               |
|----|--------|----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                             |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                          |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                          |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む(見出しを付ける)                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む(要約)                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む(疑問点を挙げる)                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                         |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                           |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方(盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる) |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く(根拠を挙げる)                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                     |
| 12 | 発展編②   | 章立て(目次)を検討する                     |
| 13 | 発展編③   | レポート完成/相互採点                      |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                        |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加(課題提出も含む)：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 大学での国語力

### 中丸 宣明

授業コード：A2423 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学では、「自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力」が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

#### 【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を探す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ    | 内容                               |
|----|--------|----------------------------------|
| 1  | ガイダンス① | 自己紹介                             |
| 2  | ガイダンス② | 図書館の使い方                          |
| 3  | 導入編①   | ノートの取り方                          |
| 4  | 導入編②   | 文章を読む(見出しを付ける)                   |
| 5  | 導入編③   | 文章を読む(要約)                        |
| 6  | 導入編④   | 文章を読む(疑問点を挙げる)                   |
| 7  | 基礎編①   | レポートの書き方                         |
| 8  | 基礎編②   | 資料の探し方                           |
| 9  | 基礎編③   | 引用の仕方(盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる) |
| 10 | 基礎編④   | 文章を書く(根拠を挙げる)                    |
| 11 | 発展編①   | 「問い」と「答え」の設定                     |
| 12 | 発展編②   | 章立て(目次)を検討する                     |
| 13 | 発展編③   | レポート完成/相互採点                      |
| 14 | 発展編④   | レポートを修正する                        |

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

#### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

#### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加(課題提出も含む)：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

#### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

**文学概論A**

中丸 宣明

**昼間時間帯**

授業コード：A2425 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

19世紀20世紀の文学。日本の19世紀20世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

**【到達目標】**

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する。

To relativize the common sense and established theories of Japanese literary history, and understand the current issues of literary research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義によるが講義中に取り上げた作品・研究文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の際話題とする。See "Outline and objectives."

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ           | 内容                        |
|------|---------------|---------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション     | 一年間の講義の概要                 |
| 第2回  | 文学史の時代区分について  | 口承から写本へ                   |
| 第3回  | 文学史の時代区分について1 | 印刷から出版へ                   |
| 第4回  | 文学史の時代区分について2 | IT時代へ                     |
| 第5回  | 文学史のダイナミズム1   | 上の文学/下の文学<br>漢学・国学・洋学の展開1 |
| 第6回  | 文学史のダイナミズム2   | 上の文学/下の文学<br>漢学・国学・洋学の展開2 |
| 第7回  | 文学史のダイナミズム3   | 上の文学/下の文学<br>漢詩・和歌・俳諧の展開1 |
| 第8回  | 文学史のダイナミズム4   | 上の文学/下の文学<br>漢詩・和歌・俳諧の展開2 |
| 第9回  | 文学史のダイナミズム5   | 上の文学/下の文学<br>漢詩・和歌・俳諧の展開3 |
| 第10回 | 文学史のダイナミズム6   | 上の文学/下の文学<br>説話・物語・小説の展開1 |
| 第11回 | 文学史のダイナミズム7   | 上の文学/下の文学<br>説話・物語・小説の展開2 |
| 第12回 | 文学史のダイナミズム    | 上の文学/下の文学<br>説話・物語・小説の展開3 |
| 第13回 | 文学史のダイナミズム    | 上の文学/下の文学<br>演劇・芸能の展開1    |
| 第14回 | 文学史のダイナミズム    | 上の文学/下の文学<br>演劇・芸能の展開2    |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。なお、大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであるということを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各6時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 6hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

**【テキスト（教科書）】**

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

None. I'm a textbook.

**【参考書】**

講義中に適宜指示。

Instructions during the lecture.

**【成績評価の方法と基準】**

期末レポートないしテスト（70%）。および毎講義に提出してもらった「リアクションペーパー」の内容（30%）。「リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

Our overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (70%), term-end report (30%).

**【学生の意見等からの気づき】**

ゆっくりとわかりやすい話し方を心がけ、リアクションカードを有効活用します。

**【Outline (in English)】**

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this class is an academic lecture on Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation does.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 文学概論A

山田 稔

### 夜間時間帯

授業コード：A2426 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では「日本近代文学」の成り立ちについて、具体的な作品鑑賞をもとに考えていきます。それを柱としながら、「文学を学ぶ」とはどういうことか、また、文学研究の方法といったことも考えていきます。つまり「日本近代文学」についての認識を深めるとともに、文学鑑賞、文学研究についての認識も深めていきたいと思えます。その過程で多くの多様な作品に触れてほしいと思えます。

その中で、近代文学の成立についての認識を深めていく。

特に春学期は、近代文学の成立と「明治から大正の文学への流れ」の特質について、考えていきたい。

### 【到達目標】

日本近代における「文学」の成立とその特質を、多方面から理解し、その理解を深めること。

また、その上立って、文学研究の方法などについての認識を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「日本近代文学」とは何かを、文学史を意識して、言語についてなど、多方面からのアプローチを試み、学問として、その特質や研究方法などを意識しながら学んでいく。また実際に文学作品を取り上げながら、近代文学の成立過程から現代にいたる流れとその特質について理解を深める。その上で文学表現の可能性についても認識を深めていく。基本は講義形式であるが、出席者との対話も取り入れながら進めていくので、取り上げる作家・作品を事前に読んで授業に参加してほしい。フィードバック方法としては、書かれたものや発言などに対する授業内での講評や、よりよい先行研究や資料の例示などを行っていきます。授業後に質問を受け付けます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                                                              |
|------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 講義概要—「文学」とは何か            | 今年度の講義概要と日本近代文学の成立における「文学」とはどういうものかについて考える<br>受講希望者は必ず出席してください。 |
| 第2回  | 近代・小説とは何か—構造と語り          | 文学と小説の構造—三島由紀夫「小説とは何か」、村上春樹「鏡」を一例として                            |
| 第3回  | 日本語とはどういう言語か—近代日本語の成立と国語 | 和文の成立（紀貫之を中心として）から近代日本語の成立と国語という問題（二葉亭四迷など）を概説的に                |
| 第4回  | 文学研究とは何か—文学と社会について       | 鑑賞から研究へ—小田切秀雄と法政大学（『文学概論を中心に』）                                  |
| 第5回  | 研究の方法—鑑賞と文学史、さまざまな方法について | 作品鑑賞と作品論、作家論から文学史へ（小田切秀雄と三好行雄）、テクスト論とそれ以降の方法論の概説                |
| 第6回  | 「近代文学」の成立過程              | 日本近代に於ける文学の概念と小説の成立（坪内逍遙「小説神髓」、二葉亭四迷「浮雲」）                       |
| 第7回  | 第1回—近代文学の始まり             | 『新体詩抄』と北村透谷                                                     |
| 第8回  | 第2回—近代詩の成立と批評性           | 二葉亭四迷『浮雲』第一篇から三篇へ、「没理想論争」について                                   |
| 第9回  | 第3回—内面描写と文体              | 鴎外『舞姫』擬古文体と漱石『吾輩は猫である』写生文など                                     |
| 第10回 | 第4回—内面描写と文体2             | 鳥崎藤村『破戒』自然主義と田山花袋『蒲団』の告白と柳田国男について                               |
| 第11回 | 可能性としての大正文学1—自然主義と告白     | 近代小説の完成者としての芥川龍之介—『羅生門』『奉教人の死』『歯車』などと芥川の死について                   |
| 第12回 | 同2—近代小説の完成と敗北            | 宮沢賢治の文学的営為について—『春と修羅』と『銀河鉄道の夜』                                  |
| 第13回 | 同3—文学と祈り                 | プロレタリア文学理論と中野重治                                                 |
| 第14回 | 同4—プロレタリア文学について          | 前期を総括して                                                         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げる作家・作品は事前に読んでおくこと。

### 【テキスト（教科書）】

上記に挙げた作品

どの作品も文庫などに入っている。とくに本の指定はしない。

### 【参考書】

中村光夫『日本の近代小説』（岩波新書）

磯田光一『鹿鳴館の系譜』（講談社文芸文庫）

柄谷行人『日本近代文学の起源』（講談社文芸文庫）

小田切秀雄『文学概論』（勁草書房、または小田切秀雄全集 勉誠出版）

三好行雄『三好行雄著作集』（筑摩書房）

安藤宏『日本近代小説史』新装版（中公選書）

### 【成績評価の方法と基準】

数回に1回の授業内の小課題提出（20%）と講義で取り上げたテーマ作品についての論述テスト（70%）を実施します。また、授業への参加度（10%）などを総合的に判断して評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新たに担当するので特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

作品は変更する場合があります。その場合は事前に連絡する。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** I will consider the origins of modern Japanese literature based on the appreciation of specific works. I will also consider what "learning literature" means.

**Learning Objectives:** The primary goal of this course is to deepen the students' understanding of "Modern Japanese Literature", as well as of literary appreciation and of literary research.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read the works covered in the lecture in advance.

**Grading Criteria/Policy:** Evaluation is made comprehensively based on the submission of short assignments in class (20%), an essay test (70%), and the degree of participation in the class (10%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 文学概論B

中丸 宣明

## 昼間時間帯

授業コード：A2427 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀20世紀の文学。日本の19世紀20世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

## 【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する。

To relativize the common sense and established theories of Japanese literary history, and understand the current issues of literary research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・参考文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の際話題とする。See "Outline and objectives."

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                             |
|------|----------------|------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション      | 春学期の内容の確認と秋学期授業を聞く上での知識の確認。(春学期講義未受講者への対策指導あり) |
| 第2回  | メディア論<br>総論1   | メディアとは何か1<br>リテラシーと都市                          |
| 第3回  | メディア論<br>総論2   | リテラシーの質                                        |
| 第4回  | メディア論<br>書籍出版1 | 仮名草子の世界                                        |
| 第5回  | メディア論<br>書籍出版2 | 江戸期の出版1<br>洒落本系出版物の展開                          |
| 第6回  | メディア論<br>書籍出版3 | 江戸期の出版2<br>読本系出版物の展開                           |
| 第7回  | メディア論<br>書籍出版4 | 江戸期の出版3<br>草双紙系出版物の展開                          |
| 第8回  | メディア論<br>書籍出版4 | 翻訳論—読本の伝統から<br>純文学の出版                          |
| 第9回  | メディア論<br>新聞1   | 草双紙から小新聞へ                                      |
| 第10回 | メディア論<br>新聞    | 新聞に付属する出版<br>大衆文学へ                             |
| 第11回 | メディア論<br>雑誌論   | 投稿雑誌                                           |
| 第12回 | メディア論<br>雑誌論   | 文学雑誌へ／から                                       |
| 第13回 | デジタルメディア論      | IT革命とは                                         |
| 第14回 | デジタルメディア論      | これからのメディア                                      |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであると言うことを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Before/after each class meeting, students will be expected to spend 6 hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

## 【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

None. I'm a textbook.

## 【参考書】

授業中に適宜指示。特に分析対象作品は読むように心がけること。

Instructions during the lecture.

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポートないしテスト（60%）、および毎講義の「リアクションペーパー」の内容（40%）。リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

Our overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (60%), term-end report (40%).

## 【学生の意見等からの気づき】

ゆっくとわかりやすく、また日々のリアクションカードを有効活用します。

## 【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this class is an academic lecture on Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation does.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 文学概論B

山田 稔

### 夜間時間帯

授業コード：A2428 | 曜日・時限：木6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代において「文学」とはどういうものか。前期の講義から引き続き、昭和以降の文学についてその時々の状況を踏まえて考えていく。その中で、文学作品の構造・文学の研究手法・他ジャンルとの学際的研究などを理解を深める。また、戦後の文学の代表者と、その文学精神の継承者について、個々の独自性と表現についての認識を深めていく。

### 【到達目標】

昭和以降の文学作品の個々におけるテーマと構造の把握、それらを研究する方法論の認識を深める。特に、戦後以降の多様な文学のありようと作家精神について認識を深め、自己の今後の文学研究に生かせることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

秋学期は、昭和以降の現代文学の状況と文学の研究方法について、多方面から考えていく。特に戦後の文学の検討とそれ以降の文学の関係性にも注意しながら、作品分析を行い、多様な方法について状況論なども踏まえ検討していく。また、文学の多様な方法意識についても、その歴史性を意識しながら、認識を深めていく。前期と同様、基本は講義形式だが、より多く出席者の発言を求め、作品研究についても実際に行ってもらうことで、授業を進めていきたい。フィードバック方法としては、書かれたものや発言に対する授業内での講評や、よりよい先行研究や資料の例示などを行っていきます。授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                             |
|------|----------------|------------------------------------------------|
| 第1回  | 文学と文学研究        | 小田切秀雄『文学概論 増補版』一春期の復習もかねて                      |
| 第2回  | 文学理論と方法意識1     | 批評理論と学際と、様々な文学理論へのアプローチ                        |
| 第3回  | 文学理論と方法意識2     | 批評理論と学際と、様々な文学理論へのアプローチ2                       |
| 第4回  | 戦前・戦中の文学状況1    | 転向と横光利一・小林秀雄など                                 |
| 第5回  | 戦前・戦中の文学状況2    | 中原中也・梶井基次郎・中島敦など                               |
| 第6回  | 敗戦と文学          | 志賀直哉『灰色の月』と石川淳『焼け跡のイエス』の位置                     |
| 第7回  | 敗戦と文学2         | 太宰治と安吾—敗戦の意味『斜陽』と『白痴』                          |
| 第8回  | 戦後の文学について1     | 近代文学派と戦後派作家                                    |
| 第9回  | 戦後の文学について2     | 武田泰淳と埴谷雄高—『蝮のすゑ』、『ひかりごけ』、自同律と存在革命『死霊』          |
| 第10回 | 戦後の文学について3     | 戦後詩—「荒地」と「列島」と田村隆一                             |
| 第11回 | 現代の文学1—第三の新人以降 | 戦後派への対し方—大江健三郎、遠藤周作、安岡章太郎、古井由吉                 |
| 第12回 | 現代の文学2         | 中上健次と村上春樹、村上龍                                  |
| 第13回 | さまざまな現代文学      | 小川洋子と川上弘美—日常性への異和と静かな世界（『バックストローク』『ことり』『神様』など） |
| 第14回 | さまざまな現代文学2     | 村田沙耶香などとSF的世界、その他                              |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げる作品は事前に読んでおくこと。そして作品論を書くことを想定して準備をしておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

上記に挙げた作品

どの作品も文庫などで比較的入手しやすいものである。特に本の指定はしない。各自で入手しやすいものを使ってください。

### 【参考書】

別冊國文學No.51『近代文学 現代文学 論文・レポート作成必携』學燈社

前期の参考書を基本に置きつつ、現代的なものとして

『同時代としての戦後』大江健三郎（講談社文庫、他）

『主体の変容』三浦雅士（中公文庫）

『日本の同時代小説』斎藤美奈子（岩波新書）

『らせん状想像力 平成デモクラシー文学論』福嶋亮大（新潮社）

### 【成績評価の方法と基準】

数回に1回の授業日の小課題提出（20%）と取り上げたテキスト作品から一つを作品論の論述テスト（70%）として実施する。また、授業への参加度（10%）などを総合的に判断し評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度新たに担当するので、ありません。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし

### 【その他の重要事項】

作品は変更する場合があります。その場合は事前に連絡します。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** What is "literature" in modern times? Continuing from the lecture in the first semester, I will think about literature after the Showa era based on the situation at that time.

**Learning Objectives:** Through this, you will learn about the structure of literary works, research methods for literature, and interdisciplinary research with other genres, and deepen your understanding.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read the works covered in the lecture in advance. After that be prepared to write a literary review.

**Grading Criteria/Policy:** The evaluation is comprehensively judged by the submission of short assignments in class (20%), an essay test (70%), and the degree of participation in the class (10%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸史ⅡA

藤村 耕治

授業コード：A2429 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治期の日本文芸の歴史を通して、現代につながる近代文学の生成と変化、文芸と社会との関わり、文学意識や理論などを学びます。

文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

## 【到達目標】

日本近現代文学史に対する概括的な知識を得るのみならず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を、受講者が自分なりに考えられるようになるのが目標です。つまり、ただ受動的に講義を聞いて終わりにするのではなく、受講生各人が、より多くの作品に触れ、読解し、享受することのできる基本的な力をも身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

春学期 Semester では、明治初期から中期、日本近代文学の出発期の文芸史の流れを辿ります。上記の様々な問題について、なるべく具体的に作品に当たりながら、考えていきます。とはいえ、限られた授業時間で多くの作品を読んでいく事は事実上不可能ですから、毎回のテーマごとに読んで欲しい文献の案内を行いますので、受講者はそれを積極的に読み進めていって欲しい。

授業は講義が中心となりますが、場合によっては意見を求めたり、授業内で簡単なテストやレポートを随時書いてもらったりすることもあります。あるいは、指定した作品についての感想などを書いてもらう場合もあります。

また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                          |
|------|---------------|-----------------------------|
| 第1回  | 明治日本の国家政策と文芸① | 文明開化と啓蒙主義思想—福沢諭吉の思想         |
| 第2回  | 明治日本の国家政策と文芸② | 江戸末期から明治に至る戯作文学の位置—馬琴から魯文まで |
| 第3回  | 明治日本の国家政策と文芸③ | 漢詩文と政治小説                    |
| 第4回  | 近代文学の出発・坪内逍遙① | 『小説神髓』を読む                   |
| 第5回  | 近代文学の出発・坪内逍遙② | 『小説神髓』のテーマを考える              |
| 第6回  | 二葉亭四迷の挑戦①     | 二葉亭四迷「小説総論」と「浮雲」            |
| 第7回  | 二葉亭四迷の挑戦②     | 「浮雲」第一編を読む                  |
| 第8回  | 二葉亭四迷の挑戦③     | 「浮雲」第二編・第三編を読む              |
| 第9回  | 二葉亭四迷の挑戦④     | 「浮雲」のテーマとはなにか               |
| 第10回 | 森鷗外の場合①       | 森鷗外の業績                      |
| 第11回 | 森鷗外の場合②       | 「舞姫」を読む                     |
| 第12回 | 森鷗外の場合③       | 「舞姫」のテーマを深掘りする              |
| 第13回 | 森鷗外の場合④       | 「浮雲」と「舞姫」を比較する              |
| 第14回 | 春学期のまとめ       | 近代文学の出発期についての総括             |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通して頂くことで、おおよその流れがつかみやすくなります。

また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。

したがって、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

## 【参考書】

日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくこととよいでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

## 【成績評価の方法と基準】

授業後に授業内容や質問等を書いて提出して貰うリアクションペーパー70%、学期末のレポート30%、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

## 【その他の重要事項】

文学史の学習は、とすれば作家や作品の羅列的暗記や、知識の吸収などに陥りがちなイメージがあります。もちろん、そういう学習もある程度は必要ですが、それを自分の興味や関心に引き付けて、生きた文学史知識とする為には、なるべく多くの実作品に触れる必要があります。上にも記したとおり、授業内で読める作品は非常に少ないものに限られますが、それを機会に、自ら進んで多くの作家・作品を読み進めていってほしい。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Through the history of Japanese literature in the Meiji era, students learn about the generation of modern literature, relationships with society, literary consciousness and theory. The theme is to understand the historical significance and relationship with the present day while touching on the text of works as much as possible.

**Learning Objectives:** It is not just to gain knowledge, but also to allow students to think about the meaning and value of individual writers and works themselves.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read the descriptions of various literary histories for the contents of each lecture in advance. Also read as many works as you can that are dealt with in class. The standard preparation and review time for class is two hours each.

**Grading Criteria/Policy:** I will evaluate final grades with 70% based on reaction papers submitted after class, and 30% based on an end-of-semester report.



LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸史 II B

藤村 耕治

授業コード：A2431 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の流れを受けて、明治後期の文芸作品に即しつつ、日本近代文学の確立と、多様化するそれぞれの文学状況を解説していきます。

文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

### 【到達目標】

Aと同様、単なる知識の習得にとどまらず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を受講者が各自で考え、文学作品を時代や作者の背景に留意しつつ読み解くことができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

明治中後期、すなわち日本近代文学の確立期の文芸史の流れを追っていきます。春学期と同様、なるべく具体的なテキストを読みながら考えていきます。

授業は講義が中心となりますが、適宜意見を求めたり、授業内で簡単なテストや小レポートを書いてもらったり、とり上げた作品について受講生同士で討論を行ってもらったりすることもあります。

また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                 |
|------|--------------|--------------------|
| 第1回  | 日本近現代文学の見取り図 | 明治期の文芸史についての概括的な解説 |
| 第2回  | 硯友社の文学①      | 硯友社とは何か            |
| 第3回  | 硯友社の文学②      | 尾崎紅葉「金色夜叉」を読む      |
| 第4回  | 浪漫主義の文学①     | 北村透谷の文学論           |
| 第5回  | 浪漫主義の文学②     | 北村透谷の恋愛論           |
| 第6回  | 浪漫主義の文学③     | 北村透谷と浪漫主義文学        |
| 第7回  | 女性作家の登場①     | 樋口一葉略伝             |
| 第8回  | 女性作家の登場②     | 樋口一葉「たけくらべ」を読む     |
| 第9回  | 女性作家の登場③     | 樋口一葉「たけくらべ」の文学史的位置 |
| 第10回 | 自然主義前史       | ゾラの自然主義と日本自然主義前史   |
| 第11回 | 自然主義文学①      | 島崎藤村「破戒」を読む        |
| 第12回 | 自然主義文学②      | 島崎藤村「破戒」の可能性       |
| 第13回 | 自然主義文学③      | 田山花袋『蒲団』を読む        |
| 第14回 | 自然主義文学④      | 自然主義から私小説へ         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通して頂くことで、おおよその流れがつかみやすくなります。

また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。

したがって、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

### 【参考書】

日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくとい良いでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

### 【成績評価の方法と基準】

授業後に授業内容や質問等を書いて提出して貰うリアクションペーパー70%、学期末のレポート30%、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

### 【その他の重要事項】

日本文芸史II Aに同じ。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Through the history of Japanese literature in the Meiji era, students learn about the generation of modern literature, relationships with society, literary consciousness and theory. The theme is to understand the historical significance and relationship with the present day while touching on the text of works as much as possible.

**Learning Objectives:** It is not just to gain knowledge, but also to allow students to think about the meaning and value of individual writers and works themselves.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read the descriptions of various literary histories for the contents of each lecture in advance. Also read as many works as you can that are dealt with in class. The standard preparation and review time for class is two hours each.

**Grading Criteria/Policy:** I will evaluate final grades with 70% based on reaction papers submitted after class, and 30% based on an end-of-semester report.

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

## 日本語史A

松浦 光

## 昼間時間帯

授業コード：A2433 | 曜日・時限：金2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

## 【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                          |
|------|------------------------|-----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                  | 授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明     |
| 第2回  | 日本語の音声                 | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)  |
| 第3回  | 日本語の音韻                 | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)  |
| 第4回  | 音韻の歴史変化①—上代特殊仮名遣とハ行点呼— | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)  |
| 第5回  | 音韻の歴史変化②—各時代の音韻の変化—    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (4)  |
| 第6回  | 日本語文法の諸概念              | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)  |
| 第7回  | 日本語学と言語学               | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)  |
| 第8回  | 文法の歴史変化①—日本語の統語的变化—    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)  |
| 第9回  | 文法の歴史変化②—日本語の意味変化—     | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)  |
| 第10回 | 語彙研究の基礎①—単語の語彙的性質—     | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)  |
| 第11回 | 語彙研究の基礎②—多義語—          | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10) |
| 第12回 | 語と語彙の歴史変化①—語彙体系の変化—    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11) |
| 第13回 | 語と語彙の歴史変化②—語形変化・語義変化—  | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12) |
| 第14回 | まとめ                    | 大レポート提出と総括                  |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

衣畑智秀 (編) (2023) 『基礎日本語学 第二版』東京：ひつじ書房。(¥1,800円+税)

## 【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する小レポート (50%) と最終授業時に提出する大レポート (50%) の内容を勘案して、評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

春学期・秋学期ともに同じテキストを使います。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

**Learning Objectives:** Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

## 日本語史A

松永 明

### 夜間時間帯

授業コード：A2434 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

### 【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100~200字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                          |
|------|-------------------|-----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | 授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明     |
| 第2回  | 奈良時代の言語的特徴 (1)    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)  |
| 第3回  | 奈良時代の言語的特徴 (2)    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)  |
| 第4回  | 奈良時代の言語的特徴 (3)    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)  |
| 第5回  | 奈良時代の言語的特徴 (4)    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (4)  |
| 第6回  | 平安時代の言語的特徴 (1)    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)  |
| 第7回  | 平安時代の言語的特徴 (2)    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)  |
| 第8回  | 平安時代の言語的特徴 (3)    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)  |
| 第9回  | 平安時代の言語的特徴 (4)    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)  |
| 第10回 | 鎌倉・室町時代の言語的特徴 (1) | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)  |
| 第11回 | 鎌倉・室町時代の言語的特徴 (2) | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10) |
| 第12回 | 鎌倉・室町時代の言語的特徴 (3) | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11) |
| 第13回 | 鎌倉・室町時代の言語的特徴 (4) | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12) |
| 第14回 | まとめ               | 大レポート提出と総括                  |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する小レポート (50%) と最終授業時に提出する大レポート (50%) の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学期末レポートの提出期限は、もう少し遅くしてほしい。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

**Learning Objectives:** Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

## 日本語史B

松浦 光

## 昼間時間帯

授業コード：A2435 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

## 【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介し、質問に答えます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                          |
|------|-----------------|-----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス           | 授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明     |
| 第2回  | 日本語の文章論         | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)  |
| 第3回  | 日本語の談話分析        | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)  |
| 第4回  | 日本語の文体論         | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)  |
| 第5回  | 日本語の文体の歴史       | プリント等で解説し、授業内に小レポートを提出 (4)  |
| 第6回  | 日本語の変異          | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)  |
| 第7回  | 日本語の方言論         | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)  |
| 第8回  | 日本語学とコーパス       | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)  |
| 第9回  | 日本語学における用例採集と整理 | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)  |
| 第10回 | 理論的研究としての日本語学   | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)  |
| 第11回 | 近代以前における日本語の研究  | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10) |
| 第12回 | 近代以降における日本語の研究  | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11) |
| 第13回 | 日本語の文字・表記       | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12) |
| 第14回 | まとめ             | 大レポート提出と総括                  |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

衣畑智秀 (編) (2023) 『基礎日本語学 第二版』東京：ひつじ書房。(¥1,800円+税)

## 【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する「課題 (感想等)」(50%)と学期末の大レポート(50%)の内容を勘案して、評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

春学期・秋学期ともに同じテキストを使います。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

**Learning Objectives:** Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

## 日本語史B

松永 明

### 夜間時間帯

授業コード：A2436 | 曜日・時限：木6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

#### 【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介し、質問に答えます。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                       | 内容                          |
|------|-------------------------------------------|-----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                                     | 授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明     |
| 第2回  | 江戸時代の言語的特徴 (1)<br>受講生の春学期の大レポートの報告 (1)    | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)  |
| 第3回  | 江戸時代の言語的特徴 (2)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (2)     | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)  |
| 第4回  | 江戸時代の言語的特徴 (3)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (3)     | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)  |
| 第5回  | 江戸時代の言語的特徴 (4)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (4)     | プリント等で解説し、授業内に小レポートを提出 (4)  |
| 第6回  | 明治時代から戦前の言語的特徴 (1)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (5) | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)  |
| 第7回  | 明治時代から戦前の言語的特徴 (2)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (6) | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)  |
| 第8回  | 明治時代から戦前の言語的特徴 (3)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (7) | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)  |
| 第9回  | 明治時代から戦前の言語的特徴 (4)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (8) | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)  |
| 第10回 | 戦後の言語的特徴 (1)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (9)       | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)  |
| 第11回 | 戦後の言語的特徴 (2)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (10)      | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10) |
| 第12回 | 戦後の言語的特徴 (3)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (11)      | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11) |
| 第13回 | 戦後の言語的特徴 (4)<br>受講生の春学期の大レポート報告 (12)      | プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12) |
| 第14回 | まとめ                                       | 大レポート提出と総括                  |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

#### 【参考書】

参考書は授業の進行によって、そのつど紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する「課題 (感想等) (50%)と学期末の大レポート (50%)の内容を勘案して、評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学期末レポートの提出期限は、もう少し遅くしてほしい。

#### 【その他の重要事項】

特記事項なし

#### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

**Learning Objectives:** Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

## 日本文法論A

尾谷 昌則

授業コード：A2437 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the Japanese traditional grammar adopted in the textbooks for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

小中学校の国語で習う文法は橋本進吉の理論に基づいており「学校文法」とも呼ばれている。しかし、教科書に採用されているからといって、決して完璧な理論とは言えず、不備や例外もある。どこが間違っているのか、どう修正すべきなのか、それらを考えながら、学校文法を概観する。

## 【到達目標】

The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

- (1) 国語教員が押さえておきたい学校文法の基礎を理解し、それについて具体例をあげて説明できるようになる。
- (2) 学校文法の不備・例外について理解し、それについて具体例を挙げて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身に話を聞くだけではなく受講生にも積極的に考えてもらいたいため、様々な問題・課題を授業内で与える。

▼受講者に積極的な理解を促すため、授業の最後に小テストを行う。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                     |
|------|-------------|------------------------|
| 第1回  | 品詞          | 品詞の定義と問題点について          |
| 第2回  | 活用          | 活用のしくみとその問題点について       |
| 第3回  | 文構造         | 文節同士の関係と文構造について        |
| 第4回  | 格助詞         | 格助詞の用法と意味について          |
| 第5回  | 副助詞         | 副助詞の用法と意味について          |
| 第6回  | 接続助詞        | 接続助詞の用法と意味について         |
| 第7回  | 修飾          | 連用修飾と連体修飾の問題点について      |
| 第8回  | 助動詞(1)      | 受身・使役・可能の助動詞とその問題点について |
| 第9回  | 助動詞(2)      | 否定・時間の助動詞とその問題点について    |
| 第10回 | 助動詞(3)      | モダリティに関して              |
| 第11回 | 助動詞と働きかけの形式 | 対人的モダリティについて           |
| 第12回 | 敬語          | 敬語の分類とその問題点            |
| 第13回 | 文章・談話       | 文よりも大きな単位の研究について       |
| 第14回 | 文法          | 総括として、文法とは何かを考える       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

## 【テキスト（教科書）】

山田敏弘著『国語教師が知っておきたい日本語文法』東京：くろしお出版。（¥1,600）

## 【参考書】

庵功雄ほか2000. 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク。（¥2,310）

町田健 2002. 『まちがいだらけの日本語文法』東京：講談社（¥735）

## 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short exam at the end of the each class (50%), term-end report (50%).

毎回の小テスト 50 %

学期末レポート 50 %

## 【学生の意見等からの気づき】

小中学校で習った文法にも多くの例外や不備があるということが新鮮だったとのコメントが多かった。そういった例外についてもっと深く考えてもらい、「文法は単なる暗記の授業ではない」ということを分かってもらうためにも、受講生が考え、発言する時間を多めにとりたい。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the Japanese traditional grammar adopted in the textbooks for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

**Learning Objectives:** The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: short exam at the end of the each class (50%), term-end report (50%).

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

## 日本文法論B

尾谷 昌則

授業コード：A2439 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is an introduction to cognitive linguistics and construction grammar. We will focus on grammatically exceptional expressions or extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

認知言語学・構文文法の観点から、日本文法について考え直すことを目的とする。授業の前半は認知言語学の基本的な概念を学び、中盤では分析事例について学ぶ。後半では、実際に学術論文を読むことで、学習した概念が言語分析にどのように利用されているのかを学ぶ。

### 【到達目標】

The objectives of this course are (1) to acquire the ability to differentiate normal (grammatical) expressions and grammatically extended expressions, and (2) to situate the latter expressions in the networks of our linguistic knowledge.

意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1)そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2)そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようにすること、の2点が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

▼テキストに沿って講義形式で進めるが、身近な言語事例をできるだけ多く挙げ、皆で会話するようにじっくり進める。12月頃には、授業で学習した概念を使用した研究事例となる学術論文を3、4本読みたいと考えている。

▼授業の終わりに、理解度を確認するための小テストを実施する。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」でURLや事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                            |
|------|---------------|-------------------------------|
| 第1回  | 伝統文法から認知言語学まで | 言語学史を概観する                     |
| 第2回  | 認知言語学の特徴1     | 記号的言語観、動機付け、経験基盤主義、図地分化について   |
| 第3回  | 認知言語学の特賞2     | スキーマやプロトタイプについて               |
| 第4回  | 動的用法基盤モデル     | LangackerのUsage-basedモデルについて  |
| 第5回  | 構文文法          | 構文の定義とネットワークについて              |
| 第6回  | 類推拡張          | 類推に基づく拡張について                  |
| 第7回  | 構文の分析1        | 構文に反映されるスキヤニングについて            |
| 第8回  | 構文の分析2        | 構文に反映される語用論的意味について            |
| 第9回  | 構文の分析3        | 構文の拡張と再分析                     |
| 第10回 | 構文の分析4        | 文法化と主観化について                   |
| 第11回 | 事例研究1         | 論文(文法化に関するもの)を読み、批判的に検討する。    |
| 第12回 | 事例研究2         | 論文(主観化に関するもの)を読み、批判的に検討する。    |
| 第13回 | 事例研究3         | 論文(スキヤニングに関するもの)を読み、批判的に検討する。 |
| 第14回 | まとめ           | 本講義の総括                        |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習・小テスト対策 (2時間)

その日の講義の復習 (2時間)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

### 【テキスト (教科書)】

『構文ネットワークと文法』(尾谷昌則・二枝美津子著、研究社、3200円税抜)

### 【参考書】

参考書・参考資料等

『認知言語学大辞典』(新倉書店)

『ことばの認知科学事典』(辻幸夫編集、大修館書店)

『新編 認知言語学キーワード事典』(辻幸夫、研究社)

『日本語学キーワード事典』(小池清治ほか編著、朝倉書店)

『日本語文法大辞典』(山口明徳・秋本守英編著、明治書院)

『日本語研究のための認知言語学』(初山洋介著、研究社)

『認知意味論: 言語から見た人間の心』(ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店)

『認知意味論のしくみ』(初山洋介著、研究社)

『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー—』(谷口一美著、研究社)

『概念化と意味の世界 認知意味論のアプローチ』(深田智・仲本康一郎著、研究社)

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short exam at each class meeting (60%), term-end report (40%).

小テスト 60%

期末レポート 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生がじっくり考える時間をとったことが好評であったため、今年度もそういった時間を多めに取り入れる。リアクションペーパーに記入した回答の全てについてコメントを返すのは難しいが、面白い回答はなるべく多く紹介したい。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course is an introduction to cognitive linguistics and construction grammar. Following “Nihon Bunpō-ron A” in the spring semester, we will focus on grammatically exceptional expressions or extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to acquire the ability to differentiate normal (grammatical) expressions and grammatically extended expressions, and (2) to situate the latter expressions in the networks of our linguistic knowledge.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: short exam at each class meeting (60%), term-end report (40%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学史 A

中沢 けい

## 昼間時間帯

授業コード：A2441 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章の変遷を学びます。言葉は時代とともに変化しています。言葉の変化とともに文章もまた変化していきます。その変化を文章を表現する技術の変化と並行させながら学んでいきます。

## 【到達目標】

文章の変化と表現技術の変化を理解する。とくに現在は従来の活版印刷からデジタル技術への転換期にあるので、過去の変化をもとに将来的な変化を想像する手がかりを得ることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。授業中に発言を求める場合があります。また映像資料を用いる場合もあります。Hoppiiを用いて授業の感想を求めます。時にはkおちからから質問をする場合もあります。皆さんのお答えの中から必要なものを選び授業時にコメント付きでご紹介いたします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容                                                     |
|------|---------------------------|--------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                     | 日本語文章の変化の概略を辿ります。                                      |
| 第2回  | 原稿用紙について                  | 原稿用紙と活版印刷の関係、現代の日本語の正書法についてお話しします。                     |
| 第3回  | 活版印刷の登場                   | デジタル技術は活版印刷登場以来の革命と言われました。出は活版印刷は何をもたらしたのでしょうか。        |
| 第4回  | グーテンベルグ登場当時の日本            | グーテンベルグが活版印刷を普及した時代は日本の鎌倉時代から室町時代にあたります。日欧の比較をお話しします。  |
| 第5回  | 宗教改革から大航海時代へ。             | 活版印刷は欧州に新旧のキリスト教による宗教戦争をもたらしました。それが後の大航海時代へとつながります。    |
| 第6回  | 大航海時代と日本の戦国時代。            | 日本が最初に欧州と出会うのは戦国時代末期です。日本語文章の変化の視点から日本と諸外国との関係を辿り直します。 |
| 第7回  | ちょっとお休み。毎月の本だな。           | 毎月1回程度、本を紹介する回をもうけます。同時に私が文学上どのような興味を持っているかをお話しします。    |
| 第8回  | 古代から中世末期までの日本の文章変化 1      | 中国からの文字（漢字）の輸入から中古の文字の変化（かな、カタカナ）中世の倭館混交文まで大急ぎで振り返ります。 |
| 第9回  | 古代から中世末期までの日本の文章変化 2      | 漢文と和文の二系統の文章が継続的に存続したことをお話しします。                        |
| 第10回 | 古代から沖積末期までの日本の文章変化 3      | 漢文脈、和文脈の2系統の文章が現代の文章にも影響を与えていることをお話いたします。              |
| 第11回 | 町人の文化形成とプレ口語文の時代          | 近世の出版文化と、近代の口語文の前身となる町人の話言葉を反映させた文章の登場についてお話いたします。     |
| 第12回 | 福沢諭吉と口語文の工夫 活版印刷の登場と造本の変化 | 幕末から明治にかけて膨大な文章を口語文で書いた福沢諭吉についてお話します。                  |
| 第13回 | 樋口一葉は原稿用紙を使っていた。          | 活版印刷の登場によって、日本語の正書法が変化をしたことをお話いたします。                   |
| 第14回 | 表現のための技術と文章の関係            | 最終回はみなさんのご意見をうかがう回といたします。                              |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考察するようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業時にプリントをお渡しします。

## 【参考書】

授業時に随時お示しします。また「今月の本だな」の項目で新しい本をご紹介いたします。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への意欲的な参加40パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート40パーセント、期末レポート20パーセント

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This lecture surveys the history of written Japanese and transitions in the forms that those written texts have taken.

**Learning Objectives:** The goal of this lecture is to understand changes in the written language and in techniques for its expression, with a view to anticipating changes that the digital revolution may bring.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).



LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学史 A

藤谷 治

### 夜間時間帯

授業コード：A2442 | 曜日・時限：水5/Wed.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章を、物語の文章を中心に読んでいきます。前期は日本語の文章の成り立ちから、平安・鎌倉期までの文章を読んでいきます。

### 【到達目標】

古典と見なされている文章から、日本語の文章の多様性を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本語の文章を読みながら、講義形式で進めます。

各授業ごとにHoppiにてリアクションペーパーを提出してください。

レポートの課題は授業内、およびHoppiにて告知します。

提出された課題は合否判定の上、短評をつけてフィードバックします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                  |
|------|-------------|---------------------|
| 第1回  | 日本文学史と現在    | この講義の概要および「古事記」を読む  |
| 第2回  | 変体漢文と土着     | 「日本霊異記」を読む          |
| 第3回  | フィクションと歌    | 「竹取物語」と「伊勢物語」を読む    |
| 第4回  | ドキュメンタリーと話法 | 「土佐日記」を読む           |
| 第5回  | 物語のビッグ・バン   | 「うつは物語」を読む          |
| 第6回  | ロマンスと共感     | 「落窪物語」を読む           |
| 第7回  | つぶやきと内輪話    | 「枕草子」を読む            |
| 第8回  | 統合と完成       | 「源氏物語」を読む           |
| 第9回  | 文章と実人生      | 「更級日記」を読む           |
| 第10回 | 人から聞いた話     | 「今昔物語集」を読む          |
| 第11回 | 主観と文明観      | 「方丈記」を読む            |
| 第12回 | ドラマと語るための文章 | 「平家物語」を読む           |
| 第13回 | 日本文人的センスの誕生 | 「徒然草」を読む            |
| 第14回 | 演じるための文章    | 「謡曲集」「能狂言」「風姿花伝」を読む |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げる作品を、どんどん読んでいってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

その都度プリントして配布します。

### 【参考書】

授業計画の内容にある通りです。

### 【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

情報としての古典文学ではなく、私たちの文学を広げる可能性をはらんだ文章として、多様な文章を読んでいきます。

### 【その他の重要事項】

講師は職業作家であり、国文学の専門家ではないので、「現代」の「読者」であり「創作者」である立場から、日本文学の文章に取り組んでいきます。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** During the spring semester we will read passages from written Japanese texts and tales, dating from ancient times until the Kamakura (early medieval) period, and study the ways in which written Japanese texts evolved.

**Learning Objectives:** The goal of this lecture is to grasp the variety of written Japanese by means of reading works regarded as the Japanese classics.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are encouraged to read as many of the works discussed in class as they can. Two hours each of preparation and revision are standard for each class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学史 B

中沢 けい

## 昼間時間帯

授業コード：A2443 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語文章の変化を近代から現代までを技術変化に着目しながら考察します。

## 【到達目標】

活版印刷から出版文化の隆盛、デジタル技術の登場とそれによる表現の変化について各自が考察できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と質疑応答。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                                                                 |
|------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 近代とはどのような時代でしょうか。             | 文語文から口語文への変化を近代と言う社会背景から概略を説明します。                                  |
| 第2回  | 産業革命から市民革命と日本の近世 1            | 欧州で産業革命と市民革命が起きた時代と日本の近世を並行的に考察します。                                |
| 第3回  | 産業革命と市民革命と日本の近世 2             | 欧州に登場した市民と日本の近世に登場した町人の比較を試みます。                                    |
| 第4回  | 近代口語文の登場                      | 春学期でお話した福沢諭吉の登場がもたらした日本語文章の改革について再度、お話をします。                        |
| 第5回  | 近代に登場した数々の表現技術と出版文化。          | 写真、映画、ラジオなどが登場します。また新聞が社会の中で大きな役割を占めることをお話します。                     |
| 第6回  | 近代の映像を見てみましょう。                | HNKで放送された「映像の世紀」から近代初期の映像を視聴します。                                   |
| 第7回  | 近代のイメージ                       | 受講生の皆さんが近代についてどのようなイメージを持ったのかを質問しながら質疑応答いたします。                     |
| 第8回  | 戦争と映画。戦争と新聞、雑誌報道              | 日清、日露、第一次世界大戦、日中戦争、日米戦争での主要メディアについてお話します。                          |
| 第9回  | テレビの登場、週刊誌の登場                 | マスメディアについてお話します。マスメディアは後に頂上するパーソナルなメディアとの比較を試みます。                  |
| 第10回 | デジタル技術の登場                     | デジタル技術とインターネットは文章を変化させるのか？この疑問について、現在、考えていることをお話します。               |
| 第11回 | 世論形成とフェイクニュース                 | デジタル技術はパーソナルな情報発信を可能にしました。一方で、フェイクニュースの流布などの問題をもたらしたことをお話します。      |
| 第12回 | アジア諸国の台頭と新しい比較文学              | アジア諸国の経済発展は神話学や物語の比較文学に新しい研究成果をもたらしています。                           |
| 第13回 | 大航海時代以来形成された価値観の問い直しと、文章への影響。 | 大航海時代以来、世界に形成された価値観の構造的な問い直しが進んでいます。価値観の問い直しは文章へどのような影響を与えるのでしょうか。 |
| 第14回 | これからの文章                       | これからどのような文章が創造されて行くのか、受講生に皆さんと質疑応答をいたします。                          |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

考デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでください。文学作品を読む時、時代背景を考えるようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業時にプリントをお渡しします。

## 【参考書】

授業内の随時ご紹介します。また「今月の本だな」の項目を使って私の興味関心のある本を紹介してゆきます。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への意欲的な参加40パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート40パーセント、期末レポート20パーセント

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This lecture surveys transitions in the forms that written Japanese texts have taken in the modern and contemporary periods.**Learning Objectives:** The goal of this lecture is to understand the boom in print culture brought about by type printing, and the changes and challenges presented by the introduction of digital technology.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学史 B

藤谷 治

### 夜間時間帯

授業コード：A2444 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章を、物語の文章を中心に読んでいきます。後期は17世紀から現代までの文学作品を読みます。

### 【到達目標】

日本語の文章の多様性から、現代における新しい文章の可能性を探っていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で、日本語の文章を読んでいきます。  
各授業ごとにHoppiにてリアクションペーパーを提出してください。  
レポートの課題は授業内、およびHoppiにて告知します。  
提出された課題は合否判定の上、短評をつけてフィードバックします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                            |
|------|-----------|-------------------------------|
| 第1回  | 聞かせる文章    | 説経節を読む                        |
| 第2回  | 商売のための文章  | 好色一代男を読む                      |
| 第3回  | 美の追求      | 「奥の細道」を読む                     |
| 第4回  | スキャンダルの劇化 | 「曾根崎心中」を読む                    |
| 第5回  | 学識と芸術     | 「雨月物語」を読む                     |
| 第6回  | 江戸の文章     | 「東海道中膝栗毛」「浮世風呂」を読む            |
| 第7回  | グロテスクと爛熟  | 「東海道四谷怪談」を読む                  |
| 第8回  | 予兆なき残光    | 「南総里見八犬伝」を読む                  |
| 第9回  | 新時代と旧時代   | 「真景累が淵」を読む                    |
| 第10回 | 言文一致      | 二葉亭四迷と山田美妙を読む                 |
| 第11回 | 言文を一致させない | 樋口一葉、幸田露伴、尾崎紅葉、泉鏡花、を読む        |
| 第12回 | 自然主義とその批判 | 田山花袋ほか自然主義作家と、二葉亭「平凡」、石川啄木を読む |
| 第13回 | 民主主義下の文章  | 大江健三郎とよしもとばななを読む              |
| 第14回 | 現代の文章     | 東直子と古川日出男を読む                  |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画の内容にかかわらず、どんどん読んでいってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

### 【参考書】

講義内容にある通りです。

### 【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

情報としての古典文学ではなく、私たちの文学を広げる可能性をはらんだ文章として、多様な文章を読んでいきます。

### 【その他の重要事項】

講師は職業作家であり、国文学の専門家ではないので、「現代」の「読者」であり「創作者」である立場から、日本文学の文章に取り組んでいきます。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** During the fall semester we will read passages from works of fiction, from between the 17th century and the present.

**Learning Objectives:** The goal of this lecture is to explore possibilities for new literary expression through observation of the variety of written Japanese texts.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are encouraged to read as many of the works discussed in class as they can. Two hours each of preparation and revision are standard for each class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

**文章表現論 A**

田中 和生

**昼間時間帯**

授業コード：A2445 | 曜日・時限：火2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

書きたいことを自分で見つけ、それを自分の好きなように書く、という新しい文章がはじまることの自由さを味わい、同時にその困難さも理解します。その自由さと困難さを入口にして、どうしたら自分の言いたいことをうまく言葉にできるのか、日本語による表現を模索し、その延長線上に現われる、詩や物語や批評といった文学的な言葉の使い方を手に入れることを目指します。

**【到達目標】**

まず書きたいことを見つけて文章を書きはじめる、という基本的な構えを身につけて文章に向かうこと。

次にその書きたいことをできるだけ明確に他人に伝える、という自分なりの表現を模索する姿勢を手に入れること。

以上を目標とし、理想としてはそれでもうまく言葉にすることができない、文学的な文章を書くということの自由さと困難さを実感します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価をする機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ        | 内容                                  |
|------|------------|-------------------------------------|
| 第1回  | 文章表現とはなにか  | 作文の基礎知識について確認します。                   |
| 第2回  | メモと作文      | メモを取って作文することを実践します。                 |
| 第3回  | テーマと題名     | 書きたいことを自分で見つけるとはどういうことかを考察します。      |
| 第4回  | 詩の言葉への触手   | 散文と詩の違いを理解します。                      |
| 第5回  | 書き出しの言葉を待つ | 書き出しに注意して作文を実践します。                  |
| 第6回  | 作文を評価する1   | 学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。 |
| 第7回  | 具体的に書く     | 抽象的な書き方の問題について理解を深めます。              |
| 第8回  | 物語の力       | 小説と物語の違いについて考察を加えます。                |
| 第9回  | 別の角度から考える  | 客観的な言葉を書くための準備を行ってから作文に取り組みます。      |
| 第10回 | 紋切り型と一般論   | 自分の言葉を見つけるとはどういうことかを理解します。          |
| 第11回 | 批評性のある文章   | 批評的な言葉に触れます。                        |
| 第12回 | 感情のなかで書く   | 言葉の力を実感しながら作文することを目指します。            |
| 第13回 | 作文を評価する2   | 学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。        |
| 第14回 | 書き終わりは突然に  | 文章の終わりについて考察します。                    |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必要時応じて指示しますが、とくに2回目以降の作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

毎回プリントを配布します。

**【参考書】**

加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店）、荒川洋治『日記をつける』（岩波現代文庫）をあげておきます。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中に4回800字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

**【その他の重要事項】**

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

**【Outline (in English)】**

< Course Outline > Through the exploration of discovering what they want to write and writing it as they like, students experience the freedom of starting a new text and come to understand the difficulties involved in it. With an understanding of both its freedom and difficulties, they will search for phrases in Japanese to express what they want to say effectively, and acquire skill in the use of literary expression within poetry, stories and criticism.

< Learning Objectives > Students learn the basic stance necessary in writing, and learn how to write what they want to write as clearly as possible. This gives them an understanding of the nearly inexpressible freedom and difficulty that literary creation involves.

< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.

< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 文章表現論 B

田中 和生

### 昼間時間帯

授業コード：A2447 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がよく知っていることを正確に書く困難さと、その内容に限界があることを理解し、知らないことやフィクションを交えた文章を書く自由さを体験します。そうして知っていることだけを書く文章と知らないことを交えた文章の違いに注意することで、フィクションとして自分が書きたいことはどんなことなのか、自らの主題を深く模索することを目指します。

### 【到達目標】

まずよく知らないことを交えた内容を、知っていることだけを書いた文章であるかのように書こうとすること。

次にそうでなくては明確に他人に伝える文章で書けないこと、むしろ書きやすいものがあるということを知ること。

以上を目標とし、主に小説の歴史を参照しながらフィクションの自由さについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価する機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                  |
|------|--------------|-------------------------------------|
| 第1回  | フィクションと事実    | 文章表現の本質について考察を加えます。                 |
| 第2回  | 他人になりきって書く   | 事実を離れて作文することを実践します。                 |
| 第3回  | 細部まで想像する     | 文章が真実らしくなる条件について考察します。              |
| 第4回  | 一人称と三人称      | 人称から小説の文章について分析します。                 |
| 第5回  | スピードを落とす     | 客観的な言葉を選ぶことを目指して作文を書きます。            |
| 第6回  | フィクションを評価する1 | 学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。        |
| 第7回  | フィクションの真実    | 知っていることを書くとはどういうことかを考察します。          |
| 第8回  | 描写と「もの」      | リアリズムという視点から小説の歴史をふり返ります。           |
| 第9回  | 声を合わせる       | 他人の言葉で書くことを実践します。                   |
| 第10回 | 主観と客観のあいだ    | 読者にとってリアリティのある文章とはどういうものか考察します。     |
| 第11回 | 衣装としての文章     | 引用と参照による文学史を構想します。                  |
| 第12回 | 知らない人に向かって書く | 引用と参照を行った作文を実践します。                  |
| 第13回 | フィクションを評価する2 | 学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。 |
| 第14回 | 時間を流す        | 散文的芸術の本質について考察を加えます。                |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

### 【参考書】

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書）をあげておきます。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中に4回800字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

### 【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

### 【Outline (in English)】

< Course Outline > Students will come to understand the difficulty of writing what they know well precisely and the limitations on the content if they do so, and experience the freedom of writing what they don't know about, while incorporating fictional elements. With an understanding of the differences between writing about what they know and what they don't know, they will be able to explore their own subject matter deeply, and come to a realization as to what they really want to write as fiction.

< Learning Objectives > Students should first write about things with content that they do not know much about, as if they were writing only about things that they know well. Secondly, by doing so they learn that otherwise it is not possible to write in a way that clearly communicates content to others, and that some things are easier to write than others. With these goals in mind, they will deepen their understanding of the freedom of fiction, with reference to historical examples of successful novels.

< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.

< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸批評史 A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：水4/Wed.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

## 【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。  
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。  
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。  
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。  
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容              |
|------|------------|-----------------|
| 第1回  | 日本の近代文学の概説 | 前史と西洋近代文学の影響    |
| 第2回  | 批評とは何か     | その特徴について        |
| 第3回  | 坪内逍遙と二葉亭四迷 | 日本の近代文学のはじまり    |
| 第4回  | 尾崎紅葉と幸田露伴  | その後の文学の展開       |
| 第5回  | 森鷗外の評論     | 坪内逍遙との論争        |
| 第6回  | 北村透谷の批評    | 山路愛山との論争        |
| 第7回  | 高山樗牛の評論    | 作品と若者への影響について   |
| 第8回  | 斎藤緑雨の箴言    | 風刺と皮肉の効用        |
| 第9回  | 正岡子規の歌論    | 短歌・俳句と写生文       |
| 第10回 | 自然主義の誕生    | 国木田独步、島崎藤村、田山花袋 |
| 第11回 | 言文一致運動     | その過程の論争         |
| 第12回 | 反自然主義      | 自然主義と違う立場の作家    |
| 第13回 | 平塚雷鳥と与謝野晶子 | 女性解放運動をめぐる批評    |
| 第14回 | 大逆事件       | 石川啄木や徳富蘆花の評論    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇]および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

## 【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

## 【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

**Course Outline:** This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

**Learning Objectives:** Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

**Grading Criteria/Policy:** Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸批評史B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

### 【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。  
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。  
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。  
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。  
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容              |
|------|---------------|-----------------|
| 第1回  | 大正・昭和期の文学の概説  | 20世紀の西洋文学との比較   |
| 第2回  | 夏目漱石の批評       | 文明批評について        |
| 第3回  | 和歌と漢文         | 日本人の文化的喪失について   |
| 第4回  | 白樺派           | 武者小路実篤の作品と批評    |
| 第5回  | 佐藤春夫と印象批評     | 菊池寛との論争         |
| 第6回  | 谷崎潤一郎と芥川龍之介   | 純文学と通俗小説に関する論争  |
| 第7回  | プロレタリア文学と新感覚派 | 関東大震災後の新たな潮流    |
| 第8回  | 小林秀雄の批評       | 日本における近代文芸批評の確立 |
| 第9回  | 戦時下の文学と言論     | 日本浪曼派と文学報国会     |
| 第10回 | 敗戦と占領下の批評     | 終戦直後の状況について     |
| 第11回 | 坂口安吾と太宰治      | 無頼派の批評や作品について   |
| 第12回 | 「政治と文学」論争     | 「近代文学」と中野重治の論争  |
| 第13回 | 吉本隆明と江藤淳      | 戦後を代表する左派と右派の思想 |
| 第14回 | ポストモダンとその後    | 柄谷行人と加藤典洋について   |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇]および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

### 【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

### 【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

**Course Outline:** This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

**Learning Objectives:** Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

**Grading Criteria/Policy:** Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 日本語学特殊研究A

田嶋 圭一

授業コード：A2557 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間に特有の能力とされる言語がどのような原理によって成立しているのかを科学的に追究する言語学について概観します。春学期では、言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論を中心に授業を進めます。

## 【到達目標】

言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある知識を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

単語の内部構造や新しい単語を作り出す仕組み（形態論）、単語から句や文を作り出す仕組み（統語論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業や授業活動結果をHoppiiに書き込む作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                                       |
|------|-----------------------|----------------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入、言語と言語学             | シラバスの説明、言語とは、「真の言語」の特徴                                   |
| 第2回  | 言語知識                  | 2種類の言語、言語に関する様々な知識、言語学の諸分野                               |
| 第3回  | 形態論への導入               | 心内辞書と一般辞書、形態論と形態素、形態素の種類                                 |
| 第4回  | 語形成過程（1）：様々な語形成過程     | 語形成過程の種類、偶発的な語形成、少し規則的な語形成、規則性の高い語形成：複合                  |
| 第5回  | 語形成過程（2）：複合、派生        | 複合語の意味、主要部の考え方、派生語                                       |
| 第6回  | 語形成過程（3）：派生、転換、屈折     | 複雑な派生語の構造、語の樹形図、転換、屈折・活用                                 |
| 第7回  | 中間テスト、形態素解析（1）、異形態    | 形態素解析の方法と練習問題、異形態とは                                      |
| 第8回  | 形態素解析（2）、語彙範疇、格       | 形態素解析の練習問題づくり、日英語の語彙範疇格とその種類                             |
| 第9回  | 統語論（1）：導入             | 構成素、句構造、句の主要部                                            |
| 第10回 | 統語論（2）：カテゴリー、意味役割、マージ | 言語の階層構造、文を作り上げるための材料：カテゴリー、項と意味役割、文を組み立てる仕組み：マージ、様々な種類の句 |
| 第11回 | 統語論（3）：文の組み立て         | 英語の文・日本語の文の組み立て、VPの組み立て、屈折辞と格、一般的な句の構造                   |
| 第12回 | 統語論（4）：補文             | VPの拡張、補部と指定部、文の中の文＝補文                                    |
| 第13回 | 統語論（5）：補文づくり、授業のまとめ   | 課題の復習、授業のまとめ                                             |
| 第14回 | 期末テスト、授業の振り返り         | 授業内容の理解度を確認するための授業内試験                                    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定範囲を読んだり、出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して、授業内容を復習し次の回に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を授業支援システム経由で配布します。

## 【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。  
西光 義弘（編集）（1999）. 『日英語対照による英語学概論：増補版』くろしお出版.

上山 あゆみ（1991）. 『はじめての人の言語学 ―ことばの世界へ―』くろしお出版.

星 浩司（2006）. 『言語学への扉』慶應義塾大学出版会.

大津 由紀雄・池内 正幸・今西 典子・水光 雅則（編）（2002）. 『言語研究入門 ―生成文法を学ぶ人のために―』研究社.

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language*, 7th edition. Boston: Heinle.

Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files*, 9th edition. Ohio State University Press.

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価する予定です。

言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に参加し、授業外でも概念の習得や問題を解く作業に時間を掛ける心づもりでいてください。また、課題や中間テストを通して、内容の理解度チェックをこまめに行ってください。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

## 【学生の意見等からの気づき】

回答者20名のうち、「履修してよかった」が15名（75%、前々年93%）、「理解できた」が15名（75%、前々年67%）、「工夫されていた」が19名（95%、前々年100%）でした。満足度が少し低下しましたが、理解度と工夫は前々年とほぼ同じでした。授業外学習時間については「2-3時間」が25%、「1-2時間」が55%、「30分-1時間」が20%で、前々年とほぼ同程度でした。充実感があった、ペアワークを通して理解度を確認できた、スライドがとても分かりやすかった、講義動画が授業をやむを得ず欠席した時や復習したい時に役立った、資料が全て最初に公開されていたので自分のペースで予習することができた、といった肯定的なコメントをいただきました。一方、課題を解くのにかなりの時間と手間が掛かった、宿題以外に練習問題と回答があれば教えてほしい、授業で詳しく取り上げなかった内容が宿題に出ると問題の解き方が分からなかった、などの改善点が明らかになりました。

## 【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The spring semester focuses on examining the structure of words (morphology) and phrases and sentences (syntax).

## 【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand the basic principles of morphology and syntax, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

## 【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.



PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 日本語学特殊研究B

田嶋 圭一

授業コード：A2559 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間に特有の能力とされる言語がどのような原理によって成立しているのかを科学的に追究する言語学について概観します。秋学期では、言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論を中心に授業を進めます。

### 【到達目標】

言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

様々な言語音の発音方法や表記方法(音声学)、日本語や英語など色々な言語の音の特徴や決まり(音韻論)について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業や授業活動結果をHoppiiに書き込む作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次回の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                                               |
|------|------------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入、音声学と音韻論       | シラバスの説明、音声学と音韻論の違い                               |
| 第2回  | 音声学への導入、発話のメカニズム | 音声学とは、発話のメカニズム、音声器官、音声学的直観を磨く：母音                 |
| 第3回  | 母音               | 母音の調音的記述・有標性、音声学的直感を磨く：子音                        |
| 第4回  | 子音               | 子音の調音的記述・有標性、自然音類                                |
| 第5回  | 言語音を書き起こす方法      | 日本語の音素表記と音声表記                                    |
| 第6回  | 日本語の発音           | 長音、促音、撥音、ガ行鼻音化、母音無声化など                           |
| 第7回  | 中間テスト、音韻論への導入、音素 | 音と意味との関係、音素、ミニマルペア、音素設定の基準：重複分布・相補分布、音声的類似性、音素分析 |
| 第8回  | 日本語の音韻変化         | 撥音の同化、ハ行音の同化、母音の融合・交替、連濁など、音素分析の練習問題             |
| 第9回  | 音象徴              | 音象徴、オノマトペ、音素分析の練習問題つづき                           |
| 第10回 | 言葉のリズム           | 日本語のリズム、モーラ、英語のリズム、音節                            |
| 第11回 | アクセント(1)         | アクセントとは、東京方言のアクセント、アクセントの規則と表記法                  |
| 第12回 | アクセントとイントネーション   | アクセントの方言差、イントネーションとは                             |
| 第13回 | アクセント(2)、まとめ     | 複合語のアクセント、授業のまとめ                                 |
| 第14回 | 期末テスト、総括         | 理解度評価のための試験、授業の総括                                |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配布資料の指定範囲を読んだり、出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して、授業内容を復習し次の回に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

テキストはありません。レジュメ等を学習支援システムから配布します。

### 【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。

西光 義弘(編集)(1999).『日英語対照による英語学概論：増補版』くろしお出版。

上山 あゆみ(1991).『はじめての人の言語学 ―ことばの世界へ―』くろしお出版。

星 浩司(2006).『言語学への扉』慶應義塾大学出版会。

大津 由紀雄・池内 正幸・今西 典子・水光 雅則(編)(2002).『言語研究入門 ―生成文法を学ぶ人のために―』研究社。

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language, 7th edition*. Boston: Heinle.

Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files, 9th edition*. Ohio State University Press.

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価する予定です。

言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業資料を利用して内容理解に努めてください。原則として、正当な理由なく4回を超えて課題が未提出の場合、または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。

### 【学生の意見等からの気づき】

12名の回答者のうち、「工夫していた」と回答したのが全員(100%、前々年度100%)、「理解できた」が11名(92%、前々年度94%)、「履修してよかった」が10名(83%、前々年度94%)でした。工夫と理解度は前回と同様の水準ですが、満足度がやや低下したようです。「身近にありながらあまり考えたことのない事柄が多く取り上げられていたので、履修することで知る楽しさを感じられた。先に学んだ内容を後に活かせるような流れになっているため、学んだ成果を実感できる。」「穴埋め式のレジュメで適宜ワークがあることで理解がしやすかった。また欠席した際にもオンライン動画やスライドが見れるのは助かった。」「レジュメと先生の説明がわかりやすく、ペアワークがあったため理解しやすかった。」といった肯定的なコメントをいただきました。一方で、「課題の量が回によって少し負担になる時があった。」「レジュメの穴埋めの欄が小さくて書くのが大変なことがあったので、もう少し幅をとってほしかった。」といった指摘もありました。課題の量を以前から増やしていないにもかかわらず、課題の量に関するコメントを複数いただきました。なぜなのか不可解ですが、課題の量を調節したり課題の必要性を理解してもらえるように働きかけたりする必要があると感じました。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The fall semester focuses on examining the sounds of language and how they are produced (phonetics) and organized (phonology).

#### 【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand the basic principles of phonetics and phonology, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

#### 【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 中国文芸史A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の古典小説について講義をする。中国でフィクションとしての本格的な小説が書かれるようになるのは唐代のことであり、それは「伝奇」と呼ばれた。本授業では、中国文学史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）に書かれた「小説」（正確には小説的なもの）について講義を行う。唐代伝奇の源泉となった、先秦から南北朝時代までの「小説」およびその土壌となった各時代の文化的背景について学ぶ。

## 【到達目標】

中国の先秦時代から南北朝時代までの古典小説史のアウトラインを把握する。また、各時代の代表的な作品を読解することを通して、古典小説の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な工具書を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                                            |
|------|--------------------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス              | 中国の古典小説と「小説」の原義についての概説                        |
| 第2回  | 白話小説概説             | 明・清の時代に書かれた口語体の小説についての概説                      |
| 第3回  | 小説前史 (1)           | 神話 (上)：中国の天地開闢神話とその特徴について                     |
| 第4回  | 小説前史 (2)           | 神話 (下)：神話の時代の大洪水と大旱魃                          |
| 第5回  | 小説前史 (3)           | 諸子百家と漢代の賦：諸子百家による寓話と漢代の賦における小説的要素について         |
| 第6回  | 小説前史 (4)           | 漢代の作とされる「小説」：中国古代の空想的地理書『山海経』をはじめとする、漢代の文献を読む |
| 第7回  | 小説前史 (5)           | 史伝の小説的要素：歴史文学として司馬遷の『史記』を読む                   |
| 第8回  | 志怪小説 (1)           | 六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説                  |
| 第9回  | 志怪小説 (2)           | 志怪小説に見られる仙界訪問譚について                            |
| 第10回 | 志怪小説 (3)           | 志怪小説に見られる冥界訪問譚と仏教の影響                          |
| 第11回 | 民間の物語詩             | 漢代から南北朝時代にかけて民間で歌われた、叙事的な物語詩を読む               |
| 第12回 | 志人小説               | 六朝時代に記録された著名人のエピソード集「志人小説」についての概説             |
| 第13回 | 男装の麗人の物語<br>の麗人の物語 | 木蘭従軍故事について                                    |
| 第14回 | 春学期総括              | 試験・まとめと解説                                     |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子化されたファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

## 【参考書】

・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）  
・魯迅著；中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）  
・魯迅著；丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷 魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）  
その他、適宜授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めると、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

## 【その他の重要事項】

・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。  
・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。  
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This lecture is focused on Chinese classical novels. It is not until the Tang dynasty that people started writing serious novels as fictional tales in China. They were called chuan-qi. In this course, the lecture will be given on novels (more accurately quasi novels) from the most ancient periods in the history of Chinese literature covering the periods from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and the Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). We will learn “novels” from Pre-Qin to the Northern and Southern dynasties and the underlying cultural background for each period, which formed the foundation for chuan-qi during the Tang period.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students will:

- understand the outline of the history of classical novels from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
- have knowledge of the various genres of Chinese classical novels through reading representative works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
- have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 中国文芸史B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の古典小説のうち、唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説について概説する。日本人にとって馴染みのある中国の小説といえば、明代に成立した『三国志演義』や『水滸伝』『西遊記』などがまず想起されるであろうが、これらはいずれも当時の白話（＝話し言葉）で書かれた小説である。それに対して伝奇は、文言（＝書き言葉）で書かれており、漢文訓読による読解が可能である。唐代伝奇は昔から日本人に広く読まれており、日本の古典文学・近代文学に対する影響も大きい。本授業では、個々の作品の読解を通して、唐代伝奇が内包する文学性を探るとともに、その土壌となった当時の社会・文化背景について学ぶ。

### 【到達目標】

唐代小説史のアウトラインを把握する。また、唐代伝奇を鑑賞する力を身につける。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な文献を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                        |
|------|-----------|-------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス     | 唐代伝奇についての概説                               |
| 第2回  | 唐代伝奇 (1)  | 唐代伝奇の先駆的な作品である「補江総白猿伝」を読む                 |
| 第3回  | 唐代伝奇 (2)  | 魂が肉体を離れて駆け落ちをした女性の話「離魂記」を読む               |
| 第4回  | 唐代伝奇 (3)  | 象の恩返しの話「安南獺者」を読む                          |
| 第5回  | 唐代伝奇 (4)  | 成語「黄梁一炊の夢」の典故として知られる「枕中記」を読む              |
| 第6回  | 唐代伝奇 (5)  | 狐の妖女と人間の男性との恋愛を描いた「任氏伝」を読む                |
| 第7回  | 唐代伝奇 (6)  | 『雨月物語』の「夢窓の鯉魚」や、太宰治「魚服記」の粉本として知られる「薛偉」を読む |
| 第8回  | 唐代伝奇 (7)  | 妓楼の高級娼婦と名門の御曹司との恋愛譚「李娃伝」を読む               |
| 第9回  | 唐代伝奇 (8)  | 民間信仰「運命の赤い糸」の源泉として知られる「定婚店」を読む            |
| 第10回 | 唐代伝奇 (9)  | 男装した女性による敵討ちの話「謝小娥伝」を読む                   |
| 第11回 | 唐代伝奇 (10) | 中島敦「山月記」の粉本として知られる「李徴」を読む                 |
| 第12回 | 唐代伝奇 (11) | 科擧の受験生と堅気の女性との恋愛譚「鶯鶯伝」を読む                 |
| 第13回 | 唐代伝奇 (12) | 芥川龍之介による翻案で知られる「杜子春」を読む                   |
| 第14回 | 唐代伝奇 (13) | トイレの神様に取り憑かれた男の話「李赤伝」を読む                  |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の週に読む作品を前の週に配布するので、授業前に必ず読んでおく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子化されたファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

### 【参考書】

・岡本不二明著『「李娃伝」と鞭 唐宋文学研究余滴』（汲古書院、2015）  
 ・溝部良恵著『中国古典小説選6 広異記・玄怪録・宣室志 他』（明治書院、2008）

・黒田真美子著『中国古典小説選5 枕中記・李娃伝・鶯鶯伝他』（明治書院、2006）  
 ・成瀬哲生著『中国古典小説選4 古鏡記 補江総白猿伝 遊仙窟』（明治書院、2005）  
 ・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）  
 ・魯迅著；中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）  
 ・魯迅著；丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷 魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）  
 その他、適宜授業中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

### 【その他の重要事項】

・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。  
 ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。  
 ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Amongst other Chinese classical novels, this course provides an overview of short novels called *chuan-qi* written during the Tang dynasty. Speaking of Chinese novels familiar to Japanese, you will be reminded of Romance of the Three Kingdoms, Water Margin, and Journey to the West all published during the Ming dynasty. These are all novels written in vernacular Chinese (=spoken language). In contrast, *chuan-qi* were written in literary language (=written language), which can be understood in kanbun. *Chuan-qi* during the Tang dynasty were broadly read by Japanese from ancient times and significantly influenced Japanese classical and modern literature. In this course, we will explore the literary qualities contained in *chuan-qi* during the Tang dynasty and learn about the underlying social and cultural background through reading individual works.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students will:

- understand the outline of the history of classical novels in the Tang dynasty;
- acquire the ability to appreciate *chuan-qi*.; and
- have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Term-end examination (100%)

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 書誌学

山口 恭子

## 夜間時間帯

授業コード：A2566 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

## ・授業の概要

本授業では、書誌学の基礎を講ずるとともに、くずし字解読を行い、翻刻の基礎力を養います。

書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことから講義します。

## ・授業の目的

日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界をもとに眺めてゆきましょう。書誌学を学び本の知識をもつことは、将来、学芸員や司書、その他、本や文化財に携わりたいというかたにおおいに役立ちます。

## 【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。

・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

・授業各回において、まず書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解読（翻刻）作業を行います。次いで、日本古典籍書誌学の基礎的事項を講義してゆきます。

・くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。書誌学についてはパワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                                                  |
|------|-------------|---------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | ・「書誌学」という学問の概要や目的について<br>・くずし字の基礎について<br>・授業計画について                  |
| 第2回  | 装訂の様々       | ・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について                                         |
| 第3回  | 写本の姿 (1)    | ・写本に関する様々な用語の意味と使い方について                                             |
| 第4回  | 写本の姿 (2)    | ・転写本における「写す」方法と特徴について                                               |
| 第5回  | 古筆切と手鑑      | ・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について                                             |
| 第6回  | 料紙について (1)  | ・紙の歴史、および和紙の材料と製法について                                               |
| 第7回  | 料紙について (2)  | ・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について                                           |
| 第8回  | 版本の歴史 (1)   | ・版本の種類に関する概説                                                        |
| 第9回  | 版本の歴史 (2)   | ・中世までの印刷の歴史について<br>・キリシタン版について<br>・古活字版の特徴と種類について                   |
| 第10回 | 版本の歴史 (3)   | ・古活字版から整版本への移行について                                                  |
| 第11回 | 江戸時代の本屋について | ・書肆（本屋）の始まりと展開について                                                  |
| 第12回 | 本の顔かたち (1)  | ・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて                                    |
| 第13回 | 本の顔かたち (2)  | ・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について<br>・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる |
| 第14回 | まとめ         | 半期の授業のまとめ                                                           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
- ・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

## 【参考書】

- ・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）
  - ・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）
  - ・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、2005年・2007年）
  - ・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）
- このほか、授業時に提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（80%）に、平常点（20%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者には、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

## 【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** *Shoshigaku* ("bibliography") is the study of books. This course deals with the basic concepts of bibliography.

**Learning Objectives:** The purposes of this course are as follows:

- (1) to master basic knowledge of classical Japanese bibliography
- (2) to understand the culture of books

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.

**Grading Criteria/Policy:** The overall grade of the class will be determined based on: final exam (80%); performance in class (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## メディアと社会

中沢 けい

### 夜間時間帯

授業コード：A2568 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈A〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？表現とは何か？という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

Relationship between media and society

### 【到達目標】

社会的制度から創作とは何をか考えるのが目的です。また情報技術の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメント付きの出席をとります。コメントはHOPPIIを用いて提出してもらいます。コメントの内容については授業時に適宜、御紹介いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                                          |
|------|-------------------|-------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | この授業のねらいについてお話しします。<br>(中沢けい)                               |
| 第2回  | 韓国文学を紹介する。        | 近年、韓国の文化、芸術は多方面にわたり注目を集めています。そのなかから日本での韓国文学の受容についてお話いただきます。 |
| 第3回  | 同上                | 金承福講師（クオン主催者）                                               |
| 第4回  | 海外の著作権取得について      | 翻訳書を作る時、海外から著作権を取得します。それはどのような作業なのでしょうか。                    |
| 第5回  | 同上                | 山口和人講師（元講談社芸芸局勤務）                                           |
| 第6回  | アニメーションをプロデュースする。 | 多様な人が関わるアニメーション制作の現場でのプロデュースについてお話いただきます。                   |
| 第7回  | 同上                | 石井龍講師（アニメーションプロデューサー）                                       |
| 第8回  | 編集とはどのような仕事か      | 編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます                                      |
| 第9回  | 同上                | 仲俣暁生講師（編集者）                                                 |
| 第10回 | ノンフィクションの現在       | ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。                            |
| 第11回 | 同上                | 安田浩一講師（ノンフィクション作家）                                          |
| 第12回 | 建築と文学の空間創造        | 文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。                              |
| 第13回 | 建築と文学の空間創造        | 鈴木隆之講師（建築家、小説家）                                             |
| 第14回 | 現代社会と表現の相克        | 中沢けい<br>まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。                           |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用しますのでファイルしておいて下さい。

### 【参考書】

講師から提示されます。

### 【成績評価の方法と基準】

「配分（%）」：レポート30% 平常点 70%

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

### 【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意ください。

中沢けい

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Literary creation is not an activity isolated from society; on the contrary, literary works are situated within society. In this course, students will learn about the issues involved in literary creation and written expression in society.

**Learning Objectives:** The objective is to consider what creation means from the perspective of social systems and institutions. The course will also provide hints for considering the changes that shifts in information technology are bringing to the media.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** We will invite lecturers who are active in the forefront of the field to speak to us. Please be sure to read the lecturers' publications. Standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Performance in class (70%); report (30%). The criteria are active class participation and insightful report content.

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

## 音楽芸能史特殊研究A

野川 美穂子

授業コード：A2569 | 曜日・時限：水3/Wed.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能のうち、「三曲」と呼ばれる種目の特徴と魅力を学びます。

## 【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに「三曲」）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しめることの多い「三曲」（地歌、箏曲、尺八楽、胡弓楽）をとりあげます。まずは「三曲」に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌としての魅力にも富む多彩な作品を紹介します。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。なお、「三曲」の大正時代以降の状況については、秋学期の授業で紹介いたします。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                                          |
|------|--------------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス。<br>近世芸能の概観。       | 講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の特徴。                     |
| 第2回  | 三曲とは何か。<br>三曲に使う楽器。      | 三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器（箏、三味線、尺八、胡弓）の特徴。絹糸弦の製作方法。 |
| 第3回  | 三味線の伝来。<br>地歌の歴史と特徴①     | 三味線伝来の経緯。伝承の基本となった三味線組歌と長歌物。                |
| 第4回  | 地歌の歴史と特徴②                | 叙情性に満ちた端歌物。                                 |
| 第5回  | 地歌の歴史と特徴③                | 音色の重なりと緩急の変化が楽しい手事物。                        |
| 第6回  | 地歌の歴史と特徴④                | 芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な物語を歌う作物。                   |
| 第7回  | 箏曲の歴史と特徴①                | 箏の製作方法。箏曲の誕生。                               |
| 第8回  | 箏曲の歴史と特徴②                | 伝承の基本となった箏組歌。器楽曲である段物のルーツ。                  |
| 第9回  | 箏曲の歴史と特徴③                | 段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。                          |
| 第10回 | 箏曲の歴史と特徴④                | 江戸で人気を得た山田流箏曲。                              |
| 第11回 | 尺八楽の歴史と特徴①               | 尺八の歴史のなぞ。尺八本曲の魅力。                           |
| 第12回 | 尺八楽の歴史と特徴②<br>胡弓楽の歴史と特徴。 | 尺八本曲の魅力。<br>胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。                |
| 第13回 | 明治時代の三曲。                 | 明治時代の演奏会の特徴。明治新曲について。                       |
| 第14回 | 他の種目との関連。                | 文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。                           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

## 【参考書】

参考書は、授業時に随時紹介します。「三曲」の魅力味わえる演奏会情報も紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点40%、期末試験60%の比率で評価します。出席回数が授業総数の3分の2に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

## 【Outline (in English)】

Regarding the Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all the music. In the spring semester, we mainly target music for the *koto*, *shamisen*, *shakuhachi* and *kokyū*.

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

## 音楽芸能史特殊研究B

野川 美穂子

授業コード：A2571 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近世以降に発展した芸能のうち、歌舞伎、文楽を中心に、それぞれの特徴と魅力を学びます。

### 【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに歌舞伎と文楽）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎をとりあげます。また、箏や尺八などを用いる「三曲」（春学期の授業内容）の大正時代以降の状況、歌舞伎の明治以降の状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。

多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力をじっくりと味わってみたいと思います。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                               |
|------|--------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス。近世の芸能。 | 講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。                          |
| 第2回  | 劇場で使われる楽器。   | 文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。                                |
| 第3回  | 文楽の歴史と特徴①    | 義太夫節の歴史。三業一体とは何か。                                |
| 第4回  | 文楽の歴史と特徴②    | 文楽の名作の魅力。                                        |
| 第5回  | 歌舞伎の歴史と特徴①   | 歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。                             |
| 第6回  | 歌舞伎の歴史と特徴②   | 歌舞伎の名作の魅力。                                       |
| 第7回  | 文楽と歌舞伎の比較。   | 同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。                         |
| 第8回  | 豊後系浄瑠璃。      | 歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。艶のある新内節の魅力。                 |
| 第9回  | 他の種目との関連①    | 道成寺物の魅力。                                         |
| 第10回 | 長唄①          | 歌舞伎を支える長唄の魅力。                                    |
| 第11回 | 長唄②          | 長唄の多様性。                                          |
| 第12回 | 他の種目との関連②    | 石橋物の魅力。                                          |
| 第13回 | 近代・現代の三曲。    | 洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。                       |
| 第14回 | 現代の歌舞伎。      | 現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションをはじめ、最新技術を駆使して新しい展開を見せる歌舞伎。 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

### 【参考書】

参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上演情報も紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点40%、期末試験60%の比率で評価します。出席回数が授業総数の3分の2に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

### 【学生の意見等からの気づき】

それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

### 【Outline (in English)】

Regarding Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all the music. In the fall semester, we mainly focus on *bunraku* and *kabuki*.

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 編集実務 A

谷村 順一

授業コード：A2574 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP (Desk Top Publishing) による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

## 【到達目標】

編集実務に必要な基礎技術の習得を目標とし、具画像編集に使用する Adobe Photoshop、ポスターなどの印刷物やロゴマークなどの制作に使用する Adobe Illustrator の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、ページものの編集には Adobe InDesign を使用するので、InDesign をあつかう「編集実務 B」と併せて受講することが望ましい。

The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice, and to acquire the basic operation methods of Adobe Photoshop used for editing tool images, and Adobe Illustrator used for producing printed materials such as posters and logo marks. Since Adobe InDesign is used for editing pages, it is desirable to take this course together with "Editing Practice B" that deals with InDesign.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業内容】

書籍、雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び、対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン、期末課題には小冊子の作成を予定しています。

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

## 【授業方法】

アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し、プレゼンを行ってもらいます。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

## 【Course content】

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignments.

## 【Class method】

First there is a lecture on how to operate the application. After that, each student will create an assignment and be asked to give a presentation.

Submission of and feedback on assignments will be done through the "learning support system".

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                        | 内容                                                                                  |
|-----|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 初回ガイダンス                    | 開講にあたってのガイダンスを行います                                                                  |
| 第2回 | DTPとはなにか？                  | DTPの概略についての説明                                                                       |
| 第3回 | Adobe Photoshopを用いた切り抜きと合成 | Photoshopを用いた画像の切り抜きと合成について説明を行います                                                  |
| 第4回 | 写真のレタッチ                    | Photoshopを用いた写真のレタッチについて説明を行います                                                     |
| 第5回 | クリッピングマスク（選択範囲の作成）         | Photoshopを用いてアートワークをマスクする方法について（選択範囲を作成する方法）説明を行います                                 |
| 第6回 | クリッピングマスク（クリッピングパスの作成）     | Photoshopを用いてアートワークをマスクする方法について（クリッピングパスを実際に作成する）説明を行います                            |
| 第7回 | IllustratorやInDesignとの連携   | Photoshopで作成したビットマップ画像を、IllustratorやInDesignといったベクター画像を扱うアプリケーションで使用する方法について説明を行います |
| 第8回 | Adobe Photoshop までの課題      | ここまで説明したことをふまえて小課題に取り組んでもらいます                                                       |

|      |                                    |                                                  |
|------|------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 第9回  | Adobe Illustrator<br>長方形ツールと楕円形ツール | 長方形ツールと楕円形ツールを用いて基本的なオブジェクトの作成方法について説明を行います      |
| 第10回 | オブジェクトの塗りと線の設定                     | Illustratorでの描画の基本となるオブジェクトの塗りと線の設定方法について説明を行います |
| 第11回 | 選択ツールとダイレクト選択ツール                   | Illustratorの基本操作の要となる選択ツールとダイレクト選択ツールについて説明を行います |
| 第12回 | 文字の入力                              | テキストツールを用いた文字の入力方法について説明を行います                    |
| 第13回 | Photoshopとの連携                      | Illustratorで作成したオブジェクトをPhotoshopで使用方法について説明を行います |
| 第14回 | Adobe Illustrator までの課題            | ここまで説明したことをふまえて小課題に取り組んでもらいます                    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

## 【成績評価の方法と基準】

平常点と小課題、期末課題で評価します。

平常点 30% 小課題+期末課題 70%

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the lesson support system to distribute materials and submit assignments.

## 【その他の重要事項】

※授業の性質上、自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら、その本の「どこ」が気になるのか、「何」に惹かれるのか、意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

※InDesignを扱う編集実務Bを併せて履修することがのがぞましい。

※「情報科学実習1・2（fコース中のDTP入門編）を事前に履修しておくことよりよい。

・Due to the nature of the lesson, it is important to actually practice with your own hands. Please do not spare time for the exercises, whether during or outside class. Also, if you find a book or magazine that interests you, be aware of what you are interested in and what you are attracted to. Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

・It is recommended that you also take Editing Practice B, which deals with InDesign.

・It is better to take "Information Science Practical Training 1 and 2 (Introduction to DTP in f course)" in advance.

## 【Outline (in English)】

Students learn the actual process of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry.

The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice, and to acquire the basic operation methods of Adobe Photoshop used for editing tool images, and Adobe Illustrator used for producing printed materials such as posters and logo marks. Since Adobe InDesign is used for editing pages, it is desirable to take this course together with "Editing Practice B" that deals with InDesign.

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).



LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 編集実務 B

谷村 順一

授業コード：A2576 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP (Desk Top Publishing) による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

### 【到達目標】

編集実務に必要な基礎技術の習得を目標にします。具体的にはページものの作成に不可欠な Adobe InDesign の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、画像やイラストなど誌面に必要な要素の作成のために Adobe Photoshop、Illustrator を使用するので「編集実務 A」と併せて受講することが望ましい。The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice. Specifically, the purpose is to acquire the basic operation method of Adobe InDesign, which is indispensable for creating pages. Since Adobe Photoshop and Illustrator are used to create the elements necessary for a magazine, such as images and illustrations, it is desirable to take this course together with "Editing Practice A".

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業内容】

書籍、雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び、対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン、期末課題には小冊子の作成を予定しています。

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

#### 【授業方法】

アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し、プレゼンを行ってもらいます。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

#### 【Course content】

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

#### 【Class method】

First there is a lecture on how to operate the application. After that, each student will create an assignment and be asked to give a presentation.

Submission of and feedback on assignments will be done through the "learning support system".

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                    | 内容                                       |
|-----|----------------------------------------|------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス                                  | ガイダンス                                    |
| 第2回 | 本作りの過程                                 | 企画から編集、製本までの一連の書籍製作の過程について               |
| 第3回 | Adobe InDesign ①<br>グリッドフォーマットの作成      | 誌面作成の基礎となる版面の設定方法について                    |
| 第4回 | Adobe InDesign ②<br>マスターページの設定と文字の流し込み | マスターページの役割と文字の流し込みの実践について                |
| 第5回 | Adobe InDesign ③<br>文字組み設定             | 組版の基本となる各種設定について                         |
| 第6回 | Adobe InDesign ④<br>ルビ                 | ルビの振り方について                               |
| 第7回 | Adobe InDesign ⑤<br>画像の取り込み            | PhotoshopやIllustratorで作成した各種画像の取り込み方について |
| 第8回 | 小課題                                    | 小課題作成                                    |

|      |                                                        |                       |
|------|--------------------------------------------------------|-----------------------|
| 第9回  | 総合課題①<br>Photoshop、Illustrator、InDesignを使用して表紙、誌面を作成する | ラフの作成                 |
| 第10回 | 総合課題②<br>Photoshop、Illustrator、InDesignを使用して表紙、誌面を作成する | 素材の準備                 |
| 第11回 | 総合課題③<br>Photoshop、Illustrator、InDesignを使用して表紙、誌面を作成する | 各種アプリケーションを用いたレイアウト作業 |
| 第12回 | 総合課題④<br>Photoshop、Illustrator、InDesignを使用して表紙、誌面を作成する | 提出データの最終確認            |
| 第13回 | 発表と講評                                                  | 発表と講評                 |
| 第14回 | 発表と講評                                                  | 発表と講評                 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

### 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

### 【成績評価の方法と基準】

平常点と小課題、期末課題で評価します。

平常点 30% 小課題+期末課題 70%

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the lesson support system to distribute materials and submit assignments.

### 【その他の重要事項】

※授業の性質上、自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら、その本の「どこ」が気になるのか、「何」に惹かれるのか、意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

※ InDesign を扱う編集実務 B を併せて履修することががのぞましい。

※「情報科学実習1・2 (fコース中のDTP入門編) を事前に履修しておくとうりいい。

・Due to the nature of the lesson, it is important to actually practice with your own hands. Please do not spare time for the exercises, whether during or outside class. Also, if you find a book or magazine that interests you, be aware of what you are interested in and what you are attracted to. Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

・It is recommended that you also take Editing Practice B, which deals with InDesign.

・It is better to take "Information Science Practical Training 1 and 2 (Introduction to DTP in f course)" in advance.

### 【Outline (in English)】

Students learn the actual process of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry.

The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice. Specifically, the purpose is to acquire the basic operation method of Adobe InDesign, which is indispensable for creating pages. Since Adobe Photoshop and Illustrator are used to create the elements necessary for a magazine, such as images and illustrations, it is desirable to take this course together with "Editing Practice A".

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

## 美術史 (西洋) A

安藤 智子

授業コード：A2577 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年  
 備考 (履修条件等)：文学部 (哲・日文・英文・史) 以外の学生は  
 資格科目として履修 (A3853)

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

## 【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の鑑賞者の特徴、美術制度や社会状況を踏まえた上で、多角的・重層的に捉える視点を持って、芸術作品を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。  
 講義では、パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。  
 授業の最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。  
 このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるの留意すること。  
 中間、期末の課題については授業中に十分解説し、日本語の記述についても説明を加える。中間課題は期末課題の準備と位置づけ、中間課題が一定のレベルに達していない学生については適宜指導を行う。  
 春学期は西洋美術史を学習する上での基礎編、秋学期はその応用編といった構成になっている。できれば秋学期も通じ、1年間受講してほしい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                           |
|------|----------------------|----------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                | 授業の概要と展覧会情報<br>美術史の学習方法・参考文献                 |
| 第2回  | 美術史の基礎概念             | 美術におけるジャンルとは？                                |
| 第3回  | 美術史の基礎用語             | 絵画鑑賞の基礎となる概念及び造形的な要素を説明する                    |
| 第4回  | 絵画のジャンル① 神話画・宗教画     | ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画を見ていく |
| 第5回  | 絵画のジャンル② 寓意画         | 「アレゴリー」という概念を説明しながら、寓意画を読み解く                 |
| 第6回  | 絵画のジャンル③ 肖像画・風景画・風俗画 | 物語画以外のジャンルの絵画について外観する                        |
| 第7回  | 物語から表象へ              | 聖書の主題である「受胎告知」を例にとり、テキストから絵画イメージへの変換の過程を検証する |
| 第8回  | ロココ芸術                | ロココの芸術を中心に、主に王侯貴族がパトロンであった時代の絵画を見る           |
| 第9回  | フランス革命期の絵画           | 新古典主義の絵画を中心に、フランス社会が変容した時代の絵画を検証する           |
| 第10回 | ロマン主義の絵画             | 時事的な主題を扱った作品や人間の暗部に焦点を当てたロマン主義の絵画を紹介する       |

|      |          |                                       |
|------|----------|---------------------------------------|
| 第11回 | 都市と自然①   | 文化が花開く都市を描いた作品と農業が営まれる自然を描いた作品を対比して見る |
| 第12回 | 都市と自然②   | とくに都市改造計画で一新したパリの様子や人々の姿を描出した絵画を考察する  |
| 第13回 | 美術館見学    | 美術館で実際に作品を見て考察する                      |
| 第14回 | まとめと質疑応答 | これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する         |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

美術館にできるだけ出向いて、常設のコレクションや企画展に展示されている実際の美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』を部分的に読み1章につき要約をすることを中間か期末の課題とする。  
 授業では教科書は使用せず、参考文献を授業中に適宜紹介する。

## 【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24巻、1993-96年  
 高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年  
 三浦篤『まなごしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年  
 三浦篤『まなごしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年  
 E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート (30%) 学期末レポート (40%) と、平常点 (主に授業で紹介した作品に対するコメント、30%) を参考に成績評価を決定する。  
 芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含む。

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。また状況が許せば展覧会見学も実施したい。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.

**Grading Criteria/Policy:** The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (30%) and papers submitted in the middle and at the end of the course (30% and 40% respectively).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

## 美術史 (西洋) B

安藤 智子

授業コード：A2578 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年  
 備考 (履修条件等)：文学部 (哲・日文・英文・史) 以外の学生は資格科目として履修 (A3854)  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

### 【到達目標】

芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。

芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。  
 パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。  
 授業最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。

このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるの留意すること。

中間、期末の課題については授業中に十分解説し、日本語の記述についても説明を加える。中間課題は期末課題の準備と位置づけ、中間課題が一定のレベルに達していない学生については適宜指導を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                      | 内容                                                                 |
|-----|--------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス                    | 授業の概要<br>美術史へのアプローチ                                                |
| 第2回 | 美術史の基礎概念と基礎用語            | 作品主題のジャンル<br>造形性を表す用語の確認                                           |
| 第3回 | 筆触の多様性～印象主義から新印象主義へ      | 美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する                                |
| 第4回 | 視点とパースペクティブ～セザンヌからキュビズムへ | 絵画空間における視点、及びパースペクティブに着目し、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を確認する。 |
| 第5回 | 素朴さへの憧れ～ゴーガンとゴッホ         | 近代社会の進歩や工業化に反発し、非西洋文明のイメージを具現化したゴーガンやゴッホの絵画を検証する                   |
| 第6回 | 異文化との出会い①                | 19世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化が波及する過程を追う                         |
| 第7回 | 異文化との出会い②                | 主に19世紀のフランス美術が日本の彩色木版画 (浮世絵) から受けた影響について紹介する                       |
| 第8回 | 写真と絵画                    | 19世紀に登場した写真が及びした視覚芸術への影響を考察する                                      |
| 第9回 | アヴァンギャルド芸術①              | 20世紀初頭の、フォーヴという美術運動、それに続く西欧社会の軍国主義を反映したイタリア未来派の絵画について考察する          |

|      |                   |                                                      |
|------|-------------------|------------------------------------------------------|
| 第10回 | アヴァンギャルド芸術②       | 20世紀初頭に現出した美術運動であるダダとシュルレアリスムについて解説する                |
| 第11回 | 抽象絵画              | 対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する |
| 第12回 | 美術市場の形成           | 19世紀から20世紀にかけて、画商やコレクターの活動を参照し、個人コレクションが形成される過程を見る   |
| 第13回 | 美術館見学             | 実際に芸術作品を見て考察を深める                                     |
| 第14回 | 双方向の授業によるディスカッション | これまでの総括<br>芸術と社会との関係性を包括的に考える                        |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

できれば、春学期と通年で履修してください。  
 様々な美術館の展覧会に向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』を部分的に読み、その中の1章を要約する課題を出す予定です。  
 また授業の内容に沿って参考図書を適宜紹介していきます。

### 【参考書】

世界美術大全集 西洋編、小学館、19-24巻、1993-96年  
 高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年  
 三浦篤『まなごしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年  
 三浦篤『まなごしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年  
 E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

### 【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、中間レポート (30%) 学期末レポート (40%) と、平常点 (主に授業で紹介した作品についてのコメント、30%) を参考に成績評価を決定する。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証のスキルが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容に沿って、開催中の展覧会を紹介する。  
 状況が許せば、展覧会見学を行いたい。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.

**Grading Criteria/Policy:** The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (30%) and papers submitted in the middle and at the end of the course (30% and 40% respectively).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 文化史 1

安原 眞琴

授業コード：A2581 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

備考（履修条件等）：・この科目は日本文学専攻のみ受講可能（資格科目としても受講可能）。

・日本文学専攻でない文学部生が「文化史 1」（資格）を履修する場合は哲学専攻主催の「文化史 1」（資格）(A2262)を履修すること。  
 ・本科目を履修済みの場合、A2707「日本文芸研究特講（16）特域C」（夜間科目）は履修不可。

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

## 【到達目標】

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりのあり方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

毎回リアクションペーパーを提出し平常点を付加していく。  
 授業は講義形式だが、中間レポート以降、各自実際に町に出て調査してもらう予定である。  
 リアクションペーパーと中間レポートはMLS上で点数でフィードバックする。最終レポートはブラッシュアップ時に必要であればアドバイスをしますが、最終的な点数などの評価はフィードバックも公表もしない。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                     | 内容                                          |
|------|-------------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション               | ・授業の進め方などを説明する。<br>・文学の舞台になってきた東京の土地の歴史を学ぶ。 |
| 第2回  | 東京の概要を知る                | 江戸時代以降の首都「東京」の成り立ちを学ぶ。                      |
| 第3回  | 古地図を知る                  | 古地図の種類と見方を学ぶ。                               |
| 第4回  | 現在の東京を知る                | 23区の1区ごとの位置や特徴などを学ぶ。                        |
| 第5回  | 江戸の中心「江戸城」を知る           | 江戸城について学ぶ。                                  |
| 第6回  | 城下町「江戸」の概要を知る           | 下町と山の手について学ぶ。                               |
| 第7回  | 日本橋を知る                  | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）                      |
| 第8回  | 上野を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）                      |
| 第9回  | 浅草を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）                      |
| 第10回 | 銀座を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）                      |
| 第11回 | 赤坂を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）                      |
| 第12回 | 新宿を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）                      |
| 第13回 | その他の町を知る                | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）                      |
| 第14回 | 各自、担当した町について最終的なまとめを行う。 | これまでの学習をブラッシュアップして、最終レポートを作成する。             |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる（2時間）  
 復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。（2時間）  
 宿題：担当する町について調べる。

## 【テキスト（教科書）】

特に定めず、授業時に指示する。

## 【参考書】

錦絵で楽しむ江戸の名所（国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>）

安原眞琴『東京の老舗を食べる』（巫紀書房、2015）

安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60%
- ・中間レポート（宿題）20%
- ・期末レポート20%

 これらの総合判断により評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎年、まじめな学生が多く、この先どんな分野に進むにせよ、ますますの成長を楽しみにさせてくれる。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしい。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使いたいと思っています。

## 【その他の重要事項】

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。  
 ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原眞琴公式ホームページのコメント欄を使用します。  
<http://www.makotooffice.net/>

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

**Learning Objectives:** The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

**Grading Criteria/Policy:** Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 文化史 2

山口 恭子

授業コード：A2582 | 曜日・時限：木6/Thu.6  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年  
 備考（履修条件等）：・この科目は日本文学専攻のみ受講可能（資格科目としても受講可能）。  
 ・日本文学専攻でない文学部生が「文化史2」（資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史2」（資格）(A2263)を履修すること。  
 ・本科目を履修済みの場合、A2707「日本文芸研究特講（16）特域D」（夜間科目）は履修不可。

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

### 【到達目標】

中国、および日本の書芸の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。  
 なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                        | 内容                                  |
|------|----------------------------|-------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>中国書道史1<br>(殷・周の書) | ・書および書道史研究について<br>・古代の漢字<br>・甲骨文と金文 |
| 第2回  | 中国書道史2<br>(秦・漢の書)          | ・始皇帝の文字統一<br>・隷書の発展と後漢の石碑           |
| 第3回  | 中国書道史3<br>(三国の書)           | ・書体の発展                              |
| 第4回  | 中国書道史4<br>(東晋の書)           | ・王羲之、王献之の書                          |
| 第5回  | 中国書道史5<br>(南北朝の書)          | ・北朝の石刻について                          |
| 第6回  | 中国書道史6<br>(唐の書)            | ・初唐の三大家と楷書                          |
| 第7回  | 日本書道史1<br>(飛鳥・奈良の書)        | ・文字の受容<br>・聖武天皇、ならびに光明皇后の書          |
| 第8回  | 日本書道史2<br>(平安前期の書)         | ・三筆の書                               |
| 第9回  | 日本書道史3<br>(平安中期の書)         | ・三蹟の書<br>・和様の成立                     |
| 第10回 | 日本書道史4<br>(仮名の書のさまざま)      | ・仮名の書とその書美                          |
| 第11回 | 日本書道史5<br>(平安後期の書)         | ・西本願寺本三十六人家集                        |
| 第12回 | 日本書道史6<br>(中世の書)           | ・尊円親王の書<br>・さまざまな書流                 |
| 第13回 | 日本書道史7<br>(近世の書)           | ・寛永の三筆の書                            |
| 第14回 | まとめ                        | 中国書道史、日本書道史のまとめ                     |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九揚『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

### 【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）  
 ・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）

・名兄耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）

そのほか、講義時に提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

**Learning Objectives:** The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

**Grading Criteria/Policy:** The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

**表現と著作権A**

平井 彰司

**夜間時間帯**

授業コード：A2584 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

著作権の歴史と権利の淵源を概観し、著作権法を読み解くことを通じて、著作権思想の全体像をつかむ。著作権の基礎を学習して、著作権と社会との関係がテーマの秋学期へと繋ぐ。

**【到達目標】**

我が国著作権法の主要な規定について、その内容と効用を習得することを目指す。併せて文学部生に求められる法秩序の基本を理解し、法律の記述ルールや条文読解のポイントを身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ         | 内容                                 |
|------|-------------|------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 文学部生が身につけるべき著作権理解について考える。          |
| 第2回  | 著作権とは       | 知的財産権の一種でありながら、他と一線を画す特殊な性格を知る。    |
| 第3回  | 創作の系譜       | 作品の形式と伝達の変化をおさえつつ、創作行為と受容の類型を理解する。 |
| 第4回  | 近代著作権の概要    | 著作権誕生の背景とそれを支える思想、概念の変遷をたどる。       |
| 第5回  | 著作権法        | 我が国の法秩序における位置づけの確認と、基本的な構成を概観する。   |
| 第6回  | 著作物         | 著作物とは何か。類例を基に著作性について考える。           |
| 第7回  | 著作者         | 著作者とは誰か。著作者との違いとは何かを整理する。          |
| 第8回  | 保護の対象・期間    | 法律で保護される種類と範囲を見ていく（海外作品も含めて）。      |
| 第9回  | 権利の種類       | 著作者が専有する権利（支分権）の詳細を理解する。           |
| 第10回 | 人格権・隣接権・出版権 | 著作者の財産権以外に法律で規定されている権利を知る。         |
| 第11回 | 権利の制限       | 例外的に権利者の許諾なしに利用可能な場合と、その要件を確認する。   |
| 第12回 | 許諾・契約       | 著作物の利用許諾の態様や利用契約の実際に触れる。           |
| 第13回 | 紛争処理・罰則     | 民事解決と刑事罰、賠償額の算定や罰則の水準、裁判について学ぶ。    |
| 第14回 | 補足・まとめ      | 学習の成果を踏まえ、著作権の基礎を振り返る。             |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

**【参考書】**

随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパーを含む平常点50%、期末レポートの内容50%を評価の目安とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

初年度につき特になし。

**【その他の重要事項】**

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等に対するロビイングに従事。2021年より現職。

**【Outline (in English)】**

The aim is to master the content and utility of the main provisions of Japanese copyright law. At the same time, students will understand the basics of the legal order required of students of literature, and learn the rules for writing the law and the key points for reading the articles.

Work to be done outside of class : Students are expected to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations and business is required from time to time. Students are encouraged to do their own preparatory study according to their own needs. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria : The standard assessment is 50% of the ordinary marks, including the reaction paper, and 50% of the content of the final report.

Others : It is recommend taking Expression and Copyright A and B throughout the year.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 表現と著作権B

平井 彰司

### 夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権そのものへの理解を深めた春学期を受けて、テクノロジーの進化/深化を軸に著作権と外部とのかわり＝社会との相互関係やビジネスとの相克等を総合的に考察していく。

### 【到達目標】

法律条文の解釈論にとどまらず、社会全体の視座から著作権が創作・伝達・受容の営みに果たす役割について理解し、文学部生として身につけるべき著作権リテラシー習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求められます。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                                  |
|------|------------|-------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション  | 著作権の基本を再確認し、現状が抱える諸問題の射程を整理する。      |
| 第2回  | 裁定・登録・あっせん | 私権である著作権に対して行政が調整的機能を持つ事例を見ていく。     |
| 第3回  | 著作権管理、補償金  | 多くの著作権を集めて管理したり、補償金を分配する組織の実際に触れる。  |
| 第4回  | 著作権制度      | 法律改正の要件から成立、公布・施行、運用までのプロセスを理解する。   |
| 第5回  | 係争とソフトロー   | 著作権裁判の実例を見ていくとともに、ADRやガイドラインを紹介する。  |
| 第6回  | 印刷物の歴史     | グーテンベルク以前から現代まで。パッケージの進歩や頒布方法を含めて。  |
| 第7回  | 複製・伝達技術の展開 | 音響・映像、通信・放送。創作と伝達を革新する技術の歴史をたどる。    |
| 第8回  | デジタルテクノロジー | コンピューターとネットワークの進化は著作物をめぐる環境をどう変えたか。 |
| 第9回  | 出版物の電子化    | 電子ジャーナル・書籍・図書館を手掛かりに読書行為への影響を探る。    |
| 第10回 | メガプラットフォーム | 世界中の情報を蓄積するテック企業による知の独占システムを垣間見る。   |
| 第11回 | フリーテキスト    | 著作権を制限する運動や文化の共有を目指すCCライセンスを考える。    |
| 第12回 | デジタルアーカイブ  | 古今の作品の集積をデジタル化し、世界に向けて発信する動きを概観する。  |
| 第13回 | AI・メタバース   | 創作と伝達、受容をとりまく最新のトピックを探り上げる。         |
| 第14回 | 補足・まとめ     | 現在の著作権システムの考察を通じて、創作・受容の未来を展望する。    |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含む平常点50%、期末レポートの内容50%を評価の目安とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

初年度につき特になし。

### 【その他の重要事項】

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等に対するロビイングに従事。2021年より現職。

### 【Outline (in English)】

Students will not only understand the interpretation of legal provisions, but also understand the role that copyright plays in creation, communication, and reception from the perspective of society as a whole, and will acquire the copyright literacy that students of the Faculty of Letters should acquire.

Work to be done outside of class : Students are expected to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations and business is required from time to time. Students are encouraged to do their own preparatory study according to their own needs. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria : The standard assessment is 50% of the ordinary marks, including the reaction paper, and 50% of the content of the final report.

Others : It is recommend taking Expression and Copyright A and B throughout the year.

LIT100BC (文学 / Literature 100)

## 古文・漢文の基礎

栗山 元子

授業コード：A2604 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古文や漢文を読み解くのに必要な基礎的な知識を学びなおし、より発展的なものとするを旨とします。具体的には例題を毎回配布し、それを解いてもらった後に答え合わせをする、その積み重ねの中で文法的な知識を確実なものとしていきます。また古文漢文の作品について、文学史的な流れの中での位置づけ、作家と作品などの基礎情報についても確認していきます。授業の前半回では古文を、後半回では漢文を取り上げます。取り上げる作品は中学高校などで教材として取り上げられるものを中心に扱います。

## 【到達目標】

- ①古典や漢文を読むにあたって必要な文法についての学びを深め、正確な理解ができる力を養います。
- ②古文・漢文を理解するのに役立つ基礎知識の幅を広げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

・毎回講師作成のプリントなどの教材を準備します。授業は対面で行います。

・授業内で問題を解き、解説していきます。授業に関連した復習問題を14回分ホッピー上にあげますので、指定期間内にそれを解き提出してもらいます。

・復習問題に対するフィードバックは次回の授業の冒頭で行います。触れられなかったことや質問などに対する回答などは、まとまった時間を第七回や第十四回などに設けてそこで行うことにします。メールでの質問などは常時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                          | 内容                                               |
|-----|------------------------------|--------------------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション                    | 授業内容・方針についての説明                                   |
| 第2回 | 古文の文法を確認する①ー助動詞の意味の確認        | 助動詞の時間表現などを中心に確認していきます。                          |
| 第3回 | 古文の文法を確認する②ー助動詞・助詞などの意味の見分け方 | 多くの意味を持つ助動詞について、意味の取り方などを確認していきます。また助詞についても扱います。 |
| 第4回 | 古文の文法を確認する③ー品詞の確認            | 古文の教材を読んでいく中で品詞を確認し、まぎらわしいものを見分け方などを確認します。       |
| 第5回 | 古文の文法を確認する④ー敬語の復習            | 古文を読む上で難しい敬語の問題について確認していきます。                     |
| 第6回 | 和歌についての基礎知識を確認する             | 和歌の修辞や和歌を詠むにあたっての基礎知識を確認していきます。                  |
| 第7回 | 前半のふりかえりとまとめ                 | 前半のふりかえりとまとめを行い、手薄であったところや説明を加えるべきところを補足します。     |
| 第8回 | 漢文を読むための基礎知識の確認①             | 漢文についての基礎知識である「音と訓」「漢文の語順」「書き下し文」などについての確認を行います。 |

|      |                               |                                                         |
|------|-------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 第9回  | 漢文を読むための基礎知識の確認②              | 漢文の訓読についての注意点などを第八回に続いて整理・確認していきます。                     |
| 第10回 | 漢文を読むための基礎知識の確認③              | 返読文字や再読文字、使役など類出する重要事項を確認していきます。                        |
| 第11回 | 漢文を読むための基礎知識の確認④              | これまでの確認を基に漢文の教材を実際に読んでいきます。                             |
| 第12回 | 漢詩を読むための基礎知識の確認①ー詩の形式や韻など     | 漢詩を理解するための必要事項を確認していきます。                                |
| 第13回 | 漢詩を読むための基礎知識の確認②ー有名な詩や詩人などの紹介 | 第12回で学んだことを踏まえていくつかの漢詩を読み、また有名な詩人やその代表的な作品についての確認を行います。 |
| 第14回 | まとめと確認                        | 漢詩漢文についての授業の総括やフィードバックを行います。                            |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には、参考文献にあげた参考書などを各自自習し、理解を深めてください。また授業後には授業内容を整理・復習し、ホッピーに出されている授業内容に関連した課題を期限内に解き、提出をしてください（各2時間程度）。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、講師作成のプリントを毎回配布します。

## 【参考書】

○【古文・漢文文法】小田勝『古代日本語文法』（ちくま学芸文庫、2020年、1,540円）、小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫 2010年、1,540円）、塚田勝郎著『新人教師のための漢文指導 入門講座』（大修館書店、2014年、2,420円）、前野直彬著『精講 漢文』（ちくま学芸文庫 2018年、1,870円）、鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院 2018年5月 1,320円）、石原千秋監修『教科書で出会った古文漢文100』（新潮文庫 2017年、737円）など。

## 【成績評価の方法と基準】

- ①毎回の授業を踏まえての小課題を授業終了後指定期間内に提出してもらいます。
- ②また第7回古文のまとめと第14回の漢文のまとめの回で、教室内でコメントシートを作成してもらいます。これらを授業への取り組み姿勢・授業内容の理解度を計るものとして、平常点として評価していきます。
- ③成績をつけるにあたっての①と②の比重については、①が80%、②が20%の割合とし、その合算により最終的な評価とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

課題やコメントシートに書かれた疑問に対しては、次回の授業冒頭の時間などを利用して答えたり、意見なども紹介を行う形でフィードバックを行います。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:**The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge-especially grammar-necessary to read and understand Chinese and Japanese classical literature.

**Learning Objectives:** The goals of this course are to acquire and expand basic knowledge of Chinese and Japanese classical literature.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before class, students will be expected to have read the reference books listed in the bibliography. After each class, students are expected to revise the class content, and complete and submit the assignments related to the class content on the Hoppy within the deadline. These tasks take four hours each week.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on 14 assignments (80%) and a long report (20%).



BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## ゼミナール入門

坂本 勝

授業コード：A2605 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」(ゼミ)によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ(発表資料)を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表(プレゼンテーション)、質疑応答(ディスカッション)など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します(全クラス合同)。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## ゼミナール入門

中丸 宣明

授業コード：A2606 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」(ゼミ)によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

## 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ(発表資料)を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表(プレゼンテーション)、質疑応答(ディスカッション)など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します(全クラス合同)。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

## 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## ゼミナール入門

佐藤 未央子

授業コード：A2607 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」(ゼミ)によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ(発表資料)を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表(プレゼンテーション)、質疑応答(ディスカッション)など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します(全クラス合同)。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## ゼミナール入門

藤村 耕治

授業コード：A2608 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

## 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

## 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## ゼミナール入門

伊海 孝充

授業コード：A2609 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」(ゼミ)によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ(発表資料)を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表(プレゼンテーション)、質疑応答(ディスカッション)など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します(全クラス合同)。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## ゼミナール入門

田中 和生

授業コード：A2610 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」(ゼミ)によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

## 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ(発表資料)を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表(プレゼンテーション)、質疑応答(ディスカッション)など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します(全クラス合同)。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

## 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## ゼミナール入門

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2611 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」(ゼミ)によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ(発表資料)を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表(プレゼンテーション)、質疑応答(ディスカッション)など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します(全クラス合同)。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## ゼミナール入門

佐藤 未央子

授業コード：A2612 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

## 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

## 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).



BSP100BC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## ゼミナール入門

中沢 けい

授業コード：A2613 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」(ゼミ)によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

### 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ(発表資料)を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表(プレゼンテーション)、質疑応答(ディスカッション)など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ(フィードバック)は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します(全クラス合同)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版(下記のサイトからダウンロードできます)

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## ゼミナール入門

加藤 昌嘉

授業コード：A2614 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

## 【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
  2. わかりやすいレジュメを作成することができる
  3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容          |
|----|-------|-------------|
| 1  | ガイダンス | 自己紹介・課題選択など |
| 2  | 準備編①  | テーマを考える     |
| 3  | 準備編②  | 文献調査        |
| 4  | 準備編③  | ミーティング      |
| 5  | 準備編④  | レジュメの準備     |
| 6  | ガイダンス | コースとゼミ選抜の説明 |
| 7  | 発展編①  | 発表・質疑応答     |
| 8  | 発展編②  | 発表・質疑応答     |
| 9  | 発展編③  | 発表・質疑応答     |
| 10 | 発展編④  | 発表・質疑応答     |
| 11 | 応用編①  | 発表・質疑応答     |
| 12 | 応用編②  | 発表・質疑応答     |
| 13 | 応用編③  | 発表・質疑応答     |
| 14 | 応用編④  | ふりかえり       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

## 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール 1 A

遠藤 星希

授業コード：A2615 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『唐詩選』は、明代の李攀龍（1514—1570）が編纂したとされる唐詩の選集（全部で465首の詩を取録）であり、江戸時代の日本で最もよく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『唐詩選』の中から比較的短い詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

### 【到達目標】

1. 『唐詩選』についての基礎的な知識を習得する。
2. 唐詩の形式や規則を把握する。
3. 唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
4. 既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3年生と2年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                      |
|------|-------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス（1）    | 『唐詩選』と唐詩についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。 |
| 第2回  | ガイダンス（2）    | 唐詩の形式と規則についての概説。                        |
| 第3回  | ガイダンス（3）    | 中国古典文学関連の文献・資料・論文・用例の調べ方について。           |
| 第4回  | 『唐詩選』精読（1）  | 張九齡「照鏡見白髮」                              |
| 第5回  | 『唐詩選』精読（2）  | 王之涣「登鸛鶴樓」                               |
| 第6回  | 『唐詩選』精読（3）  | 王維「鹿柴」                                  |
| 第7回  | 『唐詩選』精読（4）  | 李白「早發白帝城」                               |
| 第8回  | 『唐詩選』精読（5）  | 王昌齡「西宮秋怨」                               |
| 第9回  | 『唐詩選』精読（6）  | 杜甫「秋興八首」其一                              |
| 第10回 | 『唐詩選』精読（7）  | 杜甫「蜀相」                                  |
| 第11回 | 『唐詩選』精読（8）  | 張繼「楓橋夜泊」                                |
| 第12回 | 『唐詩選』精読（9）  | 顧況「湖中」                                  |
| 第13回 | 『唐詩選』精読（10） | 杜牧「漢江」                                  |
| 第14回 | 『唐詩選』精読（11） | 太上隱者「答人」                                |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめておく。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

### 【参考書】

- ・前野直彬注解『唐詩選』上・中・下巻（岩波文庫、1961-1963）
  - ・高木正一著『唐詩選』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
  - ・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
  - ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
- その他、適宜授業中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

### 【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。

・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。

・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** *Tang-shi xuan* (*Selection of Tang Poems*) is an anthology of Tang poetry (465 poems) compiled by Li Panlong (1514-1570) during the Ming dynasty, and is known to have been a widely read Chinese classic during the Edo period in Japan. In this course, we will select and closely read relatively short poems from *Tang-shi xuan*, and while appreciating their appeal, we will complete original translations by critically examining existing Japanese translations, as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn about the social background, culture and customs during the Tang which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as the forms and rules of Tang poetry.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students will:

- A. have acquired basic knowledge about *Tang-shi xuan*;
- B. understand the form and rules of Tang poetry;
- C. have acquired basic skills for reading and understanding Tang poetry; and
- D. be able to critically examine existing translations and notes and have acquired the ability to interpret Tang poetry in an original way.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are expected to read the presentation material prior to each class. Study time will be a minimum of 4 hours per class.

**Grading Criteria/Policy:** presentations 40%; participation in discussion 20%; final paper 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール 1 B

遠藤 星希

授業コード：A2616 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『三体詩』は、南宋の周弼が編纂したとされる唐詩の選集（全部で494首の詩を収録）であり、室町時代の日本で大変よく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『三体詩』の中から代表的な詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

## 【到達目標】

- 『三体詩』についての基礎的な知識を習得する。
- 唐詩の形式や規則を把握する。
- 唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
- 既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3年生と2年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                   |
|------|-------------|--------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 『三体詩』についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。 |
| 第2回  | 春学期の復習      | 春学期で習得した知識の復習と秋学期における新たな課題の提示。       |
| 第3回  | 『三体詩』精読（1）  | 王維「雑詩」                               |
| 第4回  | 『三体詩』精読（2）  | 王維「山居即事」                             |
| 第5回  | 『三体詩』精読（3）  | 李白「行路難」其一                            |
| 第6回  | 『三体詩』精読（4）  | 李白「下終南山過斛斯山人宿置酒」                     |
| 第7回  | 『三体詩』精読（5）  | 杜甫「旅夜書懷」                             |
| 第8回  | 『三体詩』精読（6）  | 杜甫「蜀相」                               |
| 第9回  | 『三体詩』精読（7）  | 柳宗元「溪居」                              |
| 第10回 | 『三体詩』精読（8）  | 張繼「楓橋夜泊」                             |
| 第11回 | 『三体詩』精読（9）  | 劉滄「揚帝行宮」                             |
| 第12回 | 『三体詩』精読（10） | 杜牧「漢江」                               |
| 第13回 | 『三体詩』精読（11） | 杜牧「泊秦淮」                              |
| 第14回 | 『三体詩』精読（12） | 李商隱「春雨」                              |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

## 【参考書】

- 村上哲見著『三体詩』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
  - 田部井文雄著『唐詩三百首詳解』上巻・下巻（大修館書店、1988-1990）
  - 村上哲見著『漢詩と日本人』（講談社選書メチエ、1994）
  - 松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
  - 小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
  - 村上哲見著『中国文学と日本 十二講』（創文社、2013）
- その他、適宜授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすいうような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

## 【その他の重要事項】

・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。

・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。

・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** *Santi Tangshi (Tang Poetry in Three Forms)* is an anthology (494 poems) believed to have been compiled by Zhou Bi in the South Song Dynasty. It is known to have been read quite broadly in Japan during the Muromachi period. In this course, we will select and closely read exemplary poems from *Santi Tangshi*, and while appreciating their appeal, we will complete original translations by critically examining Japanese translations, as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn about the social background, culture and customs during the Tang dynasty which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as the forms and rules of Tang poetry.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students will:

- have acquired basic knowledge of *Santi Tangshi*;
- understand the form and rules of Tang poetry;
- have acquired basic skills for reading and understanding Tang poetry; and
- be able to critically examine existing translations and notes and have acquired the ability to interpret Tang poetry in an original way.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are expected to read the presentation material prior to each class. Study time will be a minimum of 4 hours per class.

**Grading Criteria/Policy:** presentations 40%; participation in discussion 20%; final paper 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール2 A

坂本 勝

授業コード：A2617 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究方法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることによって現代の持つ意味を考えていきます。

### 【到達目標】

古典文学の読み方、研究方法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に付ける。21世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。

夏休みに、飛鳥、出雲、伊勢など、上代文学ゆかりの地で合宿をします。（場所は皆さんと相談して決めます。ただし本年度は新型コロナウイルス感染症の状況次第で変更する可能性があります。）授業内容、毎回の進め方などはHoppii上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                                                 |
|------|-------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>テキストについて | 古事記について基本的な解説を行う。<br>解読の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。古事記のテキスト概説            |
| 第2回  | 研究史と参考文献について      | 古事記の研究史概説と<br>古事記研究の参考文献概説                                         |
| 第3回  | 発表と討議             | 学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの見見を目指して、読みの訓練をしていく。 |
| 第4回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第5回  | 発表内容と資料について       | 発表方法と資料作成概説                                                        |
| 第6回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第7回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第8回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第9回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第10回 | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第11回 | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第12回 | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第13回 | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第14回 | まとめ<br>レポート提出     | 教員による春学期発表の総括                                                      |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）。ともに漢字原文のついているもの。

【参考書】

参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期各1回のレポート提出(約60%)、平常点(約40%)。ゼミへの参加状況、発表なども考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

【Outline (in English)】

We study Japanese classics focusing on *Kojiki* and *Man'yōshū*. The aim of study is to acquire basic skills to write bachelor's thesis, like how to read classic literature and how to study them.

以下、A2618から貼り付ける。

**Course Outline:** We study Japanese classics focusing on *Kojiki* and *Man'yōshū*. The aim of our study is to acquire basic skills to write a bachelor's thesis, such as how to read works of classic literature and how to do research on them.

**Learning Objectives:** To learn how to study classical literature.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read materials that were dealt with or mentioned in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours for one lecture.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on a term paper (60%) and class performance (40%, evaluating participation in the seminar, presentations, etc.).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール2 B

坂本 勝

授業コード：A2618 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究方法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることによって現代の持つ意味を考えていきます。

## 【到達目標】

古典文学の読み方、研究方法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に付ける。21世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。

授業内容などについて、毎回はHoppii上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                                                 |
|------|-------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>テキストについて | 万葉集について基本的な解説を行う。<br>解読の方法、調査、研究の方法を全般に説明する。万葉集のテキスト概説             |
| 第2回  | 研究史と参考文献について      | 万葉集の研究史概説。万葉集研究の参考文献概説                                             |
| 第3回  | 発表と討議             | 学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。 |
| 第4回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第5回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第6回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第7回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第8回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第9回  | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第10回 | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第11回 | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第12回 | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第13回 | 発表と討議             | グループ発表と個人発表                                                        |
| 第14回 | まとめ<br>レポート提出     | 教員による秋学期発表の総括                                                      |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

古事記 (岩波文庫など)、万葉集 (講談社文庫など)

## 【参考書】

参考文献は授業の中で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期各1回のレポート提出(約60%)、平常点(約40%)。ゼミへの参加状況、発表なども考慮して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We study Japanese classics focusing on *Kojiki* and *Man'yōshū*. The aim of our study is to acquire basic skills to write a bachelor's thesis, such as how to read works of classic literature and how to do research on them.

**Learning Objectives:** To learn how to study classical literature.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read materials that were dealt with or mentioned in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours for one lecture.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール3 A

加藤 昌嘉

授業コード：A2619 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』を精読し、様々な問題点について議論します。

### 【到達目標】

◆以下の力を養うことを目標とします。

- 1、『源氏物語』の本文を読解する力
- 2、問題点を発見し、深く調査する力
- 3、わかりやすい発表を行う力
- 4、皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

◆担当者が問題点を整理して発表し、皆で議論します。

◆フォローアップ（フィードバック）は、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ   | 内容       |
|----|-------|----------|
| 1  | ガイダンス | 『源氏物語』概説 |
| 2  | ガイダンス | 注釈書、図書館  |
| 3  | 桐壺①   | A班発表     |
| 4  | 桐壺②   | B班発表     |
| 5  | 若紫①   | C班発表     |
| 6  | 若紫②   | D班発表     |
| 7  | 若紫③   | E班発表     |
| 8  | 紅葉賀①  | F班発表     |
| 9  | 紅葉賀②  | G班発表     |
| 10 | 紅葉賀③  | H班発表     |
| 11 | 花宴    | I班発表     |
| 12 | 帯木①   | J班発表     |
| 13 | 帯木②   | K班発表     |
| 14 | まとめ   | 秋学期の班決め  |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆『源氏物語』第1部を読み進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

◆注釈テキストは、以下のいずれかを座右に置いてください。

◎柳井滋ほか『源氏物語』1、2（岩波文庫）

◎玉上琢彌『源氏物語 現代語訳付き』1、2（角川ソフィア文庫）

◎石田穰二ほか『新潮日本古典集成 源氏物語』1、2（新潮社）

### 【参考書】

◆最初は、以下のような現代語訳を読むことを勧めます。

◎大塚ひかり『源氏物語』1、2（ちくま文庫）

◎角田光代『源氏物語』1、2（河出文庫）

◎林望『謹訳源氏物語 改訂新修』1、2（祥伝社文庫）

◎瀬戸内寂聴『源氏物語』1、2（講談社文庫）

◆平安時代の文化・政治・宗教・地理などを知りたいときは、以下の事典を引きましょう。

◎倉田実編『平安大事典—図解でわかる「源氏物語」の世界—』（朝日新聞出版）

### 【成績評価の方法と基準】

◆プレゼンの出来（50%）

◆ディスカッション参加度（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

◆9月初頭、希望者のみで、ゼミ旅行を実施します（京都など。寺社巡り、装束体験など）。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** In this class, we will read *The Tale of Genji* and discuss issues related to its content.

**Learning Objectives:** The objective is to develop competency in the following four areas:

- reading ancient texts accurately;
- discovering and deeply investigating problems;
- giving clear presentations; and
- discussing various issues with others

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are expected to read the first part of *The Tale of Genji*. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on the quality of presentations (50%), and degree of participation in discussion (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール3 B

加藤 昌嘉

授業コード：A2620 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』を精読し、様々な問題点について議論します。

## 【到達目標】

◆以下の力を養うことを目標とします。

- 1、『源氏物語』の本文を読解する力
- 2、問題点を発見し、深く調査する力
- 3、わかりやすい発表を行う力
- 4、皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

◆担当者が問題点を整理して発表し、皆で議論します。

◆フォローアップ（フィードバック）は、授業中に行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ     | 内容       |
|----|---------|----------|
| 1  | ガイダンス   | 『源氏物語』概説 |
| 2  | 帯木③     | L班発表     |
| 3  | 空蝉      | M班発表     |
| 4  | 夕顔①     | N班発表     |
| 5  | 夕顔②     | O班発表     |
| 6  | 末摘花     | P班発表     |
| 7  | 葵①      | Q班発表     |
| 8  | 葵②      | R班発表     |
| 9  | 葵③      | S班発表     |
| 10 | 賢木①     | T班発表     |
| 11 | 賢木②     | U班発表     |
| 21 | 賢木③     | V班発表     |
| 13 | まとめ     | 来年度の解説   |
| 14 | 卒業論文の準備 | 卒論テーマ発表  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆『源氏物語』第1部を読み進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

◆注釈テキストは、以下のいずれかを座右に置いてください。

◎柳井滋ほか『源氏物語』1、2（岩波文庫）

◎玉上琢彌『源氏物語 現代語訳付き』1、2（角川ソフィア文庫）

◎石田穰二ほか『新潮日本古典集成 源氏物語』1、2（新潮社）

## 【参考書】

◆以下の入門書・解説書を推薦します。

◎竹内正彦監修『図説あらすじと地図で面白いほどわかる！源氏物語』（青春新書）

◎高木和子『源氏物語を読む』（岩波新書）

◎三田村雅子『源氏物語—物語空間を読む—』（ちくま新書）

◎工藤重矩『源氏物語の結婚』（中公新書）

## 【成績評価の方法と基準】

◆プレゼンの出来（50%）

◆ディスカッション参加度（50%）

## 【学生の意見等からの気づき】

◆源氏絵を使って、装束や建物などの理解を深めます。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** In this class, we will read *The Tale of Genji* and discuss issues related to its content.

**Learning Objectives:** The objective is to develop competency in the following four areas:

- reading ancient texts accurately;
- discovering and deeply investigating problems;
- giving clear presentations; and
- discussing various issues with others

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are expected to read the first part of *The Tale of Genji*. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on the quality of presentations (50%), and degree of participation in discussion (50%).



LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール4 A

阿部 真弓

授業コード：A2621 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学のみならず、美術や工芸等、日本の文化に多大な影響を及ぼした『伊勢物語』を取り上げ、ゼミナール形式で読解し、諸問題について考えます。

逐語的に注釈、現代語訳を施し、その章段の持つ問題（成立、享受史、他分野への影響等々）について考察します。

### 【到達目標】

- ①作品の注解作業を通して、文献調査、作品分析、考究の方法等、日本古典文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ②プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ③ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。
- ④簡単なくずし字が読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生（ペア）が担当章段について調べ、考察したことを、作成した資料を用いながら発表し、ゼミ生同士で討論します。各発表後、資料の扱い方、研究方法、考察の注意点等々、レポート執筆上のポイントについて教員からコメントします。

その他、変体仮名解読練習等を行います。

また、夏休み中にゼミ合宿をする予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容                |
|------|----------|-------------------|
| 第1回  | ガイダンス(1) | 『伊勢物語』概説          |
| 第2回  | ガイダンス(2) | 研究上の課題・発表項目に関する解説 |
| 第3回  | 変体仮名解読練習 | 変体仮名についての解説       |
| 第4回  | 変体仮名解読練習 | 変体仮名の解読           |
| 第5回  | 『伊勢物語』読解 | 発表と討論             |
| 第6回  | 『伊勢物語』読解 | 発表と討論             |
| 第7回  | 『伊勢物語』読解 | 発表と討論             |
| 第8回  | 『伊勢物語』読解 | 発表と討論             |
| 第9回  | 『伊勢物語』読解 | 発表と討論             |
| 第10回 | 『伊勢物語』読解 | 発表と討論             |
| 第11回 | 『伊勢物語』読解 | 発表と討論             |
| 第12回 | 『伊勢物語』読解 | 発表と討論             |
| 第13回 | 『伊勢物語』読解 | 発表と討論             |
| 第14回 | まとめ      | 総括とレポートの書き方について   |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞむこと。発表者以外の受講者は、発表される章段について予習をした上で授業にのぞむこと。

・テキストは影印ですので、各自、くずし字の解読練習に励んでください。

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

### 【テキスト（教科書）】

- ・笠間影印叢刊『御所本伊勢物語 冷泉為和筆 宮内庁書陵部蔵』（笠間書院、1971年）
- ・『実用変体がな』（かな研究会編、新典社、1988年）

### 【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

### 【成績評価の方法と基準】

【授業の到達目標】①～④に照らし、発表内容40%（①②④）、レポート40%（①②③）、討論への参加状況20%（②）という配分で、総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

### 【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。

ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course deals with *The Tales of Ise* (伊勢物語 *Ise monogatari*).

**Learning Objectives:** The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: oral presentation (40%); term-end report (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール4 B

阿部 真弓

授業コード：A2622 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代中期の『更級日記』（菅原孝標女）を取り上げ、ゼミナール形式で読解、考察します。

物語オタクの少女が、さまざまな厳しい現実と直面しながら成長し、夢破れて、やがて仏教信仰に傾倒しながらも、どこか物語の世界への憧憬を捨てきれない作者の姿に、文学部所属のゼミの皆さんはきっと共感を覚えることでしょう。

各自、『更級日記』をしっかりと読み込み、疑問点や解明したい点を自ら見だし、適切な資料を用いて考察した結果を発表します。そして提示された問題について、ゼミのメンバーで討論していきます。また、当授業では、卒業論文執筆・提出に向けた準備を行っていきます。

## 【到達目標】

- ①自らテーマを選び、考究する力を養う。
- ②文献調査、作品分析、考究の方法等、日本古典文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ④ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生各自がテーマを選び、調べ、考察したことを発表し、ゼミ生同士で討論します。各発表後、資料の扱い方、研究方法、考察の注意点等々、レポート執筆上のポイントについて教員からコメントします。

その他、卒業論文ミニ発表会等を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                |
|------|-----------|-------------------|
| 第1回  | ガイダンス(1)  | 『更級日記』概説          |
| 第2回  | ガイダンス(2)  | 研究上の課題・発表項目に関する解説 |
| 第3回  | 図書館ガイダンス  | 文献調査方法に関する説明・実習   |
| 第4回  | 『更級日記』研究  | 発表と討論             |
| 第5回  | 『更級日記』研究  | 発表と討論             |
| 第6回  | 『更級日記』研究  | 発表と討論             |
| 第7回  | 『更級日記』研究  | 発表と討論             |
| 第8回  | 『更級日記』研究  | 発表と討論             |
| 第9回  | 『更級日記』研究  | 発表と討論             |
| 第10回 | 『更級日記』研究  | 発表と討論             |
| 第11回 | 『更級日記』研究  | 発表と討論             |
| 第12回 | 『更級日記』研究  | 発表と討論             |
| 第13回 | 卒業論文について  | 卒業論文執筆に関する説明      |
| 第14回 | 卒業論文ミニ発表会 | 3年生による卒業論文テーマの発表  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞみ、発表者以外の受講者は、事前に配布されたレジュメを読み、発表内容について予習をした上で授業にのぞみましょう。

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

## 【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫47『更級日記 現代語訳付き』（原岡文字訳注、角川学芸出版、2003年）

## 【参考書】

角川ソフィア文庫86『更級日記 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』（川村裕子編、角川学芸出版、2007年）

その他、授業中に参考文献リストを配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

【授業の到達目標】①～④に照らし、発表内容40%（①②③）、レポート40%（①②④）、討論への参加状況20%（③）という配分で、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

## 【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course deals with *The Sarashina Diary* (更級日記 Sarashina Nikki).

**Learning Objectives:** The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature. It also enhances the development of students' skill in giving oral presentations and participating in discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: oral presentation (40%); term-end report (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール5 A

小秋元 段

夜間時間帯

授業コード：A2623 | 曜日・時限：金6/Fri.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。『平家物語』をとりあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

### 【到達目標】

本科目の到達目標は、以下の3項目にある。

1. 『平家物語』について、その内容を正確に理解すること。
2. 先行研究の批判、諸本の差違の考察、資料との比較などを通じて、虚構化された作品世界の特徴を理解すること。
3. 自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

『平家物語』を教材とする。2～3名でグループを作り、グループごとに希望する章段をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、資料を作成し、発表・討論する。そのうえで教員も講評を行う。また、夏期休業中にはレポートも執筆してもらう。レポートに対しては学生・教員による合評を行う。なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーで応じるほか、電子メール、Zoomで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                              |
|------|-------------------|-------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | 春学期の授業内容の紹介。                                    |
| 第2回  | 『平家物語』について<br>(1) | 作品の概要、成立、作者の解説。                                 |
| 第3回  | 『平家物語』について<br>(2) | 諸本の解説。                                          |
| 第4回  | 研究方法について          | 先行研究の検索方法についての解説。                               |
| 第5回  | 模擬演習 (1)          | 『平家物語』の複数の章段を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。 |
| 第6回  | 模擬演習 (2)          | 『平家物語』の複数の章段を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。 |
| 第7回  | 発表準備 (1)          | グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。    |
| 第8回  | 発表準備 (2)          | グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。    |
| 第9回  | 発表準備 (3)          | グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。    |
| 第10回 | 発表準備 (4)          | グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。    |
| 第11回 | 発表 (1)            | 第一グループによる『平家物語』に関する研究の発表。                       |
| 第12回 | 発表 (2)            | 第二グループによる『平家物語』に関する研究の発表。                       |
| 第13回 | 発表 (3)            | 第三グループによる『平家物語』に関する研究の発表。                       |
| 第14回 | 発表 (4)            | 第四グループによる『平家物語』に関する研究の発表。                       |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備を授業時間以外に行ってもらおう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』上・下（三弥井書店、1993・2000年）

【参考書】

大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）  
延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈』巻一～十二（汲古書院、2005～19年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の討論の状況、研究発表の内容に1/2ずつの比重を置く。なお、欠席は2回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】

「模擬演習」を積極的に行いたいという要望があったので、これに対応して授業を進める。

【その他の重要事項】

例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。

|        |                  |
|--------|------------------|
| 2007年度 | 京都               |
| 2008年度 | 厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口） |
| 2009年度 | 平泉（岩手）           |
| 2010年度 | 太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）  |
| 2011年度 | 京都               |
| 2012年度 | 呉、厳島神社（広島）       |
| 2013年度 | 京都               |
| 2014年度 | 松江、出雲、大森銀山       |
| 2015年度 | 京都               |
| 2016年度 | 札幌、小樽            |
| 2017年度 | 京都               |
| 2018年度 | 太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）  |
| 2019年度 | 京都               |
| 2020年度 | 実施せず             |
| 2021年度 | 実施せず             |
| 2022年度 | 京都               |
| 2023年度 | 伊豆・箱根            |

【Outline (in English)】

**Course Outline:** In this course, we will read *Heike monogatari* (*The Tale of the Heike*).

**Learning Objectives:** The goals of this course are to understand *Heike monogatari* and the methods for studying it.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Final grades will be calculated as follows: research presentation (50%) and in-class contribution (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール5 B

小秋元 段

### 夜間時間帯

授業コード：A2624 | 曜日・時限：金6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。お伽草子を取りあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

### 【到達目標】

本科目の到達目標は、以下の3項目にある。

1. お伽草子について、その内容を正確に理解すること。
2. 先行研究の批判、諸本の差違の考察、他作品との比較などを通じて、作品世界の特徴を理解すること。
3. 自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

お伽草子を教材とする。2～3名でグループを作り、グループごとに希望する作品を取りあげ、その内容について調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、資料を作成し、発表・討論する。そのうえで教員も講評を行う。なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーに応じるほか、電子メール、Zoomで対応する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                            |
|------|-------------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 秋学期の授業内容の紹介。                                  |
| 第2回  | お伽草子について（1） | 作品の概要、成立、作者の解説。                               |
| 第3回  | お伽草子について（2） | 中世文芸とお伽草子に関する解説。                              |
| 第4回  | 夏期レポートの講評   | 夏期レポートについて学生間で読み合わせをし、講評を行う。                  |
| 第5回  | 模擬演習（1）     | お伽草子の複数の作品を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。 |
| 第6回  | 模擬演習（2）     | お伽草子の複数の作品を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。 |
| 第7回  | 発表準備（1）     | グループ発表に向けて、対象とするお伽草子の作品についてディスカッション、調査を行う。    |
| 第8回  | 発表準備（2）     | グループ発表に向けて、対象とするお伽草子の作品についてディスカッション、調査を行う。    |
| 第9回  | 発表準備（3）     | グループ発表に向けて、対象とするお伽草子の作品についてディスカッション、調査を行う。    |
| 第10回 | 発表準備（4）     | グループ発表に向けて、対象とするお伽草子の作品についてディスカッション、調査を行う。    |
| 第11回 | 発表（1）       | 第一グループによるお伽草子に関する研究の発表。                       |
| 第12回 | 発表（2）       | 第二グループによるお伽草子に関する研究の発表。                       |
| 第13回 | 発表（3）       | 第三グループによるお伽草子に関する研究の発表。                       |
| 第14回 | 発表（4）       | 第四グループによるお伽草子に関する研究の発表。                       |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備を授業時間以外に行ってもらう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

市古貞次校注 日本古典文学大系『御伽草子』（岩波書店、1958年）

### 【参考書】

徳田和夫編『お伽草子事典』（東京堂出版、2002年）

神田龍身・西沢正史編『中世王朝物語・御伽草子事典』（勉誠出版、2002年）

### 【成績評価の方法と基準】

授業時の討論の状況、研究発表、夏期レポートの内容に1/3ずつの比重を置く。なお、欠席は2回までしか認めない。

### 【学生の意見等からの気づき】

「模擬演習」を積極的にやりたいという要望があったので、これに対応して授業を進める。

### 【その他の重要事項】

例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。

|        |                  |
|--------|------------------|
| 2007年度 | 京都               |
| 2008年度 | 厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口） |
| 2009年度 | 平泉（岩手）           |
| 2010年度 | 太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）  |
| 2011年度 | 京都               |
| 2012年度 | 呉、厳島神社（広島）       |
| 2013年度 | 京都               |
| 2014年度 | 松江、出雲、大森銀山       |
| 2015年度 | 京都               |
| 2016年度 | 札幌、小樽            |
| 2017年度 | 京都               |
| 2018年度 | 太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）  |
| 2019年度 | 京都               |
| 2020年度 | 実施せず             |
| 2021年度 | 実施せず             |
| 2022年度 | 京都               |
| 2023年度 | 伊豆・箱根            |

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** In this course, we will read Otogi-zoshi.

**Learning Objectives:** The goals of this course are to understand Otogi zoshi and the methods for studying it.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Final grades will be calculated as follows: research presentation (1/3), in-class contribution (1/3), and report (1/3).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール6 A

神林 尚子

授業コード：A2625 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。  
近世の文学は、韻文・散文・演劇、雅・俗、和・漢と多岐にわたります。今回の講義では、近世の演劇（歌舞伎または浄瑠璃）のうち、代表的な作品の中から一つを選んで読解を行います。  
(このテーマは新3年生の話し合いで決めたものです)

### 【到達目標】

- (1) 辞書を引きて語釈をつけたり、その他の資料を調べたりしながら作品を精読する方法を身につける。
- (2) 研究成果を他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
- (3) 作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
- (4) 考察をしっかりした構成と体裁をもつレポートに仕上げられる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

作品概要や研究法を全体で学んだあと、4チームに分かれて担当範囲を決め、その概要と主題などについて研究を進めてもらいます。  
各チームの発表ののち、それについてディスカッションします。  
それを受けて各チームでは研究を深めて補足の発表をします。  
教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ    | 内容                                           |
|------|--------|----------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス① | 目標・進め方の確認・各種役割の決定                            |
| 第2回  | ガイダンス② | 発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について                  |
| 第3回  | 準備①    | チーム内で分担した本文の内容を紹介し合い、梗概を把握、担当する場面の見どころを話し合う。 |
| 第4回  | 準備②    | チームごとに話し合いをふまえて発表の大枠を決定、分担する。                |
| 第5回  | 発表①    | 第1チームの発表                                     |
| 第6回  | 発表②    | 第2チームの発表                                     |
| 第7回  | 発表③    | 第3チームの発表                                     |
| 第8回  | 発表④    | 第4チームの発表                                     |
| 第9回  | 発表⑤    | 第1チームの発表・2回目                                 |
| 第10回 | 発表⑥    | 第2チームの発表・2回目                                 |
| 第11回 | 発表⑦    | 第3チームの発表・2回目                                 |
| 第12回 | 発表⑧    | 第4チームの発表・2回目                                 |
| 第13回 | まとめ    | 作品の特徴についての総合的な考察                             |
| 第14回 | ふりかえり  | 春学期をふりかえり、秋学期のすすめ方や作品を考える                    |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分のチームの担当箇所以外も、毎週事前にテキストを読んできましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

前期に読む作品とそのテキスト（活字翻刻・注釈）については、講義の際に協議した上で決定します。

### 【参考書】

『歌舞伎オン・ステージ』（白水社、1985～2008年）  
その他、講義時に適宜紹介します。複数の翻刻・注釈がある作品については、できれば複数の文献を読み比べた上で、場面の読解や解釈を探究しましょう。

### 【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（35%）、各期末のレポート（4000字程度・35%）、発言その他のゼミへの貢献度（30%）で総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生間での意見交換が活発にできるように、話し合いでは小グループ→全体という流れを継続します。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料共有を行うので、パソコンが使えるように用意しましょう。タブレットでも差し支えありませんが、卒論までにはキーボードやワードに習熟するようにしてください。

### 【その他の重要事項】

ゼミは学生が主体で運営するものです。毎回の出席はみんなでもりあげるため、当然の前提です。積極的な参加を期待しています。

ゼミの発表準備、研究発表によって、必要な情報を収集し、その要点を把握し、それらを批判的に検討して発信する力、更にはそれを論理的な文章にまとめあげる力をやしなうことは、将来の就業力育成にもつながります。またゼミ運営自体が他人と協働する経験です。

意識的に、こうした社会で求められる力を養っていきましょう。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We study early modern (Tokugawa period) literature, focusing on *Kabuki* or *Joruri* plays.

**Learning Objectives:** The goals of this course are to learn how to read works of the period, discuss them, and communicate one's analysis to others orally and in the form of a report.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Preparing presentations on allocated sections. In addition, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting.

**Grading Criteria/Policy:** Presentation in class (35%); final report (35%); and attitude in class (30%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール6 B

神林 尚子

授業コード：A2626 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。  
秋学期のテーマや進め方は、春学期の様子をふまえ、話し合いで決定します。  
関心の近い学生同士でグループを作って研究発表を行うと、卒論につながる関心が育つように思いますが、具体的にどう進めるのがよいか、講義内で議論して決めましょう。

## 【到達目標】

- (1) 既存の注釈を、各種の文献に照らして再検討しながら、作品を精読する方法を身につける。
- (2) 研究成果を口頭で効果的に他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
- (3) 作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
- (4) 近世文学史について一通りの知識を身につけ、各自、卒業論文で取り組みたい作者・作品を見出す。(2年間を通じて)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

チームを作り、チームごとに作品を選び、テーマを決めて発表します。  
各学期に1チーム2回発表。  
発表チームは取り上げる作品について既存の注釈や先行研究と対照して点検した上で発表し、それについて皆で議論します。  
教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ    | 内容                          |
|------|--------|-----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス① | 目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定      |
| 第2回  | ガイダンス② | 発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について |
| 第3回  | チーム①   | 作品の概要紹介                     |
| 第4回  | チーム①   | 研究発表                        |
| 第5回  | チーム②   | 作品の概要紹介                     |
| 第6回  | チーム②   | 研究発表                        |
| 第7回  | チーム③   | 作品の概要紹介                     |
| 第8回  | チーム③   | 研究発表                        |
| 第9回  | チーム④   | 作品の概要紹介                     |
| 第10回 | チーム④   | 研究発表                        |
| 第11回 | チーム⑤   | 作品の概要紹介                     |
| 第12回 | チーム⑤   | 研究発表                        |
| 第13回 | チーム⑥   | 作品の概要紹介                     |
| 第14回 | チーム⑥   | 研究発表                        |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

他のチームの発表の場合も、各自、前もってテキストの該当箇所に目を通し、問題点がどこにあるかを考えてきましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業内の学生の決定に従って、指定する。

## 【参考書】

『新版 近世文学研究事典』（おうふう 2006年）／『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019年）  
作品やテーマ選びの参考にしましょう！

## 【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（35%）、各期末のレポート（4000字程度・35%）、また授業冒頭の文学史スピーチ（いずれかの学期に1回）や発言その他のゼミへの貢献度（30%）で総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の際に質問を出すポイントについて、あらかじめ考える機会を設けたいと思います。  
卒業論文への関心を育てるように参考文献などを積極的に提示するようにします。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料共有や意見交換などをします。

## 【その他の重要事項】

みなさんそれぞれが個人として成長するとともに、グループの一員として協働する力を伸ばしていってくださることを期待しています！

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We study early modern (Tokugawa period) literature.  
**Learning Objectives:** The goals of this course are to learn how to read works of the period, discuss them, and communicate one's analysis to others orally and in the form of a report.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Preparing presentations on allocated sections. In addition, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting.

**Grading Criteria/Policy:** Presentation in class (35%); final report (35%); and attitude in class (30%).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

## ゼミナールA

### スティーヴン ネルソン

授業コード：A2627 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本年度のゼミのテーマは「『源氏物語』と音楽」とします。これには：1)『源氏物語』の中の音楽、2)『源氏物語』と同時代(10世紀～11世紀初頭)の音楽史との関係、3)『源氏物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響(源氏能、箏組歌など)の事柄が含まれます。春学期はまず『源氏物語』第一部の、いわゆる紫上系の巻々の音楽場면을研究対象とし、特に音楽関係の用語に注意を払いながら、その場面場面の内容を「正しく読む」ことを目的とします。

#### 【到達目標】

- ・『源氏物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
- ・問題点を発見し、詳しく調査した上で、自らの見解が述べられること
- ・発表が明快に行えること
- ・問題点について客観的に討論できること
- ・万葉仮名や変体仮名がある程度読めるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第5回以降は学生による口頭発表が中心になります。班(数名)ごとに発表してもらい、質疑応答を行います。発表に対するフィードバックはその場で行い、期末レポートや楽譜課題は赤字コメント入りのものを次学期の第1回授業までに返却します。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合わせた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                                             |
|------|--------------------|------------------------------------------------|
| 第1回  | 自己紹介・序説            | 自己紹介(全員)、教員による授業の進め方の説明、ゼミ名簿作成、発表スケジュールの調整など   |
| 第2回  | ガイダンス①             | 紫式部と音楽<br>音楽場面の調査方法について                        |
| 第3回  | ガイダンス②<br>平安時代の音楽① | 『源氏物語』に現れる楽器とその楽譜<br>年中行事や社寺の音楽                |
| 第4回  | ガイダンス③<br>平安時代の音楽② | 管絃(御遊)、舞楽、国風歌舞<br>種々の声楽曲、詩歌の朗誦、催馬楽、風俗歌など       |
| 第5回  | 「桐壺」・「若紫」巻について     | 音楽理論(呂律、時の調子)<br>梗概と音楽場面の紹介<br>発表(A班)と討論 第10段  |
| 第6回  | 「若紫」巻を読む①          | 発表(B班)と討論 第19段                                 |
| 第7回  | 「紅葉賀」巻について         | 梗概と音楽場面の紹介                                     |
| 第8回  | 「紅葉賀」巻を読む①         | 発表(C班)と討論 第1～3段                                |
| 第9回  | 「紅葉賀」巻を読む②         | 発表(C班)と討論 第1～3段(続き)                            |
| 第10回 | 「紅葉賀」巻を読む③         | 発表(D班)と討論 第11段                                 |
| 第11回 | 「紅葉賀」巻を読む④         | 発表(E班)と討論 第14段                                 |
| 第12回 | 「紅葉賀」巻を読む⑤         | 発表(F班)と討論 第15段                                 |
| 第13回 | 「花宴」巻について          | 梗概と音楽場面の紹介                                     |
| 第14回 | 「花宴」巻を読む①          | 発表(G班)と討論 第1段                                  |
| 第15回 | 「花宴」巻を読む②          | 発表(H班)と討論 第5段                                  |
| 第16回 | 「花宴」巻を読む③          | 発表(I班)と討論 第6段<br>ゼミ4年生による中間発表<br>期末レポート・楽譜課題提出 |

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 第1回 5分程度の事項紹介を用意し、授業に期待することことが述べられるようにしておくこと。
  - 第2～4回 事前配付の資料を読んでくること。
  - 第5回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成。
  - 第14回 期末レポート・楽譜課題作成。
- 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト(教科書)】

阿部秋生他 校注・訳『源氏物語』①(小学館新編日本古典文学全集、全6冊のうち)。Japan Knowledgeで閲覧可。

#### 【参考書】

秋山虔他 編『源氏物語図典』(小学館)  
小町谷照彦・倉田実 編著『王朝文学文化歴史大事典』(笠間書院)

今井源衛『源氏物語への招待』(小学館)  
遠藤徹 構成『雅楽』(平凡社、別冊太陽)

#### 【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション(詳しく調査した結果を明快に発表できたか)40%、平常点とディスカッション(毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか)35%、レポートと楽譜課題(論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか)25%

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

内容的に深く関わるので、2年次までに特講(11)「音楽芸能史A」の単位取得を済ませることが望ましいです。

#### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This is an undergraduate seminar on the music of *The Tale of Genji*. This topic includes: 1. the depiction of music in the tale; 2. its relationship to the music history of the time it depicts (10th to early 11th century); and 3. the influence of the tale on later genres of performing arts, including *nō* and *sōkyoku* (music for 13-stringed zither *koto* of the early modern period). In the spring semester, introductory lectures by the instructor are followed by close reading of sections from the chapters *Wakamurasaki* ('Young Murasaki') to *Hana no en* ('Under the Cherry Blossoms').

**Learning Objectives:** Through this study of music in *The Tale of Genji*, seminar students learn to identify research issues, undertake basic research, give effective presentations, and participate actively in critical, objective debate. They also learn to read old written Japanese of various types, and traditional music notation.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are expected to read materials distributed ahead of class by the instructor for the first few lessons, to prepare their presentations on passages from the tale, and then to write a final paper on a topic developed in consultation with the instructor during the semester.

**Grading Criteria/Policy:** presentations 40%; participation in discussion 35%; final paper and music assignment (transnotation) 25%.

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

## ゼミナール7 B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2628 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本年度のゼミのテーマは「『源氏物語』と音楽」とします。これには：1)『源氏物語』の中の音楽、2)『源氏物語』と同時代(10世紀～11世紀初頭)の音楽史との関係、3)『源氏物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響(源氏能、箏組歌など)の事柄が含まれます。秋学期では、春学期で行った『源氏物語』第一部の、いわゆる紫上系の巻々の音楽場面の精読を続けるとともに、その影響を受けて成立した源氏能と箏組歌の例を取り上げ、影響の有り様を明らかにします。

## 【到達目標】

- ・『源氏物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
- ・問題点を発見し、詳しく調査した上で、自らの見解が述べられること
- ・発表が明快に行えること
- ・問題点について客観的に討論できること
- ・万葉仮名や変体仮名がある程度読めるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第3回以降は学生による口頭発表が中心になります。班(数名)ごとに発表してもらい、質疑応答を行います。発表に対するフィードバックはその場で行い、期末レポートや楽譜課題は赤字コメント入りのものを次学期の第1回授業までに返却します。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合せた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                            |
|------|-----------------------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス①                | 春学期レポートの講評、秋学期発表スケジュールの調整<br>源氏物語 音楽研究史概説     |
| 第2回  | ガイダンス②                | 古注釈と音楽                                        |
| 第3回  | 「葵」・「賢木」・「花散里」巻について   | 梗概と音楽場面の紹介<br>発表(A班)と討論 「賢木」第32段、<br>「花散里」第2段 |
| 第4回  | 「須磨」巻について             | 梗概と音楽場面の紹介<br>発表(B班)と討論 第16・18段               |
| 第5回  | 「明石」巻について             | 梗概と音楽場面の紹介<br>発表(C班)と討論 第8段                   |
| 第6回  | 「明石」巻を読む②             | 発表(D班)と討論 第13・17段                             |
| 第7回  | 「滯標」巻について             | 梗概と音楽場面の紹介<br>発表(E班)と討論 第11段                  |
| 第8回  | 「絵合」・「松風」巻について。       | 梗概と音楽場面の紹介<br>発表(F班)と討論 第5・9段                 |
| 第9回  | 「松風」巻を読む<br>「薄雲」巻について | 発表(G班)と討論 第9段                                 |
| 第10回 | ガイダンス③                | 『源氏物語』の影響を受けて成立した作品に対する調査方法について               |
| 第11回 | 能《野宮》①                | 発表(H班)と討論                                     |
| 第12回 | 能《野宮》②                | 発表(I班)と討論                                     |
| 第13回 | 箏組歌《菜路》(ふき)           | 発表(J班)と討論                                     |
| 第14回 | 箏組歌《若葉》・《明石》          | 発表(J班)と討論<br>期末レポート・楽譜課題提出                    |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 第1、2、10回 事前配付の資料を読んでくること。
  - 第3回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成。
  - 第14回 期末レポート・楽譜課題作成。
- 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

阿部秋生他 校注・訳『源氏物語』②(小学館新編日本古典文学全集、全6冊のうち)。Japan Knowledgeで閲覧可。

【参考書】

- 秋山虔他 編『源氏物語図典』(小学館)
- 小町谷照彦・倉田実 編著『王朝文学文化歴史大事典』(笠間書院)
- 今井源衛『源氏物語への招待』(小学館)

遠藤徹 構成『雅楽』(平凡社、別冊太陽)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション(詳しく調査した結果を明快に発表できたか)40%、平点とディスカッション(毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか)35%、レポートと楽譜課題(論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか)25%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

・内容的に深く関わるので、2年次までに特講(11)「音楽芸能史B」の単位取得を済ませることが望ましいです。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** This is an undergraduate seminar on the music of *The Tale of Genji*. This topic includes: 1. the depiction of music in the tale; 2. its relationship to the music history of the time it depicts (10th to early 11th century); and 3. the influence of the tale on later genres of performing arts, including *nō* and *sōkyoku* (music for 13-stringed zither *koto* of the early modern period). In the autumn semester, introductory lectures by the instructor are followed by close reading of sections from the chapters *Sakaki* ("The Green Branch") to *Usugumo* ("Wisps of Cloud"), analysis of the *nō* play *Nonomiya*, and the *koto-kumiuta Fuki, Wakaba and Akashi*.

**Learning Objectives:** Through this study of music in *The Tale of Genji*, seminar students learn to identify research issues, undertake basic research, give effective presentations, and participate actively in critical, objective debate. They also learn to read old written Japanese of various types, and traditional music notation.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are expected to read materials distributed ahead of class by the instructor for the first few lessons, to prepare their presentations on passages from the tale, the *nō* play, and/or *koto kumiuta*, and then to write a final paper on a topic developed in consultation with the instructor during the semester.

**Grading Criteria/Policy:** presentations 40%; participation in discussion 35%; final paper and music assignment (transnotation) 25%.



LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール8A

伊海 孝充

授業コード：A2629 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多く能の作品に触れ、能楽についての理解を深める。ゼミ在籍中にできるだけ多くの作品に触れると同時に、能の歴史についても知識を蓄える。また能は室町時代に生まれた総合芸術である。古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての造詣を深めることによって、多角的に能という芸能を捉えることができるようになる。

### 【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。春学期は発表・発言するための土台作りに主眼をおき、どのような方法で調べれば、発表資料の作成ができるかを経験的に知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にグループの発表形式で進める。はじめに参考文献一覧を渡すので、それをもとに、能の作品の概要・歴史・問題点を調査した資料を作成し、口頭発表を行なう。年1、2回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、夏期は、能楽に関わる芸能の見学を兼ねて合宿に行く予定。  
授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                      |
|------|-----------|-------------------------|
| 第1回  | ガイダンス     | ゼミ生の自己紹介と年間の計画を相談。      |
| 第2回  | 能楽の基礎知識   | 能と狂言の関係とそれぞれの芸能的特質について。 |
| 第3回  | 能の種類      | 能の分類について解説する。           |
| 第4回  | 能の歴史について  | 世阿弥の功績と能作者について。         |
| 第5回  | 能の演技      | 実技体験（予定）。               |
| 第6回  | 能楽研究事始（1） | 研究の方法と実践。               |
| 第7回  | 能楽研究事初（2） | 「本説」と他芸能との関係。           |
| 第8回  | 謡曲精読（1）   | 脇能を口語訳しながら精読する。         |
| 第9回  | 謡曲精読（2）   | 修羅能を口語訳しながら精読する。        |
| 第10回 | 謡曲精読（3）   | 鬘物を口語訳しながら精読する。         |
| 第11回 | 謡曲精読（4）   | 物狂能を口語訳しながら精読する。        |
| 第12回 | 謡曲精読（5）   | 四番目物を口語訳しながら精読する。       |
| 第13回 | 謡曲精読（6）   | 鬼能を口語訳しながら精読する。         |
| 第14回 | 春学期のまとめ   | これまで精読した作品を踏まえ、全体討論。    |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主的に能楽鑑賞に行くことを勧める。能楽だけでなく、歌舞伎・人形浄瑠璃にも観劇に行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983～1988年）

### 【参考書】

『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009年）

### 【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40%  
授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40%  
学期末レポート 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度は、能楽鑑賞会など課外活動を多く実施します。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces Noh and Kyogen to students taking this course.

**Learning Objectives:** The goals of this course are to acquire basic knowledge of Noh and Kyogen and to be able to explain that knowledge to others.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students will be expected to go to see performances of Noh and Kyogen. Your study time will be more than four hours for a class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on presentations (40%), in-class contribution (40%) and term-end report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール 8 B

伊海 孝充

授業コード：A2630 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

能と狂言の個人・グループ発表を通して、能楽への理解を深める。能楽だけでなく古典文学・日本文化・様々な芸能に対する知識を深めるのは春学期同様だが、その知識をアウトプットする方法を学ぶことに主眼を置く。またゼミのメンバーと討論することで、自分が考えた能の姿を何度も考え直していくことを目指す。

## 【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。社会に出て「能楽」の魅力を伝えることができるようになることが最終目標である。またグループごとの発表を通して、調査と資料の作成の仕方を学び、口頭発表とディスカッションの能力を鍛錬する。このような技術は、社会生活のあらゆる場面で役に立つはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に個人発表形式で進める。はじめに能楽に関する基礎的知識を習得し、参考文献について学んでから、謡曲の輪読を進めていく。発表は報告を聞くだけでなく、問題点をグループごとに考えた上で、ディスカッションを行なう。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。また1、2回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、ミニ遠足を行なう予定。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                |
|------|------------------------|-------------------|
| 第1回  | ガイダンス                  | 春学期のまとめと秋学期の展望    |
| 第2回  | グループ発表—課題曲<br>1（口語訳）   | 課題曲の口語訳を行なう。      |
| 第3回  | グループ発表—課題曲<br>1（語訳）    | 重要語句の語訳を行なう。      |
| 第4回  | グループ発表—課題曲<br>1（テーマ研究） | 課題曲の関連テーマについての分析。 |
| 第5回  | グループ発表—課題曲<br>1（まとめ）   | 問題点のディスカッション。     |
| 第6回  | グループ発表—課題曲<br>2（口語訳）   | 課題曲の口語訳を行なう。      |
| 第7回  | グループ発表—課題曲<br>2（語訳）    | 重要語句の語訳を行なう。      |
| 第8回  | グループ発表—課題曲<br>2（テーマ研究） | 課題曲の関連テーマについての分析。 |
| 第9回  | グループ発表—課題曲<br>2（まとめ）   | 問題点のディスカッション。     |
| 第10回 | グループ発表—課題曲<br>3（口語訳）   | 課題曲の口語訳を行なう。      |
| 第11回 | グループ発表—課題曲<br>3（語訳）    | 重要語句の語訳を行なう。      |
| 第12回 | グループ発表—課題曲<br>3（テーマ研究） | 課題曲の関連テーマについての分析。 |
| 第13回 | グループ発表—課題曲<br>3（本説）    | 課題曲の典拠の調査。        |
| 第14回 | 第13回 グループ発表—課題曲3（まとめ）  | 問題点のディスカッション。     |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表は、グループ構成メンバーと綿密に相談し、適宜サブゼミを開いて準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983～1988年）

## 【参考書】

『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009年）

## 【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40%

授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40%

学期末レポート 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

能楽師を招いた実技講習を行いません。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces Noh and Kyogen to students taking this course.

**Learning Objectives:** The goals of this course are to acquire expert knowledge of Noh and Kyogen and to be able to explain that knowledge to others.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students will be expected to go to see performances of Noh and Kyogen. Your study time will be more than four hours for a class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on presentations (40%), in-class contribution (40%) and term-end report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール9 A

中丸 宣明

授業コード：A2631 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀・20世紀前半の日本文学の研究。化政期・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された文学・芸能・演劇をとりあげ、文学研究の方法を学ぶ。

### 【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

To acquire the basics of literary research. See "Outline and objectives."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。See "Outline and objectives."

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容          |
|------|-----------|-------------|
| 第1回  | オリエンテーション | ゼミ進行について    |
| 第2回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第3回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第4回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第5回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第6回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第7回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第8回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第9回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第10回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第11回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第12回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第13回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第14回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。必要時間は無限。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各24時間を標準とします。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

### 【テキスト（教科書）】

受講者の便宜・要請に従って、決定する。発表者は当該作品のテキストを決定し、ゼミ員に指示すること。See "Outline and objectives."

### 【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。See "Outline and objectives."

### 【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容（40%）と討議参加内容（40%）期末レポート（20%）  
Completeness of research presentation (40%), quality of discussion (40%), term-end report (20%).

### 【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

### 【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this seminar is an academic study of Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール9 B

中丸 宣明

授業コード：A2632 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ゼミナール9 Aに引き続き、19世紀・20世紀前半の日本文学の研究。化政期(19世紀前半、天保の改革まで)・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された小説・詩歌・演劇・芸能をとりあげ、文学・文化研究の方法を学ぶ。今年度は最終的に卒論にまで延長できるよう、各自の希望に合わせ、討議の結果対象作品を選択する。

## 【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化学の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

To acquire the basics of literary research. See "Outline and objectives."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容          |
|------|-----------|-------------|
| 第1回  | オリエンテーション | ゼミ進行について    |
| 第2回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第3回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第4回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第5回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第6回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第7回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第8回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第9回  | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第10回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第11回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第12回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第13回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |
| 第14回 | 各自の発表     | 担当作品についての発表 |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。準備時間は最大限の努力時間。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各24時間を標準とします。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content.

【テキスト(教科書)】

受講者の便宜・要請に従って、発表者が本文を指示する。

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容(40%) 討議に参加内容(40%)と期末レポート(20%)  
Completeness of research presentation (40%), quality of discussion (40%), term-end report (20%).

【学生の意見等からの気づき】

再発表(やりなおし)が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this seminar is an academic study of Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール 1 1 A

藤村 耕治

授業コード：A2635 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家とくに昭和から戦後を経て現代にいたるまでの作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。昭和期以降の作家・作品を取り上げ、作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

### 【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探求すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたり、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを的確に論じて表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する能力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

昭和初期から戦後にわたる作家たちの作品を一つずつ取り上げます。担当班による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピーでは不可で、ある程度の長さをもった文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。発表班は、一回ごとの発表において討論で出された意見を受けて、次回以降の発表レジュメに反映させます。最後の発表後は、期末レポート作成に向けての教員やゼミ生の意見を受けて、レポートを作成します。

また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800字程度）を毎回作成して、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。

なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもら場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。

毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環としての、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ          | 内容                                        |
|-----|--------------|-------------------------------------------|
| 第1回 | ゼミナールの進め方 I  | 発表の方法、レジュメの作成法などについてのガイダンス                |
| 第2回 | ゼミナールの進め方 II | 発表担当者、担当作品、スケジュールなどの決定                    |
| 第3回 | 戦後の文学 I      | 原民喜[夏の花]などの原爆文学（新潮文庫）①問題提起と討議             |
| 第4回 | 戦後の文学 II     | 原民喜[夏の花]などの原爆文学②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展  |
| 第5回 | 戦後の文学 III    | 原民喜[夏の花]などの原爆文学③総括とレポートへの課題               |
| 第6回 | 戦後の文学 IV     | 鳥尾敏雄[出孤島記]等終戦三部作（講談社文芸文庫他）①問題提起と討議        |
| 第7回 | 戦後の文学 V      | 鳥尾敏雄[出孤島記]等終戦三部作②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展 |
| 第8回 | 戦後の文学 VI     | 鳥尾敏雄[出孤島記]等終戦三部作③総括とレポートへの課題              |
| 第9回 | 無頼派の文学 I     | 坂口安吾[桜の森の満開の下]等説話形式の作品（講談社文芸文庫）①問題提起と討議   |

|      |              |                                                 |
|------|--------------|-------------------------------------------------|
| 第10回 | 無頼派の文学 II    | 坂口安吾[桜の森の満開の下]等説話形式の作品②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展 |
| 第11回 | 無頼派の文学 III   | 坂口安吾[桜の森の満開の下]等説話形式の作品③総括とレポートへの課題              |
| 第12回 | 第三の新人の文学 I   | 小島信夫[抱擁家族]（講談社文芸文庫文庫）①問題提起と討議                   |
| 第13回 | 第三の新人の文学 II  | 小島信夫[抱擁家族] ②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展            |
| 第14回 | 第三の新人の文学 III | 小島信夫[抱擁家族] ③総括とレポートへの課題                         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で5時間、サブゼミで2時間程度を標準とします。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講生も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3時間程度を標準とします。

一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講生全員が共有して、繰り返し読み直すこととなります。これをうけて、発表者・受講生それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうこととなります。

### 【テキスト（教科書）】

なるべく上記文庫の最新版を使用してください。

\*作品は変更となる場合もあります。

### 【参考書】

各作家の年譜を必ず参照し、作家の作品史における当該作品の位置づけを確認しましょう。また、関連する他作品やエッセイ等にもできるだけ目を通してください。

その他、必要と思われる参考文献は、適宜授業内で指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）

発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が50%、期末の作品論（レポート）の評価が20%、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が30%。これらを総合的に加味して判断します。

### 【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

### 【その他の重要事項】

発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students learn concrete methods to comprehend, analyze, and evaluate the works of many Japanese writers from the beginning of the Shōwa era through the postwar period to the present age. Through examination of the writers' lives, the subjects and motivations of their works, their historical backgrounds, influences, styles, etc., students will acquire the ability to properly evaluate them.

**Learning Objectives:** Students will discover a theme for their graduation thesis and develop the ability to write it.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** The presenter researches and examines the work, and prepares a resume. It takes about 5 hours to do this. Other students will submit a short report, which will take about 3 hours.

**Grading Criteria/Policy:** I will evaluate the level of the presentation and remarks at 50%, 20% for the final report, and 30% for the short report.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール11B

藤村 耕治

授業コード：A2636 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家たち、とくに昭和から戦後を経て現代にいたる作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

## 【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探索すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたリ、論理的に自説を展開したりする力をつけることが必要です。このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを論としての確に表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

戦後から現在にわたる作家たちの作品を一つずつ取り上げます。担当班（5名前後）による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人ごとの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの議論をもとに発表用レジюмеを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジюмеは箇条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さを持った文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。発表班は、一回ごとの発表において討議で出された意見を受けて、次回以降の発表レジюмеに反映させます。最後の発表後は、期末レポート作成に向けての教員やゼミ生の意見を受けて、レポートを作成します。

また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800字程度）を毎回作成し、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。

なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらい場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒業論文合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                                |
|------|-----------|---------------------------------------------------|
| 第1回  | ゼミナールの進め方 | 発表担当者・担当作品・スケジュールなどの決定                            |
| 第2回  | 戦後の文学の展開Ⅰ | 大江健三郎[個人的な体験]と[空の怪物アグイー]（ともに新潮文庫）①問題提起と討議         |
| 第3回  | 戦後の文学の展開Ⅱ | 大江健三郎[個人的な体験]と[空の怪物アグイー]②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展 |
| 第4回  | 戦後の文学の展開Ⅲ | 大江健三郎[個人的な体験]と[空の怪物アグイー]③総括とレポートへの課題              |
| 第5回  | 戦後の文学の展開Ⅳ | 三島由紀夫「春の雪」（新潮文庫）①問題提起と討議                          |
| 第6回  | 戦後の文学の展開Ⅴ | 三島由紀夫「春の雪」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展               |
| 第7回  | 戦後の文学の展開Ⅵ | 三島由紀夫「春の雪」③総括とレポートへの課題                            |
| 第8回  | 新本格ミステリⅠ  | 綾辻行人「十角館の殺人」（講談社文庫）①問題提起と討議                       |
| 第9回  | 新本格ミステリⅡ  | 綾辻行人「十角館の殺人」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展             |
| 第10回 | 新本格ミステリⅢ  | 綾辻行人「十角館の殺人」③総括とレポートへの課題                          |

|      |            |                                          |
|------|------------|------------------------------------------|
| 第11回 | 現代の文学Ⅰ     | 平野啓一郎「マチネの終わりに」（文春文庫）①問題提起と討議            |
| 第12回 | 現代の文学Ⅱ     | 平野啓一郎「マチネの終わりに」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展 |
| 第13回 | 現代の文学Ⅲ     | 平野啓一郎「マチネの終わりに」③総括とレポートへの課題              |
| 第14回 | 卒業論文執筆に向けて | 卒業論文ガイダンス                                |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジюмеを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で5時間、サブゼミで2時間程度を標準とします。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3時間程度を標準とします。

一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すこととなります。これをうけて、発表者・受講者それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうこととなります。

## 【テキスト（教科書）】

なるべく上記文庫の最新版を使用してください。

\*作品は変更となる場合もあります。

## 【参考書】

各作家の年譜を必ず参照し、作家の作品史における当該作品の位置づけを確認しましょう。また、関連する他作品やエッセイ等にもできるだけ目を通して下さい。

その他、必要と思われる参考文献は、適宜授業内で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）

発表とレジюмеの水準・発言内容などの平常点50%、期末の作品論（レポート）の評価が20%、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が30%。これらを総合的に加味して判断します。

## 【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

## 【その他の重要事項】

発表には周到な準備とレジюме作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students learn concrete methods to comprehend, analyze, and evaluate the works of many Japanese writers from the beginning of the Shōwa era through the postwar period to the present age. Through examination of the writers' lives, the subjects and motivations of their works, their historical backgrounds, influences, styles, etc., students will acquire the ability to properly evaluate them.

**Learning Objectives:** Students will discover a theme for their graduation thesis and develop the ability to write it.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** The presenter researches and examines the work, and prepares a resume. It takes about 5 hours to do this. Other students will submit a short report, which will take about 3 hours.

**Grading Criteria/Policy:** I will evaluate the level of the presentation and remarks at 50%, 20% for the final report, and 30% for the short report.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール12A

渋谷 百合絵

授業コード：A2637 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代文学研究の基礎的手続きを身につけながら、御伽噺、童話、児童文学作品について研究する。作品自体の言葉を丁寧に読み解くだけでなく、作者や同時代の社会的・文化的状況にも目を向け、当該作品の同時代的意味についても考察することを目指す。また時に「児童文学」をめぐる議論や文化現象についても調査を行い、近現代の児童文学がどのようにして成立し、受容されてきたかも捉えていきたい。

### 【到達目標】

自ら研究課題を設定し、近代文学研究の基礎的な手順をふまえて研究を行い、作品や文化現象について自分なりの見解を持つことができる。またこれについて発表し、議論ができる。さらに、議論の中で明らかになった課題を解決し、レポートにまとめることができる。近代文学史・近代史における「児童文学」の位置について理解し、「児童文学」とは何か、について自らの考えを獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態は演習。グループまたは個人で作品研究、発表を行い、これに対して全員で議論する。発表者は発表の一週間前までに、発表で扱う作品の本文を学習支援システムに上げ、全員が読んでくる。また参加者は自分が発表者でない場合にも、作品についての自分の読みをまとめておく。発表資料は事前に学習支援システムに上げておく。課題等の提出・フィードバックも学習支援システムを通じて行う。また年度末には、個人研究発表における議論の内容をふまえ、自分の発表を練り直したレポートを提出する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容                                                           |
|------|---------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ゼミの目標・自己紹介・グループ編成・発表順序の決定 | ゼミの目標についての確認。また、教員および学生の自己紹介。グループ編成、発表順序を決める。                |
| 第2回  | 研究の手順・資料収集の方法             | 作品研究の基本的な手順や、資料の調べ方・手段について説明する。必要であれば図書館実習を行う。               |
| 第3回  | グループ研究発表①                 | 3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。 |
| 第4回  | グループ研究発表②                 | 3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。 |
| 第5回  | グループ研究発表③                 | 3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。 |
| 第6回  | グループ研究発表④                 | 3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。 |
| 第7回  | グループ研究発表⑤                 | 3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。 |
| 第8回  | グループ研究発表⑥                 | 3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。 |
| 第9回  | グループ研究発表⑦                 | 3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。 |
| 第10回 | 卒業論文構想発表①                 | 一人につき発表15分+議論15分、3名発表。                                       |
| 第11回 | 卒業論文構想発表②                 | 一人につき発表15分+議論15分、3名発表。                                       |
| 第12回 | 卒業論文構想発表③                 | 一人につき発表15分+議論15分、3名発表。                                       |

第13回 卒業論文構想発表④ 一人につき発表15分+議論15分、3名発表。

第14回 個人研究発表3年生① 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究では、グループで協力して研究を行い、発表の準備を進めること。4年生は卒業論文で扱う題材を定め、これについて先行研究の整理、問題設定、問題に対する見直し、等をまとめ、構想発表を行う。個人研究発表についても、各自研究を進め、発表を準備を進める。なお、発表で扱われる作品は必ず事前に読み、積極的に議論に参加できるようにすること。特に作品の解釈について、自分なりの考えをまとめておく。書式と様式に注意して、レポート・論文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

発表で扱う作品本文

### 【参考書】

鳥越信編『はじめて学ぶ 日本児童文学史』ミネルヴァ書房 3,300円  
『日本近代文学大事典』日本近代文学館編（ジャパナレッジで利用可能）  
『日本児童文学大事典』大阪国際児童文学館編、大日本図書  
菅忠道『増補改訂版 日本の児童文学』大月書店  
各作家の全集・各種児童文学全集類など

### 【成績評価の方法と基準】

発表60%、議論への参加40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

### 【学生が準備すべき機器他】

授業中に指示する・「学習支援システム」

### 【その他の重要事項】

秋学期との通年履修を前提とする（春学期のみ履修の場合には、期末レポートを提出する必要がある）。4年生は卒業論文を各自進めていくこと。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

In this seminar, students acquire the basics of modern literary research and study children's literature. Students interpret the works and also consider the author and contemporary society.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

Students will be able to conduct research and make presentations based on the basics of literary research. They can also actively participate in discussions. A report can then be created based on the discussion.

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are required to read fairy tale works before class. Students must also prepare for their own presentation and write a report after the presentation.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Presentation 60%, Discussion participation 40%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール12B

渋谷 百合絵

授業コード：A2638 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代文学研究の基礎を身につけ、これによって近代の児童文学作品を分析することができる。また、日本の近代児童文学の特質について理解を深める。春学期に引き続き、個人での研究発表を行うことができる。また発表に対して全員でディスカッションができる。4年生は卒業論文の完成を見据えた中間発表ができる。また3年生は来年度取り組む卒業論文で何を扱うか、およびその見通しを立て、先行研究を集め始める。

## 【到達目標】

春期のグループ研究をふまえて、作品研究の基礎的な手順を、個人別の研究を通じて定着させることができる。また作品の表現を丁寧に読み込み、独自の解釈を定め、発表することができる。発表に対して積極的に議論することができる。また議論でのやり取りをふまえて、年度末レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業形態は演習。個人研究に基づく発表およびディスカッションを基本とする。また、このディスカッションで指摘されたこと、アドバイスされたことに基づいて研究を練り直し、年度末レポートにまとめることができる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                     |
|------|------------|------------------------|
| 第1回  | 個人研究発表3年生② | 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。 |
| 第2回  | 個人研究発表3年生③ | 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。 |
| 第3回  | 個人研究発表3年生④ | 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。 |
| 第4回  | 個人研究発表3年生⑤ | 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。 |
| 第5回  | 卒業論文発表①    | 一人につき発表30分+議論20分、2名発表。 |
| 第6回  | 卒業論文発表②    | 一人につき発表30分+議論20分、2名発表。 |
| 第7回  | 卒業論文発表③    | 一人につき発表30分+議論20分、2名発表。 |
| 第8回  | 卒業論文発表④    | 一人につき発表30分+議論20分、2名発表。 |
| 第9回  | 卒業論文発表⑤    | 一人につき発表30分+議論20分、2名発表。 |
| 第10回 | 個人研究発表2年生① | 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。 |
| 第11回 | 個人研究発表2年生② | 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。 |
| 第12回 | 個人研究発表2年生③ | 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。 |
| 第13回 | 個人研究発表2年生④ | 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。 |
| 第14回 | 個人発表2年生⑤   | 一人につき発表25分+議論25分、2名発表。 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏季休暇中に個人研究・卒業論文を進めておく。発表で扱われる作品は必ず事前に読み、積極的に議論に参加できるようにすること。特に作品の解釈について、自分なりの考えをまとめておく。書式と様式に注意して、レポート・論文を書くことができる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表で扱う作品本文

## 【参考書】

鳥越信編『はじめて学ぶ 日本児童文学史』ミネルヴァ書房 3,300円  
『日本近代文学大事典』日本近代文学館編（ジャパナレッジで利用可能）  
『日本児童文学大事典』大阪国際児童文学館編、大日本図書  
菅忠道『増補改訂版 日本の児童文学』大月書店  
各作家の全集・各種児童文学全集類  
など

## 【成績評価の方法と基準】

発表50%、議論への参加30%、レポート20%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

## 【学生が準備すべき機器他】

授業中に指示する・「学習支援システム」

## 【その他の重要事項】

個人研究発表を練り直したレポートを年度末に提出してもらうため、その準備を各自進めておく。4年生は卒業論文の完成に向けて計画を立てて取り組むこと。

## 【Outline (in English)】

## 【授業の概要（Course outline）】

In this seminar, students acquire the basics of modern literary research and study children's literature. Students interpret the works and also consider the author and contemporary society.

## 【到達目標（Learning Objectives）】

Students will be able to conduct research and make presentations based on the basics of literary research. They can also actively participate in discussions. A report can then be created based on the discussion.

## 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are required to read fairy tale works before class. Students must also prepare for their own presentation and write a report after the presentation.

## 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Presentation 50%, Discussion participation 30%, Report 20%



LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール13A

久保田 篤

授業コード：A2639 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語研究に関する各自のテーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

### 【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者はプリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容              |
|------|---------------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス         | ゼミ生の自己紹介など      |
| 第2回  | 前年度の研究紹介 (1)  | 発表順の決定や発表の仕方など  |
| 第3回  | 前年度の研究紹介 (2)  | プリントの作り方など      |
| 第4回  | ゼミ生の研究発表 (1)  | 発表・質疑応答・助言 (1)  |
| 第5回  | ゼミ生の研究発表 (2)  | 発表・質疑応答・助言 (2)  |
| 第6回  | ゼミ生の研究発表 (3)  | 発表・質疑応答・助言 (3)  |
| 第7回  | ゼミ生の研究発表 (4)  | 発表・質疑応答・助言 (4)  |
| 第8回  | ゼミ生の研究発表 (5)  | 発表・質疑応答・助言 (5)  |
| 第9回  | ゼミ生の研究発表 (6)  | 発表・質疑応答・助言 (6)  |
| 第10回 | ゼミ生の研究発表 (7)  | 発表・質疑応答・助言 (7)  |
| 第11回 | ゼミ生の研究発表 (8)  | 発表・質疑応答・助言 (8)  |
| 第12回 | ゼミ生の研究発表 (9)  | 発表・質疑応答・助言 (9)  |
| 第13回 | ゼミ生の研究発表 (10) | 発表・質疑応答・助言 (10) |
| 第14回 | まとめ           | レポート提出と総括       |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは指定しません。

### 【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、その都度指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)・発表 (30%)・レポート (40%) を勘案して、総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

**Learning Objectives:** To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

**Learning Activities Outside of the Classroom:** In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール13B

久保田 篤

授業コード：A2640 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語研究に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

## 【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容              |
|------|---------------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス         | ゼミ長・副ゼミ長の選出など   |
| 第2回  | 春学期のレポート紹介    | 発表順の決定など        |
| 第3回  | 秋学期の研究テーマ     | 研究テーマの確認など      |
| 第4回  | ゼミ生の研究発表 (1)  | 発表・質疑応答・助言 (1)  |
| 第5回  | ゼミ生の研究発表 (2)  | 発表・質疑応答・助言 (2)  |
| 第6回  | ゼミ生の研究発表 (3)  | 発表・質疑応答・助言 (3)  |
| 第7回  | ゼミ生の研究発表 (4)  | 発表・質疑応答・助言 (4)  |
| 第8回  | ゼミ生の研究発表 (5)  | 発表・質疑応答・助言 (5)  |
| 第9回  | ゼミ生の研究発表 (6)  | 発表・質疑応答・助言 (6)  |
| 第10回 | ゼミ生の研究発表 (7)  | 発表・質疑応答・助言 (7)  |
| 第11回 | ゼミ生の研究発表 (8)  | 発表・質疑応答・助言 (8)  |
| 第12回 | ゼミ生の研究発表 (9)  | 発表・質疑応答・助言 (9)  |
| 第13回 | ゼミ生の研究発表 (10) | 発表・質疑応答・助言 (10) |
| 第14回 | まとめ           | レポート提出と総括       |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

テキストは指定しません。

## 【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、その都度指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)・発表 (30%)・レポート (40%) を勘案して、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

**Learning Objectives:** To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

**Learning Activities Outside of the Classroom:** In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール14A

竹林 一志

### 夜間時間帯

授業コード：A2641 | 曜日・時限：水5/Wed.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

### 【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容             |
|------|--------------|----------------|
| 第1回  | ガイダンス        | ゼミ生の自己紹介など     |
| 第2回  | 前年度の研究紹介（1）  | 発表順の決定や発表の仕方など |
| 第3回  | 前年度の研究紹介（2）  | プリントの作り方など     |
| 第4回  | ゼミ生の研究発表（1）  | 発表・質疑応答・助言（1）  |
| 第5回  | ゼミ生の研究発表（2）  | 発表・質疑応答・助言（2）  |
| 第6回  | ゼミ生の研究発表（3）  | 発表・質疑応答・助言（3）  |
| 第7回  | ゼミ生の研究発表（4）  | 発表・質疑応答・助言（4）  |
| 第8回  | ゼミ生の研究発表（5）  | 発表・質疑応答・助言（5）  |
| 第9回  | ゼミ生の研究発表（6）  | 発表・質疑応答・助言（6）  |
| 第10回 | ゼミ生の研究発表（7）  | 発表・質疑応答・助言（7）  |
| 第11回 | ゼミ生の研究発表（8）  | 発表・質疑応答・助言（8）  |
| 第12回 | ゼミ生の研究発表（9）  | 発表・質疑応答・助言（9）  |
| 第13回 | ゼミ生の研究発表（10） | 発表・質疑応答・助言（10） |
| 第14回 | まとめ          | レポート提出と総括      |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・発表（30%）・レポート（40%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者の変更によりフィードバックできません。分かりやすく、ためになる授業になるよう心がけます。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

**Learning Objectives:** To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

**Learning Activities Outside of the Classroom:** In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール14B

竹林 一志

## 夜間時間帯

授業コード：A2642 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

## 【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容             |
|------|--------------|----------------|
| 第1回  | ガイダンス        | ゼミ長・副ゼミ長の選出    |
| 第2回  | 春学期のレポート紹介   | 発表順の決定など       |
| 第3回  | 秋学期の研究テーマ    | 研究テーマの確認など     |
| 第4回  | ゼミ生の研究発表（1）  | 発表・質疑応答・助言（1）  |
| 第5回  | ゼミ生の研究発表（2）  | 発表・質疑応答・助言（2）  |
| 第6回  | ゼミ生の研究発表（3）  | 発表・質疑応答・助言（3）  |
| 第7回  | ゼミ生の研究発表（4）  | 発表・質疑応答・助言（4）  |
| 第8回  | ゼミ生の研究発表（5）  | 発表・質疑応答・助言（5）  |
| 第9回  | ゼミ生の研究発表（6）  | 発表・質疑応答・助言（6）  |
| 第10回 | ゼミ生の研究発表（7）  | 発表・質疑応答・助言（7）  |
| 第11回 | ゼミ生の研究発表（8）  | 発表・質疑応答・助言（8）  |
| 第12回 | ゼミ生の研究発表（9）  | 発表・質疑応答・助言（9）  |
| 第13回 | ゼミ生の研究発表（10） | 発表・質疑応答・助言（10） |
| 第14回 | まとめ          | レポート提出と総括      |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

## 【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・発表（30%）・レポート（40%）を勘案して、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者の変更によりフィードバックできません。分かりやすく、ためになる授業になるよう心がけます。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

**Learning Objectives:** To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

**Learning Activities Outside of the Classroom:** In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール15A

尾谷 昌則

授業コード：A2643 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

日常の言葉を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

### 【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

- (1) 論文の主張を的確に理解・要約することができる。
- (2) 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- (3) コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

▼春学期は、決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」でURLや事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                                    |
|------|-------------------------------|---------------------------------------|
| 第1回  | コーパス、コンコーダンスの使い方              | 様々なコーパスとツールの紹介                        |
| 第2回  | 3年生(学生A, B, C)による個人研究発表       | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する  |
| 第3回  | 3年生(学生D, E, F)による個人研究発表       | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する  |
| 第4回  | グループ発表1 (他已紹介)                | 各グループの自己紹介、他已紹介、テーマ紹介をする              |
| 第5回  | 3年生(学生G, H, I)による個人研究発表       | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する  |
| 第6回  | 論文レビュー1 (定量的な観点からの分析)         | 定量的分析を行っている論文を読み、皆でその問題点について討議する      |
| 第7回  | グループ発表2 (先行研究とまとめ)            | 各グループの研究テーマの先行研究とその問題点について発表する        |
| 第8回  | 3年生(学生A, B, C)による個人研究発表       | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する  |
| 第9回  | 3年生(学生D, E, F)による個人研究発表       | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する  |
| 第10回 | 論文レビュー2 (意味変化の分析)             | 意味変化に関する論文を読み、皆でその問題点について討議する         |
| 第11回 | 3年生(学生G, H, I)による個人研究発表       | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する  |
| 第12回 | 2年生(学生A, B, C, D, E)による論文リポート | 2年生に論文リポート(発表)をしてもらい、その論文の問題点について討議する |
| 第13回 | 2年生(学生F, G, H, I, J)による論文リポート | 2年生に論文リポート(発表)をしてもらい、その論文の問題点について討議する |
| 第14回 | グループ発表3 (調査結果と提案の提示)          | 各グループが調査したことを発表し、最終的な主張を行う            |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【1】課題論文の基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。【2】グループワークでは各自の分担を明確にし、毎週のミーティング時に報告し、グループに貢献すること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

### 【テキスト(教科書)】

資料を配布する。

### 【参考書】

- (1)『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』(辻幸夫監修、ひつじ書房)
- (2)『日本語研究のためのコーパス調査入門』(李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版)
- (3)『日本語文法大辞典』(山口明徳・秋本守英編著、明治書院)

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表30%、質疑応答30%、課題40%

半期で3回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻2回で欠席1回とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

### 【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノートPC必須。発表ではパワーポイント(Googleクラウドでも可)。文字列検索ソフトとしてKWIC Finder、形態素解析ソフトとしてKH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノートPCを所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」(国立国語研究所提供)の利用者登録もしておくこと。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%), discussions (30%), assignments (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール15B

尾谷 昌則

授業コード：A2644 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study how to analyze language grammatically.  
現代日本語を客観的に見つけ直し、文法的に分析する。

## 【到達目標】

The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

- (1) 言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。
- (2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。
- (3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

秋学期は、各自で決めたトピックについてデータを採取し、自分なりに分析し、研究発表を行う。全員で読むべき重要な論文の場合には、課題として要約レポートを書いてもらい、その添削を行いながら内容の確認とディスカッションを行う。数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」でURLや事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ     | 内容                       |
|------|---------|--------------------------|
| 第1回  | 個人発表1   | 3年生による個人研究発表             |
| 第2回  | 個人発表2   | 3年生による個人研究発表             |
| 第3回  | 個人発表3   | 3年生による個人研究発表             |
| 第4回  | グループ発表1 | 2年生各グループの発表（先行研究のまとめ）    |
| 第5回  | 課題論文1   | 定量的分析を行って論文を読む           |
| 第6回  | コーパス実習1 | BCCWJなどオンラインコーパスの使用法について |
| 第7回  | グループ発表2 | 2年生各グループの発表（先行研究の問題点）    |
| 第8回  | 課題論文2   | 言語変化について定量的に分析した論文を読む    |
| 第9回  | コーパス実習2 | KWIC コンコーダンサなどの詞用法について   |
| 第10回 | グループ発表3 | 2年生各グループの発表（独自調査の報告）     |
| 第11回 | 個人発表4   | 3年生による個人研究発表             |
| 第12回 | 個人発表5   | 3年生による個人研究発表             |
| 第13回 | 個人発表6   | 3年生による個人研究発表             |
| 第14回 | グループ発表4 | 2年生各グループの発表（結論の発表）       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表に備え、各グループで毎週1回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などを報告すること。※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）  
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

## 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表30%、質疑応答30%、課題40%

半期で3回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻2回で欠席1回とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

## 【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノートPC必須。発表ではパワーポイント（Googleクラウドでも可）。文字列検索ソフトとしてKWIC Finder、形態素解析ソフトとしてKH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノートPCを所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will study how to analyze language grammatically.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール16A

尾谷 昌則

### 夜間時間帯

授業コード：A2645 | 曜日・時限：月5/Mon.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

若者ことばのような、現代日本語の問題を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

#### 【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

- (1) 論文の主張を的確に理解・要約することができる。
- (2) 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- (3) コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

▼決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究方法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」でURLや事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                | 内容                                       |
|------|----------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 第1回  | コーパス、KWICの使い方                                      | 様々なコーパスの紹介を行う                            |
| 第2回  | 3年生(学生A, B, C)による個人研究発表                            | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する     |
| 第3回  | 3年生(学生A, B, C)による個人研究発表<br>3年生(学生D, E, F)による個人研究発表 | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する     |
| 第4回  | グループ発表1 (他己紹介)                                     | 各グループの自己紹介、他己紹介、テーマ紹介をする                 |
| 第5回  | 3年生(学生G, H, I)による個人研究発表                            | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する     |
| 第6回  | 論文レビュー1 (若者言葉の分析)                                  | 若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する |
| 第7回  | グループ発表2 (先行研究とまとめ)                                 | 各グループの研究テーマの先行研究とその問題点について発表する           |
| 第8回  | 3年生(学生A, B, C)による個人研究発表                            | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する     |
| 第9回  | 3年生(学生D, E, F)による個人研究発表                            | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する     |
| 第10回 | 論文レビュー2 (ポライトネスに関する若者言葉の分析)                        | 若者言葉とポライトネスに関する論文を読み、全員で討議する             |
| 第11回 | 3年生(学生G, H, I)による個人研究発表                            | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究には何が必要かを討議する     |
| 第12回 | 2年生(学生A, B, C, D, E)による論文リポート                      | 2年生に論文リポート(発表)をしてもらい、その論文の問題点について討議する    |

第13回 2年生(学生F, G, H, I, J)による論文リポート

2年生に論文リポート(発表)をしてもらい、その論文の問題点について討議する

第14回 グループ発表3 (調査結果と代案の提示)

各グループが調査したことを発表し、最終的な主張を行う

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題論文の基本用語・重要概念については事前に下記参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

#### 【テキスト (教科書)】

資料を配布する。

#### 【参考書】

- (1)『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』(辻幸夫監修、ひつじ書房)
- (2)『日本語教育のためのコーパス調査入門』(李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版)
- (3)『日本語文法大辞典』(山口明徳・秋本守英編著、明治書院)

#### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表30%、質疑応答30%、課題40%

半期で3回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻2回で欠席1回とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

#### 【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノートPC必須。発表ではパワーポイント(Googleクラウドでも可)。文字列検索ソフトとしてKWIC Finder、形態素解析ソフトとしてKH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノートPCを所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」(国立国語研究所提供)の利用者登録もしておくこと。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代日本語における意味論、文法論、語用論、認知言語学

<研究テーマ>

認知言語学からみた意味拡張、文法化、構文ネットワーク

<主要研究業績>

「アマルガム構文としての『「全然」+肯定』に関する語用論的分析」(『言葉と認知のメカニズム』pp.103-115. ひつじ書房、2008年)

「構文文法の歴史的背景と今後の展望」(『人間情報学研究』第11巻、pp.25-43. 2006年)

「接続詞ケドの手续き意味」(『語用論研究』第7号、pp.17-30. 2005年)

「構文ネットワークと文法—認知文法論のアプローチ」(共著、研究社、2011年)

#### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%), discussions (30%), assignments (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール16B

尾谷 昌則

### 夜間時間帯

授業コード：A2646 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

We will study how to analyze language grammatically. 若者ことばを客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

### 【到達目標】

The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

(1) 言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。(2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。(3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

▼教多くの事例について皆で考えながら授業を進める。問題提起となる研究発表は、2年生はグループ発表中心で、3年生は個人発表中心で行う。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」でURLや事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                     | 内容                                            |
|------|-------------------------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | 3年生(学生A, B, C)による個人研究発表 | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。    |
| 第2回  | 3年生(学生D, E, F)による個人研究発表 | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。    |
| 第3回  | 3年生(学生G, H, I)による個人研究発表 | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。    |
| 第4回  | グループ発表1(先行研究)           | 2年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。 |
| 第5回  | 課題論文1(若者ことばの論文)         | 若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する。     |
| 第6回  | コーパス実習(BCCWJ)           | BCCWJなどオンラインコーパスの使用法について学ぶ。                   |
| 第7回  | グループ発表2(先行研究の問題点)       | 2年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。 |
| 第8回  | 課題論文2(文法化の論文)           | 若者言葉を文法化の観点から研究した論文を読んで、その問題点を討議する。           |
| 第9回  | コーパス実習(KWIC検索)          | KWICコンコーダンサなどの使用法を学ぶ。                         |
| 第10回 | グループ発表3(調査結果の提示)        | 2年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。 |
| 第11回 | 3年生(学生A, B, C)による個人研究発表 | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。    |
| 第12回 | 3年生(学生D, E, F)による個人研究発表 | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。    |
| 第13回 | 3年生(学生G, H, I)による個人研究発表 | 学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。    |
| 第14回 | グループ発表4(代案の提示)          | 2年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。 |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

グループ発表に備え、各グループで毎週1回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などは、ポートフォリオ代りとなるフェイスブック・グループに書き込むこと。※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

使用しない。

### 【参考書】

『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』(辻幸夫監修、ひつじ書房) 『日本語教育のためのコーパス調査入門』(李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版)

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表30%、質疑応答30%、課題40%

半期で3回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻2回で欠席1回とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることとした。

### 【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノートPC必須。発表ではパワーポイント(Googleクラウドでも可)。文字列検索ソフトとしてKWIC Finder、形態素解析ソフトとしてKH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノートPCを所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」(国立国語研究所提供)の利用者登録もしておくこと。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will study how to analyze language grammatically.

**Learning Objectives:** The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).



LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール17A

中沢 けい

授業コード：A2647 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでおくことにしましょう。春学期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

### Literature creation

#### 【到達目標】

創作作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                        | 内容                            |
|------|------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                                                      | ガイダンス                         |
| 第2回  | 講読作品の選定とスケジュール作り                                           | 講読作品の選定とスケジュール作り              |
| 第3回  | 受講生による発表                                                   | リストによる講読で批評の方法を学びます。          |
| 第4回  | 受講生による発表<br>他の学生の発表を聞きましょう。                                | 内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。       |
| 第5回  | 受講生による発表<br>発表内容に対する質問を考えましょう。                             | 具体的な文章の引用をしましょう。              |
| 第6回  | 受講生による発表<br>発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもありません。            | 引用に基づいた感想を話すようにしましょう。         |
| 第7回  | 受講生による発表<br>レジュメの作り方受講生に研究してみよう。                           | 読むことはすなわち「創造」です。              |
| 第8回  | 受講生による発表<br>発表に機材が必要な場合は申し出てください。                          | 「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。    |
| 第9回  | ゼミ誌制作の準備                                                   | 作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。   |
| 第10回 | 受講生による発表                                                   | 再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。  |
| 第11回 | 受講生による発表<br>ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。                     | 作品の研究論文、評論などを探しましょう。          |
| 第12回 | 受講生による発表<br>夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？ という時期になります。 | 先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。  |
| 第13回 | 受講生による発表<br>ゼミ誌作品制作の進捗具合をお尋ねするかもしれません。                     | 作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。         |
| 第14回 | 受講生による発表<br>最終授業日までにゼミ誌の制作にめどがたっているといひのですね。                | 先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。 |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

「東京百年物語 1」（岩波文庫）ロバート キャンベル（編集）、十重田 裕一（編集）、宗像 和重（編集）2018年11月17日刊行 891円  
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

#### 【参考書】

「地形で見る江戸・東京発展史」（ちくま新書）鈴木浩三  
テキストを読みながら東京の地形について学ばれます。地形とテキストの文章を引き比べながら空間表現、時間表現などについて探求します。

#### 【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加50%ゼミ誌作品50%。評価基準は創作のセンスの良さ。

#### 【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙のアプリケーション

#### 【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナウイルスの感染状況によっては合宿は中止となる場合があります。あしからずご了解ください。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線の上に」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

#### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

**Learning Objectives:** The goal is to be able to critically read creative works.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール17B

中沢 けい

授業コード：A2648 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

## 【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジユメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジユメの内容などを質問することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                                     |
|------|------------------|----------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス            | ガイダンス                                  |
| 第2回  | 講読作品の選定とスケジュール作り | 講読作品の選定とスケジュール作り                       |
| 第3回  | 受講生による発表         | リストによる購読で批評の方法を学びます。                   |
| 第4回  | 受講生による発表         | 内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。                |
| 第5回  | 受講生による発表         | 具体的な文章の引用をしましょう。                       |
| 第6回  | 受講生による発表         | 引用に基づいた感想を話すようにしましょう。                  |
| 第7回  | 受講生による発表         | 読むことはすなわち「創造」です。                       |
| 第8回  | 受講生による発表         | 「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。             |
| 第9回  | 受講生による発表         | 作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。            |
| 第10回 | 受講生による発表         | 人によって読み方はさまざまです。                       |
| 第11回 | 受講生による発表         | 自分の作品の理解者を探してみましょう。                    |
| 第12回 | 受講生による発表         | 作品はイメージ通りに書けましたか。                      |
| 第13回 | 受講生による発表         | 作品の修正の方法を考えてみましょう。                     |
| 第14回 | 受講生による発表         | 修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。 |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

できるだけたくさん本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

ゼミ誌

## 【参考書】

ゼミ誌の批評をレジユメにまとめてもらいます。各自でほかのゼミ生のレジユメを読み比べてみましょう

## 【成績評価の方法と基準】

配分 (%) は授業へ積極的参加 50 % ゼミ誌作品 50 %。 評価基準は創作のセンスの良さ。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

## 【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となります。あしからずご了解ください。  
小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students will produce a seminar journal during the summer vacation period. The seminar journal will be the textbook for the second semester classes, in which we will undertake joint critiques of each student's work.

**Learning Objectives:** The seminar students will critique each other's work. This will help students to understand that even the same work can be read in different ways by different people. Through this process, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール18A

中沢 けい

### 夜間時間帯

授業コード：A2649 | 曜日・時限：金6/Fri.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

### Literature creation

#### 【到達目標】

文芸作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジユメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジユメの内容などを質問することがあります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                            |
|------|------------------|-------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス            | ガイダンス                         |
| 第2回  | 講読作品の選定とスケジュール作り | 講読作品の選定とスケジュール作り              |
| 第3回  | 受講生による発表         | リストによる講読で批評の方法を学びます。          |
| 第4回  | 受講生による発表         | 内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。       |
| 第5回  | 受講生による発表         | 具体的な文章の引用をしましょう。              |
| 第6回  | 受講生による発表         | 引用に基づいた感想を話すようにしましょう。         |
| 第7回  | 受講生による発表         | 読むことはすなわち「創造」です。              |
| 第8回  | 受講生による発表         | 「読むこと」と「書く」ことつながりを考えましょう。     |
| 第9回  | ゼミ誌制作の準備         | 作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。   |
| 第10回 | 受講生による発表         | 再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。  |
| 第11回 | 受講生による発表         | 作品の研究論文、評論などを探しましょう。          |
| 第12回 | 受講生による発表         | 先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。  |
| 第13回 | 受講生による発表         | 作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。         |
| 第14回 | 受講生による発表         | 先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「東京百年物語 1」（岩波文庫）ロバート キャンベル（編集）、十重田 裕一（編集）、宗像 和重（編集）2018年11月17日刊行 891円  
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

### 【参考書】

「地形で見る江戸・東京発展史」（ちくま新書）鈴木浩三  
テキストを読みながら東京の地形について学びます。地形とテキストの文章を引き比べながら空間表現、時間表現などについて探求します。

### 【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加50%ゼミ誌作品50%。評価基準は創作のセンスの良さ。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

### 【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙アプリケーション

### 【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナウイルスの感染状況によっては合宿は中止といたします。あしからずお許しください。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

**Learning Objectives:** The goal is to be able to critically read creative works.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール18B

中沢 けい

## 夜間時間帯

授業コード：A2650 | 曜日・時限：金6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

## 【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジメの内容などを質問することがあります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                                           |
|------|------------------|----------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス            | ガイダンス                                        |
| 第2回  | 講読作品の選定とスケジュール作り | 講読作品の選定とスケジュール作り                             |
| 第3回  | 受講生相互の批評         | 作品にたいする批評をレジメにして提出してもらいます。                   |
| 第4回  | 受講生による発表         | 内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。                      |
| 第5回  | 受講生による発表         | 具体的な文章の引用をしましょう。                             |
| 第6回  | 受講生による発表         | 引用に基づいた感想を話すようにしましょう。                        |
| 第7回  | 受講生による発表         | 読むことはすなわち「創造」です。                             |
| 第8回  | 受講生による発表         | 「読むこと」と「書くこと」のつながりを考えましょう。                   |
| 第9回  | 受講生による発表         | 読みかたは人によって異なります。                             |
| 第10回 | 受講生による発表         | 自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。                |
| 第11回 | 受講生による発表         | 作品の理解したうえでの批評を探しましょう。                        |
| 第12回 | 受講生による発表         | 作品の修正の方法を考えてみましょう                            |
| 第13回 | 受講生による発表         | 作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうがよいのかを考えてみましょう。 |
| 第14回 | 受講生による発表         | 次作のイメージを作ってみましょう。                            |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんのお本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

## 【参考書】

自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

## 【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加50%ゼミ誌作品50%。評価基準は創作のセンスの良さ。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

## 【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナウイルスの感染状況によっては合宿が中止となることがあります。あしからず。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

**Learning Objectives:** The seminar students will critique each other's work. Students will understand that even the same work can be read in different ways by different people. In this way, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール19A

田中 和生

授業コード：A2651 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

### 【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独自の作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容             |
|------|--------------|----------------|
| 第1回  | ガイダンス        | 役割分担と創作の計画。    |
| 第2回  | 日本の詩歌を読む (1) | 発表と質疑、リレー小説1。  |
| 第3回  | 日本の詩歌を読む (2) | 発表と質疑、リレー小説2。  |
| 第4回  | 日本の詩歌を読む (3) | 発表と質疑、リレー小説3。  |
| 第5回  | 日本の詩歌を読む (4) | 発表と質疑、リレー小説4。  |
| 第6回  | 日本の詩歌を読む (5) | 発表と質疑、リレー小説5。  |
| 第7回  | 日本の詩歌を読む (6) | 発表と質疑、リレー小説6。  |
| 第8回  | 日本の戯曲を読む     | 発表と質疑、リレー小説7。  |
| 第9回  | 日本の小説を読む (1) | 発表と質疑、リレー小説8。  |
| 第10回 | 日本の小説を読む (2) | 発表と質疑、リレー小説9。  |
| 第11回 | 日本の小説を読む (3) | 発表と質疑、リレー小説10。 |
| 第12回 | 日本の小説を読む (4) | 発表と質疑、リレー小説11。 |
| 第13回 | 日本の小説を読む (5) | 発表と質疑、リレー小説12。 |
| 第14回 | 日本の小説を読む (6) | 発表と質疑、リレー小説13。 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

### 【参考書】

特にありません。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表 (3割) と参加状況 (2割)、創作の内容 (5割) によって評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

### 【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

### 【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール19B

田中 和生

授業コード：A2652 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

## 【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容         |
|------|-----------|------------|
| 第1回  | 校正について    | 課題提出と授業計画。 |
| 第2回  | ゼミ誌について   | リレー小説の校正。  |
| 第3回  | 創作合評 (1)  | 合評と作者質疑。   |
| 第4回  | 創作合評 (2)  | 合評と作者質疑。   |
| 第5回  | 創作合評 (3)  | 合評と作者質疑。   |
| 第6回  | 創作について    | 創作についての考察。 |
| 第7回  | 創作合評 (4)  | 合評と作者質疑。   |
| 第8回  | 創作合評 (5)  | 合評と作者質疑。   |
| 第9回  | 創作合評 (6)  | 合評と作者質疑。   |
| 第10回 | 文学を探せ!    | 文学的なものの調査。 |
| 第11回 | 創作合評 (7)  | 合評と作者質疑。   |
| 第12回 | 創作合評 (8)  | 合評と作者質疑。   |
| 第13回 | 創作合評 (9)  | 合評と作者質疑。   |
| 第14回 | 創作合評 (10) | 合評と作者質疑。   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5割）と平常点（5割）によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

## 【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

## 【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (50%), and their performance in class (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール20A

田中 和生

### 夜間時間帯

授業コード：A2653 | 曜日・時限：月6/Mon.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

### 【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容             |
|------|--------------|----------------|
| 第1回  | ガイダンス        | 役割分担と創作の計画。    |
| 第2回  | 世界の詩歌を読む (1) | 発表と質疑、リレー小説1。  |
| 第3回  | 世界の詩歌を読む (2) | 発表と質疑、リレー小説2。  |
| 第4回  | 世界の詩歌を読む (3) | 発表と質疑、リレー小説3。  |
| 第5回  | 世界の詩歌を読む (4) | 発表と質疑、リレー小説4。  |
| 第6回  | 世界の詩歌を読む (5) | 発表と質疑、リレー小説5。  |
| 第7回  | 世界の詩歌を読む (6) | 発表と質疑、リレー小説6。  |
| 第8回  | 世界の戯曲を読む     | 発表と質疑、リレー小説7。  |
| 第9回  | 世界の小説を読む (1) | 発表と質疑、リレー小説8。  |
| 第10回 | 世界の小説を読む (2) | 発表と質疑、リレー小説9。  |
| 第11回 | 世界の小説を読む (3) | 発表と質疑、リレー小説10。 |
| 第12回 | 世界の小説を読む (4) | 発表と質疑、リレー小説11。 |
| 第13回 | 世界の小説を読む (5) | 発表と質疑、リレー小説12。 |
| 第14回 | 世界の小説を読む (6) | 発表と質疑、リレー小説13。 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

### 【参考書】

特にありません。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3割）と参加状況（2割）、創作の内容（5割）によって評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

### 【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

### 【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール20B

田中 和生

## 夜間時間帯

授業コード：A2654 | 曜日・時限：月6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

## 【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容         |
|------|-----------|------------|
| 第1回  | 校正について    | 課題提出と授業計画。 |
| 第2回  | ゼミ誌について   | リレー小説の校正。  |
| 第3回  | 創作合評（1）   | 合評と作者質疑。   |
| 第4回  | 創作合評（2）   | 合評と作者質疑。   |
| 第5回  | 創作合評（3）   | 合評と作者質疑。   |
| 第6回  | 創作についての考察 | 創作についての考察。 |
| 第7回  | 創作合評（4）   | 合評と作者質疑。   |
| 第8回  | 創作合評（5）   | 合評と作者質疑。   |
| 第9回  | 創作合評（6）   | 合評と作者質疑。   |
| 第10回 | 文学を探せ！    | 文学的なものの調査。 |
| 第11回 | 創作合評（7）   | 合評と作者質疑。   |
| 第12回 | 創作合評（8）   | 合評と作者質疑。   |
| 第13回 | 創作合評（9）   | 合評と作者質疑。   |
| 第14回 | 創作合評（10）  | 合評と作者質疑。   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5割）と平常点（5割）によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

## 【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

## 【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (50%), and their performance in class (50%).



LIT300BC (文学/Literature 300)

## ゼミナール21A

山口 和人

授業コード：A2655 | 曜日・時限：月6/Mon.6  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！という“会心の作”を書いてみたいですね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新はか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。\*本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。したがって、「創作のヒント」については、本年度（1年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トボス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティブ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

### 【到達目標】

- ・ひとつの小説作品を書けるようになる。
- ・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
- ・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
- ・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。春学期では既存の有名作家の作品を読みます。夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休みにゼミ誌を制作します。秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                         | 内容                                                            |
|------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション & オリエンテーション       | ゼミ概要、講読テキスト指定と作品批評発表の割り当て<br>および自己紹介                          |
| 第2回  | 現代日本の小説読解・批評その1             | 名作短篇小説を合評。創作のヒント①<br>優れた小説とは？                                 |
| 第3回  | 現代日本の小説読解・批評その2             | 名作短篇小説を合評。創作のヒント②<br>テーマ                                      |
| 第4回  | 現代日本の小説読解・批評その3             | 名作短篇小説を合評。創作のヒント③<br>プロット（ストーリー）                              |
| 第5回  | 現代日本の小説読解・批評その4             | 名作短篇小説を合評。創作のヒント④<br>小説構造                                     |
| 第6回  | 現代日本の小説読解・批評その5             | 名作短篇小説を合評。創作のヒント⑤<br>書き出し                                     |
| 第7回  | 現代日本の小説読解・批評その6             | 名作短篇小説を合評。創作のヒント⑥<br>登場人物                                     |
| 第8回  | 現代日本の小説読解・批評その7             | 名作短篇小説を合評。創作のヒント⑦<br>場所（セッティング・トボス）                           |
| 第9回  | 現代日本の小説読解・批評その8<br>ゼミ誌制作の準備 | 名作短篇小説を合評。創作のヒント⑧<br>場面（シーン）<br>創作は「本」になって初めて原稿ではなく「作品」になります。 |
| 第10回 | 現代日本の小説読解・批評その9             | 名作短篇小説を合評。創作のヒント⑨<br>描写                                       |

|      |                  |                                                   |
|------|------------------|---------------------------------------------------|
| 第11回 | 現代日本の小説読解・批評その10 | 名作短篇小説を合評。創作のヒント⑩<br>会話                           |
| 第12回 | 現代日本の小説読解・批評その11 | 名作短篇小説を合評。創作のヒント⑪<br>文体                           |
| 第13回 | 現代日本の小説読解・批評その12 | 名作短篇小説を合評。創作のヒント⑫<br>視点                           |
| 第14回 | 現代日本の小説読解・批評その13 | 名作短篇小説を合評。創作のヒント⑬<br>推敲<br>※創作のヒントの各項目の扱い順は変動します。 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
- ・リアクションペーパー執筆と事前提出。
- ・創作作品執筆とゼミ誌制作。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

随時指定・配布します。

### 【参考書】

特にありませんが、より多くの文学作品、映画、コミック、絵画、音楽等に親しむようにしましょう。

### 【成績評価の方法と基準】

クラス参加への積極性・貢献度50%、提出創作作品の評価50%  
 無断欠席は3回目から減点の対象とします（欠席するときは必ず当日授業前までにご連絡ください）。

### 【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見・感想等のフィードバックを随時歓迎します。

### 【学生が準備すべき機器他】

Wordソフトを搭載したPCを使用できる環境にあること。

### 【その他の重要事項】

#### 【プロフィール】

講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢朋、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K.ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.

Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

#### 【Learning Objectives】

- ・ Students will be able to write a novel.
- ・ Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
- ・ Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
- ・ Students will acquire accurate and rich writing expression.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
 Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール21B

山口 和人

授業コード：A2656 | 曜日・時限：月6/Mon.6  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！という“会心の作”を書いてみたいですね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。※本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。したがって、「創作のヒント」については、本年度（1年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トボス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティブ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的現象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

## 【到達目標】

- ・ひとつの小説作品を書けるようになる。
- ・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
- ・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
- ・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。春学期では既存の有名作家の作品を読みます。夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                                           |
|------|--------------------------|----------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション<br>& オリエンテーション | ゼミ誌の配布。<br>批評をリアクションペーパーとして提出しましょう。          |
| 第2回  | 創作作品の相互鑑賞                | 以降毎回、春学期で学んだ下記のポイント（創作のヒント）に着目して作品を読んでみましょう。 |
| 第3回  | 創作作品の相互鑑賞                | テーマ（以下順不同）                                   |
| 第4回  | 創作作品の相互鑑賞                | プロット（ストーリー）                                  |
| 第5回  | 創作作品の相互鑑賞                | 小説構造                                         |
| 第6回  | 創作作品の相互鑑賞                | 書き出し                                         |
| 第7回  | 創作作品の相互鑑賞                | 登場人物                                         |
| 第8回  | 創作作品の相互鑑賞                | 場所（セッティング・トボス）                               |
| 第9回  | 創作作品の相互鑑賞                | 場面（シーン）                                      |
| 第10回 | 創作作品の相互鑑賞                | 描写                                           |
| 第11回 | 創作作品の相互鑑賞                | 会話                                           |
| 第12回 | 創作作品の相互鑑賞                | 文体                                           |
| 第13回 | 創作作品の相互鑑賞                | 視点                                           |
| 第14回 | 創作作品の相互鑑賞                | 推敲                                           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
- ・リアクションペーパー執筆と事前提出。
- ・創作作品執筆とゼミ誌制作。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】  
随時指定・配布します。

【参考書】  
特にありませんが、より多くの文学作品、映画、コミック、絵画、音楽等に親しむようにしましょう。

## 【成績評価の方法と基準】

クラス参加への積極性・貢献度50%、提出創作作品の評価50%  
無断欠席は3回目から減点の対象とします（欠席するときは必ず当日授業前までにご連絡ください）。

## 【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見・感想等のフィードバックを随時歓迎します。

## 【学生が準備すべき機器他】

Wordソフトを搭載したPCを使用できる環境にあること。

## 【その他の重要事項】

## 【プロフィール】

講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢萌、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

## 【Outline (in English)】

We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.

Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

## 【Learning Objectives】

- ・ Students will be able to write a novel.
- ・ Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
- ・ Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
- ・ Students will acquire accurate and rich writing expression.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
 Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (1) 上代A

坂本 勝

授業コード：A2657 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

### 【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解読法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。第1回授業、各回の授業内容などについてHoppii上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                                        |
|------|------------------|-------------------------------------------|
| 第1回  | 講義概要<br>自然と文化の共生 | 授業全体の概説<br>賀茂の〈御生れ (ミアレ)〉神事と山城<br>国風土記の神話 |
| 第2回  | 日本の《はじまり》物語      | 日本の創世記を紹介します                              |
| 第3回  | 世界の《はじまり》物語      | 古事記、日本書紀の創世神話を学びます                        |
| 第4回  | 最初の《喪失》体験        | 火の誕生と文化の始まりについて考えます                       |
| 第5回  | 《生》と《死》の神話       | 神話を産み出す心のメカニズムを考えます                       |
| 第6回  | 《黄泉の国》はどこにある     | 生と死の神話について考えます                            |
| 第7回  | 《根の国》の話          | 大地と生命の神話について考えます。                         |
| 第8回  | ヤマト退治の物語         | 英雄神話について考えます                              |
| 第9回  | 《天》と《地》の神話       | 古代の宇宙観を学びます                               |
| 第10回 | 《海》の神話           | 同前                                        |
| 第11回 | 神々と出会う《場所》       | 神話と祭りの関係について考えます                          |
| 第12回 | 神々と出会う《人》        | 同前                                        |
| 第13回 | 神々と出会う《時》        | 同前                                        |
| 第14回 | まとめとレポート提出       | あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます                       |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

『はじめての日本神話 古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、780円、坂本勝。

書籍がない場合は電子書籍を購入すること

※電子書籍版の配信先はkindle,kobo,iBook,紀伊国屋、hontoなど (Google版を除く)

スマホ、タブレット、専用端末等、各社の端末やアプリにもすべて対応しているようです。

ほかに、プリント教材を配布。

### 【参考書】

参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

### 【成績評価の方法と基準】

レポート試験 (1回60点) に平常点 (40点、出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など) を加味して評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This lecture is about the mythological world of ancient Japan. Learn how the ancients saw, felt, and thought in ways that we today have lost sight of.

**Learning Objectives:** The objectives of this lecture course are: to ascertain the meaning of why we have created a way of thinking called mythology; and to learn how to decipher documents to understand the mythological world of ancient Japan.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (1) 上代B

坂本 勝

授業コード：A2658 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

## 【到達目標】

万葉集読解の基礎的方法を身につける。ことばの面白さと重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ (国) から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きたのでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。授業形態は「対面あり」となっていますが、当面はオンライン zoom 授業で行います。新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきた場合には「対面」授業を行う可能性もあります。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                 |
|------|-------------|--------------------|
| 第1回  | はじめに        | 講義概要               |
| 第2回  | 初期万葉の大王たち   | 雄略天皇と舒明天皇          |
| 第3回  | 額田王         | 恋と言霊の姫王            |
| 第4回  | 有間皇子と天津皇子   | 悲劇の皇子たち            |
| 第5回  | 天武天皇と持統女帝   | 古代と近代の狭間           |
| 第6回  | 柿本人麻呂       | 愛と死の歌人             |
| 第7回  | 同前          | 同前                 |
| 第8回  | 高市黒人と長意吉麻呂  | 旅と笑いの歌人            |
| 第9回  | 山部赤人と笠金村    | 自然の発見と王権讃美         |
| 第10回 | 大伴旅人と山上憶良   | 人生を見つめる            |
| 第11回 | 後期万葉の女たち    | 坂上女郎ほか             |
| 第12回 | 防人歌と東国民衆の歌謡 | 東国の歌謡と抒情           |
| 第13回 | 大伴家持        | 倭歌の離陸              |
| 第14回 | まとめとレポート提出  | 万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。 |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

プリント教材など、Hoppi上で確認してください。

## 【参考書】

参考文献については授業の中で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート試験 (1回,60点) と平常点 (40点、リアクションペーパーなど、授業への参加態度) によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will explore humanity in ancient Japan, through the study of *Man'yōshū*.**Learning Objectives:** To acquire basic methods for reading *Man'yōshū*. To understand how interesting and important words can be.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (2) 中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火5/Tue.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大河ドラマに取り上げられるなど、今年は『源氏物語』や紫式部に対する注目度が高まっています。しかし『源氏物語』についても、紫式部についても、まだまだ分かっていないことも多く、またさまざまな研究の成果についても一般的に知られていないことが多々あります。そこでこの授業では改めて『源氏物語』や紫式部について知る」ということをテーマに、講義を行っていきます。皆さんがこれまで持っていた知識を更に深め、より関心の幅を広げていく内容にしたいと考えています。

### 【到達目標】

- ①『源氏物語』や紫式部について学ぶことで、作品理解のための必要な知識を習得することができる。
- ②古典文学を読むのに役立つ平安期の習俗や歴史などについての知識を広げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師の作成したプリントを配布し講義を行います。
- ・毎回授業内容についての理解度を計るために、授業内でのリアクションペーパーの提出を課します。
- ・リアクションペーパーに書かれた意見の紹介や質問への解答を通じてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                                              |
|------|-------------------------------|-------------------------------------------------|
| 第1回  | 授業に関する説明と『源氏物語』についての基礎的な知識の確認 | 授業内容・方針・方法などについての説明を行い、『源氏物語』の概容についての講義を行う。     |
| 第2回  | 平安期の社会と女性                     | 平安期の社会における女性の地位や生き方、結婚などについて概観する。               |
| 第3回  | 紫式部はどんな人?                     | 紫式部の生い立ち、日記や家集から窺える人物像についての考察を行う。               |
| 第4回  | 紫式部の生きた時代                     | 紫式部の生きた時代の政治状況を扱う。                              |
| 第5回  | 紫式部と清少納言                      | ライバルとされる紫式部と清少納言、二人の関係は本当はどうだったのかということについて考える。  |
| 第6回  | 紫式部をめぐる伝説                     | 紫式部をめぐる伝説について紹介する。                              |
| 第7回  | 『源氏物語』はなぜ・どのように書かれたか          | 起筆にまつわる伝説の補足や今日の学説、執筆の過程についての推察など、さまざまな謎について扱う。 |
| 第8回  | 『源氏物語』はどう読まれたか? -女性たち篇        | 『源氏物語』を女性読者がどう読んだかということについて見ていく。                |
| 第9回  | 『源氏物語』を嫌いな男たち                 | 近世における『源氏物語』への批判を見ていく。                          |
| 第10回 | 近現代における『源氏物語』への批判             | 近現代における『源氏物語』への批判を見ていく。                         |

- 第11回 『源氏物語』には幻の巻があった? 『源氏物語』には今知られている54帖以外の巻の名が各書に伝わっている。それらについての紹介を行う。
- 第12回 「光源氏」造型の謎 現代ではあまり人気がない光源氏だが、その主人公としての造型の謎について考える。
- 第13回 『源氏物語』から生まれたもの 『源氏物語』が後の時代の文学作品に与えた影響について見ていく。
- 第14回 まとめと補足 授業内で説明が足りなかったところや質問が多かった事項についての補足を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習としては問題意識をもって授業に臨めるように参考文献にあげた図書などを各自読んで自習をしてください。授業後には授業内容を振り返って整理し、要点の把握に努め、自分で関連論文などにあたって学びを深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間程度を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講師作成の資料を作成します。

### 【参考書】

中野幸一編『新装版 常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院 2012)、林田孝和他編集『源氏物語事典』(大和書房 2002)、高木和子『源氏物語を読む』(岩波新書 2021)、福家俊幸『紫式部 女房たちの宮廷生活』(平凡社新書 2023)、岩波文庫『源氏物語』(1~9)など。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に課すリアクションペーパーや小課題による評価が70%、期末のまとめ課題(レポート)による評価が30%とします。評価のポイントは、課題への取り組み姿勢と授業内容の理解度の深さに拠ります。

### 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけたいと思います。なお授業に関しての質問や意見にはフィードバックとして次回の授業冒頭で対応をするようにします。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** The purpose of this class is to deepen students' understanding of the period in which "The Tale of Genji" was written and its author, Murasaki Shikibu. Students will also learn how the evaluation of "The Tale of Genji" changes depending on the time period and the gender of the reader.

**Learning Objectives:** The goals of this course is to get the knowledge necessary for a deep understanding of The Tale of Genji. Students will also gain knowledge about the author and the society that produced this work.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before each class, students will be expected to have read the materials listed in the bibliography. After each class, students are expected to revise the class content, read the materials related to the lecture content. These tasks take four hours each week.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on 14 assignments (70%) and a long report (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (2) 中古B

加藤 昌嘉

授業コード：A2662 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

◆『源氏物語』以降の様々な物語を読んでゆきます。テーマは、《禁忌の恋》《禁断の愛》です。それらは、主人公と読者だけが共有する“秘密”になります。“禁忌侵犯”“秘密”は、物語を展開するための力源なのです。

◆この授業では、平安～鎌倉時代の作り物語や説話集を取り挙げ、作劇法や、当時の思想などを、多角的に考察してゆきます。

## 【到達目標】

◆A. 物語のメカニズムを客観的に分析する力を養う。

◆B. 中古 (平安時代)～中世 (鎌倉時代) の文化や思想を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

◆毎回、プリントを配布して講義を行います。

◆受講者からの質問・アイデアなどは、授業内で紹介し、フィードバック (フォローアップ) します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ          | 内容                       |
|----|--------------|--------------------------|
| 1  | 導入           | 主人公と読者が“秘密”を共有する         |
| 2  | 『とりかへばや』     | 男装&女装、不義密通の子ども           |
| 3  | 『有明けの別れ』     | 男装する女、隠れ簀の術              |
| 4  | 『源氏物語』『長恨歌伝』 | 后妃と密通する                  |
| 5  | 『源氏物語』       | 愛人の弟を利用する                |
| 6  | 『風に紅葉』       | 少年を溺愛する                  |
| 7  | 『我が身にたどる姫君』  | 密通の連鎖、同性どうし同衾            |
| 8  | 『狭衣物語』       | 妹に恋をする、皇女を犯す             |
| 9  | 『浜松中納言物語』    | 生まれ変わりを探す & 三島由紀夫『豊饒の海』  |
| 10 | 『今昔物語集』      | 妻を奪われる、糞尿を見る             |
| 11 | 『閑居友』        | 屍体・骸骨を見る & 谷崎潤一郎『少将滋幹の母』 |
| 12 | 『撰集抄』『長谷雄草紙』 | 人造人間を愛す                  |
| 13 | 『古事談』『江談抄』   | 天皇の秘め事                   |
| 14 | 『とはすがたり』     | 複数の男と関係を持つ               |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

◆授業で取り挙げられた本のうち、面白そうだったものを、書店や図書館で入手して、(部分的でもよいので) 読んでみること。  
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

◆毎回、プリントを配布します。

## 【参考書】

◆授業内容と関わる入門書・解説書を以下に挙げます。書店や図書館で手に取って見てみてください。

◎工藤重矩『源氏物語の結婚—平安朝の婚姻制度と恋愛譚—』(中公新書)

◎橋本治『源氏供養』上下 (中公文庫)

◎神田龍身『物語文学、その解体』(有精堂)

◎中根千絵ほか『異性装—歴史の中の性の越境者たち—』(インターナショナル新書)

◎大塚ひかり『ヤバいBL日本史』(祥伝社新書)

◎大塚ひかり『ジェンダーレスの日本史』(中公新書ラクレ)

◎田中貴子&田中圭一『セクシイ古文』(メディアファクトリー新書)

◎須永朝彦編訳『王朝奇談集』(ちくま学芸文庫)

◎日本歴史編集委員会編『恋する日本史』(吉川弘文館)

◆各作品の注釈テキストは、授業内で紹介します。以下のようなシリーズが刊行されています。

◎角川ソフィア文庫 (KADOKAWA) …『源氏物語』などを収録

◎ちくま学芸文庫 (筑摩書房) …『古事談』などを収録

◎中世王朝物語全集 (笠間書院) …『風に紅葉』『我が身にたどる姫君』などを収録

◎新編日本古典文学全集 (小学館) …『浜松中納言物語』『とりかへばや物語』などを収録

◎新潮日本古典集成 (新潮社) …『狭衣物語』などを収録

◎新日本古典文学大系 (岩波書店) …『閑居友』などを収録

## 【成績評価の方法と基準】

◆期末レポート (72%)、各回のリアクションペーパー (28%)。

※期末レポートは、複数のテーマの中から1つを選択し、2000～3000字程度の小論文を書くものです。

※毎回、リアクションペーパー (コメントカード) に、疑問やアイデアなどを書いて提出してもらいます。

## 【学生の意見等からの気づき】

◆受講者が書いたリアクションペーパー (疑問やアイデアなど) をもとに、授業内容を膨らませてゆきます。

◆中古～中世文学を分析する際、比較として、現代の小説・映画・漫画なども取り挙げます。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** ◆ We will read various stories written after *The Tale of Genji*. The themes are "adultery", and "forbidden love". They become "secrets" shared by the protagonist and the reader. Secrets are the driving force behind the story. ◆ In this class, we will take up various stories from the Heian(8th-12th centuries) and Kamakura(12th-14th centuries) periods, and examine them from various perspectives, including dramatic composition methods and the thought of the time.

**Learning Objectives:** The goals of the course are the following two points:

- To develop the ability to objectively analyze how stories are made.

- To learn about the culture and thought of the Heian - Kamakura period.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on a final report (72%), and reaction papers for each session (28%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (2) 中古C

萩野 了子

### 夜間時間帯

授業コード：A2663 | 曜日・時限：火4/Tue.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化に対する理解を深める。

### 【到達目標】

百人一首の歌を軸にして歌人やその周辺歌に着目し、萬葉集や三代集など典拠となる歌集の表現を分析することで、和歌の正確な解釈が出来るようになり、当時の人々の世界観に、専門的な技能でもって迫る能力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

質問はリアクションペーパーにて受け付け、次回授業にてそれに関連した内容を扱いながら応じる。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容             |
|------|----------------|----------------|
| 第1回  | 『百人一首』概説       | 授業の方針          |
| 第2回  | 古代和歌史を概観する (1) | 漢字表記から仮名表記へ    |
| 第3回  | 古代和歌史を概観する (2) | 和歌のレトリックについて   |
| 第4回  | 天智天皇 (1)       | 天智天皇に始まる百人一首   |
| 第5回  | 天智天皇 (2)       | 歌語「苦」について      |
| 第6回  | 持統天皇 (1)       | 大和三山「天の香具山」    |
| 第7回  | 持統天皇 (2)       | 萬葉集と新古今和歌集     |
| 第8回  | 猿丸大夫 (1)       | 歌語「鹿」について      |
| 第9回  | 猿丸大夫 (2)       | 動物の鳴き声について     |
| 第10回 | 小野篁 (1)        | 貴種流離の人         |
| 第11回 | 小野篁 (2)        | 説話における篁        |
| 第12回 | 在原兄弟 (1)       | 行平詠、地名が持つ音について |
| 第13回 | 在原兄弟 (2)       | 業平詠、見立て技法について  |
| 第14回 | まとめ            | ※別途定期試験実施      |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布

### 【参考書】

『百人一首』(鈴木日出男著・ちくま文庫)、『古今和歌集』『萬葉集①~④』(新編日本古典文学全集・小学館)

### 【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度 (20%) と、定期試験結果 (80%) によって総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

### 【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read Hyakunin isshu.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read Hyakunin isshu; and 2. knowledge of Heian literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (80%); in-class contribution (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (2) 中古D

萩野 了子

## 夜間時間帯

授業コード：A2664 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化に対する理解を深める。

## 【到達目標】

百人一首の歌を軸に、その周辺歌や歌人の表現を学びながら、和歌の詠まれた背景や表現を自ら調査、分析し、当時の文学に関して自分の考えをまとめることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

質問はリアクションペーパーにて受け付け、次回授業にてそれに関連した内容を扱いながら応じる。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                   |
|------|----------------|----------------------|
| 第1回  | 『百人一首』概説       | 授業の方針                |
| 第2回  | 古代和歌史を概観する (1) | 漢字表記から仮名表記へ          |
| 第3回  | 古代和歌史を概観する (2) | 和歌のレトリックについて         |
| 第4回  | 小野小町 (1)       | 掛詞技法について             |
| 第5回  | 小野小町 (2)       | 美女の人生                |
| 第6回  | 陽成院            | 古代の筑波山               |
| 第7回  | 藤原敏行 (1)       | 古代の人々の「夢」について        |
| 第8回  | 藤原敏行 (2)       | 歌枕「住の江」について          |
| 第9回  | 素性法師 (1)       | 男女の逢会について            |
| 第10回 | 素性法師 (2)       | 動詞「来」について            |
| 第11回 | 三条右大臣          | 「言にしありけり」から「名にし負はば」へ |
| 第12回 | 紀友則 (1)        | 枕詞について               |
| 第13回 | 紀友則 (2)        | 助動詞「らむ」について          |
| 第14回 | まとめ            | ※別途定期試験実施            |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布

## 【参考書】

『百人一首』(鈴木日出男・ちくま文庫)・『古今和歌集』『萬葉集①～④』(新編日本古典文学全集・小学館)

## 【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度 (20%) と、レポート (80%) によって総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

## 【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read Hyakunin issyu.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read Hyakunin issyu; and 2. knowledge of Heian literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (80%); in-class contribution (20%).



LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (3) 中世 A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。歌人の閨歴、歌が詠まれた当時の解釈、『百人一首』編纂当時での解釈、当該歌の後世への影響等について解説します。そして、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

### 【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注なども参照しながら、解説します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                |
|------|-----------|-------------------|
| 第1回  | ガイダンス     | 授業計画の説明など         |
| 第2回  | 『百人一首』の謎  | 成立の問題について         |
| 第3回  | 『百人一首』の謎  | 二条派歌人の動向          |
| 第4回  | 『百人一首』古注釈 | 中世・近世の古注釈について     |
| 第5回  | 『百人一首』講読  | 右大将道綱母「歎つゝ」歌 (53) |
| 第6回  | 『百人一首』講読  | 大納言公任「滝の糸は」歌 (55) |
| 第7回  | 『百人一首』講読  | 清原元輔「契きな」歌 (42)   |
| 第8回  | 『百人一首』講読  | 清少納言「よをこめて」歌 (62) |
| 第9回  | 『百人一首』講読  | 『枕草子』清少納言と四納言     |
| 第10回 | 『百人一首』講読  | 紫式部「めぐり逢て」歌 (57)  |
| 第11回 | 『百人一首』講読  | 伊勢大輔「いにしへの」歌 (61) |
| 第12回 | 『百人一首』解説  | 小式部内侍「大江山」歌 (60)  |
| 第13回 | 『百人一首』解説  | 「大江山」歌の後世への影響     |
| 第14回 | まとめ       | 授業の総括             |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

### 【参考書】

・講談社学術文庫『百人一首』(有吉保、講談社、1983年)  
・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』(鳥津忠夫、KADOKAWA、1999年)  
・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首 (全)』(谷知子、KADOKAWA、2010年)  
その他の参考書については、授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (70%)、平常点 (30%) によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①~③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

### 【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

**Learning Objectives:** The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学研究特講 (3) 中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中世の宮廷に仕えた女房による日記文学に焦点をあて、それらの作品の特質を考察し、その面白さを学びます。

当科目では『弁内侍日記』『とはずがたり』を取りあげます。前者はまだ幼い後深草天皇に仕えた内侍、また後者は讓位後の後深草院に仕えた女房による日記文学です。二人の女性によって、後深草天皇・後深草院はどのように描写しているかに注目しながら、読解を進めます。

表現・人物造型の方法、政治的動向を描く際の手法等を分析しながら、それぞれの日記文学の特徴や文学史的な位置づけについて考察します。

## 【到達目標】

- ①日記文学に関する基本的な知識を習得する。
- ②当時の歌壇の状況や歴史的背景を理解した上で作品を解釈する。
- ③和歌や物語の享受の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントに、できるかぎり回答していきながら、授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                 |
|------|------------|--------------------|
| 第1回  | ガイダンス      | 授業計画の説明など          |
| 第2回  | 『弁内侍日記』概説  | 作品の概要              |
| 第3回  | 『弁内侍日記』    | 後深草天皇即位、宮廷を照らす月    |
| 第4回  | 『弁内侍日記』    | 閑院内裏炎上             |
| 第5回  | 『弁内侍日記』    | 「五節のまね」帝王教育、       |
| 第6回  | 『弁内侍日記』    | 廷臣の動向、歌壇状況         |
| 第7回  | 『とはずがたり』概説 | 作品の概要              |
| 第8回  | 『とはずがたり』巻一 | 後深草院との新枕           |
| 第9回  | 『とはずがたり』巻一 | 東二条院へのとりなし         |
| 第10回 | 『とはずがたり』巻二 | 彌杖事件、六条院の女楽事件      |
| 第11回 | 『とはずがたり』巻三 | 「有明の月」への仲介、御所からの追放 |
| 第12回 | 『とはずがたり』巻四 | 伏見での邂逅             |
| 第13回 | 『とはずがたり』巻五 | 熊野での夢想、後深草院の葬送     |
| 第14回 | まとめ        | 授業の総括              |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

## 【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

## 【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート (70%)、平常点 (30%) によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって、授業の理解度を確認します。

## 【学生の意見等からの気づき】

古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材作りに努めます。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course deals with *The Diary of Bennon-aishi* (弁内侍日記 *Ben no naishi nikki*) and *The Confessions of Lady Nijō* (とはずがたり *Towazugatari*).

**Learning Objectives:** The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of courtly literature of the Kamakura period.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (4) 近世A

齊藤 千恵

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

名作でたどる歌舞伎史  
「歌舞伎」とはどのような芸能か。名作でたどりつつ、その味わい方を学びます。  
時代ごとの特色を学び、各作品に関わる出版物等に触れることで、歌舞伎研究の基礎知識を習得することも目標とします。

### 【到達目標】

- ①歌舞伎の各時代ごとの特色を学び、その多様さを知る。
- ②代表的作品の楽しみ方・味わい方を身につける。
- ③番付・役者評判記・浮世絵等、歌舞伎に関わる各種資料に触れ、その読み解き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で3回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                  |
|------|---------------|-------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス 歌舞伎への誘い | 歌舞伎の楽しみ方の基本を知る                      |
| 第2回  | 歌舞伎の生成と展開     | 歌舞伎以前の流れと初期歌舞伎史について理解を深める           |
| 第3回  | さまざまな歌舞伎資料    | 歌舞伎に関わる諸資料について、基礎知識を身につける           |
| 第4回  | 元禄の上方         | 元禄の上方歌舞伎の特色を学び、その流れをくむ『廓文章』を味わう     |
| 第5回  | 元禄の江戸         | 元禄の江戸歌舞伎の特色を学び、そこから生み出されたヒーローの魅力に迫る |
| 第6回  | 二代目団十郎と芸の継承   | 江戸歌舞伎で大きな役割を果たした役者とその芸について理解する      |
| 第7回  | 歌舞伎『助六』       | 二代目団十郎の代表作『助六』の魅力を知る                |
| 第8回  | 人形浄瑠璃と歌舞伎     | 歌舞伎に大きな影響を与えた人形浄瑠璃について理解を深める        |
| 第9回  | 義太夫狂言①        | 義太夫狂言『菅原伝授手習鑑』の名場面を味わう              |
| 第10回 | 義太夫狂言②        | 義太夫狂言『義経千本桜』の名場面を味わう                |
| 第11回 | 鶴屋南北と化政期の歌舞伎  | 化政期に活躍した作者・鶴屋南北とその作風を理解する           |
| 第12回 | 河竹黙阿弥と白浪物     | 幕末から明治期に活躍した作者・河竹黙阿弥とその作風を理解する      |
| 第13回 | 古典化への道程       | 役者の家の芸と歌舞伎の古典化について考察する              |
| 第14回 | まとめ 歌舞伎のゆくえ   | 歌舞伎の芸能としての特徴を考える                    |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。  
授業外に提出課題を課すことがある。  
本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。  
最近多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

### 【テキスト (教科書)】

資料を配付する。

### 【参考書】

今岡謙太郎『日本古典芸能史』(2008年、武蔵野美術大学出版局)  
早稲田大学演劇博物館デジタルアーカイブ (<https://www.waseda.jp/enpaku/db/>)  
その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (1) アクションペーパーへの取り組み) : 40 %  
小課題 (×3回) : 60 %

### 【学生の意見等からの気づき】

画像・映像を用いることにより、イメージを捉えやすい講義を目指したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを活用するため、スマートフォン・タブレット等を用意してほしい (ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します)。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けませんが、質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付ける。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

What kind of performing art is "Kabuki"? Get to know some masterpieces and learn how to enjoy them.

By learning about the characteristics of each era and touching on the materials of each work, you will acquire basic knowledge of Kabuki research.

#### 【Learning Objectives】

1. Learn the characteristics of each period of Kabuki and understand its diversity.
2. Learn how to enjoy and savor some of Kabuki's masterpieces.
3. Learn about various Kabuki materials such as banzuke, actor reviews, and ukiyo-e prints.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 3 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Performance in class (reaction papers): 40%.

Short assignments (3 times): 60%.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (4) 近世B

齊藤 千恵

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「忠臣蔵」とその周辺文化について学ぶ。赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われた。なかでも大ヒットしたのは、「仮名手本忠臣蔵」である。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となった。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られている。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった「仮名手本忠臣蔵」と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の広がりを学ぶ。

## 【到達目標】

- ①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
- ②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
- ③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
- ④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で3回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                                               |
|------|-----------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入・時代背景         | 物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。                  |
| 第2回  | 人形浄瑠璃と歌舞伎       | 人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。 |
| 第3回  | 「仮名手本忠臣蔵」①      | 判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。   |
| 第4回  | 「仮名手本忠臣蔵」②      | 勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎた死を選ぶのか。運命に翻弄された男の悲劇を味わう。    |
| 第5回  | 「仮名手本忠臣蔵」③      | 遊興にふける由良之助の真意はどこにあるのか。それを悟った兄妹の動向を理解する。          |
| 第6回  | 「仮名手本忠臣蔵」④      | 大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。             |
| 第7回  | 「仮名手本忠臣蔵」⑤      | 敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を把握する。                   |
| 第8回  | 歌舞伎「東海道四谷怪談」①   | 作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。              |
| 第9回  | 歌舞伎「東海道四谷怪談」②   | 鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。                      |
| 第10回 | 「忠臣蔵もの」の浮世絵     | 「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。                   |
| 第11回 | 「忠臣蔵もの」の草双紙     | 「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。                               |
| 第12回 | 「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書  | 評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。                         |
| 第13回 | 「忠臣蔵もの」の舌耕文芸    | 落語『中村仲蔵』『四段目』の面白さを味わう。                           |
| 第14回 | まとめ 「忠臣蔵もの」のゆくえ | 「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。                                |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。

授業外に提出課題を課すことがある。

本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。最近多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

## 【テキスト (教科書)】

資料を配布する。

## 【参考書】

『仮名手本忠臣蔵を読む』(服部幸雄編、吉川弘文館、2008)

『新潮日本古典集成 浄瑠璃集』(土田衛校注、新潮社)

『新編日本古典文学全集 浄瑠璃集』(鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館) その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクションペーパーへの取り組み) : 40%

小課題 (×3回) : 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

画像・映像を用いて、イメージを捉えやすい講義を行う。

小課題の内容を整理し、提出回数を変更する。

## 【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを活用するため、スマートフォン・タブレット等を用意してほしい(ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します)。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けないが、質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付ける。

第8回以降で扱う作品は、受講生の状況により変更する可能性もある。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura* (*The Treasury of Loyal Retainers*) and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.

**Learning Objectives:** At the completion of this course, students will:

1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshin-gura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyo-e*, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 3 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.

**Grading Criteria/Policy:** Performance in class (reaction papers): 40%. Short assignments (3): 60%.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (5) 近代A

佐藤 未央子

授業コード：A2673 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、1910~20年代の大衆文化を題材にした谷崎潤一郎の短編小説を取り上げる。日本を代表する小説家である谷崎潤一郎は、当時最先端の文化や芸術を作品に積極的に取り入れた。そのサブ・カルチャー的な世界観や、当時としては尖端的なジェンダー・セクシュアリティ表現、メディアを横断した活動の実態を学ぶことで、近現代の文化や社会に対する批評眼を養う。また作品読解を通して、戦前の検閲や既成道徳とはいかなるものであったかも学び、文学が持つ力に対する考察を深める。

### 【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制 (内務省検閲) の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。課題として、リアクションペーパーの提出を求める。次回授業でコメントや質問を取り上げ、フィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                         |
|------|-------------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション / 「刺青」① | 授業内容と進め方に関する説明 / 谷崎潤一郎の作家性を知る              |
| 第2回  | 「刺青」②             | 谷崎が描いた女性像や美学について、他の初期作品と比較して分析する。          |
| 第3回  | 「秘密」①             | 小説の舞台となる盛り場・浅草の文化について学ぶ。                   |
| 第4回  | 「秘密」②             | 作中で言及される海外文学や思想の内容を確認する。                   |
| 第5回  | 「秘密」③             | 作中のジェンダー表象や、映画的要素の意味を分析する。                 |
| 第6回  | 文学・映画の表現規制①       | 文学・映画に対する内務省検閲の実態を取り上げ、特徴を比較する。            |
| 第7回  | 文学・映画の表現規制②       | 谷崎の作品において、実際にどのような表現が規制されたかを具体的に確認する。      |
| 第8回  | 近代女優の誕生           | 日本近代演劇・映画において、女優という存在がいかに創られてきたのかを学ぶ。      |
| 第9回  | 「人面痘」①            | 女優の身体表象について、映画の果たした役割を踏まえて考察する。            |
| 第10回 | 「人面痘」②            | 作中映画におけるエキゾチズムとその問題について、日米関係をふまえて分析する。     |
| 第11回 | 「人面痘」③            | ヴァルター・ベンヤミンの理論をもとに、映画がもたらす複製の恐怖について考察する。   |
| 第12回 | 谷崎潤一郎の映画製作①       | 谷崎が所属した大正活映の活動を中心に、日本映画の改良運動とその意義について確認する。 |
| 第13回 | 谷崎潤一郎の映画製作②       | 泉鏡花原作の映画『葛飾砂子』について、資料をもとに実像を分析する。          |
| 第14回 | 総括                | これまでの復習を行う。                                |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義で扱う作品を読んでいることを前提に講義を進めます。毎回必ず予習をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

谷崎潤一郎「刺青」 [https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56641\\_59496.html](https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56641_59496.html)

谷崎潤一郎「秘密」 [https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/57349\\_60032.html](https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/57349_60032.html) (以上、青空文庫)

ほか、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

### 【参考書】

・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス』シリーズ (1998~1999、中央公論社)

・五味典嗣『言葉を食べる 谷崎潤一郎、1920-1931』(2009、世織書房)  
・山中剛史『谷崎潤一郎と書物』(2020、秀明大学出版会)  
・佐藤未央子『谷崎潤一郎と映画の存在論』(2022、水声社)  
ほか、講義内でも紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%

→ 授業ごとの提出を求めます。

・学期末試験：60%

→ 参照不可の筆記試験。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を出題予定。

授業時間内ではなく、定期試験期間に行います (時間割は試験前に、大学から発表されます)。

以上を考慮し、総合的に判断します。

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、お気軽にご確認ください。

授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) の「課題」欄を通してリアクションペーパーの提出を行います。

学習支援システムと情報システムは異なるものです。履修登録の際はご注意ください。

### 【その他の重要事項】

リアクションペーパーの作成において、生成AIの使用は禁止とします。

また、他者が書いた文章 (論文、書籍、ウェブサイト等) を、出典を示さずに使用することは剽窃 (不正行為) にあたります。引用する場合は、必ず出典を明記すること。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course will focus on Tanizaki Jun'ichirō's short stories about popular culture of the 1910s and 20s. Tanizaki Jun'ichirō, one of Japan's leading novelists, actively incorporated the latest culture and art into his works. By learning about its subcultural elements, gender and sexual expression, and cross-media activities, students develop a critical eye for modern and contemporary culture and society. They also learn about pre-war censorship and established morality.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret the primary sources in history.
- Explain about censorship by the Home Ministry.
- Use knowledge of modern culture to discuss works.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%), in-class contribution (40%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (5) 近代B

佐藤 未央子

授業コード：A2674 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

谷崎潤一郎の小説は、1930年代以降の文芸映画ブームの中で次々と映画化されていった。本講義では、谷崎の小説が映画化されるに際して生じた問題とその背景を考察する。具体的には、映画に際して働いたバイアスや表現規制と、女性(女優)の演出に焦点を当てる。映画化された文学が持つ新たな相貌とその波及効果、さらに女優が社会状況を反映して表象されていく様相について考えていく。

## 【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制(内務省/GHQ検閲)の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。課題として、リアクションペーパーの提出を求める。次回授業でコメントや質問を取り上げ、フィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                                                 |
|------|------------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション/アダプテーションとは何か | 授業内容と進め方に関する説明/多様な形に変換されていく「アダプテーション」の意義について考える。   |
| 第2回  | 「蛇性の姪」①                | 谷崎が「雨月物語」をいかに翻案したのか、脚本を分析する。                       |
| 第3回  | 「蛇性の姪」②                | 谷崎の脚本と溝口健二監督「雨月物語」を比較し、それぞれの主題を考察する。               |
| 第4回  | 「春琴抄」①                 | 1930年代の文芸映画ブーム以降、繰り返し映画化されてきた理由と演出の傾向を分析する。        |
| 第5回  | 「春琴抄」②                 | 昭和から平成の映画化を具体的に確認し、原作と比較する。                        |
| 第6回  | 「春琴抄」③                 | 「春琴抄」の主題である「盲目」を映画化することの意味について考察する。                |
| 第7回  | 「盲目物語」①                | ひらがなを多用した谷崎独自の文体と、歴史を語る手法について学ぶ。                   |
| 第8回  | 「盲目物語」②                | 戦時下に映画化されるにあたり、原作のいかなる点が前掲化されたのか分析する。              |
| 第9回  | 「痴人の愛」①                | 戦前に小説「痴人の愛」と登場人物の「ナオミ」がもったインパクトを明らかにする。            |
| 第10回 | 「痴人の愛」②                | 原作と映画における、人物像や時代設定の差異を比較する。                        |
| 第11回 | 「痴人の愛」③                | ストーリーの根幹が大きく変更された背景と要因を考える。                        |
| 第12回 | 「卍」①                   | 女性同性愛の表象について、谷崎による戦前の小説と、戦後の映画版ではいかなる差異がみられるか分析する。 |
| 第13回 | 「卍」②                   | ナチス政権下のドイツを舞台とした映画化を取り上げ、日本版と比較検討する。               |
| 第14回 | 総括                     | これまでの復習を行う。                                        |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義で扱う小説の内容を知っていることを前提に講義を進めます。毎回必ず予習をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

教科書は使用しません。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

## 【参考書】

- ・谷崎潤一郎「春琴抄」[https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56866\\_58169.html](https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56866_58169.html)
- ・谷崎潤一郎「盲目物語」[https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56868\\_58745.html](https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56868_58745.html)
- ・谷崎潤一郎「痴人の愛」[https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/58093\\_62049.html](https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/58093_62049.html)

・谷崎潤一郎「卍」[https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56873\\_62035.html](https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56873_62035.html)

(以上、青空文庫)

・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス(11) 銀幕の彼方』(1999、中央公論社)

・千葉伸夫『映画と谷崎』(1989、青蛙房)

・佐藤未央子『谷崎潤一郎と映画の存在論』(2022、水声社)

・北村匡平『美と破壊の女優 京マチ子』(2019、筑摩書房)

・田中純一郎『日本映画発達史』3～5巻(1976、中央公論社)

ほか講義内でも紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%

→授業ごとの提出を求めます。

・学期末試験：60%

→参照不可の筆記試験。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を出題予定。

授業時間内ではなく、定期試験期間に行います(時間割は試験前に、大学から発表されます)。

以上を考慮し、総合的に判断します。

## 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足点があれば、お気軽にご確認ください。

授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム(Hoppi)の「課題」欄を通してリアクションペーパーの提出を行います。

学習支援システムと情報システムは異なるものです。履修登録の際はご注意ください。

## 【その他の重要事項/Others】

## 【その他の重要事項】

リアクションペーパーの作成において、生成AIの使用は禁止とします。

また、他者が書いた文章(論文、書籍、ウェブサイト等)を、出典を示さずに使用することは剽窃(不正行為)にあたります。引用する場合は、必ず出典を明記すること。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course deals with the problems that occurred when Tanizaki Jun'ichirō's novels were made into movies. It also explains censorship and bias of expression with film-making, and actresses' performance. We discuss the new aspects of the film adaptation of literature and its ripple effects, as well as the representation of actresses reflecting social situations.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret primary sources in history.
- Explain about censorship by GHQ/SCAP.
- Use knowledge of postwar culture to discuss works.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%), in-class contribution (40%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学研究特講 (5) 近代C

高口 智史

### 夜間時間帯

授業コード：A2675 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(明治) 文学を読む——〈居場所〉を失う人々の物語

文学には様々なアプローチの仕方があるが、この授業では文学作品の想像力と批評性という点から文学作品の持つ今日における可能性について考えたい。明治の文学というと21世紀の今日では100年を経過し既に古典のように思う人も多いかもしれない。明治の人々の苦悩を、古い封建時代に抵抗した「新しい人間」の苦悩の問題と捉えると、確かに現在では解決済みの古びた問題のように見える。しかし視点を変えて、明治の文学が新たに確立していく近代の資本主義国家体制に翻弄され、その中でどう生きるかという問題を投げかけた文学だったと考えると、「新自由主義」の暴走の中で、旧来の秩序が崩壊し、個の尊厳が奪われていく現在の私たちにそれほど遠い話ではないように思われる。

そこでなぜ〈居場所〉をテーマとするのか。ひとは個で生きているのではなく、自分の存在が承認され、日常が永続的に繰り返される環境を必要としている。〈居場所〉という言葉に象徴される関係性の中で生きているのだ。しかし近代国家や資本は、それらにとって「役に立たない」=価値のない人間から〈居場所〉を奪い、容赦なく排除してきた。言い換えれば、人間をつねに流動化させ、生の基盤である平穏な日常を過ごす〈居場所〉を奪ってきた。私たちの抱える不安は近代社会の構造に根差しているところが大きい。

ところでこのような経験は既に近代化の始まった「明治」に始まっている。明治の文学者こそ、なんの予備知識や情報、理論も持ち合わせないまま突然現れた新しい時代に向き合い、物語という想像力だけを頼りに困難な時代の中で人間の生き方を模索したのだと言える。授業ではいずれも明治の代表的な作品(『浮雲』『十三夜』『坊っちゃん』『舞姫』)を「〈居場所〉を失う人々の物語」という視点で新たに読み返し、私たちの現在を照射する鏡としたと思っています。

### 【到達目標】

- ・新しい視点から「明治」文学の歴史的意味、さらに今日における意味を理解する。
- ・文学作品のもつ想像性や批評性を理解する。
- ・小説の基本的な構造分析と読みの方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業に入る時にその作品についての感想を提出してもらう。また終了時には、どのような発見があったか、何を学ぶことが出来たか、または授業への質問疑問などを提出してもらい、適宜その内容について授業で発表し問題を共有していく。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ           | 内容                                                                           |
|-----|---------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス         | ①この授業の目的と進め方について<br>②近代文学の発生をめぐる歴史的コンテキスト                                    |
| 第2回 | 二葉亭四迷「浮雲」を読む① | ①第一篇の物語を読む(失業という問題)<br>②第一篇の語りの構造についての考察                                     |
| 第3回 | 二葉亭四迷「浮雲」を読む② | ①第二篇の物語を読む(イエのエゴイズム)<br>②第二篇の語りの構造についての考察                                    |
| 第4回 | 二葉亭四迷「浮雲」を読む③ | ①第三篇の物語を読む<br>②第三篇の語りの構造と中絶との関連をめぐる歴史的考察<br>③「浮雲」の批評性について(ポスト自由民権時代の問題をめぐって) |
| 第5回 | 森鷗外「舞姫」を読む①   | ①物語の概要の確認 ②物語を読む1—「まことの我」への新しい視点                                             |
| 第6回 | 森鷗外「舞姫」を読む②   | ①物語を読む2—相沢謙吉登場の意味・二つの文化の衝突の問題                                                |
| 第7回 | 森鷗外「舞姫」を読む③   | ①物語を読む3—豊太郎の破綻と語りの構造についての考察(文語文の意味)<br>②「舞姫」の批評性について(自我と文化)                  |

|      |                 |                                                        |
|------|-----------------|--------------------------------------------------------|
| 第8回  | 樋口一葉「十三夜」を読む①   | ①物語を読む1—歴史的コンテキストをめぐる考察(没落士族という身分・明治のジェンダー)            |
| 第9回  | 樋口一葉「十三夜」を読む②   | ①物語を読む2—録之助の物語に表象される近代の暴力<br>②作品の批評性について考える(近代と対峙する一葉) |
| 第10回 | 夏目漱石「坊っちゃん」を読む① | ①物語を読む1—四国に旅立つまで<br>②語りの構造について考える(行為としての語り)            |
| 第11回 | 夏目漱石「坊っちゃん」を読む② | ①物語を読む2—四国の物語をめぐる重層的な語りの構造について考える                      |
| 第12回 | 夏目漱石「坊っちゃん」を読む③ | ①物語を読む3—「清」という表象<br>②漱石における「坊っちゃん」の位置と「坊っちゃん」の批評性      |
| 第13回 | まとめ             | 近代の暴力と〈居場所〉—〈明治〉文学を今日に活かすために                           |
| 第14回 | 学期末試とその解説       | ①授業の理解を確認する試験<br>②試験の解説                                |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。いずれも文庫でテキストが手に入りやすい作品なので、その周辺の作品にも目を通してほしい。また今回取り上げる作品の歴史的コンテキストについても予習し、明治時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてくれればなおよい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

『浮雲』(岩波文庫)、『坊っちゃん』(新潮文庫)を使用する。そのほかの『舞姫』『十三夜』のテキスト及び資料は学習システムや授業を通して配布する。

### 【参考書】

- ・内田樹『映画の構造分析』(文春文庫)なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。
- ・土方洋一『物語のレッスン』(青簡舎・品切れ)手に入りにくい、読み方をめぐる最良の入門書。探しても読んでほしい。
- ・三原芳秋他『クリティカル・ワード文学理論』(フィルムアート社)少々何回だが、テキスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。
- ・西郷信綱『古典の影』(平凡社ライブラリー・品切れ)読みとはなにかについて考える上でのヒントにあふれている。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点=各作品をめぐる感想や授業コメント等(50%)  
授業に対する取り組み姿勢(作品をしっかりと読みこんでいるか、授業を理解しようとする姿勢があるか等)
- ・学期末試験(50%)  
授業の理解度についての試験。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。
- ・話が早くて理解が追いつかないという意見もあった。なるべく基本的な点については丁寧に説明するように心掛けたい。

### 【Outline (in English)】

Reading Meiji Literature: Stories of People Who Lose Their Place

There are various approaches to literature, but in this class, we would like to think about the possibilities of literary works today in terms of their imagination and criticality.

Today, in the 21st century, many people may think of Meiji literature as a classic, as 100 years have passed. If we think of the suffering of the Meiji people as the problem of how to adapt to a new era in the midst of being at the mercy of the old feudal era and the new Western civilization, it certainly seems like an old problem that had been resolved. However, if we change our perspective and consider that the problem was how to live at the mercy of the newly established modern capitalist state system, it doesn't seem to be an old story for us today, as the old order collapses and individual dignity is being taken away in the face of the runaway capitalism of "neoliberalism."

Then, why do we choose "their place" as a theme? "Their place" does not just mean a place to live. We do not live as individuals; we need a place where our existence is acknowledged and where our daily routine can be repeated permanently. We live in a variety of relationships symbolized by the word "place." However, the modern state and capital have deprived people who are "useless" or have no value of "their place" and have ruthlessly eliminated them. We live in a society where humans are constantly in flux, and it is extremely difficult to have our place to belong, which is the foundation of humanity. Our inability to feel happiness even though we have enough food and clothing is largely due to the structure of modern society.

However, if you read literary works, you will find that this kind of experience already began in the Meiji era. It can be said that the people of the Meiji era were the ones who searched for the human condition in a new era that suddenly appeared, relying only on the imagination of stories, without any theory. In this class, we would like to reread representative works of the Meiji era such as "Ukigumo," "Zyusanya," "Botchan," and "Maihime" from the perspective of "stories of people who lose their place," and use them as mirrors to illuminate our current situation.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Please be sure to read the work before coming to class. All of these works are easily available in paperback, so please take a look at their surrounding works as well. It would also be a good idea to study the historical context of the works we will be discussing this time and have a rough idea of the Meiji period. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria

· Normal score = impressions about each work, class comments, etc. (50%)

Attitude toward the lesson (are you reading the work thoroughly, are you trying to understand the lesson, etc.)

· Final exam (50%)

A test of understanding of the lesson.



LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (5) 近代D

梅澤 亜由美

### 夜間時間帯

授業コード：A2676 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

\*近代小説の語り、および視点と小説の関係について考える。  
→この授業では、1890年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語り、構造、および視点に注目し、その効果を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析してもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。

### 【到達目標】

- 1、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。
- 2、語りの構造や視点と小説の関係分析ができる。
- 3、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

\*教員による講義、および学生同士の意見交換によって進めます。毎回、以下のようなワークがあります。

ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析してもらいます。  
ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。

→ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、授業のはじめにフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                               |
|------|---------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス         | 授業のテーマ、目標、やり方について説明する。                           |
| 第2回  | 内田百閒『件』       | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |
| 第3回  | 佐藤春夫『西班牙犬の家』  | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |
| 第4回  | 泉鏡花『外科室』      | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |
| 第5回  | 志賀直哉『冬の往来』    | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |
| 第6回  | 坂口安吾『風博士』     | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |
| 第7回  | 尾崎翠『香りから呼ぶ幻覚』 | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |
| 第8回  | 江戸川乱歩『人でなしの恋』 | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |
| 第9回  | 梶井基次郎『Kの昇天』   | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |
| 第10回 | 谷崎潤一郎『富美子の足』  | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |
| 第11回 | 夢野久作『殺人リレー』   | 小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。<br>ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。 |

|      |               |                               |
|------|---------------|-------------------------------|
| 第12回 | 一人称小説の分析実践 編① | 授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。 |
| 第13回 | 一人称小説の分析実践 編② | 授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。 |
| 第14回 | まとめ           | 一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。           |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・【事前学習】 指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。  
→登場人物を抜き出す (テキストに印をつける)。  
→語り手の特徴を抜き出す (テキストに印をつける)。
- ・【事後学習】 講義をもとに、提示された課題を行い、学習支援システムから提出する  
→語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える (他の人物が語り手になったらどう変わるか)。

### 【テキスト (教科書)】

以下に、テキストをあげます。手に入りにくいものは、こちらでも準備します。第1回の講義で、詳しく説明します。

- ・内田百閒『件』(『ちくま日本文学001 内田百閒』ちくま文庫)
- ・佐藤春夫『西班牙犬の家』(『怪奇探偵小説名作選4 佐藤春夫集』ちくま文庫)
- ・泉鏡花『外科室』(『外科室・海城発電 他五篇』岩波文庫)
- ・志賀直哉『冬の往来』(『ちくま日本文学021 志賀直哉』ちくま文庫)
- ・坂口安吾『風博士』(『ちくま日本文学009 坂口安吾』ちくま文庫)
- ・尾崎翠『香りから呼ぶ幻覚』(『尾崎翠集成 上』ちくま文庫)
- ・江戸川乱歩『人でなしの恋』(『江戸川乱歩作品集I 人でなしの恋・孤島の鬼』岩波文庫)
- ・梶井基次郎『Kの昇天』(『ちくま日本文学028 梶井基次郎』ちくま文庫)
- ・谷崎潤一郎『富美子の足』(『谷崎潤一郎フェティシズム小説集』集英社文庫)
- ・夢野久作『殺人リレー』(『夢野久作全集8』ちくま文庫)

### 【参考書】

安藤宏『「私」をつくる—近代小説の試み』岩波新書  
廣野由美子『一人称小説とは何か—異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房  
石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

### 【成績評価の方法と基準】

- \*以下の①②をもとに総合的に評価します。
- ①各回ワーク：50% (到達目標1、2に対応)
- ②学期末課題：50% (到達目標3に対応)

### 【学生の意見等からの気づき】

後半の学生による発表が刺激になるとのことです。教員も、大きな刺激を受けています。

### 【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、PC、タブレット、スマホなど。PDFのファイルを見るのに、利用します。

### 【その他の重要事項】

\*秋学期の授業となります。2022年9月の状況によっては、授業内容の変更もあり得ます。必ず秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。  
※学期末課題の提出は11回授業終了後、12月初旬となります。その後は、授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。

### 【Outline (in English)】

#### Course Outline

This course introduces the style of stories called "first-person novels" written after the 1890's. We learn about its position in the history of literature, and analyze examples in terms of the expression of perspective.

#### Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the role of narrative in novels.
- ・ Explain the relation between narrative and theme in novels.
- ・ Write analytical papers of their original thought using the theory learned in class.

#### Learning Activities Outside of the Classroom

Preparation: Students read each novel and think about the characters and the narrator in the novel.

Review: Students write and upload a short paper after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

#### Grading Criteria/Policy

Your final grade will be calculated according to the following process: regular short papers (50%); final paper (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (6) 現代A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

森鷗外作品とそのアダブテーション (鷗外作品を素材とする演劇や映画) を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

## 【到達目標】

近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

To learn how to read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present day.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                                       |
|------|-----------------|------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス           | 講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする              |
| 第2回  | 「舞姫」(1)         | 「近代的自我とその挫折の物語」としての受容の系譜                 |
| 第3回  | 「舞姫」(2)         | 定番教材としての受容の系譜                            |
| 第4回  | 「舞姫」(3)         | 「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について       |
| 第5回  | 「舞姫」(4)         | ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する                      |
| 第6回  | 映画「舞姫」(1)       | 篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する                          |
| 第7回  | 映画「舞姫」(2)       | 鑑賞の続きとグループワークによる批評                       |
| 第8回  | 映画「舞姫」(3)       | 各グループでの討議内容の発表                           |
| 第9回  | 鷗外と女性たち         | 鷗外と明治大正期の女性表現者たちとのかわりを知る                 |
| 第10回 | 鷗外と第一波フェミニズム(1) | 鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「さへづり」を読む         |
| 第11回 | 鷗外と第一波フェミニズム(2) | 鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「なりのそ」「団子坂」その他を読む |
| 第12回 | 鷗外と性欲の問題系       | 「キタ・セクスアリス」などの鷗外作品を読む                    |
| 第13回 | 鷗外と性暴力の問題系      | 「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む                       |
| 第14回 | 全体のまとめ          | 今期の振り返りとレポート提出                           |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【テキスト (教科書)】

授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる。

。映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

## 【参考書】

『鷗外近代小説集』(岩波書店)、金子幸代編『鷗外女性論集』(不二出版)、その他授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーおよび小レポートの内容30%、期末レポート(または試験)70%。3分の2以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなると思われる。

## 【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム/ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文芸研究特講 学籍番号 氏名」とすること。メール宛先: fujiki@olive.ocn.ne.jp

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

**Grading Criteria/Policy:** The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (6) 現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

森鷗外の作品とそのアダプテーション(鷗外作品を素材とする演劇や映画)を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

### 【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。To acquire the ability to carefully read modern and contemporary literature from the perspective of gender and sexuality, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present age.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                      |
|------|-----------------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                 | 講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする             |
| 第2回  | 森鷗外「半日」の波紋            | 「半日」をめぐる私小説としての受容について                   |
| 第3回  | 森鷗外「半日」の戦略            | 設定とプロットを検討し、「半日」のテーマを考える                |
| 第4回  | 「作家の妻」とテキスト           | 森しげ(鷗外後妻)へのハラズメントについて知る                 |
| 第5回  | 永井愛「鷗外の怪談」(1)         | 演劇作品「鷗外の怪談」(2014)の鑑賞                    |
| 第6回  | 永井愛「鷗外の怪談」(2)         | 鑑賞の続きと解説                                |
| 第7回  | 鷗外と大逆事件               | 大逆事件の影響下で書かれた鷗外作品の概略を知る                 |
| 第8回  | 森しげ「波瀾」の戦略と「あだ花」の宛先   | 森しげの代表作を読む                              |
| 第9回  | 鷗外・しげのインターテクスチュアリティ   | 二作家の作品群のテキスト間相互関連性について知る                |
| 第10回 | 森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折       | 「お鯉さん」に描かれた女性から女性への欲望の様相を読む             |
| 第11回 | 雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(1) | 三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された鷗外作品について         |
| 第12回 | 雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(2) | 三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された森しげと与謝野晶子の作品について |
| 第13回 | 鷗外と与謝野晶子              | 自然主義時代における与謝野晶子の活動と鷗外との関係について           |
| 第14回 | 全体のまとめ                | 今期の振り返りとレポート提出                          |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト(教科書)】

授業時にプリント配布する。

### 【参考書】

『鷗外近代小説集』(岩波書店)、『明治文学全集』(筑摩書房)、その他授業中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容30%、期末レポート(または試験)70%。3分の2以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

### 【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム/ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメール fujiki@olive.ocn.ne.jp でも受け付ける。メールでの質問の場合は件名を「学籍番号 氏名」とすること。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context.

2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

**Grading Criteria/Policy:** The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (7) 漢文 A

遠藤 星希

授業コード：A2681 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・莊子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々な思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

## 【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点(句読点・返り点・送り仮名)がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書(辞典・目録など)を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう(同時に質問も受けつける)。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容                             |
|------|----------|--------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス    | 諸子百家の思想とその時代背景についての概説          |
| 第2回  | 儒家の思想(1) | 『論語』を読む(1):「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より |
| 第3回  | 儒家の思想(2) | 『論語』を読む(2):「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より  |
| 第4回  | 儒家の思想(3) | 『孟子』を読む(1):「公孫丑上」「離婁上」等より      |
| 第5回  | 儒家の思想(4) | 『孟子』を読む(2):「梁惠王上」「尽心上」等より      |
| 第6回  | 道家の思想(1) | 『老子』を読む:「第一章」「第五章」等より          |
| 第7回  | 道家の思想(2) | 『莊子』を読む(1):「斉物論篇」「大宗師篇」等より     |
| 第8回  | 道家の思想(3) | 『莊子』を読む(2):「応帝王篇」「秋水篇」等より      |
| 第9回  | 道家の思想(4) | 『列子』を読む:「天瑞篇」「周穆王篇」等より         |
| 第10回 | 法家の思想(1) | 『韓非子』を読む(1):「五蠹篇」等より           |
| 第11回 | 法家の思想(2) | 『韓非子』を読む(2):「外儲説篇」等より          |
| 第12回 | 雑家の思想    | 『淮南子』を読む:「人間訓」等より              |
| 第13回 | 墨家の思想    | 『墨子』を読む:「非攻篇上」等より              |
| 第14回 | 兵家の思想    | 『孫子』を読む:「謀攻篇」「軍争篇」等より          |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習(辞書を引いて文意をつかむ等)をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

テキスト(教科書)は使用しない。担当教員が作成した印刷物を教室で配布する。

## 【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』(ちくま学芸文庫、2015年)
- ・古田島洋介『これならわかる返り点』(新典社、2009年)

- ・加地伸行『漢文法基礎』(講談社学術文庫、2010年)
  - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』(明治書院、2011年)
  - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』(新典社、2012年)
- その他、適宜授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験(筆記)の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけでなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

## 【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will carefully select relatively famous passages from the writings of the *zhuzi baijia* (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. *Zhuzi* in *zhuzi baijia* refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. *Baijia* refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of *zhuzi baijia*, we will relive their thoughts and in so doing seek to attain a novel perspective from which to revisit contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts;
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have grasped the characteristics of the philosophy of the *zhuzi baijia*; and
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (7) 漢文B

遠藤 星希

授業コード：A2682 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

### 【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点(句読点・返り点・送り仮名)がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書(辞典・目録など)を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう(同時に質問も受けつける)。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                   |
|------|------------|----------------------|
| 第1回  | 『戦国策』ガイダンス | 『戦国策』と中国の戦国時代についての概説 |
| 第2回  | 『戦国策』精読(1) | 「斉策」より               |
| 第3回  | 『戦国策』精読(2) | 「燕策」より               |
| 第4回  | 『戦国策』精読(3) | 「楚策」より               |
| 第5回  | 『戦国策』精読(4) | 「魏策」より               |
| 第6回  | 『史記』ガイダンス  | 『史記』と司馬遷についての概説      |
| 第7回  | 『史記』精読(1)  | 「廉頗藺相如列伝」より「完璧」      |
| 第8回  | 『史記』精読(2)  | 「廉頗藺相如列伝」より「渾池の会」    |
| 第9回  | 『史記』精読(3)  | 「項羽本紀」より             |
| 第10回 | 『史記』精読(4)  | 「淮陰侯列伝」より            |
| 第11回 | 『史記』精読(5)  | 「管晏列伝」より             |
| 第12回 | 『史記』精読(6)  | 「伍子胥列伝」より            |
| 第13回 | 『史記』精読(7)  | 「孫子呉起列伝」より           |
| 第14回 | 『史記』精読(8)  | 「刺客列伝」より             |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習(辞書を引いて文意をつかむ等)をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

テキスト(教科書)は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

### 【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』(ちくま学芸文庫、2015年)
  - ・古田島洋介『これならわかる返り点』(新典社、2009年)
  - ・加地伸行『漢文法基礎』(講談社学術文庫、2010年)
  - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』(明治書院、2011年)
  - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』(新典社、2012年)
- その他、適宜授業中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験(筆記)の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけでなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

### 【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will carefully select and read relatively famous passages from *Zhan Guo Ce (Strategies of the Warring States)* and *Shiji (Records of the Grand Historian)* in the original language. *Zhan Guo Ce* is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read thereafter. *Shiji* is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on *The Tale of Genji* but also had enduring effects on subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from *Zhan Guo Ce* and *Shiji*, we will deepen our understanding of ancient Chinese society and culture and absorb the wisdom of the people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

**Learning Objectives:** By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts.
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have acquired a basic knowledge of *Zhan Guo Ce* and *Shiji*.
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policy:** Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (7) 漢文C

吉井 涼子

## 夜間時間帯

授業コード：A2683 | 曜日・時限：月6/Mon.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

先秦時代の有名な書物や親しみのある故事成語の典故などを用い、比較的短文のものやシンプルな構造のものから読み始めることで、漢文(古典中国語)の訓読法の基礎を学習する。当時の文化や習俗も合わせて学んでいく。

## 【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読の手法を理解する。

有名な文献や故事成語の典故、エピソードなどを読むことで、古代中国の歴史・文化に対する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。訓点(句読点・返り点・送り仮名)を付した漢文資料をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。読解に必要な時代背景や古代中国の文化に関する知識も、適時解説する。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー(又は小課題)の提出と内容で平常点を決定する。

授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱うものであり、適宜加える可能性がある。

Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.

In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments). The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ     | 内容                                                  |
|-----|---------|-----------------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス   | 授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。             |
| 第2回 | 『論語』を読む | 為政篇を中心に学ぶ。                                          |
| 第3回 | 『孟子』を読む | 梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。                         |
| 第4回 | 『管子』を読む | 牧民から「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち榮辱を知る」の成語を学ぶ。              |
| 第5回 | 『莊子』を読む | 『莊子』は寓意的な話の宝庫である。斉物論から「夢に胡蝶となる」の話、応帝王から「混沌の死」を読み解く。 |

|      |                   |                                           |
|------|-------------------|-------------------------------------------|
| 第6回  | 『淮南子』を読む          | 『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。                    |
| 第7回  | 『春秋左氏伝』を読む        | 『春秋』と『春秋左氏伝』の違いについて解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。 |
| 第8回  | 『史記』越世家を読む(1)     | 「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。                  |
| 第9回  | 『史記』越世家を読む(2)     | 「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかを知る。         |
| 第10回 | 『史記』廉頗藺相如列伝を読む(1) | 当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。           |
| 第11回 | 『史記』廉頗藺相如列伝を読む(2) | 「完璧」の故事の部分を精読し、当時の秦と六国の関係性を理解する。          |
| 第12回 | 『史記』廉頗藺相如列伝を読む(3) | 「完璧」の故事の部分の結末を読む。                         |
| 第13回 | 復習と総括             | 改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。                |
| 第14回 | 試験・まとめと解説         | 授業で学んだ知識などが身につけているか確認する。                  |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。

予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

Be sure to prepare for the materials distributed in advance.

Chinese-Japanese dictionaries and kanji dictionaries are used for preparation.

The preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【テキスト(教科書)】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

Texts will be distributed in class.

## 【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』(漢和辞典)

高校時代に使用した国語便覧など。

A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.

High school supplementary textbook.

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

1回ごときちゃんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

## 【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典

・高校国語の副教本(便覧・要覧)

など。

・また、オンライン授業になった場合はHoppiiを使うので、使用できるような環境を整えておくこと。

・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.

・High school supplementary textbook.

・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

## 【その他の重要事項】

対面授業の予定だが、オンライン(オンデマンド)になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合はHoppiiを利用し、zoomなどは使わない予定である。

I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

[Outline (in English)]

**Course Outline:** In this class, we learn how to read classical Chinese using familiar stories. We start with simple and short passages from famous books of the pre-Qin Dynasty, carefully reading them while touching on Chinese culture and stories, in order to cultivate basic skills in reading classical Chinese.

**Learning Objectives:** Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (7) 漢文D

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2684 | 曜日・時限：月6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

親しみのある歴史上人物の話のテキストとして用い、漢文(古典中国語)訓読の基礎を学習する。

当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

## 【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読のスキルを習得する。

有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを用いることで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。訓点(句読点・返り点・送り仮名)を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー(又は小課題)の提出と内容で平常点を決定する。

授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.

In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments).

The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ             | 内容                                            |
|-----|-----------------|-----------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス           | 授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。   |
| 第2回 | 『史記』刺客列伝を読む(1)  | 『史記』の刺客列伝から荆軻の部分を精読する。                        |
| 第3回 | 『史記』刺客列伝を読む(2)  | 精読することで、燕国と秦国の状況や荆軻の置かれた立場などを理解する。            |
| 第4回 | 『史記』刺客列伝を読む(3)  | 太子と荆軻の認識の差などに留意しつつ精読する。                       |
| 第5回 | 『史記』刺客列伝を読む(4)  | 荆軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていったのかを理解する。 |
| 第6回 | 『史記』秦始皇本紀を読む(1) | 「本紀」について解説し、秦の始皇帝とその時代について知る。                 |

|      |                 |                                            |
|------|-----------------|--------------------------------------------|
| 第7回  | 『史記』秦始皇本紀を読む(2) | 始皇帝の行った歴史的事業を理解する。                         |
| 第8回  | 『史記』項羽本紀を読む(1)  | 所謂「項羽と劉邦」のことを学ぶ。                           |
| 第9回  | 『史記』項羽本紀を読む(2)  | 「鴻門の会」の箇所など、登場人物を整理しながら精読する。               |
| 第10回 | 『史記』項羽本紀を読む(3)  | 項羽と劉邦の関係などに重点を置きつつ、彼らの移動・転戦を地図を用いながら読み進める。 |
| 第11回 | 『史記』項羽本紀を読む(4)  | 「四面楚歌」の出典となった部分を精読する。                      |
| 第12回 | 「報任少卿書」を読む      | 漢代に至るまでの多くの人間の歴史を知り尽くした司馬遷自身の死生観を学ぶ。       |
| 第13回 | 復習と総括           | 改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。                 |
| 第14回 | 試験・まとめと解説       | 授業で学んだ知識などが身につけているか確認する。                   |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。

予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

Texts will be distributed in class.

## 【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』(漢和辞典)

高校時代に使用した国語便覧など。

A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.

High school supplementary textbook.

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course.

## 【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典

・高校の副教本(便覧・要覧)

など。

・また、オンライン授業になった場合はHoppiiを使うので、使用できるような環境を整えておくこと。

・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.

・High school supplementary textbook.

・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

## 【その他の重要事項】

対面授業の予定だが、オンライン(オンデマンド)になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合はHoppiiを利用し、zoomなどは使わない予定である。

I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** In this class, we learn how to read classical Chinese using stories about familiar historical figures. We read longer passages, reading them carefully while touching on Chinese culture and stories, in order to strengthen basic skills in reading classical Chinese.



**Learning Objectives:** Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学研究特講 (8) 言語 A

塩田 雄大

授業コード：A2685 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。当講義では、この前者と後者を行きつ戻りつしながら、日本語学そして言語学の一部を (広く薄く) 概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは非常に多岐にわたり、音声言語 (音声日本語) に限らず、視覚言語 (日本手話) についても考察を進める。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことは使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。(履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある)

## 【到達目標】

日本語学的・言語学的な「もの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                  | 内容                                 |
|------|--------------------------------------|------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                                | 講義全般の説明                            |
| 第2回  | 標準語と方言／国家と言語                         | 標準語とは、方言とは、いったい何か<br>ほか            |
| 第3回  | バイリンガリズム／外国語教育                       | 英語公用語論、英語帝国主義<br>ほか                |
| 第4回  | 言語と文化／メディアのことば                       | 言語は思考を (どの程度) 規定するか<br>ほか          |
| 第5回  | 法と言語／言語障害                            | 法律や犯罪にかかわる言語学<br>ほか                |
| 第6回  | 音声日本語と日本手話の言語学的・社会言語学的特徴／多言語社会としての日本 | 手話は世界共通か<br>ほか                     |
| 第7回  | 音声日本語と日本手話の文法                        | 手話に「文法」はあるのか<br>ほか                 |
| 第8回  | 言語習得                                 | 「違ってたって」はおかしいか<br>ほか               |
| 第9回  | 文字の把握                                | 鏡文字の諸問題<br>ほか                      |
| 第10回 | 主語・主題・目的語                            | 日本語に主語や目的語は必要か<br>ほか               |
| 第11回 | 日本語と曖昧性                              | 「私が住んでいた市ヶ谷のファミレスで会った」はおかしいか<br>ほか |
| 第12回 | 促音                                   | 「ママ」「イッス」はなぜ発音しにくい<br>か<br>ほか      |
| 第13回 | メンタルレキシコン／語用論                        | 「テベリ見る？」の言語学<br>ほか                 |
| 第14回 | ふりかえり                                | 講義の総括                              |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題の事前準備 (テキスト該当箇所の要約および批判的検討)・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間 (標準的には4時間以上) が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

## 【テキスト (教科書)】

『ことばの力学 - 応用言語学への招待』(白井恭弘、岩波書店、2013年、968円 (電子版は792円))

<https://www.iwanami.co.jp/book/b226206.html>

『子どもに学ぶ 言葉の認知科学』(広瀬友紀、筑摩書房、2022年、946円 (電子版は825円))

<https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480074935/>

※上記2冊、履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

## 【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後には三千円以上の損をすることになる。

(1)『新世代の言語学 - 社会・文化・言語をつなぐもの』(飯野公一ほか編著、くろしお出版、2003年、1,980円)

(2)『その一言が余計です。』(山田敏弘、筑摩書房、2013年、電子版825円)

(3)『改訂新版 はじめての手話』(木村晴美・市田泰弘、生活書院、2014年、1650円)

## 【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30%

・最終レポート 70%

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

(本年度授業担当者変更によりフィードバックできません)

## 【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい (スマホのみだと配付資料が読みにくいはず)。

## 【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上で随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。

▼耳の聞こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

## 【Outline (in English)】

\*\* Course outline \*\*

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". This lecture attempts to give an overview of some aspects of (Japanese) linguistics, moving back and forth between the former and the latter.

The topics covered in this lecture are very diverse, and are not limited to spoken language (spoken Japanese), but also include visual language (Japanese Sign Language).

\*\* Learning Objectives \*\*

The students are expected to be able to see and think about things in terms of (Japanese) linguistics.

\*\* Learning activities outside of classroom \*\*

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (summarizing and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically 4 hours or more) will be required for preparation each time.

\*\* Grading Criteria /Policy \*\*

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (8) 言語B

塩田 雄大

授業コード：A2686 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

言語を研究する観点として、各言語のいわゆる「標準語」に焦点を当てて分析を進める姿勢がある。しかし、当然のことだが、各言語は「標準語」だけから成り立つものではない。当講義では、日本語の「標準語」と「方言」の両方を射程に入れて、おもに音声面および文法面の特性の一端を概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは、音声および文法に関して多岐にわたる。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」の標準語・方言の使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。(履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある)

### 【到達目標】

標準語および方言を視野に入れた「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。

課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                               |
|------|-----------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス     | 講義全般の説明、基本的な問題の提示                |
| 第2回  | 母音と子音     | 発音のしくみ ほか                        |
| 第3回  | 五十音図と特殊拍  | 「ん」とは、「っ」とはどんな音か ほか              |
| 第4回  | アクセント     | 「箸を持って橋の端を渡る」はどう発音するか ほか         |
| 第5回  | 形態素       | 「酒(さけ)」と「酒屋(さかや)」の形態論 ほか         |
| 第6回  | 語と句       | 「古い新聞」と「古新聞」は同じか ほか              |
| 第7回  | 格ととりたて    | 「屋根まで飛んだ」は何が飛んだのか ほか             |
| 第8回  | 複文        | 「ボタンを〔押せば／押すと／押したら〕ジュースが出てくる」 ほか |
| 第9回  | 活用        | 「早く〔しゃべれ／しゃべろ〕」 ほか               |
| 第10回 | ヴォイス      | 「恋人にふられた」と「雨に降られた」 ほか            |
| 第11回 | アスペクト、テンス | 「このあと、授業あった？」は過去形なのか ほか          |
| 第12回 | モダリティ     | 話し手の「気持ち」を表す言語要素 ほか              |
| 第13回 | 待遇表現      | 敬語の体系 ほか                         |
| 第14回 | ふりかえり     | 講義の総括                            |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題の事前準備(テキスト該当箇所の課題回答と批判的検討)・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間(標準的には4時間以上)が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

### 【テキスト(教科書)】

『ワークブック 方言で考える日本語学』(松丸真大ほか、くろしお出版、2023年、1650円)

[https://www.9640.jp/book\\_view/?934](https://www.9640.jp/book_view/?934)

※履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

### 【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

- (1)『方言学入門』(木部暢子ほか編著、三省堂、2013年、1,800円+税)
- (2)『はじめて学ぶ方言学』(井上史雄ほか編著、ミネルヴァ書房、2016年、2,800円+税)
- (3)『実践方言学講座 第1巻 社会の活性化と方言』(半沢康・新井小枝子編著、くろしお出版、2020年、4,300円+税)

(4)『新・方言学を学ぶ人のために』(徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991年、1,893円+税)

### 【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30%

・最終レポート 70%

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

### 【学生の意見等からの気づき】

(本年度授業担当者変更によりフィードバックできません)

### 【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい(スマホのみだと配付資料が読みにくいはず)。

### 【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上で随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。また、首都圏以外の地域の方言を持つ学生は特に積極的に履修してほしい。

▼耳の聴こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

### 【Outline (in English)】

\*\* Course outline \*\*

One perspective on studying languages is to focus on the so-called 'standard language' of each language. However, as a matter of course, each language does not consist only of a 'standard language'. This lecture attempts to give an overview of some of the main phonetic and grammatical characteristics of both the 'standard' and 'dialects' of the Japanese language.

\*\* Learning Objectives \*\*

The students are expected to be able to 'see and think things' with a view to standard and dialectal languages.

\*\* Learning activities outside of classroom \*\*

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (answering the assignments and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically

4 hours or more) will be required for preparation each time.

\*\* Grading Criteria /Policy \*\*

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not

allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (9) 表現 A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水3/Wed.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

## 【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                               |
|------|------------|----------------------------------|
| 第1回  | 「君」とは何か    | 文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について     |
| 第2回  | 表現の存在意義    | なぜ表現はあるのか                        |
| 第3回  | 文学とは何か     | 文学を定義する                          |
| 第4回  | 文学の評価      | 文学を評価するための基本について                 |
| 第5回  | 文学の拠点      | 文学のありかについて                       |
| 第6回  | 書く         | 文学における創作という側面と、その価値について          |
| 第7回  | 表現と情報      | 表現と情報の違いについて                     |
| 第8回  | 小説- 人物の複数性 | 小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について      |
| 第9回  | 作者の存在      | 小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について |
| 第10回 | 小説の自由      | 小説表現が本来持っている自由について               |
| 第11回 | 稗史としての小説   | 稗史と、その子孫としての小説の一面について            |
| 第12回 | 非現実        | 小説における荒唐無稽や空想について                |
| 第13回 | ストーリー      | 小説にとってのストーリーの位置と価値               |
| 第14回 | まとめ        | これまでのまとめ                         |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

藤谷治「小説は君のためにある」(ちくまプリマー新書)

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回アクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

## 【その他の重要事項】

講師は小説家。2003年デビュー。2015年『世界でいちばん美しい』で第31回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』(第21回三島由紀夫賞候補)『船に乗れ!』(第7回本屋大賞第7位)『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.**Learning Objectives:** At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of "expression" from multiple perspectives.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (9) 表現B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学における表現の諸相が、作品を実際に書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

### 【到達目標】

表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

各授業ごとにHoppiにてリアクションペーパーを提出してください。

レポートの課題は授業内、およびHoppiにて告知します。

提出された課題は合否判定の上、短評をつけてフィードバックします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ | 内容                     |
|------|-----|------------------------|
| 第1回  | 発想  | 趣向について                 |
| 第2回  | 取材  | 空気を吸うことについて            |
| 第3回  | 文章  | スタイルの選択                |
| 第4回  | 起筆  | 書き出しについて               |
| 第5回  | 持続  | 書き続けることの困難             |
| 第6回  | 題名  | 題名を決める                 |
| 第7回  | 人物  | 性格の否定について              |
| 第8回  | 禁止  | 自らに課す禁止事項及びポルノの自戒について  |
| 第9回  | 推敲  | 文章の検討と批判               |
| 第10回 | 改稿  | 初稿の否定について              |
| 第11回 | 構成  | 作品全体について               |
| 第12回 | 秘密  | 語りえないこと及び読者との秘密の共有について |
| 第13回 | 完成  | 作品の独立について              |
| 第14回 | まとめ | 一年間のまとめ                |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

藤谷治「燃えよ、あんず」(小学館文庫)

### 【参考書】

特になし

### 【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

### 【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to understand the realistic difficulty and inconsequentiality of expression.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (10) 演劇 A

伊海 孝充

授業コード：A2689 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、古典芸能の「能楽 (能と狂言)」の基本を学んでいく。能楽は難解で敷居の高い芸能だと思われている。確かに、独特なルールが存在するが、初心者でもその世界を堪能できる視点もある。本講義では、能楽の基本的な知識を学びながら、古典文学や中世文化を下敷きにした作品を鑑賞していく。

## 【到達目標】

本講義では、能と狂言の基本を理解し、自分の言葉でこの芸能を説明できることを目標とする。能と言えば「幽玄」、狂言と言えば「おかし」などの固定観念で説明されることが多い。そうした既成の言葉ではなく、自身の言葉で能を形容できるようになるのが、目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は対面で行なう。授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容              |
|------|------------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス      | 能はなぜ難しいと言われるのか？ |
| 第2回  | 能楽の基本      | 能と狂言の違い         |
| 第3回  | 能楽の歴史      | 室町時代から江戸時代まで    |
| 第4回  | 能楽の形式      | 能楽の諸要素          |
| 第5回  | 能《頼政》を読む①  | 『平家物語』と能        |
| 第6回  | 能《頼政》を読む②  | 作品を読む           |
| 第7回  | 狂言《棒縛》を読む  | 太郎冠者と次郎冠者       |
| 第8回  | 能《夕顔》を読む①  | 『伊勢物語』と能        |
| 第9回  | 能《夕顔》を読む②  | 作品を読む           |
| 第10回 | 狂言《千切木》を読む | わわしい女           |
| 第11回 | 能《紅葉狩》を読む① | 鬼女伝承と能          |
| 第12回 | 能《紅葉狩》を読む② | 作品を読む           |
| 第13回 | 狂言《節分》を読む  | 狂言が描く鬼          |
| 第14回 | 総括         | 春学期のまとめ         |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

## 【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。

## 【参考書】

授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 70%。学期末レポート 30%。

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく動画を見る時間を多く作り、複数映像がある場合は、比較もおこないたい。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course is an introduction to Noh and Kyogen.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to acquire basic knowledge of Noh and Kyogen.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students will be expected to go to see performances of Noh, Kyogen, and other classical performing arts. Your study time will be more than four hours for a class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on reaction papers (70%), and a term-end report (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (10) 演劇B

伊海 孝充

授業コード：A2690 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、能・狂言を中心に、日本の古典芸能を取り上げる。様々な古典文学を素材とした能・狂言は人形浄瑠璃・歌舞伎といった多くの古典芸能の素材となった。これらの芸能を横断的に鑑賞し、各芸能の類似点・相違点を学んでいく。

### 【到達目標】

◆能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎の古典芸能の基本知識を習得し、それぞれの芸能の特色を自身で分析できる。

◆古典文学と古典芸能の関係について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は対面で行なうが、状況を見て判断する。授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容           |
|------|--------------|--------------|
| 第1回  | ガイダンス        | 古典文学と古典芸能    |
| 第2回  | 世阿弥の能楽論      | 基本的な能の形      |
| 第3回  | 能《綾の鼓》       | 作品の読解        |
| 第4回  | 能《恋重荷》       | 《綾鼓》との比較     |
| 第5回  | 狂言《文荷》       | 狂言のパロディの方法   |
| 第6回  | 『平家物語』       | 鹿谷の陰謀と鬼界島の物語 |
| 第7回  | 能《俊寛》        | 『平家物語』との比較   |
| 第8回  | 人形浄瑠璃《平家女護鳥》 | 能《俊寛》との比較    |
| 第9回  | 狂言《柑子》       | 悲劇と言い訳       |
| 第10回 | 判官物について      | 源義経伝承概説      |
| 第11回 | 能《安宅》        | 作品の鑑賞        |
| 第12回 | 歌舞伎《勸進帳》     | 能《安宅》との比較    |
| 第13回 | 狂言《二人袴》      | 弁慶の人形について    |
| 第14回 | 総括           | 授業のまとめ       |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。現存する芸能の、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト (教科書)】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 70%

学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生たちの要望を受けて、能楽以外の古典芸能を交えて、授業を構成した。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course introduces the classical Japanese performing arts through stories and plays about Ayanotsuzumi, Shunkan and Ataka.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to acquire basic knowledge of the classical Japanese performing arts.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students will be expected to go to see performances of Noh, Kyogen, Ningyō Jōruri, and Kabuki. Your study time will be more than four hours for a class.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on reaction papers (70%), and a term-end report (30%).

ART200BC (芸術学 / Art studies 200)

## 日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史 A

本塚 亘

授業コード：A2693 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

## 【到達目標】

- ・日本音楽史 (古代・中世) の概要について理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。
- ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：日本の音楽とは」、「Ⅱ：日本音楽略史」、「Ⅲ：外来楽について」、「Ⅳ：在来楽について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppiiを介して行う場合と、またはこれらを併用する場合があります。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容                                                            |
|------|---------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Ⅰ：日本の音楽とは<br>- ガイダンス      | 授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認。小課題 (全4回) と期末レポートの出題。                    |
| 第2回  | - ジャンルと楽器                 | 雅楽 (管絃) に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。                           |
| 第3回  | - フィードバック                 | 「Ⅰ：日本の音楽とは」に関する履修者の質問への回答、および補遺。                              |
| 第4回  | Ⅱ：日本音楽略史<br>- 制度の形成       | 出土品や『隋書』倭国伝、『古事記』の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。 |
| 第5回  | - 確立と発展                   | 律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。               |
| 第6回  | - フィードバック                 | 「Ⅱ：日本音楽略史」に関する履修者の質問への回答、および補遺。                               |
| 第7回  | Ⅲ：外来楽について<br>- 舞楽 (左方・右方) | 舞楽 (左方・右方) の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。               |
| 第8回  | - 管絃と御遊                   | 管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。                     |
| 第9回  | - フィードバック                 | 「Ⅲ：外来楽について」に関する履修者の質問への回答、および補遺。                              |
| 第10回 | Ⅳ：在来楽について<br>- 国風歌謡       | 国風歌舞 (久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞) について学び、その由来や享受について考える。               |
| 第11回 | - 催馬楽について                 | 御遊などで歌われる催馬楽について学び、その音楽性や歌謡の性質について学ぶ。                         |
| 第12回 | - フィードバック                 | 「Ⅳ：在来楽について」に関する履修者の質問に回答、および補遺。                               |
| 第13回 | Ⅴ：補論<br>- 源氏物語と音楽         | 『源氏物語』における音楽場面 (舞楽・管絃・催馬楽など) について取り上げる。                       |

第14回 - 平家語り、語り物の普遍性

平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 授業時間外に、hoppii上で小課題等の入力をお願いします。
- ・小課題：テーマ毎 (Ⅰ~Ⅳ) に要約等の課題を設けます。全4回。
  - ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。
  - ・質問 (任意)：毎時受け付けます。
  - ・アンケート (任意)：都度協力をお願いする場合があります。
- 課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

なし。教室での配布資料、またはhoppiiを経由して資料を公開します。

## 【参考書】

- ・岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』(講談社、1982)
  - ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』(平凡社、1989)
  - ・『日本音楽基本用語辞典』(音楽之友社、2007)
  - ・遠藤徹『雅楽を知る事典』(東京堂出版、2013)
- その他、授業時に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

すべての授業に出席していただくことを前提に授業を進めます。そのため、特別な事由がある場合を除き、5回以上の欠席がある受講者は評価不可となります (休講・公欠は出席としてカウントします)。その上で、【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

## 2023-

- ・毎時の学習到達目標を明確にする。
- ・学生の反応をみながら難易度を適宜調整する。

## 2024-

- ・小課題・期末レポートの出題・回答期間の調整。
- ・小課題の評点および採点基準の一部開示。
- ・小課題の主題内容、難易度、回答条件の調整。
- ・単位修得の条件として最低出席回数を設定。

## 【学生が準備すべき機器他】

自宅等でhoppiiにアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

## 【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppiiにて連絡いたします。

## 【Outline (in English)】

**Outline:** This is an undergraduate-level lecture that provides an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we will focus on the question "What is Japanese music?" by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of "Japanese music" in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

**Goals:** By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The relationship between Japanese music and foreign cultures.
- The universality and objectivity of Japanese music.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policies:** Attendance in all classes. Students who miss more than 5 classes will not be evaluated unless there is a justifiable reason, such as an official absence. And in accordance with the above **Goals**, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).



ART200BC (芸術学 / Art studies 200)

## 日本文学研究特講 (11) 音楽芸能史 B

本塚 亘

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりを分析し、その多様性と歴史的な複層性について考えてみましょう。

### 【到達目標】

- ・日本音楽史 (古代・中世) の概要についての理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
- ・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：和歌をうたう」、「Ⅱ：表記と歌唱形式」、「Ⅲ：和歌のレトリック」、「Ⅳ：歌合について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppii を介して行う場合と、またはこれらを併用する場合があります。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                         | 内容                                                    |
|------|-----------------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回  | Ⅰ：和歌をうたう<br>- ガイダンス         | 授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認。小課題 (全4回) と期末レポートの出題。            |
| 第2回  | - 和歌の歌唱例                    | 現代における和歌の発声・歌唱例を鑑賞する。                                 |
| 第3回  | - フィードバック                   | 「Ⅰ：和歌をうたう」に関する履修者の質問への回答、および補遺。                       |
| 第4回  | Ⅱ. 表記と歌唱形式<br>- 『万葉集』のうたいかた | 『万葉集』中の歌の発声や演奏に関する表現を概観し、音声としての和歌の享受の在り方を学ぶ。          |
| 第5回  | - 歌謡と歌体                     | 記紀歌謡や『万葉集』における歌体と、『琴歌譜』などで実際に歌われた形式とを比較し、その関係を学ぶ。     |
| 第6回  | - フィードバック                   | 「Ⅱ. 表記と歌唱形式」に関する履修者の質問への回答、および補遺。                     |
| 第7回  | Ⅲ：和歌のレトリック<br>- 上代～中古       | 和歌 (短歌) の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。 |
| 第8回  | - 中世・その他                    | 縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。    |
| 第9回  | - フィードバック                   | 「Ⅲ：和歌のレトリック」に関する履修者の質問への回答、および補遺。                     |
| 第10回 | Ⅳ：歌合について<br>- 初期の歌合         | 歌合の歴史を概観しながら、初期歌合における演出や、和歌の詠唱方法、歌の評価観等について学ぶ。        |
| 第11回 | - 歌合の変遷                     | 平安時代末から中世にかけて起こった歌合の変化について学ぶ。                         |
| 第12回 | - フィードバック                   | 「Ⅳ：歌合について」に関する履修者の質問への回答、および補遺。                       |
| 第13回 | 補論<br>- 越殿楽の系譜              | 雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。         |
| 第14回 | - 君が代の歴史                    | 和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。  |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 授業時間外に、hoppii 上で小課題等の入力をお願いします。
- ・小課題：テーマ毎 (Ⅰ～Ⅳ) に要約等の課題を設けます。全4回。
  - ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。
  - ・質問 (任意)：毎時受け付けます。
  - ・アンケート (任意)：都度協力をお願いする場合があります。
- 課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

なし。教室での配布資料、またはhoppiiを経由して資料を公開します。

### 【参考書】

- ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』(平凡社、1989)
  - ・青柳隆『日本朗詠史 研究篇』(笠間書院、1999)
  - ・『日本音楽基本用語辞典』(音楽之友社、2007)
  - ・渡部泰明編『和歌とは何か』(岩波文庫 新赤版1198、2013)
- その他、授業時に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

すべての授業に出席していただくことを前提に授業を進めます。そのため、特別な事由がある場合を除き、5回以上の欠席がある受講者は評価不可となります (休講・公欠は出席としてカウントします)。その上で、【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

#### 2023-

- ・毎時の学習到達目標を明確にする。
- ・学生の反応をみながら難易度を適宜調整する。

#### 2024-

- ・小課題・期末レポートの出題・回答期間の調整。
- ・小課題の評点および採点基準の一部開示。
- ・小課題の主題内容、難易度、回答条件の調整。
- ・単位修得の条件として最低出席回数を設定。

### 【学生が準備すべき機器他】

自宅等でhoppiiにアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。教室内でPCを利用してはかまいませんが、必須ではありません。

### 【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppiiにて連絡いたします。

### 【Outline (in English)】

**Outline:** This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and historical multilayered nature of song.

**Goals:** By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The literary and musical characteristics of ancient Japanese *uta* songs.
- The multilayered relationship between melody and lyrics.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policies:** Attendance in all classes. Students who miss more than 5 classes will not be evaluated unless there is a justifiable reason, such as an official absence. And in accordance with the above **Goals**, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (12) 詩歌A

## 四元 康祐

授業コード：A2695 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。

コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

## 【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を隔週で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

可能な限り教室での対面授業といたします。やむなくオンライン授業となった場合は、オンラインでのライブストリーミングを基本とします。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                                                       |
|------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション            | 講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。50名の定員を超える仮登録があった場合は、抽選により選抜を行います。 |
| 第2回  | 講義1：詩と散文             | 詩のコトバは、新聞や法律の言葉とどこが違うのか？ 詩と小説の関係とは？                                      |
| 第3回  | 演習1：詩を書いてみる          | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                       |
| 第4回  | 講義2：声の詩、文字の詩         | 詩の中に太古から在る口承の要素と、文字を用いる詩の特徴を比較し、詩が目と耳、そして肉体と理性に、それぞれどのように働きかけてくるかを学ぶ。    |
| 第5回  | 演習2：詩を書いてみる          | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                       |
| 第6回  | 講義3：モノの詩、ココロの詩       | 中世の叙事詩、近代の俳句、現代のイマジスト派などを通して、詩における、事と心の相互作用を学ぶ。                          |
| 第7回  | 演習3：詩を書いてみる          | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                       |
| 第8回  | 講義4：宴と孤心             | 大岡信の『宴と孤心』理論を中心に、詩における個と共同体のダイナミズムについて学ぶ。                                |
| 第9回  | 演習4：ミニ連詩             | 小グループに分かれて、短い行を交互に連ねることによって、連歌・連詩の醍醐味を体感する。                              |
| 第10回 | 講義5：AI(人工知能)に詩は書けるか？ | AIを用いた詩の制作を通して、人間の意識と言語の関わりを考察する。                                        |
| 第11回 | 演習5：AI詩で遊ぶ           | 短歌・俳句自動作成アプリや「偶然短歌」などを利用して自分だけのAI詩を作ってみる。                                |
| 第12回 | 講義6：詩の自由と抵抗          | 詩による現実への抵抗、現実からの解放について学ぶ。                                                |
| 第13回 | 演習6：詩を書いてみる          | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                       |
| 第14回 | まとめと解説               | 春季の授業を振り返り、必要に応じて解説をする。現代詩相談室も合わせて実施。                                    |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習(6回)の授業では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことを基に推敲した上で、その週の課題として提出します。

講義の授業では、その日に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

## 【テキスト (教科書)】

なし。必要な資料はその都度スライドを準備して配布します。

## 【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ!』思潮社 2015年

四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』澤標 2020年  
 四元康祐著『ダンテ、李白に会う 四元康祐翻訳集古典詩篇』思潮社 2023年  
 あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 70%  
 平常点/Class Participation 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の授業では、キャンパスの近くを散歩しながら詩を書く「サンボエム」、グループで即興的に1篇の詩を書く「あいうえお連詩」、与えられた課題曲に歌詞をつける(そして唄う)「歌詞ワークショップ」などの演習が好評でした。今年もいろんな詩の書き方を試してみたいと思っています。

## 【その他の重要事項】

50名の定員を超える仮登録があった場合は、抽選により選抜を行います。

## 【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

**Course Outline:** In this class we will write, read, and think about poetry: poetry as the magic of words, poetry as an outpouring of the heart; poetry that tells stories, poetry that sings, poetry that prays; poetry for the eyes, poetry for the ears. By becoming familiar with the various forms of poetry, we will gain insight into what poetry is and what it means to be a human being, the only animal that writes poetry, using all of our senses, not just our minds. The spring term will focus on the principles and structure of poetry, while the fall term will consist of lectures and exercises concerning the archetypal image of the poet.

**Learning Objectives:** Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** For the 6 poetry workshops, students are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand. For the 6 lecture classes, they are required to submit their reactions and/or questions after each lecture. Two hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

**Grading Criteria/Policy:** Report (70%), class participation (30%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (12) 詩歌B

### 四元 康祐

授業コード：A2696 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。  
 コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

#### 【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義と演習を交互に繰り返してゆく予定です。  
 リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                                                                   |
|------|------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロ             | 講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。仮登録者が定員(50名)を超えた場合は抽選により選抜します。 |
| 第2回  | 講義1：放浪と越境の詩人たち   | ダンテ『神曲』、紀貫之『土佐日記』、伊藤比呂美『河原荒草』などを例に、詩における放浪と越境の意味を問う。                 |
| 第3回  | 演習1：詩を書いてみる      | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                   |
| 第4回  | 講義2：部族の声としての詩人たち | ウォルト・ホイットマン、アレン・ギンズバーグ、シェーマス・ヒーニーなどを例に、共同体の代弁者としての詩人像を探る。            |
| 第5回  | 演習2：詩を書いてみる      | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                   |
| 第6回  | 講義3：愛と孤独の女性詩人たち  | 和泉式部、エミリー・ディキンソン、石垣りんらを例に、女性詩人の系譜を追う。                                |
| 第7回  | 演習3：詩を書いてみる      | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                   |
| 第8回  | 講義4：言語を疑う詩人たち    | ゲーテ『ファウスト』と谷川俊太郎『詩人の墓』を例に、詩における言語と現実との関係を探る。                         |
| 第9回  | 演習4：詩を書いてみる      | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                   |
| 第10回 | 講義5：自由と抵抗の詩人たち   | 金子光晴、マイケル・パーマー、現代のミャンマーの詩人たちを例に、詩における自由と抵抗の在り方について考察する。              |
| 第11回 | 演習5：詩を書いてみる      | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                   |
| 第12回 | 講義6：笑う詩人たち       | ジョン・ダン、ウィリアム・ブレイク、サイモン・アーミテッジ、平田俊子らを例に、詩におけるユーモアの働きを探る。              |
| 第13回 | 演習6：詩を書いてみる      | 与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。                                   |
| 第14回 | まとめ：詩とは何か        | 後期の授業のまとめと現代詩相談室。                                                    |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習(全6回)では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことをもとに推敲したうえで、その週の課題として提出します。それ以外の授業では、その日に学んだことへの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

#### 【テキスト(教科書)】

なし。必要なテキストは、授業の都度配布します。

#### 【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ!』思潮社 2015年  
 四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』滯標 2020年  
 四元康祐著『ダンテ、李白に会う 四元康祐翻訳集古典詩篇』思潮社 2023年  
 あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

#### 【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 70%  
 平常点/Class Participation 30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年の授業では、キャンパスの近くを散歩しながら詩を書く「サンボエム」、グループで即興的に1篇の詩を書く「あいうえお連詩」、与えられた課題曲に歌詞をつける(そして唄う)「歌詞ワークショップ」などの演習が好評でした。今年もいろんな詩の書き方を試してみたいと思っています。

#### 【その他の重要事項】

50名の定員を超える仮登録があった場合は、抽選により選抜を行います。

#### 【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

**Course Outline:** In this class we will write, read, and think about poetry: poetry as the magic of words, poetry as an outpouring of the heart; poetry that tells stories, poetry that sings, poetry that prays; poetry for the eyes, poetry for the ears. By becoming familiar with the various forms of poetry, we will gain insight into what poetry is and what it means to be a human being, the only animal that writes poetry, using all of our senses, not just our minds. The spring term will focus on the principles and structure of poetry, while the fall term will consist of lectures and exercises concerning the archetypal image of the poet.

**Learning Objectives:** Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** For the 6 poetry workshops, students are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand. For the 6 lecture classes, they are required to submit their reactions and/or questions after each lecture. Two hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

**Grading Criteria/Policy:** Report (70%), class participation (30%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (13) 児童文芸A

渋谷 百合絵

授業コード：A2697 | 曜日・時限：金1/Fri.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の近代児童文学において中心的な役割を果たした、「童話」というジャンルの成立過程とその表現形式としての特殊性について理解する。前期には、明治期の巖谷小波のお伽噺の成立から、大正期の児童雑誌『赤い鳥』の文体改革の成果を概観するとともに、大正期童話運動が鈴木三重吉ら文壇作家によって牽引されたことをふまえ、小川未明や佐藤春夫の作品を具体的に分析することを通じて、近代小説と童話の関係についても考えていく。

### 【到達目標】

江戸期の絵入り小説から明治のお伽噺、近代童話がいかにか確立されたか、その成立課程と表現形式の特殊性を理解する。授業中に取り上げる具体的なお伽噺、童話作品について、授業中に出される課題に基づいて分析し、ディスカッションを通じて考えを深め、上述の表現史や表現形式の特殊性を捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を基本とするが、授業中に作品や資料を読み、授業者が提示する問に基づいて自分の考えをまとめ、意見交換を行う。議論への積極的な参加、発言を求める。授業後にはHoppiiの授業内掲示板に上述の問についての自分の考えや、感想を投稿し、出席確認をすること。具体的な授業の準備等は、授業中に指示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施)】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                                                        |
|------|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 近代児童文学史の概観・「童話」の定義    | 本講義の概要を捉える。また「童話」という語をめぐる言葉の歴史を辿る。                                        |
| 第2回  | 「童話」批評史               | 大正期童話運動における作家たち、神話学者たち、それぞれの立場から「童話」がどのように論じられてきたかを把握する。                  |
| 第3回  | 戦後の私小説批判と「童話伝統批判」との関係 | 戦後の私小説批判と「童話伝統批判」の関係をとらえることで、今日の「童話」評価を決定づける「童話伝統批判」の有効性を再考する。            |
| 第4回  | 巖谷小波の功績と黄表紙からの影響      | 巖谷小波の功績を概観するとともに、雑誌『少年世界』上に展開された小波お伽噺の表現の可能性を、江戸期の黄表紙の影響に着目して探っていく。       |
| 第5回  | 巖谷小波の『日本昔噺』           | 巖谷小波の重要な功績の一つである『日本昔噺』シリーズの表現の特質を捉え、本シリーズに向けられた研究上の批判を再検討する。              |
| 第6回  | 『赤い鳥』の文体改革            | 巖谷小波のお伽噺文体と比較することで、『赤い鳥』が文体の変革を第一に目指したことを理解し、『赤い鳥』の童話文体がもたらしたものを捉える。      |
| 第7回  | 小川未明 小説から童話へ          | 童話創作の前段階となる小川未明の小説の特質や問題意識を探り、未明童話が如何にして生み出されたかを考察する。                     |
| 第8回  | 「赤い蠟燭と人魚」分析①          | 「赤い蠟燭と人魚」に対する戦後の批判を概観することで、未明童話に対する戦後の児童文学者たちの評価を捉える。また語りの意図に着目して作品分析を行う。 |
| 第9回  | 「赤い蠟燭と人魚」分析②          | 「赤い蠟燭と人魚」に取り込まれた、昔話の類型や、修辭表現に着目して分析を行い、未明童話への批判を再考する。                     |
| 第10回 | プロレタリア児童文学の動き         | 大正末期の未明童話の可能性を探る上で、初期プロレタリア児童文学において「童話」が果たした役割を理解する。                      |
| 第11回 | 小川未明「白刃に戯る火」分析        | 「童話作家宣言」直前の、未明のプロレタリア童話を分析し、「童話」という表現形式が持つ効果をプロレタリア文学の枠組みのなかで捉えていく。       |

|      |                               |                                                                                         |
|------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 第12回 | 佐藤春夫 小説から童話へ                  | 佐藤春夫の初期小説と童話との関係を「家」の概念に着目して明らかにし、文壇の小説との関わりの中で「童話」が確立されていった可能性を探る。                     |
| 第13回 | 白樺派と「子ども」・童話                  | 白樺派の文学に現れる「子ども」の概念と、白樺派の作家たちが書いた童話作品との関わりを探り、大正期童話が描こうとした「子ども」とは何かを考える。                 |
| 第14回 | 『赤い鳥』綴方教育の功罪<br>*期末試験を行う可能性あり | 『赤い鳥』の童話文体は、綴方教育との相互関係で培われた。そうした文体が、戦時の綴方ブームにおいてどのような効果を発揮したかを探り、『赤い鳥』の童話・綴方文体の評価を再考する。 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

具体的には授業中に指示するが、講義で扱う作品や資料を事前に読んでおく。講義後の感想を必ずHoppiiに投稿し出席確認をとる。講義をふまえて作品や資料を読み直す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

各作家の作品集・全集

事前に配信・授業中に配布する資料

### 【参考書】

鳥越信編『はじめて学ぶ 日本児童文学史』ミネルヴァ書房 3,300円

### 【成績評価の方法と基準】

Hoppiiの授業内掲示板に毎回授業中の問に対する自分の意見・感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。この投稿をもって出席とする。

平常点 (授業への参加態度・議論への参加度) 30%

授業後に投稿する意見や感想 30%

期末試験 (論述) 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

### 【学生が準備すべき機器他】

授業中に指示する・「学習支援システム」

### 【その他の重要事項】

秋学期との通年履修推奨。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

Students will understand the unique ways of expressing modern Japanese fairy tales. In the spring semester, students will think about how the fairy tale "Akai Tori" was created from Meiji fairy tales. In particular, we will analyze the works of Mimei Ogawa and Haruo Sato, and consider the relationship between modern novels and fairy tales.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

Students will be able to understand how modern Japanese fairy tales were created. In addition, through analysis and discussion of specific works, students will be able to grasp the uniqueness of the expressive form of fairy tales.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students read fairy tales before the lecture. After the lecture, students submit their opinions and thoughts about the lecture to Hoppii. Two hours each will be required for preparation and review for this class.

#### 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Participation in class 30%, Comments after class 30%, Final exam 40%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (13) 児童文芸B

渋谷 百合絵

授業コード：A2698 | 曜日・時限：金1/Fri.1  
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期の内容を受けて、童話の表現形式の特質を昔話の様式研究の成果を参照して確認した上で、秋学期は宮沢賢治の童話を取り上げて、その表現の可能性を具体的に検討していく。賢治作品は、同時代の様々な文化的事象をモチーフとして取り込み、童話の表現形式と巧みに融合させることで、独自の作品世界を構築している。自然科学、道德教育、農業、小波お伽噺との接続、宗教、比喩表現などに着目して、作品の表現を丁寧に読み解き、賢治童話の面白さを理解するとともに、「童話」という表現形式は何を表現しようかを捉えることを目指す。

### 【到達目標】

春学期にみてきたように、近代の童話は東西の昔話の翻訳・翻案から出発している。マックス・リュティヤ、ウラジミール・プロップなどの昔話の様式研究の成果をふまえ、近代の童話表現の特殊性を捉えることができる。宮沢賢治の童話作品を、童話の表現形式の特質や、同時代の文化的・社会的事象とのつながりに着目して、具体的に読み解くことで、宮沢賢治の童話の独自性を理解するとともに、「童話」という表現形式が小説とどのように異なっているか、どのような点を掘り下げることで新しい読みが見えてくるか、を学ぶことができる。また学期末には、講義で学んだ視点を用いて、自ら童話の作品分析に取り組むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を基本とするが、授業中に作品や資料を読み、授業者が提示する間に基づいて自分の考えをまとめ、意見交換を行う。議論への積極的な参加、発言を求める。授業後にはHoppiiの授業内掲示板に上述の間についての自分の考えや、感想を投稿し、出席確認をすること。具体的な授業の準備等は、授業中に指示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施)】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                                                              |
|------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 今学期の予定・賢治童話のイメージ              | 今学期の目標を確認、ディスカッションのためのグループ編成、宮沢賢治の童話についての意見交換                   |
| 第2回  | リュティヤ、プロップの昔話理論から見る童話の特性      | マックス・リュティヤ、ウラジミール・プロップの理論を理解する。その上で、昔話と童話の共通点、相違点を考察する。         |
| 第3回  | 宮沢賢治「よだかの星」作品分析-童話と科学-①       | 宮沢賢治の童話「よだかの星」について、まずは『赤い鳥』童話との共通点、相違点を捉える。                     |
| 第4回  | 「よだかの星」作品分析-童話と科学-②           | 「よだかの星」について、同時代の自然科学をどのように取り入れているか、結末をどのように解釈できるかを探っていく。        |
| 第5回  | 「雪渡り」作品分析-童話と道德教育-①           | 宮沢賢治の童話「雪渡り」について、子どもたちのかけ合う歌の意味や、狐の幻燈会の構成を捉える。                  |
| 第6回  | 「雪渡り」作品分析-童話と道德教育-②           | 「雪渡り」について、同時代の通俗道德教育における幻燈会の役割や、「狐」が近代置かれた状況の変化をふまえて、本作の意義を考える。 |
| 第7回  | 「オツベルと象」作品分析-童話と農業            | 宮沢賢治の童話「オツベルと象」について、同時代の企業型農場や、プロレタリア童話の枠組みに着目して分析を行う。          |
| 第8回  | 「まなづるとダアリヤ」と「菊の紋」-小波お伽噺との関係-① | 宮沢賢治の童話「まなづるとダアリヤ」について、巖谷小波の「菊の紋」との比較を通じて改稿過程の意味を探る。            |
| 第9回  | 「まなづるとダアリヤ」と「菊の紋」-小波お伽噺との関係-② | 「まなづるとダアリヤ」の改稿の意味について、宮沢賢治が参加していた菊花会の社会的意義に着目して考察する。            |
| 第10回 | 「マリヴロンと少女」-童話と宗教-①            | 宮沢賢治の童話「マリヴロンと少女」について、初期形態「めくらぶだうと虹」からの改稿の意味を探る。                |
| 第11回 | 「マリヴロンと少女」-童話と宗教-②            | 「マリヴロンと少女」の改稿の意味について、宮沢賢治が入信していた日蓮宗団体国柱会の言説との関わりから考察する。         |

|      |                              |                                                           |
|------|------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 第12回 | 「銀河鉄道の夜」作品分析-童話の比喩表現の効果-①    | 宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」について、現実／非現実の描き方を分析し、同時代の理科読み物と比較してその特殊性を捉える。 |
| 第13回 | 「銀河鉄道の夜」作品分析-童話の比喩表現の効果-②    | 「銀河鉄道の夜」について、主人公の心理的傾向、「ほんとうのみんなの幸」という主題の展開を読み解いていく。      |
| 第14回 | 賢治童話の現代的広がりに関する*期末試験を行う可能性あり | 宮沢賢治の童話が今日の文化に与える影響を、宮崎駿の映画などを取り上げて考える。                   |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

具体的には授業中に指示するが、講義で扱う作品や資料を事前に読んでおく。講義後の感想を必ずHoppiiに投稿し出席確認をとること。講義をふまえて作品や資料を読み直す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

宮沢賢治の文庫・全集

事前に配信・授業中に配布する資料

### 【参考書】

鳥越信編『はじめて学ぶ 日本児童文学史』ミネルヴァ書房 3,300円

### 【成績評価の方法と基準】

Hoppiiの授業内掲示板に毎回授業中の間に対する自分の意見・感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。この投稿をもって出席とする。

平常点 (授業への参加態度・議論への参加度) 30%

授業後に投稿する意見や感想 30%

期末試験 (論述) 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

### 【学生が準備すべき機器他】

授業中に指示する・「学習支援システム」

### 【その他の重要事項】

春学期との通年履修推奨。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

In the fall semester, students will analyze Kenji Miyazawa's fairy tales and understand the uniqueness of the expressive form of fairy tales. Kenji Miyazawa's fairy tales skillfully fuse various contemporary cultures with the expression form of fairy tales. Through an analysis of Kenji Miyazawa's fairy tales, we will consider what fairy tales can express.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

By analyzing and discussing Kenji Miyazawa's fairy tales, students can understand the appeal of Kenji Miyazawa's fairy tales. Through this, we can also understand how modern fairy tales differ from novels and what they can express.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students read fairy tales before the lecture. After the lecture, students submit their opinions and thoughts about the lecture to Hoppii. Two hours each will be required for preparation and review for this class.

#### 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Participation in class 30%, Comments after class 30%, Final exam 40%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文学研究特講 (14) 沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

沖縄にはグスクと称される構造物がある。グスクはヤマト的な意味では城だが、日本の城とは相当異なっている。グスクについての最古の文献は『おもろさうし』のオモロ (神歌) である。グスクについての理解を深めることは、琉球の知られざる歴史を知ることであり、日本の中の異文化、琉球文化を理解するため、グスクに関連するオモロを読んでいく。

## 【到達目標】

『おもろさうし』のオモロは平かなを主体に、簡単な漢字を用いて日本語で記載されている。しかし、オモロは神歌なので、何がどうしてどうなった、という論理性を欠く。しかし、豊かなイメージを提示する。一方、オモロはどのような日本文学とも似ていない。そのような文学世界の存在を知ること、まさに異文化を知ることであり、日本の中の異文化を深く知ることにより、文化と文化の接触のあり方を知ることができる。

成績評価は平常点 (出席回数)、学期末試験による。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。琉球・沖縄文化への理解を深めるため、沖縄関係のDVDや沖縄の音楽のCDを鑑賞することもある。学期末試験は記述式の問題を出題する。授業に出席し、教科書をよく読み、参考文献や参考資料を読めば簡単に記述できる問題を出題する。学習支援システムに課題提出後、教師が理解度をチェックし、コメントする。授業4回につき1度程度、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                                           |
|------|------------------|----------------------------------------------|
| 第1回  | オモロ概説            | 『おもろさうし』とオモロについて概説する。                        |
| 第2回  | グスク概説①           | 琉球の構造物、グスクについて概説する。                          |
| 第3回  | グスク概説②           | グスクに関するオモロを概説する。                             |
| 第4回  | 尚真王 (しょうしんおう) 概説 | 琉球王国第二尚王統の王であり、「神格化されている尚真王について概説する。         |
| 第5回  | 尚真王のオモロの概説       | 尚真王関係のオモロについて概説する。                           |
| 第6回  | 石を割る道具について       | 石を割る道具について概説する。                              |
| 第7回  | 造営のオモロと歴史事象①     | グスク造営のオモロについて概説する。                           |
| 第8回  | 造営のオモロと歴史事象②     | グスク造営のオモロと歴史事象の重なりについて概説する。                  |
| 第9回  | 「げらへる」という言葉について① | 石垣の石を積むことを意味する「げらへる」という言葉を概説する。              |
| 第10回 | 「げらへる」という言葉について② | オモロ世界では何を「げらへる」かを概説する。                       |
| 第11回 | 「げらへる」という言葉について③ | オモロ世界では誰が「げらへる」かを概説する。                       |
| 第12回 | 「げらへる」という言葉について④ | 美称辞としての「げらへ」について概説する。「げらへる」以外の造営に関わる言葉を概説する。 |
| 第13回 | 石について            | 石垣の石について概説する。                                |
| 第14回 | 信仰、呪的な石について      | 信仰される石、呪的な石について概説する。                         |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・テキスト、参考資料を事前に読む。復習も同様にする。  
・授業外における必要な学習時間は4時間程度。  
・授業計画に沿って授業を進めるが、学生の関心にもある程度はこたえる予定。現代におけるシャーマン文化、琉球の神話の神話学的分析、などを学生が望む場合、授業時間内で、できる範囲で解説することも考えている。講義主体の授業だが、積極的な授業参加を望む。

## 【テキスト (教科書)】

教科書

『ぐすく造営のおもろ一立ち上がる琉球世界』  
(福寛美著 新典社 2015年 1100円)

## 【参考書】

参考書

『『おもろさうし』と群雄の世紀 - 三山時代の王たち』  
(福寛美著 森話社 2013年 3200円+税)

## 【成績評価の方法と基準】

・授業3回につき1回程度、リアクション・ペーパーを配布する。学生のリアクションによって、理解の度合いを確認する。  
・グスクとグスク造営のオモロ、そして古い時代の琉球文化について理解を深めたかどうかを、学期末試験で確認する。  
・期末試験は複数の問題から2つ選んで記述する、という形をとる。また、平常点もあわせて評価する。学期末試験を60%、平常点を40%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・『おもろさうし』やオモロを素材に講義する場合、「難しい」、「よくわからなかった」という声が出ることがある。わかりにくい素材ではあるが、できるだけ学生に趣旨が伝わるように努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

・対面授業を基本とする。対面授業で参考資料を配布する。  
・休講の連絡、ほかで学習支援システムを利用する必要がある。大事な連絡は、メールの一斉送信で周知するようにする。また、学習支援システムにインターネットで読める参考資料を提示する予定。

## 【その他の重要事項】

・春学期と秋学期は異なる教科書を用いる。春学期で完結する授業形態とする。

## 【Outline (in English)】

Course Outline: Structures with stone walls similar to castles or fortresses are called gusuku in Okinawa. The omoro (songs, poems, and prayers) in the Omoro Sōshi are the oldest literature that refer to the gusuku. Deepening one's understanding of the gusuku leads to learning about the unknown history of Ryukyu. In this course, we will read omoro related to gusuku to understand Ryukyuan culture.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand gusuku and ancient Ryukyuan culture.

Learning Activities Outside of the Classroom: Intensive reading of textbooks and references is necessary before and after each class. Required study time is one hour for a class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be evaluated by in-class performance (40%) and the result of a term-end examination (60%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

風は大気現象であるが、民俗世界では悪霊のものとなる場合がある。平安時代の歴史物語、『栄花物語』には悪霊の風の用例が散見される。その悪霊の風を分析する際、琉球民俗、そして日本民俗の事例が役に立つ。一見、別次元に見える文学世界と民俗世界が非常に近いこと、民俗事例が根強いものであることを確認し、広く言えば今後の生き方に生かすようにしてほしい。

### 【到達目標】

- ・日本の歴史物語、『栄花物語』の世界の悪霊の風について深く知る。
- ・琉球民俗、日本民俗の事例と平安時代の物語の事例の一致について考察する。
- ・霊的世界は、現実社会において「存在しないもの」とみなされる。しかし、霊的世界への関心は高い。そのことの意義、そして現代のスピリチュアル・ブームについても考察してみたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式とする。授業3回につき1回程度、理解度をはかるため、リアクション・ペーパーの提出を求める。沖縄、奄美群島を含む南西諸島についての理解を深めるため、DVDの映像、CDの音源を鑑賞する機会を設ける。課題は記述式で、教科書をよく読み、授業を理解すれば簡単に書けるものを出題する。学習支援システムに課題レポート提出後、教師が内容をチェックし、コメントするようにする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                                      |
|------|-----------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | 招魂              | 死者の魂を呼び戻すための儀礼について考察する。                 |
| 第2回  | 平安時代の霊的事象       | 平安時代の霊的事象について考察する。                      |
| 第3回  | 藤原道長の病と霊的事象     | 藤原道長の病と霊的事象について考察する。                    |
| 第4回  | 霊的事象、藤原教通北の方の場合 | 藤原教通の北の方 (正妻) の霊的事象について考察する。            |
| 第5回  | 悪霊              | 悪霊について考察する。                             |
| 第6回  | 風・風病            | 平安時代の病を指す、風、風病の用例を考察する。                 |
| 第7回  | 頼通の風            | 藤原頼通の霊的な病、風について考察する。                    |
| 第8回  | 自然現象の風          | 自然現象の風について考察する。                         |
| 第9回  | 民俗世界の悪霊の風       | 民俗世界の悪霊の風について考察する。                      |
| 第10回 | 民俗辞書の悪しき風の用例    | 1950年代にまとめられた民俗の辞書に掲載されている悪しき風の事例を考察する。 |
| 第11回 | 悪霊の風            | 悪霊の風について概説する。                           |
| 第12回 | 無常の風            | 無常の風について概説する。                           |
| 第13回 | 返りの風            | 民俗世界の返りの風について考察する。                      |
| 第14回 | 風の行方            | 風の行方について考察する。                           |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・教科書を事前に読む。参考文献や参考資料を読む。授業後、確認のため復習しておく。
- ・授業外の学習時間は4時間程度とする。
- ・授業計画に沿って、教科書を用いて対面授業を行う。

### 【テキスト (教科書)】

『平安貴族を襲う悪霊の風 - 『栄花物語』異聞 -』  
(福寛美著 新典社 2022年 1200円+税)

### 【参考書】

特に指定しない。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・霊的事象は不可視なので言語化しにくい、古来、人々は深い関心を持ってきた。その霊的事象が物語、民俗にどのように反映しているかをよく知るところを到達目標とする。
- ・成績評価は平常点と期末試験による。期末試験は出題された問題から2問選んで記述する、という形をとる。
- ・平常点を40%、期末試験を60%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

琉球民俗の事例や古典の文献を用いる場合、学生はなじみがないため、わかりにくい、という声を聞く。なるべくわかりやすく説明するようつとめる。

### 【学生が準備すべき機器他】

休講などの情報は学習支援システムを用いて提示する。重要な連絡は、メールで一斉送信するようにする。

授業の参考資料は対面授業時に配布するが、授業支援システムにもアップする。

### 【その他の重要事項】

授業は通年実施だが、春学期と秋学期の内容は異なるため、学期での完結となる。

### 【Outline (in English)】

Course Outline: Although the wind is an atmospheric phenomenon, it also means disease in the historical tale Eiga monogatari (A Tale of Flowering Fortunes), which was compiled in the Heian period. The demoniac wind that causes diseases is known in old folktales in every region of Ryukyu and Japan. In this course, students will study to deepen their understanding of the demoniac wind, spiritual power, and Shamanic cultures.

Learning Objectives: The aim of this course is to understand the consistency of folklore and its stories, and to learn about the power of folklore in preserving traditions.

Learning Activities Outside of the Classroom: Intensive reading of textbooks and references is necessary before and after each class. Required study time is one hour for a class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be evaluated by in-class performance (40%) and the result of the term-end examination (60%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸C

松永 明

## 夜間時間帯

授業コード：A2701 | 曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、16~17世紀にかけて琉球の首里王府が編纂した祭式歌謡集『おもろさうし』や古琉球の神観念、世界観、琉球方言について学びます。

## 【到達目標】

このコースの目標は『おもろさうし』に対する理解を深めること、琉球文化の特徴を理解すること、琉球方言と本土方言の違いを理解すること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー (毎時間) や、小レポートを書いてもらうこともある。

※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                |
|------|----------------|-----------------------------------|
| 第1回  | 導入             | 授業の目的、内容、授業の進め方などの確認              |
| 第2回  | 琉球文化圏          | 琉球文化圏の範囲や歴史について                   |
| 第3回  | 琉球・沖縄文学        | 日本文学から見た琉球・沖縄文学とは                 |
| 第4回  | 『おもろさうし』概説 (1) | おもろさうしの成立、内容、表記、研究史など             |
| 第5回  | 『おもろさうし』概説 (2) | おもろさうしから見る古琉球の神観念と世界観など           |
| 第6回  | 琉球方言概説         | 琉球方言の通時的変遷や本土方言との違いなど             |
| 第7回  | おもろさうしの言語      | おもろさうしの言語の特徴は何か                   |
| 第8回  | おもろの記載法と復元形    | おもろはどのように記載され、読解のためにはどう復元する必要があるか |
| 第9回  | おもろさうしの原注 (1)  | おもろさうしの原注 (言葉聞書) とはどのようなものか       |
| 第10回 | おもろさうしの原注 (2)  | 琉球唯一の古辞書『混効験集』と原注の関係は             |
| 第11回 | おもろを読む (1)     | おもろの精読と理解を通じて、様々な問題点を探求する         |
| 第12回 | おもろを読む (2)     | おもろの精読と理解を通じて、様々な問題点を探求する         |
| 第13回 | おもろを読む (3)     | おもろの精読と理解を通じて、様々な問題点を探求する         |
| 第14回 | まとめ            | 春学期の学習内容の総括                       |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

※本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布する。

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小レポート (リアクションペーパー含む) 40%、授業への貢献度 10%により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

## 【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces "Omorosaushi", a collection of ritual songs compiled by the Shuri royal government of Ryukyu during the 16th and 17th centuries, the ancient Ryukyuan concept of God, worldview, and Ryukyuan dialect to students taking this course.

(Learning Objectives) The goals of this course are to deepen your understanding of "Omorosaushi", to understand the characteristics of Ryukyu culture, and to understand the differences between Ryukyu dialect and mainland dialect.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports : 40%, in class contribution: 10%



LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸D

松永 明

### 夜間時間帯

授業コード：A2702 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、琉球文化圏で継承され作られ続けてきた、8・8・8・6の音数律を持つ定型叙情短詩の「琉歌 (りゅうか)」を学び、あらゆる階層に愛好されてきた琉歌の鑑賞とその実作を行います。

### 【到達目標】

このコースの目標は「琉歌 (りゅうか)」に対する理解を深めること、また琉歌の実作を通じて、同じ定型叙情短詩である和歌との違いやその特徴について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー (毎時間) や、小レポートを書いてもらうこともある。

※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                         |
|------|-------------|----------------------------|
| 第1回  | 導入          | 授業の目的、内容、授業の進め方などの確認       |
| 第2回  | 琉球文化圏       | 琉球文化圏の範囲や歴史について            |
| 第3回  | 琉球・沖縄文学     | 日本文学から見た琉球・沖縄文学とは          |
| 第4回  | 「琉歌」概説 (1)  | 琉歌の成立、内容、表記、研究史など          |
| 第5回  | 「琉歌」概説 (2)  | 琉歌の代表歌人など                  |
| 第6回  | 琉球方言概説      | 琉球方言の通時的変遷や本土方言との違いなど      |
| 第7回  | 「琉歌」の言語     | 琉歌の言語の特徴とは                 |
| 第8回  | 「琉歌」と歌三線    | 「琉歌」はどのように歌われるか            |
| 第9回  | 「琉歌」と組踊     | 「琉歌」と組踊の関係について             |
| 第10回 | 「琉歌」を読む (1) | 琉歌の鑑賞と理解を通じて、様々な問題点を探求する   |
| 第11回 | 「琉歌」を読む (2) | 琉歌の鑑賞と理解を通じて、様々な問題点を探求する   |
| 第12回 | 「琉歌」を作る (1) | 琉歌の実作と相互鑑賞を通じて、様々な問題点を探求する |
| 第13回 | 「琉歌」を作る (2) | 琉歌の実作と相互鑑賞を通じて、様々な問題点を探求する |
| 第14回 | まとめ         | 秋学期の学習内容の総括                |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

※本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布する。

### 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小レポート (リアクションペーパー含む) 40%、授業への貢献度 10% により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

(Learning Objectives) The goals of this course are to deepen your understanding of "Ryuka" and to try to actually make it yourself.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。  
 ・内村鑑三 (1861-1930) *Representative Men of Japan* (代表的日本人、1908。 *Japan and the Japanese* [1894] の改訂版)。  
 ・新渡戸稲造 (1862-1933) *Bushido: The Soul of Japan* (武士道、1900)。  
 ・岡倉天心 (1862-1913) *The Book of Tea* (茶の本、1906)。  
 文学と芸術 (美術・音楽) にも触れます。

## 【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る  
 ・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきかと思ったかを知る  
 ・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会 (授業第5・9・13回) で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                               | 内容                                               |
|------|-----------------------------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | 序説                                | 授業履修の意味を確認<br>アンケート<br>プレゼンテーション担当の調整            |
| 第2回  | 「(国際) 日本学」とは                      | 世界の中の日本<br>文化圏の存在<br>プレゼンテーションの準備                |
| 第3回  | 日本意識の芽生えと発展                       | 「中華思想」との接触<br>中世の日本意識<br>プレゼンテーションの準備 (続)        |
| 第4回  | ヨーロッパ人との出会い<br>江戸期という「閉ざされた時代」の中で | キリスト教宣教師の見聞 (ザビエルとフロイス)<br>長崎 (出島) 歴代オランダ商館長らの研究 |
| 第5回  | 討論会① 内村鑑三著<br>『代表的日本人』をめぐって       | プレゼンテーションと討論                                     |
| 第6回  | 明治維新前後の外国人の活躍①                    | オールコック、アストン等                                     |
| 第7回  | 明治維新前後の外国人の活躍②                    | アーネスト・サトウ等<br>Asiatic Society of Japan の設立と活動    |
| 第8回  | 明治維新前後の外国人の活躍③                    | チェンバレン、ハーン                                       |
| 第9回  | 討論会② 新渡戸稲造<br>『武士道』をめぐって          | プレゼンテーションと討論                                     |
| 第10回 | 日本美術とジャポニスム                       | 浮世絵の移入、バリ万国博覧会<br>印象派への影響                        |
| 第11回 | ジャポニスムと音楽①                        | オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の出世                  |
| 第12回 | ジャポニスムと音楽②                        | オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象                                  |
| 第13回 | 討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって               | プレゼンテーションと討論                                     |
| 第14回 | 日本文学の再評価                          | フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ<br>ウェイリーが訳した能と『源氏物語』     |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 テキスト pp. 10-17

第7回 テキスト pp. 18-23

第8回 テキスト pp. 64-69、70-77

第14回 テキスト pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』(中央公論社、1987) 中公文庫 832 (本体 780 円、ISBN4-12-100832-4)

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (35%)、プレゼンテーションと議論への参加度 (25%)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したもの、40%)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかつたり、討論が十分できないことがあつたりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学部の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

**Learning Objectives:** Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

**Grading Criteria/Policy:** Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた*The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀、1946)と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

### 【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた*The Chrysanthemum and the Sword*の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る  
 ・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる  
 ・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会 (授業第5・9・12回) で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                                                                                     |
|------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 序説                 | 授業履修の意味を確認<br>プレゼンテーション担当の調整                                                           |
| 第2回  | 『菊と刀』①             | ベネディクトの主張①<br>プレゼンテーションの準備                                                             |
| 第3回  | 『菊と刀』②             | ベネディクトの主張②<br>プレゼンテーションの準備                                                             |
| 第4回  | 『菊と刀』③             | 青木保 (『日本文化論』の変容) の捉え方を読む<br>『菊と刀』の「受容」                                                 |
| 第5回  | 討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる  | プレゼンテーションと討論<br>第5章“Debtor to the Ages and the World”と第6章“Repaying One-Ten-Thousandth” |
| 第6回  | 日本文学、世界文学へ         | 第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍                                       |
| 第7回  | 60～70年代の日本人論       | 中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等                                                      |
| 第8回  | 日本人論の特徴            | 日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま (極論も含めて)                                                      |
| 第9回  | 討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる | プレゼンテーションと討論<br>第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One’s Name”            |
| 第10回 | 翻訳の可能性             | 古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー                                                                |
| 第11回 | 日本人論、日本文化論への批判①    | 李御寧 (イ・オリョン)、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野敦                                             |
| 第12回 | 討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる  | プレゼンテーションと討論<br>第10章“The Dilemma of Virtue”と第12章“The Child Learns”                     |
| 第13回 | 日本人論、日本文化論への批判②    | デールの「恥の文化の恥」論                                                                          |
| 第14回 | 日本文化論の今後           | 東アジアの中の日本                                                                              |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 テキスト pp. 182-187

第6回 テキスト pp. 214-219, 266-271

第7回 テキスト pp. 248-253

第11回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』(中央公論社、1987) 中公文庫 832 (本体780円、ISBN4-12-100832-4)

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティー』(中央公論社、1990) 中公文庫 533, 1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (35%)、プレゼンテーションと議論への参加度 (25%)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したもの、40%)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict's *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict's book, students participate in one of three presentations on Benedict's discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

**Learning Objectives:** Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict's book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

**Grading Criteria/Policy:** Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

## 日本文学研究特講 (16) 特域A

日原 傳

授業コード：A2705 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初心者には漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩(七言絶句)の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して四季の風物を詠じた漢詩(歳時詩)を季節に沿って鑑賞します。

## 【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

開講時から3回ほどを使って、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩もできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。

※第1回目の授業はオンラインで行ないます。

※第2回目以降は対面授業の予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                          | 内容                                                                     |
|-----|------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 漢詩の詩形、古体詩と近体詩、歳時詩について、／梅の詩鑑賞 | 漢詩の歴史、さまざまな詩形、古体詩と近体詩の説明。「歳時詩」「二十四節気」／林逋「山園小梅」などを鑑賞。                   |
| 第2回 | 近体詩の規則①／桜の詩鑑賞                | 正岡子規「聞子規」を例に作詩法を解説。平仄図式・押韻の説明。／藤井竹外「芳野」などを鑑賞。                          |
| 第3回 | 近体詩の格律②／春遊の詩鑑賞               | 二四不同二六対、反法・粘法の説明。／杜牧「江南春」、永井荷風「墨上春遊」などを鑑賞。                             |
| 第4回 | 近体詩の格律③／晩春の詩鑑賞／実作指導          | いくつかの禁忌(下三連、孤平、冒韻、同字の重複)について。／白居易「三月三十日題慈恩寺」、吳錫麒「送春」などを鑑賞。／実作(七言一句を作る) |
| 第5回 | ほととぎすの詩鑑賞／実作指導               | 杜甫「子規」、嵯峨波響「聞鶉」などを鑑賞。／実作                                               |
| 第6回 | 牡丹・薔薇・石榴の詩鑑賞／実作指導            | 皮日休「牡丹」、石川丈山「白牡丹」、高駢「山亭夏日」、柏木如亭「石榴」などを鑑賞。／実作                           |
| 第7回 | 山行の詩鑑賞／実作指導                  | 王安石「鍾山」、広瀬淡窓「彦山」などを鑑賞。／実作                                              |
| 第8回 | 梅雨の詩鑑賞／実作指導                  | 趙師秀「約客」、篠崎小竹「梅雨」などを鑑賞。／実作                                              |

|      |                    |                                         |
|------|--------------------|-----------------------------------------|
| 第9回  | 蓮の花の詩鑑賞／実作指導       | 白居易「池上」、菅茶山「夏日雜詩」などを鑑賞。／実作              |
| 第10回 | 螢・蟬・蠅・蚊の詩鑑賞／実作指導   | 杜甫「螢火」、北條霞亭「観螢」、蘇軾「溪陰堂」、韓愈「雜詩」などを鑑賞。／実作 |
| 第11回 | 苦熱・避暑・昼寝の詩鑑賞／実作指導  | 柳宗元「夏昼偶作」、袁枚「銷夏」、野田笛浦「昌平橋納涼」などを鑑賞。／実作   |
| 第12回 | 夏の江村・舟行・滝の詩鑑賞／実作指導 | 杜甫「江村」、李白「望廬山瀑布」などを鑑賞。／実作               |
| 第13回 | 夕立の詩鑑賞／実作指導        | 蘇軾「六月二十七日、望湖樓醉書」、大窪詩仏「急雨」などを鑑賞。／実作      |
| 第14回 | 授業の総まとめと期末試験       | 筆記試験、まとめと解説                             |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

担当者作成の資料を配布する。

## 【参考書】

- 石川忠久『漢詩を作る』(大修館書店)  
石川忠久『漢詩の稽古』(大修館書店)  
石川忠久監修『漢詩創作のための詩語集』(大修館書店)  
鷲野正明『初めての漢詩創作』(白帝社)  
鈴木健一編『漢文のルール』(笠間書院)  
小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫)  
前野直彬『唐詩選』全三冊(岩波文庫)  
村上哲見『三体詩』全四冊(朝日文庫)  
目加田誠『唐詩三百首』全三冊(平凡社)  
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』(角川書店)  
猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』(角川書店)  
石川忠久『日本人の漢詩 風雅の過去へ』(大修館書店)  
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩100選』  
同 『漢詩をよむ 夏の詩100選』  
同 『漢詩をよむ 秋の詩100選』  
同 『漢詩をよむ 冬の詩100選』(以上、NHK出版)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作) 50 %  
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

## 【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports : 50%

LIT200LA (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (16) 特域B

日原 傳

授業コード：A2706 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

江戸時代に日本で刊行された『唐詩選画本』をテキストとして唐詩を読む。『唐詩選画本』は絵と詩の本文、その訓み下し文、日本語による解説文によって構成されている。はじめに『唐詩選画本』を含む唐詩のテキストについて概説する。以後は五言絶句から始めて徐々に長い詩に進むかたちで具体的な作品を鑑賞してゆく。「歳時詩」「迎春詩」「閨怨詩」「唱酬詩」「詠物詩」「詠史詩」といった漢詩のテーマについても折をみて解説を加えるつもりである。なお、『唐詩選画本』の訓み下し文、解説文は「変体仮名」で記されているので、変体仮名を読む訓練にもなるであろう。

### 【到達目標】

- ・中国古典文学の基盤をなす考え方を知るとともに漢詩の読解に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・変体仮名に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

講義形式。第一回目の授業で、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について概説する。第二回目の授業では「変体仮名」について説明した上で、『唐詩選画本』の具体的な作品を鑑賞する。第三回目以降の授業は作品鑑賞が中心になる。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩をどのように読み解いていたかを具体的に知ってほしい。

※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                          |
|------|-----------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | 漢詩の形式について。唐詩のテキストについて | 漢詩の形式の解説。『全唐詩』『三体詩』『唐詩選』『唐詩三百首』『唐詩選画本』等の説明。 |
| 第2回  | 鑑賞 (五言絶句)             | 賀知章「題袁氏別業」                                  |
| 第3回  | 鑑賞 (五言絶句)             | 駱賓王「易水送別」                                   |
| 第4回  | 鑑賞 (五言絶句)             | 李白「静夜思」、王維「班婕妤」                             |
| 第5回  | 鑑賞 (七言絶句)             | 王勃「蜀中九日」                                    |
| 第6回  | 鑑賞 (七言絶句)             | 王翰「涼州詞」                                     |
| 第7回  | 鑑賞 (七言絶句)             | 李白「峨眉山月歌」、王昌齡「閨怨」                           |
| 第8回  | 鑑賞 (五言律詩)             | 杜甫「旅夜書懷」                                    |
| 第9回  | 鑑賞 (五言律詩)             | 張謂「同王徵君洞庭有懷」                                |
| 第10回 | 鑑賞 (七言律詩)             | 崔顥「黃鶴樓」                                     |
| 第11回 | 鑑賞 (五言古詩)             | 李白「子夜吳歌」                                    |
| 第12回 | 鑑賞 (七言古詩)             | 杜甫「貧交行」                                     |
| 第13回 | 鑑賞 (七言古詩)             | 劉廷芝「代悲白頭翁」                                  |
| 第14回 | 授業の総まとめと期末試験          | 筆記試験、まとめと解説                                 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

担当者がプリントを用意する。

### 【参考書】

前野直彬注解『唐詩選』全三冊 (岩波文庫)  
村上哲見『三体詩』全四冊 (朝日文庫)  
目加田誠『唐詩三百首』全三冊 (平凡社)  
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』(角川書店)  
猪口篤志『日本名詩鑑賞辞典』(角川書店)  
小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫)  
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩100選』  
同 『漢詩をよむ 夏の詩100選』  
同 『漢詩をよむ 秋の詩100選』  
同 『漢詩をよむ 冬の詩100選』(以上、NHK出版)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の取り組み姿勢・授業支援システムを使って提出する課題) 50%

期末試験またはそれに代わる最終レポート 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

変体仮名を読む訓練の時間を多くとれるように工夫する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to appreciate Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports : 50%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (16) 特域C

安原 眞琴

## 夜間時間帯

授業コード：A2707 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

備考 (履修条件等)：・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史1」(夜間科目)は履修不可。

・学芸員の資格取得に本科目は適用となりません。A2581「文化史1」を履修登録してください。

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

## 【到達目標】

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりのあり方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回リアクションペーパーを提出し平常点を付加していく。

授業は講義形式だが、中間レポート以降、各自実際に町に出て調査してもらう予定である。

リアクションペーパーと中間レポートはMLS上で点数でフィードバックする。最終レポートはブラッシュアップ時に必要であればアドバイスをしますが、最終的な点数などの評価はフィードバックも公表もしない。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                     | 内容                                          |
|------|-------------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション               | ・授業の進め方などを説明する。<br>・文学の舞台になってきた東京の土地の歴史を学ぶ。 |
| 第2回  | 東京の概要を知る                | 江戸時代以降の首都「東京」の成り立ちを学ぶ。                      |
| 第3回  | 古地図を知る                  | 古地図の種類と見方を学ぶ。                               |
| 第4回  | 現在の東京を知る                | 23区の1区ごとの位置や特徴などを学ぶ。                        |
| 第5回  | 江戸の中心「江戸城」を知る           | 江戸城について学ぶ。                                  |
| 第6回  | 城下町「江戸」の概要を知る           | 下町と山の手について学ぶ。                               |
| 第7回  | 日本橋を知る                  | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第8回  | 上野を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第9回  | 浅草を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第10回 | 銀座を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第11回 | 赤坂を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第12回 | 新宿を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第13回 | その他の町を知る                | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第14回 | 各自、担当した町について最終的なまとめを行う。 | これまでの学習をブラッシュアップして、最終レポートを作成する。             |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる (2時間)

復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。(2時間)

宿題：担当する町について調べる。

## 【テキスト (教科書)】

特に定めず、授業時に指示する。

## 【参考書】

錦絵で楽しむ江戸の名所 (国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>)

安原眞琴『東京の老舗を食べる』(巫紀書房、2015)

安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』(東海教育研究所、2017)

## 【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60%

・中間レポート (宿題) 20%

・期末レポート 20%

これらの総合判断により評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎年、まじめな学生が多く、この先どんな分野に進むにせよ、ますますの成長を楽しみにさせてくれる。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしい。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使いたいと思っています。

## 【その他の重要事項】

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。

ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原眞琴公式ホームページのコンタクト欄を使用します。

<http://www.makotooffice.net/>

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

**Learning Objectives:** The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time for review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

**Grading Criteria/Policy:** Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 日本文芸研究特講 (16) 特域D

山口 恭子

### 夜間時間帯

授業コード：A2708 | 曜日・時限：木6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

備考(履修条件等)：・日本文学科生でない文学部生が「文化史2」(資格)を履修する場合は哲学科主催の「文化史2」(資格)(A3862)を履修すること。

・本科目を履修済みの場合、「文化史2」(A2582)(夜間)は履修不可。

・日本文学科生が学芸員の資格を取得するには「文化史2」(A2582)を履修登録する必要があります。特域Dでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

### 【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。

なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                        | 内容                                  |
|------|----------------------------|-------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>中国書道史1<br>(殷・周の書) | ・書および書道史研究について<br>・古代の漢字<br>・甲骨文と金文 |
| 第2回  | 中国書道史2<br>(秦・漢の書)          | ・始皇帝の文字統一<br>・隸書の発展と後漢の石碑           |
| 第3回  | 中国書道史3<br>(三国の書)           | ・書体の発展                              |
| 第4回  | 中国書道史4<br>(東晋の書)           | ・王羲之、王献之の書                          |
| 第5回  | 中国書道史5<br>(南北朝の書)          | ・北朝の石刻について                          |
| 第6回  | 中国書道史6<br>(唐の書)            | ・初唐の三大家と楷書                          |
| 第7回  | 日本書道史1<br>(飛鳥・奈良の書)        | ・文字の受容<br>・聖武天皇、ならびに光明皇后の書          |
| 第8回  | 日本書道史2<br>(平安前期の書)         | ・三筆の書                               |
| 第9回  | 日本書道史3<br>(平安中期の書)         | ・三蹟の書<br>・和様の成立                     |
| 第10回 | 日本書道史4<br>(仮名の書のさまざま)      | ・仮名の書とその書美                          |
| 第11回 | 日本書道史5<br>(平安後期の書)         | ・西本願寺本三十六人家集                        |
| 第12回 | 日本書道史6<br>(中世の書)           | ・尊円親王の書<br>・さまざまな書流                 |
| 第13回 | 日本書道史7<br>(近世の書)           | ・寛永の三筆の書                            |
| 第14回 | まとめ                        | 中国書道史、日本書道史のまとめ                     |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

図書館で、『書道全集』(平凡社、1974年)、石川九楊『書の宇宙』(二玄社、1996年)といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

### 【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』(堂原書房、2005年)

・角井博監修『中国書道史』(芸術新聞社、2009年)

・名児耶明監修『日本書道史』(芸術新聞社、2009年)

そのほか、講義時に提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)、課題(30%)、平常点(20%)により評価します。とくに、試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

**Learning Objectives:** The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

**Grading Criteria/Policy:** The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 編集理論 A

福江 泰太

## 夜間時間帯

授業コード：A2709 | 曜日・時限：月5/Mon.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちはテキストを、多くの場合、書物や雑誌のかたちで享受しています（web空間におけるテキストについては秋学期に扱います）。まず、テキストが書物や雑誌へと姿を現していく過程をしっかりと理解していきます。

## 【到達目標】

これまでの「読む」という側からだけでなく、「作る」という編集・制作という視点からも、書籍や雑誌を隅々まで味わいつくすための知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

現在の書籍や雑誌の制作過程を体験的に講義していきますが、歴史的な背景や経緯を含めた説明に留意します。また同時に編集過程とは常に「テキスト」とは何かという問いかけを内包した行為であることも学んでいきます。映像資料を使い、実際の・具体的な授業内容となるよう心がけます。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                                         |
|------|---------------|------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 出版・編集の現在      | 現在の出版界がおかれている状況を概観し、ガイダンスとします。                             |
| 第2回  | 日本の出版流通の特殊性①  | 再販売価格維持制度について考えます。                                         |
| 第3回  | 日本の出版流通の特殊性②  | 委託制度について考えます。                                              |
| 第4回  | 日本の出版流通の特殊性③  | 出版取次の役割について考えます。                                           |
| 第5回  | 日本の出版流通の歴史的変遷 | 明治以降、出版物の流通制度がどのように変わったかを概観します。                            |
| 第6回  | 定価の構成要素       | 書籍や雑誌の定価はどのように決まるのか、その構成要素から考えていきます。                       |
| 第7回  | 印税という制度       | 著作権およびその使用についての基礎的知識を概観していきます。                             |
| 第8回  | 編集の流れ         | 8回からは、実際の編集制作過程について講義します。その初回は「ゲラ」の流れから編集の流れを概観します。        |
| 第9回  | 校正・校閲について     | 編集過程における校正・校閲の重要性を学びます。校正作業の詳細については、編集理論Bで扱い、ここでは全体像を示します。 |
| 第10回 | 文字と組版①        | 本文に使われている文字はどのように選ばれるのか、印刷文字の基礎を学びます。                      |
| 第11回 | 文字と組版②        | 本文の読みやすく、美しい版面はどのように構成すればよいのか、組版の基礎を学びます。                  |
| 第12回 | 折と台割          | 本文はどのようにして印刷されるのか、「折」という単位について考えます。                        |
| 第13回 | 紙について①        | 書籍・雑誌の素材としていちばん大切な「紙」についての基礎知識を概観します。                      |
| 第14回 | 紙について②        | A判、B判、四六判など、色々な印刷用紙からどのような書籍・雑誌が作り出されるのか、概観します。            |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分にとって魅力的な本や雑誌は、どこが魅力的なのか、足繁くりアル書店に通い、編集者になったつもりで改めて考えてみてください。あらかじめ、次回授業のキーワードを提示しますので、可能な限り、予備知識を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

## 【参考書】

随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50% 期末のレポート内容 50% を併せ成績の評価とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気の授業にしましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

随時DVDを視聴します。

## 【その他の重要事項】

編集理論ABの通年履修が好ましい。

「実務経験」学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We often receive texts in the form of books and magazines (web-based texts will be covered in the fall semester). First, we will gain a solid understanding of the process by which texts are transformed into books and magazines.

**Learning Objectives:** Students will acquire knowledge to appreciate books and magazines not only from the perspective of “reading” but also from the perspective of “creating,” or editing and producing.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Please carefully think about what makes a book or magazine attractive to you, as if you were the editor of the book or magazine, by visiting real bookstores frequently. Key words for the next class will be presented beforehand, so please get as much prior knowledge as possible. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** The evaluation of your performance will be based on your participation in class (50%) and the contents of your final report (50%).



LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 編集理論 B

福江 泰太

### 夜間時間帯

授業コード：A2710 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

前半は、日本語の表記法と校正について学びます。基本的な校正記号は使えるようにします。後半は、書物の歴史を振り返りながら、書物の姿がどのように変容してきたのか、その歴史の中に現在の電子書籍やWeb上のコンテンツを位置づけ、書物の将来を考えていきます。

### 【到達目標】

編集理論Aは、実際の書物や雑誌の編集制作過程を順に講義しましたが、編集理論Bでは、Aで詳論できなかった「校正」や「表記法」について学びます。皆さんの中には、組版ソフトのInDesignを使って雑誌作りを経験した人も多いと思います。InDesignを使えば誰でも簡単に組版ができます。しかし組版のもとになる表記法の知識がなければ、美しく正確な組版ができません。当たり前と思っていた日本語表記法を編集の視点から見直します。また後半では書物の歴史をラフスケッチし、その歴史の中にデジタル書籍を新しい書物像として位置づけます。しかし現在の電子書籍はまだ未成熟です。電子書籍、紙媒体の書籍、それぞれを自由に見るための視点を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的な校正記号の理解にはテキストを使います。テキストに準じ、20程度の校正記号を使えるようにします。書物史の講義では、DVD視聴や可能な限り、パピルスや羊皮紙、中世写本やインキュナブラの零葉、和本や明治期の特殊な製本様式による書物など「原物」に接するようにします。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                                                              |
|------|------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 日本語の表記法はどのように変わったか     | 編集者は日本語の表記法について考える最前線に立っています。編集という視点から見た日本語の表記法を考えます。           |
| 第2回  | 組版の特性と表記法              | 原稿用紙に書く場合、ワードで入力する場合、印刷組版の場合、それぞれに表記法のズレが生じます。その違いを理解することが大切です。 |
| 第3回  | 約物について                 | 文字以外の句読点や様々な括弧の類を「ヤクモノ」と言います。約物は新たに日本語表記に付与された記号です。約物について概観します。 |
| 第4回  | 漢字について① 当用漢字・常用漢字・人名漢字 | 漢字行政の変遷を概観します。当用漢字と常用漢字、人名漢字、それぞれがもたらした問題について考えていきます。           |
| 第5回  | 漢字について② 拡張新字体          | 新たに生み出された拡張新字体がもたらした問題について考えます。                                 |
| 第6回  | 校正記号について① テキスト1~5      | 下記に示したテキストを使って、基礎的な校正記号を学び、練習問題を解いていきます。4回の授業で全篇仕上げます。          |
| 第7回  | 校正記号について② テキスト6~10     | 字間や行間の訂正など。                                                     |
| 第8回  | 校正記号について③ テキスト11~15    | 中つきルビ、肩つきルビ、グルーブルビについて。                                         |
| 第9回  | 校正記号について④ テキスト16~20    | 校正記号のまとめ。                                                       |
| 第10回 | 書物の歴史① 卷子本から冊子本へ       | 百万塔陀羅尼から和本の形が成立するまでを概観します。                                      |
| 第11回 | 書物の歴史② 江戸から明治へ         | 江戸時代の書物文化と洋装本の成立について概観します。                                      |
| 第12回 | 書物の歴史③ 活版印刷と写真の誕生      | 書物文化にとっての革命、活版印刷と写真について考えます。                                    |
| 第13回 | 書物の歴史④ 活版印刷以降          | 写真植字、電子組版、オフセット印刷などについて概観します。                                   |
| 第14回 | 書物の歴史⑤ デジタル書物へ         | 書物が紙という支持体から解放される過程を考えます。                                       |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

古今東西のさまざまな書物の姿を、図書館等にある図録を利用して調べてください。書物の歴史については、日本史、世界史の知識が背景として必要です。授業内容に該当する時代については、事前に歴史的背景を学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

校正練習帳 (1) 校正記号を使ってみよう タテ組編 日本エディタースクール 550円

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢50% 期末レポート内容50% を併せ成績の評価とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気での授業にしましょう。

### 【学生が準備すべき機器他】

随時DVDを視聴します。

### 【その他の重要事項】

編集理論ABの通年履修が好ましい。「実務経験」学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** In the first half of the course, students will learn about how written Japanese is laid out and proofread. Students will learn to use basic proofreading symbols. The second half of the course will look back at the history of the book and how the form of the book has transformed, situate current e-books and web-based content within that history, and consider the future of the book.

**Learning Objectives:** In the spring semester, we dealt with the process of editing and producing books and magazines. In the fall semester, students will learn about “proofreading” and “layout,” which could not be discussed in detail in the spring semester. Many of you may have used the typesetting software InDesign to create magazines, and anyone can use InDesign to create typesetting easily. However, without knowledge of the norms of layout that form the basis of typesetting, it is impossible to create beautiful and accurate typesetting. This lecture will review how written Japanese is laid out, a subject that we take for granted, from an editorial point of view. In the second half of the course, we will do a rough survey of the history of books and situate digital books as a new image of books within that history. However, the current digital book is still in its infancy. Students will acquire perspectives to view and appreciate both e-books and paper books.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are encouraged to use catalogs available in libraries and other institutions to investigate the various forms of books from the past and present. For the history of books, knowledge of Japanese and world history is required as background. Students should study the historical background of the period applicable to the class content in advance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** The evaluation of your performance will be based on your participation in the class (50%) and the contents of your final report (50%).

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 教養ゼミ I (文芸創作の実践 A)

藤村 耕治

授業コード：A2713 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものか、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

## 【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現 (クリエイティブ・ライティング) における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部 (デテール) 表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ              | 内容                                         |
|-----|------------------|--------------------------------------------|
| 第一回 | 文芸創作のために①        | 文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。  |
| 第二回 | 文芸創作のために②        | 受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。 |
| 第三回 | 過去の学生創作作品の読解と分析① | 過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。              |
| 第四回 | 過去の学生創作作品の読解と分析② | 引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。  |
| 第五回 | 受講者の作品の読解と分析①    | 受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。               |

|      |                       |                                                      |
|------|-----------------------|------------------------------------------------------|
| 第六回  | 受講者の作品の読解と分析②         | 引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。                       |
| 第七回  | 受講者の作品の読解と分析③         | 引き続き、受講生による作品についての討議を行う。                             |
| 第八回  | 受講者の作品の読解と分析④         | 引き続き、受講生による作品についての討議を行う。                             |
| 第九回  | 受講者の作品 (第二作目) の読解と分析① | 第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。                  |
| 第十回  | 受講者の作品 (第二作目) の読解と分析② | 引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。                         |
| 第十一回 | 受講者の作品 (第二作目) の読解と分析③ | 引き続き、受講生の作品についての討議を行う。                               |
| 第十二回 | 受講者の作品 (第二作目) の読解と分析④ | 引き続き、受講生の作品についての討議を行う。                               |
| 第十三回 | 総括①                   | 今semesterにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。 |
| 第十四回 | 総括②                   | 今semesterにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。     |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

## 【テキスト (教科書)】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

## 【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

## 【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50%、授業内討議への積極的な参加 30%、期末に課す課題 (自分の作品のブラッシュアップ) 20%。

## 【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

## 【Outline (in English)】

Course outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2 hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50% submission of the work, 30% active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 教養ゼミⅡ (文芸創作の実践B)

藤村 耕治

授業コード：A2714 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

### 【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部 (デテール) 表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そのうち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ           | 内容                                        |
|-----|---------------|-------------------------------------------|
| 第一回 | 文芸創作のために      | 文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。 |
| 第二回 | 作品読解・分析の方法①   | 学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。              |
| 第三回 | 作品読解・分析の方法②   | 引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。         |
| 第四回 | 受講者の作品の読解と分析① | 受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。              |
| 第五回 | 受講者の作品の読解と分析② | 引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。             |
| 第六回 | 受講者の作品の読解と分析③ | 引き続き受講者の作品についての討議を行う。                     |
| 第七回 | 受講者の作品の読解と分析④ | 引き続き受講者の作品についての討議を行う。                     |

|      |               |                                   |
|------|---------------|-----------------------------------|
| 第八回  | 受講者の作品の読解と分析⑤ | 受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。 |
| 第九回  | 校正の方法①        | 作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。        |
| 第十回  | 校正の方法②        | 作品集に掲載する作品について、自身で校正する。           |
| 第十一回 | 作品集の編集①       | 本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。             |
| 第十二回 | 作品集の編集②       | 自分の作品および他の受講者の作品を校正する。            |
| 第十三回 | 作品集の編集③       | 念校し、校了とする。                        |
| 第十四回 | 作品集の編集④       | 納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。   |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作品ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなりません。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

### 【テキスト (教科書)】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

### 【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

### 【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35%、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35%、期末に課すレポート (自分以外の受講者の作品 [三作以上] への批評文) 30%。

### 【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

### 【Outline (in English)】

Couse outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

PRI100BC (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報リテラシー実習A

谷村 順一

授業コード：A2715 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけでなく、21世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

### 【到達目標】

インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

インターネットや各種電子情報通信機器の仕組みや扱い方、情報化社会で求められる著作権などの知識の取得とともに、電子文書作成に使われることの多い「Microsoft Word」をメインに使用して、実際に文書を作成し、アプリケーションの操作方法を学び、読みやすい文書とは何かについて考える。なお「Microsoft Excel」、「Microsoft PowerPoint」をあつかう「情報リテラシー実習B」とあわせて受講することが望ましい。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。In addition to acquiring knowledge of the structure and handling of the Internet and various types of electronic information and communication devices, as well as the copyrights required in the information society, students will learn how to operate applications by actually creating documents, mainly using Microsoft Word, which is often used to create electronic documents. We will learn how to operate the applications and think about what makes a document easy to read. It is recommended to take this course in conjunction with “Information Literacy Practice B” which covers Microsoft Excel and Microsoft PowerPoint. Submission of assignments and feedback will be done through the Learning Support System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                         | 内容                     |
|------|-----------------------------|------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                       | ガイダンス                  |
| 第2回  | 情報メディアの歴史                   | メディアの発達と変化             |
| 第3回  | 情報メディアの技術的背景                | 高度情報化社会と人間との関わり        |
| 第4回  | 情報リテラシーの実際                  | ネットリテラシーについて           |
| 第5回  | アナログ情報メディアと視聴覚メディア          | 電子メディアの特性と活用方法         |
| 第6回  | インターネットによる情報検索と発信方法         | 各種データベース（OPAC等）と情報検索方法 |
| 第7回  | 情報メディアと著作物利用に関する諸問題①        | 知的財産制度について             |
| 第8回  | 情報メディアと著作物利用に関する諸問題②        | 法規範や情報倫理について           |
| 第9回  | 情報メディアと著作物利用に関する諸問題③        | 創造活動や知的財産権、情報倫理について    |
| 第10回 | Microsoft Wordの基本操作         | 文字入力と変換、書式設定           |
| 第11回 | Microsoft Wordで案内状を作成する     | インデント設定など              |
| 第12回 | Microsoft Wordで暑中見舞いを作成する   | Wordでの画像の扱い方について       |
| 第13回 | Microsoft Wordでメニューを作成する    | 段組の設定                  |
| 第14回 | Microsoft Wordで表の作った文書を作成する | Wordでの表の作成方法について       |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト（教科書）】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

### 【参考書】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%+課題70%

課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

nothing special

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the Learning Support System to distribute materials and submit assignments.

### 【その他の重要事項】

※コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

### 【Outline (in English)】

Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media.

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

PR1100BC (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報リテラシー実習B

谷村 順一

授業コード：A2716 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけでなく、21世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

### 【到達目標】

インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the "handling of information" required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけでなく、21世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。「情報リテラシー実習B」では主にMicrosoft Excelを用いた表作成、PowerPointで作成したスライドを用いた効果的なプレゼン方法の実践について学ぶため、文書作成で使用するWordを主にあつかう「情報リテラシー実習A」とあわせて受講することが望ましい。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media. In "Information Literacy Practice B," students will learn how to create tables using Microsoft Excel and how to make effective presentations using PowerPoint slides, so it is recommended that students take this course in conjunction with "Information Literacy Practice A," which focuses on Word for document creation. Submission of assignments and feedback will be done through the Learning Support System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                    |
|------|----------------------|---------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                | ガイダンス                                 |
| 第2回  | Microsoft Excel ①    | Excelの基本操作について                        |
| 第3回  | Microsoft Excel ②    | 表作成に必要なセル、行、列について                     |
| 第4回  | Microsoft Excel ③    | ワークシートを用いた効率的な表の管理について                |
| 第5回  | Microsoft Excel ④    | 数値、連続するデータなどの入力方法について                 |
| 第6回  | Microsoft Excel ⑤    | 罫線などの設定方法について                         |
| 第7回  | Microsoft Excel ⑥    | 数式と関数を用いて表計算を行う方法について                 |
| 第8回  | Microsoft PowerPoint | PowerPointの基本操作について                   |
| 第9回  | Microsoft PowerPoint | スライドの読みやすさの基本となる書体の選択方法などについて         |
| 第10回 | Microsoft PowerPoint | 行間、インデント等、スライドの見やすさに直接つながる項目の設定方法について |

|      |                      |                                   |
|------|----------------------|-----------------------------------|
| 第11回 | Microsoft PowerPoint | 共通テーマを設定することでスライドでのデザインとレイアウト①    |
| 第12回 | Microsoft PowerPoint | スライドのデザインをより印象的なものとするための背景と配色について |
| 第13回 | Microsoft PowerPoint | アニメーションとトランジションの設定でのスライドの切り替え方法   |
| 第14回 | 総合課題                 | 総合課題                              |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト（教科書）】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

### 【参考書】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%+課題70%  
 課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。We will use the Learning Support System to distribute materials and submit assignments.

### 【その他の重要事項】

※コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

### 【Outline (in English)】

Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media.

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the "handling of information" required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

PRI100BC (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報メディア演習A

武田 俊

## 夜間時間帯

授業コード：A2717 | 曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何か、編集とは何か。この2つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけでなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします。

## 【到達目標】

座学と実践的なワークショップを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を設けています。講義ではPCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                            | 内容                                                           |
|------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                          | この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、講師のプロフィールと過去の代表的な仕事を紹介します。         |
| 第2回  | 現代メディア論：人類とメディア                | メディアとはそもそも何か。人類とメディアの関わりについて、その歴史を旅するように眺めます。                |
| 第3回  | 現代メディア論：現代のメディアのあり方とビジネスモデル    | 新聞、雑誌、書籍、Web…現代の主要メディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。        |
| 第4回  | 記事制作ワークショップ1：メディアにはどのような記事があるか | 実在するメディアを参照し、記事のタイプや特徴などをグループに分かれリサーチします。                    |
| 第5回  | 記事制作ワークショップ2：取材のしかた            | インタビューやコラム、レビューなどの記事を制作するための取材のしかたを学び、実践します。                 |
| 第6回  | 記事制作ワークショップ3：記事のつくり方、届け方       | 取材を通して得た情報をどのように編集し記事に仕上げ、また広く届けることができるのか。実践を通して学びます。        |
| 第7回  | 講評                             | できあがった記事について、発表と講評を行います。                                     |
| 第8回  | 現代編集論：現代の編集者たち                 | 今の時代、編集者にはどのようなタイプがあり、どのような仕事のしかたをしているのか。講師の経験と事例をもとにお話しします。 |
| 第9回  | 編集者とクリエイター：ライター／小説家の場合         | ライターや小説家とはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。       |
| 第10回 | 編集者とクリエイター：デザイナーの場合            | デザイナーとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。          |
| 第11回 | 編集者とクリエイター：フォトグラファーの場合         | フォトグラファーとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。       |
| 第12回 | 企画制作ワークショップ1：企画のつくり方           | 企画はどのようにうまれるのか。よい企画と悪い企画では、何が異なるのか、事例をもとに学びます。               |
| 第13回 | 企画制作ワークショップ2：企画書のつくり方          | アイデアを実現させるために、企画には何を盛り込むべきなのか。実際に企画書を作成します。                  |
| 第14回 | 講評／まとめ                         | 企画書課題の講評を行い、春学期の内容を振り返ります。                                   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性もあります。

## 【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。適宜資料やURLを紹介します。

## 【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

講義内での課題70%、リアクションペーパーの提出率と内容評価で30%。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起きているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCの使用が必須となるため、情報演習室の備品を活用ください。あるいは、自前のPCやタブレットを持ち込む形でも結構です。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。

## 【その他の重要事項】

講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。

## 【Outline (in English)】

This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course. It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

There will be workshops and assignments during lectures, and students may be asked to do work outside of lectures.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Assignments in lectures 70%, Attendance&reaction paper : 30%

PRI100BC (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報メディア演習B

武田 俊

### 夜間時間帯

授業コード：A2718 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何か、編集とは何か。この2つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけでなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的な例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします。

### 【到達目標】

座学と実践的なワークショップを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を設けています。講義ではPCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                            | 内容                                                                   |
|------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | メディアと編集                        | この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、メディアと編集の基礎を理解するためのミニ講義を行います。               |
| 第2回  | デジタルメディア史：デジタルメディアの誕生と変遷       | インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。                                       |
| 第3回  | デジタルメディアワークショップ1：リサーチ          | グループに分かれ、デジタルメディアの特徴やマネタイズモデルをリサーチしてもらいます。                           |
| 第4回  | デジタルメディアワークショップ2：ヒアリングとアイデアメイク | リサーチ結果のプレゼンを行います。講義の後半では、与えられたお題に対し、デジタルメディアを活用した企画のアイデアを生み出してもらいます。 |
| 第5回  | デジタルメディアワークショップ3：企画化           | 生み出したアイデアを企画書の形に落とし込みます。                                             |
| 第6回  | デジタルメディアワークショップ4：プレゼン/講評       | グループごとに企画書をプレゼンしてもらい、講評します。                                          |
| 第7回  | デジタルメディアと社会：社会に与えた恩恵と危機        | デジタルメディアが社会生活にもたらした恩恵と危機について、時事的な事例を用いて俯瞰的に話します。                     |
| 第8回  | デジタルメディアの編集感覚                  | 多種多様化するデジタルメディアにおいて、編集者はどのような存在として仕事をしているのか。講師の経験と事例をもとにお話しします。      |
| 第9回  | 編集者とクリエイター：Webデザイナーの場合         | Webデザイナーとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。               |
| 第10回 | 集者とクリエイター：映像ディレクターの場合          | 映像ディレクターとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。               |
| 第11回 | 編集者とクリエイター：イラストレーターの場合         | イラストレーターとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。               |
| 第12回 | PRワークショップ：PRとはなにか              | デジタルメディアを使ったPR（パブリックリレーション）のしかたについて、具体例を交えて学びます。                     |
| 第13回 | PRワークショップ：PR企画のつくり方            | お題に対して、デジタルメディアを使ったPR企画を実際につくってもらいます。                                |

### 第14回 講評/まとめ

お題に対して、デジタルメディアを使ったPR企画を実際につくってもらいます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性もあります。

### 【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。適宜資料やURLを紹介します。

### 【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

講義内での課題70%、リアクションペーパーの提出率と内容評価で30%。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起きているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCの使用が必須となるため、情報実習室の備品を活用ください。あるいは、自前のPCやタブレットを持ち込む形でも結構です。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。

### 【その他の重要事項】

講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。

### 【Outline (in English)】

This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course. It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

There will be workshops and assignments during lectures, and students may be asked to do work outside of lectures.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Assignments in lectures 70%, Attendance&reaction paper : 30%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 書道A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2719 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

## 【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                    |
|------|-----------|---------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス①    | 構え・執筆方法・文房四宝                          |
| 第2回  | ガイダンス②    | 書体の変遷・書の特徴・いろいろな書                     |
| 第3回  | 楷書①基本点画   | 「上下大小日同」(大筆)「上下大」を中心に習い全体をまとめる。       |
| 第4回  | 楷書①基本点画   | 「上下大小日同」(大筆)「小日同」を中心に習い全体をまとめる。       |
| 第5回  | 楷書②基本点画   | 「人近力字心式」(大筆)「人近力」を中心に習い全体をまとめる。       |
| 第6回  | 楷書②基本点画   | 「人近力字心式」(大筆)「字心式」を中心に習い全体をまとめる。       |
| 第7回  | 楷書③筆使い    | 「登山雲海」(大筆)「登山」を中心に習い全体をまとめる。          |
| 第8回  | 楷書③筆使い    | 「登山雲海」(大筆)「雲海」を中心に習い全体をまとめる。          |
| 第9回  | 楷書④形のまとめ方 | 「徳潤身」(大筆)背勢の原理で書く。                    |
| 第10回 | 楷書④形のまとめ方 | 「徳潤身」(大筆)向勢の原理で書く。                    |
| 第11回 | 楷書⑤形のまとめ方 | 「談笑無還期」(大筆)「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。        |
| 第12回 | 楷書⑤形のまとめ方 | 「談笑無還期」(大筆)「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。     |
| 第13回 | 楷書⑥文字の並べ方 | 「思即老而逾妙学乃小而可勉」(小筆)前半6文字を中心に学び全体をまとめる。 |
| 第14回 | 楷書⑥文字の並べ方 | 「思即老而逾妙学乃小而可勉」(小筆)後半6文字を中心に学び全体をまとめる。 |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【テキスト (教科書)】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻 (講談社)
- ②プリント配布

## 【参考書】

プリント配布

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。(80%)

適時レポート (20%)

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

## 【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆 (最低各一本) / 硯一面/墨一丁 (墨汁の使用可ただし墨も必要) / 文鎮/水滴 (スポイドも可) / 半紙 (毎回最低20枚ぐらい用意) / 雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷 (書道用フェルト) / その他必要な道具は事前に連絡

## 【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

**Learning Objectives:** What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).



LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 書道B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2720 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

### 【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところ」に従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ     | 内容                              |
|------|---------|---------------------------------|
| 第1回  | 楷書①古典臨書 | 欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」(大筆)           |
| 第2回  | 楷書②古典臨書 | 欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」(大筆)         |
| 第3回  | 楷書③古典臨書 | 欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」(大筆)       |
| 第4回  | 行書①     | 行書の特徴・各書体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)の歴史    |
| 第5回  | 行書②筆使い  | 「我忘吾」(大筆)「我忘」を中心に習い全体をまとめる。     |
| 第6回  | 行書②筆使い  | 「我忘吾」(大筆)「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。 |
| 第7回  | 行書③形の簡化 | 「徳不孤必有隣」(大筆)「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。 |
| 第8回  | 行書③形の簡化 | 「徳不孤必有隣」(大筆)「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。 |
| 第9回  | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「天風」(大筆)              |
| 第10回 | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」(大筆)            |
| 第11回 | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」(大筆)            |
| 第12回 | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」(大筆)          |
| 第13回 | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清恵風和暢仰観宇宙之大」(小筆)  |
| 第14回 | かなの筆使い  | 書写における平がなの書き方「いろは歌」(大筆)         |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト (教科書)】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻 (講談社)
- ②プリント配布

### 【参考書】

プリント配布

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。(80%)

適時レポート (20%)

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

### 【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆 (最低各一本) / 硯一面/墨一丁 (墨汁の使用可ただし墨も必要) / 文鎮/水滴 (スポイドも可) / 半紙 (毎回最低20枚ぐらい用意) / 雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷 (書道用フェルト) / その他必要な道具は事前に連絡

### 【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

**Learning Objectives:** What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 書道A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

## 夜間時間帯

授業コード：A2721 | 曜日・時限：金5/Fri.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

## 【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                    |
|------|-----------|---------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス①    | 構え・執筆方法・文房四宝                          |
| 第2回  | ガイダンス②    | 書体の変遷・書の特徴・いろいろな書                     |
| 第3回  | 楷書①基本点画   | 「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。       |
| 第4回  | 楷書①基本点画   | 「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。       |
| 第5回  | 楷書②基本点画   | 「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。       |
| 第6回  | 楷書②基本点画   | 「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。       |
| 第7回  | 楷書③筆使い    | 「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。          |
| 第8回  | 楷書③筆使い    | 「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。          |
| 第9回  | 楷書④形のまとめ方 | 「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。                    |
| 第10回 | 楷書④形のまとめ方 | 「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。                    |
| 第11回 | 楷書⑤形のまとめ方 | 「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。        |
| 第12回 | 楷書⑤形のまとめ方 | 「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。     |
| 第13回 | 楷書⑥文字の並べ方 | 「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半6文字を中心に学び全体をまとめる。 |
| 第14回 | 楷書⑥文字の並べ方 | 「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半6文字を中心に学び全体をまとめる。 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展示会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）  
②プリント配布

## 【参考書】

プリント配布

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80%）

適時レポート（20%）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

## 【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

## 【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

**Learning Objectives:** What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 書道B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

### 夜間時間帯

授業コード：A2722 | 曜日・時限：金5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

### 【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ     | 内容                              |
|------|---------|---------------------------------|
| 第1回  | 楷書⑦古典臨書 | 欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」(大筆)           |
| 第2回  | 楷書⑦古典臨書 | 欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」(大筆)         |
| 第3回  | 楷書⑦古典臨書 | 欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」(大筆)       |
| 第4回  | 行書①     | 行書の特徴・各書体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)の歴史    |
| 第5回  | 行書②筆使い  | 「我忘吾」(大筆)「我忘」を中心に習い全体をまとめる。     |
| 第6回  | 行書②筆使い  | 「我忘吾」(大筆)「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。 |
| 第7回  | 行書③形の簡化 | 「徳不孤必有隣」(大筆)「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。 |
| 第8回  | 行書③形の簡化 | 「徳不孤必有隣」(大筆)「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。 |
| 第9回  | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「天風」(大筆)              |
| 第10回 | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」(大筆)            |
| 第11回 | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「惠風和暢」(大筆)            |
| 第12回 | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「仰觀宇宙之大」(大筆)          |
| 第13回 | 行書④古典臨書 | 王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大」(小筆)  |
| 第14回 | かなの筆使い  | 書写における平がなの書き方「いろは歌」(大筆)         |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト(教科書)】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻(講談社)
- ②プリント配布

### 【参考書】

プリント配布

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。(80%)  
適時レポート(20%)

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

### 【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆(最低各一本)/硯一面/墨一丁(墨汁の使用可ただし墨も必要)/文鎮/水滴(スポイドも可)/半紙(毎回最低20枚ぐらい用意)/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷(書道用フェルト)/その他必要な道具は事前に連絡

### 【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

**Learning Objectives:** What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

EDU200BC (教育学 / Education 200)

## 国語科教育法 (1)

今藤 晃裕

授業コード：A2724 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国語科の歴史と課題を踏まえて、学習指導要領に示された国語科の目標や内容、全体構造、指導上の留意点などを取り上げる。こうしたことを前提にして、教材研究の方法、学習評価のあり方、発展的な学習内容の学習指導への位置づけなどについて取り上げる。

### 【到達目標】

学習指導要領に示された中学校、高等学校の国語科の目標や内容、全体構造、指導上の留意点、学習評価の考え方を把握することができる。3つの資質・能力(知識・技能 思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力・人間性等)を育成するために、国語科を支える国語学、国文学、教育学などの成果を踏まえて教材研究をし、その上で、発展的な学習内容を学習指導に位置づけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

前半は講義を中心とするが、適宜グループディスカッションやディベート、授業内での発表を取り入れる。毎回授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業の冒頭でコメントする。後半は学生発表(教材研究)を中心とし、発表後、全体で討議・評価する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                       |
|------|-----------|------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス     | 国語科の授業の目的や学習指導内容の全体像を確認する。               |
| 第2回  | 国語科の歴史    | 日本の教科書制度の歴史や学習指導要領の変遷過程を学ぶ。              |
| 第3回  | 国語科の課題    | 今日的な国語科の課題を学ぶ。                           |
| 第4回  | 学習指導要領(1) | 中学の「話すこと・聞くこと」の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。       |
| 第5回  | 学習指導要領(2) | 中学の「書くこと」の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。            |
| 第6回  | 学習指導要領(3) | 説明文や論説文など、中学の「読むこと」の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。  |
| 第7回  | 学習指導要領(4) | 詩・詩歌・小説・古典など、中学の文学教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。 |
| 第8回  | 国語科の授業設計  | 中学国語の実際の教材を例に、学習指導案の作成方法を学ぶ。             |
| 第9回  | 国語教科書(1)  | 個別教材の分析方法を学ぶ。                            |
| 第10回 | 国語教科書(2)  | 個別教材の分析を踏まえ、授業計画への有効な活かし方を学ぶ。            |
| 第11回 | 教材研究(1)   | 中学の小説教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。 |
| 第12回 | 教材研究(2)   | 中学の詩歌教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。 |
| 第13回 | 教材研究(3)   | 中学の古文教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。 |
| 第14回 | 教材研究(4)   | 中学の漢文教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。 |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、1回の授業に対して計4時間を標準とします。(復習)配布資料に目を通し、自分の意見をまとめておくこと。また、わからないことは質問できるようにしておくこと。(準備)発表準備やレポートの作成に向けて、授業内に出された課題に取り組むこと。

### 【テキスト(教科書)】

【国語編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説(文部科学省)  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/fieldfile/2019/03/18/1387018\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/fieldfile/2019/03/18/1387018_002.pdf) (印刷、もしくはweb版をその都度確認できるよう準備する)

### 【参考書】

中学校国語教科書『国語1』『国語2』『国語3』(光村図書出版)  
『中学校 板書で見る全単元の授業のすべて 国語板書シリーズ』(東洋館出版社)  
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校国語』(東洋館出版社)

### 【成績評価の方法と基準】

授業内の課題やリアクションペーパーの充実度(50%)、発表(教材研究)の充実度(30%)、期末レポートの充実度(20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義内容の記録、講義資料の保管に役立つものを準備すること。

### 【その他の重要事項】

自分が教員採用を目指している地域、及び私学の情報については、個別にご相談ください。

### 【Outline (in English)】

The course of Teaching Method of Japanese (Kokugo-ka Kyoiku-ho) is consisted of the four classes, Teaching Method (1), (2), (3) and (4). The objective of Teaching Method (1) is to understand and learn the goals, contents, curriculum structure and points to note for instruction on Subject of Japanese Language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following reaction papers in class:50%, presentations:30%, reports:20%

EDU200BC (教育学 / Education 200)

## 国語科教育法 (2)

今藤 晃裕

授業コード：A2725 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中学生・高校生の認識や思考、学力などの実態や実践研究の動向を視野に入れて、授業設計の重要性を理解し、国語科の特性に応じた情報機器及び機材の効果的な活用を組み込んだ学習指導案の作成に取り組む。模擬授業の実施とその振り返りを通して、国語科における実践研究の動向を知り、授業をよりよく改善していくことに取り組む。

### 【到達目標】

国語科教育法 (1) の授業のテーマ及び到達目標を前提にして、国語科における基礎的な学習指導理論を学び、具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成することができる。模擬授業に取り組むことによって、授業を改善することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

前半は講義を中心とするが、適宜グループディスカッションや授業内での発表を取り入れる。毎回授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業の冒頭でコメントする。後半は学生発表 (模擬授業) を中心とする。発表者は模擬授業を行い、それ以外の学生は生徒役になり、他者の模擬授業を観察・評価する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                          |
|------|----------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | 学習指導案 (1)      | 高校国語の学習指導案の基本的書式について学ぶ。                     |
| 第2回  | 学習指導案 (2)      | 「言語文化」「読むこと」のうち、小説教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。    |
| 第3回  | 学習指導案 (3)      | 「言語文化」「読むこと」のうち、韻文教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。    |
| 第4回  | 学習指導案 (4)      | 「現代の国語」「読むこと」のうち、評論文教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。  |
| 第5回  | 学習指導案 (5)      | 「現代の国語」「書くこと」のうち、実用的な文章の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。 |
| 第6回  | 模擬授業 (1)       | 高校の小説教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。          |
| 第7回  | 模擬授業 (2)       | 高校の小説教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。          |
| 第8回  | 模擬授業 (3)       | 高校の評論文教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。         |
| 第9回  | 模擬授業 (4)       | 高校の現代詩教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。         |
| 第10回 | 模擬授業 (5)       | 高校の詩歌教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。          |
| 第11回 | 模擬授業 (6)       | 高校の古文教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。          |
| 第12回 | 模擬授業 (7)       | 高校の漢文教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。          |
| 第13回 | 学力の形成と教育課程 (1) | 年間指導計画の作成方法を学ぶ。                             |
| 第14回 | 学力の形成と教育課程 (2) | 年間指導計画の作成方法を学ぶ。                             |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、1回の授業に対して計4時間を標準とします。(復習) 配布資料に目を通し、自分の意見をまとめておくこと。また、わからないことは質問できるようにしておくこと。(準備) 発表準備やレポートの作成に向けて、授業内に出された課題に取り組むこと。

### 【テキスト (教科書)】

【国語編】高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 (文部科学省) [https://www.mext.go.jp/content/20210909-mxt\\_kyoiku01-100002620\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210909-mxt_kyoiku01-100002620_02.pdf) (印刷、もしくはweb版をその都度確認できるよう準備する)

### 【参考書】

高等学校国語教科書『探求 現代の国語』『探求 言語文化』(桐原書店)

高等学校国語教科書『現代の国語』『言語文化』(筑摩書房)

古屋明子『有名古典の言語活動：「言語文化」「古典探究」における実践例』(明治書院、2022年)

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校国語』(東洋館出版社、2021年)

### 【成績評価の方法と基準】

授業内の課題やリアクションペーパーの充実度 (50%)、模擬授業の充実度 (30%)、期末レポート (学習指導案) の充実度 (20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義内容の記録、講義資料の保管に役立つもの。

### 【その他の重要事項】

自分が教員採用を目指している地域、及び私学の情報については、個別にご相談ください。

### 【Outline (in English)】

On the basis of Teaching Method (1), the objective of Teaching Method (2) is for students to learn basic theories of Japanese language instruction and to master how to plan, do and check the lessons through trying to practice them for themselves.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following reaction papers in class:50%, presentations:30%, reports:20%

EDU200BC (教育学 / Education 200)

## 国語科教育法 (3)

小清水 裕子

授業コード：A2727 | 曜日・時限：火5/Tue.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育学と現代言語学・文学の理論をベースに、中学校や高等学校の国語科で扱うテキストの教材化のための分析解釈を行い、さまざまな教室環境の中で、実際に授業を展開するためのスキルを身につけ、授業実習演習を行う。具体的には、『羅生門』(芥川龍之介)などの定番作品を既成の読みから解放する自ら考え、「疑問を作り出す」読解の授業実践力を培う。

## 【到達目標】

言語による思考力、判断力、表現力等を問う読解力や記述式問題、知識技能を活用する問題の解法スキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こる様々な問題を想定しながら、さまざまな背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生きる力につながる指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって実践力や、授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。授業の「振り返りシート」等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

本科目は、4月9日(火)から授業を開始する。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                             | 内容                                          |
|------|---------------------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | 「学習指導要領解説」国語編の学習                | 国語の授業とは何かについて<br>「現代文学理論」文学表現とは、言語とはなにかについて |
| 第2回  | 高等学校定番小説教材の分析と実践例①              | 『羅生門』はなぜ小説教材の導入に用いられる教材価値があるのか。             |
| 第3回  | 小説『羅生門』の教材分析と授業実践の展開            | メタファー、語りの構造、人物像を探る<br>模擬授業実践                |
| 第4回  | 小説の読み方概論                        | 小説『羅生門』の様々な作品分析の紹介と主題文の作成演習                 |
| 第5回  | 現代文学理論概要                        | 現代文学理論による教材分析の方法と国語教材の傾向と選定の方法              |
| 第6回  | 中学校定番小説教材の分析と実践例②               | 教材例としての、小説『高瀬舟』の教材分析と授業実践の展開                |
| 第7回  | 小説『高瀬舟』の教材分析と授業実践の展開<br>模擬授業演習① | 模擬授業実践演習の在り方の指導                             |
| 第8回  | 小説『高瀬舟』の教材分析と模擬授業演習②            | 小説『高瀬舟』を語りの構造から読み解き、模擬授業実践演習に取り入れる          |
| 第9回  | 小説教材の授業計画法と評価法                  | 模擬授業実践演習の指導助言と小説教材の学習指導案作成。テスト問題の作成法の指導     |
| 第10回 | 詩歌句の読解と指導                       | 詩歌句の指導法とテスト問題の作成の指導                         |
| 第11回 | 授業教材例として詩歌句の模擬授業演習              | 「中村草田男」「与謝野晶子」「正岡子規」などの作品の授業実践方法            |
| 第12回 | 古典教材の教材分析と授業法                   | 古典教材の価値と授業で扱う意義などを学ぶ                        |
| 第13回 | 古文教材での授業法実践と模擬授業演習              | 教材例として「伊勢物語」「枕草子」など古典教材の授業実践と模擬授業実践演習       |
| 第14回 | 漢文教材での授業法                       | 第14回：漢文教材の指導法と授業実践(教材例として司馬遷「史記」または漢詩文など)   |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

資料検索、読書、レポート作成、授業見学、ディスカッションなど。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

『中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領』最新版 文部科学省、『高等学校学習指導要領解説 国語編』(最新版 文部科学省)、『教育実習の手引き』(法政大学教職課程委員会)、『実践国語科教育法』(学文社)、『あたらしい国語科教育法』(学文社)、

『相手依存の自己規定』(鈴木孝夫)、『安楽への全体主義』(藤田省三)、『少年の日の思い出』(ヘッセ)、『山月記』(中島敦)、『鞆』(安部公房)、『掟の門』(カフカ)、など(いずれも国語検定教科書より)

## 【参考書】

参考書・参考資料等『実践国語科教育法』(学文社)、『現代文学理論』(新曜社)、『文学は教育を変えられるか』(コールサック社)、『読むことの教育』(山吹書店)、『文学理論』(ひつじ書房)、『教師の条件』(学文社)、『持続可能な未来のための教職論』(学文社)、『小説作品論集』(クレス出版)、他

## 【成績評価の方法と基準】

学生に対する評価

レポート(30%)、学習指導案(20%)、模擬授業実践演習(20%)、質問シートの作成(10%)、授業への貢献度(20%)など

## 【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をもっと取り入れてほしい。読書意欲を促してほしい。

## 【Outline (in English)】

Course Outline: The purpose of this course is to help future Japanese language teachers understand how to think about creating classes and to learn various methods of teaching.

Learning Objectives: The objectives of Teaching Method II, on the basis of Teaching Method I, are for students to learn both the theories on modern language and literature and the skills to cultivate the learner's abilities of thinking, judging and expressing, to analyze the contents of teaching and learning materials for Japanese language, and to try to practice the lessons for themselves.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated according to the following process: class reflection report (30%), prep work for the next class (40%), and in-class contribution (30%).

EDU200BC (教育学 / Education 200)

## 国語科教育法 (4)

小清水 裕子

授業コード：A2728 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座の目的は、将来国語科教師になるための授業づくりに対する考え方を理解し、多様な授業の方法を習得することであり、学習者の資質能力論を含む学習指導に関する教育学、それに加えて文学や言語学を理解し、具体的な授業場面に即して授業実践をおこなう力を身につける。

### 【到達目標】

言語による思考力、判断力、表現力等を問う記述式問題や知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こるさまざまな問題を想定しながら、多様な背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生徒の生きる力を養う指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって、実践力や授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。授業の「振り返りシート」等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                    | 内容                                                            |
|------|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 評論文の教材分析及び授業実践                         | 評論『知識社会という幻想』(西垣通)を教材として、評論文の読解方法や教材としての評論文の扱い方について考える。       |
| 第2回  | 評論文教材分析及び授業実践と模擬授業実践演習                 | 評論『知識社会という幻想』(西垣通)を教材にして、指導案作成と模擬授業を行う。                       |
| 第3回  | 評論文教材の模擬授業の振り返り                        | 評論文の授業実践をそれぞれ個人で振り返った後、グループディスカッションを行い、評論文教材の授業について考えを深める。    |
| 第4回  | 学生の選んだ評論文での模擬授業演習①                     | 前回の授業理論を踏まえて、評論教材の授業実践を行う。その後、授業に関する質疑応答やディスカッションを行う。         |
| 第5回  | 学生の選んだ評論文での模擬授業演習②                     | 評論文教材を用いてのアクティブラーニング、グループ学習の方法について実際に体験した上で、意見交換を行う。          |
| 第6回  | 翻訳文学の授業方法                              | 翻訳文学教材として『少年の日の思い出』(ヘルマン・ヘッセ)を用いて、教材分析及び指導案作成を行う。             |
| 第7回  | 翻訳文学の授業実践                              | 翻訳文学教材として『少年の日の思い出』(ヘルマン・ヘッセ)を用いて、模擬授業実践演習を行う。                |
| 第8回  | 現代文学作品の授業法①と教育観                        | 「鞆」や「赤い繭」(安部公房)など、メタファーの強い小説の教材分析及び授業実践方法について考える。             |
| 第9回  | 現代文学の授業法②と模擬授業演習                       | 小説教材『鞆』(阿部公房)の指導案作成と模擬授業実践を行い、現代文学の授業についてディスカッションを行う。         |
| 第10回 | 国語科の授業における「ICT機器」の活用法と「ICT機器」を活用した授業実践 | 「ICT機器」を活用することで授業時間の効率を高めたり、映像教材を用いて作品の背景理解に役立てたりする方法を考え実践する。 |
| 第11回 | 小説の教材の分析及び授業実践について                     | 小説教材『山月記』を用いて、教材分析及び授業実践例を踏まえた指導案作成と模擬授業実践演習を行う。              |
| 第12回 | 教材例として小説『山月記』の教材分析及び授業実践               | これまでの授業実践を踏まえて、「トリガーエピソード (生徒の興味・関心を引き出す質問) の作り方について考えをまとめる。  |
| 第13回 | 小説教材の模擬授業実践                            | 小説『山月記』の教材分析及び模擬授業実践演習 (グループ学習の方法)                            |

第14回 小説教材の指導案と教育実習に向けての心得

小説『山月記』を教材にして、それぞれが学習指導案を完成させるとともに、教育実習に関する質疑応答を行い、教育実習の心得について具体的に考える。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

振り返りシート、次の授業課題、学習指導案作成など。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

「中学校学習指導要領解説 国語編」(文部科学省)、「高等学校学習指導要領解説 国語編」(文部科学省)、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(東洋館出版社)

### 【参考書】

参考書・参考資料等 『実践国語教育法』(学文社)、『現代文学理論』(新曜社)、『文学は教育を変えられるか』(コールサック社)、『読むことの教育』(山吹書店)、『持続可能な未来のための教職論』(学文社) 他

### 【成績評価の方法と基準】

学生に対する評価

課題やレポート・学習指導案 (40%)、模擬授業実践演習・質疑応答 (20%)、模擬授業の振り返りシート (20%)、授業への貢献度 (20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

「教師中心の覚える授業」ではなく、「生徒中心の考える授業」を自分たちで体験し、また「アクティブラーニング」の本質について理解するだけでなく、模擬授業を通してそれを実践したりがいにフィードバックし合ったりしながら、「魅力ある国語の授業を実践する」という目標に全員が協力しながら取り組んでいた。授業改善アンケートにはすべて「楽しかった」という言葉が見られ、学生が積極的に向上しようとする姿が見て取れた。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** The purpose of this course is to help future Japanese language teachers understand how to think about creating classes and to learn various methods of teaching.

**Learning Objectives:** Based on the Teaching Method of Japanese Language (3), students will be required to understand both the pedagogy of teaching, including learners' competencies, and studies on literature and language. They will also practice their mock classes in real-life settings.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time will be more than two hours for a class.

**Grading Criteria/Policy:** Final grades will be calculated according to the following process: class reflection report (40%), prep work for the next class (40%), and in-class contribution (20%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール22A

王安

授業コード：A2735 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ゼミナール22では、主に日、中、英の三言語を中心に、言語学的観点から三言語における主な共通点・相違点や中国語の特徴について学びます。具体的には、語彙、文法、言語行動など様々な側面から日中、または日英の対照を行いながら、それぞれの「らしさ」とメカニズムを相対的に捉えます。

## 【到達目標】

- (1)中国語に関する基礎的な知識を習得する。
- (2)言語学的観点から日本語、中国語と英語における主たる相違点を把握する。
- (3)テキストの内容を的確に解説し、発表・議論を通して、まとめる力とプレゼンテーション力を身に着ける。
- (4)自ら問題点を発見し、情報・資料を収集、調査する力を身に着け、最終的に卒業論文の作成に役立つスキルを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、講師が対照言語学及び日中対照研究について全体像を説明します。それから解説、プレゼン、ディスカッションを併用して授業を進めていきます。また、授業のフィードバックは随時授業内で行う。また、初回の授業では、発表担当などを決める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                                       |
|------|--------------------|------------------------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス            | ゼミの方針、授業内容、進め方に関して説明を行い、発表分担やグループ分けを決める。 |
| 第2回  | 講義                 | 対照研究の方法、卒論執筆の注意点                         |
| 第3回  | グループ発表             | 3年生ミニ研究発表                                |
| 第4回  | 論文精読及び解説、討論 (その1)  | 日本文化における「心」の概念メタファー (松井)                 |
| 第5回  | 論文精読及び解説、討論 (その2)  | 日中両言語における<怒り>のメタファー (韓2016)              |
| 第6回  | 論文精読及び解説、討論 (その3)  | 日中擬音語擬態語                                 |
| 第7回  | 論文精読及び解説、討論 (その4)  | 多義分析 (許2008)                             |
| 第8回  | 論文精読及び解説、討論 (その5)  | 感情表現の日英比較 (清海2006)                       |
| 第9回  | 論文精読及び解説、討論 (その6)  | 日中終助詞対照                                  |
| 第10回 | 論文精読及び解説、討論 (その7)  | 日中熟語対照 (俞)                               |
| 第11回 | 論文精読及び解説、討論 (その8)  | フィラー関係 (定延1995)                          |
| 第12回 | 論文精読及び解説、討論 (その9)  | 日中同形語対照                                  |
| 第13回 | 論文精読及び解説、討論 (その10) | 通訳、翻訳の視点から見る日中両言語における語順の逆転現象 (朱2020)     |
| 第14回 | 討論とまとめ             | 総合まとめ                                    |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1, テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。
- 2, 各グループでは各自の分担を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。
- 3, 本授業の準備学習・復習時間は、各6~8時間を標準とします。
- 4, 発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントをしてください。

## 【テキスト (教科書)】

授業で配布する。(hoppiiを確認してください)

## 【参考書】

- 王占華他(2004)『中国語学概論』駿河台出版社
- 相原茂他(1996)『中国語の文法書』同学社
- 杉村博文(1994)『中国語文法教室』大修館書店
- 井上優(2002)『対照研究と日本語教育』
- 『日本語と外国語との対照研究X』国立国語研究所
- 石綿敏雄 高田誠(1990)『対照言語学』桜楓社
- 生越直樹(2002)『シリーズ言語科学4対照言語学』東京大学出版会
- 大河内康内編(1997)『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
- 寺村秀夫(1982)「言語の対照的分析と記述の方法」『講座日本語学10 外国語との対照』明治書院
- 松岡栄志・古川裕 監訳(2004)『現代中国語総説』三省堂

## 【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション30%(レジュメ+発表)+討論・課題30%(下記の②の評価点)+期末レポート40%  
\*発表レジュメは授業前日(月曜日17:00)までにlineで全員あてに送ってください。

重要事項：

- ①ゼミは学生が主体で運営するものです。各自で責任を持って自分の研究とゼミ学習に取り組んでください。
- ②論文購読に当たり、発表担当者もそれ以外の受講者も、必ず各自論文をしっかりと読み、自分なりの考え、感想、コメント、質問などをまとめた小レポートを作成し、毎回学習支援システムの「課題」に提出してもらいます。
- ③半期で3回欠席した者は即刻単位不認定、遅刻2回で欠席一回とする。
- ④毎年夏季にゼミの中間発表会、夏か冬季に合宿もしくはゼミイベントを行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

今後は学生同士の交流やコミュニケーションの機会を増やし、授業中のディスカッションがより活発にできるように工夫していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

- 1, 参考書のうち、特に“○”がついている最初の二冊は頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
- 2, 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業およびzoom形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppiiにて連絡いたします。

## 【担当教員の専門分野】

<専門領域>  
対照言語学、現代中国語文法、認知言語学  
<研究テーマ>  
形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究  
<主要研究業績>  
「中国語の<主観性>の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編. pp.35-50. 2018. 開拓社  
「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのパースペクティブ』(中村芳久教授退職記念論文集刊行会編. pp.71-84. 2018. 開拓社  
第8章「主体化」『認知言語学 基礎から最新線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版  
「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して—」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版



**[Outline (in English)]**

**Course Outline:** In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese, Chinese, and English as well as the characteristics of the Chinese language from a linguistic point of view.

**Learning Objectives:**

1. To master the basic concepts and knowledge of Chinese linguistics.
2. To grasp the main differences between Japanese, Chinese, and English.
3. To improve presentation skills through presentation and discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class, students will be expected to spend 8 hours reviewing the course content.

**Grading Criteria/Policy:** The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- presentation: 30%
- discussion: 30%
- term-end report: 40%

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

## ゼミナール22B

王安

授業コード：A2736 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期では日中対照研究に関する重要なトピックを中心に、重要文献・論文を精読し、日中両言語の類似性及び相違点への理解を深める。また、授業で学んだ研究方法を自分の研究に生かして、ミニ研究発表を数回行う。

## 【到達目標】

1. 言語学的観点から日本語と中国語における主たる相違点を把握する。
2. 批判的に論文を読む力を身に付け、言語現象における問題発見力を養う。
3. 対照研究の研究方法を理論的かつ体系的に学び、その方法を用いて自分の興味ある言語現象を説明できるように研究力を向上させる。
4. 情報・資料を収集、調査する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的に演習形式で行う。初回の授業で読む論文、発表担当を決め、レジュメの作り方や授業のやり方について説明を行う。それ以後一週間または二週間に論文1本のペースで講読していく。

具体的には、参加者全員が各自論文を読み、分からない用語や概念があれば事前に調べておく。発表担当者は論文の要点を要約しレジュメ(A4サイズ3～4枚)を用意する。発表担当者以外の学生は授業でコメント・質問ができるように準備をしておく(質問リストを作成し、提出してもらう)。

また、毎月ミニ研究発表会を行う。

なお、授業のフィードバックは随時授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                               |
|------|-------------|----------------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス     | 授業内容、進め方に関して説明を行い、読む論文・発表担当を決める。 |
| 第2回  | 研究発表1       | 二年生のミニ研究発表（研究テーマと研究方法などについて）     |
| 第3回  | 研究発表2       | 三年生の研究発表（研究進捗、データの収集と分析）         |
| 第4回  | 論文精読、解説、討論1 | 類型論からみた中国語・日本語・英語（中川1997）        |
| 第5回  | 論文精読、解説、討論2 | 日中諺対照（陸）                         |
| 第6回  | 論文精読、解説、討論3 | 日中「笑い」のオノマトペの対照（孫2021）           |
| 第7回  | 論文精読、解説、討論4 | 日英表現の比較（笹井2002）                  |
| 第8回  | 研究発表3       | 三年生のミニ発表（データ整理、分析）               |
| 第9回  | 論文精読、解説、討論5 | 英語と日本語の構文選択における差異について（岩畑）        |
| 第10回 | 論文精読、解説、討論6 | 日中両言語における感情形容詞について（zou xian）     |
| 第11回 | 論文精読、解説、討論7 | 日中同形語について                        |

第12回 論文精読、解説、討論8

第13回 研究発表4

二年生の研究発表（研究テーマ、目的、方法など）

第14回 研究発表5

三年生の研究発表、総合まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。
2. 各グループでは各自の発表分担を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。
3. 本授業の準備学習・復習時間は、各6～8時間を標準とします。
4. 発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントをしてください。
5. 課題を課す場合があるので、しっかり調べて準備すること。

## 【テキスト（教科書）】

授業で配布する。

## 【参考書】

○王占華他(2004)『中国語学概論』駿河台出版社

○相原茂他(1996)『中国語の文法書』同学社

杉村博文(1994)『中国語文法教室』大修館書店

井上優(2002)『対照研究と日本語教育』

『日本語と外国語との対照研究X』国立国語研究所

石綿敏雄 高田誠(1990)『対照言語学』桜楓社

生越直樹(2002)『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会

大河内康内編(1997)『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版

寺村秀夫(1982)『言語の対照的分析と記述の方法』講座日本語学

10 外国語との対照 明治書院

松岡栄志・古川裕 監訳(2004)『現代中国語総説』三省堂

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション30%(レジュメ+発表)+討論・課題30%(以下の②の評価点)+期末レポート40%

\*発表レジュメは授業前日(月曜日17:00)までにメールで全員あてに送ってください。

重要事項：

- ①ゼミは学生が主体で運営するものです。各自で責任を持って自分の研究とゼミ学習に取り組んでください。
- ②論文購読に当たり、発表担当者もそれ以外の受講者も、必ず各自論文をしっかり読み、自分なりの考え、感想、コメント、質問などをまとめた小レポートを作成し、毎回学習支援システムの「課題」に提出してもらいます。
- ③半期で3回欠席した者は即刻単位不認定、遅刻2回で欠席一回とする。
- ④毎年夏季にゼミの中間発表会、夏か冬季に合宿もしくはゼミイベントを行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

今後は学生同士の交流やコミュニケーションの機会を増やし、授業中のディスカッションがより活発にできるように工夫していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついている最初の二冊はよく使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。

2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業およびzoom形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppiiにて連絡いたします。

## 【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の<主観性>の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編. pp.35-50. 2018. 開拓社

「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」  
『ことばのパースペクティヴ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会  
編. pp.71-84. 2018. 開拓社

第8章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光  
編 2013. くろしお出版

「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性  
に着目して—」『言語研究の諸相』 pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

**[Outline (in English)]**

**Course Outline:** In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese and Chinese as well as the characteristics of the Chinese language from a linguistic point of view.

**Learning Objectives:**

1. To master the basic concepts and knowledge of Chinese linguistics.
2. To grasp the main differences between Japanese and Chinese.
3. To improve presentation skills through presentation and discussion.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class, students will be expected to spend 6 hours reviewing the course content.

**Grading Criteria/Policy:** The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- presentation: 30%
- discussion: 30%
- term-end report: 40%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (8) 言語C

王安

授業コード：A2737 | 曜日・時限：木5/Thu.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は対照言語学・対照研究を中心内容とする講義である。対照言語学 (Contrastive Linguistics) とは、二つ、また時には三つ以上の言語について、言語体系および言語行動の類似点と相違点を明らかにしようとする学問である。

この授業では、主に日本語・中国語・英語を中心に、三言語の文字・語彙・文法、または言語行動などの側面における類似点と相違点を分析し、言語学的観点から三言語それぞれの個性や特徴に対する理解を深めていく。また、現代中国語における基礎概念及び重要文法項目を紹介し、日中対照研究に関する典型事例を把握する。

## 【到達目標】

具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 対照言語学・対照研究の基本理念および概念を理解する。
- (2) 日中英三言語における主な類似点と相違点を把握する。
- (3) 言語学的な観点から日本語と日本語以外の言語の構造を知り、異なる言語を客観視する視点を養う。

Specific goals are as follows.

- (1) To understand the basic principles and concepts of contrastive linguistics and contrastive research.
- (2) To grasp the major similarities and differences between Japanese, Chinese, and English.
- (3) To learn the structures of Japanese and other languages from a linguistic perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、二、三回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。

なお、授業形態は対面で行う予定ですが、変更があった場合は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ               | 内容                                |
|-----|-------------------|-----------------------------------|
| 第1回 | 授業ガイダンス           | 授業に関する説明、対照言語学と対照研究に関する一般知識 (その1) |
| 第2回 | 対照言語学の基本概念        | 対照言語学と対照研究に関する一般知識 (その2)          |
| 第3回 | 中国語に関する基本知識 (その1) | 現代中国語とはどのような言語 - 日本語と対照しながら (その1) |
| 第4回 | 中国語に関する基本知識 (その2) | 現代中国語とはどのような言語 - 日本語と対照しながら (その2) |
| 第5回 | 日中両言語の品詞と基本構文     | 中国語の品詞と基本構文 - 日本語と対照しながら          |
| 第6回 | 対照言語学的観点から見る名詞    | 日中英三言語の名詞について                     |
| 第7回 | 対照言語学的観点から見る動詞    | 日中英三言語の動詞について                     |
| 第8回 | 対照言語学的観点から見る形容詞   | 日中英三言語の形容詞について (その1)              |

|      |                 |                      |
|------|-----------------|----------------------|
| 第9回  | 対照言語学的観点から見る形容詞 | 日中英三言語の形容詞について (その2) |
| 第10回 | 対照研究の事例分析 (1)   | 感情表現の多様性 (その1)       |
| 第11回 | 対照研究の事例分析 (2)   | 感情表現の多様性 (その2)       |
| 第12回 | 対照研究の事例分析 (3)   | 日中言語行動の比較            |
| 第13回 | 対照研究の事例分析 (4)   | 日中擬音語・擬態語の比較         |
| 第14回 | まとめ             | 総括                   |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 授業のあと、当日授業で学んだ内容、概念などを必ず整理し、復習を行ってください (2~3時間)
2. 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行ってください (3時間)

## 【テキスト (教科書)】

なし。授業で資料を配布する。

## 【参考書】

(1) 日英対照関連の参考書

- 安藤貞夫 (1986) 『英語の論理・日本語の論理』 大修館書店  
井上和子 (1978) 『日英対照 日本語の文法規則』 大修館書店  
大江三郎 (1975) 『日英語の比較研究 - 主観性をめぐって』 南雲堂  
影山太郎 (1980) 『日英比較 語彙の構造』 松柏社  
国広哲弥 (1967) 『構造的意味論 - 日英両語対照研究』 三省堂  
窪園晴夫ほか (1996) 『日英語対照による英語学概論』 くろしお出版  
柴谷方良ほか (編) (1992) 『日英語対照研究シリーズ1 (〜5)』 くろしお出版  
水谷信子 (1985) 『日英比較 話しことばの文法』 くろしお出版  
(2) 日中対照関連、中国語学関連の参考書  
相原茂他 (1996) 『中国語の文法書』 同学生社  
荒川清秀 (2018) 『日中漢語の生成と交流・受容』 白帝社  
石綿敏雄 高田誠 (1990) 『対照言語学』 桜楓社  
井上優 (2002) 『対照研究と日本語教育』  
大河内康内編 (1997) 『日本語と中国語の対照研究論文集』 くろしお出版  
大河内康内 (1997) 『中国語の諸相』 白帝社  
生越直樹 (2002) 『シリーズ言語学4 対照言語学』 東京大学出版会  
木村英樹 (2012) 『中国語文法の意味とかたち』 白帝社  
木村英樹 (2017) 『中国語ははじめの一步』 ちくま学芸文庫  
杉村博文 (1994) 『中国語文法教室』 大修館書店  
野瀬昌彦 編集 (2011) 『日本語と外国語との対照研究X』 三恵社  
寺村秀夫 (1982) 『言語の対照的分析と記述の方法』 『講座日本語学 10 外国語との対照』 明治書院  
松岡栄志・古川裕 監訳 (2004) 『現代中国語総説』 三省堂  
北京大学中文系現代漢語教研室編 (2018) 『現代漢語』 商務印書館  
王占華他 (2004) 『中国語学概論』 駿河台出版社

## 【成績評価の方法と基準】

課題36% + リアクションペーパー12% + 授業への積極的な貢献度12% + 期末レポート40% = 100%

## 【学生の意見等からの気づき】

新設科目であるため、特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

授業に関する知らせがあった場合は、学習支援システムの「お知らせ」に掲示するので、必ず確認してください。

## 【Outline (in English)】

This course focuses on contrastive linguistics and contrastive research. Contrastive Linguistics is the study of the similarities and differences between linguistic systems and linguistic behavior in two or more languages.

In this course, with a focus on Japanese, Chinese, and English, we will analyze the similarities and differences in letters, vocabulary, grammar, and linguistic behavior of the three languages, and deepen our understanding of the individuality and characteristics of each of the three languages from a linguistic perspective. In addition, basic concepts and important grammatical items in modern Chinese are introduced, and typical cases of contrastive studies between Japan and China are presented.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class, students will be expected to spend 3~4 hours reviewing the course content.

**Grading Criteria/Policy:** The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- Submission 36%
- reaction paper 12%
- active contribution to class 12%
- end-of-term report 40%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (8) 言語D

王安

授業コード：A2738 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

引き続き日本語・中国語・英語を中心に、三言語の文字・語彙・文法、または言語行動などの側面における類似点と相違点を分析し、言語学的観点から三言語それぞれの個性や特徴に対する理解を深めていく。また、現代中国語における基礎概念及び重要文法項目を紹介し、日中対照研究に関する典型事例を把握する。

## 【到達目標】

具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 対照言語学・対照研究の基本理念および概念を理解する。
- (2) 日中英三言語における主な類似点と相違点を把握する。
- (3) 言語学的な観点から日本語と日本語以外の言語の構造を知り、異なる言語を客観視する視点を養う。

Specific goals are as follows.

- (1) To understand the basic principles and concepts of contrastive linguistics and contrastive research.
- (2) To grasp the major similarities and differences between Japanese, Chinese, and English.
- (3) To learn the structures of Japanese and other languages from a linguistic perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、二、三回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。

なお、授業形態は対面で行う予定ですが、変更があった場合は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                       |
|------|-------------|--------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス     | 授業に関する説明、春学期内容の復習        |
| 第2回  | 日中対照 (その1)  | 中国語の介詞と日本語の後置詞           |
| 第3回  | 日中対照 (その2)  | 中国語の様態補語と対応する日本語表現       |
| 第4回  | 日中対照 (その3)  | 中国語の動補構造と日本語の複合動詞        |
| 第5回  | 日中対照 (その4)  | 中国語の方向補語と対応する日本語表現 (その1) |
| 第6回  | 日中対照 (その5)  | 中国語の方向補語と対応する日本語表現 (その2) |
| 第7回  | 日中対照 (その6)  | 日中構文対照 (受動文)             |
| 第8回  | 日中対照 (その7)  | 日中構文対照 (使役文)             |
| 第9回  | 日中対照 (その8)  | 日中言語行動における対照 (その1)       |
| 第10回 | 日中対照 (その9)  | 日中言語行動における対照 (その2)       |
| 第11回 | 日中英対照 (その1) | 言語における主観性の問題 (その1)       |
| 第12回 | 日中英対照 (その2) | 言語における主観性の問題 (その2)       |

第13回 日中英対照 (その3) 言語における文法化の普遍性

第14回 秋学期まとめ 総括

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 授業のあと、当日授業で学んだ内容、概念などを必ず整理し、復習を行ってください (2~3時間)
2. 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行ってください (3時間)

## 【テキスト (教科書)】

なし。授業で資料を配布する。

## 【参考書】

(1) 日英対照関連の参考書

安藤貞夫 (1986) 『英語の論理・日本語の論理』大修館書店  
井上和子 (1978) 『日英対照 日本語の文法規則』大修館書店  
大江三郎 (1975) 『日英語の比較研究—主観性をめぐって』南雲堂  
影山太郎 (1980) 『日英比較 語彙の構造』松柏社  
国広哲弥 (1967) 『構造的意味論—日英両語対照研究』三省堂  
窪蘭晴夫ほか (1996) 『日英語対照による英語学概論』くろしお出版  
柴谷方良ほか (編) (1992) 『日英語対照研究シリーズ1 (〜5)』くろしお出版  
水谷信子 (1985) 『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版

(2) 日中対照関連、中国語学関連の参考書

相原茂他 (1996) 『中国語の文法書』同学社  
荒川清秀 (2018) 『日中漢語の生成と交流・受容』白帝社  
石綿敏雄 高田誠 (1990) 『対照言語学』桜楓社  
井上優 (2002) 『対照研究と日本語教育』  
大河内康内編 (1997) 『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版  
大河内康内 (1997) 『中国語の諸相』白帝社  
生越直樹 (2002) 『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会  
木村英樹 (2012) 『中国語文法の意味とかたち』白帝社  
木村英樹 (2017) 『中国語ははじめの一步』ちくま学芸文庫  
杉村博文 (1994) 『中国語文法教室』大修館書店  
野瀬昌彦 編集 (2011) 『日本語と外国語との対照研究X』三恵社  
寺村秀夫 (1982) 『言語の対照的分析と記述の方法』『講座日本語学10 外国語との対照』明治書院  
松岡栄志・古川裕 監訳 (2004) 『現代中国語総説』三省堂  
北京大学中文系現代漢語教研室編 (2018) 『現代漢語』商務印書館  
王占華他 (2004) 『中国語学概論』駿河台出版社

## 【成績評価の方法と基準】

課題36% + リアクションペーパー12% + 授業への積極的な貢献度12% + 期末レポート40% = 100%

## 【学生の意見等からの気づき】

新設科目であるため、特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

1. 授業に関する知らせがあった場合は、学習支援システムの「お知らせ」に掲示するので、必ず確認してください。
2. 春学期の授業履修が望ましい。

## 【Outline (in English)】

This course focuses on contrastive linguistics and contrastive research. Contrastive Linguistics is the study of the similarities and differences between linguistic systems and linguistic behavior in two or more languages.

In this course, with a focus on Japanese, Chinese, and English, we will analyze the similarities and differences in letters, vocabulary, grammar, and linguistic behavior of the three languages, and deepen our understanding of the individuality and characteristics of each of the three languages from a linguistic perspective. In addition, basic concepts and important grammatical items in modern Chinese are introduced, and typical cases of contrastive studies between Japan and China are presented.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class, students will be expected to spend 3~4 hours reviewing the course content.

**Grading Criteria/Policy:** The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- Submission 36%
- reaction paper 12%
- active contribution to class 12%
- end-of-term report 40%

LIT200LA (文学 / Literature 200)

## くずし字入門A

中司 由起子

授業コード：A2739 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本では、「変体仮名・くずし字」という文字が使われていました。本講義では、変体仮名・くずし字を正確に読み取る力を習得することを目的とします。変体仮名・くずし字は、日本文学や文化を深く理解するうえで欠かせないものです。変体仮名・くずし字がわかると、古典文学をはじめ近代の作家たちの手書き原稿や手紙を読んだり、史料・古文書を解説したりできるようになります。さまざまな作品の成立・享受の時代、作者の生きた時代へ直接にアクセスできます。初めて学ぶ学生が多いと思われませんが、基礎から丁寧に解説していきます。

## 【到達目標】

- ① 変体仮名・くずし字を正確に読むことができる。
- ② 変体仮名・くずし字で書かれた内容を解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

毎回の講義は、講師による講義をおこなった後に、問題を解く学習をします。これを繰り返すことで、変体仮名・くずし字を覚えていきます。毎回、課題に取り組むこととし、次の講義時に答え合わせをしてフィードバックをおこないます。小テストも適宜、実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ           | 内容                                          |
|----|---------------|---------------------------------------------|
| 1  | 導入            | 変体仮名・くずし字を学ぶ意義や、変体仮名と字母の関係など、基本的な解説をおこないます。 |
| 2  | 変体仮名の基礎「あ～こ」  | 「あ」行と「か」行を中心に変体仮名を学びます。                     |
| 3  | 変体仮名の基礎「さ～の」  | 「さ」行から「な」行を中心に変体仮名を学びます。                    |
| 4  | 変体仮名の基礎「は～も」  | 「は」行と「ま」行を中心に変体仮名を学びます。                     |
| 5  | 変体仮名の基礎「ら～ん」  | 「ら」行から「ん」を中心に変体仮名を学びます。                     |
| 6  | 小テスト・『小学校唱歌集』 | 小テストの実施。『小学校唱歌集』を読みます。                      |
| 7  | 百人一首          | 百人一首のよく知られた歌を読みます。                          |
| 8  | 百人一首・くずし字（漢字） | 百人一首・漢字のくずし字 百人一首の歌を読みます。漢字のくずし字を学びます。      |
| 9  | 和歌集           | 『古今和歌集』などの和歌を読みます。                          |
| 10 | 小テスト・和歌集      | 小テストの実施。『古今和歌集』などの和歌を読みます。                  |
| 11 | 歌物語           | 『伊勢物語』の有名な段を読みます。                           |
| 12 | 物語            | 『源氏物語』の有名な場面を読みます。                          |
| 13 | 物語            | 『源氏物語』の有名な場面を読みます。                          |
| 14 | まとめ・期末テスト     | これまでの内容をまとめ、習得度をはかるテストを実施します。               |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【準備】 次回講義で扱う問題を解きます。

【復習】 毎回、出される問題を解きます。

展覧会などに足を運び、くずし字で書かれた展示品や史料などを鑑賞、読み解いてみてください。

## 【テキスト（教科書）】

伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』新典社、385円。本テキストは、変体仮名を解説するための手引きとなります。必ず用意してください。

問題は、講義時に紙の資料を配布します。

## 【参考書】

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』近藤出版社、1981年（図書館の参考図書にあります）  
そのほか、講義時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

課題への取り組み 20%

小テスト 30%

期末テスト 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

春学期と秋学期合わせての履修を推奨します。秋学期には、より幅広い時代の作品を扱います。変体仮名の基本的な学習は、秋学期にも予定していますが、春学期の前半に集中的におこないます。受講者の興味や学習の進捗状況に合わせて、取り上げる作品を変更する場合があります。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course deals with Hentaigana(anomalous cursive syllabary), Kuzushi-ji(character written in a cursive style). It enhances the development of students' skill in reading of Hentaigana and Kuzushi-ji.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course is to reading Hentaigana, Kuzushi-ji accurately.

## 【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: Solve the problems to be covered in the next lecture.

Review: Students will solve the problems given in each lecture.

## 【Grading Criteria /Policy】

Work on assignments 20%.

Short test 30%.

Final exam 50%.



LIT200LA (文学 / Literature 200)

## くずし字入門B

中司 由起子

授業コード：A2740 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本では、「変体仮名・くずし字」という文字が使われていました。本講義では、変体仮名・くずし字を正確に読み取る力を習得することを目的とします。変体仮名・くずし字は、日本文学や文化を深く理解するうえで欠かせないものです。変体仮名・くずし字がわかると、古典文学をはじめ近代の作家たちの手書き原稿・手紙等を読んだり、史料・古文書を解読したりできるようになります。さまざまな作品の成立・享受の時代、作者の生きた時代へ直接にアクセスできます。初めて学ぶ学生が多いと思われませんが、基礎からていねいに解説していきます。

### 【到達目標】

- ① 変体仮名・くずし字を正確に読むことができる。
- ② 変体仮名・くずし字で書かれた内容を解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

毎回の講義では、講師による講義をおこなった後に、問題を解く学習をします。これを繰り返すことで、変体仮名・くずし字を覚えていきます。毎回、課題に取り組むこととし、次の講義時に答え合わせをしてフィードバックをおこないます。小テストも適宜、実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ          | 内容                             |
|----|--------------|--------------------------------|
| 1  | 変体仮名・くずし字の基礎 | 基本的な変体仮名を学びます。                 |
| 2  | 随筆           | 『枕草子』の有名な段を読みます。               |
| 3  | 随筆           | 『徒然草』の有名な段を読みます。               |
| 4  | 軍記物語         | 『平家物語』の有名な場面を読みます。             |
| 5  | 小テスト、軍記物語    | 小テストの実施。『平家物語』の有名な場面を読みます。     |
| 6  | 御伽草子         | 『一寸法師』を読みます。                   |
| 7  | 御伽草子         | 『鉢かづき』を読みます。                   |
| 8  | 仮名草子         | 『伊曾保物語』を読みます。                  |
| 9  | 小テスト、草双紙     | 小テストの実施。草双紙の作品を読みます。           |
| 10 | 謡曲           | 『葵上』を読みます。                     |
| 11 | 俳諧           | 『おくのほそ道』を読みます。                 |
| 12 | 草双紙          | 草双紙の作品を読みます。                   |
| 13 | 浄瑠璃本         | 『国姓爺合戦』を読みます。                  |
| 14 | まとめ、期末テスト    | これまでの内容を振り返り、習得度をはかるテストを実施します。 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【準備】 次回講義で扱う問題を解きます。

【復習】 毎回、出される問題を解きます。

展覧会などに足を運び、くずし字で書かれた作品・史料等を鑑賞、読み解いてみてください。

### 【テキスト（教科書）】

伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』新典社、385円。本テキストは、変体仮名を解読するための手引きとなります。必ず用意してください。

問題は、講義時に紙の資料を配布します。

### 【参考書】

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』近藤出版社、1981年（図書館の参考図書にあります）

そのほか、講義時に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

課題への取り組み 20%

小テスト 30%

期末テスト 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

春学期と秋学期合わせての履修を推奨します。変体仮名の基本的な学習は、秋学期にも予定していますが、春学期の前半に集中的におこないます。

受講者の興味、学習の進展に合わせて、取り上げる作品を変更する場合があります。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course deals with Hentaigana(anomalous cursive syllabary), Kuzushi-ji(character written in a cursive style). It enhances the development of students' skill in reading of Hentaigana and Kuzushi-ji.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course is to reading Hentaigana, Kuzushi-ji accurately.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: Solve the problems to be covered in the next lecture.

Review: Students will solve the problems given in each lecture.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Work on assignments 20%.

Short test 30%.

Final exam 50%.

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

**英語学概論 A**

椎名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です  
 その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいです。

**【到達目標】**

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業開始は4月8日です。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいください。課題、読んでほしい箇所などの情報はHoppii「学習支援システム」でお知らせします。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれませんが、そうした情報も含め、全て前日まではHoppiiでお知らせします。なお、Hoppiiから皆さんへは、メールでお知らせがいくようになります。

\*\*\*\*\*

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭の中かの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エクササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

\*\*\*\*\*

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                      | 内容                                                        |
|------|--------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                | 英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。毎週、授業日の前日に、必ずHOPPIIを見てく |
| 第2回  | 世界の英語(1)                 | 世界語としての英語について                                             |
| 第3回  | 世界の英語(2)                 | 英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて                              |
| 第4回  | 形態論(1)                   | 形態論の概説、単語ができるしくみ                                          |
| 第5回  | 形態論(2)                   | 形態論と形態素                                                   |
| 第6回  | 中間の振り返り                  | これまでの内容のまとめと復習と演習                                         |
| 第7回  | 意味論(1)                   | 意味論の概説                                                    |
| 第8回  | 意味論(2)                   | 意味の拡張としてのメタファー、メトニミー                                      |
| 第9回  | 語用論(1)                   | 語用論の概説、言葉の意味について                                          |
| 第10回 | 語用論(2)                   | 語用論の演習、コミュニケーション論の概説                                      |
| 第11回 | 文体論(1)                   | 文体論の概説                                                    |
| 第12回 | 文体論(2)                   | テキスト分析の方法、言語の規則性                                          |
| 第13回 | 英語教育                     | 英語教育の現状と問題点                                               |
| 第14回 | 社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション | 社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など         |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、Hoppiiにアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

**【参考書】**

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、Hoppiiにアップロードします。

**【成績評価の方法と基準】**

通常の授業では、学期末試験70%、レポート20%、平常点10%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、Hoppiiにて連絡をします。

**【学生の意見等からの気づき】**

初めてのことばかりなので、授業を聞いているだけでは難しいかもしれませんが、授業の前後に予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

**【学生が準備すべき機器他】**

課題は、基本的にHoppiiの「課題」として、添付ファイルの形で提出してもらいます。

**【その他の重要事項】**

・パワーポイントの資料は、必要な場合には、授業後にHoppiiにアップします。  
 ・オフィスアワーは木曜4限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

The leaning object of this class is to have an overview of the English linguistics and also become able to locate one's own research interest in the field.

Students need to read the chapter before attending the class and also to review what they have learned in the class after the class.

The grade includes the term end exam (70%), academic essays (20%), and attendance (10%). Any change will be announced in the class or by Hoppii.

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

## 英語学概論 B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容が身につきます。

### 【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                           |
|------|-----------|----------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション | 授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について                     |
| 第2回  | 英語学とは     | 英語学の基本を解説する                                  |
| 第3回  | 音声・音韻論(1) | 音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み<br>音韻論の演習:母音の発音の実践 |
| 第4回  | 音声・音韻論(2) | 音声学の概説:子音の仕組み                                |
| 第5回  | 音声・音韻論(3) | 音声学の演習：子音の発音の実践                              |
| 第6回  | 音声・音韻論(4) | 英語と日本語の違い：音節とモーラ                             |
| 第7回  | 統語論の基礎    | 統語論の概説：言語の構造について                             |
| 第8回  | 統語構造      | 統語論の理論について：生成文法による構造分析                       |
| 第9回  | 言語構造の解析   | 言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か                     |
| 第10回 | 言語習得(1)   | 言語習得の基礎的概念                                   |
| 第11回 | 言語習得(2)   | 言語習得を説明する主な理論                                |
| 第12回 | 英語の歴史(1)  | 英語史の概説                                       |
| 第13回 | 英語の歴史(2)  | 英語の音韻・統語・形態・意味の変化                            |
| 第14回 | 期末試験      | 試験・まとめと解説                                    |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引ながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩】

影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著

くろしお出版

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。

期末試験 60%

平常点 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

教科書の解説も丁寧に行うようにします。

### 【その他の重要事項】

できれば、1年次に春学期「英語学概論A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論A」と「英語学概論B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。出席は毎回とります。4回以上欠席した場合はD評価となります。

### 【Outline (in English)】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English linguistics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

## 言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るといよりも、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

## 【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きを判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                                                                               |
|------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入、および「音素」その1（音声学・音韻論） | この授業の紹介、および、 <i>party</i> はカナで何と言うべき？                                            |
| 第2回  | 「音素」その2（音声学・音韻論）       | 英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他                                                     |
| 第3回  | 「音節」その1（音声学・音韻論）       | アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？                                              |
| 第4回  | 「音節」その2（音声学・音韻論）       | 英語にも存在する母音挿入                                                                     |
| 第5回  | 日本語動詞（形態論）             | 日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」                                                            |
| 第6回  | 今日の文法理論その1（統語論）        | 統語論「研究」実体験：日本語を例として                                                              |
| 第7回  | 今日の文法理論その2（統語論）        | 「5文型」の不適切さ、X-bar Theory                                                          |
| 第8回  | 今日の文法理論その3（統語論）        | 英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に <i>native speaker</i> の頭の中にあるの？                        |
| 第9回  | 今日の文法理論その4（意味論・語用論）    | 英語の進行形の基本的意味                                                                     |
| 第10回 | 今日の文法理論その5（意味論・語用論）    | なぜ進行形で丁寧さが出せるか                                                                   |
| 第11回 | 人間はどのように文を理解するか（心理言語学） | <i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？ ……「文の曖昧さ」およびそれへの対処 |
| 第12回 | 人間はどのように文を理解するか（心理言語学） | 実験方法、そして人間の文処理の方式の理由                                                             |
| 第13回 | 言語習得（心理言語学）            | 言語生得説、そして U-curve development                                                    |
| 第14回 | まとめ                    | 全体のまとめ                                                                           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

## 【参考書】

参考書は適宜指示。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験、100%。  
 公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありせん）。

## 【学生の意見等からの気づき】

全体の理解度を上げるべく、一層精進します。

## 【その他の重要事項】

この授業は『言語学概論B』とは独立していますが、両方も合わせて受講することをお勧めします。

## 【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice.  
 (Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.  
 (Learning activities outside of classroom) Reaction papers (Grading Criteria /Policy) Final (100%)

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

## 言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

### 【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対して、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

#### 1. 授業形態

教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、新型コロナウイルスの流行状況などに応じて「オンライン授業」に切り替える場合もありえ、その際は学習支援システム経由で履修者にその旨をお知らせします。

#### 2. 授業の進め方

授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一方的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。教員は具体的な言語現象とそれにまつわる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切に、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                      |
|------|-----------|-------------------------|
| 第1回  | 導入        | 言語学ってどんな学問？             |
| 第2回  | 言語理論と言語観  | ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷   |
| 第3回  | 形態論 1     | 語の内部構造と形態素              |
| 第4回  | 形態論 2     | 語の作られ方                  |
| 第5回  | 形態論 3     | 日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？  |
| 第6回  | 言語学と科学方法論 | 言語研究における問い・仮説・予測・データの関係 |
| 第7回  | 音声学 1     | 音声産出と子音・母音の体系           |
| 第8回  | 音声学 2     | 異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり    |
| 第9回  | 音韻論       | 音節とモーラ                  |
| 第10回 | 統語論 1     | 句構造と X-bar Theory       |
| 第11回 | 統語論 2     | 句構造から文構造へ               |
| 第12回 | 統語論 3     | 生成文法における「移動」と「痕跡」の概念    |
| 第13回 | 意味論 1     | 意味の記述と語彙分解              |
| 第14回 | 意味論 2     | 述語のアスペクト                |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業 1 回あたりの標準の準備・復習時間は、各 2 時間とします。

1. 準備

後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習 (宿題、その他応用学習も含む)  
その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出たら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードします (アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします)。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください (授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください)。

### 【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

#### 1. 期末試験：100%

本シラバス執筆時点では、(A) 通常の教室内試験、(B) 学習支援システムの「テスト/アンケート」機能を用いたオンライン試験、のどちらになるか未定です (新型コロナウイルスの流行状況などを鑑みて決定)。

#### 2. プラスアルファの加点

上記 1 の通り、本科目の成績は基本的には期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々加点をいたします。

(a) リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者 (但し、以下の\*の場合には減点の可能性あり)

(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者 (不参加の者が減点されることはない)

\*なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないで減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すフリでいい加減なリアクションペーパー (e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの) を提出した者は、逆に成績から減点いたします。

### 【学生の意見等からの気づき】

1. 昨年度は受講生から提出されたリアクションペーパーに対するコメント返しが、一昨年度に比べ、授業の進捗の問題などから中途半端な形になり十分に行えませんでした。それを踏まえ、例えばコメント返しを授業内で行うものと授業外で行うもの (まとめて資料にして学習支援システムにアップする) に分けて対応するなどの工夫をすることで、より多くのコメントに対して返事ができるように心掛けていこうと思います。

2. 受講生が授業内で気軽に質問や意見を発信できる環境作りの一環として、受講生がスマホ等のデバイスから送信したコメントが教室内スクリーン上に匿名で流れるアプリを昨年度に導入してみたが、こちらが期待したよりも受講生からのコメントを授業内で得ることができなかった。上手く活用できなかった原因には心当たりがあるため、学生の意見発信や授業理解度の把握に役立てるためにも、今年度はこのアプリの利用状況を改善していきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

(a) Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス (スマートフォンではなく PC が望ましい)

(b) 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線  
これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください。

### 【その他の重要事項】

本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりでいる学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

### 【Outline (in English)】

#### 1. Course outline

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

#### 2. Learning objectives

In this course, students are expected:

(a) to acquire the ability to understand basic knowledge in each field of linguistics.

(b) to become sensitive to, and to acquire the ability to give a rudimentary analysis to, facts about languages that are spoken around them.

(c) to gain a correct understanding of a scientific research methodology.

### 3. Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

#### (a) Preparation

Before each class meeting, take a look at the handout to be delivered beforehand. In addition, you should also recall the contents of the previous class meeting that are related to the upcoming meeting.

#### (b) Review

You should reflect on what you have learned in the classroom, and work on the assignment if any. If you encounter a problem, you should first tackle it yourself, and let me know the results, however imperfect they are; I will then give a feedback to your attempt. Furthermore, employ the analysis methods you have learned to solve the problem you encounter in your daily life that is similar to the phenomenon taken up in the class.

### 4. Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## 英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業形態は基本的には対面ですが、変更するときはHoppiiで連絡します。互いに日本語で話をしているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとなおさらそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることで、「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

### 【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPTを使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてきてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までにはHoppiiを見てください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                         | 内容                                                |
|------|-----------------------------|---------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                   | 学問領域の概説と、各自の課題設定                                  |
| 第2回  | 語用論とは何か                     | 語用論とポライトネスについて概説                                  |
| 第3回  | 第1章：ポライトネスの背景 (1)           | 人間関係に関わる普遍的なルール                                   |
| 第4回  | 第1章：ポライトネスの背景 (2)           | ポライトネスについて                                        |
| 第5回  | 第2章：ブラウン&レビンソンのポライトネス理論 (1) | 効率と配慮について                                         |
| 第6回  | 第2章：ブラウン&レビンソンのポライトネス理論 (2) | ポライトネスと言語文化について                                   |
| 第7回  | 第3章：敬語とポライトネス (1)           | 会話の場で人間関係を切り分けることについて                             |
| 第8回  | 第3章：敬語とポライトネス (2)           | 敬語と距離感について                                        |
| 第9回  | 第4章：距離とポライトネス (1)           | 「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論                            |
| 第10回 | 第4章：距離とポライトネス (2)           | 呼称と指示語について                                        |
| 第11回 | 第5章：ポライトネスのコミュニケーション (1)    | 会話のスタイル・言語行為・文化差について                              |
| 第12回 | 第5章：ポライトネスのコミュニケーション (2)    | 言語の形式と機能について                                      |
| 第13回 | 第6章：終助詞の意味とポライトネス           | 話者が直観的にしていることについて                                 |
| 第14回 | 歴史語用論概説                     | 歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。滝浦真人 (2008)『ポライトネス入門』(研究社)

### 【参考書】

椎名美智 (2022)『「させていただく」の使い方-日本語と敬語のゆくえ』(角川新書)  
「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は参考になります。

### 【成績評価の方法と基準】

期末レポート80%、平常点 (提出物/出席) 20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業で使ったPPT資料は、希望があれば、授業後に学習支援システムにアップするので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワーは木曜日4限です。事前に予約メールをください。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。

「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

### 【Outline (in English)】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

The goal of this class is to learn pragmatics and politeness theory and raise the consciousness on one's own communication. Students need to review what they learn in the class.

The grading includes presentation (20%) and term paper (80%).

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

**英語・言語学講義 B**

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

**【到達目標】**

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                          |
|------|-----------------|-----------------------------|
| 第1回  | 巷の日本語論の嘘（その1）   | うなぎ文（その1）：翻訳とは何か、日本語の主語について |
| 第2回  | 巷の日本語論の嘘（その2）   | うなぎ文（その2）：奥津説、菅井説、そして……     |
| 第3回  | 「訳」についての誤解（その1） | 代名詞と「役割語」                   |
| 第4回  | 「訳」についての誤解（その2） | 意味と文法的手段                    |
| 第5回  | 文化と思考と言語        | 概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い         |
| 第6回  | ハとガ、英語の冠詞（その1）  | 情報の新旧説……英語の冠詞               |
| 第7回  | ハとガ、英語の冠詞（その2）  | 情報の新旧説……日本語の助詞              |
| 第8回  | 「黒人」英語（その1）     | 必要な（統語論的）道具立ての整備            |
| 第9回  | 「黒人」英語（その2）     | 無意識の規則                      |
| 第10回 | 「黒人」英語（その3）     | 必要な（意味論的）概念の整備              |
| 第11回 | 「黒人」英語（その4）     | 細かい意味的な区別                   |
| 第12回 | 強形・弱形・再強勢形      | do の3単現（その1）                |
| 第13回 | 音節量             | do の3単現（その2）                |
| 第14回 | まとめ             | 全体のまとめ                      |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

**【参考書】**

参考書は適宜指示。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粹加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートでの理解度のスコアは、一昨年度より昨年度の方が上がりましたが、もっと全体の理解度を上げたいと思います。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language.

(Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)



LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## 社会言語学

椎名 美智

授業コード：A2810 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会言語学は文字通り「社会と言語の関係について研究する学問」ですが、この授業では、幅広い視野から社会言語学を概観し、言語的側面から歴史、社会、政治、そして日常生活を見直す考え方を身につけることを目標としています。

### 【到達目標】

世界中の様々な国に住む、様々な民族の言語状況に目を向け、その背後にある政治的・社会的・歴史的・民族的な要因を考える習慣を身につけてもらいたいと思います。それと同時に、自分の生活環境における言語的実情を自分で調べる「フィールド・ワーク」をする習慣を身につけてもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

国会では標準語で話しているのに、地元での選挙演説では方言を使う政治家がよくいます。また、電車の中でおしゃべりしている中高校生の語彙やイントネーションが、まるで外国語のように奇妙に聞こえることも、よくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい現象をきっかけに、「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また、世界における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびハンドアウト、PPTを使った講義形式です。なお、各回の内容は、履修学生の興味によって変更する可能性があります。毎時間、リアクションペーパーに講義で学んだこと、考えたことなどを書いて、提出してもらいます。学期中の課題のフィードバックは、授業で取り上げたり、個人的にコメントをいたします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                     |
|------|--------------------|------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション          | 社会言語学の学問領域の概説と各自の課題設定  |
| 第2回  | 社会言語学の枠組み          | 社会と言語の関係               |
| 第3回  | 言語と地域              | 方言と共通語                 |
| 第4回  | 言語と社会階層方言          | 言語使用に見られる社会階層          |
| 第5回  | 言語と民族              | リング・フランカ、ピジン、クレオール     |
| 第6回  | 言語とジェンダー           | 性差と会話スタイル              |
| 第7回  | 言語と年齢              | 世代と言語、若者ことば            |
| 第8回  | 言語の選択              | 公用語と多言語社会              |
| 第9回  | 言語の状況差、適切さ         | スタイルとレジスター             |
| 第10回 | ディスコース分析           | 社会言語学と談話分析             |
| 第11回 | コミュニケーションの民族誌      | スピーチ・イベントの構成要素         |
| 第12回 | 相互行為的社会言語学         | 会話という相互行為、フレームとコンテキスト  |
| 第13回 | 社会言語学と異文化コミュニケーション | 共通の解釈と枠組みと異文化コミュニケーション |
| 第14回 | 社会言語学的センス          | これまで勉強した事柄の総括とディスカッション |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分の言語環境を、社会言語学的な観点から見直す訓練をします。この授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

岩田祐子・重光由加・村田泰美 (共編)『社会言語学—基本からディスコース分析まで』(ひつじ書房)を使うので、各自購入しておいてください。

### 【参考書】

内容ごとに参考文献を紹介し、資料を配布します。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート8割 (フィールド・ワーク重視)、平常点2割 (課題も含む) で評価の参考にします。

### 【学生の意見等からの気づき】

例年、配付資料が数多く、授業内で扱いきれないので、厳選して資料を配付します。PPT資料は、授業後に授業支援システムにアップしますので、参考にしてください。授業中はノートをとることよりも、講義の内容に集中し、テーマにそって議論できるように、自ら考えるようにしてください。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントはリクエストがあれば、授業支援システムにアップします。

### 【その他の重要事項】

・オフィスアワーは木曜4限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to become aware of the use of language in society. The students are required to read the text before and after the class. By the end of the term, the students will have a fair linguistic sense towards languages in the world.

The evaluation will be based on the contribution to the class (20%) and the term end report (80%).

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## 応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学ぶ。

### 【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。授業後にオンラインでいただいたコメント・質問には次の授業冒頭で回答します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容             |
|------|---------------|----------------|
| 第1回  | 導入            | 授業の内容説明        |
| 第2回  | 言語知識          | 子供と大人の言語知識     |
| 第3回  | 第一言語習得1       | 子供の言語習得        |
| 第4回  | 第一言語習得2       | 入力の問題点・生得性     |
| 第5回  | 第一言語習得3       | 臨界期仮説          |
| 第6回  | 第一言語習得4       | 第一言語習得の研究      |
| 第7回  | 言語教育～言語習得     | 第二言語習得の歴史      |
| 第8回  | 第二言語習得1       | 第二言語習得における入力問題 |
| 第9回  | 第二言語習得2       | L1とL2の相違点      |
| 第10回 | 第二言語習得3       | 言語差と難易度        |
| 第11回 | SLA 研究        | 実験方法の変遷        |
| 第12回 | SLA 理論1       | パラメタと有標性       |
| 第13回 | SLA 理論2       | パラメタの習得        |
| 第14回 | SLA 研究の教育への応用 | 理論と教育、第二言語教育   |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

### 【参考書】

Lightbown, Patsy and Nina Spada 2011. How Languages Are Learned. Oxford University Press. [P. ライトバウン & N. スパダ『言語はどのように学ばれるか——外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』白井恭弘&岡田雅子 (訳) 2014. 岩波書店]  
その他、授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

最終試験を100%として評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

言語習得研究の歴史や幅広さを知っていただき、興味を持っていただけたことは良かったと思います。

### 【Outline (in English)】

Outline: This course deals with Applied Linguistics, focusing on the theory of Language Acquisition, especially second language acquisition. Through classes and participation in experiments, students will learn what kind of research has been conducted in the field of language acquisition.

Goal: The purpose of this course is to provide students with knowledge about language acquisition and to enable them to think logically about issues related to language acquisition.

Learning activities outside of classroom: The required amount of study time is a minimum of four hours for each meeting of the class.

Grading Criteria:

Final exam: 100%

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 比較文学 A

日中 鎮朗

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木5/Thu.5  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

絵画、オペラ、文学、能、歌舞伎、建築など諸芸術を比較しながら、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカなどで同一素材(テーマ)がどのように表現されてきたか、どのように解釈され、取り扱われてきたかを見る。比較文学としてはStoffgeschichte(素材史)、テーマ批評にあたるが、影響史も学ぶ。

また、絵画の見方や映画の技法についても紹介する。

### 【到達目標】

さまざまな作品の成立過程を学び、また他の諸ジャンルの芸術そのものを鑑賞・比較することによって、概念や感情に対するヨーロッパの表現方法に関する知見を広め、また通常言われている作品のイメージをさらに解釈を深めることによって、芸術の解釈力や構造の発見力を養う。比較対象として日本の能、歌舞伎、アジアの映画などを鑑賞し、感情や思考の表現方法や表象の差異を学ぶ。絵画や映画やオペラの基本的な技法や歴史を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

関連するオペラ、文学、絵画、能、歌舞伎、建築の成立史を見たりすることが中心となる。1作品に2～3回時間をかける予定である。なお、毎回授業の出席を取るが、その際にコメント欄に書かれたコメントをいくつか授業時に取り上げ、答えていくことでレスポンスを行い、授業の双方向的な構成を作っていくつもりである。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                                      |
|------|------------------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション<br>比較文学とは何か? | 比較文学・文化の意味と手法                           |
| 第2回  | マリアについて<br>聖書とマリア      | マリアについての概説                              |
| 第3回  | マリアの絵画<br>キリスト教の絵画について | 受胎告知から聖母へ<br>マリア以外の聖書の絵画<br>絵画の見方について   |
| 第4回  | 宗教画と絵画の歴史<br>現代にいたる芸術  | 絵画の歴史とヨーロッパの時代背景<br>現代の絵画・芸術への道程        |
| 第5回  | 現代におけるマリア表象            | 映画に見るマリア像                               |
| 第6回  | 『椿姫(ラ・トラヴィアータ)』(1)     | 成立史<br>デュマの原作との比較<br>病と文学               |
| 第7回  | 『椿姫(ラ・トラヴィアータ)』(2)     | 二つの『椿姫』の比較<br>ドゥミ・モンド『椿姫』とその時代<br>椿の植物学 |
| 第8回  | 『椿姫(ラ・トラヴィアータ)』(3)     | 村上春樹『ノルウェイの森』                           |
| 第9回  | 『椿姫(ラ・トラヴィアータ)』(4)     | エリック・シーガル『ラブ・ストーリー』や『籠釣瓶花酔醒』との比較        |
| 第10回 | 『リゴレット』(1)             | その成立史と時代                                |
| 第11回 | 『リゴレット』(2)             | 歌舞伎『新版歌祭文 問野崎村』、『神霊矢口渡』との比較             |
| 第12回 | 『サロメ』(1)               | サロメ表象とその時代                              |
| 第13回 | 『サロメ』(2)               | ピアズリーからアール・ヌーヴォー、ユーゲント・シュティールへ          |
| 第14回 | 期末試験                   | 春学期の振り返りとまとめ<br>期末試験                    |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

本などで作品を確認したり、オペラであればその見どころ、あらすじなどを知っておくとよい。

また、授業で取り扱わない作品でも、TVなどで放映があれば、見ておくとよい。興味が第一です。

### 【テキスト(教科書)】

基本的にパワーポイント、DVDを使用して授業を行う。必要な教科書テキストはありません。ハンドアウトと資料を配布・使用します。

### 【参考書】

あらかじめ用意しておくものはとくにありません。

### 【成績評価の方法と基準】

出席・課題(50%)と期末のテスト(50%)に基づいて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

スライドの文字情報がやや多いという指摘があったので、改善する。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 While comparing various arts such as painting, opera, literature, Noh, Kabuki, and architecture, how the same material (theme) has been expressed in Italy, France, Germany, England, America, etc., and how it is interpreted. The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of arts and works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of comparative literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to be interested in close surveillance of the related works.

### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept and the method of world-literature studies.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

【Learning activities outside of classroom】: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】: Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end test: 50%, an assignment and in-class contribution: 50%

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 比較文学B

日中 鎮朗

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で学んだことを踏まえ、絵画、オペラ、文学、能、歌舞伎、建築など諸芸術を比較しながら、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカなどで同一素材（テーマ）がどのように表現されてきたか、どのように解釈され、取り扱われてきたかを見る。比較文学としては Stoffgeschichte（素材史）、テーマ批評にあたるが、影響史も学ぶ。

## 【到達目標】

諸ジャンルの芸術そのものを鑑賞・比較することによって、概念や感情に対するヨーロッパの表現方法に関する知見を広めることができる。通常言われている作品のイメージをさらに解釈を深めることによって、芸術の解釈力や構造の発見力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

関連するオペラ、文学、絵画、能、歌舞伎、建築の成立史を見たりすることが中心となる。1作品に2～3回時間をかける予定である。なお、毎回授業の出席を取るが、その際にコメント欄に書かれたコメントをいくつか授業時に取り上げ、答えていくことでレスポンスを行い、授業の双方向的な構成を作っていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容                                                    |
|------|---------------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                 | 芸術文化の諸ジャンルの比較について                                     |
| 第2回  | 『カルメン』（1）                 | 成立史<br>プロスペール・メリメ『カルメン』との比較                           |
| 第3回  | 『カルメン』（2）                 | ファミ・ファタル（1）<br>ホセの人物像                                 |
| 第4回  | 『カルメン』（3）<br>ファミ・ファタルの諸表象 | 映画『ダメージ』との比較                                          |
| 第5回  | あり得た物語と語られぬ物語             | 『The Classic（ラブ・ストーリー）』<br>『シェルブールの雨傘』                |
| 第6回  | 『魔笛』（1）                   | 『魔笛』の成立史<br>モーツァルトの生涯                                 |
| 第7回  | 『魔笛』（2）                   | フリーメーソンの歴史<br>ユング<グレートマザー>                            |
| 第8回  | 『魔笛』（3）                   | グスタフ・クリムトのペーターベン・フリーズ<br>シラー「歓喜に寄せて」<br>ウィーン古典派と音楽の歴史 |
| 第9回  | 『魔笛』（4）                   | もうひとつの『魔笛』<br><夜の女王>が象徴するもの                           |
| 第10回 | 『蝶々夫人』（1）                 | 「蝶々夫人」成立史と日本の開国                                       |
| 第11回 | 『蝶々夫人』（2）                 | ビエール・ロチの『お菊さん』との比較<br>ルース・ベネディクト『菊と刀』                 |
| 第12回 | 『蝶々夫人』（3）                 | 恥と日本文化<br>歌舞伎『仮名手本忠臣蔵』『寺子屋』との比較                       |
| 第13回 | 『蝶々夫人』（4）                 | 能『隅田川』との比較                                            |
| 第14回 | 期末試験                      | 秋学期の振り返りとまとめ<br>期末試験                                  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
本などでオペラ作品の見どころ、あらすじなどを知っておくとよい。  
また、授業で取り扱わない作品でも、TVなどで放映があれば、見ておくともよい。

## 【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントを使用して授業を行う。必要な教科書テキストはありません。ハンドアウトと資料を配布・使用します。

## 【参考書】

あらかじめ用意しておくものはとくにありません。

## 【成績評価の方法と基準】

出席・課題（50％）と期末のテスト（50％）に基づいて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

スライドの文字情報がやや多いという指摘があったので、留意し、改善する。

## 【Outline (in English)】

【Outline and objectives】 While comparing various arts such as painting, opera, literature, Noh, Kabuki, and architecture, how the same material (theme) has been expressed in Italy, France, Germany, England, America, etc., and how it is interpreted. The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of arts and works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of comparative literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to be interested in close surveillance of the related works.

## 【Goal】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept and the method of world-literature studies.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

【Work to be done outside of class】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】 Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end test: 50%, an assignment and in-class contribution: 50%

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(1) A

[2年L組]

畑 和樹

授業コード：A2826 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は段階的な執筆活動を通じて、履修者の英語ライティング力を養う。履修者は、教材を基にした活動を通じてパラグラフ・ライティングの基本事項を学び、理解した内容を各々のエッセイにおいて実践することで、一貫性および論理性を持った英文を様々な形式に沿って執筆できるようになる。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。

### 【到達目標】

本科目は履修者に対し、英文ライティングにおける以下の目標を設定する。  
a) くだけた表現を避けて形式的な文章を使い続けることができる。  
b) 授業で扱う文法を駆使して、ある程度正確な表現をすることができる。  
c) パラグラフを意識して、一貫性のある文章を構成することができる。  
d) 主張や背景がはっきりした「導入」を構成することができる。  
e) 指定された形式を保ちながら、一貫性をもつ文章を構成することができる。  
f) Oxford 2000 で示された単語を、適宜適切に使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本科目は対話型の演習を多く取り入れる。教科書の活動は、原則としてペア・グループワークにおいて主体的に解決することが求められる。如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修者による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修者の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜、授業内、オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ                                  | 内容                                                                                            |
|----|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 導入                                   | 科目説明/アカデミック・ライティングの基本解説                                                                       |
| 2  | Sentence and paragraph formation (1) | Paragraph organisation (topic/supporting/concluding sentences)                                |
| 3  | Sentence and paragraph formation (1) | Simple sentence structure; Capitalisation and end punctuation; Fragments and run-on sentences |
| 4  | Description (1)                      | Descriptive organisation                                                                      |
| 5  | Description (2)                      | Specific language; Adjectives in descriptive writing; "Be" to define and descriptive          |
| 6  | Example (1)                          | Examples as supporting details                                                                |
| 7  | Example (2)                          | The simple present; Subject-verb agreement                                                    |
| 8  | Process (1)                          | Process organisation                                                                          |
| 9  | Process (2)                          | Time-ordering words; Imperatives; Modals of advice, necessity, and prohibition                |
| 10 | Narrative (1)                        | Sensory and emotional details                                                                 |
| 11 | Narrative (2)                        | Order of events; The simple past; The past continuous                                         |
| 12 | Opinion (1)                          | Reasons to support an opinion                                                                 |
| 13 | Opinion (2)                          | "There is/are" to introduce facts; "Because of" and "because" to give reasons                 |
| 14 | Wrap-up                              | エッセイの最終提出およびフィードバック                                                                           |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習：履修者は事前に示された箇所を授業前に終わらせること。特に「文法事項」の多くは予習課題として課される。

復習：既習内容をもう一度見直すこと。また、各週において出された執筆課題を授業内演習の時間だけで完成させることは難しい。定期的にエッセイの加筆・修正を行うこと。

※ 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

Savage, A. & Shafiei, M. 2021. < u> Effective Academic Writing 1 < /u > (2nd ed). Oxford University Press. ISBN: 9780194323468 (必ず初回授業までに購入しておくこと)

### 【参考書】

ハンドアウトを適宜配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

最終エッセイ：50%

課題：35%

授業貢献度：15%

毎週、学生を指名して質疑を行い議論を促進させるが、指名されていない学生による積極的貢献を期待する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業形式(対面・遠隔)が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンもしくはタブレット (Microsoft Word 必須)

※スマートフォンは不可

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習(総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内(4月初頭)にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【None】

None

### 【Outline (in English)】

This course aims to enhance students' prospects for writing essays through step-by-step writing activities. In this module, the students will be provided opportunities to utilise or apply what has been learnt in other modules. In the 14 weeks, the students will be engaged in a series of activities and practices, in which they can apply understanding of several writing styles to construct a coherent paragraph on given topics. The final grade for this module will take into account grades awarded on all assignments and active engagement.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(1) B

[2年L組]

畑 和樹

授業コード：A2827 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は履修者の英語ライティング力を養う。履修者は、教材を基にした活動を通じてアカデミック・ライティングの基本事項を学び、理解した内容に基づいて、一貫性および論理性を持ったショートエッセイを形式に沿って執筆できるようにする。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。

## 【到達目標】

本科目は履修者に対し、以下の目標を設定する。

- ・くだけた表現と形式的 (アカデミック) な文章を判別し、使い分けができる。
- ・意味の逸脱のない程度で「文法のおよび語用的」に正しい文章が書ける。
- ・「主張」のはっきりしたパラグラフの構築ができる。
- ・パラグラフ内で「主張の裏付け・論拠」を示すことができる。
- ・各パラグラフの繋がりを意識し、「一貫性を持った」エッセイを書くことができる。
- ・本科目で扱うエッセイの各スタイルの違いを理解し、自らのエッセイに応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本科目は対話型の授業となる。各授業の初めに担当教員が講義を行い、扱う単元に関する基本項目や概念を説明する。原則、説明は板書を用いて行う。その後、教材を用いて演習を行うことで、理解の向上や強化および実践を図る。如何なる問いに対しても、担当教員が一時的に答えを示すことはせず、まず履修者による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修者の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ                            | 内容                                                                                                                                          |
|----|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 導入                             | 科目説明 / アカデミック・ライティングの基本解説                                                                                                                   |
| 2  | Paragraph to short essay (1)   | Paragraph structure; Unity and coherence in short-essay organisation                                                                        |
| 3  | Paragraph to short essay (2)   | Simple and compound sentences; Run-on sentences; Dependent clauses                                                                          |
| 4  | Descriptive essay (1)          | Descriptive organisation                                                                                                                    |
| 5  | Descriptive essay (2)          | Details in sentences (Prepositional phrases; Similes and simile structure; Adjectives in description)                                       |
| 6  | Narrative essays (1)           | Narrative organisation                                                                                                                      |
| 7  | Narrative essays (2)           | Details in essays (Sequences in narratives; Subordinating conjunctions; The past continuous and past-time clauses: Simultaneous activities) |
| 8  | Comparison-contrast essays (1) | Comparison-contrast organisation                                                                                                            |
| 9  | Comparison-contrast essays (2) | Comparison and contrast connectors; Comparatives in sentences and paragraphs                                                                |
| 10 | Opinion essays (1)             | Opinions and facts; Counter-argument and refutation                                                                                         |
| 11 | Opinion essays (2)             | Quantity expressions; Connectors to show support and oppositions                                                                            |
| 12 | Cause-and-effect essays (1)    | Cause-and-effect and Clustering information                                                                                                 |
| 13 | Cause-and-effect essays (2)    | Phrasal verbs; The future with "will", "if"-clauses and "so that"                                                                           |
| 14 | Wrap-up                        | 各単元のまとめ、および実践への応用性                                                                                                                          |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：履修者は、シラバスにて示された教材 (下記参照) の該当箇所を「授業前に」終わらせること。場合により予習箇所を限定することがあるが、その際は前週の授業内で告知する。

復習：配布資料 (授業で使用したスライドや追加資料) を見直し、該当箇所をもう一度見直すこと。

※ 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

Savage, A. & Mayer, P. 2021. < u > Effective Academic Writing 2 < /u > (2nd ed). Oxford University Press. ISBN: 9780194323475 (履修者は、必ず初回までに教科書を購入すること)

## 【参考書】

Hewings, M., & McCarthy, M. (2012). *Cambridge academic English B2 upper intermediate student's book: An integrated skills course for EAP*. Cambridge: Cambridge University Press.

購入不要

## 【成績評価の方法と基準】

最終エッセイ：50%

課題：35%

授業貢献度：15%

毎週、学生を指名して質疑を行い議論を促進させるが、指名されていない学生による積極的貢献を期待する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業形式 (対面・遠隔) が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンもしくはタブレット (Microsoft Word 必須)

※スマートフォンは不可

## 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【None】

None

【Outline (in English)】

This module aims to cultivate competence for short-essay writing through practical activities. Students will be provided solid understanding of key aspects of academic writing alongside with other common academic practices; including general language and critical thinking skills. The final grade for this module will take into account grades awarded on all assignments and active engagement.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(2) A

[2年M組]

安藤 和弘

授業コード：A2828 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとするが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの授業では段階的に学び、学期末までに各自のモデル・レポートを完成させる。

### 【到達目標】

学生が学術英語の文章作法を身につけ、大学学部レベルで求められる英文レポートを、しっかりとした構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。フィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                                                |
|------|--------------------|---------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション          | 授業の説明                                             |
| 第2回  | 主題の設定とリサーチのしかた     | Topics; Research                                  |
| 第3回  | 議論の柱の設定            | The Beginning Thesis Statement                    |
| 第4回  | レポート全体の構成          | The Working Outline                               |
| 第5回  | 議論の柱と全体の構成の統合的な見直し | Revising the Thesis Statement and Working Outline |
| 第6回  | 実際にレポートを書くにあたって    | Writing the First Draft                           |
| 第7回  | タイトルと序の部分の書きかた     | Writing the Title; Writing the Introduction       |
| 第8回  | 本体部分の書きかた          | Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body    |
| 第9回  | 結論部分の書きかた          | Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism       |
| 第10回 | 書き直しを行う上での注意点      | Evaluating and Rewriting                          |
| 第11回 | 学生間での意見交換と初稿の完成    | Draft 1 (Peer Reading 1)                          |
| 第12回 | 学生間での意見交換と第二稿の完成   | Draft 2 (Peer Reading 2)                          |
| 第13回 | 決定稿の完成             | Draft 3 (Conferencing)                            |
| 第14回 | 総括                 | この学期、何を学習したのかの確認                                  |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとっておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ3時間、1時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

David E. Kluge, Matthew A. Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが40%、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが20%、学期末に提出する完成版レポートが40%の比率で総合評価。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が互いに意見交換をする時間を十分に設ける。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業が行われる回は、Zoomセッション参加に必要な端末 (PCなど)を準備し、通信環境を整えておくこと。携帯電話での受講は、原則、認めない。

### 【その他の重要事項】

学生が作成した英文についてグループで意見交換を行うが、作成した構成プラン、書いた英文、参照したさまざまなオンライン・リソースなどをグループ全員に効率良く提示するには、ICTを活用するオンライン授業の実施が望ましい。対面授業とオンライン授業それぞれの特性を相補的に活かすため、第4回から第11回まではオンライン授業を隔週で行う。グループで意見交換を行いながらレポート全体の見直しと評価を行う学期末の3回は、限られた授業時間内で高密度、高い効率で学習することが求められるため、オンラインで授業を実施する。

### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term. Every week, during the session, students make concrete plans for improving their work in progress, making sure that they know what they need to do to prepare for the next week's session. Every week, in preparation for the next session, students execute the plans made during the session in actual writing with the aid of designated Units of the textbook. Grading criteria: weekly preparation for and participation in in-class activities 40%, mid-term report 20%, and end-of-term paper 40%.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(2) B

[2年M組]

安藤 和弘

授業コード：A2829 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとするが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの授業では段階的に学び、学期末までに各自のモデル・レポートを完成させる。

### 【到達目標】

学生が学術英語の文章作法を身につけ、大学学部レベルで求められる英文レポートを、しっかりとした構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。教材は春学期と同じだが、学生は春学期とは違う話題を選び、春学期に学んだことを活かしてより高いレベルで学習をする。フィードバックは授業時間内に行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                      | 内容                                                |
|------|------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                                | 授業の説明                                             |
| 第2回  | レポートにふさわしい<br>主題の選択、及びリサーチの手順            | Topics; Research                                  |
| 第3回  | 説得力がある議論を組み立てる方法                         | The Beginning Thesis Statement                    |
| 第4回  | レポートに取り込む事項の選択と、議論の枠組みの設定                | The Working Outline                               |
| 第5回  | 議論の柱とレポートの構成要素を有機的に統合し、筋がとおったレポートの全体像を作る | Revising the Thesis Statement and Working Outline |
| 第6回  | レポート本体部分を書く際のルールと注意点                     | Writing the First Draft                           |
| 第7回  | レポートにふさわしいタイトルの設定、及び序の部分を書く際の注意事項        | Writing the Title; Writing the Introduction       |
| 第8回  | 本体部分を書く際に重要な事項、特に情報の精確さと客観性の担保           | Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body    |
| 第9回  | 結論部分を書く際の注意事項、特に序の部分との整合性                | Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism       |
| 第10回 | 学生どうしでの意見交換のしかた、それに基づくレポート見直しの手順         | Evaluating and Rewriting                          |
| 第11回 | 学生間での意見交換、特に議論の柱とレポート全体の構成を見直す           | Draft 1 (Peer Reading 1)                          |
| 第12回 | 学生間での意見交換、特にアカデミックな表現が使われているかの確認         | Draft 2 (Peer Reading 2)                          |
| 第13回 | 学生間での意見交換、特に不備がある箇所の修正を漏れなく行う            | Draft 3 (Conferencing)                            |
| 第14回 | 総括                                       | この学期、何を学習したのかの確認                                  |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとっておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ3時間、1時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

David E. Kluge, Matthew A. Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが40%、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが20%、学期末に提出する完成版レポートが40%の比率で総合評価。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が互いに意見交換をする時間を十分に設ける。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業が行われる回は、Zoomセッション参加に必要な端末 (PCなど) を準備し、通信環境を整えておくこと。携帯電話での受講は、原則、認めない。

### 【その他の重要事項】

学生が作成した英文についてグループで意見交換を行うが、作成した構成プラン、書いた英文、参照したさまざまなオンライン・リソースなどをグループ全員に効率良く提示するには、ICTを活用するオンライン授業の実施が望ましい。対面授業とオンライン授業それぞれの特性を相補的に活かすため、第4回から第11回まではオンライン授業を隔週で行う。グループで意見交換を行いながらレポート全体の見直しと評価を行う学期末の3回は、限られた授業時間内で高密度、高い効率で学習することが求められるため、オンラインで授業を実施する。

### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。これらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term. Every week, during the session, students make concrete plans for improving their work in progress, making sure that they know what they need to do to prepare for the next week's session. Every week, in preparation for the next session, students execute the plans made during the session in actual writing with the aid of designated Units of the textbook. Grading criteria: weekly preparation for and participation in in-class activities 40%, mid-term report 20%, and end-of-term paper 40%.



BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(3) A

[2年N組]

JAMES O ESSEX

授業コード：A2830 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このコースでは、「意見」、「過程」、「説明」などの典型的な大学パラグラフのジャンルを学びます。

コース終了時には、トピック・センテンス、テーゼ・センテンス、サポーティング・センテンスなど、さまざまなパラグラフの構成要素について幅広い知識を得ることができます。また、様々なジャンルの英文パラグラフを自信を持って書けるようになります。

### 【到達目標】

Ultimately, the goal of this course is to make students more confident and competent writers in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

The professor will provide a mix of lecture-style and workshop classes. Feedback will be provided face-to-face or through Hoppii.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                                                                | 内容                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | Introduction to the course<br>Unit 1 Part 1                                        | Elements of Great Writing (1)<br>What is a Paragraph?<br>Grammar: Simple Present for General Facts<br>Four Features of a Good Paragraph<br>Mechanics: Capitalization and End Punctuation<br>Grammar: Subject-Verb Agreement in the Simple Present |
| 第2回 | Unit 1 Part 2                                                                      | Building Better Vocabulary<br>Building Better Sentences<br>Writing Practice<br>Test Prep                                                                                                                                                          |
| 第3回 | Unit 2 Part 1                                                                      | Elements of Great Writing (2)<br>What is Brainstorming?<br>Brainstorming Ideas with Others<br>How Brainstorming Works<br>Grammar: Descriptive Adjectives Adjectives with More Exact Meanings<br>Grammar: Simple vs Compound Sentences<br>Titles   |
| 第4回 | Unit 2 Part 2                                                                      | Building Better Vocabulary<br>Building Better Sentences<br>Writing Practice<br>Test Prep                                                                                                                                                          |
| 第5回 | Unit 3 Part 1                                                                      | What is a Topic Sentence?<br>Features of a Topic Sentence<br>Grammar: Complex Sentences<br>Mechanics: Commas                                                                                                                                      |
| 第6回 | Unit 3 Part 2                                                                      | Building Better Vocabulary<br>Building Better Sentences<br>Writing Practice<br>Test Prep                                                                                                                                                          |
| 第7回 | Mid-Term Test (Parts 1 and 2) and consolidation of knowledge at the mid-way point. | Part 1: Paper-based test<br>Part 2: Timed Writing Assignment                                                                                                                                                                                      |

第8回 Mid-Term Test Feedback  
Unit 4 Part 1

Tests will be returned.  
What are Supporting Sentences?  
What do Supporting Sentences Do?  
Avoiding Unrelated Information  
Using Pronouns in Place of Key Nouns  
Grammar: Avoiding Fragments  
Grammar: Avoiding Run-Ons and Comma Splices

第9回 Unit 4 Part 2

What Is a Concluding Sentence?  
Building Better Vocabulary  
Building Better Sentences  
Writing Practice  
Test Prep

第10回 Unit 5 Part 1

Four Features of a Good Paragraph: Review  
Mechanics: Review  
Maintaining Paragraph Unity  
Grammar: Articles

第11回 Unit 5 Part 2

Building Better Vocabulary  
Building Better Sentences  
Writing Practice  
Test Prep

第12回 Unit 6 Part 1

What is a Definition Paragraph?  
Citing Exact Words from a Resource  
Grammar: Adjective Clauses  
Grammar: Sentence Variety

第13回 Unit 6 Part 2

Building Better Vocabulary  
Building Better Sentences  
Writing Practice  
Test Prep

第14回 Final Test (Parts 1 and 2) and consolidation of knowledge at the end of the course.

Part 1: Paper-based test  
Part 2: Timed Writing Assignment

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned every week, and students are expected to spend a minimum of four hours/week on this. This homework will both help to prepare students for the subsequent lesson and help them to consolidate their knowledge and understanding of the previous lesson. In addition, students are expected to review their class notes each week.

【テキスト (教科書)】

ISBN: 9780357020838

Title: Great Writing 2 (Great Paragraphs) Fifth Edition

Publisher: Cengage/National Geographic Learning

【参考書】

Additional documents/resources will be provided in the first lesson. These references will be used frequently.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 10%

Mid-Term Test: Part 1:20%, Part 2: 25% \*

Final Test: Part 1: 20%, Part 2: 25% \*

Part 1 = Traditional Paper-based Test

Part 2 = Timed Writing Assignment

【学生の意見等からの気づき】

From this year, the class has been overhauled following student feedback. The textbook and material are not only more appropriate, but more conducive to helping students meet the aims and goals of the class.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook and pen for class notes

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Quite simply, this course exposes students to the typical college paragraph genres such as "opinion", "process" and "description", among others.

By the end of the course, students will have gained a broader knowledge of the components of different paragraphs such as topic sentences, thesis statements and supporting sentences. In addition, students will be more confident in, and better able to write English-language paragraphs in a range of genres.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(3) B

[2年N組]

JAMES O ESSEX

授業コード：A2831 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このコースでは、「意見」、「過程」、「説明」などの典型的な大学パラグラフのジャンルを学びます。コース終了時には、トピック・センテンス、テーゼ・センテンス、サポーティング・センテンスなど、さまざまなパラグラフの構成要素について幅広い知識を得ることができます。また、様々なジャンルの英文パラグラフを自信を持って書けるようになります。

### 【到達目標】

This course builds on Writing 3 (A). Ultimately, the goal of this course is to make students more confident and competent writers in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

The professor will provide a mix of lecture-style and workshop classes. Feedback will be provided face-to-face or through Hoppii.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                                                              | 内容                                                                                                                                                                   |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the Course<br>Unit 7 Part 1                                                      | What Is a Process Paragraph?<br>Sequencing and Chronological Ordering                                                                                                |
| 第2回  | Unit 7 Part 2                                                                                    | Grammar: The Imperative<br>Building Better Vocabulary<br>Building Better Sentences<br>Writing Practice<br>Test Prep                                                  |
| 第3回  | Unit 8 Part 1                                                                                    | What Is an Opinion Paragraph?<br>Fact and Opinion<br>Topic Sentences for Opinion Paragraphs<br>Grammar: Common Suffixes<br>Developing Ideas for an Opinion Paragraph |
| 第4回  | Unit 8 Part 2                                                                                    | Building Better Vocabulary<br>Building Better Sentences<br>Writing Practice<br>Test Prep                                                                             |
| 第5回  | Unit 9 Part 1                                                                                    | What Is a Narrative Paragraph?<br>Parts of a Narrative Paragraph<br>Using Descriptive Language to Improve a Narrative<br>Grammar: Simple Past and Past Progressive   |
| 第6回  | Unit 9 Part 2                                                                                    | Building Better Vocabulary<br>Building Better Sentences<br>Writing Practice<br>Test Prep                                                                             |
| 第7回  | Mid-Term Test (Parts 1 and 2) and consolidation of knowledge at the mid-way point of the course. | Part 1: Paper-based test<br>Part 2: Timed Writing Assignment                                                                                                         |
| 第8回  | Mid-Term Test Feedback<br>Unit 10 Part 1                                                         | Tests will be returned.<br>What is an Essay?<br>An Essay Outline<br>The Introduction Paragraph                                                                       |
| 第9回  | Unit 10 Part 2                                                                                   | Body Paragraphs<br>The Concluding Paragraph                                                                                                                          |
| 第10回 | Unit 10 Part 3                                                                                   | Different Kinds of Essay<br>Organization<br>Using a Hook to Improve Your Essay                                                                                       |
| 第11回 | Unit 11 Part 4                                                                                   | Building Better Vocabulary<br>Building Better Sentences<br>Writing Practice<br>Test Prep                                                                             |

|      |                                                                                     |                                                              |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第12回 | Review                                                                              | Units 7-10 will be reviewed.                                 |
| 第13回 | Final Test (Parts 1 and 2) and consolidation of knowledge at the end of the course. | Part 1: Paper-based test<br>Part 2: Timed Writing Assignment |
| 第14回 | Final Test Feedback                                                                 | Tests will be returned.                                      |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned every week, and students are expected to spend a minimum of four hours/week on this. This homework will both help to prepare students for the subsequent lesson and help them to consolidate their knowledge and understanding of the previous lesson. In addition, students are expected to review their class notes each week.

### 【テキスト (教科書)】

Same as spring semester:

ISBN: 9780357020838

Title: Great Writing 2 (Great Paragraphs) Fifth Edition

Publisher: Cengage/National Geographic Learning

### 【参考書】

Additional documents/resources will be provided in the first lesson. These references will be used frequently

### 【成績評価の方法と基準】

Participation: 10%

Mid-Term Test: Part 1: 20%, Part 2: 25% \*

Final Test: Part 1: 20%, Part 2: 25% \*

Part 1 = Traditional Paper-based Test

Part 2 = Timed Writing Assignment

### 【学生の意見等からの気づき】

From this year, the class has been overhauled following student feedback. The textbook and material are not only more appropriate, but more conducive to helping students meet the aims and goals of the class.

### 【学生が準備すべき機器他】

Notebook and pen for class notes

### 【その他の重要事項】

#### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

Quite simply, this course exposes students to the typical college paragraph genres such as "opinion", "process" and "description", among others.

By the end of the course, students will have gained a broader knowledge of the components of different paragraphs such as topic sentences, thesis statements and supporting sentences. In addition, students will be more confident in, and better able to write English-language paragraphs in a range of genres.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(5) A

杉 亜希子

授業コード：A2834 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるためのパラグラフ構成を学び、その後エッセイへと発展させる。

注) 英語表現演習 (Writing)(5)B と併せて受講することが望ましい。

## 【到達目標】

Through understanding each model paragraph/essay, you will

- ・ Be able to recognize and identify key structures
- ・ Learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
- ・ Get used to editing and improving your writing
- ・ Apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing

論文の基本構成要素とその論理性を理解し、学生のレポート作成の基礎となる Paragraph や Essay の構造とスタイルをマスターしていく。授業の中で段階を踏みながら各自で選択したトピックに基づくライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足箇所を指摘・提案しあうことで、互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Acquiring the idea of what an English paragraph should be like, you will improve skills to write your own work.

- 1) In each unit you will first internalize the essential writing process following the guidance (such as a reading about the topic; vocabulary building exercise) given in the text.
- 2) You will then gather ideas, organize an outline, draft, revise, edit and submit the final draft.

- ・ Preparation for each class will be a must
- ・ Active and cooperative performance in every class from each student is fully expected
- ・ Late submission of the assessed work will NOT be accepted

論文の基本構成とその論理的展開を理解し、レポート作成の基礎となる paragraph のスタイルをマスターし、その後 essay へと発展させていく。英語で書かれている教科書を使い、予習していることを前提に授業をすすめる。フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」やメールを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                           | 内容                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Guidance                                                      | General briefing                                                                               |
| 第2回  | Unit 1: Paragraphs                                            | Understand paragraphs and topic sentences                                                      |
| 第3回  | Unit 1: Paragraphs                                            | Understand paragraph structure (Supporting sentences)                                          |
| 第4回  | Unit 1: Paragraphs                                            | Understand paragraph structure (Concluding sentences) and features of a well-written paragraph |
| 第5回  | Unit 1: Paragraphs                                            | Write a paragraph; peer-edit and revise your paragraph                                         |
| 第6回  | Unit 2: Features of Good Writing                              | Understand purpose, audience, and clarity                                                      |
| 第7回  | Unit 2: Features of Good Writing                              | Understand clarity, unity and coherence                                                        |
| 第8回  | Unit 2: Features of Good Writing                              | Write a paragraph; proofreading                                                                |
| 第9回  | Unit 2: Features of Good Writing                              | Peer-edit and revise your paragraph                                                            |
| 第10回 | Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay | Understand the essay structure (Introductory paragraph)                                        |
| 第11回 | Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay | Understand classification essays; use of subject adjective clauses;                            |

|      |                                                               |                                                                        |
|------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 第12回 | Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay | Understand the writing process                                         |
| 第13回 | Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay | Brainstorm and outline for your five-paragraph essay; write your essay |
| 第14回 | Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay | Proofread your draft; peer-edit                                        |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

At each class, you are expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

模範となるパラグラフやエッセイは、内容を理解し問題を解くだけにとどまらず、その構成スタイルを把握し自分のライティングに役立てていく。フィードバックされた提出物も再度見直すこと。

本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

Keith S. Folse, et al., *Great Writing, Level 3 - From Great Paragraphs to Great Essays* (National Geographic Learning, a Cengage Learning company, 2020, ¥3,640+税)

## 【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の積極的な利用を推奨する。

Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>  
<http://www.merriam-webster.com/>  
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>  
 Britannica: [www.britannica.com](http://www.britannica.com)

## 【成績評価の方法と基準】

① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit

② 30% by active participation in each class

注1) 出席が7割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注2) Unitごとに提出する Assessed Work と、授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価となる。各センテンスの意味が通じているかだけでなく、各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各 paragraph/essay の構成がロジックに沿ったものかを評価する

## 【学生の意見等からの気づき】

Writing には絶対的な「答え」はありません。自分の主張したいこと、言いたいことは何か、そしてそれを如何に読者に伝えられるか、ここが評価の軸となります。

受講者が「英語で長い文章を書くのが億劫でしたが書き方を学んだことで前向きになった」と感じた様に、まず英語の「文章の構成」を理解することから始めます。その後テーマに沿ってドラフトの骨格となる「話の流れ」をしっかり考えてからドラフト作成に入ります。

基本的に書く作業は一人で行いますが、ドラフトを誰かと読みあい評価するペアまたはグループ・ワークでは、活発に意見を申しあうことでお互いを高められる利点があります。受講者は「自分では気づかない矛盾やあいまいな表現」を指摘され「自分の意図しない文」を避けることでよりわかりやすいエッセイを心がけることで、「自分の主張がある程度の説得力と論理性を持って説明することが出来るようになった」と成長を実感しています。刺激をしようレベルの高いクラスになる時と、静かに自分の作業に徹底するクラスと、年度により違いが出るように授業の雰囲気は皆さん次第で決まります。

## 【学生が準備すべき機器他】

言語の授業なので辞書は必須。授業内でのパソコン使用可。提出物は指示されたフォーマットに沿ってワードで作成し提出 (授業内または授業支援システムより) してもらいます。

## 【その他の重要事項】

## 《重要》

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

## 【Outline (in English)】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

## &lt; Learning Objectives &gt;

Through understanding each model paragraph/essay,

- ・ You will be able to recognize and identify key structures
- ・ You will learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)

- You will get used to editing and improving your writing
- You will be able to apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing

< Learning activities outside of classroom >

At each class, you are expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

< Grading Criteria /Policy >

- ① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit
- ② 30% by active participation in each class

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(5) B

杉 亜希子

授業コード：A2835 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

春学期に学んだパラグラフから発展し、様々なテーマで essay を書いていく。論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるための English essay の構成を学ぶ。

注) 英語表現演習 (Writing)(5)A と併せて受講することが望ましい。

## 【到達目標】

Through understanding each model essay, you will

- be able to recognize and identify key structures
- learn how to gather ideas and organize them into groups (=outlining)
- get used to editing and improving your writing
- apply the structures to your own essay writing and produce formal/academic writing

論文を持つ基本構成要素とその論理性を理解し、大学や社会に出る時に必要となる英文の essay スタイルをマスターしていく。各自で選択したトピックでライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足箇所を指摘・提案しあうことで互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

In each unit you will gather ideas, organize an outline, draft, revise, edit and submit the final draft.

- Preparation for each class will be a must
  - Active and cooperative performance in every class activity from each student is fully expected
  - Late submission of the assessed work will NOT be accepted
- 前期にマスターしたパラグラフから発展し英文エッセイの書き方を学んでいく。

\* Topics are subject to change

フィードバックは、課題提出後に授業内または授業支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                             | 内容                                             |
|------|---------------------------------|------------------------------------------------|
| 第1回  | Reviewing                       | General briefing; reviewing essay structures   |
| 第2回  | Unit 5: Cause-Effect Essays     | Understand cause-effect essays; brainstorm     |
| 第3回  | Unit 5: Cause-Effect Essays     | Develop an outline                             |
| 第4回  | Unit 5: Cause-Effect Essays     | Write your draft                               |
| 第5回  | Unit 5: Cause-Effect Essays     | Peer-edit and finish the final draft           |
| 第6回  | Unit 7: Comparison Essay        | Understand comparison essays; brainstorm       |
| 第7回  | Unit 7: Comparison Essay        | Develop an outline                             |
| 第8回  | Unit 7: Comparison Essay        | Write your draft                               |
| 第9回  | Unit 7: Comparison Essay        | Peer-edit and finish the final draft           |
| 第10回 | Unit 8: Problem-Solution Essays | Understand problem-solution essays; brainstorm |
| 第11回 | Unit 8: Problem-Solution Essays | Develop an outline                             |
| 第12回 | Unit 8: Problem-Solution Essays | Write your draft                               |
| 第13回 | Unit 8: Problem-Solution Essays | Peer-edit and finish the final draft           |
| 第14回 | Final Timed Writing             | Timed writing                                  |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

At each class, you are expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

模範となるエッセイは、内容を理解し問題を解くだけにとどまらず、その構成を把握し、自分のライティングに役立てていく。フィードバックされた提出物も再度見直すこと。

本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

春学期と同様に、Keith S. Folse, et al., *Great Writing, Level 3 - From Great Paragraphs to Great Essays* (National Geographic Learning, a Cengage Learning company, 2020, ¥3,640+税)

## 【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の積極的な利用を推奨する。

Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: [www.britannica.com](http://www.britannica.com)

## 【成績評価の方法と基準】

① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit

② 30% by active participation in each class

注1) 出席が7割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注2) Unit ごとに提出する Assessed Work と、授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価となる。各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各 Essay の構成が論理的かを評価する

## 【学生の意見等からの気づき】

Writing には「答」はありません。自分の主張したいことを明確にしているか、それを如何に読者に伝え、自分にしか書けない Essay になっているかが評価の軸となります。

受講生が「英語で長い文章を書くのが億劫でしたが書き方を学んだことで前向きになれた」と感じた様に、まずは英語の「文章の構成」を理解することから始めます。その後テーマに沿ってドラフトの骨格となる Outline をしっかり練りドラフト作成に入ります。

書いたドラフトを仲間と読みあい評価しあう Peer-editing の作業で、活発に意見を出し不明点を指摘し相談しあえるグループがお互いを高めていきます。受講生は「自分では気づかない矛盾やあいまいな表現」を仲間に指摘され「自分の意図しない文」を避けることでよりわかりやすい文章を心がけることで、「自分の主張をある程度の説得力と論理性を持って説明することが出来るようになった」と成長を実感しています。

積極的に授業やグループ作業に参加し、人に刺激を与え、人から学べる姿勢を身につけていってください。

## 【学生が準備すべき機器他】

春学期同様、授業内でのパソコン使用可。提出物は指示されたフォーマットに沿ってワードで作成し、授業内又は授業支援システムで提出となります。

## 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

## 【Outline (in English)】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

< Learning Objectives >

- Through understanding each model paragraph/essay,
- You will be able to recognize and identify key structures
- You will learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
- You will get used to editing and improving your writing
- You will be able to apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing

< Learning activities outside of classroom >

At each class, you are expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

< Grading Criteria /Policy >

① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit

② 30% by active participation in each class

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(6)A

高村 遼

授業コード：A2836 | 曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、まず社会的な話題に関しての知識のほか語彙や表現を身につけ、テキストを読んだ後にディスカッションやグループワークを行います。そして、毎回のお題に沿ってライティングを行います。

### 【到達目標】

この学期の終わりには、パラグラフの構成とエッセイの書き方について理解し、広く社会的な話題に関して、自分の意見を英語で発信できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に、学生主体の演習型の授業です。授業内での発表が求められます。課題は、授業内でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                                    | 内容                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction                                                           | Self-introduction                         |
| 第2回  | Cell phones: Can elementary school children handle the responsibility? | Reading                                   |
| 第3回  | Cell phones: Can elementary school children handle the responsibility? | Discussion                                |
| 第4回  | Cell phones: Can elementary school children handle the responsibility? | In-class writing                          |
| 第5回  | Feedback on the essays                                                 | Comparing your essay with your classmates |
| 第6回  | The gender gap: Is it impossible for men and women to communicate?     | Reading                                   |
| 第7回  | The gender gap: Is it impossible for men and women to communicate?     | Discussion                                |
| 第8回  | The gender gap: Is it impossible for men and women to communicate?     | In-class writing                          |
| 第9回  | Feedback on the essays                                                 | Comparing your essay with your classmates |
| 第10回 | Japanese manga and anime: Do they represent real Japanese culture?     | Reading                                   |
| 第11回 | Japanese manga and anime: Do they represent real Japanese culture?     | Discussion                                |
| 第12回 | Japanese manga and anime: Do they represent real Japanese culture?     | In-class writing                          |
| 第13回 | Feedback on the essays                                                 | Comparing your essay with your classmates |
| 第14回 | Wrap up                                                                | Summary of the course                     |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習・復習にそれぞれ2時間を標準とします。授業に来る前にきちんとわからない単語は調べ、自分の考えを毎回持ってきてください。なお、ライティングの時には、辞書・筆記用具は必要。

【テキスト (教科書)】

Debating Current Issues. Toru Nishimoto and Beryl Hawkins. Seibido. 1800 yen. 2010.

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業に対する貢献：30%

クラス内エッセイと期末のエッセイ：70%

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての開講なのでありません。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this class, we will first acquire not only knowledge about social topics but also vocabulary and expressions. After reading the text, we will engage in discussions and group work. Additionally, we will conduct writing exercises based on the topic for each session.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In-class reports and term-end report: 70%, in class contribution: 30%

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(6) B

高村 遼

授業コード：A2837 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、まず社会的な話題に関しての知識のほか語彙や表現を身に付け、テキストを読んだ後にディスカッションやグループワークを行います。そして、毎回のお題に沿ってライティングを行います。

### 【到達目標】

この学期の終わりには、パラグラフの構成とエッセイの書き方について理解し、広く社会的な話題に関して、自分の意見を英語で発信できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に、学生主体の演習型の授業です。授業内での発表が求められます。課題は、授業内でフィードバックいたします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                                  | 内容                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction                                                         | Self-introduction                         |
| 第2回  | The true spirit of the Olympics: Is it gone?                         | Reading                                   |
| 第3回  | The true spirit of the Olympics: Is it gone?                         | Discussion                                |
| 第4回  | The true spirit of the Olympics: Is it gone?                         | In-class writing                          |
| 第5回  | Feedback on the essays                                               | Comparing your essay with your classmates |
| 第6回  | The Internet: Does socializing in cyberspace do more harm than good? | Reading                                   |
| 第7回  | The Internet: Does socializing in cyberspace do more harm than good? | Discussion                                |
| 第8回  | The Internet: Does socializing in cyberspace do more harm than good? | In-class writing                          |
| 第9回  | Feedback on the essays                                               | Comparing your essay with your classmates |
| 第10回 | Health care: Should it be free for everyone?                         | Reading                                   |
| 第11回 | Health care: Should it be free for everyone?                         | Discussion                                |
| 第12回 | Health care: Should it be free for everyone?                         | In-class writing                          |
| 第13回 | Feedback on the essays                                               | Comparing your essay with your classmates |
| 第14回 | Wrap up                                                              | Summary of the course                     |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習・復習にそれぞれ2時間を標準とします。授業に来る前にきちんとわからない単語は調べ、自分の考えを毎回持ってきてください。なお、ライティングの時には、辞書・筆記用具は必要。

### 【テキスト (教科書)】

Debating Current Issues. Toru Nishimoto and Beryl Hawkins. Seibido. 1800 yen. 2010.

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業に対する貢献：30%

クラス内エッセイと期末のエッセイ：70%

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての開講なのでありません。

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

In this class, we will first acquire not only knowledge about social topics but also vocabulary and expressions. After reading the text, we will engage in discussions and group work. Additionally, we will conduct writing exercises based on the topic for each session.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In-class reports and term-end report: 70%, in class contribution: 30%



BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(7) A

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2838 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a pre-intermediate/intermediate course focused on writing skills but also containing reading, aimed at using a CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.

### 【到達目標】

Students are expected to advance both their writing skills and also their reading skills, particularly however extra emphasis will be placed on writing skills.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write increasingly complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to combine paragraphs to form coherent narratives
5. Improve not only their vocabulary but also cultural knowledge

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about each week's topic. The instructor will provide in-class feedback, checking the writing of each student, and advising on and correcting grammar, on an ongoing basis.

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                             | 内容                                                                                                                                                                           |
|-----|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | Course Introduction and Topic: Your Personality | READING 1<br>Right Brain, Left Brain<br>SKILLS The Paragraph   Capitalization<br>Rules   The Title<br>PRACTICE Writing about yourself                                        |
| 第2回 | Your Personality 2                              | READING 2<br>Let's Face It<br>WRITING 2<br>SKILLS Joining Compound Sentences<br>with and, but, or or<br>PRACTICE Writing about another person                                |
| 第3回 | Food 1                                          | READING 1<br>Live a Little: Eat Potatoes!<br>WRITING 1<br>SKILLS The Topic Sentence<br>PRACTICE Writing about food or drink                                                  |
| 第4回 | Food 2                                          | READING 2<br>Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes<br>WRITING 2<br>SKILLS Supporting Sentences   Concluding Sentences<br>PRACTICE Writing about a special food                  |
| 第5回 | Celebrations and Special Days 1                 | READING 1<br>Tihar: Festival of Lights<br>WRITING 1<br>SKILLS Describing a Process   Punctuation: Comma (,) with Items in a Series<br>PRACTICE Writing about a special event |

第6回 Celebrations and Special Days 2

READING 2  
Celebrating a Fifteenth Birthday  
WRITING 2  
SKILLS Main and Dependent Clauses |  
Writing a Dependent Clause with before or after  
PRACTICE Writing about a celebration

第7回 Amazing People 1

READING 1  
Barrington Irving's Dream to Fly  
WRITING 1  
SKILLS Unity | Irrelevant Sentences  
PRACTICE Writing about the qualities of a person or a pet

第8回 Amazing People 2 Writing Test 1

READING 2  
The Fearless Fiennes  
WRITING 2

第9回 Nature Attacks! 1

SKILLS Introducing Examples  
PRACTICE Writing about a person  
Lightning  
WRITING 1  
SKILLS Writing a Narrative Paragraph  
with Time Words | The Comma (,) with Time and Place Expressions  
PRACTICE Writing about a frightening experience

第10回 Nature Attacks! 2

READING 2  
Chasing Storms  
WRITING 2  
SKILLS Introducing Reasons with because  
PRACTICE Writing about dangerous weather

第11回 Inventions 1

READING 1  
The GoPro Camera  
WRITING 1  
SKILLS Introducing Effects with so and therefore  
PRACTICE Writing about an invention

第12回 Inventions 2

READING 2  
What's in a Name?  
WRITING 2  
SKILLS Writing Business Letters  
PRACTICE Writing a business letter

第13回 Customs and Traditions 1

READING 1  
Flowers, Dishes, and Dresses  
WRITING 1  
SKILLS Comparing and Contrasting |  
Showing Contrast with however |  
Showing Similarity with similarly and likewise  
PRACTICE Writing about wedding customs

第14回 Customs and Traditions 2 Writing Test 2

READING 2  
What's in a Name?  
WRITING 2  
SKILLS Writing Business Letters  
PRACTICE Writing a business letter

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

### 【テキスト (教科書)】

Milada Broukal, Weaving It Together 2, 4th Edition, センゲージ ラーニング株式会社  
ISBN: 978-1-305-25165-6

### 【参考書】

Will be supplied by the instructor.

### 【成績評価の方法と基準】

Mid-Semester Exam: 25%  
This will be a timed writing exercise submitted to Manaba  
Final Exam: 25%  
This will be a timed writing exercise submitted to Manaba  
In-Class Performance: 50%

This will be a textbook completion check and review

\*\*\*Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

**【学生の意見等からの気づき】**

No changes have been made since last year.

**【学生が準備すべき機器他】**

Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer. The use of smartphones is strictly prohibited.

**【その他の重要事項】**

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

**【Outline (in English)】**

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(7) B

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2839 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Following on from Writing 7A, this is an intermediate course focused on writing skills but also containing reading, aimed at using a CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.

### 【到達目標】

Students are expected to advance both their writing skills and also their reading skills, particularly however extra emphasis will be placed on writing skills.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write increasingly complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to combine paragraphs to form coherent narratives
5. Improve both their vocabulary and cultural knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about each week's topic. The instructor will provide in-class feedback, checking the writing of each student, and advising on and correcting grammar, on an ongoing basis.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                              | 内容                                                                                                                                                                        |
|-----|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | Course Introduction<br>Symbols 1 | READING 1<br>Color Me Pink<br>WRITING 1<br>SKILLS Paragraph Structure<br>PRACTICE Writing a paragraph about colors                                                        |
| 第2回 | Symbols 2                        | READING 2<br>And the Lucky Number Is . . .<br>WRITING 2<br>SKILLS The Parts of an Essay   The Thesis Statement<br>PRACTICE Writing two body paragraphs about superstition |
| 第3回 | Customs 1                        | READING 1<br>Thanksgiving—Hawaiian Style<br>WRITING 1<br>SKILLS The Introduction<br>PRACTICE Writing an introduction about preparing for an event                         |
| 第4回 | Customs 2                        | READING 2<br>Hop to It!<br>WRITING 2<br>SKILLS The Conclusion<br>PRACTICE Writing an introduction and a conclusion about a custom                                         |
| 第5回 | Mind and Body 1                  | READING 1<br>Personality Revealed<br>WRITING 1<br>SKILLS The Example Essay<br>PRACTICE Writing an example essay about character traits                                    |

第6回 Mind and Body 2

READING 2  
Pets to the Rescue  
WRITING 2  
SKILLS Using such as  
PRACTICE Writing an example essay about keeping healthy

第7回 People Making a Difference 1

READING 1  
Saving Africa's Largest Animals  
WRITING 1  
SKILLS The Descriptive Essay  
PRACTICE Writing a description essay about people

第8回 People Making a Difference 2  
Mid-Term Writing Test

READING 2  
Educating Kenya's Girls  
WRITING 2  
SKILLS The Narrative Essay  
PRACTICE Writing a narrative essay

第9回 Food 1

READING 1  
Sushi Crosses the Pacific  
WRITING 1  
SKILLS The Comparison-and-Contrast Essay—Part I | Comparison and Contrast Words and Phrases | Using while and whereas  
PRACTICE Writing an essay comparing food preparation and eating

第10回 Food 2

READING 2  
What's for Breakfast?  
WRITING 2  
SKILLS The Comparison-and-Contrast Essay—Part II | Using although, even though, and though  
PRACTICE Writing an essay comparing eating customs

第11回 Language 1

Keeping It Secret  
WRITING 1  
SKILLS Writing about Reasons | Introducing Reasons with because and as  
PRACTICE Writing an essay that gives reasons for certain behaviors

第12回 Language 2

READING 2  
English Around the World  
WRITING 2  
SKILLS The Cause-and-Effect Essay | Words That Signal Cause and Effect | Using therefore and consequently  
PRACTICE Writing an essay about the effects of the English language

第13回 Environment 1

READING 1  
Behind Bars at the Zoo  
WRITING 1  
SKILLS The Argument Essay | Relevant Support  
PRACTICE Writing an argument essay about human uses for animals

第14回 Environment 2  
End-of-Term Writing Test

READING 2  
Crops, Codes, and Controversy  
WRITING 2  
SKILLS Using Factual Details to Support Your Opinion  
PRACTICE Writing an argument essay about agricultural practices

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト (教科書)】

Milada Broukal, Weaving It Together 3, 4th Edition,

センゲージ ラーニング株式会社  
ISBN: 978-1-305-25166-3

**【参考書】**

In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, references, etc.

**【成績評価の方法と基準】**

Mid-Semester Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppii

Final Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppii

In-Class Performance: 50%

This will be a textbook completion check and review

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

**【学生の意見等からの気づき】**

No changes have been made since last year.

**【学生が準備すべき機器他】**

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

**【その他の重要事項】**

Students may contact me at paulkallender@gmail.com

When contacting the instructor:

1. Please address me as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Writing)(7) B

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

**【Outline (in English)】**

Building on the English language skills acquired in prior required courses, specifically Writing 7A, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(8) A

田中 裕希

授業コード：A2840 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。春学期は詩が中心。

### 【到達目標】

英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。  
言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに作品を練り直す。創作に入っていくやすいよう、お題を出し既存の文学作品を例として使う。詩を中心に書いていくが、学生の興味に応じて他のジャンルにも挑戦したい。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                                      |
|------|-----------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション       | 授業の説明                                   |
| 第2回  | 翻訳から創作へ         | 日本文学を英訳                                 |
| 第3回  | 英語のリズム          | Theodore Roethke, "My Papa's Waltz"     |
| 第4回  | ワークショップ (1)     | 詩の合評                                    |
| 第5回  | 自分以外の誰かになりきって書く | John Berryman, "Dream Song 14"          |
| 第6回  | ワークショップ (2)     | 詩の合評                                    |
| 第7回  | 絵画をもとに書く        | Anne Sexton, "The Starry Night"         |
| 第8回  | ワークショップ (3)     | 詩の合評                                    |
| 第9回  | 物になりきって書く       | Suji Kwok Kim, "Monologue for an Onion" |
| 第10回 | ワークショップ (4)     | 詩の合評                                    |
| 第11回 | 言葉から連想して書く      | Marina Tsvetaeva, "Poems for Blok"      |
| 第12回 | ワークショップ (5)     | 詩の合評                                    |
| 第13回 | 朗読会             | 朗読会前半                                   |
| 第14回 | 結び              | 朗読会後半、まとめ                               |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

学習支援システムを通じて配布。

### 【参考書】

授業で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

作品群 50%

平常点 (課題、出席、プレゼンテーション、など) 50%

4回以上の欠席で単位取得資格を失う。

### 【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

In this class, students will write both prose and poetry in English and learn to critique one another's work in a workshop format. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on assignments and participation (50%) and the final paper (50%).

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Writing)(8) B

田中 裕希

授業コード：A2841 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。秋学期は散文が中心。

### 【到達目標】

英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。  
言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。ワークショップ形式を軸とし、ディスカッション中心に進めていく。授業内でのフィードバックをもとに作品を練り直す。創作に入っていくやすいよう、お題を出したり既存の文学作品を例として使う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                    |
|------|-------------|---------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション   | 授業の説明                                 |
| 第2回  | 翻訳から創作へ     | 日本文学を英訳                               |
| 第3回  | 散文詩を書く      | Robert Hass, "A Story about the Body" |
| 第4回  | ワークショップ (1) | 作品の合評                                 |
| 第5回  | ショートショートを書く | Grace Paley, "Mother"                 |
| 第6回  | ワークショップ (2) | 作品の合評                                 |
| 第7回  | 風景を描写する     | 短編小説からの例                              |
| 第8回  | ワークショップ (3) | 作品の合評                                 |
| 第9回  | 人物を描写する     | 小説からの例                                |
| 第10回 | ワークショップ (4) | 作品の合評                                 |
| 第11回 | エッセイ        | 他ジャンルへの挑戦                             |
| 第12回 | ワークショップ (5) | 作品の合評                                 |
| 第13回 | 朗読会         | 朗読会前半                                 |
| 第14回 | 結び          | まとめ、朗読会後半                             |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

学習支援システムを通じて配布。

### 【参考書】

授業で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

作品群 50%

平常点 (課題、出席、プレゼンテーション、など) 50%

4回以上の欠席で単位取得資格を失う。

### 【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」「(5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking)」「(5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳)」「(1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」「(1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking)」「(1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

In this class, students will write both prose and poetry in English and learn to critique one another's work in a workshop format. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on assignments and participation (50%) and the final paper (50%).

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

### 英語表現演習(翻訳) (1) A

吉川 純子

授業コード：A2844 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいか、演習を通じてそのコツを学びます。

#### 【到達目標】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、対面で行います。1回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、Ernest Hemingwayの"Cat in the Rain", "Hills Like White Elephants"を複数の翻訳を参照しながら実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの5分程度で日本語の語彙クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容         |
|------|---------------------------|------------|
| 第1回  | イントロダクション                 | オリエンテーション  |
| 第2回  | 辞書について                    | こまめな辞書引き   |
| 第3回  | Hemingway (1)<br>代名詞      | 代名詞の省略     |
| 第4回  | Hemingway (2)<br>形容詞      | 落とし穴が多い    |
| 第5回  | Hemingway (3)<br>補充訳      | 時には必要      |
| 第6回  | Hemingway (4)<br>訳す順番     | 原文の頭から     |
| 第7回  | Hemingway (5)<br>国語力      | 磨こう        |
| 第8回  | Hemingway (6)<br>動詞       | ふくみを見落とさず  |
| 第9回  | Hemingway (7)<br>名詞       | 誤訳はごまかせない  |
| 第10回 | Hemingway (8)<br>助動詞      | 甘く見てはいけない  |
| 第11回 | Hemingway (9)<br>態        | 能動態、受動態の転換 |
| 第12回 | Hemingway (10)<br>品詞転換訳   | その技法       |
| 第13回 | Hemingway (11)<br>訳語がない場合 | 自分で作ろう     |
| 第14回 | Hemingway (12)<br>まとめ     | 到達度確認      |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

金子光茂『英文翻訳上達の秘訣』南雲堂、2009年。1500円+税  
Hemingwayのテキストおよび翻訳は、ウェブにアップします。

#### 【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店1,500円(税別)を薦めます。  
英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度(参加、予習など)30%、試験70%で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「言葉に対して意識的になった」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

#### 【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。予習も必須です。

春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。

\*\*\*\*\*

#### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

\*\*\*\*\*

#### 【Outline (in English)】

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese. Our goal is to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese, paying attention to the nuances of the original text. Also, we are going to acquire the skills in the art of expression in Japanese, paying more attention to grammar and nuances of words. Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%). Preparation and review of each class require 2 hours.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(翻訳) (1) B

吉川 純子

授業コード：A2845 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいか、演習を通じてそのコツを学びます。

### 【到達目標】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は、対面で行います。1回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、O. Henryの"The Last Leaf"を複数の翻訳を参照しながら実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの5分程度で日本語の語彙力クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                         |
|------|--------------------------|----------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                | オリエンテーション                  |
| 第2回  | 英文和訳について<br>O. Henry (1) | 何を日本語に移し換えるのか?             |
| 第3回  | 英文和訳について<br>O. Henry (2) | どこまで訳してよいか?                |
| 第4回  | 代名詞<br>O. Henry (3)      | 代名詞の省略(前期の内容復習を含む)         |
| 第5回  | 所有格<br>O. Henry (4)      | 所有格の省略                     |
| 第6回  | 形容詞<br>O. Henry (5)      | 働きに注意                      |
| 第7回  | 不定詞<br>O. Henry (6)      | 訳の工夫                       |
| 第8回  | 動名詞<br>O. Henry (7)      | 訳し方                        |
| 第9回  | 分詞<br>O. Henry (8)       | 訳し方                        |
| 第10回 | 名詞<br>O. Henry (9)       | 動名詞のように訳す                  |
| 第11回 | 態<br>O. Henry (10)       | 能動態、受動態の転換<br>(前期の内容復習を含む) |
| 第12回 | 前置詞<br>O. Henry (11)     | どう捉えるのか?                   |
| 第13回 | 訳語がない場合<br>O. Henry (12) | 自分で作ろう<br>(前期の内容復習を含む)     |
| 第14回 | まとめ                      | 到達度確認                      |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

矢作三蔵 *Deep Reading* 『読みから訳への要領』開文社、1997年。1600円+税

O. Henryのテキストおよび翻訳は、ウェブで配布します。

### 【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店1,500円(税別)を薦めます。

英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度(参加、予習など)30%、到達度確認70%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「言葉に対して意識的になった」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

### 【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。後期のみの受講はできませんので、注意してください。

\*\*\*\*\*

### 《重要》

「英語表現演習(Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習(Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習(翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習(総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習(Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習(Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

\*\*\*\*\*

### 【Outline (in English)】

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese. Our goal is to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese, paying attention to the nuances of the original text. Also, we are going to acquire the skills in the art of expression in Japanese, paying more attention to grammar and nuances of words. Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%). Preparation and review of each class require 2 hours.



BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(Speaking)(1) A

[2年L組]

杉 亜希子

授業コード：A2846 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

このクラスは英会話のクラスではありません。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高めていきます。

### 【到達目標】

- Through pre-activity and input, you will be able to
- Improve and expand your vocabulary and useful expressions
- Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
- Activate and develop existing English language skills
- Acquire a habit of thinking logically
- Get used to speaking in front of others in English
- Develop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
  - Input: Listening to a model case; understanding the context
  - Output: Making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
  - A purpose of learning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected
  - Instructions will be given primarily in English
- Note: Topics are subject to change.

模範テキストを使用し、発音と重要な表現のインプットを徹底して行います。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用して自分の short speech を発表することで、英語で「自分を表現し人に説明する力」をつけていきます。フィードバックは、課題提出後に授業内又は「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                        | 内容                                                                                            |
|------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Guidance                                   | General briefing                                                                              |
| 第2回  | Greetings<br>My Personality (1)            | Learning expressions for greetings;<br>getting to know your partners;<br>Learning model cases |
| 第3回  | My Personality (2)                         | Reviewing the model cases                                                                     |
| 第4回  | My Personality (3)<br>My Strong Points (1) | Describing yourself to others;<br>Learning model cases                                        |
| 第5回  | My Strong Points (2)                       | Reviewing the model cases                                                                     |
| 第6回  | My Weak Points (3)                         | Learning model cases                                                                          |
| 第7回  | My Weak Points (4)                         | Reviewing the model cases;<br>Describing your strong and weak points to others (Preparation)  |
| 第8回  | Presentation                               | Describing your strong and weak points to others                                              |
| 第9回  | My Hobbies (1)                             | Learning model cases                                                                          |
| 第10回 | My Hobbies (2)                             | Reviewing the model cases;<br>Describing your hobbies (Preparation)                           |
| 第11回 | Final Presentation (Preparation 1)         | Making an outline and writing out your speech                                                 |
| 第12回 | Final Presentation (Preparation 2)         | Editing your draft                                                                            |
| 第13回 | Final Presentation (Preparation 3)         | Final editing; practicing                                                                     |
| 第14回 | Final Presentation                         | Presentation                                                                                  |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected to review out loud the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class. Model casesやpre-activityで習った表現は、声に出して徹底した復唱を心がけ、小テストなどを通して英語表現を自分のものにしていきましょう。スピーチに向けたアウトラインの作成で話の流れを明確にすることで、Draftの校正に時間をかけられるようにしましょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

Handouts will be given. プリントを配布します。

### 【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書を使用して使われ方を再確認する癖をつけましょう。

<http://dictionary.cambridge.org/>  
<http://www.merriam-webster.com/>  
Thesaurus: <http://thesaurus.com/>  
Britannica: [www.britannica.com](http://www.britannica.com)

### 【成績評価の方法と基準】

発表50%、平常点50% (小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程におけるプロセスを重視し、総合的に評価)

注意1：出席が7割未満の場合は単位修得の資格を失います。  
注意2：このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともあります。新しい表現をInputで確実に自分のものにして、vocabularyを豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、これが評価のポイントでもあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

このクラスは自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。

インプットではできるだけ多くの実用的な表現を学び、「フレーズを意識して」徹底的に「声に出して」練習しました。さらに「言い換える」練習を多くしたこと、アウトプットの際に自分の言いたいことを「いかに相手に伝えるか」を考える機会ともなりました。受講生は「スピーチの流れや構成を意識」し原稿を作成することができるようになったと実感したように、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む姿勢」を身につけることができます。

また、「伝えようとする気持ちを忘れてはいけないと思った」とあるように、それまでの「ただ何となく話す」ではなく「聞き手」を意識したコミュニケーションをすることで「相手に伝えるということの本質が理解できた」と思える成功体験を積み重ねていきます。

「他人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じると同時に、他人の発表から学んだことを「次に活かす」など受講者同士が刺激しあうことで、自分の考えを「自信をもって」「堂々と」披露しプレゼンテーションすることができるようになる良い機会でもあります。

この授業の時間を有効に活用し成長できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業内で指示します。

### 【その他の重要事項】

- 適切な理由で欠席を余儀なくされる場合には必ず連絡を入れ (メール [akiko.sugidai@hosei.ac.jp](mailto:akiko.sugidai@hosei.ac.jp))、[根拠となる書類・証拠]を添付してください。「体調不良」という説明だけでは考慮対象になりません。  
また、欠席が考慮されるための代替措置に関して相談が必要です。  
- この授業では口頭練習が多いため、必要に応じて不織布のマスク着用を求めることがあります。

### 《重要》

「英語表現演習 (Writing) 」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking) 」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳) 」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) 」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking) 」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English-speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

### < Learning Objectives >

- Through pre-activity and input, you will be able to
- Improve and expand your vocabulary and useful expressions
- Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
- Activate and develop existing English language skills
- Acquire a habit of thinking logically

-Get used to speaking in front of others in English  
-Develop communicative competence and fluency in English  
< Learning activities outside of classroom >  
You are expected to review out loud the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class.  
< Grading Criteria /Policy >  
Mini-speech 50%; active class participation 50%

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(Speaking)(1) B

[2年L組]

杉 亜希子

授業コード：A2847 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

このクラスは英会話のクラスではありません。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高めていきます。

### 【到達目標】

- Through pre-activity and input, you will be able to
- Improve and expand your vocabulary and useful expressions
- Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
- Activate and develop existing English language skills
- Acquire a habit of thinking logically
- Get used to speaking in front of others in English
- Develop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
  - Input: Listening to a model text; understanding the context
  - Output: Based on the model text, making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
  - A purpose of learning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected
  - Instructions will be given primarily in English
- Note: Topics are subject to change.

模範テキストを使用し、発音と重要な表現のインプットを徹底して行います。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用して自分の short speech を発表することで、英語で「自分を表現し人に説明する力」をつけていきます。フィードバックは、課題提出後に授業内又は「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                  | 内容                                                      |
|------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 第1回  | Guidance                             | General briefing                                        |
| 第2回  | Summer Holiday                       | Talking about your holiday                              |
| 第3回  | Vacations in Tokyo (1)               | Understanding the model case                            |
| 第4回  | Vacations in Tokyo (2)               | Reviewing;<br>Choosing your topic and making an outline |
| 第5回  | Presentation (Preparation 1)         | Writing out your speech and editing your draft          |
| 第6回  | Presentation (Preparation 2)         | Final editing; practicing                               |
| 第7回  | Presentation                         | Describing a place of your choice                       |
| 第8回  | My Opinion on Japanese Education (1) | Learning model cases                                    |
| 第9回  | My Opinion on Japanese Education (2) | Reviewing                                               |
| 第10回 | Final Presentation (Preparation 1)   | Choosing your own topic and outlining                   |
| 第11回 | Final Presentation (Preparation 2)   | Writing out your speech                                 |
| 第12回 | Final Presentation (Preparation 3)   | Editing your draft; practicing                          |
| 第13回 | Final Presentation (1)               | Presentation (1st group)                                |
| 第14回 | Final Presentation (2)               | Presentation (2nd group)                                |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected to review out loud the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class. Model cases や pre-activity で学んだ表現は声に出して徹底した復唱を心がけ、小テストなどを通して英語表現を自分のものにしていきましょう。スピーチに向けたアウトラインの作成で話の流れを明確にすることで、Draft の校正に時間をかけられるようにしましょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

Handouts will be given. プリントを配布します。  
 Note: Topics are subject to change.

### 【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の使用を勧めます  
<http://dictionary.cambridge.org/>  
<http://www.merriam-webster.com/>  
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>  
 Britannica: [www.britannica.com](http://www.britannica.com)

### 【成績評価の方法と基準】

発表50%、平常点50% (提出物、小テスト、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程におけるプロセスを重視し、総合的に評価)

注意1：出席が7割未満の場合は単位修得の資格を失います。  
 注意2：このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともあります。新しい表現を Input で確実に自分のものにして、vocabulary を豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、これが評価のポイントでもあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

このクラスは自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。インプットではできるだけ多くの実用的な表現を学び、「フレーズを意識して」徹底的に「声に出して」練習しました。さらに「言い換える」練習を多くしたこと、アウトプットの際に自分の言いたいことを「いかに相手に伝えるか」を考える機会ともなりました。受講生は「スピーチの流れや構成を意識」し原稿を作成することができるようになったと実感したように、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む姿勢」を身につけることができます。また、「伝えようとする気持ちを忘れてはいけないと思った」とあるように、それまでの「ただ何となく話す」ではなく「聞き手」を意識したコミュニケーションをすることで「相手に伝えるということの本質が理解できた」と思える成功体験を積み重ねていきます。

「他の人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じると同時に、他人の発表から学んだことを「次に活かす」など受講者同士が刺激しあうことで、自分の考えを「自信をもって」「堂々と」披露しプレゼンテーションすることができるようになる良い機会でもあります。

この授業の時間を有効に活用し成長できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

### 【学生が準備すべき機器他】

発表では自分のパソコンやタブレットを使用しスライドを見せるなどプレゼンの工夫を推奨しています。

### 【その他の重要事項】

- 適切な理由で欠席を余儀なくされる場合には必ず連絡を入れ (akiko.sugi4i@hosei.ac.jp)、「根拠となる書類・証拠」を添付してください。「体調不良」という説明だけでは考慮対象とはなりません。
- また、欠席が考慮されるための代替え措置に関して相談が必要です。
- この授業では口頭練習が多いため、必要に応じて不織布のマスク着用を求めることがあります。

### 《重要》

「英語表現演習 (Writing) 」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking) 」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳) 」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) 」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking) 」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English-speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

### < Learning Objectives >

- Through pre-activity and input, you will be able to
- Improve and expand your vocabulary and useful expressions
- Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
- Activate and develop existing English language skills

-Acquire a habit of thinking logically  
-Get used to speaking in front of others in English  
-Develop communicative competence and fluency in English  
< Learning activities outside of classroom >  
You are expected to review out loud the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class.  
< Grading Criteria /Policy >  
Mini-speech 50%; active class participation 50%

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(2) A

[2年M組]

Niall Murtagh

授業コード：A2848 | 曜日・時限：火2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective is to improve speaking skills in English.

### 【到達目標】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Each week, we will read an article from the Internet. Homework will consist of preparing responses to what we have read or discussed the previous week. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                        |
|------|-------------------------------|---------------------------|
| 第1回  | Introduction                  | Course outline            |
| 第2回  | Foundations for communication | Vocabulary improvement    |
| 第3回  | Foundations for comprehension | Common grammatical issues |
| 第4回  | Basic expressions             | Application of strategies |
| 第5回  | Development                   | Conversational examples   |
| 第6回  | Everyday expressions          | Detailed descriptions     |
| 第7回  | Formal expressions            | Detailed descriptions     |
| 第8回  | Examples of everyday topics   | Descriptive phrases       |
| 第9回  | Examples of unusual topics    | Descriptive phrases       |
| 第10回 | Applications of topics        | Expressing opinions       |
| 第11回 | Usage of topics               | Expressing regret         |
| 第12回 | Further development           | Expressing disagreement   |
| 第13回 | Conclusions                   | Summary                   |
| 第14回 | Speeches                      | Topics chosen by students |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation of short presentations and speeches to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

### 【テキスト (教科書)】

We will use websites for text, audio and speaking practice, such as:

<https://storycorps.org/>

<https://learningenglish.voanews.com/>

<https://japantoday.com/>

<https://www.bbc.com/worklife>

### 【参考書】

Internet dictionary, such as:

<https://eow.alc.co.jp/>

### 【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

### 【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

The class will enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on spoken fluency, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

Short presentations and speeches will be made in class.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(2) B

[2年M組]

Niall Murtagh

授業コード：A2849 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective is to improve speaking skills in English.

### 【到達目標】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Each week, we will read an article from the Internet. Homework will consist of preparing responses to what we have read or discussed the previous week. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                        |
|------|-------------------------------|---------------------------|
| 第1回  | Introduction                  | Course outline            |
| 第2回  | Foundations for communication | Vocabulary improvement    |
| 第3回  | Foundations for comprehension | Common grammatical issues |
| 第4回  | Basic expressions             | Application of strategies |
| 第5回  | Development                   | Conversational examples   |
| 第6回  | Everyday expressions          | Detailed descriptions     |
| 第7回  | Formal expressions            | Detailed descriptions     |
| 第8回  | Examples of everyday topics   | Descriptive phrases       |
| 第9回  | Examples of unusual topics    | Descriptive phrases       |
| 第10回 | Applications of topics        | Expressing opinions       |
| 第11回 | Usage of topics               | Expressing regret         |
| 第12回 | Further development           | Expressing disagreement   |
| 第13回 | Conclusions                   | Summary                   |
| 第14回 | Speeches                      | Topics chosen by students |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation of short presentations and speeches to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

### 【テキスト (教科書)】

We will use websites for text, audio and speaking practice, such as:

<https://storycorps.org/>

<https://learningenglish.voanews.com/>

<https://japantoday.com/>

<https://www.bbc.com/worklife>

### 【参考書】

Internet dictionary, such as:

<https://eow.alc.co.jp/>

### 【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

### 【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

The class will enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on spoken fluency, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

Short presentations and speeches will be made in class.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(3) A

[2年N組]

岸山 健

授業コード：A2850 | 曜日・時限：水5/Wed.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

伝えたい内容を英語でプレゼンできるようになることが本授業の目的です。様々な観点からプレゼンを評価できるようになり、調査したことを、自分の能力と時間を十分に使い、聞き手に調査・学習した内容を英語で伝える能力を習得します。最終的に7分程度のプレゼンができるように訓練します。

### 【到達目標】

プレゼンの評価基準 (構成や態度など) を考慮してプレゼンできる。英語のプレゼンに必要な技術 (発音や表現、構成など) を理解する。自分の特徴 (話速や想起できる量、癖など) を測定し運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

短い講義の後、グループワークでの授業内発表をおこないます。グループワークでは各回の到達目標に沿って学生間で評価しあい、指定した基準に従ってフィードバックします。なお、グループワークの人数は徐々に拡大し、最初は複数ですが最後は全体となります。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                           | 内容                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 授業の概要説明、スクリプトの必要性、グループの作成                     | 授業の概要と相互評価の意義と基準 (興味や理解、話速や身振り手振りなど) を共有します。スクリプトの必要性に関する講義の後、十分な準備時間を設け、英語でのグループ内自己紹介 (1分) を通じて、相互評価の基準や方法を実習します。 |
| 第2回  | Unit 1: Getting Started & テーマ決定と原稿作成          | 教科書のワークを進めた後、前回の自己紹介を改善して共有します。また、Unit 2 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。                |
| 第3回  | Unit 2: Getting Started 2 & グループ発表練習          | 教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。                                           |
| 第4回  | 共有会 1                                         | Unit 1 と Unit 2 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。                                                   |
| 第5回  | Unit 3: Making a Good Impression & テーマ決定と原稿作成 | 教科書のワークを進めた後、前回の自己紹介を改善して共有します。また、Unit 4 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。                |
| 第6回  | Unit 4: Making a Good Impression 2 & グループ発表練習 | 教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。                                           |
| 第7回  | 共有会 2 と前半のまとめ                                 | Unit 3 と Unit 4 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。                                                   |
| 第8回  | Unit 5: Making Your Point & テーマ決定と原稿作成        | 教科書のワークを進めた後、Unit 6 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。                                     |
| 第9回  | Unit 6: Making Your Point 2 & グループ発表練習        | 教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。                                           |
| 第10回 | 共有会 3                                         | Unit 5 と Unit 6 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。                                                   |

|      |                                         |                                                                                |
|------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 第11回 | Unit 7: The Visual Story & テーマ決定と原稿作成   | 教科書のワークを進めた後、Unit 9 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。 |
| 第12回 | Unit 8: The Visual Story 2 & グループ発表練習 1 | 教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで相談しながら改善します。図表も準備します。                               |
| 第13回 | Unit 9: The Visual Story 3 & グループ発表練習 2 | 教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。       |
| 第14回 | 共有会 4 と後半のまとめ                           | Unit 7 と Unit 8, Unit 9 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。       |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします (合計4時間)。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

### 【テキスト (教科書)】

教科書名: English Presentations Today アクティビティで学ぶ英語プレゼン術  
出版社: 南雲堂  
ISBN: 9784523178644

### 【参考書】

参考書: Magic of Public Speaking: A Complete System to Become a World Class Speaker  
ISBN: 9781074229108

### 【成績評価の方法と基準】

出席態度50%と授業内発表50%で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

よりプレゼンテーションにおける質疑応答の機会が欲しいという意見があったので、学生間の対話ができるよう調整する。

### 【学生が準備すべき機器他】

ハードにはパソコンやタブレット端末があるとよく、ソフトとしてはスライドやドキュメント編集アプリ、インターネットブラウザがあるとよい。評価シートを保存するクリアファイル等があると良い。

### 【その他の重要事項】

#### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

This class helps students to be able to present in English what they want to tell. They will be able to evaluate presentations from a variety of perspectives and acquire the ability to communicate what they have researched and learned to their audience, using their abilities and time. They will be able to give a 7-minute presentation.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

At the end of the course, students are expected to facilitate presentations in English, conduct research, and improve their own delivery skills.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

#### 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Classroom presentation: 50%, in-class contribution: 50%

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(3) B

[2年N組]

岸山 健

授業コード：A2851 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

伝えたい内容を英語でプレゼンできるようになることが本授業の目的です。様々な観点からプレゼンを評価、改善できるようになり、調査したことを、自分の能力と時間を十分に使い、聞き手に調査・学習した内容を英語で伝える能力を習得します。最終的に10分程度のプレゼンができるように訓練します。

## 【到達目標】

英語のプレゼンを有利にする技術 (質疑応答の予測、回答など) を熟練する。英語での調査 (基本的なサーベイや図表の説明など) を実施できる。自分の特徴 (話速や想起できる量、癖など) を測定し改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義の後、グループワークでの授業内発表をおこないます。グループワークでは各回の到達目標に沿って学生間で評価しあい、指定した基準に従ってフィードバックします。なお、グループワークの人数は徐々に拡大し、最初は複数ですが最後は全体となります。質問などは学習支援システム・授業内で回答します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                           | 内容                                                                              |
|------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 前期の復習と後期の説明、グループの作成                           | 前期で学んだチェックリストを後期でも活用できるよう、復習します。その後、後期最初のグループ分けを実施します。教科書のワークを進めた後、Unit 11      |
| 第2回  | Unit 10: Being Understood & テーマ決定と原稿作成        | の Assignment Ideas からテーマを決めて原稿を作成し、グループで相談しながら原稿を考え、練習します。                      |
| 第3回  | Unit 11: Being Understood 2 & グループ発表練習        | 教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。        |
| 第4回  | 共有会 5a                                        | 練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。                                 |
| 第5回  | 共有会 5b                                        | 練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。                                 |
| 第6回  | Unit 12: Concluding Your Message & テーマ決定と原稿作成 | 教科書のワークを進めた後、Unit 13 の Assignment Ideas からテーマを決めて原稿を作成し、グループで相談しながら原稿を考え、練習します。 |
| 第7回  | Unit 13: Concluding Your Message 2 & グループ発表練習 | 教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。        |
| 第8回  | 共有会 6a                                        | 練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。                                 |
| 第9回  | 共有会 6b                                        | 練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。                                 |
| 第10回 | Unit 14: Taking Questions & グループ発表練習          | 教科書のワークを進めた後、Unit 15 の Assignment Ideas からテーマを決めて原稿を作成し、グループで相談しながら原稿を考え、練習します。 |
| 第11回 | Unit 15: Taking Questions 2 & テーマ決定と原稿作成      | 教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。        |
| 第12回 | 共有会 7a                                        | 練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。                                 |
| 第13回 | 共有会 7b                                        | 練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。                                 |

第14回 後半と一年間のまとめ 一年間で学んできた評価基準などを振り返ります。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします (合計4時間)。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

## 【テキスト (教科書)】

教科書名: English Presentations Today アクティビティで学ぶ英語プレゼン術

出版社: 南雲堂

ISBN: 9784523178644

## 【参考書】

参考書: Magic of Public Speaking: A Complete System to Become a World Class Speaker

ISBN: 9781074229108

## 【成績評価の方法と基準】

出席態度50%と授業内発表50%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

よりプレゼンテーションにおける質疑応答の機会が欲しいという意見があったので、学生間の対話ができるよう調整する。

## 【学生が準備すべき機器他】

ハードにはパソコンやタブレット端末があるとよく、ソフトとしてはスライドやドキュメント編集アプリ、インターネットブラウザがあるとよい。評価シートを保存するクリアファイル等があるとよい。

## 【その他の重要事項】

## 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。これらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

## 【Outline (in English)】

## 【授業の概要 (Course outline)】

This class helps students to be able to present in English what they want to say. They will be able to evaluate and improve presentations from a variety of perspectives and acquire the ability to communicate what they have researched and learned to their audience, using their abilities and time. They will be able to give a 10-minute presentation.

## 【到達目標 (Learning Objectives)】

At the end of the course, students are expected to facilitate presentations in English, conduct research, and improve their own delivery skills.

## 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria / Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Classroom presentation: 50%, in-class contribution: 50%



BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(Speaking)(5) A

Niall Murtagh

授業コード：A2854 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年  
その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective is to improve speaking skills in English.

### 【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on articles from the text book. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Text book articles will be read in class followed by analysis and discussion. Homework will consist of preparing comments on a prescribed topic. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                     | 内容                             |
|------|-----------------------------------------|--------------------------------|
| 第1回  | Introduction                            | Course outline                 |
| 第2回  | Introduction to conversation strategies | Basic ideas                    |
| 第3回  | Development of conversation strategies  | Further ideas                  |
| 第4回  | General topics                          | Conversational styles          |
| 第5回  | Academic topics (1)                     | Application to literary themes |
| 第6回  | Academic topics (2)                     | Application to lifestyle       |
| 第7回  | Modern themes                           | Use of Internet search         |
| 第8回  | News items                              | Japan-based issues             |
| 第9回  | Society                                 | International issues           |
| 第10回 | Political themes                        | Controversial issues           |
| 第11回 | Work-place scenarios                    | Career-based themes            |
| 第12回 | Work-place presentations                | Role playing                   |
| 第13回 | Themes for evaluation                   | Various topics                 |
| 第14回 | Conclusion                              | Summary of course              |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

### 【テキスト (教科書)】

English through the News Media, 2024 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15712-2. ¥1980円  
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

### 【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

### 【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

### 【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

### 【その他の重要事項】

#### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。これらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請してください。  
※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(Speaking)(5) B

Niall Murtagh

授業コード：A2855 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective is to improve speaking skills in English.

### 【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on articles from the text book. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Text book articles will be read in class followed by analysis and discussion. Homework will consist of preparing comments on a prescribed topic. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own.

Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                     | 内容                             |
|------|-----------------------------------------|--------------------------------|
| 第1回  | Introduction                            | Course outline                 |
| 第2回  | Introduction to conversation strategies | Basic ideas                    |
| 第3回  | Development of conversation strategies  | Further ideas                  |
| 第4回  | General topics                          | Conversational styles          |
| 第5回  | Academic topics (1)                     | Application to literary themes |
| 第6回  | Academic topics (2)                     | Application to lifestyle       |
| 第7回  | Modern themes                           | Use of Internet search         |
| 第8回  | News items                              | Japan-based issues             |
| 第9回  | Society                                 | International issues           |
| 第10回 | Political themes                        | Controversial issues           |
| 第11回 | Work-place scenarios                    | Career-based themes            |
| 第12回 | Work-place presentations                | Role playing                   |
| 第13回 | Themes for evaluation                   | Various topics                 |
| 第14回 | Conclusion                              | Summary of course              |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

### 【テキスト (教科書)】

English through the News Media, 2024 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15712-2. ¥1980円  
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

### 【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

### 【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

### 【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

### 【その他の重要事項】

#### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。これらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(6) A

JAMES O ESSEX

授業コード：A2856 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このスピーキングコースでは、まとまりのある説得力のある議論を設計するための基本的な分析力を養います。トピックの背景を理解し、議論を裏付ける信頼できるデータを収集し、情報を論理的に整理するために、背景となる問題を探索する練習をします。各ユニットでは、豊富な言語と示唆に富んだ文章、音声、ビデオコンテンツを通して、生徒が問題についての深い知識を身につけながら、推論を展開し表現するために不可欠なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルを身につけられるようサポートします。このコースでは、リスニングやリーディングの練習を含む様々な活動を通して、批判的・論理的思考法を学び、ディスカッションやディベートで効果的に自分の意見を述べる高度なスキルを身につけます。時事問題や社会問題を題材としたディスカッションやディベートを通して、以下のような議論の戦術を用いながら、複数の論証スタイルを学びます：

- ディスカッションスキル
- 議論の導入
- 自分の立場を表明する
- 自分の立場の理由を述べる。
- 証拠を紹介する
- 論点を説明する
- 強調する - 論点の長所と短所を述べる
- 断定的な発言をする
- 意外な証拠を紹介する
- 議論を広げる
- 明確化する
- 結論をまとめる
- 一般的なスキル
- リスニング
- 話す・読む
- 書く・分析
- 批判的思考-ビジュアル・リテラシー
- 合成

### 【到達目標】

In this course, you will learn critical and logical thinking techniques through various activities including listening and reading exercises and develop advanced skills in presenting your opinion effectively in discussion and debate. Students will learn multiple styles of argumentation through discussion and debate on current issues and social issues by using the following discussion tactics:

- Discussion Skills
- Introducing your argument
- Expressing your position
- Expressing reasons for your position
- Introducing evidence
- Illustrating a point
- Hedging statements
- Expressing the pros and cons of the issue
- Making a declarative statement
- Introducing surprising evidence
- Expanding an argument
- Giving clarification
- Summing up and drawing a conclusion

### General Skills

- Listening
- Speaking
- Reading
- Writing
- Analysis
- Critical thinking
- Visual literacy
- Synthesis

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

This is a student-centred communicative class, not a lecture-style class.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                | 内容                        |
|------|----------------------------------------------------|---------------------------|
| 第1回  | Introduction to the Course<br>Unit 1<br>TED Talk 1 | "First Impressions"       |
| 第2回  | Unit 2<br>TED Talk 2                               | "Honesty"                 |
| 第3回  | Unit 3<br>TED Talk 3                               | "Being Single"            |
| 第4回  | Unit 4<br>TED Talk 4                               | "Social Media"            |
| 第5回  | Unit 5<br>TED Talk 5                               | "The Environment"         |
| 第6回  | Unit 6<br>TED Talk 6                               | "Superstition"            |
| 第7回  | Language and Evidence Test 1                       | Test: 60 minutes          |
| 第8回  | Unit 7<br>TED Talk 7                               | "Decision Making"         |
| 第9回  | Unit 8<br>TED Talk 8                               | "Business Ethics"         |
| 第10回 | Unit 9<br>TED Talk 9                               | "College Education"       |
| 第11回 | Unit 10<br>TED Talk 10                             | "Common Justice"          |
| 第12回 | Unit 11<br>TED Talk 11                             | "Artificial Intelligence" |
| 第13回 | Unit 12<br>TED Talk 12                             | "Risk Taking"             |
| 第14回 | Language and Evidence Test 2                       | Test: 60 minutes          |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned every week, and students are expected to spend a minimum of one hour/week on this. This homework will either prepare students for the subsequent lesson or help to consolidate their knowledge and understanding of the previous lesson.

In addition, students are expected to review their class notes each week.

### 【テキスト(教科書)】

Discussion & Debate – Building an Argument: Level 1

Michael Dyer

ISBN: 978-88-7598-018-3

Only available from Amazon: <https://www.amazon.co.jp/-/en/dp/B0CSFDRBJ9>

### 【参考書】

[www.lessonaccess.com](http://www.lessonaccess.com)

How to use this will be explained in the first lesson.

### 【成績評価の方法と基準】

Participation 10%

Evidence-Type Quizzes 10%

Textbook Quizzes 20%

TED Talk Quizzes 20%

Language and Evidence Test 1 20%

Language and Evidence Test 2 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

From this year, the class has been overhauled following student feedback. The textbook and material are not only more appropriate, but more conducive to helping students meet the aims and goals of the class.

### 【学生が準備すべき機器他】

Notebook and pen for class notes

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

**[Outline (in English)]**

This speaking course develops fundamental analytical skills to help students design a cohesive and persuasive argument. Students practice exploring background issues in order to understand the context of a topic and to gather relevant reliable data to support their argument and arrange information logically. Each unit leads the student through language-rich and thought-provoking written, audio, and video content to assist the student to acquire in-depth knowledge of the issue while developing listening, speaking, reading, and writing skills essential for developing and expressing lines of reasoning.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(6) B

JAMES O ESSEX

授業コード：A2857 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このスピーキングコースでは、まとまりのある説得力のある議論を設計するための基本的な分析力を養います。トピックの背景を理解し、議論を裏付ける信頼できるデータを収集し、情報を論理的に整理するために、背景となる問題を探索する練習をします。各ユニットでは、豊富な言語と示唆に富んだ文章、音声、ビデオコンテンツを通して、生徒が問題についての深い知識を身につけながら、推論を展開し表現するために不可欠なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルを身につけられるようサポートします。このコースでは、リスニングやリーディングの練習を含む様々な活動を通して、批判的・論理的思考法を学び、ディスカッションやディベートで効果的に自分の意見を述べる高度なスキルを身につけます。時事問題や社会問題を題材としたディスカッションやディベートを通して、以下のような議論の戦術を用いながら、複数の論証スタイルを学びます：

- ディスカッションスキル
- 議論の導入
- 自分の立場を表明する
- 自分の立場の理由を述べる。
- 証拠を紹介する
- 論点を説明する
- 強調する - 論点の長所と短所を述べる
- 断定的な発言をする
- 意外な証拠を紹介する
- 議論を広げる
- 明確化する
- 結論をまとめる
- 一般的なスキル
- リスニング
- 話す・読む
- 書く・分析
- 批判的思考-ビジュアル・リテラシー
- 合成

### 【到達目標】

In this course, you will learn critical and logical thinking techniques through various activities including listening and reading exercises and develop advanced skills in presenting your opinion effectively in discussion and debate. Students will learn multiple styles of argumentation through discussion and debate on current issues and social issues by using the following discussion tactics:

- Discussion Skills
- Introducing your argument
- Expressing your position
- Expressing reasons for your position
- Introducing evidence
- Illustrating a point
- Hedging statements
- Expressing the pros and cons of the issue
- Making a declarative statement
- Introducing surprising evidence
- Expanding an argument
- Giving clarification
- Summing up and drawing a conclusion

### General Skills

- Listening
- Speaking
- Reading
- Writing
- Analysis
- Critical thinking
- Visual literacy
- Synthesis

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

This is a student-centred communicative class, not a lecture-style class.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                | 内容                                                           |
|------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the Course<br>Unit 1<br>TED Talk 1 | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第2回  | Unit 2<br>TED Talk 2                               | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第3回  | Unit 3<br>TED Talk 3                               | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第4回  | Unit 4<br>TED Talk 4                               | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第5回  | Unit 5<br>TED Talk 5                               | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第6回  | Unit 6<br>TED Talk 6                               | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第7回  | Language and Evidence Test 1                       | Test: 60 minutes                                             |
| 第8回  | Unit 7<br>TED Talk 7                               | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第9回  | Unit 8<br>TED Talk 8                               | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第10回 | Unit 9<br>TED Talk 9                               | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第11回 | Unit 10<br>TED Talk 10                             | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第12回 | Unit 11<br>TED Talk 11                             | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第13回 | Unit 12<br>TED Talk 12                             | Textbook currently being printed.<br>Content to be confirmed |
| 第14回 | Language and Evidence Test 2                       | Test: 60 minutes                                             |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned every week, and students are expected to spend a minimum of one hour/week on this. This homework will either prepare students for the subsequent lesson or help to consolidate their knowledge and understanding of the previous lesson.

In addition, students are expected to review their class notes each week.

### 【テキスト(教科書)】

Discussion & Debate – Building an Argument: Level 2

Michael Dyer

ISBN:979-88-7600-750-6

Only available from Amazon: <https://www.amazon.co.jp/-/en/dp/BOCSDFG9LB>

### 【参考書】

[www.lessonaccess.com](http://www.lessonaccess.com)

How to use this will be explained in the first lesson.

### 【成績評価の方法と基準】

Participation 10%

Evidence-Type Quizzes 10%

Textbook Quizzes 20%

TED Talk Quizzes 20%

Language and Evidence Test 1 20%

Language and Evidence Test 2 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

From this year, the class has been overhauled following student feedback. The textbook and material are not only more appropriate, but more conducive to helping students meet the aims and goals of the class.

### 【学生が準備すべき機器他】

Notebook and pen for class notes

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習(総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

**[Outline (in English)]**

This speaking course develops fundamental analytical skills to help students design a cohesive and persuasive argument. Students practice exploring background issues in order to understand the context of a topic and to gather relevant reliable data to support their argument and arrange information logically. Each unit leads the student through language-rich and thought-provoking written, audio, and video content to assist the student to acquire in-depth knowledge of the issue while developing listening, speaking, reading, and writing skills essential for developing and expressing lines of reasoning.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(7) A

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2858 | 曜日・時限：火5/Tue.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a pre-intermediate/intermediate course in oral English communication, aimed at building oral fluency, vocabulary, and the ability to discuss global topical issues in English in a logical and coherent way. Instructors will teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills, however extra emphasis will be placed on speaking and debating skills.

### 【到達目標】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

The instructor will supplement the contents of each unit with videos and other study materials.

### Objectives

1. Contextualized improved vocabulary acquisition
2. Improved specific question and answer ability
3. Improved ability to explain a point of view about a recognized global topic or issue

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

Various discourse themes related to life and study in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to speaking skills.

Since the focus of the class is to increase fluency, the instructor will not correct grammar intrusively, but, when necessary will help the students stop making basic mistakes, or help them develop ways to improve their communication skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                  | 内容                                                   |
|-----|--------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 第1回 | Goodbye, Maldives                    | Global warming, ocean sea level rises                |
| 第2回 | Sustainable Communities              | Local and Societal sustainability issues             |
| 第3回 | Economic Inequality: the Growing Gap | Economic and social issues with globalization        |
| 第4回 | Dilemmas for a Responsible Tourist   | Sustainability and tourism                           |
| 第5回 | Learning from Nature                 | Ecosystem balance                                    |
| 第6回 | We Can't Live Without Water          | Water crises in areas around the world               |
| 第7回 | Protecting World Heritage            | Dealing with destruction of World Heritage Sites     |
| 第8回 | The War on Sugar                     | Obesity and diet, impact of diet and sugar on health |

|      |                                       |                                              |
|------|---------------------------------------|----------------------------------------------|
| 第9回  | Energy for a Stable Climate           | Sustainable / renewable energy               |
| 第10回 | Yasuni: A Dream of the Future?        | Ecology and nature preservation              |
| 第11回 | No More Bananas?                      | International trade and environmental issues |
| 第12回 | Blowing Whistles                      | Whistleblowing and speaking truth to power   |
| 第13回 | When It Is Right to Break the Law     | Environmentalism and activism vs. the law    |
| 第14回 | Believe It or Not: the Post-Truth Era | Fake news and media coverage of news         |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

### 【テキスト (教科書)】

Issues that Matter / 人類の未来と向き合うための15章, David Peaty / 川田潤 著, ¥1,800 (税込 ¥1,980) 株金屋堂 978-4-7647-4061-7  
<https://www.kinsei-do.co.jp/books/4061/>

### 【参考書】

Students can log into the various media provided during class. Information will be provided in the first class, and class-by-class.

### 【成績評価の方法と基準】

Class Participation: 70%

Students will be monitored extensively about completing the conversation and communication tasks. The instructor will be constantly and actively monitoring pairs and groups of students and conducting one-on-one practice conversations.

Mini-tests: 30%

Unexplained absences will be penalized. The instructor assumes students will attend all 14 classes as a matter of principle.

\*\*\*Students please note: No more than 3 absences per term are allowed. Any unexplained absence will disbar the students from the highest S grade.

Unexplained lateness (arriving more than 5 minutes late after class begins) will be noted.

Persistent unexplained lateness will result in grade penalization.

### 【学生の意見等からの気づき】

No changes have been made since last year.

### 【学生が準備すべき機器他】

Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer. The use of smartphones is strictly prohibited.

### 【その他の重要事項】

#### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to ask, express, and debate their opinions on a series of general and social topics.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(7) B

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2859 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a pre-intermediate/intermediate course in oral English communication, aimed at building oral fluency, vocabulary, and the ability to discuss global topical issues in English in a logical and coherent way. Instructors will teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills, however extra emphasis will be placed on speaking and debating skills.

### 【到達目標】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

The instructor will supplement the contents of each unit with videos and other study materials.

### Objectives

1. Contextualized improved vocabulary acquisition
2. Improved specific question and answer ability
3. Improved ability to explain a point of view about a recognized global topic or issue.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

Various discourse themes related to life and study in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to speaking skills.

Feedback will be given in class to students individually and in their discussion groups in real time in the class, and at the end of the class, as necessary. For those students who complete the optional written component, the instructor will give additional feedback in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                    | 内容                                                                |
|-----|------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | Study Abroad           | Critical Skills: Discussing values                                |
| 第2回 | Nuclear Power          | Critical Skills: Discussing Facts vs. Opinions                    |
| 第3回 | Immigration            | Critical Skills: Discussing Beliefs & Prejudices                  |
| 第4回 | The Social Safety Net  | Critical Skills: Discussing Reasons & Support for Evidence        |
| 第5回 | Global Warming         | Critical Skills: Discussing Criteria for Evaluation               |
| 第6回 | Women in the Workplace | Critical Skills: Discussing Relevant & Irrelevant Facts & Details |
| 第7回 | School on Saturdays    | Critical Skills: Critiquing an Argument                           |

|      |                                  |                                                                       |
|------|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 第8回  | Food Labeling                    | Critical Skills: Identifying Generalizations and Assumptions          |
| 第9回  | Etiquette in the Digital Age     | Critical Skills: Understanding & Using Analogies                      |
| 第10回 | Merit-based Pay                  | Critical Skills: Drawing Inferences                                   |
| 第11回 | American Military Bases in Japan | Critical Skills: Introduction to Logical Fallacies                    |
| 第12回 | Taxes                            | Critical Skills: Identifying the Slippery Slope Fallacy               |
| 第13回 | Animal Rights                    | Critical Skills: Identifying Ad Hominem Attacks & Straw Man Arguments |
| 第14回 | Hosting the Olympics             | Critical Skills: Identifying Red Herring Arguments                    |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

### 【テキスト (教科書)】

Required Textbook:

Michael Hood, Think Smart Critical Thinking in Critical Times, 株式会社 金星堂

ISBN: 978-4-7647-4043-3

<https://www.kinsei-do.co.jp/books/4043/>

### 【参考書】

The instructor will provide these each and every time.

### 【成績評価の方法と基準】

Student evaluation will be based 100% on in-class performance in discussions.

If students do not try to actively debate in this class, they cannot hope to succeed in getting a good grade.

Students who miss more than several classes cannot expect to get a higher grade.

Students who miss more than four classes cannot expect to get a grade. The instructor assumes students will attend all 14 classes as a matter of principle.

\*\*\*Students please note: No more than 3 absences per term are allowed. Any unexplained absence will disbar the students from an S grade.

Unexplained lateness (arriving more than 5 minutes late after class begins) will be noted.

Persistent unexplained lateness will result in grade penalization.

### 【学生の意見等からの気づき】

No changes.

### 【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

### 【その他の重要事項】

Addressing and Contacting the Instructor

1. Please address the instructor as Mr. Kallender

2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Speaking)(7) B

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。



**【Outline (in English)】**

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to ask, express, and debate their opinions on a series of general and social topics.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(8) A

高村 遼

授業コード：A2860 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、まず社会的な話題についての知識のほか語彙や表現を身につけ、テキストを読んだ後にディスカッションやグループワークを行います。

### 【到達目標】

この学期の終わりには、広く社会的な話題に関して、自分の意見を英語で発信できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に、学生主体の演習型の授業です。授業内での発表が求められます。課題は、授業内でフィードバックいたします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                               | 内容                               |
|------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 第1回  | Introduction                      | self-introduction                |
| 第2回  | Gender equality                   | The iron lady                    |
| 第3回  | Gender equality                   | What if women ruled the world?   |
| 第4回  | Marriage around the world         | Different ways of tying the knot |
| 第5回  | Marriage around the world         | Changing views of marriage       |
| 第6回  | A thirsty world                   | The Cochabamba water war         |
| 第7回  | A thirsty world                   | Water worries                    |
| 第8回  | Fished out: out empty oceans      | The grand banks                  |
| 第9回  | Fished out: out empty oceans      | Our desert oceans                |
| 第10回 | Nuclear power: cleans and bright  | Green energy?                    |
| 第11回 | Nuclear power: cleans and bright  | The one energy solution          |
| 第12回 | Rentable energy: The green choice | Winds of change                  |
| 第13回 | Rentable energy: The green choice | Beyond fossil fuels              |
| 第14回 | Wrap up                           | Summary of the course            |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習・復習にそれぞれ2時間を標準とします。授業に来る前にきちんとわからない単語は調べ、自分の考えを毎回持ってきてください。

### 【テキスト (教科書)】

In Focus Academic 1. Charles Browne, Brent Culligan, and Joseph Phillips. Kinseido. 2700yen. 2024.

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業に対する貢献：30%

試験またはレポート課題：70%

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての開講なのでありません。

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内(4月初頭)にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

In this class, we will first acquire not only knowledge about social topics but also vocabulary and expressions. After reading the text, we will engage in discussions and group work.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination or final report: 70%, in class contribution: 30%

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習 (Speaking)(8) B

高村 遼

授業コード：A2861 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、まず社会的な話題に関する知識のほか語彙や表現を身につけ、テキストを読んだ後にディスカッションやグループワークを行います。

### 【到達目標】

この学期の終わりには、広く社会的な話題に関して、自分の意見を英語で発信できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に、学生主体の演習型の授業です。授業内での発表が求められます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                   | 内容                                               |
|------|---------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction                          | self-introduction                                |
| 第2回  | Inequality in a richer world          | The Lehman shock                                 |
| 第3回  | Inequality in a richer world          | The promotion of wealth                          |
| 第4回  | Online retailing: Disappearing stores | The disappearing bookstore                       |
| 第5回  | Online retailing: Disappearing stores | The end of the store as we know it               |
| 第6回  | Online addiction: Too much            | Internet addiction                               |
| 第7回  | Online addiction: Too much            | Fun, popular, and deadly                         |
| 第8回  | Social media: changing out lives      | The unexpected effects of social media           |
| 第9回  | Social media: changing out lives      | A networked world                                |
| 第10回 | Free Trade: Cheap goods or good jobs? | Free trade in North America                      |
| 第11回 | Free Trade: Cheap goods or good jobs? | Free trade = No bargain                          |
| 第12回 | The office of the future              | Covid 19: Reshaping the work-from-home landscape |
| 第13回 | The office of the future              | Working from home                                |
| 第14回 | Wrap up                               | Summary of the course                            |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習・復習にそれぞれ2時間を標準とします。授業に来る前にきちんとわからない単語は調べ、自分の考えを毎回持ってきてください。

### 【テキスト (教科書)】

In Focus Academic 1. Charles Browne, Brent Culliigan, and Joseph Phillips. Kinseido. 2700yen. 2024.

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業に対する貢献：30%

試験またはレポート課題：70%

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての開講なのでありません。

### 【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

In this class, we will first acquire not only knowledge about social topics but also vocabulary and expressions. After reading the text, we will engage in discussions and group work.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination or final report: 70%, in class contribution: 30%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

## 英語表現演習(翻訳) (2) A

安藤 和弘

授業コード：A2866 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学作品に材を取る翻訳演習。まずは英文を正確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む授業である。その変換の作業をつうじて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。Jonathan Coeの長編小説*Expo 58*を教材に取り上げる。Jonathan Coeは、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した*What a Carve Up!* (1994)以後、優れて英国のユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。*Expo 58*は2013年刊行の最近作。時代は1958年。舞台は、主にその年にブリュッセルで開催された万国博覧会と、ロンドン。ユーモラスな筆致で書かれたスパイもの。読者を飽きさせることがない楽しい作品であるが、叙情的な側面も併せ持っている。また、大英帝国が崩壊した第二次世界大戦後、英国が自国をどう表象しようとしていたのかを垣間見ることできる。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。

### 【到達目標】

文学作品の英語を可能なかぎり正確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、学生はただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の正確な意味と細かなニュアンスまでもを反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、言わばその振り返りで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎週、一定量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。訳す箇所以外は、大まかな物語展開を予め教員が前の回に説明をするが、各自がざっと目とおしてなるべく詳細に把握することが望ましい。授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、授業に先立ち学生は指定の期日までに課題レポートを提出し、教員はそこから数本を選び、取りまとめ、資料（レジュメ集）としてアップロードする。学生は授業時までに資料を良く吟味し、授業時に意見を述べるができるように準備しておく。課題等の提出は「学習支援システム」で行い、学生の提出物と意見へのフィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                                  |
|------|----------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション            | 授業についての説明                                           |
| 第2回  | 英語で小説を読む             | 'We're all excited about Brussels'                  |
| 第3回  | 文学作品の英語              | 'What's gone is gone'                               |
| 第4回  | この小説の英語の特徴           | 'These are modern times'                            |
| 第5回  | 登場人物のイメージを組む         | 'Trying to build up a picture'                      |
| 第6回  | 場面のイメージをつかむ          | 'Welkom terug'                                      |
| 第7回  | 小説は「解説」するのではなく「読む」もの | 'Rum sort of cove'                                  |
| 第8回  | 物語展開を見失わないために        | 'Calloway's Corn Cushions'                          |
| 第9回  | 1958年ブリュッセル万博（歴史背景）  | 'Motel Expo'                                        |
| 第10回 | 第二次世界大戦後のイギリス（歴史背景）  | 'The British are part of Europe'                    |
| 第11回 | 冷戦初期のスパイ活動（歴史背景）     | 'We deal in information'                            |
| 第12回 | 恋愛小説として鑑賞            | 'I can love whoever I want'                         |
| 第13回 | イギリス英語とアメリカ英語        | 'The girl from Wisconsin' & 'Artificial stimulants' |
| 第14回 | 総括                   | この学期、何を学習したのかの確認                                    |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目とおし、およその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ3時間、1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

Jonathan Coe, *Expo 58*, Penguin, 2014

ISBN: 978-0241966907

生協に定員分が入荷されるので、必ず生協で購入すること。生協以外のルートで入手しようとする、異なる版が届いたり、配達が遅延し、受講に支障をきたす恐れがある。(Kindleなど電機書籍を一時的な補助として併用するのは任意だが、上記紙媒体書籍の購入は必須とする。)

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題80%、授業時の発言20%の比率で評価をする。無断欠席を4回すると評価の対象外となる。レポート課題が期限までに4回提出されない場合も評価の対象外とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

教材で取り上げる小説の舞台背景を知りたいという要望があるので、現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業が行われる回は、Zoomセッション参加に必要な端末(PCなど)を準備し、通信環境を整えておくこと。携帯電話での受講は、原則、認めない。

### 【その他の重要事項】

開講から3回は、学生がこの授業の趣旨を良く把握できるように、講義のパートに時間を多めに割いて、対面で授業を行う。学生が授業の趣旨を把握し、毎週の課題（一章を読んでその一部を翻訳する）に慣れてきたら、作品の理解と鑑賞へと重点をシフトさせる。その際、教員も学生も、作品の理解と鑑賞に役立つさまざまなオンライン・リソースに参照することが望ましいため、効率良くそれが可能なICTを活用するオンライン授業を第4回から隔週で実施する。対面授業とオンライン授業それぞれの特性を相補的に活かすために対面回とオンライン回を交互に配置する。小説全体の鑑賞の様相が濃くなる学期末の3回はオンラインで授業を実施する。対面授業、オンライン授業それぞれの利点の詳細については、開講時に教室で説明する。

### 【重要】

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。  
※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies 'archived' in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers' work, not from the teacher. The teacher comments on students' works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *Expo 58* (2013) by Jonathan Coe, a contemporary English novelist. Previous to every session, firstly, students read the chapter of the novel the teacher designates, then secondly, translate into Japanese a section of that chapter designated by the teacher and submit it online a couple of days before each session. Grading criteria: weekly written assignments 80%, in-class observations comments, and questions 20%.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(翻訳) (2) B

安藤 和弘

授業コード：A2867 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学作品に材を取る翻訳演習。まずは英文を正確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む授業である。その変換の作業をつうじて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。Jonathan Coe の長編小説 *Expo 58* を教材に取り上げる。Jonathan Coe は、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した *What a Carve Up!* (1994) 以後、優れて英国的ユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。*Expo 58* は2013年刊行の最近作。時代は1958年。舞台は、主にその年にブリュッセルで開催された万国博覧会と、ロンドン。ユーモラスな筆致で書かれた側面スバイもの。読者を飽きさせることがない楽しい作品であるが、叙情的な側面も併せ持っている。また、大英帝国が崩壊した第二次世界大戦後、英国が自国をどう表象しようとしていたのかを垣間見ることできる。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。

### 【到達目標】

文学作品の英語を可能なかぎり正確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、学生はただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の正確な意味と細かなニュアンスまでもを反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、言わばその照り返しで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎週、一定量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。訳す箇所以外は、大まかな物語展開を予め教員が前の回に説明をするが、各自がざっと目とおしてなるべく詳細に把握することが望ましい。授業は講義形式と演習形式の組み合わせて行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、授業に先立ち学生は指定の期日までに課題レポートを提出し、教員はそこから数本を選び、取りまとめ、資料(レジュメ集)としてアップロードする。学生は授業時までに資料を良く吟味し、授業時に意見を述べるができるように準備しておく。課題等の提出は「学習支援システム」で行い、学生の提出物と意見へのフィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                           |
|------|------------------------|------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション              | 授業についての説明と、春学期に読んだ範囲の物語展開の概要 |
| 第2回  | 直接話法と間接話法              | ‘Wilkins’                    |
| 第3回  | 登場人物の個性と話しかたを把握する      | ‘A nice old pickle’          |
| 第4回  | 各登場人物の口調の比較            | ‘A private room’             |
| 第5回  | フォーマルな英語とインフォーマルな英語    | ‘The trouble with happiness’ |
| 第6回  | 登場人物の感情や思考を読み取る        | ‘Tooting Common’             |
| 第7回  | 音読(活字を音声に変換)して初めて気づくこと | ‘Too many statistics!’       |
| 第8回  | 「直訳」はしない               | ‘Pastorale d’Ete’            |
| 第9回  | 自分の日本語に落とし込む           | ‘Excellent work, Foley’      |
| 第10回 | イディオム的な表現の扱い           | ‘Like a Princess’            |
| 第11回 | 「訳者は第二の作者」             | ‘The easiest thing’          |
| 第12回 | 翻訳とはつまるところ何か           | ‘Well and truly over’        |
| 第13回 | 翻訳は英語学習にどう資するか         | ‘Unrest’ & ‘Hollahi hollaho’ |

第14回 総括

総括 この学期、何を学習したのかの確認

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目とおし、おおよその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ3時間、1時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

Jonathan Coe, *Expo 58*, Penguin, 2014

ISBN: 978-0241966907

生協に定員分が入荷されるので、必ず生協で購入すること。生協以外のルートで入手しようとする、異なる版が届いたり、配達が遅延し、受講に支障をきたす恐れがある。(Kindleなど電機書籍を一時的な補助として併用するのは任意だが、上記紙媒体書籍の購入は必須とする。)

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題80%、授業時の発言20%の比率で評価をする。無断欠席を4回すると評価の対象外となる。レポート課題が期限までに4回提出されない場合も評価の対象外とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

教材で取り上げる小説の舞台背景を知りたいという要望があるので、現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業が行われる回は、Zoomセッション参加に必要な端末(PCなど)を準備し、通信環境を整えておくこと。携帯電話での受講は、原則、認めない。

### 【その他の重要事項】

開講から3回は、学生がこの授業の趣旨を良く把握できるように、講義のパートに時間を多めに割いて、対面で授業を行う。学生が授業の趣旨を把握し、毎週の課題(一章を読んでその一部を翻訳する)に慣れてきたら、作品の理解と鑑賞へと重点をシフトさせる。その際、教員も学生も、作品の理解と鑑賞に役立つさまざまなオンライン・リソースに参照することが望ましいため、効率良くそれが可能なICTを活用するオンライン授業を第4回から隔週で実施する。対面授業とオンライン授業それぞれの特性を相補的に活かすために対面回とオンライン回を交互に配置する。小説全体の鑑賞の様相が濃くなる学期末の3回はオンラインで授業を実施する。対面授業、オンライン授業それぞれの利点の詳細については、開講時に教室で説明する。

### 【重要】

「英語表現演習(Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習(Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習(翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習(総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内(4月初頭)にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習(Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習(Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

### 【Outline (in English)】

On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies ‘archived’ in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers’ work, not from the teacher. The teacher comments on students’ works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *Expo 58* (2013) by Jonathan Coe, a contemporary English novelist. Previous to every session, firstly, students read the chapter of the novel the teacher designates, then secondly, translate into Japanese a section of that chapter designated by the teacher and submit it online a couple of days before each session. Grading criteria: weekly written assignments 80%, in-class observations comments, and questions 20%.

BSP900BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 900)

## 海外英語演習

田中 裕希

授業コード：A2889 | 曜日・時限：-

集中・その他/intensive・other courses・4単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

夏学期にユニバーシティ・カレッジ・ダブリンへの留学プログラムに参加し、(1) 英語力の向上、(2) 異文化コミュニケーション能力のさらなる向上を目指す。

### 【到達目標】

アイルランドのユニバーシティ・カレッジ・ダブリン (UCD) で夏期休暇中の3週間を過ごす「夏期SAプログラム (UCD)」では、英語圏で生活することにより実践的な英語力を集中的に習得し、アイルランドを含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

出発前には主に安全面の確認のための事前指導をおこない、帰国後にはSA報告会と英語による面接試験を通じて事後指導をおこなう。留学先では、UCDの語学センター English Language Academy (ELA) に所属する教員が、英語を母語としない学生を対象としたEFL (外国語としての英語) のプログラムを担当する。

クラスは習熟度別に4段階 (Advanced, Upper Intermediate, Intermediate, Lower Intermediate) に分かれ、指導が行き届くよう少人数教育をおこなう。通常、授業は月曜日から金曜日の午前9時から午後1時頃まで実施される。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                                       | 内容                                                                                                         |
|------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1~14 | 初めにクラス分け試験が実施され、その結果により、学生は各自、適切なクラスに振り分けられる。そのクラスの担当教員により、毎回の授業の目標が示される。 | 配属されたクラスごとに、学生のレベルにあわせた目標にそった内容を学習する。Reading, Writing, Listening, Speaking の4技能をバランスよく身につけられる内容の授業がおこなわれる。 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現地で指示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

現地で提供される。

### 【参考書】

現地で指示される。

### 【成績評価の方法と基準】

留学先から送付された成績証明書および出席証明書、留学期間中に現地からSA委員会に提出する英語レポート、帰国報告会時のプレゼンテーション、口頭試験についてのSA委員会の評価を参考にして総合的に合否を判断する。評価は合格を「RS」、不合格を「D」または「E」とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

### 【その他の重要事項】

詳細は、「夏期SAプログラム (UCD)」パンフレット参照。

### 【Outline (in English)】

Students participate in the study abroad program at University College Dublin (UCD) during the summer term. They are expected to achieve the following goals: (1) improve their English proficiency, and (2) further develop their intercultural communicative competence. Learning activities outside of class will be specified by UCD. Grades are determined based on transcripts sent from UCD, reports submitted during the study abroad period, and presentations and interviews conducted after returning from studying abroad.

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## 英語史 A

福元 広二

授業コード：A2901 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

### 【到達目標】

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。  
 現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。DVDなどの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                  |
|------|-------------|---------------------|
| 第1回  | イントロダクション   | 授業内容の紹介             |
| 第2回  | 世界の英語       | 世界中に広がる英語について       |
| 第3回  | 英語外面史       | 英語外面史の概説            |
| 第4回  | インド・ヨーロッパ祖語 | インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族  |
| 第5回  | 古英語の時代背景    | 古英語期における社会的・文化的時代背景 |
| 第6回  | 古英語の名詞      | 古英語における名詞の性・数・格     |
| 第7回  | 古英語の代名詞     | 古英語における代名詞の語形変化     |
| 第8回  | 古英語の形容詞・副詞  | 古英語における形容詞と副詞の特徴    |
| 第9回  | 古英語の動詞      | 古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用  |
| 第10回 | 古英語の語順・否定   | 古英語における語順、否定、その他    |
| 第11回 | 古英語の作品講読    | 古英語の代表的な作品を講読する     |
| 第12回 | 中英語の時代背景    | 中英語期における社会的・文化的時代背景 |
| 第13回 | 中英語の名詞・形容詞  | 中英語における名詞と形容詞の語形変化  |
| 第14回 | 期末試験        | 試験・まとめと解説           |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

松浪有『英語史』大修館

### 【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）  
 中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）  
 岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）  
 朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

### 【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。  
 期末試験60%、平常点40%

### 【学生の意見等からの気づき】

クラスでのディスカッションを増やしていきたいと思います。

### 【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に開講される「英語史B」と合わせて履修することをお勧めします。  
 4回以上欠席した場合はD評価となります。

### 【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

**英語史 B**

福元 広二

授業コード：A2902 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

**【到達目標】**

- ・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
- ・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。DVDなどの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ            | 内容                                |
|------|----------------|-----------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション      | 春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介               |
| 第2回  | 中英語の発音・代名詞     | 中英語における発音と代名詞の語形変化                |
| 第3回  | 中英語の動詞         | 中英語における強変化動詞と弱変化動詞                |
| 第4回  | 中英語の借用語        | 中英語期における借用語                       |
| 第5回  | 中英語の作品講読       | 中英語の代表的な作家であるChaucerの作品講読         |
| 第6回  | 初期近代英語の時代背景    | 初期近代英語期における社会的・文化的時代背景            |
| 第7回  | 初期近代英語の文法      | 初期近代英語期に特徴的な文法                    |
| 第8回  | Shakespeareの英語 | Shakespeareの英語の特徴を概説する            |
| 第9回  | 初期近代英語の作品講読    | 初期近代英語の代表的な作家であるShakespeareの作品講読  |
| 第10回 | 後期近代英語の時代背景    | 後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達 |
| 第11回 | 後期近代英語の文法と作品講読 | 後期近代英語期に特徴的な文法と文学作品を講読する          |
| 第12回 | アメリカ英語の成立      | アメリカ英語の成立と語彙の特徴                   |
| 第13回 | 現代英語の変化        | 現在進行中である英語の文法的変化                  |
| 第14回 | 期末試験           | 試験・まとめと解説                         |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

松浪有『英語史』大修館

**【参考書】**

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）  
 中尾俊夫『英語の歴史』（講談社現代新書）  
 岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）  
 朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

**【成績評価の方法と基準】**

評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。  
 期末試験60%、平常点40%

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

**【その他の重要事項】**

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史A」と合わせて履修することをお勧めします。  
 4回以上欠席した場合はD評価となります。

**【Outline (in English)】**

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).



LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 英文学史 A

田中 裕希

授業コード：A2903 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古英語の時代（中世前期）から20世紀中期までのイギリス詩の歴史をたどりつつ、英詩において「私」がどのように表現されているかについて学ぶ。個人の内面を表現する抒情詩に対する理解を、国家の成立など大きなテーマを扱う叙事詩との比較を通じて深めていく。

### 【到達目標】

イギリス詩の流れを、歴史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリスにおける抒情詩の伝統がどのように形成されてきたのかを学ぶ。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                    |
|------|----------------|-----------------------|
| 第1回  | イントロダクション、中世前期 | 叙事詩と抒情詩               |
| 第2回  | 中世後期           | Chaucer               |
| 第3回  | ルネサンス（1）       | 近世の恋愛詩                |
| 第4回  | ルネサンス（2）       | Shakespeareの英語        |
| 第5回  | ルネサンス（3）       | Shakespeareの登場人物      |
| 第6回  | 17世紀（1）        | 形而上詩人                 |
| 第7回  | 17世紀（2）        | Miltonと叙事詩            |
| 第8回  | 18世紀           | ロマン派と抒情詩              |
| 第9回  | 19世紀（1）        | ロマン派第二世代              |
| 第10回 | 19世紀（2）        | dramatic monologueを読む |
| 第11回 | 20世紀（1）        | モダニズムとは               |
| 第12回 | 20世紀（2）        | 第一次世界大戦と詩             |
| 第13回 | 20世紀（3）        | 第二次世界大戦と詩             |
| 第14回 | 期末試験とまとめ       | 学期全体をおして学習したことを確認する。  |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。

Shakespeareの作品。

### 【参考書】

『イギリス名詩選』（岩波文庫）平井 正穂（編集）

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%

期末テスト 70%

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

### 【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

### 【Outline (in English)】

Outline and objectives: This class will cover the history of British poetry from the era of the Old English (the early Medieval period) to the mid 20th century.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: reaction papers (30%), final exam (70%).

LIT200BD (文学 / Literature 200)

**英文学史 B**

小澤 央

授業コード：A2904 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

イギリス文学の歴史を、散文を中心に学ぶ。近代小説以前の散文から、18世紀の（反）リアリズム小説、ヴィクトリア朝の社会小説、歴史小説、家庭小説、教養小説、20世紀のモダニズム小説、ポストコロニアル小説、さらに多様化する今日の小説まで、名作の抜粋を読みながら英文学史を辿る。政治的・文化的文脈を踏まえ、作品を原作とする映画を確認しながら、授業を進める。英文学史の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

**【到達目標】**

この授業を履修することで、学生は  
 ・ 歴史的な文脈において英文学の散文の名作を位置づけられる。  
 ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践できる。  
 ・ 辞書や和訳を参照しながらも、英文学の抜粋を原文で読める英語力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ          | 内容                                         |
|------|--------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション    | 散文の歴史概観、近代小説以前                             |
| 第2回  | 18世紀(1)      | 政治的・文化的背景                                  |
| 第3回  | 18世紀(2)      | Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> など           |
| 第4回  | 18世紀(3)      | Swift, <i>Gulliver's Travels</i> など        |
| 第5回  | 19世紀(1)      | 政治的・文化的背景                                  |
| 第6回  | 前半の講義のまとめ    | 総括と補足                                      |
| 第7回  | 19世紀(2)      | Austen, <i>Pride and Prejudice</i> など      |
| 第8回  | 19世紀(3)      | Dickens, <i>A Christmas Carol</i> など       |
| 第9回  | 20世紀前半(1)    | 政治的・文化的背景                                  |
| 第10回 | 20世紀前半(2)    | Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> など              |
| 第11回 | 20世紀後半以降(1)  | 政治的・文化的背景                                  |
| 第12回 | 20世紀後半以降(2)  | Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i> など |
| 第13回 | 後半の講義のまとめ    | 総括と補足                                      |
| 第14回 | 期末試験と今学期のまとめ | 今後の研究についての示唆                               |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

授業のレジュメ

**【参考書】**

・ 授業で扱う文学作品  
 ・ 浦野郁、奥村沙矢香編、『よくわかるイギリス文学史』、ミネルヴァ書房、2020年  
 ・ 白井義昭著、『読んで愉しむイギリス文学史入門』、春風社、2013年  
 ・ 石塚久郎ほか編、『イギリス文学入門』、三修社、2014年

**【成績評価の方法と基準】**

・ リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%  
 ・ 期末試験：70%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業中の正当な理由なき入退室や私語は、ほかの学生の迷惑となるので、厳しく対処していきたい。

**【その他の重要事項】**

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

**【Outline (in English)】**

In this course, students are expected to learn the history of English literature, particularly British fiction, from the 16th to the 21st century, by reading extracts from the text in English and considering the historical background. This course also refers to films based on British fiction. The goals of this course are to position masterpieces of British fiction in historical contexts, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 米文学史 A

小島 尚人

授業コード：A2905 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：

〈アメリカとは何か〉を知るための米文学史

概要と目的：

自由と機会の国アメリカ、多様性の国アメリカ、人種差別の国アメリカ、好戦の国アメリカ……さまざまな顔をもつアメリカという国についての多面的で掘り下げた理解を得るには、その地で育まれてきた文学と文化について学ぶことがとても有用である。この授業では、アメリカ文学とはどんな文学なのかを概観する。そのことを通じてアメリカについての知見を深め、ひいては自分自身と世界の関係についてもよりよく知るためのきっかけを得ることを目的とする。それにくわえて、今まで触れたことなかったさまざまな文学作品のおもしろさを感じてできるようになることも目指す。

春学期は、大航海時代のさなかにヨーロッパから植民者たちがやって来た頃から、ニューヨークやシカゴを中心に現代的な大都市中心の社会が形成されていった19世紀末までの時代を扱う。

### 【到達目標】

- ・アメリカという国とそこで生まれた文学の主な特徴について理解している。
- ・米文学の主要な名作について、歴史的な文脈に位置づけながら語ることができる。
- ・辞書や和訳を参照しながらも、米文学作品の抜粋を原文で読める英語力を身につけている。
- ・好きな作家や作品を見つけ、そこから将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者からの発信の機会も多く設ける。そこで出た考察・感想・意見・質問をできるかぎり紹介してコメントし、授業内容に積極的に組み込むことで、双方向的なコミュニケーションをおこないながら進める。また、映画・アニメ・音楽・マンガなどの資料も適宜用いる。そのような方法と題材の工夫を通じて、代表的な文学作品の紹介・読解を中心に据えながらも、文学以外の分野を専攻する学生にも幅広く興味をもってもらえるような授業にできればと考えている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                              |
|------|--------------|-------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンスと導入講義   | 米文学史を学ぶ意義とは<br>米国とその文学の基本的特質                    |
| 第2回  | 植民地時代①       | 2つの建国神話<br>ピルグリム・ファーザーズとポカホンタス                  |
| 第3回  | 植民地時代②       | ピューリタニズムから啓蒙思想へ<br>EdwardsとFranklin             |
| 第4回  | 独立期から19世紀前半① | 「情」と文学——感傷小説とゴシック小説<br>FosterとBrown             |
| 第5回  | 独立期から19世紀前半② | ロマン主義とフロンティア精神<br>IrvingとCooper                 |
| 第6回  | 19世紀半ば①      | 超絶主義と自己信頼、自然と人間<br>EmersonとThoreau              |
| 第7回  | 19世紀半ば②      | ゴシックの多様性、芸術至上主義と象徴主義<br>Poe                     |
| 第8回  | 19世紀半ば③      | 「アメリカ小説」をさがして——ノヴェルとロマンス<br>Hawthorne           |
| 第9回  | 19世紀半ば④      | 近代批判と自己懐疑<br>Melville                           |
| 第10回 | 19世紀半ば⑤      | アメリカ詩の隆盛——自己、アメリカ、世界<br>WhitmanとDickinson       |
| 第11回 | 南北戦争とアメリカ文学  | 黒人奴隷制と文学<br>Stowe, <i>Uncle Tom's Cabin</i> の達成 |
| 第12回 | 19世紀後半①      | 少年少女の成長物語と自由の探究<br>AlcottとTwain                 |

第13回 19世紀後半②

アメリカ対ヨーロッパ、小説の革新とリアリズム

JamesとHowells

第14回 世紀転換期

リアリズムから自然主義へ

ChesnuttとCrane

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業資料をあらかじめ読んでいろいろ考えたり、友人と話し合ったりする。(1時間)
- ・授業で学んだ作家の作品や、教員が紹介する関連映画・参考文献などを積極的にさがして触れ、自分の興味の幅を広げる。(3時間)

### 【テキスト (教科書)】

なし (必要に応じてプリントを配布する)

### 【参考書】

#### 【主要参考書】

諏訪部浩一 (編) 『アメリカ文学入門 [新版]』 (三修社、2023年)

【アメリカ文学・文化についてさらに深く学びたい人のための参考書】

平石貴樹 『アメリカ文学史』 (松柏社、2010年)

亀井俊介 『アメリカ文学史講義』 全3巻 (南雲堂、1997-2000年)

渡辺利雄 『講義 アメリカ文学史』 全4巻 (研究社、2007-2010年)

竹内理矢・山本洋平 (編) 『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』 (ミネルヴァ書房、2021年)

杉野健太郎 (編) 『アメリカ文化入門 [新版]』 (三修社、2023年)

巽孝之・宇沢美子 (編) 『よくわかるアメリカ文化史』 (ミネルヴァ書房、2020年)

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点20%：

毎回の提出課題 (ワークシートまたはアクションペーパー)

ブックレポート30%：

学期に2回、作品を読んでレポートを提出

学期末定期試験50%：

講義内容およびブックレポートで読んだ作品に関する論述問題

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当者が変更になるため記入できませんが、他の担当科目と同様に、受講者からの発信の機会をできるだけ多く作り、それに対するフィードバックを丁寧におこなっていきたくと思っています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is America" through literary texts.

[Learning activities outside of classroom:] After each class meeting, students are expected to spend 4 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (worksheets and reaction papers) (20%)
- 2) 2 papers ("book reports" on reading American literary work) (40%)
- 3) End-of-term examination (40%)

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 米文学史 B

小島 尚人

授業コード：A2906 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：

〈アメリカとは何か〉を知るための米文学史

概要と目的：

自由と機会の国アメリカ、多様性の国アメリカ、人種差別の国アメリカ、好戦の国アメリカ……さまざまな顔をもつアメリカという国についての多面的で掘り下げた理解を得るには、その地で育まれてきた文学と文化について学ぶことがとても有用である。この授業では、アメリカ文学とはどんな文学なのかを概観する。そのことを通じてアメリカについての知見を深め、ひいては自分自身と世界の関係についてもよりよく知るためのきっかけを得ることを目的とする。それにくわえて、今まで触れたことなかったさまざまな文学作品のおもしろさを感じてできるようになることも目指す。

秋学期は、現代的な大都市中心の社会が形成された19世紀末から、「アメリカ」「文学」の境界線が大きく揺らいでいる21世紀の現代までを扱う。

## 【到達目標】

- ・アメリカという国とそこで生まれた文学の主な特徴について理解している。
- ・米文学の主要な名作について、歴史的な脈に位置づけながら語ることができる。
- ・辞書や和訳を参照しながらも、米文学作品の抜粋を原文で読める英語力を身につけている。
- ・好きな作家や作品を見つけ、そこから将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者からの発信の機会も多く設ける。そこで出た考察・感想・意見・質問をできるかぎり紹介してコメントし、授業内容に積極的に組み込むことで、双方向的なコミュニケーションをおこないながら進める。また、映画・アニメ・音楽・マンガなどの資料も適宜用いる。そのような方法と題材の工夫を通じて、代表的な文学作品の紹介・読解を中心に据えながらも、文学以外の分野を専攻する学生にも幅広く興味をもってもらえるような授業にできればと考えている。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                                                                   |
|------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンスと導入講義   | 春学期の振り返りと今学期の概略                                                                      |
| 第2回  | 世紀転換期        | 自然主義文学と新しい女性<br>Norris, Dreiser, Wharton, Chopin など                                  |
| 第3回  | 20世紀前半①      | アメリカ現代詩の形成<br>Eliot, Pound, Stein など                                                 |
| 第4回  | 20世紀前半②      | ロスト・ジェネレーションとモダニズム<br>Hemingway, Fitzgerald, Faulkner など                             |
| 第5回  | 20世紀前半③      | 世界恐慌期の文学、ハードボイルド／ノワール小説<br>Steinbeck, Hammett, Chandler など                           |
| 第6回  | 20世紀半ば①      | 南部文学の隆盛<br>McCullers, Welty, O'Connor など                                             |
| 第7回  | 20世紀半ば②      | 戦後アメリカ社会と自己の探究<br>Salinger, Capote, Kerouac, Jackson など                              |
| 第8回  | アメリカ演劇通史     | O'Neill, Hellman, Williams など                                                        |
| 第9回  | 20世紀後半～21世紀① | 大衆演芸、ミュージカルの歴史<br>黒人文学の発展——ハーレム・ルネサンスからBLMまで<br>Larsen, Wright, Baldwin, Morrison など |
| 第10回 | 20世紀後半～21世紀② | ポストモダン小説の実験——メタフィクション・自己・歴史<br>Birth, Barthelme, Pynchon, Auster など                  |
| 第11回 | 20世紀後半～21世紀③ | SFと現代アメリカ文学<br>Vonnegut, Dick, Le Guin など                                            |
| 第12回 | 20世紀後半～21世紀④ | 探偵小説の多様化<br>McDonald, Paretsky, Mosley など                                            |

第13回 20世紀後半～21世紀⑤ アジア系文学の展開

Kingston, Lee, Cao, Yamashita, Lahiri など

第14回 20世紀後半～21世紀⑥ マンガと小説、グラフィック・ノベル Spiegelman, Clowes, Bechdel など

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業資料をあらかじめ読んでいろいろ考えたり、友人と話し合ったりする。（1時間）

・授業で学んだ作家の作品や、教員が紹介する関連映画・参考文献などを積極的にさがして触れ、自分の興味の幅を広げる。（3時間）

## 【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてプリントを配布する）

## 【参考書】

## 【主要参考書】

諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門 [新版]』（三修社、2023年）

【アメリカ文学・文化についてさらに深く学びたい人のための参考書】

平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010年）

亀井俊介『アメリカ文学史講義 全3巻』（南雲堂、1997-2000年）

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 全4巻』（研究社、2007-2010年）

竹内理矢・山本洋平（編）『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021年）

杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門 [新版]』（三修社、2023年）

巽孝之・宇沢美子（編）『よくわかるアメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2020年）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点20%：

毎回の提出課題（ワークシートまたはアクションペーパー）

ブックレポート30%：

学期に2回、作品を読んでレポートを提出

学期末定期試験50%：

講義内容およびブックレポートで読んだ作品に関する論述問題

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当者が変更になるため記入できませんが、他の担当科目と同様に、受講者からの発信の機会をできるだけ多く作り、それに対するフィードバックを丁寧におこなっていきたくと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、学術研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

## 【Outline (in English)】

## 【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is America" through literary texts.

[Learning activities outside of classroom:] After each class meeting, students are expected to spend 4 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (worksheets and reaction papers) (20%)
- 2) 2 papers ("book reports" on reading American literary work) (40%)
- 3) End-of-term examination (40%)

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 英米文学講義 I A

波戸岡 景太

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

### 【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                     | 内容                                           |
|------|-------------------------|----------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション               | ポストモダンとポストモダニズムの違いについて                       |
| 第2回  | 戦争と文学                   | 冷戦からベトナム戦争まで                                 |
| 第3回  | 大きな物語のあとで               | ポストモダン思想の系譜                                  |
| 第4回  | 文理融合の物語                 | Thomas Pynchonの短編"Entropy" (前半)を読む           |
| 第5回  | エントロピーとは何か              | Thomas Pynchonの短編"Entropy" (後半)を読む           |
| 第6回  | クィアと批評                  | Susan Sontagの批評"Notes on Camp"を読む            |
| 第7回  | スタイルとコンテンツ              | Susan Sontagの批評"On Style"を読む                 |
| 第8回  | SF的想像力の臨界点              | Kurt Vonnegutの小説 Slaughterhouse-Five (前半)を読む |
| 第9回  | 絶滅のナラティブ                | Kurt Vonnegutの小説 Slaughterhouse-Five (後半)を読む |
| 第10回 | ナチスの表象                  | Susan Sontagの批評"Fascinating Fascism"を読む      |
| 第11回 | 隠喩と反隠喩                  | Susan Sontagの批評"Illness as Metaphor"を読む      |
| 第12回 | 軍産共同体の悪夢                | Thomas Pynchonの長編 Gravity's Rainbow (前半)を読む  |
| 第13回 | ポストモダニズムから<br>ポストトゥルースへ | Thomas Pynchonの長編 Gravity's Rainbow (後半)を読む  |
| 第14回 | まとめ/期末試験                | 国際社会の動きとアメリカ文学の関係について/筆記試験の実施                |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

### 【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物をオンラインで配布しますので、授業準備の段階で各自ダウンロード/プリントアウトして下さい。

### 【参考書】

- Pynchon, Thomas. *Gravity's Rainbow*. Viking, 1973.  
-. *Slow Learner*. Brown, Little, 1984.  
Sontag, Susan. *Against Interpretation*. Picador, 2001.  
-. *Under the Sign of Saturn: Essays*. Farrar Straus & Giroux, 1980.  
-. *Illness as Metaphor and Aids and Its Metaphors*. Picador, 2001.  
Vonnegut, Kurt. *Slaughterhouse-Five*. Delacorte, 1969.

### 【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果 (50%)、最終回に実施する期末試験 (50%) を合計し、60%以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 英米文学講義 I B

波戸岡 景太

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

## 【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                                                                                                   |
|------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション              | ポストモダニズムの課題について                                                                                      |
| 第2回  | 文学における「若さ」             | ビート世代からZ世代まで                                                                                         |
| 第3回  | シミュラクルから<br>ディープフェイクまで | ポストモダン美学の限界と可能性                                                                                      |
| 第4回  | レーガノミクスと文学             | Thomas Pynchonの小説 <i>Vineland</i> を読む                                                                |
| 第5回  | サイボーグという隠喩             | Donna Harawayの批評 <i>Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature</i> を読む                    |
| 第6回  | 9/11以後のパラノイア           | Thomas Pynchonの小説 <i>Bleeding Edge</i> を読む                                                           |
| 第7回  | コンパニオン・スピー<br>シーズと文学   | Donna Harawayの批評 <i>The Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness</i> を読む |
| 第8回  | 人為災害とポストモダン            | Don DeLilloの小説 <i>White Noise</i> を読む                                                                |
| 第9回  | 視覚芸術とポストモダン            | Don DeLilloの小説 <i>Point Omega</i> を読む                                                                |
| 第10回 | ポストモダンの語りの<br>アクチュアリティ | Jonathan Safran Foerの仕事进行分析する                                                                        |
| 第11回 | ポストトゥルースと大<br>統領       | Michiko Kakutaniの批評 <i>The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump</i> を読む            |
| 第12回 | 非暴力とヴァルネラビ<br>リティ      | Judith Butlerの批評 <i>The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind</i> を読む                       |
| 第13回 | 生活の中のポストモダン            | Lydia Davisの短編集 <i>Almost No Memory</i> を読む                                                          |
| 第14回 | まとめ／期末試験               | 世界的課題と文学の役割について／筆記試験の実施                                                                              |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物をオンラインで配布しますので、授業準備の段階で各自ダウンロード／プリントアウトをして下さい。

## 【参考書】

- Butler, Judith. *The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind*. Verso Books, 2020.
- Davis, Lydia. *Almost No Memory*. Picador, 2001.
- DeLillo, Don. *White Noise*. Viking, 1985.
- . *Point Omega*. Scribner, 2010.
- Foer, Jonathan Safran. *Extremely Loud and Incredibly Close*. Penguin, 2006.
- Haraway, Donna. *Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature*. Routledge, 1991.

-. *Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness*. Prickly Paradigm, 2003.

Kakutani, Michiko. *The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump*. William Collins, 2018.

Pynchon, Thomas. *Vineland*. Little, Brown, 1990.

-. *Bleeding Edge*. Penguin, 2013.

その他、授業内で適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（50%）、最終回に実施する期末試験（50%）を合計し、60%以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 英米文学講義 II A

小澤 央

授業コード：A2909 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英米文学における重要なテーマである人間性や(ポスト)ヒューマニズムと関連の深い有名な文学作品を、政治的・文化的文脈に位置づけながら解釈する。動物と人間、テクノロジーと倫理、植民地主義、階級といった、今日でも重要な意義を持つ諸問題との関係で分析する。人間性、(ポスト)ヒューマニズムという概念の持つ可能性や限界についても議論する。

文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

### 【到達目標】

・人間性、(ポスト)ヒューマニズムというテーマとの関係で英文学を概観できる。  
・作品と関連する政治的・文化的問題について基本的知識を習得する。  
・辞書や和訳を参照しながらも、人間性や(ポスト)ヒューマニズムに関連する文学の抜粋を原文で読める英語力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                  |
|------|--------------|-------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション    | 人間性とは何か、(ポスト)ヒューマニズム概観              |
| 第2回  | 18世紀(1)      | Swift, <i>Gulliver's Travels</i> 前半 |
| 第3回  | 18世紀(2)      | Swift, <i>Gulliver's Travels</i> 後半 |
| 第4回  | 19世紀前半(1)    | Shelley, <i>Frankenstein</i> 前半     |
| 第5回  | 19世紀前半(2)    | Shelley, <i>Frankenstein</i> 後半     |
| 第6回  | 前半の講義のまとめ    | 総括と補足                               |
| 第7回  | 19世紀後半(1)    | Wells, <i>The Time Machine</i> 前半   |
| 第8回  | 19世紀後半(2)    | Wells, <i>The Time Machine</i> 後半   |
| 第9回  | 20世紀(1)      | Huxley, <i>Brave New World</i> 前半   |
| 第10回 | 20世紀(2)      | Huxley, <i>Brave New World</i> 後半   |
| 第11回 | 21世紀(1)      | Ishiguro, <i>Never Let Me Go</i> 前半 |
| 第12回 | 21世紀(2)      | Ishiguro, <i>Never Let Me Go</i> 後半 |
| 第13回 | 後半の講義のまとめ    | 総括と補足                               |
| 第14回 | 期末試験と今学期のまとめ | 今後の研究についての示唆                        |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回予め指示された資料(レジュメなど)を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

授業のレジュメ

### 【参考書】

・授業で扱う文学作品  
・レジュメで紹介する資料  
・James F Nicosia, ed., *Critical Insights: Frankenstein; or, the Modern Prometheus*, Salem Press, 2024.

### 【成績評価の方法と基準】

・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%  
・期末試験：70%

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中の正当な理由なき入退室や私語は、ほかの学生の迷惑となるので、厳しく対処していきたい。

### 【その他の重要事項】

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

### 【Outline (in English)】

In this course, students are expected to interpret English literature with a focus on (post)humanism, considering human-animal relations, ethical issues in technology, colonialism and class. The goals of this course are to survey the history of English literature on (post)humanism, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD (文学 / Literature 200)

**英米文学講義 II B**

田中 裕希

授業コード：A2910 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

英語圏の詩を精読し、翻訳することで、英詩の特徴と伝統を概観する。また授業では学生の翻訳を合評する機会を設け、英詩を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。

**【到達目標】**

英語圏の詩を精読し、英詩の特徴を学ぶ。また英詩を和訳することで、能動的に詩を理解し、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。言葉の意味や音楽性に敏感になり、英語文学の読解力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ              | 内容             |
|------|------------------|----------------|
| 第1回  | イントロダクション        | 英詩の特徴          |
| 第2回  | 英詩のリズム           | 韻律について         |
| 第3回  | 翻訳ワークショップ<br>(1) | リズムをどう訳すか      |
| 第4回  | "I"をどう訳すか        | 英語の"I"と日本語の「私」 |
| 第5回  | 翻訳ワークショップ<br>(2) | 人称代名詞をどう訳すか    |
| 第6回  | 英詩の形式            | Form とは        |
| 第7回  | 翻訳ワークショップ<br>(3) | 詩型をどう訳すか       |
| 第8回  | 英詩の「声」           | Voice とは       |
| 第9回  | 翻訳ワークショップ<br>(4) | 口調をどう訳すか       |
| 第10回 | 英詩の多様性           | 英詩の中の非英語       |
| 第11回 | 翻訳ワークショップ<br>(5) | 異文化をどう訳すか      |
| 第12回 | 英詩の読者            | 歴史的背景と詩        |
| 第13回 | 翻訳ワークショップ<br>(6) | 歴史をどう訳すか       |
| 第14回 | 期末試験とまとめ         | 学期のまとめ         |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

詩を翻訳し、お互いの訳文を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

授業支援システムを通じて配布。

**【参考書】**

阿部公彦『英詩のわかり方』(研究社)

**【成績評価の方法と基準】**

授業への貢献度50% (リアクションペーパー、翻訳など)

期末レポート50%

原則、未提出の課題・リアクションペーパーが計4つ以上で単位取得資格を失う。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline (in English)】**

In this course, we will read English-language poetry. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be determined based on weekly responses and assignments (50%) and the final paper (50%).



LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## 英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

### 【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。また、英語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容                |
|------|----------|-------------------|
| 第1回  | ガイダンス    | 授業の内容や、進め方についての説明 |
| 第2回  | 英文法の問題   | 実際に英語の問題を解いてみよう   |
| 第3回  | 品詞       | 英語の品詞について         |
| 第4回  | 英語の文型    | 5文型の分析            |
| 第5回  | 自動詞と他動詞  | 他動性について           |
| 第6回  | 意味役割     | 意味役割とは何か          |
| 第7回  | テンス（1）   | 現在時制              |
| 第8回  | テンス（2）   | 過去時制と未来表現         |
| 第9回  | アスペクト（1） | 進行相               |
| 第10回 | アスペクト（2） | 完了相               |
| 第11回 | 態        | 受動態               |
| 第12回 | モダリティ（1） | 法助動詞              |
| 第13回 | モダリティ（2） | 準助動詞              |
| 第14回 | 期末試験     | 試験・まとめと解説         |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

畠山雄二『大学で教える英文法』くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。  
期末試験60%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

**英語学講義 B**

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

**【到達目標】**

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語学講義Bの授業では、認知言語学や英語の代表的な構文についての知識を持てるようになります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的には、パワーポイントを用いて講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ      | 内容              |
|------|----------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス    | 授業の進め方と内容について   |
| 第2回  | 日英語比較    | 事態把握            |
| 第3回  | 認知言語学（1） | メタファー           |
| 第4回  | 認知言語学（2） | メトニミーとシネクドキ     |
| 第5回  | 認知言語学（3） | 文法化             |
| 第6回  | 談話標識     | 談話標識の分析         |
| 第7回  | 不定詞（1）   | 不定詞節            |
| 第8回  | 不定詞（2）   | 繰り上げ動詞とコントロール動詞 |
| 第9回  | 動名詞      | 名詞的動名詞と動詞的動名詞   |
| 第10回 | 不定詞と動名詞  | 不定詞と動名詞の意味      |
| 第11回 | There構文  | There構文の特徴      |
| 第12回 | 二重目的語構文  | 与格交替について        |
| 第13回 | 関係代名詞    | 関係代名詞の制約        |
| 第14回 | 期末試験     | 試験・まとめと解説       |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

畠山雄二 『大学で教える英文法』くろしお出版

**【参考書】**

適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験と平常点で、総合的に判断します。

期末試験60%、平常点40%

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていただきます。

4回以上欠席した場合はD評価となります。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures. The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## 言語学講義 I A

石川 潔

授業コード：A2913 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(英語学習者または英語教師になる人のための) 音声知覚、単語の聞き取りや文理解に関する心理言語学の入門

### 【到達目標】

(英語学習/教育にも役立つはずの) 人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得

言語研究にも役立つけど、**社会人一般にも役立つ**、データ分析の基礎</li>

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、実習(やグループ・ディスカッション?)を行う回もある予定です。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です(フィードバック方法は内容/分量によります)。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                     | 内容                                                 |
|------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入                                                      | 授業全体の説明                                            |
| 第2回  | <i>Olympic</i> を片仮名表記するとしたら、「オリンピック」と「オリムピック」の、どっちにすべき? | 人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その1)                 |
| 第3回  | <i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れないで発音できる?            | 人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その2)                 |
| 第4回  | 「しおり」は可愛い……のかな? 比較対象は?                                  | 実験と統計分析の必要性: 統制条件、仮説と予測                            |
| 第5回  | 強形と弱形                                                   | <b>syllable</b> の概念が必要な理由、英語の <b>stress</b> の物理的実体 |
| 第6回  | 英語のリズム                                                  | 知識を得た上で、聞き取り実習                                     |
| 第7回  | 英語のLとR、聞き分けられる?                                         | フォルマント(遷移)の概念                                      |
| 第8回  | 英語その他での「有声・無声」の違い                                       | VOTの概念                                             |
| 第9回  | 音響情報のままには聞き取れない場合                                       | 語彙効果など                                             |
| 第10回 | 「発音できたら聞き取れるようになる」って本当?                                 | <b>Motor Theory</b> が解決してくれる/くれないこと                |
| 第11回 | その単語、どういう意味?(その1)                                       | 意味プライミング(その1): 単語検索                                |
| 第12回 | その単語、どういう意味?(その2)                                       | 意味プライミング(その2): <b>ambiguity resolution</b>         |
| 第13回 | 単語が聞き取れない!!                                             | 単語認識の諸モデル                                          |
| 第14回 | 全体のまとめ                                                  | 全体のまとめ                                             |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください(理由は授業を受ければわかる…はず)。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

学習支援システムにて資料配布。

### 【参考書】

適宜、指示。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

### 【学生の意見等からの気づき】

構造化を心掛け、「全体の中のどこを今やっているか」が常に意識できるようにしたいと思っています。

### 【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

### 【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception, auditory word recognition and sentence processing (for English learners as well as prospective teachers of English).

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing on the other.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English! (Why sing? Well, join the class to find out!)

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

**言語学講義 I B**

石川 潔

授業コード：A2914 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

**【Outline (in English)】**

(Course outline) Comparisons of English and Japanese "grammars."  
 (Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.  
 (Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.  
 (Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

英語と日本語を「文法」の面から比較します。

**【到達目標】**

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

主として講義の予定です。  
 リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。  
 学生の理解度や要望などに応じて、計画は柔軟に変えたいと思います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                          |
|------|-----------------------|-----------------------------|
| 第1回  | 英語の「助動詞」って何なのか、改めて考える | 統語論的な規則性と意味的な「直感」とのズレ       |
| 第2回  | 英語の「主語」、日本語の「主語」      | 「主語」は、「行為をする人」という意味では、ないです。 |
| 第3回  | 英語の時制とアスペクト1          | 述語の2分類                      |
| 第4回  | 英語の時制とアスペクト2          | 英語の進行形の基本                   |
| 第5回  | 英語の時制とアスペクト3          | 英語の進行形の応用                   |
| 第6回  | 英語の時制とアスペクト4          | 英語に「未来形」ってあるのか？             |
| 第7回  | 英語の時制とアスペクト5          | 英語の完了形の基本                   |
| 第8回  | 英語の時制とアスペクト6          | 英語の完了形の応用                   |
| 第9回  | 日本語の時制とアスペクト1         | 日本語に「現在形・過去形」はない？           |
| 第10回 | 日本語の時制とアスペクト2         | telicity                    |
| 第11回 | 日本語の時制とアスペクト3         | 主観 対 客観                     |
| 第12回 | 日本語の時制とアスペクト4         | 絶対テンス 対 相対テンス               |
| 第13回 | 日本語の時制とアスペクト5         | テイルの意味 (基本編)                |
| 第14回 | まとめ                   | 全体のまとめ                      |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

日英語の文法比較のうち授業でカバーできるのは、ごく一部ですが、授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、見つけてください (きっと見つかるはず)。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ (有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれば、平常点に大幅加点となります)。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

学習支援システムにて教材配信。

**【参考書】**

教材に記載。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30%、期末試験 70%。  
 公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

**【学生の意見等からの気づき】**

構造化を心掛け、「全体の中のどこを今やっているか」が常に意識できるようにしたいと思っています。

**【その他の重要事項】**

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## 言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。春学期はとくに形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学を概観します。

### 【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容            |
|------|----------|---------------|
| 第1回  | 導入       | 導入と授業のポリシーの説明 |
| 第2回  | 形態論(1)   | 形態素の種類        |
| 第3回  | 形態論(2)   | 派生と語の内部構造     |
| 第4回  | 形態論(3)   | 造語            |
| 第5回  | 統語論(1)   | 文の構成素分析       |
| 第6回  | 統語論(2)   | 句構造規則で文を作る    |
| 第7回  | 統語論(3)   | 変形規則で文を変える    |
| 第8回  | 意味論(1)   | 語、句、文の意味      |
| 第9回  | 意味論(2)   | 直喩、隠喩、換喩      |
| 第10回 | 語用論(1)   | 協調の原理と会話の公理   |
| 第11回 | 語用論(2)   | 発話行為、ポライトネス   |
| 第12回 | 社会言語学(1) | 地域や人種による言語の変異 |
| 第13回 | 社会言語学(2) | ジェンダーと言語      |
| 第14回 | 春学期のまとめ  | まとめ           |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

### 【テキスト (教科書)】

こちらでプリントを用意します。

### 【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006  
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

### 【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

**言語学講義Ⅱ B**

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。秋学期はとくに音声学、音韻論、歴史言語学、心理言語学を概観します。

**【到達目標】**

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容             |
|------|----------|----------------|
| 第1回  | 導入       | 導入と授業のポリシーの説明  |
| 第2回  | 音声学(1)   | 母音、子音          |
| 第3回  | 音声学(2)   | 自然類            |
| 第4回  | 音韻論(1)   | 弁別素性           |
| 第5回  | 音韻論(2)   | 音素と異音          |
| 第6回  | 音韻論(3)   | 音韻規則           |
| 第7回  | 音韻論(4)   | 強勢             |
| 第8回  | 歴史言語学(1) | イギリス史、語彙変化     |
| 第9回  | 歴史言語学(2) | 音声変化、統語変化、意味変化 |
| 第10回 | 歴史言語学(3) | 言語の系統          |
| 第11回 | 心理言語学(1) | 文の解析           |
| 第12回 | 心理言語学(2) | 言語習得           |
| 第13回 | 機能主義     | 機能主義的な文法現象の説明  |
| 第14回 | 秋学期のまとめ  | まとめ            |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

**【テキスト（教科書）】**

こちらでプリントを用意します。

**【参考書】**

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006  
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

**【Outline (in English)】**

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

## 英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

**Learning Objectives:** The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

**Learning activities outside of classroom:** It is necessary to review the class each time. Students are expected to study at least 4 hours a week outside of classroom.

**Grading Criteria /Policy:** Final exam 100%

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学び、日本語・英語の基礎的な音声・音韻構造の知識を身につけることを目的とします。

### 【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号 (IPA) などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                        |
|------|--------------|---------------------------|
| 第1回  | 「音声学」とは？     | 調音・聴覚・音響音声学について           |
| 第2回  | 発声・調音 (1)    | 呼吸、発声・構音                  |
| 第3回  | 発声・調音 (2)    | 調音器官                      |
| 第4回  | 音とシンボル (1)   | 国際音声記号 (子音)               |
| 第5回  | 音とシンボル (2)   | 国際音声記号 (母音)               |
| 第6回  | 音声学の基本概念     | 音素と異音、相補分布                |
| 第7回  | 気音と VOT      | 音素、VOT と範疇知覚              |
| 第8回  | 日本語の音声変化 (1) | サ行・ハ行                     |
| 第9回  | 日本語の音声変化 (2) | 母音変化、英語習得への転移             |
| 第10回 | 音とまとまり (1)   | 聞こえ度・音節構造                 |
| 第11回 | 音とまとまり (2)   | 英語の音節構造                   |
| 第12回 | 音とまとまり (3)   | 音節構造の日英比較                 |
| 第13回 | 音節構造と音声変化    | 英語の /l/                   |
| 第14回 | まとめ          | 基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

### 【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が理解を深められるよう、練習問題を時折、配布し、進めてまいります。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。配付資料閲覧のためにはPDFやWebサイト閲覧のための情報機器が必要です。

### 【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学B」と連続履修して下さい。

### 【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

**英語音声学 B**

川崎 貴子

授業コード：A2920 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「英語音声学A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。日本語と英語の音声学・音韻論の基礎知識を習得し、日本語と英語の音声学・音韻論の違いが日本語母語話者の英語学習にどのような影響を与えるかを理解することを目標とします。

**【到達目標】**

この授業では、「英語音声学A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ           | 内容                      |
|------|---------------|-------------------------|
| 第1回  | 音声学の基礎 (1)    | 日・英の子音・母音               |
| 第2回  | 音声学の基礎 (2)    | 音節構造・モーラなど              |
| 第3回  | 音声規則 (1)      | 音素・音声変化の記述              |
| 第4回  | 音声規則 (2)      | 英語の音声変化—気音化             |
| 第5回  | 音声規則 (3)      | 英語の音声変化—flapping        |
| 第6回  | モーラと母音        | Minimal word と英語の母音     |
| 第7回  | 日本語のプロソディー    | モーラとアクセント               |
| 第8回  | 英語のプロソディー (1) | 英語の音節タイプとストレス           |
| 第9回  | 英語のプロソディー (2) | 英語のストレスルール              |
| 第10回 | 借用語と音韻変化      | 借用過程における変化              |
| 第11回 | 日本語のアクセント     | アクセントと意味変化              |
| 第12回 | 外来語とアクセント     | 外来語アクセント規則              |
| 第13回 | ESL データ分析     | 日本語話者による英語発話エラー分析       |
| 第14回 | まとめ           | 音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題 |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学A」の内容を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

**【参考書】**

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験 ...100%

**【学生の意見等からの気づき】**

身近な例を取り上げることで興味を持っていただくことが出来たかと思えます。様々な例を取り上げられるよう工夫したいと思えます。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。配付資料閲覧のためにはPDFやWebサイト閲覧のための情報機器が必要です。

**【その他の重要事項】**

この授業の内容は「英語音声学A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学A」(木曜日)と連続履修して下さい。

**【Outline (in English)】**

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetics and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%



LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 英語・言語学特殊講義 A

塩田 雄大

授業コード：A2923 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。当講義では、この前者と後者を行きつ戻りつしながら、日本語学そして言語学の一部を(広く薄く)概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは非常に多岐にわたり、音声言語(音声日本語)に限らず、視覚言語(日本手話)についても考察を進める。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことは使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。(履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある)

### 【到達目標】

日本語学的・言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけでなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                  | 内容                                 |
|------|--------------------------------------|------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                                | 講義全般の説明                            |
| 第2回  | 標準語と方言／国家と言語                         | 標準語とは、方言とは、いったい何か<br>ほか            |
| 第3回  | バイリンガリズム／外国語教育                       | 英語公用語論、英語帝国主義<br>ほか                |
| 第4回  | 言語と文化／メディアのことば                       | 言語は思考を(どの程度)規定するか<br>ほか            |
| 第5回  | 法と言語／言語障害                            | 法律や犯罪にかかわる言語学<br>ほか                |
| 第6回  | 音声日本語と日本手話の言語学的・社会言語学的特徴／多言語社会としての日本 | 手話は世界共通か<br>ほか                     |
| 第7回  | 音声日本語と日本手話の文法                        | 手話に「文法」はあるのか<br>ほか                 |
| 第8回  | 言語習得                                 | 「違ってたって」はおかしいか<br>ほか               |
| 第9回  | 文字の把握                                | 鏡文字の諸問題<br>ほか                      |
| 第10回 | 主語・主題・目的語                            | 日本語に主語や目的語は必要か<br>ほか               |
| 第11回 | 日本語と曖昧性                              | 「私が住んでいた市ヶ谷のファミレスで会った」はおかしいか<br>ほか |
| 第12回 | 促音                                   | 「ママ」「イッス」はなぜ発音しにくい<br>か<br>ほか      |
| 第13回 | メンタルレキシコン／語用論                        | 「テベリ見る？」の言語学<br>ほか                 |
| 第14回 | ふりかえり                                | 講義の総括                              |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題の事前準備(テキスト該当箇所の要約および批判的検討)・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間(標準的には4時間以上)が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

### 【テキスト(教科書)】

『ことばの力学 - 応用言語学への招待』(白井恭弘、岩波書店、2013年、968円(電子版は792円))  
<https://www.iwanami.co.jp/book/b226206.html>

『子どもに学ぶ 言葉の認知科学』(広瀬友紀、筑摩書房、2022年、946円(電子版は825円))  
<https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480074935/>

※上記2冊、履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

### 【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後には三千円以上の損をすることになる。

- 『新世代の言語学 - 社会・文化・言語をつなぐもの』(飯野公一ほか編著、くろしお出版、2003年、1,980円)
- 『その一言が余計です。』(山田敏弘、筑摩書房、2013年、電子版825円)
- 『改訂新版 はじめての手話』(木村晴美・市田泰弘、生活書院、2014年、1650円)

### 【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の事前準備課題 30%
- ・最終レポート 70%

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

### 【学生の意見等からの気づき】

(本年度授業担当者変更によりフィードバックできません)

### 【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい(スマホのみだと配付資料が読みにくいはず)。

### 【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上で随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。

▼耳の聞こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

### 【Outline (in English)】

\*\* Course outline \*\*

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". This lecture attempts to give an overview of some aspects of (Japanese) linguistics, moving back and forth between the former and the latter.

The topics covered in this lecture are very diverse, and are not limited to spoken language (spoken Japanese), but also include visual language (Japanese Sign Language).

\*\* Learning Objectives \*\*

The students are expected to be able to see and think about things in terms of (Japanese) linguistics.

\*\* Learning activities outside of classroom \*\*

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (summarizing and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically 4 hours or more) will be required for preparation each time.

\*\* Grading Criteria /Policy \*\*

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 英語・言語学特殊講義 B

塩田 雄大

授業コード：A2924 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、各言語のいわゆる「標準語」に焦点を当てて分析を進める姿勢がある。しかし、当然のことだが、各言語は「標準語」だけから成り立つものではない。当講義では、日本語の「標準語」と「方言」の両方を射程に入れて、おもに音声面および文法面の特性の一端を概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは、音声および文法に関して多岐にわたる。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」の標準語・方言の使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。(履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある)

## 【到達目標】

標準語および方言を視野に入れた「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけでなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。

課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                               |
|------|-----------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス     | 講義全般の説明、基本的な問題の提示                |
| 第2回  | 母音と子音     | 発音のしくみ ほか                        |
| 第3回  | 五十音図と特殊拍  | 「ん」とは、「っ」とはどんな音か ほか              |
| 第4回  | アクセント     | 「箸を持って橋の端を渡る」はどう発音するか ほか         |
| 第5回  | 形態素       | 「酒（さけ）」と「酒屋（さかや）」の形態論 ほか         |
| 第6回  | 語と句       | 「古い新聞」と「古新聞」は同じか ほか              |
| 第7回  | 格ととりたて    | 「屋根まで飛んだ」は何が飛んだのか ほか             |
| 第8回  | 複文        | 「ボタンを〔押せば／押すと／押したら〕ジュースが出てくる」 ほか |
| 第9回  | 活用        | 「早く〔しゃべれ／しゃべろ〕」 ほか               |
| 第10回 | ヴォイス      | 「恋人にふられた」と「雨に降られた」 ほか            |
| 第11回 | アスペクト、テンス | 「このあと、授業あった？」は過去形なのか ほか          |
| 第12回 | モダリティ     | 話し手の「気持ち」を表す言語要素 ほか              |
| 第13回 | 待遇表現      | 敬語の体系 ほか                         |
| 第14回 | ふりかえり     | 講義の総括                            |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の課題回答と批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

## 【テキスト（教科書）】

『ワークブック 方言で考える日本語学』（松丸真大ほか、くろしお出版、2023年、1650円）

[https://www.9640.jp/book\\_view/?934](https://www.9640.jp/book_view/?934)

※履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

## 【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

- (1) 『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013年、1,800円＋税）
- (2) 『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか編著、ミネルヴァ書房、2016年、2,800円＋税）
- (3) 『実践方言学講座 第1巻 社会の活性化と方言』（半沢康・新井小枝子編著、くろしお出版、2020年、4,300円＋税）

- (4) 『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991年、1,893円＋税）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の事前準備課題 30%
- ・最終レポート 70%

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

(本年度授業担当者変更によりフィードバックできません)

## 【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい（スマホのみだと配付資料が読みにくいはず）。

## 【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上で随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。また、首都圏以外の地域の方言を持つ学生は特に積極的に履修してほしい。

▼耳の聴こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

## 【Outline (in English)】

\*\* Course outline \*\*

One perspective on studying languages is to focus on the so-called 'standard language' of each language. However, as a matter of course, each language does not consist only of a 'standard language'. This lecture attempts to give an overview of some of the main phonetic and grammatical characteristics of both the 'standard' and 'dialects' of the Japanese language.

\*\* Learning Objectives \*\*

The students are expected to be able to 'see and think things' with a view to standard and dialectal languages.

\*\* Learning activities outside of classroom \*\*

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (answering the assignments and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically

4 hours or more) will be required for preparation each time.

\*\* Grading Criteria /Policy \*\*

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not

allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

## 英語学演習(1) A

福元 広二

授業コード：A2935 | 曜日・時限：火5/Tue.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語学に関する教科書を読み、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。教科書や参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

### 【到達目標】

この授業を受講することで、学生は既存の学説を受け入れるだけでなく批判的に学ぶことができるようになります。自らの『仮説』を立て、その正しさを証明していく手順を身につけることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、英語コーパスに関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個人に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関する指導も予定しています。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                  |
|------|---------------------|---------------------|
| 第1回  | ガイダンス               | 授業の進め方について          |
| 第2回  | 卒論準備(1)             | 卒論テーマと先行研究について発表(1) |
| 第3回  | 卒論準備(2)             | 卒論テーマと先行研究について発表(2) |
| 第4回  | 教科書<br>プレゼンテーション(1) | 第1章 pp. 1-10        |
| 第5回  | 教科書<br>プレゼンテーション(2) | 第1章 pp.11-23        |
| 第6回  | 教科書<br>プレゼンテーション(3) | 第2章 pp. 25-37       |
| 第7回  | 教科書<br>プレゼンテーション(4) | 第2章 pp. 38-50       |
| 第8回  | 教科書<br>プレゼンテーション(5) | 第3章 pp. 52-60       |
| 第9回  | 教科書<br>プレゼンテーション(6) | 第3章 pp. 61-71       |
| 第10回 | 教科書<br>プレゼンテーション(7) | 第4章 pp. 72-79       |
| 第11回 | 教科書<br>プレゼンテーション(8) | 第4章 pp. 80-89       |
| 第12回 | プレゼンテーション(2)        | 3年生の研究発表(1) 前半      |
| 第13回 | プレゼンテーション(3)        | 3年生の研究発表(2) 後半      |
| 第14回 | 春学期のまとめ             | まとめ                 |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で取り上げる教科書や論文などに関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむことが必要です。また、担当者でない場合も必ず予習してきてください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。

辞書を常に手元に置いて活用すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

Lindquist, Hans (2018) Corpus Linguistics and the Description of English (Edinburgh University Press)

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー40%、平常点60%)

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるようにしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容を見るとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則としてA・Bと通年で履修してください。

また、4年生の卒業論文に関しての重要な連絡や全般的な注意事項の指導などは、この授業を通じて行います。各自留意してください。

初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。

・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。

4回以上欠席した場合はD評価となります。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop students' research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically. This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to analyze English sentences.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grades will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

**英語学演習(1) B**

福元 広二

授業コード：A2936 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

英語学に関する教科書を読み、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。教科書や参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

**【到達目標】**

この授業を受講することで、学生は既存の学説を受け入れるだけでなく批判的に学ぶことができるようになります。自らの『仮説』を立て、その正しさを証明していく手順を身につけることができるようになります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、英語学に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個人に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関する指導も予定しています。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHOPPIIで連絡します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                 | 内容                       |
|------|---------------------|--------------------------|
| 第1回  | ガイダンス               | 授業の進め方について               |
| 第2回  | プレゼンテーション(1)        | 5章 pp. 90-96             |
| 第3回  | プレゼンテーション(2)        | 5章 pp. 97-109            |
| 第4回  | プレゼンテーション(3)        | 6章 pp. 111-122           |
| 第5回  | プレゼンテーション(4)        | 6章 pp. 123-135           |
| 第6回  | プレゼンテーション(5)        | 7章 pp. 137-143           |
| 第7回  | プレゼンテーション(6)        | 論文精読(1)                  |
| 第8回  | プレゼンテーション(7)        | 論文精読(2)                  |
| 第9回  | プレゼンテーション(8)        | 7章 pp. 144-155           |
| 第10回 | プレゼンテーション(9)        | 8章 pp. 156-165           |
| 第11回 | プレゼンテーション(10)       | 8章 pp. 166-172           |
| 第12回 | プレゼンテーション(11)       | 3年生の研究発表(1)              |
| 第13回 | プレゼンテーション(12)       | 3年生の研究発表(2)<br>卒論についての説明 |
| 第14回 | 秋学期のまとめ<br>4年 卒論発表会 | 授業の総まとめ<br>4年 卒論発表会      |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

担当者になった場合、割り当てられた教科書や論文は精密に読んで、授業に臨むことが大事です。他のゼミ生からの質問に答えられるようにあらゆる角度から準備しておくことを心がけてください。

担当でない場合でも、必ず、事前に予習しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**Lindquist, Hans (2018) *Corpus Linguistics and the Description of English* (Edinburgh University Press)**【参考書】**

適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー40%、平常点60%)

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッションの時間をなるべく多くとるようにしたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容を見るとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則としてA・Bと通年で履修してください。

授業を通しての卒業論文に関する連絡事項も増えていくので、授業は必ず出席すること。

初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。

・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。

・4回以上欠席した場合はD評価となります。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to develop students' research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically.

This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to analyze English sentences.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grades will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

## 英語学演習(2) A

椎名 美智

授業コード：A2937 | 曜日・時限：木5/Thu.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習では、「語用論」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

### 【到達目標】

この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的には対面です。変更する場合は、Hoppiiで連絡します。担当を決めるので、履修する学生は必ず出席してください。ワークショップ方式の授業なので、基本的に学生の主体的な活動を中心に進んでいきます。毎時間、教員がテキストの担当箇所を概説し指示をするので、学生はその指示に従って、自分のコミュニケーションについて自分なりに考えて、それを論述・記述していきます。初回に履修ガイダンスをしますので、必ず第一回目の授業に出席してください。オフィスアワーに、研究の仕方、レポートのコンサルテーションをします。学期末には、自分の研究論文が仕上がっているように指導していきます。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                     | 内容                                       |
|------|---------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                                               | 研究領域の概説と履修条件について                         |
| 第2回  | Chapter 1: Greeting                                     | 語用論の理論の概説と演習                             |
| 第3回  | Chapter 2: Communicative competence                     | 学生による演習と議論                               |
| 第4回  | Chapter 3: What is pragmatics?                          | 学生による演習と議論                               |
| 第5回  | Chapter 4: Speech acts                                  | 学生による演習と議論                               |
| 第6回  | Chapter 5: Research 1: A speech act, apology            | 学生による演習と議論                               |
| 第7回  | Chapter 6: Conversational implicature                   | 学生による演習と議論                               |
| 第8回  | Chapter 7: Indirect speech acts                         | 学生による演習と議論                               |
| 第9回  | Revision                                                | ここまでやったことを振り返る                           |
| 第10回 | Chapter 8: Politeness (1): flouting rules of politeness | 学生による演習と議論                               |
| 第11回 | Chapter 9: Politeness (2): politeness principle         | 学生による演習と議論                               |
| 第12回 | Chapter 10: Politeness in Making a request              | 学生による演習と議論                               |
| 第13回 | Chapter 11: Cross-cultural pragmatics                   | 学生による演習と議論                               |
| 第14回 | Chapter 12: Conducting Research                         | 春学期のまとめ、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説 |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

学生は、授業で扱う予定の箇所を必ず読んで予習をして授業に臨む必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

田中典子著『Pragmatics Workshop- プラグマティックス・ワークショップ : 身のまわりの言葉を語用論的に見る』春風社

各自、アマゾン等で入手してください。他にも日本語のテキストを使う予定です。

【参考書】

語用論に関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席は毎回とります。3回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。授業への貢献(発表、発言など)20%、レポート80%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき4年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、3年生の相談にも喜んでのりまでするので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】

単位取得のためには、必ず秋学期の英語学演習(2)Bを引き続き履修しなければなりません。

また椎名に卒論を指導してほしい4年生は、単位に関係なく必ず履修してください。この演習は卒論指導に関して学生と教員が連絡をとる場でもあります。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。よって、木曜6限も空けておいてください。積極的にゼミとゼミ関連の活動に参加する学生にだけ履修してほしいタイプのゼミです。

オフィスアワーは木曜4限です。事前に予約メールをください。授業で詳しく説明します。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on pragmatics and discourse analysis. The students are required to read the text before and after the class. By the end of the semester, the students will have enough linguistic knowledge on pragmatics and adequate skills to analyze their own communication in everyday life.

The evaluation will be based on the contribution to the class (20%) and the term end report (80%).

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

**英語学演習(2) B**

椎名 美智

授業コード：A2938 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この演習では、春学期に学んだことを元にして、インボライトネスについて学び、様々なインボライトな言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

**【到達目標】**

この演習の目標は、まずボライトネスの理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

春学期のワークショップを基に、毎時間、テキストの担当者を決めて、3人ずつ発表してもらいます。担当の学生に全文を和訳してもらおうことになると思います。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で15分～20分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をします。

学生の要望があれば、ゲスト・スピーカーにコミュニケーションについてレクチャーをしてもらい、学生がプロジェクト発表をする機会を設けることもあります。

オフィスアワーに、勉強の仕方、発表の内容、レポートのコンサルテーションをします。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

授業の形態については、コロナ禍によって変更する可能性があります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                              | 内容                                                  |
|------|----------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                        | 春学期の復習と担当箇所の決定                                      |
| 第2回  | インボライトネス研究                       | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第3回  | 日本（語）でインボライトネス研究が必要な理由           | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第4回  | 対立場面におけるイン／ボライトネス分析              | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第5回  | 感情と品行のフェイスワーク                    | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第6回  | バラエティ番組における毒舌トーク                 | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第7回  | 擬似インボライトネス                       | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第8回  | 身体政治・ジェンダー・イン／ボライトネス（1）          | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第9回  | 身体政治・ジェンダー・イン／ボライトネス（2）：ケース・スタディ | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第10回 | 文学作品に見るイン／ボライトネス：夏目漱石の場合         | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第11回 | 文学作品に見るイン／ボライトネス：シェイクスピア時代のコメディ  | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第12回 | 文学作品に見るイン／ボライトネス：志賀直哉の場合         | 学生による発表とディスカッション                                    |
| 第13回 | 卒論発表会（1）                         | 4年生による卒論発表とフィードバック                                  |
| 第14回 | 卒論発表会（2）                         | 4年生による卒論発表とフィードバック、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説 |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で扱う予定の箇所を目を通してきてください。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

滝浦真人・椎名美智（共編）『イン／ボライトネスからまる善意と悪意』（ひつじ書房）

**【参考書】**

語用論、イン／ボライトネスに関する文献を適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

出席は毎回とります。3回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表2割、レポート8割で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき4年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、3年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、ハンドアウト

**【その他の重要事項】**

・単位取得のためには、必ず春学期の英語学演習(2)Aを前もって履修しておかなければなりません。秋学期のみの単独の履修はできません。

・椎名に卒論指導を希望する4年生は、単位に関係なく必ず履修してください。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。また最終の二回の授業は4年生による卒論発表会です。全員からもらうフィードバックは論文を仕上げるための重要なヒントになります。ゼミのコンパへの参加は重要です。

・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on pragmatics with a special focus on im/politeness by watching im/polite discourses.

The goal of this class is to be able to read academic papers critically and the final goal is to apply the methodology that is learned in the class to their own research project and write an academic essay at the end of the term.

Students need to read the chapter before attending the class and review it after the class.

The grade includes presentation (20%) and the term end paper (80%). Those who are absent from the class three times will lose attendance qualification.

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

## 言語学演習(1) A

石川 潔

授業コード：A2939 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

言語研究の様々な分野を見ます。この学期は、

A：形態論に関する実験

B：英語の **uptalk** (文末上昇調) に関する論文

を取り上げます。Aでは、「規則動詞」というものが持つ心理学的な意味合いを実際の実験実施を通して探り、Bでは、南カリフォルニア英語における談話機能および性別による違いを見る予定です。

### 【到達目標】

実験実施方法および統計分析のごく入門レベルの知識の獲得

英語のプロツディのごく初歩的な知識の獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自の卒論計画の発表、実験実施と結果の分析と議論、論文の輪読を行います (一部、講義あり)。

授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表・実習がメインです。それぞれの発表にはコメントを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                            | 内容                                       |
|------|--------------------------------|------------------------------------------|
| 第1回  | 導入                             | 理論研究、調査研究、実験研究の違い                        |
| 第2回  | 言語学文献研究                        | ビブリオ・バトル                                 |
| 第3回  | 図書館ガイダンス (日程変更の可能性、大)          | 文献検索の仕方など                                |
| 第4回  | 4年生の卒論テーマ発表                    | 問い+研究方法の発表                               |
| 第5回  | 4年生以外の「疑問」の発表                  | 問いへのコメント、そして研究方法についてのヘルプを求める             |
| 第6回  | <i>wug test</i> および日本語動詞形態論    | <i>wug test</i> (英語版) の概観と、日本語に適用する場合の配慮 |
| 第7回  | <i>wug test</i> 日本語・成人版の設計に向けて | 検定概念、3種類の検定法の概観、条件の工夫                    |
| 第8回  | <i>wug test</i> 日本語・成人版の設計     | 刺激作成、課題画面設計                              |
| 第9回  | <i>wug test</i> 日本語・成人版の分析     | 1種類目、2種類目の検定の実施                          |
| 第10回 | <b>uptalk</b> の概念              | 文末上昇イントネーションの意味機能および社会言語学的な位置づけ          |
| 第11回 | 英語のイントネーションの入門                 | <b>F0</b> の概念、周波数の「標準化」、ピッチ曲線の分析         |
| 第12回 | <b>uptalk</b> 論文の輪読開始          | <b>uptalk</b> 論文の導入部分                    |
| 第13回 | <b>uptalk</b> 発話実験の方法          | 実験参加者、刺激・課題・手続き                          |
| 第14回 | まとめ                            | 学期全体のまとめ                                 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表準備、他の人の発表にコメントできるような予習、そして復習。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教室にて配布予定。

### 【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

発表点 40%

take-home exam 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

一人一人の関心を大切にすると同時に、皆と一緒に作業・議論する機会もなるべく多く設けたいと思っています。

### 【その他の重要事項】

授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく3回を超えて欠席した場合には、D評価となります。

原則として「言語学演習(1) B」と連続履修してください。

また、大学院修士科目「言語科学方法論A」の並行履修を、強く強く推奨します。

### 【Outline (in English)】

**(Course outline)** We will conduct a Japanese version of the so-called *wug test*; analyses of the results will hopefully give us an insight of the psychological implications of the regularity/productivity of morphology. We also take a quick look at an experimental study of uptalk in Southern Californian English, which examined the effects of discourse functions and gender.

**(Learning Objectives)** To acquire a very introductory knowledge of English prosody on the one hand, and for conducting controlled experiments (as well as a statistical analysis) on the other.

**(Learning activities outside of classroom)** To prepare experimental stimuli and actually conduct an experiment; to participate in the discussion; to conduct statistical analyses; to prepare for presentations.

**(Grading Criteria/Policy)** Participation (40%); presentations (40%); take-home exam (20%)

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

## 言語学演習(1) B

石川 潔

授業コード：A2940 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

言語研究の様々な分野を見ます。この学期は、  
 A：英語の **uptalk** に関する論文 (春学期の続き)  
 B：ちょっと変わった意味論の教科書の輪読  
 C：統語論の入門を兼ねた議論  
 を取り上げます。Bでは、日本語と英語 (およびドイツ語などの諸言語) の表現の比較を行います。Cでは、文を「構成要素の構造」として捉えるべきか「述語と項の構造」として捉えるべきかを考えます。

## 【到達目標】

経験科学・実験研究のやり方の入門レベルの知識を身につける。  
 日本語への「直訳」では英語がうまく理解できないことをしっかり理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各自の卒論計画の発表、文献の輪読を行います (講義の回もあります)。  
 授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表・実習がメインです。それぞれの発表にはコメントを行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                             |
|------|-----------------------|------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入                    | 春学期の復習、および秋学期の全体の準備                            |
| 第2回  | 卒論中間発表/テーマ発表          | 4年生による発表                                       |
| 第3回  | uptalk 論文の音響データ分析方法   | 談話機能の分類およびピッチ上昇区間・幅の定め方                        |
| 第4回  | uptalk 論文の結果と考察 (その1) | 談話機能と上昇タイミング                                   |
| 第5回  | uptalk 論文の結果と考察 (その2) | 性別効果、および全体の結論                                  |
| 第6回  | 実用的な意味論入門 (その1)       | うまく翻訳が出来ない「単語」の例                               |
| 第7回  | 実用的な意味論入門 (その2)       | うまく翻訳が出来ない「連語」の例                               |
| 第8回  | 実用的な意味論入門 (その3)       | うまく翻訳が出来ない「呼びかけ」の例                             |
| 第9回  | 実用的な意味論入門 (その4)       | うまく翻訳が出来ない「構文」の例                               |
| 第10回 | 実用的な意味論入門 (その5)       | binding 編                                      |
| 第11回 | 統語論の2つの流儀             | constituency vs. grammatical function/relation |
| 第12回 | 4年生の卒論のための時間          | 卒論のための実験の実施                                    |
| 第13回 | 言語学文献研究               | ビブリオ・バトル                                       |
| 第14回 | まとめ                   | 全体のまとめ                                         |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表準備、他の人の発表にコメントできるような予習、そして復習。  
 なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

教室にて配布します。

## 【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

発表・実習参加点 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

一人一人の関心を大切にすると同時に、皆で一緒に作業する機会も設けたいと思っております。

## 【その他の重要事項】

授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。  
 事前に連絡なく3回を超えて欠席した場合には、D評価となります。

原則として「言語学演習(1) A」と連続履修してください。欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡してください。

## 【Outline (in English)】

**(Course outline)** A continued quick look at an experimental study of uptalk in Southern Californian English, semantic comparisons between various lexical items and grammatical constructions through English and Japanese (and other languages including German), and a discussion of whether a sentence should be conceived of in terms of constituent structure or predicate-argument structure.

**(Learning Objectives)** To acquire some general knowledge of empirical and experimental research; to get a better idea of the gaps between English and Japanese conceptual categorizations.

**(Learning activities outside of classroom)** To prepare for presentation; to participate in the discussions.

**(Grading Criteria /Policy)** Participation (50%); presentations (50%)



LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 言語学演習(2) A

川崎 貴子

授業コード：A2941 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人が知らず知らずのうちにやっている言語処理や言語習得を、身近な事例を通して学びます。言語学・言語習得に関する論文を読み、発表することにより、言語学・言語習得の分野の研究手法を学ぶことを目的とします。

### 【到達目標】

音声学・音韻論・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の周りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。自らの研究・調査内容を、十分に理解し、他者に分かりやすく提示する力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員、およびテーマによってはゼミ生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                         |
|------|---------------------|----------------------------|
| 第1回  | 導入                  | 授業の説明・自己紹介                 |
| 第2回  | テーマ紹介               | 自己紹介プレゼン・研究テーマ紹介           |
| 第3回  | 音声による言語処理           | 音声・音韻論についての基本講義(1)         |
| 第4回  | 音声による言語処理(2)        | 音声・音韻論と言語処理について一論文発表(1)    |
| 第5回  | 音声による言語処理(3)        | 音声・音韻論と言語処理について一論文発表(2)    |
| 第6回  | 第二言語と音声コミュニケーション(1) | 学生による発表(L2と音声コミュニケーション)(1) |
| 第7回  | 第二言語と音声コミュニケーション(2) | 学生による発表(L2と音声コミュニケーション)(2) |
| 第8回  | 第二言語と音声コミュニケーション(3) | 学生による発表(L2と音声コミュニケーション)(3) |
| 第9回  | 言語学文献研究1            | ビブリオバトル1                   |
| 第10回 | 言語学文献研究2            | ビブリオバトル2                   |
| 第11回 | グループ発表準備            | 選択した論文のポスター発表準備            |
| 第12回 | グループごとのポスター発表       | 選択した論文のポスター発表準備            |
| 第13回 | 卒論テーマ発表1            | 4年生による卒論テーマ発表              |
| 第14回 | 卒論テーマ発表2            | 4年生による卒論テーマ発表              |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

-発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自2度の発表回数があります。(自己紹介を除く。)

-授業で指示される文献を読んできていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

読むべき論文は授業内で指示します。

### 【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献・・・30%

授業内発表・・・40%

課題・・・30%

発表資料などは授業課題とします。期限内に必ず提出してください。

●遅刻・欠席は必ずメールにてご連絡ください。

●事前に連絡なく3回を超えて欠席した場合には、D評価となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループ発表でより良い研究手法を話し合うことが卒論にも生きてきたのではないかと思います。引き続きより効果的な議論の方法を考えていきたいと思えます。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoomで授業を行うことがあります。

### 【その他の重要事項】

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・ゼミ生(演習受講生)は授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。

・原則として、所属生のみ履修可です。

・言語学演習(2)Bと連続して履修して下さい。

### 【Outline (in English)】

The goal of this course is to provide an introduction to research methods and practices in linguistics.

Learning Objectives:

By acquiring basic knowledge of phonetics and psycholinguistics, students will acquire the ability to analyze linguistic phenomena and to present the content of their own research to others.

Students are required to spend at least four hours studying outside the classroom.

Grading Criteria:

In-class participation: 30%

Presentation: 40%

Assignments:30%

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 言語学演習(2) B

川崎 貴子

授業コード：A2942 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide an introduction to research methods and practices in linguistics.

Learning Objectives:

By acquiring basic knowledge of phonetics and psycholinguistics, students will acquire the ability to analyze linguistic phenomena and present the contents of their own research to others.

Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria:

In-class participation: 30%

Presentation: 30%

Assignments: 40%

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第二言語音韻習得・言語心理学を学びます。また、日常の言語現象を取り上げ、理論的に考えていきます。

### 【到達目標】

日常の様々な言語データを分析的に見る力を養い、卒業論文につながるテーマを見つけることを目標とします。目的・方法・結果・分析・結論という、論文の構成を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

春学期に引き続き、日常の言語現象を分析することを通じて、第二言語習得・音韻論・言語処理の基礎を学び、研究テーマを見つけていただこうと考えております。学生の発表、グループディスカッションを通して、それぞれの履修者が新たな問いを発見してくれればと思います。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                   |
|------|--------------|----------------------|
| 第1回  | L2音韻習得(1)    | L2音韻習得についての導入        |
| 第2回  | L2音韻習得(2)    | L2音韻習得についての文献調査      |
| 第3回  | 語彙記憶の調査(1)   | 語彙知識の測定方法の先行研究1      |
| 第4回  | 語彙記憶の調査(2)   | 語彙知識の測定方法の先行研究2      |
| 第5回  | 身の回りの音声イメージ  | 音象徴(音とイメージ)          |
| 第6回  | 聴覚・視覚・記憶(1)  | 3年生による発表1            |
| 第7回  | 聴覚・視覚・記憶(2)  | 3年生による発表2            |
| 第8回  | 聴覚・視覚・記憶(3)  | 3年生による発表3            |
| 第9回  | 卒論発表1        | 4年生による研究発表(1週目)      |
| 第10回 | 卒論発表2        | 4年生による研究発表(2週目)      |
| 第11回 | 教員の研究発表      | 担当教員による研究発表          |
| 第12回 | グループ研究の発表(1) | グループ研究のリハーサル・フィードバック |
| 第13回 | グループ研究の発表(2) | グループ研究               |
| 第14回 | 第二言語習得       | 音韻のL2習得・教育への応用       |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

－発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自2度の発表回数があります。担当者は発表の資料を作成する必要があります。

－毎回、授業で指示される文献を読んできて、議論に参加していただきたいと思ひます。

－本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

授業で使用する論文などは、学習支援システムにアップロードする予定です。

### 【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献・・・30%

授業内発表・・・30%

授業内課題・・・40%

といたします。

発表資料も授業課題とします。期限内に必ず提出してください。

遅刻・欠席の連絡は必ずお願いします。

事前に連絡無く3回を超えて欠席があった場合にはD評価といたします。

### 【学生の意見等からの気づき】

発表のリハーサル・修正を行う回が好評であったので、引き続き、そのような機会を設けてまいります。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoomで授業を行うことがあります。

### 【その他の重要事項】

原則として、春学期の言語学演習(2)Aと継続して履修して下さい。

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英米文学演習(1) A

渡戸 景太

授業コード：A2943 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代アメリカの文学作品やポップカルチャーについての文章を読みながら、作品の鑑賞方法と批評の書き方を学びます。扱うコンテンツは、小説、映画、漫画、ミュージカル、アニメーション、歌詞、ゲーム……と多岐にわたりますが、そのいずれもが「現代アメリカ文学」の重要な一部であることを理解し、新世代の創作原理を学びます。

### 【到達目標】

- ・自分の感想を大切にしながらも、客観的な作品評価ができるようになる。
- ・個々の作品の成立過程を、文学史や文化史を参照して調べられるようになる。
- ・アメリカ社会における「文学的なもの」の役割を理解できるようになる。
- ・現代における「芸術作品が持つ大衆性」を見抜くことができるようになる。
- ・現代における「大衆文化に潜む芸術性」を見抜くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の進行は、教員による「課題文の概説」、受講者が主体となった「課題解決型学習」、教員の指導に従って受講者が実施する「批評文の執筆」の3回を1セットとし、1学期に合計4セットを行います。提出された批評文については、まずは授業内で学生同士のフィードバックを行ない、最後に担当教員から総評を伝えます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                               | 内容                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス：現代英語圏文学における「アジア」について                                        | 受講者の自己紹介、使用する教材の説明、授業の進行方向の確認など。                                                               |
| 第2回  | (概説) Michelle Zaunerのノンフィクション <i>Crying in H Mart</i> を分析する       | 現代アメリカにおける韓国系アメリカ人作家やアーティストの仕事を参照しながら、本作を精読する。                                                 |
| 第3回  | (学習) <i>Crying in H Mart</i> から課題を探る                              | アメリカにおける BTS や <i>Squid Game</i> などの "Korean Invasion" との比較を通して、Zauner の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。 |
| 第4回  | (執筆) <i>Crying in H Mart</i> の批評文を書く                              | 概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。                                                          |
| 第5回  | (概説) Gene Luen Yang のグラフィックノベル <i>American Born Chinese</i> を分析する | 現代アメリカにおける中国系アメリカ人作家やアーティストの仕事を参照しながら、本作を精読する。                                                 |
| 第6回  | (学習) <i>American Born Chinese</i> から課題を探る                         | 同名タイトルのテレビドラマと比較することで、本作の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。                                                |
| 第7回  | (執筆) <i>American Born Chinese</i> の批評文を書く                         | 概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。                                                          |
| 第8回  | (概説) デイズニー映画 <i>Mulan</i> (実写版) を分析する                             | 同作についてのレビューを読み解きながら、アメリカ映画におけるアジア表象の現在を分析する。                                                   |
| 第9回  | (学習) <i>Mulan</i> から課題を探る                                         | 実写版をめぐる国際的な議論を整理し、かつまた、アニメーション版との差異を明らかにすることで、本作の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。                        |
| 第10回 | (執筆) <i>Mulan</i> の批評文を書く                                         | 概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。                                                          |
| 第11回 | (概説) Julie Otsuka の短編小説 "Dien Perdid" を分析する                       | 作品を精読したあと、本作についての批評文を読解する。                                                                     |
| 第12回 | (学習) "Dien Perdid" から課題を探る                                        | 日系アメリカ人の歴史と文化を参照することで本作の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。                                                 |
| 第13回 | (執筆) "Dien Perdid" の批評文を書く                                        | 概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。                                                          |
| 第14回 | まとめ                                                               | 各セットで執筆した批評文4本の中から1本を清書し、期末レポートを作成する。                                                          |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内で使用する教材データは事前にオンラインで配布しますので、「課題文の概説」の回には課題文(英語)の語彙調べを行い、「課題解決型学習」の回には参考資料の確認をし、そして「批評文の執筆」の回にはあらかじめ授業で執筆する内容を箇条書きにしておいてください(これらの作業を従前に実施するためには、2時間ほどが必要です)。また、各授業の後には、授業内容の復習(1時間)と、映像資料の視聴(1時間)を行ってください。

### 【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した印刷物をオンラインで配布しますので、授業準備の段階で各自ダウンロード/プリントアウトをして下さい。

### 【参考書】

- 1) ジーン・ルエン・ヤン著『アメリカン・ボーン・チャイニーズ：アメリカ生まれの中国人』(椎名ゆかり訳、花伝社、2022年)
- 2) ミシェル・ザウナー著『Hマートで泣きながら』(南海弘美訳、集英社、2022年)

### 【成績評価の方法と基準】

グループワークや学習状況にもとづく平常点(20%)、各セットで執筆した批評文4本の評価(40%)、最終回に作成した期末レポート(40%)を合計し、60%以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

This is an interdisciplinary course, incorporating analysis of short stories, films, lyrics, musicals, video games, and graphic novels in 20th and 21st century America.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grading shall be as follows:

- 1) Participation and discussion (20%)
- 2) Short critical essays (40%)
- 2) Term paper (40%)

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英米文学演習(1) B

波戸岡 景太

授業コード：A2944 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、現代アメリカの文学作品やポップカルチャーについての文章を読みながら、作品の鑑賞方法と批評の書き方を学びます。扱うコンテンツは、小説、映画、漫画、ミュージカル、アニメーション、歌詞、ゲーム…と多岐にわたりますが、そのいずれもが「現代アメリカ文学」の重要な一部であることを理解し、新世代の創作原理を学びます。

## 【到達目標】

- ・自分の感想を大切にしながらも、客観的な作品評価ができるようになる。
- ・個々の作品の成立過程を、文学史や文化史を参照して調べられるようになる。
- ・アメリカ社会における「文学的なるもの」の役割を理解できるようになる。
- ・現代における「芸術作品が持つ大衆性」を見抜くことができるようになる。
- ・現代における「大衆文化に潜む芸術性」を見抜くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業の進行は、教員による「課題文の概説」、受講者が主体となった「課題解決型学習」、教員の指導に従って受講者が実施する「批評文の執筆」の3回を1セットとし、1学期に合計4セットを行います。提出された批評文については、まずは授業内で学生同士のフィードバックを行ない、最後に担当教員から総評を伝えます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                               | 内容                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス：アメリカ文学とアジア系について                                             | 使用する教材の説明、授業の進め方の確認など。                     |
| 第2回  | (概説) Ruth Ozekiの小説 <i>No-No Boy</i> を分析する                         | 作品を精読したあと、本作についての批評文、ならびに作者自身のエッセイを読解する。   |
| 第3回  | (学習) <i>No-No Boy</i> から課題を採る                                     | 日系アメリカ人の歴史を調べ、本作の内容を分析した上でグループごとに発表する。     |
| 第4回  | (執筆) <i>No-No Boy</i> の批評文を書く                                     | 概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。      |
| 第5回  | (概説) George Takei (他)のグラフィックノベル <i>They Called Us Enemy</i> を分析する | 作品を精読したあと、本作についての批評文を読解する。                 |
| 第6回  | (学習) <i>They Called Us Enemy</i> から課題を採る                          | 日系アメリカ人の歴史を調査することで本作の理解を深め、グループごとに発表する。    |
| 第7回  | (執筆) <i>They Called Us Enemy</i> の批評文を書く                          | 概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。      |
| 第8回  | (概説) 映画 <i>Crazy Rich Asians</i> を分析する                            | 同作についてのレビューを読み解きながら、本作のアジア系表象を分析する。        |
| 第9回  | (学習) <i>Crazy Rich Asians</i> から課題を採る                             | 原作との比較を通して、本作の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。       |
| 第10回 | (執筆) <i>Crazy Rich Asians</i> の批評文を書く                             | 概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。      |
| 第11回 | (概説) Ted Chiangの短編小説 <i>"The Great Silence"</i> を分析する             | 作品を精読したあとに、本作についての批評文を読解する。                |
| 第12回 | (学習) <i>"The Great Silence"</i> から課題を採る                           | 絶滅のナラティブの歴史を概観しつつ本作の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。 |
| 第13回 | (執筆) <i>"The Great Silence"</i> の批評文を書く                           | 概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。      |
| 第14回 | まとめ                                                               | 各セットで執筆した批評文4本の中から1本を清書し、期末レポートを作成する。      |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で使用する教材データは事前にオンラインで配付しますので、「課題文の概説」の回には課題文(英語)の語彙調べを行い、「課題解決型学習」の回には参考資料の確認をし、そして「批評文の執筆」の回にはあらかじめ授業で執筆する内容を箇条書きにしておいてください(これらの作業を従前に実施するためには、2時間ほどが必要です)。また、各授業の後には、授業内容の復習(1時間)と、映像資料の視聴(1時間)を行ってください。

## 【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した印刷物をオンラインで配布しますので、授業準備の段階で各自ダウンロード/プリントアウトして下さい。

## 【参考書】

- 1) テッド・チャン『息吹』(大森望訳、ハヤカワ文庫、2023年)
- 2) ジョン・オカダ『ノーノー・ボーイ』(川井龍介訳、旬報社、2016年)

## 【成績評価の方法と基準】

グループワークや学習状況にもとづく平常点(20%)、各セットで執筆した批評文4本の評価(40%)、最終回に作成した期末レポート(40%)を合計し、60%以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【Outline (in English)】

This is an interdisciplinary course, incorporating analysis of short stories, films, lyrics, musicals, video games, and graphic novels in 20th and 21st century America.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grading shall be as follows:

- 1) Participation and discussion (20%)
- 2) Short critical essays (40%)
- 2) Term paper (40%)

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英米文学演習(5) A

小島 尚人

授業コード：A2951 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。春学期は、21世紀の現代アメリカを代表する作家の一人であり新たな黒人文学の旗手である Colson Whitehead のニューヨークを舞台にした作品 *Harlem Shuffle* (2021) を一学期かけて読破する。そのうえで関連するテーマを扱った映画を視聴し、比較して分析する。

### 【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- ・自分の解釈を論理的に記述することができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
- ・『ハーレム・シャッフル』について、およびその舞台ハーレムの歴史的背景について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語るようになる。
- ・アフリカン・アメリカンの文学・文化史の概略を学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメンテーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。

発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                               | 内容                                                                                               |
|-----|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス                             | 顔合わせ・自己紹介のあと、授業の進め方と発表の仕方を説明し、発表の分担を決定する                                                         |
| 第2回 | アフリカン・アメリカン文学概説講義                 | 奴隷制時代から現代のBLMに至るまでの米国の黒人文学・文化の概略を知る。特に、 <i>Harlem Shuffle</i> の舞台であるマンハッタンのハーレム地区が果たしてきた役割について学ぶ |
| 第3回 | 関連作品の読解                           | ハーレム出身の代表的な黒人文学者のひとり James Baldwin の名作短編 “Sonny’s Blues” (1957) を読んでディスカッション                     |
| 第4回 | <i>Harlem Shuffle</i> 読解① (第一部前半) | 受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説                                                            |
| 第5回 | <i>Harlem Shuffle</i> 読解② (第一部後半) | 受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説                                                            |
| 第6回 | 関連映像・音楽の視聴①                       | <i>Harlem Shuffle</i> に関連する映像作品を観たり音楽を聴いたりし、アフリカン・アメリカン文化について学ぶ                                  |
| 第7回 | <i>Harlem Shuffle</i> 読解③ (第二部前半) | 受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説                                                            |
| 第8回 | <i>Harlem Shuffle</i> 読解④ (第二部後半) | 受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説                                                            |
| 第9回 | 関連映像・音楽の視聴②                       | <i>Harlem Shuffle</i> に関連する映像作品を観たり音楽を聴いたりし、アフリカン・アメリカン文化について学ぶ                                  |

|      |                                   |                                                                 |
|------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第10回 | <i>Harlem Shuffle</i> 読解⑤ (第三部前半) | 受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説                           |
| 第11回 | <i>Harlem Shuffle</i> 読解⑥ (第三部後半) | 受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説                           |
| 第12回 | 関連映像・音楽の視聴③                       | <i>Harlem Shuffle</i> に関連する映像作品を観たり音楽を聴いたりし、アフリカン・アメリカン文化について学ぶ |
| 第13回 | 論文の読解                             | Colson Whitehead 作品についての論文を読み、小説を論じる方法について考える                   |
| 第14回 | まとめのワークショップ                       | 受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう             |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前には作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく(予習4時間以上)。授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

### 【テキスト(教科書)】

Colson Whitehead, *Harlem Shuffle*. Fleet, 2022. ISBN: 978-0708899472.

### 【参考書】

諏訪部浩一『薄れゆく境界線 現代アメリカ小説探訪』(講談社、2022年)  
松本昇(監修)、深瀬有希子・常山菜穂子・中垣恒太郎(編)『ハーレム・ルネサンス——〈ニュー・ニグロ〉の文化社会批評』  
諏訪部浩一(編)『アメリカ文学入門 [新版]』(三修社、2023年)  
杉野健太郎(編)『アメリカ文化入門 [新版]』(三修社、2023年)  
竹内里矢・山本洋平(編)『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』(ミネルヴァ書房、2021年)  
巽孝之・宇沢美子(編)『よくわかるアメリカ文化史』(ミネルヴァ書房、2020年)はか適宜授業で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・授業への貢献度(ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか)：30%
- ・プレゼンテーション(担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか)：30%
- ・4000字程度の期末レポート(自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する)：40%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが発言しやすい環境がつかれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

### 【その他の重要事項】

秋学期に英米文学演習(5)Bを履修することが望ましい。

### 【Outline (in English)】

This course is a seminar on American literature. Through the close reading of *Harlem Shuffle* and some related movies on African American culture, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way.

Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures.

Before each meeting, students are expected to spend 4 or more hours completing reading assignments and preparing for class discussion.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and discussion (30%)
- 2) Presentations (30%)
- 3) Final paper (40%)

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英米文学演習(5) B

小島 尚人

授業コード：A2952 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。秋学期は、当演習での初の試みとしてグラフィック・ノベルを扱う。セクシュアル・マイノリティの父と娘のあいだの共感とすれ違いをこまやかに描いて大きな反響を呼び、2015年にはブロードウェイ・ミュージカルにもなったAllison Bechdelの自伝的作品*Fun Home: A Family Tragicomic* (2006)を一学期かけて読破する。そのうえで関連するテーマを扱った漫画作品も読解し、小説と漫画の中間形態とも言われる「グラフィック・ノベル」というジャンルの形式・表現上の特徴についても考える。

## 【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- ・自分の解釈を論理的に記述することができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
- ・『ファン・ホーム』について、およびグラフィック・ノベルという媒体の特質について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
- ・『ファン・ホーム』で描かれている時代や言及されている作品群、および作者アリソン・ベクデルについて学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメントーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。

発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                                                              | 内容                                                                                                                                   |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス/卒業論文<br>中間発表会                                                              | 授業内容の確認と発表分担者の決定の<br>のち、4年生による卒論テーマ、章立て、<br>概要についてのプレゼンテーション                                                                         |
| 第2回 | アメリカ小説ブックト<br>ーク/作者と作品の紹介                                                        | 3年生によるブックトーク (夏休みに読<br>んだおススメ作品の紹介) ののち、アリ<br>ソン・ベクデルとその作品について学ぶ                                                                     |
| 第3回 | グラフィック・ノベルと<br>は何か/ベクデルと現<br>代アメリカ                                               | グラフィック・ノベル (graphic<br>novel) と呼ばれる表現形式について、<br>その特徴と歴史を学ぶ<br>ベクデルの漫画 <i>Dykes to Watch Out<br/>For</i> (1983-2008) からいくつかの作品を<br>読む |
| 第4回 | <i>Fun Home</i> 読解①<br>Chapter 1. "Old<br>Father, Old Artificer"                 | 受講者による発表とコメント、全員参<br>加のディスカッション、教員による補<br>足解説                                                                                        |
| 第5回 | <i>Fun Home</i> 読解②<br>Chapter 2. "A Happy<br>Death"                             | 受講者による発表とコメント、全員参<br>加のディスカッション、教員による補<br>足解説                                                                                        |
| 第6回 | <i>Fun Home</i> 読解③<br>Chapter 3. "That Old<br>Catastrophe"                      | 受講者による発表とコメント、全員参<br>加のディスカッション、教員による補<br>足解説                                                                                        |
| 第7回 | <i>Fun Home</i> 読解④<br>Chapter 4. "In the<br>Shadow of Young<br>Girls in Flower" | 受講者による発表とコメント、全員参<br>加のディスカッション、教員による補<br>足解説                                                                                        |

|      |                                                                               |                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 第8回  | ブロードウェイ・ミュー<br>ジカル版との比較                                                       | <i>Fun Home</i> のブロードウェイ・ミュー<br>ジカル版 (2015年) で使用された楽曲<br>を視聴し、歌詞を分析しながら、原作と<br>比較検討する |
| 第9回  | <i>Fun Home</i> 読解⑤<br>Chapter 5. "The<br>Canary-colored<br>Caravan of Death" | 受講者による発表とコメント、全員参<br>加のディスカッション、教員による補<br>足解説                                         |
| 第10回 | <i>Fun Home</i> 読解⑥<br>Chapter 6. "The Ideal<br>Husband"                      | 受講者による発表とコメント、全員参<br>加のディスカッション、教員による補<br>足解説                                         |
| 第11回 | <i>Fun Home</i> 読解⑦<br>Chapter 7. "The<br>Antihero's Journey"                 | 受講者による発表とコメント、全員参<br>加のディスカッション、教員による補<br>足解説                                         |
| 第12回 | 関連作品の読解 (アメリ<br>カ)                                                            | <i>Fun Home</i> の中で言及されている作品<br>の中から一つか二つ選んで読む                                        |
| 第13回 | 関連作品の読解 (日本)                                                                  | <i>Fun Home</i> と比較しうる現代日本の作<br>品を読んでディスカッション                                         |
| 第14回 | まとめのワークショップ                                                                   | 受講者が各自のレポートの計画につ<br>いて発表し、それについて討議するこ<br>とを通じて、今学期のまとめをおこなう                           |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前には作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく (予習4時間以上)。

授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

## 【テキスト (教科書)】

Alison Bechdel, *Fun Home: A Family Tragicomic*. Vintage, 2022. ISBN: 978-1529116168.

## 【参考書】

- Jan Baetens, Hugo Frey, and Fabrice Leroy, editors. *The Cambridge Companion to the American Graphic Novel*. Cambridge UP, 2023.  
Jan Baetens. *The Graphic Novel: An Introduction*. Cambridge UP, 2014.  
【アメリカ文学・文化研究の手引き】  
諏訪部浩一 (編) 『アメリカ文学入門 [新版]』 (三修社、2023年)  
杉野健太郎 (編) 『アメリカ文化入門 [新版]』 (三修社、2023年)  
竹内里矢・山本洋平 (編) 『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』 (ミネル  
ヴァ書房、2021年)  
巽孝之・宇沢美子 (編) 『よくわかるアメリカ文化史』 (ミネルヴァ書房、2020年)  
ほか適宜授業で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・授業への貢献度 (ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか) : 30 %
- ・プレゼンテーション (担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか) : 30 %
- ・4000字程度の期末レポート (自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する) : 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが発言しやすい環境がつかれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

## 【その他の重要事項】

春学期に英米文学演習(5) Aを履修しておくことが望ましい。

## 【Outline (in English)】

This course is a seminar on American literature. Through the close reading of *Harlem Shuffle* and some related movies on African American culture, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way.

Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures.

Before each meeting, students are expected to spend 4 or more hours completing reading assignments and preparing for class discussion. Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and discussion (30%)
- 2) Presentations (30%)
- 3) Final paper (40%)

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英米文学演習(6) A

小澤 央

授業コード：A2953 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、Joseph Conradの*Heart of Darkness* (1899)を精読し、書かれている内容や扱われているテーマや問題についてみなで議論する。映画や先行研究も参考にする。

文学を解釈するための基本的姿勢を身につけ、自分なりの解釈を試みることが目的である。

### 【到達目標】

- ・ *Heart of Darkness* を読了し、その背景事情を含めて理解できる。
- ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践してみる。
- ・ 作品が扱う今日のテーマについて議論できる。
- ・ 他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をわかりやすく表現できる。
- ・ 辞書や和訳を参照しながらも、長編小説を読み通せるだけの英語力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則的に毎回レジュメ担当者を決め、その発表に基づいてみなで議論する。学期末にはレポートを書く。

発表に対してはその場で、レポートに対しては返却時にフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                 | 内容                                    |
|------|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                           | 授業の進め方の確認、作品の背景の説明                    |
| 第2回  | <i>Heart of Darkness</i> についての映画(1) | 前半の鑑賞と議論                              |
| 第3回  | <i>Heart of Darkness</i> についての映画(2) | 後半の鑑賞と議論                              |
| 第4回  | <i>Heart of Darkness</i> (1)        | 作品を9等分した場合の第1部の発表と議論                  |
| 第5回  | <i>Heart of Darkness</i> (2)        | 第2部の発表と議論                             |
| 第6回  | <i>Heart of Darkness</i> (3)        | 第3部の発表と議論                             |
| 第7回  | <i>Heart of Darkness</i> (4)        | 第4部の発表と議論                             |
| 第8回  | <i>Heart of Darkness</i> (5)        | 第5部の発表と議論                             |
| 第9回  | <i>Heart of Darkness</i> (6)        | 第6部の発表と議論                             |
| 第10回 | <i>Heart of Darkness</i> (7)        | 第7部の発表と議論                             |
| 第11回 | <i>Heart of Darkness</i> (8)        | 第8部の発表と議論                             |
| 第12回 | <i>Heart of Darkness</i> (9)        | 第9部の発表と議論                             |
| 第13回 | 先行研究のレビュー                           | <i>Heart of Darkness</i> の批評に関する発表と議論 |
| 第14回 | まとめ                                 | 作品と批評の総括、期末レポートのテーマについての話し合い          |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者はレジュメを必ず用意すること。レジュメには、要約のみならず論点や意見などの提示が必要である。発表にあたっていなくても、テキストをしっかりと読み、自身の考えをまとめてゼミに参加すること。

予習・復習は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

Joseph Conrad, *Heart of Darkness and Other Tales*, ed. Cedric Watts, Oxford World's Classics, 2002.

### 【参考書】

- ・コンラッド著、『闇の奥』、黒原敏行訳、光文社新訳文庫、2009年
- ・中井亜佐子著、『日常の読書学——ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』を読む』、小島遊書房、2023年

### 【成績評価の方法と基準】

- ・議論への貢献度：30%
- ・発表：30%
- ・期末レポート：40%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生のレジュメをもとにした議論をさらに充実させる。

### 【その他の重要事項】

基本的に全回に出席することが望ましい。単位認定には学期中に3分の2以上の出席が必要である。この場合の「出席」とは、該当範囲を予習してきて、積極的にゼミに参加することを意味する（20分以上の遅刻は欠席と見なす）。

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

### 【Outline (in English)】

In this course, students are expected to carefully read Joseph Conrad's *Heart of Darkness* (1899) and discuss the text and its relevant themes and issues. The course also refers to films and studies on the author and his work. The goals of this course are to learn the basics of interpretation of literature and attempt a new interpretation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: participation in discussion (30%), presentation (30%) and term-end essay (40%).

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英米文学演習(6) B

小澤 央

授業コード：A2954 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、Kazuo Ishiguroの*Klara and the Sun* (2021)を精読し、書かれている内容や扱われているテーマや問題についてみなで議論する。先行研究も参考にする。

文学を解釈するための基本的姿勢を身につけ、自分なりの解釈を試みることが目的である。

## 【到達目標】

- ・ *Klara and the Sun* を読了し、その背景事情を含めて理解できる。
- ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践してみる。
- ・ 作品が扱う今日のテーマについて議論できる。
- ・ 他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をわかりやすく表現できる。
- ・ 辞書や和訳を参照しながらも、長編小説を読み通せるだけの英語力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

原則的に毎回レジュメ担当を決め、その発表に基づいてみなで議論する。学期末にはレポートを書く。

発表に対してはその場で、レポートに対しては返却時にフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                           |
|------|-------------------------------|------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                     | 授業の進め方の確認、作品の背景の説明           |
| 第2回  | <i>Klara and the Sun</i> (1)  | 第1部前半の発表と議論                  |
| 第3回  | <i>Klara and the Sun</i> (2)  | 第1部後半の発表と議論                  |
| 第4回  | <i>Klara and the Sun</i> (3)  | 第2部前半の発表と議論                  |
| 第5回  | <i>Klara and the Sun</i> (4)  | 第2部後半の発表と議論                  |
| 第6回  | <i>Klara and the Sun</i> (5)  | 第3部前半の発表と議論                  |
| 第7回  | <i>Klara and the Sun</i> (6)  | 第3部後半の発表と議論                  |
| 第8回  | <i>Klara and the Sun</i> (7)  | 第4部前半の発表と議論                  |
| 第9回  | <i>Klara and the Sun</i> (8)  | 第4部後半の発表と議論                  |
| 第10回 | <i>Klara and the Sun</i> (9)  | 第5部前半の発表と議論                  |
| 第11回 | <i>Klara and the Sun</i> (10) | 第5部後半の発表と議論                  |
| 第12回 | <i>Klara and the Sun</i> (11) | 第6部前半の発表と議論                  |
| 第13回 | <i>Klara and the Sun</i> (12) | 第6部後半の発表と議論                  |
| 第14回 | まとめ                           | 作品と批評の総括、期末レポートのテーマについての話し合い |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表者はレジュメを必ず用意すること。レジュメには、要約のみならず論点や意見などの提示が必要である。発表にあたっていなくても、テキストをしっかりと読み、自身の考えをまとめてゼミに参加すること。

予習・復習は各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

Kazuo Ishiguro, *Klara and the Sun*, Faber & Faber, 2021.

## 【参考書】

カズオ・イシグロ著、『クララとお日さま』、土屋政雄訳、ハヤカワepi文庫、2023年

## 【成績評価の方法と基準】

- ・ 議論への貢献度：30%
- ・ 発表：30%
- ・ 期末レポート：40%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生のレジュメをもとにした議論をさらに充実させる。

## 【その他の重要事項】

基本的に全回に出席することが望ましい。単位認定には学期中に3分の2以上の出席が必要である。この場合の「出席」とは、該当範囲を予習してきて、積極的にゼミに参加することを意味する (20分以上の遅刻は欠席と見なす)。

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

## 【Outline (in English)】

In this course, students are expected to carefully read Kazuo Ishiguro's *Klara and the Sun* (2021) and discuss the text and its relevant themes and issues. The course also refers to films and studies on the author and his work. The goals of this course are to learn the basics of interpretation of literature and attempt a new interpretation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: participation in discussion (30%), presentation (30%) and term-end essay (40%).



LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英米文学演習(8) A

山崎 暁子

授業コード：A2957 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語で書かれた様々な小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現について学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

### 【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテキストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

“names”をキーワードとして、様々な小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編 (または抜粋) を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、A. A. Milne, P. L. Travers, Lewis Carroll, Lucy Maud Montgomery, Agatha Christie の作品を扱う。

授業では1～2回にわたって1つの作品を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。

期末レポートはコメントをつけて返却する。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。授業形態を変更する場合は事前に学習支援システムから通知するので、第1回授業の前々日までに仮登録すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                                                                 |
|------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                     | 授業の進め方を説明し、受講者の知識・興味を確認する                                          |
| 第2回  | ブレインストーミング                    | キーワード “names” についてディスカッション                                         |
| 第3回  | イングランドの昔話 — 昔話の英語と物語の特徴       | “Tom Tit Tot” の発表とディスカッション                                         |
| 第4回  | イギリスの児童文学作家① — 言葉遊び           | A. A. Milne, <i>Winnie-the-Pooh</i> 抜粋の発表とディスカッション                 |
| 第5回  | イギリスの児童文学作家② (1) — 20世紀初頭の子供像 | P. L. Travers, <i>Mary Poppins Comes Back</i> 抜粋前半の発表とディスカッション     |
| 第6回  | イギリスの児童文学作家② (2) — 韻文と散文      | P. L. Travers, <i>Mary Poppins Comes Back</i> 抜粋後半の発表とディスカッション     |
| 第7回  | 翻訳 (1) — 第3～6回のテキストの一部を翻訳・検討  | 翻訳の発表とディスカッション                                                     |
| 第8回  | イギリスの児童文学作家③ (1) — ナンセンス      | Lewis Carroll, <i>Through the Looking Glass</i> 抜粋の発表とディスカッション     |
| 第9回  | カナダの作家 (1) — 20世紀初頭のカナダ       | Lucy Maud Montgomery, <i>Anne of Green Gables</i> 抜粋前半の発表とディスカッション |
| 第10回 | カナダの作家 (2) — キリスト教的価値観        | Lucy Maud Montgomery, <i>Anne of Green Gables</i> 抜粋後半の発表とディスカッション |
| 第11回 | イギリスの推理小説作家 (1) — 20世紀前半のイギリス | Agatha Christie, “The Case of the Rich Woman” 前半の発表とディスカッション       |
| 第12回 | イギリスの推理小説作家 (2) — 伏線的作用       | Agatha Christie, “The Case of the Rich Woman” 後半の発表とディスカッション       |
| 第13回 | 翻訳 (2) — 第8～12回のテキストの一部を翻訳・検討 | 翻訳の発表とディスカッション                                                     |
| 第14回 | まとめ                           | 春学期に読んだテキストを振り返る                                                   |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで、掲示板でのディスカッションに参加する。

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。テキストは学習支援システムで配布する。

### 【参考書】

辞書は必ず持参すること。

石塚久郎編『イギリス文学入門 [新版]』三修社 2023年

諏訪部浩一編『アメリカ文学入門 [新版]』三修社 2023年

ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社

2016年

Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.

桂有子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007年

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加と貢献の割合30%、発表または司会30%、期末レポート40%の割合で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内掲示板と対面のディスカッションの両方を継続し、自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを、連絡、資料の配布、意見交換、課題提出等に使用する。

### 【その他の重要事項】

毎週の連絡事項を学習支援システムから通知するので、第1回授業の前々日までに仮登録すること。

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届く。必要に応じて個別に連絡することもあるので、メールは随時チェックすること。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories (or chapters) in English that can be related to “the other side” and translate some passages into Japanese.

#### 【Learning objectives】

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

#### 【Grading criteria /Policy】

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), presentation or chairing (30%) and final essay (40%).

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英米文学演習(8) B

山崎 暁子

授業コード：A2958 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語で書かれた様々な小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

## 【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテキストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

"names" をキーワードとして、様々な小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編(または抜粋)を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Ursula K. Le Guin, David Almond, Diana Wynne Jones, Philippa Pearce, Joan G. Robinson, Katherine Mansfield の作品を扱う。

授業では1～2回にわたって1つの作品を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。

期末レポートにはコメントをつけて返却する。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。授業形態を変更する場合は事前に学習支援システムから通知するので、第1回授業の前々日までに仮登録すること。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                             | 内容                                                              |
|------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                       | 夏休み課題報告(3年生)、卒論中間報告(4年生)、秋学期に扱う作品の紹介                            |
| 第2回  | ブレインストーミング                      | キーワード"names"についてディスカッション                                        |
| 第3回  | アメリカの作家 — ジェンダー                 | Ursula K. Le Guin, <i>Tombs of Atuan</i> 抜粋の発表とディスカッション         |
| 第4回  | イギリスの児童文学作家④ — 中心と周縁            | David Almond, "Jonadab"の発表とディスカッション                             |
| 第5回  | 翻訳(1) — 第3～4回のテキストの一部を翻訳・検討     | 翻訳の発表とディスカッション                                                  |
| 第6回  | イギリスの児童文学作家⑤(1) — ファンタジー        | Diana Wynne Jones, <i>Charmed Life</i> 抜粋前半の発表とディスカッション         |
| 第7回  | イギリスの児童文学作家⑤(2) — インターテクスチュアリティ | Diana Wynne Jones, <i>Charmed Life</i> 抜粋後半の発表とディスカッション         |
| 第8回  | イギリスの児童文学作家⑥ — 20世紀後半のイギリス      | Philippa Pearce, "Nutmeg"の発表とディスカッション                           |
| 第9回  | 翻訳(2) — 第6～8回のテキストの一部を翻訳・検討     | 翻訳の発表とディスカッション                                                  |
| 第10回 | イギリスの児童文学作家⑦(1) — 20世紀後半の子供像    | Joan G. Robinson, <i>When Marnie Was There</i> 抜粋前半の発表とディスカッション |
| 第11回 | イギリスの児童文学作家⑦(2) — リアリズム         | Joan G. Robinson, <i>When Marnie Was There</i> 抜粋後半の発表とディスカッション |
| 第12回 | ニュージーランドの作家 — 意識の流れ             | Katherine Mansfield, "Psychology"の発表とディスカッション                   |
| 第13回 | 翻訳(3) — 第10～12回のテキストの一部を翻訳・検討   | 翻訳の発表とディスカッション                                                  |
| 第14回 | まとめ                             | 秋学期に読んだテキストを振り返る                                                |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめ、授業前のディスカッションに出席する。

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。テキストは学習支援システムで配布する。

## 【参考書】

辞書は必ず持参すること。

石塚久郎編『イギリス文学入門 [新版]』三修社 2024年

諏訪部浩一編『アメリカ文学入門 [新版]』三修社 2023年

ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社

2016年

Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.

桂子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007年

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加と貢献の割合30%、発表または司会30%、期末レポート40%の割合で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業掲示板と対面のディスカッションの両方を継続し、自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを、連絡、資料の配布、意見交換、課題提出等に使用する。

## 【その他の重要事項】

毎週の連絡事項を学習支援システムから通知するので、第1回授業の前々日までに仮登録すること。

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届く。必要に応じて個別に連絡することもあるので、メールは随時チェックすること。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories (or chapters) in English that can be related to "the other side" and translate some passages into Japanese.

## 【Learning objectives】

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

## 【Grading criteria /Policy】

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), presentation or chairing (30%) and final essay (40%).

ARS300BD

## 英米文学演習(9) A

利根川 真紀

授業コード：A2959 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と幽霊」です。19世紀中頃から20世紀末にかけて出版された小説の中から、幽霊が姿を見せるものをいくつか選んで読み、それらの小説に幽霊が登場するのはなぜか、幽霊を通してしか表現できないものとは何か、それを執筆した作家たちが生きた時代背景や作家の個人的事情とは何だったのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。共通テーマを意識しながら様々な作家の短編小説を読むことにより、作品を相互に比較しやすくなり、各作家作品の特徴が把握しやすくなります。

### 【到達目標】

- 1 扱う作家・作品について理解を深める
- 2 感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
- 3 ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

トルーマン・カポーティ（1924-84）、エリザベス・スペンサー（1921-2019）、シャーロット・パーキンズ・ギルマン（1860-1935）、ウィリアム・フォークナー（1897-1962）の作品に具体的に触れ、作品が提示する世界や諸問題に理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家で、幽霊が出てこない作品も書いている作家たちです。担当箇所を決め、学生による発表、グループディスカッション、教員による補足説明という形で進めていきます。学期の後半には、春学期と秋学期に扱う各作家の他作品を各自が読んで考察する、各5分程度のプレゼンテーションも予定しています。授業の最初に、前回提出されたリアクションペーパーから代表的な意見や独創的な意見を紹介します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                               | 内容                           |
|------|-----------------------------------|------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                         | 授業の内容と進め方の説明                 |
| 第2回  | カポーティ “Miriam” (前半)               | 雪のニューヨークで老婆が出会う少女            |
| 第3回  | “Miriam” (後半)                     | カメオのプローチの行方                  |
| 第4回  | スペンサー “First Dark” (前半)           | 道の曲がり角に現れる黒人                 |
| 第5回  | “First Dark” (後半)                 | 母の死後、屋敷が娘に告げるのは              |
| 第6回  | ギルマン “The Yellow Wall-Paper” (前半) | 壁紙のこちら側と向こう側                 |
| 第7回  | “The Yellow Wall-Paper” (後半)      | 最上階のドアを開ける夫が見つけたものは          |
| 第8回  | ペーパーの書き方                          | 短い引用・長い引用・要約の練習、パラグラフ・ライティング |
| 第9回  | フォークナー “That Evening Sun” (前半)    | 南部の白人屋敷に住む3人兄弟               |
| 第10回 | “That Evening Sun” (後半)           | 黒人女性ナンシーの目に見えるもの             |
| 第11回 | ブックトーク（カポーティ、スペンサー、ギルマン、フォークナー）   | 各自、授業で読まなかった作品を紹介する          |
| 第12回 | ブックトーク（ポー、オーツ、ウォートン、スタインバック）      | 各自、授業で読まなかった作品を紹介する          |
| 第13回 | ブックトーク（ジェイムズ、キャザー、オースター）          | 各自、授業で読まなかった作品を紹介する          |
| 第14回 | IDクイズと2作品比較                       | 春学期まとめ、夏休みのペーパー課題の説明         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はハンドアウトを作成し、事前に「学習支援システム」に提出します。ハンドアウトの作成方法は、初回の授業時に詳しく説明します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。授業後にはその日の振り返りを「学習支援システム」に提出します。その他、復習を確認するための課題に、授業時間外で取り組むこともあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

### 【参考書】

『アメリカ文学入門〔新版〕』諏訪部浩一編 三修社 2023年

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、発表（35%）、IDクイズと2作品比較（35%）を総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んでいなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

### 【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the use of ghosts. The seminar also enhances students' skills in close reading of texts and in effective oral presentations. Before/after each class meeting, students' required study time is at least four hours. Grading will be based on in-class contribution (30%), presentations (35%), ID quizzes and short essays (35%).

ARS300BD

## 英米文学演習(9) B

利根川 真紀

授業コード：A2960 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と幽霊」です。19世紀中頃から20世紀末にかけて出版された小説の中から、幽霊が姿を見せるものをいくつか選んで読み、それらの小説に幽霊が登場するのはなぜか、幽霊を通してしか表現できないものとは何か、それを執筆した作家たちが生きた時代背景や作家の個人的事情とは何だったのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。共通テーマを意識しながら様々な作家の短編小説を読むことにより、作品を相互に比較しやすくなり、各作家作品の特徴が把握しやすくなります。

## 【到達目標】

- 1 扱う作家・作品について理解を深める
- 2 感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
- 3 ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる
- 4 文献検索の方法を身につけ、テーマを設定してペーパーを書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

エドガー・アラン・ポー（1809-49）、ジョイス・キャロル・オーツ（1938-）、イーディス・ウォートン（1862-1937）、ジョン・スタインベック（1902-68）の作品に具体的に触れ、理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちです。また、夏休みに3冊の長編作品の中から1冊を選んで短いペーパーを書き、秋学期後半のグループ発表に繋げます。ゼミ仲間や教員からのフィードバックを参考にしつつ、ペーパーをリヴァイズする作業にも取り組みます。ふたりの子供と女家庭教師の心理ドラマを描く『ねじの回転』、中西部を舞台に移住少女との出会いが青年の視点から描かれる『マイ・アントニア』、ニューヨークを舞台に探偵が奇妙な追跡を繰り返す『幽霊』の3冊を予定しています。授業では、担当箇所を決め、学生による発表、グループディスカッション、教員による補足説明という形で進めていきます。授業の最初に、前回提出されたリアクションペーパーから代表的な意見や革新的な意見を紹介します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                        | 内容                        |
|------|--------------------------------------------|---------------------------|
| 第1回  | 短いペーパー提出、文献検索方法                            | 図書館データベースの使い方を学ぶ          |
| 第2回  | 文献検索フォローアップ、グループ分け                         | 文献検索結果について各自が発表、要約の仕方を学ぶ  |
| 第3回  | ポー “The Black Cat” (前半)                    | 恐怖小説と語り手                  |
| 第4回  | “The Black Cat” (後半)                       | 復讐と幽霊                     |
| 第5回  | オーツ “Secret Observations on the Goat-Girl” | トウモロコシ小屋に住むヤギ少女           |
| 第6回  | ウォートン “Pomegranate Seed” (前半)              | ハネムーンからの帰館                |
| 第7回  | “Pomegranate Seed” (後半)                    | 義母と力を合わせて                 |
| 第8回  | 卒論を書くプロセス、卒論途中経過報告                         | テーマの設定と全体の構成              |
| 第9回  | 研究論文の読み方                                   | ゼミで扱った作品について書かれた論文を読む     |
| 第10回 | スタインベック “The Snake”                        | ジェンダーと幽霊                  |
| 第11回 | ヘンリー・ジェイムズ 『ねじの回転』                         | グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）  |
| 第12回 | ウィラ・キャザン 『マイ・アントニア』                        | グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）  |
| 第13回 | ポール・オースター 『幽霊』                             | グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）  |
| 第14回 | 秋学期のまとめ、書き直した長めのペーパーの提出と自己評価               | 小説における「幽霊」の扱われ方、ペーパーから卒論へ |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はハンドアウトを作成し、事前に「学習支援システム」に提出します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。また、図書館データベースを利用しての文献検索、雑誌論文の要約作成、ゼミ仲間のペーパーへのフィードバックの作成など、論文執筆に必要なスキルを身につけるための課題を予定していますので、授業時間外に取り組み、提出締切を厳守するようにします。授業時間外で、グループ発表のための準備も進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

## 【参考書】

『アメリカ文学入門（新版）』諏訪部浩一編 三修社 2023年

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、発表（35%）、ペーパー関連（35%）を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んだことがなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

## 【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the use of ghosts. The seminar also enhances students' skills in close reading of texts and in effective oral presentations and papers. Before/after each class meeting, students' required study time is at least four hours. Grading will be based on in-class contribution (30%), presentations (35%), and papers (35%).

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

## 英語教育学演習 A

### ブライアン ウィスナー

授業コード：A2961 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

#### 【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Explain the L2 acquisition process
- (2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
 なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                               | 内容                                                                       |
|------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the course                        | Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching |
| 第2回  | Input                                             | What is the role of input in L2 learning?                                |
| 第3回  | Output                                            | What is the role of output in L2 learning?                               |
| 第4回  | Age and L2 Acquisition                            | How does age affect L2 acquisition?                                      |
| 第5回  | Interaction in L2 Classrooms                      | Does interaction lead to L2 acquisition?                                 |
| 第6回  | Teacher Talk                                      | What is effective teacher talk and questioning in L2 classrooms?         |
| 第7回  | L1 Use                                            | Code switching and L1 use in L2 classrooms                               |
| 第8回  | Corrective Feedback                               | Teachers' beliefs and learners' preferences                              |
| 第9回  | English as an International Language              | How is English studied and used throughout the world?                    |
| 第10回 | Research on L2 Interaction                        | Examining patterns of L2 interaction                                     |
| 第11回 | L2 Vocabulary Learning                            | Strategies and methods for teaching and learning vocabulary              |
| 第12回 | L2 Teaching Abroad                                | International L2 contexts and team teaching                              |
| 第13回 | Research presentations                            | Research project presentations                                           |
| 第14回 | Feedback on research presentations and final exam | Discussion of and feedback on students' research projects and final exam |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

#### 【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

#### 【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.  
 Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

#### 【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final Exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from preparing presentations on the course content.

#### 【Outline (in English)】

This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Explain the L2 acquisition process
- (2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

**英語教育学演習 B****ブライアン ウィスナー**

授業コード：A2962 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy. Students examine principled approaches to L2 pedagogy and consider how to develop their own teaching philosophy.

**【到達目標】**

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
- (2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                         | 内容                                                                           |
|------|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the course                  | Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching     |
| 第2回  | From SLA to language pedagogy               | Connections between second language acquisition and second language pedagogy |
| 第3回  | History of second language teaching methods | Traditional approaches to second language teaching                           |
| 第4回  | Identifying components of a language course | Key parts of a language course                                               |
| 第5回  | Teaching Notetaking                         | Key concepts in L2 notetaking                                                |
| 第6回  | Task-based Language Teaching                | How to use tasks in L2 contexts                                              |
| 第7回  | L2 Multimedia                               | How to use multimedia for L2 learning                                        |
| 第8回  | Movies and L2 Learning                      | Subtitles and cognitive load                                                 |
| 第9回  | L2 Speaking                                 | L2 speaking practice and motivation                                          |
| 第10回 | L2 Feedback                                 | Collaborative feedback in L2 classrooms                                      |
| 第11回 | L2 Reading                                  | Developing L2 reading fluency                                                |
| 第12回 | Designing language tests                    | Types and purposes of language tests                                         |
| 第13回 | Analyzing language tests                    | Methods of analyzing language tests                                          |
| 第14回 | Research presentations and final exam       | Discussion of and feedback on students' presentations and final exam         |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

**【テキスト (教科書)】**

There is no required textbook for this course.

**【参考書】**

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.

Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

**【成績評価の方法と基準】**

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation or report) or for being absent from four or more classes.

**【学生の意見等からの気づき】**

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content.

**【Outline (in English)】**

This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
- (2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 文学研究方法論 A

小島 尚人

授業コード：A2969 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
  - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
  - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
  - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

### 【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞 (とそれを通じた英語学習) のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
 なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                              |
|------|--------------------|---------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション          | 英米文学研究にまつわる4つの問い                |
| 第2回  | 「メディアを読む」こと        | 形式と内容、その連関<br>「メディアはメッセージである」とは |
| 第3回  | 作品解釈と歴史的コンテキスト     | ミッキーはなぜ口笛を吹くのか                  |
| 第4回  | 解釈は推理で (も) ある①     | 「モルグ街の殺人」における犯人特定のプロセス          |
| 第5回  | 解釈は推理で (も) ある②     | 「モルグ街の殺人」のさまざまな解釈の事例            |
| 第6回  | はじめてのナラトロジー        | 物語の組み立てを知る<br>『ピーナッツ』の主人公は誰か    |
| 第7回  | 「語られたもの」のナラトロジー    | 物語の組み立てを知る<br>順序、提示方法、速度        |
| 第8回  | 「語るもの」のナラトロジー      | 語れるものと語れないもの<br>人称、視点人物、焦点化     |
| 第9回  | ナラトロジー応用編          | 「信頼できない語り手」とは何か                 |
| 第10回 | 作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』① | 映像の形式・視点・描写とその効果                |
| 第11回 | 作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』② | 感想からレポートへ：5つのステップ               |
| 第12回 | 作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』①   | 映像の形式・視点・描写とその効果                |
| 第13回 | 作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』②   | 感想からレポートへ：5つのステップ               |
| 第14回 | まとめ：文学・文化研究のススメ    | さまざまな面白さと役立つ方                   |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①フィードバックシート (受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの) を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。(1時間)
- ②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。(1時間)

③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。(2時間)

### 【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

### 【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か (上・下)』岩波文庫、2014年。  
 J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008年。  
 林文代 (編)『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009年。  
 丹治愛・山田広昭 (編)『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018年。  
 大橋洋一 (編)『現代批評理論のすべて』新書館、2006年。  
 筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000年。  
 ほかに、授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い)：50%  
 期末試験 (授業内容を踏まえた論述問題が中心)：50%  
 ※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる (事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない)。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

### 【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論B」と連続履修してください。

### 【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in. Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor. Grades will be determined based on the following:  
 1) Participation and in-class assignments (50%)  
 2) Final exam (50%)

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 文学研究方法論B

小島 尚人

授業コード：A2970 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
  - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
  - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
  - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

## 【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらおう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                 | 内容                                  |
|------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                           | 批評理論とは何か、何の役に立つのか                   |
| 第2回  | 心理と無意識に着目する<br>精神分析批評①              | 理論の概要と実例を知る<br>ハムレットはなぜ復讐を引き延ばすのか   |
| 第3回  | 心理と無意識に着目する<br>精神分析批評②              | ミッキーの無意識をさぐる                        |
| 第4回  | 性とジェンダーに着目する<br>フェミニズム批評と<br>クィア批評① | 理論の概要と実例を知る<br>ベクデル・テストを使いこなす       |
| 第5回  | 性とジェンダーに着目する<br>フェミニズム批評と<br>クィア批評② | エルサの物語をどう読むか<br>ブルートのジェンダー・アイデンティティ |
| 第6回  | 作品鑑賞と解釈の実践①                         | 「気づきの道具」としての批評理論                    |
| 第7回  | 作品鑑賞と解釈の実践②                         | フィードバックシートを用いてレポートに繋げる              |
| 第8回  | 異文化・異民族の描かれ方に着目する<br>ポストコロニアル批評①    | 理論の概要と実例を知る<br>オリエンタリズムとは           |
| 第9回  | 異文化・異民族の描かれ方に着目する<br>ポストコロニアル批評②    | 『ロスト・イン・トランスレーション』における日本人と日本文化      |
| 第10回 | 社会的・階級の意味に着目する<br>マルクス主義批評①         | 理論の概要と実例を知る<br>クラリッサの見えないタクシー       |
| 第11回 | 社会的・階級の意味に着目する<br>マルクス主義批評②         | 『フランケンシュタイン』の怪物とは何か                 |
| 第12回 | 作品鑑賞と解釈の実践③                         | 「気づきの道具」としての批評理論                    |
| 第13回 | 作品鑑賞と解釈の実践④                         | フィードバックシートを用いてレポートに繋げる              |
| 第14回 | まとめ：文学・文化研究                         | 他者を読み、自分を読みかえる経験<br>のスズメ、ふたたび       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1時間）
- ②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1時間）
- ③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2時間）

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

## 【参考書】

テリール・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014年。  
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008年。  
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009年。  
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018年。  
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006年。  
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000年。  
ほか、授業内で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50%  
期末レポート（授業で学んだアプローチを応用して課題作品を分析・解釈）：50%  
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時のみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

## 【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論A」と連続履修してください。

## 【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final paper (50%)



BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 2年次演習(1)

波戸岡 景太

授業コード：A2971 | 曜日・時限：水1/Wed.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代アメリカ文学におけるネイティブアメリカン/インディアン文化の表象について学びます。教材は、現代小説、グラフィックノベル、デズニーマン映画など。最終的に、物語の読解を通じて浮かび上がってくる植民の歴史と人権意識の変遷について、自分の言葉で批評文が書けるように指導します。

### 【到達目標】

- ・現代アメリカ文学におけるネイティブアメリカン/インディアンの表象に精通する。
- ・北米大陸における植民の歴史と人権意識の変遷について深く学ぶ。
- ・さまざまな文学的表現を、批評理論を用いて解釈できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式です。履修者は各自の担当章の要約と、関連する文学作品の分析を行います。参加者と教員による各発表へのフィードバックの後、クラス全体でディスカッションを実施します。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                     | 内容                                                               |
|------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス：現代アメリカ文学におけるネイティブアメリカン/インディアンについて | 受講者の自己紹介、使用する教材の説明、授業の進行方向の確認など。                                 |
| 第2回  | ネイティブアメリカン/インディアンの創世記                   | 教科書第一章(前半) / 伝承文学 <i>California Indian Folklore</i> を分析          |
| 第3回  | ネイティブアメリカン/インディアンと自然                    | 教科書第一章(後半) / 伝承文学 <i>California Indian Folklore</i> を分析          |
| 第4回  | アメリカ建国の物語とポカホンタス                        | 教科書第二章(前半) / 映画 <i>Pocahontas</i> を分析する                          |
| 第5回  | 独立宣言のなかの「インディアン」                        | 教科書第二章(後半) / "United States Declaration of Independence" を分析する   |
| 第6回  | 西部とインディアン戦争                             | 教科書第三章(前半) / ノンフィクション <i>Bury My Heart at Wounded Knee</i> を分析する |
| 第7回  | 同化政策からレッドパワー運動まで                        | 教科書第三章(後半) / ノンフィクション <i>Custer Died for Your Sins</i> を分析する     |
| 第8回  | 「アメリカの良心」の変化                            | 教科書第四章(前半) / 映画 <i>Casino</i> (前半) を分析する                         |
| 第9回  | アメリカ西部とカジノ                              | 教科書第四章(後半) / 映画 <i>Casino</i> (後半) を分析する                         |
| 第10回 | インディアン・カジノ時代の幕開け                        | 教科書第五章(前半) / 評論 <i>Rich Indians</i> を分析する                        |
| 第11回 | カジノ産業の影                                 | 教科書第五章(後半) / 評論 <i>Rich Indians</i> を分析する                        |
| 第12回 | インディアンマスコット論争                           | 教科書第六章(前半) / グラフィックノベル <i>Two Tribes</i> を分析する                   |
| 第13回 | インディアン知識人の自画像                           | 教科書第六章(後半) / グラフィックノベル <i>Two Tribes</i> を分析する                   |
| 第14回 | 短編小説"Green World"を読む                    | 教科書第七章、まとめ                                                       |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習(英文の下調べや和文の読解など)・復習(解説部分の確認など)、および授業内で示される課題対応(特に自分の担当回の前にはしっかりとしたプレゼンテーション計画を立てることを実施してください)。

### 【テキスト(教科書)】

野口久美子『インディアンとカジノ：アメリカの光と影』(ちくま新書、2019年、1012円)

上記の他に、読解用資料のPDF版をオンライン上で配布しますので、授業準備の段階で各自ダウンロード/プリントアウトをして下さい。

### 【参考書】

鎌田達『癒されぬアメリカ：先住民社会を生きる』(集英社新書、2020年)  
管啓次郎『野生哲学：アメリカ・インディアンに学ぶ』(講談社現代新書、2011年)

Alexie, Sherman. "Green World." *Blasphemy: New and Selected Stories*. (Grove Press, 2012)

Brown, Dee. *Bury My Heart at Wounded Knee: An Indian History of the American West*. (Ishi Press, 2014)

Deloria, Vine, jr. *Custer Died for Your Sins* (Scribner, 2018)

Harmon, Alexandra. *Rich Indians: Native People and the Problem of Wealth in American History*. (U of North Carolina P, 2010)

Latta, Frank F. *California Indian Folklore*. (Borodino Books, 2018)

スミソニアン博物館関連ページ：<https://americanindian.si.edu>

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点(担当章のプレゼンテーション、他の履修者とのディスカッションへの参加度合いなど)：50%
  - ・期末レポート：50%
- 以上を合計し60%以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

This course aims to teach how to understand the diversity of representations of Native American culture critically. Learning how to do this requires that you examine media content and texts closely and read critical essays on them with the guidance of the lecturer, as well as through discussions with your classmates.

By learning backgrounds of the literary and critical texts about ethnic minority communities in the United States, students will understand how literary imagination contributes to solving social problems.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grading shall be as follows:

- 1) Class presentation (50%)
- 2) Term paper (50%)

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 2年次演習(2)

山崎 暁子

授業コード：A2972 | 曜日・時限：水1/Wed.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

C. S. Lewisの「ナルニア」シリーズの1巻である *The Magician's Nephew* を英語で精読し、このシリーズについての批評も読んで、小説を解釈し論じる方法を学習する。ディスカッションを通して多様な見方に触れることで作品への理解を深め、自分なりの解釈を論として文章で表現する。

## 【到達目標】

- 英語を読む能力を向上させる。構文を正しく理解することに加え、社会的・文化的背景も考慮して読むことができるようになる。
- テキストを分析し、自分なりの解釈を、その妥当性を論証しながら、説得力をもって提示することができるようになる。
- プレゼンテーションやディスカッションをつうじて、口頭でのコミュニケーション力を向上させる。
- 文学批評の方法論の基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

*The Magician's Nephew* を英語で精読する。授業は基本的に演習形式で進め、担当者が英語の解釈および内容の解釈について問題提起をおこなった後、グループでディスカッションし、結果を発表する。学期の最後には、期末レポートの準備として、研究論文の読解をおこなうとともに、調査・収集方法についても学ぶ。

発表や質問に対して口頭や書面によるレスポンスをおこなうほか、レポートについてはフィードバックのコメントをつけたファイルを返却する。対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性がある。授業形態を変更する場合は、事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                 | 内容                                      |
|------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンスとブレインストーミング                                    | 授業の進め方を説明し、全員の自己紹介後、ブレインストーミングをおこなう。    |
| 第2回  | <i>The Magician's Nephew</i> 第1章の読解とディスカッション(1)     | 教員が問題提起を担当し、ディスカッションをおこなう。第4回以降の分担を決める。 |
| 第3回  | <i>The Magician's Nephew</i> 第2章の読解とディスカッション(2)     | 教員が問題提起を担当し、ディスカッションをおこなう。              |
| 第4回  | <i>The Magician's Nephew</i> 第3章～第4章の読解とディスカッション(3) | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                |
| 第5回  | <i>The Magician's Nephew</i> 第4章～第5章の読解とディスカッション(4) | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                |
| 第6回  | <i>The Magician's Nephew</i> 第5章～第6章の読解とディスカッション(5) | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                |
| 第7回  | <i>The Magician's Nephew</i> 第7章の読解とディスカッション(6)     | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                |
| 第8回  | <i>The Magician's Nephew</i> 第8章の読解とディスカッション(7)     | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                |
| 第9回  | <i>The Magician's Nephew</i> 第9章の読解とディスカッション(8)     | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                |
| 第10回 | <i>The Magician's Nephew</i> 第10章の読解とディスカッション(9)    | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                |
| 第11回 | <i>The Magician's Nephew</i> 第11章の読解とディスカッション(10)   | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                |

|      |                                                        |                                           |
|------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 第12回 | <i>The Magician's Nephew</i> 第12章の読解とディスカッション(11)      | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                  |
| 第13回 | <i>The Magician's Nephew</i> 第13章～第14章の読解とディスカッション(12) | 担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。                  |
| 第14回 | 研究論文の読解                                                | 「ナルニア」シリーズについて書かれた論文を読む。論文の調査・収集法についても学ぶ。 |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として、毎週、指定範囲を読み、疑問点があれば下調べをしたうえで授業に参加する。下調べした内容や、読んでいて気になった点、興味を持った点をメモしておき、ディスカッションで共有できるようにしておく。授業後には学習支援システムからリアクションペーパーを提出する。本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

C. S. Lewis, *The Magician's Nephew*

全員が同じ版を使う必要があるため、必ず指定のテキストを生協で購入すること。出版社等の詳細は学習支援システムに記載する。

## 【参考書】

安藤聡『ナルニア国物語解説—C. S. ルイスが創造した世界』(彩流社、2006年)他、必要に応じて授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

準備・ディスカッションへの参加・発表 30%

問題提起 30%

期末レポート 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度のグループワークがおおむねうまく機能したようなので、今年度もグループワークを軸として実施する。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Google Document を、連絡、資料の配布、課題提出等に使用する。

## 【その他の重要事項】

授業についての情報を事前に学習支援システムから通知するので、第1回授業の前々日までに仮登録すること。学習支援システムからの通知や個別の連絡が法政 Gmail に届くので、随時チェックすること。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This seminar is an introduction to literary studies. Students will learn how to discuss literary texts in a critical way through the close reading of *The Magician's Nephew*.

## 【Learning objectives】

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyze literary texts and will be able to discuss them logically from their own viewpoint.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

## 【Grading criteria /Policy】

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), discussion questions (30%) and final essay (40%).

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 2年次演習 (3)

小島 尚人

授業コード：A2973 | 曜日・時限：水1/Wed.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

F. Scott Fitzgeraldの小説*The Great Gatsby*を読んだうえで、この作品についての批評を読み、小説について論じる方法を学習する。また、この小説を原作とした映画のうち2013年に公開された最新のものを見て、映画の分析の仕方も学ぶ。小説の英語の精読と映像・小説の比較検討というやや趣きの異なる二つの分析方法に同時並行的に取り組むことで、受講者それぞれが作品への理解をより深めるとともに、自分の批評的関心のありかを考える機会をもつことができる。そうした関心を発展させて、期末レポートにまとめる。

### 【到達目標】

学生は以下のことを身につけることができる。  
 ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって解読しようとする習慣  
 ・アメリカ文学を代表する作品の一つを原書で読みとおすことの達成感と、それによるさらなる読書への意欲  
 ・小説、映画の分析方法の基礎  
 ・多様な批評の方法についての知識と関心  
 ・文学作品を題材にした発表とディスカッションを通じて、自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに耳を傾け理解する力  
 ・自分の解釈を、先行研究を踏まえてレポートにまとめる技法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

小説*The Great Gatsby*を精読する。基本的に授業は演習形式で進め、毎回二人の担当者が発表をおこなった後、受講者全員でディスカッションをする。小説の解釈にくわえて、映画の該当箇所を参照し、さまざまな異同とその意味についても吟味する。学期後半には批評論文の調査、収集、読解の実践を通じて、期末レポートに向けた準備をおこなう。発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                                             |
|------|-------------------|----------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイドダンス/映画版を観る (1) | 授業の進め方の説明のあと、映画『華麗なるギャツビー』を観始める。                               |
| 第2回  | 映画版を観る/導入         | 映画『華麗なるギャツビー』を観終える。フィッツジェラルドの生涯とその作品についての概説。発表の分担を決定する         |
| 第3回  | 小説の読解、映画との比較 (1)  | <i>The Great Gatsby</i> の第一章を精読する。発表 (初回は教員が担当) と質疑応答、ディスカッション |
| 第4回  | 小説の読解、映画との比較 (2)  | <i>The Great Gatsby</i> の第二章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション      |
| 第5回  | 小説の読解、映画との比較 (3)  | <i>The Great Gatsby</i> の第三章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション      |
| 第6回  | 小説の読解、映画との比較 (4)  | <i>The Great Gatsby</i> の第四章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション      |
| 第7回  | 小説の読解、映画との比較 (5)  | <i>The Great Gatsby</i> の第五章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション      |
| 第8回  | 小説の読解、映画との比較 (6)  | <i>The Great Gatsby</i> の第六章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション      |
| 第9回  | 小説の読解、映画との比較 (7)  | <i>The Great Gatsby</i> の第七章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション      |
| 第10回 | 小説の読解、映画との比較 (8)  | <i>The Great Gatsby</i> の第八章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション      |
| 第11回 | 小説の読解、映画との比較 (9)  | <i>The Great Gatsby</i> の第九章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション      |
| 第12回 | 批評論文の読解 (1)       | <i>The Great Gatsby</i> について書かれた日本語論文を読む。日本語論文の調査、収集法についても学ぶ   |

第13回 批評論文の読解 (2) *The Great Gatsby*について書かれた英語論文を読む。英語論文の調査、収集法についても学ぶ  
 第14回 まとめ  
 受講者が各自レポートの計画について発表し、意見交換をする。その後、作品の主題を整理して、授業のまとめをおこなう

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前には作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく (予習4時間)。

### 【テキスト (教科書)】

F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* (Scribner, 2004). ISBN: 9780743273565

### 【参考書】

アンドルー・ターンブル『完訳 フィッツジェラルド伝 (こびあん書房、1988年)  
 野崎孝 (編) 『フィッツジェラルド』 (研究社、1966年)  
 村上春樹『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』 (中央公論新社、2007年)  
 リチャード・リーハン 『偉大なギャツビー』を読む——夢の限界 (旺史社、1995年)  
 他、必要に応じて授業内で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内での発表・議論への参加度：40%  
 期末レポート (3000字以上)：60%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが発言しやすい環境がつかれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

### 【Outline (in English)】

This course is an introduction to literary studies in seminar classes. Through the close reading of *The Great Gatsby* as well as one of its film adaptations, students will develop their skills to discuss literary and visual texts in a critical way.

Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures.

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and presentations (40%)
- 2) Final paper (60%)

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 2年次演習(4)

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2974 | 曜日・時限：水1/Wed.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

### 【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

This course introduces key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by examining research, presenting research findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                               | 内容                                                                       |
|------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the course                        | Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching |
| 第2回  | First language acquisition                        | How do people learn an L1?                                               |
| 第3回  | Second language acquisition                       | How do adults learn an L2?                                               |
| 第4回  | Age and L2 acquisition                            | How does age affect L2 acquisition?                                      |
| 第5回  | L2 Fluency                                        | How is L2 fluency developed?                                             |
| 第6回  | Contexts of instructed L2 acquisition             | In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?   |
| 第7回  | Teaching reading                                  | Approaches to and issues in reading instruction                          |
| 第8回  | Speaking and pronunciation                        | Issues in incorporating pronunciation instruction in L2 classes          |
| 第9回  | Classroom-based assessment                        | How can L2 performance be assessed?                                      |
| 第10回 | Communication and fluency                         | Issues in incorporating communication and fluency practice in L2 classes |
| 第11回 | Teaching listening                                | Intensive and extensive approaches to listening instruction              |
| 第12回 | Individual differences                            | What other variables play a role in L2 learning?                         |
| 第13回 | Research presentations                            | Research project presentations                                           |
| 第14回 | Feedback on research presentations and final exam | Discussion of and feedback on students' presentations and final exam     |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

### 【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

### 【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.

Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

### 【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

### 【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content.

### 【Outline (in English)】

This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 2年次演習(5)

福元 広二

授業コード：A2975 | 曜日・時限：水1/Wed.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

語用論の基礎的な知識と語用論的な視点から調査・研究する方法を学びます。特に、言語コミュニケーションの観点から論文を書く方法について理解を深めていきます。

### 【到達目標】

語用論の基礎的な知識を身につけることにより、日常のコミュニケーションの意味を、言語学的に分析できる力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、語用論に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講生各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                                     |
|------|------------|----------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション  | 授業の説明と自己紹介                             |
| 第2回  | 語用論の基礎の講義  | 語用論の基礎的な事柄についての説明                      |
| 第3回  | Chapter 1  | 教科書 pp. 1-8                            |
| 第4回  | Chapter 2  | 教科書 pp. 9-14                           |
| 第5回  | Chapter 3  | 教科書 pp. 15-23                          |
| 第6回  | Chapter 4  | 教科書 pp. 23-30                          |
| 第7回  | Chapter 5  | 教科書 pp. 31-38                          |
| 第8回  | Chapter 6  | 教科書 pp. 39-46                          |
| 第9回  | Chapter 7  | 教科書 pp. 47-54                          |
| 第10回 | Chapter 8  | 教科書 pp. 55-63                          |
| 第11回 | Chapter 9  | 教科書 pp. 64-71                          |
| 第12回 | Chapter 10 | 教科書 pp. 72-79                          |
| 第13回 | 個人調査課題発表会  | 学生による発表                                |
| 第14回 | まとめと今後の課題  | 研究の進め方についてのまとめと今後の課題、レポート等、課題に対する講評や解説 |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で取り上げる教科書に関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむことが必要です。また、担当者でない場合も必ず予習してきてください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

田中典子(2006)『プラグマティクス・ワークショップ』(春風社)

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー40%、平常点60%)

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の発表のために、ワークショップやグループワークの時間を多くしたいと思います。

### 【その他の重要事項】

- ・初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。
- ・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。
- ・4回以上欠席した場合はD評価となります。

### 【Outline (in English)】

This course introduces students to basic concepts in Pragmatics.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to conduct research in Pragmatics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

**2年次演習(6)**

川崎 貴子

授業コード：A2976 | 曜日・時限：水1/Wed.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

人の言語コミュニケーションの中でも、特に音声に関することについて学びます。日本語と英語の音声学・音韻論の基礎知識を習得し、日本語と英語の音声学・音韻論の違いが日本語母語話者の英語学習にどのような影響を与えるかを理解することを目標とします。

**【到達目標】**

音声学・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教員、およびテーマによっては学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ          | 内容                  |
|------|--------------|---------------------|
| 第1回  | 導入           | 授業の説明・自己紹介          |
| 第2回  | プレゼンテーション実践1 | 自己紹介プレゼンテーション       |
| 第3回  | プレゼンテーション実践2 | プレゼンテーションの相互フィードバック |
| 第4回  | 音声学基礎        | 音声学の基礎を復習           |
| 第5回  | 音韻論1         | 音の配列と文法             |
| 第6回  | 音韻論2         | 音韻文法と習得             |
| 第7回  | 音声と文字        | 担当学生による発表ー音声と文字     |
| 第8回  | 音声と表記        | 学生による発表ー音声と表記       |
| 第9回  | 調音音声学        | 調音音声学の導入講義          |
| 第10回 | 音声イリュージョン    | 学生による発表ー音声イリュージョン   |
| 第11回 | グループ調査課題     | 学生による調査課題の計画        |
| 第12回 | 言語学文献研究1     | ビブリオバトル1            |
| 第13回 | 言語学文献研究2     | ビブリオバトル2ー発表公評       |
| 第14回 | 調査発表         | グループ調査の発表           |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

ー発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自2度の発表回数があります。(自己紹介除く。)

ー毎回、授業で指示される文献を読むことが必要です。

ー毎週、課題の文献を読んだり、議論したりする中で得た知識・浮かんだ問いを必ずノートに書き、メモを残していくこと。

ー本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

なし。

**【参考書】**

授業内で適宜ご紹介致します。

**【成績評価の方法と基準】**

発表スライド、発表のレビューなどの提出物…30%

授業内参加…30%

授業内発表…40%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生による発表とグループでの調査課題が好評だったので、引き続き発表機会をできるだけ多く設けたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく3回を超えて欠席した場合には、D評価となります。

**【Outline (in English)】**

This course deals with human speech communication. Students are expected to find small problems regarding speech sounds and conduct a small experiment.

The required amount of study time is a minimum of four hours for each meeting of the class.

**【Grading Criteria】**

Presentation files, Reviews of in-class presentations, etc. …30%

In-class participation …30%

Presentations …40%

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## 英語の文法力 I

椎名 美智

授業コード：A2977 | 曜日・時限：月3/Mon.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生に必要な英語力の基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。本授業は、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的としています。

### 【到達目標】

英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPTを使って、英語でプレゼンテーションができるようになる勉強もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書は、授業開始日までに生協で手に入れておいてください。テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。毎時間アクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                |
|------|---------------------|-----------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション           | 研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。 |
| 第2回  | 第1章：状態動詞と進行形        | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第3回  | 第2章：受身文の適格性条件       | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第4回  | 第3章：動作主が明示されない受身文   | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第5回  | 第4章：自動文の受身文         | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第6回  | 第5章：二重目的語構文         | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第7回  | 第6章：makeとgetを使った使役文 | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第8回  | 第7章：haveとletを使った使役文 | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第9回  | 中間のまとめと復習           | 学生のプレゼンテーションとディスカッション、小テストなど      |
| 第10回 | 第8章：分裂文             | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第11回 | 第9章：前提と間接話法         | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第12回 | 冠詞について              | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第13回 | 英語の慣用句              | 学生のプレゼンテーションとディスカッション             |
| 第14回 | 総括と今後の課題            | 春semesterで学んだことについての試験と振り返り       |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

久野・高見『謎解き英文法一文の意味』くろしお出版

### 【参考書】

久野揚子・久野えりか著『通な英語』くろしお出版(慣用句の回に使用予定) 必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験80%、プレゼンテーション20%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

課題はHoppiiの課題として添付ファイルで提出してもらいます。

### 【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋semesterと、連続して履修してください。  
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## 英語の文法力Ⅱ

椎名 美智

授業コード：A2978 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生に必要な英語力を身につけるための基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせる勉強をします。

### 【到達目標】

英文法を総復習し、反復的な演習を行うことによって、英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるように練習します。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるように勉強します。また、パワーポイントを使って英語でプレゼンテーションができるようになる練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業です。連絡事項や課題は前日までにHOPPIIにアップロードするので、必ず見えてから授業に臨んでください。

テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生はプレゼンテーションを行います。少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。毎時間アクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                                                                       |
|------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション           | 扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。                                                        |
| 第2回  | 第1章：複数形で用いられる名詞     | 学生によるプレゼンテーション、態についての復習と総括                                                               |
| 第3回  | 第2章：形と意味のミスマッチ      | 学生によるプレゼンテーション、態についての演習、小テスト                                                             |
| 第4回  | 第3章：集合名詞は数えられるか？(1) | 学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての復習と総括、小テスト                                                      |
| 第5回  | 第4章：集合名詞は数えられるか？(2) | 学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての演習、小テスト                                                         |
| 第6回  | 第5章：集合名詞と動詞選択       | 学生によるプレゼンテーション、準動詞についての復習と総括、小テスト                                                        |
| 第7回  | 第6章：スポーツチーム名の形      | 学生によるプレゼンテーション、準動詞についての演習、小テスト                                                           |
| 第8回  | 中間のまとめと復習           | 学生によるプレゼンテーション、これまでの復習と演習、エッセイライティング                                                     |
| 第9回  | 第7章：noneの使い方        | 学生によるプレゼンテーション、準動詞2・接続詞についての復習と総括、小テスト                                                   |
| 第10回 | 第8章：neitherの使い方     | 学生によるプレゼンテーション、準動詞2・接続詞についての演習、小テスト                                                      |
| 第11回 | 第9章：付加疑問文について       | 学生によるプレゼンテーション、関係詞についての復習と総括、小テスト                                                        |
| 第12回 | 第10章：人をどう呼ぶか？       | 学生によるプレゼンテーション、関係詞についての演習、小テスト                                                           |
| 第13回 | 英語の慣用句              | 学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句についての復習と総括、小テスト                                           |
| 第14回 | テストと振り返り            | 学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句について演習、秋semester全体のテスト、これまでの授業のまとめに加え試験、レポート等、課題に対する講評や解説 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習して、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

久野・高見『謎解き英文法—単数か複数か』くろしお出版

### 【参考書】

久野揚子・久野えりか著『通な英語』くろしお出版

必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などをHOPPIIにアップロードします。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験80%、課題・プレゼンテーション20%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

課題はHOPPIIに添付資料で提出してもらいますので、自分用のPCがあると良いと思います。

### 【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋semesterを続けて履修してください。

・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.



BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## メディア・リテラシー I

田中 邦佳

授業コード：A2979 | 曜日・時限：火5/Tue.5  
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとも方に何らかの意図が込められている場合もあります。

本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。

授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成することを最終目的とします。

### 【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合に応じたデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告ができるようになる。
- (4) 上記の3つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように1枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

演習形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介します。参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。

授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法について教員からコメントします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                      |
|------|--------------------|-------------------------|
| 第1回  | Introduction       | 授業の進め方の説明               |
| 第2回  | 様々なグラフ             | グラフの種類を紹介               |
| 第3回  | 棒グラフ               | 棒グラフを学ぶ                 |
| 第4回  | ヒストグラム             | ヒストグラムを学ぶ               |
| 第5回  | 折れ線グラフ             | 折れ線グラフを学ぶ               |
| 第6回  | 2つの手法が組み合わせられたグラフ  | 2つの手法が組み合わせられたグラフを学ぶ    |
| 第7回  | 散布図                | 散布図を学ぶ                  |
| 第8回  | 円グラフ               | 円グラフを学ぶ                 |
| 第9回  | 適しているグラフ、適していないグラフ | データのまとめ方に合わせたグラフの選び方を学ぶ |
| 第10回 | データを表にする           | データを表にする方法を学ぶ           |
| 第11回 | データの数値化            | データを数値としてまとめる時の注意点を学ぶ   |
| 第12回 | 平均値と中央値            | 平均値と中央値を学ぶ              |
| 第13回 | 標準偏差               | 標準偏差を学ぶ                 |
| 第14回 | ことばで報告する           | データを文で説明する場合の注意点を学ぶ     |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】  
プリントを配布します。

### 【参考書】

特にありません。  
個別の項目に対し、参考になりそうな情報は授業中にお知らせします。

### 【成績評価の方法と基準】

20%: 期末課題 (ポスター)  
80%: 授業内外の課題  
以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。  
・授業での課題の未提出が4回に達した場合  
・期末の課題が提出されなかった場合

### 【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたらと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。

### 【その他の重要事項】

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

### 【Outline (in English)】

Course outline: In the class, (1) as a receiver of data, students will learn how to read various types of graphs and what to pay attention to when reading them. (2) As an analyzer of data, each student will learn what methods of visualizations are appropriate for different types of data.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- (1) Read various types of graphs.
- (2) Make graph data according to specific cases.
- (3) Report data objectively in writing.
- (4) Summarize some data in a poster.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, each student are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final report (poster) 20%, Class Assignment 80%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

## メディア・リテラシー II

吉川 純子

授業コード：A2980 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

## 【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるようになり、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりません。発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回         | テーマ              | 内容                        |
|-----------|------------------|---------------------------|
| イントロダクション | 「情弱」と「情強」        | 授業の進め方など                  |
| 第一回       | 日本の階級            | 格差社会の現状                   |
| 第二回       | 健康格差             | 経済と健康のリンク                 |
| 第三回       | 日本の人口減少          | 人口の減少によって何が起ころのか          |
| 第四回       | 棄民世代             | ロスジェネ世代はなぜ貧困に陥る可能性が高いのか   |
| 第五回       | 過労鬱、過労自殺         | 現状と対策                     |
| 第六回       | 介護保険             | 介護保険の仕組み                  |
| 第七回       | 消費税              | 消費税の仕組み                   |
| 第八回       | コロナ禍とワクチン        | コロナ禍とワクチンをめぐる論争           |
| 第九回       | 食糧問題             | 食品添加物、農薬、遺伝子組み換え食品など      |
| 第十回       | グレート・リセット        | デジタル化と監視社会                |
| 第十一回      | ショック・ドクトリンと新自由主義 | 惨事便乗資本主義とは何か？             |
| 第十二回      | 戦後の日米関係と日米安全保障条約 | なぜ重要なのか？                  |
| 第十三回      | 今期学んだことのまとめ      | 今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

初回にリーディングリストを配布します。

## 【参考書】

初回に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

発表30%、授業への貢献度30%、期末レポート40%

## 【学生の意見等からの気づき】

「情報強者への一步を踏み出せた」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただいて、とても心強く思いました。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

## 【その他の重要事項】

取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なものばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

## 【Outline (in English)】

We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

We are going to grow out of "the information-illiterate", who never doubt what they have learned at school or from the mass-media, and become "the information-literate", that is, those who have media literacy, can make research on, think about, and discuss various important topics, and choose appropriate information on the mass-media.

Presenters need to make research on the assigned topic, and prepare for their presentations. The other students also need to make research on the same topic, and think about it. Preparation and the review of each class takes 4 hours.

Grading criteria of this course consist of presentation(30%), contribution to the class(30%), and a report at the end of the semester(40%).

ARS200BD

## 比較文化論（1）

波戸岡 景太

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国の暮らしのなかでも、特に「食」に注目し、日本の食文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテキストから現在の社会を問い直す視座を探る。

### 【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国との比較を念頭に置きながら、「食」を中心とした様々な文化的事象を学ぶ。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。実施されたプレゼンテーションについては、授業参加者全体でフィードバックを行い、最後に担当教員から総評を伝える。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                              | 内容                                            |
|------|----------------------------------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーションおよび授業の導入                | 履修者の自己紹介、日米の食文化史を学ぶ上での見取り図を提示する               |
| 第2回  | ワークショップ①「身近な食文化の発見」              | 比較文化を学ぶ前提として、自分たちのこれまでの食生活と食文化を振り返る           |
| 第3回  | 留学生を迎えてのディスカッション①                | 第2回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、発表後にディスカッションを行う   |
| 第4回  | アメリカの「食」における非西洋の伝統               | アメリカの国民食ができるまでの歴史を概観する（第1章前半）                 |
| 第5回  | 「食」の土着化と独立革命の影響                  | アメリカ食文化における地域的多様性を学ぶ（第1章後半）                   |
| 第6回  | 産業社会への移行と食の変革                    | 移民の流入とファストフードの文化を考察する（第2章）                    |
| 第7回  | ワークショップ②「食文化のローカルとインターナショナルを考える」 | アメリカ食文化の歴史を参考にして、日本における食文化の地方色と国際性を視覚化する      |
| 第8回  | 留学生を迎えてのディスカッション②                | 第7回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、発表後にディスカッションを行う   |
| 第9回  | 有機農業と自然食品                        | カウンターカルチャーが食文化にもたらした影響を考察する（教科書第3章前半）         |
| 第10回 | 食文化革命の到達点                        | エスニックフード、スローフード、ビーガン料理など「食」の現在を概観する（教科書第3章後半） |
| 第11回 | アメリカにおける「食」の生産・流通・消費             | 食文化をビジネスの側面から考察する（教科書第4章）                     |
| 第12回 | ワークショップ③「未来の食文化を考える」             | 日米食文化の比較から、未来のレストランメニューを考案する                  |
| 第13回 | 留学生を迎えてのディスカッション③                | 第12回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、発表後にディスカッションを行う  |
| 第14回 | まとめと期末試験                         | 「食」をめぐる日米の意識の違いを考える（教科書終章）／授業内で期末試験を実施する      |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）

・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）  
・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

### 【テキスト（教科書）】

鈴木透『食の実験場アメリカ：ファーストフード帝国のゆくえ』（中央公論社、2019年、968円）

### 【参考書】

ジョナサン・サフラン・フォア『イーティング・アニマル：アメリカ工場式畜産の難題』（黒川由美訳、東洋書林、2011年）

### 【成績評価の方法と基準】

授業内ワークショップ・プレゼンテーション：50%  
授業内期末試験：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。  
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

### 【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American food culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final exam (50%)

ARS200BD

## 英米文化概論A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19世紀末から20世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

## 【到達目標】

歴史的な文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                         | 内容             |
|------|---------------------------------------------|----------------|
| 第1回  | イントロダクション                                   | 帝国主義とは         |
| 第2回  | Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>     | 啓蒙思想と帝国        |
| 第3回  | <i>Heart of Darkness</i>                    | 語りの構造          |
| 第4回  | <i>Heart of Darkness</i>                    | 『闇の奥』批判        |
| 第5回  | 戦争詩人                                        | 第一次世界大戦        |
| 第6回  | <i>The King's Speech</i>                    | 第二次世界大戦        |
| 第7回  | <i>The King's Speech</i>                    | 人間としての王        |
| 第8回  | W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus" | アイルランド文芸復興運動   |
| 第9回  | James Joyce, "Araby"                        | アイルランドの夢と現実    |
| 第10回 | Yeats, "Easter, 1916"                       | イースター蜂起        |
| 第11回 | Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"         | 南アフリカにおける植民地政策 |
| 第12回 | <i>My Beautiful Laundrette</i>              | ポストコロニアリズムとは   |
| 第13回 | <i>My Beautiful Laundrette</i>              | 現代イギリスと移民      |
| 第14回 | 期末テスト                                       | 学期のまとめ         |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）  
 必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

## 【参考書】

D・ボードウェル, K・トンブソン 『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%

期末テスト 70%

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

## 【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

## 英米文化概論B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くのこるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

### 【到達目標】

歴史的な文脈・文化的な文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                          | 内容              |
|------|----------------------------------------------|-----------------|
| 第1回  | イントロダクション                                    | アメリカン・ドリームの歴史   |
| 第2回  | Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>          | 建国の理念と叙事詩       |
| 第3回  | <i>Red River</i>                             | 民主主義の夢          |
| 第4回  | <i>Red River</i>                             | 西部劇と民主主義        |
| 第5回  | F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i> | 語りの構造           |
| 第6回  | <i>The Great Gatsby</i>                      | 情景描写と文明批判       |
| 第7回  | <i>The Great Gatsby</i>                      | 幻想としてのアメリカンドリーム |
| 第8回  | Langston Hughes                              | 人種と夢            |
| 第9回  | Sylvia Plath                                 | ジェンダーと夢         |
| 第10回 | <i>Easy Rider</i>                            | 60年代のアメリカ       |
| 第11回 | <i>Easy Rider</i>                            | New Hollywoodとは |
| 第12回 | <i>Moonlight</i>                             | マイノリティーの夢       |
| 第13回 | <i>Moonlight</i>                             | 成長物語            |
| 第14回 | 期末テスト                                        | 学期のまとめ          |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎孝（翻訳）

必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

### 【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%

期末テスト 70%

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

### 【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

### 【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

## Academic Writing A

中谷 安男

授業コード：A2984 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ・説得力があり読者の心を掴む英文がかかるようになる。
  - ・TOEFLやIELTSなどのエッセイを楽しみながら書けるようになる
  - ・英語で卒業論文を書く基礎を身に着ける
  - ・持続可能な発達目標 (SDG s) の課題に対して理解を深め将来社会に貢献する
- ための当事者意識をたかめる

### 【到達目標】

- ・ Academic Writing Strategies を身に着け、Coherence や Cohesion を構築し読みやすく説得力のある英文が書けるようになる。
- ・「自分の意見を述べる」「比較対照を行う」「問題を解決する」という IELTS、TOEFL の3つの出題形式のエッセイが書けるようになる
- ・英語論文執筆の基礎を学ぶ
- ・SDG s の課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・アカデミックライティングの演習を行う
- ・英語で積極的にSDG s の課題をディスカッションする
- ・テーマによってリアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でもフィードバックを行う

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                                                                            |
|------|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Flow of Sentences 1           | Healthy food 1<br>SDG 3 Good health and well-being for people                 |
| 第2回  | Flow of Sentences 2           | Healthy food 2<br>End focus strategy End weight strategy                      |
| 第3回  | Basic Paragraph 1             | Food issues 1<br>SDG 12: Responsible consumption and production               |
| 第4回  | Basic Paragraph 2             | Food issues 2<br>Creating Unity, Topic sentence, Supporting sentence, Example |
| 第5回  | Developing Coherence 1        | Mobile broadband network 1                                                    |
| 第6回  | Developing Coherence 2        | Mobile broadband network 2                                                    |
| 第7回  | Guiding Readers 1             | AI and Singularity 1                                                          |
| 第8回  | Guiding Readers 2             | AI and Singularity 2                                                          |
| 第9回  | Hedges and Boosters 1         | Ecotourism 1                                                                  |
| 第10回 | Hedges and Boosters 2         | Ecotourism 2                                                                  |
| 第11回 | Generating Ideas 1            | Convenient for who? 1                                                         |
| 第12回 | Generating Ideas 2            | Convenient for who? 2                                                         |
| 第13回 | How to attract your readers 1 | Starting your essay more attractively 1                                       |
| 第14回 | How to attract your readers 2 | Starting your essay more attractively 2                                       |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の前にテキストを最低2時間予習する。  
授業の復習を最低2時間必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。

### 【テキスト (教科書)】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani. Y.

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店 中谷安男

### 【参考書】

『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』  
中谷安男 中央経済社

### 【成績評価の方法と基準】

クラス平常点 (40%)、小テスト (10%)、レポート (50%) で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生にも理解ができるようにベースを考える。

### 【学生が準備すべき機器他】

DVD機器

### 【その他の重要事項】

出席を特に重視するので毎回出席のこと。

\*\*\*\*\*  
《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。これらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

\*\*\*\*\*

### 【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.

We can learn significant issues about SDGs.

You need to prepare and review for each lesson for 2 hours.

Your grade is evaluated by class contribution (40%), quizzes (10%), report (50%).

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## Academic Writing B

中谷 安男

授業コード：A2985 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ・読者を効果的に誘導し説得力のある英文が書けるようになる。
- ・長い英文エッセイが書けるようになる
- ・卒業論文や論文を書くトレーニングを行う
- ・持続可能な発達目標 (SDG s) の課題理解を通して将来社会に貢献するための問題意識を深める

### 【到達目標】

- ・論文構成のIMRDの構築方法を身に付ける。
- ・英語論文執筆の効果的なWriting Strategiesを学ぶ
- ・SDG sの課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・英語のライティングの演習を行う
- ・英語論文の構成を学ぶ
- ・テーマによってリアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でもフィードバックを行う

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ                                  | 内容                                 |
|----|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1  | Supporting Your Ideas 1              | Developing supporting sentences 1  |
| 2  | Supporting Your Ideas 2              | Developing supporting sentences 2  |
| 3  | Concluding Paragraphs 1              | City and Environment 1             |
| 4  | Concluding Paragraphs 2              | City and Environment 2             |
| 5  | Comparison and Contrast Paragraphs 1 | Education for future 1             |
| 6  | Comparison and Contrast Paragraphs 2 | Education for future 2             |
| 7  | Essay Structure 1                    | Decent Job 1                       |
| 8  | Essay Structure 2                    | Decent Job 2                       |
| 9  | Problem Solving Essay 1              | Eco-friendly 1                     |
| 10 | Problem Solving Essay 2              | Eco-friendly 2                     |
| 11 | The First Step for Academic Papers 1 | Solutions and informing benefits 1 |
| 12 | The First Step for Academic Papers 2 | Solutions and informing benefits 2 |
| 13 | Writing Introduction 1               | IMRD                               |
| 14 | Writing Introduction 2               | Review                             |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習を必ず行うこと。特に重要語彙やイデオロムは毎回習得するよう努める。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間以上を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani, Y.

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店中谷安男

### 【参考書】

『オックスフォード最強のリーダーシップ教室』中谷安男 中央経済社

### 【成績評価の方法と基準】

クラス平常点 (40%)、小テスト (10%)、レポート (50%) で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

基礎力の構築ができていない学生にも理解ができるようにペースを考える。

### 【学生が準備すべき機器他】

DVD 機器、インターネット接続

### 【その他の重要事項】

積極的な授業出席

\*\*\*\*\*

#### 《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

\*\*\*\*\*

### 【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.

We can learn how to write effective academic papers.

We can learn significant issues about SDGs.

You need to prepare and review for each lesson for 2 hours individually. Your grade is evaluated by class contribution (40%), quizzes (10%), report (50%).

ARS300BD

## Seminar in Cross-cultural Studies A

田中 裕希

授業コード：A2986 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「愛」をテーマに、主に英語圏の文学作品・映画を分析する。授業後半では、英詩創作また日本文学との比較も試みる。

## 【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts, and conduct discussions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will also translate texts of their own choosing and discuss them in class. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                            | 内容                                       |
|------|------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction                                   | What is love?                            |
| 第2回  | Plato, <i>Symposium</i> (1)                    | Love in Greek philosophy                 |
| 第3回  | Plato, <i>Symposium</i> (2)                    | Presentation and discussion              |
| 第4回  | Sappho                                         | Poems in fragments                       |
| 第5回  | Shakespeare, <i>Sonnets</i>                    | Secular love                             |
| 第6回  | George Herbert, <i>The Temple</i>              | Religious love                           |
| 第7回  | Ernest Hemingway, "Hills Like White Elephants" | Love in dialogue                         |
| 第8回  | Anne Carson, "The Glass Essay"                 | Love and adaptation                      |
| 第9回  | <i>The Best Years of Our Lives</i>             | Love and WWII                            |
| 第10回 | <i>Brokeback Mountain</i>                      | Love and society                         |
| 第11回 | Creative Writing                               | Workshop                                 |
| 第12回 | Mieko Kawakami, <i>Heaven</i> (1)              | Love in contemporary Japanese literature |
| 第13回 | Mieko Kawakami, <i>Heaven</i> (2)              | Presentation and discussion              |
| 第14回 | Presentations                                  | Conclusion                               |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will read a novel, a short story, or a poem or two. They are expected to spend at least four hours preparing for each class.

## 【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed in class.

川上未映子『ヘヴン』（講談社文庫）

## 【参考書】

To be announced in class.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance, Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

## 【Outline (in English)】

In this class we will explore the representation of love in literature and film. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Grades will be determined based on presentations (30%), participation (30%) and the final paper (40%).



ARS300BD

## Seminar in Cross-cultural Studies B

田中 裕希

授業コード：A2987 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「翻訳」をテーマに、様々な国の文学作品・映画を分析する。翻訳を通じて英語と日本語の違いを考え、文化的背景や文化間の摩擦がどのように作品に反映されているのかを読み解く。また、第二言語で書かれた作品や移民文学を通じて、言語と異文化体験の関係にも注目する。

### 【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                     | 内容                                    |
|------|-----------------------------------------|---------------------------------------|
| 第1回  | Introduction                            | What is translation?                  |
| 第2回  | Translating Japanese Poetry             | Haiku and waka                        |
| 第3回  | Orientalism in Translation              | Japonism, Imagism, Li Bai             |
| 第4回  | Cross-cultural Fiction                  | Marguerite Duras, <i>The Lover</i>    |
| 第5回  | Translation and Immigration (1)         | Li-Young Lee, Ocean Vuong             |
| 第6回  | Translation and Immigration (2)         | Emily Jungmin Yoon, Shangyang Fang    |
| 第7回  | Translation in Practice                 | Translation workshop                  |
| 第8回  | SF and Translation                      | Denis Villeneuve, <i>Arrival</i>      |
| 第9回  | Exophony - Writing in a Second Language | Gregory Khejrnejat, <i>A Clearing</i> |
| 第10回 | Creative Writing Workshop (1)           | Writing in a second language          |
| 第11回 | Creative Writing Workshop (2)           | Continued                             |
| 第12回 | Thesis Presentations (1)                | Presentations                         |
| 第13回 | Thesis Presentations (2)                | Presentations                         |
| 第14回 | Conclusion                              | Presentations                         |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will read a novel, a short story, or a poem. They are expected to spend at least four hours preparing for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed in class.

『英語でよむ万葉集』（岩波新書）リービ 英雄（著）

『愛人 ラマン』（河出文庫）マルグリット デュラス（著）

『開墾地』（講談社）グレゴリー・ケズナジャット（著）

【参考書】

To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance, Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class we will explore the theme of translation in the broadest sense of the word. Not only will we study English translations of Japanese literature, we will consider the cultural contexts in which these translations emerged. We will also discuss how some writers translate themselves into their second language. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Grades will be determined based on presentations (30%), participation (30%) and the final paper (40%).

ARS200BD

## Comparative Culture(3)

波戸岡 景太

授業コード：A2989 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：定員30名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する

その他属性：〈グ〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class examines how American culture has understood and utilized the culture of "kawaii" in Japan through the comparative study of cuteness in both the United States and Japan.

## 【到達目標】

Students will be able to:

1. show how media texts are shaped by their distinctive local, national, international, and transnational contexts.
2. gain a cross-cultural perspective of Japanese popular culture aesthetics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

This course aims to teach how to understand the "diversity of parodies of cute Japan" critically. Learning how to do this requires that you examine media content and texts closely and read critical essays on them with the guidance of the lecturer, as well as through discussions with your classmates.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                                  | 内容                                                                                         |
|------|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Japan on American TV                                                 | Introduction to the course                                                                 |
| 第2回  | "The Power Dynamics of Parodying <i>Kawaii</i> Japan"                | "Idol," Sanrio, and <i>Yuru Kyara</i>                                                      |
| 第3回  | "Wartime Stereotypes Become Judo Jacks" (Ch.1)                       | International characters on American TV in 1950s                                           |
| 第4回  | "Fred Flintstone Meets Professor Rockimoto" (Ch.1)                   | International characters on American TV in 1960s                                           |
| 第5回  | "Samurai in America" (Ch.2)                                          | Samurai characters on American TV in 1970s #1                                              |
| 第6回  | "Shōgun's Serious Samurai" (Ch.2)                                    | Samurai characters on American TV in 1970s #2                                              |
| 第7回  | " <i>Sesame Street</i> in the United States and Japan" (Ch.3)        | The role of American TV in explaining Japan #1                                             |
| 第8回  | "Japan in <i>Sesame Street</i> and <i>Big Bird in Japan</i> " (Ch.3) | The role of American TV in explaining Japan #2                                             |
| 第9回  | "Provincial Fathers and Sons Bond in Cool Japan" (Ch.4)              | <i>The Simpsons</i> and the animated sitcoms                                               |
| 第10回 | "J-Pop America Fun Time Now" (Ch.5)                                  | Metaparody of Japanese studies                                                             |
| 第11回 | "Marie Kondo and the KonMari Method" (Ch.6)                          | Interpretation of the "Ideal Japanese woman" for American audiences                        |
| 第12回 | "Queer Eye: We're in Japan!" (Ch.6)                                  | "Tidiness" and <i>Yamato Nadeshiko</i>                                                     |
| 第13回 | Japan's "cutification"                                               | Japan as "one of the first and most consistently parodied contries on American television" |
| 第14回 | Final Exam                                                           | Students summarize each chapter of the textbook and write their opinions.                  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparing for quizzes at the beginning of each class: 2 hours.

Reading a chapter of the textbook: 2 hours.

## 【テキスト（教科書）】

Freedman, Alisa. *Japan on American TV: Screaming Samurai Join Anime Clubs in the Land of the Lost*. Columbia University Press. 2021.

## 【参考書】

Iwabuchi, Koichi. *Recentering Globalization: Popular Culture and Japanese Transnationalism*. Duke University Press, 2002.

Hutcheon, Linda. *A Theory of Parody: The Teaching of Twentieth-Century Art Forms*. University of Illinois Press, [1985] 2000.

## 【成績評価の方法と基準】

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

Three or more absences from discussion sessions without a valid and well-documented reason will lower your final course grade by one full grade.

## 【学生の意見等からの気づき】

Feedback is not available due to a change in the class instructor this year.

## 【Outline (in English)】

This class examines how American culture has understood and utilized the culture of "kawaii" in Japan through the comparative study of cuteness in both the United States and Japan.

Students will be able to:

1. show how media texts are shaped by their distinctive local, national, international, and transnational contexts.
2. gain a cross-cultural perspective of Japanese popular culture aesthetics.

This course aims to teach how to understand the "diversity of parodies of cute Japan" critically. Learning how to do this requires that you examine media content and texts closely and read critical essays on them with the guidance of the lecturer, as well as through discussions with your classmates.

Preparing for quizzes at the beginning of each class: 2 hours.

Reading a chapter of the textbook: 2 hours.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

Three or more absences from discussion sessions without a valid and well-documented reason will lower your final course grade by one full grade.

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## Second Language Learning and Teaching

### ブライアン ウィスナー

授業コード：A2990 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈グ〉〈優〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course examines second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine the variables that influence L2 acquisition and investigate how they are addressed in principled approaches to L2 pedagogy.

#### 【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Identify and explain the variables that influence L2 acquisition
2. Explain the connection between theories of L2 learning and L2 teaching

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation. Check Hoppii for any updates regarding this course.

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                | 内容                                                                       |
|------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the course                         | Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching |
| 第2回  | First language acquisition                         | How do people learn an L1?                                               |
| 第3回  | Second language acquisition                        | How do adults learn an L2?                                               |
| 第4回  | Age and L2 acquisition                             | How does age affect L2 acquisition?                                      |
| 第5回  | Interaction in L2 classrooms                       | Does interaction lead to L2 acquisition?                                 |
| 第6回  | Focus on form                                      | Attending to meaning and form in L2 learning                             |
| 第7回  | Acquisition of L2 grammar                          | How is L2 grammar acquired?                                              |
| 第8回  | Acquisition of L2 vocabulary                       | Issues related to L2 vocabulary acquisition                              |
| 第9回  | Contexts of instructed second language acquisition | In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?   |
| 第10回 | Foreign language aptitude                          | Does language aptitude influence L2 learning?                            |
| 第11回 | Motivation                                         | To what extent does motivation affect L2 learning?                       |
| 第12回 | Affect and other individual differences            | What other variables play a role in L2 learning?                         |
| 第13回 | Research presentations                             | Research project presentations                                           |
| 第14回 | Feedback on research presentations and final exam  | Discussion of and feedback on students' presentations and final exam     |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

#### 【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

#### 【参考書】

Patsy M. Lightbown, and Nina Spada. (2013). *How languages are learned*. Oxford University Press.

#### 【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Students commented that some of the topics were interesting and helpful.

#### 【その他の重要事項】

定員25名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する。履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

#### 【Outline (in English)】

This course examines second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine the variables that influence L2 acquisition and investigate how they are addressed in principled approaches to L2 pedagogy.

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

## Public Speaking

椎名 美智

授業コード：A2991 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3年

備考（履修条件等）：定員20名を超える場合は抽選にて選抜する

その他属性：〈グ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on developing and improving students' public speaking skills in English by introducing basic techniques of public speaking and also by assigning tasks of giving English speeches in the class. Students will deepen their understanding of the linguistic behaviours of public speaking in English by giving speeches themselves and observing their classmates' speeches.

## 【到達目標】

The goal of this course is to acquire enough linguistic knowledge and skills to make speech in English themselves in the class, and also critical attitude to evaluate other people's speeches.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

The style of the class will be announced by HOPPII. So please check HOPPII every week.

The course consists of lectures and presentations. Reading tasks and preparing a few speeches are required. Since this course mainly consists of students' presentations, the number of the students should be limited to 20 at maximum. Those who would like to take this class should attend the first class as there may be a selection.

You are required to submit a reaction paper every week and I will deal with some of them in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                               | 内容                                                                                                                                            |
|------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction                      | Introduction of the instructor, handing out the syllabi, explanation of grading and attendance policies. Assignment of introductory speeches. |
| 第2回  | Basic Principles of Speech        | Focus class discussion on selected exercises. Explanation of introductory speeches.                                                           |
| 第3回  | Introductory Speeches I           | Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.                                                                    |
| 第4回  | Introductory Speeches II          | Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.                                                                    |
| 第5回  | Speaking to Inform                | Assignment of informative speeches: guidelines for informative speaking                                                                       |
| 第6回  | Choosing Topics and Purposes      | Focus class discussion and lecture on topics and purposes of speeches                                                                         |
| 第7回  | Organizing the Body of the Speech | Focus class discussion and lecture on organization of the body of the speech                                                                  |
| 第8回  | Introductions and Conclusions     | Focus class discussion and lecture on introductions and conclusions                                                                           |
| 第9回  | Outlining the Speech              | Focus class discussion and lecture on outlining the speech                                                                                    |
| 第10回 | Delivering the Speech             | Focus class discussion and lecture on delivering the speech                                                                                   |
| 第11回 | Using Visual Aids                 | Focus class discussion and lecture on using visual aids                                                                                       |
| 第12回 | Informative Speeches I            | Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches                                                                     |
| 第13回 | Informative Speeches II           | Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches                                                                     |
| 第14回 | Informative Speeches III          | Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches, we will also review the previous classes                           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are responsible for doing required reading and tasks before and/or after each class. Preparation for the speech and presentations will be required for credit. You need two hours each for preparation and review.

## 【テキスト（教科書）】

All the materials will be uploaded at HOPPII. Students need to download and print them as needed.

## 【参考書】

Any English textbooks related to public speaking

## 【成績評価の方法と基準】

50%: Classroom participation

50%: Presentation

## 【学生の意見等からの気づき】

I would like to spend more time for students' presentations.

## 【その他の重要事項】

The order of the classes above mentioned can be changed in order to accommodate the students' needs.

Office Hour: Thursday 4th period, please send an email for an appointment.

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic competence in English so that students can make speeches or presentations in public situations confidently when they start working.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(総合)

### ブライアン ウィスナー

授業コード：A2993 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

#### 【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                          | 内容                                                                                    |
|------|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the course   | What is important for improving second language skills?                               |
| 第2回  | Presentation basics          | Characteristics of effective presentations                                            |
| 第3回  | Presentations: Visual aids   | Creating and explaining visual aids                                                   |
| 第4回  | Introducing Japanese culture | Discuss and write about elements of Japanese culture                                  |
| 第5回  | Discussing Japanese culture  | Present opinions and elements of Japanese culture                                     |
| 第6回  | Exercise and health          | What is the relationship between exercise and health?                                 |
| 第7回  | Exercise and student life    | Present opinions and research on students' lifestyles                                 |
| 第8回  | Education and technology     | Discuss advancements in education and technology                                      |
| 第9回  | Digital education            | Read about technology advancements and discuss opinions                               |
| 第10回 | Handwriting and typing       | Summarize the differences between handwriting and typing                              |
| 第11回 | TV and education             | Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints |
| 第12回 | Sleep and education          | Read about the relationship between sleep and education and write a summary           |
| 第13回 | Research and data collection | Choose a topic and collect data                                                       |
| 第14回 | Presentations                | Present the findings of your research                                                 |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

#### 【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

#### 【参考書】

*The Japan Times*  
*The New York Times*

#### 【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%  
Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】  
Not applicable.

【その他の重要事項】  
《重要》

「英語表現演習 (総合)」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭 (初回授業日より前) に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

#### 【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam: 50%.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(総合)

### ブライアン ウィスナー

授業コード：A2994 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

#### 【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                          | 内容                                                                                    |
|------|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the course   | What is important for improving second language skills?                               |
| 第2回  | Presentation basics          | Characteristics of effective presentations                                            |
| 第3回  | Presentations: Visual aids   | Creating and explaining visual aids                                                   |
| 第4回  | Introducing Japanese culture | Discuss and write about elements of Japanese culture                                  |
| 第5回  | Discussing Japanese culture  | Present opinions and elements of Japanese culture                                     |
| 第6回  | Exercise and health          | What is the relationship between exercise and health?                                 |
| 第7回  | Exercise and student life    | Present opinions and research on students' lifestyles                                 |
| 第8回  | Education and technology     | Discuss advancements in education and technology                                      |
| 第9回  | Digital education            | Read about technology advancements and discuss opinions                               |
| 第10回 | Handwriting and typing       | Summarize the differences between handwriting and typing                              |
| 第11回 | TV and education             | Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints |
| 第12回 | Sleep and education          | Read about the relationship between sleep and education and write a summary           |
| 第13回 | Research and data collection | Choose a topic and collect data                                                       |
| 第14回 | Presentations                | Present the findings of your research                                                 |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

#### 【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

#### 【参考書】

*The Japan Times*  
*The New York Times*

#### 【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%  
Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】  
Not applicable.

【その他の重要事項】  
《重要》

「英語表現演習 (総合)」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭 (初回授業日より前) に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

#### 【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam: 50%.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(総合)

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2995 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

### 【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                          | 内容                                                                                    |
|------|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the course   | What is important for improving second language skills?                               |
| 第2回  | Presentation basics          | Characteristics of effective presentations                                            |
| 第3回  | Presentations: Visual aids   | Creating and explaining visual aids                                                   |
| 第4回  | Introducing Japanese culture | Discuss and write about elements of Japanese culture                                  |
| 第5回  | Discussing Japanese culture  | Present opinions and elements of Japanese culture                                     |
| 第6回  | Exercise and health          | What is the relationship between exercise and health?                                 |
| 第7回  | Exercise and student life    | Present opinions and research on students' lifestyles                                 |
| 第8回  | Education and technology     | Discuss advancements in education and technology                                      |
| 第9回  | Digital education            | Read about technology advancements and discuss opinions                               |
| 第10回 | Handwriting and typing       | Summarize the differences between handwriting and typing                              |
| 第11回 | TV and education             | Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints |
| 第12回 | Sleep and education          | Read about the relationship between sleep and education and write a summary           |
| 第13回 | Research and data collection | Choose a topic and collect data                                                       |
| 第14回 | Presentations                | Present the findings of your research                                                 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

### 【参考書】

*The Japan Times*

*The New York Times*

### 【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習(総合)」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭(初回授業日より前)に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam: 50%.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 英語表現演習(総合)

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2996 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

### 【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                          | 内容                                                                                    |
|------|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Introduction to the course   | What is important for improving second language skills?                               |
| 第2回  | Presentation basics          | Characteristics of effective presentations                                            |
| 第3回  | Presentations: Visual aids   | Creating and explaining visual aids                                                   |
| 第4回  | Introducing Japanese culture | Discuss and write about elements of Japanese culture                                  |
| 第5回  | Discussing Japanese culture  | Present opinions and elements of Japanese culture                                     |
| 第6回  | Exercise and health          | What is the relationship between exercise and health?                                 |
| 第7回  | Exercise and student life    | Present opinions and research on students' lifestyles                                 |
| 第8回  | Education and technology     | Discuss advancements in education and technology                                      |
| 第9回  | Digital education            | Read about technology advancements and discuss opinions                               |
| 第10回 | Handwriting and typing       | Summarize the differences between handwriting and typing                              |
| 第11回 | TV and education             | Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints |
| 第12回 | Sleep and education          | Read about the relationship between sleep and education and write a summary           |
| 第13回 | Research and data collection | Choose a topic and collect data                                                       |
| 第14回 | Presentations                | Present the findings of your research                                                 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

### 【参考書】

*The Japan Times*

*The New York Times*

### 【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習(総合)」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭(初回授業日より前)に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam: 50%.



LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

## 言語習得論演習A

近藤 隆子

授業コード：A3001 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第二言語習得のメカニズム、すなわち、学習者が第二言語をどのように習得するのかを、母語獲得のメカニズムと比較しながら学ぶ。具体的には、第二言語習得のプロセス、インプットの役割、アウトプットの役割、動機づけ、学習方略、学習スタイルについて考える。各自またはグループで担当箇所について文献を読み、まとめ、授業の中で発表する。

### 【到達目標】

1. 第二言語習得の基礎的知識を身につけることができる。
2. 第二言語習得の具体的な研究事例について批判的に読むことができる。
3. 第二言語習得研究の成果を英語教育へ応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態：演習

基本的に、担当者が教科書・論文のまとめを発表し、グループもしくはクラス全体で議論をしていきます。発表は、パワーポイントを用いて解説すること。担当者以外の学生は、授業で扱う文献を事前に読み込み、疑問点等をまとめておくこと。

リアクションペーパー等におけるコメント・質問からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                      |
|------|---------------------|-------------------------|
| 第1回  | ガイダンス               | 授業の説明・自己紹介              |
| 第2回  | 論文の執筆に際して           | 卒論の書き方、論文の執筆上の注意点など     |
| 第3回  | 卒論テーマ紹介             | 4年生の卒論研究テーマ発表           |
| 第4回  | 教科書<br>プレゼンテーション(1) | 第1章「グローバル社会」の英語教育       |
| 第5回  | 教科書<br>プレゼンテーション(2) | 第2章 第二言語習得のプロセス         |
| 第6回  | 教科書<br>プレゼンテーション(3) | 第3章 言語習得の第一歩：インプット      |
| 第7回  | 前半のまとめ              | 前半のまとめ                  |
| 第8回  | 教科書<br>プレゼンテーション(4) | 第4章 言語知識の自動化：アウトプット     |
| 第9回  | 教科書<br>プレゼンテーション(5) | 第5章 言語学習をサポートする原動力：動機づけ |
| 第10回 | 教科書<br>プレゼンテーション(6) | 第6章 自律的な言語習得のために：学習方略   |
| 第11回 | 教科書<br>プレゼンテーション(7) | 第7章 個性に合った学びのあり方：学習スタイル |
| 第12回 | 卒論中間発表(1)           | 4年生による卒論中間発表(1)         |
| 第13回 | 卒論中間発表(2)           | 4年生による卒論中間発表(2)         |
| 第14回 | まとめ                 | 春学期のまとめ                 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

全員：授業で扱う文献を事前に読み込み、授業中のディスカッションに積極的に参加できるよう疑問点等をまとめておくこと

発表担当者：発表の資料 (パワーポイントなど) を作成し、発表2日前までに教員へ送ること

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

廣森友人。(2023)。「改訂版 英語学習のメカニズム—第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法」。東京：大修館書店。

### 【参考書】

白畑知彦、富田祐一、村野井仁、若林茂則。(2019)。「英語教育用語辞典 第3版」。東京：大修館書店。

その他、授業の中で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート、確認問題などの提出物 (40%)、授業への積極的な参加 (担当箇所の口頭発表、ディスカッション、他の人の発表への質問・コメントなど) (60%) による総合評価。

- ・遅刻・欠席は必ずメールにて授業前に連絡をしてください
- ・特別な理由なく演習を3回欠席した場合、D評価となります

### 【学生の意見等からの気づき】

ペア・グループワークが少なかったために、学生同士の議論があまり活発にできなかった。今年度は、ペア・グループワークをうまく活用し、学生がより主体的に授業に参加し、より深い学びに繋がるように工夫したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業中、資料にアクセスしたり、他の人の発表への質問・コメントなどをする際、パソコンもしくはタブレットを使用します。また、資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。

### 【その他の重要事項】

- ・特別な理由がない限り、初回の授業には必ず出席してください
- ・ゼミ生は授業に欠席する場合、教員に必ず理由をメールにて連絡して下さい
- ・言語習得論演習Bと連続して履修して下さい
- ・卒論指導を希望する4年生は、必ず履修して下さい

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The aim of this course is to help students learn about the mechanism of second language acquisition, that is, how a learner acquires a second language.

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the theory of second language acquisition and its application to English language education.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on homework assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

## 言語習得論演習B

近藤 隆子

授業コード：A3002 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第二言語習得のメカニズム、すなわち、学習者が第二言語をどのように習得するのかを、母語獲得のメカニズムと比較しながら学ぶ。具体的には、第二言語習得のプロセス、インプットの役割、アウトプットの役割、動機づけ、学習方略、学習スタイルについて考える。各自またはグループで担当箇所について文献を読み、まとめ、授業の中で発表する。

## 【到達目標】

1. 第二言語習得の基礎的知識を身につけることができる。
2. 第二言語習得の具体的な研究事例について批判的に読むことができる。
3. 第二言語習得研究の成果を英語教育へ応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業形態：演習

基本的に、担当者が教科書・論文のまとめを発表し、グループもしくはクラス全体で議論をしていきます。発表は、パワーポイントを用いて解説すること。担当者以外の学生は、授業で扱う文献を事前に読み込み、疑問点等をまとめておくこと。

リアクションペーパー等におけるコメント・質問からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                               |
|------|----------------------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                | 授業の進め方について、春学期の復習、論文の進め方について     |
| 第2回  | 秋学期に扱う論文について         | 秋学期に扱う論文の紹介+発表担当グループの決定          |
| 第3回  | 学年別演習                | 3年生：ゼミ別就職セミナー<br>4年生：卒論指導+ビアレビュー |
| 第4回  | 論文精読<br>プレゼンテーション(1) | 第二言語学習者による動詞の習得に関する先行研究(1)       |
| 第5回  | 論文精読<br>プレゼンテーション(2) | 第二言語学習者による動詞の習得に関する先行研究(2)       |
| 第6回  | 論文精読<br>プレゼンテーション(3) | 第二言語学習者による名詞の習得に関する先行研究(1)       |
| 第7回  | 論文精読<br>プレゼンテーション(4) | 第二言語学習者による名詞の習得に関する先行研究(2)       |
| 第8回  | 論文精読<br>プレゼンテーション(5) | 第二言語習得と英語教育への応用(1)               |
| 第9回  | 論文精読<br>プレゼンテーション(6) | 第二言語習得と英語教育への応用(2)               |
| 第10回 | 卒論発表(1)              | 4年生による卒論研究発表(1週目)                |
| 第11回 | 卒論発表(2)              | 4年生による卒論研究発表(2週目)                |
| 第12回 | 3年生の卒論テーマ発表(1)       | 3年生の卒論テーマ、アウトライン、先行研究の紹介(1)      |
| 第13回 | 3年生の卒論テーマ発表(2)       | 3年生の卒論テーマ、アウトライン、先行研究の紹介(2)      |
| 第14回 | まとめ                  | 秋学期のまとめ                          |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

全員：授業で扱う文献を事前に読み込み、授業中のディスカッションに積極的に参加できるよう疑問点等をまとめておくこと

発表担当者：発表の資料(パワーポイントなど)を作成し、二日前までに教員へ送ること

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

読むべき論文は授業内で指示します。

## 【参考書】

白畑知彦, 富田祐一, 村野井仁, 若林茂則. (2019). 『英語教育用語辞典 第3版』. 東京: 大修館書店.

その他、授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート、確認問題などの提出物(40%)、授業への積極的な参加(担当箇所の口頭発表、ディスカッション、他の人の発表への質問・コメントなど)(60%)による総合評価。

・遅刻・欠席は必ずメールにて授業前に連絡をしてください

・特別な理由なく演習を3回欠席した場合、D評価となります

## 【学生の意見等からの気づき】

ベア・グループワークが少なかったために、学生同士の議論があまり活発にできなかった。今年度は、ベア・グループワークをうまく活用し、学生がより主体的に授業に参加し、より深い学びに繋がるように工夫したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業中、資料にアクセスしたり、他の人の発表への質問・コメントなどをする際、パソコンもしくはタブレットを使用します。また、資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。

## 【その他の重要事項】

- ・特別な理由がない限り、初回の授業には必ず出席してください
- ・ゼミ生は授業に欠席する場合、教員に必ず理由をメールにて連絡して下さい
- ・原則として、春学期の言語習得論演習Aと継続して履修して下さい
- ・卒論指導を希望する4年生は、必ず履修して下さい

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The aim of this course is to help students learn about the mechanism of second language acquisition, that is, how a learner acquires a second language.

## 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the theory of second language acquisition and its application to English language education. Furthermore, students will be able to read previous studies critically and design their own research experiment.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paper and completed the required assignments. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on homework assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 世界文学講義Ⅲ

小澤 央

授業コード：A3003 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文学をはじめとする世界文学の重要なテーマのひとつ、ユートピア（ディストピアを含む）と関連の深い有名な19世紀以前の文学作品を、政治的・文化的文脈に位置づけながら解釈する。人文主義、植民地主義、マルクス主義、ダーウィニズムといった、今日でも重要な意義を持つ諸問題との関係で分析する。ユートピアというテーマの持つ可能性や限界についても議論する。

ユートピア文学の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

### 【到達目標】

- ユートピアというテーマとの関係で文学史を概観できる。
- 作品と関連する政治的・文化的問題について基本的知識を習得する。
- 辞書や和訳を参照しながらも、ユートピア文学の抜粋を原文で読める英語力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                                           |
|------|------------------|----------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション        | ユートピアとは何か、19世紀以前のユートピア文学史の概観                 |
| 第2回  | 人文主義とユートピア       | More, <i>Utopia</i> 前半                       |
| 第3回  | 人文主義とユートピア (1)   | More, <i>Utopia</i> 後半                       |
| 第4回  | 植民地主義と新世界 (1)    | Shakespeare, <i>The Tempest</i> 前半           |
| 第5回  | 植民地主義と新世界 (2)    | Shakespeare, <i>The Tempest</i> 後半           |
| 第6回  | 前半の講義のまとめ        | 総括と補足                                        |
| 第7回  | ダーウィニズムと機械文明 (1) | Butler, <i>Erewhon</i> 前半                    |
| 第8回  | ダーウィニズムと機械文明 (2) | Butler, <i>Erewhon</i> 後半                    |
| 第9回  | マルクス主義とエコロジー (1) | Morris, <i>News from Nowhere</i> 前半          |
| 第10回 | マルクス主義とエコロジー (2) | Morris, <i>News from Nowhere</i> 後半          |
| 第11回 | 世紀末とディストピア (1)   | Wells, <i>The Island of Doctor Moreau</i> 前半 |
| 第12回 | 世紀末とディストピア (2)   | Wells, <i>The Island of Doctor Moreau</i> 後半 |
| 第13回 | 後半の講義のまとめ        | 総括と補足                                        |
| 第14回 | 期末試験と今学期のまとめ     | 今後の研究についての示唆                                 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

### 【参考書】

- 授業で扱う文学作品
- グレゴリー・クレイズ著、『ユートピアの歴史』、巽孝之監訳、小畑拓也訳、東洋書林、2013年
- 川端香男里著、『ユートピアの幻想』、講談社学術文庫、1993年
- John Carey, ed., *The Faber Book of Utopias*, Faber and Faber, 1999.
- Gregory Claeys, ed., *The Cambridge Companion to Utopian Literature*, Cambridge UP, 2010.

### 【成績評価の方法と基準】

- リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
- 期末試験：70%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

### 【その他の重要事項】

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

### 【Outline (in English)】

In this course, students are expected to interpret utopian literature in relation to political and cultural contexts, such as humanism, colonialism, Marxism and Darwinism. The goals of this course are to survey the history of utopian literature, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD (文学 / Literature 200)

## 世界文学講義IV

小澤 央

授業コード：A3004 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文学をはじめとする世界文学の重要なテーマのひとつ、ユートピア (ディストピアを含む) と関連の深い有名な20世紀以降の文学作品を、政治的・文化的文脈に位置づけながら解釈する。官僚主義、全体主義、帝国主義、無政府主義、ポストヒューマニズムといった、今日でも重要な意義を持つ諸問題との関係で分析する。ユートピアというテーマの持つ可能性や限界についても議論する。

ユートピア文学の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

## 【到達目標】

- ・ユートピアというテーマとの関係で文学史を概観できる。
- ・作品と関連する政治的・文化的問題について基本的知識を習得する。
- ・辞書や和訳を参照しながらも、ユートピア文学の抜粋を原文で読める英語力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                    |
|------|-----------------------|---------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション             | ユートピアとは何か、20世紀以降のユートピア文学史の概観          |
| 第2回  | 官僚主義と不条理(1)           | Kafka, <i>The Trial</i> 前半            |
| 第3回  | 官僚主義と不条理(2)           | Kafka, <i>The Trial</i> 後半            |
| 第4回  | 全体主義と民族主義(1)          | Č apek, <i>War with the Newts</i> 前半  |
| 第5回  | 全体主義と民族主義(2)          | Č apek, <i>War with the Newts</i> 後半  |
| 第6回  | 前半の講義のまとめ             | 総括と補足                                 |
| 第7回  | 帝国主義と無人島(1)           | Golding, <i>Lord of the Flies</i> 前半  |
| 第8回  | 帝国主義と無人島(2)           | Golding, <i>Lord of the Flies</i> 後半  |
| 第9回  | 無政府主義とクリティカル・ユートピア(1) | Le Guin, <i>The Dispossessed</i> 前半   |
| 第10回 | 無政府主義とクリティカル・ユートピア(2) | Le Guin, <i>The Dispossessed</i> 後半   |
| 第11回 | ポストヒューマニズムとAI(1)      | Ishiguro, <i>Klara and the Sun</i> 前半 |
| 第12回 | ポストヒューマニズムとAI(2)      | Ishiguro, <i>Klara and the Sun</i> 後半 |
| 第13回 | 後半の講義のまとめ             | 総括と補足                                 |
| 第14回 | 期末試験と今学期のまとめ          | 今後の研究についての示唆                          |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回予め指示された資料 (レジュメなど) を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

授業のレジュメ

## 【参考書】

- ・授業で扱う文学作品
- ・グレゴリー・クレイズ著、『ユートピアの歴史』、巽孝之監訳、小畑拓也訳、東洋書林、2013年
- ・川端香男里著、『ユートピアの幻想』、講談社学術文庫、1993年
- ・John Carey, ed., *The Faber Book of Utopias*, Faber and Faber, 1999.
- ・Gregory Claeys, ed., *The Cambridge Companion to Utopian Literature*, Cambridge UP, 2010.

## 【成績評価の方法と基準】

- ・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
- ・期末試験：70%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

## 【その他の重要事項】

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

## 【Outline (in English)】

In this course, students are expected to interpret utopian literature in relation to political and cultural contexts, such as bureaucratism, totalitarianism, imperialism, anarchism and posthumanism. The goals of this course are to survey the history of utopian literature, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 世界文学講義 I

柳橋 大輔

授業コード：A3005 | 曜日・時限：火5/Tue.5  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年  
 備考（履修条件等）：定員制（30）

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【グリム／ディズニーから読み解くドイツ文化とその越境】

ディズニーがこれまでに製作してきた60本以上の長篇アニメ映画のうち、グリム童話などドイツにルーツをもつ物語を原作もしくは原案とする作品は少なくありません。これらの作品を観たことのあるみなさんは、ディズニー映画というフィルターを通して、間接的にドイツ文化と触れ合ってきたといってもよいでしょう。

この授業では、ドイツ語圏の児童文学を、それを原作とする映画と比較・対照します。テキストと映像を読み／観ながら、両者の差異を生み出す要因になったドイツ（とアメリカ）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

### 【到達目標】

ドイツ語圏の児童文学作品を手掛かりに、テキストとその文化的文脈を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏（英米・日本など）との相互関係に対する関心や理解を深める。

文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

まず、論及の対象となる文学作品を紹介し、映画作品の抜粋を視聴しながら、教員がその作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

次に、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループ発表を行なってもらい、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ               | 内容                                           |
|-----|-------------------|----------------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション         | 授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？「カルチュラル・スタディーズ」とは？ など） |
| 第2回 | 『グリム童話集』の歴史       | 成立過程／ドイツ・アメリカ・日本における受容史／グループ分け（1）            |
| 第3回 | プリンセスの変容と社会の変化    | ディズニーによる『グリム童話集』映画化の歴史を概観する／グループ分け（2）        |
| 第4回 | ふたりの『白雪姫』（1）      | テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈                      |
| 第5回 | ふたりの『白雪姫』（2）      | 【グループ発表1】 テキストと映画の比較                         |
| 第6回 | 『灰まみれ』と『シンデレラ』（1） | テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈                      |

|      |                          |                         |
|------|--------------------------|-------------------------|
| 第7回  | 『灰まみれ』と『シンデレラ』（2）        | 【グループ発表2】 テキストと映画の比較    |
| 第8回  | 『いばら姫』と『眠れる森の美女』（1）      | テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈 |
| 第9回  | 『いばら姫』と『眠れる森の美女』（2）      | 【グループ発表3】 テキストと映画の比較    |
| 第10回 | 『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』（1） | テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈 |
| 第11回 | 『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』（2） | 【グループ発表4】 テキストと映画の比較    |
| 第12回 | 『ラプンツェル』と『塔の上のラプンツェル』（1） | テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈 |
| 第13回 | 『ラプンツェル』と『塔の上のラプンツェル』（2） | 【グループ発表5】 テキストと映画の比較    |
| 第14回 | ディズニーとドイツ（まとめにかえて）       | メディア間翻訳が映し出す文化的・社会的文脈   |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通しておいてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

### 【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

### 【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60%  
 学期末レポート：40%（提出しない場合は単位の認定ができません）  
 ——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

### 【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。  
 春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。  
 授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。  
 オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

### 【Outline (in English)】

German Culture and its Crossing Borders as Read from Grimm/Disney

In this class, we will compare/contrast children's literature from German-speaking countries with the films based on them. While reading/watching the texts and films, we will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and the U.S.) that contributed to the differences between the two.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 世界文学講義 II

柳橋 大輔

授業コード：A3006 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：定員制（30）

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

## 【アニメ・映画における〈人造人間〉の変容】

映画やアニメなどのポップカルチャーのなかにはしばしば〈人造人間〉が登場しますが、その際、これらのモチーフには直接的・間接的にドイツ文化において過去に生み出されたイメージが大きく影を落としています。

この授業では、〈人造人間〉を四つのタイプに分類し、そのドイツ語圏文化における出現を跡づけたのち、それぞれのモチーフが現代の文化のなかにもどのようなかたちで〈転生〉を遂げているのかを考えていきます。〈転生〉後のイメージを変容させる要因になったドイツ（と日本やアメリカなど）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

## 【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品や映画の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

文学と映像のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏（英米・日本など）との相互関係に対する関心や理解を深める。

文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

第9回までの授業で、教員が論及の対象となる文学作品を紹介し、映像作品の抜粋を視聴しながら、その作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

第10回以降は、それぞれのモチーフをあつかったほかの作品（映画、アニメ、漫画などポップカルチャーを含む）を受講生のみなさんに自由に選んでもらい、これについてグループ発表を行なってもらいます。その後、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

文学作品や映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                             | 内容                              |
|-----|---------------------------------|---------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション                       | 授業の概要について紹介／〈人造人間〉とは何か          |
| 第2回 | 〈ホムンクルス〉と『鋼の錬金術師』：生命の創造という禁忌(1) | ゲーテ『ファウスト』：プロメテウスの神話、ソクーロフと手塚治虫 |
| 第3回 | 〈ホムンクルス〉と『鋼の錬金術師』：生命の創造という禁忌(2) | 〈魔術〉と〈科学〉のあいだで：〈クローン技術〉の表象分析    |

|      |                                          |                                           |
|------|------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 第4回  | 〈オリンピア〉と〈人形愛〉：恋愛対象はアンドロイド(1)             | ホフマン『砂男』、ピュグマリオン神話、映画『メトロポリス』             |
| 第5回  | 〈オリンピア〉と〈人形愛〉：恋愛対象はアンドロイド(2)             | 映画『空気人形』『アイム・ユア・マン』：フィクトセクシュアルと〈推し〉       |
| 第6回  | 〈ゴーレム〉と『新世紀エヴァンゲリオン』：〈人造人間〉の両義性(1)       | マイリンク『ゴーレム』、ゴーレム伝説と映画『巨人ゴーレム』             |
| 第7回  | 〈ゴーレム〉と『新世紀エヴァンゲリオン』：〈人造人間〉の両義性(2)       | フランケンシュタイン、『大魔神』と〈巨大ロボットアニメ〉の系譜           |
| 第8回  | 〈プロテゼ〉と『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』：補綴からサイボーグへ?(1) | ゲーテ『ゲッツ』／第一次大戦と映画『芸術と手術』『M』               |
| 第9回  | 〈プロテゼ〉と『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』：補綴からサイボーグへ?(2) | 身体改変とその果て——美容整形（『ヘルタースケルター』）／義体化（『攻殻機動隊』） |
| 第10回 | 〈ホムンクルス〉の転生                              | 【グループ発表1】現代の〈ホムンクルス〉：差異とその社会的・文化的要因       |
| 第11回 | 〈オリンピア〉の転生                               | 【グループ発表2】現代の〈オリンピア〉：差異とその社会的・文化的要因        |
| 第12回 | 〈ゴーレム〉の転生                                | 【グループ発表3】現代の〈ゴーレム〉：差異とその社会的・文化的要因         |
| 第13回 | 〈プロテゼ〉の転生                                | 【グループ発表4】現代の〈プロテゼ〉：差異とその社会的・文化的要因         |
| 第14回 | 〈人造人間〉の系譜（まとめにかえて）                       | 文化・メディアを超えた〈転生〉を〈読む〉こと                    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通してください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

## 【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

## 【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60%

学期末レポート：40%（提出しない場合は単位の認定ができません）——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

## 【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

**【Outline (in English)】**

**The Transformation of 'Artificial Humans' in Animation and Film**

'Artificial humans' often appear in pop culture, such as movies and animated films, and these motifs have been directly or indirectly influenced by the images created in German culture in the past.

In this class, we will classify the four types of 'artificial humans,' trace their appearance in German-speaking cultures, and then consider how each motif has been 'reincarnated' in contemporary culture. We will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and Japan, the U.S., etc.) that have contributed to the transformation of the post-incarnation image.

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英語圏文学研究A

小島 尚人

授業コード：A3007 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：ヘンリー・ジェームズ研究

本授業は、学部3・4年生が大学院生と一緒に受講し、発展的な内容にチャレンジする新科目である。学部生が院生と垣根をこえてディスカッションをし、ときには院生にリードしてもらいながら英語圏の文学を共に学ぶ。そうすることを通じて、大学4年間の学びのその先に広がる学問の世界の面白さを体感するとともに、翻って自分が大学時代に学んできたことの意義をより良く理解することを目的とする。

今年度は、日本の夏目漱石にも多大な影響を与えたアメリカの小説家Henry Jamesの作品を1年間かけて研究する。ジェームズは、ヨーロッパとアメリカの狭間で揺れ動く人物たちの姿を緻密に描き出すことを通じて小説ジャンルの革新者となった作家である。そのジェームズの長篇作品を精読し、同時に近代小説（novel）の歴史とアメリカ小説の特質についての代表的な議論を学んでいく。春学期は、ジェームズ前期の代表作でありアメリカのリアリズム小説の時代を画した*The Portrait of a Lady*（1881）を扱う。

## 【到達目標】

- ・発展的な内容を大学院生と共に学ぶことで、卒論の先にある文学研究の世界の意義や魅力について体感的に理解する。
- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- ・自分の解釈を論理的に記述することができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者は毎週予習として作品または批評を読み、発言できるよう準備をした上で授業に臨む。

授業は講義と演習を織り交ぜたかたちで進める。受講者の発表担当がある回では、発表者がハンドアウトを作成してプレゼンテーションをおこない、担当コメントーターによるコメント・質問、そして全体でのディスカッションをする。適宜教員による補足説明がなされる。発表担当者は、担当範囲の内容を要約したうえで、重要と思われる箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。

発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                    | 内容                                                           |
|-----|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション                              | 授業の内容と進め方の説明                                                 |
| 第2回 | ヨーロッパ小説とアメリカ小説①：「偉大なアメリカ小説」とは          | Lawrence Buell, <i>The Dream of the Great American Novel</i> |
| 第3回 | ヨーロッパ小説とアメリカ小説②：アメリカ文学におけるビルドゥングスroman | Sarah Graham, <i>A History of the Bildungsroman</i>          |

|      |                                    |                                                                                            |
|------|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第4回  | ヨーロッパ小説とアメリカ小説③：ビルドゥングスromanとジェンダー | Susan Fraiman, <i>Unbecoming Women: British Women Writers and the Novel of Development</i> |
| 第5回  | 作品読解①                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 1- 7</i>                                  |
| 第6回  | 作品読解②                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 8- 13</i>                                 |
| 第7回  | 作品読解③                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 14- 18</i>                                |
| 第8回  | 作品読解④                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 19- 22</i>                                |
| 第9回  | 作品読解⑤                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 23- 28</i>                                |
| 第10回 | 作品読解⑥                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 29- 36</i>                                |
| 第11回 | 作品読解⑦                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 37- 41</i>                                |
| 第12回 | 作品読解⑧                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 42- 46</i>                                |
| 第13回 | 作品読解⑨                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 47- 51</i>                                |
| 第14回 | 作品読解⑩                              | Henry James, <i>The Portrait of a Lady: Chapters 52- 55</i>                                |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回事前に課題（作品または批評）を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備する。面白かった点、考察したい点、質問したい点、気になった表現などについてメモをとっておく。（予習4時間以上）

## 【テキスト（教科書）】

Henry James, *The Portrait of a Lady* (Penguin Classics, 2011). ISBN: 9780141441269

## 【参考書】

近代小説の歴史や理論に関するもの、アメリカ小説の特質や歴史についてのものなど、英語・日本語両方の様々な文献を授業内で適宜紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・授業への貢献度（予習の度合い、討議への積極的な参加の度合い、授業内提出課題の内容など）：30%
- ・プレゼンテーション（担当箇所の内容を正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）：30%
- ・期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）：40%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度から開講される新規科目のため記入できませんが、学部生と大学院生の双方にとって充実した学びの場になるよう、授業の運営方法や課題のレベル・量の調整等で工夫をしていきたいと考えています。

## 【Outline (in English)】

This class is a seminar on the novels of Henry James, which is open both to undergraduate (senior and junior) and graduate (MA) students.

The course begins with a historical and theoretical survey of the novel genre, framing the questions of what the novel is and what the novel does, as well as what is “American” in the American novel. In the second half of the semester, through the close reading of James’s *The Portrait of a Lady* (1881), students develop their skills to analyze literary texts in a critical way with focus both on their individuality and historicity. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures.

Before each meeting, students are expected to spend 4 or more hours completing reading assignments and preparing for class discussion.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and discussion (30%)
- 2) Presentations (30%)
- 3) Final paper (40%)



LIT300BD (文学 / Literature 300)

英語圏文学研究B

小島 尚人

授業コード：A3008 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：ヘンリー・ジェームズ研究

本授業は、学部3・4年生が大学院生と一緒に受講し、発展的な内容にチャレンジする新科目である。学部生が院生と垣根をこえてディスカッションをし、ときには院生にリードしてもらいながら英語圏の文学を共に学ぶ。そうすることを通じて、大学4年間の学びのその先に広がる学問の世界の面白さを体感するとともに、翻って自分が大学時代に学んできたことの意義をより良く理解することを目的とする。

今年度は、日本の夏目漱石にも多大な影響を与えたアメリカの小説家Henry Jamesの作品を1年間かけて研究する。ジェームズは、ヨーロッパとアメリカの狭間で揺れ動く人物たちの姿を緻密に描き出すことを通じて小説ジャンルの革新者となった作家である。そのジェームズの長篇作品を精読し、同時に近代小説 (novel) の歴史とアメリカ小説の特質についての代表的な議論を学んでいく。秋学期は、視点人物の意識を深く掘り下げる技法でモダニズムの先駆ともなったジェームズ後期 (円熟期) の三部作のひとつであり米文学史上屈指の傑作*The Wings of the Dove* (1902) を扱う。

【到達目標】

- ・発展的な内容を大学院生と共に学ぶことで、卒論の先にある文学研究の世界の意義や魅力について体感的に理解する。
- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- ・自分の解釈を論理的に記述することができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は毎週予習として作品または批評を読み、発言できるよう準備をした上で授業に臨む。

授業は講義と演習を織り交ぜたかたちで進める。受講者の発表担当がある回では、発表者がハンドアウトを作成してプレゼンテーションをおこない、担当コメンテーターによるコメント・質問、そして全体でのディスカッションをする。適宜教員による補足説明がなされる。発表担当者は、担当範囲の内容を要約したうえで、重要と思われる箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。

発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ       | 内容                                                   |
|-----|-----------|------------------------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション | 春学期の振り返りと秋学期の展望                                      |
| 第2回 | 概説講義      | ジェームズの後期三部作について                                      |
| 第3回 | 作品読解①     | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book I   |
| 第4回 | 作品読解②     | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book II  |
| 第5回 | 作品読解③     | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book III |

|      |         |                                                       |
|------|---------|-------------------------------------------------------|
| 第6回  | 作品読解④   | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book IV   |
| 第7回  | 作品読解⑤   | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book V    |
| 第8回  | 作品読解⑥   | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book VI   |
| 第9回  | 作品読解⑦   | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book VII  |
| 第10回 | 作品読解⑧   | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book VIII |
| 第11回 | 作品読解⑨   | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book IX   |
| 第12回 | 作品読解⑩   | Henry James, <i>The Wings of the Dove</i> , Book X    |
| 第13回 | 批評・研究論文 | <i>The Wings of the Dove</i> についての論文を数本取り上げて講義        |
| 第14回 | 1年間のまとめ | ヘンリー・ジェームズ研究のこれから                                     |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回事前に課題 (作品または批評) を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備する。面白かった点、考察したい点、質問したい点、気になった表現などについてメモをとっておく。(予習4時間以上)

【テキスト (教科書)】

Henry James, *The Wings of the Dove* (Penguin Classics, 2008). ISBN: 978-0141441283

【参考書】

近代小説の歴史や理論に関するもの、アメリカ小説の特質や歴史についてのものなど、英語・日本語両方の様々な文献を授業内で適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への貢献度 (予習の度合い、討議への積極的な参加の度合い、授業内提出課題の内容など) : 30%
- ・プレゼンテーション (担当箇所の内容を正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか) : 30%
- ・期末レポート (自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する) : 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度から開講される新規科目のため記入できませんが、学部生と大学院生の双方にとって充実した学びの場になるよう、授業の運営方法や課題のレベル・量の調整等で工夫をしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

This class is a seminar on the novels of Henry James, which is open both to undergraduate (senior and junior) and graduate (MA) students.

The course begins with a historical and theoretical survey of the novel genre, framing the questions of what the novel is and what the novel does, as well as what is "American" in the American novel. In the second half of the semester, through the close reading of James's *The Wings of the Dove* (1902), students develop their skills to analyze literary texts in a critical way with focus both on their individuality and historicity. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures.

Before each meeting, students are expected to spend 4 or more hours completing reading assignments and preparing for class discussion.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and discussion (30%)
- 2) Presentations (30%)
- 3) Final paper (40%)

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英語圏文学演習A

田中 裕希

授業コード：A3009 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語圏の大学の創作科で教えられている **craft course** に倣い、文学のある技法に焦点を当て、その技法を掘り下げながら実際に英語で創作する。春学期はエクフランスと呼ばれる、絵画や写真のような視覚芸術をベースにした詩を読んでいく。なお、本授業は学部3・4年生が大学院生と共に受講し、高度な内容に挑戦する新しい科目である。学部と大学院の垣根を越えて学習することで、活発な議論を促し、文学を多角的に理解する。

## 【到達目標】

英語圏の代表的なエクフランスを読み、歴史的背景・文化的背景を学びつつ創作に活かす。作品の細部を主題に結びつけて論じる力を身につける。クラス全体でディスカッションし、スピーキング力を養う。大学院生と共に学び、意見を交換することで、文学に対する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

作品のディスカッションと創作のワークショップを中心とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                                                   |
|------|----------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | エクフランスとは？            | 視覚芸術と言語芸術。ロラン・バルトの写真論を通じて。                                           |
| 第2回  | 二十世紀以前のエクフランス (1)    | John Keats, "Ode on a Grecian Urn"                                   |
| 第3回  | 二十世紀以前のエクフランス (2)    | Robert Browning, "My Last Duchess"                                   |
| 第4回  | 3つの『イカロスの墜落』         | W. H. Auden, Mary Jo Bang, Shangyang Fang                            |
| 第5回  | エクフランスとシュールレアリスム     | Dean Young, Shuzo Takiguchi                                          |
| 第6回  | 幻想としてのエクフランス         | John Ashbery, "Self-Portrait in a Convex Mirror"                     |
| 第7回  | クリエイティヴ・ライティング       | ワークショップ                                                              |
| 第8回  | エクフランスと現代アメリカ詩 (1)   | Mary Jo Bang, <i>A Doll for Throwing</i>                             |
| 第9回  | エクフランスと現代アメリカ詩 (2)   | Robin Coste Lewis, <i>To the Realization of Perfect Helplessness</i> |
| 第10回 | 美術館でリサーチ             | Museum visit, gathering materials for your own poems                 |
| 第11回 | 映画、小説、詩～映像と言語の違い (1) | Manuel Puig, <i>The Kiss of the Spider Woman</i>                     |
| 第12回 | 映画、小説、詩～映像と言語の違い (2) | Manuel Puig, <i>The Kiss of the Spider Woman</i>                     |
| 第13回 | クリエイティヴ・ライティング       | ワークショップ                                                              |
| 第14回 | まとめ                  | 朗読会、エクフランスのこれから                                                      |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週配布されるテキストを予習し、ディスカッションの準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

授業時にプリントを配布する。

マヌエル・プイグ『蜘蛛女のキス』(集英社文庫) 野谷 文昭(翻訳)

## 【参考書】

亀井俊介、川本 皓嗣(編集)『アメリカ名詩選』(岩波文庫)

平井正穂(編集)『イギリス名詩選』(岩波文庫)

阿部公彦『英詩のわかり方』(研究社)

## 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 30%

プレゼンテーション 30%

期末レポート 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

英語圏抒情詩、創作、翻訳

<研究テーマ>

抒情詩における他者

## 【Outline (in English)】

This craft course focuses on ekphrasis, a technique where writers draw inspiration from visual arts to create their work. While tracing the evolution of ekphrasis within the English-language literary tradition, we will write our own ekphrastic poems. Additionally, we will explore genre distinctions and push the boundaries of verbal art through cross-genre experimentation.

There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours. The format of this class in a given week could change, depending on the Covid situation. Grades will be determined based on presentations (30%), participation (30%), and the final paper (40%).

LIT300BD (文学 / Literature 300)

## 英語圏文学演習B

田中 裕希

授業コード：A3010 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語圏の大学の創作科で教えられている **craft course** に倣い、文学のある技法に焦点を当て、その技法を掘り下げながら実際に英語で創作する。秋学期は **persona poem** と呼ばれる、作者本人ではない話者を想定した詩を読んでいく。

なお、本授業は学部3・4年生が大学院生と共に受講し、高度な内容に挑戦する新しい科目である。学部と大学院の垣根を越えて学習することで、活発な議論を促し、文学を多角的に理解する。

### 【到達目標】

英語圏の代表的な **persona poems** を読み、歴史的背景・文化的背景を学びつつ創作に活かす。作品の細部を主題に結びつけて論じる力を身につける。クラス全体でディスカッションし、スピーキング力を養う。学部生に対して指導的な役割を演じられる。大学院生と共に学び、意見を交換することで、文学に対する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

作品のディスカッションと創作のワークショップを中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                                                                                 |
|------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 詩における「私」とは？     | T.S. Eliot, "Tradition and the Individual Talent"                                  |
| 第2回  | 劇的独白とは          | Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"                                       |
| 第3回  | Persona と虚構     | John Berryman, <i>77 Dream Songs</i> , Zbigniew Herbert, "The Envoy of Mr. Cogito" |
| 第4回  | Persona と神話     | Louise Glück, <i>Meadowlands</i>                                                   |
| 第5回  | Persona と歴史     | Robert Hayden, Lucie Brock-Broido                                                  |
| 第6回  | Persona と日記     | Frank Bidart, "Ellen West"                                                         |
| 第7回  | クリエイティヴ・ライティング  | ワークショップ                                                                            |
| 第8回  | Persona と文化 (1) | Gwendolyn Brooks, Rickey Laurentiis                                                |
| 第9回  | Persona と文化 (2) | Henri Cole                                                                         |
| 第10回 | Persona とリサーチ   | Library visit, gathering materials for your own poems                              |
| 第11回 | Persona と翻訳 (1) | Li Bai, Ezra Pound                                                                 |
| 第12回 | Persona と翻訳 (2) | Examples from classical Japanese literature                                        |
| 第13回 | クリエイティヴ・ライティング  | ワークショップ                                                                            |
| 第14回 | まとめ             | 朗読会、persona poemのこれから                                                              |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週配布されるテキストを予習し、ディスカッションの準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

### 【参考書】

亀井俊介、川本 皓嗣（編集）『アメリカ名詩選』（岩波文庫）

平井正穂（編集）『イギリス名詩選』（岩波文庫）

阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）

### 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 30%

プレゼンテーション 30%

期末レポート 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

英語圏抒情詩、創作、翻訳

<研究テーマ>

抒情詩における他者

### 【Outline (in English)】

This craft course focuses on persona poems. What does it mean to speak in a voice that is different from your own? How does it expand your sense of self? While tracing the evolution of the genre within the English-language literary tradition, we will write our own persona poems and explore modes of self-expression that go beyond autobiographical writing.

There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours. The format of this class in a given week could change, depending on the Covid situation. Grades will be determined based on presentations (30%), participation (30%), and the final paper (40%).

ART100ZA (芸術学 / Art studies 100)

## Introduction to Film Studies

KUKHEE CHOO

授業コード：A3011 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

We live in a world where cinema dominates our everyday lives, whether we know it or not. Some skeptics view cinema as a dying medium, however, to the contrary, we are witnessing a new Renaissance of cinema with the rise of streaming platforms where media has become a ubiquitous part of our daily lives. This course introduces students to the terms and theories they need to know in order to analyze films in a more structural and critical manner. Lectures, in-class discussions, and assignments are designed to help students understand issues raised within film studies, and make sense of the films they encounter in their everyday lives.

## 【到達目標】

1. Students will develop analytical skills in reading cinematic texts.
2. Students will learn key theories, terms, and arguments of film studies.
3. Students will develop discussion skills to exchange ideas with others.
4. Students will become familiar with important films in the history of cinema.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

Each week will focus upon a different concept within film studies and instruct students on how to apply that topic to individual texts. Along the way, students will familiarize themselves with landmark films, filmmakers, filmic technologies, and filmmaking traditions by studying cinema from various eras, genres, and industries.

Classes combine lectures, film clips, discussions, analytical exercises, and student presentations. In addition, students will conduct research projects. As the history of cinema covers approximately 120 years and involves many regions, the list of the films examined in this course is eclectic. Some examples are as follows: A Trip to the Moon (1902), The Battleship Potemkin (1925), Citizen Kane (1941), Bambi (1942), Singing in the Rain (1952), Tokyo Story (1953), Psycho (1960), and Nobody Knows (2004).

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ                      | 内容                                                 |
|----|--------------------------|----------------------------------------------------|
| 1  | Introduction             | Overview, objectives, and limitations              |
| 2  | Early films and theories | Lumiere brothers, Thomas Edison, Andre Bazin, etc. |
| 3  | Film Topics 1            | Mise-en-scène                                      |
| 4  | Film Topics 2            | Cinematography                                     |
| 5  | Film Topics 3            | Editing                                            |
| 6  | Film Topics 4            | Sound                                              |
| 7  | Midterm review           | Student presentations                              |
| 8  | Film Topics 5            | Narrative                                          |
| 9  | Film Topics 6            | Genre                                              |
| 10 | Film Topics 7            | Animation films                                    |
| 11 | Film Topics 8            | Auteur                                             |
| 12 | Film Topics 9            | National cinema and film festivals                 |
| 13 | Final review             | Student presentations                              |
| 14 | Final review             | Student presentations                              |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will view films, take viewing notes, and read essays in preparation for class sessions. Students will conduct research, deliver a midterm and final presentation. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト (教科書)】

Corrigan, Timothy and Patricia White. *The Film Experience: An Introduction*. Sixth edition. Boston: Bedford/St. Martin's, 2021.

【参考書】

Students must purchase the textbook and read each assigned chapter before class. Additional reading material will be uploaded to HOPPII.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (10%)

Film viewing notes (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and participation behavior (20%)

Midterm presentation (20%)

Final presentation (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take hand-written notes in class. They must also bring hard copies of the textbook or required readings to class.

【その他の重要事項】

Do not miss the first class as a selection process may occur. The content of this syllabus may be subject to change.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Sociolinguistics

渡辺 宥泰

授業コード：A3087 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course provides students with a basic knowledge of sociolinguistics, the study of language in relation to society. The first part of the course is concerned with how individual language use is correlated with a variety of social variables, such as gender, age, class and ethnicity, by outlining a number of previous studies conducted in the English-speaking world. Particular reference is made to the classic research of William Labov, one of the founding figures of quantitative sociolinguistics.

Later lectures focus on how and where a language or dialect is socially placed and ranked within a community, including multi-lingual/dialectal countries such as Singapore. Students who are or are becoming bilingual will find the discussion on bilingualism especially interesting when they learn that its implications not merely vary from one society to another, but have been significantly changing recently. Another major topic is language attitudes. They are not based on purely linguistic considerations, but connected with how people perceive and evaluate different dialects or accents.

【到達目標】

By the end of the course, students will:

- (1) understand key terminology, concepts and theories in sociolinguistics,
- (2) have an awareness of ongoing language changes in society, and
- (3) become familiar with interpreting quantitative/qualitative data for sociolinguistic analysis.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

This course is a combination of lectures and class discussions. Based on a flipped learning model, students have to read chapter handouts and answer assigned questions prior to attending each lecture. Submitted assignments and tests are reviewed in detail and commented on in the following week's lecture.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回 | テーマ                                                        | 内容                                                                                                                                                                                  |
|---|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | Course Overview<br>Linguistics and<br>Sociolinguistics     | (1) Outlining the course contents and instructional methodologies<br>(2) Definitions of linguistics and sociolinguistics<br>(3) Interaction between linguistic and social variables |
| 2 | Languages and<br>Dialects                                  | (1) How many languages are there in the world?<br>(2) Languages and dialects                                                                                                        |
| 3 | Regional and Social<br>Variations                          | (1) Dialect, accent and variation<br>(2) Regional and social variations                                                                                                             |
| 4 | William Labov's<br>Studies                                 | (1) The social stratification of the non-prevocalic /-r/ in NYC<br>(2) Centralized diphthongs in Martha's Vineyard                                                                  |
| 5 | Language and Gender                                        | (1) Genderlect<br>(2) Sexism and PC<br>(3) Gender and attitudes                                                                                                                     |
| 6 | Language and<br>Ethnicity                                  | (1) AAVE<br>(2) Ethnic markers in utterances<br>(3) Australian accents and ethnic groups in Sydney<br>(4) Features of Maori English                                                 |
| 7 | Mid-semester Exam<br>Language and Social<br>Class (Part 1) | (1) Mid-semester examination<br>(2) Three Australian accents                                                                                                                        |
| 8 | Language and Social<br>Class (Part 2)                      | (1) Three New Zealand accents<br>(2) H-dropping in Bradford and Norwich                                                                                                             |

|    |                                                                                     |                                                                                                                                                                   |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | Linguistic Features and Indexicality                                                | (1) Indicators, markers and stereotypes<br>(2) Indexicality<br>(3) Enregisterment                                                                                 |
| 10 | Language Attitudes (Part 1)                                                         | (1) Language attitudes<br>(2) Preston's (1989) study<br>(3) New Zealanders' attitudes towards a variety of accents                                                |
| 11 | Language Attitudes (Part 2)                                                         | (1) Rubin's (1992) study<br>(2) Approaches to language attitudes                                                                                                  |
| 12 | Bilingualism and Multilingualism                                                    | (1) Bilingualism and multilingualism<br>(2) Types of bilinguals<br>(3) Singapore as a multilingual country<br>(4) Code-switching and code-mixing<br>(5) Diglossia |
| 13 | Standard and Non-standard English Elaborated and Restricted codes Pidgin and Creole | (1) The standard variety of a language<br>(2) Non-standard English<br>(3) Elaborated and restricted codes<br>(4) Pidgin and creole English<br>(5) Pidgin Japanese |
| 14 | Summary and Final Exam                                                              | (1) Review<br>(2) Final examination                                                                                                                               |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are required to read the handouts beforehand so that they can actively participate in discussions. They may also need to consult chapter references or search for relevant online resources. Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

【テキスト (教科書)】

No textbooks are used. All handouts are posted on the course website, while additional materials will be provided in the classroom.

【参考書】

Detailed references and suggestions for further reading are listed on each chapter handout. The following books will be helpful as a general introduction.

Holmes, J., & Wilson, N. (2022). *An introduction to sociolinguistics* (6th ed.). Routledge.

Wardhaugh, R., & Fuller, J. M. (2021). *An introduction to sociolinguistics* (8th ed.). Wiley Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on in-class quizzes and take-home tasks (20%), a mid-semester exam (40%) and a final exam (40%). Attendance at the first class is mandatory. More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been positive about the contents and method of instruction. Hyperlinked video clips are updated every year.

【学生が準備すべき機器他】

The lectures are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

【その他の重要事項】

It is highly recommended that students have completed 100-level linguistics courses with a good understanding. This course is cross-listed with the Global Open Program. Non-GIS students may join if they demonstrate solid background in linguistics and meet the minimum English proficiency requirement: TOEFL iBT 80 or IELTS 6.0.

【Prerequisite】

No prerequisite is required.

ART100ZA (芸術学 / Art studies 100)

## Film Theory and Analysis

KUKHEE CHOO

授業コード：A3088 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

We live in a world where cinema dominates our everyday lives, whether we know it or not. Some skeptics view cinema as a dying medium, however, to the contrary, we are witnessing a new Renaissance of cinema with the rise of streaming platforms where media has become a ubiquitous part of our daily lives. This course introduces students to the terms and theories they need to know in order to analyze films in a more structural and critical manner. Lectures, in-class discussions, and assignments are designed to help students understand issues raised within film studies, and make sense of the films they encounter in their everyday lives.

## 【到達目標】

1. Students will develop analytical skills in reading cinematic texts.
2. Students will learn key theories, terms, and arguments of film studies.
3. Students will develop discussion skills to exchange ideas with others.
4. Students will become familiar with important films in the history of cinema.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

Each week will focus upon a different concept within film studies and instruct students on how to apply that topic to individual texts. Along the way, students will familiarize themselves with landmark films, filmmakers, filmic technologies, and filmmaking traditions by studying cinema from various eras, genres, and industries.

Classes combine lectures, film clips, discussions, analytical exercises, and student presentations. In addition, students will conduct research projects. As the history of cinema covers approximately 120 years and involves many regions, the list of the films examined in this course is eclectic. Some examples are as follows: A Trip to the Moon (1902), The Battleship Potemkin (1925), Citizen Kane (1941), Bambi (1942), Singing in the Rain (1952), Tokyo Story (1953), Psycho (1960), and Nobody Knows (2004).

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ                      | 内容                                                 |
|----|--------------------------|----------------------------------------------------|
| 1  | Introduction             | Overview, objectives, and limitations              |
| 2  | Early films and theories | Lumiere brothers, Thomas Edison, Andre Bazin, etc. |
| 3  | Film Topics 1            | Mise-en-scène                                      |
| 4  | Film Topics 2            | Cinematography                                     |
| 5  | Film Topics 3            | Editing                                            |
| 6  | Film Topics 4            | Sound                                              |
| 7  | Midterm review           | Student presentations                              |
| 8  | Film Topics 5            | Narrative                                          |
| 9  | Film Topics 6            | Genre                                              |
| 10 | Film Topics 7            | Animation films                                    |
| 11 | Film Topics 8            | Auteur                                             |
| 12 | Film Topics 9            | National cinema and film festivals                 |
| 13 | Final review             | Student presentations                              |
| 14 | Final review             | Student presentations                              |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will view films, take viewing notes, and read essays in preparation for class sessions. Students will conduct research, deliver a midterm and final presentation. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト (教科書)】

Corrigan, Timothy and Patricia White. *The Film Experience: An Introduction*. Sixth edition. Boston: Bedford/St. Martin's, 2021.

【参考書】

Students must purchase the textbook and read each assigned chapter before class. Additional reading material will be uploaded to HOPPII.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (10%)

Film viewing notes (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and participation behavior (20%)

Midterm presentation (20%)

Final presentation (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take hand-written notes in class. They must also bring hard copies of the textbook or required readings to class.

【その他の重要事項】

Do not miss the first class as a selection process may occur. The content of this syllabus may be subject to change.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

## Sociolinguistics

渡辺 宥泰

授業コード：A3092 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course provides students with a basic knowledge of sociolinguistics, the study of language in relation to society. The first part of the course is concerned with how individual language use is correlated with a variety of social variables, such as gender, age, class and ethnicity, by outlining a number of previous studies conducted in the English-speaking world. Particular reference is made to the classic research of William Labov, one of the founding figures of quantitative sociolinguistics.

Later lectures focus on how and where a language or dialect is socially placed and ranked within a community, including multi-lingual/dialectal countries such as Singapore. Students who are or are becoming bilingual will find the discussion on bilingualism especially interesting when they learn that its implications not merely vary from one society to another, but have been significantly changing recently. Another major topic is language attitudes. They are not based on purely linguistic considerations, but connected with how people perceive and evaluate different dialects or accents.

### 【到達目標】

By the end of the course, students will:

- (1) understand key terminology, concepts and theories in sociolinguistics,
- (2) have an awareness of ongoing language changes in society, and
- (3) become familiar with interpreting quantitative/qualitative data for sociolinguistic analysis.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

This course is a combination of lectures and class discussions. Based on a flipped learning model, students have to read chapter handouts and answer assigned questions prior to attending each lecture. Submitted assignments and tests are reviewed in detail and commented on in the following week's lecture.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回 | テーマ                                                        | 内容                                                                                                                                                                                  |
|---|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | Course Overview<br>Linguistics and<br>Sociolinguistics     | (1) Outlining the course contents and instructional methodologies<br>(2) Definitions of linguistics and sociolinguistics<br>(3) Interaction between linguistic and social variables |
| 2 | Languages and<br>Dialects                                  | (1) How many languages are there in the world?<br>(2) Languages and dialects                                                                                                        |
| 3 | Regional and Social<br>Variations                          | (1) Dialect, accent and variation<br>(2) Regional and social variations                                                                                                             |
| 4 | William Labov's<br>Studies                                 | (1) The social stratification of the non-prevocalic /-r/ in NYC<br>(2) Centralized diphthongs in Martha's Vineyard                                                                  |
| 5 | Language and Gender                                        | (1) Genderlect<br>(2) Sexism and PC<br>(3) Gender and attitudes                                                                                                                     |
| 6 | Language and<br>Ethnicity                                  | (1) AAVE<br>(2) Ethnic markers in utterances<br>(3) Australian accents and ethnic groups in Sydney<br>(4) Features of Maori English                                                 |
| 7 | Mid-semester Exam<br>Language and Social<br>Class (Part 1) | (1) Mid-semester examination<br>(2) Three Australian accents                                                                                                                        |
| 8 | Language and Social<br>Class (Part 2)                      | (1) Three New Zealand accents<br>(2) H-dropping in Bradford and Norwich                                                                                                             |

|    |                                                                                                 |                                                                                                                                                                   |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | Linguistic Features<br>and Indexicality                                                         | (1) Indicators, markers and stereotypes<br>(2) Indexicality<br>(3) Enregisterment                                                                                 |
| 10 | Language Attitudes<br>(Part 1)                                                                  | (1) Language attitudes<br>(2) Preston's (1989) study<br>(3) New Zealanders' attitudes towards a variety of accents                                                |
| 11 | Language Attitudes<br>(Part 2)                                                                  | (1) Rubin's (1992) study<br>(2) Approaches to language attitudes                                                                                                  |
| 12 | Bilingualism and<br>Multilingualism                                                             | (1) Bilingualism and multilingualism<br>(2) Types of bilinguals<br>(3) Singapore as a multilingual country<br>(4) Code-switching and code-mixing<br>(5) Diglossia |
| 13 | Standard and<br>Non-standard English<br>Elaborated and<br>Restricted codes<br>Pidgin and Creole | (1) The standard variety of a language<br>(2) Non-standard English<br>(3) Elaborated and restricted codes<br>(4) Pidgin and creole English<br>(5) Pidgin Japanese |
| 14 | Summary and Final<br>Exam                                                                       | (1) Review<br>(2) Final examination                                                                                                                               |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are required to read the handouts beforehand so that they can actively participate in discussions. They may also need to consult chapter references or search for relevant online resources. Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

### 【テキスト (教科書)】

No textbooks are used. All handouts are posted on the course website, while additional materials will be provided in the classroom.

### 【参考書】

Detailed references and suggestions for further reading are listed on each chapter handout. The following books will be helpful as a general introduction.

Holmes, J., & Wilson, N. (2022). *An introduction to sociolinguistics* (6th ed.). Routledge.

Wardhaugh, R., & Fuller, J. M. (2021). *An introduction to sociolinguistics* (8th ed.). Wiley Blackwell.

### 【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on in-class quizzes and take-home tasks (20%), a mid-semester exam (40%) and a final exam (40%). Attendance at the first class is mandatory. More than two unexcused absences will result in failure of the course.

### 【学生の意見等からの気づき】

Students have been positive about the contents and method of instruction. Hyperlinked video clips are updated every year.

### 【学生が準備すべき機器他】

The lectures are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

### 【その他の重要事項】

It is highly recommended that students have completed 100-level linguistics courses with a good understanding. This course is cross-listed with the Global Open Program. Non-GIS students may join if they demonstrate solid background in linguistics and meet the minimum English proficiency requirement: TOEFL iBT 80 or IELTS 6.0.

### 【Prerequisite】

No prerequisite is required.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

## 教養ゼミ I

日中 鎮朗

授業コード：A3093 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学や歴史の史実は映画化されたり、映像として記録に残されたり、漫画やゲームになる。こうしたメディア化をアダプテーション（翻案）と呼ぶことがあるが、この授業では、多くの映画や映像の鑑賞をし、それを通して、原作作品との違い、映画化された時代や脚本家、監督の考え・意図などを探りながら、思想、文学、映画、芸術においてそれはどのように考えられ、翻案化され、受容され、扱われてきたかを、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』、カズオ・イシグロ『私を離さないで』、村田紗耶香、桐野夏生の作品、およびそれらに関する論文を参考にしながら、考える。とりわけ、<現在>という時点からのアクチュアルな問題提起として、近代から現代の文学・芸術・史実を分析対象とし、さまざまな作品を読み解きながら、文学や芸術がその時代の社会に対してどう取り組んだかを考察する。

### 【到達目標】

文学や歴史の史実の映画化・映像記録を鑑賞し、こうしたメディア化やアダプテーション（翻案）の機能や意味を理解することが目標である。

この授業で取り上げられた映画や小説や作品を視聴し、読み、論じるので、それらを自分の視点から批判的に分析できるようになることも目標である。

また、そうした議論やプレゼンの際に、自分の意見を相手に理解できるように明確に表現し、伝えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

各回の授業計画で挙げられる映画、文学、芸術、歴史などの諸分野において原作がどのように扱われ、表現されているかを見てゆくその際に、全体で3つの原作・歴史、また絵画というテーマを設定しているので、映画を視聴した後、あるいはそれらのテーマの区切りに、独自の観点でいいので、プレゼンし、議論・検討をしていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                        | 内容                                          |
|-----|----------------------------|---------------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション                  | 翻案（映画化など）についての説明。                           |
| 第2回 | 『フランケンシュタイン』（1818/1831）    | 授業の進め方等についての説明。方の可能性                        |
| 第3回 | シェリー夫妻について                 | 人工と人造の生命                                    |
| 第4回 | 19世紀の科学技術とヒューマニティ          | 文学史的、歴史的背景                                  |
| 第5回 | また漫画化について                  | 科学技術はどのように『フランケンシュタイン』に取り込まれていったか           |
| 第6回 | 『フランケンシュタイン』の2つの映画（オリジナル版） | 『フランケンシュタイン』の怪物性と映画での扱われ方について（検討）           |
| 第7回 | 『フランケンシュタイン』の2つの映画（現代版）    | 『フランケンシュタイン』の怪物性とその現代性（2つ目の映画での扱われ方）さまざまな議論 |

|      |                                          |                              |
|------|------------------------------------------|------------------------------|
| 第6回  | 『私を離さないで』について                            | カズオ・イシグロと『私を離さないで』に見られる時代的背景 |
| 第7回  | 映画『私を離さないで』                              | 映画『私を離さないで』と原作との差異について       |
| 第8回  | 映画『私を離さないで』読解と日本の近未来小説について（村田紗耶香、桐野夏生など） | 未来文学とはなにか？ヒューマニティと未来         |
| 第9回  | 映画『アイランド』読解                              | 20世紀社会—科学と人間                 |
| 第10回 | 物語の絵画化、美術について                            | 絵画の見方、物語や史実を誰がどう絵画化してきたか     |
| 第11回 | 絵画と美術館のフィールドワーク                          | フィールドワークの発表                  |
| 第12回 | 20世紀におこった歴史—ドイツの暗い側面                     | ホロコーストと現実                    |
| 第13回 | 映画『謀議』                                   | ヴァンゼー会議について                  |
| 第14回 | 映画『スペシャリスト』等を通してホロコーストと人間の心理             | アイヒマン裁判とミルグラム実験              |
| 第15回 | アダプテーション（翻案）をめぐる問題に関する考察—まとめ             | 心理学について学ぶ                    |
| 第16回 | レポート発表・総評とまとめ                            | レポート発表・総評とまとめ                |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間以上を標準とする。全体を通して基本文献である Claeys のテキストの精読をおこなって

くること。また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくることが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

### 【テキスト（教科書）】

文献については、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』やカズオ・イシグロの『私を離さないで』、などの文献については、図書館を利用するのもいいし、文庫本などで手に入る。論文等の資料はコピーにて配布する。

### 【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献に関するものが参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものをあらかじめ読んでおくと理解がしやすい。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼン・議論）70%  
レポート課題（最終回での各人の独自の発表）30%

### 【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を作る。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学  
<研究テーマ>

①比較文学という手法を通して文学と現実=社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学

<主要研究業績>①『英語文化研究』（2021年 春風社、共著）②「監視というオブセッション」（2021年 成城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』）③「文学・科学・知の相互浸透—イシグロ、ダウドナ、ソーカルと学問分野の越境」（2020年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第17号）④「知の獲得と語りのあて先—Kazuo Ishiguro の Never Let Me Go におけるその手続き—」（2019年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第39号）⑤翻訳 W. イーザー『虚構と想像力』2007年、法政大学出版局

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of the adaptation and to review the acceptance by reading "Frankenstein", "Never Let Me Go" and so on.



We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of through the different types of works including modern literature and art to provide students with opportunities to treat various kind of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to do a close reading of the textbooks.

**[Learning Objectives]** : By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept of the adaptation
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

**[Learning activities outside of class]** : Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant articles related to the texts. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

**[Grading criteria]** : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、 an assignment and in-class contribution: 70%

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

## 教養ゼミⅡ

日中 鎮朗

授業コード：A3094 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

、文学や歴史の史実は映画化されたり、映像として記録に残されたり、漫画やゲームになる。こうしたメディア化をアダプテーション（翻案）と呼ぶことがあるが、秋学期のこの授業では、映画や映像を通して、原作作品との違い、映画化された時代や脚本家、監督の考え・意図などを探りながら、思想、文学、映画、芸術においてそれはどのように考えられ、翻案化され、受容され、扱われてきたかを、東野圭吾の『容疑者Xの献身』、『白夜行』、シェイクスピア『マクベス』、黒澤明『蜘蛛巣城』、蜷川幸雄『蜷川マクベス』、世紀転換期および近代の芸術と建築、デザイン、都市、およびそれらに関する論文を参考にしながら、考える。

とりわけ、＜現在＞という時点からのアクチュアルな問題提起として、近代から現代の文学・芸術を分析対象とし、さまざまな作品を読み解きながら、文学や芸術がその時代の社会に対してどう取り組んだかを考察する。

### 【到達目標】

文学や歴史の史実の映画化・映像記録を鑑賞し、こうしたメディア化やアダプテーション（翻案）の機能や意味を理解することが目標である。

この授業で取り上げられた映画や小説や芸術作品、建築物、デザイン等を視聴し、読み、論じるので、それらを自分の視点から批判的に分析できるようになることも目標である。

また、そうした議論やプレゼンの際に、自分の意見を相手に理解できるように明確に表現し、伝えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

各回の授業計画で挙げられる映画、文学、芸術、歴史などの諸分野において原作がどのように扱われ、表現されているかを見てゆくその際に、全体で3つの大きなテーマを設定しているため、映画を視聴した後、あるいはそれらのテーマの区切りに、独自の観点でいいので、プレゼンし、議論・検討をしていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                              |
|------|-------------------|---------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション         | 授業の進め方等についての説明。                 |
| 第2回  | 東野圭吾『容疑者Xの献身』     | 原作についての資料を読み、理解を深める             |
| 第3回  | 東野圭吾『容疑者Xの献身』の映画  | 原作の映画化とその差異について                 |
| 第4回  | 東野圭吾『白夜行』について     | 原作と考察                           |
| 第5回  | 日本と韓国の2つの『白夜行』の映画 | 国とその文化によって異なる受容。およびその差異について考察する |
| 第6回  | シェイクスピア『マクベス』について | 原作とその資料を読んで、共通の知識や理解を得る         |
| 第7回  | 黒澤明『蜘蛛巣城』         | 『蜘蛛巣城』および『乱』について討議する            |
| 第8回  | 蜷川幸雄『マクベス』        | 蜷川幸雄とその演出について                   |
| 第9回  | 英国BBC制作『マクベス』     | 1つの原作と3つのアダプテーションについて           |
| 第10回 | 世紀転換期のデザインと建築     | 19世紀末の英国・フランス・ドイツ社会とその芸術運動      |

|      |                     |                                         |
|------|---------------------|-----------------------------------------|
| 第11回 | 世紀転換期芸術と建築について      | 建築やバウハウスの理論と歴史の概論                       |
| 第12回 | フィールドワーク            | 日本における建築と起源と影響、受容について実際に確認する            |
| 第13回 | 世界の都市構想と近現代社会       | ユートピア的な都市、労働者の住居をどのように考えたか、また田園都市構想とは何か |
| 第14回 | 近現代の世界の芸術とその流れ（まとめ） | レポート発表・総評とまとめ                           |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間以上を標準とする。全体を通して基本文献であるモレッティのテキストの精読をおこなってくる。

また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくることが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

### 【テキスト（教科書）】

東野圭吾の『容疑者Xの献身』、『白夜行』、シェイクスピア『マクベス』などの文献については、図書館を利用するのでもいいし、文庫本などで手に入る。論文等の資料はコピーにて配布する。

### 【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献に関するものが参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものをあらかじめ読んでおくとう理解がしやすい。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼンテーション・議論）70%

最終回での各人のレポート発表 30%

### 【学生の意見等からの気づき】

議論の時間を十分に確保し、活発な議論を促す。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学

<研究テーマ>

①比較文学という手法を通して文学と現実=社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学

<主要研究業績>①『英語文化研究』（2021年 春風社、共著）②「監視というオブセッション」（2021年 成城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』）③「文学・科学・知の相互浸透—イシグロ、ダウドナ、ソーカルと学問分野の越境」（2020年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第17号）④「知の獲得と語りのあて先—Kazuo IshiguroのNever Let Me Goにおけるその手続き—」（2019年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第39号）⑤翻訳 W.イーザー『虚構と想像力』2007年、法政大学出版局

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of the adaptation and to review the acceptance by reading "Frankenstein", "Never Let Me Go" and so on.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of through the different types of works including modern literature and art to provide students with opportunities to treat various kind of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture. Students are required to do a close reading of the textbooks.

【Learning Objectives】: By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept of the adaptation
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

【Learning activities outside of class】: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant articles related to the texts. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】: Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、an assignment and in-class contribution: 70%

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

## Psycholinguistics

石田 真子

授業コード：A3095 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course will cover the basic notions of psycholinguistics – how languages are acquired, learnt, used, and understood in daily situations. It primarily focuses on human speech communication - how auditory and visual information is processed and integrated in the human brain. We will explore research findings in linguistics, acoustics, psychology, and neuroscience.

## 【到達目標】

There are three main goals:

- (1) Students understand the basic structures of language.
- (2) Students understand communication strategies including auditory and optical illusion.
- (3) Students understand the basic brain structure and functions for human speech communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

This course consists of lectures, discussions, pop-quizzes, and midterm/final reviews. Handouts and worksheets are provided in class. Students are expected to actively participate in class: take notes, be responsive to questions, and work in pairs and groups. Feedback for course contents and assignments will be provided in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ                    | 内容                                    |
|----|------------------------|---------------------------------------|
| 1  | Introduction           | Introduction                          |
| 2  | Language Acquisition   | How did we acquire a first language?  |
| 3  | Speech Communication 1 | The basic components of language 1    |
| 4  | Speech Communication 2 | The basic components of language 2    |
| 5  | Speech Communication 3 | The basic components of language 3    |
| 6  | Speech Communication 4 | The basic components of language 4    |
| 7  | Checkpoint             | Review and midterm exam               |
| 8  | Speech Chain 1         | Speech Production                     |
| 9  | Speech Chain 2         | Physical and Psychological Properties |
| 10 | Speech Chain 3         | Speech Perception                     |
| 11 | Neuroscience 1         | Basic brain anatomy and function      |
| 12 | Neuroscience 2         | Auditory Illusions                    |
| 13 | Neuroscience 3         | Optical illusions                     |
| 14 | Checkpoint             | Review and final exam                 |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review what was covered in class every week. If you miss a class, please be sure to contact your classmates or the course instructor about lecture notes and assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト (教科書)】

No textbook will be used. Handouts and worksheets are provided in class.

【参考書】

Berninger, V.W., & Richards, T.L. (2002). Brain literacy for educators and psychologists. San Diego, CA: Academic Press.  
 Carroll, D.W. (2008). Psychology of language (5th edition). Belmont, CA: Cengage Learning/Wadsworth.  
 O'Grady, W., Dobrovolsky, M., & Katamba, F. (1996). Contemporary linguistics: An introduction. Essex: Pearson Education.

【成績評価の方法と基準】

Attitude and participation (20%), Pop quizzes (20%), Midterm exam (30%), Final exam (30%).

Please be sure to attend every class. Absence three times without prior and reasonable notice will result in the failure of this course. A delay can be counted as an absence. Pop quizzes are "open-notes" (not "open-book"), and they are intended to assess your comprehension of materials.

【学生の意見等からの気づき】

No particular change.

【学生が準備すべき機器他】

Not applicable.

【その他の重要事項】

Students who are interested in human speech communication are welcome.

【Prerequisite】

None.

BSP100BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・英文)

福元 広二

授業コード：A3096 | 曜日・時限：金3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1セメスターで完結させるように工夫がなされています。

### 【到達目標】

この授業を履修することで、学生は

- ・高校までの受け身学習ではなく、大学生として能動的に学ぶことの重要性を認識し、学生生活の基盤を築くことができる。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得することができる。
- ・社会人になる前に、どのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目 (ゼミナール) ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                        | 内容                       |
|------|--------------------------------------------|--------------------------|
| 第1回  | Study at Hosei and Introduction            | ガイダンス：法政大学での学びの方法        |
| 第2回  | Note Taking                                | 講義ノートの取り方                |
| 第3回  | Library Tour                               | 図書館の使い方                  |
| 第4回  | Text Reading                               | 文献の読み方と文献調査体験            |
| 第5回  | Academic Writing 1                         | レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと    |
| 第6回  | Academic Writing 2                         | アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み  |
| 第7回  | Academic Writing 3                         | 注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール |
| 第8回  | Critical Thinking 1                        | テーマを立てるということ             |
| 第9回  | Critical Thinking 2                        | 問題設定の仕方と論旨の展開            |
| 第10回 | Summarizing                                | 要約の仕方とグループ発表の準備          |
| 第11回 | Presentations 1                            | プレゼンテーションの仕方             |
| 第12回 | Presentations 2: Group Presentations, 第1回目 | グループによる調査・発表1            |
| 第13回 | Presentations 3: Group Presentations, 第2回目 | グループによる調査・発表2            |
| 第14回 | Presentations 4: Group Presentations, 第3回目 | グループによる調査・発表3            |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト) から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

\*英文学科1年生は必ず履修してください。

\*コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・英文)

小澤 央

授業コード：A3097 | 曜日・時限：金3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1セメスターで完結させるように工夫がなされています。

### 【到達目標】

この授業を履修することで、学生は

- ・高校までの受け身学習ではなく、大学生として能動的に学ぶことの重要性を認識し、学生生活の基盤を築くことができる。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得することができる。
- ・社会人になる前に、どのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目 (ゼミナール) です。教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                        | 内容                       |
|------|--------------------------------------------|--------------------------|
| 第1回  | Study at Hosei and Introduction            | ガイダンス：法政大学での学びの方法        |
| 第2回  | Note Taking                                | 講義ノートの取り方                |
| 第3回  | Library Tour                               | 図書館の使い方                  |
| 第4回  | Text Reading                               | 文献の読み方と文献調査体験            |
| 第5回  | Academic Writing 1                         | レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと    |
| 第6回  | Academic Writing 2                         | アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み  |
| 第7回  | Academic Writing 3                         | 注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール |
| 第8回  | Critical Thinking 1                        | テーマを立てるとのこと              |
| 第9回  | Critical Thinking 2                        | 問題設定の仕方と論旨の展開            |
| 第10回 | Summarizing                                | 要約の仕方とグループ発表の準備          |
| 第11回 | Presentations 1                            | プレゼンテーションの仕方             |
| 第12回 | Presentations 2: Group Presentations, 第1回目 | グループによる調査・発表1            |
| 第13回 | Presentations 3: Group Presentations, 第2回目 | グループによる調査・発表2            |
| 第14回 | Presentations 4: Group Presentations, 第3回目 | グループによる調査・発表3            |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト) から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

\*英文学科1年生は必ず履修してください。

\*コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・英文)

### 波戸岡 景太

授業コード：A3098 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年  
 備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1セメスターで完結させるように工夫がなされています。

#### 【到達目標】

この授業を履修することで、学生は

- ・高校までの受け身学習ではなく、大学生として能動的に学ぶことの重要性を認識し、学生生活の基盤を築くことができる。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得することができる。
- ・社会人になる前に、どのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目 (ゼミナール) です。教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                        | 内容                       |
|------|--------------------------------------------|--------------------------|
| 第1回  | Study at Hosei and Introduction            | ガイダンス：法政大学での学びの方法        |
| 第2回  | Note Taking                                | 講義ノートの取り方                |
| 第3回  | Library Tour                               | 図書館の使い方                  |
| 第4回  | Text Reading                               | 文献の読み方と文献調査体験            |
| 第5回  | Academic Writing 1                         | レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと    |
| 第6回  | Academic Writing 2                         | アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み  |
| 第7回  | Academic Writing 3                         | 注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール |
| 第8回  | Critical Thinking 1                        | テーマを立てるということ             |
| 第9回  | Critical Thinking 2                        | 問題設定の仕方と論旨の展開            |
| 第10回 | Summarizing                                | 要約の仕方とグループ発表の準備          |
| 第11回 | Presentations 1                            | プレゼンテーションの仕方             |
| 第12回 | Presentations 2: Group Presentations, 第1回目 | グループによる調査・発表1            |
| 第13回 | Presentations 3: Group Presentations, 第2回目 | グループによる調査・発表2            |
| 第14回 | Presentations 4: Group Presentations, 第3回目 | グループによる調査・発表3            |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

#### 【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト) から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

#### 【その他の重要事項】

\*英文学科1年生は必ず履修してください。

\*コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

#### 【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・英文)

田中 裕希

授業コード：A3099 | 曜日・時限：金3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1セメスターで完結させるように工夫がなされています。

### 【到達目標】

到達目標

この授業を履修することで、学生は

- ・高校までの受け身学習ではなく、大学生として能動的に学ぶことの重要性を認識し、学生生活の基盤を築くことができる。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得することができる。
- ・社会人になる前に、どのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目 (ゼミナール) ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                        | 内容                       |
|------|--------------------------------------------|--------------------------|
| 第1回  | Study at Hosei and Introduction            | ガイダンス：法政大学での学びの方法        |
| 第2回  | Note Taking                                | 講義ノートの取り方                |
| 第3回  | Library Tour                               | 図書館の使い方                  |
| 第4回  | Text Reading                               | 文献の読み方と文献調査体験            |
| 第5回  | Academic Writing 1                         | レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと    |
| 第6回  | Academic Writing 2                         | アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み  |
| 第7回  | Academic Writing 3                         | 注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール |
| 第8回  | Critical Thinking 1                        | テーマを立てるということ             |
| 第9回  | Critical Thinking 2                        | 問題設定の仕方と論旨の展開            |
| 第10回 | Summarizing                                | 要約の仕方とグループ発表の準備          |
| 第11回 | Presentations 1                            | プレゼンテーションの仕方             |
| 第12回 | Presentations 2: Group Presentations, 第1回目 | グループによる調査・発表1            |
| 第13回 | Presentations 3: Group Presentations, 第2回目 | グループによる調査・発表2            |
| 第14回 | Presentations 4: Group Presentations, 第3回目 | グループによる調査・発表3            |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

### 【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト) から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

### 【その他の重要事項】

\*英文学科1年生は必ず履修してください。

\*コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

### 【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).



HIS100BE (史学/History 100)

## 日本史概説Ⅰ

小倉 淳一

授業コード：A3101 | 曜日・時限：水1/Wed.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。  
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。  
歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

### 【到達目標】

考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。  
各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。  
旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。  
授業方法は講義形式による。受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。  
質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業内を行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                  |
|------|--------------|---------------------|
| 第1回  | 概要説明         | 授業の概要と方法・評価基準       |
| 第2回  | 旧石器時代の姿      | 人類の進化と旧石器文化の概要      |
| 第3回  | 日本の旧石器文化     | 日本列島における旧石器文化の概要    |
| 第4回  | 旧石器時代から縄文時代へ | 旧石器時代後期の石器から土器の登場まで |
| 第5回  | 縄文時代の生業      | 採集・狩猟文化の概要          |
| 第6回  | 縄文時代の社会      | 集落や墓からみる縄文時代の社会構造   |
| 第7回  | 縄文時代から弥生時代へ  | 縄文時代の終焉と新文化の形成      |
| 第8回  | 稲作の開始        | 稲作農耕技術の姿と主体者        |
| 第9回  | 弥生農村の姿       | 環濠集落と集団関係           |
| 第10回 | 金属器の普及とその意義  | 青銅器を中心とする儀器・祭器のありかた |
| 第11回 | 弥生墓制と社会の特質   | 地域的な墓制の展開と地方間の関係    |
| 第12回 | 前方後円墳の成立と波及  | 弥生墳丘墓から古墳への変化と社会    |
| 第13回 | 古墳時代中期の政治と外交 | 中期古墳の特徴とヤマト王権の変質    |
| 第14回 | 古墳時代の終焉      | 後期古墳の特徴および古墳の消滅     |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

### 【参考書】

日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。  
吉田晶（1998）『新日本新書 490 倭王権の時代』新日本出版社  
今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー 76 縄文の実像を求めて』吉川弘文館  
白石大一郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館  
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館  
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書  
吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史2』岩波新書  
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

### 【成績評価の方法と基準】

期末に論述式の筆記試験を行う（参照不可）。授業内にも小テストを実施することがある。試験は成績評価の70%とする。平常点は成績評価の30%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。  
高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

### 【その他の重要事項】

\*担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about Japan from the Paleolithic Age to the Kofun period.

Students will be able to describe the cultural characteristics of each period based on archaeological materials.

Students will be able to examine how people in each period responded to their natural and social environments.

Students will be able to explain and compare the characteristics of human groups from the Paleolithic to the Kofun period.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and normal score (30%).

HIS100BE (史学/History 100)

## 日本史概説Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3102 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際的な視点から日本中世前期の社会や国家に対する理解を深めるため、地理感覚や中国との貿易による経済的な関係を題材に学ぶ。武家などの政治権力の関与もふまえつつ、貿易に伴う社会の変化に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法に親しむことを目的とする。

## 【到達目標】

平安時代後期から鎌倉時代の地理感覚や中国との経済的関係の実態について総体的に把握することができる。また、中国との経済的関係が日本中世社会の形成・展開に及ぼした影響について理解することができる。中世史料の日本漢文を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章ごとに「学習支援システム」の「教材」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章ごと（第1章から第6章）に計6回の小テストを実施する。小テストは、「学習支援システム」の「テスト/アンケート」から授業日の翌日までに提出すること。小テストに記入された疑問点については、次回の授業で回答する（フィードバック）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                           |
|------|---------------------|------------------------------|
| 第1回  | 東アジアの中の日本<br>中世史（1） | 履修のガイダンス                     |
| 第2回  | 東アジアの中の日本<br>中世史（2） | 日本中世史の特質                     |
| 第3回  | 東アジアの中の日本<br>中世史（3） | 日本中世史の特質（小テスト1）              |
| 第4回  | 中世の国土観と境界<br>地域（1）  | 西南・東北の境界地域と鎌倉幕府              |
| 第5回  | 中世の国土観と境界<br>地域（2）  | 西南・東北の境界地域と鎌倉幕府<br>（小テスト2）   |
| 第6回  | 唐船の往来と博多綱<br>首（1）   | 貿易船の形態と博多の貿易集団               |
| 第7回  | 唐船の往来と博多綱<br>首（2）   | 貿易船の形態と博多の貿易集団<br>（小テスト3）    |
| 第8回  | 唐船貿易の構造（1）          | 京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の<br>構造        |
| 第9回  | 唐船貿易の構造（2）          | 京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の<br>構造（小テスト4） |
| 第10回 | 平氏政権と唐船貿易<br>（1）    | 平清盛の外交・貿易政策                  |
| 第11回 | 平氏政権と唐船貿易<br>（2）    | 平清盛の外交・貿易政策（小テス<br>ト5）       |
| 第12回 | 銅銭の輸入と流通<br>（1）     | 渡来銭の流通と社会の変化                 |
| 第13回 | 銅銭の輸入と流通<br>（2）     | 渡来銭の流通と社会の変化（小テ<br>スト6）      |
| 第14回 | 鎌倉幕府と唐船貿易           | モンゴル襲来以前の貿易形態                |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。プリント、ノート等を用いて復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章毎にプリント（PDFファイル）を配布する。

## 【参考書】

村井章介『増補中世日本の内と外』（筑摩書房、2013年、初版1999年）  
榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』（講談社、2010年）  
石井正敏『NHKさかのぼり日本史外交篇8鎌倉「武家外交」の誕生』（NHK出版、2013年）  
山内晋次『NHKさかのぼり日本史外交篇9平安・奈良 外交から貿易への大転換』（NHK出版、2013年）  
大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、2017年）  
村井章介・荒野泰典編『新体系日本史5 対外交流史』（山川出版社、2021年）  
その他は、授業の際、各章ごとに指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

## 【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの時間が長すぎるといった意見があったため、時間配分に注意する。

## 【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「テスト/アンケート」から期限内に小テストを提出すること。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS100BE (史学 / History 100)

## 日本史概説Ⅲ

松本 剣志郎

授業コード：A3103 | 曜日・時限：水2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史は暗記物ではなく、思考を求めるものである。本授業の目的は、受講生が日本近世史について概略的な説明ができるようになることである。それは単なる事件の羅列ではなく、論理の説明でなければならない。歴史的思考力の鍛錬を求める所以である。本授業は日本近世史について概説するものである。戦国乱世を経て、およそ260年の泰平を享受した時代が対象である。とはいえ、仔細にこれを見るならば、そこにさまざまな矛盾を見出すことは容易い。それは表立った政治的な事件の場合もあれば、社会の深部でのうねりであることもある。近世の国家と社会が動いていく大きな方向を見定めていきたい。

### 【到達目標】

- ①日本近世の特質を説明できる。
- ②われわれの常識や慣習が歴史的につくられてきたものであることを理解し、それを説明できる。
- ③江戸時代と現代との差異を理解し、それを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを發し、受講生学生の意見を求める。Hoppiiにアップされた教材を各自プリントアウトして授業に持参すること。あるいはタブレット端末等を持参し、画面上でみてもよい。13回日の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ     | 内容                |
|------|---------|-------------------|
| 第1回  | ガイダンス   | 授業内容や進め方について      |
| 第2回  | 天下人の時代  | 信長・秀吉・家康          |
| 第3回  | 百姓世界    | 百姓成立（なりたち）        |
| 第4回  | 武士の変容   | 戦士から官僚へ           |
| 第5回  | 元禄時代    | 西鶴の眼              |
| 第6回  | 大江戸の光と影 | 荻生徂徠と武陽隠士         |
| 第7回  | 享保改革    | 商品貨幣経済            |
| 第8回  | 天保一天明期  | 絶対主義への傾斜か、維新の出発点か |
| 第9回  | 文人の時代   | 漢詩・俳諧・和歌・絵画       |
| 第10回 | 金次郎と尊徳  | 関東農村荒廃            |
| 第11回 | 内憂外患の時代 | 天保期の事態            |
| 第12回 | 世直し     | 希求された世の中          |
| 第13回 | 総括      | 近世の国家と社会          |
| 第14回 | 試験      | まとめと解説            |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に適宜参考文献を示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

深谷克己『江戸時代』（岩波ジュニア新書）  
藤井謙治ほか『シリーズ日本近世史』1～5（岩波新書）  
そのほか授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

声の大きさには気がつけますが、前の方に座ることを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces early modern history of Japan to students taking this course. At the end of the course, participants are expected to describe the characteristics of early modern history of Japan. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS100BE (史学 / History 100)

## 日本史概説Ⅳ

内藤 一成

授業コード：A3104 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治維新から昭和の終わりまで、日本近現代史を概観する。政治、経済、外交をめぐる主要な出来事だけでなく、庶民の暮らしや、都市や農村の文化など、さまざまな側面に注目しながら多面的かつ重層的に論じることで、歴史に対する理解を深めていく。

## 【到達目標】

①日本史についての基本的な流れを理解する。②歴史を暗記中心でなく、各時代を生きた人々の哀歓に思いを寄せながら思考できるようになる。③歴史的な視点をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式をとり、板書とパワーポイントを併用する。適宜、史料等を配布し、参照する。授業の理解度を確認するため、小テストやレポートを課す場合がある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                          |
|------|----------------------|-----------------------------|
| 第1回  | イントロダクション            | 講義に関する全体の説明、注意点など           |
| 第2回  | 幕末                   | 幕末の政治と社会について                |
| 第3回  | 明治（1） 復古と革新          | 明治維新と新政府の近代化政策について          |
| 第4回  | 明治（2） 近代化と世相         | 近代国家の建設をめぐる地域や人びとについて       |
| 第5回  | 明治（3） 立憲国家の創設        | 憲法制定をめぐる政府や民間の葛藤について        |
| 第6回  | 明治（4） 日清・日露戦争        | 明治国家が経験した二つの対外戦争について        |
| 第7回  | 明治（5） 「一等国」の栄光と不安    | 日露戦争後の政治と社会について             |
| 第8回  | 大正（1） 大正「デモクラシー」     | 第一次世界大戦後の政治と社会について          |
| 第9回  | 大正（2） 政党政治の光と影       | 大正後半から昭和前期にかけて展開された政党政治について |
| 第10回 | 昭和（1） 世界大恐慌と激動する国際関係 | 恐慌と満州事変をめぐる国際関係の変化について      |
| 第11回 | 昭和（2） 戦争と人びと         | 盧溝橋事件から第二次世界大戦の終結まで         |
| 第12回 | 昭和（3） 戦後復興から高度成長へ    | 戦後政治のあゆみと経済復興について           |
| 第13回 | 昭和（4） 時代としての「戦後」     | 戦後日本社会の形成と展開について            |
| 第14回 | まとめ                  | 総括と質疑応答 講義全体のまとめ、質疑応答       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布するプリントには必ず目を通しておく、授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要なテキストがある場合には、適宜指示する。

## 【参考書】

『日本政治史』（有斐閣）、『シリーズ 日本近現代史』全10巻（岩波新書）、『現代日本政治史』全5巻（吉川弘文館）※高校時代に使用した日本史の教科書を折に触れ読み返し、予習復習に役立ててもらいたい。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが利用できるIT機器

## 【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。  
・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。  
・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course gives an overview of modern Japanese history from the Meiji Restoration to the end of the Showa era. I will focus not only on the main issues related to politics, economy, and diplomacy, but also on various aspects such as the lives of ordinary people and the culture of cities and rural areas. The purpose of this course is to deepen the understanding of history.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to understand the historical transition of Japan.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the text distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS100BE (史学/History 100)

## 東洋史概説 I

山元 貴尚

授業コード：A3105 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

東アジア地域は、近代まで滅びることなく受け継がれた唯一の文明圏であり、その歴史や文化は東アジア社会に共通する基盤となっています。急激に経済発展を遂げた現代の東アジア地域を理解するには、その背景にある歴史や地域性、そして文化に関する知識を必要としますが、これらを得る機会が十分にあるとはいえません。

本講義では、東アジア地域における人類の拡散や文明の発生から帝国として領域を拡大した前漢時代までの歴史・地理・文化を学習して東アジアに対する認識を深め、多様な東アジア地域を客観的かつ多角的な観点から理解してゆきます。

### 【到達目標】

これまで歴史研究で使用されてきた文献史料や近年陸続と発見される出土資料を踏まえつつ、東アジア世界の形成過程を基礎から時間的かつ空間的に理解できます。また、東洋史の学習を通じて客観的かつ多角的な視点を養い、東アジア地域に対する新たな歴史認識を持つことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。

講義ではPowerPointを用いて歴史の流れや出来事、近年発見された遺跡や出土文字史料ほか様々な文物を説明してゆきますので、各自ノートを用意して学習事項を記録してください。また、単に人物や文物の名称を覚えるのではなく、歴史事象の原因や結果をふまえて考察してゆきます。

課題などの提出やフィードバックについては「学習支援システム」を通じて行う予定ですが、質問は随時受け付けます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容            |
|------|----------------|---------------|
| 第1回  | ガイダンス          | 授業の進め方と東洋史の意義 |
| 第2回  | 東アジア地域の地理的状況   | 東アジアの地域区分     |
| 第3回  | 人類の拡散と文明の発生    | 東アジア地域の文明     |
| 第4回  | 新石器時代の諸相       | 新石器文化の多元性     |
| 第5回  | 伝説の時代と幻の王朝     | 中国の建国神話と夏王朝   |
| 第6回  | 邑制国家の成立        | 殷王朝の社会と文化     |
| 第7回  | 革命思想と封建制       | 周王朝の天下思想      |
| 第8回  | 覇者の時代          | 春秋時代の地域間交流    |
| 第9回  | 群雄の興亡秦統一前史     | 戦国諸国家の領域統治    |
| 第10回 | 始皇帝の「天下一統」     | 秦王朝の統治体制      |
| 第11回 | 項羽と劉邦の時代       | 楚漢抗争期と前漢初期    |
| 第12回 | 文景の治           | 漢帝国の形成過程      |
| 第13回 | 武帝の領域拡大と匈奴との攻防 | 漢帝国と遊牧世界      |
| 第14回 | 外戚政治の成立        | 前漢後半期の政治と社会   |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

はじめて東洋史を学習するという学生が大多数ですので、事前に配布される資料をよく読み、難解な漢字や歴史事項、地理情報を下調べして講義に臨むようにしてください。また、提示された参考書等を確認し、より深い認識を持つようにしてください。講義後には、内容や自己の考えをまとめておくようにしてください。本講義の準備学習・復習は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特定の教科書は使用しません。適宜教材として講義資料を配布します。

### 【参考書】

参考文献については逐次講義内で紹介しますが、磯波護・尾形勇・鶴間和幸・上田信編『中国の歴史』1～3巻(講談社学術文庫、2020年、)愛宕元・冨谷至著『中国の歴史』上、改訂版(昭和堂、2009年)、『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』(松丸道雄・永田英正、講談社、1985年)、『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』(尾形勇、講談社、1985年)を読んでおくようにしてください。

### 【成績評価の方法と基準】

課題(30%)と期末試験(70%)を実施します。これらは事前に講義内で問題を提示しますので、自らの考えを提示できるように講義内容を整理しておいてください。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんが理解できるよう、できるかぎりわかりやすく講義を進めてゆきます。学生のみなさんも継続的に事前準備・事後整理を行うようにしてください。欠席した場合でも、講義資料等から情報を得て整理し、質問があれば対応いたします。

### 【その他の重要事項】

履修希望者は初回のガイダンスで講義を受ける際の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The East Asian region represents a unique civilization that has endured through time, providing a shared cultural foundation for East Asian societies. To grasp the rapidly evolving modern East Asia, one must understand its historical context, regional nuances, and cultural aspects.

In this course, we will study the history, geography, and culture of the East Asia region from the diffusion of humanity and the emergence of civilizations to the expansion of empires during the pre-Han period. Our goal is to deepen our understanding of East Asia from an objective and multifaceted perspective.

#### 【Learning Objectives】

This statement emphasizes that by studying East Asian history, students will explore historical documents and unearthed artifacts to comprehend the formation of the East Asian world. It encourages an objective and diverse viewpoint, fostering a new understanding of the region's history.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Since most students are new to studying East Asian history, I recommend thoroughly reading the materials distributed in advance. Familiarize yourself with complex kanji characters, historical concepts, and geographical information. Additionally, review the recommended textbooks to deepen your understanding. After the lecture, summarize the content and your own thoughts. Allocate approximately 2 hours for preparation and review for this course.

#### 【Grading Criteria /Policy】

We will have assignments (30%) and a final exam (70%). These will be presented as questions during the lectures, so please organize the lecture content in advance to be able to present your own thoughts.

HIS100BE (史学/History 100)

## 東洋史概説Ⅱ

山元 貴尚

授業コード：A3106 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

東アジア地域は、近代まで滅びることなく受け継がれた唯一の文明圏であり、その歴史や文化は東アジア社会に共通する基盤となっています。急激に経済発展を遂げた現代の東アジア地域を理解するには、その背景にある歴史や地域性、そして文化に関する知識を必要としますが、これらを得る機会が十分にあるとはいえません。

本講義では、春秋(東洋史概説Ⅰ)の内容を踏まえつつ、儒教国家が形成された王莽の時代から東アジア世界帝国として成立した隋・唐の前半期までの歴史・地理・文化を学習して東アジアに対する認識を深めてゆきます。さらに、農耕文化と遊牧世界との文化的・軍事的交流や東アジア世界帝国の構造について、客観的かつ多角的な観点から理解してゆきます。

## 【到達目標】

これまで歴史研究で使用されてきた文献史料や近年陸続と発見される出土資料を踏まえつつ、東アジア世界の形成過程を基礎から時間的かつ空間的に理解できます。また、東洋史の学習を通じて客観的かつ多角的な視点を養い、東アジア地域に対する新たな歴史認識を持つことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。

講義ではPowerPointを用いて歴史の流れや出来事、近年発見された遺跡や出土文字史料ほか様々な文物を説明してゆきますので、各自ノートを用意して学習事項を記録してください。また、単に人物や文物の名称を覚えるのではなく、歴史事象の原因や結果をふまえて考察してゆきます。

課題などの提出やフィードバックについては「学習支援システム」を通じて行う予定ですが、質問は随時受け付けます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容            |
|------|---------------|---------------|
| 第1回  | ガイダンス         | 授業の進め方と東アジア世界 |
| 第2回  | 豪族社会の成立       | 後漢最末期の社会情勢    |
| 第3回  | 儒教国家の形成       | 王莽の政治と後漢王朝    |
| 第4回  | 後漢末期の混乱と曹操の台頭 | 魏晋南北朝時代の幕開け   |
| 第5回  | 「天府」巴蜀と江南政権   | 蜀漢政権と孫呉政権の諸相  |
| 第6回  | 晋の混乱と都督制の成立   | 晋王朝の政治体制      |
| 第7回  | 貴族制社会の形成      | 晋の東遷と貴族制社会    |
| 第8回  | 江南王朝の興亡       | 南朝諸政権の政治体制    |
| 第9回  | 遊牧民族の南下       | 五胡十六国諸政権の興亡   |
| 第10回 | 華北政権の成立と農耕地支配 | 北魏の漢化政策と漢人の胡化 |
| 第11回 | 仏教文化の成立       | 中国における仏教文化の成立 |
| 第12回 | 華北と江南の交流      | 隋王朝の中国再統一     |
| 第13回 | 東アジア国際秩序の形成   | 唐王朝の成立と東アジア世界 |
| 第14回 | 武則天と楊貴妃       | 唐王朝の女性たち      |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

はじめて東洋史を学習するという学生が大多数ですので、事前に配布される資料をよく読み、難解な漢字や歴史事項、地理情報を下調べして講義に臨むようにしてください。また、提示された参考書等を確認し、より深い認識を持つようにしてください。講義後には、内容や自己の考えをまとめておくようにしてください。本講義の準備学習・復習は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

特定の教科書は使用しません。適宜教材として講義資料を配布します。

## 【参考書】

参考文献については逐次講義内で紹介しますが、礪波護・尾形勇・鶴間和幸・上田信編『中国の歴史』4～6巻(講談社学術文庫、2020年)愛宕元・富谷至著『中国の歴史』上、改訂版(昭和堂、2009年)、『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』(松丸道雄・永田英正、講談社、1985年)『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』(尾形勇、講談社、1985年)を読んでおくようにしてください。

## 【成績評価の方法と基準】

課題(30%)と期末試験(70%)を実施します。これらは事前に講義内で問題を提示しますので、自らの考えを提示できるように講義内容を整理しておいてください。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんが理解できるよう、できるかぎりわかりやすく講義を進めてゆきます。学生のみなさんも継続的に事前準備・事後整理を行うようにしてください。欠席した場合でも、講義資料等から情報を得て整理し、質問があれば対応いたします。

## 【その他の重要事項】

履修希望者は初回のガイダンスで講義を受ける際の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The East Asian region represents a unique civilization that has endured through time, providing a shared cultural foundation for East Asian societies. To grasp the rapidly evolving modern East Asia, one must understand its historical context, regional nuances, and cultural aspects. In this course, we'll explore the history, geography, and culture from Wang Mang's era to the early Sui and Tang Dynasties. Our study will also delve into cultural and military interactions between agricultural and nomadic cultures, offering a multifaceted perspective on East Asia's structure.

## 【Learning Objectives】

This statement emphasizes that by studying East Asian history, students will explore historical documents and unearthed artifacts to comprehend the formation of the East Asian world. It encourages an objective and diverse viewpoint, fostering a new understanding of the region's history.

## 【Learning activities outside of classroom】

Since most students are new to studying East Asian history, I recommend thoroughly reading the materials distributed in advance. Familiarize yourself with complex kanji characters, historical concepts, and geographical information. Additionally, review the recommended textbooks to deepen your understanding. After the lecture, summarize the content and your own thoughts. Allocate approximately 2 hours for preparation and review for this course.

## 【Grading Criteria /Policy】

We will have assignments (30%) and a final exam (70%). These will be presented as questions during the lectures, so please organize the lecture content in advance to be able to present your own thoughts.

HIS100BE (史学/History 100)

## 東洋史概説Ⅲ

宇都宮 美生

授業コード：A3107 | 曜日・時限：木5/Thu.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。隋から北宋までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。隋が築いた体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に日中関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

### 【到達目標】

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニクを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。質問に関しては授業中随時受け付け、フィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容             |
|------|-----------|----------------|
| 第1回  | 講義の概要     | 授業の進め方、歴史研究の意義 |
| 第2回  | 隋による国家統一  | 隋の成立と文帝の政治     |
| 第3回  | 隋の繁栄と衰退   | 煬帝の時代          |
| 第4回  | 隋と周辺民族    | 高句麗・西域との関係     |
| 第5回  | 隋から唐へ     | 唐王朝の成立とその背景    |
| 第6回  | 唐の成熟と国際文化 | 則天武后から玄宗へ      |
| 第7回  | 唐朝の危機と再建  | 安史の乱から徳宗の治世へ   |
| 第8回  | 唐の衰亡      | 牛李党争から黄巢の乱へ    |
| 第9回  | 唐と周辺諸地域   | 遣唐使、羈縻支配、節度使   |
| 第10回 | 唐宋変革の過渡期  | 五代中原王朝と十国の興亡   |
| 第11回 | 宋による中国再統一 | 節度使体制の解体と北宋の政治 |
| 第12回 | 党派の争い     | 王安石と司馬光        |
| 第13回 | 宋の経済と海外貿易 | 南海・日宋貿易        |
| 第14回 | 試験とまとめ    | 試験とまとめ         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。プリントを配布する。

### 【参考書】

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016年  
富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016年  
愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版

『中国の歴史（全集叢書）』4～7巻、講談社、2005年  
その他、随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と筆記試験(70%、事前に問題を知らせる)

### 【学生の意見等からの気づき】

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

### 【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、マーカーなど。

### 【その他の重要事項】

履修希望者は第1回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

### 【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history (from Sui to Northern Song Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end Examination (70%)

HIS100BE (史学/History 100)

**東洋史概説Ⅳ**

宇都宮 美生

授業コード：A3108 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。南宋から清までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。征服王朝と漢族の関係を軸に体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に欧米及び日本との関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

**【到達目標】**

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニクを身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は講義形式で行う。

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ           | 内容             |
|------|---------------|----------------|
| 第1回  | 講義の概要         | 授業の進め方 歴史と日常生活 |
| 第2回  | 南宋による再建と安定    | 領土縮小と南方文化の開花   |
| 第3回  | 北宋・南宋の文化      | 発明と国外への伝播      |
| 第4回  | 南宋の滅亡とモンゴルの統一 | 金・モンゴルとの関係     |
| 第5回  | 元の繁栄と衰亡       | 多民族国家の政治と文化    |
| 第6回  | 明の成立と安定       | 皇帝独裁政治と靖難の変    |
| 第7回  | アジアの中の明帝国     | 海禁から永楽帝の中華世界   |
| 第8回  | 北虜南倭の時代       | 長城と南海貿易        |
| 第9回  | 明の斜陽          | 中央政権の弱体化と北京落城  |
| 第10回 | 満洲族の中国統一      | 満洲国の樹立から北京遷都へ  |
| 第11回 | 清の全盛と華夷思想     | 康熙帝から乾隆帝へ      |
| 第12回 | ヨーロッパの進出と戦乱   | アヘン戦争から義和団事件へ  |
| 第13回 | 清の文化          | 中国の伝統とヨーロッパの科学 |
| 第14回 | 試験とまとめ        | 試験とまとめ         |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。レジュメを事前に配布するので各自印刷しておくこと。

**【参考書】**

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016年  
富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016年  
愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版  
『中国の歴史（全集叢書）』7～10巻、講談社、2005年  
その他、随時紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(30%)と試験(70%、事前に問題を知らせる)

**【学生の意見等からの気づき】**

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

**【学生が準備すべき機器他】**

色鉛筆、マーカーなど。

**【その他の重要事項】**

履修希望者は第1回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

**【Outline (in English)】**

This course introduces an understanding of Chinese history (from Southern Song to Qing Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policies:** Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).



HIS100BE (史学/History 100)

## 西洋史概説Ⅰ

内田 康太

授業コード：A3109 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メソポタミア文明とエジプト文明の誕生からローマによる統一に至るまでの地中海を取り巻く世界の歴史を概説し、古代地中海世界という歴史世界が形成されていく過程を学ぶ。

### 【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・古代オリエント世界、古代ギリシア世界、ヘレニズム世界それぞれの歴史に関する基礎的知識を習得する。
- ・それぞれの世界が相互に関連して古代地中海世界を作り上げていく経緯を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、授業終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                |
|------|---------------|-------------------|
| 第1回  | イントロダクション     | 西洋古代史研究の方法と射程     |
| 第2回  | 古代オリエント世界 (1) | メソポタミア文明の誕生と盛衰    |
| 第3回  | 古代オリエント世界 (2) | エジプト文明の誕生と盛衰      |
| 第4回  | 古代オリエント世界 (3) | 二大文明の狭間で          |
| 第5回  | 古代オリエント世界 (4) | アケメネス朝ペルシアの興亡     |
| 第6回  | 古代ギリシア世界 (1)  | エーゲ文明の誕生・繁栄・崩壊    |
| 第7回  | 古代ギリシア世界 (2)  | ポリス社会の成立と発展       |
| 第8回  | 古代ギリシア世界 (3)  | ペルシア戦争とポリス社会の隆盛   |
| 第9回  | 古代ギリシア世界 (4)  | ペロポネソス戦争とポリス社会の変質 |
| 第10回 | ヘレニズム世界 (1)   | マケドニア王国の興隆        |
| 第11回 | ヘレニズム世界 (2)   | アレクサンドロス大王の東方遠征   |
| 第12回 | ヘレニズム世界 (3)   | ヘレニズム諸王国の成立と繁栄    |
| 第13回 | ヘレニズム世界 (4)   | ローマの到来とヘレニズム世界の終焉 |
| 第14回 | 試験・まとめと解説     | 到達度の確認            |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

### 【参考書】

服部良久／南川高志／山辺規子『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006年。  
本村凌二／中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012年。

### 【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験 (80%)

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度 (20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解度を向上させるために、図表や図像資料などを一層積極的に活用する。また、リアクションペーパーによる質疑応答を引き続き活用することで、できる限り受講生の関心に沿ったかたちで授業を進める。

### 【Outline (in English)】

**Course outline:** This course outlines the history of the ancient mediterranean world from the birth of Mesopotamia and Egypt to the establishment of Roman hegemony. It also helps students learn how this world was formed throughout its history.

**Learning Objectives:** The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of the ancient Orient, ancient Greece and the Hellenistic world.
- Students are able to explain how the ancient mediterranean world was formed by these three affecting each other.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

**Grading Criteria:** Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS100BE (史学/History 100)

## 西洋史概説Ⅱ

内田 康太

授業コード：A3110 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ世界の誕生から終焉に至るまでの歴史をヨーロッパ中世世界への接続も射程に入れて学ぶ。

## 【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・古代ローマの歴史に関する基礎的知識を習得する。
- ・古代ローマにおける社会構造の変質や転換を「断絶」だけでなく「連続」という観点からも説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、授業終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                        |
|------|-----------|---------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | 古代ローマのはじまり                |
| 第2回  | 共和政（1）    | 王政の崩壊と共和政の誕生              |
| 第3回  | 共和政（2）    | 地中海世界の覇権をめぐる              |
| 第4回  | 共和政（3）    | 「内乱の1世紀」                  |
| 第5回  | 共和政（4）    | ユリウス・カエサルと共和政の終焉          |
| 第6回  | 元首政（1）    | アウグストゥスと共和政の存続、あるいは、帝政の樹立 |
| 第7回  | 元首政（2）    | ユリウス・クラウディウス朝からフラウィウス朝へ   |
| 第8回  | 元首政（3）    | 五賢帝の治世と「ローマの平和」           |
| 第9回  | 元首政（4）    | 軍人皇帝時代／3世紀の危機             |
| 第10回 | 専制君主政（1）  | ディオクレティアヌス以後の帝国再編成        |
| 第11回 | 専制君主政（2）  | キリスト教の迫害と保護               |
| 第12回 | 専制君主政（3）  | ゲルマン人の進出と西ローマ帝国の滅亡        |
| 第13回 | 専制君主政（4）  | 古代ローマ世界の終焉とヨーロッパ中世世界の成立   |
| 第14回 | 試験・まとめと解説 | 到達度の確認                    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

## 【参考書】

服部良久／南川高志／山辺規子『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006年。

本村凌二／中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012年。

## 【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

## 【学生の意見等からの気づき】

初学者を対象とした授業である点に留意し、図表や図像資料などを一層積極的に活用することで、受講生の理解度向上に努める。また、リアクションペーパーによる質疑応答を引き続き活用することで、可能な限り受講生の関心に沿ったかたちで授業を進める。

## 【Outline (in English)】

**Course outline:** This course outlines the history of ancient Rome from its birth to the end with an eye on the connection to the Medieval Europe.

**Learning Objectives:** The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of ancient Rome.

- Students are able to explain the structural changes in the Roman society, not only from the aspect of 'separation', but also from the aspect of 'continuity'.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

**Grading Criteria:** Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS100BE (史学/History 100)

### 西洋史概説Ⅲ

皆川 卓

授業コード：A3111 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ヨーロッパの伝統社会の形成を、15世紀から18世紀のいわゆる「初期近代」の発展を辿りながら論じ、その上に形成される近代社会の特徴を考察します。この作業によって、受講者は近代そのものの意義とその問題、そしてそのグラデーションの上に生じる国家の多元性を学びます。

#### 【到達目標】

ヨーロッパにおける伝統社会から近代社会への移行期を、①個人、②国家、③コミュニケーションの三つの面から学び、その上に成立したヨーロッパの秩序のあり方に対する認識を深め、そのレガシーと課題を理解することによって、他の文化圏、とりわけ日本社会を相対化し、自由で合理的、かつ異なる立場にも共感できる強靱な歴史的分析力と構成力を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。数度に一度の単元の終了毎(原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度)に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                                                                       |
|------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 近世・近代ヨーロッパ史を学ぶ意義について | 日本人にとって遠く離れたヨーロッパの過去を学ぶ意義はどこにあるのか、日本におけるヨーロッパ史の研究の足跡をたどりながら解説します。                        |
| 第2回  | 宗教改革と個人の誕生(1)        | 日本と西洋の相連の根底にあるキリスト教がヨーロッパを精神的に支配した時代を、中世カトリック教会に遡って説明します。                                |
| 第3回  | 宗教改革と個人の誕生(2)        | 中世カトリック教会が宗教改革によって分裂し、西洋社会が多面的な価値受容の方法を発見するまでの苦悩を紹介しします。                                 |
| 第4回  | 宗教改革と個人の誕生(3)        | 宗教改革がもたらした宗派対立の結果、個人が自分自身の価値認識を持たなければなくなり、自立した個人(自我ある個人)が成立する過程を紹介します。                   |
| 第5回  | 平和なき近世(1)            | 世界的に見て、ヨーロッパの諸国がなぜ多くの戦争を行うようになったのかを、中世から近世のヨーロッパにおける「国」の相互関係から説明します。                     |
| 第6回  | 平和なき近世(2)            | 中世と動機が変わらない多くの戦争の中から、世界史上始めてヨーロッパで、いわゆる「近代主権国家」が徐々に形を現してくる過程とそのポイントを論じます。                |
| 第7回  | 平和なき近世(3)            | 成立途中の「近代主権国家」が、実は伝統的な認識や価値判断を大いに含んでいたことを紹介し、その中に抱え込まれ、今に続く問題を論じます。                       |
| 第8回  | ヴェルサイユの世紀(1)         | ヨーロッパ人同士のコミュニケーションにおいて、暴力が消えたのは東アジア諸国よりも遅れて17世紀のことでした。それはなぜか、克服のためにどのような条件が必要だったのかを考えます。 |
| 第9回  | ヴェルサイユの世紀(2)         | ヨーロッパ諸国の統一を達成した絶対君主が、人々のどのような価値観や期待によって権力を手に入れたのか、その権力は果たして「絶対」だったのかを論じます。               |
| 第10回 | ヴェルサイユの世紀(3)         | 宮廷の中で生み出された対人コミュニケーション方法やマナーが、近代ヨーロッパ人の深層心理にいかにか沈積し、美意識や行動にどう影響を与えているのかをその後の歴史から紹介します。   |

|      |                         |                                                                                            |
|------|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第11回 | メディアと科学と「市民的公共圏」(1)     | 15世紀の活版印刷術の登場や私手紙の普及によって「公共圏」と「私的コミュニケーション空間」が登場し、情報の個人「主権」が誕生する過程を紹介しします。                 |
| 第12回 | メディアと科学と「市民的公共圏」(2)     | 中世キリスト教が自然や集団、個人に関心を向けた理由を論じ、天文学・力学を巡る激しい論争の背景を確認したのち、その方法が聖書から経験に基づく矛盾なき説明へ移行する過程をたどります。  |
| 第13回 | メディアと科学と「市民的公共圏」(3)     | 「公共圏」の広がりの中、教会を越えた「真実」論争が、自然のみならず集団や個人にも向けられ、経験に基づく矛盾なき説明=理性が宗教や政治にも向けられていく過程を論じます。        |
| 第14回 | まとめ-伝統社会と合理主義の連続と断絶について | 近代ヨーロッパの合理主義が、伝統を破棄することではなく、むしろ伝統を深める中で生み出され、その深みとバイアスを共に抱え込んでいることを、こまごまでの学習を振り返りながら確認します。 |

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます(毎回1時間)。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします(毎回1時間)。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します(毎回1時間)。
- ・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます(毎回1時間)

#### 【テキスト(教科書)】

教科書は使用しません。(配布プリントがその機能を担います)

#### 【参考書】

- ・金澤周作監修・藤井崇他編『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房 2020
- ・永田諒一『宗教改革の真実』講談社 2004
- ・高澤紀忠『主権国家体制の成立』山川出版社 1992
- ・近藤和彦『近世ヨーロッパ』山川出版社 2018
- ・ピーター・H・ウィルソン(山本文彦訳)『神聖ローマ帝国 1595-1806』岩波書店 2005
- ・千葉治男『ルイ14世-フランス絶対王政の虚実』清水書院 2018
- ・ジョン・ヘンリー(東慎一郎訳)『一七世紀科学革命』岩波書店 2005
- ・ウルリヒ・イム・ホーフ(成瀬治訳)『啓蒙のヨーロッパ』1998

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・評価は平常点(20%)、単元毎の小テスト(30%)、期末レポート(50%)を総合して評価します。
- ・ヨーロッパにおける伝統社会から近代社会への移行期を、個人・国家・コミュニケーションの各側面から理解することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、ヨーロッパ的な秩序の特徴を自分の力で考察し、現在の我々にとってどのような意味を持つのかを自分なりの言葉で表現できること【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】が基準となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

#### 【その他の重要事項】

秋科目の「西洋史概説Ⅳ」と合わせて受講することが望ましい。

#### 【Outline (in English)】

##### (Course outline)

This course discusses the formation of traditional European societies by tracing the development of the so-called "Early Modern Period" from the 15th to the 18th century, and examines the characteristics of the modern society that was formed based on this. Through this work, students will be able to learn about the significance of modernity itself, its problems, and the pluralism of international society that arises from these gradations.

##### (Learning Objectives)

We will learn about the period of transition from traditional society to modern society in Europe from three aspects: (1) individuals, (2) nations, and (3) communication, deepen your awareness of the European order that was established on top of it, and understand its legacy and challenges. By doing so, you will acquire strong historical analytical and compositional skills that allow you to relativize other cultural areas, especially Japanese society, and empathize with free, rational, and different viewpoints.

##### (Learning activities outside of classroom)

- ・Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general content in mind (1 hour each time).
- ・Before class, I will research all the words I am learning for the first time and words I only know by name using reference books and the internet, and I will make notes on a handout (for 1 hour each time).
- ・After class, students will research on their own or ask questions to the instructor about points they did not understand during class (1 hour each time).
- ・Listen to the lecture, take notes on what you think, and prepare for writing your final report (1 hour each session)

(Grading Criteria /Policy)

- Evaluation will be based on the average score (20%), quizzes for each unit (30%), and final report (50%).
- Be able to understand the period of transition from traditional society to modern society in Europe from the aspects of individuals, nations, and communication [first evaluation process: corresponds to the 30% quiz for each unit], and understand the European order. The standard is to be able to consider the characteristics on your own and express in your own words what meaning they have for us today [Second evaluation process: corresponds to 50% of the term report].

HIS100BE (史学/History 100)

## 西洋史概説IV

皆川 卓

授業コード：A3112 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中世の終焉からヨーロッパ連合までのヨーロッパ国際関係史を、主権国家間の権力闘争とは異なる共存、協力と法秩序の側面から見直します。それによって、なぜヨーロッパ諸国は衝突と戦争の歴史をたどりながらも、関係を強め、統合に向かっていけるのかを、歴史的な視点から学びます。

### 【到達目標】

ヨーロッパの国の枠を越え、北西ユーラシア世界の自然的、社会的、経済的、宗教的、知的条件から、そこに生まれた政治的共同体同士の関係を観察し、それが制度化する過程を学ぶ。それによって、「知識」の量を増やすだけで、力関係の繰り返しという表面的な理解に留まりがちなヨーロッパ諸国関係の認識をリニューアルし、多面的な政治的共同体を理解し、その理解を活かすことのできる歴史構成力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

前期の西洋史概説Ⅲと同様、スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎(原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度)に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                 | 内容                                                                                                                                                                            |
|-----|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | キリスト教ヨーロッパの解体和国境の成立 | 中世に教会の権威のもとで、地域を政治的に束ねた君主や都市が、それぞれ自立した政治的共同体を作り上げ、その間に排他的な境界「国境」を形成するプロセスを説明します。                                                                                              |
| 第2回 | 近世のスイスとオランダ         | 国境に区切られた君主国の間の山地や低地に、日本の都道府県程度の領域を束ねた都市や農村が同盟して共通の会議や防衛制度をつくり、自治に基づく国家連合に成長する過程を紹介します。キリスト教を掲げた君主のもと、多種多様なヨーロッパ中央部を束ねた二つの帝国が、そのために頼った正反対の方法と、その結果から現代の私たちが何が学べるかを考えます。        |
| 第3回 | 神聖ローマ帝国とハプスブルク帝国    | ヨーロッパ各地が様々な国に統合され、自立する中、激しい武力衝突が起こり、その解決のために条件を交渉する「外交」と、平和を文書にして拘束し合う「条約」が生まれる過程を論じます。                                                                                       |
| 第4回 | 諸国間の対等化 (1)         | 各国が自分の権力を盾に条約を破って戦争を繰り返す中、複数の国が条約に相乗りしてそれを守らせようと試み、その中で「国際会議」が生まれ、相互に対等な国家として認め合う過程を紹介します。                                                                                    |
| 第5回 | 諸国間の対等化 (2)         | 各国の利害の上に結ばれる「条約」では制限できない各国の平和破壊の危険に対し、キリスト教の神学や商業上の慣習から、それを原理的に規制しようとする発想が生まれる過程を紹介します。平和破壊の危険を原理的に規制しようとして生まれた「ヨーロッパ公法」と「海洋法」が、キリスト教や自力救済のバイアスを徐々に脱ぎ去り、近代国際法に近づいていく過程を分析します。 |
| 第6回 | ヨーロッパ公法と海洋法の世界 (1)  | 宗教に代わり経験を重視する世界観が生まれ、生来人間が持つ権利「自然権」の思想が広まるにつれ、国が守れない自然権を、国を超えたルールで守ろうという議論が起こる過程を論じます。                                                                                        |
| 第7回 | ヨーロッパ公法と海洋法の世界 (2)  | ヨーロッパに中産階級が誕生し、「人権」と呼ばれるようになった自然権を戦争や貧困から守る活動が発生し、各国がその活動の支援を「条約」として義務付けるようになる状況を説明します。                                                                                       |
| 第8回 | 人間のための多国間条約 (1)     |                                                                                                                                                                               |
| 第9回 | 人間のための多国間条約 (2)     |                                                                                                                                                                               |

第10回 権力外交の破綻 (1)

第11回 権力外交の破綻 (2)

第12回 国際平和機構への道 (1)

第13回 国際平和機構への道 (2)

第14回 ヨーロッパ統合とその課題

18世紀末以降の「国民国家」の登場によって、各国が国益の大義名分のもと、利益を奪い合う権力外交をヒートアップさせていく状況を分析します。人権条約をはるかに上回るスピードで国益追求の権力外交が進む中、各国がブロックを組み自国の安全を守る「勢力均衡」が社会や技術の発展によって「総力戦」に発展し、破綻する過程を論じます。

権力外交が破綻するはるか以前の18世紀から、各国が共通の会議や裁判所を持ち、国益の主張が武力衝突に通じるのを防ぐ構想が生まれ、発展する過程を、代表的な思想ごとに紹介します。世界大戦で破綻した権力外交を制限し、対立のエスカレートを防ぐための「国際平和機構」が現実には立ち上げられ、活動する過程とその限界、そしてその背景にある歴史的な問題に注目します。第二次世界大戦後、「石炭鉄鋼共同体」から始まって現在の欧州連合に発展したヨーロッパ統合の歩みと、それが抱えている問題を、これまで学んだ歴史で積み残した課題から分析します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます (毎回1時間)。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします (毎回1時間)。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します (毎回1時間)。
- ・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます (毎回1時間)

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。(配布プリントがその機能を担います)

### 【参考書】

- ・E.カントローヴィッチ (甚野尚志訳)『祖国のために死ぬこと』みすず書房 2006
- ・森田安一『スイス・ベネルクス史』山川出版社 1998
- ・森田安一『物語 スイスの歴史』中央公論新社 2000
- ・桜田美津夫『物語 オランダの歴史』中央公論新社 2018
- ・ビーター・H・ウィルソン (山本文彦訳)『神聖ローマ帝国 1495-1806』岩波書店 2005
- ・岩崎周一『ハプスブルク帝国』講談社 2017
- ・山内進『掠奪の法観念史—中近世ヨーロッパの人・戦争・法』東京大学出版会 1993
- ・明石欽司『ウェストファリア条約—その神話と実像』慶應大学出版会 2007
- ・山内進『グロティウス「戦争と平和の法」の思想』ミネルヴァ書房 2021
- ・R・タック (荻原能久訳)『戦争と平和の権利—政治思想と国際秩序:グロティウスからカントまで』風行社 2015
- ・明石欽司『不可視の国際法—ホプズ・ライブニッツ・ルソーの可能性』慶應大学出版会 2018
- ・サン・ビエール (本田裕志訳)『永久平和論I・II』京都大学学術出版会 2013
- ・E・カント (宇都宮芳明訳)『永遠平和のために』岩波書店 1985
- ・井上忠男『戦争と救済の文明史—赤十字と国際人道法の成り立ち』PHP研究所 2003
- ・木村靖二『第一次世界大戦』筑摩書房 2014
- ・篠原初枝『国際連盟—世界平和の夢と挫折』中央公論新社 2014
- ・最上敏樹『国際機構論』東京大学出版会 1996
- ・庄司克宏『欧州連合—統治の論理とゆくえ』岩波書店 2007

### 【成績評価の方法と基準】

・評価は平常点 (20%)、単元毎の小テスト (30%)、期末レポート (50%) を総合して評価します。  
・ヨーロッパから世界に広まった近代国際関係の歴史的成立条件を歴史的に理解し【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、その意義と課題を自分の力で考察し、現在の我々がどのように現在に続く近代国際社会に関わっていくべきかを、歴史的な視点から表現できること【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】が基準となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者が変更によりフィードバックできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【Outline (in English)】

#### (Course outline)

We review the history of European international relations from the end of the Middle Ages to the European Union from the perspective of coexistence, cooperation, and legal order, which is different from power struggles between sovereign states. Through this, we will learn from a historical perspective why European countries are able to strengthen their relationships and move toward integration, despite their history of conflict and war.

(Learning Objectives)

Beyond the borders of European countries, we look at the natural, social, economic, religious, and intellectual conditions of the northwestern Eurasian world, observe the relationships between political communities that have arisen there, and examine the process by which they become institutionalized. learn. By doing so, by simply increasing the amount of "knowledge" we can renew our understanding of the relations between European countries, which tend to remain at a superficial understanding of repeating power relations, understand the pluralistic political community, and make use of that understanding. Acquire the ability to compose history.

(Learning activities outside of classroom)

· Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general content in mind (1 hour each time).

· Before class, I will research all the words I am learning for the first time and words I only know by name using reference books and the internet, and I will make notes on a handout (for 1 hour each time).

· After class, students will research on their own or ask questions to the instructor about points they did not understand during class (1 hour each time).

· Listen to the lecture, take notes on what you think, and prepare for writing your final report (1 hour each session)

(Grading Criteria/Policy)

· Evaluation will be based on the average score (20%), quizzes for each unit (30%), and final report (50%).

- Historically understand the historical conditions for the establishment of modern international relations, which spread from Europe to the rest of the world [first evaluation process: corresponds to the 30% quiz for each unit], and consider their significance and issues on their own. The standard is to be able to express from a historical perspective how we should be involved in the modern international society that continues today [Second evaluation process: corresponds to 50% of the final report].

HIS200BE (史学 / History 200)

## 日本考古学

小倉 淳一

授業コード：A3113 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考(履修条件等)：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用(A3856)で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジア史の中に位置付けて講義する。  
考古学資料にもとづく交流の歴史を学び、日本列島史に対する理解を深める。

### 【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。  
各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義を行う予定。プリント等の資料も利用する。  
質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー(月曜5限)で対応する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                              |
|------|-------------------|---------------------------------|
| 第1回  | 概要説明              | 授業の概要と方法・評価基準<br>この授業で扱う時代概要の解説 |
| 第2回  | 旧石器時代のアジアと日本列島(1) | 文化交流基盤の形成                       |
| 第3回  | 旧石器時代のアジアと日本列島(2) | 縄文文化形成への道程                      |
| 第4回  | 旧石器・縄文時代の海洋利用     | 海を渡る丸木舟                         |
| 第5回  | 弥生文化と対外交流(1)      | 弥生文化の外来的要素・在来的要素                |
| 第6回  | 弥生文化と対外交流(2)      | 稲作技術と集落遺跡                       |
| 第7回  | 弥生文化と対外交流(3)      | 倭人の対外交渉のはじまり                    |
| 第8回  | 弥生文化と対外交流(4)      | 『魏志』倭人伝の世界                      |
| 第9回  | 弥生文化と対外交流(5)      | 玉生産と対外交流                        |
| 第10回 | 古墳文化と対外交流(1)      | 前方後円墳と船載鏡                       |
| 第11回 | 古墳文化と対外交流(2)      | ヤマト王権の対外交渉                      |
| 第12回 | 古墳文化と対外交流(3)      | 渡来系技術と遺物                        |
| 第13回 | 古墳文化と対外交流(4)      | 磐井の乱と朝鮮半島の墳墓                    |
| 第14回 | 考古学からみた交流史        | 成果(レポート)提出と講評                   |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』(1)～(3)(新版)有斐閣、鈴木公雄(1988)『考古学入門』東京大学出版会、佐々木憲一ほか(2011)『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰(1995)『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』(全9巻)などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第01巻～第03巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

### 【成績評価の方法と基準】

成績の70%は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は30%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

準備学習に力を入れてほしい。また、各回の内容はレポートを書くための重要なヒントになっている。成績の高い学生は出席率も高く、授業の理解度が好成績に結びついている。  
また、資格課程の関連科目として開講している関係もあるため、史学科以外の受講者も一定数を占めているが、受講にあたっては基礎知識を深めておく必要がある。概説書等の講読を推奨する。

### 【その他の重要事項】

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japanese archipelago and other areas through archeological materials. Students will be able to understand archeological materials in relation to their interactions with China and Korea, and explain their historical development and significance.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the final report (70%) and normal score (30%).

HIS200BE (史学 / History 200)

## 日本古代史

### 春名 宏昭

授業コード：A3114 | 曜日・時限：水5/Wed.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

#### 【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容              |
|------|-----------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス     | 授業の内容の説明        |
| 第2回  | 〈時代〉の変化   | ワンランク上の国家を目指して  |
| 第3回  | 官人たちの変化   | 良吏政治のスタート＝大同元年勅 |
| 第4回  | 天皇の性格変化   | 桓武天皇と平城天皇       |
| 第5回  | 良吏政治の展開   | 嵯峨朝への政策継承       |
| 第6回  | 良吏政治の実践   | 弘仁三年勅から天長元年官符へ  |
| 第7回  | 承和の変の前奏   | 淳和朝・仁明朝の政治状況    |
| 第8回  | 承和の変      | 母橘嘉智子と娘正子内親王    |
| 第9回  | 貴族の時代へ    | 文徳朝・清和朝の様相      |
| 第10回 | 応天門の変     | 安定の時代、摂関政治へ     |
| 第11回 | 源氏と藤原氏    | 源氏の左大臣と藤原氏の右大臣  |
| 第12回 | 藤原基経の国政運営 | 清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廢位 |
| 第13回 | 阿衡の紛議     | 昌泰の変へ           |
| 第14回 | 平安前期という時代 | 平安時代史概観         |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要です。奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解が必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。この講義では、通説的理解がいかにも不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第5巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

授業に必要な史料はプリントして配布します。

#### 【参考書】

春名宏昭『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）  
中央公論社(文庫)・小学館(文庫)・集英社・講談社(文庫)から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りませんが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。

#### 【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of "The Heian period and the aristocracy". This course introduces how should be the nation and aristocrats in the former term of the Heian period to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand the essence of the nation and politics. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read the textbook and one of reference books introduced. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).



HIS200BE (史学 / History 200)

## 日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における16～17世紀は中世から近世へと社会が変容する時期であり、日本における城郭もその時期に確立する。「普請」という言葉をキーワードとして、主に徳川家康による城郭建設の事例の検討を通じて、中世城郭から近世城郭への進化の過程を政治史的に跡付け、併せて当該期の日本の政治・社会の在り方を考える。

### 【到達目標】

16～17世紀の城郭建設を通じて政治・経済・社会の変容を学び、併せて当該期史料の読解の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義形式で行うが、前もって城郭建設に関連する史料のプリントを配布し、参加者には史料の音読と解釈をしてもらう。それに対して訂正・補足説明（フィードバック）して、さらにその内容を参考史料を提示しながら解説する。併せてそれぞれの史料が持つ城郭史における意義を政治・社会の状況と関連付けて検討する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                     |
|------|----------------------|----------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                | 授業テーマ・進め方について説明する。                     |
| 第2回  | 中世の「普請」              | 「普請」という言葉の原義などについて解説する。                |
| 第3回  | 戦国大名の城郭建設と「普請役」①     | 戦国大名武田氏の普請役について解説する。                   |
| 第4回  | 戦国大名の城郭建設と「普請役」②     | 戦国大名後北条氏の普請役について解説する。                  |
| 第5回  | 織田信長と豊臣秀吉の城郭建設と「普請役」 | 織田信長と豊臣秀吉の城郭建設について解説する。                |
| 第6回  | 豊臣秀吉の朝鮮出兵と城郭建設       | 朝鮮半島南岸に建設された倭城について解説する。                |
| 第7回  | 徳川家康の天下統一            | 豊臣政権から徳川政権への移行を解説する。                   |
| 第8回  | 江戸城の巡見               | 江戸城の堀・石垣を実地見学する。                       |
| 第9回  | 徳川家康の城郭建設 江戸城①       | 慶長八年（1605）・慶長十一年（1608）の江戸城の建設について解説する。 |
| 第10回 | 徳川家康の城郭建設 江戸城②       | 慶長十九年（1614）の江戸城の建設について解説する。            |
| 第11回 | 徳川家康の城郭建設 駿府城        | 駿府城の建設について解説する。                        |
| 第12回 | 徳川家康の城郭建設 名古屋城       | 名古屋城の建設について解説する。                       |
| 第13回 | 大坂の陣後の城郭建設           | 江戸幕府による大坂城再築などについて解説する。                |
| 第14回 | まとめ                  | 中世城郭から近世城郭への過程をおさらいする。                 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料読解の予習・復習が必要である。（合計2時間程度）

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、史料プリントを配布する。

### 【参考書】

及川亘「名古屋御城石垣絵図を読む」（名古屋城調査研究センター編『史料が語る 名古屋城石垣普請の現場』名古屋城調査研究報告3 史料調査研究報告書1、2022年）  
同「『公儀御普請』—現場監督する大名」（『城郭史研究』41号、2022年）  
北原糸子『江戸城外堀物語』ちくま新書、1999年  
斎藤慎一・向井一雄『日本城郭史』吉川弘文館、2016年  
白峰旬『日本近世城郭史の研究』校倉書房、1998年  
同『豊臣の城・徳川の城』校倉書房、2003年  
『日本名城集成 江戸城』小学館、1986年  
『日本名城集成 名古屋城』小学館、1985年  
『日本名城集成 大坂城』小学館、1985年  
『大御所徳川家康の城と町』（駿府城関連史料調査報告書）静岡市教育委員会、1999年  
など

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験（またはレポート）50%で評価する。積極的な授業参加を期待する。

### 【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、参考史料なども提示しながらそれらなるべく分かりやすく整理して解説したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The 16th and 17th centuries in Japan was a period of social transformation from the Middle Ages to the modern age, and castles in Japan were also established during this period. Mainly through the examination of cases of castle construction by Tokugawa Ieyasu, We trace the process of evolution from medieval castles to modern castles in political history, and consider the state of Japanese politics and society during that period

#### 【Learning Objective】

Through the construction of castles in the 16th and 17th centuries, learn about the transformation of politics, economy, and society, and at the same time learn the basics of reading historical materials of the period.

#### 【Learning activities outside of classroom】

A total of 2 hours of preparation and review of reading comprehension of historical materials is required.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Evaluation is based on 50% of the average score and 50% of the final exam (or report).

Expect active class participation.

HIS200BE (史学 / History 200)

## 日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代人の記した文章を読み、そこから当時の生活や社会の仕組み、江戸時代人の常識や思考方法などを読み取ろうとする授業である。ここでは旗本森山孝盛（1738～1815）の記した「蜚の焼藻の記」を素材とする。学生には活字史料を読む訓練ともなるだろう。

### 【到達目標】

- ①活字史料を読みこなし、適切に現代語訳することができる。
- ②人名や語句について適切な辞書を用いて調べることができる。
- ③史料に基づいて旗本の生活について説明できる。
- ④史料に基づいて江戸時代の社会や制度について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用した形式の授業とする。hoppiiに教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。学生は必ず予習として、日記の次回授業分を読み、人物や不明な語について調べておくこと。授業時に指名して発表してもらう。質問等に対するフィードバックは授業内でおこなう。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容           |
|------|-----------|--------------|
| 第1回  | ガイダンス     | 旗本と森山孝盛について  |
| 第2回  | 諏訪家のこと    | テキスト222～223頁 |
| 第3回  | 役人奢侈のこと   | テキスト224～225頁 |
| 第4回  | 松平定信登場    | テキスト226～227頁 |
| 第5回  | 御徒頭就任     | テキスト228～229頁 |
| 第6回  | 目付就任      | テキスト230～231頁 |
| 第7回  | 小普請組のこと   | テキスト232～233頁 |
| 第8回  | 歌道のこと     | テキスト235～236頁 |
| 第9回  | 江戸城枡形のこと  | テキスト237～238頁 |
| 第10回 | 將軍家乳母のこと  | テキスト239～240頁 |
| 第11回 | 砲術稽古のこと   | テキスト241～242頁 |
| 第12回 | 屋敷構えのこと   | テキスト243～244頁 |
| 第13回 | 関東筋川々普請御用 | テキスト245～246頁 |
| 第14回 | 試験        | まとめと解説       |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み込むこと。不明な人物は『寛政重修諸家譜』で、語句は『国史大事典』『日本国語大辞典』（第2版）で調べる。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「蜚の焼藻の記」（『日本随筆大成』2期22巻、吉川弘文館、1995年所収）

### 【参考書】

『自家年譜』上中下（内閣文庫影印叢刊、1994～5年）  
『日本都市生活史料集成』2巻（学習研究社、1977年）  
『徳川幕臣人名辞典』（東京堂出版、2010年）  
小川恭一『江戸の旗本事典』（講談社、2003年）  
松本剣志郎「自家年譜（寛政3年正月～6月）解題」（『法政史学』99号、2023年）

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、平常点（30%）

### 【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

### 【Outline (in English)】

This course introduces documents of vassal of Tokugawa shogunate to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical document. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

HIS200BE (史学 / History 200)

## 日本近代史

内藤 一成

授業コード：A3117 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本近代史における重要な史料、主要な史料を題材に歴史を読み解いていく。五箇条の御誓文、明治改元の文書、第二次世界大戦下における市民の日記など多種多様な史料を取りあげて各回のテーマを設け、そこから関連する歴史を論じていく。講義を通じて、歴史が史料の上に構築された学問であるということが認識できるようにつとめる。

### 【到達目標】

①歴史学を史料に基づく学問として理解できるようにする。②個別の史料を読み解き、日本近代史を考察する。③史料の分析を通じて過去を生きた人々の営みを実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

また、講義時には、質疑応答の時間を設けるほか、学習支援システムに課題の回答を掲示するなどフィードバックに関しても適宜対応していく。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                     | 内容                                                         |
|------|-------------------------|------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション               | 講義に関する全体の説明、注意点など                                          |
| 第2回  | 明治史再考1 五箇条の御誓文          | 五箇条の御誓文が出されるまでの過程とその後の影響について考察する                           |
| 第3回  | 明治史再考2 明治改元文書           | 明治改元と一世一元制の導入について考察する                                      |
| 第4回  | 明治史再考3 坂本龍馬像の形成         | 坂本龍馬のイメージと実像について考察する                                       |
| 第5回  | 明治史再考4 富岡日記と横田英         | 富岡製糸場を場に女性の果たした役割を考察する                                     |
| 第6回  | 明治史再考5 女工哀史と職工事情        | 過酷であった近代の労働について女性の側から考察する                                  |
| 第7回  | 明治史再考6 敗者の明治維新          | 明治維新を少年時代に敗者の側で迎えた人物を中心に時代を考察する                            |
| 第8回  | 近代人物再考1 近代の皇后とその行動      | 明治天皇の美子皇后、大正天皇の節子皇后の行動を追い、近代と女性について考察する                    |
| 第9回  | 近代人物再考2 伊藤博文            | 伊藤博文と明治立憲制について考察する                                         |
| 第10回 | 近代人物再考3 山県有朋            | 山県有朋と明治立憲制について考察する                                         |
| 第11回 | 近代人物再考4 松方正義            | 松方正義関係文書に残る知られざる史料から元老について考察する                             |
| 第12回 | 近代人物再考5 三島通陽日記と大正デモクラシー | 青年華族のまなざしを通じて大正期のデモクラシーについて考察する                            |
| 第13回 | 近代人物再考6 戦時下の人々の記録       | ジャーナリスト、芸能人、兵士、一般市民の日記、遺書等を通じて第二次世界大戦下をいきた人々の言葉を通じて時代を考察する |
| 第14回 | まとめ 総括と質疑応答             | 講義全体のまとめ、質疑応答                                              |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布する資料には必ず目を通しておく。授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。平素より参考文献を読んでおくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

刊本のテキストは用いない。参照が必要な文献等がある場合には、講義の際、指示する。

### 【参考書】

『シリーズ 日本近現代史』(岩波新書) 全10冊、黒沢文貴・季武嘉也編『日記で読む近現代日本政治史』(ミネルヴァ書房)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)、期末試験(60%)をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

### 【その他の重要事項】

- ・「日本近代史学」(秋学期)との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目(「日本近代史研究」I)である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合(介護体験実習、教育実習など)には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, I will examine modern Japan while using historical materials. In particular, I will focus on the events of the Meiji period and the people of modern Japan, and will examine six themes for each. This course places particular emphasis on a correct understanding of modern Japanese history and the significance of historical materials.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand that history is a discipline that is constructed based on materials.
- B. Deeply consider modern Japanese history through historical materials.
- C. Through the analysis of historical materials, we uncover the lives of people and feel closer to history.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE (史学/History 200)

## 日本現代史

## 劉 傑

授業コード：A3118 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

## 【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を読み解く方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                  |
|------|----------------------|-------------------------------------|
| 第1回  | 「昭和」という時代 (1)        | 日本近代史の中の昭和時代について考える。                |
| 第2回  | 「昭和」という時代 (2)        | 昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。              |
| 第3回  | 「昭和」という時代 (3)        | メディアと政治について討論する。                    |
| 第4回  | 外務省と軍部 (1)           | 外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。            |
| 第5回  | 外務省とメディア (2)         | 世論の形成と外交官の世論への影響を考える。               |
| 第6回  | 昭和初期の外務省と外交官 (1)     | 外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。  |
| 第7回  | 昭和初期の外務省と外交官 (2)     | 外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。            |
| 第8回  | 山東出兵と日本外交 (1)        | 山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。 |
| 第9回  | 山東出兵と日本外交 (2)        | 田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策について討論する。      |
| 第10回 | 満州事変と日本外交 (1)        | 日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。             |
| 第11回 | 満州事変と日本外交 (2)        | 満洲事変への各方面の対応を検討する。                  |
| 第12回 | 満州事変と日本外交 (3)        | 満洲国の成立、満洲国が目指したもの、満洲国の評価について討論する。   |
| 第13回 | 日中戦争前の国交調整           | 陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。             |
| 第14回 | 試験・まとめと解説：昭和戦前期の日本外交 | 日中戦争までの日本外交について総合討論を行い、試験を実施する。     |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。  
 配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

## 【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年））  
 増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007年）  
 井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）  
 川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）  
 劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006年）  
 劉傑・川島真『1945年の歴史認識』（東京大学出版会、2009年）  
 劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013年）  
 波多野澄雄・中村元哉『日中戦争はなぜ起きたのか』（中央公論新社、2018年）  
 川島真・岩谷将『日中戦争研究の現在』（東京大学出版会、2022年）

## 【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験7割、平常点3割。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器を用意してほしい。

教材や課題の指示は、学習支援システムを利用する。見落とさないように注意し、指示にしたがって講義に臨んでください。

## 【Outline (in English)】

This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.

Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :  
 Term-end examination: 70%. Short reports and regular assessments:30%.

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本考古資料学 I

阿部 朝衛

授業コード：A3119 | 曜日・時限：水3/Wed.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。春学期では土器を中心に行います。

### 【到達目標】

土器の製作・使用にかかわる属性を理解し、先史時代人の細部の意識と行動を推定できる能力を身に付け、同時に土器の所属時期を判断できる基礎的基準を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

土器や石器などの実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や拓本、写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験も行います。これによって有用な情報を確認します。まさしく見る目を養います。遺物とは情報の集合体です。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な知識と技術を身に付けることとなります。

基本的に室内での作業です。室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを3、4時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。作業中では常時、質問を受け付けます。また、各自の進行状況・達成度に従って適宜アドバイスをします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                           |
|------|-------------|------------------------------|
| 第1回  | 導入          | 授業計画・土器研究方法・縄の振り方            |
| 第2回  | 動作研究と縄づくり   | 縄の振り方修得と縄・動作の名称              |
| 第3回  | 縄文原体作成 1    | 1・2段の縄                       |
| 第4回  | 縄文原体作成 2    | 3段の縄、振り戻し                    |
| 第5回  | 縄文原体作成 3    | 合わせ振り                        |
| 第6回  | 縄文原体作成 4    | 結束・結節の縄                      |
| 第7回  | 縄文原体作成 5    | 振り糸文、組紐                      |
| 第8回  | 土器の文様復元     | 縄文原体と圧痕の対応関係の確認、および土器片の模様の復元 |
| 第9回  | 土器の理解と表現 1  | 土器の観察と実測                     |
| 第10回 | 土器の理解と表現 2  | 土器の外形と実測                     |
| 第11回 | 土器の理解と表現 3  | 土器の模様の実測                     |
| 第12回 | 土器片の理解と表現 1 | 土器片の観察                       |
| 第13回 | 土器片の理解と表現 2 | 土器片の拓本                       |
| 第14回 | 総括          | レポート作成・提出                    |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博物館などで考古学資料の観察を行ってください。また、研究室にある発掘調査報告書の中で考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討してください。授業時間外で資料を用いた作業を行う場合、教員や史学科室員の指示にしたがって行動してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは使いませんが、必要な資料はコピーして配布します。参考文献などは随時、教室で紹介いたします。

### 【参考書】

参考文献などは随時、教室で紹介いたします。また参考とする資料はコピーして配布します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点、作業結果 (縄文原体、実測図、拓本) およびレポートで評価し、平常点は30%、作業結果・レポートは70%とします。作業結果は各授業で製作したもの、レポートはそれら製作物についての記述とします。各テーマの作業量はかなり多いので、欠席が多いとレポートを提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組みません。

### 【学生の意見等からの気づき】

具体的資料の操作には慣れていないので、小テーマの最初の授業はゆっくり行います。抽出した要素とその意味は、論文等の関連で解説します。

### 【学生が準備すべき機器他】

筆記用具等は各自が準備してください。

### 【その他の重要事項】

土器や石器は本物ですので、遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい資料ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。実測用具・トレス用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することになります。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。

授業の最初に当日の目的・方法を説明をし、その後、遺物や道具を使っての作業に入りますので、遅刻をして他者に迷惑をかけないようにしてください。

### 【Outline (in English)】

#### Course outline

The purpose of this class is to learn the observation viewpoints and methods of relics, which are the basis of archeology. In the previous term, we mainly handle earthenware.

#### Learning objectives

The purpose is to understand the attributes related to the production and use of earthenware and to acquire the ability to estimate the consciousness and behavior of prehistoric people. It also aims to acquire the basic ability to judge when the pottery belongs.

#### Learning activities outside of classroom

Observe archaeological materials at museums. Also, refer to the archaeological research report in the Archaeological Laboratory to consider how the archaeological materials contain information.

#### Grading criteria/policy

Grades are evaluated based on normal points, work results (Jomon cord, figure, rubbing) and reports. Grades are distributed at 30% for normal scores and 70% for work results and reports.

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本考古資料学Ⅱ

阿部 朝衛

授業コード：A3120 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学び、それを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。秋学期は石器を中心に行います。また、写真撮影技術・図版作成方法などの、論文における基礎的表現技術を学ぶことも目的とします。

## 【到達目標】

石器の製作、使用にかかわる属性を理解し、観察結果の表現方法(文章、図、写真)を修得します。それによって石器製作・使用にかかわる先史時代人の意識と行動を理解できる能力を身に付け、同時に石器の名称、所属時期を判断できる基礎的能力を修得します。

資料を直接観察する時間が少ない場合、石材獲得に係わる旧石器時代人・縄文時代人の行動形態にも焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験を行う予定です。これによって有用な情報を確認します。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な技術を身に付けることとなります。

室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを3、4時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。ある石器製作技術を習得するのに、手本を見せるだけと、手本を見せて同時に言葉で説明するという二つの方法で学習実験を行ったら、両者に差がなかったという結果が報告されています。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。なお、受講生が多い場合は、写真撮影等の時間は減らします。

オンライン授業が長引いた場合、石材の種類、日本列島での分布、獲得方法についても焦点をあてます。できるだけ写真資料等をオンライン授業では使います。

対面授業の作業では常時、質問を受けつけます。また、各自の進行状況・達成度にしたがって適宜アドヴァイスします。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                           |
|------|-----------|------------------------------|
| 第1回  | 導入        | 授業計画・石器研究方法                  |
| 第2回  | 石器製作実験    | 原石の打ち割り                      |
| 第3回  | 石器使用実験    | 剥片で切断作業                      |
| 第4回  | 石核・剥片接合作業 | 原石(母岩)分類と石核・剥片の接合            |
| 第5回  | 剥片剥離の順番復元 | 接合剥片の打撃の順番の理解                |
| 第6回  | 剥離工程の理解   | 原石の粗割り、打面作成・調整、目的剥片剥離などの工程把握 |
| 第7回  | 剥片石器の実測1  | 測量方法の原理                      |
| 第8回  | 剥片石器の実測2  | 図の展開と輪郭線の描き方                 |
| 第9回  | 剥片石器の実測3  | 剥離面の境界線の理解                   |
| 第10回 | 剥片石器の実測4  | リング、フィッシャーの意味と表現             |
| 第11回 | 磨製石器の実測1  | 製作工程の理解                      |
| 第12回 | 磨製石器の実測2  | 研磨痕、使用痕の抽出と表現                |
| 第13回 | 遺物写真撮影    | 簡易写場での具体的資料の撮影               |
| 第14回 | 総括        | 作業結果の点検とレポート提出               |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

博物館を訪れ、考古学資料の観察を行ってください。研究室にある発掘調査報告書等を見て、石器資料の情報化の在り方を検討してください。授業時間外で実習室・資料を使う場合、教員ないし史学科室員の指示にしたがって作業してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

今年は大学内で実物資料を観察する時間が短くなると予想されますので、博物館等の見学をおすすめします。

## 【テキスト(教科書)】

テキストは使いませんが、必要資料はコピーして配布します。

## 【参考書】

適宜、指示します。関連資料はコピーし配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点、作業結果およびレポートで評価します。配分は、平常点30%、作業結果・レポート70%です。作業結果は、実測図・トレース・写真を重視し、レポートはそれらで取り扱った石器の記述とします。欠席が多いとレポートは提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組みません。

## 【学生の意見等からの気づき】

実物の取り扱いに慣れていないので、小テーマの最初の授業の説明はゆっくりと行います。資料の観察と理解を重視しますので、受講人数によっては、写真撮影の時間は省略します。

## 【学生が準備すべき機器他】

筆記用具等は各自で準備してください。

## 【その他の重要事項】

遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい遺物ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。しかし、実験石器は剃刀のように切れますので十分な注意が必要です。実測用具・トレース用具・撮影用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することにします。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。

授業の最初に当日の目的・方法を説明し、その後、遺物・道具を使つての作業となりますので、遅刻しないようにしてください。

## 【Outline (in English)】

## Course outline

The purpose of this class is to learn the observation viewpoints and methods of relics, which are the basic materials of archeology. In the second half, stone tools will be used as teaching materials.

## Learning objectives

The purpose is to understand the attributes related to the production and use of stone tools and to learn how to express observation results. At the same time, the purpose is to acquire the ability to judge the name and age of stone tools.

## Learning activities outside of classroom

Observe archaeological materials at museums. Also, refer to the archaeological research report in the Archaeological Laboratory to consider how the archaeological materials contain information.

## Grading criteria/policy

Grades are evaluated based on normal points, work results and reports. Grades are distributed at 30% for normal scores and 70% for work results and reports.

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本古代史科学 I

春名 宏昭

授業コード：A3121 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「続日本紀の史科学」と題して講義を行います。8世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

### 【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができます。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容              |
|------|------------------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス            | 続日本紀とはどのような史料か？ |
| 第2回  | 天平二年の太政官奏<br>(1) | 天平二年六月甲寅朔条の紹介   |
| 第3回  | 天平二年の太政官奏<br>(2) | 続日本紀の3つのテキスト    |
| 第4回  | 天平二年の太政官奏<br>(3) | わずか31文字の史料の“奥行” |
| 第5回  | 慶雲元年の公廩銀 (1)     | 慶雲元年七月庚子条の紹介    |
| 第6回  | 慶雲元年の公廩銀 (2)     | 公廩銀から見えてくるもの    |
| 第7回  | 左右京尹の設置 (1)      | 天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介 |
| 第8回  | 左右京尹の設置 (2)      | 左右京尹に対する理解      |
| 第9回  | 左右京尹の設置 (3)      | 左右京尹の新たな性格分析    |
| 第10回 | 紫微内相と兵権 (1)      | 天平宝字元年五月丁卯条の紹介  |
| 第11回 | 紫微内相と兵権 (2)      | 紫微内相の性格分析       |
| 第12回 | 奈良から平安へ          | 藤原仲麻呂政権の評価      |
| 第13回 | 税司主鑑 (1)         | 大宝二年二月乙丑条の紹介    |
| 第14回 | 税司主鑑 (2)         | 大宝令施行直後の地方政治    |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを書いていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

### 【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に平凡社『続日本紀』、現代思潮社『続日本紀』があります。一般啓蒙書として、中央公論社(文庫)・小学館(文庫)・集英社・講談社(文庫)から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

### 【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。“自分で考える”がキーワードです。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉日本古代政治史

〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制

〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』(吉川弘文館)

『平城天皇』(吉川弘文館)

『皇位継承 歴史をふりかえり変化を見定める』(共著、山川出版社)

『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』(吉川弘文館)

### 【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The world of Shokunihongi”. This course introduces “shokunihongi” and the way of wrestle Japanese history to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand how to make a new approach to problems. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read one of reference books introduced to tell the difference between it and my lecture. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS300BE (史学 / History 300)

## 日本近世史科学 I

松本 剣志郎

授業コード：A3124 | 曜日・時限：月2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

## 【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピーをHoppiiにアップするので、まずは自力で読解に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容          |
|------|---------------|-------------|
| 第1回  | ガイダンス         | くずし字の辞典について |
| 第2回  | 古文書読解入門       | 近世史科学講義     |
| 第3回  | 検地帳読解（1）      | 数字を覚えよう     |
| 第4回  | 検地帳読解（2）      | 単位を覚えよう     |
| 第5回  | 武家屋敷組合名簿読解（1） | 名前を覚えよう     |
| 第6回  | 武家屋敷組合名簿読解（2） | 通称を覚えよう     |
| 第7回  | 領知宛行状読解       | 大名家領の安堵     |
| 第8回  | 年貢割付状読解       | 年貢請求書       |
| 第9回  | 年貢皆済目録読解      | 年貢領取書       |
| 第10回 | 宗門人別改帳読解      | 江戸時代の家族     |
| 第11回 | 五人組帳前書読解      | 百姓への規制      |
| 第12回 | 変体仮名読解        | 俳句をよむ       |
| 第13回 | 金子借用証文読解      | 年貢滞納        |
| 第14回 | 試験とまとめ        | 解説とも        |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

『新編古文書読解辞典』（柏書房）  
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など  
辞書は必須。毎回持参のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

## 【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大切です。

## 【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に関する実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.



HIS300BE (史学 / History 300)

## 日本近世史科学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

### 【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史科学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppiiに古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で解読に取り組む。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容         |
|------|-----------|------------|
| 第1回  | 発句読解      | 変体仮名       |
| 第2回  | 離縁状読解     | 三行半        |
| 第3回  | 触書読解（1）   | ペリー来航      |
| 第4回  | 触書読解（2）   | 株仲間再興      |
| 第5回  | 武家文書読解（1） | 御堀の管理      |
| 第6回  | 武家文書読解（2） | 橋梁の管理      |
| 第7回  | 武家文書読解（3） | 三方領地替（前半）  |
| 第8回  | 武家文書読解（4） | 三方領地替（後半）  |
| 第9回  | 漢詩読解      | 七言絶句       |
| 第10回 | 書状読解（1）   | 松平容保書簡（前半） |
| 第11回 | 書状読解（2）   | 松平容保書簡（後半） |
| 第12回 | 日記読解（1）   | 自家年譜（前半）   |
| 第13回 | 日記読解（2）   | 自家年譜（後半）   |
| 第14回 | 試験とまとめ    | 解説         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

なし。

### 【参考書】

『新編古文書解読字典』（柏書房）  
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）  
辞書は必須。毎回持参のこと。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

### 【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

### 【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本近代史料学

内藤 一成

授業コード：A3126 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史研究では、数多くの、かつさまざまな史（資）料を駆使して議論を組み立てることが珍しくない。本授業では各種の史（資）料を取り上げ、それぞれの特色や限界を明らかにしていく。さらに自ら史料発掘やオーラルヒストリーに取り組むときの手順についても学ぶことで、実践的なスキルを磨く。これらの内容を通じて、日本の歴史史（資）料の特色の一端を窺うことができるようになる。

## 【到達目標】

①一次・二次史料の違いとそれぞれの特色を理解する。②公文書・私文書の違いとそれぞれの特色を理解する。③文字・非文字資料の違いと、それぞれの特色を理解する。①～③を総合し、近代史（資）料について基礎的な理解をはかる。また独自に史（資）料調査を行う際に必要となる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式をとる。板書とパワーポイントを併用する。授業で使用する史（資）料は、学習支援システムを利用して配布する。史（資）料は授業時に音読したり、内容の検証を行う。状況が許せば学外で行う講義もある。また講義時には、質疑応答の時間を設けるほか、学習支援システムに課題の回答を掲示するなどフィードバックに関しても適宜対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                    |
|------|--------------|---------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション    | 講義に関する全体の説明、注意点など                     |
| 第2回  | 書簡研究（1）      | 近代の書簡の形態・書式等について                      |
| 第3回  | 書簡研究（2）      | 近代の書簡の内容について（政治家の書簡を読む）               |
| 第4回  | 書簡研究（3）      | 近代の書簡の内容について（文化人の書簡を読む）               |
| 第5回  | 日記研究（1）      | 近代の日記の形態・書式等について                      |
| 第6回  | 日記研究（2）      | 近代の日記の内容について（政治家の日記を読む）               |
| 第7回  | 日記研究（3）      | 近代の日記の内容について（文化人の日記を読む）               |
| 第8回  | 公文書研究        | さまざまな公文書の特色について                       |
| 第9回  | 新聞、雑誌、書籍の世界  | 新聞、雑誌や各種書籍といった活字資料の特色と歴史研究での活用法について学ぶ |
| 第10回 | 史料調査の世界      | 史料調査の手順や注意点について学ぶ                     |
| 第11回 | オーラルヒストリーの世界 | オーラルヒストリーとは何か、調査の手順、注意点について学ぶ         |
| 第12回 | 金石文の世界       | 金石文の特色について、フィールドワークとともに学ぶ             |
| 第13回 | 編纂史料の世界      | 翻刻された史料や伝記などの編纂物の特色について               |
| 第14回 | まとめ          | 総括と質疑応答 講義全体のまとめ、質疑応答                 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史（資）料には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストに使用する史（資）料は、学習支援システムにより事前に配布する。

## 【参考書】

五味文彦・杉森哲也編『日本史料論』（放送大学教育振興会）、中村隆英・伊藤隆編『近代日本研究入門【増補版】』（東京大学出版会）、佐々木隆『近代文書と政治史研究』（『日本の時代史30 歴史と素材』吉川弘文館）、御厨貴編著『近現代日本を史料で読む』（中公新書）、『日記に読む近代日本』全5巻（吉川弘文館）、御厨貴編『オーラル・ヒストリーに何が出来るか』（岩波書店）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

## 【その他の重要事項】

・「日本近代史」（春学期）との継続履修を推奨する。  
・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅱ）である。  
・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。  
・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。  
・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, I will explain the characteristics and limitations of each of the various modern Japanese historical materials while analyzing them in detail. I will also teach you the steps to discover historical sources and conduct oral history research yourself. Through the lessons, you will gain basic knowledge and understanding of historical materials.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本現代史料学

### 劉 傑

授業コード：A3127 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。

昭和12年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係を何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

また、戦後の日本外交は対米関係を軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

#### 【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解説し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                          |
|------|-----------------------|-----------------------------|
| 第1回  | 昭和史研究と史料              | 昭和期史料の特徴を概観する。              |
| 第2回  | 史料で学ぶ日中戦争と外交(1)       | 史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。     |
| 第3回  | 史料で学ぶ日中戦争と外交(2)       | 「近衛声明」の意味とその影響について討論する。     |
| 第4回  | 史料で学ぶ外交官と戦争(1)        | 外交官の日記を読み、その史料価値を考える。       |
| 第5回  | 史料で学ぶ外交官と戦争(2)        | 外交官の報告を読み、その影響について分析する。     |
| 第6回  | 史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(1)     | 開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。       |
| 第7回  | 史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(2)     | 対中外交を軍人の報告書で読む。             |
| 第8回  | 史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(3)     | 占領地政権問題を日記で考える。             |
| 第9回  | 史料で学ぶ終戦外交(1)          | 陸軍の終戦構想を記録で検証する。            |
| 第10回 | 史料で学ぶ終戦外交(2)          | 外交記録で終戦を読む。                 |
| 第11回 | 史料で学ぶ冷戦下の日本外交(1)      | メディアのあり方と冷戦について討論する。        |
| 第12回 | 史料で学ぶ冷戦下の日本外交(2)      | 中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。 |
| 第13回 | 史料で学ぶ日中国交回復とアジア外交の新展開 | 日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。 |
| 第14回 | 試験・まとめと解説：近代日本のアジア外交  | 日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。  |

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。  
配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

講義にあたって、関連史料を配布する。

#### 【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』(ミネルヴァ書房(2016年))

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』(有信堂、2007年)

井上寿一『日本外交史講義』(岩波書店、2003年)

川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』(名古屋大学出版会、2007年)

劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』(東京大学出版会、2006年)

劉傑・川島真『1945年の歴史認識』(東京大学出版会、2009年)

劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』(東京大学出版会、2013年)

波多野澄雄・中村元哉『日中戦争はなぜ起きたのか』(中央公論新社、2018年)

川島真・岩谷将『日中戦争研究の現在』(東京大学出版会、2022年)

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回授業時間内に討論か、小レポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし(50%)、試験(50%)とともに成績評価を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器を用意してほしい。

教材や課題の指示は、学習支援システムを利用する。見落とさないように注意し、指示にしたがって講義に臨んでください。

#### 【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn how to research and read historical materials of the modern history of Japan. Also, think about Japanese diplomacy in historical materials.

Specifically, we will learn how to find and analyze documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.

In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :  
Term-end examination: 50%, Short reports :30%, in class contribution: 20%.

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本考古学演習

小倉 淳一

授業コード：A3128 | 曜日・時限：月4/Mon.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

## 【到達目標】

2年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。

3年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、レポートの研究発表も実施する。

毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおくことが必要である。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。

レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                             |
|------|----------------|--------------------------------|
| 第1回  | 概要説明           | 授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ            |
| 第2回  | 論文講読発表 (1)     | 文献解題と討論 (1)                    |
| 第3回  | 論文講読発表 (2)     | 文献解題と討論 (2)                    |
| 第4回  | 論文講読発表 (3)     | 文献解題と討論 (3)                    |
| 第5回  | 論文講読発表 (4)     | 文献解題と討論 (4)                    |
| 第6回  | 論文講読発表 (5)     | 文献解題と討論 (5)                    |
| 第7回  | 研究発表 (1)       | 卒業論文に関連する研究発表 (1)              |
| 第8回  | 研究発表 (2)       | 卒業論文に関連する研究発表 (2)              |
| 第9回  | 研究発表 (3)       | 卒業論文に関連する研究発表 (3)              |
| 第10回 | 論文講読発表 (6)     | 文献解題と討論 (6)                    |
| 第11回 | 論文講読発表 (7)     | 文献解題と討論 (7)                    |
| 第12回 | 論文講読発表 (8)     | 文献解題と討論 (8)                    |
| 第13回 | 論文講読発表 (9)     | 文献解題と討論 (9)                    |
| 第14回 | 春学期のまとめ        | 春学期講評・レポート課題提示                 |
| 第15回 | 概要説明・レポート提出    | 授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの提出 |
| 第16回 | 論文講読発表 (10)    | 文献解題と討論 (10)                   |
| 第17回 | 論文講読発表 (11)    | 文献解題と討論 (11)                   |
| 第18回 | 論文講読発表 (12)    | 文献解題と討論 (12)                   |
| 第19回 | 論文講読発表 (13)    | 文献解題と討論 (13)                   |
| 第20回 | 論文講読発表 (14)    | 文献解題と討論 (14)                   |
| 第21回 | 研究発表 (4)       | 卒業論文に関連する研究発表 (4)              |
| 第22回 | 研究発表 (5)       | 卒業論文に関連する研究発表 (5)              |
| 第23回 | 研究発表 (6)       | 卒業論文に関連する研究発表 (6)              |
| 第24回 | 論文講読発表 (15)    | 文献解題と討論 (15)                   |
| 第25回 | 論文講読発表 (16)    | 文献解題と討論 (16)                   |
| 第26回 | 論文講読発表 (17)    | 文献解題と討論 (17)                   |
| 第27回 | 論文講読発表 (18)    | 文献解題と討論 (18)                   |
| 第28回 | 秋学期のまとめ・レポート提出 | 秋学期の講評と課題レポート提出                |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

## 【参考書】

佐々木憲一ほか (2011) 『はじめて学ぶ考古学』 有斐閣アルマ、勅使河原彰 (1995) 『日本考古学の歩み』 名著出版、岩波書店刊 『岩波講座日本考古学』 (全9巻)、コリン・レンフルー、ポール・バーン/池田裕ほか訳 (2007) 『考古学 理論・方法・実践』 東洋書林

## 【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は30%）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて70%）、総合的に成績を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

2年生から4年生までのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

## 【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology.

The new students will be able to read and understand archaeological papers, explain their findings to others, and participate in discussions. They will also be able to understand the scope of archaeology and its research methods.

Advanced students will be able to explain technical papers on archaeology, examine them based on their own points of view and awareness of the issues, and lead discussions. In addition, students will be able to acquire themes and practical methods for writing graduation theses, and to give presentations on their research concepts.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each.

The final grade will be calculated based on the mid-term report and final report (30%), and the presentation and questions (70%).

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本古代史演習

小口 雅史

授業コード：A3129 | 曜日・時限：木2/Thu.2

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本古代国家の骨格が形成された8世紀の律令時代について、国家によって編纂された正史である『続日本紀』と、世界史の奇跡といわれる「正倉院文書」という二大史料群をもとに、それら文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。『続日本紀』については北方史関係史料を、「正倉院文書」については土地経営関係史料を主たるテーマにして実施します。

### 【到達目標】

二つの史料群を素材に、文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていますから、それをいかに取り除いて実態に迫れるかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは史料上に書かないという特徴があります。その時代の人間になりきって、いかにその古文書を読み解いて、当時の社会を再構成できるかが勝負です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に1回ごとに参加者1人が報告し、それをもとに参加者全員で議論を行います。個別の担当史料を律令法典や同時代の文学作品をも参考にしながら、その正確な読みから日本古代社会の実態を復原する方法を取得できるよう工夫してもらいます。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていることもありえるのでそれをいかに取り除くかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは書かないという特徴がありますから、いかにその時代の人間になりきって古文書を読めるようになるかが重要な論点となるはずですが。

発表へのフィードバックについては、次の授業の初めに、前回の授業で提出資料からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                              |
|------|----------------|-------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス          | ゼミの運営方針、担当配分など                                  |
| 第2回  | 『続日本紀』 解題      | 『続日本紀』の特徴について                                   |
| 第3回  | 史料376を読解する(1)  | 伊治君磐麻呂の乱について、その原因をさぐる                           |
| 第4回  | 史料376を読解する(2)  | 伊治君磐麻呂の乱の展開について                                 |
| 第5回  | 史料376を読解する(3)  | 伊治君磐麻呂の乱について、その結果を考察する                          |
| 第6回  | 史料377を読解する     | 征東大使と正当副使について                                   |
| 第7回  | 史料378を読解する     | 鎮守府将軍と鎮狄将軍について                                  |
| 第8回  | 史料379、380を読解する | 鎮狄将軍と鑑の実装                                       |
| 第9回  | 史料381を読解する     | 征東使と陸奥国府について                                    |
| 第10回 | 史料382を読解する     | 渡嶋蝦夷の饗応について                                     |
| 第11回 | 史料383を読解する     | 坂東諸国の穡のびちくについて                                  |
| 第12回 | 史料384を読解する     | 鎮狄将軍への従軍者について                                   |
| 第13回 | 史料385を読解する     | 百濟王氏と北方史の関わりについて                                |
| 第14回 | まとめ            | 古代北方史の特徴について                                    |
| 第15回 | 演習内容を理解する      | 正倉院文書の性格、担当割当確認                                 |
| 第16回 | 正倉院解題          | 正倉院文書と東南院文書の特徴                                  |
| 第17回 | 史料集成1を読む(1)    | 桑原荘の成立                                          |
| 第18回 | 史料集成1を読む(2)    | 桑原荘の景観                                          |
| 第19回 | 史料集成2・3を読む(1)  | 桑原荘の経営(1)                                       |
| 第20回 | 史料集成2・3を読む(2)  | 桑原荘の経営(2)                                       |
| 第21回 | 史料集成5を読む       | 桑原荘経営の困難について                                    |
| 第22回 | 史料集成7を読む       | 桑原荘田使の引責解任について                                  |
| 第23回 | 史料集成8を読む       | 桑原荘の溝の改修について                                    |
| 第24回 | 史料集成9・10を読む    | 造東大寺司と桑原荘(1)                                    |
| 第25回 | 史料集成11・13を読む   | 造東大寺司と桑原荘(2)                                    |
| 第26回 | 史料集成6・12を読む    | 鯖田国富荘の経営実態について                                  |
| 第27回 | 史料集成28を読む      | 高申荘立荘時の作為と条里制                                   |
| 第28回 | 天平の社会改革の総括     | 古文書を通じてわかったこと、すなわち天平時代とはどのような時代であったのか、その特徴をまとめる |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストはかなり難解なので、発表者は言うまでもないが、他の参加者も事前に必ず担当テキストを熟読しておくこと。司会担当者、コメンテーターは、進行の仕方を事前に検討し、また発表内容についての疑問点をあらかじめリストアップしておくこと。本授業の準備・復習時間は標準的には各2時間を必要とします。

### 【テキスト (教科書)】

『青森県史』資料編古代I・『青森県史資料編古代I補遺』(いずれもコピーで可) 『デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編 (大学テキスト版)』(同成社)

### 【参考書】

『続日本紀』新訂増補国史大系(吉川弘文館)・新日本古典文学大系『続日本紀』(岩波書店) / 『令義解』新訂増補国史大系(吉川弘文館) / 『律令』日本思想大系・新装版(岩波書店)

### 【成績評価の方法と基準】

平常のゼミ内での活動から判断する。発表内容では古典籍・古文書写真からの文字の解読・判定についての、パソコンを用いた正確な翻刻実習の成果も判定の対象とする。担当の史料を正確に読めるかどうかをもっとも重要なポイントとなる。それに加えて夏休みにはプレ卒論として、レポート作成に取り組んでもらう。ゼミでの発表内容が75%、ゼミ内での質疑応答が25%の割合で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

日本古文書学の知識が予想以上に欠けているので、その点について配慮する

### 【学生が準備すべき機器他】

事前に授業支援システムにアップされたレジュメを画面に投影しながらゼミをすすめます。パソコンで古代史料を適切に組み上げる能力を鍛えてください。

### 【その他の重要事項】

このゼミは卒論を執筆するための準備の場です。全ての作業が卒論に直結しています。夏休みにはミニ卒論も書いてもらいます。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エブ・アイヌ』(編著)、岩田書院

2008年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

### 【Outline (in English)】

Course outline : On the 8th century of Japan, based on the two major historical materials named "Shoku-nihongi" and "Shosoin documents", we will study.

Learning Objectives : For the "Shoku-Nihongi", we extract and analyze Northern History in ancient Japan. Regarding "Shosoin documents", we will carry out with the main theme of land management. We will aim to become readable.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting . Your study time will be more than five hours for a class.

Grading Criteria/Policies : Grading will be decided based on lab reports ( 75 %) and the quality of the students' experimental performance in the lab ( 25 % ).

HIS300BE (史学 / History 300)

## 日本中世史演習

大塚 紀弘

授業コード：A3130 | 曜日・時限：木4/Thu.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』の講読を中心とし、担当者の読解・考察についての報告を基に全員で議論する。秋学期は、日本中世史に関する自由発表を中心とし、担当者の研究または論文批評の報告を基に全員で議論する。中世史料の日本漢文を読解する基礎的な力を養成し、中世の国家・社会・文化等について批判的に研究する方法を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

日本漢文で書かれた中世の史料を正しく訓読した上で、語句を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。関連史料や先行研究を収集・読解して内容を整理し、自分なりの論点を提示することができる。鎌倉幕府や朝廷、鎌倉や京都の都市社会を中心に、日本中世史に関する事柄について、自身の見解を提示あるいは発言することができる。所定の条件を満たしたレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。担当者が発表レジュメに基づいて発表した後、発表内容に基づいて、司会者の進行のもと、全員で議論する。また、日本中世史に関係する史料や博物館を見学する機会を設ける。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」または「メール」を通じて行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容              |
|------|--------------|-----------------|
| 第1回  | 『吾妻鏡』とは (1)  | 履修のガイダンス        |
| 第2回  | 『吾妻鏡』とは (2)  | 史料の性格と調べ方の解説    |
| 第3回  | 『吾妻鏡』講読 (1)  | 読解・考察の報告と議論     |
| 第4回  | 『吾妻鏡』講読 (2)  | 読解・考察の報告と議論     |
| 第5回  | 『吾妻鏡』講読 (3)  | 読解・考察の報告と議論     |
| 第6回  | 『吾妻鏡』講読 (4)  | 読解・考察の報告と議論     |
| 第7回  | 『吾妻鏡』講読 (5)  | 読解・考察の報告と議論     |
| 第8回  | 『吾妻鏡』講読 (6)  | 読解・考察の報告と議論     |
| 第9回  | 『吾妻鏡』講読 (7)  | 読解・考察の報告と議論     |
| 第10回 | 『吾妻鏡』講読 (8)  | 読解・考察の報告と議論     |
| 第11回 | 『吾妻鏡』講読 (9)  | 読解・考察の報告と議論     |
| 第12回 | 『吾妻鏡』講読 (10) | 読解・考察の報告と議論     |
| 第13回 | 『吾妻鏡』講読 (11) | 読解・考察の報告と議論     |
| 第14回 | 鎌倉幕府と都市鎌倉    | 講読・議論内容の総括      |
| 第15回 | 自由発表 (1)     | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第16回 | 自由発表 (2)     | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第17回 | 自由発表 (3)     | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第18回 | 自由発表 (4)     | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第19回 | 自由発表 (5)     | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第20回 | 自由発表 (6)     | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第21回 | 自由発表 (7)     | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第22回 | 自由発表 (8)     | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第23回 | 自由発表 (9)     | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第24回 | 自由発表 (10)    | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第25回 | 自由発表 (11)    | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第26回 | 自由発表 (12)    | 研究または論文批評の報告と議論 |
| 第27回 | 自由発表 (13)    | 研究または論文批評の報告と議論 |

第28回 日本中世史研究の課 報告・議論内容の総括  
題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『吾妻鏡』講読では、全員が事前に講読する部分の訓読文を作成する。担当者は担当部分を読解し、関係する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。自由発表では、全員が事前に発表に関係する論文を読み、批評文を作成する。担当者は、発表1週間前までに論文をコピーおよびスキャン（またはダウンロード）し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。また、関連する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。発表後、レジュメを修正し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。春学期末、秋学期末の2度、所定の課題についてのレポートを執筆し、期限内に「学習支援システム」の「課題」から提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『吾妻鏡』講読では、「学習支援システム」の「教材」から、講読する部分のコピー（PDFファイル）を配布する。自由発表では、担当者が「学習支援システム」の「掲示板」を通じて、対象論文（原則としてPDFファイル）を配布する。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点56%（宿題提出28%、発言28%）、発表点22%（春学期11%、秋学期11%）、学期末レポート点22%（春学期11%、秋学期11%）の合計で評価する。春学期・秋学期それぞれ5回以上、正当な理由なく欠席した場合は、D評価とする。担当の発表、レポートを正当な理由なく1度でも怠った場合は、D評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】

議論が活発になるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「掲示板」に発表レジュメ、対象論文等を掲示したり、ダウンロードしたりすること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students read the medieval Chinese texts. The goals of this course are to train the ability to understand the contents deeply. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 22%, in class contribution: 78%.

HIS300BE (史学 / History 300)

## 日本近世史演習

松本 剣志郎

授業コード：A3131 | 曜日・時限：火2/Tue.2

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒論執筆に向けて、史料の読解力を高め、先行する研究を批判的に理解し、自ら課題を見つけ出し、実証的手法を用いて自身の見解を発表し、適切な文章を用いて表現する能力を身につけることを目的とする。春学期は、史料講読、論文講読を積み重ねることで基礎学力を身につけ、秋学期は個人の研究発表をおこなう。学生個々の研究テーマは様々であるから、お互いの発表内容の理解に努めることは、多様な近世史理解に結びつく。学生諸君による活発な議論を期待する。夏季休暇中には地域の文化遺産の探訪および博物館の見学や史料調査等をおこなう合宿を、春休みには受講生全員の卒論報告会を実施する合宿を予定している。

### 【到達目標】

- ①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
- ②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
- ③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
- ④史料の解釈について討議できる。
- ⑤研究論文を正確に読解し、著者の意図を理解できる。
- ⑥研究論文を批判的に読むことができる。
- ⑦先行研究と史料から自らの課題を立ち上げ、これを論理的に解決できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生の報告および討議が中心である。春学期は、史料講読、論文講読が中心となる。秋学期は、それぞれのテーマで研究報告をおこなう。発表の際に教師は課題に対してフィードバックする。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                        |
|------|---------------|---------------------------|
| 第1回  | ガイダンス         | ゼミの説明、夏合宿の説明              |
| 第2回  | 近世史研究入門       | 研究テーマの見つけ方、レジュメの切り方       |
| 第3回  | 図書館データベースの使い方 | 論文・専門書の探し方                |
| 第4回  | ゼミ合宿に向けて (1)  | 調査研究先の決定と今後の準備に向けて        |
| 第5回  | 論文講読 (1)      | 政治史研究 (テーマは過去のもの、以下同)     |
| 第6回  | 史料講読 (1)      | 江戸町触集成1号 (史料番号は過去のもの、以下同) |
| 第7回  | 論文講読 (2)      | 対外関係史                     |
| 第8回  | 史料講読 (2)      | 江戸町触集成2号                  |
| 第9回  | 論文講読 (3)      | 社会史研究                     |
| 第10回 | 史料講読 (3)      | 江戸町触集成3号                  |
| 第11回 | 論文講読 (4)      | 村落史研究                     |
| 第12回 | 史料講読 (4)      | 江戸町触集成4号                  |
| 第13回 | ゼミ合宿に向けて (2)  | 各班調査研究先の下調べ               |
| 第14回 | ゼミ合宿に向けて (3)  | 各班調査課題発表                  |
| 第15回 | 3年生研究発表 (1)   | 研究テーマの適切性                 |
| 第16回 | 3年生研究発表 (2)   | 先行研究の取扱い                  |
| 第17回 | 3年生研究発表 (3)   | 史料批判の方法                   |
| 第18回 | 3年生研究発表 (4)   | 史料引用の仕方                   |
| 第19回 | 3年生研究発表 (5)   | 論理展開の方法                   |
| 第20回 | 3年生研究発表 (6)   | 研究テーマの位置づけ                |
| 第21回 | 3年生研究発表 (7)   | 研究テーマのひろがり                |
| 第22回 | 2年生研究発表 (1)   | 研究テーマの適切性                 |
| 第23回 | 2年生研究発表 (2)   | 先行研究の取扱い                  |
| 第24回 | 2年生研究発表 (3)   | 史料批判の方法                   |
| 第25回 | 2年生研究発表 (4)   | 史料引用の仕方                   |
| 第26回 | 2年生研究発表 (5)   | 論理展開の方法                   |
| 第27回 | 2年生研究発表 (6)   | 研究テーマの位置づけ                |
| 第28回 | 2年生研究発表 (7)   | 研究テーマのひろがり                |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。論文講読においては、報告担当者以外も論文を読み込み、疑問点をリストアップすること。授業後には、史料の意味確認や授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

使用しない。

### 【参考書】

『日本国語大辞典』(第2版、小学館)、『国史大辞典』(吉川弘文館)、大石学編『江戸幕府大事典』(吉川弘文館)ほか

### 【成績評価の方法と基準】

1 報告 (40%)。担当者は、レジュメを作成し、出席者に配布する。2 レポート (40%)。3 質疑応答 (20%)。グループ割りをするので、第1回および第2回の授業への欠席は原則認められない。

### 【学生の意見等からの気づき】

卒論を書ける力を養成していきます。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the early modern history of Japan. It also enhances the development of student's skill in making oral presentation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following presentation:40%, report:40%, and in class contribution:20%.

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本現代史演習

柏木 一郎

授業コード：A3134 | 曜日・時限：水4/Wed.4  
 年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代史に関する史料と論文を読解し、日本近現代史の理解を深め、歴史の研究方法を学ぶ。

## 【到達目標】

- \* 史料の読解力と先行研究をまとめ整理する力を身につける。
- \* 図書館、博物館、文書館等が所蔵する史料・文献をリサーチする方法を身につける。
- \* レジュメ、レポート、論文を作成するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は演習方式でおこなう。

【春学期】受講生はグループに分かれ『太平洋戦争への道 資料編』所収の史料を講読し内容を報告する。

【秋学期】受講生自らテーマを設定し研究、発表をおこなう。

受講生の報告に対する講評、改善方法などの指摘、助言をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                  | 内容                                |
|------|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス【春学期】                           | 自己紹介、年間スケジュール、役割分担の確認 班分け 報告の順番決定 |
| 第2回  | 授業の概要<br>卒業論文執筆構想報告<br>(4年生)         | 授業の進め方、テキストの説明                    |
| 第3回  | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第1回                  | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第4回  | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第2回                  | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第5回  | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第3回                  | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第6回  | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第4回                  | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第7回  | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第5回                  | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第8回  | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第6回                  | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第9回  | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第7回                  | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第10回 | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第8回                  | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第11回 | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第9回                  | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第12回 | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第10回                 | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第13回 | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第11回                 | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第14回 | 『太平洋戦争への道 資料編』講読第12回                 | テキスト講読、内容発表、質疑応答                  |
| 第15回 | ガイダンス【秋学期】                           | 秋学期スケジュール確認、報告順番決定                |
| 第16回 | 卒業論文執筆状況報告<br>(4年生) 卒業論文執筆構想発表 (3年生) | 卒業論文執筆の作法、文献、史料の探し方について           |
| 第17回 | 個別報告 第1回                             | 報告と質疑・討論                          |
| 第18回 | 個別報告 第2回                             | 報告と質疑・討論                          |
| 第19回 | 個別報告 第3回                             | 報告と質疑・討論                          |
| 第20回 | 個別報告 第4回                             | 報告と質疑・討論                          |
| 第21回 | 個別報告 第5回                             | 報告と質疑・討論                          |
| 第22回 | 個別報告 第6回                             | 報告と質疑・討論                          |
| 第23回 | 個別報告 第7回                             | 報告と質疑・討論                          |
| 第24回 | 個別報告 第8回                             | 報告と質疑・討論                          |
| 第25回 | 個別報告 第9回                             | 報告と質疑・討論                          |
| 第26回 | 個別報告 第10回                            | 報告と質疑・討論                          |
| 第27回 | 個別報告 第11回                            | 報告と質疑・討論                          |
| 第28回 | 個別報告 第12回                            | 報告と質疑・討論                          |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

\* 受講生は、質疑・討論に参加する準備を整え授業にのぞむこと。

\* 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

『太平洋戦争への道 資料編』日本国際政治学会 朝日新聞社 1987年

\* 法政大学図書館所蔵

## 【参考書】

小風秀雅編 『大学の日本史4 近代』山川出版社、2016年

古川隆久 『昭和史』筑摩書房、2016年

筒井清忠編 『昭和史講義2』筑摩書房、2016年

筒井清忠編 『昭和史講義』筑摩書房、2015年

伊藤隆他編 『近代日本研究入門（増補版）』東京大学出版会、2012年

波多野澄雄他編 『日中戦争の国際共同研究』慶應義塾大学出版会、2006年

烏海靖他編 『日本近現代史研究事典』東京堂出版、1999年

日本国際政治学会『太平洋戦争への道』全7巻・別巻 朝日新聞社、1987年  
 その他、授業内で適宜、紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

授業態度（意欲・授業にのぞむ姿勢・積極性）30%

担当した報告の内容30%

平常点（予習復習、質疑応答、討論への参加）40%

## 【学生の意見等からの気づき】

卒業論文の指導は、個別指導の他、ゼミの時間内に団体指導として適宜おこないます。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンなどの情報機器

## 【その他の重要事項】

必要に応じて学習支援システムを適宜利用する。

## 【Outline (in English)】

We will read papers on modern Japanese history, deepen understanding of it and learn how to study history.

Acquire the ability to read historical materials and group and organize previous research.

Acquire the ability to research historical materials and literature in libraries and museums.

Acquire the skills to create resumes, reports and papers.

Students should prepare to participate in the class, such as reading the elective thesis carefully and organizing the issues.

Basically, the time for class preparation and review is 2 hours each.

Class attitude "Motivation, attitude for class, Aggression" 30%

Contents of the report which you are charged in 30%

Normal points "preparation and review for class, Q and A, participation in discussions." 40%



HIS200BE (史学/History 200)

## 東洋古代史

飯尾 秀幸

授業コード：A3135 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

### 【到達目標】

家族とは、いかなるものかを19世紀～20世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。

また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。

史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式

文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。

現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。

なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                          | 内容                                                  |
|------|------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回  | 歴史学における空間（地域）を考える。           | n地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。                           |
| 第2回  | 歴史学における時間（時代区分論）を考える。        | 時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。                |
| 第3回  | 核家族のイメージの再考                  | モソ族（中国南部）、モン族（ヴェトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。        |
| 第4回  | 婚姻単位としての家族を考える。              | 文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。                          |
| 第5回  | 経済単位としての家族を考える               | 社会経済史の議論から家族論を考える                                   |
| 第6回  | 歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。 | 婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一することを家族の成立と定義する意味を考える。 |
| 第7回  | 国家と社会・家族の理論的展開を概観する。         | 社会と家族が国家支配と如何なる関係にあるのかを検討する。                        |
| 第8回  | 中国考古学の成果、検討する。               | 中国文明の地域的多様性を考える。                                    |
| 第9回  | 姜寨遺跡の紹介                      | 発掘された紀元前4500年ころの一つの集落の構造を考える。                       |
| 第10回 | ボロロ族の集落構造                    | レヴィ・ストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。         |
| 第11回 | 姜寨遺跡からみた集落構造の意味              | ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。                            |
| 第12回 | 半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介         | 仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。                        |
| 第13回 | 竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史     | 新石器時代後半の集落と家屋の状況を考える。                               |
| 第14回 | 春学期のまとめ・解説                   | 歴史学、文化人類学での家族の扱い方をまとめる。                             |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとした概説書を読むことを予習として、知識を得てください。また授業中で歴史学、文化人類学などの研究書を紹介いたしますので、参照してください。とくに興味を引くテーマには積極的に検索して書物のありかを確認して調べていただきたい。

予習・復習は、講義1回につき4時間を標準とします。

また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

### 【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

### 【成績評価の方法と基準】

学習学習支援システムの課題欄に提出された各回の授業内容についての200字程度のレポート、および学期末に提出を課すレポート（600字程度）で評価する。前者を40％・後者をそれぞれ60％とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することに心がけます。

### 【その他の重要事項】

質問は、授業中に原則として受けます。また学習支援システムの「お知らせ」欄にEメールアドレスを提示しますので、いつでもメールで質問してください。

### 【Outline (in English)】

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end report (60%), and in-class contribution.

HIS200BE (史学/History 200)

**東洋中世史**

宇都宮 美生

授業コード：A3136 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

**【到達目標】**

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は講義形式で行う。

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方を学習する。また、与えられた資料を使って、分析する方法を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ    | 内容        |
|------|--------|-----------|
| 第1回  | 水問題    | 水問題と学習の意義 |
| 第2回  | 河川史1   | 黄河        |
| 第3回  | 河川史2   | 長江        |
| 第4回  | 河川史3   | 渭水        |
| 第5回  | 河川史4   | 洛水        |
| 第6回  | 運河史1   | 運河の構造     |
| 第7回  | 運河史2   | 運河の発展     |
| 第8回  | 穀倉     | 穀物の運搬と保管  |
| 第9回  | 船舶史    | 船舶の種類と発展  |
| 第10回 | 水軍史    | 水上の軍事行動   |
| 第11回 | 農業史    | 灌漑と水車     |
| 第12回 | 庭園     | 庭園の種類と発展  |
| 第13回 | 水害     | 災害と防災     |
| 第14回 | 試験とまとめ | 試験とまとめ    |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内で資料、論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

**【参考書】**

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版  
富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016年改訂版  
『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005年  
その他、随時紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(30%)と筆記試験(70%)

**【学生の意見等からの気づき】**

この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいので、写真撮影を禁じる。

**【学生が準備すべき機器他】**

色鉛筆（あれば青色）：作業をしてもらう。

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline (in English)】**

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policies:** Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS300BE (史学/History 300)

## 東洋史外書講読 I

宇都宮 美生

授業コード：A3139 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

晋の陸翽の撰による『鄴中記』を講読することにより、中国古代史についての知識を身に付けるだけでなく、東洋史の卒論作成にあたって必要とされる漢文史料の読解能力を養い、関連資料の探し方や使い方を学ぶ。

### 【到達目標】

『鄴中記』は後趙の石虎の時代の鄴の宮殿や風俗等を記した歴史書であり、比較的平易な文法構造である。したがって、授業では句読点のない原文を用い、訓点、送り仮名、訓読という日本独自の漢文の読み方に習熟し、原文講読に対する基礎的な能力の向上を目指す。また、講読に必要とされる工具書に関する知識や使い方を学び、使えるようにするだけでなく、考古資料、関連論文等の資料を自分で探し、それを併用して広範囲な意味の解釈をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で行う。毎回担当者に訓読と現代語訳という形で報告をしてもらい、全員でその部分について議論するという形で進めていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                         |
|------|------------|----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス      | テキストの紹介、授業の進め方の説明、工具書の使い方。 |
| 第2回  | 『鄴中記』講読 1  | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第3回  | 『鄴中記』講読 2  | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第4回  | 『鄴中記』講読 3  | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第5回  | 『鄴中記』講読 4  | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第6回  | 『鄴中記』講読 5  | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第7回  | 『鄴中記』講読 6  | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第8回  | 『鄴中記』講読 7  | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第9回  | 『鄴中記』講読 8  | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第10回 | 『鄴中記』講読 9  | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第11回 | 『鄴中記』講読 10 | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第12回 | 『鄴中記』講読 11 | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第13回 | 『鄴中記』講読 12 | 担当者の報告と参加者全員による議論。         |
| 第14回 | 学習のまとめ     | 学習のまとめ(試験)                 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、担当者以外にも回答を求めるため、全員予習をしておく。高校での漢文の基礎的な知識があることを前提に授業を進めるため、初心者は基礎的知識に関して自宅学習を求める。授業ではそれを用いて説明をするため、事前に目を通しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

随時配布する。

### 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

予習と授業中の積極的な参加と予習状況を基準とした平常点(50%)及び期末試験(50%)  
予習をせず出席だけする場合は、欠席扱いとするので必ず予習してほしい。

### 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。  
既習事項を確実に理解し、同様の文型に応用してほしい。

### 【学生が準備すべき機器他】

『漢和辞典』（試験の時も、辞書を持ち込み可とする）

### 【その他の重要事項】

写真撮影・録音をすべて禁止する。

### 【Outline (in English)】

Outline and objectives: This course introduces an understanding of Chinese History by reading of Old Chinese Literature The aim of this course is to help students acquire reading Chinese Literature and history.

Learning Objectives: The goals of this course are to read old Chinese texts, to learn the knowledge and usage of various tools required for reading and to search for archaeological materials, related papers and other materials.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (50%) and term-end examination or report (50%).

HIS300BE (史学 / History 300)

**東洋史外書講読Ⅱ**

宇佐美 久美子

授業コード：A3140 | 曜日・時限：金5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

インド洋西海域における移民史研究に関する英語文献を輪読していく。さらに移民史研究について、その方法論や研究史を含めた概略を学ぶ。

**【到達目標】**

英語で書かれた論文を読むスキルを身につける。  
単に英語を日本語に置き換えるのではなく、論理の展開に注目して適切な訳語・訳文を選択できるようになる。  
特に、研究史をふまえて「定訳」を確認する習慣を身に付ける。  
移民史研究についての基礎知識を獲得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

対面授業形式で、インド洋西海域における移民史に関する英語文献（研究論文または史料）を講読する。  
毎回、発表担当者が提出した訳文をもとに質疑応答を行い、全受講生の提案をふまえて訳文を推敲する。  
さらに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                        | 内容            |
|------|----------------------------|---------------|
| 第1回  | テキスト紹介                     | テキスト配布など      |
| 第2回  | 英文論文読解の基本事項の説明             | テキスト講読        |
| 第3回  | インド洋西海域史研究の概略              | テキスト講読        |
| 第4回  | 移民史研究の概略                   | テキスト講読        |
| 第5回  | インド洋の自然環境と航海技術             | テキスト講読        |
| 第6回  | 14世紀までのインド洋西海域の移民史         | テキスト講読        |
| 第7回  | 15～16世紀のインド洋西海域の移民史        | テキスト講読        |
| 第8回  | 17～18世紀のインド洋西海域の移民史        | テキスト講読        |
| 第9回  | 19世紀のインド洋西海域の移民史(1)        | テキスト講読        |
| 第10回 | 19世紀のインド洋西海域の移民史(2)        | テキスト講読        |
| 第11回 | 19世紀のインド洋西海域の移民史(3)        | テキスト講読        |
| 第12回 | 20世紀のインド洋西海域の移民史(1)        | テキスト講読        |
| 第13回 | 20世紀のインド洋西海域の移民史(2)        | テキスト講読        |
| 第14回 | 20世紀のインド洋西海域の移民史(3) / 小テスト | テキスト講読 / 小テスト |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。  
進度に合わせ、毎回予習として担当箇所以外も英文テキストを読む。  
固有名詞、歴史用語などについて不明点があれば調べておく。  
和訳担当者は担当箇所の訳文を授業時に配布し、他の受講者が検討できるようにする。  
復習時には頻出用語の定訳をリストアップするとともに、キーセンテンスを辿って著者の論考の流れを確認しておく。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は第1回の授業で決定し配布する。

**【参考書】**

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006年  
古賀正則・内藤雅雄・浜口恒夫編『インド人移民社会の研究』東大出版会 2000年

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(80%)と最終講義における小テスト(20%)を総合して成績を決定する。

平常点については、テキストを読み取る上での重要な論点を提起し、その背景を詳しく調べるなど、論議を深めようという意欲を高く評価する。

小テストでは、授業での論議や検討をふまえ、論理の展開に注目して適切な訳語を選択する力、段落のキーセンテンスの正確な解釈力を評価する。

単に英語の能力だけで評価するわけではない点を十分に留意してもらいたい。

**【学生の意見等からの気づき】**

「英語の論文を初めて読んだので難しかったが、勉強になった。」という意見を参考に、さらに丁寧に授業を進めていきたい。

**【その他の重要事項】**

第1回の授業でテキストを配布し、輪読の分担を決めるため、必ず出席すること。

難易度や進度について要望がある者は、必ずその場で意見を述べてもらいたい。

教員との連絡用メールアドレスは下記のとおり。

kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

The students are required to read an English thesis dealing the historical development of community networks and the maritime trade activities in the western part of the Indian Ocean.

They are provided the opportunity to speculate historiography, especially on the historical studies of the immigrant communities or 'slavery/ slave trade' in various areas.

At the end of the course, students are expected to read the English thesis from the perspective of historians, examining its context carefully.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paragraphs from the text. Your study time will be about four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(20%) and in-class contribution(80%).

HIS200BE (史学/History 200)

## 西洋古代史

内田 康太

授業コード：A3143 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政ローマの終焉とカエサル」を取り上げる。伝統的秩序の破壊者とも評されるカエサルの生涯を時系列に沿って分析することにより、共和政末期ローマの歴史の概要を学習するとともに、彼が目指した新しい統治機構の姿とその実際を探求する。

### 【到達目標】

到達目標は以下のとおり。  
・共和政末期ローマの歴史について基礎的知識を習得する。  
・一次資料の扱い方を習得し、カエサルが共和政の終焉に対して果たした役割について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第12回・第13回は受講生によるディスカッションも組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内に質疑応答の機会を設けるとともに、終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                     |
|------|------------|------------------------|
| 第1回  | イントロダクション  | 古代ローマ史のなかのカエサル         |
| 第2回  | 生い立ち       | 共和政末期という時代             |
| 第3回  | 政治家への道     | カエサルの政治戦略と経歴           |
| 第4回  | 政治的台頭      | 第1回三頭政治の形成とカエサルの執政官職   |
| 第5回  | 軍事的功績      | 第1回三頭政治の持続とカエサルのガリア遠征  |
| 第6回  | 内乱の前夜      | 第1回三頭政治の崩壊とカエサルのルビコン渡河 |
| 第7回  | 内乱の推移と結末   | 対ポンペイウス戦争の展開とカエサルの勝利   |
| 第8回  | カエサルの時代（1） | カエサルによる諸改革             |
| 第9回  | カエサルの時代（2） | 独裁官カエサル                |
| 第10回 | カエサルの時代（3） | カエサルの暗殺                |
| 第11回 | 新たな内乱      | 暗殺者たちの行方と後継者争い         |
| 第12回 | 人物と評価（1）   | カエサルは共和政ローマの破壊者であったか？  |
| 第13回 | 人物と評価（2）   | カエサルは共和政ローマの再建者であったか？  |
| 第14回 | 試験・まとめと解説  | 到達度の確認                 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

### 【参考書】

小池和子『カエサル 内戦の時代を駆けぬけた政治家』、岩波新書、2020年。  
長谷川博隆『カエサル』、講談社学術文庫、1994年。  
長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004年。

### 【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80%）  
リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20%）

### 【学生の意見等からの気づき】

一次資料（日本語訳）の読解に興味をもった受講生が多かったため、講義に史料分析を組み合わせる授業形式を継続する。また、リアクションペーパーを通じた質疑応答も引き続き利用し、受講生の関心に沿ったかたちで授業を進める。

### 【Outline (in English)】

**Course outline:** This course deals with the fall of the Roman Republic and Caesar's role in it. Analyzing chronologically the life of Caesar, the destroyer of the traditional order, it helps students learn the outline of this period and explore the new system he schemed and its reality.

**Learning Objectives:** The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of the late Roman Republic.

- Using primary sources properly, students are able to estimate the role of Caesar played in the fall of the Roman Republic.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

**Grading Criteria:** Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE (史学/History 200)

**西洋中世史**

大貫 俊夫

授業コード：A3144 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、中世教会史を通してキリスト教会の組織的發展を概観する。それと同時に、教会と世俗社会の関係を追うことで中世ヨーロッパの政治・社会・文化の歴史的基盤を理解する。

**【到達目標】**

1. 中世教会史に関する基礎的知識を習得できる。
2. 西ヨーロッパ世界全体に強い影響力を行使したローマ教皇権・教皇庁に着目し、普遍的権力のあり方を理解できる。
3. 現代ヨーロッパがいかに中世キリスト教文化によって規定されているのかを理解し、宗教と社会の関係を再考できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は講義形式で行う。

事前学習は特に求めないが、授業で扱った内容はその都度プリントを見返し、参考文献を読むことで理解を定着させること。リアクションペーパーへのフィードバックは授業内で行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ             | 内容                        |
|------|-----------------|---------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション       | 本講義の概要と目的、授業の進め方          |
| 第2回  | キリスト教の成立とローマ帝国  | ローマ社会と新興宗教としてのキリスト教       |
| 第3回  | キリスト教化されたローマ帝国  | ミラノ勅令とその後の展開              |
| 第4回  | フランク王国と中世教会の成立  | フランク王国のキリスト教化と「教会としての国家」  |
| 第5回  | 封建社会の中の教会       | 中央権力なき時代における秩序形成          |
| 第6回  | グレゴリウス改革と教皇権の確立 | グレゴリウス7世と叙任権闘争            |
| 第7回  | 教皇君主政の確立        | インノケンティウス3世と第4回ラテラノ公会議    |
| 第8回  | 巡礼と十字軍          | 宗教的動機に基づく人の移動と衝突          |
| 第9回  | シトー会と修道会        | シトー会による修道会の成立             |
| 第10回 | 隠修士と異端問題        | 隠修運動と異端の成立、「正統」による「異端」の排除 |
| 第11回 | アヴィニョン教皇庁と教会大分裂 | 教皇権をめぐる混乱と世俗国家の伸長         |
| 第12回 | 托鉢修道会と都市社会      | フランシスコ会とドミニコ会             |
| 第13回 | 民衆の敬虔心と公会議主義    | 自由心霊派、死の舞踏、公会議主義と中世の終焉    |
| 第14回 | 総括              | 本講義の総括、質疑応答               |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

復習：授業内容を振り返る。

本授業の復習時間は1回あたり4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

**【参考書】**

松本宣郎編『キリスト教の歴史1』（山川出版社、2009年）

R・W・サザーン『西欧中世の社会と教会』（八坂書房、2007年）

G・バラクローウ『中世教皇史』（八坂書房、2012年）

**【成績評価の方法と基準】**

期末レポート（70%）

リアクションペーパーを用いた平常点（30%）

**【学生の意見等からの気づき】**

リアクションペーパーを用いたフィードバックをより積極的に行います。

**【Outline (in English)】****Course outline:**

This lecture provides an overview of the organisational development of the Christian Church through medieval church history. At the same time, the relationship between the church and secular society will be traced to understand the historical foundations of politics, society and culture in medieval Europe.

**Learning Objectives:**

The goals of this course are to acquire a basic knowledge of medieval church history, to understand the nature of universal power focusing on the papacy, and to rethink the relationship between religion and society.

**Learning activities outside of classroom:**

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts.

**Grading Criteria/Policy:**

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%

HIS200BE (史学 / History 200)

## 西洋近代史

中嶋 毅

授業コード：A3145 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代ロシアの政治社会を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国の形成から第一次世界大戦に至るまでのロシア近代史を概観し、ヨーロッパの政治発展の一類型としてのロシア世界を考察する。

### 【到達目標】

近代ロシア帝国の歩みを、主に政治社会史の観点から検討し、近代国家の特徴を比較考察する視角を習得する。また、ロシア近代史の経験を近代世界の中に位置づける作業を通じて、歴史的思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式。授業の最後に小課題を提示し、Hoppiiで提出してもらう。その際、授業および課題作成にあたっての質問を随時記載してもらい、次回授業時までには回答する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                 |
|------|------------------|--------------------|
| 第1回  | 序論               | 授業の概要と授業の進め方       |
| 第2回  | ロシア帝国の形成 (1)     | ピョートル1世と帝国の形成      |
| 第3回  | ロシア帝国の形成 (2)     | ピョートルからエカチェリーナへ    |
| 第4回  | ロシア帝国の形成 (3)     | エカチェリーナ2世とロシア帝国の発展 |
| 第5回  | 19世紀前半のロシア帝国 (1) | ナポレオンを破った大国ロシア     |
| 第6回  | 19世紀前半のロシア帝国 (2) | ニコライ1世と帝国の安定化      |
| 第7回  | ロシア帝国の近代化 (1)    | アレクサンドル2世の「大改革」    |
| 第8回  | ロシア帝国の近代化 (2)    | 近代化の苦悩             |
| 第9回  | 近代ロシアの成熟         | 19世紀末のロシア帝国        |
| 第10回 | 近代ロシアの危機         | ニコライ2世のロシア帝国       |
| 第11回 | 第一次世界大戦とロシア帝国    | 総力戦への対応            |
| 第12回 | 二月革命             | ロシア帝国から共和制ロシアへ     |
| 第13回 | 十月革命とボリシェヴィキ政権   | 社会主義ロシアへの転換        |
| 第14回 | 全体のまとめ           | 近代ロシアの特徴           |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代ロシア史の概説書を読み、歴史の大まかな流れを理解する。また、授業の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。配布資料を用いて授業を進める。

### 【参考書】

和田春樹編『ロシア史』上・下（山川セレクション）山川出版社、2023年。田中陽児・倉持俊一・和田春樹編『世界歴史大系・ロシア史』全3巻（山川出版社、1994-97年）。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中に課する課題の提出（50%）と学期末レポート（50%）により総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

This course will introduce students to the modern history of Russia from the formation of the Russian empire to the First World War. The Russian world as a type of European political development will be considered.

Students will acquire knowledge about various aspects of the Russian Empire. In doing so they will acquire a perspective to compare and consider the characteristics of modern nations.

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Assignments (50%), term paper (50%)

HIS200BE (史学/History 200)

## 西洋現代史

古川 高子

授業コード：A3146 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今年度は社会史とは何か、社会史という観点からいかにして国民・民族やナショナリズムそして移民や地域といった概念で示される歴史的現象を描くことができるのかを学ぶ。そして、社会史の方法を通じて身につけた歴史的考察力により現代社会で生じている様々な事件や諸問題への意識・関心を高める。

## 【到達目標】

西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される現象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを、社会史の観点から学ぶ。そうすることで、ヨーロッパ現代史における国民国家の形成とその変遷過程を理解し、現在の新自由主義時代に生じている諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

・社会史の方法論、「からだ」と「こころ」、ソシアビリティ、日常史、国民、民族、エトノス、エスニシティ、歴史人類学、アナール学派、ナショナリズム論、ナショナルインディフェレンス論と「国民」の社会史の関連性などについて解説すると共に、事例を交えて講義する。  
・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトして、授業にそれを利用すること。  
・講義において疑問に感じたことについては授業の最後の時間に質問時間を設けるのでそこで行うこと。時間不足で解答できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                         | 内容                                                 |
|------|-----------------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                   | 試験等の受け方、書評の行い方、註の付け方等の説明                           |
| 第2回  | 国民と国民国家                     | 国民概説、国民国家、ナショナリズム論、地域概念                            |
| 第3回  | 「民族」・国民体・国民(1)              | フランス革命と国民                                          |
| 第4回  | 「民族」・国民体・国民(2)              | エトノスに関する事例研究：ブルゲンラントとフォアアールベルク（ハプスブルク二重君主国/オーストリア） |
| 第5回  | 「民族」・国民体・国民(3)              | エトノスに関する事例研究：世紀転換期ウィーンのチェコ人労働者                     |
| 第6回  | 個人、社会と国家(1)                 | 英国・ドイツの社会史論：20世紀初頭～第2次世界大戦期                        |
| 第7回  | 個人、社会と国家(2)                 | 英国・ドイツの社会史論：第2次世界大戦後                               |
| 第8回  | 個人、社会と国家(3)                 | 事例研究：地域、生態と家族、南ティロールの場合                            |
| 第9回  | ナショナルインディファレンス論と「国民」の社会史(1) | ナショナリズム論とナショナルインディファレンス論                           |
| 第10回 | ナショナルインディファレンス論と「国民」の社会史(2) | 事例研究—子どもをいかにして国民とするのか（19世紀末～戦間期）                   |
| 第11回 | ナショナルインディファレンス論と「国民」の社会史(3) | 事例研究—子どもをいかにして国民とするのか（戦間期から第2次世界大戦後）               |
| 第12回 | ナショナルインディファレンス論と「国民」の社会史(4) | 事例研究—チェコの多国籍企業パチャの場合                               |
| 第13回 | ナショナルインディファレンス論と「国民」の社会史(5) | 事例研究—ファシズム期のイストリア                                  |
| 第14回 | 試験、まとめ                      | 授業内筆記試験                                            |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は特に用いない。

## 【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。

但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。  
・小沢弘明「東欧における地域とエトノス」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000年 国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237.

・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）。

## 【成績評価の方法と基準】

・レポート（書評論文）を含む平常点（40%）および筆記試験（60%）による総合評価を行う。

【レポート（書評論文）】は、講義で示す参考書から各自の選好に従って、2冊選んで読み、相互に結びつけながら書評を行った上で、評者=学生の意見まで入れたものとする。それを学習支援システムを通じて提出（提出時期は講義開始時に指示）。書評「論文」であることに注意せよ。

【筆記試験】は、ノート・レジュメのみ、持ち込み可の論述試験。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記・レポート試験に臨むこと。試験当日に参考文献を読んでも間に合わない知識と思考力および論理力を試す試験を行うので、必ず参考書を読んでおくこと。試験は暗記したものを記すものではないので、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【注意】レポート（書評論文）において、参考文献を利用した場合は、かならず、出典（頁も含む）および引用註を付けること。剽窃が判明した場合は、全体の評価をしないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

## 【Goals of the course】

Studying histories from the perspective of social history, including its meaning and historiographies, and understanding nation, nationalism, immigration/emigration, and area studies. Raising awareness of many problems in the modern and contemporary world through such historical thinking.

## 【Learning objectives and methods】

Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups and so on. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of social history.

Basically lectures, including answering questions.

## 【Learning activities outside of classroom】

Reading suggested books in the class to learn and understand historical concepts and events.

## 【Grading criteria/policy】

40% from contributing through positive attitude in class and book reviews, 60% from a writing test with notes, reports and summary.



HIS300BE (史学 / History 300)

## 西洋史外書講読 I

内田 康太

授業コード：A3147 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語で書かれた西洋史関係の学術文献を精読することにより、読解に必要な様々な基礎的技術・知識を学ぶ。

### 【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおり。  
・英文の意味を正確に理解できること。  
・学術文献の構造や論理展開を正確に理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、古代ローマ世界が帝国主義的膨張を展開した背景について論じる英語文献を精読する。各受講生は、自身の担当として割り当てられたテキストの指定箇所について事前に日本語訳を作成・提出する。訳読担当以外の受講生は、提出された日本語訳を検討したうえで授業に臨み、訳語・訳文の正確性や文献の内容、あるいは、他の疑問点等に関して質問・コメントする。そのため、訳読担当者だけでなく受講者全員が毎回、訳読予定の範囲について十分に予習しておくことが必要となる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                |
|------|--------------|-------------------|
| 第1回  | イントロダクション    | 授業の概要説明と訳読担当箇所の決定 |
| 第2回  | 序論           | 古代ローマの帝国主義的対外膨張   |
| 第3回  | 研究史 (1)      | 古典学説：防衛的帝国主義論     |
| 第4回  | 研究史 (2)      | 新学説：攻撃的帝国主義論      |
| 第5回  | 研究史 (3)      | 帝政の成立と対外膨張の鈍化     |
| 第6回  | 政治支配層の財源 (1) | 共和政期の場合           |
| 第7回  | 政治支配層の財源 (2) | 帝政前期の場合           |
| 第8回  | 皇帝の財源 (1)    | 財源の多様性            |
| 第9回  | 皇帝の財源 (2)    | 政治支配層からの遺産相続      |
| 第10回 | 皇帝の財源 (3)    | 政治支配層からの財産没収      |
| 第11回 | 史料の歪み (1)    | 「悪しき皇帝」の財源        |
| 第12回 | 史料の歪み (2)    | 「善き皇帝」の財源         |
| 第13回 | 結論           | 財政構造と対外膨張         |
| 第14回 | まとめ          | 到達度の確認とレポート課題の発表  |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の授業外学習時間は4時間以上となる。授業に臨むにあたっては英語文献の所定箇所について訳文を準備し、授業後には自身の訳文を再検討することが求められる。

### 【テキスト (教科書)】

H. Sidebottom, 'Roman Imperialism: The Changed Outward Trajectory of the Roman Empire', *Historia* 54 (2005), pp. 315-330.

### 【参考書】

長谷川岳男「ローマ帝国主義研究——回顧と展望」、『軍事史学』第37巻第1号 (2022年), 51-74頁。

P. J. Burton, *Roman Imperialism*, Leiden, 2019.

### 【成績評価の方法と基準】

授業に対する予習度 (30%)  
英語文献読解の精度 (30%)  
期末レポート (20%)  
質問やコメント等、授業への積極的参加度 (20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

訳読担当者以外の授業参加を更に向上させるために、授業内ディスカッションの機会を増やすとともに、必要に応じてリアクションペーパーなどを通じた質疑応答も活用する。

### 【Outline (in English)】

**Course outline:** This course helps students acquire the basic skills and knowledge to read academic texts on western history written in English, by reading them closely.

**Learning Objectives:** The followings are the goals of this course.

- Students are able to understand accurately the meaning of English sentences.
- Students are able to understand accurately the structure and argument of academic texts.

**Learning activities outside of classroom:** Students' study time will be at least four hours for a class. They are expected to make a translation of the assigned English text before each class meeting, and after the class to review their own translation.

**Grading Criteria:** Grading will be decided based on the preparation for each class meeting (30%), the reading comprehension of English texts (30%), term-end paper (20%), and in-class contribution (20%).

HIS300BE (史学/History 300)

西洋史外書講読Ⅱ

古川 高子

授業コード：A3148 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の基礎文献を講読し、内容を解説しながら歴史学の基礎概念についての解説も行う。

【到達目標】

基本的な英語文献を丁寧に精読し、歴史学の基礎概念を身につけ、歴史学の研究に必要な英文史料や英語研究文献の読解力を養成する。英文を理解して、訳せるようにすることが最大の目標である。その際、英文の註表記なども使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008) (タラ・ザーラ『誘拐された魂 ボヘミア地方における国民的冷淡さと子どもをめぐる闘争 1900年-1948年』)の第4章「国民のために子どもの返還を要求する」を精読する。本著作はオーストリア=ハンガリー二重君主国内ボヘミア (=チェコ) 地方において、将来の国民の源泉として地域に住む子どもをいかにしてチェコ人あるいはドイツ人にするかをめぐって行われたチェコ人ナショナリストとドイツ人ナショナリストの相克についての研究書である。多言語地域における住民の生活や教育を学ぶことを通じて国民形成がいかにされるのかを教えるこの本は、近現代史を学ぼうとする学生には好適書だと考えられる。

- ・テキストは学習支援システムを通じて配布する。
- ・テキストを一文ずつ毎回、各人にあてるゆえ、学生は、音読後、その場で日本語に訳す必要がある。その際、英語の脚注も読むため、併せて読んでおくこと。
- ・期末テスト以外に一月月に一度程度、口頭の読解の小テスト (計3回) 行う。口頭読解試験となる期末テストおよび3回の口頭読解小テストの際にはZoomを利用したオンライン授業となる。変動的になるので留意すること。各テスト日の前日までに、Zoomアドレスを学習支援システムを通じて送付するので、必ず、確認して、参加すること。
- ・授業中に疑問に感じたことについては授業の最後に質問時間を設定するので、そこで回答する。できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答を送付する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
 なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                           | 内容                                                                                    |
|------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | Zoom利用オンライン授業：ガイダンス                           | 英語文献の読み方・調べ方、歴史学についての概論、テキスト・著者の紹介などを書いたガイダンス                                         |
| 第2回  | 一文ずつのテキスト精読 (1)                               | Chap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 106-108を精読                           |
| 第3回  | 一文ずつのテキスト精読 (2)                               | Chap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 109-111を精読                           |
| 第4回  | Zoom利用オンライン授業：口頭読解小テスト (1) および一文ずつのテキスト精読 (3) | 第2回と第3回で読んだ部分の口頭読解小テストおよびChap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 112-113を精読  |
| 第5回  | 一文ずつのテキスト精読 (4)                               | Chap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 114-115を精読                           |
| 第6回  | 一文ずつのテキスト精読 (5)                               | Chap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 116-118を精読                           |
| 第7回  | Zoom利用オンライン授業：口頭読解小テスト (2) および一文ずつのテキスト精読 (6) | 第4回から第6回で読んだ部分の口頭読解小テストおよびChap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 119-120を精読 |
| 第8回  | 一文ずつのテキスト精読 (7)                               | Chap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 121-124を精読                           |
| 第9回  | 一文ずつのテキスト精読 (8)                               | Chap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 125-128を精読                           |
| 第10回 | Zoom利用オンライン授業：口頭読解小テスト (3) および一文ずつのテキスト精読 (9) | 第7回から第9回で読んだ部分の口頭読解小テストおよびChap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 129-130を精読 |
| 第11回 | 一文ずつのテキスト精読 (10)                              | Chap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 131-133を精読                           |

|      |                              |                                                             |
|------|------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 第12回 | 一文ずつのテキスト精読 (11)             | Chap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 134-136を精読 |
| 第13回 | 一文ずつのテキスト精読 (12)             | Chap. 4, Reclaiming Children for the Nation, pp. 137-141を精読 |
| 第14回 | Zoom利用オンライン授業：まとめと口頭読解の期末テスト | 精読した部分全範囲の口頭読解テスト                                           |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

数回毎に口頭読解の小テストを行うので、授業のための予習・復習が必要。そのために毎回、それぞれ最低2時間を必要とする。

【テキスト (教科書)】

Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008)

【参考書】

タラ・ザーラ著、三時真貴子/北村陽子監訳/岩下誠/江口由布子訳『失われた子どもたち 第二次世界大戦後のヨーロッパの家族再建』(みすず書房、2019)

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献・平常点 (20%)、学期中3回行われる小テスト (30%)、期末テスト (50%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・重要：学習支援システムを通じてテキスト配布を行うので、必ず学習支援システムに仮登録してください。それをしないと授業に参加できません。
- ・授業に出席して、テキストの文章の意味を理解しておかないと、小テストを受けても点が取れず、テスト範囲が長い期末テストにも追いつけなくなるという悪循環に陥るので、予習を十分した上で、必ず出席してノートを取り、テスト前にしっかり復習・口頭読解の練習をしておくこと。
- ・最初の授業、小テストおよび期末テストは口頭読解試験となるので、Zoomを利用したオンライン授業で行う。
- ・通常の読解の授業は対面授業となる。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Enhancing the abilities to reading books and materials in English. And learning basic concepts of history.

【Learning objectives and methods】

Intensive reading an English basic book and translating sentence by sentence.

【Learning activities outside of classroom】

Positive preparation and review for several oral tests in the classroom (by Zoom).

【Grading criteria/policy】

20% from contributing through positive attitude in class, 30% from small oral tests and 50% from the term-end oral tests.

HIS300BE (史学 / History 300)

## 西洋現代史演習

大澤 広晃

授業コード：A3149 | 曜日・時限：木4/Thu.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2024年度は、「戦間期」を演習のテーマとする。春学期は、関連する日本語文献を読み、テーマの多角的理解につとめる。秋学期は、英語文献を講読し、テーマについての理解をさらに深めるとともに、英語論文の読み方やその構造を学ぶ。また、卒業研究や自主研究にかなう発表の機会を設け、受講生が関心をもつテーマについてみながら議論する。

### 【到達目標】

- ・西洋現代史の主要なトピックを多角的に検討し、対象を総体としてみる姿勢を身につける。
- ・歴史学の研究に必要な基礎的スキルを習得する。
- ・研究成果を学術的作法に即して正確かつ明快に発表する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で行う。文献講読も研究発表も受講生が主体なので、積極的な授業参加が求められる。授業内容や課題に対するフィードバック・コメントは、授業時間内に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                                                |
|------|-----------|-------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | 春学期の授業計画の確認と役割分担の決定。                                              |
| 第2回  | 日本語文献講読①  | 『危機の二十年』(以下、日本語文献)第1～2章を読む。                                       |
| 第3回  | 日本語文献講読②  | 日本語文献第3章を読む。                                                      |
| 第4回  | 日本語文献講読③  | 日本語文献第4章を読む。                                                      |
| 第5回  | 日本語文献講読④  | 日本語文献第5～6章を読む。                                                    |
| 第6回  | 日本語文献講読⑤  | 日本語文献第7～8章前半を読む。                                                  |
| 第7回  | 日本語文献講読⑥  | 日本語文献第8章後半を読む。                                                    |
| 第8回  | 日本語文献講読⑦  | 日本語文献第9章を読む。                                                      |
| 第9回  | 日本語文献講読⑧  | 日本語文献第10～11章を読む。                                                  |
| 第10回 | 日本語文献講読⑨  | 日本語文献第12～13章を読む。                                                  |
| 第11回 | 日本語文献講読⑩  | 日本語文献第14章を読む。                                                     |
| 第12回 | 自主研究の発表①  | 受講生による自主研究の発表と質疑・討論。                                              |
| 第13回 | 自主研究の発表②  | 受講生による自主研究の発表と質疑・討論。                                              |
| 第14回 | 自主研究の発表③  | 受講生による自主研究の発表と質疑・討論。                                              |
| 第15回 | イントロダクション | 秋学期の授業計画の確認と役割分担の決定                                               |
| 第16回 | 英語文献講読①   | The Emergence of International Society (以下、英語文献) Introductionを読む。 |
| 第17回 | 英語文献講読②   | 英語文献 Chapter 1を読む。                                                |
| 第18回 | 英語文献講読③   | 英語文献 Chapter 2を読む。                                                |
| 第19回 | 英語文献講読④   | 英語文献 Chapter 3を読む。                                                |
| 第20回 | 英語文献講読⑤   | 英語文献 Chapter 6を読む。                                                |
| 第21回 | 英語文献講読⑥   | 英語文献 Chapter 7を読む。                                                |
| 第22回 | 英語文献講読⑦   | 英語文献 Chapter 8を読む。                                                |
| 第23回 | 英語文献講読⑧   | 英語文献 Chapter 9を読む。                                                |

第24回 英語文献講読⑨

第25回 自主研究の発表①

第26回 自主研究の発表②

第27回 卒論構想案の発表①

第28回 卒論構想案の発表②

英語文献 Conclusionを読む。

受講生による自主研究の発表と質疑・討論。

受講生による自主研究の発表と質疑・討論。

受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。

受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献講読については、課題文を精読し、あらかじめ問いや質問を準備して授業に臨む。研究発表については、図書館やデータベースを活用して自主的に準備を進める。レジュメは事前に提出する。なお、文献講読・研究発表とともに、質疑応答で回答できなかった点については、追加の調査をして、翌週の授業で改めてフィードバックをする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

E. H. カー (井上茂訳)『危機の二十年—1919-1939』岩波文庫、1996年  
Daniel Gorman, The Emergence of International Society in the 1920s, Cambridge: Cambridge University Press, 2012.

### 【参考書】

木畑洋一・秋田茂編『近代イギリスの歴史—16世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2011年

藤永康政・松原宏之編『「いま」を考えるアメリカ史』ミネルヴァ書房、2022年

平野千果子編『新しく学ぶフランス史』ミネルヴァ書房、2019年  
田野大輔・柳原伸洋『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房、2016年  
イアン・カーショー (三浦元博・竹田保孝訳)『地獄の淵から—ヨーロッパ史1914-1949』白水社、2017年

### 【成績評価の方法と基準】

・平常点 (授業への取り組み、発表や質疑応答の質などを評価) : 60%

・期末課題 : 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes in contemporary western history. For academic year 2024, we will focus on the Interwar years. Students read relevant literature written in Japanese and in English, examining varied aspects of the topic. Meanwhile, students are required to give presentation about their graduation research and/or independent research projects.

< Learning objectives >

1) Students are able to understand key issues of contemporary western history through analysing them from various perspectives.

2) Students are able to acquire basic skills of historical research.

3) Students are able to present their research outcome in precise and articulate manners.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. In preparation, students are required to take on every assignment seriously. After the class, they have to review what they have learned in the class and, when necessary, prepare feedbacks to questions/comments they were not able to give proper answer in the class.

< Grading policy >

Class participation, assignments, oral presentation: 60%, Final essay: 40%

HIS300BE (史学/History 300)

## 西洋前近代史演習

内田 康太

授業コード：A3150 | 曜日・時限：木4/Thu.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋前近代史の卒業論文執筆に必要な基礎的技術・知識を習得する。

### 【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおり。

- ・各自の関心に沿った学術文献の収集ができること。
- ・日本語・英語で書かれた学術文献を正確かつ批判的に読解できること。
- ・自身の研究を進展させるとともに、研究について論理的かつ説得的な報告ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

春学期は、共和政期ローマの政治と衣服をテーマとした英語文献を精読する。授業は受講生がテキストを日本語に訳出するかたちで進め、これを教員と受講生全員で検討することにより、西洋前近代史関係の英語文献を読み解くために必要となる様々な技術を学ぶ。あらかじめ訳読の担当者を決めることはしないため、受講生全員が十分な予習を毎回してくることが求められる。

秋学期は、受講生による研究報告とそれに対する質疑応答・討論のかたちで授業を進める。3年生は、自らの研究テーマに関する先行研究・研究史と問題の所在を明らかにしたうえで、どのような方法でその問題を解決する見通しであるかについて報告する。2年生は、自らの研究テーマを絞り込み、関連する研究文献を収集するとともに、その中から少なくとも一点を精読したうえで、自由研究発表を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                                        |
|------|---------------|-----------------------------------------------------------|
| 第1回  | 春学期のイントロダクション | 研究テーマの探し方・研究文献の探し方                                        |
| 第2回  | 英語文献講読 (1)    | 政治的コミュニケーション手段としての衣服                                      |
| 第3回  | 英語文献講読 (2)    | 「更衣 (mutatio vestis)」をめぐる諸問題                              |
| 第4回  | 英語文献講読 (3)    | 共和政期ローマにおける元老院と民衆の関係性                                     |
| 第5回  | 英語文献講読 (4)    | 喪服の分類①：「葬儀服 (toga pulla)」                                 |
| 第6回  | 英語文献講読 (5)    | 喪服の分類②：「忌服 (sordes)」                                      |
| 第7回  | 英語文献講読 (6)    | 事例分析①：元老院 vs メテッルス・ネボス (前62年) / キケロ vs クロディウス (前58年)      |
| 第8回  | 英語文献講読 (7)    | 事例分析②：元老院 vs ガイウス・カト (前56年) / ポンペイウス & クラッス vs 護民官 (前55年) |
| 第9回  | 英語文献講読 (8)    | 事例分析③：執政官選挙と内政の混乱 (前53年) / クロディウス殺害事件と内政の混乱 (前52年)        |
| 第10回 | 英語文献講読 (9)    | 「更衣」の機能と目的                                                |
| 第11回 | 英語文献講読 (10)   | 事例分析④：元老院 vs クリオ (前50年12月)                                |
| 第12回 | 英語文献講読 (11)   | 事例分析⑤：元老院 vs マルクス・アントニウス & クイントゥス・カッシウス・ロンギヌス (前49年1月)    |
| 第13回 | 英語文献講読 (12)   | 共和政末期ローマの内乱と「更衣」                                          |
| 第14回 | 春学期のまとめ       | 到達度の確認と秋学期までの課題の発表                                        |
| 第15回 | 秋学期のイントロダクション | 自由研究発表・卒業論文報告の概要説明とスケジュール確認                               |
| 第16回 | 発表・報告の準備      | 口頭発表の方法・レジュメの作成方法                                         |
| 第17回 | 卒業論文報告 (1)    | 3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議                                    |
| 第18回 | 卒業論文報告 (2)    | 3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議                                    |
| 第19回 | 卒業論文報告 (3)    | 3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議                                    |
| 第20回 | 卒業論文報告 (4)    | 3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議                                    |
| 第21回 | 卒業論文報告 (5)    | 3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議                                    |
| 第22回 | 卒業論文の完成にむけて   | 3年生による卒業論文中間報告の総括                                         |

|      |            |                       |
|------|------------|-----------------------|
| 第23回 | 自由研究発表 (1) | 2年生による自由研究発表と質疑応答・討議  |
| 第24回 | 自由研究発表 (2) | 2年生による自由研究発表と質疑応答・討議  |
| 第25回 | 自由研究発表 (3) | 2年生による自由研究発表と質疑応答・討議  |
| 第26回 | 自由研究発表 (4) | 2年生による自由研究発表と質疑応答・討議  |
| 第27回 | 卒業論文報告にむけて | 2年生による自由研究発表の総括       |
| 第28回 | 秋学期のまとめ    | 到達度の確認と次年度春学期までの課題の発表 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の授業外学習時間は4時間以上となる。

春学期は、授業に臨むにあたっては英語文献の所定箇所について訳文を準備し、授業後には自身の訳文を再検討することが求められる。

秋学期は、自身の研究を進めるとともに、自らの研究についての報告準備を行うことが求められる。

### 【テキスト (教科書)】

A. Dighton, 'Mutatio Vestis: Clothing and Political Protest in the Late Roman Republic', *Phoenix* 71 (2017), pp. 345-369.

### 【参考書】

J. Edmondson and A. Keith (eds.), *Roman Dress and the Fabrics of Roman Culture*, Toronto, 2008.

K. Olson, *Masculinity and Dress in Roman Antiquity*, New York, 2017.

### 【成績評価の方法と基準】

授業に対する予習度 (40%)

英語文献読解の精度 (40%)

質問やコメント等、授業への積極的参加度 (20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

春学期の英語論文精読に関しては、専門的な学術論文の読解方法を指導することに加えて、英文そのものの理解度向上にもより一層の目配せをする。

秋学期の個別報告については引き続き、可能な限り受講生それぞれの関心に沿った研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

**Course outline:** This course helps students acquire the basic skills and knowledge to write their graduation thesis on pre-modern western history.

**Learning Objectives:** The followings are the goals of this course.

- Students are able to gather academic texts necessary for their research.

- Students are able to read accurately and critically academic texts written in Japanese or English.

- Students are able to progress their research and to make a logical and convincing presentation on it.

**Learning activities outside of classroom:** Students' study time is at least four hours for a class.

(Spring term) They are expected to make a translation of the assigned English text before each class meeting, and after the class to review their own translation.

(Autumn term) They are expected to progress their own research and prepare to make a presentation on it.

**Grading Criteria:** Grading will be decided based on the preparation for each class meeting (40%), the reading comprehension of English texts (40%), and in-class contribution (20%).

HIS300BE (史学 / History 300)

## 西洋近代史演習

皆川 卓

授業コード：A3151 | 曜日・時限：木4/Thu.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

トマス・ホブズの『リヴァイアサン』(1651)を精読し、歴史的背景を把握しつつテキストの意図を正確に理解することで、近世ヨーロッパにおいて、「国家」(政治的共同体、当時の言葉で「コモンウェルス」)がどのように認識され、それはどのような政治的・知的環境に基づいていたのか、同時代人の目から学びます。

### 【到達目標】

中世からの連続と近代への接続の交差点である17世紀半ばの先端的な自然観・人間観・国家観を分析的に読み解くことで、当時のヨーロッパ社会が到達した社会的メタ認知の可能性と限界を理解し、近世・近代ヨーロッパ史を分析するための足掛かりを構築します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

当該テキストは政治哲学の古典中の古典ですが、本授業は西洋史の授業として本テキストを分析します。すなわち現代的な価値判断のバイアスを避け、筆者の見ていた世界を忠実に再現するため、そこに登場するテクニカル・タームの意味や背景にある諸事情を受講生に調べてもらい、一言一句丁寧に読みます。調べる事柄については、毎回授業の際に順番に割り当てます。一定程度進むとホブズの「モード」が掴めますので、半分を目処に「反転学習」(授業外での学習を前提として、授業ではそれを確認し、内容を検討する)に切り替えます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                                           | 内容                                                                                                                                                 |
|-----|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | ホブズと『リヴァイアサン』成立の背景                                            | ガイダンスを行います。本授業唯一の座学で、著者ホブズの生涯と交友関係、このテキストの背景にある歴史的状況について、講師から概略を説明します。講読に入ります。政治哲学書と考えると奇妙なテーマですが、これこそが近世ヨーロッパの社会観を表しているところ。最初は解説を加えることが多くなると思います。 |
| 第2回 | 第一部 人間について<br>「第一章 感覚について」                                    | 第2回と同様です。現代の政治哲学目当てで受講した人は退屈かもしれませんが、しかしその先には「政治」というものの歴史的な把握の可能性が広がっています。                                                                         |
| 第3回 | 「第二章 イマジネーションについて」                                            | 第2回・第3回の続きです。逆に哲学(特にギリシア哲学)に興味のある人は面白いかと思います。ヒントは17世紀の「機械論哲学」です。                                                                                   |
| 第4回 | 「第三章 イマジネーションの継起あるいは連続について」                                   | 第2回・第3回の続きです。逆に哲学(特にギリシア哲学)に興味のある人は面白いかと思います。ヒントは17世紀の「機械論哲学」です。                                                                                   |
| 第5回 | 「第四章 言語(スピーチ)について」(1)                                         | 従来の「スコラ学」と違い、彼の近代的なものの方がよく現れているところ。テキストを精査すると、近代政治の前提にあるコミュニケーションとは何かを感じ取れます。                                                                      |
| 第6回 | 「第四章 言語(スピーチ)について」(2)                                         | 第6回の続きです。言語の正確な使用こそ、古代から現代にまで続く人間関係=「社会」の必要不可欠な要素であることが分かります。                                                                                      |
| 第7回 | 「第五章 推論および学問について」                                             | ホブズの中世スコラ学批判が最も現れているところ。我々にとっては当たり前のことが、17世紀までの精神世界では驚異であったことが認識できます。「政治は情念(感情)ではなく理性で行うべき」というのが当時の流行でしたが、理性的思考の同期は情念だというメタ認知の事実を突きつけています。         |
| 第8回 | 「第六章 一般に情念と呼ばれる、意思を持った運動の内的発端について、また、その表現としての話法(スピーチ)について」(1) |                                                                                                                                                    |

|      |                                                               |                                                                                                                                                       |
|------|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第9回  | 「第六章 一般に情念と呼ばれる、意思を持った運動の内的発端について、また、その表現としての話法(スピーチ)について」(2) | 第8回の続きです。この頃になると、ホブズが彼の生きた時代にどうチャレンジしようとしたのかが分かってきて、また、その表現としての話法(スピーチ)について」(2)                                                                       |
| 第10回 | 「第七章 論究の結末、または結論について」                                         | 経験的・論理的矛盾を矛盾と考えるセンスについて論じられています。ホブズの悩みを共有することで、近代の悩みは17世紀に起因することが分かります。中世キリスト教世界の伝統を引きずる「知性」「徳」を論理的に分析する箇所です。ホブズの論理のシャープさだけではなく、その時代的制約性にも注目して読みましょう。 |
| 第11回 | 「第八章 一般に知的といわれるさまざまな徳、また、それらとは逆の欠点について」(1)                    | 第11回の続きです。内容に順応するのは簡単ですが、「時代」を見る目を持つことができるかどうか、この「章」をどう読むかにかかっています。どんどん発問していきたいと思います。                                                                 |
| 第12回 | 「第八章 一般に知的といわれるさまざまな徳、また、それらとは逆の欠点について」(2)                    | 第11回の続きです。内容に順応するのは簡単ですが、「時代」を見る目を持つことができるかどうか、この「章」をどう読むかにかかっています。どんどん発問していきたいと思います。                                                                 |
| 第13回 | 「第九章 知識の種々の主題について」「第十章 力、価値、位階、名誉、ふさわしさについて」                  | 16世紀半ばにフランスのラメーが開発した反中世的思考手続に基づいた、人々の能力・地位の分析です。「抽象」「体系化」という近世のものと考え方がよくわかります。                                                                        |
| 第14回 | 「第十一章 態度(マナーズ)の相違について」                                        | 人間の共同生活の中で現れる人間の性質について論じた箇所。人間と集団の関係にこだわるホブズの真骨頂です。これまでの箇所が理解できていれば、難なく読めると思います。最後に半期のまとめをします。                                                        |
| 第15回 | 「第十二章 宗教について」(1)                                              | ホブズにとって、実は隠された本当のテーマであったとも考えられている「宗教」についてです。この辺りから積極的に議論してもらいます。「お客さん」であると損をする採点方法を取ります。                                                              |
| 第16回 | 「第十二章 宗教について」(2)                                              | 第15回の続きです。近代的発想がキリスト教と対立するものではなく、むしろそれを極めようとした結果の「想定外」であることを読み取れると思います。                                                                               |
| 第17回 | 「第十三章 人間の自然状態、その至福と悲惨について」                                    | 有名なホブズの「万人の万人に対する闘争」について扱った章です。「善人しか生きる資格のない」中世から「悪人も生きる資格のある」近代が生まれた瞬間でもあります。                                                                        |
| 第18回 | 「第十四章 第一、第二の自然法と契約について」                                       | 17世紀の「契約」とは何かを捉えることが課題です。この辺りから反転授業(在宅学習の成果を教場で確認するスタイルの授業)を導入する予定です。                                                                                 |
| 第19回 | 「第十五章 他の自然法について」(1)                                           | 契約以外の自然法=自然の人間関係から生まれてくる法則の可能性を検討しています。報恩、従順、寛容、報復や社会関係に必要な「掟」が検討されています。                                                                              |
| 第20回 | 「第十五章 他の自然法について」(2)                                           | 第20回の続きです。この「自然法」の議論を17世紀の歴史的諸事実と突き合せ、当時の人々がいかに「共通の法」を求めていたことを裏付けてみましょう。                                                                              |
| 第21回 | 「第十六章 人格、本人及び人格化されたもの」                                        | 意志及び権利の単位である「人格」を検討しています。「国家」の単位として考えられていた「個人」「法人」(当時は社団)を捉えるセンスが、同時代人々よりもだいたい我々に近いことが分かります。                                                          |
| 第22回 | 「第十七章 コモンウェルスの目的、生成、定義について」                                   | リヴァイアサンのテーマである「コモンウェルス」(人々共通のモノ=国家)の設立目的を論じています。ここまでの道のりを踏まえれば、17世紀に「近代国家」の発想が生まれた理由が分かるでしょう。                                                         |
| 第23回 | 「第十八章 設立された主権者の権利について」                                        | ホブズが「絶対主義的」と言われる主権者観が論じられています。本当にそうなのか、「絶対主義」とは何かを考えながら読んでみましょう。もしそうなら、現在は当時よりも「絶対主義」です。                                                              |
| 第24回 | 「第十九章 設立によるコモンウェルスの種類と主権の継承」                                  | 17世紀まで人々に共有されていたアリストテレスの「三(六)政体論」に対する「主権」の立場からの批判を論じています。ここには政府を創り、運営する近代人の課題が隠されています。                                                                |
| 第25回 | 「第二十章 父権のおよび専制的支配について」                                        | 暴力から権利が生まれるという中世的な発想を否定するために、ホブズが一番苦労した章です。そこには中世以来の根柢に頼らざるを得なかった17世紀という時代の過渡的状況が現れています。                                                              |

|      |                                    |                                                                                              |
|------|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第26回 | 「第二十一章 国民の自由について」                  | 現代の「自由」の観念から考えると、全くかけ離れているので、それだけ取り出すと混乱しますが、これまでのコンテキストに沿って行くと全然矛盾しない章です。これまでのテキスト理解が問われます。 |
| 第27回 | 「第二十二章 公的および私的、従属団体について」           | リヴァイアサン（主権者）と臣民（個人）の間の様々な団体（社団）についての説明です。17世紀の各国の政治制度に関する参考文献と照らし合わせて学習すると、その意図がよくわかります。     |
| 第28回 | 「第二十三章 主権の公的代行者について」「第二十四章 助言について」 | リヴァイアサンの「政府機構」に関する議論です。ここまで読めば、もう受講者なりの近世国家のイメージはつかめるでしょう。最後にまとめのレポートを課します。                  |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

（前半）

・事前に購読箇所を読めます。最初は著者の意図がつかめないことも多いので、前回の授業で取ったメモを参照しながら読みます（2時間）。

（後半）

・反転学習を課しますので、割り当てに応じて内容をレジュメにまとめ、それを受講者で共有します。担当する場合は3～4時間の予習を要します。また毎回の振り返りに1時間ほどの復習が望まれます。

**【テキスト（教科書）】**

Th. ホブズ（永井道雄・上田邦義訳）『ホブズ リヴァイアサンⅠ』中央公論新社 2020（第3版）

**【参考書】**

高澤紀恵『主権国家体制の成立』山川出版社 1997

近藤和彦『近世ヨーロッパ』山川出版社 2018

二宮宏之『全体を見る眼と歴史家たち』平凡社 1995

J. ヘンリー『一七世紀科学革命』岩波書店 2005

ヒロ・ヒライ／小澤実編『知のマイクロコスモス』中央公論新社 2014

その他教場で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価基準は以下のようになります。

- ・音読と解釈の提示、ディスカッションへの参加（毎回チェックします）：50%
- ・反転授業でのレジュメ作成と解説：30%
- ・最終レポート：20%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません（パソコン・スマホ持ち込み可。ChatGPT等AI使用可。もちろんなくても問題ありません）。

**【その他の重要事項】**

特にありません。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) By reading Thomas Hobbes' Leviathan (1651) to understand the historical background and the intent of the text accurately, we will learn how "state" (political communities, in the word of the time "Commonwealth") were perceived in early modern Europe, and consider what kind of political and intellectual conditions it was based on.

(Learning Objectives) By analytically interpreting the cutting-edge views on nature, humanity, and nation in the mid-17th century, which was the intersection of continuity from the Middle Ages and connection to modernity, we explore the possibilities of social metacognition reached by European society at the time. Understand its limitations and build a foothold for analyzing early modern and modern European history.

(Learning outside of classroom) First half: you can read the subscription section in advance. In introduction, it is often difficult to understand the author's intentions, so read while referring to the notes you took in the previous class (taking ca. 2 hours).

Latter half: since we will be assigning flipped learning, we will compile the contents into a resume according to the assignment and share it with the students. If you are in charge, you will need 3 to 4 hours of preparation. It is also recommended that you review for about an hour each time.

**(Grading Criteria/Policy)**

- ・ Reading aloud, presenting interpretations, and participating in discussions (check each time): 50%
- ・ Resume creation and explanation in flipped classroom: 30%
- ・ Final report: 20%

HIS200BE (史学 / History 200)

## 考古学概論

小倉 淳一

授業コード：A3152 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年  
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。  
その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

### 【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。  
考古学的方法が発達する過程が理解できる。  
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。  
授業方法は講義形式による。受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。  
質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                    |
|------|-----------------|-----------------------|
| 第1回  | ガイダンス           | 授業の概要と方法・評価基準         |
| 第2回  | 考古学とは何か         | 考古学の本質                |
| 第3回  | 古代日本における考古学的認識  | 考古学的営為を試みた先人たち        |
| 第4回  | 近世日本における学術的展開   | 近代科学につながる学術的な先駆者たちの展開 |
| 第5回  | ヨーロッパ考古学の展開     | 古典考古学と先史考古学           |
| 第6回  | 層位学と型式学         | 学術的方法の整備              |
| 第7回  | 近代科学として導入された考古学 | 外国人による近代の考古学的営為       |
| 第8回  | 人種・民族論争と記紀      | 近代考古学を担った日本人研究者たち     |
| 第9回  | 実証主義研究の展開       | 貝塚研究と編年学派             |
| 第10回 | 戦時体制と考古学        | 言論統制と考古学              |
| 第11回 | 戦後考古学の光と影（1）    | 岩宿遺跡と登呂遺跡             |
| 第12回 | 戦後考古学の光と影（2）    | 大規模開発と遺跡破壊            |
| 第13回 | 現代と考古学（1）       | 関連諸科学と考古学             |
| 第14回 | 現代と考古学（2）       | 文化財保護行政と考古学           |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考書を参照すること。

### 【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全9巻）

### 【成績評価の方法と基準】

論述式の筆記試験（参照不可）による評価を70%とし、平常点による評価を30%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

### 【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れられているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide students with an overview of archaeology and its methods, and to understand its academic and historical development.

Students will be able to explain the process of academic development of archaeology, particularly in Japan, and the relationship between archaeology and related sciences.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and normal score (30%).

HIS200BE (史学 / History 200)

**史学概論**

齋藤 勝

授業コード：A3153 | 曜日・時限：木1/Thu.1  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

歴史学という学問の特性について認識を深める。  
 自らの歴史研究のあり方や位置づけを省みるために、歴史学という学問の持つ特性を多角的に学ぶ。

**【到達目標】**

歴史学という学問の性質、方法、潮流、他の学問との関係等についての理解を深めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行っていきます。質問等は原則として授業の前後に行ってください。課題等に対するフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。なお、授業の進度等により授業計画が変更される場合があります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                    |
|------|-------------|-----------------------|
| 第1回  | 史学概論と歴史学    | 史学概論という授業の位置づけと歴史学の特性 |
| 第2回  | 歴史学の目的①     | 歴史学の目的の三分             |
| 第3回  | 歴史学の目的②     | 歴史学の目的の相互関係           |
| 第4回  | 歴史学の対象      | 歴史学の対象の設定             |
| 第5回  | 歴史学と事実①     | 事実の位置づけと種類            |
| 第6回  | 歴史学と事実②     | 事実の認識                 |
| 第7回  | 歴史認識①       | 主観性と客観性               |
| 第8回  | 歴史認識②       | 蓋然性・因果関係・相互連関         |
| 第9回  | 史料①         | 史料の種類と史料批判            |
| 第10回 | 史料②         | 史料の解釈と総合              |
| 第11回 | 歴史学の潮流      | 近代歴史学と「新しい歴史学」        |
| 第12回 | 歴史学と他の学問分野① | 事例：歴史学と経済学            |
| 第13回 | 歴史学と他の学問分野② | 事例：歴史学と災禍             |
| 第14回 | まとめ         | 歴史学の特性と研究の関係          |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 予習・復習として指定された関連文献を読むことが求められます。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験もしくはレポート100%。  
 試験かレポートかは授業の進展に応じて決めていきます。  
 講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とする予定です。  
 決定や変更については、試験実施もしくはレポート提出期限の二週間前までに告知します。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【その他の重要事項】**

今年度からの新規の担当なので、変更が生ずることがあるかもしれません。その点は事前にご承知おき下さい。

**【Outline (in English)】**

Course outline: This course deals with characteristics of the study of history.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider characteristics, methods and history of the study of history and relations with other academic fields.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or examination(100%)



HIS200BE (史学 / History 200)

日本史特講 I

中山 学

授業コード：A3154 | 曜日・時限：水3/Wed.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当科目が取り扱う時期は、17世紀中期から18世紀中期にかかる約1世紀間です。注視期間は必ずしも長いとは言えませんが、この時期には、近世日本の成立の歴史的意義を考えさせる事象が散見します。当科目では、その一つとして、この時期に江戸幕府が実施した「似せ薬種」対策を取り上げます。具体的には、救済にかかわる当時の医薬の政治的意義を踏まえつつ、この時期に一体どのような課題認識に基づいて当該の対策がどのように展開したのかを検討します。そして、この対策が18世紀前期を画期として強固の対外的自己完結性の確立を指向しつつ展開したことについて理解を共有すると共に、そのような指向が強く表われることになった要因を考えます。

【到達目標】

- ① 17世紀中期から18世紀中期に江戸幕府が実施した「似せ薬種」対策の経過を説明することができる。
- ② この対策が18世紀前期を画期として対外的自己完結性を強く表すものとなった要因を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本テーマにかかわる近世史料を読み解きながら講義を実施します。また、学習内容の整理と理解確認のために授業実施期間中にリポート作成を2回課し、それへのフィードバックによって理解を助けます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                                                                                                                  |
|------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | はじめに(ガイダンス)        | 当科目の目的、進め方、成績評価の方法等について概要を説明します。                                                                                    |
| 第2回  | 近世日本の正統性観念と救済(1)   | 徳川家の正史(徳川実紀)に収録された徳川家康・家光・吉宗ら3人の歴代将軍それぞれと「瘡」とのかかわりを説く特異な伝記を取り上げ、まずそれらを一つずつ読解します。                                    |
| 第3回  | 近世日本の正統性観念と救済(2)   | 前回に引き続き、読解した3人の伝記の相互連関について理解を共有します。                                                                                 |
| 第4回  | 近世日本の正統性観念と救済(3)   | 前2回の授業で読んだ史料の内容と構成とに再度注視し、「瘡」とのかかわりに触れる特異な3つの伝記が総じてどのようなことを伝えようとしたものであるのか考えます。ここでは徳川将軍を正統の定点に位置づける近世日本の世界観を瞥見します。   |
| 第5回  | 対策実施の歴史的背景         | これから検討する「似せ薬種」対策の背景に都市社会の形成と薬材需要の高まりがあったということについて情報共有します。                                                           |
| 第6回  | 17世紀段階の「似せ薬種」対策(1) | 大坂道修町の薬種問屋仲間が「似せ薬種」の流通の差し止めにかかわって作成した明暦4年の文書の写しを取り上げ、まず丁寧に読解します。                                                    |
| 第7回  | 17世紀段階の「似せ薬種」対策(2) | 前回読解した史料をもとに、幕府が17世紀中期までに「似せ薬種」の流通に関してどのような認識を持ち得ていたか検討します。また、この認識に基づいて、その後どのような対策で臨むことになったか確認します。                  |
| 第8回  | 18世紀段階の「似せ薬種」対策(1) | 徳川吉宗による「薬種御尋」の実施を嚆矢として展開した丹羽正伯らによる薬草の実踏調査に関する史料を読解します。                                                              |
| 第9回  | 18世紀段階の「似せ薬種」対策(2) | 前回に引き続き、吉宗政権が実施した薬草栽培と和薬種改めの制度化に関する史料を読解します。                                                                        |
| 第10回 | 18世紀段階の「似せ薬種」対策(3) | 前2回の授業で史料から得た情報を整理し、薬草調査、薬草栽培、和薬種改めがどのように関連したものであるのか考察します。そして18世紀段階の政権が「似せ薬種」の流通を差し止めるためにどのような対策で臨むようになったか理解を共有します。 |

第11回 18世紀段階の「似せ薬種」対策(4)

これまでの史料読解を通じて得た知見を再度整理しつつ、17世紀段階での対策に吉宗政権が採った対策を対照させ、後者の画期性、実効性について理解を深めます。また、吉宗政権が「似せ薬種」の流通を差し止めるべく採った対策が薬種の流通に関して自己完結性を強化するものであったことに注意し、当該の対策の歴史的意義を考えます。対馬藩が残した記録を取り上げ、江戸幕府が17世紀中期の頃より一貫して「似せ薬種」対策に臨まざるをえなくなった本質的要因を探ります。今回は、吉宗が対馬藩に朝鮮人参の輸入量の推移について調査を命じた時の記録に注目し、朝鮮人参との交換財に使用された銀の確保に関して大きな課題が認識されていたことを理解します。

第12回 対策実施の本質的要因(1)

第13回 対策実施の本質的要因(2)

前回に引き続き吉宗が朝鮮人参の輸入量の推移について調査を命じた時の対馬藩の記録を読み進めます。今回は、朝鮮人参の確保を難しくしていた要因として、銀の確保にかかわる課題の外にもう一つ、天産物である薬材の利用をめぐる国外で競合が生じているとした対馬藩からの報告に注目します。そして、「似せ薬種」の流通が拡大した本質的要因がどのようなところにあったと言えるでしょうか考えます。今期授業の内容を振り返り、理解範囲を確認します。

第14回 おわりに

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ① 本授業の準備学習・復習：各2時間
- ② 授業実施期間中のリポート作成2回：各4時間程度

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。史料を配布する。

【参考書】

- 辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館(1985年)
- 安田 健『江戸諸国産物帳-丹羽正伯の人と仕事』晶文社(1987年)
- 田代和生『江戸時代 朝鮮薬材調査の研究』慶應義塾大学出版会(1999年)

【成績評価の方法と基準】

授業実施期間中リポート2回(50%)、期末リポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

論証過程を解りやすいものとするために、毎回の講義テーマの編制を見直しました。

【学生が準備すべき機器他】

- パソコン(リポート提出等に学習支援システムを使用するため)
- ノート1冊(講義メモ用)
- ファイルまたはフォルダ(配布史料の保管と毎回授業への持参のため)

【その他の重要事項】

テーマ関連科目：日本史特講IV

【Outline(in English)】

(Course outline)

This subject covers a period of approximately one century, from the mid-17th century to the mid-18th century. Although the period of observation is not necessarily long, there are several events during this period that make us think about the historical significance of the establishment of early modern Japan. In this course, we will discuss countermeasures against "imitation drugs" implemented by the Edo Shogunate during this period. Specifically, we will examine how the countermeasures in question were developed based on what kind of issues were recognized during this period, taking into account the political significance of medicine at the time in relation to relief. We will then share the understanding that this measure evolved with the aim of establishing strong external self-sufficiency starting in the early 18th century, and consider the factors that led to the strong emergence of such an orientation.

As a side note, the lecture will proceed while reading early modern Japanese historical materials related to this theme.

(Learning Objectives)

1. Be able to explain the progress of countermeasures against "imitation medicines" implemented by the Edo shogunate from the mid-17th century to the mid-18th century.
2. We can explain the reasons why this measure became a breakthrough in the early 18th century and came to strongly represent external self-sufficiency.

(Learning activities outside of classroom)

- 1.Preparatory study/review: 2 hours each
- 2.Report creation 2 times during the course: approximately 4 hours each (Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Course-end report:50%

HIS200BE (史学/History 200)

## 日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世前期（鎌倉時代から南北朝時代）の武士を始めとする人々に対する理解を深めるため、人物史の視点から学ぶ。武家などの政治権力との関わりをふまえつつ、特に仏教信仰に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

平安時代後期から南北朝時代にかけての地方武士（御家人）について、在地領主としての活動のみならず、仏教信仰や文化活動からうかがえる心性を含めて、人物像を明確に描くことができる。日本中世の和様漢文史料を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章ごとに「学習支援システム」の「教材」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章ごと（第1章から第6章）に計6回の小テストを実施する。小テストは、「学習支援システム」の「テスト/アンケート」から授業日の翌日までに提出すること。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                             |
|------|------------------------|--------------------------------|
| 第1回  | 中世武士論の現在<br>(1)        | 履修のガイダンス                       |
| 第2回  | 中世武士論の現在<br>(2)        | 平安・鎌倉武士論の概略                    |
| 第3回  | 中世武士論の現在<br>(3)        | 平安・鎌倉武士論の概略（小テスト1）             |
| 第4回  | 武蔵武士熊谷直実と<br>鎌倉幕府（1）   | 熊谷直実の活動と武家政権                   |
| 第5回  | 武蔵武士熊谷直実と<br>鎌倉幕府（2）   | 熊谷直実の活動と武家政権（小テスト2）            |
| 第6回  | 熊谷直実の出家と浄<br>土宗（1）     | 出家の経緯と念仏者としての活動                |
| 第7回  | 熊谷直実の出家と浄<br>土宗（2）     | 出家の経緯と念仏者としての活動<br>（小テスト3）     |
| 第8回  | ある紀伊武士の出家<br>と西大寺流（1）  | 出家の経緯と尾道浄土寺の創建                 |
| 第9回  | ある紀伊武士の出家<br>と西大寺流（2）  | 出家の経緯と尾道浄土寺の創建<br>（小テスト4）      |
| 第10回 | 近江武士佐々木導誉<br>と南北朝文化（1） | バサラ大名の文化活動と仏教信仰                |
| 第11回 | 近江武士佐々木導誉<br>と南北朝文化（2） | バサラ大名の文化活動と仏教信仰<br>（小テスト5）     |
| 第12回 | 文字を拝む中世人<br>（1）        | 梵字・名号・題目の礼拝と中世の<br>浄土思想        |
| 第13回 | 文字を拝む中世人<br>（2）        | 梵字・名号・題目の礼拝と中世の<br>浄土思想（小テスト6） |
| 第14回 | 『平家物語』の成立と<br>構想       | 歴史物語としての性格                     |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。ノート等を見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章ごとにプリントを配布する。

## 【参考書】

『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史21 鎌倉時代4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013年）

その他は、授業時に章ごとに指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

## 【学生の意見等からの気づき】

各章の論点を最初に明示する。

## 【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「テスト/アンケート」から期限内に小テストを提出すること。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS200BE (史学/History 200)

## 日本史特講Ⅲ

稲田 奈津子

授業コード：A3156 | 曜日・時限：金1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代初期に成立した説話集『古事談』には、平安時代後期を中心に、多彩な話題が掲載されている。歴史的事実に即した内容もあれば、史実とは異なる虚構や怪異譚なども含まれている。しかしそこには、平安時代の具体像を彷彿とさせる様々な要素が散りばめられているようだ。そこで本講義では、『古事談』所載の説話を糸口に、平安時代の文化・社会・精神などが窺われるトピックスを取りあげ、歴史学的に検討を加えることを通して、時代の雰囲気をつかんでいきたい。

### 【到達目標】

ある出来事が、伝えるメディアによってそれぞれ異なる切り口で語られるのは、今も昔も同じである。本授業では、『古事談』の説話を基本にしつつ、関連する歴史史料と読み比べていくことで、平安社会の具体像に迫るとともに、それぞれの史料（メディア）の性格も考えていきたい。こうした作業を通して、史料読解や史料批判など、歴史史料の基本的な取り扱い方を学ぶとともに、ひとつのメディアを鵜呑みにしない批判的精神を養い、問題を発見し解決するための論理的な思考過程を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・講義スタイルで進めます。
- ・講義中には、指名によって史料を音読してもらうことがあります。ただし流暢さではなく取り組み方を重視するので、古文の苦手な人や留学生も臆さず参加してください。
- ・パワーポイントによって画像も多数提示する予定ですが、提示した画像をすべてプリントとして配布するわけではありません。毎回の出席が肝要となります。
- ・やむを得ず休講とする際には、レポートを課す場合があります。また授業進度等により、授業スケジュールに変更を加える場合があります。
- ・質疑応答は授業内での発言や授業後に提出してもらうリアクションペーパー（任意提出）を利用しておこないます。質問への回答は次の授業時間内におこないます。リアクションペーパーでクイズに回答してもらう場合もあります（その場合のみ提出必須）。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                    |
|------|------------------|-----------------------|
| 第1回  | ガイダンスー『古事談』についてー | 授業の進め方の説明、説話集『古事談』の概説 |
| 第2回  | 個性豊かな官人たち(1)     | 三舟の才                  |
| 第3回  | 個性豊かな官人たち(2)     | 殿上での喧嘩                |
| 第4回  | 個性豊かな官人たち(3)     | 扇に記した失錯               |
| 第5回  | 人事の悲喜劇(1)        | 自己推薦文                 |
| 第6回  | 人事の悲喜劇(2)        | 詩才による任官               |
| 第7回  | 人事の悲喜劇(3)        | 地方への赴任                |
| 第8回  | 信仰と出土文字資料(1)     | 冥官のフダと木簡              |
| 第9回  | 信仰と出土文字資料(2)     | 冥官への接待と墨書土器           |
| 第10回 | 信仰と出土文字資料(3)     | 聖徳太子の予言書              |
| 第11回 | 古記録と説話集(1)       | 藤原伊周の配流               |
| 第12回 | 古記録と説話集(2)       | 関係史料の検討（古記録）          |
| 第13回 | 古記録と説話集(3)       | 関係史料の検討（文学作品）         |
| 第14回 | 天神信仰と死後の昇進       | 関係史料の検討               |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前学習 次回講義に関連するプリントを配布するので、事前に目を通しておいください。(2時間)
- ・事後学習 プリントを読みなおし疑問を残さないようにして、小テストに備えてください。(2時間)

### 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します（学習支援システムにアップします）。教室での印刷物の配布はしませんので、各自で印刷してお手元にご用意ください。

### 【参考書】

新日本古典文学大系 41『古事談 続古事談』（岩波書店、2005年）  
浅見和彦編『「古事談」を読み解く』（笠間書院、2008年）

### 【成績評価の方法と基準】

・小テスト・レポート・クイズ（100%）…小テストは毎回（第1回を除く）授業冒頭にオンライン上で実施します。期末の試験・レポートはありません。

・授業の積極性（加点要素）…授業内での音読・発言、授業の理解を深めるのに役立つ有益な質問や感想など（リアクションペーパーの提出は任意です。提出したからといって加点されるわけではありません）  
※基本的に毎回の小テストの合計点（正答率）が最終得点となります。小テストを受験できない場合には、単位取得はできません。（教育実習など欠席理由証明書類を提出できる場合にのみ代替課題を出します。インターンや企業説明会など書類を用意できない場合には代替課題はありません）

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テスト実施は、授業内容の復習になって理解が深まり、学期末の負担軽減にもなるとの意見をいただいておりますので、今年度も継続したいと思えます。

### 【学生が準備すべき機器他】

小テスト受験やリアクションペーパーの受付はオンライン上でおこないます。Hoppiiに接続できる機器（スマホなど）を持参してください。

### 【Outline (in English)】

Course outline — In this class, we will read the “Kojidan,” a collection of tales written in early Kamakura period. The aim of the class is for students to become familiar with ancient records, and to be able to read it at a basic level. In addition, through reading comprehension, the course aims to develop students’interest in the politics, society, and culture of the Heian period and enable them to investigate and consider matters with a sense of the issues that arise.

Learning Objectives — At the end of the course, students are expected to learn the basic technique of handling the historical materials and to get the logical thinking of history.

Learning activities outside of classroom — We will have review quiz in every class meetings. Students will be expected to prepare for the quizzes.

Grading Criteria/Policy — Grading will be decided based on quiz(100%) and in-class contribution.

HIS200BE (史学 / History 200)

## 日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では、江戸幕府第8代の将軍、徳川吉宗の活動に注目します。この人物は、次期将軍に内定してから間もない正徳6年（1716）6月3日における「御代々の御書物目録」の閲覧を手始めとして、在職中は実は一貫して徳川将軍家伝世の諸書籍の校合、校勘に注力しました。具体的には、自らも武家方や堂上方の儀礼の成り立ちに関して示唆的な書籍の「御見合」、「御引合」を行いつつ、御書物奉行や幕府内外の諸学者にも命じて諸書籍のテキストを点検、精査させました。当科目では、その事業過程における吉宗本人の活動を復元的に考察するところから、こうした作業がいったい何のために実施されたのかを検討します。歴史的なテキストそれ自体に権威を付与、温存させてゆく中心化のあり方に注意を払いながら、私たちとの連関についても考えたいと思っています。

## 【到達目標】

史料に基づき、徳川吉宗が実施した将軍家蔵書の校合・校勘の目的とその歴史的意義を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本テーマにかかわる近世史料を読み解きながら講義を実施します。また、学習内容の整理と理解確認のために授業実施期間中にリポート作成を2回課し、それへのフィードバックによって理解を助けます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                  | 内容                                                                                                                                                            |
|-----|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | はじめに（ガイダンス）          | 当科目の目的、進め方、成績評価の方法等について概要を説明します。                                                                                                                              |
| 第2回 | 徳川将軍家の「御文庫」(1)       | 先行研究を参照して、御文庫と将軍家蔵書の沿革を確認します。                                                                                                                                 |
| 第3回 | 徳川将軍家の「御文庫」(2)       | 前回に引き続き先行研究を参照し、御文庫と将軍家蔵書に関する吉宗の実績がどのように把握されてきたか批判的に検討します。                                                                                                    |
| 第4回 | 参照史料                 | 徳川吉宗の活動を復元的に考察するために使用する史料について一通り確認します。                                                                                                                        |
| 第5回 | 吉宗の初動(1)             | 紀州藩出身の徳川吉宗が次期将軍に内定した頃の様子を江戸幕府日記の中に確認します。また、その頃の吉宗の活動を探るべく御書物奉行の業務日誌に注目し、その正徳6年6月3日の日誌を読解します。そして、次期将軍に内定して間もない吉宗が真っ先に御文庫の書物目録に目を通していたことを確認します。                 |
| 第6回 | 吉宗の初動(2)             | 前回に引き続き、御書物奉行が書き残した正徳6年6月4日の日誌を読解し、吉宗が「御文庫」からいくつかの書物を取り寄せていたことを確認します。                                                                                         |
| 第7回 | 吉宗による書物「御見合」とその意義(1) | 江戸時代後期に近藤重蔵が諸記録に基づいてまとめた徳川吉宗の文事に関する年表に注目し、先に見た吉宗による将軍家蔵書への接触がどのような作業に連続していった可能性があるか示唆を得ます。ここでは、近藤が正徳6年6月4日の吉宗の行動の意義に触れ、旗本小笠原家伝来の家伝書の上覧との間に連関があるとみていたことに注目します。 |

第8回 吉宗による書物「御見合」とその意義(2)

前回の作業で確認した近藤重蔵の示唆に従い、旗本小笠原家が江戸時代後期に幕府に提出した先祖書を取り上げます。そして、その先祖書に収録された享保時代の当主の経歴書を読み、吉宗が閲覧を開始した書物に関連していったい何をしていただのか検討します。ここでは、吉宗が書物の「御見合」を行っていたという指摘に注目すると共に、中世由来の武家の弓馬術の復興に尽力していた様子を確認します。

第9回 吉宗による書物「御見合」とその意義(3)

前回確認したことに示唆を得て、正徳6年6月4日に取り寄せていた書物を再度点検します。そして、それらの中に弓馬術に関するものが含まれていたことを確認し、御書物奉行の日誌をもとに吉宗が当該の書物をその後どのように閲覧していたか追跡します。また、それら閲覧書物の出所にも注目し、それらの出所となったいくつかの武家の先祖書にもアクセスします。こうして、この回では吉宗が20年近くにわたって武家故実に関する書物の「御見合」を継続していたという事実を確認し、その意義について考えます。

第10回 「師古日記」に見る吉宗の活動の内実(1)

これから3回にわたり、吉宗が注力した書物の「御見合」とは具体的にどのような作業であったと考えられるか検討します。そのために享保時代に御書物奉行を務めた下田師古の日記（写）を取り上げます。その初回となるこの回では、吉宗が京都から有職故実に通じた学者を呼び寄せていたという事実をまず確認します。

第11回 「師古日記」に見る吉宗の活動の内実(2)

前回に続き下田師古の日記を読み、享保10年当時、吉宗が「令義解」を通じて知られる「衣服令」の正確な読解に努めていたことを確認します。

第12回 「師古日記」に見る吉宗の活動の内実(3)

前回に続き下田師古の日記を読み進め、吉宗が下田師古を通じて有職故実の専門家に対して投じていた質問の内容を詳しく検討し、吉宗が本質的に何に関心を向けていたのか考察します。

第13回 歴史的テキスト・権力

これまで検討してきた吉宗の活動を整理し、吉宗が「御文庫」蔵書の歴史的テキストに対していったいどのような態度を示していた可能性があるか考えます。また、吉宗が歴史的テキストに対して示したと考えられる態度の歴史的意義について理解を深めると共に、現今の私たちが歴史的テキストに対して示す関心や態度との共通性について考えます。今期授業の内容を振り返り、理解範囲を確認します。

第14回 まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①本授業の準備学習・復習：各2時間
- ②授業実施期間中のリポート作成2回：各4時間程度
- ③その他、史料保存機関の見学及び史料の原本実見：教員引率2～3時間程度（これについては授業実施期間中に別途案内します）

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。史料を配付します。

## 【参考書】

- 辻 達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962年）  
 福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980年）  
 辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985年）  
 吉岡 孝「吉宗政権における古式復興と儀礼」『国史学』第200号所収（2010年）  
 小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013年3刷）

## 【成績評価の方法と基準】

授業実施期間中リポート2回（50%）、期末リポート（50%）

## 【学生の意見等からの気づき】

論証過程を見通しやすいため、毎回の講義テーマの編制を見直しました。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン（リポート提出等に学習支援システムを使用するため）  
 ノート1冊（講義メモ用）  
 ファイルまたはフォルダ（配布史料の保管と毎回授業への持参のため）

## 【その他の重要事項】

テーマ関連科目・日本史特講 I

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will focus on the activities of Tokugawa Yoshimune, the eighth shogun of the Edo shogunate. During his time as a shogun, this person focused on proofreading books collected by successive shoguns since Tokugawa Ieyasu. He himself proofread the texts of historical books originating from ancient or medieval times that teach the origins of the rituals of court nobles and samurai families, while also ordering book magistrates and scholars to inspect and scrutinize the texts of books in various fields.

In this course, we will examine Tokugawa Yoshimune's own activities in the course of his business from a reconstructive perspective. Then, consider why such work was carried out. While paying attention to the centralization that gives and preserves authority to historical texts themselves, I would also like to think about how they relate to us.

As a side note, the lecture will proceed while reading early modern Japanese historical materials related to this theme.

(Learning activities outside of classroom)

1. Preparatory study/review: 2 hours each

2. Report creation 2 times during the course: approximately 4 hours each

3. In addition, tours of historical materials preservation facilities and viewing of original historical materials: Approximately 2 to 3 hours led by a teacher (separate guidance will be provided during the class period)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course: 50%

Course-end report: 50%

HIS200BE (史学/History 200)

## 日本史特講Ⅴ

宮間 純一

授業コード：A3158 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代日本の発端として位置づけられてきた明治維新の具体相を学ぶことで、近世・近代移行期における日本社会の歴史像を構築する力を身につける。

## 【到達目標】

講義で解説された明治維新に関するさまざまな事象を単に暗記するのではなく、日本史上における明治維新の位置づけを把握し、独自の歴史意識を持てるようになる。また、その歴史意識を言語化し、明瞭に論述できるようになる。具体的なテーマとしては、天皇・武士・ジェンダー・被差別民・教育等の問題を扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で実施する。折に触れてショートレポートの提出を求め、その内容に対して次の授業時間にフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                                    |
|------|------------|---------------------------------------|
| 第1回  | 明治維新像の変遷   | 戦前以来の明治維新像の変遷を歴史研究の動向を踏まえながら解説する。     |
| 第2回  | 天皇と明治維新    | 近世には「みえない」存在であった天皇が国家元首となるまでの過程を解説する。 |
| 第3回  | 公家の明治維新    | 公家の明治維新について鷲尾隆聚という下級公家を中心に解説する。       |
| 第4回  | 大名の明治維新    | 大名の明治維新について下総佐倉藩堀田家を中心に解説する。          |
| 第5回  | 武士の明治維新    | 旧秋田藩士・旧幕臣を中心に武士の明治維新について解説する。         |
| 第6回  | 志士の明治維新    | 幕末維新期に現れた志士の動向について解説する。               |
| 第7回  | 外交儀礼と明治維新  | 明治初期における日本の外交儀礼の形成について解説する。           |
| 第8回  | 宗教と明治維新    | 明治政府の神道国教化政策、キリスト教の黙許などについて解説する。      |
| 第9回  | 書物・記録と明治維新 | 幕府が管理していた文庫や明治政府が設置した書籍館について解説する。     |
| 第10回 | 文明開化と明治維新  | 文明開化について違式誣違条例など生活に関わる問題を中心に解説する。     |
| 第11回 | 遊女の明治維新    | 吉原の明治維新を芸妓解放令を中心に解説する。                |
| 第12回 | 被差別民の明治維新  | 被差別民の明治維新を「身分解放令」や新政反対一揆を中心に解説する。     |
| 第13回 | 記憶にみる明治維新  | 明治維新の顕彰による集会的記憶の形成について新選組などを事例に解説する。  |
| 第14回 | まとめと成果確認   | 達成度を確認するための試験を実施する。                   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配布するテキストに事前に目を通すこと。  
準備・復習時間は講義1回につき4時間以上とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用せず、毎回レジュメを配付する。

## 【参考書】

都度紹介するが、さしあたり以下の文献をあげておく。  
明治維新史学会編『講座明治維新』1～12（有志舎、2010年～2018年）  
宮地正人『幕末維新変革史』上・下（岩波書店、2012年）  
井上清『明治維新』（日本の歴史20、中央公論新社、2006年）  
松尾正人『維新政権』（吉川弘文館、1995年）  
井上勲『王政復古』（中公新書、1991年）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）・ショートレポート（20%）・授業に対する取り組み方（10%）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

歴史学を専攻していない学生も理解できるよう、基本的な事項についても丁寧に解説する。また、できるだけ現代との結びつきを念頭においた授業を展開する。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配付、リアクション・ペーパーの提出に際して、学習支援システムを利用することがある。

## 【Outline (in English)】

This course introduces Meiji Restoration to students taking this course. The goal of this course is to understand the Meiji Restoration. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%、Short reports : 20%、in class contribution: 10%.

HIS200BE (史学 / History 200)

## 日本史特講Ⅵ

米崎 清実

授業コード：A3159 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解読、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

### 【到達目標】

- ・地域史研究の意義を理解します。
- ・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
- ・地方文書を解読し、分析できる力を修得します。
- ・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
- ・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主に関東の地方文書の解読、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解読し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                        |
|------|--------------|-------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス        | 講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義 |
| 第2回  | 近世の支配体制と地方文書 | 近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類                   |
| 第3回  | 近世村落の成立と検地   | 検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村                |
| 第4回  | 百姓の家         | 宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格            |
| 第5回  | 村の法・財政と村落運営  | 村議定、村入用、村役人の家、村役人制                        |
| 第6回  | 村組と地域格差      | 村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立            |
| 第7回  | 支配のしくみと地域社会  | 幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特質            |
| 第8回  | 百姓の年貢諸役      | 年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識                      |
| 第9回  | 地域社会の身分集団    | 地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団                 |
| 第10回 | 村人の信仰と文化活動   | 村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動                 |
| 第11回 | 村の祭りと若者仲間    | 村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識          |
| 第12回 | 村社会の生業と百姓意識  | 村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち                   |
| 第13回 | 村社会と家族の秩序    | 村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続                 |
| 第14回 | まとめ          | 近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会      |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配付する史料 (活字にした近世の地方文書) を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。史料を配付します。

### 【参考書】

木村礎『近世の村』(1980年、教育社)、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』(1987年、山川出版社)、大石学編『多摩と江戸』(2000年、けやき出版)、その他授業の中で適宜紹介します。大藤修『近世村人のライフサイクル』(2003年、山川出版社)、水本邦彦『村—百姓たちの近世—』(2015年、岩波新書)

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%)、平常点 (20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

史料 (活字にした近世の地方文書) を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

### 【学生が準備すべき機器他】

事前の史料の配付、課題の提出は学習支援システムを利用します。

### 【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

### 【Outline (in English)】

Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan. In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents. In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

The goals to be achieved in this course are the following five points.

- ・ Understand the significance of regional history research.
- ・ Understand the significance of the creation and transmission of various modern local documents.
- ・ Acquire the ability to decipher and analyze local documents.
- ・ Apprehend modern nations and societies through analysis of local documents.
- ・ Cultivate a perspective to think about today's community development and local culture.

### Assignment:

Before the class, please check the words you do not understand in the dictionary to be able to understand handouts. The standard preparation & review time for this course is 2 hours each.

Grade evaluation: Final exam (80%), usual performance score (20%)

HIS200BE (史学/History 200)

日本史特講Ⅶ

山田 康弘

授業コード：A3160 | 曜日・時限：金1/Fri.1  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、戦国期足利将軍たちの生涯と、その周辺の情勢をわかりやすく解説していくことで、受講生の皆さんが次の二つのことを理解できるようにしていく。

まず一つは「歴史学とは何をする学問か」ということである。よく「何百年も昔のことで、それが何になるのか。歴史学には有用性がない」という人がいる。そのような人は、歴史学を誤解している。歴史学は、過去を解明するだけの学問ではない。過去を知り、この過去を使って「現代(現在)をより深く知る」という学問なのだ。

私たちは現代に生きている。それゆえ「現代をよく知らない」というのは危険なことである。しかし、私たちにあって現代はあまりにも「当たり前」すぎるので、私たちに現代の姿が意外に見えにくい。そこで、過去を使うのである。たとえば、過去を明らかにし、それと現代とを比較していく。すると、過去の特徴とともに現代のさまざまな特徴もあぶり出され、私たちにも「当たり前すぎて気づきにくい」現代の姿が見えてくる。こういったことをするのが歴史学なのだ。そこで本講義では、こうした「面白いだけでなく、現代において役に立つ」歴史学の真の姿を示していく。

もう一つは「研究はどのような手順でおこなうのか」を受講生の皆さんが理解できるようにしていくことである。歴史学の研究は「(何かと何かを比較することで)疑問を見つける」⇒「疑問に基づいて、信頼できる史料を集めたうえでこれを正しく分析する」⇒「自分なりの仮説を立てる」⇒「他者と議論して仮説を修正する」といった手順で進めていく。本講義では、こういった歴史学の手法を受講生たちが身につけることができるよう、わかりやすく解説していく。なぜならば、こうした歴史学の手法——自分で問題を見つけ、信頼できるデータを集めてこれを正しくあつかい、そこから事実と論理に基づいた結論を導き出す、という手法は、さまざまな情報(偽情報・誤情報を含む)が氾濫する現代社会で生きていくうえで、きっと強力な武器になっていくだろうからである。

【到達目標】

歴史学の存在意義を認識しうるとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ(史料)の正しい取りあつかい方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができる。さらに、歴史学研究の「社会的使命」をきちんと理解したうえで、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3部構成とし、講義形式で進める。具体的には、まず第1・2回において「歴史学とは何を目的とする学問なのか」、「歴史学研究の「型」はどのようなものか」を解説していく。次いで第3～7回では「難解な事柄も、ストーリー形式にすることで分かりやすくなる」ということを、戦国時代の足利将軍たちの生涯を例にして示していく。そして第8～13回において、「過去を知ることによって現代をより深く知る」ことを、戦国時代の日本列島と現代の世界(国際社会)とを比較しながら具体的に説明していく。

なお、配布プリントを使って解説する。出席カードやリアクションペーパー記入された疑問点については、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                 | 内容                                                                                                                             |
|-----|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 歴史学は何のためにあるのか——「面白いだけ」「過去を学ぶだけ」なのか。 | 何百年も昔の過去を知って何か役に立つのか。過去を知れば、現代に生きる教訓を得たり、未来を予言したりすることができるのか……。ここでは、歴史学とは何をする学問であり、何のためにあるのかといった、歴史学の「存在意義」を説明していく予定である。        |
| 第2回 | 歴史学研究の「型」はどのようなものか。                 | 歴史学の研究は、どのように進めていくのか。疑問はどうすれば見つけられるのか。「知る」と「考える」はどう違うのか。データを正しく扱うにはどうすればよいのか……。ここでは、歴史学研究の基本的な「型」を初学者向けに解説し、これを身につけられるようにしていく。 |

|      |                                     |                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第3回  | 足利将軍はなぜ「弱小」政権だったのか。                 | 歴史学の成果は、有用なだけでなく面白い。この面白さの源泉は「物語(ナラティブ)性」にある。難解な事柄でも、物語形式にすることで誰でも理解しやすくなるのだ。そこで第3回～第7回では、戦国期足利将軍たちの生涯を素材に取りあげ、「どう物語ればよいのか」を考えていこう。   |
| 第4回  | 戦国時代の将軍たちは何をしていたのか(前編)。             | 戦国時代、将軍はどこで、何をしていたのか……。戦国期においても、将軍はなお「日本列島全体の存在」であった。それゆえ、戦国日本を知るためには将軍を理解することが欠かせない。そこでここでは、戦国時代に活躍した将軍7人を取りあげ、その生涯を概説していく。          |
| 第5回  | 戦国時代の将軍たちは何をしていたのか(中編)。             | 戦国期に生きた将軍たちは、いずれもさまざまな事件に巻きこまれ、時には京都から地方に流浪した。しかし、それでもしぶとく生き残り、京都・畿内に一定の平和をもたらすこともあった。ここでは前回に引きつづき、こうした戦国期将軍7人の生涯を概説していく。             |
| 第6回  | 戦国時代の将軍たちは何をしていたのか(後編)。             | 昨年、歴史学は細分化し、難解となり、一般社会から避難して研究者とマニアだけのものになりつつある。これは歴史学の危機だ。では、歴史学の成果を、一般の人たちにもわかるように伝えるにはどうしたらよいのか……。ここでは、戦国期将軍たちの生涯を素材にこの問題を考えよう。    |
| 第7回  | 「信長包囲網」はなぜ機能しなかったのか——足利義昭と織田信長。     | 足利義昭や毛利・武田・上杉・本願寺といった反織田信長の連合は、なぜ信長の封じこめに失敗したのか……。ここでは、現代でも当てはまる「対等な者同士が団結しつづける」ことの困難さや、心理学や行動経済学、社会学の知見も援用しながら考えていく予定である。            |
| 第8回  | 戦国期の将軍は、なぜすぐに滅亡しなかったのか。             | 足利将軍が戦国末まで存続した理由は何か……。ここでは、「大名たちにとって、将軍にはいかなる利用価値があったのか」という問題を考えていくことによって、将軍がすぐに滅亡しなかった謎を解き明かしていく。                                    |
| 第9回  | 戦国期日本列島「全体」の見取り図はどのようなものか。          | 戦国期日本列島は、全体としてどのような姿をしていたのだろうか……。ここではまず、戦国社会の「構造」(=骨組み)に注目していくことで、全体的見取り図を描きだしていく。そしてそのうえで、戦国社会と現代世界(国際社会)とを比較し、現代世界の特徴をあぶり出していく。     |
| 第10回 | 統一権力がないと「平和」は成り立たないのか(前編)。          | 戦国時代といっても、戦国大名間で日常に戦争が繰り起していたわけではなかった。それは、大名たちが戦争を回避する「工夫」をしていたからである。では、その工夫とはどのようなものか……。ここでは、大名間で戦争が起きた原因と大名たちの戦争回避策を考えていこう。         |
| 第11回 | 統一権力がないと「平和」は成り立たないのか(後編)。          | 戦国大名たちは「互いに相手の真意がわからない」という状況下、近隣の者同士でいかにして戦争を回避し、協調しあっていたのか……。ここでは、前回に引きつづいて大名たちの「自律型協調生成の仕組み」を考察するとともに、統一権力がなぜ成立していくのか、その要因を模索していく。  |
| 第12回 | 天皇はなぜ存続したのか——武家政権としての天皇の「利用価値」とは何か。 | 武家政権は、なぜ天皇を存続させたのだろうか……。ここでは、「歴代武家政権と天皇との関係」を「中世における英・仏王権と教会との関係」と比較しながら考察し、「権威があったからだ」といったことで片づけられがちな、天皇存続の謎を解き明かしていく。               |
| 第13回 | 「過去を知る」だけが歴史学の目的にあらず(全体のまとめ)。       | 過去を知ることが面白い。そして、現代を意識することで過去はもっと面白くなる。過去を知っても、教訓を得たり、未来を予言したりすることはできないが、過去を知ることによって私たちが生きている現代(現在)をより深く知ることができるのだ。このことを、あらためてここで確認する。 |
| 第14回 | 試験・まとめと解説                           | 論述式の試験を行う予定である。                                                                                                                       |



**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

プリント、ノートを見直して復習する。また、毎日、必ず新聞を読むこと。歴史学は「現代（現在）をより深く知る」ことを目的の一つとしている。それゆえ、「現代に無関心」というのでは歴史学は学べない。現代に関心をもつためには、毎日、新聞を読むことが最適である。それゆえ、受講生には新聞を読むことを求める（全国紙ならどれでもよい。なお、読み方は授業時に教示する）。

本授業のために、準備学習・復習時間は、合計2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指定しない。毎回、プリントを配布する。

**【参考書】**

山田康弘『足利将軍たちの戦国乱世』（中公新書、2023年）。これ以外は授業中に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験の点数70%、レポート20%、平常点10%の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席の場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

**【学生の意見等からの気づき】**

出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていきたい。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要（Course outline）】**

This course introduces “What is History?”, and “Historical research methods” to students taking this course.

**【到達目標（Learning Objectives）】**

The goals of this course are to know and understand what History is and how we study it.

**【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】**

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

**【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 70%. Short reports: 20%.in class contribution: 10%

HIS200BE (史学/History 200)

## 東洋史特講 I

飯尾 秀幸

授業コード：A3162 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とが居住単位としての家族と如何なる関係を持ち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

## 【到達目標】

考古学資料を歴史学として扱う方法を身に付ける。  
甲骨文字・青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。  
文字史料を読み込む力をつける。  
家族を歴史的に把握する方法を得ることで、現代の家族の問題を考える視点を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式

殷代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、甲骨文字、殷代青銅器銘文などを概観しつつ、中国の最古の「王朝」と呼ばれる時代の家族の形態を中心に、家族の在り方について考える。現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。なおアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                             | 内容                                              |
|------|---------------------------------|-------------------------------------------------|
| 第1回  | 家族とは何か                          | 中国新石器時代の姜寨集落遺跡とブラジルのボロロ族集落を比較する（確認）             |
| 第2回  | 中国考古学の成果—青銅器時代                  | 二里头文化の前期・後期の概要を紹介し、夏と殷について考える。                  |
| 第3回  | 殷墟文化とその社会                       | 殷代の祭祀区と墓地区（小屯と侯家莊遺跡）を紹介し、殷代社会構造を考える。            |
| 第4回  | 甲骨文字の出土と甲骨文字の性格                 | 甲骨文字の性格（祭祀と占いと政治）を考える。                          |
| 第5回  | 殷代の政治と社会の構造                     | 甲骨文字から見える殷代の政治方法と社会構造を考える。                      |
| 第6回  | 殷代の「家族」に関する諸学説の紹介               | 王位の継承についての二学説（王家存在説と王家不存在説）を紹介し、問題点を考える。        |
| 第7回  | 王家不存在説からみた王族グループの存在             | 王家不存在説から王族の構造を考える。王名・王妣名と太陽神話（10個の太陽）との関連を紹介する。 |
| 第8回  | 王家不存在説からみた王位継承法                 | 王位継承の仮説から、王族グループの構造について考える。姜寨集落遺跡との比較（連続性）      |
| 第9回  | 王家不存在説への批判とそれへの反論としての殷代青銅器銘文の性格 | 親族称問題を紹介する。殷代青銅器銘文の分類から親族称問題を考える。               |
| 第10回 | 殷代青銅器銘文分類のうちの宝貝賜与金文の構造          | 宝貝賜与金文から青銅器作者問題を考え、それが親族称問題と密接につながることを理解する。     |
| 第11回 | 殷代青銅器の種類と青銅器鑄造方法、青銅器鑄造集団の存在。    | 外范分割法の紹介。銘文と文様の鑄込み方を紹介する。                       |
| 第12回 | 殷代青銅器作者問題を考える実例紹介               | 賈由・賈尊の比較から青銅器作者問題を考える。                          |
| 第13回 | 親族称問題と青銅器作者問題のまとめ               | 王家不存在説という仮説が成立していることを確認し、家族構造が連続していることの意味を考える。  |
| 第14回 | 秋学期の解説                          | 各授業での質疑を含め、秋学期のまとめをする。                          |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとする概説書を読んで知識を得てください。また興味を引いたテーマについては図書館などで研究書のありかを検索し、積極的な学びを実践していただきたい。

予習・復習は、講義1回につき4時間を標準とします。

絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料・図版を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムの課題欄に提出された各回の授業内容についての200字程度のレポート、および学期末に提出を課すレポート（600字程度）で評価する。前者を40％・後者を60％とする。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することを心掛けたい。  
現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】

質問は授業内で原則受け付けます。また学習支援システムの「お知らせ」欄にEメールアドレスを提示するので、質問などはメールにていつでも送信してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end report (60%), and in-class contribution.

HIS200BE (史学 / History 200)

## 東洋史特講Ⅱ

澁谷 由紀

授業コード：A3163 | 曜日・時限：金1/Fri.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代から現代までの東南アジア通史を学びます。授業を通じて東南アジア史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代の東南アジアに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

### 【到達目標】

- ・東南アジアの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
- ・東南アジア史の特徴を理解すること
- ・東南アジア史の諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義中心に進めます。提出された課題は、①担当教員のコメントを付し（匿名化のうえ）クラス内で共有し議論する、または②担当教員のコメントを付し個別に返却するという形でフィードバックします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                |
|------|--------------------|-------------------|
| 第1回  | 「東南アジア」概念の成立       | 東南アジアの地域認識        |
| 第2回  | 東南アジア地域の地理的概観      | 生態的背景             |
| 第3回  | 青銅器文化と初期国家の形成      | 先史時代から9世紀         |
| 第4回  | 中世国家の展開            | 10～14世紀           |
| 第5回  | 交易の時代前期            | 15～16世紀前半         |
| 第6回  | 交易の時代後期            | 16世紀前半～17世紀       |
| 第7回  | 近世国家群の展開と再編        | 18～19世紀前半         |
| 第8回  | 植民地支配の進展           | 19世紀後半            |
| 第9回  | 東南アジア経済の再編成        | 19世紀後半～1930年代①    |
| 第10回 | ナショナリズムの勃興         | 19世紀後半～1930年代②    |
| 第11回 | 第二次世界大戦と東南アジア諸国の独立 | 1940年代～1950年代     |
| 第12回 | 冷戦への主体的対応          | 1950年代半ば～1970年代半ば |
| 第13回 | 経済発展・ASEAN10・民主化   | 1970年代半ば～1990年代   |
| 第14回 | まとめ                | ふりかえり             |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題（主として文献購読）に取り組み、原則として次回授業開始時まで提出してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

古田元夫『東南アジア史10講』（岩波新書、新赤版 1883）2021年、岩波書店

### 【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社  
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社  
その他の参考文献は授業中に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

課題（40%）、期末試験（60%）

### 【学生の意見等からの気づき】

課題作成の際には、法政大学図書館のウェブサイトの「お役立ちサポート：レポート・論文を書くには」(<https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report/>)を参考にしてください。

### 【Outline (in English)】

This course explores the entire span of Southeast Asian history, from prehistoric times to the present day. At the end of this course, students will understand major themes in the historical analysis of Southeast Asian history. Your final grade will be calculated according to the following process: In-class writing assignments (40%), Term-end examination: (60%). Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

HIS200BE (史学/History 200)

**東洋史特講Ⅲ**

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

**【その他の重要事項】**

中国経済の動向に合わせて、授業計画を一部変更する場合があります（授業内で通知）。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the history of the modern Chinese economy.

The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

**【到達目標】**

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度の予習が必要となる場合もある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ        | 内容            |
|------|------------|---------------|
| 第1回  | 中国経済史入門    | 中国経済史を学ぶ意義・方法 |
| 第2回  | 前近代の中国経済   | 伝統的商業秩序の形成    |
| 第3回  | 清末の近代化①    | 開港と外国資本       |
| 第4回  | 清末の近代化②    | 洋務運動と殖産興業     |
| 第5回  | 民国期の産業勃興①  | 新興資本家の出現      |
| 第6回  | 民国期の産業勃興②  | 軍閥と地方財政       |
| 第7回  | 国民政府の経済政策① | 中央集権化と幣制改革    |
| 第8回  | 国民政府の経済政策② | 戦時下の動員・統制     |
| 第9回  | 戦後の香港・台湾経済 | 冷戦期の華人資本      |
| 第10回 | 社会主義計画経済①  | 集団化と国有化       |
| 第11回 | 社会主義計画経済②  | 政治運動と混乱・停滞    |
| 第12回 | 改革開放と経済成長① | 市場経済への移行      |
| 第13回 | 改革開放と経済成長② | WTO加盟とグローバル化  |
| 第14回 | 現在の中国経済    | 発展と社会矛盾       |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。

丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣、2021年。

**【成績評価の方法と基準】**

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70%

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

**【学生の意見等からの気づき】**

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

HIS200BE (史学/History 200)

## 東洋史特講Ⅳ

大島 誠二

授業コード：A3165 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、秦漢帝国の成立を扱う。考古学資料による研究成果に基づき、中国古代社会の発展の推移を追い、考察する。

中国の古代帝国がどのように成立されてきたのか、またその領域がどのように広がってきたのか、時間的・空間的にとらえることで、中華帝国の成立過程を理解しその特質を理解する。

### 【到達目標】

- ①中国文明の成立過程を理解する。
- ②秦漢帝国の成立過程とその意義を理解する。
- ③考古学資料を用いた分析手法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に、パワーポイントを用いながら講義形式で進める。受講生には、資料プリントを配布する。

リアクションペーパー、課題、質問などに対するフィードバックは、授業中に行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                |
|------|------------|-------------------|
| 第1回  | 中国的世界の広がり  | 中国的世界の特徴とその領域を考える |
| 第2回  | 漢字文化の発展①   | 甲骨文字の出現とその特徴      |
| 第3回  | 漢字文化の発展②   | 金文から字体の統一へ        |
| 第4回  | 漢字文化の発展③   | 秦漢帝国時代の文字の役割      |
| 第5回  | 秦帝国による統一事業 | 帝国の出現による中国世界の変化   |
| 第6回  | 皇帝陵の系譜①    | 戦国時代の王陵の様相        |
| 第7回  | 皇帝陵の系譜②    | 始皇帝陵の出現           |
| 第8回  | 皇帝陵の系譜③    | 漢代の皇帝陵の様相         |
| 第9回  | 皇帝陵の系譜④    | 曹操高陵の発見とその様相      |
| 第10回 | 印綬と冊封体制①   | 中国古代の印章の役割と使用方法   |
| 第11回 | 印綬と冊封体制②   | 印綬が東アジアで果たした役割    |
| 第12回 | 東西交渉の広がり①  | 中国世界と遊牧世界の接触      |
| 第13回 | 東西交渉の広がり②  | 海のシルクロード          |
| 第14回 | まとめと試験     | 秋期の振り返りと試験        |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する参考書には、興味のある部分だけでも良いので目を通してもらいたい。授業で取り上げるのは、今の中国世界が成立する過程の最初の部分である。現代の中国に関する情報にも、関心を示してほしい。

考古学資料を扱うので、履修者には博物館や美術館に足を運び、中国の文物に親しんでもらいたい。東京では、上野の東京国立博物館東洋館、鶯谷の台東区立書道博物館、表参道の根津美術館、有楽町の出光美術館などがおすすめである。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

### 【参考書】

鶴間和幸『中国の歴史3 ファーストエンペラーの遺産 秦漢帝国』講談社学術文庫 2020（原本刊行は2004）

金文京『中国の歴史4 三国志の世界 後漢三国時代』講談社学術文庫 2020（原本刊行は2005）

その他、授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内の提出物 30% 期末試験70%。

### 【学生の意見等からの気づき】

映像資料などを用いて、わかりやすい授業を心がけたい。

### 【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course covers the establishment of the Qin and Han Empires. Based on research results derived from archaeological data, investigates and reflects upon the development and evolution of ancient Chinese society.

### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① Understand the process of the formation of Chinese civilization.
- ② Understand the process and significance of the formation of the Qin and Han Empires.
- ③ Learn methods of analysis using archaeological data.

### 【Learning activities outside of classroom】

Before after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content

### 【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process  
Mid-term report 30%, and Exam 70%.

HIS200BE (史学 / History 200)

**東洋史特講 V**

宇佐美 久美子

授業コード：A3166 | 曜日・時限：金5/Fri.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

インド洋西海域における地域交流史を東アフリカのスワヒリ地域を中心に学ぶ。

ダウ船による遠距離海上交易が、どのようにアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなどの各地域を結び付けたのかを具体的に紹介する。さらに、ポルトガル、イギリスなどヨーロッパ勢力のインド洋進出がもたらした影響を考察する。

学生各自が専門とする地域・時代における地域交流史と比較考察する機会を得ることによって史学研究について知見を深める。

**【到達目標】**

海洋史研究の方法論を習得する。

遠距離海上交易が結び付けたアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなど各地域の関係を理解する。

環インド洋地域の諸社会とヨーロッパ勢力の海洋支配の捉え方を比較して説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教材プリントを使う対面授業での講義形式をとる。授業内での受講生からの積極的な質問を歓迎するとともに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。DVDやVHSなどの視覚教材も活用する予定。課題として史料を配布し、受講生の分析結果を後日まとめて紹介するなど双方向型の取り組みも行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ               | 内容                         |
|------|-------------------|----------------------------|
| 第1回  | 海洋史入門 (その1)       | 海上交流の捉え方など                 |
| 第2回  | 海洋史入門 (その2)       | ヒト・モノの移動について               |
| 第3回  | インド洋交流史の枠組 (その1)  | 自然条件など                     |
| 第4回  | インド洋交流史の枠組 (その2)  | ダウ船について                    |
| 第5回  | インド洋交流史の枠組 (その3)  | 時代区分・特産品など                 |
| 第6回  | スワヒリ社会の成立         | スワヒリ社会の成立                  |
| 第7回  | スワヒリ地域とインド洋 (その1) | スワヒリ地域とアラビア半島・ペルシア湾岸地域との交流 |
| 第8回  | スワヒリ地域とインド洋 (その2) | 『キルワ年代記』                   |
| 第9回  | ポルトガルの進出 (その1)    | スワヒリ地域の事例                  |
| 第10回 | ポルトガルの進出 (その2)    | インド洋西海域の事例                 |
| 第11回 | スワヒリ地域とオマーン (その1) | ザンジバルへの進出                  |
| 第12回 | スワヒリ地域とオマーン (その2) | インド洋奴隷貿易                   |
| 第13回 | インド人移民 (その1)      | 19世紀まで                     |
| 第14回 | インド人移民 (その2)      | 20世紀                       |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とする。

準備学習としては、地図や年表を活用し、事前に対象地域の概略を押さえる。復習としては、必修項目を確認し身に付けるとともに課題に取り組む。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は特に指定しない。

**【参考書】**

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006年

富永智津子『スワヒリ都市の盛衰』(世界史リブレット)山川出版社 2008年  
この他にも講義において適宜紹介する。**【成績評価の方法と基準】**

不定期に実施する小テストなどの平常点(40%)と期末レポート(60%)の評価を総合して成績を決定する。

小テストは、講義内容の理解度を確認するために実施する。

期末レポートは、講義で取り上げたインド洋地域交流史の内容をふまえ、それをさらに深く考察してオリジナルな論議を展開できるかどうかを評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

多くの学生にとって、スワヒリ地域というアフリカの一地域の歴史的展開を学ぶ機会を得たことが最も印象的であったようだ。アフリカやイスラームに関心を抱ききっかけを提供するためにも、さらに詳しく論じたい。

また、「東洋とは?」「東洋史とは?」という問いを考察する機会も提供したいと考えている。

**【その他の重要事項】**

授業終了後に教室において質問を受け付ける。

もしくは下記メールアドレスに連絡する。

kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

This lecture deals with the historical development of maritime activities in the western part of the Indian Ocean.

It introduces how the long-distance maritime trade using dhows contributed to develop the vibrant interregional connections in the Indian Ocean World, from the Red Sea, the Arabian Peninsula, the Persian Gulf, to the west coast of the Indian Sub-Continent and to the east coast of Africa also known as Swahili coast.

Focuses are set on the historical development of East African coastal communities.

It also deals with the various effects of arrival of European Powers, Portuguese and British and others in the Indian Ocean World.

The students will be provided the opportunity to speculate historiography further comparing their majoring subjects with the history of Indian Ocean World.

At the end of this lecture, students are expected to learn the methodology of historical studies of oceans, and to explain the historical development of interregional movements and connections in the Indian Ocean World.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

HIS200BE (史学 / History 200)

## 西洋史特講 I

内田 康太

授業コード：A3168 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「元首政ローマの誕生とアウグストゥス」を取り上げる。帝政の創始者とも評されるアウグストゥスの生涯を時系列に沿って分析することにより、共和政終焉期から元首政初期に至るローマの歴史の概要を学習するとともに、彼が目指した新しい統治機構の姿とその実際を探求する。

### 【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・共和政終焉期から元首政初期に至るローマの歴史について基礎的知識を習得する。
- ・一次資料の扱い方を習得し、アウグストゥスが元首政の誕生に対して果たした役割について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第12回・第13回は受講生によるディスカッションも組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内に質疑応答の機会を設けるとともに、終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                       |
|------|-----------------|--------------------------|
| 第1回  | イントロダクション       | 古代ローマ史のなかのアウグストゥス        |
| 第2回  | 生い立ち            | 内乱の一世紀という時代              |
| 第3回  | 政界への進出          | オクタウィアヌスの経歴と養父カエサル       |
| 第4回  | カエサル暗殺と内乱の行方（1） | 後継者争いと第2回三頭政治の形成         |
| 第5回  | カエサル暗殺と内乱の行方（2） | 第2回三頭政治の崩壊とオクタウィアヌスの勝利   |
| 第6回  | アウグストゥスの誕生      | 内乱の終焉と共和政体の復活            |
| 第7回  | アウグストゥスの時代（1）   | 権威（アウクトリタス）と権力（ポテスタス）    |
| 第8回  | アウグストゥスの時代（2）   | 政治家アウグストゥス               |
| 第9回  | アウグストゥスの時代（3）   | 軍人アウグストゥス                |
| 第10回 | アウグストゥスの時代（4）   | 建築事業と文化活動                |
| 第11回 | 継承と持続           | アウグストゥスの家系と後継者問題         |
| 第12回 | 人物と評価（1）        | アウグストゥスは帝政ローマの創始者であったか？  |
| 第13回 | 人物と評価（2）        | アウグストゥスは共和政ローマの再建者であったか？ |
| 第14回 | 試験・まとめと解説       | 到達度の確認                   |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

### 【参考書】

バーバラ・レヴィック『アウグストゥス：虚像と実像』（マクリン富佐訳）、法政大学出版局、2020年。  
ロナルド・サイム『ローマ革命—共和政の崩壊とアウグストゥスの新体制』（逸身喜一郎ほか訳）上・下、岩波書店、2013年。  
長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004年。

### 【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80%）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20%）

### 【学生の意見等からの気づき】

一次資料（日本語訳）の読解に興味をもった受講生が多かったため、講義に史料分析を組み合わせる授業形式を継続する。また、リアクションペーパーを通じた質疑応答も引き続き利用し、受講生の関心に沿ったかたちで授業を進める。

### 【Outline (in English)】

**Course outline:** This course deals with the birth of the Principate and Augustus' role in it. Analyzing chronologically the life of Augustus, the founder of the monarchic government, it helps students learn the outline of this period and explore the new system he schemed and its reality.

**Learning Objectives:** The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of Rome from the late Republic to the Principate.

- Using primary sources properly, students are able to estimate the role of Augustus played in the birth of the Principate.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

**Grading Criteria:** Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE (史学/History 200)

## 西洋史特講Ⅱ

大貫 俊夫

授業コード：A3169 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世ヨーロッパと聞いてどのようなイメージを持つだろうか。勇壮な騎士、ユーモラスなロマネスク美術から魅力的な時代だと思える人もいれば、暴力にあふれ不潔でキリスト教を盲信する時代だと思える人もいるだろう。本講義では、史料を読み解きながら中世ヨーロッパにまつわるファクトとフィクションの関係を見定め、過去を知ることの意味を一緒に考える。

## 【到達目標】

1. 中世ヨーロッパ史に関する基礎的知識を習得できる。
2. 中世ヨーロッパ史に関する歴史観が構築されるプロセスを理解できる。
3. ファクトとフィクションを成り立たせる上で史料が果たす役割を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行う。

リアクションペーパーを活用して理解の確認と定着を図る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                | 内容                 |
|------|------------------------------------|--------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                          | 本講義の目的と概要、授業の進め方   |
| 第2回  | 中世は暗黒時代だった①                        | 中世は本当に暗黒時代だったのか    |
| 第3回  | 中世は暗黒時代だった②                        | 中世暗黒史観の成り立ち        |
| 第4回  | 中世の人々は地球は平らだと思っていた                 | 中世暗黒史観の現在          |
| 第5回  | 農民は風呂に入ったところがなく、腐った肉を食べていた         | 中世における衛生観について      |
| 第6回  | 人々は紀元千年を恐れていた                      | 中世における終末観について      |
| 第7回  | 中世の戦争は馬に乗った騎士が戦っていた                | 中世における戦争の実態について    |
| 第8回  | 中世の教会は科学を抑圧していた                    | 中世における宗教と科学の関係について |
| 第9回  | 1212年、何千人もの子どもたちが十字軍遠征に出立し、そして死んだ  | 中世の十字軍について         |
| 第10回 | ヨハンナという名の女教皇がいた                    | 中世におけるジェンダー観について   |
| 第11回 | 中世の医学は迷信に過ぎなかった                    | 中世における医学について       |
| 第12回 | 中世の人々は魔女を信じ、火あぶりにした                | 魔女について             |
| 第13回 | ベスト医師のマスクと「バラのまわりを輪になって」は黒死病から生まれた | 中世に起こったペストについて     |
| 第14回 | 総括                                 | 総括、質疑応答            |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：事前に教科書の指定された箇所を読んでくる。

復習：配布資料を用いて授業内容を振り返る。

本授業の準備・復習時間は1回あたり4時間とする。

## 【テキスト（教科書）】

ウィンストン・ブラック著／大貫俊夫監訳『中世ヨーロッパ ファクトとフィクション』（平凡社、2021年）

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）

リアクションペーパーを用いた平常点（30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを用いたフィードバックをより積極的に行います。

## 【Outline (in English)】

Course outline:

What do you think of medieval Europe? Some may think of it as a fascinating time of heroic knights and humorous Romanesque art, while others may think of it as a time of violence, filth and blind faith in Christianity. In this lecture, we will read historical documents to determine the relationship between fact and fiction about medieval Europe, and together we will consider what it means to know the past.

## Learning Objectives:

The goals of this course are to acquire a basic knowledge of medieval European history, to understand the process by which historical perspectives on medieval European history are developed, and to understand the role of historical sources in establishing fact and fiction.

## Learning activities outside of classroom:

Students should consolidate their understanding of the course content

by reviewing the handouts.

## Grading Criteria/Policy:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%



HIS200BE (史学/History 200)

## 西洋史特講Ⅲ

吉岡 潤

授業コード：A3170 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中・東欧諸国、特にポーランドにおける歴史認識問題について検討する。言語、宗教、政治文化などを異にする様々な国家・民族が複雑に入り組み、起伏に富んだ歴史を歩んできた中・東欧において、歴史認識の相違は国家・民族間の対立をもたらすだけでなく、近年では同一国民を分断するようにもなっている。特に激動の現代史をくぐり抜けてきたポーランドでは、現在、第二次世界大戦期や社会主義期の記憶をめぐる「過去をめぐる戦争」と称する国内対立が展開され、国論を二分している。本講義では、冷戦後の中・東欧諸国をめぐる国際関係を踏まえつつ、主にポーランドにおける歴史認識をめぐる諸問題について検討していく。具体的な検討課題として、第二次世界大戦期と社会主義期の記憶、旧社会主義国における「移行期正義」、歴史博物館と公共史（パブリック・ヒストリー）、歴史政策と記憶の政治などを予定している。

### 【到達目標】

過去や歴史が政治化・紛争化する構造を、実際に展開している歴史認識問題の地域性と歴史性を踏まえて分析できるようになること。歴史認識問題に対して、専門知としての歴史学が何をなしているか、また何をなすべきかを考察するための手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回ごとにコメントシートを提出してもらい、そこで出された質問やコメントに対するフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                                |
|------|----------------|---------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入             | 歴史認識問題とは何か、歴史認識問題を検討する意義とは何か、考察する。                |
| 第2回  | 前提 (1)         | 歴史学・歴史研究におけるキーワードの一つ「記憶」について解説する。                 |
| 第3回  | 前提 (2)         | 検討対象としての中・東欧諸国の歴史、特にポーランドの近現代史を概観する。              |
| 第4回  | 歴史認識と国際関係 (1)  | 冷戦後のポーランドとドイツとの間の、歴史認識をめぐる対立と相互理解の試みについて解説する。     |
| 第5回  | 歴史認識と国際関係 (2)  | 冷戦後のポーランドとロシアとの間の、歴史認識をめぐる対立と相互理解の試みについて解説する。     |
| 第6回  | 歴史認識と国際関係 (3)  | 冷戦後のポーランドとウクライナなどとの間の、歴史認識をめぐる対立と相互理解の試みについて解説する。 |
| 第7回  | 記憶の政治 (1)      | 中・東欧諸国、特にポーランドにおける第二次世界大戦期および社会主義期の記憶について解説する。    |
| 第8回  | 記憶の政治 (2)      | ポーランドにおける「移行期正義」について解説する。                         |
| 第9回  | 記憶の政治 (3)      | ポーランドにおける「過去をめぐる戦争（第一次）」について解説する。                 |
| 第10回 | 記憶の政治 (4)      | ポーランドにおける「過去をめぐる戦争（第二次）」について解説する。                 |
| 第11回 | 歴史認識問題と公共史 (1) | 歴史と社会とを結ぶメディアについて考察する                             |
| 第12回 | 歴史認識問題と公共史 (2) | 歴史認識問題の現場としての歴史博物館について考察する。                       |
| 第13回 | 歴史認識問題と公共史 (3) | 専門知としての歴史学が果たす役割について考察する。                         |
| 第14回 | まとめ            | 改めて、歴史認識をめぐる対立と相互理解について考察する。                      |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

コメントシートの提出など平常点と、期末課題とによる評価。評価における両者間の配分は、〈平常点のパーセンテージ：期末課題のパーセンテージ〉でおよそ40：60とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

各回の授業で配付する資料のHoppiiでの配信のタイミングを、受講生の準備学習に資するように、授業直前から、授業前日以前へと早めるよう努めたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

授業が対象とする地域についての知識は必要ありません。ヨーロッパ（特に東ヨーロッパ）の近現代史や、日本も決して無縁ではない歴史認識問題などに関心のある方の受講を歓迎します。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the problems of historical consciousness in Central and Eastern European countries (CEEC), especially in Poland, after the Cold War. Students are expected to learn about such topics as collective memory of communist past in CEEC, transitional justice in CEEC, and politics of memory in CEEC.

Before and/or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

HIS200BE (史学 / History 200)

## 西洋史特講Ⅳ

皆川 卓

授業コード：A3171 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世から近代までの歴史を通してヨーロッパの「国家的アイデンティティ」(national identity) を学びます。最初に近代の「ナショナリズム」の構造を紹介し、近代人の中にも無限に多様な「ナショナリズム」があること、しかしそれにも拘わらず何らかの歴史的事情によって一定の地域毎に統合されていることを確認します。そのうちそれぞれタイプの異なるフランス、ブリテン（イギリス）およびドイツ（旧神聖ローマ帝国）の状況を概観し、何がそれぞれをまとめるのかを学びます。

## 【到達目標】

「ナショナリズム」が近代主権国家の諸条件のもとで成立すること、その方向性が各国の近世の歴史的発展に依拠することを学ぶとともに、そこで創られたさまざまなコンセプトが、どのようなメカニズムのもとで国への感情的執着に発展するのかを、それぞれタイプの違う近世史を抱えるヨーロッパ三か国の例から理解し、歴史的観点から合理的・客観的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                  | 内容                                                                                      |
|-----|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 「国家的アイデンティティ」(national identity)とは何か | 受講者が日々触れる現代生活における文化と情念の関係を分析しながら、社会秩序や社会的価値への愛情が成立・発展する心的条件を論じます。                       |
| 第2回 | ナショナリズムの光と影                          | ナショナリズムの出発点となる情念が社会価値化するメカニズムを解析し、ナショナリズムの多義性と多様性を各国近世・近代史の特徴的な出来事から明らかにします。            |
| 第3回 | 近代以前に国民主義は存在するか（1）                   | ナショナリズム現象とされる活動を歴史の諸例から取り上げ、ゲルナー、ホブズボーム、アンダーソン、スミスなど近年の諸説に照らしながら、その類型を提示します。            |
| 第4回 | 近代以前に国民主義は存在するか（2）                   | 前近代史の中に、近代になって初めてナショナリズムの神話形成に用いられるトピックが多数あることを確認します。                                   |
| 第5回 | 歴史の中のエスニシティとその分析方法（1）                | 現代ヨーロッパにおける遺伝子ビッグデータの成果などから、「民族」が文化的集団であることを確認し、その基準であるエスニシティとは何かを、機能的な側面から分析します。       |
| 第6回 | 歴史の中のエスニシティとその分析方法（2）                | エスニシティを分析するには、その歴史的文脈、特に集団同士の関係に注目することがポイントであることを実証的に紹介します。                             |
| 第7回 | 近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（1）     | 君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。               |
| 第8回 | 近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（2）     | 君主の血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながら、普遍的な性格を持つ新しいエスニシティを発見する過程を分析します。 |
| 第9回 | 近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（1）     | 「議会の中の王」「幸いなる島国」「反カトリズム」「商業国家」など多様なエスニック要素を組み合わせて小国を束ね、大國化したブリテン（イギリスの）例を紹介します。         |

|      |                                  |                                                                                                      |
|------|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第10回 | 近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（2） | ブリテンに束ねられたスコットランド、アイルランドなどの小国の視点とそれらのリアクション形成、そしてそこから生じる垂直的・水平的なアイデンティティの多元性を論じます。                   |
| 第11回 | 近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（1）  | 統一的な主権国家とは異なり、新旧の要素が同居する多元的な秩序を生み出した神聖ローマ帝国の特徴と、それをサポートするものとして生み出された「ドイツ」の観念の起りを紹介します。               |
| 第12回 | 近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（2）  | 神聖ローマ帝国の国家連合化によるアイデンティティの空白を埋める目的で「ドイツ」が文化的共同体に発展する過程を論じます。                                          |
| 第13回 | 近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（3）  | 「ドイツ」アイデンティティが他国との関係に対する優越的価値「民族」となり、秩序も個人もそれに支配されていく過程を分析します。                                       |
| 第14回 | 総合評価とまとめー「愛国」のカルテ                | 近世ヨーロッパ各国の国家的アイデンティティを構成する要素とその組み合わせのタイプを振り返り、それらとの比較から歴史的な「愛国」とは何かを、「少数民族」の観点も展望しながら相対化し、批判的にまとめます。 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。

・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。

・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。

・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

## 【参考書】

E. ホブズボーム / T. レンジャー 『創られた伝統』紀伊国屋書店 1992

E. ゲルナー 『民族とナショナリズム』岩波書店 2000

B. アンダーソン 『想像の共同体』NTT出版 1997

A.D. スミス 『ネイションとエスニシティー歴史社会的考察』名古屋大学出版会 1999

F. ブローデル 『フランスのアイデンティティ』（第1篇・第2編）論創社 2015

H. トーマス 『中世の「ドイツ」ーカール大帝からルターまで』創文社 2005

松本彰・立石博高 『国民国家と帝国』山川出版社 2005

谷川稔 『国民国家とナショナリズム』山川出版社 1999

指昭博編 『王はいかに受け入れられたかー政治文化のイギリス史』刀水書房 2008

岩井淳・指昭博編 『イギリス史の新潮流ー修正主義の近世史』彩流社 2000

その他教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。

・ナショナリズムを含む国家的アイデンティティの歴史の変遷を知識として正確に把握できているか【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、各時代の国家的アイデンティティを歴史学の方法に従って経験科学的・論理的に分析し、説明できるか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。ただし最後の3回はスライドと授業音声の掲示によるオンラインですので、その対応ができる端末環境をお願いいたします。

## 【その他の重要事項】

特にありません。

## 【Outline (in English)】

(Course outline) We learn about Europe's "national identity" through history from the Middle Ages to modern times. First, I will introduce the structure of modern "nationalism" and explain that there are infinitely diverse "nationalisms" among modern people, but that they are nevertheless unified in certain regions due to some historical circumstances. Make sure. We will then look at the different types of situations in France, Britain (United Kingdom) and Germany (former Holy Roman Empire) and learn what brings each one together.

(Learning Objectives) We learned that "nationalism" was established under the various conditions of modern sovereign states, and that its direction depended on the early modern historical development of each country. By examining the examples of three European countries, each with a different type of early modern history, it is possible to explain rationally and objectively from a historical perspective how this can develop into emotional attachment to a country.

(Learning activities outside of classroom)

・Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general content in mind (1 hour each time).

- Before class, I will research all the words I am learning for the first time and words I only know by name using reference books and the internet, and I will make notes on a handout (for 1 hour each time).
- After class, students will research on their own or ask questions to the instructor about points they did not understand during class (1 hour each time).
- Listen to the lecture, take notes on what you think, and prepare for writing your final report (1 hour each session)  
(Grading Criteria /Policy)
- Evaluation will be based on the general score (20%), quizzes for each unit (30%), and final report (50%).
- Are you able to accurately grasp the historical changes in national identity, including nationalism? [First evaluation process: corresponds to the 30% quiz for each unit], and experience national identity in each era according to historical methods. The standard is whether you can analyze and explain scientifically and logically [Second evaluation process: corresponds to 50% of the final report].

HIS200BE (史学 / History 200)

## 西洋史特講 V

皆川 卓

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近世ヨーロッパにおける社会的流動性 (social mobility: 地位、身分、職業や職場、信仰、居住地などの変更) が、人々の集団同士の生活やアイデンティティ、仕組みに与えた影響について、近年の研究成果を紹介します。受講者はそこから、社会的流動性が歴史の発展に深くかかわっていることを学ぶとともに、さまざまな成長期の社会に生きる人々が、いかにして社会に前向きに関われるかを省察します。

### 【到達目標】

近世ヨーロッパの人々は、現代から見れば経済成長率が極端に低い中であっても、自ら身分や地位、職業や活動地域の変更を求め、異なる環境の衝撃に耐えて自らを活かす可能性を拓くばかりでなく、自分の求めた自己を実現する社会的枠組みをも形成していった。この近世ヨーロッパ「社会」の動的側面の実相と、それが近代の形成に果たした役割を多角的に学び、社会的流動性が持つ可能性を客観的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎 (原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度)、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                  | 内容                                                                                      |
|-----|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 社会的流動性とは何か (1)       | 社会的流動性 (社会移動) は人間生活の活力を左右する基礎的条件ですが、それが分析の対象となることは多くありません。身近な生活を例に、社会的流動性とは何かを簡単に紹介します。 |
| 第2回 | 社会的流動性とは何か (2)       | 社会的流動性を歴史的に見ると、どのようなことが分かってくるかを、高校までの既習知識の中にある事例から指摘し、それが過去の社会の分析に有効であることを論じます。         |
| 第3回 | 中世ヨーロッパの社会的流動性 (1)   | 中世ヨーロッパの厳格な身分が、権力者に強制された制度ではなく、むしろ職業教育の未発達やコミュニケーションの未熟な中、人々自身から作られたものであることを論じます。       |
| 第4回 | 中世ヨーロッパの社会的流動性 (2)   | 中世後期に徐々に活発化する社会的流動性が、人々の認識の変化を促し、それが社会の集団意識に逆反射して、仕組みや制度をも徐々に変えていく実態を紹介します。             |
| 第5回 | 社会的流動性の舞台【教会と信仰】 (1) | 近世ヨーロッパの人々に自分の生活環境を変えるチャンスとなった様々な場の中で、キリスト教の教会組織と信仰によるネットワークが大きな影響を及ぼしたことを論じます。         |
| 第6回 | 社会的流動性の舞台【教会と信仰】 (2) | 教会組織や信仰のネットワークにおける社会的流動性が、次第に既存の組織の持つバイアスを変化させ、教会の改革や信仰の自由に導いていく展開を説明します。               |
| 第7回 | 社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】 (1) | 近世の厳格な身分の壁を超える場の一つに、権力者が営む宮廷と軍隊がありました。そのうち宮廷に注目し、どのような人材がそれを利用して流動性の波に乗れたのかを詳しく論じます。    |
| 第8回 | 社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】 (2) | 前回に続いて軍隊に注目し、そこでどのような能力が評価されたのか、またそこにはどのような限界があり、結果として軍隊の流動性はどのようなものになったのかを分析します。       |

|      |                             |                                                                                              |
|------|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第9回  | 社会的流動性の舞台【都市とビジネス】 (1)      | 近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。        |
| 第10回 | 社会的流動性の舞台【都市とビジネス】 (2)      | 都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。          |
| 第11回 | 社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】 (1) | 近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。         |
| 第12回 | 社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】 (2) | 近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。     |
| 第13回 | 社会的流動性の変質と「社会」の誕生           | 近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み (ハビトゥス) や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。 |
| 第14回 | 総合評価とまとめ                    | 近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。       |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます (毎回1時間)。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします (毎回1時間)。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します (毎回1時間)。
- ・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます (毎回1時間)

### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。(レジュメがテキストの機能を担います)

### 【参考書】

清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』講談社 2021  
 成瀬治『近代ヨーロッパへの道』講談社 2011  
 高澤紀恵 / G・カレ『「身分」を交差させる一日本とフランスの近世』東京大学出版会 2023  
 L・ストーン (佐田玄治訳)『エリートの攻防—イギリス教育革命史』お茶の水書房 1985  
 角山栄他『生活の世界歴史(10)産業革命と民衆』河出書房新社 1992  
 Ch・ハルツィヒ他 (大井由紀訳)『移民の歴史』筑摩書房 2023

### 【成績評価の方法と基準】

- ・評価は平常点 (20%)、単元毎の小テスト (30%)、期末レポート (50%) を総合して評価します。
- ・ヨーロッパ近世史の中に展開される社会的流動性の概要を理解することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、そこから歴史的マクロ的な動きを読み取り、受講者の活きる現代社会と比較・相対化することで、歴史を客観的に論じるための俯瞰的な視点をどれだけ達成しているか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】をみます。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【Outline (in English)】

(Course outline) How social mobility (changes in status, status, occupation, workplace, religion, place of residence, etc.) that occurred in medieval and early modern Europe had an impact on the lives, identities, and structures of people and groups of people. , introduces recent research results. Participants will learn that social mobility is deeply connected to historical development, and will reflect on how people living in societies during periods of each levels of economic growth can be positively involved in society. (Learning Objectives) Even though the economic growth rate was extremely low by today's standards, the people of early modern Europe sought to change their status, status, occupation, and area of activity, and sought to make the most of themselves by enduring the shocks of a different environment. Not only did he open up new opportunities, but he also created a social framework in which he could realize the person he wanted. Students will study the dynamic aspects of early modern European "society" and the role it played in shaping the modern era from multiple perspectives, and objectively understand the possibilities of social mobility.

(Learning activities outside of classroom)

- ・Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general content in mind (1 hour each time).

- Before class, I will research all the words I am learning for the first time and words I only know by name using reference books and the internet, and I will make notes on a handout (for 1 hour each time).
- After class, students will research on their own or ask questions to the instructor about points they did not understand during class (1 hour each time).
- Listen to the lecture, take notes on what you think, and prepare for writing your final report (1 hour each session)  
(Grading Criteria /Policy)
- Evaluation will be based on the average score (20%), quizzes for each unit (30%), and final report (50%).
- Be able to understand the outline of social mobility that developed in early modern European history [1st evaluation process: corresponds to the 30% quiz for each unit], read the macro-level movements of history from there, By comparing and relative to the modern society in which the students live, we will see how well they have achieved a bird's-eye view to objectively discuss history [Second evaluation process: corresponds to 50% of the term report] .

HIS200BE (史学/History 200)

## 西洋史特講Ⅵ

遠藤 泰生

授業コード：A3173 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植民地時代から現代までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代アメリカ社会を形づくる社会規範の生成と変成を学ぶ。2024年度春学期は、とくに、アメリカ社会の分断を引き起こす大きな要因となる人種規範とジェンダー規範の歴史に注意を払いながら、アメリカ近代の歴史を学ぶ。政治文書にとどまらず、文学、絵画、映画など多様なメディアに刻まれた時代の相貌に触れることで、立体的な歴史理解の習得を目指す。諸外国における人種規範、ジェンダー規範を比較の対象とすることで、アメリカの歴史の特徴を相対化させることも心掛けたい。

## 【到達目標】

人種やジェンダーの歴史構築性が指摘されるようになって久しいにもかかわらず、その規範の起源を読み解き、あらたな未来に向けて因習を読み替える作業は容易に進んでいない。主にアメリカ合衆国の近代史を学びながら、その困難に丁寧に向き合い、多文化共生の基盤形成に不可欠な人種、ジェンダー規範への理解を深める。その一方で、アメリカ合衆国以外の国の例も参照しながら、多文化共生の選択肢がさまざまに開かれていることを学生は学ぶ。

文学、絵画、映画その他を歴史を学ぶ史料として取り上げ、史料分析に必要な複眼的な視野を培う。その過程で、外国語文献に馴染むことも求められる。狭義の歴史学だけでなく広義の地域研究の枠組みの中で外国史を学ぶことが学生はできるようになる。

課題図書読書のレポートの執筆を通し、論理的な論文を記すのに必要な文章の形式、語彙を学生は修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義を主体に進めるが、演習形式の授業も途中で混ざる。とくに、史料読解の練習に際しては、あらかじめ担当学生を決め、授業冒頭で簡潔な報告をしてもらい、報告者は短いレジュメを用意して返却することが求められる。課題図書レポートにはコメントを付して返却する。そのほか、歴史地図の作図提出を学期中に数回求める。この作業を行うことで、「知ったかぶり」の外国事情研究者がアメリカについては少なくないなか、確かな知識に基づく議論を学生は行うことができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                       | 内容                                             |
|-----|---------------------------|------------------------------------------------|
| 第1回 | 導入：アメリカ合衆国の歴史と文化を学ぶ視点     | アメリカ近現代史を徹底する歴史観として「有用なる過去」の概念を紹介する。           |
| 第2回 | アメリカ先住民の世界：類似と相違          | 英領植民地の歴史が始まる前から存在した先住民の歴史とその遺産を確認する。           |
| 第3回 | 北米ピューリタン社会の誕生：多元社会の知の技法   | 北米英領植民地における多元社会構築の原理を、ピューリタンの入植の歴史に学ぶ。         |
| 第4回 | ピューリタニズムの変奏：政教分離と信仰の自由    | 「政教分離」のアメリカ合衆国における意味を、フランス近代の経験などと対比しながら学ぶ。    |
| 第5回 | 中部植民地社会の展開：アメリカン・モダニティの萌芽 | 大西洋世界との交易結節点として発達を始めたニューヨークやフィラデルフィアの植民地時代を学ぶ。 |

|      |                                          |                                                               |
|------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 第6回  | 南部奴隷制植民地の誕生：世界史の中の北米奴隷制度                 | 古今東西の世界に存在する奴隷制度が大西洋を越えて南北アメリカ社会に移植された経緯を踏まえつつ、英領南部植民地の展開を学ぶ。 |
| 第7回  | 独立戦争：自立の論理と主権                            | 18世紀の西洋政治思想の文脈において、アメリカ合衆国の「独立」が何を意味し得たのか学ぶ。                  |
| 第8回  | 連邦憲法の制定と共和国の成立：モジュール社会のひな型               | アメリカ合衆国が国家の体裁を整えるために準備した最大の文書、連邦憲法の制定の歴史を確認する。                |
| 第9回  | 「共和国の母」という「前進」                           | アメリカ合衆国におけるフェミニズムの萌芽とされる「共和国の母」の概念を検討する。                      |
| 第10回 | 南部黒人種奴隷制度の矛盾と反奴隷制運動の黎明：セクショナリズムの予兆       | アメリカ近代史における最大の矛盾とされる人種奴隷制のひろがり、それを批判する知識人の視点を学ぶ。              |
| 第11回 | 汎アフリカ運動と自由黒人の葛藤：アレクサンダー・クラメル             | 19世紀前半のアメリカ合衆国に多数存在した「自由黒人」の歴史を学ぶ。                            |
| 第12回 | 逃亡奴隷の自伝を読む：「manhood」という矜持                | 逃亡奴隷として反奴隷制運動を牽引したフレデリック・ダグラスの『自伝』を読む。                        |
| 第13回 | 映画「それでも夜は明ける（Twelve Years a Slave）」のアメリカ | アメリカ合衆国のフィルムに刻まれた奴隷制の遺産を学ぶ。                                   |
| 第14回 | 春学期の学習の振り返り                              | 春学期の振り返りと期末試験。                                                |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定する教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点を整理しておく。指定課題図書や映画を熟読、鑑賞し、時代思潮に触れる。歴史地図の提出は所定の用紙に手書きし提出する。一週ごとに、約4時間が学習の目安となる。

## 【テキスト（教科書）】

・遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶ アメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）  
・ベンジャミン・フランクリン著/松本慎一他訳『フランクリン自伝』（岩波文庫、1957）

## 【参考書】

・フレデリック・ダグラス著/樋口映美監修『アメリカの奴隷制を生きるーフレデリック・ダグラス自伝』（彩流社、2016）

## 【成績評価の方法と基準】

授業時におけるリアクションペーパーの提出は出席の必須条件となる。そのうえで、課題図書読書レポート（30%）、歴史地図作成（20%）、期末試験（50%）を修了し、60点以上の得点を得た者が単位を取得する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中の討議および質問には積極的に答えるので、発言を奨励する。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくに無し。

## 【その他の重要事項】

短くはあってもできるだけ英語史料の読解を心がけたい。必要な歴史史料は、データに落として配布するのでHoppi上の連絡事項を常時チェックすること。

## 【Outline (in English)】

This class surveys the history of the United States in the 18th and 19th centuries. This term, history of racial and gender norms, which has exerted a significant influence on the division of contemporary American political landscape, will be focused and examined with special care. Students are expected to cultivate balanced sensibilities to differences of race and gender identities in our diversified society.

A wide variety of primary sources, including literature, paintings, and films, will be assigned to read and watch and examined. During the semester, one book report will be required and students are expected to learn how to read literary text as historical documents. Also a few historical map studies are required.

Grading are based on Book report (30%), Map studies(20%), and Final exam (50%). Reaction papers are essential to demonstrate good class attendance.

HIS200BE (史学/History 200)

## 西洋史特講Ⅶ

遠藤 泰生

授業コード：A3174 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植民地時代から現代までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代アメリカ社会を形づくる社会規範の生成と変成を学ぶ。2024年度秋学期は、とくに、アメリカ社会の分断を引き起こす大きな要因となる人種規範とジェンダー規範の歴史に注意を払いながら、アメリカ近現代の歴史を学ぶ。政治文書にとどまらず、文学、絵画、映画など多様なメディアに刻まれた時代の相貌に触れることで、立体的な歴史理解の習得を目指す。諸外国における人種規範、ジェンダー規範を比較の対象とすることで、アメリカの歴史の特徴を相対化させることも心掛けたい。

## 【到達目標】

人種やジェンダーの歴史構築性が指摘されるようになって久しいにもかかわらず、その規範の起源を読み解き、あらたな未来に向けて因習を読み替える作業は容易に進んでいない。主にアメリカ合衆国の近現代史を学びながら、その困難に丁寧に向き合い、多文化共生の基盤形成に不可欠な人種、ジェンダー規範への理解を深める。その一方で、アメリカ合衆国以外の国の例も参照しながら、多文化共生の選択肢がさまざまに開かれていることを学生は学ぶ。

文学、絵画、映画その他を歴史を学ぶ史料として取り上げ、史料分析に必要な複眼的な視野を培う。その過程で、外国語文献に馴染むことも求められる。狭義の歴史学だけでなく広義の地域研究の枠組みの中で外国史を学ぶことが学生はできるようになる。

課題図書読書のレポートの執筆を通し、論理的な論文を記すのに必要な文章の形式、語彙を学生は修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義を主体に進めるが、演習形式の授業も途中で混ぜる。とくに、史料読解の練習に際しては、あらかじめ担当学生を決め、授業冒頭で簡潔な報告をしてもらい、報告者は短いレジュメを用意していただくことが求められる。課題読書レポートにはコメントを付して返却する。そのほか、歴史地図の作図提出を学期中に数回求める。この作業を行うことで、「知ったかぶり」の外国事情研究者がアメリカ合衆国については少なくないなか、確かな知識に基づく議論を学生は行うことができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                          | 内容                                                 |
|-----|------------------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回 | 女権運動と反奴隷制度運動の交差：E.K.スタントンの怒り | アメリカにおける女性参政権取得運動の黎明を振り返る。                         |
| 第2回 | 西漸運動：アメリカン・ヴィジョンの承譜          | 西へと領土を拡大した19世紀アメリカ合衆国における空間意識と美意識の形成をアメリカ絵画の歴史に学ぶ。 |
| 第3回 | セクショナリズムの高揚とドレッド・スコット判決      | セクショナリズムの対立が深まる中、南北融和の可能性を絶った連邦最高裁の判決を検討する。        |
| 第4回 | 南北戦争                         | アメリカ合衆国史上最大の死傷者を出した南北戦争の歴史を概観する。                   |

|      |                                  |                                                            |
|------|----------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 第5回  | リンカン大統領とゲティスバーグ演説                | エイブラハム・リンカン大統領の名を歴史に刻むゲティスバーグ演説の意義を検討する。                   |
| 第6回  | 『ハックルベリー・フィンの冒険』における「冒険」が問うもの    | アメリカ国民文学の傑作とされるマーク・トウェインの古典を読む。                            |
| 第7回  | ステイブン・フォスターの郷愁とフォークソングのアメリカ      | 郷愁の中の南部とそこに見られる人種表象を検討する。                                  |
| 第8回  | W・ウィルソン大統領と人種正義の漂白               | 民主主義の海外伝道者とされたウィルソン大統領の時代における人種主義の歴史を振り返る。                 |
| 第9回  | W・E・B デュボイスの陰鬱と希望：“10パーセント”のエリート | 20世紀アメリカ合衆国における最高の知性の一人と称される、デュボイスの古典『黒人のたましい』を読む。         |
| 第10回 | アイダ・B・ウェルズとピリー・ホリデイ：リンチとの闘い      | 黒人に対する人種主義の象徴とされるリンチをめぐる黒人女性の闘いを確認する。                      |
| 第11回 | 女性参政権運動と市政家政学：都市の時代の女性運動         | 20世紀初頭のアメリカ合衆国で台頭した女性参政権運動の結実と、同時代に展開した市政家政学の流れを追う。        |
| 第12回 | 憲法修正第19条：女性参政権と新しい女たち            | 1920年代に花開いた「新しい女」の文化史を学ぶ。                                  |
| 第13回 | 「長い公民権運動」からBLMへ                  | 1930年代から現代のブラック・ライフズ・マターへと受け継がれるアフリカ系アメリカ人の異議申し立ての運動を振り返る。 |
| 第14回 | 秋学期の学習の振り返り                      | 秋学期の学習の振り返りと期末試験。                                          |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した教科書の指定箇所を事前に読み、疑問点を整理しておく。指定課題図書や映画を熟読、鑑賞し、時代思潮に触れること。歴史地図の提出は所定の用紙に手書きし提出する。一週ごとに、約4時間が学習の日安となる。

## 【テキスト（教科書）】

・遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶ アメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）  
 ・W・E・B デュボイス著/木島始訳『黒人のたましい』（岩波文庫、1992）

## 【参考書】

・マーク・トウェイン著/西田実訳『ハックルベリー・フィンの冒険（上・下）』（岩波文庫、1977）

## 【成績評価の方法と基準】

授業時におけるリアクションペーパーの提出は出席の必須条件となる。そのうえで、課題図書読書レポート（30%）、歴史地図作成（20%）、期末試験（50%）を修了し、60点以上の得点を得た者が単位を取得する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中の討議、質問には積極的に答えるので、積極的な発言を奨励する。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくに無し。

## 【その他の重要事項】

短くはあってもできるだけ英語史料の読解を心がけたい。必要な歴史史料は、データに落として配布するのでHoppi上の連絡事項を常時チェックすること。



**【Outline (in English)】**

This class surveys the history of the United States in the 18th and 19th centuries. This term, history of racial and gender norms, which has exerted a significant influence on the division of contemporary American political landscape, will be focused and examined with special care. Students are expected to cultivate balanced sensibilities to differences of race and gender identities in our diversified society.

A wide variety of primary sources, including literature, paintings, and films, will be assigned to read and watch and examined. During the semester, one book report will be required and students are expected to learn how to read literary text as historical documents. Also a few historical map studies are required.

Grading are based on Book report (30%), Map studies(20%), and Final exam (50%). Reaction papers are essential to demonstrate good class attendance.

HIS200BE (史学/History 200)

**美術史 (日本) A**

稲本 万里子

授業コード：A3176 | 曜日・時限：水5/Wed.5  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年  
 備考 (履修条件等)：文学部以外の学生は資格科目として履修する (A3857)

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を中心に、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。

作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。

**【到達目標】**

- ・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
- ・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史と仏教彫刻についての概説をおこなったうえで、飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                 | 内容                 |
|------|---------------------|--------------------|
| 第1回  | ガイダンス               | 授業内容の説明            |
| 第2回  | 美術史概説               | 美術史の研究手法、ジャンル、時代区分 |
| 第3回  | 展覧会の見方              | 独立行政法人化と指定管理者制度    |
| 第4回  | 仏教彫刻の見方、飛鳥時代の仏教彫刻 I | 尊像名と図像、法隆寺金堂釈迦三尊像  |
| 第5回  | 飛鳥時代の仏教彫刻 II        | 法隆寺救世観音像と百済観音像     |
| 第6回  | 白鳳時代の仏教彫刻           | 業師・寺師三尊像の制作期       |
| 第7回  | 天平時代の仏教彫刻           | 塑造と脱活乾漆造           |
| 第8回  | 天平時代の工芸             | 正倉院宝物              |
| 第9回  | 天平・平安時代の仏教彫刻        | 木彫の成立              |
| 第10回 | 平安時代の仏教彫刻 I         | 東寺講堂諸尊と両界曼荼羅       |
| 第11回 | 平安時代の仏教彫刻 II        | 平等院鳳凰堂の世界          |
| 第12回 | 鎌倉時代の仏教彫刻           | 運慶と快慶              |
| 第13回 | 授業のまとめ I            | 筆記試験の説明            |
| 第14回 | 授業のまとめ II           | 飛鳥時代～鎌倉時代の様式展開     |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

準備・復習時間は各2時間を標準とする。講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

**【参考書】**

参考図版として、『奈良六大寺大観』全14巻 (岩波書店、1968～1973)、『大和古寺大観』全7巻 (岩波書店、1976～1978)、『平等院大観』全3巻 (岩波書店、1987～1992)。

入門書として、水野敬三郎『奈良・京都の古寺めぐり』(岩波書店、1985)、水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』(美術出版社、2001)。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末の筆記試験80%、リアクションペーパー20%。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの書き方については授業中に説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

**【学生が準備すべき機器他】**

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業のときは、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

**【その他の重要事項】**

授業の進捗状況によっては、順序や内容が変わることがある。

**【Outline (in English)】****Course outline**

In this class, basic knowledge will be explained mainly on Buddhist sculptures from the Asuka period to the Kamakura period. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles.

Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style. Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of the works taken up in class.

Understand the styles of each era and become able to grasp art history as the development of styles.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

**Grading Criteria /Policy**

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

HIS200BE (史学/History 200)

## 美術史 (日本) B

稲本 万里子

授業コード：A3177 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3~4年

備考 (履修条件等)：文学部以外の学生は資格科目として履修する (A3858)

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

平安時代から江戸時代の絵画作品を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造についても講義する。

作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造についても理解する。

### 【到達目標】

- ・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
- ・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。
- ・日本美術史における和漢の二重構造について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史についての概説をおこなったうえで、平安時代から江戸時代の絵画作品を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか解説するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。さらに、中国絵画の模倣からはじまった日本の絵画が、平安時代にオリジナルバージョンを確立したあとも、和と漢の二種類の作品を併存させていたことの意味を考える。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                 |
|------|---------------|--------------------|
| 第1回  | ガイダンス         | 授業内容の説明            |
| 第2回  | 美術史概説         | 美術史の研究手法、ジャンル、時代区分 |
| 第3回  | 平安時代の絵画 I     | 唐絵とやまと絵            |
| 第4回  | 平安時代の絵画 II    | 男絵と女絵              |
| 第5回  | 平安・鎌倉時代の絵画 I  | 来迎図                |
| 第6回  | 平安・鎌倉時代の絵画 II | 六道絵                |
| 第7回  | 鎌倉・南北朝時代の絵画   | 肖像画                |
| 第8回  | 室町時代の絵画 I     | 水墨画                |
| 第9回  | 室町時代の絵画 II    | やまと絵屏風             |
| 第10回 | 室町・桃山時代の絵画 I  | 狩野派                |
| 第11回 | 室町・桃山時代の絵画 II | 土佐派                |
| 第12回 | 桃山・江戸時代の絵画    | 琳派                 |
| 第13回 | 授業のまとめ I      | 筆記試験の説明            |
| 第14回 | 授業のまとめ II     | 平安時代~江戸時代の様式展開     |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備・復習時間は各2時間を標準とする。講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】

参考図版として、『原色日本の美術』全32巻 (小学館、1966~1972)、『日本美術全集』全25巻 (学習研究社、1977~1980)、『日本美術全集』全25巻 (講談社、1990~1994)、『日本美術全集』全20巻 (小学館、2012~2016)。

入門書として、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』(美術出版社、1991)、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史年表』(美術出版社、2002)、古田亮編著『教養の日本美術史』(ミネルヴァ書房、2019)。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験80%、リアクションペーパー20%。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの書き方については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業のときは、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、順序や内容が変わることがある。

【Outline (in English)】

Course outline

In this class, I will cover paintings from the Heian period to the Edo period and explain the basic knowledge. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles. In the fall semester, we will also give a lecture on the dual structure of Japanese and Chinese.

Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style. In the fall semester, students will also understand the dual structure of Japanese and Chinese.

Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of the works taken up in class.

Understand the styles of each era and become able to grasp art history as the development of styles.

Be able to explain the dual structure of Chinese style and Japanese style in Japanese art history.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

Grading Criteria/Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

HIS200BE (史学 / History 200)

## 日本史特講区

内藤 一成

授業コード：A3201 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代以降、大磯・箱根・那須・軽井沢など各地に形成された保養地について歴史的に検討する。近世には宿場町や原野であった町や地域が、西欧の保養思想や文化の流入に伴い急速に変容していく過程は、日本の近代化を象徴する変化であった。本講義では日本の近代化を保養地から捉えようとするものである。

## 【到達目標】

①日本の近代化を文化史的に理解する。②西洋文化の導入が当時の人々にどのような意識の変化をもたらしたのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

また、講義時に生じる質問にはリアクションペーパーやクエスチョンタイムを設けるほか、学習支援システムに課題の回答を掲示するなどフィードバックに関しても適宜対応していく。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                  |
|------|--------------|-------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション    | 講義に関する全体の説明、注意点など                   |
| 第2回  | 別荘地形成と近代化の諸相 | 近代日本における別荘地の諸類型                     |
| 第3回  | 大磯 1         | 海浜別荘地大磯の形成について 1 (宿場から保養地へ)         |
| 第4回  | 大磯 2         | 海浜別荘地大磯の形成について 2 (保養思想と海水浴)         |
| 第5回  | 葉山・鎌倉        | 皇室の別荘建設と湘南地域の各別荘地について               |
| 第6回  | 沼津・興津        | 鉄道建設と別荘地の拡大                         |
| 第7回  | 箱根 1         | 高原と温泉別荘地としての箱根 1 (宿場から保養地へ)         |
| 第8回  | 箱根 2         | 高原と温泉別荘地としての箱根 2 (保養思想と高原)          |
| 第9回  | 那須 1         | 殖産興業と別荘地那須の形成について 1 (近代農業農場経営)      |
| 第10回 | 那須 2         | 殖産興業と別荘地那須の形成について 2 (保養思想とカントリーライフ) |
| 第11回 | 塩原           | 道路インフラの整備と別荘地の拡大                    |
| 第12回 | 軽井沢 1        | 高原別荘地軽井沢の形成について 1 (宿場から保養地へ)        |
| 第13回 | 軽井沢 2        | 高原別荘地軽井沢の形成について 2 (「軽井沢ライフ」とは)      |
| 第14回 | まとめ          | 総括と質疑応答 講義全体のまとめ、質疑応答               |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布する史料等には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

特には用いない。

## 【参考書】

安島博幸・十代田朗『日本別荘史ノートーリゾートの原型』(住まいの図書館出版局)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、期末試験 (60%) をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

## 【その他の重要事項】

・「日本近代史科学」(秋学期) との継続履修を推奨する。

・大学院における学部合同科目 (「日本近代史研究」1) である。

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合 (介護体験実習、教育実習など) には、その事情を証明する文書を提出すること。

・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。

・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

## 【Outline (in English)】

(Course outline) In this class, I will clarify Japanese modernization based on the formation and development process of resorts. For this purpose, I will examine the history of Oiso, Hakone, Nasu, Karuizawa, etc. since modern times. The process by which these towns became resorts due to the influx of Western European ideas and culture was a symbol of Japan's modernization.

(Learning Objectives) By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand Japan's modernization from the perspective of cultural history.

- B. Understand how the influx of Western culture brought about changes in Japanese people's consciousness.

(Learning activities outside of classroom) Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE (史学/History 200)

## 日本史特講X

森田 貴子

授業コード：A3202 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【Outline (in English)】

This course aims for students to study modern Japanese history, from the beginning of the Meiji period to the Second World War from the perspective of institutional change. The goals of this course are to understand from multiple perspectives such as modernization of the land system, tax system, education, finance, etc. Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports: 40%.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幕末期の開港によって、政治的・軍事的・経済的に近代化を迫られた日本は、明治以降、封建的な制度を撤廃し、近代的な制度を急激に形成した。多様な法律・規則が制定・改廃され、多くの社会的な変動と改革がなされた。

本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、制度変革の観点から、多角的に近代日本の社会を歴史的事実に基づき理解する。

### 【到達目標】

本講義は、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、日本の近代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各回テーマごとに、講義を進めながら、近代日本の諸制度について、考えていく。

毎回、リアクションペーパーを提出する。

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーから良い意見や多く出された意見を取り上げて紹介し、議論を深める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                                                    |
|------|------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>土地制度（1） | 授業の目的・進め方。歴史学の方法。<br>現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。 |
| 第2回  | 土地制度（2）          | 近世期の土地制度                                              |
| 第3回  | 土地制度（3）          | 地租改正の実施                                               |
| 第4回  | 司法制度（1）          | 地租改正の意義                                               |
| 第5回  | 司法制度（2）          | 近代的司法制度の形成                                            |
| 第6回  | 土地制度と司法制度（1）     | 近代的司法制度の確立                                            |
| 第7回  | 土地制度と司法制度（2）     | 裁判の実態                                                 |
| 第8回  | 教育制度（1）          | 地主制                                                   |
| 第9回  | 教育制度（2）          | 小学校の形成                                                |
| 第10回 | 教育制度（3）          | 小学校の成立                                                |
| 第11回 | 金融制度（1）          | 小学校の確立                                                |
| 第12回 | 金融制度（2）          | 明治期の貨幣制度                                              |
| 第13回 | 金融制度（3）          | 国立銀行の設立                                               |
| 第14回 | 試験とまとめ           | 日本銀行の創設<br>試験とまとめ                                     |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースの経済面を、積極的に読むこと。  
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。

資料レジュメを配布する。

### 【参考書】

教場で、適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

各回提出する小レポート（40%）と、学期末試験（60%）（持ち込み不可）による。

### 【学生の意見等からの気づき】

オンライン回の一部では、参加型の時間をとる予定です。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受けることができる通信環境とパソコンなどの情報機器。

### 【その他の重要事項】

評価には、3分の2以上（9回以上）の小レポートの提出を必須とします。

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本近代史演習

内藤 一成

授業コード：A3203 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本近代史を研究する上では、史料(資料)や文献を博捜し、内容を深く読み込まなければならぬ。また先行研究を正しく「批判」し、自らの創造的な意見を打ち立てなければならない。本授業では、こうした能力の習得をめざす。

## 【到達目標】

日本近代史を研究するのに必要な能力の習得を目標とする。特に以下の4点を重視する。①一次史料の解読能力を身につける。②多様な史料(資料)の特徴を理解する。③学術論文を「批判的」に読み込む能力を身につける。④発表を通じてプレゼンテーションやディスカッションの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

演習形式をとる。史料読解および、個人またはグループによる発表を基本とする。春学期の発表では、グループによる①課題報告(テーマはあらかじめ提示した候補の中から選択)、②史料(資料)の紹介、③学術論文の論評、を行う。秋学期の発表は自由形式をとるが、3年生以上は卒論作成を視野に入れたものとする。

※なお、受講生の人数や授業の進捗状況等によって弾力的に授業内容を組み替えることがある。史料読解のテキストは教員より配布する。このほか、状況が許せば博物館等の見学や専門家からレクチャーを受ける機会を設けたい。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                |
|------|-------------|-------------------|
| 第1回  | イントロダクション   | 講義に関する全体の説明、注意点など |
| 第2回  | ガイダンス1      | 史料読解テキストの説明       |
| 第3回  | ガイダンス2      | 発表の方法に関する説明       |
| 第4回  | 史料読解1 発表1   | グループ発表(学術論文の論評1)  |
| 第5回  | 史料読解2 発表2   | グループ発表(史料紹介1)     |
| 第6回  | 史料読解3 発表3   | グループ発表(課題報告1)     |
| 第7回  | 史料読解4 発表4   | グループ発表(学術論文の論評2)  |
| 第8回  | 史料読解5 発表5   | グループ発表(史料紹介2)     |
| 第9回  | 史料読解6 発表6   | グループ発表(課題報告2)     |
| 第10回 | 史料読解7 発表7   | グループ発表(学術論文の論評3)  |
| 第11回 | 史料読解8 発表8   | グループ発表(史料紹介3)     |
| 第12回 | 史料読解9 発表9   | グループ発表(課題報告3)     |
| 第13回 | 史料読解10 発表10 | グループ発表(学術論文の論評4)  |
| 第14回 | 史料読解11 発表11 | グループ発表(史料紹介4)     |
| 第15回 | 史料読解12 発表12 | グループ発表(課題報告4)     |
| 第16回 | 史料読解13 発表13 | 個人発表1             |
| 第17回 | 史料読解14 発表14 | 個人発表2             |
| 第18回 | 史料読解15 発表15 | 個人発表3             |
| 第19回 | 史料読解16 発表16 | 個人発表4             |
| 第20回 | 史料読解17 発表17 | 個人発表5             |
| 第21回 | 史料読解18 発表18 | 個人発表6             |
| 第22回 | 史料読解19 発表19 | 個人発表7             |
| 第23回 | 史料読解20 発表20 | 個人発表8             |
| 第24回 | 史料読解21 発表21 | 個人発表9             |
| 第25回 | 史料読解22 発表22 | 個人発表10            |
| 第26回 | 史料読解23 発表23 | 個人発表11            |
| 第27回 | 史料読解24 発表24 | 個人発表12            |
| 第28回 | まとめ         | 全体総括と質疑応答         |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習・復習は平素よりコンスタントに進めておく。発表では発表者以外の学生も積極的な議論が行えるようレジュメの内容を予習しておく。論文評も同様に、対象論文を事前に熟読しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

史料読解でテキストとして使用する小田原高校同窓会所蔵「閑院宮載仁親王日記」は、学習支援システムを通じて配布する。※授業の進度に応じて、新たな史料を追加する場合がある。本授業に限らず、古文書解読のため、児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂書店)を準備しておくことが望ましい。

## 【参考書】

『シリーズ 日本近現代史』(岩波新書) 全10冊、黒沢文貴・季武嘉也編『日記で読む近現代日本政治史』(ミネルヴァ書房)

## 【成績評価の方法と基準】

史料読解への取り組みや、発表内容、ディスカッションへの参加度などをともに総合化し、これを平常点(100%)として評価する。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には不合格の評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

## 【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合(介護体験実習、教育実習など)には、その事情を証明する文書を提出すること。  
・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。  
・担当教員への直接連絡にはメールを利用してのこと。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is twofold. The first is to search for historical materials and scholarly books in modern Japan and read the contents deeply. The second is to properly criticize previous research and establish one's own creative opinion. Through this course, I aim for students to acquire such abilities.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the ability to decipher historical materials, read academic papers critically, and presentations and discussions.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Final grades are calculated according to the process of presentation, discussion and in-class contribution. Combine all elements to make 100%

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本古代史科学Ⅱ b

武井 紀子

授業コード：A3205 | 曜日・時限：水4/Wed.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、日本古代史で扱う史料のうち、木簡・漆紙文書・墨書土器などの出土文字資料を取り上げて、その史料的特質や扱い方、研究の視角などについて学びます。

### 【到達目標】

出土文字資料は、古代社会の実像を今に伝える貴重な資料です。一点一点の情報は少ないですが、そこに書かれた文字情報だけではなく、大きさや形状の特徴、出土した遺跡や遺構の性格、文献史料との比較など、様々な側面から検討することで、より豊かな情報を私たちにもたらししてくれます。本講義では、出土文字資料に対する考え方、そこから情報を引き出し古代史研究に活かす手法を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。必要に応じて、講義内容の理解度を問う小課題やリアクションペーパーの提出を求めます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                      |
|------|-------------|-------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 授業の目標と進め方               |
| 第2回  | 古代史の史料について  | 一次史料と二次史料、出土文字資料と古代史研究  |
| 第3回  | 木簡 (1)      | 木簡の資料的特徴について、宮都木簡と地方木簡  |
| 第4回  | 木簡 (2)      | 文書木簡を読む                 |
| 第5回  | 木簡 (3)      | 荷札・付札、帳簿木簡を読む           |
| 第6回  | 木簡 (4)      | その他の木簡                  |
| 第7回  | 漆紙文書 (1)    | 漆紙文書の資料的特徴について、漆紙文書の出土地 |
| 第8回  | 漆紙文書 (2)    | 漆紙文書を読む                 |
| 第9回  | 墨書土器 (1)    | 墨書土器の資料的特徴について          |
| 第10回 | 墨書土器 (2)    | 墨書土器を読む                 |
| 第11回 | 遺跡と文字資料 (1) | 長屋王家木簡を読む               |
| 第12回 | 遺跡と文字資料 (2) | 古代城柵出土の文字資料を読む          |
| 第13回 | 出土文字資料の広がり  | 列島の北と南の出土文字資料、東アジアの文字資料 |
| 第14回 | まとめ         | 講義のまとめとレポート課題の確認        |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義で扱う内容は、高校教科書程度の知識を前提とします。講義内容をよりよく理解するために、日本古代史に関する概説書などに目を通しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義時に担当教員が作成した資料を配布します。

### 【参考書】

坂上康俊『平城京の時代』(岩波書店、2011年)  
大津透『律令国家と隋唐文明』(岩波書店、2020年)  
木簡学会編『木簡から古代がみえる』(岩波書店、2010年)  
渡辺晃宏『平城京と木簡の世紀』(講談社、2001年)  
平川南・沖森卓也・榮原永遠男・山中章 編『文字と古代日本』1～5 (吉川弘文館、2004～2006年)  
吉村武彦・吉川真司・川尻秋生『シリーズ古代をひらく 文字とことば』(岩波書店、2020年)  
ほか、講義時に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業への積極的な貢献度(40%)および小課題・期末レポート(60%)によって行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces historical sources of Japanese ancient history to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to understand these historical sources correctly.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided on Term-end reports (60%) and in-class contribution(40%).

HIS300BE (史学/History 300)

**日本古文書学Ⅰ**

大塚 紀弘

授業コード：A3206 | 曜日・時限：木5/Thu.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本古代（奈良時代から平安時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、日本漢文を読解する力を養成することを目的とする。

**【到達目標】**

法令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解説することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教科書の内容に沿いつつ、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に日本漢文を訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。配布プリント（PDFファイル）は、事前に各章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。引き続き秋学期に「日本古文書学Ⅱ」を履修することが望ましい。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容          |
|------|---------------|-------------|
| 第1回  | 古文書学とは        | 履修のガイダンス    |
| 第2回  | 検非違使別当宣       | 古文書に親しむ     |
| 第3回  | 紛失状           | 古文書に親しむ     |
| 第4回  | 公式様文書 宣命・詔    | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第5回  | 公式様文書 符（1）    | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第6回  | 公式様文書 符（2）    | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第7回  | 公式様文書 移       | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第8回  | 公式様文書 牒       | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第9回  | 公式様文書 解       | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第10回 | 公式様文書 宣旨      | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第11回 | 公家様文書 官宣旨     | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第12回 | 公家様文書 院庁下文    | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第13回 | 公家様文書 摂関家政所下文 | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第14回 | 公式様文書と公家様文書   | 授業内容の総括（試験） |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書を用いて予習し、教科書、プリント等を用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

**【参考書】**

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）  
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）  
苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験の点数100%で評価する予定である。

**【学生の意見等からの気づき】**

次回取り上げる文書を予告する。

**【学生が準備すべき機器他】**

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students learn Japanese archaeological studies systematically. The goals of this course are to acquire the basic ability of reading old documents. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. term-end examination : 100%.



HIS300BE (史学/History 300)

## 日本古文書学Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3207 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本古文書学Ⅰ」から継続し、教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本中世（平安時代から室町時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、日本漢文を読解する力を養成することを目的とする。

### 【到達目標】

公家様文書および公家様文書から派生した武家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。配布プリント（PDFファイル）は、事前に各章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。春学期に「日本古文書学Ⅰ」を履修することを必須とする。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容          |
|------|----------------|-------------|
| 第1回  | 古文書学とは         | 履修のガイダンス    |
| 第2回  | 公家様文書 国司庁宣     | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第3回  | 公家様文書 綸旨       | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第4回  | 公家様文書 院宣       | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第5回  | 公家様文書 御教書      | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第6回  | 武家様文書 下文 (1)   | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第7回  | 武家様文書 下文 (2)   | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第8回  | 武家様文書 下知状 (1)  | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第9回  | 武家様文書 下知状 (2)  | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第10回 | 武家様文書 鎌倉幕府の御教書 | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第11回 | 武家様文書 室町幕府の奉書  | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第12回 | 武家様文書 室町幕府の直状  | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第13回 | 起請文・売券・讓状      | 様式・機能の解説と訓読 |
| 第14回 | 公家様文書と武家様文書    | 授業内容の総括（試験） |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習し、教科書、プリント等を用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

### 【参考書】

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）

久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）

苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数100%で判定する予定である。

### 【学生の意見等からの気づき】

次回取り上げる文書を予告する。

### 【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn Japanese archaeological studies systematically. The goals of this course are to acquire the basic ability of reading old documents. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. term-end examination : 100%.

HIS200BE (史学 / History 200)

**東洋近現代史**

芦沢 知絵

授業コード：A3208 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

**【Outline (in English)】**

This course introduces the history of modern China focusing on the changes in rural society from the late Qing period to the present.

The goal of this course is to understand the historical process and features about modern China.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業は「農村からみる中国近現代史」をテーマとする。

中国の総面積の9割以上を占める農村は、まさに中国の基層社会として、歴史上の重要なファクターとなってきた。特に近現代において、現在の共産党政権は農村を拠点に成立し、昨今の経済発展も農村をめぐる諸問題と切り離して考えることはできない。一方、こうした農村の実態は、歴史の表舞台には現れ難い。中国が近代～現代という新しい時代に移りゆく中で、農村にはどのような変化がもたらされたのか？

本授業では、中国近現代史の全体像とともに、同時期の農村基層社会の変遷をたどることで、現在の中国に至る「国家」の成り立ちとその特徴について、より深く共に考えていきたい。

**【到達目標】**

近現代における中国の農村基層社会の変遷をたどることで、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現在の中国の成り立ちとその特徴について、主体的に考察する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ         | 内容              |
|------|-------------|-----------------|
| 第1回  | 中国近現代史入門    | 中国近現代史を学ぶ意義・方法  |
| 第2回  | 中国の農村を知る    | 中国農村研究の動向・議論    |
| 第3回  | 清末の激動と農村    | アヘン戦争と農民蜂起      |
| 第4回  | 近代化する農村     | 辛亥革命と郷紳層の変化     |
| 第5回  | 国民党の農村統治    | 南京国民政府の成立と地方行政  |
| 第6回  | 共産党の農村拠点化   | 中国共産党の結成と革命根拠地  |
| 第7回  | 戦時下の農村・農民   | 日中戦争と占領・「抗日」・動員 |
| 第8回  | 農村からの「革命」   | 国共内戦と中華人民共和国の成立 |
| 第9回  | 社会主義化する農村   | 土地改革と農業集団化      |
| 第10回 | 毛沢東時代の農村①   | 大躍進運動と人民公社      |
| 第11回 | 毛沢東時代の農村②   | 文化大革命と「下放」      |
| 第12回 | 流動化する農村     | 改革開放と人口移動       |
| 第13回 | 現在の中国農村     | 三農問題と進む農村改革     |
| 第14回 | 中国農村をめぐる諸問題 | 農村からみる中国の今とこれから |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、現在の中国に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特になし

**【参考書】**

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——兩岸三地100年の歩み (第2版)』東京大学出版会、2019年。

吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑥』岩波書店 (岩波新書)、2010～17年。

田原史紀『二〇世紀中国の革命と農村』(世界史リブレット124) 山川出版社、2008年。

**【成績評価の方法と基準】**

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末試験 70%

授業内容に関する論述問題を出题する。

**【学生の意見等からの気づき】**

初學者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

HIS200BE (史学/History 200)

## 東洋考古・美術史

大島 誠二

授業コード：A3209 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、中国文明の成立を扱う。考古学資料による研究成果に基づき、中国古代社会の発展の推移を追い、考察する。

中国世界がどのように成立されてきたのか、またその領域がどのように広がってきたのか、時間的・空間的にとらえることで、中国文明の成立過程を理解しその特質を理解する。

### 【到達目標】

- ①古代文明の成立過程を理解する。
- ②中国世界の成立過程を理解する。
- ③考古学資料を用いた分析手法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に、パワーポイントを用いながら講義形式で進める。受講生には、資料プリントを配布する。

リアクションペーパー、課題、質問などに対するフィードバックは、授業中に行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                 |
|------|----------------|--------------------|
| 第1回  | 導入             | 中国世界とは             |
| 第2回  | 中国考古学の黎明期      | 北京原人・仰韶文化・竜山文化の発見  |
| 第3回  | 中国の新石器時代       | 中国新石器文化の多様性        |
| 第4回  | 文明段階の萌芽        | 良渚文化・石家河文化・陶寺遺跡    |
| 第5回  | 夏王朝と二里头文化①     | 二里头文化の出現           |
| 第6回  | 夏王朝と二里头文化②     | 二里头文化の意義と影響        |
| 第7回  | 殷王朝の文化         | 殷墟遺跡と殷文化の広がり       |
| 第8回  | 三星堆文化の発見       | 三星堆文化の様相とその意味      |
| 第9回  | 周王朝の源流と克殷      | 殷王朝の滅亡と周王朝の成立      |
| 第10回 | 周王朝の封建支配       | 封建制の実態を探る          |
| 第11回 | 青銅器鑄造技術と金文     | 中国古代の青銅器製造技術       |
| 第12回 | 春秋戦国時代の地域性と文化圏 | 春秋戦国時代の文化の多様性と文化圏  |
| 第13回 | 春秋戦国時代の社会変化    | 分裂から統一へ向かう中での社会の変化 |
| 第14回 | まとめと試験         | 春期の振り返りと試験         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する参考書には、興味のある部分だけでも良いので目を通してもらいたい。授業で取り上げるのは、今の中国世界が成立する過程の最初の部分である。現代の中国に関する情報にも、関心を示してほしい。

考古学資料を扱うので、履修者には博物館や美術館に足を運び、中国の文物に親しんでもらいたい。東京では、上野の東京国立博物館東洋館、鶯谷の台東区立書道博物館、表参道の根津美術館、有楽町の出光美術館などがおすすめである。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

### 【参考書】

宮本一夫『中国の歴史1 神話から歴史へ 神話時代 夏王朝』講談社学術文庫 2020（原本刊行は2005）

平勢隆郎『中国の歴史2 都市国家から中華へ 殷周 春秋戦国』講談社学術文庫2020（原本刊行は2005）

小澤正人・谷豊信・西江清高『中国の考古学』（世界の考古学7）同成社 1999

その他、授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内の提出物 30% 期末試験70%。

### 【学生の意見等からの気づき】

映像資料などを用いて、わかりやすい授業を心がけたい。

### 【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course covers the establishment of Chinese civilization. Based on research results derived from archaeological data, investigates and reflects upon the development and evolution of ancient Chinese society.

### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① Understand the formation process of ancient civilizations.
- ② Understand the formation process of ancient Chinese society.
- ③ Learn how to analyze archaeological data.

### 【Learning activities outside of classroom】

Before after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content

### 【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report 30%, and Exam 70%.

HIS300BE (史学 / History 300)

## 東洋史物質資料演習

徳留 大輔

授業コード：A3210 | 曜日・時限：火5/Tue.5

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジア物質資料への理解

## 【到達目標】

中国考古・美術・建築・工芸に関するテキスト（中国語）の講読を通じて物質資料の種類・性格を理解する手掛かりを見出すとともに、資料整理の方法を習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）をテキストとして用い、その講読と内容発表を行います。そして1）各自が興味をもつテーマをテキストの中より選び、2）そのテーマを研究する上で必要な研究文献や研究資料の収集を行い、3）報告資料を作成・口頭発表を行ってまいります。このためには物を見る力を養い、関連する資料を如何に見出し資料の性格を理論的に組み立てていくか、という問題を互いに議論していく必要があります。

前半では、まずテキストを読み解き、特別な用語に慣れることに主眼をおきます。テキストは現代中国語です。このため読解に慣れた上級生と不慣れた下級生との組み合わせで担当するテーマについて、内容の要約と説明を行ってまいります。後半では各自の研究計画テーマに沿ってテキストよりテーマを選択し発表してまいります。この際には互いに論評し合うことによって各々がより良い研究への方向性を見出していくことを期待します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                         |
|------|--------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | 導入1          | 年間計画・テキストの説明と配布                            |
| 第2回  | 導入2          | 基本書籍・工具書の紹介                                |
| 第3回  | 導入3          | 図書館利用や文献利用の在り方についての紹介                      |
| 第4回  | テキストの講読1     | 課題文献（『漢代物質文化資料図説』）の講読1                     |
| 第5回  | テキストの講読2     | 課題文献の講読2                                   |
| 第6回  | テキストの講読3     | 課題文献の講読3                                   |
| 第7回  | テキストの講読4     | 課題文献の講読4                                   |
| 第8回  | テキストの講読5     | 課題文献の講読5                                   |
| 第9回  | テキストの講読と発表1  | 『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第1回                    |
| 第10回 | テキストの講読と発表2  | 『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第2回                    |
| 第11回 | テキストの講読と発表3  | 『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第3回                    |
| 第12回 | 博物館見学        | 東京国立博物館見学                                  |
| 第13回 | 研究発表1        | 4年生対象1                                     |
| 第14回 | 研究発表2        | 4年生対象2                                     |
| 第15回 | テキストの講読と発表4  | 資料・課題文献（『漢代物質文化資料図説』）をもとにした研究テーマ別の研究発表、第1回 |
| 第16回 | テキストの講読と発表5  | 資料・課題文献（『漢代物質文化資料図説』）をもとにした研究テーマ別の研究発表、第2回 |
| 第17回 | 美術館見学        | 出光美術館の見学                                   |
| 第18回 | テキストの講読と発表6  | 資料・課題文献（『漢代物質文化資料図説』）をもとにした研究テーマ別の研究発表、第3回 |
| 第19回 | テキストの講読と発表7  | 資料・課題文献（『漢代物質文化資料図説』）をもとにした研究テーマ別の研究発表、第4回 |
| 第20回 | テキストの講読と発表8  | 資料・課題文献（『漢代物質文化資料図説』）をもとにした研究テーマ別の研究発表、第5回 |
| 第21回 | テキストの講読と発表9  | 資料・課題文献（『漢代物質文化資料図説』）をもとにした研究テーマ別の研究発表、第6回 |
| 第22回 | テキストの講読と発表10 | 資料・課題文献（『漢代物質文化資料図説』）をもとにした研究テーマ別の研究発表、第7回 |

|      |              |                                            |
|------|--------------|--------------------------------------------|
| 第23回 | テキストの講読と発表11 | 資料・課題文献（『漢代物質文化資料図説』）をもとにした研究テーマ別の研究発表、第8回 |
| 第24回 | テキストの講読と発表12 | 資料・課題文献（『漢代物質文化資料図説』）をもとにした研究テーマ別の研究発表、第9回 |
| 第25回 | 研究計画発表1      | 3年生対象1                                     |
| 第26回 | 研究計画発表2      | 3年生対象2                                     |
| 第27回 | 研究計画発表3      | 2年生対象1                                     |
| 第28回 | 研究計画発表4      | 2年生対象2                                     |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習で見学する博物館・美術館や図書館だけでなく、都内各所で開催される展覧会

などに積極的に出掛け、資料・作品を見る目を培ってほしいと思います。見学の際にはなぜその作品がその章・場所に展示されているのか、そのバックグラウンドを考えながら見てください。また（塩沢先生）研究室の図書を積極的に活用し、また上級生や同級生との議論を重ねながら自分が研究しようとするテーマを定めるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）を用いますが、プリントして授業にて配布します。また参考用として『中国古代物質文化史』（開明出版社）についても紹介します。

## 【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介していきますが、（塩沢先生）研究室所蔵の資料を積極的に活用してください。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点70%、レポート課題30%。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義でとりあげる物質文化資料・作品を、教科書だけでなく博物館・美術館で実際にモノをみることで、学んだことをよりリアリティーをもって相対化できるようにする。また実物の資料をもと理論立てて物事を説明できるプロセスを学ぶことができる。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

## 【その他の重要事項】

教員は、現役の美術館学芸員であり、実際に作品や資料を日常的に取り扱っている。その経験をもとに物質資料をどのように研究や展覧会で使用するために資料化するのか、そのプロセスを学生と一緒に共有することができる。

## 【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 Through reading texts (in Chinese) on Chinese archaeology, art, architecture, and crafts, we will be able to find clues to understanding and research method for researching material culture in East Asian Area.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria / Policy】 Based on class performance 70 per cent and term paper 30 per cent.

HIS300BE (史学 / History 300)

## 東洋史文献史料演習

齋藤 勝

授業コード：A3211 | 曜日・時限：火4/Tue.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

東洋史研究のための基礎の習得と実践

自分の力で卒論を書くために必要な東洋史研究の手法を身につける。

### 【到達目標】

東洋史の研究に必要な文献史料(漢文)と先行研究(日本語・中国語・英語)の収集・読解に関わる技能・知識について、自力で研究を進め論文を執筆できるレベルまで習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「文献を読み込む」という作業について習熟することが最重要である。まずは出来るだけ多くの史料・研究を読み進め、全ての前提となる読解力を身につけたい。次に読んだ文献の性質を見極め、さらにそこから内容を吟味する力を身につけていくための訓練を行っていききたい。そしてその上で、卒論に向けた準備を進めていききたい。なお、課題に対するフィードバックは、文献を読み進めていくなかで行っていく。また、出席者の関心に基づいて授業内容を変更する場合がある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容                   |
|------|----------|----------------------|
| 第1回  | 演習の概要    | 進め方、テキストについて         |
| 第2回  | 先行研究及び史料 | 論文の見つけ方、漢籍の分類、辞書の使い方 |
| 第3回  | 史料講読     | 先秦儒家文献(1)『孟子』        |
| 第4回  | 史料講読     | 先秦儒家文献(2)『荀子』        |
| 第5回  | 史料講読     | 先秦諸子文献(1)『墨子』        |
| 第6回  | 史料講読     | 先秦諸子文献(2)『韓非子』       |
| 第7回  | 史料講読     | 正史(1)『史記』            |
| 第8回  | 史料講読     | 正史(2)『史記会注考証』        |
| 第9回  | 史料講読     | 正史(3)『漢書』            |
| 第10回 | 史料講読     | 正史(4)『漢書補注』          |
| 第11回 | 史料講読     | 正史(5)『三国志』           |
| 第12回 | 史料講読     | 正史(6)『三国志集解』         |
| 第13回 | 史料講読     | 編年史書『資治通鑑』           |
| 第14回 | 先行研究の整理  | 中国史                  |
| 第15回 | 先行研究の整理  | 中国史以外                |
| 第16回 | 文献学の基礎   | 書誌学について              |
| 第17回 | 文献学の基礎   | 漢籍の成立と伝世について         |
| 第18回 | 史料講読と考証  | 考証学・顧炎武・『日知録』について    |
| 第19回 | 史料講読と考証  | 『日知録』の講読・考証          |
| 第20回 | 史料講読と考証  | 『塩鉄論』について            |
| 第21回 | 史料講読と考証  | 『塩鉄論校注』の講読・考証        |
| 第22回 | 史料講読と考証  | 『白居易集』について           |
| 第23回 | 史料講読と考証  | 『白居易集』諸本の比較          |
| 第24回 | 中文研究書の講読 | 陳寅恪の研究               |
| 第25回 | 中文研究書の講読 | 陳垣の研究                |
| 第26回 | 英文研究書の講読 | 近現代中国もしくは諸地域について     |
| 第27回 | 卒論準備     | 卒論の書き方について           |
| 第28回 | 卒論準備     | 卒論の準備状況の報告           |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講読にあたる部分は当番制をとらないので、参加者各自に毎回、史料を読んできてもらいます。考証にあたる部分は当番制をとりますが、夏休み中の準備が必要になります。また予備知識にあたる部分は、参考文献を提示し各自で予習してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

上記の授業計画に挙げた文献についてコピーして配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

### 【参考書】

授業内容に応じて適宜、紹介していきます。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート類50%

講読・発表をこなすことが平常点の最低条件になります。ただし甚だしく努力を怠る、理解が及んでいない等の場合は、成績として加算しません。

レポート類は、各学期中に加え、長期休暇の際も宿題として課します。全て提出することが条件となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire basic skills to study ancient Chinese history.

Learning objects: The goal of this course is to acquire skills to write a graduation thesis.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

HIS100BE (史学/History 100)

**東洋史序説**

宇都宮 美生

授業コード：A3214 | 曜日・時限：木4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：〈他〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさげばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、中国・日本・朝鮮の対外関係を中心に、アジアと欧米の関係史についても理解を深めていく。

**【到達目標】**

中国の影響を受けた日本が諸外国とどのように交流していったか、日本・中国の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は講義形式で行う。

日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているか、諸外国の歴史とともに具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ    | 内容       |
|------|--------|----------|
| 第1回  | 古代の外交1 | 倭国の対外関係1 |
| 第2回  | 古代の外交2 | 倭国の対外関係2 |
| 第3回  | 古代の外交3 | 遣隋使      |
| 第4回  | 古代の外交4 | 遣唐使1     |
| 第5回  | 古代の外交5 | 遣唐使2     |
| 第6回  | 古代の外交6 | 遣唐使3     |
| 第7回  | 中世の外交1 | 日宋貿易     |
| 第8回  | 中世の外交2 | 日元貿易と元寇  |
| 第9回  | 近世の貿易1 | 日明貿易     |
| 第10回 | 近世の貿易2 | 日清貿易1    |
| 第11回 | 近世の貿易3 | 日清貿易2    |
| 第12回 | 近世の貿易4 | 日清貿易3    |
| 第13回 | 近代の外交  | 日欧外交     |
| 第14回 | 学習のまとめ | まとめと期末試験 |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

**【参考書】**

森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978年  
 鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800円+税  
 村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税  
 中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円+税  
 峯原俊洋・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税

田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円+税

\*このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点30%、期末試験70%

**【学生の意見等からの気づき】**

わかりやすい授業を心がける。

身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

ビデオ・カメラ撮影を禁じる。

**【事務への連絡事項】**

パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。

パソコンの貸し出しも希望します。

**【Outline (in English)】**

This course introduces an understanding of Japanese, Chinese and Korean histories in respect to international relations with other Asian and Western countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria/Policies:** Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS100BE (史学/History 100)

## 西洋史序説

阿部 衛

授業コード：A3215 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：〈他〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界史のなかでも、とりわけ西洋史に焦点をあて、古代から現代に至るまでの重要な事象について通史的に講義する。授業では、適宜史料が提示され、その史料からいかなる解釈が引き出され、今日の歴史像の形成にいたったのかを考える。歴史的に重要な事象を単に記憶することではなく、その経緯や背景を理解することを重視している。

### 【到達目標】

この授業では以下の三点を到達目標に設定している。

- (1) 古代から現代までの西洋の歴史を体系的に理解できる
- (2) 史料の可能性と限界を理解できる。
- (3) 現代的価値観にとらわれず、相対的に事象を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

毎回事前に講義の資料を学習支援システムを通じて配布するので、各自ダウンロードしないしは印刷して授業に臨んでもらう。

毎回の授業の最後に400字程度のリアクションペーパーを提出してもらう。毎回の授業の冒頭で、前回の授業の復習とリアクションペーパーに対するフィードバックの時間を設ける。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                                            |
|------|----------------------|---------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション            | 授業の進め方と目標について確認する。                                            |
| 第2回  | 古代1：古代ギリシア           | 古代ギリシア文明の誕生と発展、そして衰退について考える。                                  |
| 第3回  | 古代2：ローマ (王政～共和政)     | ローマが都市国家からいかにして帝国へと発展していったのかを考える。                             |
| 第4回  | 古代3：ローマ (帝政期)        | ローマ帝国はいかにして共和政から帝政へと移行したのか、そしてその後も共和政に戻ることはなく、帝政が維持されたのかを考える。 |
| 第5回  | 中世1：中世ヨーロッパ世界の成立     | 古代から中世へとヨーロッパがいかにして移行していったのかを考える。                             |
| 第6回  | 中世2：中世ヨーロッパ世界の成熟     | 教皇と皇帝の関係性はいかにして変化していったのかを考える。                                 |
| 第7回  | 中世3：中世ヨーロッパ世界の変貌     | 黒死病や戦争そして飢饉をいかにしてヨーロッパ社会が超克し、その結果、何がもたらされたのかを考える。             |
| 第8回  | 近世1：主権国家体制の成立        | ヨーロッパにおける主権国家体制の成立について戦争との関係に注目しながら考える。                       |
| 第9回  | 近世2：近世的統治体制の終焉       | 近世的統治体制に終わりをもたらした要因について、啓蒙思想やブルジョアの誕生に注目して考える。                |
| 第10回 | 近現代1：近代の幕開け          | 産業革命やフランス革命はいかなる社会的背景から生じることとなったのかを考える。                       |
| 第11回 | 近現代2：「国民国家」への歩みと帝国主義 | 「国民国家」がいかなる社会的状況を背景に形成され、その後の世界に何をもたらしたのかを考える。                |
| 第12回 | 近現代3：二つの大戦           | 二つの世界大戦はいかなる社会的背景から勃発し、その後いかにして解決が図られたのかを考える。                 |
| 第13回 | 近現代4：東西冷戦とその後の世界     | 米ソの対立構造はいかにして形成され、世界にいかなる影響を与えたのかを考える。                        |
| 第14回 | まとめ                  | これまでの授業を振り返り、整理する。                                            |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業で配布されるプリントを参考に予習と復習をすること (各2時間)。適宜参考文献を読み、理解を深めること。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定なし。

### 【参考書】

1. 服部良久、南川高志、山辺規子編、『大学で学ぶ世界史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006年

2. 山川哲、上垣豊、山田史郎編、『大学で学ぶ世界史 [近現代]』、ミネルヴァ書房、2011年

3. 中井義明ほか著、『教養のための西洋史入門』、ミネルヴァ書房、2007年

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクションペーパー) …60%

学期末の期末試験ないしレポート…40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布や課題提出に学習支援システムを用いるため、パソコンやタブレット端末などの持参を推奨する。

### 【その他の重要事項】

授業計画はあくまで目安であり、受講者の理解度に応じて適宜変更される。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Within world history, we will focus on Western history, giving comprehensive lectures on important events from ancient times to the present day. In class, historical materials are presented as appropriate, and students consider what interpretations can be derived from the materials that led to the formation of today's historical image. Rather than simply remembering historically important events, we place emphasis on understanding their history and background.

#### 【Learning Objectives】

In this class, we have set the following three goals.

- (1) Be able to systematically understand Western history from ancient times to the present day
- (2) Be able to understand the possibilities and limitations of historical materials.
- (3) Be able to evaluate events relatively without being bound by modern values.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review using the handouts distributed in each class (2 hours each). Read the references as appropriate to deepen your understanding.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Reaction paper …60%

Final exam or report at the end of the semester …40%

HIS200BE (史学/History 200)

## 日本史特講XI

小倉 慈司

授業コード：A3216 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、日本古代の史書について、特に「六国史」と呼ばれた「正史」のうちの『日本書紀』『続日本紀』を中心に、その基礎的な知識や調査・研究の方法を習得することを目的とする。古代の人々はどのようにして歴史を記録し、編纂したのか、そしてそのようにして完成した史書はどのように受け継がれて現在まで伝承してきたのか。史書に記された具体的な記事も読解しつつ、古代史研究の基礎を身につける。

## 【到達目標】

1 古代史史料に関する基礎知識を身につける。2 古代史の文献史料を読解する力を身につける。3 史料批判の能力を養い、論理的思考力を鍛える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式（対面授業）で進めます。実際に史料を読んでもらったり、アンケート・小テストを実施することもあります。主体的かつ問題意識をもって授業に取り組むことを望みます。リアクションペーパーや小テストの結果については、次回以降の授業のなかで紹介したり、授業内容に反映させていただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                        |
|------|-------------|---------------------------|
| 第1回  | 記録するということ   | ガイダンス、漢字文化の伝来             |
| 第2回  | テキストと史書の伝来  | 写本と刊本、校訂、注釈書              |
| 第3回  | 日本書紀の編纂過程   | 帝紀・旧辭、天武朝の編纂事業、古事記との関係    |
| 第4回  | 日本書紀の神話     | 神代巻の内容                    |
| 第5回  | 天皇系譜        | 皇位継承の変遷                   |
| 第6回  | 日本書紀の対外関係記事 | 外国史料との関係                  |
| 第7回  | 乙巳の変と政治改革   | 大化改新研究、出土文字資料との関係         |
| 第8回  | 壬申の乱と天武・持統朝 | 7世紀後半の動き                  |
| 第9回  | 続日本紀の編纂過程   | 複数にわたる修史事業                |
| 第10回 | 続日本紀のテキスト   | 新訂増補国史大系、朝日新聞社本、新日本古典文学大系 |
| 第11回 | 聖武天皇の時代     | 長屋王の変と光明立后、大仏開眼           |
| 第12回 | 続日本紀に見える祥瑞  | 改元記事                      |
| 第13回 | 風土記の編纂      | 風土記の記事の特徴                 |
| 第14回 | 光仁天皇から桓武天皇へ | 皇位継承、早良親王事件               |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料は事前に読んでおいてください。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業に必要な史料は配布します。必ず持参してください。

## 【参考書】

遠藤慶太『六国史』（中公新書、2016年）  
遠藤慶太ほか編『日本書紀の誕生』（八木書店、2018年）  
ほか、授業中に紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業参加への積極性（20%）、小テストやレポート課題（80%）を総合しておこないます。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

## 【Outline (in English)】

This course aims to teach students basic knowledge and research methods about the Japanese classical history book, "Rikkokushi"(Six National Histories of Japan chronicling the history of Japan from the earliest times to 887). At the end of the course, students are expected to be able to read Japanese classical records and investigate them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course contents.

The overall class grade will be determined by the following criteria: Quizzes and Reports: 80%, Contribution during class: 20%



HIS200BE (史学/History 200)

## 東洋史特講Ⅶ

久野 美樹

授業コード：A3217 | 曜日・時限：木1/Thu.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国、日本の仏教美術史を学びます。仏教、仏教美術史を基礎から学び、中国と日本の仏教美術を通して、中国人、日本人の美意識、精神世界を知ることになります。

### 【到達目標】

中国の物質文化、仏教思想を理解し、さらに日本文化と中国文化の関係を知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各回授業の初めに授業概要を表したレジュメを配布し、それに沿い講義します。講義では常にパワーポイントによるスライドを用います。複数回リアクションペーパーを実施し、後日添削してお返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                                                        |
|------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 第1回  | 仏教と仏教美術の基本                    | 美術史学について解説します。釈迦の生涯の美術、上座部系仏教、大乘仏教の美術を用い、仏教と仏教美術の基本を学びます。 |
| 第2回  | 敦煌莫高窟初期窟                      | 敦煌という街、その郊外にある現存最古A.D.5c.敦煌莫高窟の内容を解説。                     |
| 第3回  | 北魏の漢化と雲岡石窟                    | 中国文化史上重要な北魏という国の漢化と雲岡石窟について解説。                            |
| 第4回  | 雲岡石窟曇曜五窟論                     | 曇曜という高僧が造った雲岡石窟の代表的な5体の大仏像について解説。                         |
| 第5回  | 龍門石窟北魏窟                       | A.D.494の北魏による洛陽遷都後に造営された龍門石窟について解説。                       |
| 第6回  | 魏晋南北朝の絵画と理論                   | モンゴル系民族の北魏の美術とは異なる漢民族様式の美術について学習。                         |
| 第7回  | 敦煌莫高窟西魏窟                      | 西方文化と漢民族文化を兼ねそなえたA.D.6c.前半西魏の莫高窟美術を解説。                    |
| 第8回  | 敦煌莫高窟唐の美術                     | 唐時代に盛行した大画面形式の観音菩薩、阿弥陀仏の美術と日本への影響について解説。                  |
| 第9回  | 一州一寺制と皇帝等身像                   | 日本にも影響を与えた国家仏教の実態を美術から解説。                                 |
| 第10回 | インド、中国、日本に伝わった優填王（うでんおう）像について | インド、中国、日本でつくられた伝説の仏像とその思想的背景について解説。                       |
| 第11回 | 唐代龍門石窟奉先寺洞像                   | 日本奈良東大寺大仏像の思想的源となった龍門石窟の大仏像について解説。                        |
| 第12回 | 奈良薬師寺の薬師三尊像                   | 薬師三尊像の時代背景と制作年代について解説。                                    |

第13回 密教美術

インドで発展し、中国に伝わり今の日本に生きる密教の美術について解説。

第14回 期末試験

授業で見た4枚のスライドについて解説してもらいます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書に挙げた『世界美術大全集 東洋編』小学館を中心に読むことで、授業後4時間以上復習することが望ましいです。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

### 【参考書】

『世界美術大全集 東洋編』全18巻 各国時代別 小学館 1997～2001、『中国の美術』昭和堂 2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局 2016、『増補新訂 カラー版東洋美術史』美術出版社 2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術 2012、『中国石窟 敦煌莫高窟』1巻～3巻 平凡社 1980～1981、『中国石窟 雲岡石窟』全2巻 平凡社 1989～1990、『中国石窟 龍門石窟』全2巻 平凡社 1987～1988、『アジア仏教美術論集 東アジアⅠ 後漢・三国・南北朝』中央公論美術出版 2017、『アジア仏教美術論集 東アジアⅡ 隋・唐』中央公論美術出版 2019、『日本美術全集 第2巻 法隆寺と奈良の寺院』小学館 2012

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、リアクションペーパー40%。

期末試験、リアクションペーパー共に主語、述語の整った日本語の文章であること、また各々の回答の中で論理が構築できているかをみて成績評価の基準とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がけます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

授業終了後に質問を受け付けます。どのようなことでも遠慮なく質問してください。

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Buddhist Art History of China and Japan.

(Learning Objectives) By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding Chinese Material Culture, Buddhist Thought and the Relationship between Japanese and Chinese Culture.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/ Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term -end examination: 60%, Short reports:40%

HIS200BE (史学/History 200)

## 東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

## 【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生による課題の作成・提出で構成されます。課題は毎回の授業内容に関する論述です。提出された課題については次の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                      |
|------|-----------------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                 | 授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。             |
| 第2回  | 古代地中海世界の宗教伝統          | 古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。              |
| 第3回  | 古代末期の地中海世界とアラビア半島     | ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。 |
| 第4回  | 預言者ムハンマドと神の啓示         | 預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。               |
| 第5回  | 預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり | 正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。                |
| 第6回  | 統一の再生と崩壊              | 第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。                  |
| 第7回  | 指導者の資格とは何か            | 第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。                |
| 第8回  | ウマイヤ朝の到達点             | ウマイヤ朝最盛期の歴史的な位置付けと問題点について。              |
| 第9回  | ウマイヤ朝の衰退、対抗勢力の胎動      | ウマイヤ朝末期の状況とハシミヤ運動について。                  |
| 第10回 | アッバース朝の確立             | アッバース朝最初期の状況について。                       |
| 第11回 | 革命をもう一度               | アミンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。         |
| 第12回 | イスラームの完成、帝国の限界        | イスラームとアッバース朝カリフの関係について。                 |
| 第13回 | イスラーム世界の確立            | 諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。                |
| 第14回 | 総括                    | 試験・まとめと解説                               |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出した課題を再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べるのが予習になります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎回授業資料を配布します。

## 【参考書】

・概説書

小杉泰, 『イスラーム帝国のジハード』(講談社学術文庫), 講談社, 2016年。  
菊地達也編著, 『図説イスラーム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年。

・工具書

大塚和夫ほか編, 『岩波イスラーム辞典』, 岩波書店, 2002年。

その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回提出の課題(50%)、期末試験(50%)

課題については毎回素点をつけ、その累積をもとに評価します。

期末試験は論述試験となる予定です。

毎回のペーパーも試験も、ともに学生各自の見解を論述するものになります。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価の対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートより、図像等を用いてイメージをやすくしてほしいとの声がありました。特に地図などはできるだけ示しながら授業をしていきたいと考えています。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料はHoppiiにてPDFで配布し、それをスクリーンで映しながら講義する予定です。配布資料は板書の代わりです。それを印刷して持参するか、あるいは自身の端末で閲覧するなどして、書き込みしながら受講しましょう。

## 【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".

## 【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

## 【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria /Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE (史学 / History 200)

## 西洋史特講区

福士 純

授業コード：A3219 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、現在に至るカナダの歴史、中でも政治・経済的展開、社会・文化的様相をイギリス帝国史の観点から再検討する。かつてイギリスの植民地であったカナダは、北米大陸にて隣国アメリカ合衆国の影響を強く受けつつも、現在もなおイギリス国王を国家元首とするだけでなく、コモンウェルス加盟国としてイギリスとの関係性を維持している。本授業は、現在もなお様々なかたちでイギリスの影響を色濃く残すカナダのナショナリズムの特殊性、国家形成の過程を歴史的観点から解明していくことを目指す。

### 【到達目標】

・現在に至るカナダの政治、経済、社会、文化の形成に関する基礎的知識を身に付ける。  
・カナダの歴史にイギリスやイギリス帝国が与えた影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式にて行う。加えて、授業時にリアクションペーパーや小課題の提出を課し、その内容については授業時に適宜紹介する。またリアクションペーパーなどにて受講生から関心が高かった論点等については、授業時により掘り下げて解説を行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ             | 内容                               |
|------|-----------------|----------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション       | 授業の概要を説明する。                      |
| 第2回  | 北米大陸における英仏間の対立  | イギリス、フランスによる北米大陸への進出過程とその意図を学ぶ   |
| 第3回  | 北米におけるイギリス支配の確立 | 「第二次英仏百年戦争」とその北米大陸への影響を学ぶ        |
| 第4回  | アメリカ独立戦争と北米植民地  | アメリカの独立が後にカナダを構成する英領植民地に与えた影響を学ぶ |
| 第5回  | 英領北アメリカ植民地の再編   | 19世紀前半のイギリスでの政治改革が北米植民地に与えた影響を学ぶ |
| 第6回  | カナダ自治領の形成       | 北米植民地の統合によるカナダの連邦結成過程を学ぶ         |
| 第7回  | イギリス帝国連邦運動とカナダ  | イギリスでの植民地との統合論の高揚とカナダの対応を学ぶ      |
| 第8回  | カナダと帝国特惠関税論     | カナダが主導したイギリス帝国経済統合構想を学ぶ          |
| 第9回  | 第一次世界大戦とカナダの参戦  | 第一次大戦へのカナダの参戦とその影響を学ぶ            |
| 第10回 | ウェストミンスター憲章     | イギリス帝国内でのカナダの地位向上の過程を学ぶ          |
| 第11回 | 第二次世界大戦とカナダの貢献  | 第二次大戦においてカナダが連合国に果たした役割を学ぶ       |
| 第12回 | スエズ危機とカナダの「分離」  | スエズ危機以降のカナダのイギリス帝国からの「分離」過程を学ぶ   |
| 第13回 | 多文化主義国家としてのカナダ  | 帝国崩壊後のカナダによる新たなナショナリズムの形成を学ぶ     |
| 第14回 | 試験・まとめと解説       | 試験・まとめと解説                        |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布される講義資料を元に分らない語などを調べ、参考文献等を利用して予習を行った上で授業に臨み、授業後は授業の内容を講義資料や下で指示する参考書等を用いて復習し、その内容について理解に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

使用しない。毎講義時に資料を配布し、それに基づいて講義を進める。

### 【参考書】

木村和男編『カナダ史』、山川出版社、1999年。  
木村和男、フィリップ・バックナー、ノーマン・ヒルマー『カナダの歴史 大英帝国の忠誠な長女 1713-1982』刀水書房、1997年。  
竹内真人編著『ブリティッシュ・ワールド 帝国紐帯の諸相』、日本経済評論社、2019年。  
細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』、明石書店、2017年。

### 【成績評価の方法と基準】

・平常点 (授業内にて複数回行う小課題) : 40%  
・期末試験 : 60%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

#### Course Outline

This course reconsiders the history of Canada, particularly the political and economic developments, social and cultural aspects, from the perspective of British imperial history. Canada, a former British colony, is strongly influenced by its neighbour, the United States, on the North American continent. However, it still maintains its relationship with the United Kingdom as a member of the Commonwealth of Nations, as well as placed under the British monarchy. This course aims to examine from a historical perspective the peculiarities of Canadian nationalism and the process of its nation-building which still retains a strong British influence in various forms.

#### Learning Objectives

The goals of this course are to acquire a basic knowledge of the formation of Canadian politics, economy, society, and culture to the present day, and to understand the impact of the United Kingdom and the British Empire on Canadian history.

#### Learning activities outside of classroom

Students are expected to attend the class after having prepared for the class by looking up uncertain terms based on the handouts distributed in advance and using reference books. Students are also expected to review the lectures by using the handouts and reference books.

#### Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%; Short reports: 40%

HIS300LA (史学/History 300)

## 日本史特講ⅧA

岡野 浩二

授業コード：A3220 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

## 【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ        | 内容                       |
|----|------------|--------------------------|
| 1  | 仏教伝来       | 講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり   |
| 2  | 飛鳥寺        | 仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の成立        |
| 3  | 法隆寺        | 推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺         |
| 4  | 大官大寺・薬師寺   | 天武・持統朝の仏教政策              |
| 5  | 平城京の寺院     | 大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺 |
| 6  | 国分寺・国分尼寺   | 国分寺建立の詔とその前後の実情          |
| 7  | 奈良時代の地方寺院  | 地方豪族の仏教受容と寺院建立           |
| 8  | 平安京周辺寺院    | 桓武朝の仏教統制と官寺・私寺           |
| 9  | 北魏の寺院      | 永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制         |
| 10 | 隋・唐の各州の官寺  | 文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺      |
| 11 | 長安の寺院      | 大興善寺と玄都観                 |
| 12 | 中国の廃仏政策    | 三武一宗の法難、廃仏の実態と理由         |
| 13 | 日本と中国の寺院比較 | 日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察   |
| 14 | 試験         | 受講者の理解を確認する              |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

## 【参考書】

岡野浩二『日本史特講（日本仏教史）』（法政大学通信教育部、2023年）  
末木文美土編『新アジア仏教史 11日本1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）  
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）  
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）  
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）  
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50%、毎回の出席確認の小テスト50%をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2)疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50%, Short examination:50%.

HIS300LA (史学/History 300)

## 日本史特講ⅧB

岡野 浩二

授業コード：A3221 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本は、中国から多くの文明・文物を移入した。その重要な役割を担ったのが入唐僧である。ここでは9世紀の円珍の関係史料を主な素材として、入唐僧の実情を探る。その前提として7・8世紀の入唐僧について概観する。9世紀には、円仁が『入唐求法巡礼行記』、円珍が『行歴抄』という旅行記を残しており、円珍関係の古文書も園城寺に現存する。それらの記事から、日本・唐の宗教・政治・社会を比較研究する。

### 【到達目標】

円珍の旅行記『行歴抄』、円珍の伝記『天台宗延暦寺座主円珍伝』、円珍関係の古文書『園城寺文書』の主要な記事を読解する。それらを素材として、日本・唐の宗教・政治・社会の相違点や特質を把握する。そして、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回  | テーマ        | 内容                            |
|----|------------|-------------------------------|
| 1  | ガイダンス      | 講義の概要を説明する                    |
| 2  | 道昭・玄昉・鑑真   | 7・8世紀の入唐交流を概観する               |
| 3  | 最澄・空海・円仁   | 9世紀の入唐僧を概観する                  |
| 4  | 円珍の入唐と身分証  | 僧侶・俗人の身分証について日唐を比較する          |
| 5  | 円珍の通行許可証   | 唐の交通路と許可証を考察する                |
| 6  | 円珍がみた天台山   | 会昌の廢仏とその影響を概観する               |
| 7  | 円珍と円載      | 入唐僧どうしの交流と確執を読み取る             |
| 8  | 円珍がみた長安・洛陽 | 唐の寺院・施設・人物を概観する               |
| 9  | 円珍がみた唐の文物  | 仏教行事や風俗を日唐で比較する               |
| 10 | 円珍の帰国      | 仏典の保管、天皇・貴族との交流を概観する          |
| 11 | 後続の入唐僧     | 宗叡・高丘親王らの入唐と円珍との関係を探る         |
| 12 | 円珍と唐の僧侶・商人 | 帰国後の円珍と天台山・長安の僧侶や貿易商との交流を概観する |
| 13 | 日本と唐の関係・比較 | 入唐僧の活動から日本と唐の関係を考察する          |
| 14 | 試験         | 受講者の理解を確認する                   |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料（漢文）を読解もしくは現代語訳してくる。予習内容を紙面で提出していただくことがある。また授業内容の理解を確認する試験を行い、解説を加え、次回に修正した答案を提出していただくことを予定している。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

### 【参考書】

佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）

佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）

小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）

園城寺編『園城寺文書 第一巻』（講談社、1998年）

佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）

道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）

鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）

鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）

山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）

藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）

礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）

### 【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50%）、②途中で実施する確認試験（30%）、③予習事項の紙面での提出（20%）。以上の3者を総合して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2)疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3)①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Enchin's historical materials .

(Learning Objectives)

By the end of course,students should be to understand the followings: Through the travelogues written by monks who visited China from Japan, what is the religious, political, and social differences between ancient Japan and China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Yuor study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Yuor overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA (史学/History 300)

**東洋史特講ⅥA**

齋藤 勝

授業コード：A3222 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**漢民族の文化を理解するための準備と実践。  
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。**【到達目標】**

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことにより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】****【授業の進め方と方法】**

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ           | 内容               |
|------|---------------|------------------|
| 第1回  | 中国の歴史と民族・文化   | 授業の概要と進め方について    |
| 第2回  | 漢文の基礎(1)      | 文型・置き字・返読文字・再読文字 |
| 第3回  | 漢文の基礎(2)      | 否定・可能            |
| 第4回  | 漢文の基礎(3)      | 使役・受身            |
| 第5回  | 漢文の基礎(4)      | 疑問・反語            |
| 第6回  | 漢文の基礎(5)      | 詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか |
| 第7回  | 漢文史料から見る歴史(1) | 『史記』の描く春秋時代      |
| 第8回  | 漢文史料から見る歴史(2) | 『史記』の描く戦国時代      |
| 第9回  | 漢文史料から見る歴史(3) | 『史記』の描く前漢時代      |
| 第10回 | 漢文史料から見る歴史(4) | 『後漢書』の描く後漢時代     |
| 第11回 | 漢文史料から見る歴史(5) | 『三国志』の描く魏        |
| 第12回 | 漢文史料から見る歴史(6) | 『三国志』の描く呉        |
| 第13回 | 漢文史料から見る歴史(7) | 『三国志』の描く蜀        |
| 第14回 | 試験と解説         | 試験、解説、総括         |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。**【テキスト（教科書）】**

適宜、プリントを配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

**【参考書】**原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）  
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）  
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）  
円満字二郎『漢和辞典に訊け!』（ちくま新書、2008年）**【成績評価の方法と基準】**試験100%  
試験は漢文の読解力のみで評価します。**【学生の意見等からの気づき】**

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

**【Outline (in English)】**

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA (史学/History 300)

## 東洋史特講ⅥB

齋藤 勝

授業コード：A3223 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。  
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

### 【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的最長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容          |
|------|---------------|-------------|
| 第1回  | 漢民族の思想(1)     | 『論語』と儒家     |
| 第2回  | 漢民族の思想(2)     | 『論語』と政治     |
| 第3回  | 漢民族の思想(3)     | 『孟子』と国家     |
| 第4回  | 漢民族の思想(4)     | 『孟子』と性善説    |
| 第5回  | 漢民族の思想(5)     | 『荀子』と性悪説    |
| 第6回  | 漢民族の思想(6)     | 『荀子』と学問     |
| 第7回  | 漢民族の思想(7)     | 『韓非子』と法家    |
| 第8回  | 漢民族の思想(8)     | 『韓非子』と秦     |
| 第9回  | 儒家思想と政治の展開(1) | 唐の太宗と『貞観政要』 |
| 第10回 | 儒家思想と政治の展開(2) | 王安石と宋学      |
| 第11回 | 儒家思想と民族・学問(1) | 朱子学と歴史学     |
| 第12回 | 儒家思想と民族・学問(2) | 顧炎武の人生と明清交替 |
| 第13回 | 儒家思想と民族・学問(3) | 顧炎武の学問と国家観  |
| 第14回 | 試験と解説         | 試験、解説、総括    |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。  
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

### 【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）  
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）

天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）  
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

### 【成績評価の方法と基準】

試験100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする  
と全くできないと思いますので、ご注意ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

### 【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA (史学/History 300)

## 西洋史特講ⅧA

大澤 広晃

授業コード：A3224 | 曜日・時限：水1/Wed.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から20世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。イギリスの海外進出は、国内はもとより、世界各地にさまざまな影響を及ぼした。本授業では、18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史を考えてみたい。

## 【到達目標】

・18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史的特徴を理解する。  
・帝国支配がイギリス国内と世界各地に与えた多様な影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                                    |
|------|--------------------------|---------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                | 授業の概要を説明する。                           |
| 第2回  | 近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで | 18世紀末までのイギリス帝国の動向を概観する。               |
| 第3回  | 革命の時代の帝国                 | フランス革命の時代のイギリスと帝国について学ぶ。              |
| 第4回  | 奴隷制と奴隷貿易                 | 19世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。      |
| 第5回  | 奴隷貿易・奴隷制への反対運動           | 奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同時代的意義を学ぶ。           |
| 第6回  | 帝国の拡大と植民地自治              | 19世紀前半の帝国の拡大と植民地自治の発展について学ぶ。          |
| 第7回  | インド                      | 帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。               |
| 第8回  | 非公式帝国                    | 帝国を理解するうえで重要な非公式帝国という概念とその問題点を学ぶ。     |
| 第9回  | 帝国の支配者たち                 | 帝国を支配した人々とその役割について学ぶ。                 |
| 第10回 | 帝国の経済                    | 帝国の経済構造について学ぶ。                        |
| 第11回 | 支配の文化、文化の支配              | 帝国支配を文化の観点から学ぶ。                       |
| 第12回 | 帝国とジェンダー                 | 帝国支配をジェンダーの観点から学ぶ。                    |
| 第13回 | 帝国主義の時代                  | 帝国主義の時代におけるイギリスと帝国のありようを学び、授業内容を総括する。 |
| 第14回 | 授業内試験                    | 期末試験とまとめ及び解説。                         |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

## 【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年  
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年  
秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012年

## 【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50％  
・期末試験：50％

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

## 【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the early 20th century. It analyzes the empire's entanglement with British domestic affairs as well as its impact on other parts of the world.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about early modern and modern British imperial history.  
2) Students are able to assess varied impact that the empire had on Britain and wider world.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%



HIS300LA (史学/History 300)

## 西洋史特講ⅧB

大澤 広晃

授業コード：A3225 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代のイギリス帝国は、世界史の動向を大きく規定した。20世紀後半に帝国は崩壊したが、植民地支配の過去は現在の世界にも影響を及ぼし続けている。本授業では20世紀のイギリス帝国に焦点をあて、その歴史的意義を考えてみたい。

### 【到達目標】

- ・20世紀のイギリス帝国の特徴を理解する。
- ・現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。春学期に開講する「イギリスと帝国A」と内容面で連続性があるので、当該授業を履修したうえで登録することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                                                 |
|------|--------------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                | 授業の概要を説明する。                                        |
| 第2回  | 世紀転換期までのイギリス帝国           | 19～20世紀転換期までのイギリスと帝国についての概要を学ぶ。                    |
| 第3回  | 南アフリカ戦争の時代①：イギリス国内への影響   | 南アフリカ戦争がイギリス国内に与えたインパクトを学ぶ。                        |
| 第4回  | 南アフリカ戦争の時代②：帝国・国際関係の視点から | 南アフリカ戦争をイギリス帝国と国際関係の視点から学ぶ。                        |
| 第5回  | 第一次世界大戦とイギリス帝国           | 第一次世界大戦への植民地のかかわりを学ぶ。                              |
| 第6回  | 植民地ナショナリズム               | 植民地支配に抵抗するナショナリズムの諸特徴を学ぶ。                          |
| 第7回  | 中東のイギリス帝国                | 戦間期中東地域におけるイギリスの支配について学ぶ。                          |
| 第8回  | イギリス帝国と日本                | 第二次世界大戦までのイギリス帝国と日本の関係について学ぶ。                      |
| 第9回  | コモンウェルスの形成               | コモンウェルスの形成過程を学ぶ。                                   |
| 第10回 | 第二次世界大戦とイギリス帝国           | 第二次世界大戦期のイギリス帝国について学ぶ。                             |
| 第11回 | 帝国＝コモンウェルス体制の変容と脱植民地化    | 脱植民地化とコモンウェルスの変容について学ぶ。                            |
| 第12回 | 帝国のほころび                  | 20世紀後半における帝国の崩壊について学ぶ。                             |
| 第13回 | 帝国支配の過去と現在               | 帝国支配の過去が現在のイギリスと旧植民地にどのような影響を及ぼしているかを学び、授業内容を総括する。 |

第14回 授業内試験

期末試験とまとめ及び解説。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

### 【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年  
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年  
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012年

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire in the 20th century. It analyzes the empire's structures, decline, and continued impact on the contemporary world.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary British imperial history.
- 2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100BE (史学/History 100)

## 日本史序説

齋藤 智志

授業コード：A3226 | 曜日・時限：月3/Mon.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考(履修条件等)：史学科の2022年度以前入学生は「日本史序説Ⅱ(A3213)」を履修する

その他属性：〈他〉

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

## 【到達目標】

日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各回の授業(第2回～第12回)は前半・後半に分かれています。前半は、講義形式でそれぞれの時代の概観を行います。後半は、①各時代がどのようにイメージされてきたか・いるかをその社会的背景とともに考える回と、②史料を読んで自ら時代像を捉える回とがあり、これらを通じて、歴史の多角的な見方を学んでいきます。レジュメとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する小課題(史料読解など)にも取り組んでもらいます。毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業や学習支援システムなどで共有する予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                                                                  |
|------|------------|---------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンスと概論   | ・授業方針について<br>・歴史と史料/歴史を学ぶ意味                                         |
| 第2回  | 文化の黎明と国家形成 | ・時代の概観1 日本列島における文化の黎明<br>・日本の黎明の描かれ方：神話の古代史像からサブカルチャーとしての縄文・古墳まで    |
| 第3回  | 古代の国家と社会   | ・時代の概観2 律令国家の成立と変容<br>・古代遺跡の復元を考える：武蔵国府・国分寺付近を事例として                 |
| 第4回  | 中世社会の成立    | ・時代の概観3 院政から武家政権へ<br>・絵巻物から見る中世社会：『一遍聖絵』を読む                         |
| 第5回  | 中世社会の諸相    | ・時代の概観4 室町・戦国時代の動乱<br>・戦乱の時代の英雄像と庶民像                                |
| 第6回  | 幕藩体制の成立    | ・時代の概観5 江戸幕府の成立と国内外の秩序形成                                            |
| 第7回  | 幕藩体制の動揺    | ・「江戸ブーム」の歴史と現在<br>・時代の概観6 社会の変動と幕政改革<br>・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む        |
| 第8回  | 近代国家の形成    | ・時代の概観7 明治維新と立憲国家の成立                                                |
| 第9回  | 近代国家の展開    | ・変遷する「明治」イメージ<br>・時代の概観8 デモクラシーと帝国主義                                |
| 第10回 | 近代の社会と文化   | ・帝国を見せる：第五回内国勸業博覧会<br>・時代の概観9 明治・大正期の文化変容と工業化                       |
| 第11回 | 第二次世界大戦と日本 | ・伝統文化の発見：文化財保護前史<br>・時代の概観10 軍部の台頭と総力戦<br>・戦時下の雑誌を読む：『少年倶楽部』と『写真週報』 |
| 第12回 | 戦後日本の歩み    | ・時代の概観11 戦後改革と高度経済成長                                                |
| 第13回 | 歴史意識の歴史と現在 | ・戦後の戦争観<br>・授業全体のまとめ                                                |
| 第14回 | 授業内試験      | ・近現代の歴史学と歴史意識<br>試験・まとめと解説                                          |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として一週間前に学習支援システムで配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。授業終了後はレジュメを読み返して復習し、内容の理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

教科書は指定しません。配布するレジュメ等を用いて授業を行います。

## 【参考書】

佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000年  
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』(全4巻) 山川出版社、2016年  
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017年

## 【成績評価の方法と基準】

平常点40%(リアクションペーパーや授業内小課題への取り組みなどを含みます)  
期末レポート30%  
期末試験30%  
※期末レポートの提出、期末試験の受験は、いずれも必須とします。  
※期末レポートの課題は第1回の授業で発表する予定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義を聞く時間が長く集中が続きづらいという意見がありました。学生の皆さんが主体的に授業に取り組めるよう、小課題の設け方などを工夫したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業中、学習支援システム(Hoppii)の機能を用いることがあります。学習支援システムにログインできる機器(ノートPC、タブレット、スマートフォンなど。いずれか)を持参してください。なお、第4、7、9、11回はノートPCかタブレットの持参を推奨します。

## 【その他の重要事項】

毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。また、授業期間中、学習支援システムの掲示板およびメールで常時質問を受け付けています。

## 【Outline (in English)】

This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports: 30%, in class contribution: 40%

HIS200BE (史学/History 200)

## 歴史特講

宇都宮 美生、大澤 広晃、内田 康太、柏木 一郎、赤松 道子

授業コード：A3227 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の歴史学界では、対象とする地域により日本史、東洋史、西洋史の3分野に分かれ、それぞれの内部で独自の問題意識に基づき研究が行われてきた。その一方で、各分野に共通するテーマや複数の地域にまたがる問題もあり、それらをさまざまな角度から考察してみることで、新たな歴史の見方や描き方を学べるのではないか。そのような機会を提供するのが、本授業の目的である。

今年度の主題は、昨年度に引き続き「帝国」である。時代と地域を越えた帝国の在り方について、帝国の果たした役割と影響（たとえば交流による共通化、民族のナショナリズム形成）やその歴史的意義などを考える。授業では時代も地域もさまざまな5つの帝国についてみていく。

### 【到達目標】

- ・諸地域に現れた帝国の特徴とその歴史的意義を理解する。
- ・複数の地域の事例を比較検討したり、それらの相互関係を把握したりすることを通じて、歴史を複眼的・総合的に考える力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、複数の教員が交代で授業を担当するオムニバス形式（講義）で行う。各回の授業は原則として講義だが、資料に基づくディスカッションの機会も設けたい。質問や課題については、授業内で回答・コメントをするか、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで次の授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                           |
|------|--------------|------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション    | 授業の概要を説明する。<br>担当：宇都宮        |
| 第2回  | 帝国について：概要と論点 | 帝国と世界の一体化について考える。<br>担当：宇都宮  |
| 第3回  | ローマ帝国1       | 帝国の概要について学ぶ。<br>担当：内田        |
| 第4回  | ローマ帝国2       | 帝国内の多様性と共通化について学ぶ。<br>担当：内田  |
| 第5回  | モンゴル帝国1      | 帝国の概要について学ぶ。<br>担当：宇都宮       |
| 第6回  | モンゴル帝国2      | 帝国内の多様性と共通化について学ぶ。<br>担当：宇都宮 |
| 第7回  | ロシア帝国1       | 帝国の概要について学ぶ。<br>担当：赤松        |
| 第8回  | ロシア帝国2       | 帝国内の多様性と共通化について学ぶ。<br>担当：赤松  |
| 第9回  | イギリス帝国1      | 帝国の概要について学ぶ。<br>担当：大澤        |
| 第10回 | イギリス帝国2      | 帝国内の多様性と共通化について学ぶ。<br>担当：大澤  |

|      |        |                             |
|------|--------|-----------------------------|
| 第11回 | 大日本帝国1 | 帝国の概要について学ぶ。<br>担当：柏木       |
| 第12回 | 大日本帝国2 | 帝国内の多様性と共通化について学ぶ。<br>担当：柏木 |
| 第13回 | まとめ    | 授業の内容を総括する。<br>担当：宇都宮       |
| 第14回 | 授業内試験  | 期末試験とまとめ<br>担当：宇都宮          |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を復習するとともに、授業で示す参考文献を読み、自主的に理解を深めること。また、各講師の指示にしたがうこと。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でのプリント配付、あるいは学習支援システムからダウンロードする（各講師の指示にしたがうこと）。

### 【参考書】

山本有造編著『帝国の研究—原理・類型・関係』名古屋大学出版会、2003年  
岡本隆司編著『宗主権の世界史—東西アジアの近代と翻訳概念』名古屋大学出版会、2014年  
南塚信吾編著『国際関係史から世界史へ』ミネルヴァ書房、2020年  
鈴木董編著『帝国の崩壊』（上下巻）山川出版社、2022年  
その他、各講師が随時指示をする。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【重要】講師に失礼なので、10分以上の遅刻は欠席とし、入室を認めない（遅延証明書持参のものは入室可）。授業中のPC使用を禁止する。写真撮影、録音、録画も禁止する。違反するものは退室させる。

### 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心掛ける。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

This course aims to explore history of empires in comparative perspectives. < Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about empires in history.
- 2) Students are able to analyze history in comparative perspectives.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

BSP100BE (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・史)

内藤 一成

授業コード：A3228 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年  
 備考(履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

学習から学問へ、生徒から学生へ。大学生は、それにふさわしい専門的な能力を身につけなければならない。本授業では、具体的な事例を紹介したり、実践を取り入れるなどしながら能力の涵養をはかっていく。

### 【到達目標】

①講義におけるノートの取り方、②学術論文を読み込む能力、③必要な資料や情報を集め、考察する能力、④調べた内容を発信する能力、など大学生として必要な基本的能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義・演習方式とする。板書とパワーポイントを併用させる。後半にはグループによるレジュメ・パワーポイントを用いた発表を行う機会を設ける。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう予定である。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                          |
|------|-------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 学びの場としての法政大学について、授業の進め方と「学問」に対する基本的な心構えについて |
| 第2回  | ノートの取り方     | 講義でのノートの取り方を学ぶ                              |
| 第3回  | 研究論文の読み方(1) | 研究論文の形式を理解する                                |
| 第4回  | 研究論文の読み方(2) | 情報の取り出し方を学ぶ                                 |
| 第5回  | キャリアガイダンス   | 自己分析とキャリア形成を学ぶ。キャリア・センター講師による特別授業           |
| 第6回  | 図書館ガイダンス    | 図書館の使い方を学ぶ。図書館での特別授業                        |
| 第7回  | 調査の仕方       | 発表やレポートを作成するために必要な調査の仕方、学術論文からの正しい引用の仕方を学ぶ  |
| 第8回  | レポートの書き方    | 相手に伝わる文章と形式を学ぶ                              |
| 第9回  | 口頭発表の仕方     | レジュメの切り方、パワーポイントの使い方を学ぶ                     |
| 第10回 | 研究発表(1)     | グループによるレジュメ、パワーポイントでの報告                     |
| 第11回 | 研究発表(2)     | グループによるレジュメ、パワーポイントでの報告                     |
| 第12回 | 研究発表(3)     | グループによるレジュメ、パワーポイントでの報告                     |
| 第13回 | 研究発表(4)     | グループによるレジュメ、パワーポイントでの報告                     |
| 第14回 | まとめ         | レポートの提出 全体総括と質疑応答                           |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。授業で得た知見は、他の授業でも実践できるようにする。

### 【テキスト(教科書)】

『法政大学 学習支援ハンドブック』、その他必要に応じて資料等を配布する。

### 【参考書】

初年次教育テキスト編集委員会『フレッシュマンセミナーテキスト 大学新入生のための学び方ワークブック [第2版]』(東京電機大学出版局)、岡山大学附属図書館 教育・研究支援ワーキンググループ編『大学生のための伝わる情報発信術 レポート作成からプレゼンまで』(岡山大学出版会)、田中共子編『よくわかる学びの技法 [第3版]』(ミネルヴァ書房)、近江幸治『学術論文の作法 [第3版]』(成文堂)、佐藤望編『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 [第3版]』(慶応義塾大学出版会)、世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック [5訂版]』(世界思想社)

### 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み(40%)、グループでの研究発表(30%)、レポート(30%)を総合化して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

### 【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合(介護体験実習、教育実習など)には、その事情を証明する文書を提出すること。  
 ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。  
 ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives)

This course aims to acquire the specialized abilities necessary for college students. To that end, I set four goals. The first is how to take notes in lectures, the second is the ability to read academic papers, the third is the ability to collect and consider necessary materials and information, and the fourth is the ability to disseminate the researched content.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on lab reports (30%), quality of the students' experimental performance in the lab (30%) and in-class contribution (40%).

BSP100BE (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

### 基礎ゼミ I (文・史)

宇都宮 美生

授業コード：A3229 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年  
備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で学ぶために必要な講義の受講法、参考書の検索、本の読み方、レジュメの作り方、演習での発表、討論の技法などを習得する。

#### 【到達目標】

講義を聴いてその内容を理解するために必要なメモの作成、不明な点の調査、自分なりの理解をさらに発展させるための文献等資料検索の技法などを身につけることができる。自分の考えを口頭で、あるいは文書等で発信する方法を体験しながら学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で行う。大学の講義、あるいは演習がどのようなものかという説明と講義を聴き、演習に参加するために身につけておくことが望ましい技法の紹介、さらにその技法を各自がやってみることによって身につけるための実習を組み合わせる。参加者はレジュメを作成して、授業で発表し、参加者全員で議論する。授業中の発表で指摘されたことを修正し、完成したものを最後に提出する。各授業の始めに前回の授業の内容を振り返り、授業の最後にその日学習したことについてフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                                             |
|------|-----------|----------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス     | 講義内容と進め方<br>講義の受け方<br>発表分担の割り振り<br>発表の仕方 (紙媒体とパワーポイント、教員による見本) |
| 第2回  | 工具書の紹介    | 辞書、用語集、地図集、ネットでのデータベースなどの利用の仕方<br>レポート・レジュメの書き方1               |
| 第3回  | 図書館の利用の仕方 | 参考文献の調べ方<br>他の図書館の利用の仕方<br>レポート・レジュメの書き方2                      |
| 第4回  | 発表1       | 第1グループの担当者の発表とそれに対する議論                                         |
| 第5回  | 発表2       | 第2グループの担当者の発表とそれに対する議論                                         |
| 第6回  | 発表3       | 第3グループの担当者の発表とそれに対する議論                                         |
| 第7回  | 発表4       | 第4グループの担当者の発表とそれに対する議論                                         |
| 第8回  | 発表5       | 第5グループの担当者の発表とそれに対する議論                                         |
| 第9回  | 発表6       | 第6グループの担当者の発表とそれに対する議論                                         |
| 第10回 | 発表7       | 第7グループの担当者の発表とそれに対する議論                                         |
| 第11回 | 発表8       | 第8グループの担当者の発表とそれに対する議論                                         |
| 第12回 | 発表9       | 第9グループの担当者の発表とそれに対する議論                                         |

第13回 発表10

第10グループの担当者の発表とそれに対する議論

第14回 学習のまとめ

学習のまとめ

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表担当者は詳しいレジュメとパワーポイントファイルを作成する。授業で指摘された部分を修正し、完成したものを提出する。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

使用する資料は授業で配布する。

#### 【参考書】

授業中に随時紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

「到達目標」欄に記載した内容を評価基準として、下記2つの面で総合的に評価する。

発表内容と完成レジュメ (50%)

- ・テーマについて適切に発表する。
- ・最後に完成レジュメを提出する。

授業中の発言や参加姿勢 (50%)

- ・発表者は必ず出席し、やむをえない理由で欠席する場合は、他の発表者とスケジュールを調整し、必ず発表する。
- ・他人の発表において指摘された改善点を、自分の発表で繰り返さないようにする。
- ・参加者は質問・意見について必ず発言する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。

#### 【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを人数分印刷し、配布すること。なお、当日の印刷のために授業に遅刻することは認めない。自宅または学内でパワーポイントの使用を求める。学内の情報センターでPCの使用あるいは貸出が利用できるため、必ずしもPCを購入する必要はない。

#### 【担当教員の専門分野等】

中国史 (都城史、水利史、交通史)、日中交流史

#### 【事務への連絡事項】

パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。

教員用パソコンの貸し出しも希望します。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading various academic articles in respect with history.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each meeting (50%) and presentation & term-end report (50%).

BSP100BE (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・史)

皆川 卓

授業コード：A3230 | 曜日・時限：木2/Thu.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学の学習・研究は高校までの学習とは大きく違います。その最大の点は、問いを与えられるのではなく、自ら問いを見つけ、答えることです。そのためには興味を持ち方、背景知識の摂取、問いの着想と絞り方を学ぶ必要があります。またその問いに答え、レポートや卒論で形にするには、専門情報の集め方 (文献やネット情報の調べ方) と注意、ノートの取り方、引用や出典の示し方、レジュメの作成方法、レポートの作成方法、立論の作法や体系化を必要とします。本ゼミではこれらの内容を講義します。

## 【到達目標】

講義内容で学んだとおりに、自身で関心を持ったことに対し、他人から見理解できる問題を設定し、それにに向けて論文の作法に従い、根拠を伴った結論に至る文章を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

最初は講義をベースとし、後半から実際に受講者に自分の問いを設定した上で、それに回答するレポートを書き、順番に15~20分ほど (人数に応じて) プレゼンしてもらいます。プレゼンはレポートそのものを紙媒体で人数配布するか、スライドに映し出して行います (スライドは紙媒体の実写でも、PDFやPPTに落としてもOK)。必ず一人一回当たるようにし、そのレポートとプレゼン、事後レポートで成績を付けます。ですので受講生はプレゼン用レポートと事後レポートの2回、レポートを出すことになります。他の受講生のプレゼンに対する質疑応答もこちらでメモして平常点に組み入れます。受講者の発表レポートや個別質問に対する教員のフィードバックは、各受講者宛の学内メッセージで行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                                                                                   |
|------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | 講義のプログラムと進め方を論じ、最後に発表の順番を決めてもらいます。                                                                   |
| 第2回  | 文献の調べ方            | 大学図書館のデータベースをはじめ、他の公共図書館や国立国会図書館データベース、CiNii (国立情報学研究所のデータベース) など、文献にたどり着く方法、および閲覧、借り出し方法等について説明します。 |
| 第3回  | ネット情報の調べ方         | ネット情報は手軽に多くの情報が手に入る反面、偽情報の危険も文献に比べるとはるかに大きく、注意が必要です。国内・国外の大学紀要や研究所報告からwikipediaに至るまでの利用の注意点を説明します。   |
| 第4回  | 文書の作成について         | 情報が集まったところで、それを羅列しただけでは論文にもレポートにもなりません。文脈をつくる必要があります。そのイメージの描き方を解説します。                               |
| 第5回  | レポート・論文の形式について    | ブログやエッセイ、小説などと違い、レポート・論文には「根拠付け」という重要なプロセスがあります。それに伴う脚注を中心に、守るべき形式を説明します。                            |
| 第6回  | 「盗用」「剽窃」などの不正について | 書き、公表する内容が自分の考えなのか他人の考えなのかを判断し、両者を区別し明示する必要性と、それをしなかったときに生じるさまざまな問題を説明します。                           |
| 第7回  | 第1回発表・検討会         | 担当者に発表してもらい、受講者と教員の質疑応答を行います。                                                                        |
| 第8回  | 第2回発表・検討会         | 担当者に発表してもらい、受講者と教員の質疑応答を行います。                                                                        |
| 第9回  | 第3回発表・検討会         | 担当者に発表してもらい、受講者と教員の質疑応答を行います。                                                                        |
| 第10回 | 第4回発表・検討会         | 担当者に発表してもらい、受講者と教員の質疑応答を行います。                                                                        |

|      |               |                                                |
|------|---------------|------------------------------------------------|
| 第11回 | 第5回発表・検討会     | 担当者に発表してもらい、受講者と教員の質疑応答を行います。                  |
| 第12回 | 第6回発表・検討会     | 担当者に発表してもらい、受講者と教員の質疑応答を行います。                  |
| 第13回 | 第7回発表・検討会     | 担当者に発表してもらい、受講者と教員の質疑応答を行います。                  |
| 第14回 | まとめと今後の活用について | これまでの発表と質疑応答から学んだことを、今後の学習・研究にどう活かすかについて説明します。 |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義形式の間は、講義内容のノートの振り返りや実例検分に1時間の復習を行います。また発表時にはプレゼンのためのレポート作成に数時間、事後レポートに数時間を要します。

## 【テキスト (教科書)】

テキストは使いません。講義回はスライドで説明しますので、各自ノートを取って下さい。

## 【参考書】

小熊英治『基礎からわかる 論文の書き方』講談社 2022  
村上紀夫『歴史学で卒業論文を書くために』創元社 2019  
その他教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

評価方法は  
・平常点：40%  
・発表時のレポートとプレゼン：30%  
・最終レポート：30%

で評価します。なお後の発表の方は先の発表に学ぶことで有利な立場になるため、先に発表した人に少しポイントを加算します (もちろん後の人も評価内容に応じて100点満点になるようにします)。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン (プレゼンでスライドを使う場合。i-padなどでも良いですが、いずれ論文作成にはパソコンが必要になります)

## 【その他の重要事項】

特にありません。

## 【Outline (in English)】

(Course outline) Studying and researching at university is very different from studying up to high school. The most important point is that you are not given questions, but rather find and answer them yourself. To do this, you need to learn how to be interested, acquire background knowledge, and how to come up with and narrow down your questions. In addition, in order to answer that question and give it form in a report or graduation thesis, you need to know how to collect specialized information (how to research literature and internet information) and be careful, how to take notes, how to provide quotations and sources, how to create a resume, etc. You will also need to learn how to write reports, as well as the etiquette and systematization of arguments. This seminar will cover these topics.

(Learning Objectives) At first, the course is based on a lecture, and in the second half, students actually set their own questions, write a report to answer them, and give a presentation for about 15 to 20 minutes (depending on the number of participants) in turn. The presentation can be done by distributing the report itself in paper form for each person, or by projecting it on slides (slides can be live copies of paper media, or in PDF or PPT format). Make sure that each person wins once, and grade them based on their report, presentation, and after-action report. Therefore, students will be required to submit two reports: a presentation report and a post-event report. I will also take notes on questions and answers about other students' presentations and incorporate them into my regular score. Feedback from instructors regarding students' presentation reports and individual questions will be sent via internal messages to each student.

(Learning activities outside of Classroom) During the lecture format, students will spend one hour reviewing their notes on the lecture content and reviewing actual examples. Also, when making a presentation, it takes several hours to prepare a report for the presentation, and several hours to write a post-event report.

## (Grading Criteria/Policy)

The evaluation method is  
・Normal point: 40%  
・Report and presentation at presentation: 30%  
・Final report: 30%

Those who present later will be in an advantageous position by learning from the earlier presentators, so I will add a some points to the earlier presentators (of course, those who present later can also get a perfect score depending on the evaluation content).

BSP100BE (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・史)

松本 剣志郎

授業コード：A3231 | 曜日・時限：木2/Thu.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生徒と学生は何が違うのか。高等教育とは何か。論文の読み方からレジユメの切り方、レポートの書き方まで、史学科の学生になってゆくための基本的技術を学ぶ。

### 【到達目標】

①適切な根拠に基づいて思考し、それを適切な文章で表現できる。②レジユメやレポートの作成方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義と演習とを折衷した授業をおこなう。学生諸君には授業内で発表してもらおう。キャリアガイダンスと図書館ガイダンスは他クラスと合同のためスケジュールの変更がありえる。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小レポートや発表にたいする講評もおこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                   |
|------|-------------|----------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 授業の進め方               |
| 第2回  | 大学の授業       | 生徒と学生、講義と演習について      |
| 第3回  | 要約の仕方       | 引用と剽窃                |
| 第4回  | 『論文の書き方』精読1 | 論文とは                 |
| 第5回  | 『論文の書き方』精読2 | 伝わる文章                |
| 第6回  | レジユメの切り方    | レジユメとは               |
| 第7回  | 図書館ガイダンス    | 法政大学図書館を使いこなす        |
| 第8回  | キャリアガイダンス   | 自己分析とキャリア形成          |
| 第9回  | レポートの書き方    | レポートの構成              |
| 第10回 | 研究発表1       | 各自任意のテーマで発表 (第1グループ) |
| 第11回 | 研究発表2       | 各自任意のテーマで発表 (第2グループ) |
| 第12回 | 研究発表3       | 各自任意のテーマで発表 (第3グループ) |
| 第13回 | 研究発表4       | 各自任意のテーマで発表 (第4グループ) |
| 第14回 | まとめ         | ゼミ・卒業論文に向けて、レポート提出   |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

辞書を引く癖をつけること。テキストを通読しておくこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

清水幾太郎『論文の書き方』(岩波新書)

### 【参考書】

井上ひさし『私家版日本語文法』(新潮文庫)

竹内洋『大学の下流化』(NTT出版)など

### 【成績評価の方法と基準】

到達目標欄に記載した2点を評価基準としてレポート (50%)、平常点 (50%)で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

基礎的な技術から説明していきます。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies. At the end of the course, students are expected to acquire basic writing and thinking skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report: 50%, in class contribution 50%.

HIS200LA (史学/History 200)

## 東洋史特講Ⅹ

水上 香織

授業コード：A3232 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、16世紀のムガル帝国の形成から、1947年にインドとパキスタンがイギリス植民地支配から独立するまでの、南アジア史について学びます。また、南アジア史の研究で利用される様々な一次史料の一部を紹介します。授業を通じて、長期的な視野において南アジア地域の社会変動について理解できるようになることを第一の目的とします。また、歴史研究における史料の収集と批判的考察の方法について知ることを第二の目的とします。

## 【到達目標】

- ・16世紀から20世紀半ばまでの南アジア史に関する基礎知識を獲得すること。
- ・様々な一次史料の存在について知り、「歴史を研究すること」の難しさと面白さに関して理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を行います。学習支援システムを通じて授業中にみなさんからの質問や感想を共有し、随時フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                   |
|------|--------------------|----------------------|
| 第1回  | 南アジア地域とは           | 地理的・歴史的背景            |
| 第2回  | ムガル帝国の形成と発展        | 16～17世紀              |
| 第3回  | ムガル帝国の衰退と地方政権の台頭   | 17～18世紀              |
| 第4回  | イギリス東インド会社のインド進出   | 17～18世紀              |
| 第5回  | イギリスによるインド支配と植民地経済 | 18世紀～第一次世界大戦         |
| 第6回  | 社会・宗教改革運動の展開       | 19世紀半ば～第一次世界大戦       |
| 第7回  | 民族独立運動の展開          | 19世紀末～1917年          |
| 第8回  | 大衆的民族主義の出現と諸問題     | 1917年～1930年代         |
| 第9回  | 第一次世界大戦後の社会と文化     | 1920年代～1930年代        |
| 第10回 | 工業の発展と農村社会の変容      | 第一次世界大戦～1947年        |
| 第11回 | インド・パキスタン分離独立への道   | 1930年代～1947年         |
| 第12回 | 一次史料を見てみよう(1)      | 公文書館と行政文書            |
| 第13回 | 一次史料を見てみよう(2)      | 回想録、手紙、新聞雑誌、その他様々な史料 |
| 第14回 | まとめ                | 授業内容の振り返りおよび質問への回答   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。特に授業後には、授業プリントやノートを読み直して、復習をしましょう。また、疑問点や興味を持った点について、授業中に紹介する参考文献などを利用して調べるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

## 【参考書】

辛島昇（編）『南アジア史3 南インド』山川出版社、2007年。  
 小谷汪之（編）『南アジア史2 中世・近世』山川出版社、2007年。  
 スミット・サルカール『新しいインド近代史——下からの歴史の試み』（長崎暢子・白田雅之・中里成章・粟屋利江訳）Ⅰ・Ⅱ巻、研文出版、1993年。  
 ティルタンカル・ロイ『インド経済史——古代から現代まで』（水島司訳）名古屋大学出版会、2019年。  
 内藤雅雄・中村平治（編）『南アジアの歴史——複合的社会的歴史と文化』有斐閣、2006年。  
 長崎暢子（編）『南アジア史4 近代・現代』山川出版社、2019年。  
 その他、授業中に随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における質問や感想の提出：30%  
 期末試験：70%

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規開講される授業なので、まだ記載すべきことがあります。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業中に学習支援システムを利用してオンラインで質問や感想を集める予定なので、スマートフォン、タブレット、ノートパソコンなど、インターネットに接続できる機器を持参してください。また、授業中に学習支援システムにアクセスできるように、第1回授業前にこの授業の仮登録を行ってください。

## 【Outline (in English)】

・ This course covers the history of South Asia from the formation of the Mughal Empire in the 16th century to the independence of India and Pakistan from British colonial rule in 1947. This course also introduces some of the various primary historical sources explored in the study of South Asian history.

・ By the end of the course, students are expected to understand social change in the South Asian region from a long-term perspective, recognise the existence of a variety of primary historical sources and develop an understanding of the complexity and fascination inherent in the process of historical research.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In particular, students are encouraged to re-read and review their notes and distributed handouts after each class. Students are also encouraged to use the references provided in class to research any questions or points of interest.

・ The overall class grade is determined on the basis of the following items: final exam 70%, in-class contribution 30%.



HIS200LA (史学/History 200)

## 東洋史特講Ⅹ

水上 香織

授業コード：A3233 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、1947年のインド・パキスタン分離独立から現在に至るまでの南アジア史について、特にインド、パキスタン、バングラデシュに焦点をあてながら学びます。これらの国家の社会的特徴や、これらの国家間にまたがる宗教やカースト、ジェンダー、言語の問題について、歴史的な背景を踏まえたうえで理解できるようになることを目的とします。

### 【到達目標】

・20世紀半ばから現在に至るまでの南アジア史について、特にインド、パキスタン、バングラデシュを中心としつつ基礎知識を獲得する。  
・現代南アジアの諸問題について、歴史的な背景を踏まえたうえで理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を行います。学習支援システムを通じてみなさんからの質問や感想を共有し、随時フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                               |
|------|--------------------------|----------------------------------|
| 第1回  | イギリス植民地支配からの独立           | イギリス植民地期～1947年                   |
| 第2回  | 分離独立に伴う人々の移動と混乱          | インド・パキスタン領域間の移動、移動者の証言           |
| 第3回  | 独立後のインド(1)               | 政治・社会                            |
| 第4回  | 独立後のインド(2)               | 経済政策の変遷                          |
| 第5回  | パキスタン(1)                 | 政治・外交                            |
| 第6回  | パキスタン(2)                 | 経済・社会                            |
| 第7回  | バングラデシュ(1)               | 東パキスタンからの独立と独立後の社会               |
| 第8回  | バングラデシュ(2)               | 開発と産業                            |
| 第9回  | 宗教をめぐる諸問題とその歴史的背景        | 南アジアの多様な宗教、マイノリティ、宗教間対立          |
| 第10回 | カーストとトライブをめぐる諸問題とその歴史的背景 | 差別の実態、差別への抵抗                     |
| 第11回 | ジェンダーをめぐる諸問題とその歴史的背景     | 社会改革運動、女性運動                      |
| 第12回 | 言語をめぐる諸問題とその歴史的背景        | 南アジアの多様な言語、言語別州再編の動き             |
| 第13回 | 現代インド・パキスタン関係            | 映画を題材に、インドとパキスタンの宗教や政治の問題について考える |
| 第14回 | まとめ                      | 授業内容の振り返りおよび質問への回答               |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。特に授業後には、授業プリントやノートを読み直して、復習をしましょう。また、疑問点や興味を持った点について、授業中に紹介する参考文献などを活用して調べるようにしましょう。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

### 【参考書】

大橋正明、村山真弓（編著）『バングラデシュを知るための60章』、明石書店、2009年。

黒崎卓、子島進、山根聡『現代パキスタン分析——民族・国民・国家』岩波書店、2004年。

ティルタンカル・ロイ『インド経済史——古代から現代まで』（水島司訳）名古屋大学出版会、2019年。

内藤雅雄・中村平治（編）『南アジアの歴史——複合的社会的歴史と文化』有斐閣、2006年。

長崎暢子（編）『南アジア史4 近代・現代』山川出版社、2019年。その他、授業中に随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における質問や感想の提出：30%

期末試験：70%

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規開設される授業なので、まだ記載すべきことがあります。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業中にオンラインで質問や感想を集める予定なので、インターネットに接続できる機器（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）を持参してください。

また、授業中に学習支援システムにアクセスできるように、第1回授業前にこの授業の仮登録を行ってください。

### 【Outline (in English)】

・This course covers the history of South Asia from the partition of India and Pakistan in 1947 to contemporary times, with a particular focus on India, Pakistan and Bangladesh.

・By the end of the course, students are expected to understand present-day South Asian issues within the broader framework of historical context.

・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In particular, students are encouraged to re-read and review their notes and distributed handouts after each class. Students are also encouraged to use the references provided in class to research any questions or points of interest.

・The overall class grade is determined on the basis of the following items: final exam 70%, in-class contribution 30%.

HIS200LA (史学/History 200)

**東洋史特講Ⅱ**

長谷部 圭彦

授業コード：A3234 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本科目では、イスラームが誕生した7世紀から、オスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼす15世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。また、イスラームの教義や戒律などについても解説する。受講者が、当該地域への理解を深めつつ、他の地域との比較や連関ができるようになることを目的とする。

**【到達目標】**

本科目の目標は、受講者が、15世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史と、イスラームの教義に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行う。毎週質問用紙を配布するので、質問や意見を記入してほしい。それには翌週、可能な限り回答する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                |
|------|--------------|-----------------------------------|
| 第1回  | 講義概要         | 講義の目的、成績評価方法等を確認する。               |
| 第2回  | 預言者ムハンマド     | ムハンマドの生涯を概観する。                    |
| 第3回  | 六信五行         | イスラームの信仰箇条と行為義務を概観する。             |
| 第4回  | 聖典『クルアーン』    | イスラームの聖典を概観する。                    |
| 第5回  | スンナ派とシーア派    | イスラームの宗派を概観する。                    |
| 第6回  | ウマイヤ朝とアッバース朝 | 7世紀から8世紀までのイスラーム地域を概観する。          |
| 第7回  | シャリーアとフィクフ   | イスラームの法と法学を概観する。                  |
| 第8回  | ウラマーとマドラサ    | イスラームの法の担い手とその養成方法を概観する。          |
| 第9回  | マムルークとイクター制  | 9世紀から11世紀までのイスラーム地域を概観する。         |
| 第10回 | スーフィーと聖者     | イスラームの神秘主義と聖者を概観する。               |
| 第11回 | スンナ派の時代      | 12世紀のイスラーム地域を概観する。                |
| 第12回 | モンゴルの時代      | 13世紀のイスラーム地域を概観する。                |
| 第13回 | オスマン朝とティムール朝 | 14世紀から15世紀までのイスラーム地域を概観する。        |
| 第14回 | イスラームの普及     | アフリカ、インド、東南アジア、中国へのイスラームの普及を概観する。 |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。  
準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。  
復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配付する。

**【参考書】**

大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年。

東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社、1996年。  
屋形禎亮・佐藤次高『西アジア』上巻、朝日新聞社、1993年。

**【成績評価の方法と基準】**

70%: 期末試験

30%: 平常点

**【学生の意見等からの気づき】**

2023年度の受講生アンケートの結果は以下のとおり（抜粋）。

・リアベの質問に丁寧に答えてくださって嬉しかった。高校時代日本史選択だったので世界史にはあまり触れていなかったのですが、説明がわかりやすくして日本史選択の人にも配慮した授業だったので受けてよかったです。少しペースが早いのでメモするのが大変でした。

・言葉遣いやエアコンの温度調節、プリントの配布などの先生の気遣いがある。授業内容がかなり深く踏み込んでくるので、少し聞き流すと全くわからなくなるのが、少し辛いです。

以上を踏まえ、これまでの授業方法を維持しつつ、ややゆっくり話すこととする。

**【その他の重要事項】**

秋学期に開講される「東洋史LD（イスラーム史2）」も受講することが望ましい。

**【Outline (in English)】**

We survey a history of Islamic area from 7th to 15th century and review the Islamic technical terms. We aim to understand the area and to compare and connect it with another. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%; reaction paper: 30%.

HIS200LA (史学/History 200)

## 東洋史特講Ⅱ

長谷部 圭彦

授業コード：A3235 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、オスマン・サファヴィー・ムガルの三王朝が並び立った16世紀から現代までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。とくに、この地域の大部分を支配したオスマン帝国（1300頃～1922）に焦点をあてる。受講者が、オスマン帝国への理解を深めつつ、他の政治体との比較や連関ができるようになることを目的とする。

### 【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、オスマン帝国の歴史に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週質問用紙を配布するので、質問や意見を記入してほしい。それには翌週、可能な限り回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                               |
|------|-----------------------|----------------------------------|
| 第1回  | 講義概要                  | 講義の目的、成績評価方法等を確認する。              |
| 第2回  | オスマン史の全体像             | オスマン史の時代区分（形成、拡張、変容、刷新、崩壊）を紹介する。 |
| 第3回  | 形成の時代1—戦士集団から君侯国へ     | 13世紀から15世紀中葉までのオスマン史を概観する。       |
| 第4回  | 形成の時代2—コンスタンティノープルの征服 | コンスタンティノープルの征服を概観する。             |
| 第5回  | 拡張の時代1—世界帝国への道        | 15世紀中葉から16世紀前半までのオスマン史を概観する。     |
| 第6回  | 拡張の時代2—スレイマンの時代       | 16世紀中葉のオスマン史を概観する。               |
| 第7回  | 拡張の時代3—支配組織の確立        | 16世紀の支配組織を概観する。                  |
| 第8回  | 変容の時代1—兵制と税制の変容       | 16世紀後半から17世紀前半までのオスマン史を概観する。     |
| 第9回  | 変容の時代2—対外関係の変容        | 17世紀後半から18世紀までのオスマン史を概観する。       |
| 第10回 | 刷新の時代1—改革の序章          | 19世紀前半のオスマン史を概観する。               |
| 第11回 | 刷新の時代2—二つのナショナリズム     | オスマン帝国のナショナリズムを概観する。             |
| 第12回 | 刷新の時代3—社会秩序の変容        | 19世紀中葉のオスマン史を概観する。               |
| 第13回 | 崩壊の時代1—専制と革命          | 19世紀後半から20世紀初頭までのオスマン史を概観する。     |
| 第14回 | 崩壊の時代2—帝国の終焉          | 20世紀前半のオスマン史を概観する。               |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。  
準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。  
復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配布する。

### 【参考書】

新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001年。  
大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年。  
小笠原弘幸『オスマン帝国』中央公論新社、2018年。  
鈴木董『オスマン帝国』講談社、1992年。  
鈴木董『オスマン帝国の解体』筑摩書房、2000年。  
永田雄三編『トルコ史』山川出版社、2023年。  
永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』中央公論社、1998年。  
林佳世子『オスマン帝国の時代』山川出版社、1997年。  
林佳世子『オスマン帝国500年の平和』講談社、2008年。

### 【成績評価の方法と基準】

70%: 期末試験

30%: 平常点

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の受講生アンケートの結果は以下のとおり（抜粋）。  
・自分では普段触れられないような文化や歴史、考え方に触れることができた。  
・授業のスピードは早いのが、板書がとても丁寧なのでついていくことができた。  
・分かりやすく、面白い内容なので授業を受けるのを毎回楽しみにしていました。  
・教授の熱意をととても感じ、春秋通して受講した甲斐があったと感じる教科だった。間違いなく一番楽しみにしている教科だった。  
以上を踏まえ、これまでの授業方法を維持することとする。

### 【その他の重要事項】

春学期に開講される「東洋史LC（イスラーム史1）」も受講することが望ましい。

### 【Outline (in English)】

We survey a history of the Ottoman Empire. We aim to understand it and to compare and connect it with another political body. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%; reaction paper: 30%.

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

**地理学概論 (1)**

前杵 英明

授業コード：A3401 | 曜日・時限：木1/Thu.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義は「地理」から「地理学」へ」と移行するための基礎的知識を学ぶことを目的とする。この講義を受講すれば、1. 高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認でき、2. 高校の教科である「地理」と学問の一分野である「地理学」との違いを理解でき、3. 自然地理学の導入部分を学ぶことができる。科目名を自然地理学概論と読み替えてもよい。

**【到達目標】**

高校の地歴科「地理」で学習する地理の知識を再確認し、高校の教科としての地理と学問の一分野である地理学の違いを理解する。また、自然地理学を構成する地形、気候、陸水・海洋、植生などの自然環境や自然災害に関する基礎的な知識を身につけ、今後の学年進行に伴う専門教育を受けるための基礎を身に付けることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行う。毎週プレゼンファイルを使い、それを解説する形式である。プリントを配布するとともに、予習・復習に必要なプレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げる。課題 (質問事項) 等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                  | 内容                                                                  |
|------|----------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 地理学と自然地理学            | 地理学と自然地理学について説明する。本学期のシラバスについて確認する。地球惑星科学の一分野としての自然地理学や自然史について説明する。 |
| 第2回  | 気候①<大気大循環と気候要素・因子>   | 地球の熱収支、大気大循環、気候要素、気候因子について講義する                                      |
| 第3回  | 気候②<世界の気候区分と日本の気候区分> | ケッペンをはじめとした様々な気候区分、日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて講義する。                |
| 第4回  | 気候③<最終氷期以降の気候変動>     | 最終氷期以降の気候変動、自然環境の変化について講義する。                                        |
| 第5回  | 地形①<世界と日本の大地形>       | 大地形、地帯構造、プレートテクトニクスなどについて講義する。                                      |
| 第6回  | 地形②<平野と海岸の地形>        | 平野と海岸、台地と扇状地、沖積低地の微地形について講義する。                                      |
| 第7回  | 地形③<変動地形>            | 内作用に起因する変動地形や火山地形について講義する。                                          |
| 第8回  | 地形④<第四紀と氷期>          | 第四紀、気候変動と地形、氷河・周氷河地形等について講義する。                                      |
| 第9回  | 水文①<水循環と流域、陸水>       | 水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、水文学のベースである地下水学の基礎と陸水学の起源である湖沼学の基礎について講義する。      |
| 第10回 | 水文②<水循環と流域、海洋>       | 水循環と水収支、海洋循環と気候変動などについて講義する。                                        |
| 第11回 | 土壌と植生<土壌の基礎・植生景観・文化> | 土壌学の基礎を植生景観や文化景観と関連させながら講義する。                                       |
| 第12回 | 自然災害                 | さまざまな自然災害について、自然地理学との関連で講義する。                                       |
| 第13回 | 環境問題                 | 地球環境史のふり返りとこれからの地球環境について講義する。                                       |
| 第14回 | 本学期の講義内容の振り返り        | 本学期の講義内容の振り返りとして確認試験などを行う。                                          |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

高校で使用した地図帳があれば、授業理解に役立つ。プレゼンファイルの圧縮版を学習支援システムに上げておくので、予習・復習に役立てて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは使用しない。プリントもしくはスライドのPDFを配布する。

**【参考書】**

高橋日出男・小泉武栄 (2008) : 地理学基礎シリーズ2 「自然地理学概論」、朝倉書店。  
小野映介・吉田圭一郎 (2021) : みわたす・つなげる自然地理学、古今書院。

**【成績評価の方法と基準】**

試験90%、平常点10%で総合的に評価する。平常点は出席状況や積極的な質問等で判断する。全回出席を原則とする。公欠等でやむを得ず休む場合でも開講回数2/3以上出席していないと評価しない。初回からカウントする。

**【学生の意見等からの気づき】**

初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明するので、必ず出席すること。また、毎年の本講義の授業評価結果を踏まえて講義の改善に努める。

**【学生が準備すべき機器他】**

毎回、Power Point、および理解に有効な映像を適宜、用いて受講生の理解の一助に努めながら講義を構成する。資料は、学習支援システムでダウンロードした上で、予習・復習をする必要がある。

**【その他の重要事項】**

地理学科の必修科目である。

**【担当教員の専門分野等】**

&lt;専門領域&gt;

自然地理学、(変動) 地形学、第四紀学

&lt;研究テーマ&gt;

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

&lt;主要研究業績&gt;

前杵英明ほか (2005) : 沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.

Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97- 106, AGU, Washington, D. C.

**【Outline (in English)】**

The theme of this lecture is to confirm the foundation for shifting from "chiri" to "geography". The goal of this lecture is: 1. Reaffirming or reviewing geographical knowledge learned through the high school subject, 2. Understanding the differences Geography as a high school subject from Geography as a scientific discipline, 3. And learning the introductory part of Physical geography.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.getting knowledge on natural environments and natural hazards
- B.getting ability to step up to the special education in the following grade.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

## 地理学概論 (2)

伊藤 達也

授業コード：A3402 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地理学でも特に人文地理学分野のテーマを中心にした全体的な概要把握が授業概要と目的です。

### 【到達目標】

授業で行う一つ一つのテーマ、内容が人文地理学細分野の入門となっており、今後、学生が地理学を学んでいく上での基礎となることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                              |
|------|----------------|-------------------------------------------------|
| 第1回  | 人文地理学とは何か      | 人文地理学とは何かについて、系統地理と地誌の関係、地域概念、地域スケール、を中心に説明します。 |
| 第2回  | 多様な国家          | 古典国家、現代国家の違い、現代国家の役割について説明します。                  |
| 第3回  | 国境を超える政治経済     | 経済のグローバル化、政治のブロック化の中での社会変容について説明します。            |
| 第4回  | アジアの経済発展 (1)   | アジアの特徴、多様性について説明します。                            |
| 第5回  | アジアの経済発展 (2)   | アジアの経済発展について説明します。                              |
| 第6回  | 地域経済の論理 (1)    | 地域を構成する3要素について説明します。                            |
| 第7回  | 地域経済の論理 (2)    | 地域経済の発展について説明します。                               |
| 第8回  | 自然環境の理解と行政 (1) | 行政の自然環境の理解について説明します。                            |
| 第9回  | 自然環境の理解と行政 (2) | 行政の理解のずれについて説明します。                              |
| 第10回 | 都市とは何か         | 都市システムと中心地論について説明します。                           |
| 第11回 | 世界都市のシステム化     | 東京とシンガポールの競争について説明します。                          |
| 第12回 | 農業地域の経済力       | 日本農業の変化と農業問題について説明します。                          |
| 第13回 | 文化と歴史の地理学      | 文化からの地域把握(全国アホバカ分布、河童の地理学)について説明します。            |
| 第14回 | まとめ            | 講義全体のまとめを行います。                                  |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

ありません。

### 【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著(2020)『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房

山崎 朗ほか(2022)『地域政策(第二版)』中央経済社

藤井 正・神谷浩夫編(2014)『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房

浮田典良(2010)『地理学入門改訂版-マルチ・スケール・ジオグラフィ-』原書房

R.J. ジョンストン著/立岡裕士訳(1997, 1999)『現代地理学の潮流(上・下)』地人書房

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験100%

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【Outline (in English)】

(Course outline) The outline and purpose of the course is to grasp the overall outline centered on the theme of human geography.(Learning Objectives) Each theme and content of the class is an introduction to the subfield of human geography, and the goal is to serve as a foundation for students to study geography. (Learning activities outside of classroom) Connect content of the class to the events in real life. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy) Regular Exam 100%

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

**地理実習 (1)****前卒 英明**

授業コード：A3403 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考 (履修条件等)：クラス分けあり。学習支援システム上の「学科からのお知らせ」に掲載予定。

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

**【到達目標】**

地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。簡単な道具で簡易地形測量ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式 (学習支援システムによる教材提示型またはZoomを用いたリアルタイム型) で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ               | 内容                                             |
|------|-------------------|------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | 授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。                          |
| 第2回  | 地形図の基本            | 地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。                          |
| 第3回  | 地形図と地形計測          | 地形計測 (距離・面積・高さ) を行う。                           |
| 第4回  | 地形図と段彩図           | 段彩図を作成する。                                      |
| 第5回  | 地形図と地形断面図         | 地形断面図を作成する。                                    |
| 第6回  | 地形図と土地利用図         | 土地利用を読みとり、地形との関係を考える。                          |
| 第7回  | ウェブ地図の利用          | さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。              |
| 第8回  | 地性線の描き方           | 地性線図を作成する。                                     |
| 第9回  | 水系と流域の描き方         | 水系図・流域図を作成する。                                  |
| 第10回 | 等値線の描き方           | 等値線図を作成する。                                     |
| 第11回 | 接峰面図の作成 (1)       | 接峰面図 (方眼法) を作成する。                              |
| 第12回 | 接峰面図の作成 (2)       | 接峰面図 (方眼法) を作成する (前回の続き)。                      |
| 第13回 | 接峰面図の作成 (3)       | 接峰面図 (方眼法) を作成する (前回の続き)。                      |
| 第14回 | 地表の簡易計測 / 空中写真の利用 | ハンドレベルと歩測で高さや距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。 |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の課題 (90%)、平常点 (10%) に基づいて評価する。全回出席を原則とする。公欠等でやむを得ず休む場合でも開講回数 2/3 以上出席していないと評価の対象としない。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。(大学でも用意する)

※対面形式でできない場合に備え、各自PC (※Word等インストール済み) を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する (自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている) など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

**【Outline (in English)】**

This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

At the end of the course, students are expected to utilize topomap and to make thematic map according to its objective.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on lab reports (90%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (10%).

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

## 地理実習 (1)

### 前卒 英明

授業コード：A3404 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年  
備考 (履修条件等)：クラス分けあり。学習支援システム上の「学科からのお知らせ」に掲載予定。  
その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

#### 【到達目標】

地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。簡単な道具で地形測量ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式 (学習支援システムによる教材提示型またはZoomを用いたリアルタイム型) で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                             |
|------|-------------------|------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | 授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。                          |
| 第2回  | 地形図の基本            | 地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。                          |
| 第3回  | 地形図と地形計測          | 地形計測 (距離・面積・高さ) を行う。                           |
| 第4回  | 地形図と段彩図           | 段彩図を作成する。                                      |
| 第5回  | 地形図と地形断面図         | 地形断面図を作成する。                                    |
| 第6回  | 地形図と土地利用図         | 土地利用を読みとり、地形との関係を考える。                          |
| 第7回  | ウェブ地図の利用          | さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。              |
| 第8回  | 地性線の描き方           | 地性線図を作成する。                                     |
| 第9回  | 水系と流域の描き方         | 水系図・流域図を作成する。                                  |
| 第10回 | 等値線の描き方           | 等値線図を作成する。                                     |
| 第11回 | 接峰面図の作成 (1)       | 接峰面図 (方眼法) を作成する。                              |
| 第12回 | 接峰面図の作成 (2)       | 接峰面図 (方眼法) を作成する (前回の続き)。                      |
| 第13回 | 接峰面図の作成 (3)       | 接峰面図 (方眼法) を作成する (前回の続き)。                      |
| 第14回 | 地表の簡易計測 / 空中写真の利用 | ハンドレベルと歩測で高さや距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。 |

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

#### 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 (90%)、平常点 (10%) に基づいて評価する。全回出席を原則とする。公欠等でやむを得ず休む場合でも開講回数数の2/3以上出席していないと評価の対象としない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。(大学でも用意する)

※対面形式でできない場合に備え、各自PC (※Word等インストール済み) を用意する、PDFファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する (自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている) など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

#### 【Outline (in English)】

This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

At the end of the course, students are expected to utilize topomap and to make thematic map according to its objective.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on lab reports (90%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (10%).

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

## 地理実習 (2)

小原 文明

授業コード：A3405 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年  
 備考 (履修条件等)：クラス分けあり。学習支援システム上の「学科からのお知らせ」に掲載予定。

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、地理学科において地理学を4年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

### 【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式 (作業) で行います。

課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                          |
|------|----------------|-----------------------------|
| 第1回  | 人文地理学における研究の基礎 | 研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？     |
| 第2回  | 調査・論文作成の基礎的作業① | 文献の種類・探し方                   |
| 第3回  | 調査・論文作成の基礎的作業② | 論文を読む (読書ノートの作成)            |
| 第4回  | データ・資料・地図の種類   | 統計データ、地図、各種資料について           |
| 第5回  | データの加工・図表の作成①  | 表の作成                        |
| 第6回  | データの加工・図表の作成②  | グラフの作成                      |
| 第7回  | データの加工・図表の作成③  | 地図表現を考える                    |
| 第8回  | データの加工・図表の作成④  | 主題図の作成①：点表現の定量図             |
| 第9回  | データの加工・図表の作成⑤  | 主題図の作成②：面表現の定性図             |
| 第10回 | データの加工・図表の作成⑥  | 主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図     |
| 第11回 | フィールドワークの手法①   | フィールドワークの意味、準備作業            |
| 第12回 | フィールドワークの手法②   | アンケート調査                     |
| 第13回 | フィールドワークの手法③   | ヒアリング調査                     |
| 第14回 | 講評・総括          | 全体の講評、人文地理学における研究方法についてのまとめ |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも目にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間 (準備・復習時間) は各4時間程度となります。

### 【テキスト (教科書)】

●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著 (2017)：『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖— (第2版)』海青社、2,500円 (税抜)。

●その他に、担当でレジュメ・配布プリントを用意します。

### 【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席、受講態度など)：30%、各種課題：70%で評価します。平常点については、出席することは当然として、積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧さを重視します。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進捗の違いに対応できるよう留意します。

### 【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: short reports (70%) and in-class contribution (30%).



GEO100BF (地理学 / Geography 100)

## 地理実習 (2)

小原 文明

授業コード：A3406 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考 (履修条件等)：クラス分けあり。学習支援システム上の「学科からのお知らせ」に掲載予定。

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、地理学科において地理学を4年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

### 【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式 (作業) で行います。

課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                          |
|------|----------------|-----------------------------|
| 第1回  | 人文地理学における研究の基礎 | 研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？     |
| 第2回  | 調査・論文作成の基礎的作業① | 文献の種類・探し方                   |
| 第3回  | 調査・論文作成の基礎的作業② | 論文を読む (読書ノートの作成)            |
| 第4回  | データ・資料・地図の種類   | 統計データ、地図、各種資料について           |
| 第5回  | データの加工・図表の作成①  | 表の作成                        |
| 第6回  | データの加工・図表の作成②  | グラフの作成                      |
| 第7回  | データの加工・図表の作成③  | 地図表現を考える                    |
| 第8回  | データの加工・図表の作成④  | 主題図の作成①：点表現の定量図             |
| 第9回  | データの加工・図表の作成⑤  | 主題図の作成②：面表現の定性図             |
| 第10回 | データの加工・図表の作成⑥  | 主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図     |
| 第11回 | フィールドワークの手法①   | フィールドワークの意味、準備作業            |
| 第12回 | フィールドワークの手法②   | アンケート調査                     |
| 第13回 | フィールドワークの手法③   | ヒアリング調査                     |
| 第14回 | 講評・総括          | 全体の講評、人文地理学における研究方法についてのまとめ |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも目にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間 (準備・復習時間) は各4時間程度となります。

### 【テキスト (教科書)】

●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著 (2017)：『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖— (第2版)』海青社、2,500円 (税抜)。

●その他に、担当でレジュメ・配布プリントを用意します。

### 【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席、受講態度など)：30%、各種課題：70%で評価します。平常点については、出席することは当然として、積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧さを重視します。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進捗の違いに対応できるよう留意します。

### 【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: short reports (70%) and in-class contribution (30%).

GE0200BF (地理学 / Geography 200)

## 現地研究

### 地理学科専任教員

授業コード：A3407 | 曜日・時限：集中・その他  
年間授業/Yearly・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現地研究」は、他の学科にはない地理学科特有の科目です。いわゆる「野外調査（フィールドワーク）実習」を、法政大学の地理学科ではこう呼んでいます。地理学は、「地域」と密接に関係した学問です。地理学の研究に当たっては、ふだん教室で学んだことがらを、直接、「地域」の現地（＝現場）におもむいて確認・検証することが必要です。また現地で種々の手法を用いてデータを収集することも大切ですし、そうした過程で現地ならではの新しい発見も得られることとなります。さらに、4年生になると、必修科目としての卒業論文の作成が課されますが、卒業論文の執筆に際しては、一般に現地調査を必要とする場合が多くあります。そのための調査技術の訓練をおこない、各自が主体的に現地調査ができるようになることが、この科目の目標です。

#### 【到達目標】

教室で学んだことがらを「地域」の現地（＝現場）で確認・検証し、さらにはデータを収集する方法を併せて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

各専任教員が、それぞれ年1～2回、いろいろな地域において「現地研究」を実施します。テーマとしては、自然地理学的な「現地研究」では地形調査、土壤調査、植生調査、気候調査、水文調査等が、人文地理学的な「現地研究」では農牧業、水産業、あるいは工業、交通などの経済活動、村落、都市などの社会生活、地域文化などについての調査が主となります。それらのテーマにしたがって、観察・観測・測定、聞き取り調査や質問票調査などが実施されます。したがって、休日以外に実施されることが多くあります（欠席せざるをえなかった授業の担当教員宛に、地理学科では、「現地研究参加証明書」を発行していますが、その取り扱いは各担当教員に任されています）。

各「現地研究」の実施案内と参加者募集の要領は、その都度掲示を通じて学生諸君にはお知らせしますので、掲示板確認を怠らないようにした上で、掲示の指示通りに参加手続きをとってください。卒業論文作成に生かすためにも、なるべく早い学年のうちに、「現地研究」を履修することを勧めます。現地研究は必修科目です。従って単位不足で卒業できないという事態にならないようにして下さい。

各「現地研究」の前には、事前に「説明会」が必ず実施されます。「説明会」では、参加希望者と教員相互で、フィールドワークの企画を行います。それは、準備し、仮説を立て、詳細な地域設定、調査の実施、まとめに至るという過程を確認、実行するためのものです。フィールドワークの実施のためには、事前に文献、地図・地形図、史資料の収集整理が必要ですが、それについては教員が概略を説明し、参加者は企画に基づいてさらに詳細な文献・地図・史資料を収集整理していきます。参加者はそれらを読みこなしした上で、調査項目の検討を行います。得たそれら資料を予め地図化しておくことも必要です。実施日程やおおよその実施地域は教員が決定する場合がありますが、それから先の詳細は参加者が主体的に企画に参加、実行していくこととなります。したがって参加者募集は現地研究実施の数ヶ月前に行い、参加者が主体的に企画それ自体から積極的に参加できるように、「説明会」も複数回実施される場合が出てきます。説明会に出席しなければ、「現地研究」への参加は当然、認められません。

それらの上に「現地研究」本番、つまりフィールドワークの実施に臨むこととなります。具体的には、それぞれの企画に従って観察・測定・面接等を行います。しかし、いくら参加者の主体性が重視されるとはいつても、機器を使った測定、観測等においては、教員が適切な機器使用方法を一から指導していかねばならないこともあります。

「現地研究」終了後には、フィールドワークのまとめとして、指示に従ってレポートを作成、提出します。そのためには事前に収集整理した文献・地図・史資料等を使って、その上にフィールドワークで得た結果を図表化・分析・仮説検証することが必要になります。当然、報告会などに出席する必要があります。これらをすべてクリアして初めて、単位の認定が受けられることとなります。この報告会などで、フィードバックが行われる予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ    | 内容                                                                                                      |
|-----|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 参加者の募集 | 募集通知は掲示を通じて行なう。これを見て、各自が参加を申し込む。宿泊施設や交通手段の関係などから定員が設けられるのが通常であるから、確実に参加するためには日ごろから掲示板によく注意していることが大切である。 |

|     |            |                                                                                     |
|-----|------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 第2回 | 事前説明会      | 各「現地研究」のおおまか内容、実施時期、注意点などについて説明し、同時に「現地研究」実施のための企画を行う。これに欠席すると、当該「現地研究」への参加は認められない。 |
| 第3回 | 現地研究本番     | 集合（現地集合となることが多い）から解散まで、各教員の指導のもとに観測・観察、計測、聞き取り調査などを行ない、それらの結果を現地でとりまとめて議論する。        |
| 第4回 | レポート作成・報告会 | 帰学後、現地研究の成果についてのレポートを作成し提出する。その上で報告会も実施する。以上のような過程をすべて経たうえて、単位認定がなされることになる。         |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業の概要と方法を参照して下さい。通常の授業では予習、復習時間、各2時間を標準としますが、この現地研究においては、上記のように準備、本番、レポート作成・報告会等をそれぞれ行っていきますので、通常授業の予習復習各2時間ではなく、各現地研究ごとに、各段階でその数倍の時間を費やすことが求められます。

#### 【テキスト（教科書）】

各「現地研究」ごとに指示します。

#### 【参考書】

各「現地研究」ごとに指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

参加申し込み、説明会への参加、「現地研究」本番への参加、事後のレポート提出および報告会等への参加が、それぞれの現地研究の単位認定の必須条件であり、それらを総合して成績評価します。また、「現地研究」の単位は、4年次にまとめて認定されます。履修登録は4年次に必ず行って下さい。2～4年次の間に合計2回以上、履修して、総合した成績が合格基準に達していることを条件として、必修2単位が認定されます。各自の認定された参加回数は1年に2回、地理学科掲示板に掲示されますので、各自必ず確認して下さい。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

各現地研究ごとに指示します。

#### 【その他の重要事項】

現地研究は、2年生以上が参加可能です。各現地研究ごとに参加条件等が異なる場合もありますので、掲示に注意して下さい。参加申し込みは、BT12階の地理学科事務室で各学期、受け付けます。参加申し込みは、必ず本人が行って下さい。現地研究への参加は、各学期、1回を原則とします。申込時に「参加予約金」を徴収する場合があります。なお、参加費用は全て自己負担です。

#### 【Outline (in English)】

##### Course outline

The aim of this course(field work, excursion) is to enable each student to conduct field survey independently by training in survey technics.

##### Learning Objectives

You will learn how to check and verify what you have learned in the classroom at the "region" (= site), and also how to collect data.

##### Learning activities outside of classroom

Please refer to the lesson outline and method. In regular lessons, preparation, review time, and 2 hours each are standard, but in this field study, preparation, production, report preparation, debriefing, etc. will be conducted as described above, so preparation for regular lessons. It is required to spend several times as much time at each stage for each field study, instead of 2 hours for each review.

##### Grading Criteria /Policy

Participation application, participation in briefing sessions, participation in "field research" production, post-report submission, participation in debriefing sessions, etc. are essential conditions for credit recognition of each field research, and the overall results Evaluate. In addition, the credits for "field research" are collectively accredited in the 4th year. Please be sure to register for the course in the 4th year. Two compulsory credits will be accredited on condition that you have taken a total of two or more courses between the 2nd and 4th years and your overall grades have reached the passing criteria. The number of certified participations will be posted on the Geography Bulletin Board twice a year, so please be sure to check each one.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 地誌学概論 (1)

小寺 浩二

授業コード：A3408 | 曜日・時限：火1/Tue.1  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年  
 備考(履修条件等)：2023年度以降入学生は受講不可。  
 その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成。地誌学の概論を講義するとともに、日本の自然誌についてのサンプルを示し、自分誌や自然誌を具体的に記述することで、自分で地誌を作成する力を育成する。GISの活用など、技術的なものも身に着ける。

### 【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究方法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                        |
|------|------------|---------------------------|
| 第1回  | 講義内容概略     | 授業計画と課題説明                 |
| 第2回  | 地理学と地誌学    | 地理学の中での地誌学の位置づけ           |
| 第3回  | 地誌学の歴史     | 地誌学の発展の歴史と主要文献紹介          |
| 第4回  | 地誌学の学派・方法論 | フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論 |
| 第5回  | 広域地誌       | 広域地誌の定義と事例                |
| 第6回  | 国家地誌       | 国家地誌の定義と事例                |
| 第7回  | 総合的地誌      | 総合的地誌の定義と事例               |
| 第8回  | 動態地誌       | 動態地誌の定義と事例                |
| 第9回  | 景観論        | 景観論とそれに基づいた地誌             |
| 第10回 | 行政界と自然界    | 地誌における地域界について             |
| 第11回 | 自然誌        | 総合自然誌と主題自然誌               |
| 第12回 | 自分誌        | 自分誌の定義と事例                 |
| 第13回 | 歩く自然誌      | 実際の経験によって組み立てる地誌          |
| 第14回 | 画像・映像による地誌 | 様々な画像や映像を用いた地誌            |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。  
 自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳(2005)：『風景の中の自然地理「改訂版」』, 古今書院  
 ・配布プリント資料

### 【参考書】

・長谷川典夫(1994)：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』, 大明堂  
 ・山本正三・田中真吾・太田 勇(1973)：『世界の自然環境』, 大明堂  
 ・藤岡謙二郎ほか(1982)：『世界地誌』-改訂増補版-, 大明堂  
 その他、授業内で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(小テスト) 課題、試験による総合評価。

平常点3割、課題3割、試験4割とする。  
 試験は、最終時限に授業内試験として実施する予定。

### 【学生の意見等からの気づき】

今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の結果からも修正していくつもりである。

### 【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPointや映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

### 【その他の重要事項】

本科目は、「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、前向きな学習への取り組みを期待する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

### 【Outline (in English)】

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

In "Geography", acquire basic knowledge about the history and methodology of "Regional geography", which is an important field along with "Systematic geography". At the same time, create a "natural magazine" that covers specific areas, and acquire the basic ability to create a "geographical magazine".

Throughout the course, you will be able to acquire basic knowledge about the history, theory, and methods of "geography," which plays an important role in "geography," "geographical concepts," and "geographical research methods." is doing.

In addition, we aim to develop basic "natural magazine" creation ability by creating two "natural magazines" that are instructed along the flow of the lesson and presenting their comments and assignments.

In addition, lectures will be given on data processing, result plotting, thematic map creation, etc., to improve report writing ability and learn the basics of dissertation writing technology.

Based on newspaper articles, we will summarize the geographies of various regions.

Summarize the differences in spatial perception that changed with your growth as a "self-magazine". The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Normal score (quick test) assignments, comprehensive evaluation by exams.

Normal points are 30%, tasks are 30%, and exams are 40%.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 地球科学概論 I

宍倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年  
 備考(履修条件等)：「地球科学概論 I」の受講者は原則として秋学期授業/Fallの「地球科学概論 II」も連続して受講し、1年を通じて受講すること。

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理(ことわり)で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や津波の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらおう。

### 【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震のメカニズムなど、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。

毎回の授業においてリアクションペーパー(講義やグループワークの感想や質問)を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。

提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習(日帰りの現地見学等)も予定している。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                        |
|------|-------------|-------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。                 |
| 第2回  | 宇宙の中の地球     | 宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。            |
| 第3回  | 地球の構造       | 地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るかを説明する。       |
| 第4回  | 地球に働く力      | 地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。     |
| 第5回  | プレートテクトニクス1 | プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。              |
| 第6回  | プレートテクトニクス2 | プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。 |
| 第7回  | 地球誕生からの歴史   | 地球誕生46億年の歴史を生命の進化とともに説明する。                |
| 第8回  | 地震の基礎1      | 地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。               |
| 第9回  | 地震の基礎2      | 地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。              |
| 第10回 | 地震の基礎3      | 地震予知情報に関する説明を行う。                          |
| 第11回 | グループワーク(地震) | 地震予測をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。   |
| 第12回 | 津波1         | 津波発生のしくみ、津波の高さの定義について説明する。                |
| 第13回 | 津波2         | 過去の津波災害や津波堆積物について説明する。                    |
| 第14回 | グループワーク(津波) | 津波災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。   |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

### 【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の46億年」合同出版

[http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product\\_id=487](http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487)

泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会

<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>

宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>

大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版

<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

### 【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容(90%)  
 2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢(10%)  
 全14回(予定)の授業のうち2/3以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは積極的に参加する者とそうでない者の差があり、前者の負担が大きくなるという意見があった。そこでなるべく少人数でそれぞれの顔が見える形にすることや、ディスカッションテーマもなるべく広く関心が持てる内容を設定することを目指している。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノートPCやスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

### 【その他の重要事項】

この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は80名程度とし、第1回の授業において80名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、可否は第2回授業までに教員より連絡する。

また地球科学概論 I の受講者は原則として秋学期の地球科学概論 II も連続して受講し、1年を通じて受講すること。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

### 【Outline (in English)】

[Course outline]

The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and tsunamis and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

[Learning Objective]

The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).  
 2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).

Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 地球科学概論Ⅱ

糸倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1~4年  
 備考(履修条件等)：この授業は原則として春学期授業/Springの「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。  
 その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地殻変動や火山活動とそれが生み出す資源、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みももたらしている。本講義では地球科学概論Ⅰにおいて学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

### 【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。

毎回の授業においてリアクションペーパー(講義やグループワークの感想や質問)を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。

提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習(日帰りの現地見学等)も予定している。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                                   |
|------|----------------|------------------------------------------------------|
| 第1回  | 地殻の様々な動き 1     | 最初に秋学期の講義全体の内容について説明。<br>後半は観測でわかる緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。 |
| 第2回  | 地殻の様々な動き 2     | 地形や生物に記録された過去の地殻変動を紹介する。                             |
| 第3回  | 火山 1           | 火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。                             |
| 第4回  | 火山 2           | 破滅的噴火や火山災害に関する説明を行う。                                 |
| 第5回  | 資源とその活用        | 我々が地球から受ける恩恵である様々な資源について、その起源と活用について説明する。            |
| 第6回  | 大気と海洋          | 大気と海洋の構造、表層や深層の循環などについて説明する。                         |
| 第7回  | 気候変動 1         | 10万年スケールで繰り返してきた水期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。           |
| 第8回  | 気候変動 2         | 歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。                            |
| 第9回  | グループワーク(気候変動)  | 気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。              |
| 第10回 | 侵食と堆積 1(山・斜面)  | 地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動について説明。                 |
| 第11回 | 侵食と堆積 2(河川)    | 地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。                |
| 第12回 | 侵食と堆積 3(海岸・海底) | 地球表層で生じる外的作用として海岸の侵食・堆積について説明。                       |
| 第13回 | グループワーク(気象災害)  | 気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。              |
| 第14回 | 地球科学と教育        | 地球科学の教育上の意義と社会的貢献について説明。                             |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害、資源などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

### 【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店  
<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>  
 穴倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社  
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>  
 矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房  
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

### 【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容(90%)。  
 2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢(10%)。  
 全14回(予定)の授業のうち2/3以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノートPCやスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

### 【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外を受講を認めない。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

### 【Outline(in English)】

#### 【Course outline】

Phenomena occurring in the aerosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Crustal deformation, volcanic activity and related resources, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.

#### 【Learning Objective】

The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to collect information on recent topics related to volcanic eruptions, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policies】

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).  
 2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).

Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

**地質・岩石学及び実験**

宇津川 喬子

授業コード：A3416 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地質学の中でも岩石学と堆積学に関する基本的な知識や理論について体系的に学ぶ。

**【到達目標】**

- 1) 地球科学の基礎を岩石学や堆積学と関連づけて理解し、自分の言葉で説明することができる
- 2) 岩石の成因やその理論の基礎を理解し、岩石の種類をおおよそ判別することができる
- 3) 堆積学の基礎を理解し、堆積構造からおおよその堆積環境を推定することができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で進めつつ、授業内で標本観察やスケッチ等の簡単な実習・実験作業を授業内課題として行う。課題へのフィードバックは次回の授業で行う。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                     |
|------|---------------------|------------------------|
| 第1回  | ガイダンス・導入：映像から捉える地質学 | 授業概要と注意事項              |
| 第2回  | 鉱物                  | 鉱物の基礎（結晶系や造岩鉱物）        |
| 第3回  | 地質学史                | 地質学の歴史（一部、英文テキストを用いる）  |
| 第4回  | マグマと火成岩             | 火成岩の成因と種類              |
| 第5回  | 続成作用と堆積岩            | 堆積岩の形成過程と種類            |
| 第6回  | 変成作用と変成岩            | 変成岩の形成過程と種類            |
| 第7回  | 日本列島と地質図            | 日本列島の地質、地質図の読み方        |
| 第8回  | 岩石の利用と社会            | 身の回りの石材利用              |
| 第9回  | 堆積学の基礎              | 堆積物とは、堆積学の基礎用語         |
| 第10回 | 陸域～河口の堆積学           | 陸域～河口の堆積構造             |
| 第11回 | 浅海～深海の堆積学           | 浅海～深海の堆積構造             |
| 第12回 | シーケンス層序学            | 気候変動を堆積学的に捉える          |
| 第13回 | 地層観察実習              | 大学近隣あるいは剥ぎ取り標本を用いた地層観察 |
| 第14回 | 偏光顕微鏡実習             | 偏光顕微鏡の使い方、岩石剥片         |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

岩石学や地質学を中心とした地質学や地球科学をめぐる動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない（適宜レジュメを配布）

**【参考書】**

主要な参考書は以下の通り。その他にも授業中に適宜紹介する。  
黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と岩石鉱物 第2版』1983年、共立出版。  
日本堆積学会監修・伊藤 慎総編集『フィールドマニュアル 図説 堆積構造の世界』2022年、朝倉書店。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内課題（40%）、レポート（60%）で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特にありません。

**【Outline (in English)】**

This course focuses on the basis knowledge of Petrology and Sedimentology in Geology.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A) understand the basics of Earth Science in relation to Petrology and Sedimentology, and be able to explain them in own words,
- B) understand the origin of rocks and the basics of their theory, and be able to roughly distinguish the type of rocks,
- C) understand the basics of Sedimentology, and be able to roughly estimate the sedimentary environment from the sedimentary structure.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the quality of reports (60%) and short tasks (40%).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 自然環境論

宇津川 喬子

授業コード：A3417 | 曜日・時限：火5/Tue.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主に日本の流域・沿岸域に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

### 【到達目標】

さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。毎回スライドを投影し、授業資料は Hoppii で公開する。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                    |
|------|---------------------|---------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス・導入：映像から見る自然景観 | 授業の概要、計画、評価方法を説明する。                   |
| 第2回  | 日本の自然環境             | 日本の自然環境を概説する。                         |
| 第3回  | 河川とはじめ              | 河川の基礎的な事項を概説する。                       |
| 第4回  | 岩石と自然景観             | 岩石の分類を学び、主要な自然景観との関係を探る。              |
| 第5回  | 河川がつくった暮らし（1）       | 多摩川水系を例に、地形発達と水利用を考える。                |
| 第6回  | 河川がつくった暮らし（2）       | 米代川流域を例に、地形発達と土地利用を考える。               |
| 第7回  | 自然災害と社会（1）          | 安倍川と常願寺川を例に、土石流を中心とした自然災害と地形発達を考える。   |
| 第8回  | 自然災害と社会（2）          | 相模川水系を例に、火山災害と土地利用を考える。               |
| 第9回  | 自然環境と人間生活（1）        | 天竜川水系を例に、海岸侵食と沿岸保全について考える。            |
| 第10回 | 自然環境と人間生活（2）        | 熊野川・信濃川水系を例に、地形発達と河川管理について考える。        |
| 第11回 | 自然環境と人間生活（3）        | 琉球列島・小笠原諸島を例に、地形・地質と水や土地の利用を考える。      |
| 第12回 | 海外の自然環境（1）大陸河川      | 大陸河川周辺の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。           |
| 第13回 | 海外の自然環境（2）島嶼        | 海外島嶼域の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。            |
| 第14回 | まとめ                 | 自然環境に関わる時事問題を取り上げながら、これまでの授業内容の総括を行う。 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習する。日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。時事問題を取り上げた記事や書籍に目を通す癖をつけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業資料は Hoppii で配布する。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介する。地図帳の持参を推奨する（高校までに使用していたもので構わない）。

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（50%）、期末レポート（50%）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

本科目は専門科目であり、また「概説」ではありませんので、教員の視点と専門性が強めに反映された授業内容になっています。授業では扱っていないが関連して興味をもっている内容は自分自身で調べて学びを深めてもらいつつ、適宜教員に相談してもらえれば学びへのアドバイスはできます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【Outline (in English)】

This course focuses mainly on the geomorphological perspective of natural environment around drainage basin and coastal zone in Japan. By the end of the course, students should be able to do the followings:  
- A) Understand the formation of natural environment and relationship with the living people in various regions.  
- B) Consider the relationship between yourselves, the people around them, and the familiar natural environment.  
Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.  
Grading will be decided based on the mid-report (50%), final report (50%).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

**地形学及び実験 I****前卒 英明**

授業コード：A3418 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。地形形成過程について理解することにより、土砂災害や地震災害などについてその本質を理解することができ、地域防災のリーダー的役割を担えるようになる。

**【到達目標】**

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形の発達、変化を地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。受講希望学生は第1回授業開始前から学習支援システムを使える状態しておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるのを、それを利用して予習復習を行ってもらいたい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ          | 内容                                            |
|------|--------------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | 地形と生活（導入）    | 本授業全体の概要。地形と我々の暮らし。日本の地形・地質学の特徴、地形学と自然地理学の関係。 |
| 第2回  | 地形形成に関する序説   | 地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、地形を変化させるエネルギー |
| 第3回  | 風化作用         | 風化作用と地形形成における意味                               |
| 第4回  | マス・ムーブメントと斜面 | さまざまな集塊移動のメカニズムについて。斜面の基本分類。                  |
| 第5回  | 河川による作用      | 河川の形成、侵食・運搬・堆積作用の基本                           |
| 第6回  | 河川地形         | 侵食作用、堆積作用によって形成される地形                          |
| 第7回  | 海岸における作用     | 波の種類。波の作用、沿岸流など海岸で地形を変化させる作用                  |
| 第8回  | 海岸地形         | 海岸でのさまざまな堆積地形、侵食地形について                        |
| 第9回  | 風がつくる地形      | 風の作用と地形、乾燥地形                                  |
| 第10回 | 周水河作用と周水河地形  | 周水河作用によるさまざまなスケールの地形                          |
| 第11回 | 水河作用と氷河地形    | 氷河の形成と流動。氷河が地形を変化させるメカニズムや地形、および第四紀の環境変動      |
| 第12回 | カルスト地形       | 石灰岩特有のカルスト地形の特徴と形成メカニズム                       |
| 第13回 | 人類の活動と地形変化   | 人類の活動による地形変化について、地形災害という観点からも解説する             |
| 第14回 | 春学期授業の振り返り   | 春学期授業の振り返りとして、確認のための試験などを行う                   |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。質問等は学習支援システムを通して行う。学習支援システムには毎回授業で使用した資料PDFをアップする。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない

**【参考書】**

『地形学入門』A.L.ブルーム、榎根 勇訳、1970年  
 『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年  
 『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998年  
 『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年  
 『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011年

『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977年  
 『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～  
 『対話で学ぶ江戸東京・横浜の地形』松田磐余、之潮、2013  
 『地形学』松倉公憲、朝倉書店、2021

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験+小テスト(90～%)、平常点(～10%)から総合的に判断する。全回出席を原則とする。公欠等で欠席や遅刻を繰り返す場合は開講回数2/3以上の出席しないと評価の対象としない。14回授業ならば10回以上の出席が必須。第1回授業からカウントする。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の進度を調整し、シラバス通り消化できるようにする。

**【担当教員の専門分野】**

<専門領域>

自然地理学、(変動)地形学、第四紀学

<研究テーマ>

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

<主要研究業績>

前空英明ほか(2005)：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.  
 Maemoku, H. et al. (1997)：Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in *Climates, Landscapes, and Civilizations*, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97- 106, AGU,

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to get fundamental knowledge of geomorphology. The goals of this course are to understand landform processes and to recognize geological time scale. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%) and term-end examination (70%).



GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 地形学及び実験Ⅱ

### 前奈 英明

授業コード：A3419 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識や考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

#### 【到達目標】

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程をその背後に想像できるようになること、また地形と災害（特に内作用による）の関係を理解し、地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

最近の地球科学の成果をまず最初に概説し、そこから地球内部の構造が地球表面の形態とどのような関係にあるのかを考えていく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用と、地球環境変動による地形変化への影響について取り上げる。受講希望学生は第1回授業開始前から学習支援システムを使える状態しておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるの、それを利用して予習復習を行ってもらいたい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                                               |
|------|-------------------|------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | プレートテクトニクスと大地形（1） | プレートテクトニクスと大陸の配置、プレュームテクトニクスの研究を紹介する。地形のスケールと発達。                 |
| 第2回  | プレートテクトニクスと大地形（2） | 内作用の種類、変動地形と変動帯の研究を紹介する。曲隆、曲降運動と山地の地形などを紹介する。日本の地形と地質の特徴についてふれる。 |
| 第3回  | プレートテクトニクスと大地形（3） | 大地形とプレートテクトニクス、資源との関係などについて                                      |
| 第4回  | 断層変位地形            | 断層、褶曲、撓曲などによる変動地形の研究を紹介する                                        |
| 第5回  | 活断層と地震            | 地震の発生と断層運動の研究を紹介する                                               |
| 第6回  | 津波の原理と過去の津波       | 津波の原理と堆積物の研究を紹介する。古津波研究の紹介も行う。                                   |
| 第7回  | 火山の原理と火山地形        | 火山地形の形成過程と噴火様式、マグマの関係。地形と自然災害。                                   |
| 第8回  | 気候変動と氷河性海水準変動     | 氷河性海水準変動の理論の研究を紹介する。第四紀の環境変動。                                    |
| 第9回  | 氷河性海水準変動と海成段丘     | 氷河性海水準変動と海成段丘の形成過程について                                           |
| 第10回 | 最後の海進と沖積平野        | 沖積平野の地下構造と後氷期海進の関係について                                           |
| 第11回 | 地震性地殻変動と過去の巨大地震   | 海成段丘の変形と広域的地殻変動や地震性地殻変動の研究を紹介する。地形と地震災害。                         |
| 第12回 | アイソスタシーによる海岸地形の変動 | 氷河性アイソスタシーによる隆起海岸地形と大陸氷床変動の研究を紹介する                               |
| 第13回 | 火山灰・年代測定と地形研究     | 地形研究に大きな進歩をもたらしたテフラ研究や年代測定法の概説の概要                                |
| 第14回 | 秋学期授業の振り返り        | 秋学期授業の振り返りとして、目的到達の確認として試験等を行う                                   |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに授業で使用したプレゼンや解説をアップするので、予習・復習に利用してほしい。日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

プリントもしくはスライドPDFを配布する。

#### 【参考書】

『変動地形を探るⅠ・Ⅱ』太田陽子、古今書院、1999年  
 『環太平洋の自然史』米倉伸之、古今書院、2000年  
 『地震と断層』島崎邦彦/松田時彦、東大出版会、1994年  
 『写真でみる火山の自然史』町田洋/白尾元理、東大出版会、1998年

『プレート収束帯のテクトニクス学』木村学、東大出版会、2002年

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験+小テスト(90～%)、平常点(～10%)から総合的に判断する。全回出席を原則とする。公欠等で鶴やむを得ず欠席するばあいでも開講回数の2/3以上の出席しないと評価の対象としない。14回授業ならば10回以上の出席が必須。第1回授業からカウントする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

シラバス通りの授業内容を完遂できるよう時間配分を熟慮する。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然地理学、(変動)地形学、第四紀学

<研究テーマ>

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

<主要研究業績>

前奈英明ほか(2005)：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.

Maemoku, H. et.al.(1997)：Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al.(2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97- 106, AGU, Washington, D. C.

#### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge on fundamental geomorphology II.

At the end of the course, students are expected to imagine dynamic landform processes and to recognize geological timescale.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 生物・土壌地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420 | 曜日・時限：火1/Tue.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの寒帯から熱帯、乾燥帯など様々な地域の動植物を取り上げ、その分布や生態を気候や地質、地形、人間生活などとの関係から考える。

世界中には植物が見られない地域はほとんどなく、どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる。ただ見ていけば“植物”で終わるが、それぞれ地域ごとに特徴が異なる。こうしたことから、たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に、どんな植物が分布するのか、なぜ、そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる。このように植物から地域を理解する考え方を学ぶのがこの授業の目的である。

## 【到達目標】

- (1) 世界には様々な動植物が分布することを理解すること。
- (2) その地域の気候、地質、地形などから動植物の分布を考えられるようになること、あるいはその分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを出題し、授業終了までに解答する方法で行う。野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地での成因についてディスカッションをしてもらう。

授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。オンライン授業は、ミーティングアプリ Zoom を用い、実験実習の方法も変更する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                 | 内容                                         |
|------|-------------------------------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                               | 動植物の地理学とはどのような分野なのか。                       |
| 第2回  | 動植物の分布と生態                           | 動植物の分布に影響を及ぼす要因について解説する。                   |
| 第3回  | アジアの植生① 極東ロシアと北海道との関係               | 北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。           |
| 第4回  | アジアの植生② 朝鮮半島と本州との関係                 | 本州にみられる冷温帯林の特徴。世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。  |
| 第5回  | 野外実習 (変更あり)                         | 東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する。                  |
| 第6回  | アジアの植生③ 屋久島                         | 縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する。         |
| 第7回  | アジアの植生④ 沖縄島、台湾、香港                   | 暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。      |
| 第8回  | アジアの植生⑤ 東南アジア                       | 熱帯林の種類と特徴。フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。     |
| 第9回  | ヨーロッパの植生① 北欧フィンランドとスコットランド          | 北欧の亜寒帯針葉樹林を事例のもとに、北東アジアの植生分布との関係を解説する。     |
| 第10回 | ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化との関係           | イングリッシュガーデンを事例に、ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。 |
| 第11回 | ヨーロッパの植生③ 地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する。 |                                            |
| 第12回 | ヨーロッパの植生④ スベイン領カナリア諸島               | 大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に、海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する。 |
| 第13回 | オセアニアの植生 ニュージーランド                   | 脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題。温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。 |
| 第14回 | まとめ                                 | 重要ポイントを再確認。                                |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、授業の最後に次回内容の予告をする。次回、どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと。準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

使用せず。毎回の授業で必要な資料を配布する。

## 【参考書】

地図帳があると役立つ。参考文献や資料は授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験100点満点 +  $a$  (小レポートなど、50点満点) で評価する。小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して学習支援システムから提出するという方法で行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

## 【その他の重要事項】

オフシアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。野外実習は5月中に行う (変更あり)。

## 【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of vegetation geography. Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant region from the text and map book. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

Grading Criteria / Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川 滋之

授業コード：A3421 | 曜日・時限：火1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は土壌地理学に関する内容を扱う。前半は土壌の性質と構造、生成という土壌の基礎を学び、世界中にみられる土壌の分布と成因について考える。後半は、野菜種子との関係、有機農業、アジアの伝統農業など、比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ。土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる。しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある。授業を通して、人間が生活する上で欠かせないものだとすることを理解してもらおうのが目的である。

### 【到達目標】

- (1) 土壌の必要性について考えられるようになる
- (2) 土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- (3) 何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実験実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを出题し、授業終了までに解答する方法で行う。実験実習は、講義で紹介した土壌を実際に観察し、その成因や環境についてディスカッションをしてもらう。

授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。対面での授業が難しい場合は、ミーティングアプリZoomによるオンラインでの講義を行い、実験実習の方法も変更する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                  |
|------|----------------|-------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス          | 土壌地理学とはどのような分野なのか、講義の内容と目標を紹介。      |
| 第2回  | 土壌とは何か①        | 土壌の性質と構造。                           |
| 第3回  | 土壌とは何か②        | 土壌の生成。土壌はどのように生まれるのか。               |
| 第4回  | 土壌とは何か③（実験実習1） | 室内で土壌鉱物を観察。                         |
| 第5回  | 土壌の分布①         | 世界にみられる土壌分布とその分類方法とは。               |
| 第6回  | 土壌の分布②         | 日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布。            |
| 第7回  | 土壌の分布③         | 日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布。                |
| 第8回  | 土壌と農業①         | 農地の土壌環境、土壌の状態を診断する方法とは。             |
| 第9回  | 土壌と農業②         | 土壌と野菜種子との関係。                        |
| 第10回 | 土壌と農業③         | 土壌にやさしい有機農業とは。                      |
| 第11回 | 土壌と農業④（実験実習2）  | 様々な環境下の土壌を診断。                       |
| 第12回 | 野菜の地理学①        | アジアの伝統農業とは、東南アジア山岳少数民族の事例から解説。      |
| 第13回 | 野菜の地理学②        | 野菜は、どのように生まれて、どこから来たのか、野菜の伝播について解説。 |
| 第14回 | まとめ            | 重要ポイントを再確認。                         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回の内容について予告を行う。事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。準備学習・復習時間は、4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。

### 【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験100点満点 + a（小レポート等、50点満点）で評価する。

小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に学習支援システムで提出するという方法で行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

### 【その他の重要事項】

オフシアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

実験実習：10月と11月に地理学実験室あるいは野外で行うことを予定している。

### 【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of soil geography.

Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant word and region from the text and map book. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

**気候・気象学及び実験 I**

丸本 美紀

授業コード：A3422 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

**【到達目標】**

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートについては、コメントを付けて返却します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ         | 内容                              |
|------|-------------|---------------------------------|
| 第1回  | 気候学とは？      | 気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）      |
| 第2回  | 気候の表現方法     | 気候要素と気候因子について                   |
| 第3回  | 気温          | 気温の日変化と地面の熱収支                   |
| 第4回  | 気圧          | 気圧とは何か                          |
| 第5回  | 風           | 風が吹く仕組み                         |
| 第6回  | 雲と降水        | 雨が降る仕組み                         |
| 第7回  | 日本の気候の特徴    | 4つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布 |
| 第8回  | 日本の気候区分と気候誌 | 経験的気候区分と成因的気候区分                 |
| 第9回  | 沿岸の気候       | 沿岸と内陸、海陸風                       |
| 第10回 | 都市気候        | ヒートアイランド現象                      |
| 第11回 | 盆地の気候       | 盆地の気温と風                         |
| 第12回 | 山岳の気候       | 山岳の気温と斜面温暖帯                     |
| 第13回 | 局地風と気候景観    | 気象災害を引き起こす強風とフェーン現象             |
| 第14回 | まとめ         | 春学期のまとめと筆記試験                    |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

**【参考書】**

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第4版』。古今書院, 144p. ￥2,600+税  
 今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる! 世界の気候と天気のおもしろみ』。産業編集センター, 208p. ￥1,600+税  
 稲津 将（2022）：『気象学の教科書』。成山堂書店, 203p. ￥2,200+税

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト・筆記試験：70%、課題：30%

**【学生の意見等からの気づき】**

講義資料は学習支援システムに掲載する。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義資料を学習支援システムで配布するため、PCもしくはタブレットを用意することが望ましい。

**【その他の重要事項】**

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。なお、本科目「II」の受講にはその内容理解の点から、この「I」の履修を望む。なお、実験等があるため履修上限人数は48名とし、初回授業で選抜します。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

The goals of this course are to understand atmospheric phenomena from a climatological perspective.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 気候・気象学及び実験Ⅱ

丸本 美紀

授業コード：A3423 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

### 【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートは、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOMによるオンライン授業になります。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                        | 内容                      |
|------|----------------------------|-------------------------|
| 第1回  | 気候を身近にとらえる<br>(導入)         | 本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。 |
| 第2回  | 大気大循環                      | 大気大循環とは何か               |
| 第3回  | 世界の気圧分布、地上風系、海流            | 気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環      |
| 第4回  | 世界の気温分布                    | 地球の放射収支から考える            |
| 第5回  | 世界の降水量分布                   | 世界の水収支                  |
| 第6回  | 世界の気候区分                    | 様々な気候区分                 |
| 第7回  | 世界の気候景観                    | 気候帯ごとの気候景観              |
| 第8回  | 異常気象                       | エルニーニョとラニーニャを事例として      |
| 第9回  | 地球温暖化（1）                   | 地球温暖化の現状と今後             |
| 第10回 | 地球温暖化（2）                   | 地球温暖化による影響              |
| 第11回 | 酸性雨                        | 大気汚染                    |
| 第12回 | 砂漠化                        | 砂漠化の実態                  |
| 第13回 | 気候変動・古気候                   | 第四紀の気候変化と歴史時代以降の気候変化    |
| 第14回 | 気候学を学び続ける<br>秋学期のまとめ（筆記試験） | どのように研究へと発展させていくか       |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第4版』。古今書院、144p。 ¥2,600 + 税

今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる！世界の気候と天気のおもしろみ』。産業編集センター、208p。 ¥1,600 + 税

稲津 将（2022）：『気象学の教科書』。成山堂書店、203p。 ¥2,200 + 税

### 【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70%、課題：30%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PCもしくはタブレットを用意することが望ましい。

### 【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。本科目「I」を履修していることが望ましい。履修選抜は本科目「I」の初回授業（4月1回目）で実施する。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

The goals of this course are to understand today's issues such as global warming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

**海洋・陸水学及び実験 I**

飯泉 佳子

授業コード：A3424 | 曜日・時限：月3/Mon.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識と調査・解析方法を学習する。

**【到達目標】**

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎的な手法を修得する。また、水試料の分析や結果を主題図として表現する方法を学び、具体的な水問題に取り組む基本的なスキルを習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

水圏、大気圏、岩石圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水を対象に、水量、水質、水循環・水収支について概説する。視覚教材を利用し、簡単な実験や実習などを適宜交えて講義する。復習課題やレポート等については、授業内でフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ        | 内容                       |
|------|------------|--------------------------|
| 第1回  | 海洋・陸水学の基礎  | 概要と授業計画<br>降水、浸透、流出、蒸発散  |
| 第2回  | 海洋の循環      | 地球の熱収支、海洋・大気循環、海水の水質     |
| 第3回  | 河川の水収支     | 土地利用、流域環境                |
| 第4回  | 降雨-流出過程    | ハイドログラフ、水害               |
| 第5回  | 水系の規則性と河川水 | ホートンの法則、雪氷、人間活動          |
| 第6回  | 湖沼の特徴と成因   | 湖・沼の定義、形態                |
| 第7回  | 湖沼の水収支     | 水位変動                     |
| 第8回  | 湖沼の水温構造    | 躍層、温帯湖・熱帯湖               |
| 第9回  | 地下水のあり方    | 帯水層、不圧・被圧地下水、地下水流動、湧水、宙水 |
| 第10回 | 地下水の流れ     | 地下水面図、ダルシー則、透水係数、間隙率     |
| 第11回 | 地下水と地表水の交流 | 失水河川、得水河川                |
| 第12回 | 調査計画の立て方   | 水質調査、流量調査                |
| 第13回 | 調査結果の整理と解析 | ヘキサダイアグラム、トリリニアダイアグラム    |
| 第14回 | 総括         | 春学期授業のまとめと筆記試験           |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

学習支援システムに講義資料をアップするので、予習・復習に活用してほしい。インターネットや新聞を利用した水に関する情報の収集、水に関する研究会やシンポジウムへの参加を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

特に指定しない(プリントまたはスライドのPDFファイルを配布する)。

**【参考書】**

・地学団体研究会編(1995)：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会。  
・新井 正(1994)：『水環境調査の基礎』、古今書院。  
・森和紀・佐藤芳徳(2015)『図説 日本の湖 第1版』、朝倉書店。  
・日本地下水学会・井田徹治(2009)：『見えない巨大水脈—地下水の科学—(BLUE BACKS) 第1版』、講談社。  
・林健太郎ほか編(2021)：『図説 窒素と環境の科学』朝倉書店。  
その他、授業内で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

筆記試験：70%、課題・レポート：30%

**【学生の意見等からの気づき】**

資料は学習支援システムに掲載する。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義資料を学習支援システムで配布する。情報機器(パソコン)、白衣を使用する可能性がある。

**【その他の重要事項】**

「水圏」に関する内容を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識の修得に寄与する。あわせて海洋・陸水学および実験Ⅱ、自然地理学演習(2)、地学実験、地理情報システム(GIS)などを履修することが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は48名とし、希望者がこれを上回る場合は初回授業で選抜します。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>水文学・陸水学・自然地理学

<研究テーマ>

- 1) 水循環と物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境の変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

**【Outline (in English)】**

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. Acquire basic knowledge of ocean / limnology, hydrography, and hydrology, and at the same time acquire basic abilities for searching, organizing, and analyzing water environment information. In addition, you will learn how to sampling to analysis of water, analyze the results, and then express it as a thematic figure, and acquire the basic ability to tackle specific water environment problems. Collect and organize information on the overall water environment. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Comprehensively evaluate attendance, assignments, and test results. In principle, the points will be assigned 70% for examination, 30% for assignments and reports.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 海洋・陸水学及び実験Ⅱ

飯泉 佳子

授業コード：A3425 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、国内外の具体的な課題を学習し系統的な知識と応用力を習得する。

### 【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

水圏、大気圏、岩石圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水の循環過程における河川、湖沼、地下水などのあり方を、人間活動との関係を中心に、水収支、水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。視覚教材を利用し、簡単な実験や実習などを適宜交えて講義する。復習課題やレポート等については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                          |
|------|---------------|-----------------------------|
| 第1回  | 海洋・陸水学の理論と応用  | 概要と授業計画<br>グローバルな水循環、世界の水資源 |
| 第2回  | 土壌環境と水        | 土壌の種類、鉱物の風化                 |
| 第3回  | 古陸水学          | 古環境の復元、堆積速度の指標              |
| 第4回  | 火山地域の地下水      | 温泉、地下水資源                    |
| 第5回  | 地下水の年齢と流動     | 滞留時間、涵養年代、トレーサー             |
| 第6回  | 地下水の塩水化と地下水開発 | 地下ダム、淡水レンズ                  |
| 第7回  | 地下水汚染と地盤沈下    | 人間活動、土壌汚染                   |
| 第8回  | 越境大気汚染と水環境    | 酸性雨                         |
| 第9回  | 気候変動と自然災害     | 災害、防災・減災                    |
| 第10回 | 生態系サービス       | 生物多様性、グリーンインフラ              |
| 第11回 | 化学物質による汚染     | マイクロプラスチック                  |
| 第12回 | 陸水の調査法        | 水環境調査                       |
| 第13回 | 調査データの表現と解析法  | GISによる分布図、解析と考察             |
| 第14回 | 総括            | 秋学期授業のまとめと筆記試験              |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学習支援システムに講義資料をアップするので、予習・復習に活用してほしい。インターネットや新聞を利用した水に関する情報の収集、水に関連する研究会やシンポジウムへの参加を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない (プリントまたはスライドのPDFファイルを配布する)。

【参考書】

- ・地学団体研究会編 (1995) : 新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』, 東海大学出版会。
  - ・新井 正 (1994) : 『水環境調査の基礎』, 古今書院。
  - ・森和紀・佐藤芳徳 (2015) 『図説 日本の湖 第1版』, 朝倉書店。
  - ・日本地下水学会・井田徹治 (2009) : 『見えない巨大水脈—地下水の科学— (BLUE BACKS) 第1版』, 講談社。
  - ・林健太郎ほか編 (2021) : 『図説 窒素と環境の科学』朝倉書店。
- その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70%、課題・レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布する。情報機器 (パソコン)、白衣を使用する場合があります。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する内容を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識の修得に寄与する。あわせて海洋・陸水学および実験Ⅰ、自然地理学演習 (2)、地学実験、地理情報システム (GIS) などを履修することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>水文学・陸水学・自然地理学

<研究テーマ>

- 1) 水循環と物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境の変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic and widely knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. Acquire basic and widely knowledge of ocean / limnology, hydrography, and hydrology, and at the same time acquire basic and widely abilities for searching, organizing, and analyzing water environment information. In addition, you will learn how to sampling to analysis of water, analyze the results, and then express it as a thematic figure, and acquire the basic and widely ability to tackle specific water environment problems. Collect and organize information on the overall water environment. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Comprehensively evaluate attendance, assignments, and test results. In principle, the points will be assigned 70% for examination, 30% for assignments and reports.

GEO400BF (地理学 / Geography 400)

## 自然地理学演習 (1)

丸本 美紀

授業コード：A3434 | 曜日・時限：火4/Tue.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習は自然地理学のうち気候学、気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。3年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。4年生は卒業論文の作成を目標とする。

### 【到達目標】

本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場にあつて、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにあります。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

3年生を中心に運営していきます。4年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取り組んでいくとともに、3年生にアドバイスをすることで、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととします。具体的な運営方法は、第1回目のゼミで話し合います。教員は、各発表に対して講評を行うとともに、オフィス・アワー等に指導を行っていきます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                       |
|------|-------------|--------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 1年間のゼミ運営について説明・決定        |
| 第2回  | 卒論構想発表      | 4年生の卒論構想発表               |
| 第3回  | 卒論構想発表      | 4年生の卒論構想発表               |
| 第4回  | グループワーク     | ゼミ合宿で訪問する地域を対象とした研究を検討   |
| 第5回  | 学生論文紹介      | 3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。 |
| 第6回  | 学生論文紹介      | 3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。 |
| 第7回  | 学生論文紹介      | 3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。 |
| 第8回  | 学生論文紹介      | 3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。 |
| 第9回  | 学生論文紹介      | 3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。 |
| 第10回 | グループ研究テーマ発表 | グループごとに、研究テーマを発表         |
| 第11回 | 卒論中間発表      | 4年生の卒論中間発表①              |
| 第12回 | 卒論中間発表      | 4年生の卒論中間発表①              |
| 第13回 | 卒論中間発表      | 4年生の卒論中間発表①              |
| 第14回 | 卒論中間発表      | 4年生の卒論中間発表①              |
| 第15回 | 卒論中間発表      | 4年生の卒論中間発表②              |
| 第16回 | 卒論中間発表      | 4年生の卒論中間発表②              |
| 第17回 | 卒論中間発表      | 4年生の卒論中間発表②              |
| 第18回 | 卒論中間発表      | 4年生の卒論中間発表②              |
| 第19回 | グループ発表      | グループごとに中間発表              |
| 第20回 | 卒論構想発表      | 3年生の卒論構想発表               |
| 第21回 | 卒論構想発表      | 3年生の卒論構想発表               |
| 第22回 | 卒論構想発表      | 3年生の卒論構想発表               |
| 第23回 | 卒論構想発表      | 3年生の卒論構想発表               |
| 第24回 | グループ発表      | グループごとに研究内容を発表           |
| 第25回 | 卒論最終発表      | 4年生の卒論発表                 |
| 第26回 | 卒論最終発表      | 4年生の卒論発表                 |
| 第27回 | 卒論最終発表      | 4年生の卒論発表                 |
| 第28回 | まとめ         | 今年度のまとめと翌年度に向けて          |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、2週間前までに論文を決定・提出すること。発表者は、必ずレジュメ (A3もしくはA4 1枚) を人数分準備し、パワーポイントを用いて発表すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じてその都度、紹介する。

### 【参考書】

泉岳樹・松山洋 (2017) : 『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』古今書院, 120 p.

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミという科目の性格上、出席状況と本演習の場へ臨む「姿勢・取り組み方」(30%)、「討論への参加と応答」(30%)、「発表内容」(40%)などを重視します。基本的に全回出席が原則です。休む時は理由の連絡をすること。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やします。

### 【Outline (in English)】

Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment. Third graders aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work. The 4th graders aim to create graduation theses.

The aim and positioning of this seminar is to enhance each student's ability to think and be creative through the exchange of opinions and presentations in a small group, unlike a mere lecture course in the learning environment of a university. In addition, the ultimate goal is to complete an original "graduation thesis" and obtain a bachelor's degree. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Each student or group is expected to prepare for the exercises in each class. Students are expected to decide and submit their papers at least two weeks prior to the presentation/introduction.

Final grade will be calculated according to the following process presentation(50%), and Discussion(50%).



GEO400BF (地理学 / Geography 400)

## 自然地理学演習 (2)

小川 滋之

授業コード：A3435 | 曜日・時限：火2/Tue.2

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習は、自然の植生や人間による植物利用、および人類文明環境史など、地理学が関係する周辺諸科学の領域について自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

### 【到達目標】

地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゼミは、

自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを計画に組み込むことによって、緊張感をもって卒論執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第1回と第15回のガイダンスで紹介し、話し合う予定である。プレゼンテーションは、レジュメを用いた発表とプレゼンソフトを用いた発表で行う。スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容                                        |
|------|----------|-------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス    | 自己紹介。アカデミックプレゼンテーションの方法について解説する。          |
| 第2回  | 卒論構想1    | 4年生が卒論の構想についてA4用紙4枚程度にまとめて発表する。           |
| 第3回  | 卒論構想2    | 4年生が卒論の構想についてA4用紙4枚程度にまとめて発表する。           |
| 第4回  | 卒論構想3    | 4年生が卒論の構想についてA4用紙4枚程度にまとめて発表する。           |
| 第5回  | 卒論構想4    | 4年生が卒論の構想についてA4用紙4枚程度にまとめて発表する。           |
| 第6回  | 論文紹介1    | 3年生が自分が興味あるテーマを選び、論文を読みA4用紙4枚程度にまとめて発表する。 |
| 第7回  | 論文紹介2    | 3年生が自分が興味あるテーマを選び、論文を読みA4用紙4枚程度にまとめて発表する。 |
| 第8回  | 論文紹介3    | 3年生が自分が興味あるテーマを選び、論文を読みA4用紙4枚程度にまとめて発表する。 |
| 第9回  | 論文紹介4    | 3年生が自分が興味あるテーマを選び、論文を読みA4用紙4枚程度にまとめて発表する。 |
| 第10回 | 卒論構想1    | 4年生が卒論に関する現地調査で取得したデータを紹介する。              |
| 第11回 | 卒論構想2    | 4年生が卒論に関する現地調査で取得したデータを紹介する。              |
| 第12回 | 卒論構想3    | 4年生が卒論に関する現地調査で取得したデータを紹介する。              |
| 第13回 | 現地調査の方法1 | 現地調査の方法について学ぶ。3年生向け。(合宿形式を予定)             |
| 第14回 | 現地調査の方法2 | 現地調査の方法について学ぶ。3年生向け。(合宿形式を予定)             |
| 第15回 | ガイダンス    | 秋学期のゼミ運営について議論・説明する。                      |
| 第16回 | プレ卒論構想1  | 3年生が研究構想について発表する。                         |
| 第17回 | プレ卒論構想2  | 3年生が研究構想について発表する。                         |
| 第18回 | プレ卒論構想3  | 3年生が研究構想について発表する。                         |
| 第19回 | プレ卒論構想4  | 3年生が研究構想について発表する。                         |
| 第20回 | 卒論発表1    | 4年生が卒業論文の内容について発表する。                      |
| 第21回 | 卒論発表2    | 4年生が卒業論文の内容について発表する。                      |
| 第22回 | 卒論発表3    | 4年生が卒業論文の内容について発表する。                      |
| 第23回 | 卒論発表4    | 4年生が卒業論文の内容について発表する。                      |

第24回 プレ卒論構想1

3年生が現地調査を行い、取得したデータについて紹介する。

第25回 プレ卒論構想2

3年生が現地調査を行い、取得したデータについて紹介する。

第26回 プレ卒論構想3

3年生が現地調査を行い、取得したデータについて紹介する。

第27回 プレ卒論構想4

3年生が現地調査を行い、取得したデータについて紹介する。

第28回 卒論発表練習

4年生が卒論発表の練習を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習は、人前でプレゼンテーションを行うこと、他人のプレゼンテーションを聞くことが基本となる。人に伝えるための工夫を行い、人の考えを理解するための教養を身に付ける。そのために必要な準備学習・復習時間は、各2時間以上である。

### 【テキスト (教科書)】

使用しない。演習に必要な資料は、前日までに学習支援システムでアップする。各自、持参すること。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

少人数のゼミナールのため、すべての出席を原則とする (平常点100%)。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。1/3以上の欠席の場合は成績評価の対象外となる。

### 【学生の意見等からの気づき】

質問や意見、相談については時間の許す限り応じる。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プロジェクター

### 【その他の重要事項】

受講に際しては、「生物・土壌地理学及び実験Ⅰ」や「生物・土壌地理学及び実験Ⅱ」など自然地理学関連の科目を履修していることが望ましい。また、就職活動や大学院への進学を目指す学生など進路相談にも応じます。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然地理学、植生地理学、植物生態学、民族植物学、土壌地理学、地生生態学 <主な研究テーマ>

地すべり地形などの地表面の攪乱と植生分布に関する研究を行っており、中でもカバノキ林の立地条件と更新様式に関する研究を主としている。近年では、地域資源活用に関する研究として、在来作物の探索や保全に関する研究もテーマとしている。

<近年の主な研究業績>

小川滋之ほか (2023) 本州中部丘陵域におけるハンゴンソウの分布確認とその生育環境。埼玉県立自然の博物館研究報告 17, 81-84.

小川滋之 (2022) 上武山地の急峻な尾根にみられるオノオレカンバ林の立地条件と更新様式。植生学会誌 39, 77-84.

小川滋之 (2021) 本州中部、山梨県乙女高原にみられる発達したミズナラヤエガワカンバ林のサイズ構造。中部森林研究 69, 89-92.

小川滋之 (2020) 種苗交換会の可能性と課題：埼玉県日高市の農家ネットワーク「たねのわ」を事例に。E-Journal GEO 15, 165-172.

小川滋之 (2020) 西上州、下仁田町周辺にみられる在来キュウリの産地分布と形態的特徴。下仁田町自然史館研究報告 5, 35-40.

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire ability to make research work on Geography. The goals of this course are to be able to read academic paper, to discuss on them with other students, and to complete graduation thesis. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant documents from online study site. Your required study time is at least two hour for each class meeting. Final grade will be calculated according to the in-class contribution(100%)

GEO400BF (地理学 / Geography 400)

## 自然地理学演習 (3)

前空 英明

授業コード：A3436 | 曜日・時限：火4/Tue.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

## 【到達目標】

自然地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ゼミは3年生を中心に運営して行く予定である。4年生は自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを授業計画に組み込むことによって、緊張感をもって卒業論文執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第1回目のゼミで話しあう予定。教室での発表 (プレゼンソフト使用が原則)、議論以外に、スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。課題 (質問事項) 等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容                             |
|------|----------|--------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス    | 1年間のゼミ運営について議論・説明する            |
| 第2回  | 卒論構想発表1  | 4年生が春休みにまとめた卒論の枠組み (章構成) を発表する |
| 第3回  | 卒論構想発表2  | 4年生が春休みにまとめた卒論の枠組み (章構成) を発表する |
| 第4回  | 学生文献発表1  | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する。   |
| 第5回  | 学生文献発表2  | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第6回  | 学生文献発表3  | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第7回  | 学生文献発表4  | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第8回  | 学生文献発表5  | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第9回  | 学生文献発表6  | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第10回 | 学生文献発表7  | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第11回 | 学生文献発表8  | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第12回 | 学生文献発表9  | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第13回 | 卒論中間発表1  | 4年生の卒論中間発表                     |
| 第14回 | 卒論中間発表2  | 4年生の卒論中間発表                     |
| 第15回 | ガイダンス    | 秋学期のゼミ運営について議論・説明する。           |
| 第16回 | 学生文献発表10 | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第17回 | 学生文献発表11 | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第18回 | 学生文献発表12 | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第19回 | 学生文献発表13 | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第20回 | 卒論中間発表3  | 4年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。        |
| 第21回 | 卒論中間発表4  | 4年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。        |
| 第22回 | 学生文献発表14 | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |
| 第23回 | 学生文献発表15 | 3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する    |

第24回 学生文献発表16

3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する

第25回 学生文献発表17

3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する

第26回 学生文献発表18

3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する

第27回 3年生卒論構想発表1

卒論に向けたプレゼンテーション (第一次案)

第28回 3年生卒論構想発表2

卒論に向けたプレゼンテーション (第一次案)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。授業支援システムに授業資料をアップするので、各自授業に持参してほしい。

## 【参考書】

授業で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点100%

発表、議論への積極的参加。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。理由にかかわらず1/3以上欠席の場合評価しない。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン (もしあれば)、powerpoint

## 【担当教員の専門分野等】

&lt;専門領域&gt;

自然地理学、(変動) 地形学、第四紀学

&lt;研究テーマ&gt;

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

&lt;主要研究業績&gt;

前空英明ほか (2005) : 沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究. 地理科学, vol.60-3, pp.136-142.  
Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97- 106, AGU, Washington, D. C.

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire ability to make research work on Physical Geography.

The goals of this course are to be able to read academic paper, to discuss on them with other students, and to complete graduation thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant documents from online study site. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the in-class contribution(100%).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

## 人文地理学演習 (1)

佐々木 達

授業コード：A3437 | 曜日・時限：木4/Thu.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習は、人文地理学の中でも経済地理・農業地理・地域経済の卒業論文を作成するために、当該分野の研究上の関心や学術論文作成において必要とされるスキルを学びます。3年生は卒業論文のテーマや問題意識の醸成につとめ、4年生は卒業論文の作成と報告に取り組みます。

### 【到達目標】

- (1) 既存研究や該当する研究の位置づけを踏まえて、卒業論文のテーマを自ら設定することができる。
- (2) 研究上必要となる資料や統計、データを加工し、分析・考察できる。
- (3) 論理構成を明確にした卒業論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

3年生は卒業論文のテーマ設定や構想に向けて、テキストを輪読し、各研究領域に習熟して問題意識を明確にしていきます。また、グループワークによるゼミ論文の作成に取り組んでもらいます。4年生は卒業論文の進捗状況を報告し、完成に向けて論理構成を固めていきます。

授業形態は演習形式ですので、ゼミ生の発表が中心となります。また、授業以外でも卒業論文の個別相談や学習方法について相談を受けます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容                                         |
|------|---------------------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                     | 自己紹介、報告順番の決定など                             |
| 第2回  | 地理学論文の読み方                 | 研究テーマ、研究目的、文献収集の方法                         |
| 第3回  | 地理学論文の作成に向けて              | 調査方法、図表の作成方法                               |
| 第4回  | 4年生の卒業論文テーマ発表①            | 研究テーマ、問題意識、研究目的と方法、章構成について発表する。            |
| 第5回  | 4年生の卒業論文テーマ発表②            | 研究テーマ、問題意識、研究目的と方法、章構成について発表する。            |
| 第6回  | 3年生によるテキストの輪読①            | テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。                    |
| 第7回  | 3年生によるテキストの輪読②            | テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。                    |
| 第8回  | 3年生によるテキストの輪読③            | テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。                    |
| 第9回  | 3年生によるテキストの輪読④            | テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。                    |
| 第10回 | 3年生によるテキストの輪読⑤            | テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。                    |
| 第11回 | 4年生による卒業論文の進捗状況の報告①       | 卒業論文で用いる資料や統計で一つの報告と夏季休暇中の調査計画・方法について報告する。 |
| 第12回 | 4年生による卒業論文の進捗状況の報告②       | 卒業論文で用いる資料や統計で一つの報告と夏季休暇中の調査計画・方法について報告する。 |
| 第13回 | 4年生による卒業論文の進捗状況の報告③       | 卒業論文で用いる資料や統計で一つの報告と夏季休暇中の調査計画・方法について報告する。 |
| 第14回 | 3年生によるゼミ論文の研究テーマの報告、概要の説明 | 3年生が各自役割分担し、任意の地域の統計資料を用いたゼミ論文のテーマを報告します。  |
| 第15回 | 夏季休暇中の成果報告                | 4年生および3年生による報告                             |
| 第16回 | 4年生による卒業論文の中間報告①          | 夏季休暇中の調査の結果報告、データの分析                       |
| 第17回 | 4年生による卒業論文の中間報告②          | 夏季休暇中の調査の結果報告、データの分析                       |
| 第18回 | 4年生による卒業論文の中間報告③          | 夏季休暇中の調査の結果報告、データの分析                       |
| 第19回 | 3年生による学術論文の輪読①            | 各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。           |
| 第20回 | 3年生による学術論文の輪読②            | 各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。           |
| 第21回 | 3年生による学術論文の輪読③            | 各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。           |
| 第22回 | 3年生による学術論文の輪読④            | 各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。           |

|      |                  |                                  |
|------|------------------|----------------------------------|
| 第23回 | 3年生による学術論文の輪読⑤   | 各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。 |
| 第24回 | 4年生による卒業論文の最終報告① | 卒業論文の論理構成、結論の見通しを立てる。            |
| 第25回 | 4年生による卒業論文の最終報告② | 卒業論文の論理構成、結論の見通しを立てる。            |
| 第26回 | 4年生による卒業論文の最終報告③ | 卒業論文の論理構成、結論の見通しを立てる。            |
| 第27回 | 3年生による卒業論文テーマ発表① | 卒業論文作成にむけて先行研究の整理と研究テーマの発表。      |
| 第28回 | 3年生による卒業論文テーマ発表② | 卒業論文作成にむけて先行研究の整理と研究テーマの発表。      |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

4年生は、卒業論文にむけて、ゼミ以外でも自分の研究テーマと内容を深めるために多くの時間を割いて、文献購読、資料収集・整理に取り組むこと。3年生はゼミ論文の作成にあたって、授業時間外の作業が多くなります。文献調査やデータ収集、レジュメの作成などを授業外で行う時間が多くなります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

初回時に、こちらから提示します。

### 【参考書】

演習中に適宜、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加意欲と態度による参加状況(50%)、発表内容(50%)により評価します。出席が最も重視されます。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度もよろしくお願いします。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合があります。

### 【その他の重要事項】

卒業論文の進捗状況について、時間外に面談を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The goal of this seminar is to write a senior thesis of academic and practical research.

### 【Learning Objectives】

1. To set the theme of the senior thesis.
2. To process, analyze, and consider the data required for research.
3. To create a senior thesis with a clear logical structure.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation and Discussion : 50%, in class contribution: 50%

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

## 人文地理学演習 (2)

増淵 敏之

授業コード：A3438 | 曜日・時限：月2/Mon.2

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では人文地理学の中のメディア・コンテンツを活用した地域再生を軸にした観光地理学、メディア・コンテンツを軸にした文化地理学を中心に卒業論文作成を目指していきます。文献調査、フィールドワークの手法など卒業論文作成のためのスキルを議論を通じて学んでいきます。3年生は卒業論文のテーマを明確にし、問題意識を高めていき、4年生は卒業論文の作成に取り組んでいきます。授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。成績は平常点 (50%) と発表内容 (50%) により評価します。

## 【到達目標】

- ・研究テーマを明確に設定し、リサーチクエスチョン構築、仮説の設定ができる。
- ・研究遂行の上で必要な資料、統計分析、データ化、フィールドワークの手順を把握する。
- ・倫理的で、独自性のある卒業論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

3年生は卒業論文のテーマを明確にするため、レクチャーを基にした議論、先行研究サーベイ、グループワークなどを行っていきます。4年生は卒業論文の進捗報告、議論への参加を行っていきます。授業は演習形式、ゼミ生の発表、議論、フィールドワークにより進めていきます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                             |
|------|-------------------|--------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | 教員自己紹介、学生自己紹介、発表順の確定           |
| 第2回  | レクチャー             | 学術論文、文献のサーベイの手法を学ぶ             |
| 第3回  | レクチャー             | 教員の研究を基に調査方法について学ぶ。            |
| 第4回  | 4年生の卒業論文のテーマ発表①   | 研究テーマ、リサーチクエスチョン、仮説構築を交えた形での発表 |
| 第5回  | 4年生の卒業論文のテーマ発表②   | 研究テーマ、リサーチクエスチョン、仮説構築を交えた形での発表 |
| 第6回  | 3年生の輪読発表①         | テキストの要約を発表、議論                  |
| 第7回  | 3年生の輪読発表②         | テキストの要約を発表議論                   |
| 第8回  | 3年生の輪読発表③         | テキストの要約を発表、議論                  |
| 第9回  | 3年生の輪読発表④         | テキストの要約を発表、議論                  |
| 第10回 | 3年生の輪読発表⑤         | テキストの要約を発表、議論                  |
| 第11回 | 4年生による卒業論文進捗状況発表① | 卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画           |
| 第12回 | 4年生による卒業論文進捗状況発表② | 卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画           |
| 第13回 | 4年生による卒業論文進捗状況発表③ | 卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画           |
| 第14回 | レクチャー             | 教員の研究を基に調査方法について学ぶ。            |
| 第15回 | ガイダンス             | 夏季休暇中の報告                       |
| 第16回 | 4年生による卒業論文中間発表①   | 卒業論文の進捗状況の確認。                  |
| 第17回 | 4年生による卒業論文中間発表②   | 卒業論文の進捗状況の確認。                  |
| 第18回 | 4年生による卒業論文中間発表③   | 卒業論文の進捗状況の確認。                  |
| 第19回 | テーマを設定し、3.4年で議論①  | 議論を行う。                         |
| 第20回 | テーマを設定し、3.4年で議論②  | 議論を行う。                         |
| 第21回 | テーマを設定し、3.4年で議論③  | 議論を行う。                         |
| 第22回 | レクチャー             | 教員の研究を基に調査方法について学ぶ。            |
| 第23回 | 4年生による卒業論文最終報告①   | 卒業論文の確認                        |
| 第24回 | 4年生による卒業論文最終報告②   | 卒業論文の確認                        |
| 第25回 | 4年生による卒業論文最終報告③   | 卒業論文の確認                        |

第26回 3年生による卒業論文構 4年次での卒業論文作成に向けての構

想①

第27回 3年生による卒業論文構 4年次での卒業論文作成に向けての構

想②

第28回 まとめ 振り返り

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。絶えず卒業論文作成を意識して、必要な文献購読、データ作成、発表のためのレジュメ作成などの授業外の学習時間を確保してもらいたいです。本授業の復習、予習等の時間は各2時間程度を希望します。

## 【テキスト (教科書)】

適宜、紹介します。

## 【参考書】

適宜、紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と発表内容 (50%) により評価します。基本的にはレポート、小テスト等は課しません。

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

hoppiiを利用します。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワー月曜日16-18時(新一口坂、5 F15)です。学部のゼミは初めてなので、ご迷惑をおかけすることも多々ありますが、ご容赦ください。不案内な部分は教えてください。また授業計画は状況によって変わることもご理解ください。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will aim to write their graduation thesis, focusing on tourism geography centered on regional revitalization using media and creative works within human geography, and cultural geography centered on media and creative works. Through discussions, you will learn skills for writing a graduation thesis, such as literature research and fieldwork techniques. Third-year students clarify the theme of their graduation thesis and increase their awareness of issues, while fourth-year students work on writing their graduation thesis. Outside of class, please be interested in various phenomena and dig deeper into them as appropriate. Your performance will be evaluated based on your average score (50%) and your presentation content (50%).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

## 人文地理学演習 (3)

小原 文明

授業コード：A3439 | 曜日・時限：木5/Thu.5

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。具体的には、3年生は人文地理学に対する関心を広めつつ知識・方法論を獲得することを目指します。4年生はこれまでに身に付けてきた知識・方法論を活かして、オリジナルな卒業論文の作成を目標とします。

### 【到達目標】

上記のように、本授業を通じて、人文地理学の基礎的な知識や方法論を修得できるようになるとともに、各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。

具体的には、4年生には適切な問題意識、課題設定、知識(地理学・関連学問)、資料、方法、論理展開、図表作成、文章作成、既往研究上の位置づけの下で、オリジナリティのある卒業論文を執筆することが求められます。また、3年生にはグループワークによる調査・発表・論文作成や関心事項・論文構想の発表を通じて、4年生時に上記のような卒業論文が作成できるようになるための素地をかためることが求められます。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

●本授業はゼミ形式で行います。上記のように3年生と4年生とでは到達目標が異なることから、2つのゼミに分けて(木5：3年生用、木6：4年生用)演習を行います。ただし、受講生は全員シラバスの記載通り、木曜日5時限日に受講登録して下さい。

●3年生用ゼミでは、春学期には学術書の講読、各自が関心のある学術論文の紹介、研究における方法論についての概観、秋学期には調査方法や分析方法の検討、グループによる地域調査(グループワーク)および現地案内、卒業論文に向けての構想など各自が関心のあるテーマについての発表を予定しています。

●4年生用ゼミでは、一貫して卒業論文の作成に取り組みます。受講生は春秋学期ともに3回ずつの発表を行い、皆で討論を展開します。

●3・4年生全員が集まる合同ゼミも開催し、学年間の交流も図りたいと考えています。また、4年生も3年生ゼミのグループワークに参加してもらい、3年生をサポートしてもらいます。

●なお、4月最初の時間には具体的なスケジュールなどを相談の上で決めますので、必ず出席するようにしてください。

●本授業は演習(ゼミナール)形式ですので、課題等のフィードバックは適宜行います。

●今年度、本授業は基本的に対面形式で行いますが、場合によっては、Zoomによりリアルタイムオンライン形式やハイフレックス形式となる可能性があります。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ            | 内容                |
|-----|----------------|-------------------|
| 第1回 | 3年生：ガイダンス      | 3年生：ゼミの進め方の説明     |
|     | 4年生：ガイダンス      | 4年生：ゼミの進め方の説明     |
| 第2回 | 3年生：グループワークの作業 | 3年生：グループワークのテーマ決定 |
|     | 4年生：卒論中間発表1回目  | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表  |
| 第3回 | 3年生：学術書の講読     | 3年生：講読・討論         |
|     | 4年生：卒論中間発表1回目  | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表  |
| 第4回 | 3年生：学術書の講読     | 3年生：講読・討論         |
|     | 4年生：卒論中間発表1回目  | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表  |
| 第5回 | 3年生：学術書の講読     | 3年生：講読・討論         |
|     | 4年生：卒論中間発表1回目  | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表  |
| 第6回 | 3年生：学術書の講読     | 3年生：講読・討論         |
|     | 4年生：卒論中間発表2回目  | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表  |
| 第7回 | 3年生：学術書の講読     | 3年生：講読・討論         |
|     | 4年生：卒論中間発表2回目  | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表  |

|      |                        |                  |
|------|------------------------|------------------|
| 第8回  | 3年生：グループワークの作業         | 3年生：調査の準備        |
|      | 4年生：卒論中間発表2回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第9回  | 3年生：学術論文の紹介            | 3年生：文献紹介のプレゼン・討論 |
|      | 4年生：卒論中間発表2回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第10回 | 3年生：学術論文の紹介            | 3年生：文献紹介のプレゼン・討論 |
|      | 4年生：卒論中間発表3回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第11回 | 3年生：学術論文の紹介            | 3年生：文献紹介のプレゼン・討論 |
|      | 4年生：卒論中間発表3回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第12回 | 3年生：学術論文の紹介            | 3年生：文献紹介のプレゼン・討論 |
|      | 4年生：卒論中間発表3回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第13回 | 3年生：学術論文の紹介            | 3年生：文献紹介のプレゼン・討論 |
|      | 4年生：卒論中間発表3回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第14回 | 3年生：グループワークの作業         | 3年生：調査の準備        |
|      | 4年生：総合討論               | 4年生：卒論研究に関する意見交換 |
| 第15回 | 3年生：グループワークの作業         | 3年生：調査の展開        |
|      | 4年生：卒論中間発表4回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第16回 | 3年生：グループワークの作業         | 3年生：調査の展開        |
|      | 4年生：卒論中間発表4回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第17回 | 3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 | 3年生：調査・分析の再検討    |
|      | 4年生：卒論中間発表4回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第18回 | 3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 | 3年生：調査・分析の再検討    |
|      | 4年生：卒論中間発表4回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第19回 | 3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 | 3年生：調査・分析の再検討    |
|      | 4年生：卒論中間発表5回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第20回 | 3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 | 3年生：調査・分析の再検討    |
|      | 4年生：卒論中間発表5回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第21回 | 3年生：グループワークの作業・報告      | 3年生：調査の中間報告      |
|      | 4年生：卒論中間発表5回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第22回 | 3年生：グループワークの作業・報告      | 3年生：調査の中間報告      |
|      | 4年生：卒論中間発表5回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第23回 | 3年生：卒論構想・テーマ発表         | 3年生：プレゼン・討論      |
|      | 4年生：卒論中間発表5回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第24回 | 3年生：卒論構想・テーマ発表         | 3年生：プレゼン・討論      |
|      | 4年生：卒論中間発表6回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第25回 | 3年生：卒論構想・テーマ発表         | 3年生：プレゼン・討論      |
|      | 4年生：卒論中間発表6回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第26回 | 3年生：卒論構想・テーマ発表         | 3年生：プレゼン・討論      |
|      | 4年生：卒論中間発表6回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第27回 | 3年生：グループワークの作業・報告      | 3年生：調査の報告        |
|      | 4年生：卒論中間発表6回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |
| 第28回 | 3年生：グループワークの作業・報告      | 3年生：調査の報告        |
|      | 4年生：卒論中間発表6回目          | 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

当然のことですが、ゼミの時間以外でも調査や発表の準備に力を入れる必要があります。また、自分の興味・関心事項に限らず、平日頃から幅広く情報を得るようにアンテナを張り巡らせるようにしておいてください。したがって、本授業の授業外学習の時間は各4時間を必要とします。

### 【テキスト(教科書)】

●野間晴雄ほか編(2017)：『ジオ・バルNEO—地理学・地域調査便利帖—(第2版)』海青社。

→本書は地理学を学び、研究する上での必須事項が網羅されているテキストです。本年度はこのテキストを用いて、研究を行う上での方法論を学びます。  
●学術書の講読（3年生ゼミ）の際に用いるテキストは、ガイダンスの際に紹介します。

**【参考書】**

人文地理学分野の文献に限らず、授業の中で適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

発表・課題・成果：60％、討論：40％で評価します。当然ながら、ゼミには必ず出席しなければなりません。その上で、発表内容や討論への参加などゼミへの取り組み姿勢・意欲を重視して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講者数により、受講生との相談の上で授業計画の詳細を決定します。

**【Outline (in English)】**

This seminar deals with the knowledge, skills, methods and ways of thinking which were needed in learning geography. The third year students work on reading books and theses about geographical phenomena, investigation of several subjects in some groups, presentation of various themes, and writing of theses regarding their own researches. The fourth year students work on their own graduation theses throughout of the year.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:  
making a presentation (60 %) and in-class contribution (40 %).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

## 人文地理学演習 (4)

伊藤 達也

授業コード：A3440 | 曜日・時限：木4/Thu.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

4年生は卒業論文を作成します。3年生は本や論文の講読、地域調査を行い、卒業論文作成のための必要知識、手段の獲得を目指します。

### 【到達目標】

4年生はオリジナリティあふれる優秀な卒業論文の完成が目標です。3年生は次年度からの卒業論文作成のための十分な知識と技法を獲得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行います。4年生と3年生一緒のゼミ実施を前提とし、講義は2時間連続を予定しています。4年生は春学期3回、秋学期3回の発表を行い、卒論制作に備えます。夏季休暇期間にゼミ合宿を行います。3年生は論文等の講読、卒論構想の発表を行います。また夏季休暇のゼミ合宿時に地域調査を行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                    | 内容                                                  |
|------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回  | レポートの書き方                               | レポートの書き方について学びます。                                   |
| 第2回  | 文献検索法                                  | 文献の探し方を学びます。                                        |
| 第3回  | 卒論発表1回目(1) - テーマの決め方-                  | 4年生の1/3が1回目の発表をします。卒論のテーマの決め方について学びます。              |
| 第4回  | 卒論発表1回目(2) - 客観性の確保①-                  | 4年生の1/3が1回目の発表をします。論文作成上の客観性の確保において、文献提示について学びます。   |
| 第5回  | 卒論発表1回目(3) - 客観性の確保②-                  | 4年生の1/3が1回目の発表をします。論文作成上の客観性の確保において、データの収集について学びます。 |
| 第6回  | 卒論発表2回目(1) - 引用の仕方-                    | 4年生の1/3が2回目の発表をします。引用の仕方について学びます。                   |
| 第7回  | 卒論発表2回目(2)、地域調査の準備(1) - テーマの決定-        | 4年生の1/3が2回目の発表をします。3年生が行う地域調査の準備を行います。テーマを決定します。    |
| 第8回  | 卒論発表2回目(3)、地域調査の準備(2) - フィールド、調査担当の決定- | 4年生の1/3が2回目の発表をします。地域調査の準備を行います。フィールド、調査担当を決定します。   |
| 第9回  | 卒論発表3回目(1) - 参考文献の提示-                  | 4年生の1/3が3回目の発表をします。参考文献の提示について学びます。                 |
| 第10回 | 卒論発表3回目(2) - アンケート票の作成①-               | 4年生の1/3が3回目の発表をします。アンケート票の作成について学びます①。              |
| 第11回 | 卒論発表3回目(3) - アンケート票の作成②-               | 4年生の1/3が3回目の発表をします。アンケート票の作成について学びます②。              |
| 第12回 | 3年生の発表(1) - 統計データ収集-                   | 3年生の1/3が発表をします。統計データの収集について学びます。                    |
| 第13回 | 3年生の発表(2)、地域調査の準備(3) - 調査内容の決定-        | 3年生の1/3が発表をします。地域調査の調査内容を決定します。                     |
| 第14回 | 3年生の発表(3)、地域調査の準備(4) - 調査の具体的日程の決定-    | 3年生の1/3が発表をします。地域調査の具体的日程を決定します。                    |
| 第15回 | 後期のゼミガイダンス                             | 4年生は卒論制作の発表、3年生は地域調査の報告書と卒論構想の発表をします。               |
| 第16回 | 卒論発表4回目(1) - アンケート票の集計-                | 4年生の1/3が4回目の発表をします。アンケート票の集計について学びます。               |
| 第17回 | 卒論発表4回目(2) - 単純集計-                     | 4年生の1/3が4回目の発表をします。単純集計について学びます。                    |
| 第18回 | 卒論発表4回目(3) - クロス集計-                    | 4年生の1/3が4回目の発表をします。クロス集計について学びます。                   |
| 第19回 | 卒論発表5回目(1) - 検定-                       | 4年生の1/3が5回目の発表をします。検定について学びます。                      |
| 第20回 | 卒論発表5回目(2) - 報告書のまとめ方-                 | 4年生の1/3が5回目の発表をします。報告書のまとめ方について学びます。                |

|      |                       |                                                |
|------|-----------------------|------------------------------------------------|
| 第21回 | 卒論発表5回目(3) - 漢字とひらがな- | 4年生の1/3が5回目の発表をします。論文における漢字とひらがなの使い分けについて学びます。 |
| 第22回 | 卒論発表6回目(1) - 読点-      | 4年生の1/3が6回目の発表をします。読点の使い方について学びます。             |
| 第23回 | 卒論発表6回目(2) - 段落-      | 4年生の1/3が6回目の発表をします。段落の作り方について学びます。             |
| 第24回 | 卒論発表6回目(3) - 細かな規則-   | 4年生の1/3が6回目の発表をします。西暦と元号、英数字の半角等について学びます。      |
| 第25回 | 3年生の発表2回目(1) - 図表現①-  | 3年生の1/3が2回目の発表をします。表の作成について学びます。               |
| 第26回 | 3年生の発表2回目(2) - 図表現②-  | 3年生の1/3が2回目の発表をします。図の作成について学びます。               |
| 第27回 | 3年生の発表2回目(3) - 理論とは-  | 3年生の1/3が2回目の発表をします。地理学の理論について学びます。             |
| 第28回 | ゼミのまとめ                | 4年生の卒論のまとめと3年生の卒論の準備を行います。                     |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

3年生は自分の関心領域の研究を進めるとともに常識力を高め、卒論のテーマを確定します。4年生は卒論制作に打ち込みます。本演習の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編(2020)『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房  
山崎 朗ほか(2022)『地域政策(第二版)』中央経済社  
竹中克行編(2015)『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房  
藤井 正・神谷浩夫編(2014)『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価はゼミでの発表内容(50%)と討論への参加程度(50%)で行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミをより充実した内容にする予定です。通常授業以外に多くの時間を必要とします

### 【Outline (in English)】

#### Course outline

4th grader makes a graduation thesis. 3rd grader reads books and articles and does area investigations, for acquisition of necessary knowledge of graduation thesis.

#### Learning Objectives

The goal of the 4th grade is to complete an excellent bachelor thesis full of originality. The goal of third graders is to acquire sufficient knowledge and techniques for writing a graduation thesis.

#### Learning activities outside of classroom

Third graders will pursue research in their area of interest, improve common sense, and finalize the theme of their graduation thesis. Fourth graders devote themselves to bachelor thesis production. The preparation/review time for this exercise is 4hours each.

#### Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the content of the presentation at the seminar (50%) and the degree of participation in the discussion (50%).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

## 人文地理学演習 (5)

米家 志乃布

授業コード：A3441 | 曜日・時限：火5/Tue.5

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、人文地理学の卒業論文を書くことができるように、学術論文作成に必要な基礎的な事項を学びます。4年生は卒業論文作成を中心に行います。担当教員の専門は歴史地理・観光地理分野ですが、人文地理学分野全般で卒業論文の作成ができるように、地理学の基礎的な知識や方法論もゼミで学びます。

## 【到達目標】

- (1) 学術論文 (卒業論文) のテーマを自ら設定し、そのもとになるデータの取り方、その扱い方や分析ができること。
- (2) グループワークを通して、史資料からのデータ収集・分析方法や学術論文のまとめ方について学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

3年生はグループワークを通して、テーマの設定、データの収集、分析、まとめの方法を学びます。さらにその成果をレジュメやパワーポイントにまとめて発表して議論します。4年生は、卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。随時、卒業論文の調査結果とまとめを行います。授業の文献・資料・レジュメはすべてGoogleドライブあるいはGoogleクラスルームで共有します。アップされた課題について授業内に教員から修正や改善についてコメントします。授業の効率化のため、紙での配布はしません。3年生はゼミ中にデータ収集を行ったり、グループでGoogle内で分析を行ったりします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                         | 内容                            |
|------|-----------------------------|-------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                       | グループの決定、発表順番の決定など             |
| 第2回  | 人文地理学の学術論文について①             | 研究テーマの設定、文献収集の方法              |
| 第3回  | 人文地理学の学術論文について②             | 調査の方法・データの分析方法                |
| 第4回  | 4年生による卒業論文の進捗報告①            | 歴史地理学の卒論の発表・進捗状況の報告           |
| 第5回  | 4年生による卒業論文の進捗報告②            | 観光地理学の卒論の発表・進捗状況の報告           |
| 第6回  | 4年生による卒業論文の進捗報告③            | 社会地理学の卒論の発表・進捗状況の報告           |
| 第7回  | 4年生による卒業論文の進捗報告④            | その他、人文地理学の卒論の発表・進捗状況の報告       |
| 第8回  | 3年生による論文発表①                 | 「江戸の名所研究」に関する文献を読む            |
| 第9回  | 3年生による論文発表②                 | 「東京の名所研究」に関する文献を読む            |
| 第10回 | 3年生による論文発表③                 | 「東京のツーリズム」に関する文献を読む           |
| 第11回 | 3年生によるデータ収集①                | 授業内で様々なデータベースにアクセスし、情報を収集する   |
| 第12回 | 3年生によるデータ収集②                | エクセル表にどのようにデータをまとめるか、議論する     |
| 第13回 | 3年生によるデータ収集③                | エクセル表にデータを入力し、まとめる            |
| 第14回 | 夏季休暇前の最終報告およびグループワークの計画について | 4年生および3年生の発表                  |
| 第15回 | 夏季休暇中の成果報告について              | 4年生および3年生の発表                  |
| 第16回 | 4年生による卒業論文の進捗報告①            | 夏期休暇中に行った調査の結果報告、データの分析       |
| 第17回 | 4年生による卒業論文の進捗報告②            | 夏期休暇中に行った調査の結果報告、データの分析       |
| 第18回 | 4年生による卒業論文の進捗報告③            | 夏期休暇中に行った調査の結果報告、データの分析       |
| 第19回 | 3年生によるグループワークの発表①           | 「東京の坂」名所に関する史資料分析の結果報告        |
| 第20回 | 3年生によるグループワークの発表②           | 「神楽坂」に関する資料分析の結果報告            |
| 第21回 | 3年生によるグループワークの発表③           | その他、江戸東京の歴史地理に関する資料分析の結果報告    |
| 第22回 | 4年生による卒業論文の最終報告①            | 卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する |

|      |                   |                               |
|------|-------------------|-------------------------------|
| 第23回 | 4年生による卒業論文の最終報告②  | 卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する |
| 第24回 | 4年生による卒業論文の最終報告③  | 卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する |
| 第25回 | 4年生による卒業論文の最終報告④  | 卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する |
| 第26回 | 4年生による卒業論文の最終報告⑤  | 卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する |
| 第27回 | 3年生による卒業論文テーマの発表① | 翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する   |
| 第28回 | 3年生による卒業論文テーマの発表② | 翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する   |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。4年生は、卒業論文にむけて、先行研究の読み込み、データの収集、執筆などゼミ以外の時間にも、十分に時間をかけて各自で行ってください。グループワークではレジュメの作成などを授業外で準備してください。担当者の授業「歴史地理学 (1)・(2)」は受講するようにしてください。なお、ゼミ内での作業に必要なため、「地理情報システムGIS」関連の授業の受講もおすすめします。

## 【テキスト (教科書)】

3年生のグループワークは「東京の名所研究」が共通テーマです。論文リストは配布しますので、そこから発表論文を選んでください。利用するデータや資料は、年度初めにゼミで相談してすすめていきます。大学の近くにある「神楽坂」「市ヶ谷」へのフィールドワークもグループワーク作業として授業中に行います。

## 【参考書】

適宜、3年生のグループワークおよび4年生の卒論テーマに即して、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点100% (ゼミへの参加状況、発表内容で評価します。出席がもっとも重視されます。) 特にグループワークでは、メンバーで協力して作業して、発表するようにしてください。

## 【学生の意見等からの気づき】

3年生のグループワークを共通テーマ「東京の名所研究」とし、他の班の作業や発表にも関心がもてるように情報共有していくようにしました。

## 【学生が準備すべき機器他】

3年生は、グループワークの作業時間を授業時間内に定期的に設けますので、必ずノートPCを持参してください。

## 【その他の重要事項】

3,4年生の2学年が履修するゼミのため、正規の時間内では終わりません。卒論中心のサブゼミを6限に行いますので、積極的に参加するようにしてください。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course examines building foundation skills to write papers in human geography, especially historical geographies and tourism.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to collect materials or interviews, analyze dates and write academic paper in human geography.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution:100%



GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 世界地誌 (4)

浦部 浩之

授業コード：A3446 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ラテンアメリカ地域の自然と社会に関わるさまざまな事象(環境や生態系、歴史や文化、政治・経済・国際関係、それらの複合的課題である自然災害や感染症の問題など)を幅広く学び、地域の基本的特徴について総合的(学際的)に理解を深める。単なる個別の事象の羅列としてではなく、それぞれが相互に関連していることに、とくに注意を払う。

### 【到達目標】

ラテンアメリカ地域の基本的な特徴について多角的かつ総合的に知ること、またそれを通じ、地域理解(ラテンアメリカに限らず、世界のさまざまな地域の理解)のために必要とされる基本的な視座と応用力(主體的な分析・判断力)を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を中心に行う。  
毎回の授業の前に(遅くとも前日までに)、学習支援システム(Hoppi)の授業案内を確認しておくこと(詳細は下記の【授業時間外の学習】欄を参照)。

教室での毎回の授業で、学習支援システム(Hoppi)を通じて小レポートを提出してもらう(下記の【成績評価の方法と基準】欄も参照のこと)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                     |
|------|---------------|----------------------------------------|
| 第1回  | ラテンアメリカとは？    | その地域概念                                 |
| 第2回  | 自然環境と生活①      | アンデス高山地帯の自然・生業・食                       |
| 第3回  | 自然環境と生活②      | アマゾン熱帯雨林地帯の自然・生業・食                     |
| 第4回  | 歴史と社会①        | 植民地社会の形成とラテンアメリカ諸国の独立                  |
| 第5回  | 歴史と社会②        | 近代化とポピュリズム・軍事政権                        |
| 第6回  | 現代の政治・経済①     | 民主化・民主主義とネオリベリズム経済                     |
| 第7回  | 現代の政治・経済②     | 貧困問題と都市問題                              |
| 第8回  | 人と文化①         | 人種と民族、先住民問題                            |
| 第9回  | 人と文化②         | 宗教、家族、価値規範                             |
| 第10回 | 環境と社会をめぐる諸問題① | 生態系の破壊と感染症の拡大                          |
| 第11回 | 環境と社会をめぐる諸問題② | 自然災害と災害対応への社会的脆弱性                      |
| 第12回 | 世界とラテンアメリカ①   | ラテンアメリカと日本・アジアの関係                      |
| 第13回 | 世界とラテンアメリカ②   | グローバルサウスとラテンアメリカ                       |
| 第14回 | 授業の総括と期末試験    | ラテンアメリカをいかに理解するべきか (50分)<br>期末試験 (50分) |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】  
【準備学習】

授業の3日前(月曜日)までに、学習支援システム(Hoppi)に授業の概要を掲示するとともに、授業で映写するスライドをPDFファイルの様式でアップロードしておく。必ず毎回、それを確認しておくこと。

【復習・宿題等】

授業内容を発展的に理解するための自主学修課題(毎回の授業で案内する)に積極的に取り組むこと。また期末試験前には学期全体の学びを総括する一通りの復習をすること。

※本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しない。

【参考書】

石井久生・浦部浩之編 『中部アメリカ (世界地誌シリーズ10)』(朝倉書店、2018)

畑恵子・浦部浩之編 『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』(新評論、2021)

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出してもらう計14回の小レポート(70%)、期末試験(30%)。

レポートの出題内容は、授業のポイントを簡潔にまとめてもらうものなので、これを作成することがよい復習(学んだこと、考えたことの定着)にもなるはずである。なお、レポートの一部に小テストが含まれる。

レポートの性質が上述のとおりのため、毎回の授業を欠かさずきちんと受講していればおそらくそれだけで単位認定に必要な最低得点に達するが、期末試験の受験は、単位認定上の必須条件とする(未受験の場合、単位を認定しない)。

【学生の意見等からの気づき】

本年度に初めて法政大学での授業を担当するため、本科目固有のフィードバックはない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなどの電子端末を持参のこと。授業時間中に学習支援システム(Hoppi)を通じてレポート(小テストを含む)を提出してもらうためである。なお、何らかの事情で端末が手元に用意できない場合は、授業開始前に申し出ること(代わりのレポート用紙を配布する)。

授業で映写するスライドのPDF版は、あらかじめ印刷して持参することを推奨する(とくに端末としてスマホしか持参しない場合)。

【その他の重要事項】

【フィールドワーク】

フィールドワークとそれに基づく探索課題の発信(アクティブラーニングの一環)のために、上記の授業予定を微修正し、1回分の授業を教室外の学習に充てることを検討している(ただし、その実施の可否や実施する場合の方式については、全体の履修者数や履修状況を見極めてから判断する)。

これを実施する場合、授業内容に密接に関連するJICA海外移住資料館(横浜市)、目黒寄生虫館(目黒区)、ラテンアメリカへの道フェスティバル(港区)のいずれか一つ(選択式)を訪問してもらう。何らかの事情でそのいずれにも参加できない者に対しては、代わりの課題を提示する。

【担当教員の実務経験】

在チリ日本国大使館勤務(3年間)、国連平和維持活動(PKO)エルサルバドル監視団などでの8カ国計12回の選挙監視活動への従事経験があるので、その知見の一部を講義内容に反映させたい。

【担当教員連絡先】

urabe@dokkyo.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will study a wide range of phenomena related to nature and society in Latin America (environment and ecosystems, history and culture, politics, economics, international relations, and their composite issues such as natural disasters and infectious diseases) to deepen their comprehensive (interdisciplinary) understanding of the basic characteristics of the region. Special attention should be paid to the interconnectedness of each of these, rather than simply listing individual issues.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 世界地誌 (5)

吉村 郊子

授業コード：A3447 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、アフリカについて自然・生態・文化・社会・歴史・現代における諸課題や他地域とのかかわりなど、さまざまな観点から学びます。地誌学や地域研究・人類学他の関連諸分野の手法を参照しつつ、アフリカの特徴と多様性について理解を深めてください。そして、アフリカのみならず、さまざまな地域にも目を向けつつ、対象を俯瞰的に捉える視座と思考力を養いましょう。

## 【到達目標】

アフリカの特徴と多様性について、理解を深めます。その過程を通して、地誌学や関連諸分野における理論と手法を学び、それらを活用できるようになります。そして、アフリカ以外のさまざまな地域や事象にも目を向け、多様な環境と人間のあり方を俯瞰的に捉え、考察する力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用して、講義形式で進めます。授業回によっては映像も活用します。その他、必要な教材資料を適宜、配布します。なお、リアクションペーパーなどへのフィードバックは、その内容やタイミングに応じて、授業の場または学習支援システムのいずれかを利用します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                    | 内容                                                                                      |
|------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                              | 授業の概要と進め方について、説明します。                                                                    |
| 第2回  | アフリカの概要1                               | 地形・気候・植生など、アフリカの自然環境を概観し、学びます。                                                          |
| 第3回  | 熱帯雨林における自然と人のかかわり                      | 湿潤な熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の事例を取りあげます。彼らの暮らしを概観し、学びましょう。                                           |
| 第4回  | アフリカの概要2                               | 人口・言語・文化・歴史等、アフリカにおける人の営みの側面を概観し、学びます。                                                  |
| 第5回  | 乾燥帯・半砂漠における自然と人のかかわり1                  | 乾燥帯に暮らす狩猟採集民の事例を取りあげます。まずは、その概要と現在の暮らしの様子を見てみましょう。                                      |
| 第6回  | 乾燥帯・半砂漠における自然と人のかかわり2                  | 乾燥帯に暮らす狩猟採集民の歴史と変容を、湿潤帯における事例とも比較しながら学びます。                                              |
| 第7回  | ドメスティケーションと農耕・牧畜1. 乾燥サバンナにおける自然と人のかかわり | ドメスティケーションについて学びます。また、乾燥サバンナに暮らす牧畜民の事例を取りあげます。                                          |
| 第8回  | ドメスティケーションと農耕・牧畜2. 湿潤サバンナにおける自然と人のかかわり | 湿潤サバンナに暮らす農耕民の事例を取りあげます。また、これまでに見てきたさまざまな事例から、アフリカにおける人びとの暮らしの多様性について理解を深めます。           |
| 第9回  | 自然環境と植民地支配、近年の環境変動                     | アフリカの自然環境と植民地支配やその変遷について学びます。また、補足的なトピックスとして、近年の環境変動と砂漠化や、それに対する人びとの取り組みなどにも目を向けてみましょう。 |
| 第10回 | 人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかかわり1           | これまでの授業内容をふまえつつ、本テーマについて二回にわたって学びます。                                                    |
| 第11回 | 人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかかわり2           | 前回に引き続き、多様な観点から今に至る歴史と現在の人びとの暮らしについて理解を深めましょう。                                          |
| 第12回 | アフリカにおける現代的な課題1                        | これまでの授業内容をふり返りつつ、アフリカにおける現代的な課題にも目を向けてみたいと思います。                                         |
| 第13回 | アフリカにおける現代的な課題2                        | 歴史的な変遷などもふまえつつ、前回に引き続き、現代アフリカへの理解を深めましょう。                                               |
| 第14回 | まとめ                                    | まとめの回です。                                                                                |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の内容をふり返って復習する他に、ご自身の興味・関心や授業テーマに関連したさまざまな書籍・文献資料・情報などにも目を向けて、視野を広げてください。そのうえで、課題 (授業の振り返りや発展的学習を含む) に取り組んでください。本授業の準備学習・復習および課題への取り組み時間は、4時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

『世界地誌シリーズ8 アフリカ』 島田周平・上田元編、朝倉書店、2017年 (定価3,400円+税)。

準備学習や復習および課題への取り組みの際に必要です。積極的に活用してください。

## 【参考書】

授業の内容と進捗状況に応じて適宜、紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

筆記試験を予定しています。普段から主体的に準備学習や復習・課題などに取り組むつつ、期末試験に備えてください。

## 【学生の意見等からの気づき】

多様な資料を活用して工夫しつつ、できるだけわかりやすい授業の進行を心がけます。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやZoom ミーティングを利用する場合があります。

## 【その他の重要事項】

質問などがある場合は、授業時に声をかけるか、メールでお知らせください。なお、この科目は教室での対面授業を基本としていますが、回によってはオンラインに変更する場合がありますことを、ご了承ください (例えば、初回授業時に受講者全員を取容可能な教室を確保できなかった場合; その他、やむを得ない事情が生じた場合など)。授業形態を変更する場合は事前にお伝えします。

初回に授業の概要と進め方について説明しますので、受講を考えている方はできるだけ出席してください。

## 【Outline (in English)】

**Course outline:** This course introduces Africa from various perspectives such as nature, ecology, culture, society, history, transitions and other issues. Students will learn about the diverse of Africa and acquire methods of some disciplines such as regional geography, area studies, anthropology, and so on.

**Learning objectives:** This course aims for students to understand Africa properly with its characteristics and diversity; to learn methods of regional geography, area studies, anthropology and other related disciplines; and to make use of those methods and knowledges for other various themes.

**Learning activities outside of classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course content.

**Grading criteria/policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination (100%)

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 世界地誌 (6)

呉羽 正昭

授業コード：A3448 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ヨーロッパの性格を形成している、自然環境、文化要素、人口、都市、農村、ツーリズムなどの地域的特徴を理解するとともに、さまざまな空間スケールで具体的な地域事例を把握することを通じて、ヨーロッパの地域性について考えます。

### 【到達目標】

ヨーロッパとはどのような地域であるのかを理解することを目標とします。同時に、世界の自然環境、それを舞台に展開される人間活動を多角的に探求し、地域を考える総合的な知識と思考力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                               |
|------|----------------|----------------------------------|
| 第1回  | ヨーロッパとは何か      | ヨーロッパとはどのような地域なのかについて解説します       |
| 第2回  | ヨーロッパの自然       | ヨーロッパの自然環境の地域的特徴について解説します        |
| 第3回  | ヨーロッパの言語と宗教    | ヨーロッパの言語と宗教の地域的特徴について解説します       |
| 第4回  | ヨーロッパの民族と人口    | ヨーロッパの民族と人口の地域的特徴について解説します       |
| 第5回  | ヨーロッパの国家と政治    | ヨーロッパの国家と政治の地域的特徴について解説します       |
| 第6回  | ヨーロッパの農業・農村    | ヨーロッパの農業・農村の地域的特徴について解説します       |
| 第7回  | ヨーロッパの都市       | ヨーロッパの都市の地域的特徴について解説します          |
| 第8回  | ヨーロッパの都市：ウィーン  | ウィーンの都市的特徴について解説します              |
| 第9回  | ヨーロッパのツーリズム    | ヨーロッパのツーリズムの地域的特徴について解説します       |
| 第10回 | ヨーロッパの世界遺産     | ヨーロッパの世界遺産の地域的特徴について解説します        |
| 第11回 | アルプスのツーリズム     | アルプスのツーリズムの地域的特徴について解説します        |
| 第12回 | オーストリアのスキーリゾート | オーストリアのスキーリゾートの特徴について解説します       |
| 第13回 | オーストリアの山岳リゾート  | オーストリアの山岳リゾートの特徴について解説します        |
| 第14回 | まとめ：ヨーロッパの地域構造 | ヨーロッパがどのような地域なのか、その地域構造をもとに解説します |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に既存文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

### 【参考書】

・ジョーダン著、山本正三・石井英也・三木一彦訳 (2005) 『ヨーロッパ：文化地域の形成と構造』 二宮書店  
 ・加賀美雅弘編 (2019) 『世界地誌シリーズ 11 ヨーロッパ』 朝倉書店  
 ・淡野明彦編 (2016) 『観光先進地ヨーロッパ』 古今書院  
 ・浮田典良・加賀美雅弘・藤塚吉浩・呉羽正昭 (2015) 『オーストリアの風景』 ナカニシヤ出版  
 ・呉羽正昭 (2017) 『スキーリゾートの発展プロセス 日本とオーストリアの比較研究』 二宮書店

### 【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験と平常点で評価します。期末試験の評価割合は全体の60%で、毎時間の講義内容の理解度を問うミニレポートと次回の講義内容に関するミニ予習課題の記載内容を合わせて平常点 (全体の40%) とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

### 【Outline (in English)】

Students can study regional characteristics of Europe through understanding regionality of various components (physical environment, religion, language, agriculture, rural village, urban area, tourism, etc.). Students also learn some regional examples on various spatial scales necessary for understanding geography of Europe.

At the end of the course, students are expected to understand the methodology of regional geography and the regional characteristics of Europe.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60% and Short reports: 40%.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

**地理学読図演習 (1)**

宇津川 喬子

授業コード：A3449 | 曜日・時限：月2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

地形図および空中写真を用いて特定の地域に関する地理的な情報を読み取る技術を養い、その地域を地理的に捉える能力を身につける。また、読図した内容を現地で確認し、さらに読図の理解を深める。

**【到達目標】**

地形図や空中写真から地形や植生を中心とした自然環境に関する情報を正確に得られるようになる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行なう。第6回と第7回は5月下旬の週末に多摩川沿いで半日巡検を、第11～13回は6～7月の週末に高尾山で日帰り巡検を各1回ずつ行う。具体的な日程は授業初期に決定する。

提出された課題に対するフィードバックは適宜授業内で行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ         | 内容                                  |
|------|-------------|-------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス・導入    | 授業の概要、地形図の復習                        |
| 第2回  | 地性線         | 地形図による尾根線と谷線の判読                     |
| 第3回  | 谷次数と分水界     | 地形図による集水域 (分水界) と谷次数の判読             |
| 第4回  | 新旧地形図を用いた判読 | 新旧地形図による地域の変化を判読                    |
| 第5回  | 河川地形と旧河道    | 地形図と治水地形分類図による河川地形の判読               |
| 第6回  | 多摩川巡検 (2)   | 多摩川下流域で日帰り巡検 (半日) を行い、読図の結果を実際に確認する |
| 第7回  | 多摩川巡検 (1)   | 多摩川下流域で日帰り巡検 (半日) を行い、読図の結果を実際に確認する |
| 第8回  | 断層地形と火山地形   | 地形図による断層地形と火山地形の判読                  |
| 第9回  | 空中写真による地形判読 | 空中写真と地形図による河川地形の判読                  |
| 第10回 | 空中写真による植生判読 | 空中写真と地形図による植生の判読                    |
| 第11回 | 高尾山巡検 (1)   | 高尾山で日帰り巡検 (全日) を行い、読図の結果を実際に確認する    |
| 第12回 | 高尾山巡検 (2)   | 高尾山で日帰り巡検 (全日) を行い、読図の結果を実際に確認する    |
| 第13回 | 高尾山巡検 (3)   | 高尾山で日帰り巡検 (全日) を行い、読図の結果を実際に確認する    |
| 第14回 | 巡検の振り返り     | 巡検で気がついたことを個人/グループでまとめる             |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間内にできなかった課題は宿題とします。

**【テキスト (教科書)】**

使用しない。授業資料はHoppiiで公開し、読図に用いる地図類 (紙媒体) は授業時に適宜配布する。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

- ・5回以上欠席した場合は評価の対象としない。
- ・巡検に参加していない場合は評価の対象としない (正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので自主的に相談すること)
- ・授業内課題 (50%) とレポート (50%) の合計得点により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

色鉛筆 (12色以上)、鉛筆 (またはシャープペンシル)、電卓などの読図作業に必要とされる文具を各自、毎回、持参すること。なお、作業する教材などはその都度、配布する。フリクションペン (赤・青) があると便利。

**【その他の重要事項】**

巡検は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで行います。日程は授業内で決定します。なお、巡検や実習が中心であるため履修上限人数は48名とし、人数超過の場合は初回授業で選抜します (Hoppiiで連絡します)。

「地理学読図演習 (2)」を秋学期に履修する予定の人にはできる限り「地理学読図演習 (1)」を受講するようにしてください。

**【Outline (in English)】**

This course focuses on map reading using topographic maps and aerial photos with fieldwork to understand the perspective and basis knowledge of physical geography.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on short tasks (50%) and final report(50%).

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

## 地理学読図演習 (2)

宇津川 喬子

授業コード：A3450 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一般図および自然科学や人文地理学の主題図から特定の地域に関する情報を読み取る技術を養い、その地域の地理的な特徴を捉え、他者に伝える能力を身につける。

### 【到達目標】

- 1) 地形図や空中写真、ほかの主題図から自然環境に関する情報を正確に得られるようになる
- 2) 土地利用図や用途地域図、ほかの主題図から都市・街に関する情報を正確に得られるようになる
- 3) 複数の地図を用いて、ある地域について複合的に捉え、地理的な特徴を述べるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

複数の資料から特定の地域の地理的な情報を読み取る練習を行い、読図した内容をもとに第3回に現地踏査(授業時間内)を行う。第4回以降はグループでテーマを決めて地域をひとつ選定し、読図をした内容をもとに第9～12回の12月上旬(週末)に現地踏査(日帰り)を行う。提出された課題に対するフィードバックは適宜授業内で行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                                      |
|------|------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス・導入   | 授業の概要、グループ分け、身近な資料から読み取る                |
| 第2回  | 複数の資料からの読図 | 複数の地図・資料から特定の地域を読み取る                    |
| 第3回  | 現地踏査       | 第2回で読図した内容を実際に現地で確認する(新宿御苑を予定。授業時間内で終了) |
| 第4回  | グループワーク(1) | 現地踏査の候補地をグループごとに検討し、行先(地域)を決定する         |
| 第5回  | グループワーク(2) | 踏査する地域の地図を判読し、地理的な特徴をまとめる               |
| 第6回  | ディスカッション   | 現地踏査のルートを決定する                           |
| 第7回  | グループワーク(3) | 踏査先の地理的な特徴をレジュメとしてまとめる                  |
| 第8回  | グループワーク(3) | 引き続き、踏査先の地理的な特徴をレジュメとしてまとめる             |
| 第9回  | 地理的な情報をつかむ | 地理写真について学び、地理的な情報収集を行う                  |
| 第10回 | 現地踏査(1)    | 読図結果を現地で確認する                            |
| 第11回 | 現地踏査(2)    | 読図結果を現地で確認する                            |
| 第12回 | 現地踏査(3)    | 読図結果を現地で確認する                            |
| 第13回 | 現地踏査(4)    | 読図結果を現地で確認する                            |
| 第14回 | 現地踏査の振り返り  | 現地踏査でわかったことを個人/グループでまとめて共有する            |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間内にできなかった課題は宿題とします。

### 【テキスト(教科書)】

使用しない。授業資料はHoppiiで公開し、読図に用いる地図類(紙媒体)は授業時に適宜配布する。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

- ・5回以上欠席した場合は評価の対象としない
- ・現地踏査に参加していない場合は評価の対象としない(正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので自主的に相談すること)
- ・平常点(20%)およびレポート(80%)で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ただ毎回読図(作図)をするのではなく、「読図をするための様々な視点」に気が付き、読図の手法そのものを自ら考えてもらう授業構成になっています。やや難易度の高い作業も含まれていますが、評価は作業結果が正解かどうかではなく、授業時の積極性と思考したことを表現できているかどうかの点を特に重視しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆(12色以上)、鉛筆(またはシャープペンシル)、電卓などの読図作業に必要なとされる文具を各自、毎回、持参すること。なお、作業する教材などはその都度、配布する。

### 【その他の重要事項】

現地踏査(1)～(4)は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで行います。日程は授業内で決定します。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は48名とし、人数超過の場合は初回授業で選抜します(Hoppiiで連絡します)。

「地理学読図演習(1)」を履修していることが望ましいです。

### 【Outline (in English)】

This course focuses on map reading using general and thematic maps with fieldwork to understand the perspective and basis knowledge of physical and human geography.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on reports(80%) and in-class contribution(20%).

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

**自然地理学特講 (2)**

鈴木 秀和

授業コード：A3452 | 曜日・時限：金5/Fri.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

自然地理学の中でも、水文学（とくに地下水と温泉）に関する分野の授業を行う。水文学の研究分野は多岐にわたるが、この授業では、前半に水温・水質・同位体などを指標に地下水の動きや起源を調べる方法（トレーサー水文学）、後半に日本の温泉とそれにまつわる諸問題について取り上げる。

**【到達目標】**

前半は、水文学の基本概念である水循環過程について把握する術（水文トレーサー）について学ぶことで、自然界における水のあり方や動きについて理解を深めることができる。後半では、温泉水を地球における水循環システムの一部として捉えたとともに、温泉の定義、成因や多くの人が興味をもつ効果などに関する知識の習得できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

図表や写真を多用するため、PowerPoint を用いて講義を行なう。ほぼ毎回資料を配付するとともに、授業の最後には復習問題に取り組んでもらう予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                      | 内容                                               |
|------|--------------------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンスおよび自然界における水の動き      | 地球上の水とその循環、地下水、温泉。                               |
| 第2回  | トレーサー水文学－その概要と基礎－        | 水文トレーサー、トレーサーを用いた水の挙動解析、水質の表示法。                  |
| 第3回  | 水質の形成と進化について             | 溶解、酸化、酸加水分解、吸着およびイオン交換反応、混合。                     |
| 第4回  | 地下水温について                 | 地中増温率、地中の温度分布と地下水流動、気候学的な地下水温の推定、湧水温度の形成機構。      |
| 第5回  | 水文学における同位体の利用            | 放射性同位体、安定同位体、地下水の年代、同位体効果、地下水流動系。                |
| 第6回  | マルチトレーサー法による地下水流動解析/小テスト | 湧水の水質、水温、同位体を用いた火山体の地下水流動系。<br>第1~6回の振り返り（小テスト）。 |
| 第7回  | 温泉とは                     | 温泉とその定義、温泉法と鉱泉分析法指針、温泉定義のポイント。                   |
| 第8回  | 温泉の分類                    | 泉質の決め方、温泉分析書とその見方、療養泉の分類と特徴。                     |
| 第9回  | 温泉水の起源と特徴                | 温泉水の起源、同位体比からみた日本の温泉水、温泉水の分類とその特徴、有馬型温泉。         |
| 第10回 | 火山性温泉と非火山性温泉             | 温泉生成のしくみ、火山性・非火山性温泉、温泉水中の可燃性天然ガス。                |
| 第11回 | 日本の温泉の分布と地域特性            | 泉温、泉質、温泉の利用状況。                                   |
| 第12回 | 温泉の維持・管理と利用              | スケールの形成と除去、温泉の集中管理システム、衛生と安全対策、温泉水・含有成分・熱の利用。    |
| 第13回 | 温泉と地熱発電                  | 日本のエネルギー政策と地熱発電、温泉バイナリー発電、将来的な地熱エネルギー資源          |
| 第14回 | 温泉療法と効能について/小テスト         | 入浴による効果、温泉療法、禁忌症、適応症。<br>第7~14回の振り返り（小テスト）。      |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

杉田倫明・田中正 編著『水文科学』、共立出版、ISBN:978-4-320-04704-4。  
高村弘毅 編『地下水と水循環の科学』、古今書院、ISBN:978-4-7722-5255-3。  
大山正雄・大矢雅彦 著『大学テキスト 自然地理学 下巻』、古今書院、ISBN:978-4-7722-5091-7。  
佐々木信行 著『温泉の科学』、SBクリエイティブ、ISBN:978-4-7973-4426-4。  
日本温泉科学会 編『温泉学入門』、コロナ社、ISBN:978-4-339-07701-8。  
阿岸祐幸 著『温泉と健康』、岩波新書、ISBN:978-4-00-431173-7。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内小テスト2回（70%）と平常点（30%）で評価を行う。平常点については、復習問題の解答内容と出席状況により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

定規などが必要となる時があると思うが、その際は授業中に指示をする予定である。

**【Outline (in English)】**

This course is a part of the field of natural geography related to hydrology (especially groundwater and hot springs). The first half of this class will focus on tracer hydrology, a method of studying the movement and origin of groundwater using water temperature, water quality, isotopes, and other indicators, while the second half will cover topics related to hot springs in Japan and related issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term and term-end examination (70%), and assignments and reports (30%).

HUG300BF (人文地理学 / Human geography 300)

## 人文地理学特講 (2)

久保 倫子

授業コード：A3456 | 曜日・時限：火6/Tue.6  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人文地理学、特に都市地理学における基礎的な理論を理解し、都市的地域の特性を理解する。

### 【到達目標】

人文地理学、特に都市地理学における基礎的な理論を理解し、説明できる。都市的地域が抱える課題に関心をもって、都市の特性を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義による。都市的地域が直面する課題について、学生と議論する時間を設ける。また、リアクションペーパーの提出を課すことがある。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容              |
|------|-----------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス     | 講義の概要と地理学の基礎①   |
| 第2回  | 人文地理学の基礎① | 地域              |
| 第3回  | 都市の特性①    | 都市の定義           |
| 第4回  | 都市の特性②    | 都市の立地           |
| 第5回  | 都市の特性③    | 都市計画            |
| 第6回  | 都市の特性④    | 都市の機能           |
| 第7回  | 都市化①      | 都市と交通網の発展       |
| 第8回  | 都市化②      | 都市化のライフサイクル理論   |
| 第9回  | 都市化③      | 縮退都市論           |
| 第10回 | 日本の都市化①   | 明治期~昭和初期        |
| 第11回 | 日本の都市化②   | 1960~1980年代     |
| 第12回 | 日本の都市化③   | 1990年代以降        |
| 第13回 | 都市の内部構造   | 同心円構造モデル~多核心モデル |
| 第14回 | 都市システム    | 階層性、グローバリゼーション  |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参考文献として挙げた書籍や講義資料を読み、予習復習に充てること (各回2時間程度)。都市に出て、講義で取り上げた地域や現象を確認する (全体で10時間程度)。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は特に定めないが、講義資料内に参考文献を記載する。

### 【参考書】

高橋伸夫ほか「新しい都市地理学」東洋書林  
藤井正・神谷浩夫「よくわかる都市地理学」ミネルヴァ書房

### 【成績評価の方法と基準】

試験 (80%)、リフレクションペーパーや講義への参加態度 (20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【学生が準備すべき機器他】

講義資料等はpdfで公開するため、各自で印刷して持参するか、パソコン、タブレットなど閲覧可能な機器を持参すること。

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

Through the understanding of basic theories of human and urban geography, students will understand regional characteristics of urban areas.

Students are expected to understand and explain basic theories in Urban Geography. With an interest in urban problems, students will think about the characteristics of urban areas.

Face-to face lecture and discussion.

Read related articles, papers, or books which are listed in the references of the handouts for classes. Plus, students are expected to go to urban areas to observe urban changes explained in the classes.

No textbook. I provide references in the handout of each class.

Examination (80%), reflection paper and class attitude (20%).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

**地図学 I**

若林 芳樹

授業コード：A3459 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

デジタル化の進展により、いつでも、どこでも、誰もが自由に地図を使ったり作成に参加したりすることが容易になっている。しかし、適切に地図を作成・利用するためには、地図学の知識と技術をふまえた一定のリテラシーが必要になる。この授業では、地図学の基礎的事項を学ぶことで、身の回りの地図の善し悪しを評価し、自ら地図を作成するための方法を身につけることをねらいとする。

**【到達目標】**

地図の基礎的事項を理解した上で、地図表現の善し悪しを評価したり適正に利用したりできるようになる。自分で地図を作成するための知識や技術を習得する。また、デジタル地図を作成・利活用するためのGISの基礎を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

前半では、地図の歴史を踏まえて現代の地図の特徴と基礎的事項を学習する。後半では、地図の利用と表現のためのさまざまな概念や方法を学んだ上で、身の回りの地図を収集し、目的に合った表現や内容になっているかどうかを評価する。最後に、この授業で学習した地図学の知識と技術をふまえて、自分自身で主題図を作成し、討論する。

課題等の提出は、基本的に「学習支援システム」を通じて行い、課題に対する解説や講評は授業内で行う。

なお、対面形式の実施を想定しているが、状況によってオンライン形式での実施に切り替える場合もある。その際は、事前に通知する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ             | 内容                      |
|------|-----------------|-------------------------|
| 第1回  | ガイダンス           | 地図の概念、授業計画              |
| 第2回  | 地図の歴史と空間情報伝達の変化 | 地図の歴史、メディアと伝達様式の変化      |
| 第3回  | 地図の図式と記号        | 図式と地図記号、地図デザイン          |
| 第4回  | 地図の分類と基本要素      | 基本図、主題図、地図投影法と座標系       |
| 第5回  | 地図の利用           | 地形図の読図、図上計測、地図分析        |
| 第6回  | 空間スケールと地図       | スケールの意味、メッシュコードの体系、総描   |
| 第7回  | さまざまな主題図        | 土地利用図、統計地図、道案内図、ハザードマップ |
| 第8回  | 地図の記号化とデザイン     | 視覚変数、地図記号のデザイン          |
| 第9回  | 地図で嘘をつく方法       | 地図表現のレトリック              |
| 第10回 | デジタルマップの時代      | 地形表現、時間表現、マルチメディア、参加型   |
| 第11回 | 地図の収集と評価        | 既存の地図を収集し、グループで討論する     |
| 第12回 | バーチャル地図とメンタルマップ | 人間の空間認知と地図              |
| 第13回 | 地図とGIS          | 空間データの構造、空間データの視覚化      |
| 第14回 | 地図と社会           | 地図の政治性、地図と文化、地図の力       |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

身の回りの地図を収集し、授業で学んだことをふまえて内容・表現・用途を吟味する。自ら情報を集めて主題図を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない（プリントを配布）

**【参考書】**

『図の記号学』（ベルタン著、森田喬訳、平凡社、1983年）、『地図学の基礎』（ロビンソン他著、永井信夫訳、帝国書院、1984年）、『神の眼 鳥の眼 蟻の眼』（森田喬著、毎日新聞社、1999年）、『地図の進化論』（若林芳樹著、創元社、2018年）、『地図リテラシー入門』（羽田康祐著、ベレ出版、2021年）、『デジタル社会の地図の読み方作り方』（若林芳樹著、筑摩書房、2022年）

**【成績評価の方法と基準】**

授業時の課題・小テスト60%、レポート40%で総合評価

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【Outline (in English)】**

Since the end of the 20th century, the widespread availability of information technology has led to the increasing use of digital maps based on geospatial information. This trend has drastically changed the form and function of maps. The aim of this class is to acquire contemporary map literacy by learning the way of making and using a variety of maps. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (80%) and term-end examination (20%). Students are expected to complete the required assignments after each class. Your study time will be more than two hours for a class.



GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 地図学Ⅱ

宇津川 喬子

授業コード：A3460 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地図学や地理学との関わりの中で地理情報科学や地理情報システム（GIS）をめぐる基本的事項と適用事例を講義する。これにより、地理情報科学と地図学・地理学との関連、地理情報科学の歩み、GISの概念と構成要素、空間データの構造とその操作、空間データの視覚化、そして地図表現のもつ社会的意義と課題を学ぶ。

### 【到達目標】

- 1) 地図学や地理学と関連づけて地理情報科学の基本を理解することができる。
- 2) 地理空間情報の基本構造と作成法を理解し説明できる。
- 3) 地理情報システムを活用した地図表現の社会的意義と課題を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式。一部作業を行いながら授業を進める。授業内容に関連し、各自のノートPCやスマートフォン、タブレット端末等を使用してWebGISを活用する。

毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                       |
|------|------------------|--------------------------|
| 第1回  | ガイダンス            | 授業概要と注意事項、地理情報科学とは       |
| 第2回  | 地理情報システム(1)      | 地図とGIS、地図学や地理学との関係、地図投影法 |
| 第3回  | 地理情報システム(2)      | GISの歴史、ベクタ型とラスタ型         |
| 第4回  | 地理空間情報(1)        | 「数値地図」「国土数値情報」「地球地図」     |
| 第5回  | 地理空間情報(2)        | 「基盤地図情報」「電子国土基本図」等       |
| 第6回  | 地理空間情報の取得と作成(1)  | 印刷地図・GNSS                |
| 第7回  | 地理空間情報の取得と作成(2)  | リモートセンシング・レーザ計測・デジタル地形測量 |
| 第8回  | 地理空間データの視覚化      | 地図表現、総描、地図レイアウトと出力の基本    |
| 第9回  | 地理情報システムによる分析(1) | 空間検索、オーバーレイ、バッファリング、空間分割 |
| 第10回 | 地理情報システムによる分析(2) | ネットワーク分析、点パターン           |
| 第11回 | 地図表現と社会(1)       | GISの利用：行政分野、防災分野         |
| 第12回 | 地図表現と社会(2)       | GISの利用：ビジネス分野、教育・研究分野    |
| 第13回 | 地理情報社会と未来社会(1)   | グループワーク                  |
| 第14回 | 地理情報社会と未来社会(2)   | まとめ                      |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地図学と地理情報科学をめぐる動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。授業時に図書や論文講読の指示を課す予定。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない（レジュメを配布）

### 【参考書】

『地理情報科学 GISスタンダード』（古今書院、2015）  
『地理情報科学事典』（朝倉書店、2004）  
『地図と測量のQ&A』（一財）日本地図センター、2013）  
『地図の事典』（朝倉書店、2021）

### 【成績評価の方法と基準】

授業内課題（30%）とレポート（70%）の合計得点により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続でき、Web地図を閲覧できる端末（ノートPCかタブレット）を持参するように指示することがある。その他、適宜必要な文房具の持参を指示することがある。

### 【Outline (in English)】

This course focuses on geographic information system(GIS) and geographical space to understand the perspective and basis knowledge of geographic information science, cartography and geography.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on short tests (30%) and final report (70%).

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

## 測量学及び測量実習 I

菅 富美男

授業コード：A3461 | 曜日・時限：金3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

備考(履修条件等)：「測量学及び測量実習 I」を履修する場合は、「測量学及び測量実習 II」も同時に履修すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

## 【到達目標】

測量に関する基礎的知識を習得する。測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる。距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

測量法及び測量の資格と社会との関係、測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義、測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習、測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う。教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ。測量結果に基づき計算を行い、最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する。

課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び講義中に適宜、講評・解説を行う。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                                                 |
|------|------------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | 測量とは                   | 写真測量や地図作成・編集を含む測量の概要と歴史について講義する                    |
| 第2回  | 測量の法律と資格               | 測量に関する法律と測量の資格、法律に定められた作業規程について講義する                |
| 第3回  | 地球の大きさ・形状              | 地球の大きさ、形と測量の原理について講義する                             |
| 第4回  | 誤差の種類                  | 誤差の種類と対処方法について講義する                                 |
| 第5回  | 最確値の計算法                | 誤差を除去し最も確からしい値を計算する方法の計算実習を行う                      |
| 第6回  | 各種測量とその原理              | 角測量、距離測量、GPS測量、トータルステーションを用いた測量、簡易測量の原理と方法について講義する |
| 第7回  | 水準測量の原理                | 水準測量の原理、使用する機器について講義する                             |
| 第8回  | 水準測量の機器の使用<br>方法       | レベルの使用方法を習得する                                      |
| 第9回  | 水準測量の観測方法              | 観測方法の習得と観測方法による誤差の除去方法を学ぶ                          |
| 第10回 | 水準測量の往路観測              | 構内において水準測量の往路の観測実習を行う                              |
| 第11回 | 水準測量の復路観測と<br>観測値の点検方法 | 構内において水準測量の復路の観測実習及び観測値の点検方法を習得する                  |
| 第12回 | 水準測量の観測データの<br>整理法     | 観測データの整理方法について講義する                                 |
| 第13回 | 水準測量実習データを<br>用いたデータ整理 | 実習で行った観測データの整理する                                   |
| 第14回 | 標高の最確値の計算              | 観測結果を使用して新点の標高及び最確値等を計算する                          |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題の宿題は、次の授業時までまでに必ず提出すること。

授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までまでに終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂第3版 基礎測量学』電気書院

## 【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするといよい。

中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量 第2版』日本加除出版  
齊藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、授業中に行う計算・測量の成果(最終課題)(50%)、実習態度(30%)を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。

なお、測量学及び測量実習 I を履修する場合は、測量学及び測量実習 II も同時に履修すること。測量学及び測量実習 I だけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。

また、使用する教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の操作方法等の実習内容について判りやすい説明を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する。

授業がオンライン実施に変更となった場合は、Zoomを使用してリアルタイムで実施する。なお、実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする。

## 【Outline (in English)】

This course introduces land surveying, that is the method used to get geo-spatial information regarding position, especially focusing on levelling survey.

In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

## 測量学及び測量実習Ⅱ

菅 富美男

授業コード：A3462 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年  
 備考(履修条件等)：「測量学及び測量実習Ⅱ」を履修する場合は、「測量学及び測量実習Ⅰ」も同時に履修すること。  
 その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き、測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い、測量に関する基礎的技術の習得を目指す。特に、トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量であるGNSS測量を中心に講義・実習する。

### 【到達目標】

基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる。GNSS測量の原理、方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基準点測量の方法について学び、実習を行う。実習で得られたデータに基づいて誤差処理、計算を行う。また、GNSS測量などについても簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる。課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                |
|------|---------------|-----------------------------------|
| 第1回  | 基準点測量の概要と使用機器 | 基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する         |
| 第2回  | 基準点測量の方法      | 基準点測量の方法について講義する                  |
| 第3回  | 基準点測量の観測計画    | トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画(選点)の講義する |
| 第4回  | 基準点測量の観測1     | 基準点測量の観測方法と観測結果の許容範囲の見方について講義する   |
| 第5回  | 基準点測量の観測2     | トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する   |
| 第6回  | 基準点測量の実習1     | 構内においてトータルステーションを用いた観測点1の観測を実習する  |
| 第7回  | 基準点測量の実習2     | 構内においてトータルステーションを用いた観測点2の観測を実習する  |
| 第8回  | 基準点測量の実習3     | 構内においてトータルステーションを用いた観測点3の観測を実習する  |
| 第9回  | 基準点測量データの処理1  | 観測データ整理を行う                        |
| 第10回 | 基準点測量データの処理2  | 距離補正計算を行う                         |
| 第11回 | 基準点測量データの処理3  | 標高計算を行う                           |
| 第12回 | 基準点測量データの処理4  | 座標計算を行う                           |
| 第13回 | GNSS測量1       | GNSS測量の原理及び測量について講義する             |
| 第14回 | GNSS測量2       | GNSS受信機を用いてネットワーク型RTK測量を体験する      |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。  
 授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。また、授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までには各自終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂第3版 基礎測量学』電気書院

### 【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。  
 斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂  
 飯村友三郎ほか著『公共測量教程 TS-GPSによる基準点測量 三訂版』東洋書店

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、授業中に行う計算・測量の成果(最終課題)(50%)、実習態度(30%)を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。  
 なお、測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は、測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること。測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。  
 また、使用教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の取り扱いを含め実習内容について判りやすく説明を行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓(度分秒単位の60進法の角度入力による三角関数の使用ができる機種を推奨。スマートフォンなどの標準の関数電卓にはない機能なので対応アプリを導入するなど注意)および直定規を必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。

### 【その他の重要事項】

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する。

授業がオンライン実施に変更となった場合は、Zoomを使用してリアルタイムで実施する。なお、実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする。

### 【Outline (in English)】

In succession of [surveying and survey training I], this course introduces land surveying, especially focusing on the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

## 写真判読 I

八木 浩司

授業コード：A3463 | 曜日・時限：金5/Fri.5  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地殻変動や気候変動の重合現象として地表は形成されてきた。地表が3次元的に配列された形成年代の異なる地形面から成り立っていることを視覚的に認知することは、地表が隆起したり侵食された結果発達してきたことを考える第一歩となる。この講義では地形図の判読から始まり空中写真を用いた地表の3D判読を学び、実際の地形を空間的に連続する3次元現象であることを認識可能とする。

## 【到達目標】

地表の3D判読を通して、身近な場所はもちろん遠く離れた場所に関しても地表の3次元的な空間構成を理解し、それらの場所の成り立ちを掘り下げて考えられることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で用語等の解説をした後、過去の河床・海岸平野として形成された地形面が高低差を持ちながら地表に配列されていることを空中写真判読で実際に認識・把握するためのトレーニングを行う。

授業で判読した地形面を実際に現地を確認するため、6月初旬に土曜日を用いて集中講義形式で、東京駅を起点に都内中心部における地形面や段丘崖の分布を自分の足で確認するための野外学習を行う。実施日については履修者と協議して決めたい。

自身の関心の深い地域について空中写真判読を行い、その結果を地形発達史的に理解するためのプレゼンテーションを行うことで、理解を深めていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                         | 内容                                                           |
|------|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 地形景観を読む                                     | 環境の基層構造として地形を如何に認識するかを学ぶ。                                    |
| 第2回  | 地理院地図を使いこなす                                 | 身近に利用できる地図サイトに入り、その活用法を学ぶ。                                   |
| 第3回  | 地形面とは何か                                     | 景観の中に隠れた段差を読み取る。地形図に示された浸食面、段丘崖、段丘面を読み取る。<br>事例：東京、大阪、仙台西部   |
| 第4回  | 地形面を読み取る                                    | 地形図上に示された扇状地を読み取る。<br>事例：札幌、山形、松本、富山                         |
| 第5回  | 空中写真判読による地表の3D認識1                           | 空中写真判読の原理を理解し、実際に地表の凹凸を確認する。                                 |
| 第6回  | 空中写真判読による地表の3D認識2                           | 東京首部の空中写真の実体判読によりそこに存在する段差を確認し、それを地形図上に正確にプロットする。            |
| 第7回  | 東京首部の地形を歩く1<br>東京駅-皇居東御苑-千鳥ヶ淵-憲政記念公園-日本水準原点 | 空中写真判読結果を参照しながら東京首部を歩き、普段何気なく登り降りしていた坂道が連続する段丘崖であることを確認する。   |
| 第8回  | 東京首部の地形を歩く2<br>日本水準原点-溜池山王-赤坂見附-市ヶ谷見附       | 空中写真判読結果を参照しながら東京首部を歩き、普段何気なく登り降りしていた坂道が連続する段丘崖であることを確認する。   |
| 第9回  | 東京首部の地形を歩く3<br>市ヶ谷見附-東池袋-飛鳥山-田端             | 空中写真判読結果を参照しながら東京首部を歩き、普段何気なく登り降りしていた坂道が連続する段丘崖であることを確認する。   |
| 第10回 | 地形図上で活断層を読み取る                               | 扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を地形図で読み取る。<br>事例：京都、富山平野・呉羽山断層   |
| 第11回 | 空中写真で活断層を読み取る1                              | 扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を空中写真で読み取る。<br>事例：福島盆地西縁、長野盆地北西縁 |
| 第12回 | 空中写真で活断層を読み取る2                              | 扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を空中写真で読み取る。<br>事例：琵琶湖西岸、山崎断層     |

第13回 空中写真判読による地域の地形判読

自身の関心のある地域について空中写真判読を用いた段丘区分や活断層判読を行う。

第14回 地形判読結果のプレゼンテーション

前回行った空中写真判読結果をゼミ形式で発表する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した課題を毎回与えられます。自宅でもインターネットに接続されたパソコンで地理院地図を開きながら課題に対処することが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配付する。

テキストは指定しない。

## 【参考書】

貝塚ほか「写真と図で見る地形学」東大出版  
 貝塚爽平「東京の自然史」講談社学術文庫  
 岡田・八木「図説日本の活断層」朝倉書店  
 五百沢「新・歩いていよう東京」岩波ジュニア新書

## 【成績評価の方法と基準】

提出された各回の授業での課題の評価を素点として合計するとともに、最終回のプレゼンとそのレポートの評価を総合する。その比率はそれぞれ60%および40%とする。

総得点の60点以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

自宅での学習のためインターネットに接続されたパソコンが必要です。一部の授業ではマルチメディア室を使用します。

## 【Outline (in English)】

Topography is the most basal structure of environments. Topographic evolution has occurred according to global climatic change and regional tectonic movement since the middle Pleistocene. Outline of this class is to learn geomorphic evolution.

Objectives of this class is to realize the geo-surface is phenomena of 3D by topographic maps and interpretation of aerial photos.

Learning activities outside of the class room will be done in the downtown area of Tokyo on a specific Saturday, in May or June.

Presentation of a study report on a specific region where each student is interested in and chooses to deepen its understanding at the final stage of this class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading policy is according to understanding level of geomorphic evolution based on results of subjects given at each class including the field study report and the presentation. The weighting ratio of the grading is 60% for the reports and 40% for the presentation, respectively. More than 60% of the total score is required to pass in this class.

GE0300BF (地理学 / Geography 300)

## 写真判読Ⅱ

郭 栄珠

授業コード：A3464 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

備考(履修条件等)：情報実習室での授業となるため受講人数に制限があります。受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

その他属性：

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

ポストデジタル情報時代に求められる社会人を育成するため、写真判読の最先端技術を通してDX人材に求められるスキルや育成アプローチについて紹介・説明する。具体的には、航空写真及び人工衛星画像からどのような情報が読み取れるのか、目視判読から簡易な画像処理の応用まで実習する。特に、衛星リモートセンシング技術による地形判読から空間的異質性・地域性・歴史性を結びつけることが目的である。さらに、長期的な土地利用変化、効率的な災害状況把握など衛星画像データ分析活用・応用例や実務スキルにも役立つ画像データ判読のスキル(手法)を学ぶ。

### 【到達目標】

本講義で使用する高分解能光学衛星画像データは、航空写真と同様に目視判読による情報抽出が容易であり、より広い範囲の地形判読が可能になる。さらに、地形判読の重要性を単画像だけではなく複数画像を使うことにより地形変化の基礎的な知識と判読技術が習得できる。本講義では、航空写真や衛星画像等のさまざまなデジタルデータによるリモートセンシング技術の原理を深く理解し、地理情報システム(GIS)学をもとに簡便に計算できるデータ分析方法や判読力、応用スキルなどを身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本大学の授業実施方針に従い、対面授業を基本として行います。ただし、感染状況の変化によっては方針を変更する場合があります。講義の前半は、理論講座(オンライン型式)で地形判読において衛星画像の原理について学ぶこと、講義の後半は自主学習講座(対面型式)でGISソフトウェアとデジタル画像解析による地形判読の実習トレーニングを行う。実習トレーニングは、日本全国を対象に、各自で興味ある地域を選定し、デジタル空中写真や衛星画像等の実習データをダウンロードしつつデジタル写真判読や画像判読が可能になるよう課題解決の企画能力及び分析力を身につけるアクティブラーニング手法である。実習トレーニング結果は、授業内でのリアクションファイルやレポート(課題)を提出しフィードバックする。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                         | 内容                                                                        |
|------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 衛星リモートセンシングとは?              | 航空写真と衛星画像との違いを理解する。                                                       |
| 第2回  | 画像処理の基礎：電磁波                 | 衛星画像の原理を理解及び把握する。                                                         |
| 第3回  | 画像処理の基礎：投影法                 | 衛星画像のマッピング原理(座標系)を理解及び理解する。                                               |
| 第4回  | 画像処理の基礎：幾何補正                | 統合型GIS上で衛星画像を重ね合わせる手法を理解する。                                               |
| 第5回  | 宇宙から撮った画像から地形判読(1)：地形分類     | 高地地形、低地地形、海岸地形                                                            |
| 第6回  | 宇宙から撮った画像から地形判読(2)：可視化      | 地形の可視化(リニアメント)から断崖系の分布を判読する。                                              |
| 第7回  | 衛星データ準備：データダウンロード           | JAXAのALOS衛星画像とNASAのLandsat, MODIS衛星画像の実習データをダウンロードする。                     |
| 第8回  | 3次元地形判読：数値標高モデル(DEM)データ分析実習 | 地形判読に重要な数値標高モデル(JAXA W3D, SRTM, ASTER)の理解およびその3次元分析できる技術を習得する。            |
| 第9回  | 衛星画像を用いた土地被覆分類              | 衛星画像を用いた地表面土地被覆分類の自動アルゴリズムを理解し、衛星画像の実習データを解析して簡易土地被覆分類の実習を行う。             |
| 第10回 | 水災害による地形判読：洪水氾濫             | 国内・国外の洪水氾濫事例から洪水地形の特徴を把握し、衛星画像の実習データから洪水範囲の氾濫水を抽出する手法を習得する。               |
| 第11回 | 土砂災害による地形判読：地すべり、土石流、斜面崩壊   | 国内・国外で発生した地すべり、土石流、斜面崩壊の地形特徴を把握し、衛星画像の実習データを用いて土砂災害事例からその崩壊の判読範囲を描く実習を行う。 |

|      |             |                                                     |
|------|-------------|-----------------------------------------------------|
| 第12回 | 植生指標による地形判読 | 衛星画像の実習データを分析し、正規化植生指標(NDVI)による植生分類図を試作する。          |
| 第13回 | GISデータの変換   | 衛星画像から分類・抽出したデータを組み合わせるためにGIS標準フォーマットのデータ変換手法を習得する。 |
| 第14回 | 各自の実習成果発表   | 実習で学んだ内容を基に応用力向上のための各自1分スピーチ。                       |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

ESRI ArcGIS ProやQ-GISのような地理情報関連ソフトウェアの基礎を十分にマスターし、日本の国土地理院やJAXAなどの最近技術動向に興味を持ちながら写真判読に関する情報を事前に学習する必要がある。本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教科書を使用しない。資料は各講義・実習中に配布

### 【参考書】

- 1) JAXAとNASAのウェブサイト
- 2) 改訂版 図解リモートセンシング 日本リモートセンシング研究会編 (社)日本測量協会
- 3) Q-GIS <https://qgis.org/ja/site/>
- 4) ArcGIS Pro <https://www.esri.com/products/arcgis-desktop/>

### 【成績評価の方法と基準】

本大学の授業実施方針に従い、対面授業を基本とし、実習成果のスピーチ(60%)、レポート(20%)、出席・平常点(20%)により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートに限らず、学生からの意見や要望などを踏まえた授業改善に取り組む。

### 【学生が準備すべき機器他】

該当なし

### 【Outline (in English)】

This lecture course introduces and explains the skills and training approaches required of DX personnel through the latest technology in photo interpretation in order to develop the working adults required in the post-digital information age. Specifically, what kind of information can be read from aerial photographs and satellite images will be practiced, from visual interpretation to the application of simple image processing.

【Goal】The high-resolution optical satellite imagery used in this course, like aerial photographs, can be easily extracted by visual interpretation, enabling terrain interpretation over a wider area. In addition, the importance of terrain interpretation is emphasized through the use of multiple images, not just a single image, so that students can acquire basic knowledge of terrain change and interpretation techniques. This course aims to provide students with a deep understanding of the principles of remote sensing technology using various digital data such as aerial photographs and satellite images, and to acquire data analysis methods, interpretation skills, and application skills that can be easily computed based on geographic information system (GIS) studies.

### 【Learning activities outside of classroom】

With the fundamentals of geographic information-related software such as ESRI ArcGIS Pro and Q-GIS, It is necessary to research relevant information on photographic decipherment with interest in recent technological trends from Japan's GSI, JAXA, and other organizations. Standard preparation and review time for this class is approximately 2 hours each.

### 【Grading Criteria/Policy】

Classes will be evaluated by speeches (60%), reports (20%), and attendance/ordinary points (20%) resulting from the practical training.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

**外書講読 (1)**

小寺 浩二

授業コード：A3469 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業の目的は、自然地理学を構成する主要な柱とも言える気候、地形、水文などの各分野に関する外国語(主として英語)の文献をバランスよく読み、その内容を適正に理解することにある。また英語で書かれた論文をまとめ、レビューを行い、その内容を英語で発表することができるようになる。

授業の前半では、指定した範囲の日本語訳を提出し、講義中に発表する形式をとり、後半では、英語の論文レビューと英語での発表を行う。

**【到達目標】**

本授業を受講する学生のすべてが、英語で書かれた基本的な自然地理学分野の教科書を自ら読むことができ、英語で書かれた論文をレビューし、その内容を英語で発表できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は学習支援システムを利用して自習・課題提出型のオンデマンド形式で行う。地理学の基本である自然地理学の各分野に関連する基礎的な外国語の文献を、学習支援システム上に教材・課題として授業開始時間までに毎回アップロードし、受講者に配布する。受講者は指定された課題を期日までに学習支援システム上で提出する。また、英語で書かれた論文を検索し、リストを作成した上で、レビューし、英語で内容を発表できるようにする。提出された課題に関しては、毎回評価を示し、模範的な解答も示す。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                         | 内容                                               |
|------|-----------------------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | 自然地理学分野の文献購読(1)             | 自然地理学分野の文献を読んで読解能力をつけるとともに、毎回のテーマに関する課題に英語で解答する。 |
| 第2回  | 自然地理学分野の文献購読(2)             | 第1回と同様                                           |
| 第3回  | 自然地理学分野の文献購読(3)             | 第2回と同様                                           |
| 第4回  | 自然地理学分野の文献購読(4)             | 第3回と同様                                           |
| 第5回  | 自然地理学分野の文献購読(5)             | 第4回と同様                                           |
| 第6回  | 自然地理学分野の文献購読(6)             | 第5回と同様                                           |
| 第7回  | 自然地理学分野の英語文献検索とリスト化         | 自然地理学分野の英語論文の検索方法を学び、一覧リストを作成する                  |
| 第8回  | 自然地理学分野の英語文献のカード化           | 選択した英語論文のカード化を行う                                 |
| 第9回  | 自然地理学分野の英語文献のレビュー           | 選択した英語論文のレビューを行う                                 |
| 第10回 | 自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答(1) | 自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答                         |

|      |                             |                         |
|------|-----------------------------|-------------------------|
| 第11回 | 自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答(2) | 第10回と同様                 |
| 第12回 | 自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答(3) | 第11回と同様                 |
| 第13回 | 自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答(4) | 第12回と同様                 |
| 第14回 | まとめ                         | 授業を通じての課題と今後の学習についてまとめる |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

学習支援システムを通じて配布する文献を読み、和訳した上で課題として与えられた問題を解く。このためには関連する事柄について調べたり、質問事項をまとめておくことが望ましい。学習支援システムに課題提出締切後に解答例をアップするので、各自予習復習に利用して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

アメリカの自然地理学の大学生レベルの教科書、およびワークブックを使用する。これを学習支援システムを通じてpdfで配布するので、受講者がテキストを購入する必要はない。

**【参考書】**

MxKnight's Physical Geography, Darrel Hess, ISBN 978-0-321-82043-3

**【成績評価の方法と基準】**

本科目の性格上、課題を提出することを前提とする。14回の課題を1回10点満点で評価し、最終的に換算することで評価する。最低10回以上課題を提出しない場合は、評価せずEとする。講義内での発表を30%、提出された課題を70%として評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

電子辞書、パソコン、タブレット (学習支援システムを画面で見える場合)。ネットで検索しながら解く課題もある。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this class is to read well-balanced foreign-language (mainly English) texts in fields such as climate, topography, and hydrology, which can be said to be the main pillars of physical geography, and to fully understand the content. In addition, students will be able to review papers written in English and present them in English.

All students taking this class will be able to read basic physical geography textbooks written in English, review academic papers written in English, and present their findings in English.

This class will use a learning support system, but will be conducted face-to-face. Basic foreign language materials related to each field of physical geography, which is the basis of geography, will be uploaded in advance to the learning support system as teaching materials and assignments and distributed to students. Students submit assigned assignments through the learning support system by the deadline. In class, the results will be announced, followed by a question and answer session, followed by model answers.

Each class requires at least 3 hours of preparation and review, and grades will be assessed as 40% for each assignment, 30% for class presentations, and 30% for final presentations.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

## 地理情報システム (GIS) I

中山 大地

授業コード：A3471 | 曜日・時限：金1/Fri.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

備考(履修条件等)：春学期の「地理情報システム (GIS) I」を履修する場合は、春学期「地理情報システム (GIS) II」も同時に履修すること。

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デスクトップ型GISであるArcGIS Proを用いて、GISの基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまなGISデータを用いて、ベクタ型・ラスター型データの基本的な分析方法を学ぶ。

### 【到達目標】

GISを用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

20分程度の説明と80分程度の実習を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                              |
|------|---------------------|---------------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス・GISの基本的な操作1 | 授業ガイダンス・GISの概念と構成、空間データの視覚化     |
| 第2回  | GISの基本的な操作2         | 地図とGIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現     |
| 第3回  | 属性テーブル入門1           | 属性テーブルの概念、基本的な操作                |
| 第4回  | 属性テーブル入門2           | 属性検索                            |
| 第5回  | 属性テーブル入門3           | 属性結合                            |
| 第6回  | ネット上のデータの利用1        | センサデータのダウンロードとコロプレスマップの作成       |
| 第7回  | ネット上のデータの利用2        | センサデータのマージ                      |
| 第8回  | ネット上のデータの利用3        | 国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換          |
| 第9回  | 数値地図の利用1            | 数値地図のインポート、座標系の変換               |
| 第10回 | 位置情報の取得と表示1         | 経緯度座標からのXYデータ作成                 |
| 第11回 | 位置情報の取得と表示2         | アドレスマッチングによるXYデータの作成            |
| 第12回 | 人口分布の推定1            | センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定 |
| 第13回 | 人口分布の推定2            | センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定 |
| 第14回 | レポートの作成             | レポートとしてGIS操作マニュアルを作成            |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

### 【参考書】

野上ほか(2001)『地理情報学入門』、古今書院。  
佐土原ほか(2005)『図解!ArcGIS一身近な事例で学ぼう』、古今書院。  
高橋ほか(2005)『事例で学ぶGISと地域分析—ArcGISを用いて』、古今書院。  
村井ほか(2005)『GIS実習マニュアル ArcGIS版』、日本測量協会。  
橋本雄一(2019)『五訂版 GISと地理空間情報: ArcGIS 10.7とArcGIS Pro 2.3の活用』、古今書院。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題(80%)、平常点(20%)で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率70%以下の学生に対しては成績をつけない。毎回の課題提出をもって平常点とする。レポートはGISの操作マニュアルの作成である。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。バックアップのために16GB程度のUSBメモリを用意するのが望ましい。

### 【その他の重要事項】

1. 時間割上は春学期金曜1限に「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3471)、春学期金曜2限に「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3472)となっているが、実際には4月・5月の金曜1限・2限に「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3471)を実施し、6月・7月の金曜1限・2限に「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3472)を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、春学期開講の「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3472)も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は秋学期開講の「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3903)および「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3904)の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の春学期開講「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3472)の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までにHoppiiに自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には秋学期の受講を指定することがある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

### 【Outline (in English)】

#### 【Outline】

The objective of this lecture is to learn the basic operation of GIS using ArcGIS Pro, which are desktop GIS. In this lecture, we learn basic analysis methods of vector and raster data using various GIS data.

【Work to be done outside of class】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. Students are expected to attend the lectures. The report is to write a GIS operation manual.

#### 【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

**地理情報システム (GIS) II**

中山 大地

授業コード：A3472 | 曜日・時限：金2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

備考(履修条件等)：春学期の「地理情報システム (GIS) II」を履修する場合は、春学期「地理情報システム (GIS) I」も同時に履修すること。

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

デスクトップ型GISであるArcGIS Proを用いて、GISの応用的な分析手法を学ぶ。

**【到達目標】**

GISを用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

PBL (Problem Based Learning)を行う。2名一組のグループごとに、ある地域の災害避難場所を仮定し、GISを用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3回目の実習終了時に全体的な計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながら作業を行う。毎回の作業後には作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                                  |
|------|----------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回  | GISを用いた避難場所の評価手法の説明1 | 加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析                              |
| 第2回  | GISを用いた避難場所の評価手法の説明2 | ジオプロセッシングを用いた避難圏の人口推定                               |
| 第3回  | 計画書の作成               | 作業方針を決定                                             |
| 第4回  | 作業1                  | 災害弱者の定義、避難所選定方針の決定                                  |
| 第5回  | 作業2                  | 必要なデータの入手1(位置情報を取得することにより、避難所データを入手・作成する)           |
| 第6回  | 作業3                  | 必要なデータの入手2(属性結合による人口データの作成)                         |
| 第7回  | 作業4                  | 加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出1(ベクトルデータからラスタデータへの変換、空間分割) |
| 第8回  | 作業5                  | ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定                          |
| 第9回  | 作業6                  | 結果の検討1(避難所・避難圏の評価)                                  |
| 第10回 | 作業7                  | キャッチアップ                                             |
| 第11回 | 作業8                  | 加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出2(別シナリオによる作業)               |
| 第12回 | 作業9                  | 結果の検討2(避難所・避難圏の再評価)                                 |
| 第13回 | 作業10                 | レポート作成1(結果の地図化など)                                   |
| 第14回 | 作業11                 | レポート作成2(結果の考察など)                                    |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト(教科書)】**

教科書は使わない。プリントを公開する。

**【参考書】**

プリントを公開する。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート課題1回(最終報告書、100点満点)で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率70%以下の学生に対しては成績をつけない。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報教室を使用する。バックアップのために16GB程度のUSBメモリを用意するのが望ましい。

**【その他の重要事項】**

1. 時間割上は春学期金曜1限に「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3471)、春学期金曜2限に「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3472)となっているが、実際には4月・5月の金曜1限・2限に「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3471)を実施し、6月・7月の金曜1限・2限に「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3472)を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、春学期開講の「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3471)も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は秋学期開講の「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3903)および「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3904)の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の春学期開講「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3471)の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までにHoppiiに自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には秋学期の受講を指定することがある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

**【Outline (in English)】****【Outline】**

The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS Pro. In this exercise, students work in pairs to conduct Problem Based Learning (PBL).

The task is to evaluate the establishment plan of a disaster shelter in a certain area by using GIS. The students are required to submit an overall plan at the end of the third practical session. After that, the students work according to the plan. Students are required to submit a work report each time and a final report at the end of the semester. Submission of reports and feedback will be done through the learning support system (Hoppii).

**【Work to be done outside of class】**

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. The final report is to write a GIS operation manual.

**【Others】**

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.



HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

## 文化地理学 (1)

吉野 裕

授業コード：A3482 | 曜日・時限：火1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は地理学分野のひとつである「文化地理学」をテーマとしています。文化地理学の研究対象は、たとえば、都市や集落の景観、言語、宗教、衣食住、社会集団、世界観 (人々の空間のとらえ方) など非常に多様です。この授業では文化地理学の学問上の位置づけや、これがどのようなテーマで研究されてきたか、研究史にもふれながら紹介していきます。その際に、文化地理学の研究がいかなる方法・資料を用いて行われてきたかについても具体的に説明します。みなさんはこの科目を履修することにより、文化地理学の研究上の視野が極めて広く、なおかつ、その研究手法が非常に多様であることを深く理解するでしょう。

### 【到達目標】

- ①文化地理学の学問上の位置づけとその研究史について説明できる。
- ②文化地理学の視点でなされた研究の特徴、ならびに、その研究方法について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・授業形態：講義。
- ・リアクションペーパー (成績評価に使用します) を毎回、提出していただきます。
- ・毎回、資料を配付します。インターネットを通じての配布・配信はいたしませんのでご注意ください (欠席された場合は、翌週、お声がけ下さい)。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                             |
|------|-------------------|--------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | 受講上の注意事項と文化地理学の学問上の位置づけを確認しよう  |
| 第2回  | 文化地理学の歴史①         | 環境論とは何か?                       |
| 第3回  | 文化地理学の歴史②         | 多様化する研究の視点                     |
| 第4回  | 文化地理学の研究とその方法とは?  | 海外でのフィールドワークの紹介                |
| 第5回  | 「地域のとらえ方」について学ぼう① | 等質地域と機能地域から地域構造を把握しよう          |
| 第6回  | 「地域のとらえ方」について学ぼう② | 「農作物の世界的な旅」から分布が形成される仕組みを把握しよう |
| 第7回  | 「地域のとらえ方」について学ぼう③ | メンタルマップ・知覚と行動                  |
| 第8回  | 「地域のとらえ方」について学ぼう④ | 好きな空間と嫌いな空間                    |
| 第9回  | 文化地理学の研究の紹介①      | 言語                             |
| 第10回 | 文化地理学の研究の紹介②      | 風土に根ざした生業・生活文化                 |
| 第11回 | 文化地理学の研究の紹介③      | 宗教と人口                          |
| 第12回 | 文化地理学の研究の紹介④      | 民俗                             |
| 第13回 | 文化地理学の研究の紹介⑤      | ジェンダー                          |
| 第14回 | 試験・総括             | 試験の実施と授業のまとめ                   |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①授業で学修した専門用語の定義を地理学の事典などで調べる。
- ②授業内容に関する図書などを探し、読んで知識を獲得する。毎回、授業の前後に上記①・②の準備学習・復習を行って下さい (合計4時間を毎回の標準とします)。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

- ・森 正人・中川 正『文化地理学ガイダンス 改訂版』ナカニシヤ出版、2022年 (第1版)。
- ・高橋伸夫・田林 明・小野寺 淳・中川 正『文化地理学入門』東洋書林、1995年 (第1版)。
- ・千葉徳爾『文化地理入門』大明堂、1991年 (第2版)。

### 【成績評価の方法と基準】

- ①授業内テスト:第14回の授業時に試験を実施します (70%)。

②授業参画度:毎回、リアクションペーパーを提出していただきます。その記載内容で成績を評価します (30%)。

上記の①・②をもとに、成績を総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに記載いただいたご質問・ご意見をふまえて授業を進めて参ります。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

非常勤講師につき、オフィスアワーの設定はありません。授業の前後に質問や書類へのサインなどに対応しますので、お声がけ下さい。

### 【Outline (in English)】

・ Course outline: The objective of this course is to understand the methods of study on cultural geography, and to obtain wide knowledge of it.

・ Grading Criteria /Policy: By the end of this semester, students will be able to explain the methods of study on cultural geography, and regional characteristics originated in nature, culture, economy, population, and so on.

・ Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books and dictionaries. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

・ Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%, reaction papers: 30%

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

## 自然地理学特講 (4)

近藤 博史

授業コード：A3488 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地球上では未知な生物を含めて数百万～数千万種もの生物が存在すると言われている。それら生物は様々なスケールで環境に影響を与え、また環境は生物に影響を与えている。生態学とは、生物と環境が関係する自然全体を理解する学問であり、基礎的なものから応用的なものまで様々な分野から構成されている。この授業では、生態学の基礎知識と概念を身につけ、実際に自然環境で起こっている現象の解明や諸問題を解決する為の知識と思考力を養う。

## 【到達目標】

生態学の基本的理論を理解することができる。  
様々な地域やスケールにおける生態系の仕組みを理解することができる。  
世界の様々な場所で起こっている環境諸問題の背景を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義期間の前半において、生態学を学ぶ上で重要な考え方や基本的理論を解説する。後半では、身近で起こっている現象や世界レベルでの事例について、最新の研究成果を取り上げつつ、生態学的に解説していく。  
毎回の授業では、プリントを配布し、スライドを用いて講義を行う。必要に応じて学生に意見を求め、ディスカッションを行う。  
授業の終わりには、毎回の授業に関連したテーマで簡単な課題を出し、次の授業時に提出してもらう。  
今まで生態学(生物学含む)に関する学問に触れたことがなかったり、数式や専門用語などを覚えるのが苦手だったりする学生でも興味を持ってもらえるように授業を行う。

自然地理学的、および人文地理学的背景を取り上げつつ、それらと生態系との関わりなど、地理学の分野で学んできたことを活かせるような授業を行う。授業に関する質問・相談などがある学生については、毎回の課題内に質問とコメント欄を設けるので、そこに適宜記入し提出すること。提出された内容については、次回授業までに全て回答し、学生に返却する。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                              |
|------|-------------|-------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 生態学の分野について、生態系概念、生態学とはどういう学問か                   |
| 第2回  | 生物多様性とは     | 種の分布、生態系の多様性、種多様性、遺伝的多様性、生物多様性の評価               |
| 第3回  | 生物の進化について   | 突然変異と自然選択、性比の決定、個体群の遺伝的構成の維持と変化                 |
| 第4回  | 生物の生活史と繁殖戦略 | 生物の生活史、繁殖戦略、r-K戦略、生存曲線、生物密度と分布、環境収容力            |
| 第5回  | 生物間相互作用     | 生物間の相互作用、エネルギーや栄養の循環、ニッチ、競争、共存、生態系機能            |
| 第6回  | 森林の生態学      | 森林の遷移・更新、自然攪乱と人為攪乱、樹木の共存、種子散布など                 |
| 第7回  | 身近な自然の生態学   | 田んぼ、ため池、草原、雑木林の生態系について                          |
| 第8回  | 都市域の生態学     | 都市の空間構成、都市化と環境負荷、環境との共生、生態系サービス、コケの生態など         |
| 第9回  | 鳥の生態学       | 生物の種数平衡、移入、定着、絶滅、固有種                            |
| 第10回 | 外来種について     | 外来種の問題、外来種の分布拡大、国内外来種など                         |
| 第11回 | 海の生態学       | 海洋の微生物・プランクトン・海藻・魚類・海洋哺乳類などの分布・行動・進化、有機物生産、物質循環 |
| 第12回 | 生態系の保全について  | 生態系サービスの保全、持続的利用、レジリエンス、環境問題                    |
| 第13回 | 生態系の管理について  | 森林再生、移入種駆除、生態系の復元、生態系管理と生態系サービス                 |
| 第14回 | まとめ         | 総括、重要ポイントの確認                                    |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前に当日の授業のテーマに関する内容・キーワードについて簡単に調べておくことを推奨します。

普段の毎日の生活の中でも生態学的な事例はたくさん起こっています。

授業の内容に関する生態学的な事例を見つけたらメモなどをしておくとレポートやディスカッションなどに役立ちます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

使用しない。ただし、毎回の授業に必要な資料を配布します。

## 【参考書】

参考書は授業中に随時紹介しますが、入門としては以下の参考書が良いでしょう。

1. 生態学入門, 日本生態学会編, 東京化学同人
2. アメリカ版大学生物学の教科書第5巻生態学, デヴィッド・サダヴァ他著, ブルーバックス

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)と小レポート課題の合計点(50%)で成績評価を行います。小レポート：授業中にその回の内容に関わる簡単なテーマを出題し、次回までに提出するという方法で行います。

また、授業中の質疑応答や発言などは随時記録します。

授業参加度として平常点(+a)などに反映されます。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義後のディスカッション・個別対応について受講学生から質疑応答の時間を増やしてほしいという意見が多かったので、できるだけ講義中や講義後に時間を設けるようにします。また、個別対応もできる範囲で受け付けます。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示します。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室、もしくはメールで随時対応します。授業に関する質問や要望のある学生は、小レポートに記入してもよい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

On Earth, it is believed that there are a vast number of species, ranging from several million to tens of millions, including many unidentified organisms within this count. These organisms exert influence on the environment at various scales, and the environment impacts to the organisms. Ecology, as a discipline, strives to comprehend the holistic interconnection between organisms and the environment within the natural realm. It spans a spectrum of fields, encompassing both foundational and applied dimensions.

## 【Learning Objectives】

This class aims to help students grasp the basics and key concepts of ecology, with the goal of developing the necessary knowledge and analytical skills to explain natural phenomena and address various ecological challenges in real-world environments.

## 【Grading Criteria /Policy】

The final exam accounts for 50% of the total score, while the remaining 50% is assigned to short report assignments.

Short reports: students are expected to address candid questions presented by the instructor related to the class content. Students are obligated to submit their short reports by the following lecture.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to conduct brief research on keywords relevant to the day's class topic in advance. The standard time allocated for preparation and review in this class is two hours.

HUG300BF (人文地理学 / Human geography 300)

## 人文地理学特講 (4)

加藤 幸治

授業コード：A3489 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本におけるサービス化の展開と地域構造の再編について学ぶ。

### 【到達目標】

- ・日本におけるサービス経済化とその要因について説明することができるようになる。
- ・サービス経済化の進展による地域構造の再編と地理的影響について説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容                               |
|------|---------------------------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>サービス経済化・サービス化とは  | 授業概要などの説明。<br>イントロダクション          |
| 第2回  | 日本におけるサービス経済化の歴史的展開とその要因  | 講義。主として歴史的展開についてみる。              |
| 第3回  | 日本におけるサービス経済化の地理的展開       | 講義。地理的展開についてみていく。                |
| 第4回  | 日本におけるサービス経済化の地理的特徴       | 講義。地理的展開の特徴についてみていく。             |
| 第5回  | 地方圏におけるサービス業の立地とその実態      | 講義。地理的展開の特徴・影響について地方圏における状況を見る。  |
| 第6回  | 地方中枢都市における情報サービス業の展開      | 講義。東北地方を主たる事例とした状況を見る。           |
| 第7回  | 1990年代以降における情報サービス業の地域的動向 | 講義。その後の展開について。                   |
| 第8回  | 企業グループ戦略の展開と情報サービス子会社     | 講義。動向を左右する大企業グループの展開とその要因についてみる。 |
| 第9回  | 情報サービスの地域的循環              | 講義。地域循環論的視点から地理的影響をみていく。         |
| 第10回 | 小括：先行したサービス経済化とその影響       | 講義。サービス化がもたらした地理学的変化についてみる。      |
| 第11回 | サービス化と累積的循環的因果関係          | 講義。サービス化がもたらす都市集中についてみる。         |
| 第12回 | サービス化と日本における地域構造の再編       | 講義。都市集中をもたらす構造変化についてみていく。        |
| 第13回 | サービス化と一極集中                | 講義。新たな一極集中の展開についてみていく。           |
| 第14回 | サービス化と一極集中・まとめ            | 講義。後半部分と全体の振り返り。                 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

説明しきれない部分・理解できていない部分について、教科書等で確認する等の復習を行うこと。簡単・概要的な内容ではないので、復習等しないと内容が理解しがたくなりがちな講義である。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

加藤幸治 (2011) : 『サービス経済化時代の地域構造』日本経済評論社

### 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 80~100%
- ・小レポートを課すことがある (0~20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度の新規担当者につき、とくになし。

### 【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to study about "Development of Service Economy and Regional Structural Reorganization in Japan". Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to explain the followings.

1. the service economization in Japan and its factors

2. the geographical impact of the service economy on the restructuring of regional structure

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the followings.

Term-end examination: 80-100%, Short reports : 0-20%

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

**地学実験(1) (コンピュータ活用含む)**

吉岡 美紀

授業コード：A3510 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 春学期授業/Spring・1単位 | 配当年次：2022年度以前入学生  
 1～4年2023年度以降入学生2～4年年  
 その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

地学のうち、主に地形学に関わる内容を、野外での簡易測量、実際の地形の観察、簡易地形模型の作製、3D判読などにより、総合的に学習する。これらの実習を通して各人が地形学の基礎を修得することを目標とする。

**【到達目標】**

地学、特に地形学に関わる内容を、この実習を通してより深く理解し、自分のものとする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- ・この授業では、屋外にでかける回と、室内作業を行なう回があります。
- ・毎回、作業結果(課題)の提出があります。
- ・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                         | 内容                                |
|------|-----------------------------|-----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                       | 授業の概要と進め方の説明 / 野外地形観察の準備          |
| 第2回  | PCの地図                       | ネット地図の活用                          |
| 第3回  | 野外地形観察 1                    | キャンパス周辺の地形観察、市ヶ谷周辺                |
| 第4回  | 防災と地図 / 地盤液状化実験             | 地図で防災情報を入手 / 地盤液状化実験ボトル作製         |
| 第5回  | 野外地形観察 2                    | キャンパス周辺の地形観察、番町周辺                 |
| 第6回  | 地形実体視                       | アナグリフ(赤青メガネ)による地形実体視              |
| 第7回  | 地球の大きさを測る / 簡易測量 / 野外地形観察 3 | GPS計測 / 簡易測量 / キャンパス周辺の地形観察、九段坂付近 |
| 第8回  | 計測データ整理、作図                  | 前回、計測したデータから計算、作図する               |
| 第9回  | 天体望遠鏡                       | 天体望遠鏡の使用方法和天体観察                   |
| 第10回 | 地質図入門                       | 地層境界線を書き入れる                       |
| 第11回 | 地形模型                        | 簡易地形模型の作製                         |
| 第12回 | 鉱物観察 1                      | 鉱物洗い出し                            |
| 第13回 | 鉱物観察 2                      | 実体顕微鏡による鉱物観察                      |
| 第14回 | 展望と地図                       | 高所からの展望で地理情報入手                    |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業実習で修得した方法を、日常の場面でも活用してみることに。本授業の準備学習・復習時間はあわせて1時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは使用しませんが、必要な資料を配付します。

**【参考書】**

- ・フィールドに入る (100万人のフィールドワーカーシリーズ 1)、椎野若菜ほか編、古今書院
- ・フィールドワークの安全対策 (100万人のフィールドワーカーシリーズ 9)、澤柿教伸ほか編、古今書院
- その他、必要に応じ提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

実習授業なので、毎回の作業を重視します。評価割合は、毎回の提出課題が70%、授業への積極的な関与が30%

**【学生の意見等からの気づき】**

フィールドに出る回は時間が不足しがちなので、前の授業回のうち一部説明をしておく。

**【学生が準備すべき機器他】**

野帳を1人1冊、持参してください(例えば「コクヨ、セ・Y3」等)。すでに他の授業で使用しているものがあればそれで可。

**【その他の重要事項】**

教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学高校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

**【Outline (in English)】**

This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. The goals of this course for each student are to acquire a basic understanding of geomorphology and make them their own. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on tasks, reports (70%) and class contribution (30%).

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

## 地学実験(2) (コンピュータ活用含む)

丸本 美紀

授業コード：A3511 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 秋学期授業/Fall・1単位 | 配当年次：2022年度以前入学生1～4年2023年度以降入学生2～4年年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の1つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用法やデータの処理方法の習得を目的とする。

### 【到達目標】

次の3つを到達目標とする。①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出された課題の解説、及び質問の回答など全体に対してフィードバックを行う。授業内容の1例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。

気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、1～3回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を十分に理解することが求められるので、出席を確認する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                        | 内容                                                               |
|------|----------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方 | 半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。 |
| 第2回  | 地上天気図の基礎と等圧線の書き方           | 天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。                               |
| 第3回  | 地上天気図の作成とその読み方             | 気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。 |
| 第4回  | アスマン通風乾湿計の使い方              | 乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。                                       |
| 第5回  | 外濠での小気候観測                  | 大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。                                    |
| 第6回  | 気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正         | 前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。             |
| 第7回  | 風向・風速計の使い方                 | 携帯用の風向・風速計を使って、風の測定方法を学習する。                                      |
| 第8回  | 大学周辺の風の観測                  | 大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。                       |
| 第9回  | 風の分布図の作成                   | 大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。                       |
| 第10回 | 風配図の作成                     | アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。                                        |
| 第11回 | アイソプレスの作成                  | 2次元上での3変数の同時表現方法(アイソプレス)の習得とその見方を学習する。                           |
| 第12回 | 気候学図の作成                    | 降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成し、考察する。                                     |
| 第13回 | 高層気象観測の内容と利用、及び移動平均        | 高層気象観測について説明し、データを用いた作図を行なう。また、移動平均を解説し、作図を実施する。                 |
| 第14回 | レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用  | レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。                            |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編 気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習しておくことで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

### 【テキスト(教科書)】

印刷物を授業にて配布する。

### 【参考書】

地理調査法(自然編). 東郷正美・佐藤典人・井上奉生 著. 法政大学通信教育部 発行

### 【成績評価の方法と基準】

実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。評価の配分は、各実習課題の報告物が70%、平常点が30%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【学生が準備すべき機器他】

実験・実習には、色鉛筆、定規(15～30cm程度)、電卓などを使用するので、各自で準備しておくことが望ましい。

### 【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。この出席印がない場合には欠席扱いとなるので十分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用するので、その際には持参・提出を忘れないこと。観測や作業は2～3人1組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので十分に注意すること。日々の生活の中で身近な現象である気温や風、天気など、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。なお、実験の授業であるため履修人数の上限を48名とし、履修希望者がオーバーする場合は初回の授業で選抜を行います。

### 【Outline (in English)】

Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.

The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.

The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

The following three goals are to be achieved.

To acquire the knowledge for understanding natural phenomena by creating charts which are used in studies of climatology.

To acquire the skills to express the results of observational surveys conducted in climatological research.

To develop the required attitude to engage in observation practice, such as cooperating with co-observers to ensure successful observations and obtaining accurate data.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 70%, in Class Participation: 30%

PHY900BF (物理学 / Physics 900)

**物理学概論 I**

石川 壮一

授業コード：A3514 | 曜日・時限：水3/Wed.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業は、物理学の基本分野のうち、力学、熱力学に関する内容を理解することを目的とする。

個々の分野を単に学ぶだけでなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

**【到達目標】**

運動、熱 等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- ・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                       |
|------|----------------|------------------------------------------|
| 第1回  | 物理学の世界         | 授業内容全般の説明                                |
| 第2回  | 力学 (1) 力       | 力のつり合い・合成、ベクトルの考え方について学ぶ。                |
| 第3回  | 力学 (2) 運動の記述   | 運動の記述の基礎である速度、加速度について学ぶ。                 |
| 第4回  | 力学 (3) 運動法則    | 力学の基本法則 (原理) としてのニュートンの法則の内容を学ぶ。         |
| 第5回  | 力学 (4) 万有引力の法則 | 万有引力の法則についてその成立過程も含めて学ぶ。                 |
| 第6回  | 力学 (5) エネルギー   | 仕事の定義とエネルギーの概念を学ぶ。                       |
| 第7回  | 力学 (6) 運動量     | 運動量の定義と運動量が保存されることの意味を学ぶ。                |
| 第8回  | 力学 (7) 円運動     | 例題を解きながら円運動について理解する。                     |
| 第9回  | 力学 (8) いろいろな運動 | これまで学んできたことを基に自然界のいろいろな運動を理解する。          |
| 第10回 | 熱学 (1) 熱現象     | 温度、圧力など熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。                |
| 第11回 | 熱学 (2) 熱の正体    | 熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。               |
| 第12回 | 熱学 (3) 熱と仕事    | 熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。                     |
| 第13回 | 熱学 (4) 分子運動    | 熱に関する現象を、原子・分子の運動で微視的 (ミクロ的) に理解することを学ぶ。 |
| 第14回 | まとめ            | 力学と熱学のまとめ                                |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・演習問題を解く。
- ・授業内容と関連する現象について調べる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著 (サイエンス社、2013)

**【参考書】**

- ・「歴史で学ぶ物理学入門」 足利裕人著 (ふくろう出版、2012)
- ・「社会人のための物理学 I 古典物理学」 志村史夫著 (牧野出版、2015)

**【成績評価の方法と基準】**

レポート試験 (60%)、小テスト等の平常点 (40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

演習問題の解説を充実させたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料配布のために学習支援システムを利用する。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the basics of Newtonian mechanics and thermal dynamics, which are fundamental fields in physics.

The goal of this course is to understand not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY900BF (物理学 / Physics 900)

## 物理学概論Ⅱ

石川 壮一

授業コード：A3515 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、物理学の基本分野のうち電磁気学、波動、光学、現代物理学に関する内容を理解することを目的とする。

個々の分野を単に学ぶだけではなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

### 【到達目標】

電磁気、波動、光等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                           |
|------|----------------------|----------------------------------------------|
| 第1回  | 電磁気学 (1) 電荷と電流       | 電気やその流れである電流の基本的な事項について学ぶ。                   |
| 第2回  | 電磁気学 (2) 回路          | 電気機器の基本である電源、配線、電気抵抗等から構成される回路の基礎について学ぶ。     |
| 第3回  | 電磁気学 (3) 電場と磁場       | 電磁気学の基本的な考え方となる電場・磁場について学ぶ。                  |
| 第4回  | 電磁気学 (4) 電流と磁場       | 電磁石 (電流の作る磁場) とモーター (磁場中の電流に力が働く) の原理について学ぶ。 |
| 第5回  | 電磁気学 (5) 電磁誘導と電磁波    | 電磁誘導 (磁場が電流を作り出す) と電磁波の予言について学ぶ。             |
| 第6回  | 波動 (1) 波動の基本         | 波動現象の基礎について学ぶ。                               |
| 第7回  | 波動 (2) 光の屈折          | 光が屈折するときの法則性と屈折が起こる理由、屈折が起こす現象について学ぶ。        |
| 第8回  | 波動 (3) 光の波動性         | 偏光・干渉といった光のもつ波の性質について学ぶ。                     |
| 第9回  | 現代物理学 (1) 熱放射        | 物の色と温度との関係が表す光の粒子性について学ぶ。                    |
| 第10回 | 現代物理学 (2) 光の粒子性      | 光電効果と原子スペクトルという現象が光の粒子性を示していることを学ぶ。          |
| 第11回 | 現代物理学 (3) 原子モデルと光の本質 | 原子モデルを説明するために明らかにされたミクロ世界の法則と光の正体について学ぶ。     |
| 第12回 | 物の色と光 (1) いろいろな光     | 電磁波としての光、自然界の光と色の現象について学ぶ。                   |
| 第13回 | 物の色と光 (2) 天体の光       | 天体の光からわかることについて学ぶ。                           |
| 第14回 | まとめ                  | 全体のまとめ                                       |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・演習問題を解く。
- ・授業内容と関連する現象について調べる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著 (サイエンス社、2013)

### 【参考書】

- ・「歴史で学ぶ物理学入門」 足利裕人著 (ふくろう出版、2012)
- ・「社会人のための物理学I 古典物理学」 志村史夫著 (牧野出版、2015)

### 【成績評価の方法と基準】

レポート試験 (60%)、小テスト等の平常点 (40%)

### 【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を充実させたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the basics of electromagnetism, waves, and light, which are fundamental fields in physics. Also, some selected topics in modern physics will be presented.

The goal of this course is to understand not only the contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law. Before and after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report (60%) and in-class contribution including short reports (40%),

CHM900BF (その他の化学 / Chemistry 900)

**化学概論 I**

田中 雅人

授業コード：A3516 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

高校化学で学ぶ内容について、さらに背景や原理を理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習します。それによって、扱われている物質や現象を原子・分子レベルで理解できるようになることを目的とします。

**【到達目標】**

生徒に対して化学の物質や現象を自分のことばで説明できることを目標とします。本授業では、特に以下を到達目標とします。

- 1) 原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解する。
- 2) 化学の量的な基準となるモルの概念を理解する。
- 3) 理想気体の状態方程式や濃度など基本的な計算ができるようになる。
- 4) 反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次回の講義で解説するなどフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ         | 内容                                  |
|------|-------------|-------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 講義の概要と受講方法について説明する                  |
| 第2回  | 原子の構造 1     | 原子の構造が解明される過程から原子構造の考え方を学ぶ          |
| 第3回  | 原子の構造 2     | 原子量と同位体、モルの概念について学ぶ                 |
| 第4回  | 元素の電子配置と周期表 | 電子軌道/電子配置と周期律表の関係を知り、化学的性質と電子の関係を学ぶ |
| 第5回  | 分子の構造と化学結合  | 分子の構造と化学結合の種類について学ぶ                 |
| 第6回  | 固体の構造       | 結晶の種類について学ぶ                         |
| 第7回  | 物質の三態       | 固体、液体、気体の状態の変化を学ぶ                   |
| 第8回  | 気体の性質 1     | 気体の温度、圧力、体積の関係を学ぶ                   |
| 第9回  | 気体の性質 2     | 理想気体と実在気体の違いを学ぶ                     |
| 第10回 | 溶液の濃度表示法    | 濃度の種類とそれらの違いを学ぶ                     |
| 第11回 | 溶液の性質       | 溶液の振る舞いについて学ぶ                       |
| 第12回 | コロイド溶液      | コロイド溶液の特性について学ぶ                     |
| 第13回 | 化学反応とエネルギー  | 化学反応に伴う熱の出入りの考え方を学ぶ                 |
| 第14回 | 反応速度と化学平衡   | 平衡とは何か、反応の進む向きを決める因子について学ぶ          |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各授業ごとに理解度を確認する課題を出題します。

**【テキスト (教科書)】**

・基礎化学教育研究会編「やさしく学べる基礎化学」森北出版

**【参考書】**

・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人  
・竹内 敬人 著「基礎の化学 化学入門コース1」岩波書店  
・辰巳 敬ほか著「化学」数研出版

**【成績評価の方法と基準】**

学習支援システムで、毎回授業の理解度を確認する課題を出題します。成績は、授業で出題する課題(30%)と期末試験 (70%)により評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.

By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to be able to describe chemical phenomena by obtained chemical perspectives. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, required assignments: 30%.



CHM900BF (その他の化学 / Chemistry 900)

## 化学概論Ⅱ

田中 雅人

授業コード：A3517 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

高校化学で学ぶ内容について、さらに背景や原理を理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習します。それによって、扱われている物質や現象を原子・分子レベルで理解できるようになることを目的とします。

### 【到達目標】

生徒に対して化学の物質や現象を自分のことばで説明できることを目標とします。

本授業では、特に以下を到達目標とします。

- 1) 酸塩基や酸化還元の原理について理解し、中和反応や酸化還元反応における等量計算ができるようになる。
- 2) 無機物質について、元素の特徴に由来する化合物の特性や機能などについて理解する。
- 3) 多様な有機化合物を分類を理解し、それぞれの化合物の特性や反応性について理解する。
- 4) 身近な高分子化合物について、物質を構成する分子構造や性質などを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次回の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ     | 内容                                          |
|------|---------|---------------------------------------------|
| 第1回  | 酸と塩基1   | 酸と塩基の種類と定義について学ぶ                            |
| 第2回  | 酸と塩基2   | 水素イオン濃度指数(pH)の概念を学ぶ                         |
| 第3回  | 酸化還元1   | 酸化還元反応の考え方を学ぶ                               |
| 第4回  | 酸化還元2   | 電池と電気分解について学ぶ                               |
| 第5回  | 無機物質1   | 金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ                           |
| 第6回  | 無機物質2   | 非金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ                          |
| 第7回  | 有機化合物1  | 有機化合物の構造の特徴と官能基による分類について学ぶ。また、異性体の考え方について学ぶ |
| 第8回  | 有機化合物2  | 脂肪族化合物の特徴や反応性などについて学ぶ                       |
| 第9回  | 有機化合物3  | 芳香族化合物の特徴や反応性などについて学ぶ                       |
| 第10回 | 有機化合物4  | 酸素および窒素を含む化合物の特徴や反応性などについて学ぶ                |
| 第11回 | 高分子化合物1 | 高分子化合物の分類および特徴を学ぶ。また、合成高分子化合物の種類と特徴について学ぶ   |
| 第12回 | 高分子化合物2 | 糖質の構造と種類とその生体内での働きを学ぶ                       |
| 第13回 | 高分子化合物3 | アミノ酸とタンパク質の生体内での働きを学ぶ                       |

第14回 高分子化合物4 核酸の構造と生体内での働きを学ぶ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各授業ごとに理解度を確認する課題を出題します。

### 【テキスト (教科書)】

・基礎化学教育研究会編「やさしく学べる基礎化学」森北出版

### 【参考書】

・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人  
 ・竹内 敬人 著「基礎の化学 化学入門コース1」岩波書店  
 ・辰巳 敬ほか著「化学」数研出版

### 【成績評価の方法と基準】

学習支援システムで、毎回授業の理解度を確認する課題を出題します。成績は、授業で出題する課題(30%)と期末試験(70%)により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.

By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to be able to describe chemical phenomena by obtained chemical perspectives. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, required assignments: 30%.

BIO900BF (その他の総合生物・生物学 / Biology 900)

## 生物学概論 I

植木 紀子

授業コード：A3518 | 曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期の「生物学概論 I」では、初めに生物学の基本概念を学びます。その後、遺伝、膜構造、細胞骨格など、主に細胞レベルの生命現象を取り上げます。生物が長い年月をかけて作り上げてきた巧妙で美しいしくみを、生物学全体における位置付けを確認しながら学んでいきましょう。

### 【到達目標】

生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。対面授業を基本としますが、状況に応じてZoomを用いたりリアルタイムオンライン方式にする可能性もあります。具体的な授業参加方法については、学習支援システムの「お知らせ」欄をご覧ください。

テーマによっては実際の生物や実験装置などを見ていただくこともあります。毎回、簡単な演習問題を提示しますので、次の回までに教科書を参照しながら解くようにしてください。授業内でその解説を行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ          | 内容                                                                                                      |
|-----|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 生物の基本概念と基本構造 | 生物学の学習のはじめにあたり、生物の二つの対立した特性、すなわち多様性と共通性について学びます。その後、生物学を学ぶ基本事項として、増殖、遺伝、代謝、恒常性と環境応答などについて概観します。         |
| 第2回 | 生物の増殖と恒常性    | 細胞生物も多細胞生物も、自分と同じ形をした生物体を生み出して数を増やしていきます。また、外部の環境に適切に応答して体の内部環境を一定に保っています。生物にとって重要なこれらのしくみの基礎を学びます。     |
| 第3回 | 個体-環境相互作用    | 生物は環境から影響を受け、逆に生物も環境に影響を与えています。そして生物同士も相互に関わりあっています。自然選択・環境応答・光合成による生産や生態系について学び、生物と環境との関わりを理解します。      |
| 第4回 | タンパク質と酵素     | タンパク質は生体有機化合物の中で最も量が多く、あらゆる生命活動で重要な役割を果たしています。また、酵素タンパク質は、生物のほぼ全ての化学反応を触媒します。タンパク質の構造と酵素が働くしくみを学びます。    |
| 第5回 | 核酸の構造とDNAの複製 | DNAには、親から子へ遺伝情報を伝える役割と、その情報を使って細胞を作り機能をもたらす役割があります。細胞増殖の際、DNAを正確に複製して分配しなくてはなりません。このDNAの構造と複製のしくみを学びます。 |
| 第6回 | 遺伝子の発現       | 遺伝情報がDNA、mRNA、タンパク質という流れで発現する概念をセントラルドグマと呼びます。この一連の流れに沿って、情報が写し取られる転写、その後の修飾、アミノ酸配列に変換される翻訳のしくみを学びます。   |
| 第7回 | 有性生殖と個体の遺伝   | 形質を親から子へと継承する遺伝という現象は、メンデルの法則の発見に始まり、モルガンの染色体説などを経て、現代の遺伝学へと発展を遂げました。この生命情報伝承の法則性と、そのプロセスについて解説します。     |

|      |              |                                                                                                      |
|------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第8回  | バイオテクノロジー    | 生命現象に関わる新しい知見は新しい技術を生み出し、それによって更なる知見が得られるというサイクルがあります。画期的な進歩をもたらした技術を学ぶことで、現代に至る生命科学の発展の歴史を感じてみましょう。 |
| 第9回  | 生体膜と細胞の構造    | 生体膜は細胞と外界を隔て、細胞内にも多様な膜区画を作ります。また、物質の輸送やシグナル伝達などの重要な機能にも関わります。生体膜の構造とはたらきを理解し、原核生物と真核生物の違いについても学びます。  |
| 第10回 | 代謝と生体エネルギー生産 | 生命活動に必要なエネルギーを生み出し、生体物質の合成や分解をする過程を代謝といいます。細胞内における基本的な代謝の流れを理解し、さらに、代謝の要になる解糖系、クエン酸回路、呼吸鎖について学びます。   |
| 第11回 | 光合成          | 30億年ほど前にエネルギーを太陽光に求める生物が出現して以来、生物は無限のエネルギー源を手にすることになりました。ここでは、現在の地球の光環境を理解した上で、植物が行う光合成のプロセスを学びます。   |
| 第12回 | 細胞内輸送と細胞内分解  | 細胞の中では、その構成成分が絶えず取り込まれ、もしくは合成され、細胞内外の適所へと輸送され、そして分解されています。ここでは、細胞内で物質を「運ぶ」しくみと「壊す」しくみについて解説します。      |
| 第13回 | 細胞骨格と細胞運動    | 全ての真核細胞は、運動を発生する共通のメカニズムを持っています。細胞骨格と呼ばれるタンパク質繊維の上をモータータンパク質が滑走することで、筋肉の収縮や染色体の分配などが起こるしくみを学びます。     |
| 第14回 | 細胞間シグナル伝達系   | 多細胞生物が一つの個体として行動したり内部環境を一定に保つためには、細胞間で情報をやりとりすることが重要になります。ホルモンや神経伝達物質などを介した細胞間のコミュニケーションについて学びます。    |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次週までの課題(演習問題)を提示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

『理系総合のための生命科学 第5版～分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』  
東京大学生命科学教科書編集委員会／編  
羊土社 定価3,800円＋税  
第4版でも可。教科書の入手が間に合わない場合は対応しますので相談してください。

### 【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)により評価します。止むを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

### 【学生の意見等からの気づき】

途中で休憩を入れたり、参考動画やスライドを用いたりしたことがメリハリがあって良かったという意見をもらっていますので、このようなスタイルを続けていきます。

### 【その他の重要事項】

この科目は教職科目です。教職課程をとっていないと受講できませんのでご注意ください。

### 【Outline (in English)】

This class presents an overview of basic biological concepts and provides cellular-level biological subject such as genomics, membrane biology, cytoskeleton and cell motility. The goal is to provide students with extensive knowledge and perspective on fundamental life science.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to in-class contribution (100%).

BIO900BF (その他の総合生物・生物学 / Biology 900)

## 生物学概論Ⅱ

植木 紀子

授業コード：A3519 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の「生物学概論Ⅱ」では、多細胞生物が成り立つ原理や、進化、生態、生物多様性といったマクロレベルの生命現象を学びます。また、創薬、微生物の利用、情報生命科学など、私たちの生活に関わる応用的な内容も取り上げていきます。

### 【到達目標】

生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったさまざまなレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。対面授業を基本としますが、状況に応じてZoomを用いたりリアルタイムオンライン方式にする可能性もあります。具体的な授業参加方法については、学習支援システムの「お知らせ」欄をご覧ください。

テーマによっては実際の生物や実験装置などを見ていただくこともあります。毎回、簡単な演習問題を提示しますので、次の回までに教科書を参照しながら解くようにしてください。授業内でその解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回数  | テーマ          | 内容                                                                                                       |
|-----|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 細胞内シグナル伝達系   | 細胞は、細胞表面の受容体と呼ばれるタンパク質でシグナル分子を受け取ります。それをきっかけにして細胞内のタンパク質がさまざまに変化し、情報が伝えられます。ここではそのしくみを、ヒトの細胞を例に解説します。    |
| 第2回 | 神経系の機能と生体恒常性 | ヒトの脳は約1,000億個の神経細胞からできています。神経細胞は、イオンの移動によって細胞膜の電位を変化させることで非常に速い情報伝達を行うことを可能にしています。その巧みな機構と恒常性への寄与を概説します。 |
| 第3回 | 細胞周期         | 太古の昔から、一個の親細胞が分裂して二個の娘細胞になるというサイクルが繰り返されて今の生物世界があります。このサイクルが進むしくみと、それが間違いないと正確に進むために何重にも制御されている機構を学びます。  |
| 第4回 | 動物の発生        | 動物の体は、たった一個の受精卵が分裂を繰り返し、細胞が特殊化し、正しい場所と形に配置されて機能するようになることで作り出されます。この複雑な構造と機能を持つ動物の体が自律的に作られるしくみを解説します。    |
| 第5回 | 植物の発生        | 植物は、太陽光という無限のエネルギー源を利用し、動物とはまったく異なる戦略をとって地球上に繁栄しています。種子植物の基本構造と形づくりを学び、個体として理に合った営みを実現していることを理解していきます。   |
| 第6回 | 遺伝子発現の制御     | 生物は、持っている多くの遺伝子全てを常に利用しているわけではなく、環境や時期に応じて適した遺伝子が発現したり、不向きな遺伝子の発現が抑制されたりしています。この調節を引き起こす分子メカニズムを概説します。   |
| 第7回 | ゲノムと進化       | 生物の持つ遺伝情報全体の一セットをゲノムと言います。ゲノム情報の解読技術の向上は、分類学や進化学の分野に対し、大きなインパクトを与えてきました。ここではその歴史と方法を学び、生命科学の今後について考えます。  |

|      |            |                                                                                                           |
|------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第8回  | 生物群集と生物多様性 | 生物はそれぞれ独立して生きているわけではなく、他の多くの生物と相互に関係しながら生きています。生物多様性とは具体的にどのようなものか、それが生態系の保全にとってどのように重要になるのかについて解説します。    |
| 第9回  | 感染と免疫      | 免疫学の発展の歴史はヒトと感染症との戦いの歴史でもあります。ここでは、ペニシリンの発見から始まる20世紀の医学生物学における重要な発見を紹介いたします。さらに、免疫とその応答の基本的なしくみについて解説します。 |
| 第10回 | がん         | 近年、がんにおけるさまざまな異常が、遺伝子、タンパク質、細胞、個体レベルで明らかになっています。がんの原因や進展にいたる経緯、がん遺伝子とがん抑制遺伝子について学び、がん治療の発展についても見ていきます。    |
| 第11回 | 創薬と生命科学    | 人間は何千年も前から動植物の抽出物などを薬として利用してきました。一方、化学合成による薬の開発が始まったのは1890年代という比較的最近のことです。創薬の歴史を紹介し候補薬の選別や創出までの過程を解説します。  |
| 第12回 | 生活・環境と微生物  | 微生物には、人間の役に立つものや逆に害をなすもの、ほぼヒトとは関与しない微生物もあり、多様な生物世界を形成しています。微生物と人との関わり、微生物の多様性のとらえ方、微生物学の現状と課題について学びます。    |
| 第13回 | 生物の情報科学    | 膨大なデータが蓄積する現代の生命科学にとって、情報科学はその基盤とも言えます。DNA配列やタンパク質のアミノ酸配列がデータベース化された1980年代に始まる生物情報科学の進展と、その基本的な考え方を解説します。 |
| 第14回 | 脳          | 脳は環境から入力された情報を処理・統合し、出力するための情報処理装置とみなすことができます。一方、我々ヒトの「意識」と脳の関係は未だ深い謎に包まれています。これまでの知見と方法論、脳研究の現状を学びます。    |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次週までの課題（演習問題）を提示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『理系総合のための生命科学 第5版～分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』  
東京大学生命科学教科書編集委員会／編  
羊土社 定価3,800円＋税  
第4版でも可。

### 【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）により評価します。止むを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

### 【学生の意見等からの気づき】

途中で休憩を入れたり、参考動画やスライドを用いたりしたことがメリハリがあつて良かったという意見をもらっていますので、このようなスタイルを続けていきます。

### 【その他の重要事項】

この科目は教職科目です。教職課程をとっていないと受講できませんのでご注意ください。

### 【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with basic biological concepts of macro-level biological subject such as developmental biology, ecology, evolution, biodiversity, medical biology and bioinformatics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to in-class contribution (100%).

PHY900BF (物理学 / Physics 900)

**物理学実験 I (コンピュータ活用含)**

吉田 智

授業コード：A3520 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
 春学期授業/Spring・1単位 | 配当年次：2～4年  
 備考(履修条件等)：実験料は1科目2,500円(2018年度以降入学者)です。納金は5～6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

この授業では、重力、波動、光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

**【到達目標】**

実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から1回もしくは2回にわたって実験実習を行います。講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際にフィードバックを行う予定です。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                | 内容                                         |
|------|--------------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | 身近な量の測定            | 身近な量を測定してみることにより、器具の使用方法を学ぶ。               |
| 第2回  | 誤差、近似              | 誤差や近似について理解を深める。                           |
| 第3回  | 重力について             | 第4回に実施する落体実験に関連する重力について、理解を深める。            |
| 第4回  | 落体実験               | 落体実験を行う。                                   |
| 第5回  | 波動について             | 第6、7回に実施する実験に関連する波動について、理解を深める。            |
| 第6回  | 交流の周波数の測定          | 交流の周波数の測定実験を行う。                            |
| 第7回  | 音さの振動数の測定          | 音さの振動数の測定実験を行う。                            |
| 第8回  | 光の波動性について          | 第9回に実施する実験に関連する光の波動性について、理解を深める。           |
| 第9回  | レンズの曲率半径の測定        | レンズの曲率半径の測定実験を行う。                          |
| 第10回 | 光の粒子性について(エネルギー量子) | 第12、13回に実施する実験に関連する光の粒子性について、理解を深める。       |
| 第11回 | 光の粒子性について(光子量子仮説)  | 第10回に引き続き、光の粒子性について理解を深めると共に、光電効果について理解する。 |
| 第12回 | 光電流の測定             | 光電流の測定実験を行う。                               |
| 第13回 | プランク定数の測定          | プランク定数測定実験を行う。                             |
| 第14回 | まとめ                | 第1回から第13回までに実施した実験について、まとめを行う。             |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、1時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

教科書は使用せず、プリントを配布します。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介する予定です。

**【成績評価の方法と基準】**

学習支援システムを使用した、各回の課題(20%)と実験レポート(80%)で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

**【Outline (in English)】**

This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on gravity, wave, light and so on. In this course, goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and acquire knowledge for scientific education in junior high school and high school. Before each class, students will be expected to understand the content with the distributed text. And students need to prepare a report after each experiment. The required study time is at least one hour for each class. Grading will be decided based on reports (80%), and short examinations (20%).

PHY900BF (物理学 / Physics 900)

## 物理学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

吉田 智

授業コード：A3521 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
 秋学期授業/Fall・1単位 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：実験料は1科目2,500円 (2018年度以降入学者) です。納金は5～6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、熱、電気や光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

### 【到達目標】

実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要な知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から1回もしくは2回にわたって実験実習を行います。また、講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際に、フィードバックを行う予定です。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                                 |
|------|-------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | 熱・エネルギーについて       | 第2、3回に実施する実験に関連する熱・エネルギーについて、理解を深める。               |
| 第2回  | 熱の仕事当量の測定         | 熱の仕事当量の測定実験を行う。                                    |
| 第3回  | 金属の比熱の測定          | 金属の比熱の測定実験を行う。                                     |
| 第4回  | 分子運動について          | 第5回に実施する実験に関連する分子運動について、理解を深める。                    |
| 第5回  | 線膨張係数の測定          | 線膨張係数の測定実験を行う。                                     |
| 第6回  | 電気について            | 第7回に実施する実験に関連する電気回路について、理解を深める。                    |
| 第7回  | 平行板コンデンサーの電気容量の測定 | 平行板コンデンサーの電気容量測定実験を行う。                             |
| 第8回  | 原子・原子核について        | 第9回に実施する実験に関連する原子・原子核について、理解を深める。                  |
| 第9回  | 電子の比電荷の測定         | 電子の比電荷の測定実験を行う。                                    |
| 第10回 | レーザーについて          | 第11回に実施する実験で使用するレーザーについて、理解を深める。また、干渉実験の解析方法を理解する。 |
| 第11回 | 光の干渉実験            | 光の干渉実験を行う。                                         |
| 第12回 | 剛体について            | 第13回に実施する実験に関連する剛体について、理解を深める。                     |
| 第13回 | 振り子による重力加速度の測定    | ボルタの振り子による重力加速度の測定実験を行う。                           |
| 第14回 | まとめ               | この授業で実施した実験について、まとめを行う。                            |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

### 【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使用した、各回の課題(20%)と実験レポート(80%)で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

### 【Outline (in English)】

This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on heat, electricity, light and so on. In this course, goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and acquire knowledge for scientific education in junior high school and high school. Before each class, students will be expected to understand the content with the distributed text. And students need to prepare a report after each experiment. The required study time is at least one hour for each class. Grading will be decided based on reports (80%) and short examinations (20%).

CHM900BF (その他の化学 / Chemistry 900)

**化学実験 I (コンピュータ活用含)**

向井 知大

授業コード：A3522 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 春学期授業/Spring・1単位 | 配当年次：2~4年  
 備考(履修条件等)：実験料は1科目2,500円(2018年度以降入学者)です。納金は5~6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

**【到達目標】**

実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピューターを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。実験レポートのフィードバックは授業内に行います。レポートを一旦返却し、見直しと修正の回を設けています(第11回)。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ           | 内容                               |
|------|---------------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス         | 授業内容と予習内容についての説明。                |
| 第2回  | 炎色反応          | 炎色反応のための溶液の調製と炎色スペクトル観察。         |
| 第3回  | 秤量と測容         | 質量と体積の測定における器具の選定や大気圧、温度の影響について。 |
| 第4回  | 測容器の精度        | いくつかの測容器の精度を、純水を使って求める。          |
| 第5回  | 溶液の濃度         | 様々な濃度の計算方法と、その換算方法について。          |
| 第6回  | 溶液の調製         | 中和滴定で使用する酸、塩基水溶液の調製。             |
| 第7回  | 酸と塩基          | 酸と塩基の定義の種類、pHについての講義。            |
| 第8回  | 中和滴定実験1       | シュウ酸水溶液を用いて、各種塩基性水溶液の濃度を求める。     |
| 第9回  | pH変化のシミュレーション | 中和滴定におけるpH変化をExcelで計算する。         |
| 第10回 | 中和滴定実験2       | pHメーターを用いた、滴下量とpH変化の関係。          |
| 第11回 | 金属イオンの沈殿生成    | 金属イオンと薬品の反応による色変化や沈殿生成。          |
| 第12回 | 金属イオンの系統分析1   | 金属イオンの分属と分離について。                 |
| 第13回 | 金属イオンの系統分析2   | 未知試料に含まれる金属イオンの分析。               |
| 第14回 | まとめ           | これまで行った実験の原理、実験器具の使い方の復習。        |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味なおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

実験にあたってはプリントを配布します。

**【参考書】**

随時、授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

**【学生の意見等からの気づき】**

高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認しながら、説明を行なうようにしています。

**【学生が準備すべき機器他】**

pH変化のシミュレーションを行うときにPCを使います。

**【その他の重要事項】**

この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

**【Outline (in English)】**

This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure.

The goal of the course is to enhance the development of students' skill in carrying out a chemical experiment.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the test reports.(100%)

CHM900BF (その他の化学 / Chemistry 900)

## 化学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

向井 知大

授業コード：A3523 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・1単位 | 配当年次：2～4年

備考 (履修条件等)：実験料は1科目2,500円 (2018年度以降入学者) です。納金は5～6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

### 【到達目標】

対面授業で開講します。実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピューターを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。

実験レポートのフィードバックは授業内に行います。レポートを一旦返却し、見直しと修正の回を設けています (第14回)。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                             |
|------|-------------|--------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 授業内容と予習内容についての説明。              |
| 第2回  | 有機化合物と無機化合物 | 有機化学と無機化学の違いについて               |
| 第3回  | 化学構造式       | 有機化合物の略式表記と化学構造式描画ソフトの使い方      |
| 第4回  | 分子模型1       | 有機化合物の立体構造と、構造異性体について。         |
| 第5回  | 分子模型2       | 共役二重結合を持つ分子の立体構造について。          |
| 第6回  | 分子模型3       | 立体異性体、分子構造可視化ソフトの利用。           |
| 第7回  | アルコールの性質    | アルコールの特徴とその反応について。             |
| 第8回  | アルコール発酵     | 酵母を用いた糖の分解実験。                  |
| 第9回  | エステルの合成     | 脱水縮合反応による果物の香り成分の合成。           |
| 第10回 | アミンの性質      | アミノ基を持つ化合物、特にアニリンの特徴とその反応。     |
| 第11回 | アセトアニリドの合成  | アニリンと無水酢酸の反応、反応生成物の精製。         |
| 第12回 | アゾ染料の合成     | ジアゾカップリング反応による様々な色素の合成。        |
| 第13回 | ナイロンの合成     | ナイロンの合成と、その染色および赤外線吸収スペクトルの測定。 |
| 第14回 | まとめ         | これまでの実験レポートの見直し。               |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

資料を配布します。

### 【参考書】

随時、授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価：レポート 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認しながら、説明を行なうようにしています。

### 【学生が準備すべき機器他】

化学構造式の描画や3D分子モデリングなどのソフトウェアを使った学習の際、PCを使います。

### 【その他の重要事項】

この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

### 【Outline (in English)】

This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure.

The goal of the course is to enhance the development of your skill in carrying out a chemical experiment.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the test reports.(100%)

BIO900BF (その他の総合生物・生物学 / Biology 900)

**生物学実験 I (コンピュータ活用含)**

島野 智之

授業コード：A3524 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
 春学期授業/Spring・1単位 | 配当年次：2~4年  
 備考(履修条件等)：実験料は1科目2,500円(2018年度以降入学者)です。納金は5~6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

生物学・生命科学のさまざまな問題について、可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して、教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に、自然に対する認識をより深く、物事を生物学的に探求する能力を高める。

**【到達目標】**

教育の現場で使える生物学実験を計画でき、かつ教えることができるようになる。使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し、生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば、実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める。主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。

メール添付などの方法を利用して、課題等についてフィードバックします。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                            | 内容                                                  |
|------|--------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回  | 顕微鏡の使用法(含マイクログロメーターの使用法)       | 顕微鏡の使用法の説明、顕微鏡の手入れと道具の作成                            |
| 第2回  | 細胞・気孔の観察と顕微鏡での計測               | 植物細胞の観察。顕微鏡での計測方法。                                  |
| 第3回  | 原形質流動と原形質分離の観察                 | 植物細胞の観察。顕微鏡での生細胞の観察。                                |
| 第4回  | 細胞分裂と染色体の観察                    | 細胞分裂の観察。染色体の観察。                                     |
| 第5回  | 昆虫の採集及び観察                      | 野外にでて節足動物を調査する。レポートの作成                              |
| 第6回  | 無脊椎動物の解剖                       | 無脊椎動物(大型節足動物)の生理を学び、体の仕組みを理解する。                     |
| 第7回  | プランクトンの採集と観察                   | 野外に出てプランクトンを採集し、顕微鏡観察するテクニックを学び、同定する方法を理解する。レポートの作成 |
| 第8回  | 土壌動物の抽出法                       | 野外での土壌の観察と土壌動物の採集方法を学ぶ。                             |
| 第9回  | 土壌動物の採集・分類と観察(コンピュータを使用した統計処理) | 土壌動物とはなにか、図鑑の使い方、調査方法概説                             |
| 第10回 | 群衆生態学的解析(コンピュータを使用した統計処理)      | コンピューターの統計解析ソフトを使って、土壌動物の群衆データを統計処理する方法を学ぶ。         |
| 第11回 | 細菌の観察(コンピュータを使用した統計処理)         | 細菌数を計測し、成長曲線をコンピュータソフトを使ってグラフに書く                    |
| 第12回 | 真菌(不完全菌、接合菌、子のう菌、担子菌)の観察       | 真菌を採集し同定する。レポートの作成                                  |
| 第13回 | 植物の葉の内部構造の観察                   | 単子葉、双子葉の茎頂などを観察し、植物の生長点について学ぶ。                      |
| 第14回 | 試験、まとめ(レポートの書き方)               | 試験、まとめ(レポートの書き方)                                    |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのまますぐに、まず自分で解決するよう努力して下さい。次回の実験内容を毎回つたえるので、必要な知識などを事前に予習しておくこと(その方法なども伝えます)。また、実験の後は、必ずレポートを課すので、実験の目的および背景、方法、結果、考察の4点について、これをまとめて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

**【参考書】**

生物学辞典など

**【成績評価の方法と基準】**

レポート(40%)と試験(30%)に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し(30%)、総合的に判断する。  
 ※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。  
 20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD映像を用いて行います。

**【その他の重要事項】**

授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

**【Outline (in English)】**

This course is designed to lead to a teaching license and can only be taken by students who have taken a course leading to a teaching license. In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

Observations and biological experiments are conducted on contemporary issues, topics, and problems in biology and the life sciences, using familiar materials whenever possible.

Students will acquire the ability to construct experiments that can be applied in educational settings, as well as deepen their awareness of nature and enhance their ability to explore things biologically.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively. Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.



BIO900BF (その他の総合生物・生物学 / Biology 900)

## 生物学実験Ⅱ(コンピュータ活用含)

島野 智之

授業コード：A3525 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・1単位 | 配当年次：2~4年

備考(履修条件等)：実験料は1科目2,500円(2018年度以降入学者)です。納金は5~6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

生物学・生命科学のさまざまな問題について、可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して、教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に、自然に対する認識をより深く、物事を生物学的に探求する能力を高める。

### 【到達目標】

教育の現場で使える生物学実験を計画でき、かつ教えることができるようになる。使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し、生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば、実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める。主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。

メール添付などの方法を用いて、課題等に対するフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                   | 内容                                          |
|------|---------------------------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | 光学顕微鏡と電子顕微鏡の比較                        | 光学顕微鏡と電子顕微鏡の仕組みを理解する。                       |
| 第2回  | 植物組織と動物組織の観察                          | 動物細胞(頰の粘膜細胞, その他, 動物細胞)と, 植物細胞の違いを学ぶ。       |
| 第3回  | 呼吸[酵母の無気呼吸(発酵)による二酸化炭素の測定]            | 呼吸[酵母の無気呼吸(発酵)による二酸化炭素の測定]                  |
| 第4回  | 細胞運動[魚鱗色素胞の観察]                        | 魚鱗色素胞の観察                                    |
| 第5回  | プランクトンの観察                             | 多細胞性のプランクトンの体の構造や, クマムシのクリプトシスについて観察し理解する   |
| 第6回  | カタラーゼとアマラーゼ(酵素活性測定実験)                 | 酵素活性の測定                                     |
| 第7回  | 図鑑の使い方:学名の仕組み                         | 苦手にされやすい, 学名の構造について理解し, 図鑑の使い方を学ぶ。          |
| 第8回  | 図鑑を作る:大学周辺の動物(コンピュータを使用したデータベース作成)    | 大学周辺の動物の写真を撮影し同定後, データベースを作成する              |
| 第9回  | 図鑑を作る:大学周辺のコケ(コンピュータを使用したデータベース作成)    | 大学周辺のコケの写真を撮影し同定後, データベースを作成する。             |
| 第10回 | 図鑑を作る:大学周辺の維管束植物(コンピュータを使用したデータベース作成) | 大学周辺の維管束植物を撮影し同定後, データベースを作成する。             |
| 第11回 | 無菌操作の習得                               | クリーンベンチを用いた無菌操作の習得                          |
| 第12回 | プラスミドDNAの調製                           | プラスミドDNAと遺伝子組換えについて学ぶ                       |
| 第13回 | アガロースゲル電気泳動                           | 得られたプラスミドDNAとゲノムDNAについて, アガロースゲル電気泳動の方法を学ぶ。 |
| 第14回 | 試験, まとめ(レポートの書き方)                     | 試験, まとめ(レポートの書き方)                           |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。

今回の実験内容を毎回つたえるので、必要な知識などを事前に予習しておくこと(その方法なども伝えます)。また、実験の後は、必ずレポートを課すので、実験の目的および背景、方法、結果、考察の4点について、これをまとめて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

### 【参考書】

生物学辞典など

### 【成績評価の方法と基準】

レポート(40%)と試験(30%)に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し(30%)、総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかった

との意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD映像を用いて行います。

### 【その他の重要事項】

授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

### 【Outline (in English)】

This course is designed to lead to a teaching license and can only be taken by students who have taken a course leading to a teaching license. In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

Observations and biological experiments are conducted on contemporary issues, topics, and problems in biology and the life sciences, using familiar materials whenever possible.

Students will acquire the ability to construct experiments that can be applied in educational settings, as well as deepen their awareness of nature and enhance their ability to explore things biologically.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

## 理科教育法 (1)

狩野 真規

授業コード：A3527 | 曜日・時限：水5/Wed.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

## 【到達目標】

教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義冒頭に資料を配布し、それに基づいて進める。当然、受講者同士での議論もしてもらい、講義終盤で次回のための予習課題を提示するので、一週間の中で準備をして、次回に小テストに取り組んでもらうこともする。フィードバックについてはできるだけその時間内で模範解答を提示したり、コメントをつけて次の回に返却していく予定である。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                        | 内容                                                                                    |
|------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 理科教育とは何か                   | 理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。                                             |
| 第2回  | 理科教育の目標                    | 中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。                                                      |
| 第3回  | 学習指導要領について・その1             | 現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。                                        |
| 第4回  | 学習指導要領について・その2             | 現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。                                        |
| 第5回  | 日本の理科教育の変遷                 | 明治以降の理科教育課程の変遷について追う。                                                                 |
| 第6回  | 国際学力調査とその結果の検討             | ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。                            |
| 第7回  | 中学理科の科目研究・その1              | 現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。                                                       |
| 第8回  | 中学理科の科目研究・その2              | 中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探る。                                        |
| 第9回  | 中学理科の科目研究・その3              | 実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。また、ICT教育に関する内容について、文科省の動画などを通じて考えていく。  |
| 第10回 | 中学理科の科目研究・その4              | 実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。                                                            |
| 第11回 | 授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備      | 学習指導案の作成について確認していく。                                                                   |
| 第12回 | 授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践(第1回) | 学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。                                                   |
| 第13回 | 授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践(第2回) | 学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特に前回での授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらう。                       |
| 第14回 | 授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践(第3回) | 学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特にこれまでの授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらい、実践に立てるレベルに到達することをめざす。 |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領(文部科学省 最新版)

## 【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編(文部科学省 最新版) 其他については講義内に適宜紹介する予定である。

## 【成績評価の方法と基準】

基本的には各回ごとに課題等に取り組んでもらうので、それらの客観評価で50%、期末に実施してもらう模擬授業で50%とする。特に模擬授業については受講者同士の相互評価も実施し、担当教員と受講者同士の相互評価で25%ずつの割合で評価する予定である(ただし、受講者の人数によってはその限りとはならないこともある)。

## 【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えているので、検討してみたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

事態が変化すれば、オンラインに移行することがある。その時にはインターネットに常時接続できる環境の構築が必須となるので、大学の支援について各自で確認するなどの対応が望まれる。また、Hoppiiについては必ず利用できるようにしておくこと。

## 【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックができるような内容の授業とすることを旨とする。また、情勢の変化によって、模擬授業の実施が困難な場合は代替措置を持って評価となることもあり得る。

## 【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).

Learning activities outside of classroom: In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(15%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

理科教育法 (2)

狩野 真規

授業コード：A3528 | 曜日・時限：水5/Wed.5  
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけではなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT教材の的確な利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には担当教員が話題提供する際には冒頭で資料を配布し、それに沿った講義形式である。その他にも課題実習や、模擬授業など、その実施形式は様々なものとなる予定である。課題に対するフィードバックについては、原則次回にしていって行く予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                                             |
|------|----------------------|----------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 高校理科の学習内容の再確認        | 学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。 |
| 第2回  | 地学分野の発展的学習内容について (1) | 高校地学における発展的学習内容に対する実践的にその内容を確認していく。この回では地質図についてみていく。           |
| 第3回  | 地学分野の発展的学習内容について (2) | 前回に引き続き、高校地学の発展的内容として、高層天気図を見ていく。                              |
| 第4回  | 地学分野の発展的学習内容について (3) | 前回同様、高校地学の発展的内容として、HR図を中心に天文の話題をみていく。                          |
| 第5回  | 地学分野の発展的学習内容について (4) | 前回に引き続き、高校地学の天文分野についてみていく。特にケプラーの3法則について扱っていく。                 |
| 第6回  | アクティブラーニングについて       | 理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。               |
| 第7回  | 高校理科の科目研究・その1        | 物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。                    |
| 第8回  | 高校理科の科目研究・その2        | 化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。                     |
| 第9回  | 高校理科の科目研究・その3        | 生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。                    |
| 第10回 | 高校理科の科目研究・その4        | 地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。                     |
| 第11回 | 授業実践・高校理科の模擬授業 (第1回) | 先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。                             |
| 第12回 | 授業実践・高校理科の模擬授業 (第2回) | 授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。                                |
| 第13回 | 授業実践・高校理科の模擬授業 (第3回) | 生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。                  |
| 第14回 | 授業実践・高校理科の模擬授業 (第4回) | ICT機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。                                  |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領 (文部科学省 最新版)

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編 (文部科学省 最新版) その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業出席に伴う要素 (議論への参加姿勢などで20%)、授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%) と模擬授業の内容 (25%)、模擬授業についての他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiは必ず利用できるようにしておくこと。また、状況によってはオンライン講義に移行することもあるので、その際にはインターネットに常時接続できる環境が必要となる。大学からの支援などについて各自で確認し、対応すること。

【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によっては模擬授業などが実施できなくなることもあり得るので、その際には代替措置に切り替える予定である。

【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).  
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

## 理科教育法 (3)

狩野 真規

授業コード：A3530 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

理科教育法(1)・(2)の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

### 【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけでなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習(紙ベース)への取り組みとそのフィードバック(添削した上で次回返却)、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                                                                                   |
|------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 理科教育とは何か               | 理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。また、ICT教育の導入についても担当教員の実践例などを紹介しつつ、考えていく。 |
| 第2回  | 理科教育の現状                | 各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。                                           |
| 第3回  | 学習指導要領について・その1         | 中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。                           |
| 第4回  | 学習指導要領について・その2         | 高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。                           |
| 第5回  | 中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ | 進学指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。                                   |
| 第6回  | 課題研究への取り組みとその指導法       | クラブ等の課外活動を通じた課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。                                |
| 第7回  | 中学理科の発展的学習・その1         | 物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。                                                 |
| 第8回  | 中学理科の発展的学習・その2         | 化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。                                                 |
| 第9回  | 中学理科の発展的学習・その3         | 生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。                                                 |
| 第10回 | 中学理科の発展的学習・その4         | 地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。                                                 |
| 第11回 | 授業実践・中学理科の模擬授業(第1回)    | 教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。                                                         |
| 第12回 | 授業実践・中学理科の模擬授業(第2回)    | 生徒の実態(認識力・思考力・学力など)に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。                                      |
| 第13回 | 授業実践・中学理科の模擬授業(第3回)    | 校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。                                                         |
| 第14回 | 授業実践・中学理科の模擬授業(第4回)    | 知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。                                                           |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領(文部科学省 最新版)

### 【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編(文部科学省 最新版) その他については講義内に適宜紹介する予定である。

### 【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案(25%)、模擬授業の内容(25%)、授業内討論での発言等(20%)を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

### 【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

### 【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

### 【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりである。また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法(1)及び同(2)の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同(1)~(4)の履修の順についてはよく考えるように。

### 【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).  
 Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.  
 The teaching materials study is necessary for contents.  
 Your overall grade in the class will be decided based on the following:  
 Class attendance and attitude in class(20%)  
 Reports and tests (15%)  
 Teaching plan (25%)  
 Contents of the simulated class(25%)  
 Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

## 理科教育法 (4)

### 狩野 真規

授業コード：A3531 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

理科教育法(1)・(2)の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も出来るものを目指す。

#### 【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけでなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習(紙ベース)への取り組みとそのフィードバック(添削した上で次回返却)、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                                                |
|------|---------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 高校理科の学習内容の再確認       | 学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。                          |
| 第2回  | 視聴覚及びICT教材の活用       | 視聴覚・ICT教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。                           |
| 第3回  | 高校理科の学習評価           | 理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。                           |
| 第4回  | 理科教育の安全管理           | 実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。          |
| 第5回  | アクティブラーニングについて      | 高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えそうな新しい指導法の構築を目指す。                     |
| 第6回  | SSHについて             | 文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール(SSH)について、その取り組みから実態を探索。                   |
| 第7回  | 高校理科の科目研究・その1       | 物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。                    |
| 第8回  | 高校理科の科目研究・その2       | 化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。                     |
| 第9回  | 高校理科の科目研究・その3       | 生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。                    |
| 第10回 | 高校理科の科目研究・その4       | 地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。      |
| 第11回 | 授業実践・高校理科の模擬授業(第1回) | 先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。                         |
| 第12回 | 授業実践・高校理科の模擬授業(第2回) | 授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。                                   |
| 第13回 | 授業実践・高校理科の模擬授業(第3回) | これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対応法を考える。 |
| 第14回 | 授業実践・高校理科の模擬授業(第4回) | ICT機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。                          |

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト(教科書)】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領(文部科学省 最新版)

#### 【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編(文部科学省 最新版) その他については講義内に適宜紹介する予定である。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案(25%)、模擬授業の内容(25%)、授業内討論での発言等(20%)を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。  
また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

#### 【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

#### 【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりである。  
また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法(1)及び同(2)の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同(1)～(4)の履修の順についてはよく考えるように。

#### 【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations. Make it more developed content than (1) or (2).

Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:  
Class attendance and attitude in class(20%)  
Reports and tests (15%)  
Teaching plan (25%)  
Contents of the simulated class(25%)  
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 心理学概論

福田 由紀

授業コード：A3601 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

### 【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使えます!」ので持参してください。また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

また、COVID-19感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppiiからのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                     |
|------|-------------------|------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション、心理学的な見方 | 授業の進め方の説明、心理学的な見方とは    |
| 第2回  | 感覚・知覚             | 知覚の特性、視覚システムの特徴        |
| 第3回  | 行動の形成             | 遺伝-環境論争、人間の行動の特徴       |
| 第4回  | 学習理論とその応用         | 古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習  |
| 第5回  | 記憶とその変容           | ワーキングメモリ、記憶の変容         |
| 第6回  | 読むことと書くこと         | 文章の理解と産出               |
| 第7回  | 思考                | 問題解決、人の思考のクセ           |
| 第8回  | 自他のこころの理解         | 自己意識の発達、心の理論           |
| 第9回  | 動機づけ              | 動機づけの機能と種類、ストレス        |
| 第10回 | 認知発達              | ピアジェ・ヴィゴツキー-情報処理論的な考え方 |
| 第11回 | 集団の中の個人           | 集団の圧力、研究の倫理的な問題        |
| 第12回 | 帰属過程              | 帰属理論、帰属のバイアス           |
| 第13回 | 性格                | 性格の記述の考え方、性格測定法        |
| 第14回 | 期末テストとその解説、まとめ    | 期末テストの実施とその解説、授業のまとめ   |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

\* 次週の授業内容にあわせて、短い宿題が出ます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 錯視を体験する。
- 第2回 ヒトの行動の形成に影響する要因を考え、書く。
- 第3回 自動的にしている日々の行動を省察する。
- 第4回 自分の記憶術を振り返る。
- 第5回 行間を理解することを体験する。
- 第6回 覆面算と水がめ問題を体験する。
- 第7回 中間テストの準備を行い、自己評価する。
- 第8回 日常のストレス状態を省察する。
- 第9回 保存課題を体験する。
- 第10回 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
- 第11回 他者の行動の帰属を推測する。
- 第12回 性格テストを体験する。
- 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

\* 受講した授業の内容に関して、小テストをHoppiiを通じて行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「心理学要論-こころの世界を探る- 改訂版」福田由紀編 培風館 2010年

### 【参考書】

適宜授業中に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度は国内研究のために授業を担当しませんでした。以下に22年度の気づきを再掲します。

「工夫していた」約8割、「授業を受けてよかった」が約9割と回答されました。ありがとうございます！ 対面授業と変わりませんね！ 例年と異なるところは、自由記述の件数が多いことです。ZoomやHoppiiなどで質問のやり取りなどをした結果、ハードルが下がったかな。さて、自由記述を見ると以下の通りでした。

- \* オンデマンド授業の短所
  - ・通常は集中が続かないけど、10分から20分くらいの短い動画を数本だったのよかった
  - ・(オンデマンドだとできないと思っていた) 実験もできた・・・などなど
- \* オンデマンド授業の長所
  - ・何度でも見直せる
  - ・わかりやすかった・・・などなど

です。また、宿題のFBが好評でした。そして、宿題と小テストの分量もちょうど良いとのこと。このまま続けまね。

最後に、話し方のスピードについて、ちょっと遅い、というコメントも。動画の設定を変えると速くも遅くもできます。それもオンデマンド授業の良いところですね。 ということで、昨年よりパワーアップしたかな。

### 【その他の重要事項】

大学の授業では、高校までの授業とは異なり、科目担当者の専門性に反映した内容が取り上げられます。そのため、類似した科目名であっても重点が置かれている内容が異なります。例えば、ILAC科目には「心理学I/II（100番台）」、「心理学LA/LB（200番台）」、総合科目「人間行動学A/B（300番台）」、教養ゼミIII「心理的ウェルビーイングを考えるA/B（300番台）」などがあります。それぞれの科目担当者の先生は、以下の通りです。

- \* 宇野カオリ先生担当：ポジティブ心理学
  - \* 櫻井登世子先生担当：発達心理学（特に児童心理学）
  - \* 浅川希洋志先生担当：フロー理論、臨床心理学、文化心理学
- シラバスの内容をよく読んで、履修可能性年次も考慮しつつ、自分の興味にあった科目を選択して下さい。

また、本授業は、様々な分野を抱えている心理学全般に関する入門的内容になっています。そのため、授業の中で、心理学科に置かれている2年次以降に履修できる基礎科目や専門科目を紹介します。特定の授業回で興味を持った場合には、それらの科目を受講して下さい。

### 【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加して下さい。

### 【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology
- B. broaden their perspectives form psychology
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 心理学史

矢口 幸康

授業コード：A3602 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ120年ほど前のことであり、それからもさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

### 【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず19世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における20世紀の3大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた20世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。パワーポイントの資料はhoppiiに事前に掲載するので、授業を欠席した人も内容を事後に確認することができます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                          |
|------|-----------------------|-----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション             | 心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について     |
| 第2回  | 心理学誕生前史               | 19世紀哲学・医学・生物学が心理学へ与えた影響について |
| 第3回  | 近代心理学の始まり・展開          | ドイツにおける心理学の誕生と展開について        |
| 第4回  | アメリカにおける心理学の展開        | アメリカにおける大学心理学の展開について        |
| 第5回  | 日本における心理学の展開          | 日本における大学心理学の展開について          |
| 第6回  | 社会における心理学の展開          | 20世紀初頭の社会において心理学が果たした役割について |
| 第7回  | 20世紀の3大潮流(1)行動主義      | 行動主義の誕生と展開について              |
| 第8回  | 20世紀の3大潮流(2)精神分析      | 精神分析の誕生と展開について              |
| 第9回  | 20世紀の3大潮流(3)ゲシュタルト心理学 | ゲシュタルト心理学の誕生と展開について         |
| 第10回 | 第3勢力の台頭(1)認知心理学       | 認知心理学の誕生と展開について             |
| 第11回 | 第3勢力の台頭(1)人間性心理学      | 人間性心理学の誕生と展開について            |
| 第12回 | 戦争が心理学に与えた影響          | 第一次・第二次世界大戦が心理学研究に与えた影響について |
| 第13回 | 臨床心理学の展開              | 心理学研究成果の社会還元について            |
| 第14回 | まとめ                   | 授業内容の再確認                    |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に使いません。各回資料PDFはHoppiiで閲覧可能です。

### 【参考書】

サトウタツヤ・高砂美樹 2022 流れを読む心理学史【補訂版】 有斐閣アルマ  
高砂美樹 2021 心理学史はじめての一步（改訂電子版） アルテ

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

### 【学生の意見等からの気づき】

1年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料（PDF）はHoppiiにあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

### 【Outline (in English)】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures. The slides to be used in the lectures can be obtained through Hoppii to prepare for better understanding. The grading criteria: 80% final exam, 20% attendance with small tasks.

By taking this course in the history of psychology, you can understand the flow of psychology. It was not until the late 19th century that it became possible to study psychology at universities in the West, but in order to understand why it could not be studied until that era, we first learn the prehistory up to the 19th century. After that, we learn about the three major trends in psychology in the 20th century and the development of the 20th century, which was called the “century of psychology”. From this knowledge, you can understand why current psychology uses statistics and experimental methods, while also utilizing individual subjective discourse as data.

This course assumes that you understand the content of “Introduction to Psychology.” Even so, if unfamiliar concepts emerged during the course, please review and understand them. The standard time for the preparatory study and review for this course was 2 h each.

The grade of this subject was determined by the final examination (100%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理学測定法 I

[W組]

押尾 恵吾

授業コード：A3611 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙（アンケート）法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

## 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
2. 既存の質問紙（心理尺度）を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを採り、基本的な分析をすることという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                              |
|------|------------------|---------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション        | シラバス記載事項の確認と補足説明、<br>班構成、受講上の注意 |
| 第2回  | 質問紙作成の基礎         | 質問紙作成作業の流れと留意点                  |
| 第3回  | 質問紙法の実施方法        | 配付及び回収の方法                       |
| 第4回  | 心理尺度の作成          | 尺度とは、信頼性・妥当性                    |
| 第5回  | 使用する心理尺度         | 一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る        |
| 第6回  | 研究計画決定           | 研究計画申請書作成と質問紙の原版作成              |
| 第7回  | 質問紙の印刷・製本と、結果の入力 | データのコーディングと入力方法                 |
| 第8回  | 質問紙の実施 1         | 質問紙への回答                         |
| 第9回  | 質問紙の実施 2         | 質問紙への回答およびデータ入力                 |
| 第10回 | 結果の分析と考察         | 分析方法の確認と発表すべき結果の吟味              |
| 第11回 | 発表準備 1           | 結果の考察及び発表資料の作成                  |
| 第12回 | 発表準備 2           | スライドの作成                         |
| 第13回 | 発表 1             | 研究成果の発表および発表に対するコメント            |
| 第14回 | 発表 2 + 総括        | 研究成果の発表および発表に対するコメント+発表内容の振り返り  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著),北大路書房,1998年)他に、適宜プリントを配布します。

## 【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。  
「大学基礎講座」(藤田哲也(編),北大路書房,2006年)。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内およびHetudesの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究(40%)…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料(レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動(20%)…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答のうち、授業の進め方についての強い改善要求は「班活動に多くの時間を割けなかった」でした。2023年度は、教員からの説明を予習としてオンデマンド授業も用いることで、授業中により長く班活動に割けるように授業の進め方を変更しました。2024年度も引き続き同様に進めていきます。現状の授業の進め方において、調査計画にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、測定法Iとしては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を秋学期以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

## 【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスはoshioidejikken[at]yahoo.co.jp です([at]を@マークに置き換えてください)。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1.Students can understand and explain the fundamentals of questionnaire development.

2.Students can conduct a questionnaire study using existing questionnaires (psychological scales).

3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.

4.Students can communicate research results accurately and efficiently.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40% (research plan presentation 15%, main presentation 25%), group activities 20%.



PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理学測定法 I

[X組]

押尾 恵吾

授業コード：A3612 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙(アンケート)法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

### 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
2. 既存の質問紙(心理尺度)を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを探り、基本的な分析をするという課題解決型学習(PBL)に取り組みます。

2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動(グループワーク)を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表(プレゼンテーション)を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                               |
|------|------------------|----------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション        | シラバス記載事項の確認と補足説明、班構成、受講上の注意      |
| 第2回  | 質問紙作成の基礎         | 質問紙作成作業の流れと留意点                   |
| 第3回  | 質問紙法の実施方法        | 配付及び回収の方法                        |
| 第4回  | 心理尺度の作成          | 尺度とは、信頼性・妥当性                     |
| 第5回  | 使用する心理尺度         | 一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る         |
| 第6回  | 研究計画決定           | 研究計画申請書作成と質問紙の原版作成               |
| 第7回  | 質問紙の印刷・製本と、結果の入力 | データのコーディングと入力方法                  |
| 第8回  | 質問紙の実施1          | 質問紙への回答                          |
| 第9回  | 質問紙の実施2          | 質問紙への回答およびデータ入力                  |
| 第10回 | 結果の分析と考察         | 分析方法の確認と発表すべき結果の吟味               |
| 第11回 | 発表準備1            | 結果の考察及び発表資料の作成                   |
| 第12回 | 発表準備2            | スライドの作成                          |
| 第13回 | 発表1              | 研究成果の発表および発表に対するコメント             |
| 第14回 | 発表2 + 総括         | 研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著),北大路書房,1998年)他に、適宜プリントを配布します。

### 【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。  
「大学基礎講座」(藤田哲也(編),北大路書房,2006年)。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内およびH'etudesの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究(40%)…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料(レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動(20%)…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答のうち、授業の進め方についての強い改善要求は「班活動に多くの時間を割けなかった」でした。2023年度は、教員からの説明を予習としてオンデマンド授業も用いることで、授業中により長く班活動に割けるように授業の進め方を変更しました。2024年度も引き続き同様に進めていきます。現状の授業の進め方において、調査計画にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、測定法Iとしては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を秋学期以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

### 【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスはoshiodejikken[at]yahoo.co.jp です([at]を@マークに置き換えてください)。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of questionnaire development.
- 2.Students can conduct a questionnaire study using existing questionnaires (psychological scales).
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40% (research plan presentation 15%, main presentation 25%), group activities 20%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**心理学測定法Ⅱ**

[W組]

押尾 恵吾

授業コード：A3613 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な調査計画を立て、調査を実施し、結果を分析して考察します。調査による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

**【到達目標】**

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には、半期の授業が終わる頃には、次のことができるようになることを目標とします。

- 1.心理尺度の構成を説明できる。
- 2.因子分析、相関分析、重回帰分析を行える。
- 3.適切な統計分析を実施できる。
- 4.研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
- 5.質問紙調査について、文献収集から調査実施、分析までの流れを説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は、4～5人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて、予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                                   | 内容                            |
|------|---------------------------------------|-------------------------------|
| 第1回  | 秋学期ガイダンス                              | 秋学期の流れの確認、グループ分け              |
| 第2回  | 研究課題の設定と先行研究の概観1                      | 研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践           |
| 第3回  | 研究課題の設定と先行研究の概観2                      | 研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践           |
| 第4回  | 研究計画書・研究同意書の作成                        | 問題と目的および仮説のまとめ、研究計画書・研究同意書の作成 |
| 第5回  | 質問項目の作成・選定1                           | 質問項目の候補の作成・選定                 |
| 第6回  | 質問項目の作成・選定2、質問紙作成1                    | 質問項目の候補の作成・選定、質問紙の作成          |
| 第7回  | 質問紙作成2                                | 質問紙の作成                        |
| 第8回  | 質問紙調査の実施1                             | 作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収       |
| 第9回  | 質問紙調査の実施2                             | 作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収       |
| 第10回 | データ分析・検討1<br>データ分布、項目分析、探索的因子分析、信頼性分析 | 分析方法の学習、実際の調査のデータの分析          |
| 第11回 | データ分析・検討2<br>相関分析、確証的因子分析、重回帰分析       | 分析方法の学習、実際の調査のデータの分析          |
| 第12回 | 報告会レジュメ、スライドの作成                       | 実際の調査のデータの分析、研究報告会の準備         |
| 第13回 | 報告会1                                  | 研究成果の発表                       |
| 第14回 | 報告会2                                  | 研究成果の発表                       |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

グループで作業を行ってもらいますので、話し合いや先行研究の検索、文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

適宜プリントを使用しますが、次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著),北大路書房,1998年)

**【参考書】**

発表の行い方については、「心理学測定法Ⅰ」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。

「大学基礎講座」(藤田哲也(編),北大路書房,2006年)

また、次のテキストも大いに参考になりますので、適宜参照してください。

「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」(浦上昌則・脇田貴文,東京図書,2008年)

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(40%)…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および授業支援システムの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究(40%)…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料(レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動(20%)…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

2023年度の授業改善アンケートに回答してくれた11名のうち「この授業を履修してよかった」で5が9名、4が2名となりました。「理解度」は5が多く5名、4は4名でしたが、3は2名でしたので、内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。例年に比べると授業外学修時間も確保できていた様子です(最頻値は2-3時間で5名)。授業の進め方についての改善要求は特ありませんでした。現状の授業の進め方において、演習Ⅱと同時進行であるために研究にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、測定法Ⅱとしては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を3年次以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

JASPがインストールされたPC

**【その他の重要事項】**

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスはoshiodejikken[at]yahoo.co.jp です [at]を@マークに置き換えてください。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Students will set up a problem of their own interest, plan an appropriate survey, conduct the survey, and analyze and discuss the results. The purpose of this course is to deepen students' understanding of research methods in psychology by experiencing the entire research process through surveys. In particular, students will learn the structure of psychological scales and basic statistical analysis.

**【Learning Objectives】**

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand structures of psychological scales.
- 2.Students can perform factor analysis, correlation analysis and multiple regression analysis.
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.
- 5.Students can explain the flow of a questionnaire survey, from literature collection to survey implementation and analysis.

**【Learning activities outside of classroom】**

Since the students will be asked to work in groups, they are expected to actively engage in discussions, search for previous research, and read literature outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40%, group activities 20%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理学測定法Ⅱ

[X組]

押尾 恵吾

授業コード：A3614 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な調査計画を立て、調査を実施し、結果を分析して考察します。調査による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

### 【到達目標】

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には、半期の授業が終わる頃には、次のことができるようになることを目標とします。

- 1.心理尺度の構成を説明できる。
- 2.因子分析、相関分析、重回帰分析を行える。
- 3.適切な統計分析を実施できる。
- 4.研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
- 5.質問紙調査について、文献収集から調査実施、分析までの流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は、4～5人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて、予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                   | 内容                            |
|------|---------------------------------------|-------------------------------|
| 第1回  | 秋学期ガイダンス                              | 秋学期の流れの確認、グループ分け              |
| 第2回  | 研究課題の設定と先行研究の概観1                      | 研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践           |
| 第3回  | 研究課題の設定と先行研究の概観2                      | 研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践           |
| 第4回  | 研究計画書・研究同意書の作成                        | 問題と目的および仮説のまとめ、研究計画書・研究同意書の作成 |
| 第5回  | 質問項目の作成・選定1                           | 質問項目の候補の作成・選定                 |
| 第6回  | 質問項目の作成・選定2、質問紙作成1                    | 質問項目の候補の作成・選定、質問紙の作成          |
| 第7回  | 質問紙作成2                                | 質問紙の作成                        |
| 第8回  | 質問紙調査の実施1                             | 作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収       |
| 第9回  | 質問紙調査の実施2                             | 作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収       |
| 第10回 | データ分析・検討1<br>データ分布、項目分析、探索的因子分析、信頼性分析 | 分析方法の学習、実際の調査のデータの分析          |
| 第11回 | データ分析・検討2<br>相関分析、確証的因子分析、重回帰分析       | 分析方法の学習、実際の調査のデータの分析          |
| 第12回 | 報告会レジュメ、スライドの作成                       | 実際の調査のデータの分析、研究報告会の準備         |
| 第13回 | 報告会1                                  | 研究成果の発表                       |
| 第14回 | 報告会2                                  | 研究成果の発表                       |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで作業を行ってもらいますので、話し合いや先行研究の検索、文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用しますが、次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。  
「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著),北大路書房,1998年)

### 【参考書】

発表の行い方については、「心理学測定法Ⅰ」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。

「大学基礎講座」(藤田哲也(編),北大路書房,2006年)

また、次のテキストも大いに参考になりますので、適宜参照してください。

「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」(浦上昌則・脇田貴文,東京図書,2008年)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および授業支援システムの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究 (40%) …実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料 (レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動 (20%) …班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケートに回答してくれた11名のうち「この授業を履修してよかった」で5が9名、4が2名となりました。「理解度」は5が多く5名、4は4名でしたが、3は2名でしたので、内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。例年に比べると授業外学修時間も確保できていた様子です (最頻値は2-3時間で5名)。授業の進め方についての改善要求は特にありませんでした。現状の授業の進め方において、演習Ⅱと同時進行であるために研究にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、測定法Ⅱとしては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を3年次以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

JASPがインストールされたPC

### 【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスはoshiodejikken[at]yahoo.co.jp です ([at]を@マークに置き換えてください)。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students will set up a problem of their own interest, plan an appropriate survey, conduct the survey, and analyze and discuss the results. The purpose of this course is to deepen students' understanding of research methods in psychology by experiencing the entire research process through surveys. In particular, students will learn the structure of psychological scales and basic statistical analysis.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand structures of psychological scales.
- 2.Students can perform factor analysis, correlation analysis and multiple regression analysis.
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.
- 5.Students can explain the flow of a questionnaire survey, from literature collection to survey implementation and analysis.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Since the students will be asked to work in groups, they are expected to actively engage in discussions, search for previous research, and read literature outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40%, group activities 20%.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

**心理検査法 I**

[W組]

宮田 昌明

授業コード：A3615 | 曜日・時限：水4/Wed.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また、パーソナリティ検査を中心に取り上げ、実習を通して自己理解を深める機会とします。

**【到達目標】**

①心理検査に関する基礎知識を身につける。  
②実施や解釈について、体験的に理解するとともに、自己理解を深め、自身の成長へと生かす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

前半は、心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために、講義形式を中心とします。後半は、体験的な理解を得るために、心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して、知識の習得に留まらず、能動的に考えを深め、思考の幅を広げるために、適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ            | 内容               |
|------|----------------|------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス        | 授業概要、授業計画、評価等の説明 |
| 第2回  | 心理検査概要         | 心理検査の種類と理論       |
| 第3回  | 心理検査の歴史と現状     | 歴史的背景と近年の現状      |
| 第4回  | 心理検査実施の注意点     | 倫理的配慮や基本姿勢など     |
| 第5回  | パーソナリティ検査について  | パーソナリティ検査の概論     |
| 第6回  | YG 性格検査 ①      | 実施と採点            |
| 第7回  | YG 性格検査 ②      | 解釈と解説            |
| 第8回  | NEO-FFI 人格検査 ① | 実施と採点            |
| 第9回  | NEO-FFI 人格検査 ② | 解釈と解説            |
| 第10回 | P-F スタディ ①     | 実施と採点            |
| 第11回 | P-F スタディ ②     | 解釈と解説            |
| 第12回 | SCT            | 実施と解釈            |
| 第13回 | 振り返り           | 試験               |
| 第14回 | まとめ            | 復習と解説            |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の性質上、事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版  
願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版  
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房  
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

**【学生の意見等からの気づき】**

配布資料やスライドの見やすさ向上を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

適宜授業内でアナウンスします。

**【その他の重要事項】**

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり、心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※新型コロナ等の状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Acquire basic knowledge of psychological tests.
- (2) Understand the implementation and interpretation of psychological tests experientially, and to deepen their own self-understanding and apply it to their own growth.

**【Learning activities outside of classroom】** After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

**【Grading Criteria /Policy】** Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 心理検査法 I

[X組]

宮田 昌明

授業コード：A3616 | 曜日・時限：水5/Wed.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また、パーソナリティ検査を中心に取り上げ、実習を通して自己理解を深める機会とします。

### 【到達目標】

①心理検査に関する基礎知識を身につける。  
②実施や解釈について、体験的に理解するとともに、自己理解を深め、自身の成長へと生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

前半は、心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために、講義形式を中心とします。後半は、体験的な理解を得るために、心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して、知識の習得に留まらず、能動的に考えを深め、思考の幅を広げるために、適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めます。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容               |
|------|---------------|------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス       | 授業概要、授業計画、評価等の説明 |
| 第2回  | 心理検査概要        | 心理検査の種類と理論       |
| 第3回  | 心理検査の歴史と現状    | 歴史的背景と近年の現状      |
| 第4回  | 心理検査実施の注意点    | 倫理的配慮や基本姿勢など     |
| 第5回  | パーソナリティ検査について | パーソナリティ検査の概論     |
| 第6回  | YG性格検査①       | 実施と採点            |
| 第7回  | YG性格検査②       | 解釈と解説            |
| 第8回  | NEO-FFI人格検査①  | 実施と採点            |
| 第9回  | NEO-FFI人格検査②  | 解釈と解説            |
| 第10回 | P-Fスタディ①      | 実施と採点            |
| 第11回 | P-Fスタディ②      | 解釈と解説            |
| 第12回 | SCT           | 実施と解釈            |
| 第13回 | 振り返り          | 試験               |
| 第14回 | まとめ           | 復習と解説            |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の性質上、事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

### 【参考書】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版  
願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版  
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房  
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

### 【学生の意見等からの気づき】

配布資料やスライドの見やすさ向上を目指します。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

### 【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり、心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※新型コロナ等の状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Acquire basic knowledge of psychological tests.
- (2) Understand the implementation and interpretation of psychological tests experientially, and to deepen their own self-understanding and apply it to their own growth.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

**心理検査法Ⅱ**

[W組]

宮田 昌明

授業コード：A3617 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、心理検査の特徴について学びます。また、知能検査と発達検査を中心に取り上げ、実習を通して理論と方法を学び、現実での課題と支援について理解を深めます。

**【到達目標】**

- ①心理検査の特徴を理解し、限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
- ②知能検査及び発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義と実習を混ぜつつ、授業を進めます。実習では、グループ内で役割を分担し、実際の検査状況を体験しつつ、採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合、他者とのコミュニケーションは欠かせないため、全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ、解釈を深める力を伸ばす必要があることから、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                    | 内容                 |
|------|------------------------|--------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス                | 授業概要、授業計画、評価等の説明   |
| 第2回  | 心理検査の特徴と支援             | 心理検査の活用と留意点        |
| 第3回  | 人間の発達と検査について           | 発達検査の種類と概要         |
| 第4回  | 描画法                    | 実習と解説              |
| 第5回  | 新版K式発達検査2020           | 概要説明と実習            |
| 第6回  | ①<br>②<br>新版K式発達検査2020 | 結果の分析と解釈           |
| 第7回  | WPPSI-III ①            | 概要説明と実習            |
| 第8回  | WPPSI-III ②            | 結果の分析と解釈           |
| 第9回  | WISC-V ①               | 概要説明と実習            |
| 第10回 | WISC-V ②               | 結果の分析と解釈           |
| 第11回 | WAIS-IV                | 概要説明と実習、結果の分析、解釈   |
| 第12回 | 生涯発達と心理検査              | 主に成人期以降の心理検査の種類と活用 |
| 第13回 | 振り返り                   | 試験                 |
| 第14回 | まとめ                    | 復習と解説              |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は、レジュメ、参考書、検査手引書、官公庁の資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版  
 願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版  
 津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房  
 上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

**【学生の意見等からの気づき】**

配布資料やスライドの見やすさの向上を目指します。  
 受講者が能動的に参加できる授業を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

適宜授業内でアナウンスします。

**【その他の重要事項】**

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※新型コロナ等の状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using intelligence tests and developmental tests.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students should be able to do the following:

- (1) Understand the characteristics of psychological tests and to think about their limitations, issues, and applications.
- (2) Know the basics of how to conduct and interpret intelligence tests and developmental tests.

**【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

**【Grading Criteria /Policy】** Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 心理検査法Ⅱ

[X組]

宮田 昌明

授業コード：A3618 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、心理検査の特徴について学びます。また、知能検査と発達検査を中心に取り上げ、実習を通して理論と方法を学び、現実での課題と支援について理解を深めます。

### 【到達目標】

- ①心理検査の特徴を理解し、限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
- ②知能検査及び発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義と実習を混ぜつつ、授業を進めます。実習では、グループ内で役割を分担し、実際の検査状況を体験しつつ、採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合、他者とのコミュニケーションは欠かせないため、全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ、解釈を深める力を伸ばす必要があることから、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                 |
|------|------------------------|--------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス                | 授業概要、授業計画、評価等の説明   |
| 第2回  | 心理検査の特徴と支援             | 心理検査の活用と留意点        |
| 第3回  | 人間の発達と検査について           | 発達検査の種類と概要         |
| 第4回  | 描画法                    | 実習と解説              |
| 第5回  | 新版K式発達検査2020           | 概要説明と実習            |
| 第6回  | ①<br>②<br>新版K式発達検査2020 | 結果の分析と解釈           |
| 第7回  | WPPSI-III ①            | 概要説明と実習            |
| 第8回  | WPPSI-III ②            | 結果の分析と解釈           |
| 第9回  | WISC-V ①               | 概要説明と実習            |
| 第10回 | WISC-V ②               | 結果の分析と解釈           |
| 第11回 | WAIS-IV                | 概要説明と実習、結果の分析、解釈   |
| 第12回 | 生涯発達と心理検査              | 主に成人期以降の心理検査の種類と活用 |
| 第13回 | 振り返り                   | 試験                 |
| 第14回 | まとめ                    | 復習と解説              |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は、レジュメ、参考書、検査手引書、官公庁の資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

### 【参考書】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版  
 願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版  
 津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房  
 上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

### 【学生の意見等からの気づき】

配布資料やスライドの見やすさの向上を目指します。  
 受講者が能動的に参加できる授業を目指します。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

### 【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※新型コロナ等の状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using intelligence tests and developmental tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the following:

- (1) Understand the characteristics of psychological tests and to think about their limitations, issues, and applications.
- (2) Know the basics of how to conduct and interpret intelligence tests and developmental tests.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 脳の科学

高橋 敏治

授業コード：A3619 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神経伝達物質から脳の高次脳機能まで、心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。精神生理学や精神薬理学など精神科臨床に関係する医師としての経験を活かし、心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や、認知科学の最新のトピックスを取り上げます。

### 【到達目標】

健康や障害との関わりの中で、脳の役割の重要性を説明できるようにします。心、身体、自律神経、脳の各部位がそれぞれどのように結びつき、どのように反応するのかを概略し、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖、脳の生理的な働き、神経細胞の機能、脳の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では、初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り、前回の知識のミニテスト、新規の内容というようになるべく無理のない授業進行を進めます。授業内で行った試験、課題の模範解答や主な質疑応答は授業内でできる限り紹介し、解説も行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                        | 内容                                                       |
|------|----------------------------|----------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                  | 脳の研究の歴史、授業の形式の説明                                         |
| 第2回  | 大脳皮質1                      | 前頭葉、頭頂葉の部位や機能                                            |
| 第3回  | 大脳皮質2                      | 後頭葉、側頭葉の部位や機能                                            |
| 第4回  | 脳幹部1                       | 間脳、橋の部位や機能                                               |
| 第5回  | 脳幹部2                       | 中脳、延髄の部位や機能                                              |
| 第6回  | 小脳、運動系                     | 小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能                                   |
| 第7回  | 大脳辺縁系1                     | 本能・感情の生まれる場所                                             |
| 第8回  | 大脳辺縁系2                     | 記憶のメカニズム                                                 |
| 第9回  | 神経ニューロン1                   | ニューロン細胞の機能、構成                                            |
| 第10回 | 神経伝達物質1                    | 神経伝達物質の種類                                                |
| 第11回 | 神経伝達物質2                    | 気分障害、ストレス障害、統合失調症と神経伝達物質の関係                              |
| 第12回 | 脳科学のトピックス1                 | 男性と女性の脳の分化の仕組み、ミラーニューロンやデフォルトネットワークの問題を解説する              |
| 第13回 | 総合的な知識の復習                  | 達成度テストの総合的な復習・まとめ                                        |
| 第14回 | 総合的な達成度テストの振り返り、脳科学のトピックス2 | 総合的な達成度テストのまとめの解説、グリーンパテックシステムとアルツハイマー型認知症との関係、睡眠との関係を解説 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。第1回～12回 達成度テストで成果を確認するので復習してください。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します。

### 【参考書】

リタ・カーター（著） 養老孟司（監修）（2022）ブレインブック（原書第3版）  
みえる脳 南江堂

### 【成績評価の方法と基準】

毎回授業に関係する10分程度の達成度テストを行い、復習します。また期末に試験を行い、評価は達成度テストの実施提出・レポート課題・出席を含む平常点（50%）と期末試験（50%）で行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

84人の受講者のうち40名から回答者を頂きました。授業の工夫では4-5の段階が、87.5%の評価でした。自由記述では、「授業動画が後から見れるため、聞き逃したところを確認できてよかった。」「普段勉強する分野ではなかったため、新しい知識を学ぶことができ、楽しかった。」「自分の認知機能について詳しくなることが出来、自分の視野が変わりました。」「先生が実際に生徒を指定して実験などを簡単に実践してくれるので面白かった。」などのコメントの一方で、「もう少しレジュメ・プリントを見やすくしてほしいです。」「複雑な内容が深いので、もう少しゆっくりでも良かったと思います。」などのコメントも寄せられました。この点については、できる限り見やすい図表に入れ替えようと思います。脳については高校の生物学を学んでいても、専門用語が多く、知識内容も多く難かったかもしれません。少しでも復習などに役立つように達成度テスト、Hoppiiへの録画の掲載などを行っています。その点についても、「授業動画が後から見れるため、聞き逃したところを確認できてよかった。」「毎回の課題に助けられた。」といった感想を寄せてくれました。皆さんからの貴重な意見を踏まえ、少しでも改善しようと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを使用して、パワーポイントを使用します。学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムの「お知らせ」を使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

### 【その他の重要事項】

【重要】 授業のルールや注意点などを説明するため、初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあるため、学習支援システムや授業の中で案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】 火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として、30年以上精神科の臨床に携わって実務面の仕事をしています。この経験を生かし、脳と心理との関わりについて講義をします。

### 【Outline (in English)】

(Course outline) From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology.

(Learning Objectives) To be able to explain the importance of the role of the brain in the relation of each class to health and clinical practice.

(Learning activities outside of classroom) It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

(Grading Criteria / Policy) Final examination 50% in clear contribution 50% including achievement test.



PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 認知心理学

竹島 康博

授業コード：A3620 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学において人間の認知機能がどのように研究されてきたのかを解説します。この授業を通じて、実験を中心に進められてきた認知心理学という分野の特徴やその研究方法について理解することを目的とします。

### 【到達目標】

人間は、感覚器官を通じて周囲の環境を把握し、それに適応するように行動している。このような感覚情報による外界の知覚やより高次な認知処理は、人間の様々な心理的な活動を支える基盤と考えられる。このような知覚心理学や認知心理学の知見は他の心理学分野の現象とも密接に関連しており、心理学全般について学ぶ上でも大きな意義がある。本講義ではこのような人間の感覚情報処理について、高次な認知機能に関連した情報処理を中心に概説していく。加えて、認知心理学は実験的な研究手法を重視しているため、講義の中ではこの研究手法についても解説する。人間の感覚情報処理が実験を主な研究方法の1つとして研究されてきた背景を学ぶことにより、物事を科学的に捉える思考力を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

認知心理学の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する。また、認知心理学の研究の中で用いられてきた実験手法を体験する機会を設け、学術的な問いに対してどのような手法で解決していくことができるのかについて学ぶことも重視した授業を実施する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                    |
|------|-------------|---------------------------------------|
| 第1回  | はじめに        | 認知心理学の歴史についての解説                       |
| 第2回  | 記憶の機能 (1)   | 物事を記憶する一連の過程や仕組みについての解説               |
| 第3回  | 記憶の機能 (2)   | 記憶したことの忘却や変容の過程についての解説                |
| 第4回  | 感情の機能 (1)   | 感情の経験が生じる過程に関する諸理論についての解説             |
| 第5回  | 感情の機能 (2)   | 感情と注意および記憶といった機能との関連を解説               |
| 第6回  | 注意の機能 (1)   | 情報処理における「注意」の機能についての解説                |
| 第7回  | 注意の機能 (2)   | 視覚的な注意を中心とした注意の研究法についての解説             |
| 第8回  | 感覚の基本特性     | 順応や恒常性といった感覚全般のもつ基本特性について解説           |
| 第9回  | 異種感覚間相互作用   | 異なる感覚情報を統合した知覚の処理についての解説              |
| 第10回 | 感性情報処理      | 美観を中心とした感性情報処理についての解説                 |
| 第11回 | 心的イメージ      | 心的イメージの機能についての解説                      |
| 第12回 | 意思決定        | 選択や嗜好を含めた意思決定の過程についての解説               |
| 第13回 | 問題解決と推論     | 問題解決および推論を行う過程についての解説                 |
| 第14回 | 授業内試験と全体の総括 | 全体の総括として、授業内で試験を行ったうえで、その解説を行うこととまとめる |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

### 【参考書】

御領謙・菊地正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太『最新 認知心理学への招待 [改訂版]——心の働きとしくみを探る——』2016 サイエンス社

### 【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーによる授業の理解度の平常点を評価の40%とし、残り60%を学期末に行う授業内試験の成績とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は出欠の評価に不公平感を感じた学生がいたようでした。今年度は、コメントペーパーを利用して各回の授業の理解度を確認して、それを平常点の評価に使用します。また、授業内容に対する質問事項への回答の一覧を作成し、授業ごとに更新していつでも確認できるようにします。

### 【Outline (in English)】

#### [Course outline]

This course deals with human information processes, especially with higher-order cognitive processing.

#### [Learning objectives]

The goals of this course are to understand psychology of cognition.

#### [Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### [Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (40%) and term-end examination (60%).

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 認知科学入門

田嶋 圭一

授業コード：A3621 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を読む、覚える、考える、他者とかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを、様々な学問的視点から追究する認知科学について学びます。

## 【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験などを踏まえて他者に説明できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、授業活動結果をHoppiiに書き込んだりするなど、授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                                 |
|------|--------------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入           | シラバスの説明、「認知科学」とはどんな学問か、認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か    |
| 第2回  | 認知科学の歴史      | 心理学の略歴、認知科学の誕生、認知科学の諸分野                            |
| 第3回  | 知覚           | 心への入口としての感覚と知覚、感覚の範囲、物理量と心理量の関係、感覚のしくみと種類          |
| 第4回  | 視知覚          | 感覚の一般的特性、形の知覚と知覚的体制化                               |
| 第5回  | 視知覚と高次認知過程   | 奥行き知覚、高次知覚過程（パターン認識、トップダウン処理とボトムアップ処理、文脈効果）、顔の表情認知 |
| 第6回  | 聴知覚          | 音の正体、音の大きさ・高さ・音色の知覚、聴覚情景分析                         |
| 第7回  | 中間テスト、視聴覚の統合 | 選択的注意、音声の知覚、視覚と聴覚の統合                               |
| 第8回  | 言語           | 言語とはどんなものか、言語知識、言語獲得                               |
| 第9回  | 記憶           | 記憶の流れと区分、短期記憶と長期記憶、日常生活と記憶、記憶の変容                   |
| 第10回 | 知識           | 概念やスキーマとしての知識、心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか）、命題や文の心的表象   |
| 第11回 | 思考           | 思考、推論、問題解決                                         |
| 第12回 | 情動           | 情動とは、情動と脳、情動を認知するためのメカニズム、情動の変化を定量的に捉える            |
| 第13回 | 社会的認知        | 社会的認知とは何か、社会的条件の影響、対人認知、認知科学の今後の展望                 |
| 第14回 | 期末テスト、授業の総括  | 授業内容の理解度を確認するための授業内試験                              |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読んだり、課題に取り組んだりすることで、毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料をHoppii経由で配布します。

## 【参考書】

行場 次郎・箱田 祐司（編）（2014）.『新・知性と感性の心理 ―認知心理学最前線―』福村出版.

鈴木 宏昭（2016）.『教養としての認知科学』東京大学出版会.

内村 直之・植田 一博・今井 むつみ・川合 伸幸・嶋田 総太郎・橋田 浩一（2016）.

『はじめての認知科学』新曜社.

大津 由紀雄・波多野 諒余夫（編著）（2004）.『認知科学への招待 ―一心の研究の面白さに迫る―』研究社.

都築 誉史（編）（2002）.『認知科学パースペクティブ ―心理学からの10の視点―』信山社.

大島 尚（編）（1986）.『ワードマップ：認知科学』新曜社.

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価する予定です。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

## 【学生の意見等からの気づき】

回答者84名のうち、「履修してよかった」と回答してくれた人が72名（86%、前々年94%）、「理解できた」が70名（83%、前々年81%）、「工夫されていた」が74名（88%、前々年94%）でした。理解度は前々年とほぼ変化がありませんでしたが、満足度と工夫が多少低下したようです。授業外学習時間については「1～2時間」が26%、「30分～1時間」が56%、「ほとんど行っていない」が10%でした。授業内容が興味を惹くものばかりで面白い、心理学を学びたいという欲望が満たされた、といった肯定的なコメントをいただきました。穴埋め形式のレジュメ、教え合いを使った理解度確認、具体例の多用、授業中のミニ実験、テスト/アンケートを使った課題および正誤のフィードバック、講義動画の提供などが好評でした。一方、専門用語が多い、授業活動で書くべきことを口頭だけでなくスライドで示してほしい、授業活動と課題と両方で感想を書く必要はないのではないか、テスト直前にそれまでに取り組んだ課題にもう一度取り組めるようにしてもらえるとテスト勉強に役立つ、といったコメントもありました。改善を検討したいと思います。また、授業活動を授業終了時に提出するので出席票は不要ではないかというご意見がありました。出席票は遅刻を把握するために使用しています。

## 【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course introduces students to cognitive science, an interdisciplinary field that studies the inner workings of the mind, that is, the mental processes that enable people to engage in everyday activities such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and interacting with others.

## 【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand and explain based on their own experiences the mechanisms underlying mental processes such as visual and auditory perception, language, memory, reasoning, and social cognition.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

## 【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年  
 備考(履修条件等)：他学科生の配当年次は3・4年生です  
 その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達的特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

### 【到達目標】

心の発達について興味関心を高め、各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。

- (1) 人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
- (2) 人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
- (3) 生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるように視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから2回の仮登録までを履修者として、以降制限する。課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

| 回    | テーマ        | 内容                                                           |
|------|------------|--------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 発達ということ    | 発達理論の枠組みの理解<br>「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。      |
| 第2回  | 胎児の発達      | お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。                    |
| 第3回  | 感覚・知覚の発達   | 見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するかを理解する。                 |
| 第4回  | 感情の発達      | 泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？ : 当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。 |
| 第5回  | 認知の発達      | 考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。                     |
| 第6回  | 言語の発達      | ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。               |
| 第7回  | 親子関係の発達    | 「ひとりでも泣かないよ」<br>乳幼児期の親子関係をを中心に、基本的な理論を習得する。                  |
| 第8回  | 友人関係の発達    | 友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。   |
| 第9回  | 知能の発達      | 頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。              |
| 第10回 | 意欲・動機づけの発達 | やる気メカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。        |
| 第11回 | 自我の発達      | 一生継続「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。        |

|      |         |                                                                       |
|------|---------|-----------------------------------------------------------------------|
| 第12回 | 性役割の発達  | ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。                  |
| 第13回 | 道徳性の発達  | 善悪の判断はどのように育つ？ : 道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。 |
| 第14回 | 発達障害の理解 | 発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。             |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。動画教材でポイントは理解し、関連の書籍や論文を読んで、理解を深めたい。わからないことは支援システムなどで質問するようにし、授業後は復習する。予習復習には、各2時間(合計4時間)をかけるようにする。

### 【テキスト(教科書)】

必ず使用する。  
『ひと目とわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著(福村出版) 2020

### 【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か? 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著(光文社) 2020  
 『発達心理学』渡辺弥生監修(ナツメ社) 2021  
 『まんがでわかる発達心理学』渡辺弥生監修(講談社) 2019

### 【成績評価の方法と基準】

ミニクイズ10回(正答かどうかによって配点が異なる。提出したから得点になるとは限らない)と課題2回の総合点で評価する。ミニクイズの評価は70%。課題の評価は30%。ただし、成績評価の対象は「ミニクイズを6回以上かつ課題を2つとも締め切り内に提出した人のみ」。それ以外の場合は成績を評価しない。また課題の提出ミスなどは考慮しないので正確に提出して下さい。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習をする上でより意欲的に取り組める課題を考える。

### 【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。学習支援システムに入ること。

### 【その他の重要事項】

学習支援システムに登録すること。初回は必ず出席。

### 【Outline (in English)】

・ The aims of this course are to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified, from the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly.  
 ・ By the end of the course, students are expected to consider how to contribute to society by the researches in this area.  
 ・ Students will be expected to have completed the required assignments before /after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.  
 ・ The grade will be based on the total score of 10 mini-quizzes (the points will vary depending on whether the answers are correct or not) and 2 assignments. The mini-quiz will be graded at 70%. The assignment will be graded at 30%. However, only those who submit at least 6 mini-quizzes and both assignments will be graded. Otherwise, no grade will be given.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**教育心理学**

菊池 理紗

授業コード：A3623 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

教育心理学とは、心理学の様々な分野の理論やモデルを、教えたり学んだりする場面に応用しようという学問領域です。この場合の「教育」とは、所謂「学校教育」だけではなく、家庭や職場など、日常生活の様々な場面で行われる「教える—教わる」という行為を指します。この授業を通して、人間が「教える」「学ぶ」ときの仕組みについて理解し、自分がよりよく「学ぶ」あるいは「教える」にはどのようにしたらよいかを考えていきましょう。

**【到達目標】**

- (1) 教育心理学に関係する基本的事項を自分の言葉で説明できる。
- (2) 日常生活における経験を、授業で理解した考え方で捉え、適切な例を挙げることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義が中心で、適宜、近くの席の人とグループワークを行います。授業では、毎回、Hoppiiを使って、課題（予習課題+小テスト）の提出を求めます。提出された課題については、次の授業の最初に全体に向けてフィードバックを行います。また、教科書は毎時間使用しますので、必ず購入し、持参してください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                          |
|------|---------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション、「教育心理学」とは | 授業の進め方および成績評価に関する説明、「教育」「学習」「教育心理学」について考える。 |
| 第2回  | 学習とは1               | レスポナント条件付け、オペラント条件付け（第3章）                   |
| 第3回  | 学習とは2               | 記憶と忘却、記憶と言葉（第3章）                            |
| 第4回  | 発達と教育1              | 言語の発達と教育（第1章・第2章）                           |
| 第5回  | 発達と教育2              | 読み書きからの学習（第4章）                              |
| 第6回  | 発達と教育3              | 認知・感情・社会行動の発達と教育（第1章・第2章）                   |
| 第7回  | 上手に学ぶ・教える1          | 学習者の動機づけ、やる気を高める方法（第5章）                     |
| 第8回  | 上手に学ぶ・教える2          | 様々な授業法（一斉授業、有意味受容学習、発見学習など）（第5章）            |
| 第9回  | 上手に学ぶ・教える3          | 集団での学習（社会的学習、協働学習など）（第5章）                   |
| 第10回 | 知能と学力の違い1           | 「知能」の定義、知能検査、性格検査（第6章）                      |
| 第11回 | 知能と学力の違い2           | 「学力」の定義、学力の測定、様々な評価（第7章）                    |
| 第12回 | 学校と教育1              | 学校不適応、不登校、いじめなどの諸問題とその支援（第8章）               |
| 第13回 | 学校と教育2              | 発達障害とその支援（第9章）                              |
| 第14回 | 期末テストと解説            | 期末テストの実施とその解説、授業全体の総括                       |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回、次の授業の内容に関連する簡単な課題を出します。Hoppiiで解答を提出してください。その解答の提出と、教科書の関連ページを読んでいただくことが事前学習です。授業後には、Hoppiiで授業内容に関する小テストを出題しますので、解答してください。また、第14回の試験に向けて、随時、教科書で学習を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

原田恵理子・福田由紀・森山賢一（編）「基礎基本シリーズ⑥ 教育心理学」大学教育出版、2022年、2000円（税別）

**【参考書】**

必要に応じて、授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の小テスト+予習課題の提出20%、第14回の期末テスト80%の合計点で評価します。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行います。期末テストでは、授業で紹介した内容だけでなく、自分で教科書を読んで学習する内容と、応用問題も出題します。

なお、授業回数の3分の1以上（5回以上）欠席した場合には単位の認定を行いませんので、注意してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

課題の提出はHoppiiを通して行います。また、メモを取るようにノートやルーズリーフを持参することを推奨します。

**【その他の重要事項】**

質問は、授業の前後に直接話しに来るか、第1回の授業で伝える連絡先に連絡してください。

**【実験参加へのお願い】**

授業の前後に心理学の実験や調査の参加者を募集する学生が来ることがあります。授業で知識を学ぶだけでなく、他の人の実験や調査をぜひ積極的に体験してみてください。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this course is to enable students to acquire knowledge of the Educational psychology and relate it to their own daily life. "Education" in this case refers not only to so-called "school education" but also to the act of "teaching and learning" that takes place in various situations of daily life, such as at home and at work. Through this class, you will understand the mechanisms by which humans "teach" and "learn" and think about how you can "learn" or "teach" better. We will be using textbooks, so be sure to bring them with you to class. In the 14th class, there will be a final exam. In addition to working on preparation and review assignments, please study the contents of the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades are evaluated at 20% for submission of assignments and answers to quizzes, and 80% for final exams. If you are absent more than 5 times, no credit will be given.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 学習心理学

藤田 哲也

授業コード：A3624 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に応用できるレベルで理解します。そうすることで、自分の生活をより有意義なものにしていくという考え方を身につけます。

### 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 学習に関する心理学的な現象や理論について、概要を適切に説明すること。
2. 自分自身の日常生活に、学習に関する心理学的な現象や理論をどのように応用可能なかを説明すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、ペア・ワークなど用いて、受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つける機会をできるだけ提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容         |
|------|-----------|------------|
| 第1回  | イントロダクション | 授業内容と目標の確認 |
| 第2回  | 古典的条件づけ   | 〇〇恐怖症の原因   |
| 第3回  | オペラント条件づけ | 報酬と罰の使い分け  |
| 第4回  | 観察学習      | 暴力映像視聴の影響  |
| 第5回  | 動機づけの基礎   | やる気メカニズム   |
| 第6回  | 動機づけの応用   | やる気のコントロール |
| 第7回  | 記憶の種類     | 認知活動を支える記憶 |
| 第8回  | 作動記憶・手続記憶 | 短期記憶と長期記憶  |
| 第9回  | 記憶の理論を活かす | エピソード記憶獲得法 |
| 第10回 | 学習方略      | 自律的な学習のために |
| 第11回 | メタ認知と学習観  | 認知の認知を客観視  |
| 第12回 | ここまでのまとめ  | 振り返りと理解度確認 |
| 第13回 | レポート回収と解説 | 自己評価と動機づけ  |
| 第14回 | 授業の総括     | 到達目標自己評価   |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、一回の授業で教科書の1章分進み、毎回の授業は、予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく、内容を把握することを目的意識を持って、予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために、毎回「予習シート」を完成させ、授業の二日前までに学習支援システムに提出したうえで授業に臨んでください。また、毎回発行する「授業通信」を読んで、前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に2回、それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「絶対役立つ教育心理学 [第2版] 実践の理論、理論の実践」藤田哲也(編)(2021) ミネルヴァ書房

### 【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也(編)(2006)北大路書房

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …授業の二日前までに予習シートを学習支援システムに提出すること、授業へ出席し積極的にペアワークに参加すること、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することのすべてがそろっている場合に、その授業回分の平常点を付与します。

期末レポート (60%) …授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケートから：毎年高い評価を得ているので、授業内容には大きな変更はしませんでした。「履修してよかった」は4.74と、高評価をいただきました。「理解度」は昨年の4.83からやや下がり、4.58となりました。これは「授業外学習時間」の最頻値が「週1時間～2時間未満」の60.9%から36.8%に下がり、1時間未満の層が増えたことと関連がありそうです。予習課題についての自由記述は肯定的なものだけでしたが、中にはあまり前向きに取り組めなかった人もいたのかもしれませんが。予習課題をより実質化するためにも、ペアの組み方についても、しっかり効果的なものに促していこうと思います。

### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。初回はオンラインで行いますが、2回目からは対面形式を予定しています。この授業の運営の仕方それ自体が、学習心理学の教材となっていますので、毎回、積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし、解説もしていきますので、授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can properly explain the outline of psychological phenomena and theories related to learning.
2. Students can explain how psychological phenomena and theories about learning can be applied to one's own daily life.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to read the textbook and then submit their preparatory sheets. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**社会心理学**

入山 茂

授業コード：A3625 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

授業の概要：この授業では、私たちが、生活する中で、他者や社会的場面からどのような影響を受け、またその他者や社会的場面をどのように認識しているのかについて解説する。

授業の目的・意義：社会心理学の概念と研究方法について基礎的な知識を習得し、日常生活で遭遇する社会的現象について心理学的観点から分析できるようになる。

**【到達目標】**

(1) 社会心理学の基本的な概念(理論や専門用語)および関連する研究について説明できる。

(2) 社会心理学の基本的な概念および関連する研究を自らの日常生活と関連づけ、実際に起きた社会的現象について、心理学的に考察をすることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業形態：講義形式とする。

授業の受講方法：各自で授業支援システムから資料をダウンロードし、授業を受講する。

授業の進め方：授業計画に記載したテーマについて、理論、先行研究、応用や問題点などを紹介する。授業の終了後、毎回アクションペーパーを提出してもらう。指定した授業については、授業の終了後に小レポート等の課題を行ってもらう。

フィードバック方法：リアクションペーパーについては、次回の授業以降に講評および追加の解説を行う。小レポート等の課題については、課題提出後に、講評および追加の解説を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                               |
|------|---------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション：    | 授業の進め方、評価基準の説明、社会心理学とは                           |
| 第2回  | 対人認知          | 心理学の概要、社会心理学の研究方法                                |
| 第3回  | ステレオタイプ・偏見・差別 | 印象形成、対人記憶、対人認知                                   |
| 第4回  | 社会的推論         | ステレオタイプ、偏見・差別                                    |
| 第5回  | 感情            | 原因帰属、基本的な帰属のエラー、社会的推論、ヒューリスティック                  |
| 第6回  | 態度と説得         | 情動、気分、好み、情動二要因理論、気分一致効果                          |
| 第7回  | 自己概念と自己評価     | 態度の3要素、認知的不協和理論、態度と行動の関連性、説得的コミュニケーション、精緻化見込みモデル |
| 第8回  | 自己過程          | 自己概念、社会的アイデンティティ、自尊感情、社会的比較                      |
| 第9回  | 対人関係          | 自己呈示、自己開示、自己制御                                   |
| 第10回 | 友人関係・恋愛関係     | 対人コミュニケーション、対人関係の成立・発展・維持・崩壊、対人葛藤                |
| 第11回 | 非言語的コミュニケーション | 親密な関係、対人魅力、好意・恋愛表情、動作、対人距離、座席行動、対人接触行動           |
| 第12回 | 向社会的行動        | ソーシャルサポート、援助行動、社会的スキル                            |
| 第13回 | 反社会的行動        | 攻撃行動、犯罪、社会的排斥                                    |
| 第14回 | まとめ           | 授業のまとめ                                           |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習：予め授業支援システムから授業で解説する資料をダウンロードし、読んでくる。準備学習時間は、2時間を標準とする。

復習：資料やノートを読み返し、授業で学んだことについて振り返る。復習時間は、2時間を標準とする。

課題対応：指定した授業について、小レポート等の課題を行う。課題対応時間は、1時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

**【参考書】**

越智啓太（編）（2022）『私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科社会心理学編』 創元社

池上知子・遠藤由美（2008）『グラフィック社会心理学（第2版）』 サイエンス社

松井豊・宮本聡介（編）（2020）『新しい社会心理学のエッセンス：心が解き明かす個人と社会・集団・家族のかかわり』 福村出版  
齊藤勇（2023）『イラストレート社会心理学』 誠信書房  
谷口淳一・西村太志・相馬敏彦・金政祐司（編著）（2017）『新版 エピソードでわかる社会心理学—恋愛・友人・家族関係から学ぶ』 北樹出版  
笹山郁生（編）（2023）『ライブラリ 心理学を学ぶ=7 集団と社会の心理学』サイエンス社

**【成績評価の方法と基準】**

授業のリアクションペーパー（30%）：授業で学んだ社会心理学の基本的な概念(理論や専門用語)や先行研究について、①自らの日常生活における経験と関連づけ、②感想、疑問点や興味・関心を、③積極的に述べられているかどうかを評価する。

小レポート等の課題（30%）：課題内容に対して、①授業内容を踏まえ、②理論や先行研究を引用し、③自らの考えや必要な事項を述べられているかどうかを評価する。

試験（40%）：試験を通じて、理論や専門用語を正しく理解しているかどうかを評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業の前日までに、授業の資料を授業支援システムにアップする。各自で授業支援システムから資料をダウンロードし、授業を受講する。

**【その他の重要事項】**

「集団社会心理学」の授業と合わせて社会心理学全体を概観する。そのため、「集団社会心理学」も同時に履修することが望ましい。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

In this class, we will explain how we are influenced by others and social situations in our lives and how we perceive others and social situations.

**【Learning Objectives】**

(1) To be able to explain basic concepts (theories and technical terms) and summary of relevant preceding research in social psychology.

(2) To be able to relate basic concepts and preceding research in social psychology to real-life and to psychologically consider social events that actually occur.

**【Learning activities outside of classroom】**

Participants are required to download and read the handouts from the class support system prior to the class. The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

**【Grading Criteria /Policy】**

Comments and discussion about the class (30%):Participants will be evaluated on whether they (1) relate the basic concepts (theories and terminology) and preceding research in social psychology that they have learned in class to their real-life experiences, (2) express their thoughts, questions, interests, and concerns, and (3) actively discuss them.

Assignments such as short reports (30%):Participants will be evaluated on whether they (1) reflect on the contents of the class, (2) cite theories and preceding studies, and (3) express their own ideas and other necessary matters in response to the assigned content.

Examinations (40%):Participants will be evaluated on their correct understanding of theories and terminology through examinations.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

学校心理学

原田 恵理子

授業コード：A3626 | 曜日・時限：木1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学校におけるすべての児童生徒の成長・発達への援助を意図するのみならず学校コミュニティへの援助の理解を目指す学校心理学では、児童生徒（個人）への働きかけだけでなく、学級・学校環境や教師と生徒との関係調整、校内外の支援システムづくりなど（集団）、現代社会の特徴を踏まえた支援の工夫が求められています。したがって、本授業では、学校心理学の基本的概念を理解し、援助サービスの理論と技法を学びつつ、受講生自身の経験もふまえ、IoT社会における学校教育現場に対する支援の在り方の理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

「3つの心理教育的援助サービス」について説明できるようになり、学校教育が直面しているいじめ、不登校などの様々な課題について、学校心理学の観点からのアプローチを例示できるようになることを目標とします。また、発達障害などのハンディキャップについて説明でき、合理的配慮に基づいた児童生徒への支援や指導について考えることができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式、オンライン及び資料・動画等の配信型講義を組み合わせて実施します。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・リアクションペーパーや準備学習レポート等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。その中で、課題やレポート等に対して講評します。
- ・アセスメント、カウンセリング、コンサルテーションなどの技法を体験し、不登校やいじめなど具体的な事例に即して、有用な視座や方法論について学びます。
- ・学校内で実施可能なさまざまな心理的支援について考えていきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                              | 内容                                                              |
|------|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス/現代社会における学校心理学の意義と学校教育臨床の歴史 | 講義内容や評価方法など/学校教育臨床の歴史を説明しつつ学校心理学の意義を解説する                        |
| 第2回  | 現在の学校教育と課題                       | IoT社会に向けたこれからの学校教育の動向について理解する(資料・動画等配信型授業)                      |
| 第3回  | 3段階の心理的援助サービス                    | 援助する対象と4つの援助/3段階の心理的援助サービスについて理解する                              |
| 第4回  | 心理教育的アセスメント                      | 子どもと子どもの環境を取り巻く心理教育的アセスメントについて理解する                              |
| 第5回  | 学校心理学に基づく実践(1) カウンセリング           | カウンセリングについて説明し、ロールプレイを通して理解する                                   |
| 第6回  | 学校心理学に基づく実践(2) コンサルテーション         | 学校教育におけるコンサルテーションについて説明し、ディスカッションを通して理解する                       |
| 第7回  | 学校心理学に基づく実践(3) チームとしての学校         | スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーについて理解し、チーム援助の在り方について考察する(資料配信・課題提出型授業) |
| 第8回  | 心理教育的援助の実践(1) 不登校                | 子どもをめぐる課題について説明し、不登校事例を通して支援の在り方やその工夫について話し合う                   |
| 第9回  | 心理教育的援助の実践(2) いじめ                | いじめの事例をもとに心理教育的援助を説明し、支援の在り方やその工夫について話し合う                       |
| 第10回 | 心理教育的援助の実践(3) 発達障がいの特徴と援助        | 発達障がいの特徴と援助について事例をもとに説明し、合理的配慮に基づく支援の在り方を話し合う                   |
| 第11回 | 心理教育的援助の実践(4) 家庭・地域社会            | 虐待など家庭をめぐる課題について説明し、事例から支援の在り方を話し合う                             |
| 第12回 | 心理教育的援助の実践(5) 学校・教師              | 教師をめぐる課題について説明し、話し合い活動を通して理解を深める                                |

- 第13回 心理教育的援助の実践(6) 予防的・開発的教育 予防的・開発的教育について説明し、実際に体験してみる
- 第14回 心理教育的援助の実践(7) 援助の課題と展望 心理教育的援助およびチーム学校での効果的な援助の課題と今後の展望について説明する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前学習の課題に取り組むことで授業準備を行ってください。また、事後学習として課題に取り組み、理解をさらに深めて知識の定着をはかってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。レジュメ及び資料を配布します。

【参考書】

生徒指導提要改訂 文部科学省 [https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt\\_jidou02-000024699-001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf)  
石隈利紀 学校心理学 誠心書房  
渡辺弥生・西山久子編 生徒指導・教育相談 北樹出版  
これ以外にも、必要に応じて参考書や図書、資料文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

準備学習・フィードバックのレポート(40%)、話し合いやロールプレイなどの参画度(30%)、課題レポート(30%)で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例の紹介や体験が理論を学ぶ上で参考になったという学生アンケートの感想を踏まえ、各回ではテーマに即した事例の紹介、ロールプレイや話し合い等を積極的に取り入れた授業をします。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器、ネット環境を整えておいてください。ICTを活用した授業を行います。資料配布・課題提出などのために授業支援システム等を使用します。

【その他の重要事項】

個別的な配慮を希望する学生は授業者まで相談してください。また、対面形式の授業の実施においては、諸事情に応じた学習形態で対応します。諸連絡は、「学習支援システム」を通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of school psychology.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Be able to understand the main terms and concepts of school psychology.
- Be able to explain the methods and theories of major support services.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on reports (40%), participation degree of (30%), and Issue report (30%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

演習 I (1)

高橋 敏治

授業コード：A3627 | 曜日・時限：木4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                             | 内容                                                                                       |
|------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                       | 全体計画と進行の紹介                                                                               |
| 第2回  | 論文の種類の説明、論文の構成1                 | 論文の構成についての説明 (題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など)                                           |
| 第3回  | 文献検索1                           | 図書館を利用した検索 (ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない)。                                                 |
| 第4回  | 文献検索2                           | 教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。                                                  |
| 第5回  | レジュメの作り方の説明                     | 研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。                                                       |
| 第6回  | 日本語論文の個人発表1                     | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい (日本語論文においてはレジュメのみとする)。 |
| 第7回  | 日本語論文の個人発表2                     | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)。                                                                 |
| 第8回  | 日本語論文の個人発表3                     | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)。                                                                 |
| 第9回  | 日本語論文の個人発表4                     | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)。<br>*英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。                   |
| 第10回 | フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方 | 日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。                                |
| 第11回 | 英語論文1                           | 発表 (パワポによる発表) レジュメの提出                                                                    |
| 第12回 | 英語論文2                           | 発表 (パワポによる発表) レジュメの提出                                                                    |

第13回 英語論文3

発表 (パワポによる発表) レジュメの提出

第14回 全体統括

文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう (図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります)。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

第1回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備

第2回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意  
PsycINFO IDの獲得

第3回 検索の仕方をマスターし、専門的キーワードの準備

第4回 PsycINFOによる検索

第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。

第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行う。

第10-13回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出

第14回 講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上 (10回以上) の出席を前提とし、参加態度 (意見や質問など) による平常点を40%、日本語論文の総合評価 (レジュメによる発表・討論参加など) 30%、英語論文の総合評価 (パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など) 30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

4名から回答者を頂きました。週1時間以上の授業外学習が50%以上と授業だけでなく発表の準備や文献検索のために学習していた様子を把握できました。他の人が発表していた論文への興味、今後の研究テーマを選ぶうえでのスキル取得など演習Iの意義を把握してくれてうれしく感じました。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、プロジェクターのカギをBT5階の教授室から借り出して準備すること (授業の早い時期にできるだけ用意する順番を決めるようにします)。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。

【オフィスアワー】 火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

【文献、図表などの書き方】

この演習Iを含め、卒業論文など他の教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学研究の投稿の手引きに準じて行います。2022年度改定がされていますので、新しい手引きを入手しておいてください。

<https://psych.or.jp/manual/>

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

【Learning Objectives】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary for students to (1) present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3) provide comments, opinions to the presenters.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).



PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 演習 I (2)

渡辺 弥生

授業コード：A3628 | 曜日・時限：火3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

### 【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れられます。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                             | 内容                                                                                                                |
|------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                       | 全体計画と進行の紹介<br>*和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。論文の構成についての説明(題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など) |
| 第2回  | 論文の種類の説明、論文の構成1                 | 図書館を利用しての検索(ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。)                                                                          |
| 第3回  | 文献検索1                           | 教員による専門的検索の説明<br>教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。                                                                        |
| 第4回  | 文献検索2                           | 研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。                                                                                |
| 第5回  | レジュメの作り方の説明                     | 発表の仕方や質問の仕方学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。(日本語論文においてはレジュメのみとする。)                           |
| 第6回  | 日本語論文の個人発表1                     | 発表の仕方や質問の仕方学ぶ(レジュメのみ)                                                                                             |
| 第7回  | 日本語論文の個人発表2                     | 発表の仕方や質問の仕方学ぶ(レジュメのみ)                                                                                             |
| 第8回  | 日本語論文の個人発表3                     | 発表の仕方や質問の仕方学ぶ(レジュメのみ)                                                                                             |
| 第9回  | 日本語論文の個人発表4                     | 発表の仕方や質問の仕方学ぶ(レジュメのみ)<br>*英語論文の選択を次回に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。                                                  |
| 第10回 | フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方 | 日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。                                                         |
| 第11回 | 英語論文1                           | 発表(パワポによる発表)<br>レジュメの提出。                                                                                          |

第12回 英語論文2

発表(パワポによる発表)  
レジュメの提出。

第13回 英語論文3

発表(パワポによる発表)  
レジュメの提出。

第14回 全体統括

文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう(下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり)。

第1回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備

第2回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意

PsycINFO IDの獲得

第3回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備

第4回 PsycINFOによる検索

予習復習には各2時間をかけることとする。

第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える

第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。

第10-13回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。

第14回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

### 【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数数の3分の2以上の出席を前提とし、参加態度(意見や質問など)による平常点を40%、日本語論文の総合評価(レジュメによる発表・討論参加など)30%、英語論文の総合評価(パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など)30%、の配分で総合評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度は、授業外学習に能動的に取り組んでくれたようでしたし、和文も英文のプレゼンも積極的に参加してくれていました。専門の資料を理解することが楽しくなるように支援していきたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、パワーポイント使用(最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします)。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。オンラインか対面も新型コロナウイルス感染症の状況で変更することがありますので、支援システムを必ずチェックしてください。

### 【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.

・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 演習 I (3)

三浦 大志

授業コード：A3629 | 曜日・時限：木4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

## 【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する、キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける
- (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。和文論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取り入れます。発表に関しては、授業内およびメールでフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                           | 内容                                                  |
|------|-------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                     | 全体計画と進行の紹介                                          |
| 第2回  | 論文の種類の説明、論文の構成                | 論文の構成についての説明 (題名、キーワード、抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など)      |
| 第3回  | 文献検索1                         | 図書館を利用した検索 (ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない)             |
| 第4回  | 文献検索2                         | 教員による専門的検索の説明<br>教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する           |
| 第5回  | レジュメの作り方の説明                   | 研究論文を読んだあとのレジュメの作成の仕方とポイントを解説する                     |
| 第6回  | 和文論文の個人発表1                    | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)                             |
| 第7回  | 和文論文の個人発表2                    | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)                             |
| 第8回  | 和文論文の個人発表3                    | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)                             |
| 第9回  | 和文論文の個人発表4                    | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)                             |
| 第10回 | フィードバックとパワーポイントスライドの作り方、発表の仕方 | 和文の発表についてのフィードバックと英文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える |
| 第11回 | 英語論文の個人発表1                    | 発表 (パワポによる発表)                                       |
| 第12回 | 英語論文の個人発表2                    | 発表 (パワポによる発表)                                       |
| 第13回 | 英語論文の個人発表3                    | 発表 (パワポによる発表)                                       |
| 第14回 | 英語論文の個人発表4<br>全体統括            | 発表 (パワポによる発表)<br>全体の振り返りも行う                         |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう (下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり)。

第1回 自己紹介とシラバスに課題の準備

第2回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意  
PsycINFO IDの獲得

第3回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備

第4回 PsycINFOによる検索

第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える

第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく

第10-14回 英語論文レジュメとパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出

(講義を通してのまとめや改善点のアンケート)

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

## 【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上の出席を前提とし、参加態度 (意見や質問など) による平常点を40%、和文論文の総合評価 (レジュメによる発表・討論参加など) 30%、英語論文の総合評価 (パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など) 30%、の配分で総合評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、しっかりとした発表が多かったせいもあるかもしれませんが、質問より感想コメントが例年より多かった感じがありました。

もちろん、何も言わないよりは感想コメントを言えた方が全然良いのですが、「質問の仕方・返答の仕方」を学べるのもこの授業の1つの特長なので、質問をしやすい雰囲気を作っていきたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、パワーポイント使用 (最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします)。

## 【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。オンラインか対面も新型コロナウイルス流行等の状況で変更することがありますので、支援システムを必ずチェックしてください。

## 【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ It is necessary for students to (1) present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3) provide comments, opinions to the presenters.

・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 演習 I (4)

下山 晃司

授業コード：A3630 | 曜日・時限：木4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

### 【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- (4) 論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                             | 内容                                                                                       |
|------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                       | 全体計画と進行の紹介                                                                               |
| 第2回  | 論文の種類の説明、論文の構成1                 | 論文の構成についての説明 (題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など)                                           |
| 第3回  | 文献検索1                           | 図書館を利用するための検索 (ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない)。                                              |
| 第4回  | 文献検索2                           | 教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。                                                  |
| 第5回  | レジュメの作り方の説明                     | 研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイント解説する。                                                        |
| 第6回  | 日本語論文の個人発表1                     | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい (日本語論文においてはレジュメのみとする)。 |
| 第7回  | 日本語論文の個人発表2                     | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)。                                                                 |
| 第8回  | 日本語論文の個人発表3                     | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)。                                                                 |
| 第9回  | 日本語論文の個人発表4                     | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)。*英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。                       |
| 第10回 | フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方 | 日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。                                |
| 第11回 | 英語論文1                           | 発表 (パワポによる発表) レジュメの提出                                                                    |
| 第12回 | 英語論文2                           | 発表 (パワポによる発表) レジュメの提出                                                                    |

第13回 英語論文3

発表 (パワポによる発表) レジュメの提出

第14回 全体統括

文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう (図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります)。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

第1回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備

第2回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意  
PsycINFO IDの獲得

第3回 検索の仕方をマスターし、専門的キーワードの準備

第4回 PsycINFOによる検索

第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。

第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。

第10-13回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出

第14回 講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

### 【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

### 【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上 (10回以上) の出席を前提とし、参加態度 (意見や質問など) による平常点を40%、日本語論文の総合評価 (レジュメによる発表・討論参加など) 30%、英語論文の総合評価 (パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など) 30%、の配分で総合評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

15名中、4名から回答がありました。Q1 (授業の工夫) とQ4 (履修してよかったか) については、4名中2名が「5」 (大変工夫していた / 大変よかった) と回答し、残り2名は「4」、「3」と回答がばらけました。以上のことから、回答者の授業に対する満足度は概ね高かったと考えられます。

自由記述には3名の回答がありました。

- ・論文の読み方、話し方が大変勉強になりました
- ・論文を読んだり発表をしたり、とても良い経験が出来ました。ありがとうございます。

- ・一年生のころの科目とは異なり、自分で考えて計画し、行動しなければならぬ場面が増えて難しかったです。

以上の結果から、本演習の位置付けである「卒論の入口」を受講生が無事通過できるよう、引き続き受講生のサポートに努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、プロジェクターのカギをBT5階の教授室から借り出して準備 (最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします)

### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。

【オフィスアワー】 シラバスの教員紹介に記載してあります。

### 【文献、図表などの書き方】

この演習Iを含め、卒業論文などの教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学研究の投稿の手引きに準じて行います。2022年度改定がされていますので、新しい手引きを入手しておいてください。  
<https://psych.or.jp/manual/>

### 【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

- ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- ・ It is necessary for students to (1) present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3) provide comments, opinions to the presenters.

- ・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 演習 I (5)

太田 碧

授業コード：A3631 | 曜日・時限：火3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

## 【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
  - (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得する。
  - (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
  - (4) 論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
  - (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
- 以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                             | 内容                                                                                       |
|------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                       | 全体計画と進行の紹介                                                                               |
| 第2回  | 論文の種類、論文の構成                     | 論文の構成についての説明 (題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など)                                           |
| 第3回  | 文献検索 1                          | 図書館を利用する際の検索 (ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない)。                                               |
| 第4回  | 文献検索 2                          | 教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。                                                  |
| 第5回  | レジュメの作り方の説明                     | 研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。                                                       |
| 第6回  | 日本語論文の個人発表 1                    | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい (日本語論文においてはレジュメのみとする)。 |
| 第7回  | 日本語論文の個人発表 2                    | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)。                                                                 |
| 第8回  | 日本語論文の個人発表 3                    | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)。                                                                 |
| 第9回  | 日本語論文の個人発表 4                    | 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)。<br>*英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。                   |
| 第10回 | フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方 | 日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。                                |
| 第11回 | 英語論文 1                          | 発表 (パワポによる発表) レジュメの提出                                                                    |
| 第12回 | 英語論文 2                          | 発表 (パワポによる発表) レジュメの提出                                                                    |

第13回 英語論文 3

発表 (パワポによる発表) レジュメの提出

第14回 全体統括

文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう (図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります)。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

第1回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備

第2回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意、PsycINFO IDの獲得

第3回 検索の仕方をマスターし、専門的キーワードの準備

第4回 PsycINFOによる検索

第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。

第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行う。

第10-13回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出

第14回 講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

## 【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

## 【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上 (10回以上) の出席を前提とし、参加態度 (意見や質問など) による平常点を40%、日本語論文の総合評価 (レジュメによる発表・討論参加など) 30%、英語論文の総合評価 (パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など) 30%、の配分で総合評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のためありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、プロジェクターのカギを BT5 階の教室から借り出して準備すること (授業の早い時期にできるだけ用意する順番を決めるようにします)。

## 【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。

## 【文献、図表などの書き方】

この演習 I を含め、卒業論文などの教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学研究の投稿の手引きに準じて行います。2022年度改定がされていますので、新しい手引きを入手しておいてください。

<https://psych.or.jp/manual/>

## 【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.

・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (1)

高橋 敏治

授業コード：A3643 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒論を含めた心理学研究の方法 (問題提起, 目的・仮説設定, 方法, 統計分析, 結果の表示, 考察の仕方など) について学びます。心理学研究の計画と実践を通じて論文作成の問題点を議論します。

### 【到達目標】

教員・学生との間の自由で活発なディスカッションを実践し、できるだけ早い時期に研究テーマを設定し、実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するというのを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、質問紙や実験方法の作成、実際に実施する際の教示や説明の練習の場として授業を活用していきます。授業時間内に、必ず質疑応答の時間を設け、生じた疑問や問題を討論します。発表後には、振り返りレポートを提出してもらい、疑問点などを次回以降の授業内でフィードバックしていきます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                    |
|------|-------------|-----------------------|
| 第1回  | オリエンテーション   | 授業計画説明と順序・役割決め        |
| 第2回  | 研究計画発表【1-1】 | 順番を決めた上で各自の計画の検討1     |
| 第3回  | 研究計画発表【1-2】 | 順番を決めた上で各自の計画の検討2     |
| 第4回  | 研究計画発表【1-3】 | 順番を決めた上で各自の計画の検討3     |
| 第5回  | 研究計画発表【1-4】 | 順番を決めた上で各自の計画の検討4     |
| 第6回  | 研究計画吟味1     | 予備研究の実施1              |
| 第7回  | 研究計画吟味2     | 予備研究の実施2              |
| 第8回  | 研究計画吟味3     | 予備研究の実施3              |
| 第9回  | 研究計画発表【2-1】 | 順番を決めた上で計画の吟味検討1      |
| 第10回 | 研究計画発表【2-2】 | 順番を決めた上で計画の吟味検討2      |
| 第11回 | 研究計画発表【2-3】 | 順番を決めた上で計画の吟味検討3      |
| 第12回 | 研究計画発表【2-4】 | 順番を決めた上で計画の吟味検討4      |
| 第13回 | 研究計画実施1     | 手順や方法の確立              |
| 第14回 | 研究計画実施2     | 教示や分析方法の完成と倫理規定基準のクリア |
|      | 総括・まとめ      |                       |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

|      |                                                    |
|------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | 1回目研究計画発表の原稿作成1                                    |
| 第2回  | 1回目研究計画発表の原稿作成2と発表後の修正版レポート作成                      |
| 第3回  | 1回目研究計画発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成                      |
| 第4回  | 1回目研究計画発表の原稿作成4と発表後の修正版レポート作成                      |
| 第5回  | 予備研究の実施要領作成                                        |
| 第6回  | 予備研究実施によるデータ採取のレポート作成                              |
| 第7回  | 予備研究実施によるデータ解析のレポート作成                              |
| 第8回  | 予備研究実施による問題点のレポート作成                                |
| 第9回  | 2回目研究計画発表の原稿作成1と発表後の修正版レポート作成                      |
| 第10回 | 2回目研究計画発表の原稿作成2と発表後の修正版レポート作成                      |
| 第11回 | 2回目研究計画発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成                      |
| 第12回 | 2回目研究計画発表の原稿作成4と発表後の修正版レポート作成                      |
| 第13回 | 研究計画の手順や方法のレポート作成                                  |
| 第14回 | 研究計画の教示や分析方法のレポート作成と倫理規定申請書作成<br>卒論問題提起を夏休み前に完成し提出 |

### 【テキスト (教科書)】

特に、テキストは使いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、発表 (40%)、レポート課題 (20%) によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ、発表後に振り返りレポートとして提出して下さい。それを次回の発表時に反映して下さい。

### 【学生の意見等からの気づき】

13名の受講者中1名の回答を頂きました。新型コロナの流行の問題がありますが、もっと交流する機会や時間を設けることを検討していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、パワーポイントを使用しますので、ノートPC準備係とプロジェクト係を決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせをします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

### 【その他の重要事項】

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。  
【オフィスアワー】火曜日の昼休みに開設します。メール [toshiha@hosei.ac.jp](mailto:toshiha@hosei.ac.jp) で事前に予約してください。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、必ず生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わってきています。この経験を生かし、一緒に考えていきます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

We will study psychology research methods (raising questions, setting purpose/hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to set research themes at an early stage through free and lively discussions between the teacher and students and to like them to the writing of dissertations.

#### 【Learning activities outside of classroom】

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

#### 【Grading Criteria / Policy】

The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (2)

竹島 康博

授業コード：A3644 | 曜日・時限：火5/Tue.5  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自身の興味関心に基づき、人間の感覚情報処理に関する研究テーマを見つけ、実証的研究として設計するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

## 【到達目標】

3年次生は、関心のある研究テーマに対してグループで実験計画の策定、実験の実施、報告資料の作成を通して実証的研究の計画を作り上げ、それを報告するスキルのトレーニングを行います。4年次生は、3年次までの学びを活かして実証的な研究の計画を策定することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

3年次生と4年次生の合同で授業を行います。基本的には3年次生と4年次生で異なる実習を行います。必要に応じて合同で議論を行います。両学年ともに発表内容について積極的にコメントをすることを求めます。なお、受講者の人数や状況等によって授業内容を一部変更する場合があります。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                | 内容                                                                |
|------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                          | 授業の進め方の説明<br>学科のルールを確認<br>4年：春期休暇中の進捗を報告<br>3年：興味のあるテーマを発表、グループ分け |
| 第2回  | 実験実施準備(1)                          | 4年：実験計画の検討・計画書の作成<br>3年：テーマ決め、実験計画の策定                             |
| 第3回  | 実験実施準備(2)                          | 4年：実験計画の検討・計画書の作成<br>3年：実験計画の策定 (実験計画の期限)                         |
| 第4回  | 実験実施準備(3)                          | 4年：実験計画の検討・計画書の作成 (実験計画書の期限)<br>3年：実験プログラムや質問フォームの作成              |
| 第5回  | 実験実施準備(4)                          | 4年：実験プログラムや質問フォームの作成<br>3年：実験プログラムや質問フォームの作成                      |
| 第6回  | 実験実施準備(5)                          | 4年：実験プログラムや質問フォームの作成<br>3年：実験プログラムや質問フォームの作成                      |
| 第7回  | 実験実施準備(6)                          | 4年：実験プログラムや質問フォームの作成<br>3年：実験プログラムや質問フォームの作成 (テストラン)              |
| 第8回  | 実験実施準備(7)                          | 4年：実験プログラムや質問フォームの作成 (テストラン)<br>3年：実験手続きの文書作成 (終了時に手続き文書を提出)      |
| 第9回  | 実験実施準備(8)                          | 4年：実験の教示文の作成 (教示文の期限)<br>3年：実験手続きの文書作成 (実験準備の期限)                  |
| 第10回 | 実践活動                               | 3年次生はグループごとに実験を実施。<br>4年次生は参加者の立場となり、自身の研究計画に瑕疵がないかを確認。           |
| 第11回 | 実験実施準備(9)<br>実験データのまとめ             | 4年：同意書の作成 (実験プログラム・同意書の期限)<br>3年：実験データを分析 (データの整理は事前にやっておく)       |
| 第12回 | 実験実施準備(10)<br>結果の解釈のトレーニング         | 4年：倫理申請書類の作成 (倫理申請書類の期限)<br>3年：グループごとに実験の方法と結果を報告し、互いに考察し合う       |
| 第13回 | アカデミックライティング<br>(序論、方法、結果、考察、引用文献) | 3・4年生合同で、実験レポートの書き方を中心にアカデミックライティングのポイントについて確認                    |

第14回 まとめ

春学期の授業を振り返り、各人が夏季休暇中に行う作業について確認

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 文献の読み込み、実験の準備、その他資料の作成など、実際の作業は授業時間外に行います。授業内での議論を基に各学生が行う作業内容を決定し、毎回の達成目標を設定します。

4年生はスプレッドシートに毎週の作業内容を入力し、授業時にどの程度達成できたかを報告します。3年生はグループ内で次回授業までにやるべき作業を確認します。

## 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

## 【参考書】

各人の研究テーマや課題に応じて、適宜参考となる文献を授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

共通：他者の発表へのコミットメント 20%

4年次生：定められた期限までの進捗評価 80%

3年次生：定められた期限までの進捗評価 40%・レポート評価 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

4年生は人によって進捗に差が出てくるよう、各ステップに締切を設けてどの程度期限内に進められたかを成績評価の項目にします。

3年生は今年度もグループによる実験を中心に進めますが、学生同士で議論するような時間も昨年度よりも多く設けます。

また、3・4年生共通の学びとして実験レポートの書き方のルール確認も授業内で取り入れます。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて自分のPCを持参してください。

## 【その他の重要事項】

この科目は3年次生と4年次生の合同授業です。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次に同じ教員の研究法I・IIを受講してください。初回に授業の進め方の説明をしますので、必ず出席してください。

4年次生はオフィスアワーやDiscordを利用して指導教員に授業時間外でも相談しながら進めてください。3年次生はグループ活動となるので、メンバーに迷惑をかけないように各自が意識してください。

授業で募集する知覚心理学・認知心理学に関わる実験や調査などへの参加による学習についても評価に加味する場合があります。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest.

## 【Learning objectives】

The goals of this course are to conduct of basic research in the field of psychology of perception and cognition.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (40%), class discussion (20%), and class presentation (60%).

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (3)

渡辺 弥生

授業コード：A3645 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業研究を対象とした専門演習です。2年次、3年次の演習の成果をふまえて、各自研究の計画を立案する。最新の論文を収集し、興味をもった研究の動向を明らかにする。先行研究の内容を理解した上で、課題や問題点を明確にし、改善するためにどのような研究が可能なのか、楽しんで考えてほしい。オリジナリティのある理論的展開や方法を考えつこうに支援していく。また、研究にとどまらず、ゼミで交流することによって、社会人として与えられた課題をこなし、成果を広く発表し、伝えていくためのソーシャルスキルも学んでほしい。

### 【到達目標】

論文を書くことだけでなく、各自が社会にでて活かせるような力として、論理的思考、創造力、情報収集能力、計画遂行力をふくむソーシャルスキルを育むことを目標とする。

- (1) 専門の論文を検索できる。
- (2) 論文から研究の流れを理解する。
- (3) 先行研究の目的から考察の内容を理解できる。
- (4) 先行研究を批判し、オリジナリティを加えられる。
- (5) 具体的に自分の研究計画を立案する。

こうした、研究のスキルだけでなく、ゼミのネットワークを強める貢献をし、互いにペアやグループワークを活用し、相互に研究力だけでなく人間力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学習内容：自分の決めたテーマにかかわる文献を集め整理し、問題意識を明らかにする。そこから、仮説を立て研究計画を完成させていく。その際、発達や臨場にかかわる研究の難しさや倫理的な配慮、モラルについても学ぶ。毎回、全員が何かしら発言し、互いの考えを共有できるようにアットホームなたたか交流を目指したい。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。授業方法：演習・実習方式

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                                                 |
|------|--------------|--------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 研究の枠組みについて確認 | スキーマの獲得:研究のイメージをつかむことができるようになることを目標とする。                            |
| 第2回  | 研究計画1        | テーマ決定：一口に心理学と言っても、かなりバリエーションがある。どのようなテーマがあるかを概観したうえで、興味あるテーマを決定する。 |
| 第3回  | 研究計画2        | 先行研究のリスト：興味あるテーマを絞ったとしても、その歴史は長く、研究の経緯がある。まずは、リストをつくる。             |
| 第4回  | 研究計画3        | 先行研究の理解：これまでの研究の流れを、理解→批判→問題提起という作業の枠組みを通して考える。                    |
| 第5回  | 研究計画4        | 先行研究の理解：前の時間をさらに継続する。                                              |
| 第6回  | 先行研究の論点の整理   | 先行研究のマップ作り：ビジュアルに理解できるように、ノートを工夫してまとめる作業をする。                       |
| 第7回  | 先行研究の論点の整理   | 先行研究のマップ作り：先の作業を完成させる。                                             |
| 第8回  | 問題提起の作成      | 論理的な構造作り：マッピングした流れを、文章に書いてみる。論文の書き方を体験する。                          |
| 第9回  | 問題と目的を書く1    | 論理的な構造で書けているかをチェックする。                                              |
| 第10回 | 問題と目的を書く2    | ライティングの完成                                                          |
| 第11回 | 方法について検討     | その目的を実行するためにどのような方法が必要かを考える。協力者へへのお願いの手紙など、協力者を得るための手続きも確認する。      |
| 第12回 | 発表           | プレゼンテーション                                                          |
| 第13回 | 発表           | プレゼンテーション                                                          |
| 第14回 | 総括           | 全体のまとめ                                                             |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、各授業内で消化できないことが出てくるので、授業時間外で予習復習に各2時間を補って置く。互いに、意見を交換したり、質問しあったり、活動レベルを高められるよう工夫します。研究論文を読みながら研究の流れを知ることと同時に、レヴュー本を読んで研究論文で扱われている問題が、広い領域のなかの一部分だということを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業開始時に適宜紹介する。

### 【参考書】

授業開始時に適宜紹介する。論文の書き方をタイトルとした本を一冊準備する。改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 単行本—2010/7/13 松井豊(著) などこの種の本を1冊読んでほしい。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の課題遂行(70%)とプレゼンテーション(30%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

かなり勉強したと評価している人がいるので、このペースで。「判断力」「苦手克服」という点がのびるようにしてほしい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントやDVDなど。

### 【その他の重要事項】

上記計画は、研究の進み具合によって、多少変更します。研究法をコアにした授業外のゼミ活動(ゼミ行事、合宿)で総合力を養ってほしい。授業支援システムに登録する。新型コロナウイルス感染症の状況によって、オンラインに変更する可能性はある。

### 【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students are expected to collect the latest theses and formulate their interest in researching trends. From the knowledge obtained from the collected theses, students will have to determine currently existed issues. Furthermore, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, not stopping at researches, this training will also provide the necessary social skills for students to correctly convey the outcomes of the study which they conducted, helping students to become more confident as a member of the society.

・ The goal of this course is not only to write papers, but also to develop social skills, including logical thinking, creativity, the ability to gather information, and the ability to carry out plans, as skills that can be utilized in society.

・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ Grading will be decided based on each class assignment (70%) and presentations (30%)

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (4)

福田 由紀

授業コード：A3646 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、演習Ⅰと演習Ⅱで習得したことをふまえて、実際に実験・調査実施のための計画を立て、実施し、分析することが目標です。心理学は実証科学です。自分の興味をどのように実験や調査に持っていくのか？！そこが研究のポイントです。自分の興味にあったテーマについて研究の「いろは」を体験しましょう。

### 【到達目標】

\* 3年生:実際に実験を行い、分析・考察し、発表を行う。この一連の過程により、研究における注意事項を確認できるようになる。また、様々な装置を用いてその使い方を学ぶ。そして、4年生の発表に対して積極的に聴くことにより、自分の研究テーマを絞り込んでいく。  
\* 4年生: 3年時に蓄積した先行研究の知見をさらに発展させる。そして、目的にあった研究を自分自身で計画し、実施し発表する。その結果、一人で問題を発見し、それを解決できるようになる。また、自分の研究を発表することにより、よりよいプレゼンテーションができ、わかりやすい文章を書くことができるようになる。  
\* 共通の目標: 論文としての確かな文章を書ける。また、授業中、みんなの前で発表したり、それに対してクリティカルな意見を発言したり、他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果、他者の仕事(発表・文書)に対して、建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

3年生と4年生による協同学習を目指した合同授業です。両学年とも自分の研究を個別に発表したり、それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることのないだろうかという態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に、研究計画書の書き方、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に提出した事前課題に関しては、授業中に、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppiiからのお知らせに注意して下さい。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                                       |
|------|----------------|----------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション      | 授業の進め方とアジェンダの確認。卒論の概要説明。                                 |
| 第2回  | 発表スキル1・文章力1アップ | PPTを使った自己紹介、文章力アップ1のピアレビュー。                              |
| 第3回  | 分析力1・文章力アップ2   | 分析や結果を表現するための表計算ソフトの習得と確認、文章力アップ2のピアレビュー。                |
| 第4回  | 分析力2・文章力アップ3   | 分析ソフトの習得と確認、文章力アップ3のピアレビュー。                              |
| 第5回  | 研究力1・発表スキル2アップ | 3年生：眼球運動測定装置の講習。<br>4年生：研究の進捗状況の発表。                      |
| 第6回  | 研究力2・文章力3アップ   | 3年生：種論文の発表1。<br>4年生：3年生へのアドバイス。<br>Touch & Go!           |
| 第7回  | 研究力3・発表スキル4アップ | 3年生：種論文の発表2。<br>4年生：3年生へのアドバイス。<br>共通：コメントシートの修正のピアレビュー。 |
| 第8回  | 研究力4・文章力4アップ   | 実験・調査前後に作成する書類の書き方のコツの講習。<br>文章力アップ4のピアレビュー。             |
| 第9回  | 研究力5・発表スキル5アップ | 3年生：研究の構想発表1。<br>4年生：3年生へのアドバイス                          |
| 第10回 | 研究力6・文章力5アップ   | 倫理申請書類の書き方のピアレビュー1：研究計画申請書、同意書。                          |

|      |              |                                                             |
|------|--------------|-------------------------------------------------------------|
| 第11回 | 研究力7・文章力6アップ | 倫理申請書類の書き方のピアレビュー2：デブリーフィング用紙、参加者募集のちらし。<br>文章力アップ5のピアレビュー。 |
| 第12回 | 文章力7アップ      | やり取りのある文章の書き方講習会                                            |
| 第13回 | 文章力8アップ      | 段落とは何か？の講習会。<br>文章力アップ6のピアレビュー。                             |
| 第14回 | 研究力8・文章力9アップ | 序論のピアレビュー。<br>Touch & Go!                                   |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、発表や作業があります。授業計画に沿って、事前の課題を行い、自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し、コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

適宜、授業時に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表40%とコメント20%、事前の課題提出40%によって決められます。発表は、わかりやすく的確に説明することが求められます。また、コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることも求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度は国内研究で授業を担当しませんでした。そのため、2022年度の気づきを以下に再掲します。

「工夫していた」100%、「授業を受けてよかった」が約9割の方が回答してくれました。ありがとうございます！！「週2時間以上3時間未満」が5割。時間がすべてではありませんが、この授業はやればやるほど学習効果がありますよ。2年続きの文章力アップの課題は、2年目に初めて気がつくこともありそうです。また、○○スキルアップと銘打って授業を進行していることも評価されました。続けていきますね。皆さんのブレ卒論・卒論がとても楽しみです。

### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席して下さい。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また、この科目は3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

### 【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to learn how to conduct psychological research.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. make one's research plan
- B. carry it out
- C. analyze it appropriately

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 40%, comment for the presentation of other people:20%, in-class contribution: 40%.



PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (5)

田嶋 圭一

授業コード：A3647 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまで学んできた心理学の知識を活かし、高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し、みずから設定したテーマに沿って研究を行い、成果としてまとめ発信していくことを目指します。春学期は研究計画の立案と研究実施の準備までを行います。

### 【到達目標】

1. 論文検索を適切に行うことができ、論文の内容を正確に読解し、批判的に読めるようになること。
2. 1の活動を踏まえて先行研究のレビューができ、心理学的研究に値する独自の問題点が提示できること。
3. (3年生) タネ論を基本とした「追試 + a」の研究計画を立案できるようになること。(4年生) 複数の先行研究を基に独自の問題意識に基づく研究計画を立案できるようになること。
4. 研究計画を基に研究の実施に向けて素材・装置・倫理審査書類等が適切に準備できること。
5. 自分の研究成果を効果的に発表できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回何らかの課題を課します。次回までに課題に取り組み、授業にて発表・ディスカッション・相互フィードバックを行います。毎回休まずに出席する心積もりでください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく、他者の取り組みにも関心を寄せ、建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって、個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用した学生相互のピアレビュー、授業内および掲示板での教員からのフィードバックなど取り入れながら授業を進める予定です。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                                           |
|------|---------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入                  | シラバスの説明、達成目標の設定                                              |
| 第2回  | 文献レビュー(1)、各自のテーマの決定 | 【4年生】卒論を見据えたテーマ設定と文献講読1・発表。【3年生】関心のあるテーマの選定と文献講読1、4年生へのコメント。 |
| 第3回  | 文献レビュー(2)           | 【4年生】文献講読2、3年生へのコメント。【3年生】文献講読2・発表。                          |
| 第4回  | 文献レビュー、研究計画の立案(1)   | 【4年生】文献講読3、問題点の精査、発表。【3年生】文献講読3、問題点の精査、4年生へのコメント。            |
| 第5回  | 文献レビュー、研究計画の立案(2)   | 【4年生】文献講読4、問題点の精査、3年生へのコメント。【3年生】文献講読4、問題点の精査、発表。            |
| 第6回  | 研究計画発表(1)           | 【全員】研究計画書の作成。【4年生】発表。                                        |
| 第7回  | 研究計画発表(2)           | 【全員】研究計画書の作成。【3年生】発表。                                        |
| 第8回  | 研究計画の具体化            | 変数の整理、刺激・材料等の準備                                              |
| 第9回  | 問題の設定、研究倫理          | 問題意識と研究目的の設定、研究倫理について                                        |
| 第10回 | 4年生成果発表(1)          | 【4年生】成果発表。【3年生】成果発表準備、4年生へのコメント。                             |
| 第11回 | 4年生成果発表(2)          | 【4年生】成果発表。【3年生】成果発表準備、4年生へのコメント。                             |
| 第12回 | 3年生成果発表(1)          | 【4年生】倫理審査書類提出、3年生へのコメント。【3年生】成果発表。                           |
| 第13回 | 3年生成果発表(2)          | 【4年生】倫理審査書類提出、3年生へのコメント。【3年生】成果発表。                           |
| 第14回 | まとめと展望              | 春学期の総括、秋学期に向けての準備                                            |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

研究の流れ(テーマの設定、論文の講読、問題提起、実験・調査の計画など)に沿って、ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し、授業にて適宜配布してください。ゼミ活動は授業時間だけでは時間が足りません。詳しいアドバイスが必要な場合はアボを取るかオフィスアワーなどを活用してください。学生間のコミュニケーションや共同学習を促すため、ピアレビュー(仲間同士が相互に建設的・批判的なコメントを出し合う活動)を取り入れます。また、研究の「お作法」に関する文献を読んだり練習問題を解いたりしてもらう予定です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介いたします。

### 【参考書】

南風原 朝和・市川 伸一・下山 晴彦(編)(2001).『心理学研究法入門 一調査・実験から実践まで一』東京大学出版会。  
高野 陽太郎・岡 隆(編)(2004).『心理学研究法 一心を見つめる科学のまなざし一』有斐閣アルマ。  
松井 豊(2006).『心理学論文の書き方 一卒業論文や修士論文を書くために一』河出書房新社。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、発表60%の割合で評価します。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合は無断で発表を怠った場合は、単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

### 【学生の意見等からの気づき】

回答者8名のうち7名が「履修してよかった」「工夫されていた」と回答し、8名全員が「理解できた」と回答してくれました。授業外学習時間は「週3時間以上」が4名、「2-3時間」が2名、「1-2時間」「30分-1時間」が各1名でした。具体的なコメントとして、倫理申請も含めて学期の予定が初回に示されていたのがよかった、グループワークがあったので学生同士で気軽に色々なことを質問・確認したり積極的に考えたりすることができた、といった肯定的な感想をいただきました。一方、研究の進め方や発表の仕方について特に3年生が具体的にイメージできる環境ができていないのではないかと、執筆・投稿の手引きを丸投げするのではなく注意点や資料の作り方などについて授業でフォローする時間があるとよい、といった改善点もご指摘いただきました。論文の書き方などについてより細やかな指導ができるように工夫したいと思います。

### 【その他の重要事項】

この科目は3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていただきますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法I・IIを受講してください。

なお、授業計画や運営方針の説明などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。やむを得ず初回授業を欠席する場合は必ず事前に担当教員にメールで連絡してください。アドレスは、tajima[at]hosei.ac.jpです([at]を@マークで置き換えてください)。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course will help students acquire the knowledge and skills necessary to plan and carry out psychological research, and effectively present their accomplishments. The spring semester focuses on research planning and preparation.

#### 【Learning objectives】

Through this course, students should become able to:

1. Search and critically read research articles.
2. Provide a thorough literature review and devise original research questions.
3. Construct a detailed research plan based on the research questions.
4. Prepare research materials, equipment, and ethical review documents necessary to carry out the research plan.
5. Give an effective presentation of one's research goals and progress.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students will set appropriate goals and strive to achieve those goals by the next class meeting. Presentation materials should be prepared as needed. Students are also expected to provide feedback to other students' work through peer-review activities. For each class, students will be expected to spend at least 4 hours outside of class to make progress in their research.

#### 【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (40%) and in-class presentations (60%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or fail to present in class without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (6)

藤田 哲也

授業コード：A3648 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文に向けて、心理学の研究計画の立て方から論文の書き方まで、実践的・体系的に学ぶことが授業の目的です。

## 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

&lt; 4年生 &gt;

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 複数の先行研究をレビュー (概観) し、批判的な読み方をすること。
3. 1, 2をふまえて、独自性のある研究計画を立てること。
4. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。

&lt; 3年生 &gt;

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 1をふまえて、先行研究の追試を基本とした研究計画を立て、実施し、適切な方法で分析できること。
3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。
4. 研究成果を論文形式でまとめること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

3年生と4年生が合同で授業をします。研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら実験・調査を行うことが、この授業の具体的な作業目標となります。まず、自分が解明したいと考える日常生活における疑問等を、心理学の研究分野 (記憶、認知、動機づけ、自己など) に関連づけて整理しましょう。その上で、自分の興味に近い先行研究がないか、探してみましょう (必ず見つかるはず)。見つけてきた先行研究の背景となる議論の理解から始め、実験・調査の実際の方法、得られたデータを適切に分析する方法まで、一通りの過程を、先行研究を参考にしながら自分自身でたどってみましょう。4年生は複数の先行研究を概観するレビュー発表と、そのレビューによって明確になった問題意識を発展させた卒論中間発表の2回の発表機会があります。3年生は一つの先行研究を熟読し、改善点などの自分なりのオリジナルな視点を加え、実際に研究を行った成果発表を行った上で、発表によって明らかになった改善点を踏まえ、ミニ論文として論文形式で研究成果をまとめてもらいます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                           |
|------|-----------|----------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | シラバス記載事項の確認と補足説明、卒論とは何かについての概説、受講上の注意、発表順の決定 |
| 第2回  | それぞれの研究課題 | 4年：レビューの仕方、3年：研究テーマの決定と先行研究の選定               |
| 第3回  | レビュー発表1   | 4年：発表、3年：発表へのコメント、実験材料・調査用紙の作成               |
| 第4回  | レビュー発表2   | 4年：発表、3年：発表へのコメント、実験・調査の準備および実施開始            |
| 第5回  | レビュー発表3   | 4年：発表、3年：発表へのコメント、自分の研究の実施と平行して分析法の確認、結果の分析  |
| 第6回  | 研究実施      | 4年と3年：3年生の調査実施                               |
| 第7回  | 中間まとめ     | 4年：これまでのレビュー発表総括、3年：研究中間報告                   |
| 第8回  | 卒論中間報告1   | 4年：発表、3年：発表へのコメント、自分の発表用資料の構成                |
| 第9回  | 卒論中間報告2   | 4年：発表、3年：発表へのコメント、自分の発表用資料の作成                |
| 第10回 | 卒論中間報告3   | 4年：発表、3年：発表へのコメント、自分の発表練習                    |
| 第11回 | 3年生研究発表1  | 4年：発表へのコメント、3年：発表                            |
| 第12回 | 3年生研究発表2  | 4年：発表へのコメント、3年：発表、論文の構成について                  |
| 第13回 | ミニ論文仮提出   | 4年と3年：受講生同士によるミニ論文の相互評価                      |

第14回 総括とミニ論文本提出 授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが、他の受講生の発表に対して、学習支援システムの掲示板上で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また、発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

特に定めません。

## 【参考書】

テキストはありませんが、レジュメおよびミニ論文の書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006年)。

## 【成績評価の方法と基準】

4年生：

平常点 (40%) …授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表 (60%) …自分で選択したテーマに沿ったレビュー発表と、自分自身の研究の中間計画を発表してもらいます。それぞれの発表において、発表の内容と発表のしかた、発表資料 (レジュメ) の正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

3年生：

平常点 (40%) …授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表 (30%) …研究内容に加え、レジュメの体裁、プレゼンの仕方、質疑応答がそれぞれ評価対象となります。

ミニ論文 (30%) …研究内容と論文の体裁が評価対象となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケートから：「履修してよかった」の評価は4.38、「理解度」も4.38で、例年よりやや低めとなりました。授業外学習時間は全体として高めで、「週3時間以上」が最頻値で62.5%でしたので個人の取り組みに問題があるというよりも、他の受講生の発表に対する理解度が不足気味だったのかもしれませんが。昨年度に比べると受講生数が増えている分、発表のペースも早めでしたが、いたしかたない部分もあります。3年生、4年生それぞれに秋学期の目標も改めて提示してあります。各自、授業で課せられた課題だけでなく、自主的に自分の研究を進めるための課題を見つけて進めてください。

## 【その他の重要事項】

研究法 I・IIは、通年で同じ教員の授業を履修してください。その際、どの教員の研究法を履修するのは、原則として4年生は3年次に行った「卒業論文指導希望調査」、3年生は2年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また、授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this class, students will learn how to set up psychology research plans and how to write papers in a practical and systematic manner with the goal of approaching graduation theses.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

&lt; 4th grade &gt;

1. Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental / survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.
2. Students can review (overview) multiple previous studies and read them critically.
3. Students can make a unique research plan based on 1 and 2.
4. Students can make an effective presentation.

&lt; 3rd grade &gt;

1. Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental / survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.
2. Based on 1, students can formulate and implement a research plan based on the follow-up examination of previous research, and analyze it by an appropriate method.
3. Students can make an effective presentation.
4. Students can summarize research results in the form of a dissertation.

## 【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria / Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

&lt; 4th grade &gt;

In-class contribution 40%, research presentation 60%.

&lt; 3rd grade &gt;

In-class contribution 40%, research presentation 30%, mini-thesis 30%.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (7)

島宗理

授業コード：A3649 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。受講生は、それぞれ自分の問題意識から研究テーマを選び、標的となる行動を決め、その制御変数を実験によって見つけながら、この方法論を習得します。卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で卒業後にも役立つ技術を習得することを目指します。

### 【到達目標】

研究法Iで主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：特定の標的行動として具体化すること、解決に役立つ関連情報を調べること、行動の制御変数の候補を複数推定し、その中から実験で検討する変数を選び、先行研究を元に実験計画を立案すること、実験計画書を作成し、発表すること、実験装置や測定システムなどを準備し、予備実験からそれを改善すること、本実験を実施し、データを分析し、まとめて図表や文章、口頭発表などでコミュニケーションすること。

これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためのだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で課題の発表と討論を中心に進めます。課題へのフィードバックは授業およびMoode/Slackで行います。3年次には卒論の準備として小実験に取組みます。4年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使います。積極的に参加して下さい。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ        | 内容                                                                                                                                                                                       |
|-----|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション  | 全員：<br>授業内容と方法、約束事を説明します。実験計画のプレゼン方法、注意すべきこと、研究倫理(倫理委員会に提出する書類など)について解説します。<br>3年次生：<br>小実験の候補を紹介します。                                                                                    |
| 第2回 | 実験計画の発表(1) | 全員：<br>独立変数と従属変数、変数の統制、実験計画法、行動の観察と記録、仮説の立案や変数の探索などを学びます。<br>3年次生：<br>小実験について討論し、予備実験の準備を進めます。<br>4年次生：<br>各自、実験計画を発表し、討論します。GOサインがでたら予備実験に移れるように、実験計画は「概要」ではなく、刺激や記録用紙なども用意してプレゼンして下さい。 |
| 第3回 | 実験計画の発表(2) | 同上                                                                                                                                                                                       |
| 第4回 | 実験計画の発表(3) | 同上                                                                                                                                                                                       |
| 第5回 | 予備実験の報告(1) | 全員：<br>データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善(継続実験の計画)などを学びます。<br>3年次生も4年次生も、予備実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。                                             |
| 第6回 | 予備実験の報告(2) | 同上                                                                                                                                                                                       |
| 第7回 | 予備実験の報告(3) | 同上                                                                                                                                                                                       |

### 第8回 先行研究をまとめる(1)

全員：  
先行研究や参考書、統計資料などを読み、現在の研究の流れや社会のニーズの中に自分の実験を位置づけます。研究のストーリーをまとめてあげの方法について解説します。

### 第9回 先行研究をまとめる(2)

同上

### 第10回 先行研究をまとめる(3)

同上

### 第11回 本実験の報告(1)

全員：  
データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善(継続実験の計画)などをさらに学びます。  
3年次生も4年次生も、本実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。

### 第12回 本実験の報告(2)

同上

### 第13回 本実験の報告(3)

同上

### 第14回 まとめ(1)

全員：  
各自、自分の研究のセールスポイントを抜き出し、これを伝える題目を考えて発表します。卒論のストーリーを端的に伝える練習をします。  
3年次生は小実験、4年次生は本実験のレポートを提出します。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均4時間を標準とします。

- 興味がある実験について標的行動(従属変数)、介入方法(独立変数)、実験計画法の3つを考え、提案するための資料を作成する。
- 実験計画について予測する結果を作図する。
- 5つ以上の先行研究を表にまとめる。

### 【テキスト(教科書)】

○島宗理(2019). ワードマップ 応用行動分析学—ヒューマンサービスを改善する行動科学— 新曜社

### 【参考書】

○研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

○授業参加(40%)および授業課題の遂行度(60%)から成績を評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度から課題の提出期限をゆるゆるにしましたが、そのせいか3年次で実験を完了できた人の数が激減してしまいました。提出期限はゆるゆるのまま3年生のうちに実験を完了する手段を考えてみます。

### 【その他の重要事項】

○この科目は本年度より3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法I・IIを受講してください。

○研究テーマは受講生の興味を最優先して決めます。行動分析学は研究対象を限定しません。基本的に何でも研究できると考えて下さい。ただし、大学生活のかなりの部分をかけて取り組む研究ですから、自分の得意なこと、興味があること、これだけは人に負けないぞと自信があること、そういう自信をつけたいことなどを選んで下さい。こんなことでも実験できるのだろうか? と思いとどまらず、ぜひ一度相談して下さい。卒論ですから、大がかりな実験はできませんが、世界に二つとない実験を共につくりましょう。

○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室(富士見坂校舎6F9号室)です。訪問希望者は前日までにSlackのDMで連絡してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including functional analyses of behavior, systematic observation and recording procedures, single-case designs, and visual inspection of time series data to evaluate effectiveness of an intervention. Students will select their own research topic, conduct a literature review, develop a research proposal, and run experiments.

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) identify behavioral objectives, 2) design and conduct experiments, 3) analyze data, and 4) present research outcomes.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 4 hours).

#### 【Grading Criteria/Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

**研究法Ⅱ (1)**

高橋 敏治

授業コード：A3651 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

今まで学んできた心理学の知識と方法論をベースに、卒業研究を実施する上で必要な能力を習得します。論文作成上の問題点を、演習形式で検討します。

**【到達目標】**

実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けた問題点や修正点について活発な議論をします。まとめに至る段階で何回か、議論し、修正し、卒論を準備します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するというのを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、質問紙の作成や実際に実験を実施する際の教示や説明の練習の場として活用します。授業時間内に、必ず質疑応答の時間を設け、生じた疑問や問題を討論します。発表後には、振り返りレポートを提出してもらい、疑問点などを次回以降の授業内でフィードバックしていきます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容                      |
|------|---------------------------|-------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                     | 秋学期の授業計画説明と順序・役割決め      |
| 第2回  | 研究発表【3-1】                 | 順番を決めた上で計画の吟味検討1        |
| 第3回  | 研究発表【3-2】                 | 順番を決めた上で計画の吟味検討2        |
| 第4回  | 研究発表【3-3】                 | 順番を決めた上で計画の吟味検討3        |
| 第5回  | データ整理                     | Excelの使い方、データの扱い方など     |
| 第6回  | 研究相談1                     | 問題点や疑問点の整理              |
| 第7回  | データ処理                     | データ処理、統計分析など            |
| 第8回  | 研究相談2                     | 問題点や疑問点の整理              |
| 第9回  | 図表のまとめかた                  | 記述統計表やグラフの適応の仕方など       |
| 第10回 | 研究相談3                     | 論文の記載上の問題               |
| 第11回 | 研究発表【4-1】                 | 順番を決めた上で計画の吟味検討1        |
| 第12回 | 研究発表【4-2】                 | 順番を決めた上で計画の吟味検討2, 卒論仮提出 |
| 第13回 | 研究発表【4-3】                 | 順番を決めた上で計画の吟味検討3        |
| 第14回 | よく見かける論文記載上の間違い(実例)総括・まとめ | 仮提出論文フィードバック            |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

|      |                                        |
|------|----------------------------------------|
| 第1回  | 3回目研究発表の原稿作成1                          |
| 第2回  | 3回目研究発表の原稿作成2と発表後の修正版レポート作成            |
| 第3回  | 3回目研究発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成            |
| 第4回  | 3回目研究発表の原稿作成4と発表後の修正版レポート作成            |
| 第5回  | 卒論データの入力上の問題や作成上の問題点レポート作成1            |
| 第6回  | 卒論データの統計上の問題点レポート作成                    |
| 第7回  | 卒論仮説と対応させた統計分析の問題点レポート作成               |
| 第8回  | 卒論図表作成上の問題点レポート作成                      |
| 第9回  | 卒論作成上の問題点レポート作成1                       |
| 第10回 | 4回目研究発表の原稿作成1と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成 |
| 第11回 | 4回目研究発表の原稿作成2と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成 |
| 第12回 | 4回目研究発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成 |
| 第13回 | 4回目研究発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成            |
| 第14回 | 卒論仮提出用原稿修正版の作成<br>要旨原稿の作成              |

**【テキスト (教科書)】**

特に、テキストは使いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (40%)、発表 (40%)、レポート課題 (20%) によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映した振り返りレポートとして、それを提出して下さい。必要に応じて、次の授業で議論します。

**【学生の意見等からの気づき】**

13名の受講者中3名から回答を頂きました。4-5の段階は授業の工夫ではほとんどがここに回答してくれていました。授業外学習は週1～3時間の人がほとんどでした。今年も3年は卒論の準備、4年生には卒論制作に専念するように授業や課題の内容を別々に進めました。自由記述では、「大雑か1人の発表内容から、検討すべき点について先生が全体に呼びかけてくれた。自分の研究に置き換えて考えることはもちろん、他人の研究への理解を深める一助となった。」のコメントがありました。

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートPC、パワーポイントを使用しますので、ノートPC準備係とプロジェクト係を決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

**【その他の重要事項】**

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。  
【オフィスアワー】 火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、一緒に考えていきます。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

Based on the knowledge and methodology of psychology we have learned so far, we will acquire the required abilities to conduct graduation research.

**【Learning Objectives】**

Lively discussions will be held on problems and corrections based on actual survey and experimental data.

**【Learning Objectives】**

Discuss and modify it many times to complete your bachelor thesis.

**【Learning activities outside of classroom】**

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

**【Grading Criteria /Policy】**

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法Ⅱ (2)

竹島 康博

授業コード：A3652 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の感覚情報処理に関する実証的研究を、自身の力で設計・実施・考察するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

### 【到達目標】

3年次生は、自身の関心ある研究テーマについて実証的な研究の計画を作り上げることを目標とします。4年次生は、自身が計画した実証的研究を実施、取得したデータを整理、分析、解釈して報告するための一連の能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

3年次生と4年次生の合同で授業を行います。3年次生は研究計画を策定するために文献の検索と講読、発表を行い議論します。発表内容について積極的にコメントをすることを求めます。4年次生は、実施した研究についてまとめる作業を段階的に行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                             | 内容                                                                    |
|------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                       | 授業の進め方の説明<br>夏季休暇中の進捗の報告                                              |
| 第2回  | 研究テーマの検討(1)<br>データの整理・論文の執筆(1)  | 3年：各自が読んできた論文の報告と議論<br>4年：データの取得を進めながら分析に適した形式に整理、方法を中心に執筆            |
| 第3回  | 研究テーマの検討(2)<br>データの整理・論文の執筆(2)  | 3年：各自が読んできた論文の報告と議論<br>4年：データの取得を進めながら分析に適した形式に整理、方法を中心に執筆 (データ取得の期限) |
| 第4回  | 研究テーマの検討(3)<br>データの解析・グラフを作成(1) | 3年：各自が読んできた論文の報告と議論<br>4年：予定していたデータの分析を実施、結果のグラフを作成                   |
| 第5回  | 研究テーマの検討(4)<br>データの解析・グラフを作成(2) | 3年：各自が読んできた論文の報告と議論<br>4年：当初の予定していなかった副次的な分析を実施、結果のグラフを作成 (データ解析の期限)  |
| 第6回  | 研究テーマの検討(5)<br>結果の共有と考察(1)      | 3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告<br>4年：互いに結果を報告して解釈し合う                           |
| 第7回  | 研究テーマの検討(6)<br>結果の共有と考察(2)      | 3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告<br>4年：互いに結果を報告して解釈し合う                           |
| 第8回  | 研究テーマの検討(7)<br>論文の執筆(1)         | 3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告<br>4年：結果を中心に執筆                                  |
| 第9回  | 研究テーマの検討(8)<br>論文の執筆(2)         | 3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告<br>4年：グループ活動を活かして考察を執筆                          |
| 第10回 | 研究テーマの検討(9)<br>論文の執筆(3)         | 3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告 (研究テーマを決定)<br>4年：全体を通して卒論の体裁を確認                 |
| 第11回 | ベース論文の検討(1)<br>論文の執筆(4)         | 3年：自身の研究のベースとなる論文を検討<br>4年：卒論を書き上げて仮提出                                |
| 第12回 | ベース論文の検討(2)<br>執筆内容のブラッシュアップ(1) | 3年：自身の研究のベースとなる論文を検討<br>4年：論理が一貫していない部分や体裁が守られていない部分を修正               |
| 第13回 | ベース論文の検討(3)<br>執筆内容のブラッシュアップ(2) | 3年：自身の研究のベースとなる論文を検討 (ベースとなる論文を決定)<br>4年：論理が一貫していない部分や体裁が守られていない部分を修正 |
| 第14回 | 発表資料の作成方法                       | 発表スライドを作成する時の注意点を確認                                                   |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。文献の読み込み、発表資料の作成など、実際の作業は授業時間外に行います。授業時間内では、行った作業の成果の発表と議論を行います。また、授業内での議論を基に各学生が行う作業内容を決定し、毎回の達成目標を設定します。4年次生はスプレッドシートに毎週の作業内容を入力し、授業時にどの程度達成できたかを報告します。3年次生は毎週論文を1本読み、授業時に5分で発表できるようにスプレッドシートに内容をまとめます。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

### 【参考書】

各人の研究テーマに応じて、適宜参考となる文献を授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

共通：他者の発表へのコミットメント 20%  
4年次生：定められた期限までの進捗評価 40%、卒論仮提出の内容の評価 40%  
3年次生：定められた期限までの進捗評価 40%、講読論文のまとめ方の評価 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

4年次生はスプレッドシートを利用しながら、計画的に卒業論文の執筆を進められるように工夫します。  
3年次生はただ論文を読むだけでなく、簡潔にまとめるトレーニングも繰り返す行う内容にします。  
また、今年度は3・4年生共通の学びとして発表資料の作成ポイントについても学習する回を設けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて自分のPCを持参してください。

### 【その他の重要事項】

この科目は3年次生と4年次生の合同授業です。重複履修を原則としていないので、3年次と4年次に同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。初回に授業の進め方の説明をしますので、必ず出席してください。  
4年次生はオフィスアワーやDiscordを利用して指導教員に授業時間外でも相談しながら進めてください。3年次生は論文を読んで必ず5分で発表できるようにまとめてください。  
授業で募集する知覚心理学・認知心理学に関わる実験や調査などへの参加による学習についても評価に加味する場合があります。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest.

#### 【Learning objectives】

The goals of this course are to conduct of basic research in the field of psychology of perception and cognition.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (40%), class discussion (20%), and class presentation (60%).

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

**研究法Ⅱ (3)**

渡辺 弥生

授業コード：A3653 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

卒業研究をめざした専門演習の最終ステップ。研究法Ⅰで完成させたプランを実行にうつす。問題と目的のもとにどのような方法を実行するかを決定していく。対象者、調査・観察・実験などの確定。実施する時期やデータの収集方法や手続きについて計画を練り、結果の分析方法および考察の進め方などについても学ぶ。研究の遂行とともに推敲とともに各自論文の作成を実行する。

**【到達目標】**

心理学研究の論文の書き方について習得し集大成できる力を獲得したい。同時に、プレゼンテーションなどについてのスキルや研究協力者を得たり、フィードバックできるソーシャルスキルをマスターする。論文を書くということが、課題をクリエイティブに考えだし、効果的な方法で探求し、結果を適切に分析し、なぜそのような結果が得られたのか深く考察するといったプロセスであると体得してほしい。総合力を身につけ、結果的にキャリア形成に必要なスキルを学ぶことを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

一人一人の予習・復習がベースになり、授業では集団の良さを生かした演習方式をとる。他人の考えを聞き、自分の考えを述べるができるようにしたい。ペアワーク、グループワークなどをもとに、課題解決をしていく。互いに意見や質問を発言できるには他の人の伝えたいことに耳を傾けることだと思うので、このようなことが実感できるようアクティブラーニングを基本とする。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ            | 内容                                            |
|------|----------------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | 研究計画のまとめ       | 全体の確認<br>問題と目的のライティング                         |
| 第2回  | 方法論について        | 方法の確認：方法をライティング                               |
| 第3回  | 材料および手続きの決定    | ライティング                                        |
| 第4回  | 分析方法の想定        | 問題と目的で書いた仮説を検討するためにどのような方法が望ましいか決定。           |
| 第5回  | 分析方法について1      | 分析を始める。データセットを確認してメインの分析をする。その結果を図表にライティングする。 |
| 第6回  | 分析方法について2      | 前の授業の継続                                       |
| 第7回  | 結果1            | 結果についてライティングする。                               |
| 第8回  | 結果2            | 前の時間の継続                                       |
| 第9回  | 考察             | 結果を考察し、ライティングする。引用文献を入れて考察する。                 |
| 第10回 | 研究発表1<br>4年生発表 | プレゼンテーション                                     |
| 第11回 | 研究発表2<br>4年生発表 | プレゼンテーション                                     |
| 第12回 | 研究発表3<br>3年生発表 | プレゼンテーション                                     |
| 第13回 | 研究発表4<br>3年生発表 | プレゼンテーション                                     |
| 第14回 | シェアリング<br>予備   | ディスカッション                                      |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回、各時間に消化できなかったことを補います。個人差が生じると予想されるが、遅れている人は時間外に補うようにします。個人、ペア、グループなどを効果的に用いて、応用力を伸ばせるようにします。予習復習に各2時間をかけることとする。

**【テキスト (教科書)】**

適宜授業時に伝える。

**【参考書】**

研究Ⅰで紹介。論文を書くためのテキストで読みやすい本を一読しえおく。

**【成績評価の方法と基準】**

質問や意見をいうなど参加態度を含む平常点(50%)とプレゼンテーション(50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

個人の進行の差があるが、個人及び全体の観点からも充実した内容にしたい。また、議論が積極的にできるようにしたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、DVDなど。

**【その他の重要事項】**

上記の進行は多少状況によって変化します。授業外のゼミ活動、研究協力者へのフィードバックを重視します。新型コロナウイルスの感染状況によってオンラインに変更する可能性がある。

**【発達心理学】**<https://sites.google.com/site/emywata/Home>**【Outline (in English)】**

This subject is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, this training will also provide the necessary writing skills for students to correctly organize, discuss, and write the outcomes of the study which they conducted.

The goal of this course is not only to write papers, but also to develop social skills, including logical thinking, creativity, the ability to gather information, and the ability to carry out plans, as skills that can be utilized in society.

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Grading will be decided based on Ordinary points (50%) and presentation (50%), including attitude toward participation such as asking questions and expressing opinions.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法Ⅱ (4)

福田 由紀

授業コード：A3654 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、演習Ⅰ、演習Ⅱと研究法Ⅰで習得したことをふまえて、実際に実験・調査したことを学術論文の形にまとめて、効果的に発表することが目標です。自分の興味にあったテーマの研究を公刊できる形にまとめていきましょう。

### 【到達目標】

\* 3年生:自分の関心ある研究テーマに対し、心理学研究の計画を作り上げる。これにより、自分自身で問題を発見し、それを解決できるようになる。そして、4年生の発表に対して積極的に聴くことにより、分析技能や考察する力が身につく。

\* 4年生:春学期で蓄えた知見や技能を用いて、適切な分析や考察を行い、発表する。これにより、高い分析技能や論理的に考察する力が身につく。また、ピアに発表することにより、自分の状態を客観的に評価するスキルも身につく。

\* 共通の目標:論文としての確かな文章を書ける。また、授業中、みんなの前で発表したり、それに対してクリティカルな意見を発言したり、他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果、他者の仕事(発表・文書)に対して、建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

3年生と4年生による協同学習を目指した合同授業です。3年生は卒論を見据えた研究について発表を行います。4年生は個人の研究を個別に発表したり、それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることか否かという態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に提出した事前課題に関しては、授業中に、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppiiからのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                                      |
|------|---------------------|---------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション・文章力1アップ   | 授業の進め方とアジェンダの確認。各自の進捗状況の報告。                             |
| 第2回  | 研究力1・文章力2アップ        | 方法のピアレビュー。文章力アップ7のピアレビュー。                               |
| 第3回  | 発表スキル1アップ           | 3年生：4年生へアドバイス。<br>4年生：結果・考察の発表1。                        |
| 第4回  | 発表スキル2アップ           | 3年生：4年生へアドバイス。<br>4年生：結果・考察の発表2。                        |
| 第5回  | 研究力2・発表スキル3アップ      | 3年生：関連論文の発表1。<br>4年生：3年生へのアドバイス。<br>Touch & Go!         |
| 第6回  | 研究力3・発表スキル4アップ      | 3年生：関連論文の発表1。<br>4年生：3年生へのアドバイス。<br>共通：文章力アップ8のピアレビュー   |
| 第7回  | 研究力4・発表スキル5アップ      | 3年生：プレ論文の結果・考察の発表1。<br>4年生：3年生へのアドバイス。<br>Touch & Go!   |
| 第8回  | 研究力5・発表スキル6・文章力3アップ | 3年生：プレ論文の結果・考察の発表2。<br>4年生：3年生へのアドバイス。<br>共通：結果のピアレビュー。 |
| 第9回  | 研究力6・文章力4アップ        | 修正された結果と考察のピアレビュー。<br>Touch & Go!                       |
| 第10回 | 研究力7・文章力5アップ        | 引用文献・図表・要旨のピアレビュー。                                      |
| 第11回 | 文章力6・発表スキル7アップ      | 共通：論文の仮提出。<br>文章力アップ9のピアレビュー。                           |
| 第12回 | 発表スキルアップ8           | 効果的な発表のコツの講習会<br>3年生：卒論構想発表1<br>4年生：発表予行練習1             |

第13回 発表スキルアップ9 3年生：卒論構想発表2

4年生：発表予行練習2

第14回 発表スキルアップ10と 3年生：卒論構想発表3

まとめ 共通：Touch & Go! 授業のまとめ

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、発表や作業があります。授業計画に沿って、事前の課題を行い、自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し、コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

適宜、授業時に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表40%とコメント20%、事前の課題提出40%によって決められます。発表は、わかりやすく的確に説明することが求められます。また、コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることで求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！欠席しないこと。どうしても欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度は国内研究で授業を担当しませんでした。そのため、2022年度の気づきを以下に再掲します。

卒論、プレ卒論の作成、お疲れ様でした。発表の回数が多くて、慣れた・好きになった等のコメントが多かったです。人前で話すことは慣れが重要ですね。また、質問に対して親身に相談にのってくださったのが良かった、とも。はい、なるべく早く簡潔にわかりやすく回答しようと努力しています。今後も続けていきますね。そして、質問がなければ、そのやり取りは存在しません。どんどん、質問してね。院生さんとの交流もあったようで、何よりです。

### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また、この科目は本年度より3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

### 【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to learn how to summarize psychological research.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. make a paper of one's research

- B. present it effectively

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 40%, comment for the presentation of other people:20%, in-class contribution: 40%.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法Ⅱ (5)

田嶋 圭一

授業コード：A3655 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまで学んできた心理学の知識を活かし、高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し、みずから設定したテーマに沿って研究を行い、成果としてまとめていくことがテーマです。秋学期は計画に沿って研究を実施し、研究成果を口頭発表および論文としてまとめます。

## 【到達目標】

1. 心理学的に意義があり倫理的に適切な研究計画を立案できること。
2. 自分が立案した研究計画に沿って研究を的確に遂行できること。
3. 収集したデータを図表にまとめ、適切な統計的手法を用いて分析・解釈できること。

4. 研究成果を口頭発表および論文として効果的に発信できること。4年生は卒業論文を、3年生はミニ論文を完成させることを最終的な到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回何等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み、授業にて発表・ディスカッション・相互フィードバックを行います。毎回休まずに出席する心積もりでいてください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく、他者の取り組みにも関心を寄せ、建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって、個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用した学生相互のピアレビュー、授業内および掲示板での教員からのフィードバックなど取り入れながら授業を進める予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                     | 内容                                   |
|------|-------------------------|--------------------------------------|
| 第1回  | 導入                      | シラバスの説明, 研究計画の確認, 発表順の決定             |
| 第2回  | 研究の準備                   | 実験・調査の準備, 倫理審査                       |
| 第3回  | 研究の実施, 論文執筆: 目的, 方法 (1) | 研究の実施, 研究目的から方法までの書き方                |
| 第4回  | 研究の実施, 論文執筆: 目的, 方法 (2) | 研究の実施, 進捗状況報告                        |
| 第5回  | 3年生中間発表 (1), 研究の実施      | 【3年生】 中間発表, 論文前半提出。【全員】 ピアレビュー。      |
| 第6回  | 3年生中間発表 (2), データの整理・加工  | 【3年生】 中間発表, 論文前半提出。【全員】 ピアレビュー。      |
| 第7回  | 4年生中間発表 (1), 記述統計量の計算   | 【4年生】 中間発表, 論文前半提出。【全員】 ピアレビュー。      |
| 第8回  | 4年生中間発表 (2), 推測統計の実施    | 【4年生】 中間発表, 論文前半提出。【全員】 ピアレビュー。      |
| 第9回  | 結果の解釈, 論文執筆: 結果, 考察     | 効果的な図表の作成, 結果 (事実) と考察 (解釈) の書き方     |
| 第10回 | 論文執筆: 導入から引用文献まで        | 問題と目的, 引用文献などの書き方, 論文全体の執筆・推敲        |
| 第11回 | 3年生成果発表 (1)             | 【3年生】 成果発表。【4年生】 論文仮提出。【全員】 ピアレビュー。  |
| 第12回 | 3年生成果発表 (2)             | 【3年生】 成果発表。【全員】 ピアレビュー。              |
| 第13回 | 4年生成果発表 (1)             | 【4年生】 成果発表。【3年生】 ミニ論文提出。【全員】 ピアレビュー。 |
| 第14回 | 4年生成果発表 (2), 総括         | 【4年生】 成果発表。【全員】 ピアレビュー。授業のまとめ。       |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究の流れ (テーマの設定, 論文の講読, 問題提起, 実験・調査の計画など) に沿って、ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し、授業にて適宜配布してください。ゼミ活動は授業時間だけでは時間が足りません。詳しいアドバイスなどが必要な場合はアポを取るかオフィスアワーなどを活用してください。学生間のコミュニケーションや共同学習を促すため、ピアレビュー (仲間同士が相互に建設的・批判的なコメントを出し合う活動) を取り入れます。また、研究の「お作法」に関する文献を読んだり練習問題を解いたりしてもらう予定です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介いたします。

## 【参考書】

南風原 朝和・市川 伸一・下山 晴彦 (編) (2001). 『心理学研究法入門 一調査・実験から実践まで』 東京大学出版会。  
高野 陽太郎・岡 隆 (編) (2004). 『心理学研究法 一心を見つめる科学のまなざし』 有斐閣アルマ。  
松井 豊 (2006). 『心理学論文の書き方 一卒業論文や修士論文を書くために』 河出書房新社。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、発表60%の割合で評価します。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合または無断で発表を怠った場合は、単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

10名の回答者のうち、9名が「工夫されていた」、10名全員が「理解できた」「履修してよかった」と回答してくれました。授業外学習時間は「週3時間以上」が4名、「2-3時間」が6名でした。ピアレビュー、発表後のグループワーク、Slackを使ったコミュニケーション、困っていることなどを共有しやすく質問しやすい雰囲気などが好評でした。一方、3年生が効果的な資料作りや発表の方法を身に付ける機会を増やす、司会者を指定して時間を管理したりや質問がなかった時に質問したりするといった具体的な改善策をたくさん指摘していただきました。次年度に向けて積極的に改善を検討したいと思います。

## 【その他の重要事項】

この科目は3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

なお、授業計画や運営方針の説明などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。やむを得ず初回授業を欠席する場合は必ず事前に担当教員にメールで連絡してください。アドレスは、tajima[at]hosei.ac.jpです ([at]を@マークで置き換えてください)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will help students acquire the knowledge and skills necessary to plan and carry out psychological research, and effectively present their accomplishments. The fall semester focuses on carrying out the research according to the research plan and effectively presenting the research findings.

【Learning objectives】

Through this course, students should become able to:

1. Construct a detailed, meaningful, and ethically acceptable research plan.
2. Conduct the research according to the research plan.
3. Process and analyze data using appropriate visualization and statistical techniques.
4. Present research findings effectively through oral presentations and academic papers/theses.

【Learning activities outside of classroom】

Students will set appropriate goals and strive to achieve those goals by the next class meeting. Presentation materials should be prepared as needed. Students are also expected to provide feedback to other students' work through peer-review activities. For each class, students will be expected to spend at least 4 hours outside of class to make progress in their research.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (40%) and in-class presentations (60%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or fail to present in class without a legitimate reason, course credit will not be granted.



PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 II (6)

藤田 哲也

授業コード：A3656 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文を視野に入れ、心理学の研究の実施方法を実践的に学ぶことが授業の目的です。

### 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

<4年生>

1. 先行研究を踏まえ、妥当性の高い方法で実験や調査を行えるようになること。
2. 得たデータに適した正しい分析を行えること。
3. 客観的かつ正確な文章および的確な図表によって研究成果を表現できるようになること。
4. 研究成果について、わかりやすく魅力的なプレゼンテーションを行えること。

<3年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 複数の先行研究をレビュー (概観) し、批判的な読み方をすること。
3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。
4. 他者の発表に対する的確なコメントを行い、他者の書いた論文に対し有益な改善アドバイスをすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

3年生と4年生が合同で授業をします。4年生は、実際に研究を行うことでデータを収集し、分析をしながら、適切な解釈ができるように発表および討論を2回行います。研究法の時間は、実験や調査、分析を行うための時間ではなく、それらについての議論を行う時間だと理解してください。3年生は、次年度に行う研究に向けて、a. 論文紹介+批判的コメントの発表、b. 自分が選択したテーマに関するレビュー論文の紹介+自分の問題意識の発表を行います。全員、ほかの受講生の発表内容に対して、適切にコメントをしてください。また、首尾一貫した論文を書くためのポイントについてアドバイスします。研究論文は、作文やレポートとは質・量ともに別物です。第三者に的確に情報を伝えるために、十分に推敲するためのポイントを把握してください。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ          | 内容                                 |
|------|--------------|------------------------------------|
| 第1回  | 秋学期のスケジュール   | 全員：シラバス記載事項の確認と補足説明、授業内容と目標の明確化    |
| 第2回  | 卒論中間発表1      | 4年：発表と研究準備、3年：発表へのコメントと先行研究の選定     |
| 第3回  | 卒論中間発表2      | 4年：発表と研究準備、3年：発表へのコメントと選定した論文の読解   |
| 第4回  | 3年生論文発表1     | 4年：発表へのコメントと研究実施、3年：発表と発表へのコメント    |
| 第5回  | 3年生論文発表2     | 4年：発表へのコメントと結果分析、3年：発表と発表へのコメント    |
| 第6回  | 卒論最終発表1      | 4年：発表と結果の分析、3年：発表へのコメントとレビュー論文の読解  |
| 第7回  | 卒論最終発表2      | 4年：発表と結果の考察、3年：発表へのコメントとレビュー論文の読解  |
| 第8回  | 卒論最終発表3      | 4年：発表と卒論の執筆、3年：発表へのコメントと自分の発表準備    |
| 第9回  | 3年生レビュー論文発表1 | 4年：発表へのコメントと卒論執筆、3年：発表と発表へのコメント    |
| 第10回 | 3年生レビュー論文発表2 | 4年：発表へのコメントと卒論推敲、3年：発表と発表へのコメント    |
| 第11回 | 卒論学生相互コメント   | 4年：卒論の推敲、3年：卒論に対するコメント             |
| 第12回 | 卒論仮提出        | 4年：卒論の改稿、3年：卒論に対するコメント             |
| 第13回 | 卒論要旨集原稿確認    | 4年：要旨集原稿の修正、3年：要旨集原稿へのコメント         |
| 第14回 | 総括と卒論発表会準備   | 全員：授業の振り返り、到達状況の確認、4年：プレゼンテーションの準備 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが、他の受講生の発表に対して、学習支援システムの掲示板上で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また、発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

指定しません。

### 【参考書】

テキストはありませんが、レジュメおよび卒業論文の書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006年)。

### 【成績評価の方法と基準】

4年生：

平常点 (40%)；授業へ出席し終了後に掲示板に書き込みを行うこと、授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象  
卒論計画発表 (20%)；発表内容10%、レジュメ5%、発表の仕方・質疑応答5%)

卒論最終発表 (40%)；発表内容20%、レジュメ15%、発表の仕方・質疑応答5%)

各発表時におけるコメント (回数に応じてボーナスポイント扱い)

3年生：

平常点 (40%)；授業へ出席し終了後に掲示板に書き込みを行うことと、授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象  
論文発表 (20%)；発表内容10%、レジュメ5%、発表の仕方・質疑応答5%)  
レビュー論文発表 (40%)；発表内容20%、レジュメ15%、発表の仕方・質疑応答5%)

各発表時におけるコメント (回数に応じてボーナスポイント扱い)

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケートから：「この授業を履修してよかった」では11名が5、1名が4の回答でした。大きな改善の必要性はないと受け止めました。「授業外学習時間」は6人が3時間超、3人が2時間以上と、十分に取組んでいる人がほとんどでしたが、1-2時間も3名いました。「理解度」は10名が5で、4と3が1名ずつでした。クロス集計していませんが、全員の理解度が上がるよう、授業外の活動についてのバックアップも怠りなくやろうと思います。いただいた自由記述からも、みんなが積極的に自分の課題と向かい合い、なおかつ他の受講生との交流を図ることで高い満足度を得たことがうかがえました。教員側にも大変な側面もありますが、よい意味での「お互い様」が続くよう、皆さんも積極的な姿勢で参加してください。

### 【その他の重要事項】

研究法I・IIは、通年で同じ教員の授業を履修してください。その際、どの教員の研究法を履修するのかは、原則として4年生は3年次に行った「卒業論文指導希望調査」、3年生は2年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また、授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this class, students practically learn how to prepare psychology research plans, analysis methods, how to write papers, etc. with the goal of approaching graduation thesis.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

< 4th grade >

- 1.Students can conduct experiments and surveys using highly relevant methods based on previous research.
- 2.Students can perform correct analysis suitable for the obtained data.
- 3.Students can express research results with objective and accurate sentences and accurate charts.
- 4.Students can give an easy-to-understand and attractive presentation about research results.

< 3rd grade >

- 1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental / survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.
- 2.Students can review (overview) multiple previous studies and read them critically.
- 3.Students can make an effective presentation.
- 4.Students can make accurate comments on other student's presentations and give useful improvement advice to papers written by others.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

< 4th grade >

In-class contribution 40%, graduation thesis plan presentation 20%, graduation thesis final presentation 40%.

< 3rd grade >

In-class contribution 40%, presentations on papers 20%, presentations on review papers 40%.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法Ⅱ (7)

島宗 理

授業コード：A3657 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。研究法Ⅱでは、3年次生は小実験の報告書と卒論の実験計画書、4年次生は卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で、論理的な文章作成や根拠に基づいた提案、プレゼン、討論の練習をしていきます。

### 【到達目標】

研究法Ⅱで主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：自分の実験を社会的、学術的な文脈に位置づけること、実験から得られたデータを分析し、わかったこと、わからなかったことを整理し、わからなかったことはどうすればわかるようになるかを提案すること。わかったことを数量化し、図表にまとめ、読み手や聞き手にわかりやすいように発表すること、論理的に一貫した、読みやすい文章を書くこと。詳細な規定にきめ細かく対応した校正を行うこと。締切から逆算して計画をたて、遂行すること。自分では解決できない問題について仲間や指導教員から助言をもらうこと、助言すること。

これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で課題の発表と討論を中心に進めます。課題へのフィードバックは授業およびMoode/Slackで行います。3年次には研究法Ⅰで行った小実験と次年度に行う卒論実験を題材に課題に取り組みます。4年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使いますので積極的に参加して下さい。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                  | 内容                                                                                                                           |
|-----|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション            | 全員：<br>授業内容と方法、約束事を説明します。<br>3年次生は小実験、4年次生は卒論実験の内容を1分間でプレゼンする練習をします。                                                         |
| 第2回 | 論文を書く：<br>アウトラインを書く  | 全員：<br>アウトラインを書いてから本文を書く方法を解説します。卒論の方法の章を使って練習をします。日本心理学会「執筆・投稿の手引き」の参照方法も解説します。<br>3年次生は小実験のレポートを執筆します。4年次生は卒論実験を論文にしていきます。 |
| 第3回 | 論文を書く：<br>データの視覚的な提示 | 全員：<br>実験の中心的なデータを選び、それを視覚的に伝える図を描きます。独立変数と従属変数の関係性がわかりやすく提示できているかどうか、「手引き」やゼミの「チェックリスト」にそっているかどうかを確認します。                    |
| 第4回 | 論文を書く：<br>推敲する(1)    | 全員：<br>方法の章の完成版を提出し、チェックリストに基づいて推敲します。方法の章で最も重要なのは読み手がその実験を追試できるように書かれているかどうかです。読み手の立場から自分の論文を読み直して推敲する練習をします。               |
| 第5回 | 論文を書く：<br>事実を書く      | 全員：<br>アウトラインから書く方法を結果の章を使って練習します。読み手に自分の研究のセールスポイントをわかりやすく伝えるために、順序や論理展開を工夫する練習です。                                          |

|                                                                                                                                                                                                                                           |                             |                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第6回                                                                                                                                                                                                                                       | 論文を書く：<br>先行研究をまとめる         | 全員：<br>春学期にまとめた先行研究を表にし、「手引き」に即した作表方法を学びます。先行研究を紹介する段落を書き、文献引用の作法を練習します                                                                |
| 第7回                                                                                                                                                                                                                                       | 論文を書く：<br>研究を位置づけるアウトラインを書く | 全員：<br>第6回でまとめた先行研究の展望を活かし、また春学期に作成したストーリーを振り返り、序論のアウトラインを作成します。パラグラフ・ライティング法 (段落をトピック文とサポート文で構成する手法) を解説し、練習します。                      |
| 第8回                                                                                                                                                                                                                                       | 論文を書く：<br>推敲する(2)           | 全員：<br>第5回で作成したアウトラインに肉付けをして結果の章をまとめます。データの分析や統計が適切に、かつ充分に行われているかどうかを確認します。                                                            |
| 第9回                                                                                                                                                                                                                                       | 論文を書く：<br>推敲する(3)           | 全員：<br>パラグラフ・ライティング法を使って序論を完成させます。日本語の作文技術について確認し、推敲の練習をします。さらに、チェックリストを使って、「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。                                    |
| 第10回                                                                                                                                                                                                                                      | 論文を書く：<br>執筆ルールに基づいて校正する    | 全員：<br>引用文献一覧を作成します。「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。また、本文と見合わせて、引用の方法が適切かどうかを確認します。                                                             |
| 第11回                                                                                                                                                                                                                                      | 論文を書く：<br>推敲する(4)           | 全員：<br>小実験レポート、卒論のゼミ内提出の前の最終確認とチェックリストを使った推敲の練習をします。また、自分で書いた文章を自分で推敲するのは困難であることを自覚するために、他の受講生の卒論を校正する練習もします。校正に使う一般的な記号を習得しましょう。      |
| 第12回                                                                                                                                                                                                                                      | 研究計画(1)                     | 3年次生：<br>次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。<br>4年次生：<br>卒論を推敲し、提出します。                                                                            |
| 第13回                                                                                                                                                                                                                                      | 研究計画(2)                     | 3年次生：<br>次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。<br>4年次生：<br>卒論の要旨を作成して提出します。要旨は卒論のストーリーをわかりやすく伝える文章です。セールスポイントの抽出と伝達、文字数が限られている場合の推敲方法について解説し、練習します。 |
| 第14回                                                                                                                                                                                                                                      | 研究計画(3)                     | 3年次生：<br>次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。<br>4年次生：<br>卒論発表会に備え、卒論研究の発表練習をします。                                                                  |
| 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】<br>毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均4時間を標準とします。<br>○春学期に実施した実験の発表資料を作成し、練習をする。<br>○自分の研究の社会的意義を示す資料を収集し、発表資料としてまとめる。<br>○日本心理学会の「執筆・投稿の手引き」およびゼミの論文推敲チェックリストを用いて、「結果」の章を推敲し、提出する。 |                             |                                                                                                                                        |
| 【テキスト (教科書)】<br>島宗 理 (2019). ワードマップ 応用行動分析学 新曜社                                                                                                                                                                                           |                             |                                                                                                                                        |
| 【参考書】<br>○論理が伝わる世界標準の「書く技術」 倉島保美 (2012) 講談社<br>○2015年改訂版 執筆・投稿の手引き 日本心理学会 (2015)                                                                                                                                                          |                             |                                                                                                                                        |
| 【成績評価の方法と基準】<br>○授業参加 (40%) および授業課題の遂行度 (60%) から成績を評価します。                                                                                                                                                                                 |                             |                                                                                                                                        |
| 【学生の意見等からの気づき】<br>今年度から課題の提出期限をゆるゆるにしましたが、そのせいか3年次で実験を完了できた人の数が激減してしまいました。提出期限はゆるゆるのまま3年生のうちに実験を完了する手段を考えてみます。                                                                                                                            |                             |                                                                                                                                        |
| 【その他の重要事項】<br>○この科目は本年度より3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。本年度は旧カリの4年次生と新カリの新3年次生の合同授業となります。<br>○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室 (富士見坂校舎6F9号室) です。訪問希望者は前日までにSlackのDMで連絡してください。                           |                             |                                                                                                                                        |

**[Outline (in English)]**

**[Course outline]**

The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including evaluation of single-case design data with visual inspection, and interpretation of functional relationship between dependent and independent variables. Student will also aim to master how to write a research paper, by learning about paragraph writing, Japanese Psychological Association's publication manual, and other miscellaneous rules in academic writing.

**[Learning Objectives]**

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) prepare figures and tables, 2) cite research papers, and 3) write logical sentences, and 4) complete their own research paper.

**[Learning activities outside of classroom]**

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

**[Grading Criteria /Policy]**

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**精神生理学特講**

高橋 敏治

授業コード：A3659 | 曜日・時限：木5/Thu.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

睡眠と生体リズムを主題にした精神生理学的な課題のアプローチへの方法を通して研究手法や授業課題を中心に学びます。専門医として臨床経験を活かし、睡眠学の領域の現場の問題を取り上げます。

**【到達目標】**

健康や睡眠障害との関わりの中で、睡眠の果たすべき役割の重要性を説明できるようにする。精神生理学の領域の研究を再現し、論文作成に活用できるようにすることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

睡眠科学と時間生物学の現状を学びながら、精神生理学のアプローチの成果を学びます。心理学論文に発表された実験や調査の課題を検討しながら、睡眠の基礎から、睡眠障害・その結果生じるメンタルヘルスの問題までを学びます。睡眠、過眠、リズム障害をキーワードにして、24時間社会の問題点を最新の論文、トピックスなどから取り上げます。試験や課題については、模範解答を授業内で紹介し、解説も行う予定です。コメントシートでの疑問や質問は、次回以降の授業で取り上げ解説します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                  | 内容                                            |
|------|----------------------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーションと精神生理学の基礎   | 授業計画・注意点の説明（特に遠隔授業も含むため）                      |
| 第2回  | 睡眠の基礎                | 睡眠はなぜ必要か、REM睡眠・NREM睡眠の違い                      |
| 第3回  | 睡眠と健康                | 睡眠と病気の関係（生活習慣病と睡眠の関係）                         |
| 第4回  | 睡眠測定法1               | 睡眠を含む精神生理指標の測定方法                              |
| 第5回  | 睡眠測定法2               | 睡眠や眠気を調べる調査用紙の実際                              |
| 第6回  | 日本の大人の睡眠             | 日本の成人の睡眠の特徴（世界に冠たる短時間睡眠の国！）                   |
| 第7回  | 日本の子供の睡眠             | 日本の子供の睡眠の特徴（幼稚園と保育所の子供に睡眠の違いがある！）             |
| 第8回  | 睡眠の諸特性               | 性格、長さ、時間帯（朝型夜型）の違い                            |
| 第9回  | 生体リズムと睡眠と病気          | 病気は夜に作られる？                                    |
| 第10回 | 身近な生体リズムと睡眠の問題       | 時差ぼけ・シフト勤務睡眠障害の克服の仕方を教えます！                    |
| 第11回 | 夢と睡眠                 | 夢の諸特性-夢は本当にREM睡眠に関係するのか？                      |
| 第12回 | 睡眠と記憶                | 眠りのとり方で記憶が良くなる？                               |
| 第13回 | 睡眠障害あれこれ             | 睡眠時無呼吸症候群、むずむず脚症候群、REM睡眠行動障害など                |
| 第14回 | 睡眠とメンタルヘルス<br>総括・まとめ | うつ病は学生時代の不眠と関係する？<br>うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割を果たす？ |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

- 第1回 睡眠に関する精神生理学の基礎知識確認レポート作成
- 第2回～第11回 授業内容で扱う睡眠全般に関関したレポート作成
- 第12-13回 期末レポートに関する質問や参考事項
- 第14回 期末試験（時期は授業内で指示）

**【テキスト（教科書）】**

教科書は用いませんが、事前に文献・プリントを配布します。

**【参考書】**

堀忠雄（2008）. 睡眠心理学 北大路書房  
福田一彦、他（2022）. 心理学と睡眠 金子書房

**【成績評価の方法と基準】**

授業内の課題提出を含む平常点（50%）、期末試験（50%）で評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

5名から回答を頂きました。自由記述では、「Zoomの設定に時間がかかっている印象だったので、Zoom開設希望のメールが無い限りは開かず、原則対面という形でもいいかと思いました。」「睡眠の性質を詳しく知れて良かった。」「自分の生活習慣を見直すきっかけとして学んでくれた意見が多くありました。」

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコンや学習支援システム（資料配布、課題提出、お知らせのため）を使用します。学習支援システムには、必ず普段よく使用するメールを登録してください。

**【その他の重要事項】**

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので、注意してください。

**【オフィスアワー】** 火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

**【Outline (in English)】****(Course outline)**

In this class, we will learn sleep and biological rhythms by the psychophysiological research methods.

**(Learning Objectives)**

To be able to explain the importance of the role that sleep should play in daily life. It is to reproduce research in the field of psychophysiology so that it can be used for writing an article.

**(Learning activities outside of classroom)**

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

**(Grading Criteria / Policy)**

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (50%) and final examination (50%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 言語学特講 I

田嶋 圭一

授業コード：A3660 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間に特有の能力とされる言語がどのような原理によって成立しているのかを科学的に追究する言語学について概観します。春学期では、言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論を中心に授業を進めます。

### 【到達目標】

言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある知識を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

単語の内部構造や新しい単語を作り出す仕組み (形態論)、単語から句や文を作り出す仕組み (統語論) について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業や授業活動結果を Hoppii に書き込む作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                                                           |
|------|--------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入、言語と言語学                | シラバスの説明、言語とは、「真の言語」の特徴                                       |
| 第2回  | 言語知識                     | 2種類の言語、言語に関する様々な知識、言語学の諸分野                                   |
| 第3回  | 形態論への導入                  | 心内辞書と一般辞書、形態論と形態素、形態素の種類                                     |
| 第4回  | 語形成過程 (1) : 様々な語形成過程     | 語形成過程の種類、偶発的な語形成、少し規則的な語形成、規則性の高い語形成 : 複合                    |
| 第5回  | 語形成過程 (2) : 複合、派生        | 複合語の意味、主要部の考え方、派生語                                           |
| 第6回  | 語形成過程 (3) : 派生、転換、屈折     | 複雑な派生語の構造、語の樹形図、転換、屈折・活用                                     |
| 第7回  | 中間テスト、形態素解析 (1)、異形態      | 形態素解析の方法と練習問題、異形態とは                                          |
| 第8回  | 形態素解析 (2)、語彙範疇、格         | 形態素解析の練習問題づくり、日英語の語彙範疇格とその種類                                 |
| 第9回  | 統語論 (1) : 導入             | 構成素、句構造、句の主要部                                                |
| 第10回 | 統語論 (2) : カテゴリー、意味役割、マージ | 言語の階層構造、文を作り上げるための材料 : カテゴリー、項と意味役割、文を組み立てる仕組み : マージ、様々な種類の句 |
| 第11回 | 統語論 (3) : 文の組み立て         | 英語の文・日本語の文の組み立て、VP の組み立て、屈折辞と格、一般的な句の構造                      |
| 第12回 | 統語論 (4) : 補文             | VP の拡張、補部と指定部、文の中の文 = 補文                                     |
| 第13回 | 統語論 (5) : 補文づくり、授業のまとめ   | 課題の復習、授業のまとめ                                                 |
| 第14回 | 期末テスト、授業の振り返り            | 授業内容の理解度を確保するための授業内試験                                        |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料の指定範囲を読んだり、出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して、授業内容を復習し次の回に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストはありません。レジュメ等を授業支援システム経由で配布します。

### 【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。

西光 義弘 (編集) (1999). 『日英語対照による英語学概論 : 増補版』くろしお出版.

上山 あゆみ (1991). 『はじめての人の言語学 —ことばの世界へ—』くろしお出版.

星 浩司 (2006). 『言語学への扉』慶應義塾大学出版会.

大津 由紀雄・池内 正幸・今西 典子・水光 雅則 (編) (2002). 『言語研究入門 —生成文法を学ぶ人のために—』研究社.

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language*, 7th edition. Boston: Heinle.

Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files*, 9th edition. Ohio State University Press.

### 【成績評価の方法と基準】

平常点・課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価する予定です。

言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に参加し、授業外でも概念の習得や問題を解く作業に時間を掛ける心づもりでいてください。また、課題や中間テストを通して、内容の理解度チェックをこまめに行ってください。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

### 【学生の意見等からの気づき】

回答者20名のうち、「履修してよかった」が15名 (75%、前々年93%)、「理解できた」が15名 (75%、前々年67%)、「工夫されていた」が19名 (95%、前々年100%) でした。満足度が少し低下しましたが、理解度と工夫は前々年とほぼ同じでした。授業外学習時間については「2-3時間」が25%、「1-2時間」が55%、「30分-1時間」が20%で、前々年とはほぼ同程度でした。充実感があった、ペアワークを通して理解度を確認できた、スライドがとても分かりやすかった、講義動画が授業をやむを得ず欠席した時や復習したい時に役立った、資料が全て最初に公開されていたので自分のペースで予習することができた、といった肯定的なコメントをいただきました。一方、課題を解くのにかかる時間と手間が掛かった、宿題以外に練習問題と回答があれば教えてほしい、授業で詳しく取り上げなかった内容が宿題に出ると問題の解き方が分からなかった、などの改善点が明らかになりました。

### 【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The spring semester focuses on examining the structure of words (morphology) and phrases and sentences (syntax).

#### 【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand the basic principles of morphology and syntax, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

#### 【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 言語学特講Ⅱ

田嶋 圭一

授業コード：A3661 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間に特有の能力とされる言語がどのような原理によって成立しているのかを科学的に追究する言語学について概観します。秋学期では、言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論を中心に授業を進めます。

## 【到達目標】

言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

様々な言語音の発音方法や表記方法（音声学）、日本語や英語など色々な言語の音の特徴や決まり（音韻論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業や授業活動結果をHoppiに書き込む作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次回の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                                               |
|------|------------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | 導入、音声学と音韻論       | シラバスの説明、音声学と音韻論の違い                               |
| 第2回  | 音声学への導入、発話のメカニズム | 音声学とは、発話のメカニズム、音声器官、音声学的直観を磨く：母音                 |
| 第3回  | 母音               | 母音の調音的記述・有標性、音声学的直感を磨く：子音                        |
| 第4回  | 子音               | 子音の調音的記述・有標性、自然音類                                |
| 第5回  | 言語音を書き起こす方法      | 日本語の音素表記と音声表記                                    |
| 第6回  | 日本語の発音           | 長音、促音、撥音、ガ行鼻音化、母音無声化など                           |
| 第7回  | 中間テスト、音韻論への導入、音素 | 音と意味との関係、音素、ミニマルペア、音素設定の基準：重複分布・相補分布、音声的類似性、音素分析 |
| 第8回  | 日本語の音韻変化         | 撥音の同化、ハ行音の同化、母音の融合・交替、連濁など、音素分析の練習問題             |
| 第9回  | 音象徴              | 音象徴、オノマトペ、音素分析の練習問題つづき                           |
| 第10回 | 言葉のリズム           | 日本語のリズム、モーラ、英語のリズム、音節                            |
| 第11回 | アクセント（1）         | アクセントとは、東京方言のアクセント、アクセントの規則と表記法                  |
| 第12回 | アクセントとイントネーション   | アクセントの方言差、イントネーションとは                             |
| 第13回 | アクセント（2）、まとめ     | 複合語のアクセント、授業のまとめ                                 |
| 第14回 | 期末テスト、総括         | 理解度評価のための試験、授業の総括                                |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定範囲を読んだり、出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して、授業内容を復習し次の回に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を学習支援システムから配布します。

## 【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。

西光 義弘（編集）（1999）.『日英語対照による英語学概論：増補版』くろしお出版.

上山 あゆみ（1991）.『はじめての人の言語学 ―ことばの世界へ―』くろしお出版.

星 浩司（2006）.『言語学への扉』慶應義塾大学出版会.

大津 由紀雄・池内 正幸・今西 典子・水光 雅則（編）（2002）.『言語研究入門 ―生成文法を学ぶ人のために―』研究社.

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language, 7th edition*. Boston: Heinle.

Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files, 9th edition*. Ohio State University Press.

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価する予定です。

言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業資料を利用して内容理解に努めてください。原則として、正当な理由なく4回を超えて課題が未提出の場合、または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。

## 【学生の意見等からの気づき】

12名の回答者のうち、「工夫していた」と回答したのが全員（100%、前々年度100%）、「理解できた」が11名（92%、前々年度94%）、「履修してよかった」が10名（83%、前々年度94%）でした。工夫と理解度は前回と同様の水準ですが、満足度がやや低下したようです。「身近にありながらあまり考えたことのない事柄が多く取り上げられていたので、履修することで知る楽しさを感じられた。先に学んだ内容を後に活かせるような流れになっているため、学んだ成果を実感できる。」「穴埋め式のレジュメで適宜ワークがあることで理解がしやすかった。また欠席した際にもオンライン動画やスライドが見れるのは助かった。」「レジュメと先生の説明がわかりやすく、ペアワークがあったため理解しやすかった。」といった肯定的なコメントをいただきました。一方で、「課題の量が回によって少し負担になる時があった。」「レジュメの穴埋めの欄が小さくて書くのが大変なことがあったので、もう少し幅をとってほしかった。」といった指摘もありました。課題の量を以前から増やしていないにも関わらず、課題の量に関するコメントを複数いただきました。なぜなのか不可解ですが、課題の量を調節したり課題の必要性を理解してもらえるように働きかけたりする必要があると感じました。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The fall semester focuses on examining the sounds of language and how they are produced (phonetics) and organized (phonology).

## 【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand the basic principles of phonetics and phonology, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

## 【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 認知科学特講

田嶋 圭一

授業コード：A3662 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を「話す」または「聞く」能力を3-4歳までにある程度習得しますが、「読む」または「書く」能力はより時間と労力を要します。また、人間と同じ水準で流暢に会話ができるコンピュータは未だ完成していません。これはなぜでしょう？ 本授業ではこのような疑問を出発点に、人間にとって最も自然なコミュニケーション手段といえる音声言語の認知処理過程について学びます。具体的には、音声言語の発話と知覚の仕組み、音声の物理的な特徴、乳幼児による母国語の知覚能力の発達、成人による外国語音声の学習などについて、音声科学、音響学、心理学といった分野の知見を学びます。

### 【到達目標】

話し言葉が話し手にどのように産出され、音としてどのような特徴を持ち、聞き手にどのように知覚されるのかについて、他者に説明できるようになることが目標です。音声分析ソフトを使って話し言葉の特徴を分析できるようになることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、コメントシートを作成したりする時間も取り入れる予定です。さらに、音声分析ソフト Praat を使った演習も実施する予定です。課題に関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                                         |
|------|--------------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | 導入                 | シラバスの説明, コミュニケーションの手段, 音声言語と文字言語, 「言葉の鎖」   |
| 第2回  | 音声とは               | 音声の確実性と速さ, 音声産出のメカニズム, 母音と子音               |
| 第3回  | 音響音声学の基礎 (1)       | 音の正体, 音の種類, 音を可視化する方法, 音声のデジタル化            |
| 第4回  | 音声の音響分析            | Praat を使った音声の録音・可視化・編集・分析                  |
| 第5回  | 音響音声学の基礎 (2)       | フィルタ, 音声産出の音源フィルタ理論, 基本周波数, フォルマント周波数      |
| 第6回  | 母音の知覚              | 分節音とプロソディー, 聴覚器官, 母音の特徴と知覚, 母音の正規化         |
| 第7回  | 子音の知覚 (1)          | 音響的不変性の欠如, ローカス理論, 音声の符号化                  |
| 第8回  | 音声の再合成             | Praat を使った音声の録音・分析・再合成                     |
| 第9回  | 子音の知覚 (2), カテゴリー知覚 | 調音点の知覚, 声の有無の知覚, カテゴリー知覚とは, 同定と弁別          |
| 第10回 | 音声知覚の実験            | Praat を使った同定課題と弁別課題の演習                     |
| 第11回 | 音声知覚の発達            | 生得と学習, 乳児の音声知覚, 満1歳までに起こる変化                |
| 第12回 | 外国語の音声知覚           | 成人でも外国語が聞き取れるようになるか, 知覚と産出との関係, 外国語音の知覚的同化 |
| 第13回 | 文脈の影響              | トップダウン処理とボトムアップ処理, 音声知覚と単語認知のモデル           |
| 第14回 | 音声と社会的認知, 総括       | 話し方と対人認知の関係, 授業のまとめ                        |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読んだり、課題に取り組んだりすることで、毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。また、音声分析用フリーソフト Praat を使った演習課題を学期中に数回行いますので、課題を行い成果を提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

以下の本を授業で参照したり、関係する章を宿題として読んでもらったりします。該当部分を Hoppii にアップしますので、各自保存・印刷してください。ジャック・ライアルズ (著), 今富 稔子 他 (訳) (2003). 『音声知覚の基礎』海文堂.

### 【参考書】

音声科学, 言語心理学などの入門書として、以下を挙げておきます。  
北原 真冬・田嶋 圭一・田中 邦佳 (2017). 『音声学を学ぶ人のための Praat 入門』ひつじ書房.  
石川 圭一 (2005). 『ことばと心理』くろしお出版.  
針生 悦子 (編) (2005). 『朝倉心理学講座5 言語心理学』朝倉書房.  
廣谷 定男 (編著) (2017). 『聞くと話すの脳科学』コロナ社.  
川崎 恵里子 (編著) (2005). 『ことばの実験室』ブレン出版.  
森 敏昭 (編著) (2001). 『おもしろ言語のラボラトリー』北大路書房.  
重野 純 (2003). 『音の世界の心理学』ナカニシヤ出版.  
ダニー・スタインバーグ (著), 竹中 龍範, 山田 純 (訳) (1995). 『心理言語学への招待』大修館書店.  
Denes, P. & Pinson, E. (1993). *The Speech Chain: The Physics and Biology of Spoken Language*, W H Freeman & Co.

### 【成績評価の方法と基準】

平常点・一般課題30%, Praat 課題30%, 期末レポート40%の割合で評価する予定です。原則として、授業を4回を超えて欠席した場合、期末レポートの提出がなかった場合、あるいは Praat 課題の提出がなかった場合は、単位が授与されないものとします。

### 【学生の意見等からの気づき】

回答者4名のうち、3名が「理解できた」、全員が「履修してよかった」「工夫されていた」と回答してくれました。「先行研究などをいくつか紹介してもらえた回はとても為になった」「Praat を活用しての演習は難しい部分もあったが出来る」と言語の仕組みがわかったような気がした」といったコメントをいただきました。改善点として、「内容理解が難しい回がいくつかあった」「課題では記述問題が多かったため、模範解答は知ることができましたが自分の答えがどの程度正しかったのかのフィードバックもいただけると良かった」といった指摘をいただきました。受講生数にもよりますが、簡単にでも個別の回答へのフィードバックが返せるように努めたいと思います。

### 【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

People can learn to talk by the time they are 3-4 years old, but learning to read and write takes more time and effort. Meanwhile, building computers that can talk as fluently as people can has been a continuing challenge. Why is this so? Taking these questions as a starting point, this course introduces students to the fundamental principles and cognitive mechanisms that underlie the processing of spoken language.

#### 【Learning objectives】

Through this course, students should be able to describe the physical properties of spoken language and the mechanisms underlying how it is produced and perceived by humans. Students should also be able to analyze speech using appropriate software.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. They should also gain hands-on experience with Praat, a speech analysis software, by individually doing assigned homework using this software. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

#### 【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on class participation and regular homework (30%), homework using Praat (30%), and final take-home test (40%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or fail to submit the final test or the Praat homework without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**認知心理学特講**

竹島 康博

授業コード：A3663 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人間の知覚や関連する様々な認知機能に焦点を当て、その機能の重要性および心理学的な研究を行う意義について理解することを目的とします。

**【到達目標】**

人間は、感覚器官を通じて周囲の環境を把握し、それに適応するように行動している。このような感覚情報による外界の知覚やより高次な認知処理は、人間の様々な心理的な活動を支える基盤と考えられる。このような知覚心理学や認知心理学の知見は他の心理学分野の現象とも密接に関連しており、心理学全般について学ぶ上でも大きな意義がある。本講義ではこのような人間の感覚情報処理について、まずは初期の機能である知覚処理を中心に概説していく。加えて、様々な知覚現象が日常生活のどのような場面で観察されるのかについて考えることで、単なる知識を学ぶだけでなく自身の体験として応用できる思考能力の習得を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

知覚心理学の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する。また、授業の中で取り上げる様々な知覚現象が日常のどのような場面で体験されるのかについて考える機会を設け、学んだ内容を自身で活用することも重視して授業を実施する。各授業の最後に理解度の確認を兼ねてコメントペーパーを提出してもらう。書かれた内容については、次回以降の授業内でフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ             | 内容                                      |
|------|-----------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | はじめに            | 感覚の種類や分類法、知覚理論の解説                       |
| 第2回  | 感覚の測定法          | 心理物理学的測定を中心とした知覚経験測定する方法についての解説         |
| 第3回  | 視覚の仕組み          | 眼の構造を含めた初期の視覚処理についての解説                  |
| 第4回  | 色の知覚            | 色を感じる仕組みや人間の色覚の多様性についての解説               |
| 第5回  | 物体の認識           | パターン認知を中心とした物体を認識する仕組みについての解説           |
| 第6回  | 運動の知覚           | 物体の動きを認識する仕組みについての解説                    |
| 第7回  | 奥行き知覚           | 外界を立体的に認識する仕組みについての解説                   |
| 第8回  | 空間の認知           | 周囲の空間をどのように認識して理解する機能についての解説            |
| 第9回  | 聴覚の仕組み          | 耳の構造を含めた聴覚と触覚の処理についての解説                 |
| 第10回 | 触覚・味覚・嗅覚の仕組み    | 皮膚感覚を中心とした触覚の処理、味覚や嗅覚の処理と香り環境や風味についての解説 |
| 第11回 | 多感覚による知覚(1)     | 複数の感覚の統合による現象とその背景メカニズムについての解説          |
| 第12回 | 多感覚による知覚(2)     | 感覚の統合におけるタイミングの知覚を中心とした解説               |
| 第13回 | 知覚・認知に関する実証研究   | 人間の知覚や認知といった機能についてどのように研究するかについて講演      |
| 第14回 | 全体の総括とレポート課題の説明 | 講義全体の総括と期末レポートについての説明                   |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

行場次朗（編）『感覚・知覚心理学』2018 北大路書房

**【成績評価の方法と基準】**

コメントペーパーによる授業の理解度を評価の40%とし、残り60%を学期末に課す期末レポートの成績とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートで遅刻が多いのではないかとコメントをいただきました。遅刻そのものは自己責任かと思いますが、授業を遅刻することによる内容理解の差異が成績評価に反映されないことは問題だと思しますので、コメントペーパーを利用して授業の理解度を測り、今年度はそれを成績評価の平常点にします。

**【その他の重要事項】**

授業で募集する知覚心理学・認知心理学に関わる実験や調査などへの参加による学習についても評価に加味する場合があります。

**【Outline (in English)】****[Course outline]**

This course deals with human information processes, especially with perceptual system.

**[Learning objectives]**

The goals of this course are to understand psychology of perception.

**[Learning activities outside of classroom]**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**[Grading Criteria / Policy]**

Grading will be decided based on class contribution (40%) and term-end report (60%).



PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

スポーツ心理学特講

荒井 弘和

授業コード：A3664 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業のテーマは、スポーツ心理学の基本的なテーマ (スポーツ・運動・身体活動への心理学的アプローチ) を学習することです。

【到達目標】

運動やスポーツを含む身体活動は、私たちの「こころ」と深い関わりをもっています。スポーツ心理学の研究や知見を理解することによって、「こころの仕組み」に関する理解を深め、身体活動・運動・スポーツ場面において心理学的な支援を実践できるようになることを目標とします。また、スポーツを通じて現代社会のあり方を考え、スポーツを通じて広い視野を養い、良識ある市民となることを目指します。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力 (主に、仮説構築力、信頼関係構築力、対象者確定力、情報伝達力)」と「状況判断・行動力 (主に、環境変革力、共同行動力)」の育成に貢献することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、運動学習や運動の習慣化に関連する理論モデルから、メンタルトレーニングやスポーツパーソナリティまで、幅広い内容を扱います。さらに、欧米で注目されている最新のトピックや、実際のスポーツ場面で生じた事例についても触れます。

以上のことによって、現代社会においてスポーツ心理学が果たす役割について具体的に考え、心理学的な支援を実践できるようになることを目指します。授業は、講義形式が中心となります。ただし、一方的な講義ではなく、講義の内容に基づいて、実習を採用したり、グループワークにおいて意見交換を行ったり、プレゼンテーションを行ったりしながら、課題の解決を考え、実践します。

なお、この授業は、スポーツに関心のない学生にも履修を勧めます。なぜなら、スポーツ心理学の知識・技法は、就職活動などにも適用できるためです。授業中の課題に対するフィードバックは、次の回の授業の序盤に、受講生全体に対して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                              | 内容                                                              |
|-----|--------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第1回 | スポーツ心理学とは何か？ を学ぶ                                 | スポーツ心理学の全体像を理解し、説明できるようになる。                                     |
| 第2回 | 競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (1)           | メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。                              |
| 第3回 | 競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (2)           | メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。                              |
| 第4回 | 競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (3)           | メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。                              |
| 第5回 | 競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ                    | チームビルディングの概要を理解する。ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。 |
| 第6回 | 競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ                    | チームビルディングの概要を理解する。ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。 |
| 第7回 | 競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (1) | スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。                   |
| 第8回 | 競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (2) | スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。                   |

|      |                                                   |                                                                           |
|------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 第9回  | 健康スポーツの心理学を学ぶ 1) 身体活動と健康との関連を学ぶ                   | 健康のために実施する身体活動の機能を説明できるようになる。                                             |
| 第10回 | 健康スポーツの心理学を学ぶ 1) 身体活動と健康との関連を学ぶ、2) 身体活動を促進する方法を学ぶ | 健康のために実施する身体活動の機能と、身体活動を促進する方法を説明できるようになる。                                |
| 第11回 | 健康スポーツの心理学を学ぶ 3) パラスポーツの心理学を学ぶ                    | 障がいのある人が行うスポーツ活動の特徴を理解し、心理的な支援を実践できるようになる。                                |
| 第12回 | スポーツの仕組みの心理学を学ぶ                                   | スポーツの技術を身につけて、実践する際のメカニズムを学び、説明できるようになる。スポーツ場面で生じる現象のメカニズムを学び、説明できるようになる。 |
| 第13回 | 競技スポーツの心理学を学ぶ 4) アスリートを考える                        | デュアルキャリアを理解し、実践できるようになる。                                                  |
| 第14回 | 競技スポーツの心理学を学ぶ 4) アスリートを考える                        | アスリートの価値について考え、自分の考えを表明できるようになる。                                          |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】

荒井弘和 (編著) 「アスリートのメンタルは強いのか? — スポーツ心理学の最先端から考える —」 晶文社  
 日本スポーツ心理学会 (編) 「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」 大修館書店  
 平野裕一・土屋裕陸・荒井弘和 (編) 「グッドコーチになるためのココロエ」 培風館

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業の到達目標と対応した期末レポートが60%、(2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。

【学生の意見等からの気づき】

「また話を聴く時間とプリントに記入する時間が分けられていて、メリハリをつけて受講することができた」「コーピングを考えるなど、日常生活にも活かせる内容が多く、面白かったです」という意見がありました。今後も、受講生から多くの意見を引き出し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。アクティブ・ラーニングに協力的な姿勢で、授業に参加してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to enable doctoral students to independently conduct research, prepare and submit a paper, and practice the series of processes until the paper is accepted.

(Learning Objectives)

Physical activities, including exercise and sports, have a deep relationship with our "mind". By understanding the research and findings of sport psychology, we aim to deepen our understanding of the "mechanism of the mind" and to be able to provide psychological support in physical activities, exercise, and sports situations. We also aim to think about the state of modern society through sports, cultivate a broad perspective through sports, and become a sensible citizen.

(Learning activities outside of classroom)

In order to be able to practice and apply the lecture contents, please come to class after gathering information so that you can work on the report assignment presented during each class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

(1) 60% will be based on the final report corresponding to the class objectives, and (2) 40% will be based on your participation in assignments, presentations, group work, and exchanges of opinions during the class. Absence or tardiness will result in a lower grade.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**生理心理学**

成澤 元

授業コード：A3665 | 曜日・時限：集中・その他  
 サマーセッション/Summer Session・2単位 | 配当年次：2～4  
 年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ヒトの行動を生物学的観点からとらえようとする心理学領域について概説する。神経系の構造と機能に関する基礎的知識の獲得に続いて、中枢・末梢神経活動の指標が心理学研究においてどのように活用されるかを学ぶ。また、測定技法の基礎を体験し研究計画を練ることで、生理指標を活用するという視座を身につける。

**【到達目標】**

- (1) 中枢・末梢神経系のしくみと機能を理解する。
- (2) 心理学において生体信号がどのように測定・解析されるかを理解する。
- (3) 心のはたらきと生体信号とのかかわりを理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業はサマーセッション（8月5日～8日）に実施する。講義形式で基礎的な知識を学んだのち、実際に生体信号を観察して理解を深める。関連する心理学研究についても触れて知識を体系化する。授業に関する疑問や感想などはリアクションペーパーを利用し、次の授業の冒頭でフィードバックする。レポートは授業内で講評する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回          | テーマ                      | 内容                                      |
|------------|--------------------------|-----------------------------------------|
| 8月5日<br>2限 | オリエンテーション                | 心理学における生体信号測定の意義と、高校公民の教育における本授業の意味について |
| 8月5日<br>3限 | 神経系とこころ                  | ストレスを題材とした心身相関について                      |
| 8月5日<br>4限 | 末梢反応の指標（心臓循環器系・呼吸系）      | 心臓循環器系および呼吸系指標の基礎知識と測定法、活用について          |
| 8月5日<br>5限 | 心拍測定実習                   | 心電図測定とその分析                              |
| 8月6日<br>2限 | 末梢反応の指標（温熱系）             | 温熱系指標の基礎知識と測定法、活用について                   |
| 8月6日<br>3限 | 末梢反応の指標（視覚系）             | 視覚系指標の基礎知識と測定法、活用について                   |
| 8月6日<br>4限 | 末梢反応の指標（運動系）             | 運動系指標の基礎知識と測定法、活用について                   |
| 8月6日<br>5限 | 虚偽検出実習                   | 末梢反応の指標を組み合わせて、虚偽検出実験を実施                |
| 8月7日<br>2限 | 中枢反応の指標（覚醒と睡眠時の脳波）       | 覚醒時および睡眠時にみられる脳波の基礎知識と測定法、活用について        |
| 8月7日<br>3限 | 中枢反応の指標（事象関連電位）          | 事象関連電位の基礎知識と測定法、活用について                  |
| 8月7日<br>4限 | 中枢反応の指標（その他の脳機能イメージング技法） | fMRIやNIRSの基礎知識と測定法、活用について               |
| 8月7日<br>5限 | 脳波測定実習                   | 覚醒時の脳波測定とその分析                           |
| 8月8日<br>2限 | 生理指標を用いた実験計画の立案          | 生理指標を用いた心理学実験を計画してレポート作成                |
| 8月8日<br>3限 | まとめ                      | これまでの総括                                 |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に学習予定の生理指標の予習をし、疑問点を明確にしておくことが望ましい。生理指標を用いた研究計画立案のレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準となる。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が作成した資料を配布する。

**【参考書】**

生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻 堀忠雄・尾崎久記（監修） 北大路書房

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な参加（平常点40%）とレポートの内容（60%）から総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業中にパソコンを利用することがある。

**【Outline (in English)】**

This course provides an overview of the field of psychology that seeks to understand human behavior from a physiological standpoint. Building upon foundational knowledge of the structure and function of the nervous system, students will explore how important indicators of central and peripheral nervous system activity are and are utilized in psychological research. Emphasis will be also placed on gaining practical experience with using basic measurement techniques, allowing students to develop research plans and cultivate a perspective on leveraging physiological indicators in psychological inquiry. Students will be expected to have enough time (more than four hours per a class) for preparation and review. Active engagement and participation in class discussions, activities, and exercises will contribute significantly to the overall assessment (40%). For the final assessment, students are required to submit a brief research proposal for a psychological study with physiological indicators (60%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 生理心理学実習

成澤 元

授業コード：A3666 | 曜日・時限：集中・その他  
オータムセッション/Autumn Session・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中枢・末梢神経活動の指標に関する基礎的な知識を基に、基本的な生命現象である睡眠状態の評価を通して、生理心理学的指標の応用的な活用方法を体験的に学ぶ。また、生理指標を用いた研究計画を練り、実際にデータをとって分析してまとめるプロセスから実践力を養う。

### 【到達目標】

- (1) 心理学研究でよく用いられる生理指標を正しく測定できるようになる
- (2) 心理状態と生理反応との関係を理解できるようになる
- (3) 心理状態を測るのに適切な実験手続き・生理指標を選択できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業はオータムセッション (9月16日～19日) に実施する。グループまたは個別での実習形式で行う。レポートは授業内で講評する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回     | テーマ        | 内容                              |
|-------|------------|---------------------------------|
| 9月16日 | オリエンテーション  | 実習の進め方、および高校公民の教育における本授業の意義について |
| 2限    |            |                                 |
| 9月16日 | 睡眠学と心理学    | 睡眠学と心理学の関係性について                 |
| 3限    |            |                                 |
| 9月16日 | 睡眠覚醒リズム    | 睡眠覚醒に関する社会的課題について               |
| 4限    |            |                                 |
| 9月16日 | 睡眠脳波測定法の確認 | 睡眠状態の客観的評価の仕方について               |
| 5限    |            |                                 |
| 9月17日 | 睡眠脳波測定実習   | シールドルームで仮眠を測定                   |
| 2限    |            |                                 |
| 9月17日 | 睡眠脳波解析     | 生理指標から睡眠変数を算出                   |
| 3限    |            |                                 |
| 9月17日 | 実習データまとめ   | 測定指標の関連性を検討                     |
| 4限    |            |                                 |
| 9月17日 | 生理心理学実験準備  | 自分たちで実施する実験の準備                  |
| 5限    |            |                                 |
| 9月18日 | 生理心理学実験実施  | 自分たちで準備した実験を実施                  |
| 2限    |            |                                 |
| 9月18日 | 実験データ分析    | 収集したデータの整理と分析                   |
| 3限    |            |                                 |
| 9月18日 | 実験結果の解釈    | 分析した実験結果の解釈                     |
| 4限    |            |                                 |
| 9月18日 | 実験のまとめ     | 実験のおさらいと考察の要点について               |
| 5限    |            |                                 |
| 9月19日 | 実験レポート作成   | レポートとして適切な形にまとめる                |
| 2限    |            |                                 |
| 9月19日 | まとめ        | これまでの総括                         |
| 3限    |            |                                 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に既習の生理指標について測定方法など含めて復習しておくことが望ましい。生理指標を用いた実験を実施してレポート作成する課題がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準となる。

### 【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した資料を配布する。

### 【参考書】

生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻 堀忠雄・尾崎久記 (監修) 北大路書房

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 (平常点40%) とレポートの内容 (60%) から総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業中にパソコンを利用することがある。

### 【その他の重要事項】

「生理心理学」を受講し基礎的な知識を学んでいることが望ましい。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Based on fundamental knowledge of central and peripheral nervous system activity, this course will provide hands-on learning experiences in the application of psychophysiological indicators through the assessment of sleep.

#### 【Learning Objectives】

Students will also develop practical skills by designing research plans, collecting actual data, and analyzing and summarizing the results.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have enough time (more than four hours per a class) for preparation and review.

#### 【Grading criteria/Policy】

Active engagement and participation in class discussions, activities, and exercises will contribute significantly to the overall assessment (40%).

For the final assessment, students are required to submit a brief report of the psychophysiological experiment that they performed (60%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起こっているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で求められるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

## 【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言葉の働きについて、心理学的な見方のできる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。適宜、様々な問題について作業をし、その内容を体験したり、グループで討論したりしてもらいます。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppiiからのお知らせに注意して下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                        | 内容                        |
|------|----------------------------|---------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション、言語心理学の研究の目的とその目的 | 授業の進め方、心的表象の特徴と種類         |
| 第2回  | 言語力の発達                     | 言葉の発達、読み書きの発達の概観          |
| 第3回  | 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション | 言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験   |
| 第4回  | 単語認知に影響する要因                | 心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？ |
| 第5回  | 処理過程からみた単語認知               | ボトムアップ処理とトップダウン処理         |
| 第6回  | 文の理解：曖昧性の解消                | ガーデンパス文、作業記憶量             |
| 第7回  | 文章の理解：対象と構成された知識           | 文章の何を理解するのか、読み手の推論の力      |
| 第8回  | 文章理解に影響する要因1：既有知識          | 物語文法、物語スキーマ               |
| 第9回  | 文章理解に影響する要因2：既有知識          | スクリプト、視点                  |
| 第10回 | 文章の理解モデル                   | 状況モデル                     |
| 第11回 | 状況モデルの新たな展開1：モデルの深まり       | 最近の状況モデル研究                |
| 第12回 | 状況モデルの新たな展開2：対象の広がり        | メタ認知、自己概念、感情              |
| 第13回 | 状況モデルの新たな展開3：日常生活への応用      | 広告の作成や教育                  |
| 第14回 | 期末テストとその解説、まとめ             | 期末テストの実施とその解説、授業のまとめ      |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

\*次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 モーラ概念の使えるようにする。
- 第2回 コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え、書く。
- 第3回 類似語を選定する。
- 第4回 規則語と例外語の例を書く。
- 第5回 ガーデンパス文を修正する。
- 第6回 Sacksの実験材料を読み、質問に答える。
- 第7回 桃太郎の物語の要約を書く。
- 第8回 行間を読むとは具体的にどのようなことを指すかを書く。
- 第9回 Morrow et al.の実験材料である地図を記憶する。
- 第10回 文庫本には行間がない箇所がある。その理由を書く。
- 第11回 小説を読んだときの体験を書く。

第12回 大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。

第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

\*受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編 培風館 2012年

## 【参考書】

適宜、紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

## 【学生の意見等からの気づき】

2023年度は国内研究で授業を担当しませんでした。そのため、2022年度の気づきを以下に再掲します。

「工夫していた」「授業を受けてよかった」と約9割の方が回答してくれました。ありがとうございます！また、科目基礎科目ですが、福田の研究分野の専門科目の性格が色濃く、かつ、他学科の受講生が約半数であるにもかかわらず、「理解できた」が9割弱。すごい数字です。皆さんが一生懸命取り組んでおかげですね。自由記述については、上記の「心理学概論」を参考にしてください。また、レポート対テストの論争もWeb上と最後の授業時にやりましたね。そのようなプラスαも楽しかったです。

みなさんが言語心理学に興味をもち、もっと学習したい！と思ってもらったら、教師冥利につきますね。

## 【その他の重要事項】

文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた広い視野から、本授業では言語活動をいっしょに考察していきます。

## 【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

## 【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces various activities of language in terms of psychological perspective.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology of language
- B. analyze various activities of language in terms of psychological perspective
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.



PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 行動分析学特講

島宗 理

授業コード：A3669 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行動分析学は「人はなぜどのように行動するのか？」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」（授業コード A3670）の上級コースとして、実験的行動分析学、応用行動分析学、理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し、掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に活用できるようにマスターすることを目的とします。

## 【到達目標】

以下の3つを目標とします。

- (1) 発達、記憶、言語などに関する、人や動物の認知的な現象について、行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
- (2) 日常生活における行動問題に対し、ABC分析やAB分析を駆使して、原因推定し、解決策を立案できるようになる。
- (3) 日常場面における行動の測定、記録、データの視覚化、シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

発達臨床（自閉症やADHD）、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックはGoogleクラスで行います。Googleクラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)：<https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                                                                       |
|------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション     | ・授業内容と方法、約束事を説明します。<br>・発達障害に関する基礎について講義します。                                             |
| 第2回  | 発達臨床 I        | ・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。                                                    |
| 第3回  | 発達臨床 II       | ・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。                                                       |
| 第4回  | “理解”の行動分析学    | ・以下の内容について学びます：刺激般化、刺激等価性、関係フレーム理論。                                                      |
| 第5回  | 組織行動マネジメント I  | ・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。                                  |
| 第6回  | 組織行動マネジメント II | ・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。                                                  |
| 第7回  | シングルケースデザイン法  | ・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。                                         |
| 第8回  | 広告と消費者行動 I    | ・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。                                                    |
| 第9回  | 広告と消費者行動 II   | ・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、般化、意味による般化、刺激クラス。 |
| 第10回 | “記憶”の行動分析学    | ・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。                                                |
| 第11回 | 行動的コーチング I    | ・行動的コーチングの演習を行います。                                                                       |
| 第12回 | 行動的コーチング II   | ・行動的コーチングの演習を行います。                                                                       |
| 第13回 | “動機づけ”の行動分析学  | ・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。                                      |
| 第14回 | まとめ           | ・学期を振り返り、質疑応答をします。                                                                       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業中に取り組み課題を出します。授業時間では終わらなかった課題を、講義や参考書を参考に、授業後に宿題として取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均3時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定するテキストはありません。

## 【参考書】

○『ワードマップ：応用行動分析学』島宗 理（著）2019年 新曜社

## 【成績評価の方法と基準】

○授業参加（40%）および授業課題の遂行度（60%）から成績を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生は少なかったですが、そのぶん色々な演習を時間をかけて実施でき、楽しかったという感想をいただきました。教科書を読んで宿題は負担が大きそうなので、来年度は減らし、授業中の演習に時間を増やします。

## 【その他の重要事項】

○本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。

○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。

○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までにGoogleクラスの第00回 > 個人的な質問や相談 から連絡してください。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

As an advance course in behavior analysis, the purpose of this course is to master application of basic principles and research methods in changing behaviors. Student will also learn how to interpret "cognitive" activities, such as remembering and understanding, from a behavior analysis point of view.

## 【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) interpret "cognition" as behaviors, and 4) read literature in behavior analysis.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

## 【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 行動分析学

島宗 理

授業コード：A3670 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。

また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

### 【到達目標】

○基本的な行動原理 (強化、弱化、消去、弁別など)、課題分析、ABC分析、AB分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。  
 ○標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。  
 ○日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックはGoogleクラスで行います。Googleクラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム：https://hoppii.hosei.ac.jp/portal

Google Classroom (Google クラス)：https://classroom.google.com/

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                                                                                 |
|------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション | ・授業内容と方法、約束事を説明します。<br>・解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。                                             |
| 第2回  | 「問題」とは？   | ・個人攻撃の罠について学びます。                                                                                   |
| 第3回  | 心と行動の区別   | ・じぶん実験の標的行動を決定します。                                                                                 |
| 第3回  | 好子と嫌子     | ・生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。<br>・じぶん実験の記録方法を決めます。                                            |
| 第4回  | 強化と弱化     | ・基本的な行動随伴性について学びます。<br>・じぶん実験でベースラインを測定します。                                                        |
| 第5回  | 課題分析      | ・標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。<br>・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。                                                |
| 第6回  | シェイピング    | ・新しい行動レパトリーを教えるシェイピングの技法を学びます。<br>・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。                             |
| 第7回  | ABC分析#1   | ・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC分析の手法を学びます。<br>・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数をABC分析で見つけることを学びます。                |
| 第8回  | ABC分析#2   | ・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC分析の手法を学びます。                                                                 |
| 第9回  | AB分析#1    | ・じぶん実験で介入計画を立てます。<br>・オペラントとレスポナントの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。<br>・じぶん実験で介入計画を実施します。 |
| 第10回 | AB分析#2    | ・情動の条件づけや知覚学習について学びます。<br>・じぶん実験で介入の効果を実証し、検証します。                                                  |

第11回 ABC分析#3

・ABC分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。

・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。

第12回 観察法

・インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。

・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。

第13回 行動分析学の実験計画法

・じぶん実験の結果を発表します。

第14回 まとめ

・授業で学んだ行動分析学の考え方を使得って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、webクイズに取り組んで予習してきます。

最終回までに、行動分析学を用いた「じぶん実験」の演習に取り組み、レポートを提出します。

本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

○『パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学—第2版』島宗理 (著) 2022年 米田出版

\*教科書は第2版を使います。ご注意ください。

### 【参考書】

○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗理 (著) 2014年 ちくま書房

○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗理 (著) 2010年 光文社新書

○『行動分析学入門 (第2版)』杉山ら 2023年 産業図書

○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一 (著) 2016年 (改訂版) 培風館

### 【成績評価の方法と基準】

○課題の遂行度 (60%) およびテストの得点 (40%) から成績を評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

「じぶん実験」の演習を復活させました。それぞれ色々なテーマに楽しみながら取り組めたようで嬉しかったです。ABC分析をもっと学びたかったという声もいただきましたので、来年度は演習を少し増やします。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやGoogleクラスへのアクセスや課題の作成、提出などにPCやスマホ/タブレットを多用します。

### 【その他の重要事項】

○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。

○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室 (富士見坂校舎6F9号室) です。訪問希望者は前日までにGoogleクラスの第00回 > 個人的な質問や相談 から連絡してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to master basic principles, procedures, and research methods pertaining to applying behavior analysis in everyday life. Student will learn the terminology and use them to conduct functional analyses of behavioral problems.

The student will conduct "self-experiment," in which each will select his/her own target behavior, record its frequency, visualize data, develop a behavior modification plan, execute, evaluate, and improve the plan.

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) measure target behaviors, and 4) visualize data.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 対人認知論

太田 碧

授業コード：A3671 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分と他者との関係において、判断や推論などを用いてどのように他者を認識し、印象を形成するかを理解することがこの授業の目的です。対人認知における心理学の各理論を学び、社会という集団での対人コミュニケーションを改めて心理学的に捉えなおすことで、実際の対人場面で活かせるような知識を身につけます。

## 【到達目標】

1. 対人認知における心理学の基礎的な知識を身につけ、説明できるようになる。
2. 社会や身近な対人関係についての現象を、学んだ知識を元に解釈し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

心理学実験による古典的な対人印象形成の基本的な枠組みからはじめ、さらに顔、魅力など身近な対象の認知について学びます。講義資料は事前に配布しますので、予習に利用してください。授業開始時には予習をもとにした課題をおこないます。授業は主にパワーポイントを用いた解説をしながら、講義形式で進めます。授業の最後にはリアクションペーパーを記入し提出してください。授業中には周囲の人と簡単なグループワークをする場合があります。またレポート課題に取り組むことで、得た知識を整理しアウトプットする練習をします。リアクションペーパーやレポート課題のフィードバックは、翌週の授業内かHoppiiでおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                   |
|------|---------------|--------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス         | 授業の進め方、成績評価の方法と基準の説明、心理学における対人認知論の概要 |
| 第2回  | 印象形成の理論と研究（1） | 中心特性や周辺特性など、対人認知の古典的研究               |
| 第3回  | 印象形成の理論と研究（2） | 認知による印象形成、既有知識や個人差の影響                |
| 第4回  | 対人印象形成（1）     | おもに第一印象の形成について、対人認知のモデルや正確さ          |
| 第5回  | 対人印象形成（2）     | 印象形成に関わる推論・原因帰属など                    |
| 第6回  | 親密化過程         | 人同士が互いに親しくなる過程の段階理論                  |
| 第7回  | ステレオタイプ（1）    | ステレオタイプはどのように形成されるか                  |
| 第8回  | ステレオタイプ（2）    | 形成されたステレオタイプはどのように維持・変容するか           |
| 第9回  | 態度・行動         | 態度の形成・変容・行動との関係                      |
| 第10回 | 対人魅力（1）       | 外見的魅力を形成する要因                         |
| 第11回 | 対人魅力（2）       | 性格など、外見以外の魅力を形成する要因                  |
| 第12回 | 対人認知における顔（1）  | 顔の魅力を規定するさまざまな要因                     |
| 第13回 | 対人認知における顔（2）  | 顔から推測する性格特性など、印象を規定するさまざまな要因         |

第14回 まとめ

紹介した理論をもとに対人認知についてあらためて概観する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppiiにて事前に講義資料を配布するので、予習として読み、疑問点や事例を考えてから授業に臨み、授業内課題にあたってください。毎回授業後には適宜復習をおこなってください。レポート課題の提出があるので、作成し期限までに提出してください。本授業の準備・復習時間の標準は各2時間となります。参考文献にあたる、身近な事例について学んだ理論を用いて考察するなど、知識を深めることを推奨します。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。毎回資料を配布します。

## 【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点40%，レポート課題60%。全授業回数の3分の2以上の出席が前提です。

## 【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のためありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布と課題提出はHoppiiにておこないます。

## 【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces a theory of the interpersonal recognition using judgment and reasoning to students taking this course. This course deals with the psychological theories of interpersonal communication in the social group. It also enhances the development of students' knowledge that can be applied in real interpersonal situations.

## Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Acquire and explain basic knowledge of psychology in interpersonal cognition.
2. Interpret and explain phenomena related to society and familiar interpersonal relationships based on the knowledge learned.

## Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to prepare using the distributed materials and review them after the class. Your study time will be more than 2 hours for both before and after each class.

## Grading Criteria /Policy:

In-class contribution 40%, reports 60%. Attend at least 2/3 of all class sessions.



PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

## 科学哲学 I

木島 泰三

授業コード：A3672 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「機械論的自然観と感覚的性質の問題」というテーマで、近代科学の成立に伴う世界観の変動の一端を考察する。「17世紀科学革命」において成立した「機械論的自然観」において、色や音のような「感覚的性質」あるいは「第二性質」の位置づけは大きく変動した。つまりこれらの性質はそれまで、日常的な世界認識の延長線上で、世界そのものを特徴づけるリアルな性質と見られていたのだが、それが我々認識主体の内部にしか存在しない性質であると見なされるようになったのである。本講義ではこの主題を、近代における自然観の変化や、日常的世界像と科学的世界像のギャップ、といった問題と結びつけて考えていく。

### 【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、上記の事項および諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後Hoppiiの課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、Hoppiiの課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                 | 内容                                                                                           |
|------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                                           | 講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など                                                             |
| 第2回  | ソクラテス以前の自然哲学における感覚と理性の問題                            | 近代科学の淵源となった、古代ギリシャの自然哲学の始まりを、それに先立つ宗教思想との関連からたどり、またその発展過程で生じた「感覚と理性」をめぐる問題を概観する              |
| 第3回  | プラトンにおける感覚的認識とイデア論/アリストテレスの自然学                      | 感覚的認識の不確かさを強調し、「イデア論」を提起したプラトンの思想を概観し、続いてプラトンのイデア論を批判し、感覚的認識と自然哲学を改めて重視したアリストテレスの自然学について概観する |
| 第4回  | アリストテレス自然学と古代原子論                                    | 引き続きアリストテレスの自然学について、「四元素説」と感覚的認識の問題を中心に、古代原子論との対比において見ていく                                    |
| 第5回  | 古代後期の思想                                             | 古代後期の思想として、ストア派、エピクロス派、懐疑主義、新プラトン主義を今期のテーマに関連する観点から概観                                        |
| 第6回  | 中世の思想と17世紀科学革命                                      | 中世思想のいくつかの重要なトピックを概観する                                                                       |
| 第7回  | と近代力学の成立/デカルトによる機械論的自然観の哲学的基礎づけ                     | 自然観の転換としての17世紀科学革命についての概観を行い、機械論的自然観を哲学的に基礎づけた哲学者としてのデカルトの思想について概観する                         |
| 第8回  | 初期近代における第一性質と第二性質                                   | デカルトやホブズのような哲学者以外にガリレオやボイルのような科学者たちにも共有されていた、「第一性質」と「第二性質」相当する諸性質の区別について概観する                 |
| 第9回  | ロックとパークリにおける第二性質の観念の問題（その1）                         | ロックにおける第一性質と第二性質の観念、およびそれを物質否定論の論拠に転じたパークリの思想を概観する                                           |
| 第10回 | ロックとパークリにおける第二性質の観念の問題（その2）/ヒュームの懐疑論とリードの直接実在論（その1） | 引き続きロックとパークリの観念の理論を概観し、続いて、彼らの思想を懐疑論へと徹底させたヒューム、およびヒュームの懐疑論を批判したリードの認識論を見ていく                 |

|      |                            |                                                                      |
|------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 第11回 | ヒュームの懐疑論とリードの直接実在論（その2）    | 引き続き、「直接実在論」と呼ばれるリードの認識論を概観する                                        |
| 第12回 | 近代における感覚と感情の問題             | 18世紀以降には、従来「理性」の下位に置かれていた感覚的認識や感情の地位が見直される動きが始まる。その動向を概観する           |
| 第13回 | 現代の議論1：意識と「クオリア」の問題        | これまでの講義内容の現代的な視点からの捉え直しとして、現代の心身問題における「意識の現象的質」としての「クオリア」をめぐる議論を概観する |
| 第14回 | 現代の議論2：メタ倫理学における道徳実在論と第二性質 | 現代のメタ倫理学における「第二性質」を道徳実在論と関連付ける議論を概観する                                |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppiiの課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもいい）。講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心にに応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

近世初期の宇宙論の転換と哲学思想の関連を論じた古典として、アレクサンデル・コイレ『閉じた世界から無限宇宙へ』（横山雅彦訳、みすず書房）／『コスモスの崩壊：閉ざされた世界から無限の宇宙へ』（野沢協訳、白水社）〔同一の原著の別の訳〕を挙げておく。  
近世初期の天文学の転回を幅広い視野で論じた古典として、トマス・クーン『コペルニクス革命』（常石敬一訳、講談社学術文庫）を挙げておく。  
17世紀科学革命全般については、『一七世紀科学革命』（東慎一郎訳、岩波書店）が概観を提供している。  
その他、各回講義に関連する参考書は講義内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1)の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う(40%)。加えて、期末レポートによる(2)の到達度の評価を行う(60%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることを心がけたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、Hoppiiにアクセス可能な端末が必要となる。講義資料をPDFファイルで配布する場合があります。pdf閲覧できる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じる。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【Outline (in English)】

#### Course outline:

Our theme is "On the sensible qualities in the modern mechanistic worldview". Sensible qualities or the "secondary qualities", such as colors, sounds, tastes had seen as real ingredients of the natural world in the pre-modern age, but have seen merely subjective since the Scientific Revolution of the 17th century. You can learn about philosophical problems about the change of worldview in the early modern age and its consequences through considering this status-shifting of such qualities.

**Learning Objectives:** The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on philosophy and history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class and from other extra-class studies.

**Learning activities outside of classroom:** You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

**Grading Criteria /Policies:** Final grade will be calculated based on term-end report (60%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(40%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

**科学哲学Ⅱ**

中釜 浩一

授業コード：A3673 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「懐疑」は過去や現代の哲学の中で、重大な役割を果たしてきた。一見してネガティブな役割しか持たないように思える「懐疑」が、なぜ・またどのような仕方ですべての哲学の中で役割を果たしているのかを、古代懐疑論・デカルト・ヒューム・現代の種々の懐疑論を検討することで考察する。

**【到達目標】**

哲学の中で懐疑論が果たした様々な役割を検討し、哲学的方法としての懐疑論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行う。毎回授業内容に関する小課題を課する。課題の解説・補足や質問への解答は、次の冒頭で全員に行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                   |
|------|--------------------|----------------------|
| 第1回  | 哲学と懐疑論             | 懐疑と哲学的懐疑             |
| 第2回  | 古代の懐疑論（その1）        | ピュロニズムに関する解説と検討（その1） |
| 第3回  | 古代の懐疑論（その2）        | ピュロニズムに関する解説と検討（その2） |
| 第4回  | デカルトの方法的懐疑（その1）    | デカルトの企図と懐疑論          |
| 第5回  | デカルトの方法的懐疑（その2）    | デカルト「第一省察」の検討（その1）   |
| 第6回  | デカルトの方法的懐疑（その3）    | デカルト「第一省察」の検討（その2）   |
| 第7回  | デカルトの方法的懐疑（その4）    | デカルトの方法論的懐疑の意味       |
| 第8回  | ヒューム「人間の学」と懐疑（その1） | ヒューム哲学の特徴            |
| 第9回  | ヒューム「人間の学」と懐疑（その2） | ヒュームの懐疑論の目的          |
| 第10回 | ヒューム「人間の学」と懐疑（その3） | 因果に関する懐疑             |
| 第11回 | ヒューム「人間の学」と懐疑（その4） | 理性に関する懐疑             |
| 第12回 | ヒューム「人間の学」と懐疑（その5） | 自己に関する懐疑             |
| 第13回 | 現代の懐疑的議論（その1）      | パトナムと樽の中の脳           |
| 第14回 | 現代の懐疑的議論（その2）      | ワイトゲンシュタインのパラドクス     |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内容を復習し、デカルト、ヒューム、ワイトゲンシュタイン等の著作の該当箇所を確認しておく。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

デカルト「省察」（中公クラシクス）  
ヒューム「人間本性論第一巻」（法政大学出版会）  
クリプキ「ワイトゲンシュタインのパラドクス」（ちくま学芸文庫）  
ストラウド「君は今夢を見ていないとどうして言えるのか」（春秋社）

**【成績評価の方法と基準】**

各回の小課題の提出内容：70%

期末レポート：30%

**【学生の意見等からの気づき】**

課題の補足解説をより丁寧に行う。

**【Outline (in English)】**

Course outline: This course aims at deepening students' understanding of philosophical scepticism, especially why it has played so important a roll in philosophy by examining ancient scepticism, Descartes, Hume and modern sceptical argument.

Learning Objectives: To understand the motives and arguments of philosophical scepticism and to get a sense of finding philosophical problems in daily life.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students should carefully read the assigned part of the text and construct their opinions and after each meeting students should write a short paper concerning the topic of the day. Students are expected to spend four hours for each class meeting.

Grading Criteria: In-class activities: 70%, term-end test: 30%

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 人工知能

市瀬 龍太郎

授業コード：A3674 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能とは知能の仕組みを機械で実現する学問です。この授業では、人間の知能を機械で実現する方法を通して、人間の知能を考えていきます。

### 【到達目標】

人工知能を通して、人間や機械の知能の仕組み、考え方についての説明ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人工知能の仕組みを紹介することによって、人間の知能と機械の知能（人工知能）の共通点、相違点についての理解を深め、知能について考えていきます。授業は、主に講義形式で行います。また、適宜、ビデオなどの視聴覚教材も使用します。授業の最後に小テストを行い、次の授業時に、その回答からいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                             |
|------|-----------|--------------------------------|
| 第1回  | 人工知能とは？   | 人工知能の概要                        |
| 第2回  | 人工知能の研究分野 | 人工知能研究全体像の概観                   |
| 第3回  | 知的エージェント  | 人間の知能がいかにして機械で実現可能かを議論         |
| 第4回  | 認知アーキテクチャ | 知的動作を実現するための内部構造を解説            |
| 第5回  | 問題解決・探索   | 問題解決を行う方法を解説                   |
| 第6回  | ゲーム       | 知能の一つとしてゲームを取り上げ、機械の知能の実現方法を解説 |
| 第7回  | 中間まとめ     | 人工知能の授業についての中間まとめ              |
| 第8回  | 推論        | 論理を使った思考方法について解説               |
| 第9回  | 知識の表現     | 知識の表現方法について解説                  |
| 第10回 | 機械学習      | 機械が学習する手法について解説                |
| 第11回 | データマイニング  | データからの知識発見手法について解説             |
| 第12回 | 自然言語処理    | 言語をどのように機械が理解するかについて解説         |
| 第13回 | 人工知能と社会   | 人工知能技術の応用と社会的影響について解説          |
| 第14回 | まとめ       | 人工知能の授業についてのまとめ                |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の内容に応じて、文献調査、復習のためのレポート作成などの課題を行う。本授業の学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

人工知能 改訂2版、本位田監修、松本、宮原、永井、市瀬著、オーム社、2016  
その他、授業の内容に則して、適宜、参考文献を紹介いたします。

### 【参考書】

エージェントアプローチ人工知能、第2版、Russellら著、古川監訳、共立出版、(2008)

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の小テスト（30%）、レポート課題（30%）、期末試験またはレポート（40%）の合計により評価。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内容・配布資料の改善、および、授業における復習の強化。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを閲覧できる環境、および、学習支援システムに投稿できる文書の作成環境

### 【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of artificial intelligence. The goal of this course is for students to be able to explain the mechanisms and concepts of human and machine intelligence through artificial intelligence. Students will be required to do a literature survey or write a report according to the content of the class. Your study time will be more than four hours for a class. Evaluation will be based on the total of quizzes in class (30%), report assignments (30%), and final exam or report (40%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 情報処理技法 I

[W組]

山口 剛

授業コード：A3675 | 曜日・時限：水3/Wed.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法I）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。具体的に、Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。なお、受講生のPC環境や希望によっては、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。

（上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、基本的なMicrosoft Officeの各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

## 【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、Microsoft Officeの各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。

## &lt; Word &gt;

ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、ExcelやPowerPointで作成した図表を適切に添付することができる。

## &lt; Excel &gt;

基本操作を身につけ、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。

## &lt; PowerPoint &gt;

プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次の授業の冒頭でフィードバックされる。

教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までにはPCの電源を立ち上げるようにしてください。100分のうち、少なくとも40分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、定められた期限までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                       |
|------|-----------------------|--------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                 | 授業進行などの確認、初歩的な情報リテラシーの確認 |
| 第2回  | Word 1: 論文とは何か、基本操作   | Wordの基本操作の確認、論文とレポートについて |
| 第3回  | Word 2: 論文作成に用いる機能    | ページレイアウト、スタイル、ページ番号など    |
| 第4回  | Word 3: 論文作成に用いる機能の応用 | 図表の作成・挿入など               |
| 第5回  | Word 4: 機能の確認         | 前3回分の機能の総括               |
| 第6回  | Excel 1: 基本操作         | 数式の挿入、関数とは、オートフィルなど      |
| 第7回  | Excel 2: 参照と関数        | 相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数    |
| 第8回  | Excel 3: 実験や調査に用いる関数  | 統計に関わる関数、疑似ランダムなど        |
| 第9回  | Excel 4: データセットの形成と処理 | データセットとは何か、フィルターなど       |
| 第10回 | Excel 5: 作図と作表        | 論文に適切な図表の形、用いる機能の確認      |

|      |                                |                           |
|------|--------------------------------|---------------------------|
| 第11回 | Excel 6: Wordとの連携              | 先に学習したWordにExcelの機能を反映させる |
| 第12回 | Power Point 1: プレゼンテーション基礎     | プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点    |
| 第13回 | Power Point 2: Word, Excelとの連携 | 先に学習したアプリケーションとの連携確認      |
| 第14回 | まとめ                            | 半期の振り返りとレポートの確認           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業内容や作業に必要なスキルの解説を動画で公開するため、該当する授業の前に動画による予習が必要である。また、「 Semester 課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求める。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としている。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

## 【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められ、感想が付随していない課題は採点されない。

・Semester 課題（60%）：本科目「情報処理技法I」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。

注）4回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

教室のPC環境と受講生のPC環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

## 【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Google ドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

## 【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester, students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

## 【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to utilize Microsoft Office appropriately in writing reports and theses in psychology, and in conducting experiments and surveys. In addition, students should be able to deal with problems that may occur during these tasks.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to watch the video as a preliminary study and acquire basic knowledge and basic skills. Students are also expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (60%): The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques I". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 情報処理技法 I

[X組]

山口 剛

授業コード：A3676 | 曜日・時限：水4/Wed.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目(情報処理技法I)は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。具体的に、Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。なお、受講生のPC環境や希望によっては、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。

(上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、基本的なMicrosoft Officeの各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。)

### 【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、Microsoft Officeの各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。

#### < Word >

ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、ExcelやPowerPointで作成した図表を適切に添付することができる。

#### < Excel >

基本操作を身につけ、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。

#### < PowerPoint >

プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次の授業の冒頭でフィードバックされる。

教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までにはPCの電源を立ち上げるようにしてください。100分のうち、少なくとも40分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、定められた期限までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                       |
|------|-----------------------|--------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                 | 授業進行などの確認、初歩的な情報リテラシーの確認 |
| 第2回  | Word 1: 論文とは何か、基本操作   | Wordの基本操作の確認、論文とレポートについて |
| 第3回  | Word 2: 論文作成に用いる機能    | ページレイアウト、スタイル、ページ番号など    |
| 第4回  | Word 3: 論文作成に用いる機能の応用 | 図表の作成・挿入など               |
| 第5回  | Word 4: 機能の確認         | 前3回分の機能の総括               |
| 第6回  | Excel 1: 基本操作         | 数式の挿入、関数とは、オートフィルなど      |
| 第7回  | Excel 2: 参照と関数        | 相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数    |
| 第8回  | Excel 3: 実験や調査に用いる関数  | 統計に関わる関数、疑似ランダムなど        |
| 第9回  | Excel 4: データセットの形成と処理 | データセットとは何か、フィルターなど       |
| 第10回 | Excel 5: 作図と作表        | 論文に適切な図表の形、用いる機能の確認      |

|      |                                |                           |
|------|--------------------------------|---------------------------|
| 第11回 | Excel 6: Wordとの連携              | 先に学習したWordにExcelの機能を反映させる |
| 第12回 | Power Point 1: プレゼンテーション基礎     | プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点    |
| 第13回 | Power Point 2: Word, Excelとの連携 | 先に学習したアプリケーションとの連携確認      |
| 第14回 | まとめ                            | 半期の振り返りとレポートの確認           |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各授業内容や作業に必要なスキルの解説を動画で公開するため、該当する授業の前に動画による予習が必要である。また、「セメスター課題」もあるため(下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと)、授業内課題に関する復習を求める。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としている。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

・授業内課題(40%)：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められ、感想が付随していない課題は採点されない。

・セメスター課題(60%)：本科目「情報処理技法I」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。

注) 4回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

教室のPC環境と受講生のPC環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

### 【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Googleドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

### 【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester, students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

#### 【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to utilize Microsoft Office appropriately in writing reports and theses in psychology, and in conducting experiments and surveys. In addition, students should be able to deal with problems that may occur during these tasks.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to watch the video as a preliminary study and acquire basic knowledge and basic skills. Students are also expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (60%): The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques I". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 情報処理技法 II

[W組]

山口 剛

授業コード：A3677 | 曜日・時限：水3/Wed.3  
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。具体的に、無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えばlab.js, jsPsych など）、および無料の統計解析ソフトウェア（例えばJASP, R など）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。なお、受講生のPC環境や希望によっては、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。（扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

## 【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。

<実験作成・実施ソフトウェア（lab.jsなど）>

適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。

（lab.jsは視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）

<統計解析ソフトウェア（JASPなど）>

研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次の授業の冒頭でフィードバックされる。

教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までにはPCの電源を立ち上げるようにしてください。100分のうち、少なくとも40分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                 | 内容                                                    |
|-----|---------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンスとソフトウェアの導入     | 授業進行とソフトウェアの導入などの確認                                   |
| 第2回 | (実験) 実験の技法と注意点      | 実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか                              |
| 第3回 | (実験) 刺激の作成          | 刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み                               |
| 第4回 | (実験) 実験に必要な「操作」     | 操作とは何か、その注意点、実験ファイルに操作を反映する                           |
| 第5回 | (実験) 分岐の手続          | 反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する                               |
| 第6回 | (統計) 記述統計の出し方       | 統計量を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する                            |
| 第7回 | (統計) 相関分析と回帰分析      | 相関と回帰について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する                       |
| 第8回 | (統計) 平均値の比較と一般線形モデル | 平均値の比較の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また、回帰分析との対応も確認する。 |
| 第9回 | (統計) 偏相関と重回帰分析      | 重回帰分析の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する                    |

|      |                      |                                                                    |
|------|----------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 第10回 | (統計) 分散分析と主効果        | 分散分析とは何か、どのようなときに使うのかを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。 |
| 第11回 | (統計) 分散分析と交互作用効果     | 分散分析における交互作用効果を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する                              |
| 第12回 | (統計) 分散分析の応用         | 実験計画に沿う分散分析の応用について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する                           |
| 第13回 | (統計) 因子分析と構造方程式モデリング | 探索的因子分析とは何か、測定方程式と構造方程式とは何かを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する                 |
| 第14回 | まとめ                  | 半期の振り返りとレポートの確認                                                    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当該授業前に、基礎知識や基本的なスキルを解説した動画を視聴し、課題に取り組むことを求める。また、「セメスター課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習も求める。すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としている。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

## 【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められる。

・セメスター課題（60%）：本科目「情報処理技法II」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。

注) 4回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

教室のPC環境と受講生のPC環境が異なるが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

## 【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Googleドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

## 【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester, students will learn how to use lab.js which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus (by lab.js), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

## 【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to conduct experiments and surveys in psychology, and to analyze the data, using appropriate experimental and statistical applications. Students are also expected to be able to recognize errors in settings and to take appropriate action.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to watch the video as a preliminary study and acquire basic knowledge and basic skills. Students are also expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (60%): The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques II". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 情報処理技法 II

[X組]

山口 剛

授業コード：A3678 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。具体的に、無料の心理学実験実施ソフトウェア (例えばlab.js, jsPsych など)、および無料の統計解析ソフトウェア (例えばJASP, R など) あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。なお、受講生のPC環境や希望によっては、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。(扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。)

### 【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。

＜実験作成・実施ソフトウェア (lab.js など)＞

適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。

(lab.js は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。)

＜統計解析ソフトウェア (JASP など)＞

研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次回の授業の冒頭でフィードバックされる。

教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までにはPCの電源を立ち上げるようにしてください。100分のうち、少なくとも40分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                 | 内容                                                    |
|-----|---------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンスとソフトウェアの導入     | 授業進行とソフトウェアの導入などの確認                                   |
| 第2回 | (実験) 実験の技法と注意点      | 実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか                              |
| 第3回 | (実験) 刺激の作成          | 刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み                               |
| 第4回 | (実験) 実験に必要な「操作」     | 操作とは何か、その注意点、実験ファイルに操作を反映する                           |
| 第5回 | (実験) 分岐の手続          | 反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する                               |
| 第6回 | (統計) 記述統計の出し方       | 統計量を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する                            |
| 第7回 | (統計) 相関分析と回帰分析      | 相関と回帰について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する                       |
| 第8回 | (統計) 平均値の比較と一般線形モデル | 平均値の比較の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また、回帰分析との対応も確認する。 |
| 第9回 | (統計) 偏相関と重回帰分析      | 重回帰分析の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する                    |

第10回 (統計) 分散分析と主効果

分散分析とは何か、どのようなときに使うのかを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。

第11回 (統計) 分散分析と交互作用効果

分散分析における交互作用効果を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する

第12回 (統計) 分散分析の応用

実験計画に沿う分散分析の応用について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する

第13回 (統計) 因子分析と構造方程式モデリング

探索的因子分析とは何か、測定方程式と構造方程式は何か把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する

第14回 まとめ

半期の振り返りとレポートの確認

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

当該授業前に、基礎知識や基本的なスキルを解説した動画を視聴し、課題に取り組むことを求める。また、「セメスター課題」もあるため(下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと)、授業内課題に関する復習も求める。すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としている。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

・授業内課題 (40%)：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められる。

・セメスター課題 (60%)：本科目「情報処理技法II」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。

注) 4回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

教室のPC環境と受講生のPC環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

### 【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Googleドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

### 【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester, students will learn how to use lab.js which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus (by lab.js), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

#### 【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to conduct experiments and surveys in psychology, and to analyze the data, using appropriate experimental and statistical applications. Students are also expected to be able to recognize errors in settings and to take appropriate action.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to watch the video as a preliminary study and acquire basic knowledge and basic skills. Students are also expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (60%): The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques II". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 発達心理学特講

渡辺 弥生

授業コード：A3680 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の発達過程のうちの幼児期から青年期に焦点を当て、子どもの社会性や道徳性の発達を中心に最新の発達心理学研究に触れていく。春学期の発達心理学より、実際の研究論文を読んだり、分析方法や結果考察のありかたなどを含め深く解説する。したがって、先に発達心理学を受講した方が望ましい。

### 【到達目標】

発達心理学研究の知識を身につけ、どのようなことを解明するためにどういった研究方法の工夫が必要かを考え、実際に自分が発達心理学の研究を行うのに必要な知識の獲得をめざす。いまだ解明されていないことも多く、問題提起しそれを研究する意欲を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式。人間の発達の奥深さを実感できるように、できるだけビデオやDVDなどの視聴覚教材を用いる。ペア・ワークやグループ・ワークなどアクションラーニングを盛り込みながら、発達心理学研究のテーマやさまざまな研究アプローチがあることを理解できるようにする。受講希望者は初回時には必ず出席する。課題などのフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                  | 内容                                                                          |
|------|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 発達心理学への誘い<br>「発達」と「成長」はどう違うのか。                       | 今後の授業の方針と評価の仕方について説明。発達心理学とは何か、歴史的な展開、遺伝か環境か、発達の意味について学ぶ。                   |
| 第2回  | 発達心理学の研究手法の特徴<br>人の心の発達をどのようにして科学的に理解しようとするのか。       | 横断研究と縦断研究。観察法、実験法、面接法、質問紙法など。また検査の使い方。関連領域と仕事との関係。                          |
| 第3回  | 胎児・乳児の心理学<br>赤ちゃんってすごいな！ 親子関係の始まり。                   | 乳幼児期の愛着、養育態度：親になるということはどういうことなのか、親子の愛情のきずなはどのように形成されるのかを理解する。               |
| 第4回  | 幼児期を育ちゆく子ども<br>「自分」という意識はどのように獲得していくのか。              | 自己意識をどのように獲得していくのか。自分の顔を鏡で見て理解できるのか。また幼児期の認識の発達を学ぶ。                         |
| 第5回  | 幼児期に身につける力<br>言葉を獲得していきることによって、気持ちも表現できるようになる。       | 自分の気持ちを理解するようになると、コントロールできるようになる。自分を抑制したり、主張したり、マネジメントできるようになることを学ぶ。遊びの大切さ。 |
| 第6回  | 児童期の誕生<br>「学校」に行くことで変化すること、求められることは何か。               | 児童期における認知発達のプロセスを学ぶ。自分の視点からのみ理解していたところ方、他人の視点を予測できるようになる、と言った視点取得について学ぶ。    |
| 第7回  | 児童期の対人関係の広がり：自己理解が進み、他者の気持ちを想像できるようになると、どんな世界が広がるのか。 | 友達関係を築き、維持するためには、社会性や道徳性などが必要になるが、どのように発達するかを学ぶ。生じるトラブルや問題についても考える。         |
| 第8回  | 中学生・高校生の心理学。大人でもなく、「もう、子どもじゃない！」という気持ちが生じるこの時期の変化とは。 | 自己嫌悪感や嫉妬、など発達するからこそみえる思春期の特徴を学ぶ。                                            |
| 第9回  | 中学生・高校生の心理<br>中1ギャップって何？<br>自尊心はどうすれば高まるのか。          | 思春期の思いやりや規範意識の発達について学ぶ。いじめはなぜ起きるのか、どうすれば予防できるかについても学ぶ。                      |
| 第10回 | 大学生・有職青年の心<br>は。進路と仕事についてどのように考えていくのか。               | 就職すること、人生について考えるようになるが、個性化と社会化について葛藤するプロセスを学ぶ。ポジティブに生きる力について学ぶ。             |

|      |                                                                 |                                                             |
|------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 第11回 | 成人の心理学<br>中年期以降、人生をどのように俯瞰し、生きるようになるのか。                         | 年齢を重ねるからこそ、見出せる能力や幸福感について考える。時間軸、対人関係、社会や文化との関連について学ぶ。      |
| 第12回 | 時間的展望の発達<br>時間の概念を獲得し、過去を振り返り、現在を生き、未来を予測することができることは、何に影響を及ぼすか。 | 昨日も明日もわからなかった赤ちゃんが、30年ローンなどを考えるようになることが、生きることにどのような影響を及ぼすか。 |
| 第13回 | 対人関係が広がることで、自分だけではなく、多くの人のことを考えるようになることは、生き方につながるような影響を及ぼすか。    | 人を助ける人もあれば傷つける人もいる。この違いは何かを考えてみる。対人関係の広がりもたらすことについて考える。     |
| 第14回 | 総括の時間。人が自身を客観的に俯瞰し、悩む意味は何か。                                     | 発達心理学が生きることに役立つだけでなく、社会にどのように役立つか仕事を通して考える。                 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ミニテストを実施し、各授業のポイントを押さえているかを確認する。試験や課題については、授業時に説明する。予習復習に各2時間をかけることとする。

### 【テキスト（教科書）】

『発達心理学 シリーズ 心理学と仕事』二宮克比・渡辺弥生編著 北大路書房

### 【参考書】

『子どもの10歳の壁とは何か？』渡辺弥生著（光文社新書）2020

『感情の正体—発達心理学で気持ちをマネジメントする』（ちくま新書）2020

『よくわかる発達心理学』渡辺弥生著（ナツメ社）2021

### 【成績評価の方法と基準】

授業への出席は単位修得の前提条件であり、成績評価は、アクティブな参加（ミニ課題で正答を考えること）と、課題への能動的な取り組みとする。具体的には、毎回のミニクイズ（70%）と課題2つ（30%）の両方を評価する。ただしミニクイズは6回以上かつ課題2つを最低提出しないと成績の評価対象にならない。クイズは正答かどうか評価する。授業に出席することによってクイズや課題の得点が高くなるような内容を考える。

### 【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムからの質問や感想などから、テキストを踏まえた授業と、それを応用するミニクイズや課題などは楽しいとあったので、継続したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに入ること。

### 【その他の重要事項】

学習支援システムやGoogle Classroomなどの活用  
新型コロナウイルスの感染状況によって、授業形態が変更しうること。  
シラバスの授業の内容の順番が変更することもありうること

### 【Outline (in English)】

The aims of this course are to understand a developmental perspective including the background, challenges, and methodology of related research, focusing on infancy, childhood, and adolescence, and to understand the diversity and variability of human development.

・By the end of the course, students will be expected to acquire knowledge of developmental psychology research, think about what kind of research methods need to be devised to elucidate what issues, and aim to acquire the knowledge necessary to actually conduct their own developmental psychology research.

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Both the mini-quiz (70%) and the two assignments (30%) will be evaluated. The mini-quizzes will be graded on both the mini-quiz (70%) and the two assignments (30%). The quizzes will be graded on correct answers.



PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 学習心理学特講

藤田 哲也

授業コード：A3682 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学習の中でも中核をなす「記憶」について学ぶことを通じて、自分自身を客観的に見つめ直すことがこの授業の目的です。

### 【到達目標】

授業を通じて、以下の要素について理解を深め、自分自身の日常生活との関連をふまえて説明できるようになることが到達目標です。

1. 人間の記憶は、その種類や特徴によって多面的に捉えることが可能であること。
2. それぞれの記憶が、自分自身を含めた人間の認知活動において重要な役割を果たしていること。
3. そのような記憶を研究するためには、適切な実験法を用いることが有効であること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「人間の記憶」についての心理学研究の歴史的流れをふまえながら、記憶の多様性について、具体的な実験データに基づいて説明します。人間の記憶には様々な特徴があり、果たしている機能の違いによって分類され、研究されているということを理解します。そのために、ほぼ毎回の授業で、簡単な記憶実験のデモンストレーションを行います。積極的に参加することで、それぞれのトピックおよび実験法についての理解を深めてください。実験のデモは行いますが、基本的には講義形式の授業です。授業内では理解深化のために学生同士のペアワークを行います。また授業終了時には振り返りを行った上で感想を記入し、提出してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容         |
|------|---------------|------------|
| 第1回  | イントロダクション     | 授業内容と目標の確認 |
| 第2回  | 短期記憶と作動記憶     | 両者の重要な違い   |
| 第3回  | 意味記憶          | 意味記憶ネットワーク |
| 第4回  | エピソード記憶       | 最も一般的な実験とは |
| 第5回  | 目撃証言          | 記憶の歪み      |
| 第6回  | 偽りの記憶         | 記憶は簡単に作れる  |
| 第7回  | 展望的記憶         | 未来の行為も記憶   |
| 第8回  | 潜在記憶          | 無意識的な記憶    |
| 第9回  | 自動的 vs. 意図的記憶 | 潜在記憶の応用    |
| 第10回 | メタ記憶          | 自分の記憶を把握する |
| 第11回 | 自伝的記憶         | 記憶こそが人生の要  |
| 第12回 | レポート回収と解説     | レポート自己評価   |
| 第13回 | 脳と記憶          | 実際の事例による理解 |
| 第14回 | レポート返却と総括     | 到達度の自己評価   |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の授業外学習は、基本的には準備学習を兼ねた実験に取り組むのが1時間程度と、以前の授業内容との関連を考えながら復習することに3時間程度取り組んでもらいます。各回の授業後には、レポートに備えて、授業内容を自分自身の日常生活・認知活動と関連づけて考えておきましょう。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也(編)(2006)北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …授業に出席し、実験に参加するだけでなく、「自分にとっての記憶」について考えを深めた結果を、毎回の授業終了時に学習支援システムの掲示板に書き込んでください。

期末レポート (60%) …授業内容について基本事項を理解しているかどうか、その内容を自分自身の問題意識に適切に結びつけているかどうか、そして適切な先行研究を参照することで、授業で学んだ内容を、自分でさらに発展させることができているかどうかを主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケートから：「履修してよかったか」で全員が5をつけてくれました。理解度も9名が5で、十分に高い水準でしたし、次年度以降も同じ方針で授業を行うつもりです。ただし授業外学習時間が短いのが気になります (ほとんど行っていないのが5名、最頻値は30分-1時間で6名) 期末レポートに取り組みやすくなるような、行って意義を感じてもらえる課題を考えてみます。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。授業の前に行う実験自体が授業内容を理解するための教材となっていますので、毎回、積極的に事前の課題に取り組むことを求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students objectively reconsider themselves through learning about "memory" which is the core of learning.

【Learning Objectives】

The goal is to deepen the understanding of the following elements through the class and to be able to explain them based on their relationship with their own daily life.

1. Human memory can be grasped from multiple perspectives depending on its type and characteristics.
2. Each memory plays an important role in human cognitive activities, including ourselves.
3. It is effective to use appropriate experimental methods to study such memories.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students spend about an hour on an experiment that doubles as preparatory learning. After each class meeting, students are expected to spend about 3 hours understanding the content of the course.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**発達臨床心理学 I**

桜井 美加

授業コード：A3683 | 曜日・時限：水1/Wed.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ひとの発達過程においては、様々な課題が想定される。それらをひとつひとつのように向き合い、問題解決していくか、発達臨床心理学の観点から学ぶ。

**【到達目標】**

発達プロセスにおける課題と解決方法について、発達臨床心理学の理論から理解することができる。

発達臨床心理学の知識を習得することで、自己他者理解を深めることができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は講義で知識習得し、授業内のグループディスカッションや発表で応用力を体得する。授業の予習、復習で主体的に取り組む態度を養う。また、課題等に対するフィードバック方法は、オンラインのみの場合にはGメールで、対面が含まれる場合には授業前後に個別に対応するので、遠慮せずに質問や相談をしてほしい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                      |
|------|----------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | 臨床心理学の歴史・概念    | 臨床心理学とは？<br>歴史や定義について学ぶ。                |
| 第2回  | 心理アセスメント       | 発達理論におけるアセスメントについて学ぶ。                   |
| 第3回  | 心理検査           | 心理検査の種類や臨床場面の適用について学ぶ。                  |
| 第4回  | 心理カウンセリング・心理療法 | 基礎的なカウンセリングや心理療法について学ぶ。                 |
| 第5回  | 子どもを対象とした心理療法  | 子どもを対象とした心理療法について学ぶ。                    |
| 第6回  | 日本が発祥の心理療法     | 森田療法、内観法について学ぶ。                         |
| 第7回  | 家族療法・集団心理療法    | 家族療法、集団心理療法について学ぶ。                      |
| 第8回  | 臨床心理学をとりまく概念   | 臨床心理学をとりまく概念について学ぶ。                     |
| 第9回  | 子どもをとりまく問題     | 子どもをとりまく問題、不登校、発達障害、児童虐待について学ぶ。         |
| 第10回 | 思春期・青年期をとりまく問題 | 摂食障害や自傷行為について学ぶ。                        |
| 第11回 | 成人期をとりまく問題     | 不安障害、気分障害について学ぶ。                        |
| 第12回 | 高齢期をとりまく問題     | 高齢者の心理的課題と援助方法について学ぶ。                   |
| 第13回 | 臨床心理学の倫理の問題    | 臨床心理学に関連する法律や倫理の問題について学ぶ。               |
| 第14回 | まとめ<br>テスト     | これまで学んできた発達臨床心理学を講義ノートや教科書のキーワードを中心に学ぶ。 |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習として、教科書を読んでおく。復習としては、学んだキーワードに関連する論文を1本読んだり、質問をメモしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

横田正夫編 津川律子・篠竹利和・山口義枝・菊島勝也・北村世都著 2016  
ポテンシャル臨床心理学 サイエンス社

**【参考書】**

矢澤美香子編 2018 基礎から学ぶ心理療法 ナカニシヤ出版

**【成績評価の方法と基準】**

小テストまたはアクションペーパー1回5点満点×13回＝65点満点  
課題レポート1回35点満点で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

双方向の授業が可能になるように準備していきたいと思います。

**【Outline (in English)】**

There are many obstacles to overcome in developmental process for human being. The aim for this course is to learn psychological approaches how people can solve problems.

Students are required to read text books to prepare for classes. Students are required to read articles and/or books regarding keywords that students learned in classes. In addition, students are required to take notes whatever they need to clarify. Each two hours required to complete those tasks before and after classes.

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 65%, Reports 35%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 発達臨床心理学Ⅱ

桜井 美加

授業コード：A3684 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幼少期から高齢者に至る発達過程において示される心理的諸問題、対人関係の問題や様々な精神障害に対する対応や臨床心理的アプローチについて、ケーススタディを用いながら基礎的知識と応用力を身に付ける。また、各理論をベースとした心理療法について学ぶ。

### 【到達目標】

生涯発達心理学の観点から、各ライフステージで見られる心理的葛藤および望ましい臨床心理的アプローチについて、理解できるようになり、文章で適切に表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態はオンデマンド型オンライン授業である。指定されている教科書を購入し、内容についてはスライドを随時示す。履修生は、知識を習得しつつ、リアクションペーパーや課題レポート作成により、各テーマについての理解を深める。また課題などのフィードバック方法は、オンラインのみの場合はGメールで、対面が含まれる場合は授業前後で、遠慮なく質問や相談に来てほしい。対応する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                                     |
|------|---------------------|--------------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>心理療法の意義と学び | 教科書第1部心理療法の定義、効果、構造について、また臨床心理学における、援助とはなにかについても併せて学ぶ。 |
| 第2回  | クライアント中心療法          | 教科書第2部1章クライアント中心療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ                   |
| 第3回  | 分析心理学               | 教科書第3章分析心理学の理論と技法、効用と限界について学ぶ。                         |
| 第4回  | アドラー心理学             | 教科書第4章アドラーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。                          |
| 第5回  | 行動療法                | 教科書第5章行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。                       |
| 第6回  | 認知行動療法              | 教科書第6章認知行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。                     |
| 第7回  | ゲシュタルト療法            | 教科書第9章ゲシュタルトの理論と技法、効用と限界について学ぶ                         |
| 第8回  | ブリーフセラピー            | 教科書第15章ブリーフセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。                     |
| 第9回  | ナラティブセラピー           | 教科書第16章ナラティブセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。                    |
| 第10回 | 家族療法                | 教科書第17章家族療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。                         |
| 第11回 | 遊戯療法                | 教科書第18章遊戯療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。                         |
| 第12回 | 芸術療法                | 教科書第19章芸術療法について学ぶ。                                     |
| 第13回 | エンカウンター・グループ        | 教科書第21章エンカウンター・グループの理論と技法、効用と限界について学ぶ。                 |
| 第14回 | 総まとめ                | 発達臨床心理学について振り返り、重要なポイントを確認する。                          |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は、授業のテーマに関する疑問点をまとめ、自力でできるところは調べておく。

復習は、学習したテーマに関する本もしくは学術論文を1本以上読み、得られた知識を深めておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

矢澤美香子編 2018 基礎から学ぶ心理療法 ナカニシヤ出版

### 【参考書】

渡辺弥生・榎本淳子編 2012 発達と臨床の心理学 ナカニシヤ出版

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー1回5点満点×13回=65点満点+期末レポート1回=35点満点で評価する。こつこつとすべての回にオンラインでアクセスし、リアクションペーパーなどを提出することで総合評価は高まるので、履修生はそれを意識し授業に臨んでほしい。

### 【学生の意見等からの気づき】

教科書を早めに2冊指示するので、授業開始と同時に準備しておく、スムーズに履修できます。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレットほか、オンライン授業に必要とされる機器。

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Goal to achieve is to understand psychological issues from childhood through adulthood including midlife crisis and aging. There are many theoretical backgrounds to utilize counseling skills to solve problems. (Learning Objectives) Participants should be able to enhance skills to solve problems such as bullying. They are able to learn acknowledgements, assessments and counseling skills to address those issues. (Learning activities outside of classroom) They are required to read the textbooks and write down questions, so that students are able to ask clarify problems. (Grading Criteria /Policy) Students need to take Minute Papers and final test to earn 100%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**精神保健学 I**

高橋 敏治

授業コード：A3685 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

精神の正常から異常の概念を含めて精神保健の基礎を幅広く学びます。精神科医として30年以上活動している臨床現場での経験をもとに、学生が知っておくべき臨床の知識、対処法や予防法を取り上げます。

**【到達目標】**

メンタルヘルスの基礎、重要性を説明できるようにすること。メンタルヘルスに関連した法律、実例を説明できるようにすること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

人間理解の一助として精神医学を学ぶための多面的なアプローチの仕方を学びます。また、どのような種類の異常な状態があるのかを、なるべく実例をひも解きながら学んでいきます。基本的には講義形式です。できるかぎり映画やTVから講義内容と関連した場面を取り上げて解説します。授業内で生じた疑問などはコメントシートを用いて、それを後日の授業でまとめてフィードバックします。試験については、模範解答などを授業内で紹介し、解説も行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ           | 内容                            |
|------|---------------|-------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション     | 受講者の興味・希望をアンケートで調査            |
| 第2回  | 精神保健の基礎知識     | ICD-10とDSM-IVなど診断基準、心理の正常異常   |
| 第3回  | ライフサイクルと精神保健学 | 発達によるメンタルヘルスの問題（幼児、青年期、成人、老人） |
| 第4回  | 精神保健主要症候学1    | 幻覚妄想など思考面の問題の内容や種類            |
| 第5回  | 精神保健主要症候学2    | うつやそうなどの気分の問題の内容と種類           |
| 第6回  | 精神保健主要症候学3    | 意識のレベルの問題の種類（せん妄など）           |
| 第7回  | 精神保健主要症候学4    | 急性と慢性の場合の脳の器質的な病変             |
| 第8回  | 自殺            | 自殺の種類、日本の現状や問題点、予防法           |
| 第9回  | ターミナルケア       | がん患者の心理、そのケアの方法               |
| 第10回 | 法律と精神保健       | 精神保健福祉法、触法精神障害の歴史や問題点         |
| 第11回 | 精神保健治療学総論1    | 薬物療法の概観（種類、副作用など）             |
| 第12回 | 精神保健治療学総論2    | 非薬物療法の概観（心理療法、リハビリテーション技法など）  |
| 第13回 | 精神保健のトピックス    | 最近文献紹介やアンケートからピックアップした疑問への回答  |
| 第14回 | 総括・まとめ        | メンタルヘルスの春学期に学んだことの総括          |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

|      |                      |
|------|----------------------|
| 第1回  | 精神保健学に関する基礎知識のレポート作成 |
| 第2回  | ICDとDSMによる診断課題       |
| 第3回  | 達成度の確認（診断基準）         |
| 第4回  | 達成度の確認（ライフサイクル精神保健）  |
| 第5回  | 達成度の確認（幻覚妄想）         |
| 第6回  | 達成度の確認（気分）           |
| 第7回  | 達成度の確認（せん妄など）        |
| 第8回  | 達成度の確認（自殺）           |
| 第9回  | 達成度の確認（ターミナルケア）      |
| 第10回 | 達成度の確認（精神保健福祉法）      |
| 第11回 | 達成度の確認（薬物療法の種類、副作用）  |
| 第12回 | 達成度の確認（心理療法など）       |
| 第13回 | 達成度の確認（リハビリテーション技法）  |
| 第14回 | 達成度の確認（春学期全般）        |

**【テキスト（教科書）】**

教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

**【参考書】**

尾崎 紀夫 (2021). 標準精神医学(第7版) 医学書院

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験を実施します。平常点と数回の課題レポート（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

今年も開講時間は6限でした。22名の方が受講してくれました。遅い時間まで残ってくれてご苦労様でした。そのうち3名から回答を頂きました。自由記述では、「社会情勢に合わせた授業をして下さり、自分事として聞くことが出来ました。」「精神疾患や自殺の問題など、興味深い内容のテーマについて学ぶことができてよかったです。動画を見ることで、より内容を理解することができました。ただ、テーマそのものがかなり難しい問題なので、重要であったり押さえておくべきポイントを明瞭にさせていただくとさらにわかりやすかったと思います。」などの意見を頂きました。今後も、考えたことを議論できる場を増やし、ポイントを絞るようにします。次回の授業の予習になるような課題や多種類のメディアの活用などの工夫を継続して行きたいと思っています。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

**【その他の重要事項】**

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

In this class, we will learn sleep and biological rhythms by the psychophysiological research methods.

**【Learning Objectives】**

To be able to explain the importance of the role that sleep should play in daily life. It is to reproduce research in the field of psychophysiology so that it can be used for writing an article.

**【Learning activities outside of classroom】**

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

**【Grading Criteria / Policy】**

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (50%) and final examination (50%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 精神保健学Ⅱ

高橋 敏治

授業コード：A3686 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いろいろな種類の精神障害を、他の障害と比べながら、症状の特徴、治療法を学びます。精神科医として30年以上活動している臨床現場での経験をもとに、学生が知っておくべき臨床の知識、対処法や予防法を取り上げます。

### 【到達目標】

メンタルヘルスの各論を通して、人間の心の不思議や理解の仕方などを説明できるようにすること。その異常心理が、どのような特徴を持ち、どのように診断を受けるのかを理解しながら、精神保健の実態を説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

どのような種類の異常な状態があるのかを、WHOの診断統計分類を用いて、なるべく実例をひも解きながら学んでいきます。基本的には講義形式です。できるかぎり映画やTVから講義内容と関連した場面を取り上げて解説します。授業内で生じた疑問などはコメントシートを用いて、それを後日の授業でまとめてフィードバックします。試験については、模範解答などを授業内で紹介し、解説も行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容                        |
|------|---------------------------|---------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                 | 受講者の興味・希望をアンケートで調査        |
| 第2回  | 症状性を含む器質性精神障害 (F0-1)      | 脳の感染症、外傷、身体障害時の精神症状       |
| 第3回  | 老人性器質性障害 (F0-2)           | アルツハイマー型、脳血管性の痴呆          |
| 第4回  | 薬物使用による精神および行動の障害 (F1-1)  | 大麻、覚せい剤、麻薬、コーヒー、ニコチンなど    |
| 第5回  | アルコールによる精神および行動の障害 (F1-2) | アルコール依存やその周辺の障害、家族問題      |
| 第6回  | 統合失調症とその関連障害 (F2-1)       | 統合失調症の歴史、原因や診断の基準         |
| 第7回  | 統合失調症とその関連障害 (F2-2)       | 統合失調症の症状や主な病型、予後、問題点      |
| 第8回  | 統合失調症とその関連障害 (F2-3)       | 統合失調症の治療法（薬物療法、リハビリテーション） |
| 第9回  | 気分障害とその関連障害 (F3-1)        | 気分障害の症状（そうとうつ）、病型、原因      |
| 第10回 | 気分障害とその関連障害 (F3-2)        | 気分障害の治療（薬物療法、認知行動療法）      |
| 第11回 | 神経症障害、ストレス関連障害 (F4)       | ストレスに関連した病態の種類、原因、治療法     |
| 第12回 | 摂食障害と睡眠障害 (F5)            | 生理的な問題のうち摂食障害と睡眠障害の種類、原因  |
| 第13回 | 人格の障害 (F6)                | 人格障害の歴史、種類、問題点            |
| 第14回 | 総括まとめ                     | 秋学期に学んだ精神保健学各論のまとめ        |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

- 第1回 精神保健学に関する基礎知識レポート作成
- 第2回 達成度の確認(摂食障害)
- 第3回 達成度の確認(器質性精神障害)
- 第4回 達成度の確認(老人性痴呆)
- 第5回 達成度の確認(物質常用障害)
- 第6回 達成度の確認(アルコール精神障害)
- 第7回 達成度の確認(統合失調症1)
- 第8回 達成度の確認(統合失調症2)
- 第9回 達成度試験の勉強(統合失調症3)
- 第10回 達成度の確認(気分障害1)
- 第11回 達成度の確認(気分障害2)
- 第12回 達成度の確認(ストレス関連障害)
- 第13回 達成度の確認(摂食障害と睡眠障害)
- 第14回 達成度の確認(人格障害および全体のまとめ)

### 【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

### 【参考書】

尾崎 紀夫 (2021). 標準精神医学(第7版) 医学書院

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。平常点(30%)と数回の課題レポート(20%)、期末試験(50%)で総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

12名の受講者のうち7名から回答を頂きました。授業の工夫では4-5の段階が、85.8%の評価でした。この授業を履修してよかったかについては、ほとんどの人が大変良かったと回答してくれていました。自由コメントでは、「実際の症例をお話して下さり、はっきりイメージすることが出来ました。」「すぐく分かりやすく詳しく説明してくれるので、テストもしっかり取り組めた。」「この授業を受講することで、自分の精神状態についても理解することができるとは思いませんかと期待していたのでとても有意義な時間を過ごせました。」などの意見も寄せられました。時限については、検討してみます。今まで精神保健学は、過去に何度も「もう少し早い時間に開講してほしい」との要望を受けていましたが、時間割の中の科目配当の関係で6限目に開講していました。2024年度は学科の皆様のご協力得て、木曜日2限目の早い時間帯へ移行して開講します。どうぞよろしくお願いたします。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

### 【その他の重要事項】

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業の中や学習支援を用いて案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this lesson, we will learn the fundamentals of mental health broadly, including the concept of mental normality to abnormality.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the importance of mental health and to be able to explain examples related to mental disorders.

#### 【Learning activities outside of classroom】

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (30%), several reports (20%), final examination (50%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**臨床心理学**

杉山 崇

授業コード：A3690 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代臨床心理学の体系的な理解を通して、現代社会における心理学の応用について一つの視野を形成することを目指す。

**【到達目標】**

臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。また、人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

臨床心理学は人間の十全な人生の展開を心理-社会的に支えるために発展した応用心理学である。臨床心理学の対象は非常に広く、医学的な診断名のあるうつ病、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害などの各種精神疾患から、不登校、NEET、家族不和、子育て、職場の人間関係、キャリア開発、各種福祉サービスなど実社会的問題まで扱う。

そのため社会心理学、認知心理学、神経-生理心理学、行動心理学などいわゆる心理科学から、精神医学、精神分析、分析心理学まで幅広く統合して今日の臨床心理学は構成されている。

ここでは講義を中心に体験的なワークも交えて、現代社会に比較的多い症状の理解、その心理的支援の理解、そして心理科学と臨床心理学アプローチを学ぶ。なお担当教員は臨床心理学の幅広いフィールドで心理的な支援の実際に関わっているが、この10数年の社会変動の中で臨床心理学とその実践が大きく変化するのを目の当たりにしてきた。実社会における心理学の応用・活用の諸問題について学生諸君とともに考えたい気持ちである。心理学の連続性について体系的な理解を目指す。

なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ         | 内容                    |
|------|-------------|-----------------------|
| 第1回  | 臨床心理学総論①    | 歴史とガイダンス              |
| 第2回  | 臨床心理学総論②    | 目的と対象                 |
| 第3回  | 力動的アプローチ    | 精神分析とユング心理学           |
| 第4回  | 人間性と欲求      | 欲求とパーソナリティ            |
| 第5回  | 生物・心理・社会モデル | 効果的なカウンセリングのためのアセスメント |
| 第6回  | 関係構築と願望     | カウンセリングの3stepsモデル     |
| 第7回  | 心を整える方法     | 認知再構成法とマインドフルネス       |
| 第8回  | 行動を整える方法    | セリフモニタリングと活動記録        |
| 第9回  | 対人関係療法①     | 社会脳と対人関係              |
| 第10回 | 対人関係療法②     | 社会的感情と社会的欲求           |
| 第11回 | 対人関係療法③     | 人間関係の最適化              |
| 第12回 | 事例研究①       | 適正に悩む女性の事例            |
| 第13回 | 事例研究②       | 不安、強迫観念、抑うつ           |
| 第14回 | 事例研究③       | うつ病からの復職支援            |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習：指定した専門用語について2時間ほど調べてくること。

復習：2時間程度の復習レポートを書き下ろす。

**【テキスト（教科書）】**

『事例でわかる、働く人へのカウンセリングと認知行動療法・対人関係療法』金子書房

**【参考書】**

『カウンセリングの援助と実際』北樹出版

臨床心理学の「現場」を実態を通して紹介した画期的な良書。事例を学ぶのに最適。

<http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=821&Tfile=Data>

『事例でわかる、基礎心理学のうまい活かし方』金剛出版

心理学がどのように心理療法に活かされているか、事例を通して学ぶ画期的な図書。

<https://7net.omni7.jp/detail/1106063973>

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（復習課題+授業態度）30%とレポート（到達目標の達成度）70%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生諸君の忌憚のないご意見に基づきオンライン参加のサポート、プロジェクトの適正な起動手、学習環境の円滑な整備を試みたい。今年度もみなさんのご意見を楽しみにしています。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムで資料配布し課題を出すためPC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合があります。詳しくは授業支援システムで指示します。

**【Outline (in English)】**

Through systematic understanding of modern clinical psychology, we aim to form a viewpoint of application of psychology in contemporary society.

Goal : Ability to express self-understanding, understanding of others, and understanding of modern society based on clinical psychology in one's own words.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) : Preparation: Look up the specified specialized terminology for about 2 hours.

Review: Write a review report for about 2 hours.

Grading Criteria /Policy : Normal score (review assignment + class attitude) 30% and report (achieving target) 70%

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 犯罪心理学

桐生 正幸

授業コード：A3691 | 曜日・時限：水5/Wed.5  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般的に、犯罪心理学という「凶悪で猟奇的な殺人事件の犯人心理」を学ぶものと誤解されがちです。しかしながら、現在の犯罪心理学では、犯罪捜査・科学捜査、被害者の心理、少年犯罪、目撃証言、取り調べ技術、防犯活動、裁判員裁判など多岐にわたり、その心理学的な切り口も、傍観者効果などの社会心理学、記憶や生理反応などの基礎心理学、行動分析のための計量心理学など、多様なものとなっています。本講義では、実際の犯罪捜査現場の情報、各種研究の成果などを用いた講義を設計しています。また、TVドラマやニュース報道などの身近な題材を加えながら、講義を進めていく予定です。

### 【到達目標】

- 1 犯罪心理学とは、どのような学問なのかを学ぶことができる。
- ① 犯罪心理学の上位学問である犯罪学の主要な理論を説明することができる。
- ② 犯罪心理学が明らかにしようとしている犯罪事象を説明することができる。
- 2 講義にて扱うテーマについて、どのような問題があるのかを説明することができる。
- 3 各テーマについて、それに関する理論、研究があるのかを説明することができる。
- 4 犯罪心理学の課題と問題点を指摘することができる。
- 5 実社会の中でイメージされている犯罪心理学や犯罪事象に対し、どのような問題があるかわかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指定のテキストを用いながら講義形式で授業を進めます。全ての講義にて、パワーポイント等を用いますが、事前学習ができるように予め各講義前にて、そのスライドを「学習支援システム」などにアップしておきます。また適宜、リアクションペーパーから疑問や質問、意見などを取り上げ、授業中にフィードバックを「学習支援システム」などで行います。加えて、授業中に特定のテーマについてグループディスカッションを行ってもらい、その討議内容を発表していただきます。なお、対面方式と一部オンライン方式との併用授業となります。また、最終講義では、それまでの振り返りを実施した後に、総括試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                                | 内容                                |
|-----|------------------------------------|-----------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、序論、現代社会と犯罪との関わり              | 犯罪心理学が現代社会にどのような関わりを持っているのかを学びます。 |
| 第2回 | 犯罪学の歴史：ロンブローゾやデュルケムから始まる犯罪学の概観について | 犯罪生物学からシカゴ学派など犯罪社会学の概観を学びます。      |
| 第3回 | 犯罪心理学の始まり                          | 犯罪心理学の歴史と各研究者について学びます。            |
| 第4回 | 犯罪心理学にかかわる心理学の諸理論。                 | 逸脱行動や対人行動などの心理学理論から犯罪事象を学びます。     |

|      |                                 |                                     |
|------|---------------------------------|-------------------------------------|
| 第5回  | 日本における司法・犯罪心理学の制度、法律、職種について     | 少年鑑別所、家庭裁判所などの司法・犯罪心理学の実際について学びます。  |
| 第6回  | 捜査心理学① 記憶：目撃証言とポリグラフ検査について      | 犯罪捜査場面における目撃証言とポリグラフ検査について学びます。     |
| 第7回  | 捜査心理学③犯罪者プロファイリングについて           | FBIの手法と統計的プロファイリングを学びます。            |
| 第8回  | 捜査心理学④地理プロファイリングについて            | 地理情報を用いたプロファイリング手法と具体例を学びます。        |
| 第9回  | 犯罪・非行への心理学的支援、被害者支援、保護観察、倫理について | 家事、高齢者犯罪、地域社会における支援について学びます。        |
| 第10回 | 地域防犯について                        | 環境犯罪学などの理論と実際の地域防犯活動などについて学びます。     |
| 第11回 | 日本の凶悪事件と犯罪報道について                | マスメディアの特質と犯罪報道との関連を検討します。           |
| 第12回 | 的犯罪とそれを取り巻く社会状況                 | 近年の性的犯罪の事例を分析しながら心理的、社会的な要因を検討します。  |
| 第13回 | 高齢者を取り巻く犯罪                      | ストーカー、特殊詐欺、カスタマーハラスメントなどの側面から検討します。 |
| 第14回 | 試験・まとめと解説                       | これまでの授業を振り返った後に、総括試験を実施します。         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習は、直近の授業スライドを確認し、テキストや提示した動画資料などを視聴しながら行います。復習学習は、授業時に指定された小レポートの作成などを行います。例えば、犯罪者プロファイリングについて準備学習を行いたい時は、下記の動画を視聴することになります。

### 【プロファイリング-PROFILING-】

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLi3T7\\_zsw4UXb79HMO76C5u1TgHPvvnqQ](https://www.youtube.com/playlist?list=PLi3T7_zsw4UXb79HMO76C5u1TgHPvvnqQ)

### 【テキスト（教科書）】

桐生正幸 「悪いやつらは何を考えているのか：ゼロからわかる犯罪心理学入門」SB ビジュアル新書 本体1,000＋税

### 【参考書】

太田信夫（監修）・桐生正幸（編）「シリーズ心理学と仕事16 司法・犯罪心理学」北大路書房 本体2,100＋税

### 【成績評価の方法と基準】

最終回に実施する総括試験（50%）、小レポート（30%）、平常点（20%）です。なお評価は、法制大学の成績評価の基準に準拠して行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックができません。

### 【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 Lectures on psychological research and practice in the field of crime.

【到達目標 (Learning Objectives)】 You can find out more about criminal psychology.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Two 60-minute study sessions (one before and one after the lesson) are required in addition to each lesson.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Final summative examination (50%), short report (30%) and general marks (20%).

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

**心理統計法 I**

三浦 大志

授業コード：A3701 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では記述統計を主に扱うが、推測統計も一部取り扱う。

**【到達目標】**

この授業の目標は  
・尺度水準や代表値、散布度や相関係数などの記述統計の概念を理解できる  
・これらの値を算出できる  
ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くことを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習(統計処理の作業)やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。また、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介し、フィードバックを行う予定である。第1回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ              | 内容                         |
|------|------------------|----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション・心理統計とは | 授業内容・方針についてのガイダンス、心理統計について |
| 第2回  | 記述統計とは・尺度水準      | 記述統計・尺度水準                  |
| 第3回  | 分布と代表値           | 度数分布、代表値                   |
| 第4回  | 分布と散布度           | 分散、標準偏差                    |
| 第5回  | 標準化              | 標準得点                       |
| 第6回  | 2つの変数の関係1        | 相関と散布図                     |
| 第7回  | ここまでの事項の確認       | 中間テストおよびその解説               |
| 第8回  | 2つの変数の関係2        | 共分散・相関係数                   |
| 第9回  | 2つの変数の関係3        | 相関係数とその性質                  |
| 第10回 | 2つの変数の関係4        | 連関                         |
| 第11回 | 推測統計とは           | 母集団と標本                     |
| 第12回 | 標本から母集団を推測する1    | 正規分布                       |
| 第13回 | 標本から母集団を推測する2    | 点推定と区間推定                   |
| 第14回 | ここまでの事項の確認       | 期末テストおよびその解説               |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

今回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

**【参考書】**

山内光哉「心理・教育のための統計法<第3版>」サイエンス社  
吉田寿夫「本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房

**【成績評価の方法と基準】**

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと  
2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること  
以上の2つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績(70%)と平常点(30%)を総合して評定する。

**【学生の意見等からの気づき】**

後半になると難易度が増すというコメントが一定数ありました。高校の授業で統計を既習の学生にとっては前半部分は易しいかもしれませんが、それで油断して期末テストで失敗する人が散見されるので、油断せず授業・家庭学習に取り組んで下さい。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with descriptive statistics.

At the end of the course, students are expected to understand the concepts of descriptive statistics such as level of measurement, representative value, dispersion, and correlation coefficient and be able to calculate the values mentioned above. In addition, students are expected to acquire a statistical way of thinking by relating statistics to their daily life.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (70%) and in-class contribution (30%).



PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 心理統計法Ⅱ

三浦 大志

授業コード：A3702 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では推測統計を主に扱う。

### 【到達目標】

この授業の目標は

- ・t検定や分散分析、カイ二乗検定などの統計的仮説検定を理解できる
- ・これらの検定を実行できる

ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くこと、自分が実験や調査を行う際に適切な統計手法を用いられるようになるための基礎を身につけることを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習 (統計処理の作業) やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。また、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介し、フィードバックを行う予定である。第1回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。なお、この授業は春学期の心理統計法Ⅰを受講したことを想定して授業を進める。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                |
|------|------------|-------------------|
| 第1回  | オリエンテーション  | 授業内容、方針についてのガイダンス |
| 第2回  | 統計的仮説検定1   | 検定とは・二項検定         |
| 第3回  | 統計的仮説検定2   | 仮説、有意水準、2種類の誤り    |
| 第4回  | 統計的仮説検定3   | 適切な検定の選択          |
| 第5回  | t検定1       | 独立した標本の検定         |
| 第6回  | t検定2       | 対応のある標本の検定        |
| 第7回  | ここまでの事項の確認 | 中間テストおよびその解説      |
| 第8回  | 分散分析1      | 対応のない1要因          |
| 第9回  | 分散分析2      | 対応のある1要因          |
| 第10回 | 分散分析3      | 交互作用              |
| 第11回 | 分散分析4      | 2要因               |
| 第12回 | その他の検定1    | 相関係数の検定・回帰分析      |
| 第13回 | その他の検定2    | カイ二乗検定            |
| 第14回 | ここまでの事項の確認 | 期末テストおよびその解説      |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

今回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

### 【参考書】

山内光哉「心理・教育のための統計法<第3版>」サイエンス社  
吉田寿夫「本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房  
森敏昭・吉田寿夫「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
  2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
- 以上の2つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績 (70%) と平常点 (30%) を総合して評定する。

### 【学生の意見等からの気づき】

「心理学における統計の必要性が分かった」「数字の見方が変わった」といったコメントをいくつかいただきました。推測統計は非常に利用頻度の高い重要なものなので、知的好奇心がかき立てられ、かつ最終的には理解できる授業になるよう努力したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with inferential statistics.

At the end of the course, students are expected to understand statistical hypothesis tests such as the t-test, analysis of variance, and chi-square test and be able to perform such tests. In addition, students are expected to acquire a statistical way of thinking by relating statistics to their daily life.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (70%) and in-class contribution (30%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**心理統計法実習 I**

[W組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3703 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。

- ・質的データの度数の差の検定方法を身につける。
- ・量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
- ・統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

**【到達目標】**

到達目標は、以下の4点です。

- (1) 実験計画にあった統計分析の方法を選定できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各回の授業は、以下の①~③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回1つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
  - ・統計量を手計算してもらったことがあります。
  - ・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
  - ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
  - ・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
  - ・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出し、JASP で分析してもらいます。
  - ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
  - ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
- ④次回の授業で、提出された課題について、全体に対してフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ            | 内容                        |
|-----|----------------|---------------------------|
| 第1回 | データの要約         | JASP の基本操作、分布の特性を表す統計量    |
| 第2回 | 度数の集計          | 度数分布表 (1変数) とクロス集計表 (2変数) |
| 第3回 | 度数のカイ二乗検定 1    | 適合度の検定 (1変数)              |
| 第4回 | 度数のカイ二乗検定 2    | 独立性の検定 (2変数)              |
| 第5回 | ランダムサンプリングとデータ | 母集団と標本、確率と正規分布            |
| 第6回 | 統計的仮説検定        | 統計的仮説と判定、片側検定と両側検定        |
| 第7回 | 対応のない t 検定 1   | 対応のない t 検定の考え方と手順、等分散性の検定 |
| 第8回 | 対応のない t 検定 2   | 結果の整理                     |

|      |              |                      |
|------|--------------|----------------------|
| 第9回  | 対応のある t 検定 1 | 対応のある t 検定の考え方と手順    |
| 第10回 | 対応のある t 検定 2 | 結果の整理                |
| 第11回 | 一元配置の分散分析 1  | 対応のない一元配置分散分析の考え方と手順 |
| 第12回 | 一元配置の分散分析 2  | 対応のある一元配置分散分析の考え方と手順 |
| 第13回 | 単回帰分析        | 相関係数の算出、単回帰分析の考え方と手順 |
| 第14回 | 最終試験         | 試験・まとめと解説            |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください (1時間)。

授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります (2時間)。

**【テキスト（教科書）】**

伊藤尚枝 2014 Q &amp; A で理解する統計学の基礎 北大路書房

**【参考書】**

授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

課題の提出 (40%)、最終テスト (40%)、授業への取り組み・小テスト (20%) で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

- ・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
- ・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

**【その他の重要事項】**

- ・質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing.

During this course, students will

- ・ learn how to test the difference in frequency of qualitative data,
- ・ learn how to test the difference between the average values of quantitative data and how to organize the results.
- ・ learn basic operation methods of the statistical software, JASP.

**【Learning Objectives】**

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose a method of the statistical analysis suitable for the scale level of data,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

**【Learning activities outside of classroom】**

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

**【Grading Criteria】**

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (40%), and (3) class activities and quizzes (20%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理統計法実習 I

[X組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3704 | 曜日・時限：水3/Wed.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。

- ・ 質的データの度数の差の検定方法を身につける。
- ・ 量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
- ・ 統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

### 【到達目標】

到達目標は、以下の4点です。

- (1) 実験計画法にあった統計分析の方法を選定できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ① 毎回1つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
  - ・ 統計量を手計算してもらうことがあります。
  - ・ 手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
  - ・ 講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ② ①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
  - ・ グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
  - ・ JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③ ①で学習した内容に関する課題を出し、JASP で分析してもらいます。
  - ・ ②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
  - ・ 課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
- ④ 次回の授業で、提出された課題について、全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                        |
|------|----------------|---------------------------|
| 第1回  | データの要約         | JASP の基本操作、分布の特性を表す統計量    |
| 第2回  | 度数の集計          | 度数分布表 (1変数) とクロス集計表 (2変数) |
| 第3回  | 度数のカイ二乗検定 1    | 適合度の検定 (1変数)              |
| 第4回  | 度数のカイ二乗検定 2    | 独立性の検定 (2変数)              |
| 第5回  | ランダムサンプリングとデータ | 母集団と標本、確率と正規分布            |
| 第6回  | 統計的仮説検定        | 統計的仮説と判定、片側検定と両側検定        |
| 第7回  | 対応のない t 検定 1   | 対応のない t 検定の考え方と手順、等分散性の検定 |
| 第8回  | 対応のない t 検定 2   | 結果の整理                     |
| 第9回  | 対応のある t 検定 1   | 対応のある t 検定の考え方と手順         |
| 第10回 | 対応のある t 検定 2   | 結果の整理                     |
| 第11回 | 一元配置の分散分析 1    | 対応のない一元配置分散分析の考え方と手順      |
| 第12回 | 一元配置の分散分析 2    | 対応のある一元配置分散分析の考え方と手順      |
| 第13回 | 単回帰分析          | 相関係数の算出、単回帰分析の考え方と手順      |
| 第14回 | 最終試験           | 試験・まとめと解説                 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください (1時間)。

授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります (2時間)。

### 【テキスト (教科書)】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房

### 【参考書】

授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

課題の提出 (40%)、最終テスト (40%)、授業への取り組み・小テスト (20%) で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・ 図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
- ・ グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

### 【その他の重要事項】

- ・ 質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing. During this course, students will

- ・ learn how to test the difference in frequency of qualitative data,
- ・ learn how to test the difference between the average values of quantitative data and how to organize the results.
- ・ learn basic operation methods of the statistical software, JASP.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose a method of the statistical analysis suitable for the scale level of data,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

#### 【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

#### 【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (40%), and (3) class activities and quizzes (20%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**心理統計法実習Ⅱ**

[W組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3705 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。  
 ・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。  
 ・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

**【到達目標】**

到達目標は以下の4点です。

- (1) 実験計画法や研究目的に適った分析方法を選択できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフトJASPで実行できる。
- (3) JASPで分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回1つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。  
 ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフトJASPを用いて演習形式で学びます。  
 ・グループワークを取り入れて、JASPの基本操作への理解を深めます。  
 ・JASPの分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出します。  
 ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。  
 ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。  
 ・次回の授業内で、課題の解説をします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                    |
|------|------------|-----------------------|
| 第1回  | 二元配置の分散分析1 | 2要因とも対応がない場合          |
| 第2回  | 二元配置の分散分析2 | 2要因とも対応がある場合          |
| 第3回  | 二元配置の分散分析3 | 1要因に対応がなく、1要因に対応がある場合 |
| 第4回  | 二元配置の分散分析4 | まとめと解説                |
| 第5回  | 因子分析1      | 探索的因子分析の考え方と手順        |
| 第6回  | 因子分析2      | 結果の整理                 |
| 第7回  | 因子分析3      | 確認的因子分析の考え方と手順        |
| 第8回  | 因子分析4      | 結果の整理                 |
| 第9回  | 重回帰分析1     | 重回帰分析の考え方と手順          |
| 第10回 | 重回帰分析2     | 変数の選択                 |
| 第11回 | 重回帰分析3     | 多重共線性の問題と対策           |
| 第12回 | 重回帰分析4     | 結果の整理                 |
| 第13回 | 構造方程式モデリング | 構造方程式モデリングの考え方と手順     |
| 第14回 | 最終試験       | 試験・まとめと解説             |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内で説明した統計用語やJASPの操作に関して、常に復習を行ってください（1時間）。

授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2時間）。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。

授業中に、適宜プリントを配布します。

**【参考書】**

伊藤尚枝 2014 Q & Aで理解する統計学の基礎 北大路書房

その他の参考書については、授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

課題の提出（40%）、最終テスト（40%）、授業への取り組み・小テスト（20%）で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

- ・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
- ・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

**【その他の重要事項】**

- ・心理統計法実習Ⅰの内容を含めて授業を進めていきますので、心理統計法実習Ⅰをあらかじめ履修しておいてください。
- ・質問等については、授業中に受け付けます。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

This course is designed to help students acquire the principles and techniques of statistical analysis often used in psychological research. During this course, students will

- ・ learn how to test the quantitative data collected according to the dual-placement experimental plan and how to organize the results and

- ・ learn various techniques (multivariate analysis) for classifying and compressing quantitative data of multiple variables.

**【Learning Objectives】**

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose analysis methods suitable for experimental designs and research purposes,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

**【Learning activities outside of classroom】**

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

**【Grading Criteria】**

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (40%), and (3) class activities and quizzes (20%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理統計法実習Ⅱ

【X組】

伊藤 尚枝

授業コード：A3706 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。  
・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。  
・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法 (多変量解析) を学ぶ。

### 【到達目標】

到達目標は以下の4点です。  
(1) 実験計画や研究目的に適った分析方法を選択できる。  
(2) 選定した分析方法を、統計ソフトJASPで実行できる。  
(3) JASPで分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。  
(4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回1つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
  - ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフトJASPを用いて演習形式で学びます。
  - ・グループワークを取り入れて、JASPの基本操作への理解を深めます。
  - ・JASPの分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出します。
  - ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
  - ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
  - ・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                    |
|------|-------------|-----------------------|
| 第1回  | 二元配置の分散分析 1 | 2要因とも対応がない場合          |
| 第2回  | 二元配置の分散分析 2 | 2要因とも対応がある場合          |
| 第3回  | 二元配置の分散分析 3 | 1要因に対応がなく、1要因に対応がある場合 |
| 第4回  | 二元配置の分散分析 4 | まとめと解説                |
| 第5回  | 因子分析 1      | 探索的因子分析の考え方と手順        |
| 第6回  | 因子分析 2      | 結果の整理                 |
| 第7回  | 因子分析 3      | 確認的因子分析の考え方と手順        |
| 第8回  | 因子分析 4      | 結果の整理                 |
| 第9回  | 重回帰分析 1     | 重回帰分析の考え方と手順          |
| 第10回 | 重回帰分析 2     | 変数の選択                 |
| 第11回 | 重回帰分析 3     | 多重共線性の問題と対策           |
| 第12回 | 重回帰分析 4     | 結果の整理                 |
| 第13回 | 構造方程式モデリング  | 構造方程式モデリングの考え方と手順     |
| 第14回 | 最終試験        | 試験・まとめと解説             |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で説明した統計用語やJASPの操作に関して、常に復習を行ってください (1時間)。  
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります (2時間)。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。  
授業中に、適宜プリントを配布します。

### 【参考書】

伊藤尚枝 2014 Q & Aで理解する統計学の基礎 北大路書房  
その他の参考書については、授業中に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

課題の提出 (40%)、最終テスト (40%)、授業への取り組み・小テスト (20%) で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。  
・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

### 【その他の重要事項】

・心理統計法実習Ⅰの内容を含めて授業を進めていきますので、心理統計法実習Ⅰをあらかじめ履修しておいてください。  
・質問等については、授業中に受け付けます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course is designed to help students acquire the principles and techniques of statistical analysis often used in psychological research. During this course, students will

- ・ learn how to test the quantitative data collected according to the dual-placement experimental plan and how to organize the results and
- ・ learn various techniques (multivariate analysis) for classifying and compressing quantitative data of multiple variables.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose analysis methods suitable for experimental designs and research purposes,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

#### 【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

#### 【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (40%), and (3) class activities and quizzes (20%).

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 心理学基礎実験 I

[W組]

島宗 理

授業コード：A3707 | 曜日・時限：月2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

### 【到達目標】

- 心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
- チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
- データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
- 実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。

レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」に従って作成することを学びます。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックには Google クラスと Slack を使います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)：<https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                             |
|------|-----------|--------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション | 授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。 |
| 第2回  | 実験1       | 記憶に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。  |
| 第3回  | 実験1       | 記憶に関する実験のデータについて考察します。         |
| 第4回  | 実験1       | 記憶に関する実験のレポートを作成します。           |
| 第5回  | 実験2       | 知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。  |
| 第6回  | 実験2       | 知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。  |
| 第7回  | 実験2       | 知覚に関する実験のレポートを作成します。           |
| 第8回  | 実験3       | 実験1-2から自分たちで再現する実験を選び、実施します。   |
| 第9回  | 実験3       | 自分たちの実験の準備をして実施します。            |
| 第10回 | 実験3       | 自分たちの実験のデータを集計し、グラフを作成します。     |
| 第11回 | 実験3       | 自分たちの実験のレポートを作成します。            |
| 第12回 | 研究発表      | 自分たちの実験について発表する準備をします。         |
| 第13回 | 研究発表      | 自分たちの実験について発表する準備をします。         |
| 第14回 | 研究発表      | 自分たちの実験について発表し、質疑応答します。        |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します (例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」)。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word, Excel, PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均3時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストはありません。

### 【参考書】

- 2015年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会 (2015)
- 心理学実験ノート 心理学実験ノート編集委員会 (2001) 二瓶社
- パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐに行えるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩 (編) ナカニシヤ出版 (2004)
- 実験とテスト：心理学の基礎 (実習編) 心理学実験指導研究会 (1985) 培風館
- 心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫 (2005) サイエンス社
- ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成 (2011) ナツメ社
- この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒 圭 (2012) 日本実業出版社

### 【成績評価の方法と基準】

- 実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加50%、レポート50%で成績をつけます。
- 欠席が5回以上になると自動的にE評価になります。
- 実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

### 【学生の意見等からの気づき】

対面授業に戻りました。話し合い、協力しながら実験をしたり、レポートを書いたことを有意義に感じた受講生が多かったです。自分たちで実験を計画し、刺激を準備して、データを収集し、分析する活動も楽しかったという感想をいただきました。来年度も受講生同士の協働で実験を楽しめるように工夫したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

### 【その他の重要事項】

- この授業で必要になる PC やアプリの操作技術を以下にまとめました。参照し、履修するかどうかの判断に使ってください。<https://onl.sc/mNTQVUW>
- W・Xクラスで内容は同じです。Wクラスの方は月曜2限、Xの方は月曜3限を履修して下さい。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室 (富士見坂校舎6F9号室) です。訪問希望者は前日までに Slack の DM で連絡してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings: 1) explain how to conduct psychological experiments, 2) analyze data, 3) prepare figures and tables, and 4) write research report.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (50%) and task completion (50%).

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 心理学基礎実験 I

[X組]

島宗理

授業コード：A3708 | 曜日・時限：月3/Mon.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

### 【到達目標】

- 心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
- チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
- データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
- 実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。

レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」に従って作成することを学びます。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックには Google クラスと Slack を使います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)：<https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                             |
|------|-----------|--------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション | 授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。 |
| 第2回  | 実験1       | 記憶に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。  |
| 第3回  | 実験1       | 記憶に関する実験のデータについて考察します。         |
| 第4回  | 実験1       | 記憶に関する実験のレポートを作成します。           |
| 第5回  | 実験2       | 知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。  |
| 第6回  | 実験2       | 知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。  |
| 第7回  | 実験2       | 知覚に関する実験のレポートを作成します。           |
| 第8回  | 実験3       | 実験1-2から自分たちで再現する実験を選び、実施します。   |
| 第9回  | 実験3       | 自分たちの実験の準備をして実施します。            |
| 第10回 | 実験3       | 自分たちの実験のデータを集計し、グラフを作成します。     |
| 第11回 | 実験3       | 自分たちの実験のレポートを作成します。            |
| 第12回 | 研究発表      | 自分たちの実験について発表する準備をします。         |
| 第13回 | 研究発表      | 自分たちの実験について発表する準備をします。         |
| 第14回 | 研究発表      | 自分たちの実験について発表し、質疑応答します。        |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word, Excel, PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均3時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

### 【参考書】

- 2015年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会 (2015)
- 心理学実験ノート 心理学実験ノート編集委員会 (2001) 二瓶社
- パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐに行えるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩 (編) ナカニシヤ出版 (2004)
- 実験とテスト：心理学の基礎 (実習編) 心理学実験指導研究会 (1985) 培風館
- 心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫 (2005) サイエンス社
- ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成 (2011) ナツメ社
- この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒 圭 (2012) 日本実業出版社

### 【成績評価の方法と基準】

- 実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加50%、レポート50%で成績をつけます。
- 欠席が5回以上になると自動的にE評価になります。
- 実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

### 【学生の意見等からの気づき】

対面授業に戻りました。話し合い、協力しながら実験をしたり、レポートを書いたことを有意義に感じた受講生が多かったです。自分たちで実験を計画し、刺激を準備して、データを収集し、分析する活動も楽しかったという感想をいただきました。来年度も受講生同士の協働で実験を楽しめるように工夫したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

### 【その他の重要事項】

- この授業で必要になる PC やアプリの操作技術を以下にまとめました。参照し、履修するかどうかの判断に使ってください。<https://onl.sc/mNTQVUW>
- W・Xクラスで内容は同じです。Wクラスの方は月曜2限、Xの方は月曜3限を履修して下さい。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までに Slack の DM で連絡してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings: 1) explain how to conduct psychological experiments, 2) analyze data, 3) prepare figures and tables, and 4) write research report.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (50%) and task completion (50%).

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 心理学基礎実験Ⅱ

[W組]

竹島 康博

授業コード：A3709 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

目に見えない「こころ」というものを計測するために、心理学では古くから「実験」という研究法が用いられてきました。この授業は、心理学の分野で行われてきた基礎的な実験を自分たちで実際に実施・体験することで、人間の心や行動に関する疑問に実験的にアプローチする考え方や方法を学ぶことが目的です。春学期とはまた異なる実験内容について実践します。また、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方について身に付けることも引き続き重視します。特に、秋学期は方法と結果の記述のポイントを重点的に学習します。

## 【到達目標】

心理学の基礎的な実験を実際に実施・体験することで、自分が調べたい現象に対して、適切な変数の操作および測定が実施できるようになることを目指します。実験課題を自分で実際に作成し、お互いに実施することでこれらを体系的に学びます。さらに、得られた実験データをグラフとして作成し、研究の方法や得られた結果が決められた体裁で記述された科学的レポートを作成できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

春学期と同様にグループに分かれて実習します。分からないところはお互いに教え合うなど、グループで話し合い、協力しながら実習に臨みます。また、実習した内容 (実験) を各自レポートにまとめて提出します。レポートの形式は、春学期と同じく目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については日本心理学会の『執筆・投稿の手引き』に従って作成することを学びます。春学期よりも、自分で内容を考えて作成することが求められます。レポートの提出はHoppiiを通じて行う予定です。提出されたレポートについては授業内で講評を行います。また、コメントしたレポートを次回のレポート提出前に返却してフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                  |
|------|----------------------|-------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション            | 授業の内容と進め方、使用するソフトウェアの説明、心理学実験の基礎の確認 |
| 第2回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(1) | 実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成      |
| 第3回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(2) | 実験の実施と実験データの集計                      |
| 第4回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(3) | レポート執筆時の注意点の確認                      |
| 第5回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(4) | 実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明           |
| 第6回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(1) | 実験の実施と現象の解説、データ集計                   |
| 第7回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(2) | 実験プログラムの作成の演習                       |
| 第8回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(3) | 方法の記述内容の議論と執筆                       |
| 第9回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(4) | 実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明           |
| 第10回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(1) | 実験の実施と現象の解説、データ集計                   |
| 第11回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(2) | 実験プログラムの作成の演習                       |
| 第12回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(3) | 実験結果の統計的仮説検定による分析                   |
| 第13回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(4) | 実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明           |
| 第14回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(5) | 受講生同士でのレポートの体裁の確認とブラッシュアップ          |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の内容に合わせて、授業内に終わらなかった実習の実施や、レポート作成を学生各自で授業時間外に行います。具体的には各回の授業の最後に指示します。また、春学期と同様にWord, Excel, PowerPointを使用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで自分から進んで補習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

## 【参考書】

日本心理学会 『2015年改訂版 執筆・投稿の手びき』 2015  
心理学実験ノート編集委員会 『心理学実験ノート』 2001 二瓶社  
北村英哉・坂本正浩 (編) 『パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験』 2004 ナカニシヤ出版  
心理学実験指導研究会 『実験とテスト：心理学の基礎 (実習編)』 1985 培風館  
杉本敏夫 『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』 2005 サイエンス社  
石井一成 『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』 2011 ナツメ社  
石黒圭 『この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』 2012 日本実業出版社

## 【成績評価の方法と基準】

実習への参加とレポート作成を重視します。実習への参加の態度を評価の60%、作成したレポートへの評価を40%とします。ただし、レポートの未提出が1回でもある場合、欠席が5回以上の場合には自動的にE評価になります。実習授業という特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公欠を認めている事由でも配慮が来ないので注意してください。また、レポートにおける文献引用のルールに基づかないコピー、受講生同士での文章および図表の共有が発覚した場合、どのような事情であっても該当者全員をE評価とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでレポートの評価基準が分かりにくいというコメントがありました。今年度は、総合評価に加えてレポート内の各セクションの評価も記載します。また、授業内で評価のポイントについても説明します。加えて、グループの協働活動によってレポートをブラッシュアップできるような活動内容を取り入れます。

## 【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成にPCを用います。授業教室に共用のノートPCはありますが、使い慣れたものがよい場合は持参してください。

## 【その他の重要事項】

クラス授業で、Wクラスが受講対象です (W・Xクラスで内容は同じです)。

## 【Outline (in English)】

[Course outline]

This course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve basic psychological experiments associated to perception, cognition, and learning.

[Learning objectives]

The goals of this course are to learn how to conduct experiments in psychology and how to report the results of experiments.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (60%) and reports (40%).



PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 心理学基礎実験Ⅱ

[X組]

竹島 康博

授業コード：A3710 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

目に見えない「こころ」というものを計測するために、心理学では古くから「実験」という研究法が用いられてきました。この授業は、心理学の分野で行われてきた基礎的な実験を自分たちで実際に実施・体験することで、人間の心や行動に関する疑問に実験的にアプローチする考え方や方法を学ぶことが目的です。春学期とはまた異なる実験内容について実践します。また、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方について身に付けることも引き続き重視します。特に、秋学期は方法と結果の記述のポイントを重点的に学習します。

### 【到達目標】

心理学の基礎的な実験を実際に実施・体験することで、自分が調べたい現象に対して、適切な変数の操作および測定が実施できるようになることを目指します。実験課題を自分で実際に作成し、お互いに実施することでこれらを体系的に学びます。さらに、得られた実験データをグラフとして作成し、研究の方法や得られた結果が決められた体裁で記述された科学的レポートを作成できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

春学期と同様にグループに分かれて実習します。分からないところはお互いに教え合うなど、グループで話し合い、協力しながら実習に臨みます。また、実習した内容 (実験) を各自レポートにまとめて提出します。レポートの形式は、春学期と同じく目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については日本心理学会の『執筆・投稿の手引き』に従って作成することを学びます。春学期よりも、自分で内容を考えて作成することが求められます。レポートの提出はHoppiiを通じて行う予定です。提出されたレポートについては授業内で講評を行います。また、コメントしたレポートを次回のレポート提出前に返却してフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                  |
|------|----------------------|-------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション            | 授業の内容と進め方、使用するソフトウェアの説明、心理学実験の基礎の確認 |
| 第2回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(1) | 実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成      |
| 第3回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(2) | 実験の実施と実験データの集計                      |
| 第4回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(3) | レポート執筆時の注意点の確認                      |
| 第5回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(4) | 実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明           |
| 第6回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(1) | 実験の実施と現象の解説、データ集計                   |
| 第7回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(2) | 実験プログラムの作成の演習                       |
| 第8回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(3) | 方法の記述内容の議論と執筆                       |
| 第9回  | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(4) | 実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明           |
| 第10回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(1) | 実験の実施と現象の解説、データ集計                   |
| 第11回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(2) | 実験プログラムの作成の演習                       |
| 第12回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(3) | 実験結果の統計的仮説検定による分析                   |
| 第13回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(4) | 実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明           |
| 第14回 | 知覚・認知・学習に関わる基礎実験3(5) | 受講生同士でのレポートの体裁の確認とブラッシュアップ          |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の内容に合わせて、授業内に終わらなかった実習の実施や、レポート作成を学生各自で授業時間外に行います。具体的には各回の授業の最後に指示します。また、春学期と同様にWord、Excel、PowerPointを使用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで自分から進んで補習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

### 【参考書】

日本心理学会 『2015年改訂版 執筆・投稿の手びき』 2015  
心理学実験ノート編集委員会 『心理学実験ノート』 2001 二瓶社  
北村英哉・坂本正浩 (編) 『パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験』 2004 ナカニシヤ出版  
心理学実験指導研究会 『実験とテスト：心理学の基礎 (実習編)』 1985 培風館  
杉本敏夫 『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』 2005 サイエンス社  
石井一成 『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』 2011 ナツメ社  
石黒圭 『この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』 2012 日本実業出版社

### 【成績評価の方法と基準】

実習への参加とレポート作成を重視します。実習への参加の態度を評価の60%、作成したレポートへの評価を40%とします。ただし、レポートの未提出が1回でもある場合、欠席が5回以上の場合には自動的にE評価になります。実習授業という特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公欠を認めている事由でも配慮が出来ないので注意してください。また、レポートにおける文献引用のルールに基づかないコピー、受講者同士での文章および図表の共有が発覚した場合、どのような事情であっても該当者全員をE評価とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでレポートの評価基準が分かりにくいというコメントがありました。今年度は、総合評価に加えてレポート内の各セクションの評価も記載します。また、授業内で評価のポイントについても説明します。加えて、グループの協働活動によってレポートをブラッシュアップできるような活動内容を取り入れます。

### 【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成にPCを用います。授業教室に共用のノートPCはありますが、使い慣れたものがよい場合は持参してください。

### 【その他の重要事項】

クラス授業で、Xクラスが受講対象です (W・Xクラスで内容は同じです)。

### 【Outline (in English)】

[Course outline]

This course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve basic psychological experiments associated to perception, cognition, and learning.

[Learning objectives]

The goals of this course are to learn how to conduct experiments in psychology and how to report the results of experiments.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (60%) and reports (40%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 演習Ⅱ (1)

押尾 恵吾

授業コード：A3711 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

## 【到達目標】

- 以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
  2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
  3. 実際に実験を行うための具体的な方法(手続き)を考案できる。
  4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
  5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習(PBL)に取り組みます。基本的に班活動(グループワーク)によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                         |
|------|-----------|--------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について |
| 第2回  | 要因計画の基礎1  | 研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義                     |
| 第3回  | 要因計画の基礎2  | 剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証                      |
| 第4回  | 要因計画の基礎3  | 統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果         |
| 第5回  | 計画発表準備1   | 研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定                |
| 第6回  | 計画発表準備2   | 実験方法の検討、発表用資料の作成                           |
| 第7回  | 計画発表      | 実験計画の発表                                    |
| 第8回  | 本発表準備1    | 実験計画の修正、実験刺激作成等                            |
| 第9回  | 本発表準備2    | 実験の実施                                      |
| 第10回 | 本発表準備3    | データ分析                                      |
| 第11回 | 本発表準備4    | 考察                                         |
| 第12回 | 本発表準備5    | 発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成                    |
| 第13回 | 本発表       | 実験の発表                                      |
| 第14回 | 総括        | 授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック                    |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。  
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤(編著)「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

## 【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006年)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含まれます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ(本発表ではスライドも含む)の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケートに回答してくれた7名のうち「この授業を履修してよかった」で5が6名、4が1名となりました。「理解度」は5が多く4名、4は3名でしたが、3以下の人はいなかったため、内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。例年に比べると授業外学修時間も確保できていた様子です(最頻値は1-2時間で3名)。授業の進め方についての強い改善要求はありませんでした。現状の授業の進め方において、実験計画にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、演習Ⅱとしては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を3年次以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

## 【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは oshiodejikken[at]yahoo.co.jp です([at]を@マークに置き換えてください)。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 演習Ⅱ (2)

井上 晴菜

授業コード：A3712 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

### 【到達目標】

- 以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
  2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
  3. 実際に実験を行うための具体的な方法(手続き)を考案できる。
  4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
  5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習(PBL)に取り組みます。基本的には班活動(グループワーク)によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組みながら、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                         |
|------|-----------|--------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について |
| 第2回  | 要因計画の基礎1  | 研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義                     |
| 第3回  | 要因計画の基礎2  | 剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証                      |
| 第4回  | 要因計画の基礎3  | 統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果         |
| 第5回  | 計画発表準備1   | 研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定                |
| 第6回  | 計画発表準備2   | 実験方法の検討、発表用資料の作成                           |
| 第7回  | 計画発表      | 実験計画の発表                                    |
| 第8回  | 本発表準備1    | 実験計画の修正、実験刺激作成等                            |
| 第9回  | 本発表準備2    | 実験の実施                                      |
| 第10回 | 本発表準備3    | データ分析                                      |
| 第11回 | 本発表準備4    | 考察                                         |
| 第12回 | 本発表準備5    | 発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成                    |
| 第13回 | 本発表       | 実験の発表                                      |
| 第14回 | 総括        | 授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック                    |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組み必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。  
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤(編著)「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

### 【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006年)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含まれます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ(本発表ではスライドも含む)の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

### 【学生の意見等からの気づき】

2024年度から新規に担当しますので前年度のアンケートを実施していません。

### 【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは h.inoueee10[at]gmail.com です ([at]を@マークに置き換えてください)。

### 【Outline (in English)】

#### [Course outline]

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

#### [Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

#### [Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

#### [Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 演習Ⅱ (3)

竹島 康博

授業コード：A3713 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

## 【到達目標】

- 以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
  2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
  3. 実際に実験を行うための具体的な方法(手続き)を考案できる。
  4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
  5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習(PBL)に取り組みます。基本的に班活動(グループワーク)によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組みながら、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                         |
|------|-----------|--------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について |
| 第2回  | 要因計画の基礎1  | 研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義                     |
| 第3回  | 要因計画の基礎2  | 剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証                      |
| 第4回  | 要因計画の基礎3  | 統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果         |
| 第5回  | 計画発表準備1   | 研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定                |
| 第6回  | 計画発表準備2   | 実験方法の検討、発表用資料の作成                           |
| 第7回  | 計画発表      | 実験計画の発表                                    |
| 第8回  | 本発表準備1    | 実験計画の修正、実験刺激作成等                            |
| 第9回  | 本発表準備2    | 実験の実施                                      |
| 第10回 | 本発表準備3    | データ分析                                      |
| 第11回 | 本発表準備4    | 考察                                         |
| 第12回 | 本発表準備5    | 発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成                    |
| 第13回 | 本発表       | 実験の発表                                      |
| 第14回 | 総括        | 授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック                    |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組み必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤(編著)「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

## 【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006年)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ(本発表ではスライドも含む)の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内での対応が重要なようですので、今年度も疑問点や相談には丁寧に回答・アドバイスをします。最後までしっかり取り組んでください。

## 【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスはtakeshima[at]hosei.ac.jp です([at]を@マークに置き換えてください)。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 演習Ⅱ (4)

藤田 哲也

授業コード：A3714 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

### 【到達目標】

- 以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
  2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
  3. 実際に実験を行うための具体的な方法(手続き)を考案できる。
  4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
  5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習(PBL)に取り組みます。基本的に班活動(グループワーク)によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                         |
|------|-----------|--------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について |
| 第2回  | 要因計画の基礎1  | 研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義                     |
| 第3回  | 要因計画の基礎2  | 剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証                      |
| 第4回  | 要因計画の基礎3  | 統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果         |
| 第5回  | 計画発表準備1   | 研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定                |
| 第6回  | 計画発表準備2   | 実験方法の検討、発表用資料の作成                           |
| 第7回  | 計画発表      | 実験計画の発表                                    |
| 第8回  | 本発表準備1    | 実験計画の修正、実験刺激作成等                            |
| 第9回  | 本発表準備2    | 実験の実施                                      |
| 第10回 | 本発表準備3    | データ分析                                      |
| 第11回 | 本発表準備4    | 考察                                         |
| 第12回 | 本発表準備5    | 発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成                    |
| 第13回 | 本発表       | 実験の発表                                      |
| 第14回 | 総括        | 授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック                    |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組み必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持って来るとともに、予習をしましょう。  
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤(編著)「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

### 【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006年)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含まれます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ(本発表ではスライドも含む)の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケートに回答してくれた9名のうち「この授業を履修してよかった」で5が7名、4が2名となりました。「理解度」は4が多く6名、5は3名で、ほぼ前年と同様の傾向でした。理解度3以下の人はいなかったため、内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。前年に比べ授業外学修時間も確保できていたことが理解度を保てた一因でしょう(最頻値は3時間以上で5名)。授業の進め方として、演習Ⅱ自体についてはなく、測定法と発表時期が重なる点や演習Ⅰでの論文の読み方指導を「方法」「結果」に重きを置くものにして演習Ⅱとの接続を強めた方がよいという意見をいただきました。学科として、各科目間の連携をもっと有機的にしたほうがよいと感じており、現在、カリキュラム改革を進めております。

### 【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスはfujita009[at]hosei.ac.jp です([at]を@マークに置き換えてください)。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 演習Ⅱ (5)

田嶋 圭一

授業コード：A3715 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

### 【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法(手続き)を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習(PBL)に取り組みます。基本的に班活動(グループワーク)によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                         |
|------|-----------|--------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について |
| 第2回  | 要因計画の基礎1  | 研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義                     |
| 第3回  | 要因計画の基礎2  | 剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証                      |
| 第4回  | 要因計画の基礎3  | 統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果         |
| 第5回  | 計画発表準備1   | 研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定                |
| 第6回  | 計画発表準備2   | 実験方法の検討、発表用資料の作成                           |
| 第7回  | 計画発表      | 実験計画の発表                                    |
| 第8回  | 本発表準備1    | 実験計画の修正、実験刺激作成等                            |
| 第9回  | 本発表準備2    | 実験の実施                                      |
| 第10回 | 本発表準備3    | データ分析                                      |
| 第11回 | 本発表準備4    | 考察                                         |
| 第12回 | 本発表準備5    | 発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成                    |
| 第13回 | 本発表       | 実験の発表                                      |
| 第14回 | 総括        | 授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック                    |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組み必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤(編著)「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

### 【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006年)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含まれます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ(本発表ではスライドも含む)の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケートに回答してくれた10名のうち「この授業を履修してよかった」で5が7名、4が3名となりました。「理解度」は5が5名、4が4名、3が1名でした。内容の定着はおおむね達成されているのではないかと思います。授業外学習時間は受講生間のばらつきが大きく、3時間以上が6名いた一方で、2時間未満が4名いました。授業やグループワークへの取り組み方に大きな個人差があり、特にグループワークにおいて少数のメンバーに仕事が集まってしまう傾向があるようでした。卒論を書く上で必要な知識やスキルをたくさん学ぶことができ、将来にとっても役立つ授業だったというコメントがありましたが、その一方で、実験の計画・実施・発表に充てられる時間をもっと長くしてほしいという意見も複数ありました。今後のカリキュラム改革において検討したいと思います。

### 【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業前日までにメールで直接連絡をください。メールアドレスは [tajima\[at\]hosei.ac.jp](mailto:tajima[at]hosei.ac.jp) です([at]を@マークに置き換えてください)。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (9)

荒井 弘和

授業コード：A3716 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(1) 心理学の問いを設定すること、(2) 心理学の研究を実施する計画を立てること。

### 【到達目標】

4年生は、心理学の研究計画を立て、研究実施の実施について倫理委員会から承認されることを目標とする。3年生は、心理学の問いを設定できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

(1) 研究論文を読んで発表したり、(2) 意見交換をしたりして、いくつかの研究のパターンを身につけることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個人的に」のいずれかの方法で行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                                                   |
|------|---------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 自分の関心を洗い出す (1)      | 関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。                                      |
| 第2回  | 自分の関心を洗い出す (2)      | 関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。                                      |
| 第3回  | 自分の関心を洗い出す (3)      | 関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。                                      |
| 第4回  | 先行研究を読み、内容をまとめる (1) | 関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。                   |
| 第5回  | 先行研究を読み、内容をまとめる (2) | 関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。                   |
| 第6回  | 先行研究を読み、内容をまとめる (3) | 関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。                   |
| 第7回  | 先行研究を読み、内容をまとめる (4) | 関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。                   |
| 第8回  | 先行研究を読み、内容をまとめる (5) | 関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。                   |
| 第9回  | 研究計画を立てる (1)        | 研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第10回 | 研究計画を立てる (2)        | 研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第11回 | 研究計画を立てる (3)        | 研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第12回 | 研究計画を立てる (4)        | 研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第13回 | 研究計画を立てる (5)        | 研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第14回 | 研究計画を完成させる          | 研究計画申請書を完成させ、倫理委員会に提出する。(提出後、研究を実施する)                                |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(1) 文献検索、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

### 【参考書】

2010年度~2023年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

### 【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

### 【学生の意見等からの気づき】

「みんな意見を出し合って進んでいくスタイルが良いと思いました」や「みんなから意見を求めようとしていて、自分も参加しやすい授業だった」などのコメントをもらいました。今後も、学生間の対話を重視した授業を展開します。

### 【学生が準備すべき機器他】

ありません。

### 【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

(1) To formulate a psychological question; (2) To plan to conduct a psychological study.

(Learning Objectives)

(1) to be able to formulate psychological questions (this is a major goal for 3rd year students), and (2) to be able to formulate a research plan in psychology (this is a major goal for 4th year students).

(Learning activities outside of classroom)

Students will work on (1) literature search, (2) assignments given in class, and (3) preparation of presentation materials.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

(1) 60% of the grade will be based on the content of the reports and presentations you make, and (2) 40% of the grade will be based on your participation in opinion exchange and group work. If you are absent or late, your evaluation will be lowered.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (10)

林 容市

授業コード：A3717 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究のレビュー、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、論文作成を見据えた研究の実践方法を学びます。

### 【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索し、情報を取りまとめる (レビュー) ことができる。
2. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
3. 研究計画を立て、研究計画書を作成できる。
4. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究課題の設定、文献のレビュー、研究仮説の設定、研究計画書の作成、実験計画、実験・調査の遂行、統計解析、レポートの作成、プレゼンテーションなどの各方法を学び、実践します。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、研究計画書の作成およびプレゼンテーションを行います。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

- 身体活動・スポーツ中の感覚認知 / 心理的情報と生理的状態の対応
- 体型認識と減量行動・リバウンド・身体活動量
- 瘦身指向に関与する性格・意識の特徴
- 高齢者・有疾患者の運動・身体活動と Quality of Life / 生活満足度

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ      | 内容                                            |
|------|----------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | 概要の説明    | 授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。               |
| 第2回  | 研究テーマの設定 | 研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。             |
| 第3回  | 研究課題の設定  | 研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。           |
| 第4回  | 研究計画の立案1 | この回の担当グループがミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。            |
| 第5回  | 研究計画の立案2 | 前回に続き、この回の担当グループがミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。      |
| 第6回  | 研究計画書の作成 | 研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。         |
| 第7回  | 研究の実践1   | グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。               |
| 第8回  | 研究の実践2   | グループごとに、データ分析、結果のまとめ・解釈を行う。                   |
| 第9回  | 研究成果の発表  | ミニ研究の結果報告会 (ミニ研究の結果をグループごとに発表する)。             |
| 第10回 | 論文作成法の解説 | 研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。                      |
| 第11回 | 個人研究の計画  | 卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ、課題を明らかにする。         |
| 第12回 | 個人研究の発表1 | 卒業論文で対象としたい研究テーマについて、この回の担当者が研究計画を発表する。       |
| 第13回 | 個人研究の発表2 | 前回に続き、卒業論文で対象としたい研究テーマについて、この回の担当者が研究計画を発表する。 |
| 第14回 | 個人研究の計画  | 卒業論文の研究計画について討論し、まとめる。                        |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー (まとめ)、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。それに従って必ず資料等の作成、発表準備をしてきてください。また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

### 【参考書】

浦上昌則、脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方. 東京図書.

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：50%、2) 最終的な個人研究の研究計画書の内容：20%、3) 授業への参画状況 (出席・発言など)：30%、で行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内でのデータ分析・文章執筆の演習において、例年のデモデータの使用を止めて、独自のデータを使用するように変更しましたが、意図した演習ができなかったように感じています。また、下級生の活動参画にも遠慮がみられましたので、次年度は改善できるように授業内容を再構成したいと考えています。

### 【学生が準備すべき機器他】

各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合、タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。そのため、自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

### 【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

万が一、希望者が定員を超過した場合は、GPAおよび「演習II事前調査票」の記述内容の具体性に基づいて受講者を選抜します。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This class aims to develop a research study with a view to paper preparation by raising problems and solving them through reviews of previous research, experiments, surveys, and data analysis.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. search for and summarize (review) papers containing interest data.
2. understand the experimental and research methods and analysis methods described in the papers.
3. Develop a research plan and prepare a research protocol.
4. To prepare presentation materials and give presentations that are easy to understand for the audience.

【Learning activities outside of the classroom】 Students will be required to search and review the literature, prepare presentations, and write research proposals in most sessions. For both individual and group research, it is necessary to set aside time outside of class for experiments, surveys, and preparation for presentations. Therefore, this class's standard preparation and review time is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The overall evaluation will be as follows:

1. Contents of experiments, surveys, and presentations(50%)
2. Contents of final research plan for individual research(20%)
3. Participation in class such as attendance, comments(30%)



PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法Ⅱ (9)

荒井 弘和

授業コード：A3718 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(1) 心理学の研究計画を実施すること、(2) 心理学の研究論文を執筆すること。

### 【到達目標】

4年生は、研究法Iで立案した研究計画を実施することを目標とする。そして、実施した結果を論文化する。3年生は、研究法Iで設定した問いに基づいた研究計画を立案し、研究計画申請書の概要を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

(1) データ分析の結果を報告したり、(2) その解釈について意見交換をしたりして、論文を執筆することができるようになることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個人的に」のいずれかの方法で行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ            | 内容                                                                  |
|------|----------------|---------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 研究計画の実施経過を報告する | 実施経過を報告し、その内容について、意見交換を行う。                                          |
| 第2回  | データを分析する (1)   | 集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第3回  | データを分析する (2)   | 集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第4回  | データを分析する (3)   | 集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第5回  | データを分析する (4)   | 集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第6回  | データを分析する (5)   | 集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。 |
| 第7回  | 研究論文を完成させる (1) | 研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。   |
| 第8回  | 研究論文を完成させる (2) | 研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。   |
| 第9回  | 研究論文を完成させる (3) | 研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。   |
| 第10回 | 研究論文を完成させる (4) | 研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。   |
| 第11回 | 研究論文を完成させる (5) | 研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。   |
| 第12回 | 研究論文を完成させる (6) | 研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。   |

第13回 研究内容を口頭発表する (1) 研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。

研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。

第14回 研究内容を口頭発表する (2) 研究論文を元に発表資料を作成し、口頭発表を行う。

その後、質疑応答を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(1) 研究の実施 (データ収集やデータの分析も含む)、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

### 【参考書】

2010年度～2023年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

### 【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

### 【学生の意見等からの気づき】

「とても自分のためになる授業でした。先生も自分如く相談に乗って一緒に考えていただいて卒論に向けて考えやすかったです」「昨年よりもグループワークや発表の時間が多く設定されたことで、ゼミに来る意義や価値を感じやすかったです。また、ゼミ合宿や発表へのフィードバックを通して3年生との距離も近くなり、自分の知識を伝えられる場面は嬉しかったです」などのコメントをもらいました。

### 【学生が準備すべき機器他】

ありません。

### 【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

(1) To implement a research plan in psychology; (2) To write a research paper in psychology.

(Learning Objectives)

Based on the research plan developed in Research Methods I, students will (1) implement the research plan, and (2) write a paper on the results of the implementation. (2) Write a paper on the results of the research (research report for 3rd year students, graduation thesis for 4th year students).

(Learning activities outside of classroom)

Students will work on (1) conducting research (including data collection and data analysis), (2) assignments presented in class, and (3) preparing presentation materials.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

(1) 60% of the grade will be based on the content of the reports and presentations you make, and (2) 40% of the grade will be based on your participation in opinion exchange and group work. If you are absent or late, your evaluation will be lowered.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法Ⅱ (10)

林 容市

授業コード：A3719 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまでに修得した知識、経験、手法等を用いて実際に情報収集、データ収集・分析、文章作成を活かして、卒業論文を作成できる能力を身につけること。

### 【到達目標】

- ・研究テーマ・課題を設定でき、適切な研究計画を立案できる。
- ・適切な方法を用いてデータ収集・分析し、適切に図表を用いて結果を提示できる。
- ・得られた結果に対して、論理的な考察ができる。
- ・的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
- ・得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

自らの興味に沿って研究テーマを設定し、研究計画について発表し、全体で論議を行います。計画が立案した後は、各自でデータ収集や分析を行い、結果について発表を行い、履修者間で意見交換をします。最終的に卒業論文に関する内容のプレゼンテーションを行います。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                            |
|------|-------------------|-----------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | 授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認をする。               |
| 第2回  | 研究計画発表            | 研究計画を発表し、問題点などを含めて全体で論議する。                    |
| 第3回  | 収集データ・分析結果の発表(1)  | この回の担当者が、実験や調査で収集したデータを分析して発表し、全体で論議する。       |
| 第4回  | 収集データ・分析結果の発表(2)  | 前回に続き、この回の担当者が、実験や調査で収集したデータを分析して発表し、全体で論議する。 |
| 第5回  | 収集データ・分析結果の発表(3)  | 全体までの論議を踏まえて、4年生全員が卒業論文で使用する結果発表し、全体で論議する。    |
| 第6回  | 次年度に向けた3年生の構想発表   | 3年生が次年度の卒業論文執筆に向けたテーマや方法について発表し、論議する。         |
| 第7回  | 論文の執筆：方法・結果       | 論文の「方法」と「結果」を執筆し、全体で推敲・論議する。                  |
| 第8回  | 論文の執筆：考察          | 論文の「考察」を執筆して全体で推敲・論議する。                       |
| 第9回  | 論文の執筆：全体(1)       | 執筆された卒業論文を、分担してピアレビューし、意見交換を行う。               |
| 第10回 | 論文の執筆：全体(2)       | 前回の意見交換に基づいて修正した卒業論文を再度ゼミ生間でピアレビューする。         |
| 第11回 | プレゼンテーション(1)      | この回の担当者が卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う。           |
| 第12回 | プレゼンテーション(2)      | 前回に続き、この回の担当者が卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う。     |
| 第13回 | 次年度に向けた進捗状況の確認(1) | 翌年度の卒業論文作成に向けて、この回担当の3年生が進捗状況を発表し、論議する。       |
| 第14回 | 次年度に向けた進捗状況の確認(2) | 前回に続き、次年度の卒業論文作成に向けて、この回担当の3年生が進捗状況を発表し、論議する。 |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業外での予習・復習の作業が、論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って、資料作成や発表準備を行って下さい。また、各回のテーマ・内容に沿って、授業内活動の補足など、必要な作業をしてください。なお、各授業における準備および復習等の時間は、それぞれ2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

### 【参考書】

・松井豊(2010)・心理学研究法改訂新版 心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために、河出書房新社  
・酒井聡樹(2007)これからレポート・卒論を書く若者のために、共立出版

### 【成績評価の方法と基準】

1) 研究実施状況・研究論文の内容：70%、2) 発表・質疑応答の内容20%、2) 発表への質問状況・論議への参加状況：10%、として総合評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

4年生の卒業論文作成に向けた作業に関しては、例年よりも充実した活動ができたと考えている。他方、昨年度の授業で課題としていた、データの分析方法については充実できたとは言えず、次年度に改善していきたい。また、3年生の研究計画発表については、今年度よりゼミ全体で意見を出し合い、検討していく方法を採用したが、効果的であったと感じている。次年度は、方法を少しリバイスしてより充実した活動になるようにしていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合、タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。そのため、自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

### 【その他の重要事項】

・シラバスの内容については、授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。  
・授業の運営方針や受講に際しての注意点を説明しますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this class is to create a graduation thesis through the conduct of collecting data, analyzing, sentence writing with the aid of the knowledge, experience, and methods learned while one is still in university.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Set a research theme and problem and formulate an appropriate research plan.
2. Collect and analyze data using appropriate methods and present the results using suitable figures and tables.
3. Interpret the results obtained logically.
4. Write scholarly texts.
5. Present the content of the results obtained effectively.

【Learning activities outside of the classroom】Students are required to prepare materials and presentations according to the assignments given in class. It is also necessary to perform the necessary tasks according to the theme and content of each session. The standard time for preparation and review in each class is two hours.

【Grading Criteria/Policy】The overall evaluation will be as follows:

1. Status of the research and the content of the research paper(70%)
2. Content of the presentation and the question-and-answer session(20%)
3. Status of the questions to the presentation and the participation in the discussion(10%)

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理学英語 I

常深 浩平

授業コード：A3720 | 曜日・時限：月2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

### 【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                     | 内容                                      |
|------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | 学習の準備                                   | 自分の英語力を知り、今学期の目標を立てる                    |
| 第2回  | Nature and Nurture                      | 生まれか育ちかを巡る心理学小史の英文読解例を聞き、今後の発表形式を理解する   |
| 第3回  | Contemporary psychological perspectives | 自分の関心のある心理学の領域についての小文を和訳して発表する          |
| 第4回  | Attachment (1)                          | ハーロウのアカゲザルの実験の読解 (全体像をつかみ、要約する)         |
| 第5回  | Attachment (2)                          | ハーロウのアカゲザルの実験の読解 (実験の内容を理解する) 実験のビデオを見る |
| 第6回  | Obedience to Authority (1)              | ミルグラムの服従の研究の読解 (なぜこのような研究を行ったかを理解する)    |
| 第7回  | Obedience to Authority (2)              | ミルグラムの服従の研究の読解 (この研究の社会的影響を考察する)        |
| 第8回  | Identity Development (1)                | アイデンティティーの発達に関する英文の読解 (全体像をつかみ、要約する)    |
| 第9回  | Identity Development (2)                | アイデンティティーに関する内容に基づいて考察し、簡単な英文で表現する      |
| 第10回 | Identity Development (3)                | アイデンティティーに関する内容を相互に発表し合う                |
| 第11回 | Brain and Neuron                        | 脳と神経細胞に関する英文の読解                         |
| 第12回 | Brain and Area                          | 脳領域に関する英文の読解および読解内容に基づくディベート            |
| 第13回 | A study of Infant Memory                | 乳児の記憶についての小文を読み、元となった論文について知る           |
| 第14回 | 学術論文を読む練習                               | 論文の構成・実験と考察の読み方を学ぶ                      |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。

出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやっ、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

### 【参考書】

英和辞典等 (高校までに使っていたもの等で可)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業内課題) 60%

発表 (担当箇所のレジュメ作成・発表) 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

リーディング課題は下読みの時間に余裕が取れるよう早めに提示する。

### 【その他の重要事項】

シラバス執筆時点では対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス等の感染状況が悪化した場合には授業形式を変更する可能性がある。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

#### 【Learning Objectives】

Through this course, students grow fundamental ability to comprehend English Psychological literature.

#### 【Learning activities outside of classroom】

All students will be expected to have read the relevant part of the text before each class, and to write a short report after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Short reports in each time: 60%

Japanese translation of one's part of text and in-class Presentation : 40%

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 産業組織心理学

島宗 理

授業コード：A3721 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

### 【到達目標】

企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。

講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。

毎回行うテストの得点はGoogleクラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。

新型コロナウイルス感染拡大状況にもよりますが、2023年度は授業内演習を取り入れることを計画しています。授業計画に変更がある場合には、Google Classroomを使って連絡します。学習支援システムのこの授業科目のトップページでGoogle Classroomの登録コードなどを案内しますので確認し、登録してからこの授業を受講してください。

学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom：<https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                       | 内容                                                                                                                                                                     |
|-----|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション                 | 授業内容与方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。                                                                                                                                 |
| 第2回 | 小売業その1：スーパーにおける取組み        | スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場(マーケット)、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率(粗利)                                          |
| 第3回 | 小売業その2：スーパーにおける取組み        | スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング(VMD)、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB(プライベートブランド)、NB(ナショナルブランド)、OEM、ブランディング                                                  |
| 第4回 | テーマパークその1：東京ディズニーリゾートの取組み | TDRにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト(感情的コミットメント、計算的コミットメント)、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析 |

第5回 テーマパークその2：東京ディズニーリゾートの取組み

第6回 業績評価指標(KPI)とそのマネジメント

第7回 企業におけるメンタルヘルス

第8回 働きがいのある会社

第9回 特別講義(内容は未定です)

第10回 広告とブランドづくりその1

第11回 広告とブランドづくりその2

第12回 産業組織心理学は役に立つのか?

第13回 グローバリゼーションとローカリゼーション

TDRにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業(日本の自動車会社は?)、市場調査(マーケティングリサーチ)、顧客満足度(CS: Customer Satisfaction)、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント(金のなる木、花形製品、負け犬、問題児)、従業員満足度(ES: Employee Satisfaction)、ロイヤルティ

様々な業界の業績評価指標(KPI)を紹介します。これに関連して、経営目標(売上、利益、粗利、利益率など)、目標管理制度(MBO)、バランス・スコアカード(BSC)、PDCAサイクル(Plan-Do-Check-Actionサイクル)などについて学びます。

いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5大疾病(糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患)、努力=報酬不均衡モデル、日本的雇用慣行(新卒者の一斉採用、専門性の軽視(入社後の研修や訓練を重視)、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整)、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例(残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨)、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合(連合)と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム(EAP)、一次的、二次的、三次的予防(ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防)

働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価(人事考課)、給与体系(賃金体系)、目標管理制度、ジョブローテーション、(復習)固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化(ダイバーシティ)、女性活躍推進

企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話しをうかがいます。

マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドロッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名指されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、パブリックポジション、顧客価値の三本柱: QSP、マーケティング・チャネル、コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション(C、T、F、Mなど)、AIDMA、ローランド・ホール

マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パプロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ(レスポナント条件づけ)、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス(実験者効果)、内観報告(質問紙法)の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMAからAISAS/AISCEASへ、商品価値、有形価値(プロダクト)、無形価値(ブランド)、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略

産業組織心理学の歴史や現状について解説します。

日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャネル(コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル)、AISASモデル、BOPビジネス、CSR

第14回 まとめと振り返り 今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

○毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。  
○授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので、自習を含めた復習をしてください。  
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しません。

**【参考書】**

研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。

- 山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト
- リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社
- 森岡 毅 (2016). USJのジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫
- 島宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

**【成績評価の方法と基準】**

○毎回行われるクイズ (50%) と授業内演習の得点 (50%) で成績を評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

今年度は「起業」を念頭においた演習を増やしました。楽しんでいただけたようなので来年度もこの方向で演習を行います。

**【その他の重要事項】**

- 本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までにGoogleクラスの第00回 > 個人的な質問や相談 から連絡してください。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

**【Learning Objectives】**

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) describe overall topic of interests in industrial/organizational psychology, 2) explain basic concepts and terms in business, and 3) give examples of business practices based on psychological research.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

**【Grading Criteria /Policy】**

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly tests (100%) or alternative reports which are allowed to replace with untaken test scores up to 6 times.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**心理学特殊講義 I**

島宗 理

授業コード：A3722 | 曜日・時限：火1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業では心理学や“データサイエンス”の研究開発プロジェクトで求められる、刺激提示や行動測定、データの視覚的分析の方法を学びます。言語としてはPython (パイソン) を用い、プログラミングの基本を学びます。

**【到達目標】**

Pythonを使って以下のようなプログラムが組めるようになることを目標とします。

- ①画像や文字、音声などの刺激をディスプレイに提示する。
- ②マウスやキーボードなどの入力装置を使って行動を測定する。
- ③その他の外部入力装置を用い、より複雑で大量の行動データを測定する (例：カメラやマイクで静止画や動画、音声データを測定して数値化するなど)。
- ④得られた行動データからグラフを作成して視覚化する。

さらに、プログラミングのテクニックや必要なライブラリやモジュールなどの情報を入手する方法や、困ったときに他の人に相談したり、困っている人に助言したりするスキルなど、研究開発プロジェクトにチームで取り組むさいに必要な知識や技術を練習する機会も提供します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業はオンラインで実施します。毎週プログラミングの課題を用意しますので、各自で自主的に取り組んでください。課題に関する質問や相談、課題へのフィードバックはSlackを使って行います。随時、質問や相談を書き込んでください。

プログラミングの習得や実技にかかる時間には大きな個人差があります。人によっては課題を完成させるために週6時間以上かかることもあります。全ての課題を事前に公開していますから、ゆっくり、じっくり時間をかけて取り組みたいと思う人、どうしても時間がかかってしまう人は、あらかじめ計画をして時間を確保した上で履修してください。

課題#10以降はプログラムを自作するか、それまでと同様に課題に取り組んでプログラミングをさらに学ぶかを選択してもらいます。以下の授業計画には自作する場合のスケジュールを記載しています。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：オンライン/online**

| 回   | テーマ                         | 内容                                                                         |
|-----|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション<br>Pythonの基本と開発環境 | ○課題と課題の進め方、提出方法、評価について説明します。<br>○PythonとPyCharmをインストールし、開発環境をセットアップします。    |
| 第2回 | プログラミングの基本                  | ○変数の型について学びます。<br>○条件判断をするプログラムを作成します。<br>○繰り返し処理をするプログラムを作成します。           |
| 第3回 | 刺激制御                        | ○Kivyをインストールし、ディスプレイに文字や画像を表示するプログラムを作成します。                                |
| 第4回 | 刺激制御                        | ○Kivyを使って複雑な画面レイアウトをディスプレイに示すプログラムを作成します。                                  |
| 第5回 | 入力処理                        | ○キーボードから文字を入力するプログラムを作成します。<br>○画面に表示されている画像をマウスでクリックした位置を測定するプログラムを作成します。 |
| 第6回 | 刺激制御                        | ○音源データを提示し、キーボードまたはマウスでそれに対する反応を測定するプログラムを作成します。                           |
| 第7回 | ファイル制御                      | ○刺激提示や反応データをテキストファイルとして保存するプログラムを作成します。                                    |
| 第8回 | 関数とモジュール                    | ○プログラム開発に必要な外部関数やモジュールを見つけて使う方法を学びます。                                      |
| 第9回 | データの視覚化                     | ○Matplotlibをインストールし、データからグラフを作成するプログラムを作成します。                              |

|      |            |                                    |
|------|------------|------------------------------------|
| 第10回 | プログラム開発(1) | ○受講生がそれぞれ作成するプログラムを設計し、開発計画を立案します。 |
| 第11回 | プログラム開発(2) | ○自作プログラムを開発します。                    |
| 第12回 | プログラム開発(3) | ○自作プログラムを開発します。                    |
| 第13回 | プログラム開発(4) | ○自作プログラムを開発します。                    |
| 第14回 | プログラム開発(5) | ○自作プログラムを発表します。                    |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

○全14回ぶんの課題を学期開始前に公開します。受講生は授業時間外も自主的に課題に取り組んでください。

○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均2時間を標準とします。ただし、プログラミングには、予想以上に時間がかかってしまうことがあったり、楽しくなってしまって時間をかけてしまう性質があることを知っておいてください。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは指定しません。

**【参考書】**

何冊か例示しますが、図書館や書店に足を運んで、自分でページをめくり、読みやすそうなもの、必要な情報の例が多い本を選びましょう。

- プログラミング演習 Python 2019 喜多一 (2020) <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/245698> からダウンロードできます(無料)。
- 東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ~Pythonで手を動かして学ぶデータ分析~ 塚本ら マイナビ出版 (2019)
- エキスパートPythonプログラミング改訂2版 Jaworski ら ドワゴン (2018)
- 入門 Python 3 (日本語) Lubanovic オライリー・ジャパン (2015)
- 独学プログラマー ~Python言語の基本から仕事のやり方まで~アルソフ 日経BP (2018)
- Python実践入門 ~言語の力を引き出し、開発効率を高める~ 陶山 技術評論社 (2020)

**【成績評価の方法と基準】**

○全14課題の課題得点中の獲得割合 (%) で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

今年度は完全オンライン制になりました。そのせいか履修生のうち最後まで課題を提出できた学生の割合が減りました。セルフマネジメントのスキルが成績に影響するのは本来なら避けたいのですが、これは致し方ないところかもしれません。来年度は学期の初めにこのことを説明しようと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

○大学のノートPCには管理者権限がなく、自分でソフトなどをインストールできないので、自分のPCを使うことをお勧めします。マイPCを持っていないかつたり、用意できなければ事前に相談してください。

**【その他の重要事項】**

- 本授業では民間のソフトウェア開発会社でプログラマー・SEとして勤務した経験を有する教員がその経験を活かして担当します。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室 (富士見坂校舎6F9号室) です。訪問希望者は前日までにSlackのDMで連絡してください。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

The purpose of this course is to learn basic programming skills to control stimuli, measure behaviors, and visualize data, using Python. These workflows are common in research and development projects in psychology and, more generally, in “data science.”

**【Learning Objectives】**

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) write and debug codes in python, 2) read/write data files, 3) use python libraries, and 4) visualize data.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

**【Grading Criteria /Policy】**

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly assignments (100%) .

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

言語心理学特講

菊池 理紗

授業コード：A3723 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、インターネットの発達により、文章を書いてコミュニケーションを行う機会が増えています。それをふまえ、この授業では、「言語」「言葉」を使うとき、特に文章を「読む」「書く」ときに起きる問題や不安について、心理学の知識を用いて分析・考察します。「TPOに合わせるとはどういうことか」「読んだ人を怒らせない文章とは、どのようなものか」などを、様々な先行研究を参照しながら検討していきましょう。また、日常的に抱える「書き言葉を使うときの問題・不安」について、解決策を共に考えましょう。

【到達目標】

- (1) 言語心理学の知識をもとに、日常生活における経験を捉え直し、自分の言葉で説明できる。
- (2) 「言葉を使う」ことに関連する研究を知り、日常への応用ができる。
- (3) 自分の興味関心のあるテーマについて調べ、まとめ、発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習(グループワーク)によって進めます。第8回以降は、受講生から集めた「書き言葉を使うときの問題・不安」について取り上げ、どのように克服できるかを授業内で共に考えます。

授業では、毎回、Hoppiiを使って、課題(復習の小テスト+予習課題)の提出を求めます。小テストについては、次の授業の冒頭で、簡単な復習と共にフィードバックを行います。予習課題については、次の授業を通して改めて考えてもらいます。

また、第13回の授業では、グループごとに、自分たちが興味を持ったテーマについて、授業で学んだことや自分たちで調べた先行研究をもとに意見をまとめ、発表してもらいます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                         |
|------|-------------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション、「言語力」とは | 業の進め方および成績評価に関する説明、「言語力」について考える            |
| 第2回  | 「世界を共有する」という考え方   | 「共通の基盤」と「協調の原理」と「会話の推意」                    |
| 第3回  | ツールを使い分ける         | 文字でやり取りするコミュニケーションツールを分類する                 |
| 第4回  | 読み手に対する配慮1        | 人間関係と言葉の関係性を検討する                           |
| 第5回  | 読み手に対する配慮2        | 文章の印象と感情の関係性を検討する                          |
| 第6回  | 閉鎖的な場面での「やり取り」    | メールを題材として、1対1の場面での好ましい文章について検討する           |
| 第7回  | 開放的な場面での「やり取り」    | 掲示板への書き込みを題材として、第三者が見られる場面での好ましい文章について検討する |
| 第8回  | 普段の「読み書き」について考える1 | 自分たちの普段の「読み書き」を振り返り、様々な研究を参照しながら、改善案を検討する  |
| 第9回  | 普段の「読み書き」について考える2 | 自分たちの普段の「読み書き」を振り返り、様々な研究を参照しながら、改善案を検討する  |
| 第10回 | 普段の「読み書き」について考える3 | 自分たちの普段の「読み書き」を振り返り、様々な研究を参照しながら、改善案を検討する  |

|      |                   |                                                  |
|------|-------------------|--------------------------------------------------|
| 第11回 | 普段の「読み書き」について考える4 | 自分たちの普段の「読み書き」を振り返り、様々な研究を参照しながら、改善案を検討する        |
| 第12回 | より良く「読み書き」を行うには1  | 授業で取り上げた話題の中で興味を持ったテーマについて、グループで議論し合い、考えをまとめる    |
| 第13回 | より良く「読み書き」を行うには2  | 授業で取り上げた話題の中で興味を持ったテーマについて、グループごとに調べ、議論した結果を発表する |
| 第14回 | 授業の総括             | 第13回までの授業内容の振り返り、最終課題のフィードバック                    |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次の授業で検討する内容に関連する課題(予習課題)を出します。Hoppiiで解答を提出してください。その解答の提出が事前学習です。授業後には、Hoppiiで授業内容に関する小テストを出題しますので、解答してください。また、第13回の発表に向けて、随時、準備を進めてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

福田由紀(編著)(2012)「言語心理学入門一言語力を育てる」ISBN:978-4-563-05231-7, 2,970円(税込)

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テスト+予習課題の提出30%、発表会30%、最終課題(第14回の予習課題として提出)40%で評価します。なお、授業回数の3分の1以上(5回以上)欠席した場合には単位の認定を行いませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出はHoppiiを通して行います。また、メモを取るようにノートやルーズリーフを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

質問は、授業の前後に直接話しに来るか、第1回の授業で伝える連絡先に連絡してください。

【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査の参加者を募集する学生が来る場合があります。授業で知識を学ぶだけでなく、他の人の実験や調査をぜひ積極的に体験してみてください。

【Outline (in English)】

In this class, we will use knowledge from psychology to analyze and discuss the problems and anxieties that arise when using language, especially when reading and writing texts. Let's consider questions such as "What does it mean to match the TPO?" and "What kind of writing does not offend the reader?" while referring to various previous studies. Also, let's think together about solutions to the "problems and anxieties when using written language" that we have on a daily basis. In the 13th class, each group will be asked to present a topic of interest, so be prepared. The standard preparation and review study time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on 30% of the regular score (assignments and answers to quizzes), 30% of the presentation score, and 40% of the final assignment (submitted as the 14th preparatory assignment). Credit will not be given if you are absent more than 5 times.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 人格心理学

杉山 崇

授業コード：A3724 | 曜日・時限：金5/Fri.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「人格（パーソナリティ）」を手がかりに、人間と社会に関する心理学的理解を深めましょう。さらに、ワークやレポートを通して自己理解、他者理解、人間関係の理解を深めましょう。人格には1) 人間の心理的な個人差（特徴）、2) 個人の社会相互作用（社会適応）の様式、3) 生得的な生理・反応・行動傾向、4) 後天的な認知構造・信念・スキーマの様式、などさまざまな側面があります。これは、人間が非常に多面的な存在であることを意味しています。この授業では、まず心理学的な「人格」の考え方、人格心理学の基礎的な方法論を学びます。続いて人格心理学の応用や実際問題について事例を交えて学び、「人」を見る視点に幅を持たせましょう。

### 【到達目標】

1) 「人格＝パーソナリティ」の基礎知識・基礎用語を身につける  
2) 人格心理学を通じた自己理解と他者理解を自分の言葉で語るようになる。  
3) 人格心理学を通して人間と人間社会の理解を深め、自分の言葉で語るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

・「学習支援システムHopii」を活用します。授業時間に必ずHopiiにアクセスし、「お知らせ」の支持に従って学修を進めて下さい。  
・担当教員が配布した講義動画の視聴、または講義資料を熟読した後、課題を提出する形で行います。  
・課題には「より深く学ぶための質問」も可能にしています。このシステムを活用して双方型授業として行います。  
・課題の提出がない場合は欠席とみなします。  
なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回授業内でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                            |
|------|---------------|-------------------------------|
| 第1回  | 人格とは          | ガイダンスと人格心理学の人間観               |
| 第2回  | 人格の理論①        | 精神分析的アプローチ                    |
| 第3回  | 人格の理論②        | 学習理論、自己理論                     |
| 第4回  | 人格の病理         | パーソナリティ障害                     |
| 第5回  | 類型論①          | ユングのタイプ論：パーソナリティと職業           |
| 第6回  | 類型論②          | ミロンの類型論                       |
| 第7回  | 特性論①          | 因子分析と特性5因子論                   |
| 第8回  | 特性論②          | 生物学的特性論                       |
| 第9回  | パーソナリティと欲求、恋愛 | パーソナリティの偏り                    |
| 第10回 | 人格の発達と統合①     | 遺伝行動学と生涯発達心理学                 |
| 第11回 | 人格の発達と統合②     | 人格（スキーマ）形成と初期経験、スキーマ療法と人格の最適化 |
| 第12回 | 人格の発達と統合③     | 心理-社会的要因による情動調整               |
| 第13回 | 人格と進化論①       | 扁桃体の3Fとその統制の進化論               |
| 第14回 | 人格と進化論②       | 日本文化と謙遜                       |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】次回授業のキーワードを2時間ほど調べ理解しておくこと。なお、キーワードを事前に知らせます。

【事後学習】人格心理学を通した2時間程度の自己理解の課題を毎回課す。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。必要に応じて資料やスライドを活用して実施する。  
なお、資料はwebで配布するので学習支援システムにアクセスできる環境が必須である。

### 【参考書】

『心理学要論』培風館  
『心理学ビジュアル百科』創元社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（各授業における課題の提出）50%とレポート（到達目標の達成度）50%レポートは授業内で指示します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布し課題を出すためPC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合があります。詳しくは学習支援システムで指示します。

### 【その他の重要事項】

この授業では人格について知識を深め、自己理解、および他者理解が深まることを目指しましょう。

人格心理学は一つの応用的な心理学の一分野です。心理学には個人差を誤差として、万人共通のメカニズムや法則を探るアプローチ（たとえば学習心理学）や、個人内ではなく環境や状況に人間の行動や感情、認知を変容させる仕組みがあるとするアプローチ（たとえば社会心理学）がありますが、人格心理学には個人内の過程に注目して、個人差の測定を行う観点もあります。応用的な心理学を学ぶための前提として、認知心理学、学習心理学、神経-生理心理学、社会心理学などの基礎的な心理学をある程度理解していることが必要です。

担当教員HP： [sugys-lab.com](http://sugys-lab.com)

### 【Outline (in English)】

#### （Learning Objectives）

You will learn the normal and abnormal state of the personality and the mechanism of the mind, and will be able to express self-understanding, understanding of others, and understanding of human society in your own words through personality psychology.

（Learning activities outside of classroom）

Preparation: Read the specified range of handouts and texts, and search for technical terms for about 2 hours.

Review: A review task of about 2 hours will be imposed each time, and a report for review will be imposed as needed.

（Grading Criteria/Policy）

Normal score (review task + class attitude) 30% and report (achievement of achievement goal) 70%



PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 集団社会心理学

入山 茂

授業コード：A3725 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要：この授業では、私たちが、家族、組織、経済・社会や国・地域などの集団で生活する中で、それらの集団からどのような影響を受けるのかについて解説する。また、それらの集団と他の集団の相互作用により、どのような心理学的問題が生じるのかについても解説する。

授業の目的・意義：社会心理学および集団心理学の概念と研究法について基礎的な知識を習得し、日常生活で遭遇する社会的現象について心理学的観点から分析できるようにする。

### 【到達目標】

(1) 社会心理学とグループ・ダイナミクスの基本的な概念 (理論や専門用語) および関連する研究について説明できる。

(2) 社会心理学とグループ・ダイナミクスの基本的な概念および関連する研究を自らの日常生活と関連づけ、実際に起きた社会的現象について、心理学的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態：講義形式とする。

授業の受講方法：各自で授業支援システムから資料をダウンロードし、授業を受講する。

授業の進め方：授業計画に記載したテーマについて、理論、先行研究、応用や問題点などを紹介する。授業の終了後、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。指定した授業については、授業の終了後に小レポート等の課題を行う。また、授業の終了後に小レポート等の課題を行う。

フィードバック方法：リアクションペーパーについては、次回の授業以降に講評および追加の解説を行う。小レポート等の課題については、課題提出後に、講評および追加の解説を行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                                              |
|------|-------------------|-------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション：集団と個人   | 授業の進め方、評価基準の説明、集団心理学の概要                         |
| 第2回  | 社会的影響             | 社会的促進と社会的抑制、社会的手抜きと社会的補償                        |
| 第3回  | グループ・ダイナミクス       | 集団規範、同調、少数者の影響、服従                               |
| 第4回  | 集団の意思決定           | 集団浅慮、集団極性化、心理的拘泥現象                              |
| 第5回  | リーダーシップ           | リーダーシップのスタイル、PM理論、リーダーシップを規定する要因                |
| 第6回  | 社会的葛藤             | 社会的ジレンマ、集団間葛藤、外集団に対する認知バイアス                     |
| 第7回  | 集合現象              | うわさ・流言、流行、社会的ネットワーク、避難行動、パニック                   |
| 第8回  | 組織と個人             | チームワーク、組織規範と組織文化、集団凝集性、心理的安全性                   |
| 第9回  | 経済と個人             | 消費者行動、プロスペクト理論、ヒューリスティック、カスタマーハラスメント            |
| 第10回 | 社会と個人             | 社会問題・社会現象、群集心理、没個性化、傍観者効果、多元的無知、社会的妥当化、敵意帰属バイアス |
| 第11回 | 家族と個人             | 家族の機能、夫婦関係、親子関係、家庭内暴力、夫婦間暴力、虐待、家族療法             |
| 第12回 | インターネット・マスメディアと個人 | インターネット上での人間関係、インターネット依存、マスメディアの影響、世論、プロパガンダ    |
| 第13回 | 文化と個人             | 心の普遍性、文化的自己観、個人主義と集団主義                          |
| 第14回 | まとめ               | 授業のまとめ                                          |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習：予め授業支援システムから授業で解説する資料をダウンロードし、読んでくる。準備学習時間は、2時間を標準とする。

復習：資料やノートを読み返し、授業で学んだことについて振り返る。復習時間は、2時間を標準とする。

課題対応：指定した授業について、小レポート等の課題を行う。課題対応時間は、1時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

### 【参考書】

越智啓太 (編) (2022) 『私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科社会心理学編』 創元社

池上知子・遠藤由美 (2008) 『グラフィック社会心理学 (第2版)』 サイエンス社

松井豊・宮本聡介 (編) (2020) 『新しい社会心理学のエッセンス：心が解き明かす個人と社会・集団・家族のかかわり』 福村出版

齊藤勇 (2023) 『イラストレート 社会心理学』 誠信書房

谷口淳一・西村太志・相馬敏彦・金政祐司 (編著) (2017) 『新版 エピソードでわかる社会心理学—恋愛・友人・家族関係から学ぶ』 北樹出版

山口裕幸 (2008) 『チームワークの心理学—よりよい集団づくりをめざして』 サイエンス社

笹山郁生 (編) (2023) 『ライブラリ 心理学を学ぶ=7 集団と社会の心理学』 サイエンス社

### 【成績評価の方法と基準】

授業のリアクションペーパー (30%)：授業で学んだ社会心理学とグループ・ダイナミクスの基本的な概念 (理論や専門用語) や先行研究について、①自らの日常生活における経験と関連づけ、②感想、疑問点や興味・関心を、③積極的に述べられているかどうかを評価する。

小レポート等の課題 (30%)：課題内容に対して、①授業内容を踏まえ、②理論や先行研究を引用し、③自らの考えや必要な事項を述べられているかどうかを評価する。

試験 (40%)：試験を通じて、理論や専門用語を正しく理解しているかどうかを評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業の前日までに、授業の資料を授業支援システムにアップする。各自で授業支援システムから資料をダウンロードし、授業を受講する。

### 【その他の重要事項】

「社会心理学」の授業と合わせて社会心理学全体を概観する。そのため、「社会心理学」も同時に履修することが望ましい。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this class, we will explain how we are influenced by groups as we live in groups such as families, organizations, economies/societies and countries//regions. We will also explain what psychological problems arise from the interaction of those groups with other groups.

#### 【Learning Objectives】

(1) To be able to explain basic concepts (theories and technical terms) and summary of relevant preceding research in social psychology and group dynamics.

(2) To be able to relate basic concepts and preceding research in social psychology and group dynamics to real-life and to psychologically consider social events that actually occur.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Participants are required to download and read the handouts from the class support system prior to the class. The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Comments and discussion about the class (30%):Participants will be evaluated on whether they (1) relate the basic concepts (theories and terminology) and preceding research in social psychology and group dynamics that they have learned in class to their real-life experiences, (2) express their thoughts, questions, interests, and concerns, and (3) actively discuss them.

Assignments such as short reports (30%):Participants will be evaluated on whether they (1) reflect on the contents of the class, (2) cite theories and preceding studies, and (3) express their own ideas and other necessary matters in response to the assigned content.

Examinations (40%):Participants will be evaluated on their correct understanding of theories and terminology through examinations.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## カウンセリング心理学

下山 晃司

授業コード：A3726 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業前半は、カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の成り立ち(対象者・創始者の哲学)や限界などについて学びます。人間の抱える心理的困難について、複数のアプローチから多角的に理解できるようにすることを目標とします。

授業後半は、継続的なロールプレイングを体験することにより、基本的な傾聴スキルを身につけることをテーマとします。これにより、カウンセリングおよび心理療法を学問としてだけでなく、対人援助における「実践の技(アート)」としても理解することを目指します。

### 【到達目標】

各理論の基礎的な内容(理論・対象者等)を理解すること。理論間の相違点および共通部分を理解すること。

ロールプレイングを通して、「傾聴」に必要な言語的・非言語的スキルを身につけること、および他者・自己の変化を捉える観察力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

力動的アプローチ、パーソン・センタード・アプローチ、行動療法等の主要理論を下記「授業計画」に沿って、講義形式で解説していきます。

ロールプレイングでは、各自がCo(カウンセラー)、Cl(クライエント)、Ob(オブザーバー)役を担当して、ロールプレイングを反復して行います。

毎回の授業でリアクションペーパーを回収し、次回授業冒頭でいくつかを紹介し(匿名)。質問・意見・要望等に対して全体にフィードバックをします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                                |
|------|-------------|-----------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション・  | 授業の進め方<br>「行動を見る」ヒント・<br>各理論の共通基盤 |
| 第2回  | 精神分析1       | 理論と対象者                            |
| 第3回  | 精神分析2       | 防衛機制・転移感情                         |
| 第4回  | パーソン・センタード・ | カウンセラーの態度とグループエンカ<br>ウンター         |
| 第5回  | アプローチ       | 基盤となる理論と対象者                       |
| 第6回  | 行動療法        | 基盤となる理論と対象者                       |
| 第7回  | 認知行動療法      | 理論と対象者                            |
| 第8回  | 中間試験        | 前半部分の理解度測定                        |
| 第9回  | ロールプレイング1   | 4種類のサポート実習                        |
| 第10回 | ロールプレイング2   | テーマが決められた面接1                      |
| 第11回 | ロールプレイング3   | テーマが決められた面接2                      |
| 第12回 | ロールプレイング4   | テーマが決められた面接3                      |
| 第13回 | ロールプレイング5   | テーマが自由な面接1                        |
| 第14回 | ロールプレイング6   | テーマが自由な面接2                        |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱う主要理論について、教科書の該当箇所を予習・復習すること(4時間以上)。

ロールプレイングで習得した内容を実践すること(4時間以上)。

【テキスト(教科書)】

矢澤美香子(編) 2018 基礎から学ぶ心理療法 株式会社ナカニシヤ出版

【参考書】

W.ドライデン & J.ミットン著 酒井汀訳 2005 カウンセリング/心理療法の4つの源流と比較 北大路書房

ポール・ワクテル著 杉原保史訳 2002 心理療法の統合を求めて 精神分析・行動療法・家族療法 金剛出版

【成績評価の方法と基準】

主要理論の理解度および基礎的な知識を測定する筆記試験を中間に実施します(50%)。

反復したロールプレイングを通して得られた知見をまとめたレポートを期末に課します(50%)。レポートの評価の観点には、授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートに27名中3名の回答がありました。回答率の低さは、授業中に回答時間を確保できなかったからだと思います。

Q1(授業の工夫)、Q5(履修してよかったか)については、3名全員が「5」(大変工夫していた/大変よかった)と回答していました。他のQ2(授業外学習)とQ3(理解度)については、3名の回答がばらけました。以上の結果から、理解度等にばらつきはあるものの、回答者の授業満足度は高かったと考えられます。

自由記述(2名)は、以下の通りでした。

・ロールプレイングが楽しい! 一人一人にコメントをくれるので、ちゃんと見てくれるのがわかって毎回楽しかった!

・【よかった点】複数回のロールプレイングを通してカウンセリングについて実践的に学ぶことが出来た点。

【改善してほしい点】授業スライドについて、Hoppiiにアップロードして頂けると授業後の復習に活用できてよいのではないかと思います。

以上の結果から、回答者に関しては、「カウンセリングの実践を学ぶ」という授業目的が達成できていると考えられます。より「実践」の観点からは、カウンセリング内容を紙にまとめてくれるクライアントは見たことがありません。したがって、「講義パートから既にロールプレイングの練習が始まっている」ことをオリエンテーションで説明することとします。

【学生が準備すべき機器他】

連絡や課題(リアクションペーパー)は授業支援システム(Hoppii)を通して行われますので、確実に登録してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the major counseling methods. It also enhances the development of students' skill in listening to others. Through consecutive role-playing, participants are expected to understand counseling as an 'art,' as well as theory of human understanding. Grading Criteria / Policy is as follows. Intermediate exam:50%, Term end report:50%.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理学特殊講義 II

門本 泉

授業コード：A3727 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学作品を通して、社会からの逸脱が起こる理由、背景、そして逸脱による様々な影響について調べ、生きる人間の適応について知見を深める。

### 【到達目標】

- 1 非行や犯罪の原因と影響について客観的、科学的に理解するとともに、社会と法との関係を踏まえて、時事問題を分析する視点を持つ。
- 2 これまで非行や犯罪が、社会でどのように位置づけられ、扱われてきたのかについて説明できる。
- 3 非行や犯罪に関与した人の更生、及びその周辺の人々への心理支援の実践と課題について討論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の序盤は、講義と中盤以降の個別・グループ発表に備え、学習課題の整理を行います。中盤以降は、毎回、非行・犯罪を扱った文学作品を取り上げ、主題描写から読み取れることを学生が発表し、併せてその上で生まれた「問い」について討論します。ディスカッションを踏まえて、教員が臨床犯罪心理学の視点から解説を行います。発表機会があります。また、毎回リアクションペーパーの課題が出されますので、これを期限内に回答してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                                      |
|------|---------------------|---------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション           | 自己紹介、授業の狙い、授業の進め方、評価の方法                                 |
| 第2回  | 逸脱とは、犯罪とは           | 【講義】非行・犯罪の定義と概要、非行・犯罪を扱った小説収集、グループ決め                    |
| 第3回  | 犯罪理論、心理支援の実際        | 【講義】各種の犯罪理論、臨床犯罪心理学の紹介                                  |
| 第4回  | 文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題① | 【発表・討論・教員による解説】テーマ：祭り (シーラッハ「フェーナー氏 Fährner」)           |
| 第5回  | 文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題② | 【発表・討論・教員による解説】テーマ：裁判 (シーラッハ「ハリネズミ Der Igel」)           |
| 第6回  | 文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題③ | 【発表・討論・教員による解説】テーマ：有責性 (シーラッハ「正当防衛 Notwehr」)            |
| 第7回  | 文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題④ | 【発表・討論・教員による解説】テーマ：精神障害と医療観察 (シーラッハ「緑 Grün」)            |
| 第8回  | 小括 (オンラインの可能性あり)    | 【講義】第4回から第7回までの授業で扱った問題について補足的な解説を行い、後半に扱うテーマについて概観する。  |
| 第9回  | 文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑤ | 【発表・討論・教員による解説】テーマ：鑑定 (シーラッハ「棘 Der Dorn」)               |
| 第10回 | 文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑥ | 【発表・討論・教員による解説】テーマ：絶望と更生 (シーラッハ「エチオピアの男 Der Äthiopier」) |
| 第11回 | 文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑦ | 【発表・討論・教員による解説】テーマ：安全基地 (貴志祐介「青の炎」)                     |
| 第12回 | 文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑧ | 【発表・討論・教員による解説】テーマ：加害者家族 (東野圭吾「手紙」)                     |
| 第13回 | 文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑨ | 【発表・討論・教員による解説】テーマ：自由 (学生・教員による選出書)                     |
| 第14回 | 授業の総括、全体討論          | 【討論】授業で扱った作品の振り返りと、臨床犯罪心理学的な学びをどのように社会での活躍に生かせるか。       |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習：取り上げる作品、テーマ、関連する事象について予め調べて授業に臨むことが期待されます (100分、自身が発表者となる回 (1人につき1回) では、全編を読んでまとめることとなりますので、学習時間はさらに増えます)。

事後学習：リアクションペーパーに取り組み、併せて授業で扱った内容をさらに理解するため、発展的に資料収集を行ってください。(100分)

### 【テキスト (教科書)】

テキスト指定はしませんが、第10回授業までは、フォン・シーラッハ「犯罪」(創元推理文庫)の短編を取り上げます (法政大学図書館に所蔵あり)。その他の小説も、基本的に法政大学図書館にあるものを選びます。

### 【参考書】

授業で取り上げる文学作品、書籍については、授業内で紹介していきますが、以下のものは必要に応じて参照すると授業の理解度が深まるはずですが、川畑直人, 大島 剛 (監修) 2020 司法・犯罪心理学 ミネルヴァ書房・野島一彦 (監修) 2023 第19巻 司法・犯罪心理学第2版 (公認心理師の基礎と実践) 遠見書房

### 【成績評価の方法と基準】

授業の理解度 (40%)、授業への関与度 (30%)、各自の発表 (30%、1人につき1回)。毎回が小テストと同等の課題となるので、期末試験は行いません。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度から、本講座を担当します。回を重ねる中で、学生からの有益なフィードバックについては適宜取り入れながら進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業では、原則としてパワーポイントを用いた説明・発表を行います。資料はオンラインで配信します。

### 【その他の重要事項】

- (1) 犯罪 (凶悪犯罪を含む) に関する具体的な内容、資料などを使用する可能性があります。各自の進路や適性 (加害・被害に触れる耐性を含む) を十分考慮して、受講するか否かを決定してください。
- (2) 学生が能動的、積極的に関与することが必要な授業構成です。各自の学修達成度に加え、授業への参画度も勘案して評価します。
- (3) 文学を題材にしますが、教員からのインプットは、実務経験を踏まえた現代日本の実際の犯罪心理学に関する内容となります。ファンタジーよりも現実に関心のある学生は是非履修してください。
- (4) 発表単位となるグループ構成は、履修者の数に合わせて決定します。

### 【Outline (in English)】

This course aims to have opportunities to think about the reasons, the backgrounds and the impacts of crime and delinquency. In every session will pick up a piece of literature which dealt with deviation, students will individually/in team present the content and their consideration. Group discussion and lecture are followed. Students are expected to read specific work of literature in advance, and to proceed further research individually after the class. Through this course students will explore how we can see human adaptation to life. The grade will be decided by depth of understanding(40%), how was your involvement in the classes(30%), presentation styles and contents(30%), No exam will be executed.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**心理学特殊講義Ⅲ**

福田 由紀

授業コード：A3728 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業の目的は、言葉を使っている時の脳活動に関する知識と、NIRS(近赤外分光法)を使い、脳血流量を測定するスキルを身につけることです。

**【到達目標】**

- ①言語使用時の脳活動に関する基礎知識が身につく。
- ②NIRSを使った測定スキルが身につく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は講義と実習を組み合わせた形式です。実習を行った結果は、グループで討論をし、発表します。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に課題の提出してください。なお、授業の初めに、提出された課題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppiiからのお知らせに注意して下さい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                                 | 内容                                                 |
|------|-------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                           | 授業の進め方の確認                                          |
| 第2回  | 脳の基礎知識                              | 中枢神経系の仕組みについて分担発表                                  |
| 第3回  | 脳の機能的働き                             | 言語使用時の脳活動について分担発表                                  |
| 第4回  | 言語使用時の脳活動<br>測定方法：fNIRS, fMRI, 脳波など | 言語使用時の心理学で利用されている測定方法：fNIRS, fMRI, 脳波などの実例について分担発表 |
| 第5回  | fNIRSの仕組み                           | fNIRSの仕組みを知る                                       |
| 第6回  | 言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習1               | 言語流暢性課題について分担発表                                    |
| 第7回  | 言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習2               | NIRS装置の使い方が身につく                                    |
| 第8回  | 言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習3               | 基本的な測定方法が身につく                                      |
| 第9回  | 言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習4               | 高度な測定方法が身につく                                       |
| 第10回 | 言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習5               | 基本的なデータの分析方法が身につく                                  |
| 第11回 | 言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習6               | 高度なデータの分析方法が身につく                                   |
| 第12回 | 言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習7               | 考察の観点が身につく                                         |
| 第13回 | 言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習8               | 効果的なプレゼンテーションの仕方が身につく                              |
| 第14回 | 言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習9               | 実習の発表とディスカッション、全体のまとめ                              |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

第2回から毎回、授業計画に沿った事前の課題を行い、Hoppiiを通じて提出します。第2回から第5回の講義形式の授業では、該当授業の内容に関して事前に調べてもらいます。第6回から第14回の実習形式の授業では、実際に自分がスムーズに測定するための準備に関する事前課題が用意されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

福田正人（編）「光トポグラフィー検査ガイドブック 改訂」中山書店など、適宜授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

最後の授業の発表（70%）と他者の発表に対するコメント（10%）、実習への積極的な参加態度（20%）から総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

2023年度は国内研究で授業を担当しませんでした。そのため、2022年度の気づきを以下に再掲します。

f NIRSの実習と脳の機能に関する授業です。コメントでは、「装着の練習がたくさんできたこと←これは、練習のみです！5分以内で装着できましたね。プロです！」「脳部位の課題に関して自分で調べるので積極的に取り組めた←良かった！」そして、「プレゼンについて学べた←他の人の技をぜひ今後活かしてください」がありました。

**【その他の重要事項】**

NIRSを使った測定を実習する授業のために、受講希望者が多数の場合は抽選となる場合があります。受講希望者は【初回の授業に必ず出席】してください。

**【実験や調査への参加】**

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

**【Outline (in English)】**

Course outline : The purpose of this course is to learn brain activities when we use language and to develop measurement skills for fNIRS.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about brain activities during verbal activities
- B. develop measurement skills for fNIRS

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 70%, comment for the presentation of other people: 10%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理学英語Ⅱ

常深 浩平

授業コード：A3730 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

### 【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                |
|------|-----------------------|-----------------------------------|
| 第1回  | 学習の準備                 | 各自今学期の到達目標を決める                    |
| 第2回  | 長文読解になれる（1）           | 記憶に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）            |
| 第3回  | 長文読解になれる（2）           | 言語発達に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）          |
| 第4回  | 英語論文の探し方              | 授業後半で使う英語論文の探し方                   |
| 第5回  | 英語論文を読む（1）            | 英語論文の構成をつかむ                       |
| 第6回  | 英語論文を読む（2）            | 見出しの名称と内容<br>タイトルとアブストラクトから何が分かるか |
| 第7回  | 英語論文を読む（3）            | メソッドの読み取り方                        |
| 第8回  | 英語論文を読む（4）            | リザルトとディスカッション、全体の構成               |
| 第9回  | アカデミックライティング①         | 読みから書きへ                           |
| 第10回 | アカデミックライティング②         | 一文の英作文①                           |
| 第11回 | 英語論文を読んで、それをレポートする（1） | 一文の英作文②                           |
| 第12回 | 英語論文を読んで、それをレポートする（2） | 一段落の英作文                           |
| 第13回 | 英語論文を読んで、それをレポートする（3） | 長文の英作文を書くために                      |
| 第14回 | 英語レポート発表              | 作成した英語レポートの発表                     |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。  
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

### 【参考書】

英和辞典・和英辞典等

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内課題） 60%

期末レポート 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内で論文を扱う回を前年度より増やすこととする。

### 【その他の重要事項】

シラバス執筆時点では対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス等の感染状況が悪化した場合には授業形式を変更する可能性がある。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

#### 【Learning Objectives】

Through this course, students grow fundamental ability to comprehend English Psychological literature.

【Learning activities outside of classroom】

All students will be expected to have read the relevant part of the text before each class, and to write a short report after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Short reports in each time: 60%

Term-end report : 40%

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**身体運動の心理と生理****林 容市**授業コード：A3738 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、身体運動の基礎となる心理的・生理的基礎を学び、様々な身体活動やスポーツ実践時における身体動作の学習や発達について理解することを目的とします。

**【到達目標】**

- ・身体運動に関わる心理的・生理的基礎を学習する。
- ・様々な身体運動の制御や発達に関する知識・情報を学習する。
- ・自身の身体運動についてそのメカニズムを理解し、必要に応じて改善できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体運動に関連した心理的・生理的知識を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を、日常における自らの身体運動時にどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求め、その内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業内容に関連した個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め、評価の一部とします。なお、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                     | 内容                                 |
|------|-------------------------|------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンスおよび講義の目的についての解説    | 授業の目標と課題の確認、身体活動に関わる諸要因について学ぶ      |
| 第2回  | 身体運動時における骨格筋の働き         | 骨格筋の構造・機能や筋力・筋パワーについて学ぶ            |
| 第3回  | 身体運動時における神経系の働き・調節1     | 身体運動時の神経系の基礎的な働きについて学ぶ             |
| 第4回  | 身体運動時における神経系の働き・調節2     | 神経系による身体動作の調節、運動と様々な反射について学ぶ       |
| 第5回  | 身体運動の知覚と運動の意図           | 身体運動時の感覚に関するメカニズムを学ぶ               |
| 第6回  | 身体運動の制御と学習              | 身体運動制御に関する2つのアプローチについて学ぶ           |
| 第7回  | 身体運動とイメージ               | 身体運動や身体のイメージの知覚に関する基礎を学ぶ           |
| 第8回  | 身体運動の動作を分析する            | スポーツの動作を分析する手法や解釈を学ぶ               |
| 第9回  | 複雑な身体運動の獲得              | 複合運動学習について学ぶ                       |
| 第10回 | 姿勢制御のメカニズム              | 姿勢を制御するシステムやその発達について学ぶ             |
| 第11回 | 移動性機能制御のメカニズム           | 歩行等を制御するシステムやその発達について学ぶ            |
| 第12回 | 物品操作時の身体運動制御のメカニズム      | 把握やリーチ等を制御するシステムやその発達について学ぶ        |
| 第13回 | 身体運動の感覚と個人差             | 子供の身体運動感覚と発達における個人差について学ぶ          |
| 第14回 | 身体運動の発育・発達と幼児期の身体運動の考え方 | 幼児期・児童期における身体の発育・発達と身体運動のあり方について学ぶ |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回のリアクションペーパーにコメント・回答をしてください。また、ミニレポートの作成に向けて授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめておいてください。なお、これらの授業に向けた準備および復習の時間はそれぞれ2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

**【参考書】**

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

**【成績評価の方法と基準】**

1) 授業参画の状況と理解度（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：70%、2) ミニレポート：30%、の配分で総合評価する。  
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

**【学生の意見等からの気づき】**

回答者の割合は少ないですが、授業改善アンケートでは「説明が1つ1つ丁寧に理解しやすかった」、「身体運動に関する心理学の授業はほとんどないので、ほかの授業で学んだことのない内容に触れることができ履修してよかった」など、今後に向けて励みになるコメントを頂きました。また、授業中に実際に体を動かしてみる経験を踏まえよう意識していたのですが、好意的なコメントを頂きました。他方、授業冒頭のフィードバックの時間が毎回長すぎるなどのコメントも頂きましたので、この点については次年度に改善していきたいです。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of this course is to learn the psychological and physiological factors underlying body movements and exercise and understand the learning and development of body movements and physical activities during various physical activities and sports.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students should be able to:

1. Study the psychological and physiological basis of physical activities.
2. Learn the knowledge and information about the control and development of various body movements.
3. Understand the mechanisms of one's body movements and improve them as necessary.

**【Learning activities outside of the classroom】** Please gather information about the class contents described in the syllabus at the library before attending the class. In addition, students are expected to review the contents of each class and summarize their thoughts and opinions to prepare a mini-report. The standard time for preparation and review for these classes is two hours each.

**【Grading Criteria/Policy】** The overall evaluation will be as follows:

1. Class participation and understanding such as evaluated through reaction papers for each class(70%)
2. Mini-report(30%).

If a student is absent or late for class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

BSP100BG (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・心理)

藤田 哲也

授業コード：A3739 | 曜日・時限：金1/Fri.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期の基礎ゼミIでは、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル (技能) の修得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

### 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取ることができる」。
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解できる」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できる」。
3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができる」。
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができる」。
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組みしてもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきたと思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なのかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことでなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                     | 内容                                      |
|------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                                               | 基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解            |
| 第2回  | ノートの取り方1<br>高校と大学の授業の違いをふまえ、ノートの取り方を工夫できるようになる          | 典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる              |
| 第3回  | ノートの取り方2<br>ノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を獲得            | 前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件            |
| 第4回  | 初年次教育とは<br>「大学生」である自分が社会から求められていることを説明できるようになる          | 「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連            |
| 第5回  | テキストの読み方<br>読解を困難にする要因を理解し、文章の基礎的構成法を自分が書く場面に応用できるようになる | 読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成 |
| 第6回  | 要約の仕方<br>元の文章からの抜粋でなく内容理解を前提とした要約が書けるようになる              | 社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約           |
| 第7回  | きちんと考える方法1<br>情報を囁呑みにせず吟味する態度の必要性を理解し、実践できるようになる        | 書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味             |
| 第8回  | きちんと考える方法2<br>自分の意見を持ち、適切に表現するための基本テクニックを伝えるようになる       | 深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践            |
| 第9回  | 図書館の利用<br>高校の図書室と大学図書館の違いを理解し、適切に蔵書検索できるようになる           | PCを利用した情報検索法と、図書館ツアール                   |
| 第10回 | レポートの書き方1<br>レポートと作文の違いを説明でき、事実と意見を書き分けられるようになる         | 大学レポートが要求すること、基本的な原稿作成上のルールの確認          |
| 第11回 | レポートの書き方2<br>効率的なレポート作成手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる        | レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成、宿題に対する添削          |
| 第12回 | レポート提出と自己評価<br>レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく          | レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認                  |
| 第13回 | これまでの総括<br>基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える          | これまでの授業内での「気づき」の総点検と新たな「気づき」            |
| 第14回 | レポート返却<br>レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する                       | 自己評価と教員評価の比較と自己評価基準の修正の必要性の説明           |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

- 第1回 教科書第0講の予習
- 第2回 教科書第1講の予習とノートの見直し
- 第3回 教科書第2講の予習と、ノートの整理
- 第4回 教科書補講の予習とこれまでの総復習
- 第5回 教科書第3講の予習・第4講のための要約の宿題
- 第6回 教科書第4講の予習・再度の要約課題
- 第7回 教科書第5講の予習・教科書の練習課題
- 第8回 教科書第5講の予習・練習課題の実施
- 第9回 教科書第6講の予習・情報検索の宿題
- 第10回 教科書第7講の予習・第9回宿題見直し
- 第11回 教科書第8講の予習・練習課題直し
- 第12回 レポート作成・春学期総復習
- 第13回 「気づき振り返りシート」作成
- 第14回 これまでのプリント類の整理と振り返り

## 【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006). 「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために-」, 北大路書房

## 【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価(未受験)とします。平常点として、授業1回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2点です。この平常点は到達目標の1, 4, 5と対応します。

課題の提出(20%)…授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各5点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質(深さ、自分なりの視点の獲得等)に応じた0~10点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の2, 3と対応します。

期末レポート(40%)…この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計40点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の2, 3, 4と対応します。

## 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケート、WクラスとXクラスを合わせてコメントします：「履修してよかった」は1限は4.56、2限は4.44で、昨年度に比べて向上しています。ただし1限・2限ともに「授業外学習時間(予習)」の最頻値が週30分~1時間(68.0%、55.6%)と低めでしたので、予習の効果をやってきたからこそ、身につくことがあると、もっと実感してもらえるよう工夫したいと思います。レポートの書き方を中心として授業内容については満足度が高かったようですので、その点はさらに工夫を重ねて理解度を高めたいです。

## 【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

## 【Outline (in English)】

## [Course outline]

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

## [Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.As an information gathering ability, students can take useful notes even after a lapse of time after judging the information they need.
- 2.Students can properly read sentences written by others, such as textbooks, to understand the contents of information. In addition, students can not just excerpt, but can summarize the text appropriately after understanding the content of the text.
- 3.As an information dissemination ability, students can write sentences that are easy for others to read and understand and persuasive.
- 4.As a communication ability, students can clearly express their opinions after listening to and understanding the other party's remarks.
- 5.Students can continue to participate in the lesson after properly preparing for the lesson such as preparation and review as an attitude of active activity.

## [Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## [Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, submission of tasks 20%, report 40%.



BSP100BG（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## 基礎ゼミⅡ（文・心理）

藤田 哲也

授業コード：A3740 | 曜日・時限：金1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の基礎ゼミⅡでは、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。

### 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて、積極的・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ、実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち、理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業（グループワーク）が多いので、毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には、4～6人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表（プレゼンテーション）を行うというプロジェクト型学習（PBL）に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけのことではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をしフィードバックすることを含みます。

なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨（発表に求められていること）は異なりますので、よく理解し、準備して臨んでください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ         | 内容                                                  |
|-----|-------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション   | 秋学期授業の概要と目標、班活動の意この授業の教育目標を理解し、自分なりの目標を明確にする        |
| 第2回 | 班の構成と活動方針   | 今後のスケジュール確認、班活動ウォーミングアップ、班の活動方針の話し合い                |
| 第3回 | 発表テーマ決定     | 協同学習の五つの基本原理、班活動の協同学習による話し合いの技法を実践する、各班での発表テーマを決定する |
| 第4回 | 心理学科のカリキュラム | 二年次以降のカリキュラムの概要、二年次の演習Ⅰ履修について、卒論までの道のりと実際           |

|      |          |                                              |
|------|----------|----------------------------------------------|
| 第5回  | レジュメの作り方 | レジュメの作り方に関する班活動、構想発表と本発表について、班活動             |
| 第6回  | 発表のしかた   | 発表のしかたに関する班活動、発表順の決定、発表に向けての班活動              |
| 第7回  | 発表準備1    | 構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成）、発表に向けての班活動            |
| 第8回  | 構想発表1    | 構想発表、観点別評価とコメント作成                            |
| 第9回  | 構想発表2    | 構想発表、観点別評価とコメント作成                            |
| 第10回 | 発表準備2    | 発表の仕方と内容の両面から見直し、第三者である高校生の視点から客観的に見直し       |
| 第11回 | 本発表1     | 本発表、観点別評価とコメント作成                             |
| 第12回 | 発表準備3    | 本発表、観点別評価とコメント作成                             |
| 第13回 | 本発表2     | 本発表、観点別評価とコメント作成                             |
| 第14回 | 総括       | 秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。

- 第1回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
- 第2回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する
- 第3回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
- 第4回 演習Ⅰ履修手続きの確認と、教科書第9講の予習
- 第5回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第10講の予習
- 第6回 次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
- 第7回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
- 第8回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
- 第9回 本発表に向けて構想の練り直し
- 第10回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす
- 第11回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
- 第12回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
- 第13回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する
- 第14回 一年間この授業で学んできたことを、二年次以降の学習目標に活かすための展望を持つ

### 【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006)、「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために-」、北大路書房

### 【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）…授業へ出席し積極的に班活動に参加したり、他班の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の1、5と対応します。

班発表(40%)…構想発表(10%)と本発表(30%)のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。この発表は到達目標の2, 3, 4, 5と対応します。

班活動(20%)…各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果(班の発表の評価)の1/2に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の1と対応します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

WクラスとXクラスについて同内容の授業なのでまとめてコメントします：最終回の時間配分で失敗したため、授業内での回答時間を確保できずに回答者がとても少なかったのですが、それでも回答してくれた全員が「履修してよかった」「理解できたか」「授業は工夫されていたか」で5と回答してくれました。肯定的な受け止めをしてくれた人だけが回答してくれたという可能性も否定できませんが、少なくとも回答してくれた全員から満点の評価を受けましたので、2024年度も同様の授業運営を続けたいと思います。今年度の発表成果は例年以上に充実していましたので、みんなの準備にかける時間と労力も相当多かったと思いますが、それを単なる負担を受け止めず、自身の成長につながる形で最後まで取り組んでくれたことが高い満足度につながったのだと思います。

#### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

#### 【Outline (in English)】

##### [Course outline]

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

##### [Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can actively and effectively carry out group activities based on the concept of collaborative learning.
- 2.Students can collect necessary information from the perspective of the person to whom the information is communicated and appropriately select the information.
- 3.Students can give notes to make presentation materials that are highly documentary and motivated to read, and can actually create them.
- 4.Students can explain and practice what is needed to keep listeners listening and make easy-to-understand presentations.
- 5.Students can understand and evaluate appropriately while listening to the presentations of others.

##### [Learning activities outside of classroom]

The standard preparation time for this class is 3 hours, and the standard review time is 1 hour.

##### [Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, group presentation 40%, contribution to group activities 20%.

BSP100BG (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

**基礎ゼミ I (文・心理)**

藤田 哲也

授業コード：A3741 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年  
 備考(履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

春学期の基礎ゼミIでは、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル(技能)の修得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

**【到達目標】**

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身に必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取るができること」。
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解できる」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できる」。
3. 情報発信力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができる」。
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができる」。
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにすするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをもとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことでなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                                                     | 内容                                      |
|------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                                               | 基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解            |
| 第2回  | ノートの取り方1<br>高校と大学の授業の違いをふまえ、ノートの取り方を工夫できるようにする          | 典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる              |
| 第3回  | ノートの取り方2<br>ノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を得る            | 前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件            |
| 第4回  | 初年次教育とは<br>「大学生」である自分が社会から求められていることを説明できるようにする          | 「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連            |
| 第5回  | テキストの読み方<br>読解を困難にする要因を理解し、文章の基礎的構成法を自分が書く場面に応用できるようにする | 読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成 |
| 第6回  | 要約の仕方<br>元の文章からの抜粋でなく内容理解を前提とした要約が書けるようになる              | 社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約           |
| 第7回  | きちんと考える方法1<br>情報を鵜呑みにせず吟味する態度の必要性を理解し、実践できるようにする        | 書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味             |
| 第8回  | きちんと考える方法2<br>自分の意見を持ち、適切に表現するための基本テクニックを伝えるようになる       | 深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践            |
| 第9回  | 図書館の利用<br>高校の図書室と大学図書館の違いを理解し、適切に蔵書検索できるようにする           | PCを利用した情報検索法と、図書館ツアー                    |
| 第10回 | レポートの書き方1<br>レポートと作文の違いを説明でき、事実と意見を書き分けられるようになる         | 大学レポートが要求すること、基本的な原稿作成上のルールの確認          |
| 第11回 | レポートの書き方2<br>効率的なレポート作成手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる        | レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成、宿題に対する添削          |
| 第12回 | レポート提出と自己評価<br>レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく          | レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認                  |
| 第13回 | これまでの総括<br>基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える          | これまでの授業内での「気づき」の総点検と新たな「気づき」            |
| 第14回 | レポート返却<br>レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する                       | 自己評価と教員評価の比較と自己評価基準の修正の必要性の説明           |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

- 第1回 教科書第0講の予習
- 第2回 教科書第1講の予習とノートの見直し
- 第3回 教科書第2講の予習と、ノートの整理
- 第4回 教科書補講の予習とこれまでの総復習
- 第5回 教科書第3講の予習・第4講のための要約の宿題
- 第6回 教科書第4講の予習・再度の要約課題
- 第7回 教科書第5講の予習・教科書の練習課題
- 第8回 教科書第5講の予習・練習課題の実施
- 第9回 教科書第6講の予習・情報検索の宿題
- 第10回 教科書第7講の予習・第9回宿題見直し
- 第11回 教科書第8講の予習・練習課題直し
- 第12回 レポート作成・春学期総復習
- 第13回 「気づき振り返りシート」作成
- 第14回 これまでのプリント類の整理と振り返り

## 【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006). 「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために-」, 北大路書房

## 【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価(未受験)とします。平常点として、授業1回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2点です。この平常点は到達目標の1, 4, 5と対応します。

課題の提出(20%)…授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各5点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質(深さ、自分なりの視点の獲得等)に応じた0~10点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の2, 3と対応します。

期末レポート(40%)…この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計40点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の2, 3, 4と対応します。

## 【学生の意見等からの気づき】

2023年度の授業改善アンケート、WクラスとXクラスを合わせてコメントします：「履修してよかった」は1限は4.56、2限は4.44で、昨年度に比べて向上しています。ただし1限・2限ともに「授業外学習時間(予習)」の最頻値が週30分~1時間(68.0%、55.6%)と低めでしたので、予習の効果をやってきたからこそ、身につくことがあると、もっと実感してもらえるよう工夫したいと思います。レポートの書き方を中心として授業内容については満足度が高かったようですので、その点はさらに工夫を重ねて理解度を高めたいです。

## 【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

## 【Outline (in English)】

## [Course outline]

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

## [Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.As an information gathering ability, students can take useful notes even after a lapse of time after judging the information they need.
- 2.Students can properly read sentences written by others, such as textbooks, to understand the contents of information. In addition, students can not just excerpt, but can summarize the text appropriately after understanding the content of the text.
- 3.As an information dissemination ability, students can write sentences that are easy for others to read and understand and persuasive.
- 4.As a communication ability, students can clearly express their opinions after listening to and understanding the other party's remarks.
- 5.Students can continue to participate in the lesson after properly preparing for the lesson such as preparation and review as an attitude of active activity.

## [Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## [Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, submission of tasks 20%, report 40%.

BSP100BG (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミⅡ (文・心理)

藤田 哲也

授業コード：A3742 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期の基礎ゼミⅡでは、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。

### 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて、積極的・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ、実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち、理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業 (グループワーク) が多いため、毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には、4-6人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表 (プレゼンテーション) を行うというプロジェクト型学習 (PBL) に取り組むこととなります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。

したがって、この授業では授業に参加することをもっと重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけのことでなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をしフィードバックすることを含みます。

なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨 (発表に求められていること) は異なりますので、よく理解し、準備して臨んでください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ         | 内容                                                  |
|-----|-------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション   | 秋学期授業の概要と目標、班活動の意この授業の教育目標を理解し、自分なりの目標を明確にする        |
| 第2回 | 班の構成と活動方針   | 今後のスケジュール確認、班活動ウォーミングアップ、班の活動方針の話し合い                |
| 第3回 | 発表テーマ決定     | 協同学習の五つの基本原理、班活動の協同学習による話し合いの技法を実践する、各班での発表テーマを決定する |
| 第4回 | 心理学科のカリキュラム | 二年次以降のカリキュラムの概要、二年次の演習Ⅰ履修について、卒論までの道のりと実際           |
|     |             | 自分の所属する心理学科のカリキュラムを説明できる、卒論に対する具体的なイメージを持つ          |

|      |          |                                              |
|------|----------|----------------------------------------------|
| 第5回  | レジュメの作り方 | レジュメの作り方に関する班活動、構想発表と本発表について、班活動             |
| 第6回  | 発表のしかた   | 発表のしかたに関する班活動、発表順の決定、発表に向けての班活動              |
| 第7回  | 発表準備1    | 構想発表の聴き方 (観点別評価とコメント作成)、発表に向けての班活動           |
| 第8回  | 構想発表1    | 構想発表、観点別評価とコメント作成                            |
| 第9回  | 構想発表2    | 構想発表、観点別評価とコメント作成                            |
| 第10回 | 本発表1     | 発表内容・発表のしかたについて学んだことを適切に表現できる、他班に適切にコメントできる  |
| 第11回 | 発表準備2    | 本発表に向けて、内容・レジュメ・発表のしかたについての班の方針を明確に挙げる事ができる  |
| 第12回 | 本発表1     | 本発表、観点別評価とコメント作成                             |
| 第13回 | 本発表2     | 本発表、観点別評価とコメント作成                             |
| 第14回 | 総括       | 秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。

- 第1回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
- 第2回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する
- 第3回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
- 第4回 演習Ⅰ履修手続きの確認と、教科書第9講の予習
- 第5回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第10講の予習
- 第6回 次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
- 第7回 レジュメの印刷原案を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
- 第8回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
- 第9回 本発表に向けて構想の練り直し
- 第10回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす
- 第11回 レジュメの印刷原案を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
- 第12回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
- 第13回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する
- 第14回 一年間この授業で学んできたことを、二年次以降の学習目標に活かすための展望を持つ

### 【テキスト (教科書)】

藤田哲也(編)(2006)、「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために-」、北大路書房

### 【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …授業へ出席し積極的に班活動に参加したり、他班の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価 (未受験) とします。平常点として、授業一回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の1、5と対応します。

班発表(40%)…構想発表(10%)と本発表(30%)のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。この発表は到達目標の2, 3, 4, 5と対応します。

班活動(20%)…各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果(班の発表の評価)の1/2に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の1と対応します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

WクラスとXクラスについて同内容の授業なのでまとめてコメントします：最終回の時間配分で失敗したため、授業内での回答時間を確保できずに回答者がとても少なかったのですが、それでも回答してくれた全員が「履修してよかった」「理解できたか」「授業は工夫されていたか」で5と回答してくれました。肯定的な受け止めをしてくれた人だけが回答してくれたという可能性も否定できませんが、少なくとも回答してくれた全員から満点の評価を受けましたので、2024年度も同様の授業運営を続けたいと思います。今年度の発表成果は例年以上に充実していましたので、みんなの準備にかける時間と労力も相当多かったと思いますが、それを単なる負担を受け止めず、自身の成長につながる形で最後まで取り組んでくれたことが高い満足度につながったのだと思います。

#### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

#### 【Outline (in English)】

##### [Course outline]

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

##### [Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can actively and effectively carry out group activities based on the concept of collaborative learning.
- 2.Students can collect necessary information from the perspective of the person to whom the information is communicated and appropriately select the information.
- 3.Students can give notes to make presentation materials that are highly documentary and motivated to read, and can actually create them.
- 4.Students can explain and practice what is needed to keep listeners listening and make easy-to-understand presentations.
- 5.Students can understand and evaluate appropriately while listening to the presentations of others.

##### [Learning activities outside of classroom]

The standard preparation time for this class is 3 hours, and the standard review time is 1 hour.

##### [Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, group presentation 40%, contribution to group activities 20%.

DES200GA (デザイン学/Design science 200)

## マス・メディア論

君塚 洋一

授業コード：A3803 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

### 【到達目標】

以下3点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性和問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

この科目は、おおむね2回の授業で1つのテーマを扱い、各テーマについて対面授業による説明や解題、質疑、受講生のコメント紹介、映像の鑑賞、簡易なグループワークなどを行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

\*

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNSなどの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ             | 内容                                                   |
|-----|-----------------|------------------------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション       | 講義のテーマと履修上の注意                                        |
| 第2回 | メディアとは何か-1      | メディアとは何か？<br>何がメディアになるのか？                            |
| 第3回 | メディアとは何か-2      | 何がメディアになるのか？<br>メディアの類型（タイプ）                         |
| 第4回 | コミュニケーションとは何か-1 | 「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（1）<br>：物理的環境／社会的制御など |
| 第5回 | コミュニケーションとは何か-2 | 「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（2）<br>：多層性・文脈など      |

|      |                    |                                                                              |
|------|--------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 第6回  | 情報（ニュース）-1         | 情報とは何か？<br>どんな要件を満たせばニュースになるのか？<br>社会におけるニュースの役割・機能                          |
| 第7回  | 情報（ニュース）-2         | マス・メディアの報道におけるニュースの要件                                                        |
| 第8回  | ふりかえりレポート-1        | 第1回～第7回のふりかえりレポート                                                            |
| 第9回  | パブリック・メディア-1       | プロパガンダ（宣伝）と広報（PR）／近年の推奨コミュニケーションの問題                                          |
| 第10回 | パブリック・メディア-2       | 環境の監視とジャーナリズム                                                                |
| 第11回 | ソーシャル・メディア         | ソーシャル・メディアのはたらきと問題                                                           |
| 第12回 | メディア・リテラシー-1       | 共感をシェアするコミュニケーションとは？                                                         |
| 第13回 | メディア・リテラシー-2       | 社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？<br>・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など                          |
| 第14回 | まとめ<br>ふりかえりレポート-2 | 1. 情報源＝メディアを識別して扱う<br>2. 「ファクトチェック」を行う<br>3. メディアと感情<br>4. メディアのはたらきをどう考えるか？ |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) インターネット、マスメディア、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手（媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の1回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

### 【参考書】

- ・稲増一憲『マスメディアとは何か 影響力の正体』中公新書、中央公論社、2022年
- ・法政大学大学院メディア環境設計研究所編『アフターソーシャルメディア 多すぎる情報といかに付き合うか』日経BP、2020年
- ・ダニエル・ブーニユー『コミュニケーション学講義——メディアロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論1』北樹出版、2005年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレットNo.982、岩波書店、2018年

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約40%）、ふりかえりレポート（2回：約60%）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。ただし、7～8割以上の小課題の提出、2回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくになし。

**【その他の重要事項】**

さまざまなメディアやコンテンツに興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

**【受講上の留意点】**

本科目は、対面授業、授業内課題、ふりかえりレポートの3つで成り立つ。テーマについて高い関心を持ち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

**【Outline (in English)】**

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

\*

**Learning Objectives**

(1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.

(2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.

(3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.

\*

**Learning activities outside of classroom**

(1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.

(2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).

(3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

\*

**Grading Criteria/Policy**

Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.



ARSk300GA (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 300)

## 言語文化論 I

栗飯原 文子

授業コード：A3805 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語圏世界とは、もちろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地 (そしてアメリカの領土なども) を多く含む。したがって、英語圏世界について学ぶことは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視点から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

### 【到達目標】

- ・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
- ・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
- ・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

- ・授業は学習支援システムを通じたオンライン (オンデマンド方式) での開講となる。毎週「お知らせ」を配信するので確認すること。
- ・毎回視聴覚資料を配信する。各自で学習して、期限までに課題を提出すること。
- ・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

| 回    | テーマ               | 内容                                                                                                       |
|------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション         | 授業の概要と進め方、成績評価の基準などについて説明。まず、「英語圏の文化」とはなにか考える。                                                           |
| 第2回  | 英語圏とはなにか          | 英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。                                                                          |
| 第3回  | 第一次世界大戦後の世界—民族自決  | 第一次世界大戦のとらえ方、1919年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。                                                                  |
| 第4回  | 反帝国主義連盟           | 植民地地域から多数の代表が集まった1927年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。                                                              |
| 第5回  | 第二次世界大戦後の世界—独立への道 | 第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。                                                                              |
| 第6回  | アジア・アフリカ会議        | 1955年のアジア・アフリカ会議 (バンドン会議) の重要性を再考する。                                                                     |
| 第7回  | アフリカ諸国独立          | 1957年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。                                                          |
| 第8回  | 非同盟諸国運動           | 1961年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。                                                                   |
| 第9回  | キューバ革命と三大大陸人民会議   | 1959年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。                                              |
| 第10回 | 第三世界から見る冷戦①       | 旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。 |
| 第11回 | 第三世界から見る冷戦②       | 前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。                                                                |
| 第12回 | 構造調整の時代—第三世界の弱体化  | 旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。                                                        |

第13回 現代の諸問題

現在の英語圏および旧植民地地域について概観する。

第14回 期末課題の説明とまとめ

全体の復習をおこない、期末課題について説明する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

資料を配布する。

### 【参考書】

授業中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は次の通り。  
・各回の課題 (リアクションペーパーなど) の提出 (60%)  
・期末課題 (40%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

### 【その他の重要事項】

- ・受講希望者は必ず1回目の授業を受けてください。
- ・受講希望者が多い場合、抽選をおこないます。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries. [Learning objectives] Students will be expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the "Third World" and thus a different perspective on World History. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to review the audio-visual materials and the handouts. The required study time is at least four hours for each class session. [Grading policy] Final grade will be decided based on the following: short reports 60% and term-end examination 40%.

LIT300GA (文学 / Literature 300)

## 言語文化論Ⅱ

大野 口ベルト

授業コード：A3806 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えてくるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

## 【到達目標】

英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、随時リアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じてフィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

| 回  | テーマ       | 内容                                 |
|----|-----------|------------------------------------|
| 1  | イントロダクション | 授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。       |
| 2  | 日本的なるもの   | 「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。  |
| 3  | 詩歌を翻訳する 1 | 俳句の翻訳について考える。                      |
| 4  | 詩歌を翻訳する 2 | 和歌の翻訳について考える。                      |
| 5  | 日本語の淵源 1  | 『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。 |
| 6  | 日本語の淵源 2  | 『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。       |
| 7  | 物語の誕生 1   | 『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。       |
| 8  | 物語の誕生 2   | 『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。     |
| 9  | 私を書く 1    | 『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。         |
| 10 | 私を書く 2    | 『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。         |
| 11 | 社会を描く 1   | 『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。    |
| 12 | 社会を描く 2   | 『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。       |
| 13 | 日本語的なるもの  | 古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。   |

14 まとめ

今学期の内容をふりかえりつつ、近現代の日本語に起こった変化について考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

## 【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。  
クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

## 【成績評価の方法と基準】

平常点10%、中間レポート40%、期末レポート50%  
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業の特性を活かしつつ、対面と比較して遜色のない、臨場感ある講義を心がけたい。

## 【Outline (in English)】

This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.

To appreciate various works spanning across centuries of Japanese classical period, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course.

The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.

The grading criteria is as follows: 10% participation, 40% mid-term paper, and 50% final paper. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

CUA200BA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

## 民俗学 I

室井 康成

授業コード：A3809 | 曜日・時限：木5/Thu.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本民俗学の創始者・柳田国男 (1875 - 1962) の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

### 【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                                                                              |
|------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                | 本講義全体の趣旨を説明します。                                                                 |
| 第2回  | DVD『柳田国男—民俗の心を探る旅』の視聴と解説 | 柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。                                             |
| 第3回  | 生い立ちと貧困問題                | 柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。                                       |
| 第4回  | 関西から関東への転居               | 柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。                                      |
| 第5回  | 恋愛抒情詩人から農政官僚へ            | 柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。                          |
| 第6回  | 近代化論と農業政策論               | 柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。                         |
| 第7回  | 『遠野物語』を読む (1)            | 柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。                                               |
| 第8回  | 『遠野物語』を読む (2)            | 具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。                                             |
| 第9回  | 政策課題としての「民俗」の発見          | 柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。                                         |
| 第10回 | ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー     | 柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。                                |
| 第11回 | 民俗学の組織化と柳田国男の孤立          | 柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。                         |
| 第12回 | 日本の敗戦と新たな民俗学構想           | 柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。 |
| 第13回 | 「公民」養成論としての民俗学へ          | 戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。                             |

## 第14回 試験と総括

本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習 (2時間程度) のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます (随時)。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

### 【参考書】

室井康成『柳田国男の民俗学構想』(2010年、森話社)  
室井康成『政治風土のフォークローア—文明・選挙・韓国』(2023年、七月社)  
岩本通弥他編『民俗学の思考法—(いま・ここ)の日常と文化を捉える』(2021年、慶応義塾大学出版会)  
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介いたします。

### 【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します (試験100%)。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の3～4回前の授業時にお知らせします。  
・試験は実質的には机上レポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特ありませんが、近現代の日本および東アジアの歴史に興味がないと、退屈な時間を過ごさざるを得なくなります。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

#### 【Learning Objectives】

Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Reading the bibliography.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination;100%

CUA200BA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

## 民俗学Ⅱ

室井 康成

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本列島(北海道から鹿児島まで)の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡(戦死塚)が、管見の限り約1600ヶ所存在する。場合によっては1000年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、好奇の対象ともなっているが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

## 【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例(日本の場合はアジア・太平洋戦争)がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身につけることで、日本文化のより正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。また、講義内で講師へのアクセス方法を通知しますので、講義時間外でも質問等は受け付けます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                          |
|------|----------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション            | 講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。           |
| 第2回  | 民俗学の基礎知識             | 「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。           |
| 第3回  | 壬申の乱をめぐる戦死塚          | 古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。                |
| 第4回  | 平将門の反乱の歴史的意義         | 平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。              |
| 第5回  | 「空飛ぶ首」の伝承            | 平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。                |
| 第6回  | 一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚(1)    | 源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。        |
| 第7回  | 一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚(2)    | 一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。             |
| 第8回  | 楠木正成・新田義貞の戦死塚(1)     | 南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。 |
| 第9回  | 楠木正成・新田義貞の戦死塚(2)     | 楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。                   |
| 第10回 | 関ヶ原の戦いの戦死塚(1)        | 前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。    |
| 第11回 | 関ヶ原の戦いの戦死塚(2)        | 関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。           |
| 第12回 | 幕末・維新期の戦死塚           | 戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争(とくに鳥羽伏見の戦い)の事例を検討します。     |
| 第13回 | 彼我の分明-戦死塚をめぐる伝承の「近代」 | 戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。          |
| 第14回 | 試験と総括                | 本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。                |

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、自身で積極的に調べてください。また授業時間外の学習は、テキストの通読(2時間程度)および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

『日本の戦死塚-増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円(税別)

## 【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します(試験100%)。ただし、終講の3～4回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。  
・試験は実質的には机上レポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特にありませんが、日本史全体への興味がないと、講義中は退屈な時間を過ごすこととなります。ただし、上記の興味・知識がなくても、これを機会に本講義のテーマについて学んでみたいと考える履修生に対しては、丁寧に指導します。

## 【Outline (in English)】

## ・ Course outline

in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.

## ・ Learning Objectives

Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.

## ・ Learning activities outside of classroom

Review resumes and read references.

## ・ Grading Criteria /Policy

Written exam (100%) on the last day of the lecture

HIS200BA (史学/History 200)

## イスラム世界論 I

松本 隆志

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるように、イスラームという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

### 【到達目標】

この授業は、イスラームという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考えたための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生の課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                               |
|------|---------------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス         | 「イスラーム世界」とは何か？                   |
| 第2回  | 聖典『クルアーン』の世界  | イスラームにおける『クルアーン』とアラビア語の重要性について   |
| 第3回  | イスラームの教義      | 六信五行などイスラームの基本的な教義について           |
| 第4回  | イスラームの世界観     | ユダヤ教、キリスト教、イスラームに共通する一神教的世界観・宗教観 |
| 第5回  | イスラームの伝播      | ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラーム共同体の拡大     |
| 第6回  | イスラーム共同体の分裂   | 世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラーム共同体の変質       |
| 第7回  | イスラーム法の体系化    | アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系            |
| 第8回  | イスラーム神秘主義と聖者  | イスラームの伝播に果たした神秘主義教団の役割           |
| 第9回  | 西方のイスラーム王朝    | 北アフリカ・イベリア半島におけるイスラーム            |
| 第10回 | イスラームとキリスト教世界 | 交易や十字軍を通しての接触                    |
| 第11回 | モンゴルとイスラーム    | アッバース朝の滅亡とその影響                   |
| 第12回 | 20世紀のイスラーム①   | 第1次世界大戦後の国際社会とイスラーム              |
| 第13回 | 20世紀のイスラーム②   | 第2次世界大戦後の国際社会とイスラーム              |
| 第14回 | 総括            | 試験・まとめと解説                        |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みるものが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

### 【参考書】

菊地達也編著『図説イスラーム教の歴史』河出書房新社、2017  
 佐藤次高『イスラーム世界の興隆』中公文庫、2008  
 佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993  
 鈴木董編『バクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993  
 その他、授業中に随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40%）で評価する。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。レポート作成要領を5月中に配布するので、そちらに基づいて計画的にレポート作成に取り組むこと。毎回提出される課題に素点を付し、学期終了時に課題合計点を成績評価の40%に換算する。

### 【学生の意見等からの気づき】

もっと図像等でイメージを示してほしいとの声がありました。特に地図については必要性が高いと考えられるので、できるだけ授業内で示していきたいと思えます。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自PCやスマホ等を用意してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

### 【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.

#### 【Learning Objectives】

Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)

Students are allowed to look at the materials in the exam.

The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA (史学/History 200)

## イスラム世界論Ⅱ

松本 隆志

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラムをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もなお進行中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラムの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラム認識を相対化する視座を提供することを旨とする。

## 【到達目標】

この授業は、イスラム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラム、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせないイスラム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                            |
|------|------------|-------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス      | 本授業のテーマ、および授業への取り組み方について      |
| 第2回  | イスラムの基本概念  | 唯一神、預言者、クルアーンなど               |
| 第3回  | イスラムの儀礼・行事 | 巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラム的な慣習   |
| 第4回  | 食をめぐる規定    | ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネス       |
| 第5回  | イスラムとジェンダー | イスラムにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観の関係  |
| 第6回  | 日本におけるイスラム | 在日・滞日ムスリムコミュニティ               |
| 第7回  | スンナ派とシーア派  | イスラムの二大派閥の概要と歴史的背景            |
| 第8回  | イスラム法学     | イスラム法学の歴史的背景と現代での役割           |
| 第9回  | スーフィズム     | スーフィズム（イスラム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割 |
| 第10回 | イスラムと奴隷    | 前近代イスラム社会における「奴隷」のあり方         |
| 第11回 | イスラムの経済倫理  | 「リバー」の概念を中心としたイスラム特有の経済倫理     |
| 第12回 | イスラム原理主義   | 「原理主義」の歴史的背景と現状               |
| 第13回 | 現代の中東情勢    | 近現代史の文脈における「イスラム国」の経緯         |
| 第14回 | 総括         | 試験・まとめと解説                     |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。毎回授業資料をHoppiiにて配布します。

## 【参考書】

小杉泰、江川ひかり編、『イスラム：社会生活・思想・歴史』、新曜社、2006年。  
小杉泰ほか編、『大学生・社会人のためのイスラム講座』、ナカニシヤ出版、2018年。  
菊地達也編著、『図説イスラム教の歴史』、河出書房新社、2017年。  
その他、授業中に各テーマに適した参考文献を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40%）で評価する。レポート作成要領を10月中にHoppiiで配布予定。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。毎回提出の課題に素点を付し、学期終了時に合計点を成績評価の40%に換算する。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度授業のアンケートにおいて、イスラムとその歴史について予備知識がないと理解の難しい場面があったとの声がありました。それを踏まえ、適宜補足的な説明・解説を加えるよう心がけたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自PCやスマホ等を用意して、そちらで授業資料を閲覧してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

## 【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

## 【Learning Objectives】

This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.

## 【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Termend examination: 60%、Short reports : 40%

CAR200BA (キャリア教育 / Career education 200)

## 文学部生のキャリア形成

小寺 浩二、利根川 真紀、渡辺 弥生

授業コード：A3813 | 曜日・時限：金5/Fri.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」・「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界で活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方を話していただきます。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中で「働くこと」の意義・位置づけ(=キャリア)を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。

\*この授業は、就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

### 【到達目標】

以下の3つが到達目標です。

- ① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
- ② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要になるかを理解する。
- ③ 将来のライフプランを描くことができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連  
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連  
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連  
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連  
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連  
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦労などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行ないます。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。

授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行ないます。そのための時間を十分に確保します。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

| 回    | テーマ       | 内容                                        |
|------|-----------|-------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | ガイダンス(授業の目的と進め方、評価方法などの説明)と「ライフプラン」(4/12) |
| 第2回  | ゲスト講師の講演  | (1) ホテル業務(4/19)                           |
| 第3回  | ゲスト講師の講演  | (2) 地方公務員(市町村機関、総合職)(4/26)                |
| 第4回  | ゲスト講師の講演  | (3) 人事関係(5/10)                            |
| 第5回  | Workshop  | (1) キャリアセンター職員によるワークショップ(5/17)            |
| 第6回  | ゲスト講師の講演  | (4) 私立中高校教師(5/24)                         |
| 第7回  | ゲスト講師の講演  | (5) 教育(大学職員)(5/31)                        |
| 第8回  | ゲスト講師の講演  | (6) 公立中学教師(6/7)                           |
| 第9回  | ゲスト講師の講演  | (7) 鉄道会社(経営企画)(6/14)                      |
| 第10回 | Workshop  | (2) サービス業(6/21)                           |
| 第11回 | ゲスト講師の講演  | (8) IT関係・外資系(6/28)                        |
| 第12回 | ゲスト講師の講演  | (9) 民間放送業(総合職)(7/5)                       |
| 第13回 | ゲスト講師の講演  | (10) 法人向け地図商材の企画(7/12)                    |
| 第14回 | まとめ       | 総括レポート作成(7/19)                            |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの職種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください(いわゆる業界研究)。

この講義の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

### 【参考書】

適宜お知らせします。

### 【成績評価の方法と基準】

①毎回の小レポート(10～15分程度でまとめるもの)

②学期末レポート

※①②は成績評価のために必須とします。

・上記①・②の内容が一定の基準を満たしていると判断されれば、「P」評価(合格)となり、単位が認定されます。条件を満たしていないと判断された場合「F」評価(不合格)となり、単位は認定されません。

・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしない小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。

・また、4回以上の欠席がある場合にはF評価とします。10分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻2回で欠席1回とカウントします。

・「未受験代替措置」を申請可能な欠席(競技参加による欠席、教職実習、介護実習、就職活動での採用選考、学校保健安全法に定める感染症に罹患、忌引き、などによる欠席)であることを証明する文書が提出された場合は、欠席扱いとはしません。

・Zoomへの接続時間には十分気を付け、午後4:50までに接続して出席してください。

・第1回のガイダンスには必ず出席し、2回目から慌てないように、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

### 【学生の意見等からの気づき】

「様々な職業の方のお話が聞けて有意義な時間を過ごすことができました」、「様々な職種、経験をしてきた先輩方の話を聞くことで就活とその先の社会人になったときのイメージが鮮明になってよかった」、「文学部は就活で苦労する、という言葉や度々耳にしていたため不安に思った時もあったが、講師の方々が様々な業界で活躍しているのを知って安心できた」といったポジティブな意見が多く寄せられました。担当教員一同、この授業の意義を再確認しました。

その一方で、授業の形態については批判的な意見が散見されました。具体的には、「授業開始10分前からズームに参加していたが、授業開始時間ギリギリに入室許可されるのが度々あったため改善して欲しい」、「毎回の課題の時間がギリギリになって焦るのももう少し時間が欲しい」、「ZoomのURLは毎授業変えないで行っていただくと入室しやすいですし、混乱しなくて済むと思います」といった意見です。これらの意見は、2024年度の担当教員に引き継いで、改善できないか検討いたします。

オンライン授業で、ゲスト講師の先生方に無事お話しいただけるよう支援しながら、約200名の欠席を管理するのは、なかなか大変です。皆さんに多少の負担はかかってしまうかもしれませんが、ご協力のほどよろしくお願い致します。

### 【その他の重要事項】

☆2024年度もオンラインで実施します。

①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。

②定員は200名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者(授業レポート提出者)の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。

③担当教員が全授業に同席し、担当します。

④本学を卒業し、公務員、教員、教育、放送、交通、サービス業など様々な職種での勤務経験を有する講師が、オムニバス形式により、それぞれの職種における業務内容、仕事と様々なライフイベントとの関係、卒業後のキャリア形成に向けた学部時代の学びなどについて講義をします。

⑤写真撮影、録画および無断転載・無断アップロードを禁止します。

### 【Outline (in English)】

This aim of this course is to let students understand the basic knowledge and skills which are needed to help students decide their future jobs.

This careers education course provides an ideal stepping stone for students seeking to enter the career development profession.

Guest speakers, Hosei graduates, from a variety of fields will give a talk about job search techniques and their job search experiences.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: If the content of each short report and the end-of-term report are judged to meet specific criteria, the student will receive a "P" grade (pass), and credit will be awarded. If it is determined that the requirements are not met, the student will receive an "F" grade (Fail), and no credits will be awarded.

CAR200BA (キャリア教育 / Career education 200)

## 現代のコモンセンス

内藤 一成、西塚 俊太、王 安

授業コード：A3814 | 曜日・時限：金5/Fri.5  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。  
 この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

## 【到達目標】

- ①自分自身を顧み、改善できるようになる。
- ②対人関係を顧み、改善できるようになる。
- ③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
- ④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連  
 日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連  
 英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連  
 史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連  
 地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連  
 心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

オンラインで行う。学内外から招いた講師による60分程度の講義・それに伴う質疑・応答。そして授業の最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出してもらう。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行う。そのための時間を十分に確保する。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

| 回    | テーマ       | 内容                                                |
|------|-----------|---------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション | 担当教員によるガイダンスと講義                                   |
| 第2回  | 社会と規範1    | LGBTと日本の性教育                                       |
| 第3回  | 実践と倫理1    | 調整中（第1回 ガイダンス時にお知らせします）                           |
| 第4回  | 社会と規範2    | ビジネス・コンプライアンス入門                                   |
| 第5回  | 対人問題      | 発達障害とパーソナリティ障害                                    |
| 第6回  | 実践と倫理2    | 安楽死は認められるか                                        |
| 第7回  | 社会と規範3    | 国際条約、国際的契約、                                       |
| 第8回  | 社会と規範4    | Global Goods（国際公益）とはなにか<br>自律的キャリアを紡ぐためのモラルとマナーとは |
| 第9回  | 実践と倫理3    | 働き方を変える主体は「耐える」「辞める」以外の選択肢を考えるー                   |
| 第10回 | 実践と倫理4    | 著作権の現在地——創作・媒介・受容をめぐって                            |
| 第11回 | 社会と規範5    | 身近なハラスメントとDV                                      |
| 第12回 | 社会と文化     | 日本庭園を通して見た世界                                      |
| 第13回 | 社会と規範6    | 大学生の消費者問題と法                                       |
| 第14回 | まとめ       | 総括 レポート課題の呈示                                      |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にはなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静且つ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返し行う。  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

指定しない。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

到達目標に挙げた省察力や改善力、表現力や伝達力、諸問題への対処力の現れが小レポートや学期末試験の評価基準となる。

①毎回の小レポート（10～15分程度でまとめるもの）の成績（80％）

②学期末レポートの成績（20％）

※①②は成績評価のために必須とします。

・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしないで小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。

・また、4回以上の欠席がある場合にはE評価とします。10分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻2回で欠席1回とカウントします。

・Zoomへの接続時間には十分気を付け、午後4：50までに接続して出席してください。

・「未受験代替措置」を申請可能な欠席（競技参加による欠席、教職実習、介護実習、就職活動での採用選考、学校保健安全法に定める感染症に罹患、忌引き、などによる欠席）であることを証明する文書が提出された場合は、欠席扱いとはしません。

※第1回のガイダンスには必ず出席し、2回目から慌てないように、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんからは、これまでも有益な意見を数多くいただいています。こうした声をできるだけ活かしながら、現代のコモンセンスを考える授業を行いたいと思います。

## 【その他の重要事項】

①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。

②担当者が全授業に同席し、担当します。

③成績評価の仕方や授業の進め方などについて、初回の授業で説明をしますので、必ず初回の授業に出席してください。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline and learning objectives】

This course aims to learn various approaches to solving the problems our society faces today. Many social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding by participating in group activities and individual literature studies.

## 【Learning activities outside of the classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

## 【Grading Criteria/Policies】

The manifestation of the ability to reflect and improve, to express and communicate, and to deal with various problems, as listed in the learning objectives, will be the criteria for evaluation in small reports and the end-of-semester examination.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (80%), term-end report (20%).



HUG200BA (人文地理学 / Human geography 200)

## 歴史地理学 (1)

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水 1/Wed.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年  
備考(履修条件等)：「歴史地理学 I」を修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理  
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」(神社仏閣・芸術品・祇園祭など)が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世~近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

### 【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史地理学について説明します。2. 日本における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1~3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ観賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします。授業の効率化のため紙での配布しません。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                                                |
|------|---------------------|---------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス               | 授業内容・授業方法の説明, 成績評価の基準など                           |
| 第2回  | 「遺産」と歴史地理学          | 日本・欧米における歴史地理学の方法論                                |
| 第3回  | 日本における歴史的遺産と文化財保護制度 | 歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ              |
| 第4回  | 「世界遺産」と各国・各地域の関係    | ユネスコの世界遺産制度について学ぶ                                 |
| 第5回  | 身近な地域から歴史地理学を考える    | 法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ                 |
| 第6回  | 奈良の歴史地理             | 奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ                 |
| 第7回  | 京都の歴史地理①            | 都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ                        |
| 第8回  | 京都の歴史地理②            | 豊臣秀吉による京都改造、江戸時代の京都の名所、近代・現代の歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ |
| 第9回  | 伏見の歴史地理             | 豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ                    |
| 第10回 | 江戸東京の歴史地理①          | 江戸の都市構造、江戸の名所について学ぶ                               |
| 第11回 | 江戸東京の歴史地理②          | 東京の都市構造、東京の名所、人々の観光行動の変化について学ぶ                    |
| 第12回 | 大阪の歴史地理①            | 石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ                      |
| 第13回 | 大阪の歴史地理②            | 近代以降の大坂城の意義、大阪のまちづくり                              |
| 第14回 | 歴史観光都市・観光地の取り組み     | 京都の祇園祭と現在                                         |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

### 【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内試験50%、平常点50%で評価いたします。

### 【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します(紙での配布はしません)。随時確認することができるように、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

### 【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and practice about historical geography of heritage and tourism.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination:50% and in class contribution:50%

HUG200BA (人文地理学 / Human geography 200)

**歴史地理学 (2)**

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考(履修条件等)：「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

**【到達目標】**

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。

大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。授業の効率化のため、紙での配布はありません。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                       | 内容                                         |
|------|---------------------------|--------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                     | 授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について                  |
| 第2回  | 画像資料を通して地理的認識をめぐる歴史地理学    | 画像資料の利用方法を中心に、新しい歴史地理学の方法について学ぶ            |
| 第3回  | 蝦夷地の歴史地理                  | 蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ                     |
| 第4回  | 古地図から見た蝦夷地①               | 蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史                         |
| 第5回  | 古地図から見た蝦夷地②               | ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地                       |
| 第6回  | 旅行記から見た蝦夷地・北海道①           | 松浦武四郎とライマンの旅行記から見た蝦夷地・北海道                  |
| 第7回  | 旅行記から見た蝦夷地・北海道②           | 松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える              |
| 第8回  | 風景画から見た北海道・札幌①            | 風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係                 |
| 第9回  | 風景画から見た北海道・札幌②            | 開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える                   |
| 第10回 | 北方領土問題①                   | NHKスペシャルを鑑賞する                              |
| 第11回 | 北方領土問題②                   | 日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える                   |
| 第12回 | 千島列島(クリル諸島)・樺太(サハリン)の歴史地理 | 千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ               |
| 第13回 | 現代に生きるアイヌ民族の若者たち          | NHKスペシャルを鑑賞する                              |
| 第14回 | 日本におけるアイヌ民族の法的地位と文化振興     | 日本における先住民政策史をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的状況についておさえる |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民に関する文献も自分で探して読んでみてください。

**【テキスト(教科書)】**

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局を使います。授業に持参してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

**【参考書】**

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内試験50%、平常点50%で評価いたします。

**【学生の意見等からの気づき】**

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

**【学生が準備すべき機器他】**

基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで捕捉しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します(紙での配布はしません)。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

**【その他の重要事項】**

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

**【Learning Objectives】** The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

**【Learning activities outside of classroom】** Your study time will be more than 4 hours for a class.

**【Grading Criteria】** Term-end examination: 50% and in class contribution:50%

BME200NA (人間医工学 / Biomedical engineering 200)

## 福祉工学

川瀬 利弘

授業コード：A3821 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

備考 (履修条件等)：デザイン工学部主催科目

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

### 【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。  
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

| 回  | テーマ                      | 内容                                                                    |
|----|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 1  | 福祉工学概論                   | ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。                       |
| 2  | 生体計測1：概論                 | 福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。                        |
| 3  | 生体計測2：生体の電気的現象           | ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。                                  |
| 4  | 生体計測3：電気的計測              | 生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。         |
| 5  | 生活支援工学1：義肢・装具            | 義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。                           |
| 6  | 生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス | リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。                                   |
| 7  | 生活支援工学3：人工感覚             | 五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。                                          |
| 8  | 生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース | 脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモを行う。              |
| 9  | 治療工学1：医療用ロボット            | 手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。                                     |
| 10 | 治療工学2：医療画像               | 障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。                                 |
| 11 | 治療工学3：医療のための情報技術         | 人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。                                 |
| 12 | 治療工学4：医療のためのメカトロニクス      | 医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。                                         |
| 13 | 福祉工学と感性                  | 障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。                                    |
| 14 | 福祉・医療機器のこれから             | 福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。義手に関する身体錯覚実験のデモを行う。 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業内に資料を配布するため不要

### 【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』(中公新書)

『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』(春秋社)

『メカ屋のための脳科学入門：脳をリパースエンジニアリングする』(日刊工業新聞社)

『医用工学の基礎』(東京電機大学出版局)

『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社新書)

### 【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。

基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand the basic principles of welfare engineering
- To understand the basic principles and the latest status of various technologies in this field
- To think about welfare and medical instruments based on a general understanding of physiology and neuroscience.

Learning activities outside of classroom:

For the report at the end of the term, students will survey a specific area of welfare engineering and summarize their thoughts about the area.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy:

Grading will be decided based on quizzes in each lecture (50%) and report at the end of the term (50%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

## 文化史 1 (資格)

伊藤 直樹

授業コード：A3851 | 曜日・時限：火1/Tue.1  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、縦軸に古代ギリシア文化をとり、横軸に演劇をとって講義をすすめる、アリストテレスの詩学、ギリシア悲劇、ニーチェ『悲劇の誕生』などを扱います。

かつて自然は、人間の文化を制約していました。しかし、人間はその制約を一つずつ取り払って行き、現代は、その制約をなきものにしてしまう勢いです。その結果のひとつがAIでしょう。では、科学によって取り払われてきた、その「制約」とはどんなものなのでしょうか。古代ギリシアの場合、それは「神の秩序」です。人間はその秩序に支配され、受け入れ、しかし反抗し、そして人間自身の秩序を生み出そうとします。ギリシア悲劇が描こうとするのは、そうしたつばぜり合いであり、それが「ドラマ」のひとつの原型となるのです。

本講義では、このつばぜり合いとしてのドラマであるギリシア悲劇を中心に据えて講義を進めます。

本講義を受講することによって、受講生は、ギリシア悲劇の理解とドラマの本質についての理解を得ることができます。

### 【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

前提として、ギリシア神話についての知識が必要なので、学習支援システムで、マンガ形式の『ギリシア神話』を資料として示します。目を通しておい

てください。  
 はじめは、アリストテレスの『詩学』から入ります。『詩学』——と聞くと、なんだか難しそうなお作品ですが、光文社古典新訳文庫の帯が、その特徴を的確に述べています。「2000年間、クリエイターたちの必読書である。「ストーリー創作」の原点。」そのとおり、どうすればよいドラマ (悲劇) が出来るのか、を論じている作品です。次に、ギリシア悲劇の全体像にふれます。三大悲劇作家、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスです。とくに、ソフォクレス『オイディプス王』をていねいに解説します。〈オイディプス〉は、フロイトのエディプス・コンプレックスの元になった話ですね。ここでは神と人間が抜き差しならないしかたで対峙しています。そのうえで、この舞台の映像を観ます。さらに、ニーチェによるギリシア悲劇の解釈である『悲劇の誕生』を扱います。この著作のキーワードは「ディオニュソスとアポロン」ですね。アリストテレスや『オイディプス王』を知った目からすると、この解釈がよりよくわかるでしょう。そして最後に、ドイツの哲学者H-G・ガダマーの『真理と方法』での芸術論を扱います。ガダマーの芸術論が念頭に置いているのは演劇です。ギリシア悲劇も射程に入っています。  
 毎回、リアクションペーパーを書いてもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うようにします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
 なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                              |
|------|--------------------|---------------------------------|
| 第1回  | はじめに               | 下記の【その他の重要事項】の部分を参照してください。      |
| 第2回  | ギリシア神話について         | ギリシア神話の魅力について                   |
| 第3回  | アリストテレスの『詩学』(1)    | アリストテレス思想の全体像                   |
| 第4回  | アリストテレスの『詩学』(2)    | アリストテレスの『詩学』について；ミメーシス、歴史との違いなど |
| 第5回  | アリストテレスの『詩学』(3)    | アリストテレスの『詩学』続き；カタルシスなど          |
| 第6回  | ギリシア悲劇について(1)      | ソフォクレス『オイディプス王』について             |
| 第7回  | ギリシア悲劇について(2)      | 『オイディプス王』を観る                    |
| 第8回  | ニーチェ『悲劇の誕生』について(1) | ニーチェ思想の全体像                      |
| 第9回  | ニーチェ『悲劇の誕生』について(2) | ディオニュソスとアポロン                    |
| 第10回 | ニーチェ『悲劇の誕生』について(3) | ソクラテス主義と悲劇の死                    |
| 第11回 | ガダマーの芸術論(1)        | ガダマー思想の全体像                      |

第12回 ガダマーの芸術論(2) 芸術と遊び  
 第13回 ガダマーの芸術論(3) 形態化への変貌、ミメーシスの本質  
 第14回 まとめ 授業全体を回顧してまとめる

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業内容を自分なりに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業ごとに、資料を配布する。

### 【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート70%、授業への積極的な貢献度 (コメントカードの記述など) 30%、となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

マンガや映像などを取り入れ、かつディスカッションなども行った点が、受講生の理解に資することになったようである。今年度も、そうした方法を取り入れたい。

### 【Outline (in English)】

This course deals with Greek tragedy, Aristotle's Poetics, Nietzsche's The Birth of Tragedy, etc. By taking this course, students acquire an understanding of Greek tragedy and the nature of drama. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

## 文化史 2 (資格)

伊藤 直樹

授業コード：A3852 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

まず自伝の本質とは何かということについて解説する。自分が自分について語る自伝には固有の真実がある。客観的な事実が書かれてあるわけでもなく、かといって虚構が書かれているのでもない。その中間にある。ここに自伝の魅力がある。作品として、アウグスティヌス『告白』、ルソー『告白』、ゲーテ『詩と真実』、フランクリン『フランクリン自伝』、福沢諭吉『福翁自伝』をとりあげ、その時代状況のなかで読み解いてゆく。その上で、受講生全員が、任意の自伝を選びそれについて発表する。最後に、レポートで、上記の自伝を読み、その内容から得たものを報告する。さらに、自分で短い自分史を書く。昨年度、受講生が自ら取り上げた自伝には、次のようなものがあった。ダニエル・タメット『まくには数字が風景に見える』、アガサ・クリスティー『アガサ・クリスティー自伝』、伊沢拓司『東大生クイズ王』、柳田國男『故郷七十年』、坂本龍一『ぼくはあと何回、満月を見るだろう』、乙武洋匡『五体不満足』、いろいろありました。この授業を受講することによって、自伝の本質を理解することができます。

### 【到達目標】

この授業では、「自伝」とはなにか、また著名な自伝はどのようなものであるかを、それぞれの作品が置かれている歴史的、地理的状況を踏まえつつ解説してゆく。受講生の大半は、「自伝」という言葉を知ってはいるが、実際に「自伝」にふれたことがない。しかし、受講生は、この講義を通して、「自伝」についての確実な知識を得て、かつ複数の「自伝」に目を通したことがあることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて、自伝一般について、また重要な自伝について講義をする。毎回、リアクション・ペーパーを配布し、それに応答しつつ理解を深める。そのうえで、受講生に、任意の一つの作品をとりあげて紹介してもらおう。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                                  | 内容                                               |
|------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション<br>—「学生に対する評価」を中心とした、シラバスの内容説明；自伝とはなにか (1) | 自伝の定義：ルジュヌスなどを手がかりに、自伝とはなにかということを明らかにします。        |
| 第2回  | 自伝とはなにか (2)                                          | 自伝において、自己を語るということについて解説します。                      |
| 第3回  | アウグスティヌス『告白』 (1)                                     | アウグスティヌスという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。               |
| 第4回  | アウグスティヌス『告白』 (2)                                     | アウグスティヌスの『告白』の構造を説明します。                          |
| 第5回  | ルソー『告白』 (1)                                          | ルソーという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。                    |
| 第6回  | ルソー『告白』 (2)                                          | ルソーの『告白』の構造を説明します。                               |
| 第7回  | ゲーテ『詩と真実』 (1)                                        | ゲーテという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。                    |
| 第8回  | ゲーテ『詩と真実』 (2)                                        | ゲーテの『詩と真実』の構造を説明します。                             |
| 第9回  | 『フランクリン自伝』                                           | ベンジャミン・フランクリンという人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。        |
| 第10回 | 『福翁自伝』                                               | 福沢諭吉という人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。                 |
| 第11回 | ボーヴォワールの自伝を読む                                        | ボーヴォワールの、『娘時代』『女ざかり』などをとりあげ、紹介します。               |
| 第12回 | 自分史について                                              | 「自分史」について紹介します。                                  |
| 第13回 | 自伝紹介 1                                               | 受講生に、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。                         |
| 第14回 | まとめ                                                  | 全体を振り返り、クラス全体で自伝についての意見交換をします。そしてレポート提出をしてもらいます。 |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

11月末に、自伝紹介レポートを提出してもらうので、それまでの講義を受けながら、自分なりに自伝とはなにかを問い、紹介すべき自伝を探す。そのうえで、紹介文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教科書となるような特定のテキストは用いません。

### 【参考書】

取り上げる自伝は、次のものです。アウグスティヌス『告白』岩波文庫ほか、ルソー『告白』岩波文庫ほか、ゲーテ『詩と真実』岩波文庫ほか、ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫、福澤諭吉『福翁自伝』岩波文庫

### 【成績評価の方法と基準】

自伝紹介レポートの提出および発表。(自分自身で、任意の自伝を選び、それを読んで授業内で発表する。)課題レポート。(授業内で取り扱った自伝作品についてのレポート。)授業への積極的な貢献度(コメントカードの記述など) 30% レポート70% 自伝紹介レポートでは、講義された内容を踏まえつつ、受講生自らが自伝を選定し、読んで報告する。これが課題レポート提出の必要条件となる。次いで、課題レポートでは、講義内容、自分で自伝紹介を踏まえて、さらに、講義内容で扱われたテキストに自らあたることによって、自伝の理解を確認してもらう。※定期試験は実施しない

### 【学生の意見等からの気づき】

次の受講生に向けて、コメントを書いてももらいました。「時代や歴史・時の流れを横軸にとりつつ、いかに自分の生き様を描くか、普遍的な歴史の中でどうやって個を表すか、この交点が自伝なのだ学びました。伝記や評論と異なるのは、自分自身が語り手となることでしょう。自分の視点が入るからこそ、たんなる歴史書や日記、エッセイを超えた別物になるのではないかと思います。」「自伝について「その人の考えを知る」というより、「その人をそうさせている背景を知る」ことができるのが面白かったです。時代や立場など、そのひとがそう思考する背景は、個人の性格などと同じくらい行動や考えに影響を与えているのだと、複数の自伝を比べるなかで理解できました。私の書いた、また他の方の書いた自分史は、50年後、100年後にどのように受けとられるのだろうか、無自覚に私の思考に影響している「背景」について考えるきっかけになりました」。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the autobiography. By taking this course, students acquire an understanding of Essence of Autobiography. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

## 美術史 (西洋) A (資格)

安藤 智子

授業コード：A3853 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

## 【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の鑑賞者の特徴、美術制度や社会状況を踏まえた上で、多角的・重層的に捉える視点を持って、芸術作品を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。

講義では、パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。授業の最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。

このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるの留意すること。

中間、期末の課題については授業中に十分解説し、日本語の記述についても説明を加える。中間課題は期末課題の準備と位置づけ、中間課題が一定のレベルに達していない学生については適宜指導を行う。春学期は西洋美術史を学習する上での基礎編、秋学期はその応用編といった構成になっている。できれば秋学期も通じ、1年間受講してほしい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                           |
|------|----------------------|----------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                | 授業の概要と展覧会情報<br>美術史の学習方法・参考文献                 |
| 第2回  | 美術史の基礎概念             | 美術におけるジャンルとは？                                |
| 第3回  | 美術史の基礎用語             | 絵画鑑賞の基礎となる概念及び造形的な要素を説明する                    |
| 第4回  | 絵画のジャンル① 神話画・宗教画     | ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画を見ていく |
| 第5回  | 絵画のジャンル② 寓意画         | 「アレゴリー」という概念を説明しながら、寓意画を読み解く                 |
| 第6回  | 絵画のジャンル③ 肖像画・風景画・風俗画 | 物語画以外のジャンルの絵画について外観する                        |
| 第7回  | 物語から表象へ              | 聖書の主題である「受胎告知」を例にとり、テキストから絵画イメージへの変換の過程を検証する |
| 第8回  | ロココ芸術                | ロココの芸術を中心に、主に王侯貴族がパトロンであった時代の絵画を見る           |
| 第9回  | フランス革命期の絵画           | 新古典主義の絵画を中心に、フランス社会が変容した時代の絵画を検証する           |
| 第10回 | ロマン主義の絵画             | 時事的な主題を扱った作品や人間の暗部に焦点を当てたロマン主義の絵画を紹介する       |

|      |          |                                       |
|------|----------|---------------------------------------|
| 第11回 | 都市と自然①   | 文化が花開く都市を描いた作品と農業が営まれる自然を描いた作品を対比して見る |
| 第12回 | 都市と自然②   | とくに都市改造計画で一新したパリの様子や人々の姿を描出した絵画を考察する  |
| 第13回 | 美術館見学    | 美術館で実際に作品を見て考察する                      |
| 第14回 | まとめと質疑応答 | これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する         |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

美術館にできるだけ出向いて、常設のコレクションや企画展に展示されている実際の美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』を部分的に読み1章につき要約をすることを中間か期末の課題とする。授業では教科書は使用せず、参考文献を授業中に適宜紹介する。

## 【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24巻、1993-96年  
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年  
三浦篤『まなごしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年  
三浦篤『まなごしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年  
E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート (30%) 学期末レポート (40%) と、平常点 (主に授業で紹介した作品に対するコメント、30%) を参考に成績評価を決定する。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含む。

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。また状況が許せば展覧会見学も実施したい。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.**Learning Objectives:** The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.**Learning Activities Outside of the Classroom:** If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.**Grading Criteria/Policy:** The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (30%) and papers submitted in the middle and at the end of the course (30% and 40% respectively).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

美術史 (西洋) B (資格)

安藤 智子

授業コード：A3854 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。

芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。

パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。

授業最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。

このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるの留意すること。

中間、期末の課題については授業中に十分解説し、日本語の記述についても説明を加える。中間課題は期末課題の準備と位置づけ、中間課題が一定のレベルに達していない学生については適宜指導を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                      | 内容                                                                 |
|-----|--------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス                    | 授業の概要<br>美術史へのアプローチ                                                |
| 第2回 | 美術史の基礎概念と基礎用語            | 作品主題のジャンル<br>造形性を表す用語の確認                                           |
| 第3回 | 筆触の多様性～印象主義から新印象主義へ      | 美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する                                |
| 第4回 | 視点とパースペクティブ～セザンヌからキュビズムへ | 絵画空間における視点、及びパースペクティブに着目し、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を確認する。 |
| 第5回 | 素朴さへの憧れ～ゴッホとゴッホ          | 近代社会の進歩や工業化に反発し、非西洋文明のイメージを具現化したゴッホやゴッホの絵画を検証する                    |
| 第6回 | 異文化との出会い①                | 19世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化が波及する過程を追う                         |
| 第7回 | 異文化との出会い②                | 主に19世紀のフランス美術が日本の彩色木版画(浮世絵)から受けた影響について紹介する                         |
| 第8回 | 写真と絵画                    | 19世紀に登場した写真が及びした視覚芸術への影響を考察する                                      |
| 第9回 | アヴァンギャルド芸術①              | 20世紀初頭の、フォーヴという美術運動、それに続く西欧社会の軍国主義を反映したイタリア未来派の絵画について考察する          |

|      |                   |                                                      |
|------|-------------------|------------------------------------------------------|
| 第10回 | アヴァンギャルド芸術②       | 20世紀初頭に現出した美術運動であるダダとシュルレアリスムについて解説する                |
| 第11回 | 抽象絵画              | 対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する |
| 第12回 | 美術市場の形成           | 19世紀から20世紀にかけて、画商やコレクターの活動を参照し、個人コレクションが形成される過程を見る   |
| 第13回 | 美術館見学             | 実際に芸術作品を見て考察を深める                                     |
| 第14回 | 双方向の授業によるディスカッション | これまでの総括<br>芸術と社会との関係性を包括的に考える                        |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

できれば、春学期と通年で履修してください。

様々な美術館の展覧会に向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』を部分的に読み、その中の1章を要約する課題を出す予定です。

また授業の内容に沿って参考図書を紹介していきます。

【参考書】

世界美術大全集 西洋編、小学館、19-24巻、1993-96年  
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年  
三浦篤『まなごしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年  
三浦篤『まなごしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年  
E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、中間レポート(30%) 学期末レポート(40%)と、平常点(主に授業で紹介した作品についてのコメント、30%)を参考に成績評価を決定する。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容に沿って、開催中の展覧会を紹介する。

状況が許せば、展覧会見学を行いたい。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.

**Grading Criteria/Policy:** The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (30%) and papers submitted in the middle and at the end of the course (30% and 40% respectively).

HIS200BE (史学 / History 200)

**考古学概論 (資格)**

小倉 淳一

授業コード：A3855 | 曜日・時限：月2/Mon.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

**【到達目標】**

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。  
考古学的方法が発達する過程が理解できる。  
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

主に学史的観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。  
授業方法は講義形式による。受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。  
質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー (月曜5限) で対応する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ             | 内容                   |
|------|-----------------|----------------------|
| 第1回  | ガイダンス           | 授業の概要と方法・評価基準        |
| 第2回  | 考古学とは何か         | 考古学の本質               |
| 第3回  | 古代日本における考古学的認識  | 考古学的営為を試みた先人たちの展開    |
| 第4回  | 近世日本における学術的展開   | 近代科学につながる学術的先駆者たちの展開 |
| 第5回  | ヨーロッパ考古学の展開     | 古典考古学と先史考古学          |
| 第6回  | 層位学と型式学         | 学術的方法の整備             |
| 第7回  | 近代科学として導入された考古学 | 外国人による近代の考古学的営為      |
| 第8回  | 人種・民族論争と記紀      | 近代考古学を担った日本人研究者たち    |
| 第9回  | 実証主義研究の展開       | 貝塚研究と編年学派            |
| 第10回 | 戦時体制と考古学        | 言論統制と考古学             |
| 第11回 | 戦後考古学の光と影 (1)   | 岩宿遺跡と登呂遺跡            |
| 第12回 | 戦後考古学の光と影 (2)   | 大規模開発と遺跡破壊           |
| 第13回 | 現代と考古学 (1)      | 関連諸科学と考古学            |
| 第14回 | 現代と考古学 (2)      | 文化財保護行政と考古学          |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しない。参考書を参照すること。

**【参考書】**

佐々木憲一ほか (2011) 『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰 (1995) 『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』(全9巻)

**【成績評価の方法と基準】**

論述式の筆記試験 (参照不可) による評価を70%とし、平常点による評価を30%とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

**【その他の重要事項】**

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to provide students with an overview of archaeology and its methods, and to understand its academic and historical development.

Students will be able to explain the process of academic development of archaeology, particularly in Japan, and the relationship between archaeology and related sciences.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and normal score (30%).



HIS200BE (史学/History 200)

## 日本考古学 (資格)

小倉 淳一

授業コード：A3856 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジア史の中に位置付けて講義する。

考古学資料にもとづく交流の歴史を学び、日本列島史に対する理解を深める。

### 【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。

各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義を行う予定。プリント等の資料も利用する。

質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業内を行うかオフィス・アワー (月曜5限) で対応する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ               | 内容                              |
|------|-------------------|---------------------------------|
| 第1回  | 概要説明              | 授業の概要と方法・評価基準<br>この授業で扱う時代概要の解説 |
| 第2回  | 旧石器時代のアジアと日本列島(1) | 文化交流基盤の形成                       |
| 第3回  | 旧石器時代のアジアと日本列島(2) | 縄文文化形成への道程                      |
| 第4回  | 旧石器・縄文時代の海洋利用     | 海を渡る丸木舟                         |
| 第5回  | 弥生文化と対外交流(1)      | 弥生文化の外来的要素・在来的要素                |
| 第6回  | 弥生文化と対外交流(2)      | 稲作技術と集落遺跡                       |
| 第7回  | 弥生文化と対外交流(3)      | 倭人の対外交渉のはじまり                    |
| 第8回  | 弥生文化と対外交流(4)      | 『魏志』倭人伝の世界                      |
| 第9回  | 弥生文化と対外交流(5)      | 玉生産と対外交渉                        |
| 第10回 | 古墳文化と対外交流(1)      | 前方後円墳と船載鏡                       |
| 第11回 | 古墳文化と対外交流(2)      | ヤマト王権の対外交渉                      |
| 第12回 | 古墳文化と対外交流(3)      | 渡来系技術と遺物                        |
| 第13回 | 古墳文化と対外交流(4)      | 磐井の乱と朝鮮半島の墳墓                    |
| 第14回 | 考古学からみた交流史        | 成果(レポート)提出と講評                   |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』(1)～(3) (新版)有斐閣、鈴木公雄(1988)『考古学入門』東京大学出版会、佐々木憲一ほか(2011)『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰(1995)『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』(全9巻)などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第01巻～第03巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

### 【成績評価の方法と基準】

成績の70%は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は30%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

準備学習に力を入れてほしい。また、各回の内容はレポートを書くための重要なヒントになっている。成績の高い学生は出席率も高く、授業の理解度が好成績に結びついている。

また、資格課程の関連科目として開講している関係もあるため、史学科以外の受講者も一定数を占めているが、受講にあたっては基礎知識を深めておく必要がある。概説書等の講読を推奨する。

### 【その他の重要事項】

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japanese archipelago and other areas through archeological materials. Students will be able to understand archeological materials in relation to their interactions with China and Korea, and explain their historical development and significance.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each.

The final grade will be calculated based on the final report (70%) and normal score (30%).

HIS200BE (史学/History 200)

**美術史 (日本) A (資格)**

稲本 万里子

授業コード：A3857 | 曜日・時限：水5/Wed.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を中心に、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。

作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。

**【到達目標】**

- ・ 授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
- ・ 各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史と仏教彫刻についての概説をおこなったうえで、飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                 | 内容                 |
|------|---------------------|--------------------|
| 第1回  | ガイダンス               | 授業内容の説明            |
| 第2回  | 美術史概説               | 美術史の研究手法、ジャンル、時代区分 |
| 第3回  | 展覧会の見方              | 独立行政法人化と指定管理者制度    |
| 第4回  | 仏教彫刻の見方、飛鳥時代の仏教彫刻 I | 尊像名と図像、法隆寺金堂釈迦三尊像  |
| 第5回  | 飛鳥時代の仏教彫刻 II        | 法隆寺救世観音像と百済観音像     |
| 第6回  | 白鳳時代の仏教彫刻           | 薬師寺薬師三尊像の制作期       |
| 第7回  | 天平時代の仏教彫刻           | 塑造と脱活乾漆造           |
| 第8回  | 天平時代の工芸             | 正倉院宝物              |
| 第9回  | 天平・平安時代の仏教彫刻        | 木彫の成立              |
| 第10回 | 平安時代の仏教彫刻 I         | 東寺講堂諸尊と両界曼荼羅       |
| 第11回 | 平安時代の仏教彫刻 II        | 平等院鳳凰堂の世界          |
| 第12回 | 鎌倉時代の仏教彫刻           | 運慶と快慶              |
| 第13回 | 授業のまとめ I            | 筆記試験の説明            |
| 第14回 | 授業のまとめ II           | 飛鳥時代～鎌倉時代の様式展開     |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

準備・復習時間は各2時間を標準とする。講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

**【参考書】**

参考図版として、『奈良六大寺大観』全14巻 (岩波書店、1968～1973)、『大和古寺大観』全7巻 (岩波書店、1976～1978)、『平等院大観』全3巻 (岩波書店、1987～1992)。

入門書として、水野敬三『奈良・京都の古寺めぐり』(岩波書店、1985)、水野敬三監修『カラー版 日本仏像史』(美術出版社、2001)。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末の筆記試験80%、リアクションペーパー20%。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの書き方については授業中に説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

**【学生が準備すべき機器他】**

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業のときは、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

**【その他の重要事項】**

授業の進捗状況によっては、順序や内容が変わることがある。

**【Outline (in English)】****Course outline**

In this class, basic knowledge will be explained mainly on Buddhist sculptures from the Asuka period to the Kamakura period. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles.

Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style.

**Learning Objectives**

Become able to explain the basic knowledge of the works taken up in class.

Understand the styles of each era and become able to grasp art history as the development of styles.

**Learning activities outside of classroom**

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

**Grading Criteria /Policy**

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

HIS200BE (史学/History 200)

## 美術史 (日本) B (資格)

稲本 万里子

授業コード：A3858 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

平安時代から江戸時代の絵画作品を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術史の歴史を捉えていく。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造についても講義する。

作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造についても理解する。

### 【到達目標】

- ・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
- ・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。
- ・日本美術史における和漢の二重構造について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史についての概説をおこなううえで、平安時代から江戸時代の絵画作品を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか解説するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。さらに、中国絵画の模倣からはじまった日本の絵画が、平安時代にオリジナルバージョンを確立した点も、和と漢の二種類の作品を併存させていたことの意味を考える。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                 |
|------|---------------|--------------------|
| 第1回  | ガイダンス         | 授業内容の説明            |
| 第2回  | 美術史概説         | 美術史の研究方法、ジャンル、時代区分 |
| 第3回  | 平安時代の絵画 I     | 唐絵とやまと絵            |
| 第4回  | 平安時代の絵画 II    | 男絵と女絵              |
| 第5回  | 平安・鎌倉時代の絵画 I  | 来迎図                |
| 第6回  | 平安・鎌倉時代の絵画 II | 六道絵                |
| 第7回  | 鎌倉・南北朝時代の絵画   | 肖像画                |
| 第8回  | 室町時代の絵画 I     | 水墨画                |
| 第9回  | 室町時代の絵画 II    | やまと絵屏風             |
| 第10回 | 室町・桃山時代の絵画 I  | 狩野派                |
| 第11回 | 室町・桃山時代の絵画 II | 土佐派                |
| 第12回 | 桃山・江戸時代の絵画    | 琳派                 |
| 第13回 | 授業のまとめ I      | 筆記試験の説明            |
| 第14回 | 授業のまとめ II     | 平安時代～江戸時代の様式展開     |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備・復習時間は各2時間を標準とする。講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

### 【参考書】

参考図版として、『原色日本の美術』全32巻 (小学館、1966～1972)、『日本美術全集』全25巻 (学習研究社、1977～1980)、『日本美術全集』全25巻 (講談社、1990～1994)、『日本美術全集』全20巻 (小学館、2012～2016)。入門書として、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』(美術出版社、1991)、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史年表』(美術出版社、2002)、古田亮編著『教養の日本美術史』(ミネルヴァ書房、2019)。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験80%、リアクションペーパー20%。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの書き方については授業中に説明する。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業のときは、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

### 【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、順序や内容が変わることがある。

### 【Outline (in English)】

#### Course outline

In this class, I will cover paintings from the Heian period to the Edo period and explain the basic knowledge. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles. In the fall semester, we will also give a lecture on the dual structure of Japanese and Chinese.

Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style. In the fall semester, students will also understand the dual structure of Japanese and Chinese.

#### Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of the works taken up in class.

Understand the styles of each era and become able to grasp art history as the development of styles.

Be able to explain the dual structure of Chinese style and Japanese style in Japanese art history.

#### Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

#### Grading Criteria /Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

CUA200BA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

## 民俗学 I (資格)

室井 康成

授業コード：A3859 | 曜日・時限：木5/Thu.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本民俗学の創始者・柳田国男 (1875 - 1962) の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

## 【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                      | 内容                                                                              |
|------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション                | 本講義全体の趣旨を説明します。                                                                 |
| 第2回  | DVD『柳田国男—民俗の心を探る旅』の視聴と解説 | 柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。                                             |
| 第3回  | 生い立ちと貧困問題                | 柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。                                       |
| 第4回  | 関西から関東への転居               | 柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。                                      |
| 第5回  | 恋愛抒情詩人から農政官僚へ            | 柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。                          |
| 第6回  | 近代化論と農業政策論               | 柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。                         |
| 第7回  | 『遠野物語』を読む (1)            | 柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。                                               |
| 第8回  | 『遠野物語』を読む (2)            | 具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。                                             |
| 第9回  | 政策課題としての「民俗」の発見          | 柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。                                         |
| 第10回 | ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー     | 柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。                                |
| 第11回 | 民俗学の組織化と柳田国男の孤立          | 柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。                         |
| 第12回 | 日本の敗戦と新たな民俗学構想           | 柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。 |
| 第13回 | 「公民」養成論としての民俗学へ          | 戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。                             |

第14回 試験と総括

本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習 (2時間程度) のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます (随時)。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

## 【参考書】

室井康成『柳田国男の民俗学構想』(2010年、森話社)  
室井康成『政治風土のフォークローア—文明・選挙・韓国』(2023年、七月社)  
岩本通弥他編『民俗学の思考法—(いま・ここ)の日常と文化を捉える』(2021年、慶応義塾大学出版会)  
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します (試験100%)。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の3～4回前の授業時にお知らせします。  
・試験は実質的には机上レポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特ありませんが、近現代の日本および東アジアの歴史に興味がないと、退屈な時間を過ごさざるを得なくなります。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

## 【Learning Objectives】

Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.

## 【Learning activities outside of classroom】

Reading the bibliography.

## 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.  
Term-end examination;100%

CUA200BA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

## 民俗学Ⅱ (資格)

室井 康成

授業コード：A3860 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本列島(北海道から鹿児島まで)の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡(戦死塚)が、管見の限り約1600ヶ所存在する。場合によっては1000年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、好奇の対象ともなっているが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探究する。

### 【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例(日本の場合はアジア・太平洋戦争)がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化のより正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。また、講義内で講師へのアクセス方法を通知しますので、講義時間外でも質問等は受け付けます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                          |
|------|----------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション            | 講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。           |
| 第2回  | 民俗学の基礎知識             | 「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。           |
| 第3回  | 壬申の乱をめぐる戦死塚          | 古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。                |
| 第4回  | 平将門の反乱の歴史的意義         | 平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。              |
| 第5回  | 「空飛ぶ首」の伝承            | 平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。                |
| 第6回  | 一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚(1)    | 源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。        |
| 第7回  | 一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚(2)    | 一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。             |
| 第8回  | 楠木正成・新田義貞の戦死塚(1)     | 南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。 |
| 第9回  | 楠木正成・新田義貞の戦死塚(2)     | 楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。                   |
| 第10回 | 関ヶ原の戦いの戦死塚(1)        | 前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。    |
| 第11回 | 関ヶ原の戦いの戦死塚(2)        | 関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。           |
| 第12回 | 幕末・維新期の戦死塚           | 戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争(とくに鳥羽伏見の戦い)の事例を検討します。     |
| 第13回 | 彼らの分明-戦死塚をめぐる伝承の「近代」 | 戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。          |
| 第14回 | 試験と総括                | 本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。                |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、自身で積極的に調べてください。また授業時間外の学習は、テキストの通読(2時間程度)および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

『日本の戦死塚-増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円(税別)

### 【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

### 【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します(試験100%)。ただし、終講の3～4回前の授業時に、どのような内容が出题されるのかをお知らせします。  
・試験は実質的には机上レポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特にありませんが、日本史全体への興味がないと、講義中は退屈な時間を過ごすことになります。ただし、上記の興味・知識がなくても、これを機会に本講義のテーマについて学んでみたいと考える履修生に対しては、丁寧に指導します。

### 【Outline (in English)】

#### ・ Course outline

in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.

#### ・ Learning Objectives

Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.

#### ・ Learning activities outside of classroom

Review resumes and read references.

#### ・ Grading Criteria /Policy

Written exam (100%) on the last day of the lecture

LIT300BC (文学 / Literature 300)

**文化史 1 (資格)**

安原 眞琴

授業コード：A3861 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

備考 (履修条件等)：・この科目は日本文学専攻のみ受講可能 (資格科目としても受講可能)。

・日本文学専攻でない文学部生が「文化史 1」(資格)を履修する場合は哲学専攻主催の「文化史 1」(資格)(A2262)を履修すること。  
 ・本科目を履修済みの場合、A2707「日本文芸研究特講(16)特域C」(夜間科目)は履修不可。

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

**【到達目標】**

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりのあり方などを考えられるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

毎回リアクションペーパーを提出し平常点を付加していく。  
 授業は講義形式だが、中間レポート以降、各自実際に町に出る調査してもらう予定である。

リアクションペーパーと中間レポートはMLS上で点数でフィードバックする。最終レポートはブラッシュアップ時に必要であればアドバイスをしますが、最終的な点数などの評価はフィードバックも公表もしない。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                     | 内容                                          |
|------|-------------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション               | ・授業の進め方などを説明する。<br>・文学の舞台になってきた東京の土地の歴史を学ぶ。 |
| 第2回  | 東京の概要を知る                | 江戸時代以降の首都「東京」の成り立ちを学ぶ。                      |
| 第3回  | 古地図を知る                  | 古地図の種類と見方を学ぶ。                               |
| 第4回  | 現在の東京を知る                | 23区の1区ごとの位置や特徴などを学ぶ。                        |
| 第5回  | 江戸の中心「江戸城」を知る           | 江戸城について学ぶ。                                  |
| 第6回  | 城下町「江戸」の概要を知る           | 下町と山の手について学ぶ。                               |
| 第7回  | 日本橋を知る                  | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第8回  | 上野を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第9回  | 浅草を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第10回 | 銀座を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第11回 | 赤坂を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第12回 | 新宿を知る                   | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第13回 | その他の町を知る                | 東京の具体的な町の歴史を学ぶ。(日本橋など)                      |
| 第14回 | 各自、担当した町について最終的なまとめを行う。 | これまでの学習をブラッシュアップして、最終レポートを作成する。             |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる (2時間)  
 復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。(2時間)  
 宿題：担当する町について調べる。

**【テキスト (教科書)】**

特に定めず、授業時に指示する。

**【参考書】**錦絵で楽しむ江戸の名所 (国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>)

安原眞琴『東京の老舗を食べる』(巫紀書房、2015)

安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』(東海教育研究所、2017)

**【成績評価の方法と基準】**

- ・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60%
- ・中間レポート (宿題) 20%
- ・期末レポート 20%

これらの総合判断により評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎年、まじめな学生が多く、この先どんな分野に進むにせよ、ますますの成長を楽しみにさせてくれる。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしい。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを使いたいと思っています。

**【その他の重要事項】**

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。  
 ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原眞琴公式ホームページのコメント欄を使用します。

<http://www.makotooffice.net/>**【Outline (in English)】**

**Course Outline:** In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

**Learning Objectives:** The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

**Grading Criteria/Policy:** Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 文化史 2 (資格)

山口 恭子

授業コード：A3862 | 曜日・時限：木6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

備考 (履修条件等)：・この科目は日本文学専攻のみ受講可能 (資格科目としても受講可能)。

・日本文学専攻でない文学部生が「文化史2」(資格)を履修する場合は哲学専攻主催の「文化史2」(資格)(A2263)を履修すること。  
・本科目を履修済みの場合、A2707「日本文芸研究特講(16)特域D」(夜間科目)は履修不可。

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

### 【到達目標】

中国、および日本の書芸の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。

なお、授業の内容に関して毎時アクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                         |
|------|-----------------------|----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                 | ・書および書道史研究について             |
| 第2回  | 中国書道史1<br>(殷・周の書)     | ・古代の漢字<br>・甲骨文と金文          |
| 第3回  | 中国書道史2<br>(秦・漢の書)     | ・始皇帝の文字統一<br>・隷書の発展と後漢の石碑  |
| 第4回  | 中国書道史3<br>(三国の書)      | ・書体の発展                     |
| 第5回  | 中国書道史4<br>(東晋の書)      | ・王羲之、王献之の書                 |
| 第6回  | 中国書道史5<br>(南北朝の書)     | ・北朝の石刻について                 |
| 第7回  | 中国書道史6<br>(唐の書)       | ・初唐の三大家と楷書                 |
| 第8回  | 日本書道史1<br>(飛鳥・奈良の書)   | ・文字の受容<br>・聖武天皇、ならびに光明皇后の書 |
| 第9回  | 日本書道史2<br>(平安前期の書)    | ・三筆の書                      |
| 第10回 | 日本書道史3<br>(平安中期の書)    | ・和様の成立                     |
| 第11回 | 日本書道史4<br>(仮名の書とさまざま) | ・仮名の書とその書美                 |
| 第12回 | 日本書道史5<br>(平安後期の書)    | ・西本願寺本三十六人家集               |
| 第13回 | 日本書道史6<br>(中世の書)      | ・尊円親王の書<br>・さまざまな書流        |
| 第14回 | 日本書道史7<br>(近世の書)      | ・寛永の三筆の書                   |
| 第15回 | まとめ                   | 中国書道史、日本書道史のまとめ            |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

図書館で、『書道全集』(平凡社、1974年)、石川九揚『書の宇宙』(二玄社、1996年)といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

### 【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』(萱原書房、2005年)  
・角井博監修『中国書道史』(芸術新聞社、2009年)

・名兄耶明監修『日本書道史』(芸術新聞社、2009年)

そのほか、講義時に提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)、課題(30%)、平常点(20%)により評価します。とくに、試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

**Learning Objectives:** The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

**Grading Criteria/Policy:** The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

**地誌学概論**

南 春英

授業コード：A3901 | 曜日・時限：金1/Fri.1  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：2022年度以前入学生は「地誌学概論（2）（A3409）」を履修する（配当年次は2～4）  
 その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地理学は地誌学と系統地理学とに大別されます。本講義の到達目標は、講義を通して地誌学的アプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌のアプローチを組み合わせ対象とする地域を説明できるようになることです。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

**【到達目標】**

本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できると、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は教員の講義形式で進めていく。講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。途中、授業理解の促進のために、DVD等を使用する予定です。

受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションやミニ課題の提出をお願いすることがあります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ        | 内容                        |
|------|------------|---------------------------|
| 第1回  | イントロ       | 授業内容の説明                   |
| 第2回  | 地誌学とは      | 地誌学の目的とアプローチ              |
| 第3回  | 地誌学と国際理解教育 | アジアにおける地誌教育               |
| 第4回  | 身近な事例      | 原宿：歴史と若者の街                |
| 第5回  | 世界の多様性①    | 生活と環境                     |
| 第6回  | 世界の多様性②    | 世界の食肉文化                   |
| 第7回  | グローバル地誌①   | 現代世界のグローバル化地誌             |
| 第8回  | グローバル地誌②   | グローバリゼーションと日本             |
| 第9回  | テーマ別地誌①    | 中国の多民族と文化の多様性             |
| 第10回 | テーマ別地誌②    | 中国の都市化と課題                 |
| 第11回 | 比較交流地誌①    | 朝鮮半島の文化                   |
| 第12回 | 網羅累積地誌①    | アメリカ合衆国の多様性               |
| 第13回 | 地域差①       | 自然環境と歴史からうまれた北京と上海の住民の省民性 |
| 第14回 | まとめ        | 授業内試験を行う                  |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ2時間以上自ら学ぶことを期待します。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

**【参考書】**

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱ってきたい。  
 可見弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社  
 河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房  
 菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店  
 国立国語院（2006）『韓国伝統文化事典』教育出版  
 高井潔司・藤野彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための40章』明石書店  
 帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域NOW』帝国書院  
 帝国書院編集部（2020）『新・世界の国々<9> 世界各地の生活と環境』帝国書院  
 藤野彰（2018）『現代中国を知るための52章』明石書店  
 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店  
 立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業外課題）：40%、期末試験（持ち込み不可）：60%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

**【Outline (in English)】**

This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Short reports (40%), term-end examination (60%)



GEO300BF (地理学 / Geography 300)

## 地理情報システム (GIS) I

中山 大地

授業コード：A3903 | 曜日・時限：金1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

備考(履修条件等)：秋学期の「地理情報システム (GIS) I」を履修する場合は、秋学期「地理情報システム (GIS) II」も同時に履修すること。

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デスクトップ型GISであるArcGIS Proを用いて、GISの基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまなGISデータを用いて、ベクタ型・ラスター型データの基本的な分析方法を学ぶ。

### 【到達目標】

GISを用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

20分程度の説明と80分程度の実習を行う。  
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                              |
|------|---------------------|---------------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス・GISの基本的な操作1 | 授業ガイダンス・GISの概念と構成、空間データの視覚化     |
| 第2回  | GISの基本的な操作2         | 地図とGIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現     |
| 第3回  | 属性テーブル入門1           | 属性テーブルの概念、基本的な操作                |
| 第4回  | 属性テーブル入門2           | 属性検索                            |
| 第5回  | 属性テーブル入門3           | 属性結合                            |
| 第6回  | ネット上のデータの利用1        | センサデータのダウンロードとコロプレスマップの作成       |
| 第7回  | ネット上のデータの利用2        | センサデータのマージ                      |
| 第8回  | ネット上のデータの利用3        | 国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換          |
| 第9回  | 数値地図の利用1            | 数値地図のインポート、座標系の変換               |
| 第10回 | 位置情報の取得と表示1         | 経緯度座標からのXYデータ作成                 |
| 第11回 | 位置情報の取得と表示2         | アドレスマッチングによるXYデータの作成            |
| 第12回 | 人口分布の推定1            | センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定 |
| 第13回 | 人口分布の推定2            | センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定 |
| 第14回 | レポートの作成             | レポートとしてGIS操作マニュアルを作成            |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

### 【参考書】

野上ほか(2001)『地理情報学入門』、古今書院。  
佐土原ほか(2005)『図解!ArcGIS一身近な事例で学ぼう』、古今書院。  
高橋ほか(2005)『事例で学ぶGISと地域分析—ArcGISを用いて』、古今書院。  
村井ほか(2005)『GIS実習マニュアル ArcGIS版』、日本測量協会。  
橋本雄一(2019)『5訂版 GISと地理空間情報: ArcGIS 10.7とArcGIS Pro 2.3の活用』、古今書院。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題(80%)、平常点(20%)で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率70%以下の学生に対しては成績をつけない。毎回の課題提出をもって平常点とする。レポートはGISの操作マニュアルの作成である。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。バックアップのために16GB程度のUSBメモリを用意するのが望ましい。

### 【その他の重要事項】

1. 時間割上は秋学期金曜1限に「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3903)、春学期金曜2限に「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3904)となっているが、実際には9月・10月の金曜1限・2限に「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3903)を実施し、11月～1月の金曜1限・2限に「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3904)を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、秋学期開講の「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3904)も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は春学期開講の「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3471)および「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3472)の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の秋学期開講「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3904)の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までにHoppiiに自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には受講できない場合がある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

### 【Outline (in English)】

#### 【Outline】

The objective of this lecture is to learn the basic operation of GIS using ArcGIS Pro, which are desktop GIS. In this lecture, we learn basic analysis methods of vector and raster data using various GIS data.

[Work to be done outside of class]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. Students are expected to attend the lectures. The report is to write a GIS operation manual.

#### 【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

**地理情報システム (GIS) II**

中山 大地

授業コード：A3904 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

備考(履修条件等)：秋学期の「地理情報システム (GIS) II」を履修する場合は、秋学期「地理情報システム (GIS) I」も同時に履修すること。

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

デスクトップ型GISであるArcGIS Proを用いて、GISの応用的な分析手法を学ぶ。

**【到達目標】**

GISを用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

PBL (Problem Based Learning)を行う。2名一組のグループごとに、ある地域の災害避難場所を仮定し、GISを用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3回目の実習終了時に全体的な計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながら作業を行う。毎回の作業後は作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                  | 内容                                                    |
|------|----------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回  | GISを用いた避難場所の評価手法の説明1 | 加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析                                |
| 第2回  | GISを用いた避難場所の評価手法の説明2 | ジオプロセッシングを用いた避難圏の人口推定                                 |
| 第3回  | 計画書の作成               | 作業方針を決定                                               |
| 第4回  | 作業1                  | 災害弱者の定義、避難所選定方針の決定                                    |
| 第5回  | 作業2                  | 必要なデータの入手1 (位置情報を取得することにより、避難所データを入手・作成する)            |
| 第6回  | 作業3                  | 必要なデータの入手2 (属性結合による人口データの作成)                          |
| 第7回  | 作業4                  | 加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出1 (ベクトルデータからラスターデータへの変換、空間分割) |
| 第8回  | 作業5                  | ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定                            |
| 第9回  | 作業6                  | 結果の検討1 (避難所・避難圏の評価)                                   |
| 第10回 | 作業7                  | キャッチアップ                                               |
| 第11回 | 作業8                  | 加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出2 (別シナリオによる作業)                |
| 第12回 | 作業9                  | 結果の検討2 (避難所・避難圏の再評価)                                  |
| 第13回 | 作業10                 | レポート作成1 (結果の地図化など)                                    |
| 第14回 | 作業11                 | レポート作成2 (結果の考察など)                                     |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使わない。プリントを公開する。

**【参考書】**

プリントを公開する。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート課題1回(最終報告書、100点満点)で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率70%以下の学生に対しては成績をつけない。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報教室を使用する。バックアップのために16GB程度のUSBメモリを用意するのが望ましい。

**【その他の重要事項】**

1. 時間割上は秋学期金曜1限に「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3903)、春学期金曜2限に「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3904)となっているが、実際には9月・10月の金曜1限・2限に「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3903)を実施し、11月～1月の金曜1限・2限に「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3904)を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、秋学期開講の「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3903)も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は春学期開講の「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3471)および「地理情報システム (GIS) II」(授業コードA3472)の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の秋学期開講「地理情報システム (GIS) I」(授業コードA3903)の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までにHoppiiに自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には受講できない場合がある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

**【Outline (in English)】****【Outline】**

The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS Pro. In this exercise, students work in pairs to conduct Problem Based Learning (PBL).

The task is to evaluate the establishment plan of a disaster shelter in a certain area by using GIS. The students are required to submit an overall plan at the end of the third practical session. After that, the students work according to the plan. Students are required to submit a work report each time and a final report at the end of the semester. Submission of reports and feedback will be done through the learning support system (Hoppii).

**【Work to be done outside of class】**

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. The final report is to write a GIS operation manual.

**【Others】**

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

## 社会経済地理学A (1)

小原 文明

授業コード：A3905 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年  
備考(履修条件等)：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可  
その他属性：〈他〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本授業は社会経済地理学の基礎的な内容を踏まえた上で、特に商業・流通にかかわる社会的・経済的事象について空間的観点から考える授業です。具体的には、商業施設の立地展開や流通構造の変化、現代の社会問題について、各事例の理解を踏まえた上で、立地論などの理論や制度に関して考えていきます。

### 【到達目標】

本授業を通じて、商業・流通に関わる知識を得るだけでなく、近年の経済地理学(商業地理学・流通地理学)の動向を理解することができるようになります。また、諸事象を空間的に考える思考方法を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まず、地理学において商業・流通がどのようにして教育・研究の対象となっているかを整理した上で、前半では、特色のある幾つかの商業施設の立地や形態、産業構造などについて空間的に考察します。そして、後半では、流通構造の変化についての理解をはかるとともに、社会や都市との関係性に留意して商業・流通業の置かれている現状を考えます。本講義では、授業で扱う事象について受講生自身が考え、意見を表明することを重視します。それゆえ、授業内外で小レポート等の課題を課すことになるので、積極的に取り組むことを期待します。また、課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。なお、本授業は基本的に対面形式で行いますが、場合によっては、オンライン形式となる可能性があります。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                              |
|------|---------------------|---------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス/社会経済の変化と商業・流通 | 講義の方針・内容・進め方について/基礎的概念の整理、時代的变化 |
| 第2回  | チェーンストアの立地展開(1)     | 百貨店                             |
| 第3回  | チェーンストアの立地展開(2)     | スーパーマーケット                       |
| 第4回  | チェーンストアの立地展開(3)     | コンビニエンスストア                      |
| 第5回  | チェーンストアの立地展開(4)     | その他専門店                          |
| 第6回  | 前半のまとめ：商業施設の立地      | 商業施設からみる立地論                     |
| 第7回  | 流通構造の変化(1)          | 物流ネットワークの変化                     |
| 第8回  | 流通構造の変化(2)          | チェーンストアの流通構造                    |
| 第9回  | 流通構造の変化(3)          | 第1次産業と流通                        |
| 第10回 | 流通構造の変化(4)          | 第2次産業と流通                        |
| 第11回 | 商業・流通をめぐる現代の諸問題(1)  | 中心市街地の空洞化                       |
| 第12回 | 商業・流通をめぐる現代の諸問題(2)  | 買い物難民、フードデザート問題                 |
| 第13回 | 商業・流通をめぐる現代の諸問題(3)  | 食の安全性                           |
| 第14回 | 後半のまとめ：流通と社会        | 商業・流通からみる社会の変容                  |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内外で課題を課します。授業外の課題では簡単な調査を行っていただきます。また、授業の中で紹介した文献を積極的に読むことを期待します。なお、本授業の授業外学習(レポート課題・準備・予習・復習)は各4時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用せず、授業レジュメや資料はこちらで作成・準備し、配布します。

### 【参考書】

参考文献は講義中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(小レポート課題等)：30%、筆記試験(持ち込み不可)：70%。授業内容を正しく理解した上で、論理的な思考の下での独創的な考えの表明、積極的な姿勢を重視します。

### 【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり各回で完結する講義内容となるように心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。また、課題に対する受講生の成果をフィードバックすることを通じて、双方向的な授業になるよう心掛けます。

### 【Outline (in English)】

This course introduces social and economic phenomena, especially the location of various commercial facilities, the changes of distribution structure, and the social problems concerned with urban area to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of commerce and distribution, to understand the trend of economic geography, and to acquire the way of geographical thinking. Before / after each class meeting, students will be expected spend each 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination(70%) and short reports(30%).

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

**社会経済地理学A (2)**

小原 文明

授業コード：A3906 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考(履修条件等)：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学(1)(A3426)」として履修する

その他属性：〈他〉

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

本授業は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は「地域の資源」をテーマとします。自然環境や風土をはじめとして、どのようなモノが資源として利活用されているのか、そしてその利活用にどのような問題があるのかを考えます。

**【到達目標】**

本授業を通じて、地理学の立場から地域の問題や「地域の資源」について理解できるようになります。また、それらの様々な資源が社会経済的にどのように利活用されているのかを把握し、その有効性や問題点を考察することで、地域が直面する現状や今後の動向について考えることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は講義形式で行います。まず、自然環境の減少や過疎など地域の現状・問題点を整理・把握します。その上で、自然環境や文化、歴史、景観を活かした産業・活性化・観光について理解します。そして、それらの事象の有効性や問題点を考察し、地域の今後の動向について考えます。

講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業内ならびに授業外で課題を課します。それら授業内外における課題のフィードバックは次回以降の授業内で行います。

なお、今年度の本授業は対面形式での実施を基本としますが、状況によってはZoomによるリアルタイムオンライン形式で行う授業回がある可能性があります。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ            | 内容                            |
|------|----------------|-------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス/地域の資源とは? | 講義の方針・進め方について/自然環境・文化・歴史・景観など |
| 第2回  | 地域の現状①         | 自然環境の変化                       |
| 第3回  | 地域の現状②         | 農村地域における問題点                   |
| 第4回  | 地域の現状③         | 地方都市における問題点                   |
| 第5回  | 地域と産業①         | 「衣」に関する地場産業                   |
| 第6回  | 地域と産業②         | 「食」に関する地場産業                   |
| 第7回  | 地域と産業③         | 「住」に関する地場産業                   |
| 第8回  | 地域の活性化①        | 「景観」を活かしたまちおこし                |
| 第9回  | 地域の活性化②        | 「文化」・「歴史」を活かしたまちおこし           |
| 第10回 | 地域の活性化③        | 「食」を活かしたまちおこし                 |
| 第11回 | 地域と観光①         | 自然環境・風土の観光利用(グリーン・ツーリズム)      |
| 第12回 | 地域と観光②         | 自然環境・風土の観光利用(エコ・ツーリズム、ジオパーク)  |
| 第13回 | 地域と観光③         | 施設・作品の観光利用                    |
| 第14回 | 総括             | まとめ/補足/質疑応答                   |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

授業中に指示する課題(授業内課題・授業外課題)に取り組んでもらいます。授業外の課題では、簡単な調査を行ってもらいます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。本授業の授業外学習(レポート課題・準備・復習時間)は各4時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

**【参考書】**

・石川義孝・井上 孝・田原裕子編(2011)：『地域と人口からみる日本の姿』古今書院。  
 ・伊藤喜栄・藤塚吉浩編(2008)：『図説 21世紀日本の地域問題』古今書院。  
 ・伊藤 実(2011)：『成功する地域資源活用ビジネス—農山漁村の仕事おこし—』学芸出版社。  
 ・大野 晃(2008)：『限界集落と地域再生』京都新聞出版センター。  
 ・片柳 勉・小松陽介編著(2013)：『地域資源とまちづくり—地理学の視点から—』古今書院。  
 ・加藤正明(2010)：『成功する「地域ブランド」戦略』PHP研究所。

・橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編(2011)：『都市と農村—交流から協働へ—』日本経済評論社。  
 ・藤塚吉浩・高柳長直編(2016)：『図説 日本の都市問題』古今書院。  
 ・矢作 弘・小泉秀樹編(2005)：『シリーズ都市再生3 定住型都市への模索—地方都市の苦闘—』日本経済評論社。  
 ・『日本の地誌1～10』朝倉書店。 など

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(授業外課題・小レポート課題等)：30%、期末試験：70%。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。また、課題に対する受講生の成果をフィードバックできるように授業を組み立てるようにします。

**【Outline (in English)】**

This course introduces various regional problems and efforts towards regional revitalization to students taking this course.

The goals of this course are to understand the causes of regional problems, and the merits and demerits of the efforts from the point of view of geography.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70%) and short reports (30%).

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

## 社会経済地理学B (1)

伊藤 達也

授業コード：A3907 | 曜日・時限：月3/Mon.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考(履修条件等)：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学(2)(A3427)」として履修する

その他属性：〈他〉〈S〉

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.

### Learning Objectives

The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom

Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each.

### Grading Criteria /Policy

The final exam is 70% and the normal score is 30%.

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

授業ではわが国の水問題をを中心に全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

### 【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、PPTを使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                               |
|------|------------------|----------------------------------|
| 第1回  | イントロ             | 講義概要と目的の説明をします。                  |
| 第2回  | 環境問題を考える         | 環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します。        |
| 第3回  | 環境の中の水資源         | 水資源の特徴について説明します。                 |
| 第4回  | 水資源利用の変遷         | 水資源利用の変遷について説明します。               |
| 第5回  | 水資源開発の論理         | ダム・河口堰による水資源開発の方法について説明します。      |
| 第6回  | ダム・河口堰による環境問題の発生 | ダム・河口堰による水資源開発に伴う環境コストについて説明します。 |
| 第7回  | ダム・河口堰をめぐる全国の動き  | ダム・河口堰をめぐる全国の動きについて説明します。        |
| 第8回  | 公共事業をめぐる状況と住民運動  | ダム・河口堰を中心とする公共事業のあり方について説明します。   |
| 第9回  | 「日本は水資源が豊かか？」    | 建設省(現国交省)の日本の水資源理解について考えます。      |
| 第10回 | 「日本は水資源が豊かか？」の答え | 建設省(現国交省)の日本の水資源理解について解説します。     |
| 第11回 | 利根川の水問題と八ッ場ダム(1) | 利根川の水資源問題について説明します。              |
| 第12回 | 利根川の水問題と八ッ場ダム(2) | 利根川の水資源問題、特に八ッ場ダム問題について検討します。    |
| 第13回 | 水資源政策を展望する(1)    | わが国の水資源問題の解決策について説明します。          |
| 第14回 | 水資源政策を展望する(2)    | 授業をまとめます。                        |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房 2023年

### 【参考書】

伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰と八ッ場ダムを歩く』成文堂 2023年  
蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協 2024年

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

### 【Outline (in English)】

Course outline

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

**社会経済地理学B (2)**

伊藤 達也

授業コード：A3908 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考(履修条件等)：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈S〉

regionally.

Learning Objectives

The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture.

Learning activities outside of classroom

Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each.

Grading Criteria /Policy

The final exam is 70% and the normal score is 30%.

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

授業ではわが国の水問題を中心に個別事例について学び、問題の本質の理解に努めます。

**【到達目標】**

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、PPTを使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                | 内容                                    |
|------|--------------------|---------------------------------------|
| 第1回  | イントロ水資源問題の様々な(地域性) | 講義概要と目的の説明をします。水資源問題の地域多様性について考えます。   |
| 第2回  | 長良川河口堰問題の現在        | 長良川河口堰問題の推移と現状を説明します。                 |
| 第3回  | 設楽ダム問題             | 設楽ダム問題について説明します。                      |
| 第4回  | 石木ダム問題             | 石木ダム問題について説明します。                      |
| 第5回  | 韓国の水辺環境改善事業        | 韓国のダム問題について説明します。                     |
| 第6回  | ダムと山村              | ダムが山村に与えた影響について説明します。                 |
| 第7回  | 山村地域への還元策          | 水源地域への還元策(水源税等)について説明します。             |
| 第8回  | 脱ダム下における五木村の地域再生   | 熊本県五木村の地域再生について説明します。                 |
| 第9回  | 脱ダムにかけた五木村村民の意識    | 熊本県五木村村民が脱ダムの状況の中でどのような意識にあったかを解説します。 |
| 第10回 | ダムと環境保全について考える     | 2020年の球磨川水害に伴って再燃した川辺川ダム計画について説明します。  |
| 第11回 | 農業用水と地域社会          | わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します。         |
| 第12回 | カッパと水辺環境保全・地域振興    | 地域社会に占めるカッパ等妖怪の果たす役割について説明します。        |
| 第13回 | カッパと水辺環境保全・地域振興(2) | 水辺環境保全における方法を考えます。                    |
| 第14回 | 水資源問題を解決する         | 授業をまとめます。                             |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房、2023年

**【参考書】**

伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰と八ッ場ダムを歩く』成文堂、2023年  
蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協、2024年

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験70%、平常点30%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイントの使用を基本とします。

**【Outline (in English)】**

Course outline

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

## 社会経済地理学C (1)

佐々木 達

授業コード：A3909 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年  
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可  
その他属性：〈他〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済現象は地域性をどのように作り出すかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて、地域社会や地域経済の変容メカニズムについて企画的な方法論を学習することを狙いとする。

### 【到達目標】

到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。  
到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること  
到達目標③：産業立地の基本的な枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域的特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理的見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ              | 内容                          |
|------|------------------|-----------------------------|
| 第1回  | 経済現象の地域性の解明とは？   | 経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。      |
| 第2回  | 社会科学としての地理学      | 社会を科学するとは？                  |
| 第3回  | 社会的分業と地域の形成①     | 地域は最初からあるものではなく、作られるものである。  |
| 第4回  | 社会的分業と地域の形成②     | 資本主義社会の元での地域                |
| 第5回  | 産業立地と地域経済の発展     | 立地論と地域経済の理論について解説する。        |
| 第6回  | 農業立地論と日本の農業地域    | チューネンの農業立地論                 |
| 第7回  | 食料供給の地理学         | これからも腹いっぱい食べることができるか？       |
| 第8回  | 食のグローバル化はどう進んだか？ | グローバル商品としての「醤油」を事例に         |
| 第9回  | 工業立地論と日本の工業地域    | ウェーバーの工業立地論                 |
| 第10回 | 工業の地方分散と農村工業化    | 立地論の適用事例                    |
| 第11回 | 中心地理論とコンビニの立地戦略  | 同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？ |
| 第12回 | 立地競争と日本の商業環境     | 均衡立地と最適立地                   |
| 第13回 | 土地利用を読み解く地図学習の方法 | 仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？       |
| 第14回 | 試験とまとめ           | 試験を実施し、まとめをします。             |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から日本経済新聞等に目を通して、社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

### 【参考書】

中澤高志『経済地理学とは何か』、旬報社、2021年  
伊藤達也・小田宏伸・加藤幸治編著『経済地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2020年  
竹中克行編著『人文地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2015年  
竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本 第9版』、東洋経済新報社、2014年  
松原宏編著『地域経済論』、古今書院、2014年  
川端基夫『改訂版立地ウォーズ』、新評論、2013年

### 【成績評価の方法と基準】

試験を実施し、それに基づいて成績評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the basic framework of economic geography.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

**社会経済地理学C (2)**

佐々木 達

授業コード：A3910 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考(履修条件等)：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学(3)(A3428)」として履修する

その他属性：〈他〉

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

本授業は、日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

**【到達目標】**

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌

到達目標①：日本経済の変化とそのもとの国土空間の利用の特徴を理解すること

到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること

到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                 | 内容                       |
|------|---------------------|--------------------------|
| 第1回  | 社会経済地理学の枠組み         | 経済現象の地域性とは？              |
| 第2回  | 産業資本確立期の日本経済の地域構造   | 明治期の日本経済の課題              |
| 第3回  | 戦前期の日本経済の再生産構造と国土利用 | 近代的産業、植民地、地主制            |
| 第4回  | 戦後復興期の日本経済の地域構造の再編  | 敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴         |
| 第5回  | 高度経済成長のメカニズム        | 太平洋ベルトの工業化               |
| 第6回  | 高度経済成長下の農業農村        | 労働力の大移動と出稼ぎ              |
| 第7回  | オイルショックと産業構造の転換     | 電気機械工業の成長と地方の時代          |
| 第8回  | 安定成長期の農業・農村         | 発展なき成長メカニズムと農家兼業         |
| 第9回  | 低成長期とバブル経済          | 産業構造の再編と国土利用             |
| 第10回 | 経済のグローバル化と地域        | 産業空洞化と投資主導型経済構造          |
| 第11回 | 人口減少社会への突入          | 地方消滅論と農村社会の行方            |
| 第12回 | これからの日本経済と国土利用      | 少子高齢化と日本経済の展望            |
| 第13回 | 日本の農業地域はどこに向かうのか？   | 減反50年、食料消費の多様化、食料自給率について |
| 第14回 | 試験・まとめ              | 試験・まとめ                   |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

**【参考書】**

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978年  
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』、古今書院、1986年  
生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011年  
吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012年  
増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014年  
中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019年

**【成績評価の方法と基準】**

小レポート(50%)、試験(50%)により総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

特にありませんでした。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを利用する予定です。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

**【Learning Objectives】** There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use

2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.

3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

**【Learning activities outside of classroom】** Your study time will be more than four hours for a class.

**【Grading Criteria /Policy】** Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)



BSP100BF (初年次教育、学部導入教育及びびテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・地理)

小原 文明

授業コード：A3927 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は初めて大学で学ぶ者のための入門・基礎科目に位置づけられ、大学における学問とはどのようなものであるのかを理解するための授業です。高校までの学問とこれから大学で学ぶ学問との大きな違いは、より能動的に取り組む姿勢が求められる点と、自分の考えを論理的な思考の下で表明することが必要となってくる点にあります。そこで、本授業ではそれらの点に留意して、「問題意識を持つ」、「調べる」、「発表する・意見を述べる」、「文章を書く」ことに主眼を置いた演習を行います。

### 【到達目標】

本授業を通じて、大学で学ぶ上での意識・姿勢を理解し、基礎的な知識・技術を身に付けられるようになります。また、物事の見方・論理的な考え方についても修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は演習 (ゼミナール) 形式で行います。具体的な授業内容は、①新聞記事や文献の紹介・発表、②簡単なフィールド調査の実施および発表、③関心あるテーマについての発表を行います。ゼミ形式の授業なので、発表担当者はレジュメや配布資料を作成し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことになります。また、各発表について参加者全員でディスカッションを行います。したがって、各回のテーマに合わせて、授業内外にて主体的に課題に取り組むことが求められます。それら授業時間内外での各種課題については、授業の中でフィードバックを行います。

なお、本授業は基本的には対面形式で実施しますが、状況によってはZoomによるリアルタイムオンライン形式で行う授業回がある可能性があります。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                    |
|------|---------------|-----------------------|
| 第1回  | ガイダンス         | ゼミの概要について、大学における学問とは  |
| 第2回  | 自己紹介・出身地の紹介   | 自分についてのプレゼンテーション      |
| 第3回  | 問題意識・テーマの見つけ方 | 生活の中から問題・テーマを考える      |
| 第4回  | 文献の探し方        | 図書館等で文献の検索方法を学ぶ       |
| 第5回  | 新聞記事・文献の発表①   | 関心ある記事についてのプレゼンテーション① |
| 第6回  | 新聞記事・文献の発表②   | 関心ある記事についてのプレゼンテーション② |
| 第7回  | 新聞記事・文献の発表③   | 文献の講読およびプレゼンテーション①    |
| 第8回  | 新聞記事・文献の発表④   | 文献の講読およびプレゼンテーション②    |
| 第9回  | フィールド調査入門①    | 身近な場所について考える          |
| 第10回 | フィールド調査入門②    | キャンパス周辺の現地調査          |
| 第11回 | テーマ別調査・発表①    | テーマ設定・調査・プレゼンテーション①   |
| 第12回 | テーマ別調査・発表②    | テーマ設定・調査・プレゼンテーション②   |
| 第13回 | レポートの作成①      | レポートの書き方・まとめ方①        |
| 第14回 | レポートの作成②      | レポートの書き方・まとめ方②        |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の性質上、定期的に授業外でのレポート課題等を課すので、積極的に取り組む姿勢が求められます。本授業における授業外課題の時間 (準備・復習時間) は各4時間程度となります。

### 【テキスト (教科書)】

文献の紹介・発表では、社会的な問題を扱ったテキストを用います。テキストの詳細は授業の中で紹介します。

### 【参考書】

関連する文献については、授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：60%、課題：40%で評価します。具体的には、平常点については発表やディスカッション等における授業への取り組み態度を基に総合的に評価を行います。また、課題については提出状況や内容によって評価を行います。授業の性質上、必ず出席することを前提とします。大学生として求められる能動的・積極的な姿勢を期待します。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生がより能動的に取り組めるテーマ・内容を設定し、必要なりテラシーが修得できるよう配慮します。

### 【Outline (in English)】

The aims of this course are to help students get active approach to learning at the university and present their own thoughts logically. The students taking this course need to make presentations and discuss various subjects in order to achieve these aims.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (60%) and short reports (40%).

BSP100BF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## 基礎ゼミ I（文・地理）

佐々木 達

授業コード：A3929 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年  
 備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学は高校までとは違い、教材やテキスト、参考書をなんでもかんでも指示することはしない。せっかく大学に入学したのだから、これまで手に取ったことのない古典文献に挑戦してみることも悪くないだろう。本ゼミナールでは、大学生として学問や研究を進めていくためのスタートアップとして活用してもらおうことがねらいとなる。

### 【到達目標】

- 1) 自分で考え、調べ、行動し、まとめ、発信するという実践力を身につけること。
- 2) 仲間と議論をし、多様なモノの見方、考え方を受容し、互いに切磋琢磨すること。
- 3) これから学生生活をおくる際の自分なりの目標をもつこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本ゼミナールは、学生諸君の主体性に期待します。進め方としては、大学で研究するにあたって必要な「考える・調べる・行動する・まとめる・発信する」の基礎的な能力を身につけられるようにします。後半からは、学生によるテキストの輪読と発表を行い、ディスカッションします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                    | 内容                                       |
|------|------------------------|------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                  | 担当教員の自己紹介、本ゼミの概要について                     |
| 第2回  | 自己紹介プレゼンテーション          | 自分の出身地や興味関心についてプレゼンテーションする               |
| 第3回  | テーマに基づくディベート           | こちらから提示するテーマについて、時間内に超際して討論する            |
| 第4回  | 文献の探し方、図書館の活用方法        | 図書館等で文献の検索方法を学ぶ                          |
| 第5回  | 新聞記事の活用方法              | 新聞各紙の読み比べとディスカッション                       |
| 第6回  | レポートの作成方法とレジュメの作成方法    | レポートの作成方法、要約、レジュメの作成方法について学ぶ             |
| 第7回  | テキストを読む①：論点のまとめ方と資料の提示 | 受講生によるレジュメに基づく発表                         |
| 第8回  | テキストを読む②：引用と盗用の違い      | 受講生によるレジュメに基づく発表                         |
| 第9回  | テキストを読む③：ストーリーを組み立てる   | 受講生によるレジュメに基づく発表                         |
| 第10回 | 学生によるプレゼンテーション①        | 各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる |
| 第11回 | 学生によるプレゼンテーション②        | 各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる |
| 第12回 | 学生によるプレゼンテーション③        | 各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる |
| 第13回 | 学生によるプレゼンテーション④        | 各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる |
| 第14回 | 学生によるプレゼンテーション⑤        | 各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。具体的には、テキストの予習・復習、授業内で示される課題（レポート、演習問題）対応などです。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。資料はこちらから配布します。

### 【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績は、到達目標の3点を基準として、発表50%、講義への参加（態度と意欲）50%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを利用します。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 this seminar is positioned as a startup for research activities.

【Learning Objectives】 To acquire practical skills, to accept diverse ideas, and to have your own learning goals

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation and Discussion 50%、in class contribution: 50%

BSP100BF (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎ゼミ I (文・地理)

宇津川 喬子

授業コード：A3930 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年  
備考 (履修条件等)：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学びを深めるために適切な文献資料とはどのようなものかを考え、大学での能動的な学びに欠かせない基礎的なスキルである「文献資料の収集・読解・まとめ」の修得を目指す。

### 【到達目標】

求められている間に対して適切な文献資料を探し出し、資料の内容を他の資料を用いたり比較したりしながら理解した上で、他者にわかりやすいかたちでまとめて表現することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。授業を通して、文献の検索や収集、文献の要約、設定したテーマに基づくレポート・ポスター作成やプレゼンテーションについて学ぶ。本授業では特に新聞を教材として用いる (紙媒体だけではなくオンラインデータベースやインターネット記事も扱う)。提出された課題に対するフィードバックは授業内に行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                   | 内容                                               |
|------|-----------------------|--------------------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス・自己紹介            | 授業の概要、計画、評価方法を説明し、自己紹介をしてもらう。                    |
| 第2回  | メディアとは                | 身の回りのメディアについて考える。                                |
| 第3回  | 大学図書館ガイダンス            | 情報検索や文献資料検索の利用方法を学ぶ。                             |
| 第4回  | 文章をまとめる               | 様々な文章を用いて要約について学ぶ。                               |
| 第5回  | 記事読みくらべ (1) 検索と収集     | 新聞のオンラインデータベース等を用いて複数社の記事を集める。                   |
| 第6回  | 記事読みくらべ (2) 読解        | 記事を読み深めるために必要な他の文献を用いながら要約する。                    |
| 第7回  | 記事読みくらべ (3) まとめ       | 要約した内容をグループ内で共有し、メンバーからの質疑を踏まえてさらに読み深める。         |
| 第8回  | レポートの作成               | レポートを作成するための基本的なスキルを学び、第5回～第7回の内容を基に構成を考えてみる。    |
| 第9回  | テーマのある読みくらべ (1) 検索と収集 | グループでテーマをひとつ選び、読みくらべのできるトピックを探す。                 |
| 第10回 | テーマのある読みくらべ (2) 読解    | グループ内で記事の読みくらべを行い、ディスカッションを行う。                   |
| 第11回 | ポスターの作成 (1)           | ポスターを作成するための基本的なスキルを学び、第9回～第11回の内容を用いてグループで作成する。 |
| 第12回 | ポスターの作成 (2)           | 前回に続けてポスターを作成し、プレゼンテーションの準備を進める。                 |
| 第13回 | ポスター発表                | グループごとに、作成したポスターを用いてプレゼンテーションを行う。                |
| 第14回 | ディベート大会               | クラス内で複数のテーマについてディベートを行う。                         |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献収集や発表準備など授業時間外での取り組みが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

使用しない。授業内で適宜プリントの配布や文献の紹介を行う。授業資料は適宜Hoppiiで公開する。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業時の取組 (30%：積極性やコメントシートの内容) と課題 (70%：レポート50%、ポスター20%) により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインデータベースへのアクセスやグループ活動のために、インターネットに接続できるノートPCかタブレット (※特にPowerPointインストール済み) が持参できることが望ましい。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【Outline (in English)】

This course deals with learning of basic skills required for university student; literature search, reading and presentation.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the quality of the student's performance and presentation (30%) and short tasks (report 50%, poster 20%).

GEO400BF (地理学 / Geography 400)

**地理学研究法基礎 (1)**

前杢 英明、小寺 浩二

授業コード：A3931 | 曜日・時限：木1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考 (履修条件等)：2023年度以降入学者のみ受講可

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業は、3年次以降に卒論作成のための演習 (ゼミ) で実践的な研究法を学ぶ前に、地理学の研究方法についての基本的な概念や枠組みについて理解することを目的としている。本授業の内容を修得すれば、3年次以降の演習 (ゼミ) にスムーズにステップアップすることができる。なお、本授業では主として自然地理学分野の内容について学ぶ

**【到達目標】**

本授業の目標は、地理学の研究成果の基本的な構造を理解し、研究論文を効率良く読み解く手法を身に付けることである。地理学の研究論文はどのようなパートで構成されているのか、その中で重要なパートは何か、どのような順序で読んで行くのが効率的か、そして研究論文から読み取るべき基本的な内容は何か、とりわけ地理学の各分野における主な研究方法 (調査方法や分析・解析方法など) や研究資料などについて理解する。卒論を作成するために既存の研究論文を収集し、その中から必要な情報を効率良く抽出する術を修得できれば、ホップ (本授業)、ステップ (3年ゼミ)、ジャンプ (卒論作成) により、充実した卒業論文を完成させることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業では、主として地理学の各分野の研究論文等の文献を通じて、その分野の研究手法などの基礎的な内容を学ぶものである。したがって、実際に研究論文を読む作業を伴う。各回の授業では地理学の各分野における研究方法等について解説がなされる。なお、課題やリアクションペーパーに対するフィードバックは授業内で行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ                           | 内容                                          |
|------|-------------------------------|---------------------------------------------|
| 第1回  | 地理学とは、科学とは、卒論とは               | 本演習の導入的内容                                   |
| 第2回  | 地理学における研究論文の種類                | 一般的な学会誌で採用されている研究論文の種類について学ぶ                |
| 第3回  | 研究論文解題1                       | 主に地形分野の研究論文について構造を読み解く                      |
| 第4回  | 研究論文解題2                       | 主に地形分野の研究論文について構造を読み解く                      |
| 第5回  | 研究論文解題3                       | 主に地形分野の研究論文について構造を読み解く                      |
| 第6回  | 研究論文解題4                       | 主に地形分野の研究論文について構造を読み解く                      |
| 第7回  | まとめと振り返り                      | 前半部分の授業のまとめと振り返り。知識の定着を確認する                 |
| 第8回  | 自然地理学分野の諸課題                   | 自然地理学分野の諸課題の中から、取り組むテーマを選定する                |
| 第9回  | 文献リスト作成と文献レビュー (第1週)          | 選定したテーマに従って文献リストを作成し、文献レビュー (第1週) を行う       |
| 第10回 | 文献カード作成                       | 選定した文献3編について形式に従って要旨などをまとめ、文献カードを作成する       |
| 第11回 | 文献レビュー (第2週)                  | メインの論文についての要旨を示し、レビューの方向性を記述する              |
| 第12回 | 文献レビュー (第3週)                  | 3編の論文の要旨をまとめ、図表などをもとに考察したレビューを作成する          |
| 第13回 | レビューをもとにした課題の抽出と研究方法          | 選定したテーマに関する文献レビューから、課題を抽出し、今後に向けての研究方法を示す   |
| 第14回 | 選定した自然地理学分野の諸課題についてのプレゼンテーション | レビューをもとに、課題・研究方法・期待される成果などについて、プレゼンテーションを行う |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の性質上、地理学分野の研究論文等の文献を読むことが求められる。なお、本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

通しでの教科書は使用しないが、地理実習 (2) で使用したジオ・パルネOの一部は利用することがある。

**【参考書】**

野間ほか (2017)：「ジオ・パルネO」海青社。  
木村 学 (2013)：「地質学の自然観」東京大学出版会。  
中谷宇吉郎 (1958)：「科学の方法」岩波新書。

**【成績評価の方法と基準】**

それぞれの担当教員が持ち点50点ずつで、リアクションペーパーや小テスト、課題、レポート等の平常点で総合的に評価する。期末試験は行わない。

**【学生の意見等からの気づき】**

今期から始まる授業なので意見はまだない。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this class is for students to understand the basic concepts and frameworks of research methods in geography before learning practical research methods in seminars for graduation thesis writing after the third grade. If you master the content of this class, you will be able to smoothly step up to the seminars after the third grade. You will mainly learn about the content of Physical Geography in this class.

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

## 地理学研究法基礎 (2)

米家 志乃布、小原 丈明

授業コード：A3932 | 曜日・時限：木1/Thu.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年  
備考（履修条件等）：2023年度以降入学者のみ受講可

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、3年次以降に卒業論文作成のための演習（ゼミ）で実践的な研究法を学ぶ前に、地理学の研究方法についての基本的な概念や枠組みについて理解することを目的としている。本授業の内容を修得すれば、3年次以降の演習（ゼミ）にスムーズにステップアップすることができる。なお、本授業では主として人文地理学分野の内容について学ぶ。

### 【到達目標】

本授業の目標は、地理学の研究成果の基本的な構造を理解し、研究論文を効率良く読み解く手法を身に付けることである。地理学の研究論文はどのようなパートで構成されているのか、その中で重要なパートは何か、どのような順序で読んで行くのが効率的か、そして研究論文から読み取るべき基本的な内容は何か、とりわけ地理学の各分野における主な研究方法（調査方法や分析・解析方法など）や研究資料などについて理解する。卒業論文を作成するために既存の研究論文を収集し、その中から必要な情報を効率良く抽出する術を修得できれば、ホップ（本授業）、ステップ（3年ゼミ）、ジャンプ（卒業論文作成）により、充実した卒業論文を完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業では、主として地理学の各分野の研究論文等の文献を通じて、その分野の研究手法などの基礎的な内容を学ぶものである。したがって、実際に研究論文を読む作業を伴う。各回の授業では地理学の各分野における研究方法等について解説がなされる。なお、課題やリアクションペーパーに対するフィードバックは授業内で行う。授業の担当教員は2名である。2024年度の授業では、前半（第1回～第7回）を小原、後半（第8回～第14回）を米家が担当する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ           | 内容                                  |
|------|---------------|-------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス／論文とは    | 論文の読み方、論文のから得られる情報                  |
| 第2回  | 人文地理学の研究法1    | 工業地理分野の研究法                          |
| 第3回  | 人文地理学の研究法2    | 農業地理分野の研究法                          |
| 第4回  | 人文地理学の研究法3    | 商業・流通地理分野の研究法                       |
| 第5回  | 人文地理学の研究法4    | 都市地理分野の研究法                          |
| 第6回  | 人文地理学の研究法5    | 政治・行政地理分野の研究法                       |
| 第7回  | 人文地理学の研究法6／小括 | 社会地理分野の研究法／前半のまとめ                   |
| 第8回  | 人文地理学の研究法7    | 歴史地理分野（景観復原・過去の歴史空間、遺産、史蹟など）の研究法    |
| 第9回  | 人文地理学の研究法8    | 歴史地理分野（地図・画像資料・地理的認識、風景論）の研究法       |
| 第10回 | 人文地理学の研究法9    | 観光地理分野（観光地の形成、観光客の動向、観光施設の立地など）の研究法 |
| 第11回 | 人文地理学の研究法10   | 観光地理分野（観光地の景観、観光地・場所のイメージなど）の研究法    |
| 第12回 | 人文地理学の研究法11   | 文化地理分野（文化現象、伝統の創造、宗教・民俗など）の研究法      |
| 第13回 | 人文地理学の研究法12   | 文化地理分野（新しい文化地理学、地理思想、ジェンダーなど）の研究法   |
| 第14回 | 本授業のまとめ       | 人文地理学分野の卒業論文作成にむけて                  |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性質上、地理学分野の研究論文等の文献を読むことが求められる。なお、本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

通しでの教科書は使用しないが、地理実習（2）で使用した『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖—』の一部は利用することがある。

### 【参考書】

・岡本耕平監修・阿部康久ほか編（2022）：『論文から学ぶ地域調査—地域について卒業論文・レポートを書く人のためのガイドブック—』ナカニシヤ出版。  
・梶田 真ほか編（2007）：『地域調査とははじめ—あるく・みる・かく—』ナカニシヤ出版。  
・野間晴雄ほか編著（2017）：『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖—』（第2版）海青社。  
その他、適宜授業内で多くの文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

それぞれの担当教員が持ち点50点ずつで、リアクションペーパーや小テスト、課題、レポート等の平常点で総合的に評価する。期末試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

今期から始まる授業なので意見はまだない。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業内で文献の検索や地理院地図での確認作業などを行ったり、学習支援システムの資料を利用したりするため、ノートPCなどの機器類を授業に持参すること。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to understand the basic concepts and frameworks of research methods in geography before learning practical research methods in seminars for graduation thesis writing after the third grade. If you master the content of this class, you will be able to smoothly step up to the seminars after the third grade. You will mainly learn about the content of Human Geography in this class.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

**基礎統計学**

矢部 直人

授業コード：A3933 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年  
 備考(履修条件等)：地理学科2022年度以前入学生は「数理地理学(1)〈A3465〉」として履修する。

その他属性：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

近年では膨大な地理情報が蓄積されるようになっており、データ分析に対する需要は高まっている。データの取得に関して、公開されているデータの入手、およびアンケート調査の実施について学ぶ。また、データ分析手法に関して、基本的な統計分析の手法に加えて、地理情報を対象とした空間分析手法について学ぶ。

**【到達目標】**

- ・さまざまなデータを入手することができる
- ・基本的な統計分析ができる
- ・基本的な空間分析ができる
- ・空間分析手法を使った研究の事例について説明できる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行う。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ         | 内容                            |
|------|-------------|-------------------------------|
| 第1回  | 計量革命とGIS    | ガイダンス、地理行列、OD行列、点・線・面         |
| 第2回  | データの入手      | 地域統計、統計地図                     |
| 第3回  | 基礎統計量とグラフ表現 | 平均、標準偏差、データの可視化による地域特性の検討     |
| 第4回  | アンケート調査     | サンプリングと調査法、質問票の作成、クロス集計、検定と推定 |
| 第5回  | 基本的な統計処理    | 相関、回帰                         |
| 第6回  | 多変量解析       | クラスター分析、主成分分析、因子分析            |
| 第7回  | その他の記述的な分析法 | ジニ係数、特化係数、寄与度分析               |
| 第8回  | 点データの分析1    | 点分布パターンの分析                    |
| 第9回  | 点データの分析2    | 集積の検出                         |
| 第10回 | 線データの分析     | ネットワーク分析                      |
| 第11回 | 流動データの分析    | 空間的相互作用モデル、近接性                |
| 第12回 | 面データの分析1    | 空間的自己相関                       |
| 第13回 | 面データの分析2    | 地理的加重回帰分析、二次元回帰分析             |
| 第14回 | 試験・まとめと解説   | 期末試験                          |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

レポートを作成する。  
 適宜、参考書に挙げた文献や、授業中に紹介された文献を読む。

**【テキスト(教科書)】**

教科書は使用しない。

**【参考書】**

## ●空間分析

浅見泰司・薄井宏行編 2020.『あいまいな時空間情報の分析』古今書院。  
 岡部篤行・村山祐司編 2006.『GISで空間分析—ソフトウェア活用術』古今書院。

貞広幸雄・山田育穂・石井儀光編 2018.『空間解析入門』朝倉書店。  
 杉浦芳夫編 2003.『地理空間分析』朝倉書店。

村山祐司・駒木伸比古 2013.『新版 地域分析—データ入手・解析・評価』古今書院。

## ●統計学

朝野熙彦 2000.『入門多変量解析の実際 第2版』講談社。  
 栗原伸一 2001.『入門統計学—検定から多変量解析・実験計画法まで』オーム社。

小島寛之 2006.『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社。

吉田耕作 2003.『経営のための直感的統計学』日経BP社。

吉田耕作 2006.『直感的統計学』日経BP社。

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト・小レポート(35%)、レポート(15%)、期末試験(50%)により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

**【学生が準備すべき機器他】**

授業回によっては、ノートPCを使った簡単な作業を予定している。作業をする授業回では、事前にノートPCを持参するよう指示する。基本的に対面で授業を実施する予定だが、授業回によってはZoomを使ったオンライン授業に変更する場合があります。オンライン授業に対応できるノートPCなどの機器を準備されたい。

**【その他の重要事項】**

この授業は地域調査士の認定科目である。

**【Outline (in English)】**

Course outline:

This course introduces students to basic statistical and spatial analysis methods.

Learning Objectives:

Ability to obtain a variety of data.

Can perform basic statistical analysis.

Can perform basic spatial analysis.

Can describe examples of studies using spatial analysis methods.

Learning activities outside of classroom:

Prepare a report.

Read the references listed in the reference books and the literature introduced in class.

Grading Criteria /Policy:

Evaluation will be based on mini report (35%), full report (15%), and final exam (50%).

GEO200LA (地理学 / Geography 200)

**観光地理学**

呉羽 正昭

授業コード：A3934 | 曜日・時限：月5/Mon.5  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

受講生は、観光・ツーリズムに関する地理学の一般的概念を学びます。観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域スケールでツーリズムに関する特徴について理解します。また、ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、日本における具体的な地域事例とともに理解します。

**【到達目標】**

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、環境と観光・ツーリズムとの関係について、日本におけるツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、意見・質問の記入も含めて講義内容に関する課題をまとめてもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
 なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
 なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                                   | 内容                                  |
|------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                                 | 講義テーマの概説                            |
| 第2回  | 観光・ツーリズムの概念 —観光やツーリズムとは何か？            | 観光やツーリズムとは何かを解説します                  |
| 第3回  | 観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造           | 観光・ツーリズムの要素や構造を解説します                |
| 第4回  | 観光地理学の概念 —概念および方法論                    | 観光地理学の概念および方法論を解説します                |
| 第5回  | 観光地域の変容プロセス —モデルの解説                   | モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します           |
| 第6回  | 観光・ツーリズムの変遷 —古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現 | ツーリズムの変遷について解説します                   |
| 第7回  | エコツーリズムの発展プロセス                        | エコツーリズムの発展プロセスを解説します                |
| 第8回  | エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム   | 西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します |
| 第9回  | 日本の避暑ツーリズムの地域的展開                      | 避暑の地域的展開に関して解説します                   |
| 第10回 | 日本の湯治・温泉ツーリズムの地域的展開                   | 湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します           |

|      |                                 |                                         |
|------|---------------------------------|-----------------------------------------|
| 第11回 | 日本のルーラル・ツーリズムの地域的展開             | ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します               |
| 第12回 | 日本のスキー・ツーリズムの地域的展開 —明治期～高度経済成長期 | 明治期から高度経済成長期までのスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します |
| 第13回 | 日本のスキー・ツーリズムの地域的展開 —バブル期以降      | バブル期以降のスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します         |
| 第14回 | まとめ                             | 全体のまとめと総括をします                           |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

ほぼ毎回、次回講義のトピックに関する課題を出すので、既存文献やインターネットなどで自ら予習して準備します。また、講義中に示された参考文献等で講義内容の理解を深めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

**【参考書】**

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。  
 溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。  
 (財)日本交通公社編 2004『観光読本第2版』東洋経済新報社。  
 真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。  
 ピアス, D. 著, 内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。  
 江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。  
 呉羽正昭 2017『スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究』二宮書店。  
 矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

**【成績評価の方法と基準】**

この講義の目標に達したかどうかを期末試験と平常点で評価します。期末試験の評価割合は全体の60%で、毎時間の講義内容の理解度を問うミニレポートや次回の講義内容に関する課題等の記載内容を合わせて平常点(全体の40%)とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

**【Outline (in English)】**

Students can study basic concept of geography related to tourism. Students can understand various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, Students learn various features, problems and future challenges of tourism that encompasses it, while understanding specific regional examples in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand the methodology of tourism geography and the regional characteristics of tourism in Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60% and Short reports: 40%.

GEO200LA (地理学 / Geography 200)

**政治地理学**

加賀美 雅弘

授業コード：A3935 | 曜日・時限：水4/Wed.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義はヨーロッパという地域の特徴を食と景観に着目して考察する。前半は、ヨーロッパの食が自然環境と社会によって規定されてきたことを、いくつかの食材に着目して検討し、社会の格差について考える。後半は、ヨーロッパの景観に着目して、民族と社会の関係について検討する。

**【到達目標】**

食と景観に着目し、歴史的、空間的に形成されてきたヨーロッパの社会の格差や階層を理解することによって、ヨーロッパという地域を地理学的な視点から理解することを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し、配布プリントとあわせて講義内容の理解をはかる。また、毎時間に課すリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認し、その総括を次回の授業で解説する。また、出された質問に対する回答も行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

| 回    | テーマ               | 内容                                   |
|------|-------------------|--------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション         | 授業の全体像および進め方を説明する。                   |
| 第2回  | 世界の食の地域差          | 自然・文化・社会と食の関係を考える。                   |
| 第3回  | ヨーロッパの食の地域差       | 自然と社会と食の関係を考える。                      |
| 第4回  | ヨーロッパにおける貧困層と食(1) | 社会的弱者をトウモロコシから考える。                   |
| 第5回  | ヨーロッパにおける貧困層と食(2) | 社会的弱者をジャガイモから考える。                    |
| 第6回  | ヨーロッパにおける富裕層と食(1) | 都市の社会的強者を砂糖とコーヒーから考える。               |
| 第7回  | ヨーロッパにおける富裕層と食(2) | 都市の社会的強者をミネラルウォーターから考える。             |
| 第8回  | 中間まとめ（試験を含む）      | 授業内容を整理し、ヨーロッパの食と自然・社会についての理解を確認する。  |
| 第9回  | ヨーロッパの国家と景観       | 国民・民族アイデンティティについて考える。                |
| 第10回 | ヨーロッパの都市の景観       | 都市における景観の機能について考える。                  |
| 第11回 | ヨーロッパにおける外国人の景観   | 増加する外国人の景観について考える。                   |
| 第12回 | ヨーロッパにおいて見えない人々   | 景観を示さないロマについて考える。                    |
| 第13回 | ヨーロッパの社会格差と景観     | ロマ差別と日本の差別を考える。                      |
| 第14回 | 最終まとめ（試験を含む）      | 授業内容を整理し、ヨーロッパの景観と民族、社会についての理解を確認する。 |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習として、テキストを読んで内容を整理しておく。復習として、授業で学んだ内容をテキストを読み直してまとめる作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『食で読み解くヨーロッパ―地理研究の現場から』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円

**【参考書】**

『国境で読み解くヨーロッパ―境界の地理紀行』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円

**【成績評価の方法と基準】**

第8回の中間まとめに実施する試験33%、第14回の最終まとめに実施する試験：33%、授業中に課すリアクションペーパーの内容：34%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内で行うリアクションペーパーに授業に関する質問や意見を記載することによって、その内容をできるだけ次回の授業に反映させる。

**【Outline (in English)】**

This lecture examines the characteristics of Europe by focusing on food and landscape. In the first half, we will examine the fact that European food has been determined by the natural environment and society, focusing on some ingredients, and consider social disparities. In the second half, we will focus on the landscape of Europe and examine the relationship between ethnicity and society. The goal of the course is to understand the disparities and hierarchies of European society that have been historically and spatially formed. Your overall grade in the class will be decided based on the following examinations taken in the 8th class (33%) and in the last class (33%), and reaction paper in every class (34%)



HSS100LB (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

## 身体の測定と評価

鈴木 康弘

授業コード：A9017 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「身体の測定と評価」は、身体を正確に測定・分析するための授業であり、身体パラメーターを測定するためのテストや評価方法を学びます。この授業では、スポーツパフォーマンスの向上に向けた科学的なトレーニングを実施するために必要な測定法について理解を深めることができます。

### 【到達目標】

- ・基礎的な身体測定・評価法を理解する。
- ・体力トレーニングを実施する上で基本となる形態・体力測定の理論と具体的な測定・評価法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、授業中に提供された知識・情報を単に記憶する・理解するだけでなく、個々人のスポーツ・運動実践場面における適用方法などについて考察することを最も重視します。そのため、共通の学習テーマの下での数回の授業が終了するごとに個人の考え・意見をまとめたミニレポートを提出してもらい、そのレポートを評価の一部とします。

なお、ミニレポート等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ                          | 内容                       |
|------|------------------------------|--------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                        | 授業の目標と課題の確認              |
| 第2回  | 形態・体組成の測定<br>その1             | 長育, 幅育, 量育, 姿勢の測定と評価方法   |
| 第3回  | 形態・体組成の測定<br>その2             | 体型・肥瘦度の測定と評価方法           |
| 第4回  | 行動体力の測定<br>その1               | 筋力の測定と評価方法               |
| 第5回  | 行動体力の測定<br>その2               | 柔軟性の測定と評価方法              |
| 第6回  | 行動体力の測定<br>その3               | 無酸素性パワーの測定と評価方法          |
| 第7回  | 行動体力の測定<br>その4               | 無酸素性持久力の測定と評価方法          |
| 第8回  | 行動体力の測定<br>その5               | 有酸素性持久力の測定と評価方法          |
| 第9回  | 行動体力の測定<br>その6               | 調整力 (平衡性) の測定と評価方法       |
| 第10回 | 行動体力の測定<br>その7               | 調整力 (敏捷性) の測定と評価方法       |
| 第11回 | 健康関連指標の測定<br>その1             | メタボリックシンドロームの概念と診断基準     |
| 第12回 | 健康関連指標の測定<br>その2             | 安静時・運動時のエネルギー代謝の測定と評価    |
| 第13回 | 健康関連指標の測定<br>その3             | 運動時の身体強度, 呼吸循環器系機能の測定と評価 |
| 第14回 | 健康に関する様々な<br>数値・データのとり<br>え方 | 健康リテラシー (健康情報) の評価・意義    |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・毎回の授業で提示する課題に取り組んでから授業にのぞむこと。
  - ・各授業で配布する資料内容を次回までに復習しておくこと。
  - ・シラバスに記載の内容を毎回予習しておくこと。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配付します。

### 【参考書】

- ・フィットネスチェックハンドブック - 体力測定に基づいたアスリートへの科学的支援 - 国立スポーツ科学センター (監) / 大修館書店
- ・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法 / 出村慎一 (監) / 杏林書院

### 【成績評価の方法と基準】

- ・授業への参画状況 (授業ごとのリアクションペーパーなどで評価) : 50%,  
毎回授業内容に関する簡易レポート (A4用紙1枚) の提出を求め、授業ごとに評価を行います。
- ・課題・ミニレポートの内容 : 30%
- ・学習態度 : 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces accurately measure and analyze the body, and how to test and assess body parameters to students taking this course.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand basic physical measurement and assessment methods.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /PolicyBody:

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (evaluated by reaction papers for each class): 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 漢字・漢文学 A

加納 留美子

授業コード：Q6101 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：日文2～4年  
 備考（履修条件等）：定員制（30）  
 日女生は選択科目として履修する  
 その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

## 【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。  
 授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。  
 フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。  
 共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ               | 内容                                  |
|-----|-------------------|-------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス             | ・授業内容の説明<br>・中国史の概要紹介               |
| 第2回 | 漢字のなりたち           | ・「六書」の紹介<br>・漢字の起源と歴史<br>・「字謎」の紹介   |
| 第3回 | 権力者と文字による予言       | ・予言の種類<br>・歴史書に見える予言<br>・「拆字」の紹介    |
| 第4回 | 文字が左右した運命①        | ・「志怪」と「伝奇」<br>・文字が動かした寿命<br>・読めない文字 |
| 第5回 | 文字が左右した運命②        | ・三つの予言<br>・詩を用いた予言                  |
| 第6回 | 日本・西洋・中国の「こっくりさん」 | ・近代諸国での流行<br>・中国の「扶鸞」信仰             |
| 第7回 | 中国「扶鸞」信仰と知識人①     | ・「扶鸞」の方法と来歴<br>・「扶鸞」の流行と評価          |

|      |               |                                         |
|------|---------------|-----------------------------------------|
| 第8回  | 中国「扶鸞」信仰と知識人② | ・宋代知識人の体験<br>・明代のオカルト趣味<br>・近代中国と「扶鸞」信仰 |
| 第9回  | 恋愛作品と文字       | ・『詩経』と「楽府」<br>・恋のうたと言葉遊び                |
| 第10回 | 知識人の頓智と奇想     | ・外交における機知<br>・知識人の応酬                    |
| 第11回 | 伝統的「姓名」観      | ・避諱の制<br>・姓名が左右した運命                     |
| 第12回 | 創作活動と文字①      | ・「推敲」<br>・現実と表現の衝突                      |
| 第13回 | 創作活動と文字②      | ・詩が招いた幸運と悲運<br>・「詩讖」の説                  |
| 第14回 | まとめ           | 全体の総括                                   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

## 【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

&lt;成績評価&gt;

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

&lt;基準&gt;

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。  
 共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

## 【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

漢字・漢文学 B

加納 留美子

授業コード：Q6102 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：日文2～4年  
 備考（履修条件等）：定員制（30）  
 日文生は選択科目として履修する  
 その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。  
 授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。  
 フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。  
 共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ         | 内容                                  |
|-----|-------------|-------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス       | ・ 授業内容の説明<br>・ 「ゆめ」の多義性<br>・ 中国の夢分類 |
| 第2回 | 古代中国の吉夢     | ・ 誕生の予言<br>・ 優れた人材を教示<br>・ 栄達の予言    |
| 第3回 | 古代中国の凶夢①    | ・ 死期を悟る<br>・ 病魔の会話                  |
| 第4回 | 古代中国の凶夢②    | ・ 国家滅亡の暗示<br>・ 不明瞭な悪夢               |
| 第5回 | 知識人たちが得たお告げ | ・ 文学的才能の獲得と喪失<br>・ 創作のヒント           |
| 第6回 | 夢主に働きかける夢①  | ・ 夢と夢主<br>・ 夢と現実の関連性<br>・ 宗教的神秘体験   |
| 第7回 | 夢主に働きかける夢②  | ・ 死者の訴え<br>・ 前世の自分の訴え               |

|      |           |                                      |
|------|-----------|--------------------------------------|
| 第8回  | 復讐する死者    | ・ 生者に託した復讐<br>・ 死者による復讐<br>・ 復讐の為の転生 |
| 第9回  | 人外との交流    | ・ 助命嘆願<br>・ 報恩と復讐<br>・ 逆恨み           |
| 第10回 | 夢と恋愛文学    | ・ 夢での逢瀬<br>・ 恋愛成就の神<br>・ 夫婦の別離と再会    |
| 第11回 | 夢の世界の冒険   | ・ 怪異との接触<br>・ 儚い栄達<br>・ 動物への変身       |
| 第12回 | 他人と共有された夢 | ・ 「二人同夢」<br>・ 危機の通達<br>・ 夢での邂逅       |
| 第13回 | 日本における夢   | ・ 他人が見る夢<br>・ 日本文学における夢              |
| 第14回 | まとめ       | 全体の総括                                |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>  
 平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。  
 共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 文芸創作講座 B

LETIZIA GUARINI

授業コード：Q6106 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：日文2～4年  
 備考（履修条件等）：日文学は選択科目として履修する  
 その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学と音楽と芸術との関係を考えながら小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな歌あるいは芸術作品を選び、それをテーマにした物語を書くという実習授業です。

### 【到達目標】

- 1) 文芸作品を分析することができる。
- 2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
- 3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

グループでディスカッションを行いながら、受講者がそれぞれのテーマを決めます。そして小説の書き方の基礎について学びながら、小説を書きます。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ       | 内容                                                  |
|------|-----------|-----------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション | 受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。<br>文学と音楽と芸術との関係について考える。     |
| 第2回  | 小説の始まり    | 様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。                       |
| 第3回  | 時間と場所の移動  | 物語における時間と場所の設定について考える。                              |
| 第4回  | 語り手と視点    | 語り手や視点の設定について考える。                                   |
| 第5回  | 小説の技巧     | 意識の流れや内的独白について学ぶ。                                   |
| 第6回  | 天気、名前     | 物語の詳細について考える。自分の小説についての構想を考える。                      |
| 第7回  | テーマの決め方   | ブレインストーミングを行いながら作品のテーマを決める。                         |
| 第8回  | 小説を書く(1)  | 小説を書きはじめる（2,000字程度）。グループ間でのアドバイスなどを行う。              |
| 第9回  | 小説を書く(2)  | 小説を書き続ける（前回に加えて2,000字程度）。グループ間でのアドバイスなどを行う。         |
| 第10回 | 小説を書く(3)  | 小説を書き続ける（それまで書いたものと合わせて6,000字程度）。グループ間でのアドバイスなどを行う。 |
| 第11回 | ブラッシュアップ  | 最終原稿（8,000程度）の提出に向けて小説をブラッシュアップする。                  |
| 第12回 | 講評(1)     | 作品をみんなで読み、講評する。                                     |
| 第13回 | 講評(2)     | 作品をみんなで読み、講評する。                                     |

第14回 まとめ 授業全体のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

### 【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室—伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018年）

スティーヴン・キング『書くことについて』（小学館、2013年）

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997年）

Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（20%）、グループワークと合評への参加度（30%）、学期末までに完成させた小説（50%）で総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

引き続きグループディスカッションを中心にフィードバックし合う時間をとる必要があります。

### 【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

### 【その他の重要事項】

Hoppii と Google Classroom を使います。

### 【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of writing a story while considering the relationship between literature, music, and art. Students will write a story based on the theme of a work of art or a song of their choice.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Analyze literary works.
- b) Understand the basics of writing a novel.
- c) Develop multiple perspectives.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their projects. They will also read other students' stories (one to three hours per session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

## 日本芸能論 A

阿部 真弓

授業コード：Q6107 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：日文2～4年  
 備考 (履修条件等)：定員制 (40)  
 日女生は選択科目として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

### 【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要な基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能(時代・ジャンルは問いません)について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。「能面について」「香道について」「エイサーの歴史と文化」「日本における『第九』の受容と定着について」「日本の馬事芸能～流騎馬～」 「吉本新喜劇の歴史」

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ         | 内容                            |
|-----|-------------|-------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス       | 授業の概要、スケジュールについて              |
| 第2回 | 芸能とは何か(1)   | 日本の芸能に関する概説                   |
| 第3回 | 芸能とは何か(2)   | 研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明 |
| 第4回 | 伝統芸能概説(1)   | 雅楽について                        |
| 第5回 | 伝統芸能概説(2)   | 伎楽について                        |
| 第6回 | 伝統芸能概説(3)   | 能について                         |
| 第7回 | 伝統芸能概説(4)   | 狂言について                        |
| 第8回 | 受講生による発表・討論 | グループAの発表                      |
| 第9回 | 受講生による発表・討論 | グループBの発表                      |

|      |             |              |
|------|-------------|--------------|
| 第10回 | 受講生による発表・討論 | グループCの発表     |
| 第11回 | 受講生による発表・討論 | グループDの発表     |
| 第12回 | 受講生による発表・討論 | グループEの発表     |
| 第13回 | 受講生による発表・討論 | グループFの発表     |
| 第14回 | まとめ         | 春学期の内容に関する総括 |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

### 【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

### 【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

### 【成績評価の方法と基準】

発表内容70% (①②③) またはレポート70% (①②④)、平常点および討論への参加状況30% (③) という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらった課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

### 【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時にを行いますので、当科目受講希望者も、春学期「日本芸能論A」の学習支援システム上の「お知らせ」を確認してください。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts. The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

## 日本芸能論B

阿部 真弓

授業コード：Q6108 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：日文2～4年  
 備考（履修条件等）：定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多様な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

## 【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOIソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラームーン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ         | 内容                            |
|-----|-------------|-------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス       | 授業の概要、スケジュールについて              |
| 第2回 | 芸能とは何か(1)   | 日本の芸能に関する概説                   |
| 第3回 | 芸能とは何か(2)   | 研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明 |
| 第4回 | 伝統芸能概説(1)   | 人形浄瑠璃の成立について                  |
| 第5回 | 伝統芸能概説(2)   | 人形浄瑠璃の様相について                  |
| 第6回 | 伝統芸能概説(3)   | 歌舞伎の成立について                    |
| 第7回 | 伝統芸能概説(4)   | 歌舞伎の様相について                    |
| 第8回 | 受講生による発表・討論 | 受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。  |

|      |             |                              |
|------|-------------|------------------------------|
| 第9回  | 受講生による発表・討論 | 受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。 |
| 第10回 | 受講生による発表・討論 | 受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。 |
| 第11回 | 受講生による発表・討論 | 受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。 |
| 第12回 | 受講生による発表・討論 | 受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。 |
| 第13回 | 受講生による発表・討論 | 受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。 |
| 第14回 | まとめ         | 秋学期の内容に関する総括                 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

## 【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

## 【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

発表内容70%（①②③）またはレポート70%（①②④）、平常点および討論への参加状況30%（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらった課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

## 【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

なお、秋学期「日本芸能論B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論A」の受講を強くおすすめします。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

## 人文地理学セミナー A

米家 志乃布

授業コード：Q6209 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年  
 備考(履修条件等)：地理学科生は選択科目として履修する  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、それを踏まえて、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。春学期は、春～夏にかけての東京の街の人文地理学的な見どころを探していただきます。

### 【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。大学での地理学を学ぶ楽しさを経験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントも授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にさせていただいても大丈夫です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                           |
|------|------------|------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス      | 履修者決定<br>発表順番の調整<br>スケジュール確定 |
| 第2回  | フィールドワーク①  | 靖国神社・皇居を巡検する(身近な東京)          |
| 第3回  | 東京の人文地理学①  | 江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する        |
| 第4回  | 東京の人文地理学②  | 戦後から現代までの東京の変遷を講義する          |
| 第5回  | フィールドワーク②  | 市ヶ谷を巡検する(身近な東京)              |
| 第6回  | メディアにみる外濠  | プラタモリ「江戸城外濠」を鑑賞する            |
| 第7回  | 街歩きコースの提案① | 東京都千代田区のコース                  |
| 第8回  | 街歩きコースの提案② | 東京都中央区のコース                   |
| 第9回  | 街歩きコースの提案③ | 東京都新宿区・文京区のコース               |
| 第10回 | 街歩きコースの提案④ | 東京都港区・品川区のコース                |
| 第11回 | 街歩きコースの提案⑤ | 東京都江東区・墨田区のコース               |
| 第12回 | 街歩きコースの提案⑥ | 東京都台東区のコース                   |

第13回 街歩きコースの提案⑦ 多摩地域のコース

第14回 街歩きコースの提案⑧  
 ⑧  
 まとめ  
 パワーポイントで発表する提案したコースのなかで最もよかったものを投票で選ぶ

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

『東京の歴史』第1巻～第10巻、吉川弘文館  
 BT12階の地理学科事務室に備えてあります。必要な箇所をコピーしてください。

### 【参考書】

適宜、授業内で紹介いたします。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点50%、プレゼンテーションやレポート内容50%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク(巡検)を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

### 【学生が準備すべき機器他】

発表用の資料はGoogleクラスルームで共有します。学習に支障がないように、PCなど機器類を必ず準備してください。

### 【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業開始前までに、学習支援システムで仮登録をして、授業に出席してください。履修希望人数を把握し、必要であれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

### 【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and based on the proposed course, we will discuss human geographical views and perspectives on the region. In the spring semester, students will be asked to find human geographical highlights of the city of Tokyo from spring to summer.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50%).

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

## 人文地理学セミナー B

米家 志乃布

授業コード：Q6210 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位

備考（履修条件等）：地理学科2～4

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。秋学期は、秋～冬の東京の街の見どころを探していただきます。

## 【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。地理学を学ぶ楽しさを体験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントは授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にさせていただいても大丈夫です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回    | テーマ        | 内容                           |
|------|------------|------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス      | 履修者決定<br>発表順番の調整<br>スケジュール確定 |
| 第2回  | フィールドワーク①  | 番町・四ツ谷を巡検する（身近な東京）           |
| 第3回  | 東京の人文地理学①  | 江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する        |
| 第4回  | 東京の人文地理学②  | 戦後から現代までの東京の変遷を講義する          |
| 第5回  | フィールドワーク②  | 神楽坂を巡検する（身近な東京）              |
| 第6回  | メディアにみる東京  | NHKスペシャル「東京」の特集を鑑賞する         |
| 第7回  | 街歩きコースの提案① | 東京都千代田区・中央区のコース              |
| 第8回  | 街歩きコースの提案② | 東京都新宿区・中野区のコース               |
| 第9回  | 街歩きコースの提案③ | 東京都渋谷区のコース                   |
| 第10回 | 街歩きコースの提案④ | 東京都世田谷区のコース                  |
| 第11回 | 街歩きコースの提案⑤ | 東京都目黒区のコース                   |
| 第12回 | 街歩きコースの提案⑥ | 東京都杉並区のコース                   |

第13回 街歩きコースの提案 多摩地域のコース

⑦

第14回 街歩きコースの提案 パワーポイントで発表する提案したコースのなかで最もよかつたものを投票で選ぶ

⑧

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『東京の歴史』第1巻～第10巻 吉川弘文館

B T 12階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

## 【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点50%、プレゼンテーションやレポート内容50%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク（巡検）を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

## 【学生が準備すべき機器他】

発表用資料などをGoogleクラスルームで共有をします。学習に支障がないようにPCなど機器類を必ず準備してください。

## 【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業までに、学習支援システムで仮登録をして出席してください。履修希望人数を把握し、必要あれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

## 【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and we will discuss how to view and think about the region from a human geographical perspective.

In the fall semester, students will be asked to find out the highlights of Tokyo in the fall and winter.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process  
Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50%) .



CUA300LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

## 文化人類学方法論 A

菊池 真理

授業コード：Q6211 | 曜日・時限：火2/Tue.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年  
 備考（履修条件等）：定員制（30）  
 地理学科生は選択科目として履修する  
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中生勝美2016『近代日本の人類学史』を主なテキストとして、近代日本の植民地支配と人類学の歴史を学ぶことを通じて、植民地支配と人類学の関係について考える。帝国日本の人類学者たちが、植民地を対象としてどのように調査研究を行い、いかなる知を生み出したのかについて学ぶ。また、戦後日本の開発援助の歴史を取り上げ、「日本型開発協力」のあり方が、いわゆる植民地主義の新たな形態やメンタリティとどのように結びついているのかについて学ぶ。

### 【到達目標】

- ・植民地を中心に人類学研究が行われたこと、植民地の拡張とともに人類学の形成発展があったことを理解する。
- ・日本の人類学が、大日本帝国の異民族統治の政策とどのように結びついていたか理解する。
- ・「日本型開発協力」のあり方を、かつて植民地支配を経験した人々の視点から理解する。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。  
 ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ           | 内容                                      |
|-----|---------------|-----------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション     | 授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定             |
| 第2回 | 植民地主義と人類学     | (文献の発表・討論)<br>人類学批判                     |
| 第3回 | 批判開発学と人類学     | (文献の発表・討論)<br>・制度の民族誌<br>・開発言説と開発実践の民族誌 |
| 第4回 | 近代日本の人類学史 I   | (文献の発表・討論)<br>台湾                        |
| 第5回 | 近代日本の人類学史 II  | (文献の発表・討論)<br>朝鮮①<br>慣習調査               |
| 第6回 | 近代日本の人類学史 III | (文献の発表・討論)<br>朝鮮②<br>人々の植民地経験           |
| 第7回 | 近代日本の人類学史 IV  | (文献の発表・討論)<br>南洋諸島                      |
| 第8回 | 近代日本の人類学史 V   | (文献の発表・討論)<br>満州①                       |

|      |                |                                 |
|------|----------------|---------------------------------|
| 第9回  | 近代日本の人類学史 VI   | (文献の発表・討論)<br>満州②               |
| 第10回 | 近代日本の人類学史 VII  | (文献の発表・討論)<br>戦時中の日本民族学         |
| 第11回 | 近代日本の人類学史 VIII | (文献の発表・討論)<br>京都学派の研究活動         |
| 第12回 | 植民地支配と開発の歴史    | (文献の発表・討論)<br>日本の開発協力           |
| 第13回 | 植民地支配と内戦       | (映画鑑賞)<br>ドキュメンタリー映画<br>春学期のまとめ |
| 第14回 | 総括             |                                 |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

中生勝美2016『近代日本の人類学史—帝国と植民地の記憶』風響社。  
 （その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

### 【参考書】

- ・板垣竜太2008『朝鮮近代の歴史民族誌—慶北尚州の植民地経験』明石書店。
- ・エスコバル,アルトゥーロ2022『開発との遭遇—第三世界の発明と解体』北野取（訳）新評論。
- ・太田好信2003『人類学と脱植民地化』岩波書店。
- ・サイド, E.W.1993『オリエンタリズム上・下』今沢紀子（訳）平凡社。
- ・松島泰勝2018『琉球 奪われた骨—遺骨に刻まれた植民地主義』岩波書店。
- ・ミンツ, シドニー.W.1988『甘さと権力—砂糖が語る近代史』川北稔、和田光弘（訳）平凡社。
- ・山路勝彦、田中雅一（編）2002『植民地主義と人類学』関西学院大学出版会。

（以上のほか、授業時に適宜紹介する。）

### 【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70%）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容（30%）も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

### 【その他の重要事項】

- ・第1回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第1回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課す。この点を承知のうえで履修してください。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course deals with Japanese colonial rule and the history of Japanese anthropology. The goal of this course is to learn the relationship between Japan's ruling policies toward her colonies and the historical development of Japanese anthropology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

CUA300LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

## 文化人類学方法論 B

## 菊池 真理

授業コード：Q6212 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年

備考 (履修条件等)：定員制 (30)

地理学科生は選択科目として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

民族誌を書くこと、民族誌に感応すること、民族誌を再演することに関する議論や実践について学ぶとともに、授業内での体験 (書く、感応、再演) を通じて、人類学を問い直し、その可能性を探究する。民族誌の読み手として「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者理解の可能性を知る。また、民族誌の再演を通じて、フィールドワークの経験を再現し、人々の生き方について考えると同時に彼らの生が自らの生をどのように映し見せてくれるかを学ぶ。

## 【到達目標】

- ・民族誌を書くことをめぐる、人類学内外の議論について理解できる。
- ・オートエスノグラフィーという方法論について理解できる。
- ・民族誌の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを再演することを通じて、人々の生が自らの生にどのように引き合わされていくか、自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる (主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる)。発表者はレジュメに基づいて発表、又は演じ、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。

・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                         | 内容                              |
|-----|-----------------------------|---------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション                   | 授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表・再演順の決定  |
| 第2回 | 民族誌を書く I<br>「民族誌」批判         | (文献の発表・討論)<br>『文化を書く』とその後       |
| 第3回 | 民族誌を書く II<br>人類学者の日記        | (文献の発表・討論)<br>『マリノフスキー日記』をめぐって  |
| 第4回 | 民族誌を書く III<br>オートエスノグラフィー   | (文献の発表・討論)<br>その方法論             |
| 第5回 | 民族誌を書く IV<br>オートエスノグラフィー    | (記述の発表・討論)<br>その実践              |
| 第6回 | 民族誌に感応する I<br>「わかる」         | (文献の発表・討論)<br>他者を迎え入れる          |
| 第7回 | 民族誌に感応する II<br>「知る」         | (文献の発表・討論)<br>他者理解と自己変容         |
| 第8回 | 民族誌を演じる I<br>(概念と民族誌的記述の説明) | (講義・討論)<br>V. ターナーの社会劇とパフォーマンス論 |

|      |                             |                                                   |
|------|-----------------------------|---------------------------------------------------|
| 第9回  | 民族誌を演じる II<br>(再演する民族誌について) | (講義・討論)<br>ギリシア悲劇「アンティゴネー」と、北米先住民作家の戯曲「アンティコニ」の解説 |
| 第10回 | 民族誌を演じる III<br>(再演の下準備)     | (文献の発表・討論)<br>北米先住民についての民族誌                       |
| 第11回 | 民族誌を演じる IV<br>(実践①)         | (再演・討論)<br>戯曲「アンティコニ」                             |
| 第12回 | 民族誌を演じる V<br>(実践②)          | (再演・討論)<br>戯曲「アンティコニ」                             |
| 第13回 | 民族誌を演じる VI<br>(実践③)         | (再演・討論)<br>戯曲「アンティコニ」                             |
| 第14回 | 総括                          | 秋学期のまとめ                                           |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う (発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読)。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

## 【参考書】

- ・石原真衣 2020 『<沈黙>の自伝的民族誌—サイレント・アイヌの痛みと救済の物語』北海道大学出版会。
- ・クリフォード, J. 2003 『文化の窮状—二十世紀の民族誌、文学、芸術』太田好信ほか (訳) 人文書院。
- ・クリフォード J./マーカス G. (編) 1996 『文化を書く』春日直樹ほか (訳) 紀伊國屋書店。
- ・初見かおり 2021 『ハレルヤ村の漁師たち—スリランカ・タミルの村 内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社。
- ・パイアトート, B. 2024 『アンティコニー—北米先住民のソフォクレス』初見かおり (訳) 春風社。

(以上の他、授業時に適宜紹介する。)

## 【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点 (70%) を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容 (30%) も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

## 【その他の重要事項】

- ・第1回目授業には必ず出席すること。事前の連絡や相談もなく第1回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めない。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課す。この点を承知のうえで履修すること。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn writing, feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand controversial discussion on “Writing Culture” and the methodology of autobiography, and to learn how one’s life would be connected with other’s one. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 300)

## 人間と地球環境

宇野 真介

授業コード：Q6335 | 曜日・時限：月3/Mon.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年  
 備考(履修条件等)：定員制(30)  
 地理学科生は選択科目として履修する  
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現在、国連の持続可能な開発目標(SDGs)が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を獲得する機会を提供します。

### 【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習(グループワーク)も行う予定です。また、各講義へのリアクションや質問を収集し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

| 回   | テーマ                    | 内容                                                 |
|-----|------------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回 | 環境科学と持続可能性             | 導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。                |
| 第2回 | 大気の変化と生態系              | 地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。                    |
| 第3回 | 水の循環と水資源利用             | 生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。          |
| 第4回 | エネルギーの供給               | 生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。          |
| 第5回 | 「土」というもの               | 日頃目を向けない「足元の世界」に注目し、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。       |
| 第6回 | 生物多様性はなぜ重要か?           | 生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。                      |
| 第7回 | 演習1：持続可能な資源利用のための応用生態学 | これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。 |
| 第8回 | 近代農業の功罪                | 近代農業の成果と環境負荷について解説します。                             |

|      |                 |                                                     |
|------|-----------------|-----------------------------------------------------|
| 第9回  | 食糧生産と環境保全       | 食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。              |
| 第10回 | 開発は持続可能か?       | 鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。               |
| 第11回 | 「望まれぬ開発」という問題   | 発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。   |
| 第12回 | 演習2：多角的問題解決への挑戦 | 異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。 |
| 第13回 | 持続可能な社会へ向けて     | グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。           |
| 第14回 | 地球環境の現状とこれから    | 学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。       |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教科書はなし。配布される資料を使用。

### 【参考書】

適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト(40%)、期末レポート(40%)、平常点(20%)を基本とします。小テストは、学習内容の理解度(到達目標1、2)を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開(到達目標3)を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

### 【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種Hoppiiの機能をより効果的に活用したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。

### 【その他の重要事項】

30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental problems; to understand related social problems; and to develop a personal opinion about various problems the human species faces with a holistic understanding of the human impact on the global environment.  
 [Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (40%), and participation/in-class contribution (20%).

